KAIZO

改造

新年號

LIBRARY
OF THE
UNIVERSITY
OF
CALIFORNIA

1928

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堀江歸一著

（四六版 總クロース）

定價壹圓 送料拾八錢

英國預金銀行論

最新刊

昭和二年のパニックは我國銀行の不始末を遺憾なきまでに暴露した。徹頭徹尾預金銀行たるべき市中銀行が、或は獨逸の企業銀行も三舍を避くる危險な營業を企て、或は其の公共的任務を忘れて暴利の獲得を事としたのが我國銀行の常態ではなかつたか？ 著者は預金銀行の本質を明かにし、我國の銀行をして創立當初の精神に復歸せしめることは、銀行界改善の一策なるを信じ、玆に英國預金銀行を主題とする詳細な研究を公にした。銀行の運用に一大革新を要すべき今日、財界幷に學界に本書の精讀を望む。

（内容）第一＝英國に於ける銀行業の發達。第二＝英蘭銀行の地位幷に職分。第三、四、五＝預金銀行の營業狀態（上中下）。第六＝銀行以外の

發兌 東京市麴町區内幸町 幸ビルデイング一階 振替東京八四〇二番 改造社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

GIFT OF
SIDNEY M. EHRMAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

猪谷善一著

（菊版 上製 天金）

定價貳圓五拾錢 送料貳拾錢

明治維新經濟史

最新刊

維新史に關しては世既に幾多の著書はある。併しながら、最近學界に於いて澎湃として興れる日本研究の資料として見るべき新時代的科學的研究の維新史は甚だ稀である。著者は新進の學者、維新史の研究に沒頭し、既に發表した幾多の研究は學界の注意を惹いた。今回研究の結果を纒めて本書をなし、添ふるに幾多得易からざる資料目錄を以てした。國史の徹底的研究、我が國社會運動に深き關心を持つ學徒の必讀書である。

〔內容〕第一章、序論――第二章、西洋帝國主義の東漸――第三章、幕末に於ける社會階級と其の闘爭――第四章――開鎖の論爭と其思想的背景――第五章、幕末に於ける國家論の發達――第六章、明治維新政府の經濟政策――第七章、自由主義の衰滅と國家主義の全盛――附錄、（一、我國大學教育の發達と其社會的意義。二、明治維新と國民革命。三、日本に於ける貨幣經濟の發達。四、明治廿五年の勞働問題論）――明治維新經濟史文獻――明治維新經濟史年表。――索引

發兌

東京市麴町區內
幸ビルデイング
振替東京八四

改造社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

猪俣津南雄著

帝國主義研究

（四六版 上製） 定價貳圓 送料廿錢

新最刊

本著收むる處の帝國主義理論は、既成帝國主義理論の單なる模倣的記述ではない。巍然たるマルキシズムの觀點に立ち、獨創的の見解を吐露し、具體にして的確、平明にして緻密なる著者の論法は、帝國主義理論に關する幾多群盲者流の謬論を一蹴して、不拔たる統一的體型の下にその科學的基礎を把握し得た。見よ！資本主義現段階の分析究明に於て、論敵高橋氏に對するその堂々たる筆陣を。今こそ日本無産階級運動の新方向を闡明する指導原理は、灼燿として高く輝く。左翼論壇の一驍將たる著者の明哲なる論理が、一切の被壓迫民衆の内部に如何に摯拗に浸潤し、透徹し行くかを思ふべきである。

（内容一斑）

資本主義崩壞の理論的根據。　帝國主義の必然性。
資本主義日本の帝國主義。　日本帝國主義の新段階の問題。
泥沼に陷沒した「プチ・帝國主義」者　同　上（續稿）。

發兌

東京市麹町區内幸町
幸ビルディング一階
振替東京八四〇二番

改造社

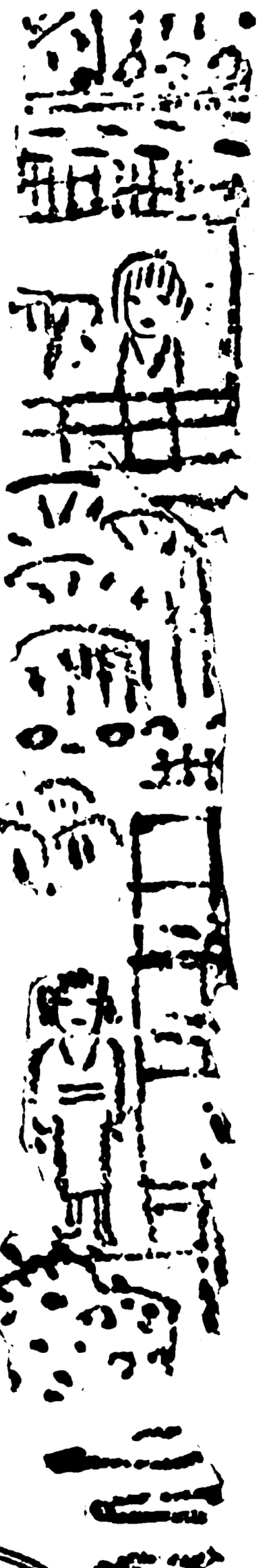
新聞紙、出版法改革案につき

現内閣の一枚看板であつた地租委讓もあゝしたことで一年延期となつた。我々は我々の關係深き新聞紙法案、出版法案に果してどれほどの誠意を政府が傾けつゝあるかを思ふとき、そして警保委員會の顔觸れの殆んど總てが、現下の思潮に沒交渉の人々であり、そしてその有經驗者といふ委員側も現下の雜誌、新聞出版界及びその將來の傾向について殆んど色盲者のみであるを思ふとき――。これ等の時代おくれの人々によりてつくられる新聞紙、出版法案が我々の期待に添ひ得ぬものであることは明瞭な事實である。殊に本年に於ける我が國の出版狀勢の進展は目ざましいもので歐米のどこの國でも我に追隨の出來るものはない。今まではこの方面でも先進國であつた佛、獨、英、米の諸國も本年の我國のごとく大衆的に躍進した例は未だ曾つてなかつた。隨つて現時の出版諸法制及び慣例、その他附帶せるいくたの事情の變化に於て現在までの出版業者の夢想することさへ出來なかつたことのみである。そして諸種の變化がすべて多大に社會性を帶びて來たことを看取せねばならぬ。我々は今回の委員の顔觸れを見渡すとき、そこに舊法制に明るい人、雜誌出版界の裏事情を諳んずる人のみは數へ得るが、現時の社會狀勢に明るい人、そして現下の雜誌出版界の進む方向に見識を有つ人の全然缺如せるは奈何。とにかく轉換期の改革てふ意義づけをするに、殆んど舊法制定當時と大體變りのない頭の古い委員のみであることが我我を失望せしめる。政府者は此點に多大に留意し、現下の社會狀勢及び將來のそれに深く思を潜めて委員を更にこの方面に求め、以つて世の進運と並行する改革を斷行すべきである。そして議論はたいていにして必ず本期議會に提出すべきである。さもなくば地租委讓のそれの如く、政略案と稱されてもいたしかたないだらう。尚、我々はこれと同時に更に著作權法に對抗する出版權法の一日も早く制定せられることを當路に切望してやまないものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

苦難十年のロシアを觀る

アンリ・バルビユス



ソヴイエト社會主義共和國聯邦に於ける十月革命十週年を記念する數々の祝典は、モスクワの莊嚴なる大會をもつてその幕を閉ぢた。しかして、該大會は『證人たちの大會』とも呼ぶべき性質のものである。

十月革命を記念するために派遣された代表者はその數無慮一千名を算したのであるが、この全世界からの參列者は社會の各層と、種々なる政治的傾向を代表するもので、共產主義者と稱するものは僅かその一割五分にすぎないのである。これらの人たちは、ほとんどあらゆる組織體、團體、運動を網羅したもので、その目的とするところはロシア革命の實驗的結果を明らかならしめるにあつたのである。

これらの觀察者は、ロシアの人々の慫慂を待つまでもなく（ロシアの人々はこの訪問者に對し、自由にあらゆる方面から、その國內生活の諸相を觀察させ、質疑に應ずることを役目としたのだ）自發的にその結論を齎らすべく參集したものであるが、道德的に、社會的義務に良心的である人たちは、この國の、、なる經驗の、心に命ずるところを結論とするであらう。

かの廣汎なる十月革命の捲き起した、思想的また物質的結果――今日に於てその安定を見、しかもなほ着々として進展しつゝあるところの――に對しては、すべての代表者たちはそれを直接に觀察し、記錄することによつていかにヨーロッパと世界の輿論なるものゝ、ソヴイエト・ロシアの現實をあやまり傳へたものであつたかを實感したわけ

LIBRARY OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

である。

余は數日前、それら二三の代表者とはじめて接觸した時にも述べた通り、社會の根本基礎となるべき經濟的方面に於て、卽ち、もつとも健實に、事實に、また具體的方面に於て、ソウイエト社會主義共和國聯邦は戰前のロシアのレベルを越してゐた、と指摘したのであるが、この確證はある種の、、を喚び起し、一部到來者の間にはさらに、ある種の疑惑をすら釀成したほどであつたのである。

かゝる確證はたしかに、、、なものである。そこには非常なる重大さが含まれる。何故なら、もしそれが事實とするならば、それは一國民ではなくて、古き世界に於ける一切の新らしい制度、すなはち社會主義制度の、、、、、を意味するのであるからなのである。

しかるに、この日あつて以來、世界の隅々から來り集まつた人々はすでに他の人々がなしたやうに、また余自身が數ケ月以來熱情をもつてなせしが如く、それを實證することを得たのである。この大會の期間に於て、世界の權威ある人々は、この歷史的××の報告によつて決定された否定すべからざる統計書類によつて、諸君にそれを實證し、するであらう。

次に余はそれらの概要についていささか觸れたく思ふ。それは、余が報告者として立ち入りし一切の討議の基調をなすところのものであつたからである。

帝政時代のロシアは御承知の如く、大農國であると同時に工業國でもあつた。これを農業方面に於て見るならば、一九一三年度の生產總額は百十七億九千萬金貨ルーブルであつたのが、現在に於ては百二十七億七千六百萬金貨ルーブルになつてゐる。

更に、これを工業方面に於て見るならば、一九一三年度に於ける六十三億九千百萬ルーブルが、現在では六十六億三千七百萬ルーブルとなつてゐる。故に、ソウイエト・ロシアはその農業に於て十億、しかしてまた、工業に於て二億四千萬ルーブルの增加を示してゐる次第である。しかも、この單なる對照表の示す偉大なる雄辯は充分な說明とはなつてゐないのである。なぜかならば、この、、すべき立證は全努力に對する極く不完全な概要しか與へてゐないのである。

かくの如き努力の尺度を得んとするには、帝政時代の數字を以て滿足すべきものではなくて、その以後の時代、卽ち、ほとんど絕對的な破產狀態にあつた時代――そこから、、、、、、、、、、が新社會を建設したのである――に發足しなければならない。

思ひを當時に、めぐらすならば、當時ロシアは經濟的には瀕死時代にあつたのである。實際に近い極めて概略的な計算だけで――事實はそれではきかないであらう――帝國主義戰爭には四百億金貨ルーブル、—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

內亂には五百億金貨ルーブルを費やしてゐる。その上、一九二一年から二二年の兩年は、ロシア人民をしてその窮迫のどん底に陷ち入らしめたほどの不況時代であつた。更にその上そこには破壞以上のものがあつた。男子勞働力の三割は屠殺されてゐた。家屋、工場は破壞され、工具の大部分は全然役立たなくなつてゐた。かくして、まざまざと工業能力は戰前に比して一割七分、農業に於ては五割以上、畜產に於ては四割の遞減を見たのである。しかしてまた、運輸能力の如きも約五分の一に低下したのである。

勞働戰はかゝる狀態に於て——帝國主義戰爭、內亂の餘波をうけて開始され——雄々しくも、ゝを戰ひとつたのである。かるが故に、ロシアの復興事業はこれを十年にまたがると見るのは妥當ではなく、これを五年と見つもるべきである。

この點からいつて、工業は二億四千萬ルーブル、即ち四割の增加を示してゐるといふのも穩當ではなくて、これは五ケ年で五倍になつたといふ方が妥當である。更にまた、この期間に於ける農業生產は二倍、海外貿易は三倍以上の增加を見たといひ得るのである。

さればこそ人民委員會議長ルイコフの公言は至當といへる。むべなるかな彼は先月レニングラードに於て『かくも眼覺ましき復興を示した國は他にその類例なし』と、斷言したのである。

更にまた、經濟方面に亘る現在の數字は、ソウイエト聯邦の各方面に於て、常に不斷の、然して、迅速なる上向を示してゐることを見逃してはならない。われらはそれを統計の不斷の上騰と、時々刻々、年々歲々の迅速なる進行のリズムを以て、あらゆる方面に組織され、擴張されてゆくのを見るのである。今やソウイエト・ロシアの狀態は、面目を一新したと誰がいへないであらう。それは五年以前に入露せる人々の等しく認めるところであり、しかしてまた、五年後に於ては何人か今日の狀態を認めるものあらん。

その新建設、新企畫に於ける眩耀するほどの改良は、步一步これを認むべく、すでにそれは國家五年計畫の將來に眼覺ましき躍動を與へてゐることを思はせるに充分なのである。かくして、ソウイエト・ロシアの勞働者並びに活動家たちは未來を把握し、各方面に於て實現の進展性を示してゐるのである。

ロシアの實現者たちは、かくも未來の事業を保證してゐるのであるが、そのプランなるものに示されたところによると、例へば、工業に於ては百八割の增進を計畫し、それの經濟的建設方面に七十億ルーブルを計上してゐる。國內市場に於ける商品に對する二十一割の値下げの斷行を目的とし、また、勞銀に於ては二十四割の値上げを計畫してゐるが、それらの着々として實現せられるであらうことの信ずるに難

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くない。

だが、これら一切の說明をもつてしても、それをもつてソウイエト政府の建設的の、、明確なる槪觀とはいはれない。ソウイエト政府のその建設的方面の最も、、を示すところのものは、それらの外に一切を徹底的に社會主義的傾向に盛り上げたことにある。二千萬平方キロメートルのこの國土が。——實にそれは地球の六分の一を占めるところのものである——今やそれは勞働を搾取された人々によつて、それらの人々のために、地方と都會のプロレタテールによつて、それらの人々のために、民衆によつて、民衆のために、しかして被壓迫民族によつて、それらの民族のために、完全に再建されたのである。

今こゝにその問題の方面を布衍するのは、余の役割ではない。といふのは外ではない。土地分配の手初めについてや(一億デシヤチンの廣さを有する)また、工場の國有、勞働管理の下におく工業機構、公益のための、、、、、、乃至はまた、一九二一年とその後個人のスペキユレーションに重大な恐慌を齎らしたところのかの新經濟政策の問題.(今それは次第次第に改善されてゐるのだが、)社會主義的國產品の自由競爭問題、また、かの局限せられた富より出づることのできない有產農民、卽ちかのクラックの狀態等に亘つて述べ立てべき役割を余はこゝには持ち合せないのである。

余はまた異なる說明としてのは外に、農產の合理的配給、農具の改良、新耕作の化學的實驗——より適合的で收益本位の——例へばまた、麥の生產能力を三倍に——、綿糸を二倍に——甜菜を三分の一倍にした等々の化學上の實驗等の成績については、こゝに省略するであらう。農民の利害、地方勞働者の利害、全ソウイエト聯邦の一般利害に創り出された、調和この上なきプランに基き、政府は技術的組織すなはち工業を目的とした政策によつて廣大無限なる農業地方を完全に工業化し、その上に、上記終局の目的の他に、政府はソウイエト聯邦內の特に地方民を苦しめるところの失業と戰つたのである。余は親しく中部ロシアに於て、ウクライナに於て、南部ロシアに於て、或ひはまた、トランスコーカサスの地に於て、無數の工場と工場のグループと數知れぬ大工事、道路、橋梁、電氣工場、乾燥と灌漑の大工事の施設されてゐるのを視察したのである。ドニエプル、スヴイル、リオン等の電力中心地、ドンからウオルガへの運河、シベリヤに於けるトルキユスタン鐵道等はこれらの廣大なる地方を活氣づけ、經濟生活を頻繁ならしめてゐるのであるが、それらは現下遂行されつゝある事業の最も大きなものとして代表的イメージといへよう。余の今こゝに試みつゝあるタブローをその全般的に於て完備せんとするには、賃銀の高低についても一言せざるを得ないのだ。卽ち、一九一三年二五金貨ルーブル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だつたものが、一九二一年には八金貨ルーブルに低下し、更に、一九二七年には二八金貨ルーブルに上騰してゐるのである。更にまた、勞働時間制について一言するならば、資本主義ヨーロッパに於ては八時間勞働制を公然と撤廢せるもの、またサボタージユするもの、而してまた、それの正面攻撃をなすもののあるなかに、ソウイエト・ロシアに於ては七時間勞働制が發布されてゐる現狀なのである、更にまた、社會保險、勞働住宅、消費組合、教化運動、技術もしくは社會の普通教育、大學(三十一個の勞働大學)、圖書館、研究所、博物館、劇場、映畫、ラヂオ、古代とブルジヨアの傳統的藝術を發刺にし、再生するところのプロレタリア藝術の偉大なる進展について一言すれば、一切が新規だといふにつきる。更にまた、ロシアの學者が革命後世界の科學の稱讃すべきページの上に貢獻してゐることも忘れられない。ロシア革命の實際的事業は、また、完全なる建設にもその力を注いでゐる。健康と公衆衛生、施設の建設的方面の努力もまた忘れられない。この衛生施設の必要は、ロシアの一一億五千萬の人口に對して一年々百萬の人口增加の要求に應じてなされたるものである。

最後に余は人道的にして論理的な方法によるソウイエト・ロシアの民族問題の實現に對しても一言するであらう。ロシアには帝政時代の暴力的同化の方法による四十箇國の被壓迫民族があつたのだが、中央政府はそれと關係を有する小共和國の諸國に對して財政的援助ををしまない。しかして、かゝる待遇はこれらの諸國をしてかつての政府に見ることの能はざる、また、他のいかなる制度に於て知り得なかつたところの自由の發展に到達させてゐるのである。

こゝで余ははしなくも、余のいはんと欲するところに達したのであるが、ロシアのプロレタリアはかの自力のみにて(ヨーロツパの無力は戰後アメリカから三百五十億ドルの借款をしてゐるのだ)しかも、全世界の敵對行爲と、憎惡の前に、更にまた見るかげもなき荒廢の上に、雄々しくも獨力で全人類の進歩と平和の大陸的事業を建設し上げたのである。

こゝで余はちよつと說明に入りたいと思ふが、余といへどもロシアに對して無條件且つ盲目的讃美を呈するものではない。余としてはあくまで正當に、しかうして、場合によつては根本的な主要點、特筆すべきものと感動すべきものについては嚴密にお知らせするつもりなのである。それは無缺なもの許りとはいはれない。その教育方面の如き、その勤勞階級の境遇の如き、特にまた、失業問題の如き(ロシアの失業者は百三十五萬と目されるが、その大部分は農民だ)これらの諸問題に對してはまた實現を要すべき幾多の進展が考へられるのである。こゝでロシアの人々には、まづ第一に彼らのなしつつある經濟的及び

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會的事業を過少評價したがる傾向があり。彼らは口ぐせにいふのである、『まだなんにもできてない。やつと僅かしかできてない。』と。だが、事實は雄辯である——その事をはつきりとしておく必要があるのである。ロシアの事業は常に動的であり、非常に迅速な進歩を見せてゐるので、これを全體的に見るならば、、、、、、わけではないが、今余が述べたやうにしか申上げられない。

その、、たる社會的には廣大に、國際的價値からいつて實に燦然たるものがある。

それは世界のプロレタリアの解放と、ロシアがこの地上に植ゑつけたところの被壓迫民族の解放といふ、、、なのである。

しかるに、余の極めて輪廓的にしか說明してないところのこの、、、しかして、その事業たるや現世を明かに風靡してゐるが如き——その事業は、世の誹謗と脅威とを一蹴し去つてゐるのである。

ソウイエト聯邦は帝國主義戰爭の侮どるべからざる脅威にをびやかされてゐる。全世界の權力——人間による、、、、、、、するところの一切の權力は——世界にたつた一つの民主主義の國として嚴として聳えてゐるこの國の周圍に怒號してゐるのである。ロシアの人々はそれを知り、またそれを知る故に、自衞するのである。

數日前モスクワのソウイエトが十週年記念會を大劇場で催した際、軍事人民委員會長ヴオロシロフは、『[illegible]日にあつては建設する前に、まづ打ち破られたが、次に來るべき十日に於ては、ロシアのプロレタリアは、復興に先だつて、戰かはねばならぬことを餘儀なくされるであらう。』と述べてゐる。

西洋に於ても、東洋に於ても、われわれの間には近く大戰爭の勃發する可能性を信じないものがかなり多い。だが、我らはこの平穩な樂天主義者に要心しなければならないのである。と、いつてはつきりと見透された脅威に對しても輕卒に、それを信じていゝといふわけではむろんない。

世界の新らしい戰爭は、大衆の輿論の前にはほとんど眼に見えないほど無意識に動きかけてゐることは事實である。それはまたなぜだらう？　大衆はそれを欲しないからだ。欲しないことが當然なことであるやうに！　乃至はまた、もつとも先見の明ある人の中には、戰爭は論理的に必然なものであると假定するが、それを遠き將來のもの、すなはち、漠とした抽象的なものに看做してゐる趣もないではない。この種の輿論は、偶發事件が火急でない限り、それに手をふれさせやうとはせず、隨つて、その存在を無視させる懷疑主義に識らず知らず追ひ込むのである。

更にまた、平和主義のイデオロギーは、この恐怖すべき現實を渉の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なかの煙の如くぼやけさしてゐるのである。からなつては、平和主義の宗教も、また阿片の如きたぐひと變りがない。かくして、人々は具體的事實から離れては鎮つた、正義に眩惑するのである。かくしてまた、幻想の享樂にまとわされた人々は事實の進行に對してなんらの影響をも持たないのだ。そして、これらの人々は古い歌論の調子に浮かれ、または空想的な大會のプログラムに醉はされ、或ひはまた、ロカルノやジュネーヴの御用テーナー共に、わけもなく聽き惚れてしまうのである。

しかるに、この雲を掴むが如き論議、花火の如き理論の前に事實は果して如何に？

今や、全世界のいたるところに於て、ソウイエト聯邦國々境の以外にあつては、かの驚くべき資本主義の機構は意想外の軍備を擁してゐるのである。イギリスの帝國主義はそれを代表し、且つ指導してゐる。今や、世界の帝國主義は戰爭を欲してゐるのだ。彼には戰爭が必要である。であればこそ、それの準備を怠たられないのだ。

ソウイエト聯邦はそれの障害をなし、眼をさへぎり、帝國主義の政策を時によつては麻痺狀態にする。その理由については、余は先ほど——一九一七年以來なした、、、、、、の沿革について前云つた通りである。この行動こそ限り知れない廣さに亘つた社會主義の經驗であり、また、その經驗こそは、、、、、してゐるものと看做さねばならぬ。かく觀じ來れば、赤色ロシアは自國の存在の唯一の理由のために、イギリス帝國主義及びその帝國主義と機械的に行動を共にせんとする他の諸國と排擠し合つてゐるわけなのである。そこには干渉がないのである。ただ模範がある。そして、その明快なる模範が大衆をひきつけさせ、、、させるのだ。

ソウイエト政府はその當然の立場から、他の國の内政には絶對に立ち入らないことを斷乎として誓つてゐる。ソウイエト聯邦は、陰謀をしないが、、きわたつてゐるだけである。

故に、聯邦に對する攻撃は奈邊から來るか、よく呑み込める譯であらう。資本主義諸國は表面の見榮とはちがつて、經濟的、財政的に恐慌を來してゐる狀態にある。これは集合體の利害を個人の利害に、すなはち皆のものを二三のものに從屬せしむるのを驚くべきアノルマルの結果からなので、そして、ますます弱肉强食と、戰爭と、迫害の政策に威力を失つて行くのが資本主義國である。

それにはヨーロッパの現狀に眼を通しさへすればすぐわかるはずであるが、戰爭の危機は中には眼をつぶつたままそれが遠ざかつてゆくものと思ひ込む者もあるが。——いたるところにその前兆も見えてゐるのである。そして、その狀態は一九一四年と同樣に危險期にある。當

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時、人々は口ぐせにいつたものである『戰爭などは決して起らぬものさはない』と。かうした狀態は或る點に於て、今も十三年前とほゞ同樣なのである。そこには、遺憾ながら、あまりにもたやすく見すぎるところの、悲劇の對句を見出されるのではないか。

世界大戰後、戰勝の列國は、すなはち、アメリカを共犯者とする聯合國は、舊世界の地圖を改訂してしまつたのである。これらの列强は報復のためと、分捕品の、、のためと戰爭區域の分配のためと戰術上、軍事上、統御するために好んで分裂政策をとつたのである。かくして古い國と新らしい國をして互に相對立せしめ、いくつかの歩哨の國と憲兵の國とをつくつたのである。利害關係の係爭と敵愾心の煽動、それら一切が、戰爭成金のいはゆる外交政策なるものによつて、巧みに準備され、全然平衡を失つた斜面にあわや滑らんとする形勢を醸成しいかにしてみてもそれが一時的にしか保ちえない狀態におかしめるのである。

更にまた、われわれの記憶しなければならぬことは、世人の、戰爭は終熄したと、たわいなくも信じてゐることである。なるほど、その戰爭は、いかにも、六千キロメートルに亙る戰線を擴げ、また、五億の兵士を動かしてゐる戰爭はないかもしれないが、だからといつて、戰爭は終熄したとは看做されない。戰爭は現にそれをアフリカに於てアジアに於て擴げられつつあるのだ。戰爭は[illegible]ッコに[illegible]、シリヤに、しかして、特にこれを支那に見るのだ。

すでに、イギリスは公々然としてロシアに挑戰を開始したのであつた。一九一八年イギリスは一萬五千の軍隊と、百四十の砲門と、九百八十九の機關銃を持つて北下したのであつた。イギリスはデニキンに二十五萬の銃と、コルチャックには六萬の銃、兩軍合して一千以上の砲門を供給したのである。

余は次に、諸君は御存知と思はれるが、イギリス政策がソウイエト聯邦にとつた政策の段階、かの暴逆にして僞善的な封鎖政策について述べるであらう。

その後封鎖の效力の薄きを知り、且つ、ヨーロッパの利害にとつてむしろ有害であると看做したイギリスは、一九二一年一月かぎりそれを撤廢することにしたのであつた。ロシアの新經濟政策が實施されるや、帝國主義の指導者たちは——ロイド・ジョージを急先鋒とし——新ロシアは革命の原則を裏切り妥協政策にうつつたといふ風に、彼らの腹の中では、それが漸次變形してゆくものと信ずるか、乃至は信ずる眞似をした。しかるに、ゼノア會議に於けるソヴイエト聯邦の抵抗（それはロシアの、、、、を放棄することを意味する點で、到底承認し能はざるところの難題であつた）また、獨露のラパロ條約の締結され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るに及んで、列强は、突如ロシアに對して暴逆と强迫外交政策とに早變りするにいたつた。かのカアゾン卿の有名なる最後通諜は威嚇政策の再開となつてローザンヌ會議に現はれ、イギリス外交はソウイエト艦隊の黑海に於ける覇權を自滅させしめんがために、ボスフオラス海峽の開放を獲得したのであつた。しかしてまた、ベサラビヤの奪略もこの時に於て容易ならしめたのである。同時に、イギリスやフランスの手先どもはその頃ほひからしてポーランドとバルチック沿岸諸國內に反ソウイエト聯合を結成せしめたのであつた。これらの手先たちは更に手をかへ、品をかへて獨露關係の友情をも之を破らんとし、一九二五年イギリスはドイツをしてロカルノ條約に調印せしめそれによつてまんまとドイツを引き入れることに成功したのである。

ソウイエト政府の承認時代は一九二四年に入つてから初まる。イギリス政府は目下ロシアとかの揑造文書を口實に手を切つてゐるのである。

フランスの政策にはやゝ煮え切らないものがあつた。フランスはイギリスの自個の利害から割出した支持によつて影響されたものであるが、その反露政策にいたつては敢て他にひけをとるものではない。かのルーマニアとの一九二六年の條約に示すとほり、その提携によつて、フランスはベサラビヤの合併を承認したのみならず、同國に軍事保障を與へてゐる。イタリアはやゝはつきりとイギリス側についてゐるが、最近の條約によつて同國はルーマニアの武裝をも引き受けてゐるの狀態である。

イギリスはピルスズキーのクーデターを助け、且つ、リトニア、エストニア、フインランドのファッシイスト的クーデターを幇助してゐる。以上から推して、これらの國には常にあらゆる驚くべき方法によつて、その一貫した見通しを失なはれてないことがわかる筈である。かくて、列强は分捕ることの目的のために、手をさしのべることの實に巧妙な、やさしさを持つてゐる。假面ひと度落れば牙がむき出されてゐるのである。

イギリスは大ぎに何にを目論んでゐるのであらうか。

さらに、われらはイギリス帝國の現狀を直視するであらう。今やかの巨大なる帝國は現代のいはゆる歷史的混沌のなかにあつて、幾分困難、やゝ危險に頻してゐるのだ、かつては海洋に、地上に、君臨を恣まゝにした彼のイギリスも、今やその權勢と沽券は一つゞゝもぎとられゆくの段階にある。それは他ならない。他の今一つの帝國主義的强國が經濟的、軍事的に彼を凌駕せんとしてゐるのだ。アメリカである。かくして、英帝國は列强國の第二位となり、そこに大きな開きを生ずるのである。イギリスの屬領國もまた同樣、今ではその大部分は、屬領

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國といふ名ばかりにすぎない。ドミニオンはすでに自治權をもつてゐて、英本國との交渉は、その君主を一にするの外、わづか通商の協定とかいふ、それもかなり稀薄な關係にしかない。かの手堅にかけたぼう大無限の支那もすでにイギリスの手からはまづ決定的にはなれたも同樣、インドは動搖し、その勢力を自覺しつゝあるものゝ如くである。また英本國に於ても、かの未曾有の階級戰に遭遇したのも最近の出來ごとで、イギリスの經濟界はこの炭坑の罷業で八百八十億からの損失を招いてゐると傳へられてゐる。

現今のこの帝國主義の、、、にあたつて、解放運動はますます固定化し、今やそれは世界的に結成を速進しつゝあるが、こゝで余はこの機に於て、社會主義の原則によつて指導されつゝある結合の結果たる本年二月ブリユクセルに開催された、反植民地大會について一言しておきたいのである。この會議に於て被壓迫民族の問題が明確に討議されたのであるが、この結成は勞働者の解放と植民地、乃至は半植民地解放戰における全世界的運動を意味したものであつたのである。

しからば、これらの動きが、帝國主義者の眼にいかに映じてゐるかといふに——余はくりかへしていふ——戰慄すべき破壞的手段をまだその掌中にしてゐるところの帝國主義の指導國は、武裝の對峙によつて一時的なりとも彼らのぐらつき出した權勢を維持安定しようとするのである。そして、またそれによつて、、、、、を擁し、且つ於て形成せんとしてゐる、、、、の前に武力の堤防を築かんとしてゐるのである。戰爭は民衆にとつて、貪婪であり、騷動である。

ここに改めて世界資本主義の、特にソウイエト聯邦に對する明白な利害について贅言するの必要はあるまい。例へば、コーカサスの石油のロシアの市場に於て、わけても重要なる點、また、ソウイエト聯邦の無盡藏とまでいはれる自然の富源の如き皆それであるが、こゝでは、ロシアはソウイエト制度の下に、勞働階級のためにそれを開發しようとしてゐるのである。外國の代表者たちはロシアにいたつて初めて、一列國がロシア、、、、、、、に對してあらゆる惡宣傳をなしたことの事實を知つた筈である。この人たちはまた、こゝに來るに及んではじめて、余自身もさうであつた、と同樣に、この種の驚くべき訛傳がひろまつてをつたことを目擊したわけである。なぜならば、これらの人たちはありのまゝのことをありのまゝ見たからである。であるから、われわれは今後まどわされてはならないのだ。それは實際に於ける戰爭の準備といふことである。ヨーロッパに君臨する似而非デモクラシーはたつた一つの實際上の進歩をもたらしてゐるのである。即ち、今後、支配階級と諸政府は、弱國の合併を目的と世界的掠奪の競爭を公然と表明しえなくなつたその事實である。だが、自國のみならず、ヨ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ーロッパの中心都市に於ける國際的通信網を掌握するイギリスは、それらの機關を通じて、スパイと僞造者の宣傳を撒布するの外、誹謗の組織的計畫をつづけてゐるのであるが、これこそやがて組織的武力手段と代るべき序曲ともいふべきである。なほ、イギリスはその外に、やゝもすれば挑發手段の擧に出づるのであるが、アルコス・ハウスの捜査事件などはその好例といふべきである。余は最近ロンドンの某紙上で、イギリスがリトアニアとソウイエト・ロシア間に締結した條約に對し、臆面もない威嚇的態度に出でゝるのを讀んだのであるが、その同じ新聞が一年以前には『支那人の無鐵砲な蠻業にとつての良藥は斷罪政策に如くはない。』と、豪語してゐたことを記憶するのである。

と、また、さうかと思ふとイギリスは、その帝國主義的野望を全ふせんがために、かの老練な常套手段をもつて機會を巧みにとらへる。民國政府との係爭に於て、非常な衝動に打たれたイギリスの輿論は當初あるひは幾つかの活動的な委員會を組織し、『支那に手を下すな』をそのスローガンとしたのであつたのが、こは如何に！　一たびかの南京事件なるものの惹起するや、百名ばかりの支那人と二名のイギリス人の死を傳へられるや、イギリスはこのイギリス臣民二名の死と、國旗の凌辱とを口實に、輿論の大々的宣傳に取かかり、果然、同國の輿論をして變節改論の硬政策に出でしめたのであつた。もとより、反ソウイエト政策の音頭取りであり、その指導者であるところのイギリスのみか、帝國主義國にかぎつたといふわけではない。そこにはフランスも控へてゐる。フランス、ヨーロッパ大戰の直後に於て不吉な役割を演じ來つたフランスは、常にプロレタリアの解放の運動に重壓を加へ、いたるところに於て反革命分子、並びに反動的、ファシスト的政府を幇助することに眼がなかつた。だが、フランスはソウイエト聯邦に對しては、どうしたものか割に怯懦である。さりながら、フランスの政策もまた、その大體方針に於てイギリスにあやつられてゐること、さらにまた、この國が一九一四年以來この國の資本主義閥によつて左右されてゐることを忘却してはならない。コルチヤックを承認したのもフランスである。フランスはコルチヤックに百三十八臺の飛行機と、四百二十四の砲門と、三百萬の彈丸を供給してゐる。フランスはまた、精神的、物質的にロシアの人民が敵とする白軍の將軍に援助を惜まなかつた。ロシアの反革命家、デニキンを初め、ペトリウラを筆頭にマクノ、ウランゲル、ジヨルダニアの輩にいたるまで（ジヨルダニアは英露の開戰をひそかに期待し、それを不可避なものと看做してゐる）……

かくて、パリは白色亡命政客、ダシユナキと、ムサヴアシトとそれの共謀者であるメンセキキたちの陰謀の巣窟の觀を呈してゐるのであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。そしてそれらの徒輩に汲々として帝國主義に對してへつらひ向きの口實を與へ、憎惡の劍を呈してゐるのである。

余の知るかぎりで、現在でソウイエト・ジョルジア共和國を承認してないのはフランスだけであると思ふ。しかも、フランスは人もあらうに、戰爭と虐殺の張本人であり、赤色革命により追拂はれた人間を同國の公の代表としてこれを承認してゐるのである。さらに、そのフランスはソウイエト聯邦との國交維持に反對であるところの反動新聞の、放縱そのものである惡宣傳を默過してゐるのである。

さて、これらの結論は必然的にいかなる結果をもたらすだらうか？不圖した張合が戰爭の問題にまで及ぼすことのあることはきまりきつたやうなことである。しかるに、かうした事件の一たび突發するや、それは、如何やうにも製造され得るものであるのである。しかして、かうした火急な手段による實例を知るためには現代史の古いところにまで遡のぼらずとも充分足りるのである。差しあたり、イギリスはどうしたか？　これだけのことでイギリスは――それ以上重大なことはいはずもがな――支那には原則として出兵をしない筈の列强をしてそれに參加せしむるために、上海と南京に戰艦を派遣するだけで充分でなかつたか？　しかして、他の列强のイギリスの行動を追つたのは割前の權利を失權してはならぬといふ重要な理由があつたからである。

そこで、こゝが野心なところであるが、事實が遂行されて徒に行動を開始するのである。しかるに、余の指摘したところの恐怖な、怯惰な樂天主義者たちは事實の不正確な點と、係爭の直接原因不明をたてにとつて信じたがらない。だが、事件のはつきりするしないは、その必要に迫まられてやつて來るものである。『戰爭は豫期しないところに勃發するものである』と、レーニンはいつてゐる。また、カール・マルクスは、『利益めがけて後退りをする資本家はゐない』といつてゐる。

武器の重みかさなるだけで、事件を誘導し勃發させるに充分である。イギリス、フランス、アメリカ、ドイツ、日本、イタリアの軍費は一九一三年の十四億弗から一九二六年の一躍二十一億四千萬弗に達してゐる。すなはち、七割になつてゐるのである。アメリカはゆうに千六百萬の軍隊を動員し得るといはれるが、そのうち三萬人は飛行家である。上記四列强の航空軍だけで一九一三年この方から約二十倍になつてゐる。しかして、こゝ三年の間だけで、約二倍になつてゐるのである。

さらに、ソウイエト聯邦を取卷く國々、フインランド、エストニア、リスアニア、レトニア、ポーランド、ルーマニア等に於てこれを見るならば、これらの國だけでも、一九一三年に於て全世界の分を併せたものの四倍といふ航空力を示してゐるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

こゝで、余は簡單に結論をなすであらう。ロシアに於ては、內政的には革命の進路を阻止したり。變更したりする何物とてもないのであるが、外部に於ては依然として危機が存在し、且つ擴大しつゝあるのである。

そこで、われわれは、ソウイエト・ロシアの、、から學び得たわれわれの觀察を、これを、、、、、、のために、、、にしなければならぬ義務をもつのである。しかり而して、我らは今そのはつきりした義務の形體を見るのであるが、それは他ではない。一に社會主義國家をそれの、、、、、、、、しなければならぬことである。

二に、それらの、、、、、、、、しなければならぬことである。しかり而して、この二つながらは切つても切れない共同の使命をもつのである。如何となれば、世界の各方面の勞働に從事する人たちが、眞に彼らがいかなる立場にあるかを自覺する時に、これらそのいよいよ伸びゆく實力と反省の點に於て未來の、、、、、、、、、、はその本心の命ずるところに行動するであらう。

モスクワの大會はそれに對し如何なる措置を採るべきやを決定した。余は信ずる。すなはち、この大會に參列した證人たちは彼らの歸國後、單なる宣言や修辭的發意に滿足することなく、自覺的な、進歩的な人々の間にソウイエト聯邦共和國に對する正當な擁護運動を組織するだらうことを確信するものである。（於モスクワ、一九二七年十一月十五日）

新刊紹介

◆半峯昔ばなし（高田早苗著・定價三圓・東京市牛込區早稻田・早稻田大學出版部）

◆論・想・談（高畠素之著・定價一圓五拾錢・東京市牛込區矢來町六六・人文會出版部）

◆蛙の放送（澤田正二郎著・定價一圓・東京市牛込區矢來町六六・人文會出版部）

◆小唄文庫第一篇 弦曲粹辨當（湯朝竹山人選・定價一圓・東京市小石川區表町一〇九・アルス）

◆小唄文庫第二篇 浮れ草（湯朝竹山人選・定價一圓・東京市小石川區表町一〇九・アルス）

◆日本家庭大百科辭彙（特價甲種二十二圓五十錢・丙種二十四圓神田區表神保町・富山房）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



貧乏の起原

長谷川如是閑

一 種々なる貧乏説

『世に貧乏神といふことあり、この神、いと小さきものにして小兒の如く倘小なりと。或田舍に貧窮なる農あり、又或人其の家農業の體を傍觀するに、彼の神、斂收の側にゐて、穀粒の入るものあれば手を以てまきちらし升俵の外に散失せしむ。傍觀の人おもへらく、貧困全く此の神の所爲ならん。竊に神を捕へ同村なる富人の家に持ち行き放ちたり、蓋しその富を惡んでなり。是より三四日經て、定めて彼の家損失のことあらんと又密に往て窺ふに、神斂收の側にゐて、穀粒の散出あらんとするものあれば一々拾ひて升俵の中に納め入れ曾て損失なからしむ云々』(甲子夜話)

貧乏神の性質に關してこれほど正確な記述はない。多くの貧乏神に關する記錄には、貧乏神の至る所、如何に富める環境に於ても必ず貧乏が發生するやうに記るされてゐるが、この貧乏神は、既に貧乏の在る所に於てその貧乏を增進せしめる働きをもつのみで、貧乏のない所では忽ちその威力を失ふのである。これは全く貧富に關する社會的事實に一致してゐる。

元來貧富の問題は、ヨーロッパ人とアフリカ人との何れが富み何れが貧しいかといふ問題ではなく、ヨーロッパなりアフリカなりの、一定の社會の裡に、貧しいものと富めるものとの對立が存在する場合の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

問題である。即ち同一の生活典型を持つべき筈の同一社會に於て、一方に最高の典型をもつ群があり、他方に最低の典型をもつ群があるといふ問題である。一つ社會の内群として一方にヨーロッパ人あり、他方にアフリカ人があるといふ問題である。

されば同一社會内に異つた生活典型の發生した原因が貧乏の原因であらねばならぬ。貧乏なるが故に異つた生活の典型が生じたのではなく、生活典型の異るが故に貧乏が發生したのである。而して生活の典型を異にするものは必ず異る神をもつものであるから、同じ貧乏神が、貧と富との二つ異る社會的内群に通用する筈はない。貧者の神が富者を貧しくすることが出來ず、富者の群が貧者を富ますことの出來ないのは、天照大神がアングロ・サキソン人を如何ともすることが出來ず、オーヂンが大和民族に手がつけられないのと同じであらねばならぬ。

然るに、甲子夜話に於て貧乏神を捕へて富者の家に放つた男は、その神が富者の家に到つて變節した理由を次ぎのやうに解釋してゐる。

『貧乏神は其家の精神より生ずるならん。さればこそ富人の宅に移せば忽ち化して富神となる。恐るべし云々』（圏點筆記）

この見神家は、要するに、貧乏をもつて人間の心掛けから發生するものと解したのである。同一社會にかて異る生活典型の別々の社會群の發生したのは、もと〳〵同一生活典型に在るべき筈の人間が、誤つた精神をもつことによつて貧乏群を形作るに至つたのであると解するものである。これは同一社會の群は必ず同一生活典型をもつ組織であるといふ社會學説——多くの社會學者の採用してゐる學説——に立脚したものである。これは古今東西の貧乏學者——貧乏を生活してゐる學者ではなく、貧乏を思索してゐる學者のことである。以下倣之——達の唱道し、今日の貧乏學者もそれを傳承してゐる『貧乏心掛け説』即ち貧乏の原因に關する『不道德説』。詳しくいへば、貧乏は、同一生活典型の下にある人間の中の道德的缺陷をもつもの丶運命であるといふ學説を採用してゐるのである。

凡そ貧乏の原因に關する學説には左の數種がある。

第一『不道德説』今云つたそれで、生活道德の破壞即ち生活行動の怠慢と生活意識の錯誤とが貧乏を生ずるといふもので、多くの貧乏學者の唱道する外に、一般的に敎師、敎科書、先輩、主人、兩親、地主、資本家、落語家、講談師等が、それ〴〵生徒、後輩、使用人、子供、小作人、勞働者、聽衆等に對して常に說いてゐる學說である。

第二『道德説』これは前說と反對に、貧乏は不道德に原因せずして道德に原因するとするものである。この說の文句は『富貴不道德說』

である。富まんがためには、あらゆる不道德を行はなければならないといふことは、殆んど一般の常識となつてゐるが、道德的であれば必ず貧乏するといふことを主張すれば多少非常識視される。さればこの『貧乏道德說』を主張するものも、道德的ならば必ず貧乏するといひ切るものは少ない。孔子も『不義にして富み且つ貴きは』といつて、義にしても富且つ貴きを得ることを半面に含ましめ、道德的でも必ずしも貧乏しないことのあり得ることを暗示した。

宗教家には、この『貧乏道德說』を採用するものが多いが、これは富者から寄附せしめるには、富が多くの場合不正であるといふ常識を構成せしめて、富者をして社會に贖ひせしめる——寺院に寄附することによつて——ためでもあらう。宗教家が『道德必貧說』を固守すれば余りに富者に反感を起さしめる。それは教團にとつて致命的である。

されば澤庵和尚の如きも、

『諸家の達者は皆財寶に富めるはなし。諸家にをいて何れなりとも、其家の達者といはれて富あれば道は達せぬと知るべし。陽虎が曰く。仁者は富まず、富をすれば仁ならず、道を學んで立身すべきと思ふべし、富人となるべしと思ふべからず。……富を願ふ人は、我本來の心公直なるを曲げて私をなし、我本來の心はもと淸淨なるを不倫となしたるゆへに、有錢の家となるべし』

といつて『貧乏道德說』を說いたが、しかしその間にも、『立身は、我心の私曲を去つて公直となし、汚穢を除きて淸淨となりぬれば、名を求めんと思ふ心はなけれども、名世間に聞へて立身すべしと思はぬとも身を自から立つ、これ學者の力なり』といつた。立身と富とは範疇を異にし、且つ澤庵は、立身について云つたのであるが、その反面には、やはり、孔子と同じく、不義でない富の有り得ることを暗示してゐると見ることが出來る。

この說の意識目的はいろ〳〵あるが、第一に說者自身の衝動として は、貧乏の地位を輕蔑せしめざるためである。大德も貧乏なるが故に侮蔑されては立場がない。これ達者の必ず貧なる事實を高調する所以である。より社會的の動機としては、前の『貧者不道德說』や、後に掲げる『富者神權說』に對抗して、貧者の生存を主張する意識である。富の發生は、元來分配の不平均であるから、その事自體、社會的不安の原因である。これに對して多數の貧者は、アリストテレスのいつた通り『革命的』となる。この貧者の革命の衝動が意識化した時には、必ず『貧乏道德說』となる。これは倫理學に於て『本能說』即ち『道德衝動說』の存する所以である。

第三『心理說』　これは貧乏をもつて生活事實ではなく、心理事實であるとする說で、前の不道德說及び道德說を『心掛け說』といふな

らば、これは『氣持ち說』といはれるものである。貧乏とは『氣持ち』に過ぎない。百萬圓の富者が九十九萬圓を損失して、一萬圓の生活に墮すれば、彼れは貧乏と感ずるであらう。一文無しが急に一萬圓を儲けたら、彼は大富者を以て任ずるであらう。而して共に間違ひではない。それは『氣持ち』を轉換せしめることによつて貧乏現象は忽ち消失する、これその心理的事實なる所以である。而してこの『氣持轉換』のメトドロギーを『知足哲學』と稱する。古今東西の哲學的貧乏學者の貧乏哲學は概ねこの『知足說』である。

第四『生理說』　この說は貧乏の原因を道德的の缺陷でなしに生理的の缺陷に基くものとする。生理的の缺陷のために、肉體的又は心的能力が低下して生活の能率を擧げることの不充分なるために貧乏するといふので、『道德說』と同じく、行動及び意識の低劣をもつて貧乏の原因とするものである。たゞこの說に於ては、その低劣を客觀的の原因に歸せしめて、本人を貧乏の責任から解除するのである。自然科學者は多く此說を採用する。

第五『素質說』　この說は恰も人間に人種に差別のある如く、同人種のうちにも本質的に優劣の別あつて、それがため同一環境に於いて生育しながら、性格的に、天才と凡才、智者と愚者、敏捷と遲鈍、狡猾と愚直、悧巧と頓間、等の區別を生ずる如く、經濟的に富者と貧者とを生ずるとするのである。この說によれば貧富は天分に應ずる報酬である、といふことになるので、從つてその哲學は『富者神權說』であり『貧者奴隸說』である。富者には富むべき天賦の權かあり、貧者には貧乏すべき天賦の義務があるといふのである。この說を國家としての貧富に適用したのが『優越人種說』即ち所謂『ゴビノー說』で、白人中のある種は、他の人種を超越して富貴と權力とを獨占する素質を、從つて權利を、もつとするのである。

第六『運命說』　これは貧富は、全く機會であつて、機會はすべての合理的原因を超越した『自然』の不合理的決定である。人力をもつては勿論のこと、神力もこれを如何とすることは出來ない。機會が神力を超越することは左の有名な『天狗と樵夫との話』がこれを證する。

『北國にいやしき工の飛驒山にゆきて杉を採りてへぎて生業とする者ありき。ある時山中に杉をへぎて居たるに、ひとりの山伏の鼻の隆きが來りしを見て、心に不思議ものかな、天狗にやと思ふに、「汝はなにとて我れを天狗とおもふぞ」といふ。はやく去れかしとおもふに「汝など我をいとひて去れかしと思ふぞ」といふ。何にても心におもへばはやしりてとがむる程に、後には是非なく其の杉の枝の長くはへたるをつかね摘めて繩して括らむとしけるに、心ならず取りはづして枝刎ねけるほどに、その枝の末、天狗の鼻にしたたかにあたりしかば、「汝

は心れの知れぬものかな、おそろし一とて行き去りぬ。云々」(鹽盛雜話)

即ち運命說は貧乏をもつて、天狗の仕業とするものである。この說は凡說としてはとにかく、『知足說』又は『安分說』の實踐的基礎として一般に採用され、又貧乏の現象に對する本能的反抗を鎭靜せしめる意識目的をもつて主張されてゐる。宗教家の貧乏論は多くこの第五說に屬する。蓋し、宗教は不合理性をもつて一切を獨斷するものであるから、貧乏もまた不合理的獨斷に歸せしめねばならぬ。貧者は宗教的獨斷に盲從することによつて貧乏に安住し、身の皮を剝いでも『貧者の一燈』を宗教家に捧げるのである。

第七『人口說』　貧富は人間と生活資料との比例から生ずる。人間が少くして生活資料が豐富なれば富み、その反對は貧乏であるといふのがこの說である。マルサス說もこれに屬するが、古くはアリストテレスも此說を採つた。彼れは、プラトーの富の分配に對し、人口制限の問題を閑却することは貧乏の原因であるとその『政治學』で說いてゐた。今日の人口學者も、食料の生產と人口との比率を算出することによつて貧富を決定しやうとし、所謂『收穫の遞減』と『人口の遞增』とを貧乏の原因とするものが多い。然しその意味からいへば、敢て食料と人口との比のみから貧富が生ずるものではない。今日のやうに經濟的交通の自由な時代においては、所謂自給自足の社會といふものはなく、各の社會は互に、生產物の交換を行ふのであるから、貧富は、食料の生產ではなく、一般の生產の多寡に原因するとせねばならぬ。で人口說はいひ換れば『生產說』である。人口增加が生產の增加を超へるところから貧乏が生ずると說くのである。然し、この人口說は、第五までの各說が貧乏の個人的原因を說くものであつたに對し、これは貧乏の社會的原因を說いてゐるのである。從つて此說は、人口と生產との比が社會的の貧富を生ずることをいつてゐるが、富んだ社會にも貧乏群が居り、貧乏な社會にも富裕群の居るといふ不思議な原因については何もいつてゐない。それをいつてゐるのは次ぎの『搾取說』である。

第八『搾取說』　これは所謂マルクス說である。これは、資本主義的生產組織に於て、生產者は自分の勞働を資本家に賣つて生活せねばならぬのであるが、それを買ふべき資本の增加率が買はるべき勞働の增加率即ち、勞働人口の增加率に及はないところから、勞働の賣れ殘りを生ずる。それが貧乏である。これは然し、特に資本主義社會の貧乏の原因であつて、特殊の貧乏の說明である。即ちすべての富が商品の形でしか存在しない社會のことである。勞働もそこでは商品だから、それが賣れなければ、『勞働商品』は勢ひ貧乏せざるを得ない。然し貧乏とは商品經濟だけの現象ではなく、すべての生活狀態に共通する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現象であるから、すべての貧乏は皆、資本と勞働との關係から發生する譯でないことはいふまでもない。

第九『掠奪說』 これは貧乏の發生學的見地である。國家は武力をもち敎養をもち學術をもち藝術をもつ少數者が、多數の民衆を奴隸的に支配するところから起つたが、貧乏はさういふ社會形態の事實である。而してこの形態は、社會群と社會群との接觸より生じた戰爭の結果である。社會の內部にいろ〳〵の階級層が出來てゐるのは、その戰爭の結果が長く社會的分化となつて殘つてゐるのである、貧富は卽ちこの階級層として定められた一定の地位に伴ふ經濟的運命なのだから、その起原はつまり『掠奪』によつてゐるといふことになる。

かゝる見地を『人種鬪爭』と稱して、社會構成の自然過程と認めるのが、ラッエンフオーフアーやグムプロキッツの社會學說である。これらの學說のやうに、國內の經濟的地位を決定してゐる群を『人種的』と稱すべきであるか如何らかは問題であるが、とにかく『人種鬪爭』說は、飽くまで發生的の原因を高調して社會の內的鬪爭を人種混合の現象から引離すことの出來ない現象とするのである。さればどこまでも、貧富が掠奪と關係してゐることゝならねばならぬ。此說によると、社會主義學說の『搾取說』も畢竟、一つの社會群が他の社會群から『搾取しなければならぬとなつた時に、他の部族が、卽ち少しでも異つた人間がこの搾取の對象に利用されたに相違ない』(グムプロキッツ)この意味では平和的商業でも同じことで、『元來商業といふものは、その內的性質に於て、またその歷史的起原に於て、外國を搾取することであるから……商業は好んで常に異つた人種的社會要素、新規の異人種に對して行はれるのである』(同上)

貧乏は土地の獨占から起る、而して產業の進步は益地價を暴騰せしめるが、少しも賃銀を騰貴せしめないので、文明國ほど土地の獨占による利益が增進するのと反對に、賃銀は下る、從つて文明國ほど貧乏が增進するといふヘンリー・ジョージズムもある意味では掠奪說である。プラトンも、彼れの土地分配論がこの獨占を還元せしめやうとするものであるなら、土地の獨占を貧乏の原因とするものである。これらは、その獨占の歷史的過程を人種鬪爭の意味の掠奪に起因するものと認めた譯でないが、やはり廣義の掠奪說に屬するといへやう。

掠奪說も亦、社會群的に貧富の分かれる所以を說明してゐるものであるが、同じ社會群に於ける貧富の發生については明瞭に說明されてゐない。やゝ廣義の合法的掠奪說に於ては、その過程が賃銀と地代との社會的不公正によつて說明されてゐる。

二 生物學的條件

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は今こゝに、それらいろ〳〵の貧乏說を批評するつもりではない。それらの各說は、貧乏を違つた角度から見たものとしてそれ〴〵理由があるとも思ふ。然し始めにいつた如く、貧乏は異なる社會群が同一社會內に對立することに原因するものであるとすると、この對立關係の發生事情が貧乏現象の起原であらねばならぬ。貧乏はそれが社會群的特徵をなす時に問題となるので、一個の貧乏人の發生は問題ではない。從つて、道德說、不道德說、生理說その他、個人的特徵としての貧乏の原因は、その原因が社會的に支配し、全群的に影響した時の外、貧乏の原因として數へる必要はないものである。近代に於ける『社會的疾病』としての性格的缺陷も、それがために特殊の社會的の生活能力の減退となり而して現在の社會的貧乏群を發生せしめたのではなく、現在の貧乏群に於ては、それらの『疾病』は貧乏群發生の原因ではなく、その結果である。

然かも社會的對立としての富裕群と貧乏群との發生は、歷史的には前に擧げた『種族闘爭』をもつてしても說明されるが、さういふ歷史の過程は、それに先在し、それの原因をなした所の特殊の生活現象に起因したものであることを知らねばならない。

種族闘爭は、外群的關係——特定の社會を構成せしめる協同關係をもたないで、沒交涉の間柄なる社會群同士の關係——にある社會群の接觸によつて惹き起される闘爭狀態であつて、それが『種族闘爭說』の主張する如く、後の文明社會に於ける內群的關係にある社會群同士の闘爭にまで、全くその性質を殘存せしめたものであるか何うかは疑問であるが、幼稚な社會が混合によつて尨大に發達する過程に於ては、確かにその闘爭が種族的性質の衝突であることは疑ひない。それは確かにXの性質をもつた種族がYの性質をもつた種族と接觸して、XYの對立的社會を構成せしめる過程であつた。

社會群が接觸して闘爭を生ずるには、その互の群の性質に必ず、一定の相違點のあることを——多少の例外はあるが——條件とする。それは丁度雌雄の接觸が、互の性格の相違から生ずるもので、その相違がないならば接觸をさへ生じないのと同じやうな事情である。性交は闘爭とは違うが、然し闘爭も亦接觸によつて互の性格的不足を充たし合ふ結果となる點に於て性交と似通つてゐる。闘爭が極度の、、を伴ふことに於て性交に似てゐるのも、恐らくそれがある點で性交と共通の効果をもつものだからだらう。

然らば、社會群の接觸に於て闘爭を生ずる條件たるXとYとの相違は、具體的には如何なる相違であるか。即ち內群的社會闘爭を生ぜしめる生活過程の實質は如何なる性質のものであるだらうか。

それを私は、社會群の生物學的性質に於て見出すことを得ると考へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。生物學的性質とこゝでいふのは、生物の生態に於ける一定の行動の典型である。生物の特定の行動典型を生ずる過程に於て、人間の社會群の行動典型の構成過程が見出されるのである。

社會は人間群にのみ特有のものではなく、一般の生物群の現象である。形而上學的社會學者は、先天的超越的意志目的に於て、人間の社會を一般生物の社會と、本質的に區別さるべきものと認めるが、人間の『觀念』は、社會の所産であつて、社會を産むものではない。『範疇』が生活典型を産んだのではなく、生活の典型が『範疇』の意識を産んだのである。生活に先在して『規範』があつたのではなく、『規範』に先在して生活があつたのである。人間がさういふ意識の構成を始める以前に、遙か以前に、社會は作られてゐたのである。

それと同じやうに、社會が出來て後に發生したあらゆる現象——社會的諸現象——も、その現象形態の先天的約束を實現したものではなく、社會過程の機構の動的性質から、因果的に發生したものに過ぎない。それは、子供の産れることが、それを産む夫婦の存在に先立つて決定された約束でないのと同じである。

然るに、『先天性』の哲學は、生活經驗から抽象された意識を、生活現象の彼方に在る實在にして生活そのものを産む規範であるとする。即ち物差しが反物を産むと主張するのである。この哲學にたては、動物の社會は社會ではない。何となれば動物の社會は『物差し』の産んだ反物ではないからである。

然し、禍福吉凶が夢によつて決定されるものでなく、あべこべに、夢が禍福吉凶によつて決定されるものである、といふ常識を失はない限り、物差しから産れた反物のやうな社會のある筈のないことは明かである。社會形態に先在してそれを決定すると信ぜられる『意識』が、意識それ自身をさへ決定し得るものでないことは疑ふ餘地もなく、從つて、社會形態は決して意識の狀態を決定條件とするものでないことも疑はれない。いひ換へれば社會過程は意識に反して過程し得る。否何人の意識にも決して一致しない過程をとつて來た。

貧乏群の發生は、決して一定の性格や一定の行動に必然的に貧乏なるべき因果關係が存在するためではなく、如何なる性格、如何なる行動も、ある社會關係の下に置かれることによつて、或は貧乏群たる條件をなし、又或は富裕群たる條件をなすのである。一定の性格、一定の行動に、先天的に貧富の運命が定着せしめられてゐるのではなく、その性格その行動がある關係に置かれることによつて、相對的に消極的又は積極的生活條件を——貧富——餘儀なくされるのである。

無論一定の歷史的期間に於ては、ある性格、ある行動は、恰も先天的に一定の生活條件を餘儀なくされてゐるやうに、それから脫れ難い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

運命に置かれるのであるが、それは畢竟、その性格なり行動なりをその生活狀態に固定せしめる一定の社會條件が持續されてゐるからであつて、決して性格乃至行動自體の絕對的運命ではない。

然し、生物の生存條件には限界がある。ある性格、ある行動は決して絕對的に一定の生活狀態に固定せしめられるものでないとしても、それが生存條件の限界に達すれば、決定的に消極的運命を餘儀なくされる。怠惰の生活群は必ずしも絕對に貧乏に運命づけられるといふことはないが、しかしそれが一定の社會狀態に於ける生存條件の限界まで怠惰であつたら、その群は貧乏どころか必ず滅亡するであらう。故に、ある性格乃至行動は、社會狀態が如何なる變化を經ても決して生存の限界を踏み外づす性質のものでないが、他の性格乃至行動は、生存條件の限界を踏み出すことによつてその群の滅亡を招くべきものであることを推定し得るのである。

これらの事情を具體的に說明するものは卽ち、先きにいつた、社會群の生物學的性質である。

社會の生物學的性質は社會構成の第一條件である。社會は、その構成のあらゆる他の條件を失つても恐らく直ちに解體することはあるまいが、その生物學的條件を失へば、忽ちその形態をも存在をも失ふのである。それは丁度、人間があらゆる他の生活條件を失つても直ちに死滅することはあるまいが、その生理的條件を失つたら一日も生存することの出來ないのと異らない。

然も社會にとつてその生物學的條件は、人間に於ける生理的條件よりも、更らにその二次的生存條件に喰ひ入つてゐる。例へば、人間の場合には『道德』の萌芽が生理的條件の中に胚胎してゐるとは認められないが、社會の場合に於ては、その生物學的條件のうちに社會的道德の萌芽が强度に存在してゐる。言ひかへれば、社會の生物學的條件は社會結合の機械的梃子たるばかりでなく、その有機的動因をなすものである。生物の本能による社會的行動の形態は、人間の社會的行動のそれと本質的に共通のものであつて、科學的に單純化された社會結合の行動的要素は、恐らく生物の社會結合のそれに還元されるであらうとさへ考へられるのである。二次的性質の行動要素は、個人に於ける道德意識のやうに、時代や環境やの變化によつて絕へず生滅するが、一次的のそれは遺傳學說の敎ゆる如く、永久に不變の性質をもつて、人間の社會結合の行動的要素を形作るであらう。

貧乏といふ人間社會の現象が、たとへ人間社會特有のものであるにしても、その如何なる部分に於て、人間社會に於ける二次的性質に規定され、如何なる部分に於て、生物社會に於ける一次的性質に規定さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れたものであるかを知ることは、貧乏の社會的必然性が何ういふ性質に於て人間に絶對的のものであるか又はないかを知るために必須の方法であらねばならぬ。

それがためには、生物の社會狀態の單純なものほど、その方法に役立つ譯であるが、然し人間社會のそれと共通の何物かを求めるのであるから、或る程度まで進んだ社會であることを要する。それに適當な生物社會は、恐らく蜂又は蟻の社會であらう。しかも後者がより適切であることは一般に認められてゐるので、私は茲で、蟻の社會に關する專門家の研究に基いて即ち蟻の研究に就て世界の權威たるホキーラー教授の記述及びローマネスが有名なる『動物の叡智』に蒐集した諸家の記述並びにダーウキン、ブウヴイエ等に基いて簡單に考察を進めて見やうと思ふ。

三　蟻の社會の特徵

對立的社會群の成立する過程即ち生活典型を異にする社會群が內群的結合を生ずる過程について、生物の社會に於てその要素的性質として認められる現象は、蟻のある種と他の種との間に戰鬪その他の接觸が行はれることである。而して戰鬪の場合に於てはある種の蟻は攻勢をとり他の種の蟻は守勢的地位をとるのであるが、その場合攻勢をとる蟻は必ず比較的反社會的——孤獨的——の生活典型をもち、さうして肉食的であるに對し、守勢をとる蟻は、必ず社會的の習性をもち且つ菜食的である。

蟻は元來肉食虫であつたが次第に菜食となつたのである。それがため蟻社會の進化は人間のそれに比べられる。人類社會の進化の順序を、ある人類學者は、狩獵期、遊牧期、農耕期、商業期、產業期、知能期の六段階に分けるが、その最初の五段階は蟻の社會に於ても同樣である。蟻の最も原始的のものは全く昆虫を常食とし、狩獵期の人間に相當するのであるが、その最も幼稚のものは、食料を大量に得ることが出來ないので、大群を作ることが出來ず、極めて人口の少ない地下の生活を營んでゐるが、それが肉食の豐富な熱帶地方に於ては、發達して所謂『兵蟻』なるものとなる。これは領土を可なり大きく取ることによつて充分の食料を得る關係から大群を構成し、その猖獗なるものは、非常の大群をもつて遠征を試み、その道に當るあらゆる生物を襲ふて喰ひ盡し、人間もその群の來襲に遭へば暫時家をすてゝその蹂躙に委ねゝばならぬ程で、繋がれた家畜などは無論その餌食になる。

第二期の遊牧期に入つた蟻は、主として蜜汁によつて生活する。この蜜汁は直接木から吸ふか又は他の昆虫の吸つたのを蟻が貰ひ受けるのである。蟻は、蚜虫、蠟虫、葉蚤等の草食虫を觸角で叩いてその吸つ

た汁を吐き出させて吸ふのである。從つて此等の昆虫を蟻は全力を盡して保護し、その蛹や幼虫を、自分のそれよりも大切にする。ある種の蟻は、蜜蜂のやうに巣を作つて蜜を貯藏する。又ある種に於ては、群中のある蟻が、多量の蜜を吸ふて、その腹を身體不相應に大きく膨らして、歩くこともならず、巣の天井に喰ひ下つて、外の蟻に蜜を供給する役目を引受ける。かくして第二期に於て社會的性質が充分に發達する機會を得る。さうして他の昆虫さへもその社會に包容するに至る。

第三期の農耕社會を作つてゐる蟻の有名なのはアツタ一名パラソル蟻と呼ばれ、木の葉を喰ひ切つて、それを傘を差したやうな恰好で捧げて巣に運んで行く蟻である。この蟻は、その木の葉を細かく嚙み碎いて海綿のやうにして巣の床に置くと、その上に小さい菌類が生長する。それを彼等の食物とするのである。アツタにいろ〳〵の種があるが、その種が違ふと耕作する菌類も違つてゐて、定つた菌の外に決して違つた菌類を繁殖させない相である。

この種に發達した蟻は、大體に於て、非常に大群の生活を營み、その一群の人口十萬乃至六十萬の多きに達する。この程度に達した蟻の社會の『人爲』的農耕狀態は、殆んど人間のそれを凌駕し、北部メキシコのやうな荒地で大規模の耕作を行つて莫大な食料を貯藏し、周圍の人間共を垂涎せしめてゐるといふことである。

かくて蟻の社會には、戰鬪的の狩獵民族又は遊牧民族と平和的な農耕民族とが存在することになる。而してこの事が、群の混合を引起す動機となるのであるが、その過程にはいろ〳〵ある。ホヰーラーはそれを左のやうに分類した。

（I）社會的寄生々活

A 複窠

一、强盗（Cleptobiosis）
二、窃盗（Lestobiosis）
三、隣人的（Plesiobiosis）
四、保護（Parabiosis, Phylacobiosis）
五、賓客（Xenobiosis）

B 混合群棲

一、奴隷（Dulosis）
二、一時的社會的寄生々活
三、恒久的社會的寄生々活

（II）Myrmecophily（蟻が主人となつて他の昆蟲を共棲せしめる生活）

一、受刑侵入者（Synechthrans）
二、寬容された客（Synoeketes）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三、同卓會食者（Commensals）
四、賓客（Symphiles）
五、外部寄生々活者（Ectoparasites）
六、內部寄生々活者（Entoparasites）
（Ⅲ）Trophobiosis（蟻と他の草食蟲との交渉生活）
Ⅳ）Phytophily（蟻と植物との交渉生活）

今本論に必要の限りに於て說明すれば、『强盜』は、身體の小さくしかも慓悍な蟻が、他の種の職蟻即ち勞働蟻の貯藏食糧を掠奪することによつて生活するもので、この群はその棲家を被掠奪群の側に構へて、恰も富士山に於ける寶永山の如き形で、生產的の群の蟻塚の山腹に自分の蟻塚を作るものである。『窃盜』はより狡猾で從つて有利の生活法である。それは小さい蟻で、人口稠密の蟻群の巢に隣つて自分の巢窟を設け、その隣の巢へ間道を作る。それは自分は通れるが先方の蟻は通れない小さい穴なのである。窃盜蟻は自由に此穴から隣の巢に出入して食糧を盜んで來て、生活する『隣人的』といふのは、數種の蟻が組合つた巢を作るが、決して相通ずる廊下を作らないので、たゞ食物を融通したり、共同の敵に對して共同戰線を張つたり、所謂隣人的に生活をするのである。『保護』は、互助的の組織で、共同の巢を作つて別々の室に棲み、防禦に當つて强い群と弱い群とがそれ〴〵策戰を定めて敵に當るのである。『賓客』は、異種の群蟻が接近して巢を作り、廊下によつて通坑を設け、その一方の蟻が他方の室を訪問して、そこの主人の背を叩いて蜜を吐き出させてこれを吸ふのである。これは全く片務的で、客蟻は、原則として常に隣家の主人の吐く蜜によつて生活してゐるのである。どこまでも御客であるから、その子供までも主人側の巢で育てさせることは許さない。でいつまでも混合群を生じない。然し、人工巢を作つて、別々の室を與へずに、同室に棲ましめると、主人も自分の子供と客の子供とを一緒に育てることを許して混合群が出來る。自然の狀態に於てどこまでも別箇の群形態を保つ。

以上は蟻群がいろ〳〵の形で互に交渉はするが、つひに混合群を生じない場合であるが。Bの『混合群棲』は即ち、外群が混合によつて內群關係に統一されるのである。

その第一は『奴隸』であるが、これについてはダーウキンが『種の起原』で可なり委しく記述してゐる。それによると、奴隸蟻の存在はフランスの動物學者ピエール・ユーベーが始めて發見したのであるが、それは Formica rufescens であつた。この蟻の生活は全然奴隸蟻に依賴してゐて、その助けを得ないとつひに死滅してしまうのである此種の雄と多產の雌とは全く生活上の仕事をしないで、通常の蟻にあつては極めて勤勉な職蟻も此種にあつては、奴隸を捕へる仕事しかし

ない。巣も作れなければ子供を育てることも出來ない。巣を移轉する必要の生じた時にも、主人種の蟻は全部奴隸群に負へられて移轉するのである。ユーペーは三十箇所の主人蟻を奴隸から引離して、食物を與へ仔蟲と蛹とを附けて置いた所が、自から食物を食ふ事も出來ないで大半死亡してしまつた。そこへ一箇の奴隸蟻（F. fusca）を投入れるとその蟻は直ちに生殘りの蟻を養ひ、巣を作り、仔蟲を保護し、忽ち形勢を挽回した。又ダーウヰンが同じくユーペーの發見した他の奴隸使役蟻（F. Sanguinea）について實驗した所によると、この蟻は、たゞ少數の奴隸を使役し而かも主人が自から食料蒐集その他の勞役を負擔し奴隸は主として家内勞働に働くらしい。而して移住の際には主人が奴隸を喞へて行く。ダーウヰンはこの『奴隸』の發生について想像説を述べて左の如くいつてゐる。

『本來奴隸でなくとも、余の見たやうに、他種の蛹がその巣の近くに散在してゐれば、それを運んで行くであらうし、さうすれば、それを食物として貯藏してゐる間にこの蛹が發育することはあり得るであらう。さうして主人の何の氣なしに育てた蟻が生長すれば、自分の本能に從つて成し能ふ仕事をするであらう。もしその存在がこれを捉へた種にとつて、有益であることが確かならば、——もし職蟻を捉へることがこれを産むよりも遙かその種にとつて有益であるとすると——始めは食料として集められた蛹を貯へたことから、自然淘汰によつて、奴隸を作るといふ甚だ違つた目的のために一層努力され且つ永久的となるであらう。而して一度びその本能が得られた暁には、‥‥自然淘汰はその本能を增進せしめ且つ變形せしめ——その變形がその種にとつて有益であると假定すれば——つひにその蟻は rufescens 種のやうな意氣地なく奴隸に依賴するやうに作り更へられるであらう。』

ダーウヰンが想像した奴隸發生の過程は、ホヰーラーの研究によつて始めて明かにされた。sanguinea 種の女王は、自分で獨立して群棲を作ることが出來ないので、その結婚飛翔の後に fusca 種の群棲を襲つてそこにある蛹を搔き集めて自分の身體で蔽ふてしまう。もしこの侵入に對して反抗する職蟻があれば女王は忽ちそれを噛み殺してしまう。そのうち fusca 種の繭が孵化して職蟻が生れると、それが僭竊者たる女王を恰も自分の親のやうに養ふのである。女王はまたやがて自分の卵を産むがそれは生長すればそこに Sanguinea 種と fusca 種の混合群が出來上る。この前者の種の職蟻は母の性質をうけて隣近所の fusca 種を襲つてその子を奪つて職蟻とする。然し、この性質はやがて減退するので、久しからずして、先住の fusca 種は絶へて sanguinea 種のみが殘り、從て混合群は單純群になつてしまう。これを短期、急性又任意型の奴隸制と呼ぶ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Polyergus の種に屬する、ユーベーが『アマゾン』と呼んだ蟻は、Formica 種を奴隷とするが、此の奴隷使役者は全く自活の能力も子供を生育する能力もない。けれども戰ひには勇敢で、フスカ種はこの種の接近するのを知ると大急ぎで逃げ出してしまう。もし抵抗でもすれば忽ちアマゾンのために頭を噛み砕かれてしまう。此のアマゾンも亦、始めに女王がフスカ種を襲つて、そこの女王を殺して、その蛹を奪ひ、やがて自分の卵を產みつけて、それから出來た子達が掠奪戰を行ふのである。しかも此の種の掠奪は前のサンギニー種と違つて、永久に已まないので、これを慢性的、不隨意的奴隷制の創設者と呼ぶ。Strongylognathus 屬の數種にも奴隷使役者があるが、その種の職蟻は、他種の幼虫を奪つて奴隷狩りの戰爭を行ふ。その場合には此種は奴隷を戰爭に伴つて行くが、その奴隷は、自分の種に向つて戰爭する主人のために働いて自分と同種の子を奪つて來てそれを養つて自分の種を繁殖させる。從つて主人の種は全く此の奴隷種を繁殖させる手段に使はれたことになる。奴隷と主人とが實際上の地位を顚倒せしめて、奴隷の方が主人たる實益を占める。

大きに混合群に屬する第二の『一時的社會的寄生々活』であるが、これは一種特別の女王をもつ種の生活の發展である。フォルミカの數種に、職蟻の大きいのよりも身體の小さい女王がある。（女王は通常職蟻の數倍の大さであり、中には職蟻の千倍も大きい女王がある。）この小女王は、同じフォルミカに屬する他種の巣に紛れ込むと、小さいので氣づかれないでゐるうち、自分の卵を產む。それが主人側の職蟻に育てられて混合群を作り出す。然るに此の寄生々活者は、親の女王と違つて異種即ち主人側の種に對して遠征に出掛けることをしないので、やがて主人側の女王から產れた子達が死に絕えると、その群棲は、全く寄生々活者の群だけのものとなつて榮へる。ホキーラーはそれを皮肉つて『これは賤しい、卑屈な寄生々活者が、數世紀を經て、華やかな堂々たる支配者となるといふ人間の組織に甚だよく似てゐる。』といつてゐる。

この類で甚だしい例は、Bothriomyrmex decapitans 種で、其の女王は Tapinoma nigerrium の群棲に接近して態と捕へられ、その巣に引ずり込まれると、忽ちそこの職蟻どもに攻擊されるが、ずるい女王は主人側の大きなタピノマ女王の背に乘つて脫れる。やがて主人群の臭氣に染みて攻擊を脫れるのだが、主人の女王の背に乘つてゐる間に、此の侵入女王は、私かに主人の女王の首を噛み切る仕事をしてゐる。そこから decapitans の名を得たのである。さうして主人の女王が死ぬと、自分がその代りになつて卵を產み、主人群の死に絕えると共に自分の種だけの群となつてしまう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第三の『恒久的社會的寄生々活』は、全然職蟻階級を失つた群の生活である。この種は甚だ多く世界の各地に亘つてゐる。此種の若い女王は他種の蟻の巣に入り込んで歸化して、前の一時的寄生々活の女王と同じやうに構へる。その場合主人側の女王は必ず自分の職蟻に殺される。侵入女王の子は互に交尾して繁殖するが主人側の職蟻のゐる間だけ生存が出來るので、それが死に絶えると、侵入した種も死んで、社會は滅びる。

ローマネスによれば蟻の世界の戰爭の最大の原因は奴隷狩りであり、さうして農耕的の種と戰鬪的の種との戰ひである。が、農耕民族同士も食料問題のために戰ふことがある。さうしてその場合は最も近い種の戰爭が最も激烈である。さうして期間も長い時には四十六日も續いた例がある。然しこの戰爭は食料となるべき植物の種子を爭ふものので、奴隷狩りと目的を異にする。從つて戰爭の目的も人間的で互の繁榮の爲めに戰ふと見える例が多い。マクタツタの擧げた例に次ぎのやうなのがある。

ある古くからある群棲から十數ヤード離れた所に他の種が新らしい都市を築いた。農蟻は一定の範圍を領土として他の侵入を許さないものであるから、十數ヤードに新らしい巣を作るときは戰爭の虞れが充分にある。果して、舊都の蟻から戰が仕掛けられた。その大群は新都に侵入して市民を引ずり出して惨殺した。若い植民軍も身體こそ小さいが勇敢に抵抗した。衆寡の差が著しいに拘らず新都の市民は攻擊軍を惱ました。組打の敵味方が市の入口の周圍十呎から十五呎の間に散らかつて、大地は殆んど死屍をもつて蔽はれた。新都の市民は大い敵の足を斬り、寄手の老兵は、敵の頭や腹を噛み切つた。戰は二日に亘つて行はれ、無數の蟻の死屍と、斷ち切られた首や胴やが幾百となく大地にころがつた。

然し、マッグックの觀察によれば、兩者の巢が、もつと近い所にあつても必ずしも爭を起さないのだから、領土の强弱以外に何か立場の相違が兩者の間にあるのだらうといふことである。さうして近隣同士の蟻は、丁度、文明人の隣國同士のやうに戰ふが、その戰爭の原因が何であるかを知らうとしても、人間の戰爭に於けると同じく到底解ることではあるまいといつてゐる。

次ぎに Myrmecophilis 即ち蟻と他の昆蟲との共棲生活について簡單に説明すれば、第一の『受刑侵入者』とは、ある小さい蠅の一種の幼生が蟻の幼生に寄生して、蟻が繭を作る時には一緒にその裡に監禁され、繭が虚になつて捨てられた時にそれから逃れるのである。第二の『寛容された客』は一種の客人で、二つの職蟻が相對して一方が蜜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を吐いて他方に吸はせる時に、その眞中に飛び込んでその蜜を吸つて逃げ出す客人である。主人公はそれに氣付かず、氣付いて追ひかけやうとしても、二人で抱き合つてキツスをしてゐるので、遲れて間に合はないのである。第五の『同卓會食者』は、一種の小さい蟲で必ず對を爲して蟻の身體にとりついてその蜜を吸ふのである。その對を爲してとりつくのは、重量を平均させて蟻の負擔を輕くしやうといふのである。蟻はそれにたかられた時には取り去らうとして悶くが、少したつと忘れてしまつて、平氣でその重荷を背負つてゐる。第四の『賓客』は、小さい甲蟲で、その分泌物を蟻が非常に好む所から、蟻はその甲蟲を好遇し、その安全を保障して、その子供を、蟻は自分の子供よりも大切にする。その結果、自分の子供を粗末にして、種の大損害を來すことがある。第五の『外部寄生々活者』は、前記の寄生々活者の外部に寄生する者に名づた別名であり、第六の內部寄生々活者とは鱗翅類、膜翅類等で卵を蟻の頭部に產みつけて、それが頭の內部に喰ひ込んで行つたりして、內部に寄生するものである

(次號完結)

第六卷十一・十二月合併號

『社會思想』

＝新ロシヤの十年＝

寫眞 十二葉

ロシア革命小史……………嘉治隆一
世界資本主義經濟に於ける勞農ロシア……丸岡重堯
勞農ロシアの對外政策……………田中九一
ロシア資本主義の發達……………トロツキイ
勞農ロシアの政治組織……………河村又介
ロシアに於ける農業政策の變遷……八木澤善次・河西太一郎
新反對派の問題……………林要
勞農ロシアの勞働法制……………蠟山政道
新ロシアの新民法……………細野三千雄
ロシアの協同組合運動……………山村喬
ロシア藝術の現狀……………九谷夏雄
ソヴイエツト聯邦とアメリカ合衆國……トロツキイ
新ロシア當面の人物と共著書……………佐谷悅治
新ロシア十年間の日誌……………莊原達

定價五拾錢（本號に限り）◆送料二錢

（發行所）東京市赤坂區溜池町一溜池ビル
社會思想社

産業政策に於る社會主義の方途

——金融資本主義下に於る社會運動の活路——

蠟山政道

一　各國の無産政黨に産業政策ありや

現今の日本に於る社會運動に關する議論は、多かれ少かれ、「論爭」の形式を帶びてゐる。やれ「克服」だの、やれ「排撃」だのと言つて、まるで十六世紀の宗派的政論そつくりである。現在のやうに、無産政黨の陣營が數箇のセクトに分立してゐる狀態からしては、それは「必然」な現象であるかも知れぬ。又社會主義のイロハを述べたり、社會運動のA・B・Cを說いたりする啓蒙時代の過ぎてゐる今日では、實際上さうした論爭に入るのは「當然」でもあらう。

だが、筆者は依然として呉下の舊阿蒙で、かうした論爭に浮身をやつす氣にならない。そこで、かうした宗派的論爭に超越した立場から、現在の歐洲諸國に於る社會主義が、その上を蔽ふてゐる金融資本主義の世界經濟的體系の中に於て、各自の立場よりして、その産業政策を通して、活路を見出さんとしつゝある方途に就て、聊か見聞し、思索したる所を述ぶることにする。かゝる高踏的立場は、無産階級の階級的立場が夫々尖鋭的に對立しつゝある今日に於ては、徒に有産階級の肯定となり、援助となるのみといふ非難のあることも、先刻承知であるが、それはさう見る人の自由であり、勝手であるとして、筆者は暫く自己の是なりと信ずる所に從ふのみである。

ここに歐洲諸國に於る社會主義と言つても、總ての國の、總ての黨派に就て語らんとするものでもなく、又現實に諸國に於る最も有力な支配的傾向であるものに就て言はんとするものでもない。先づ、第一に、明瞭にして置かねばならぬことは、コウミンターンに屬する各國の共産黨に就ては、ロシア共産黨の對内政策を除き、全く當面の問題に就て語るべき何物もないことである。その實勢力から言つても、そのイデオロギーから言つても、彼等には未だ自己の政黨に大衆を引き入れんとする政黨的戰術と他の黨派の政策又は立場の意義及び限界に關して、一定の理論的信條による暴露的批判あるのみであつて、自己の積

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

極的案策を有たぬのである。即ち彼等に許さるべきは、資本主義が存續する限り、又彼等以外の社會主義諸派が之に代り得ざる限り、之を非難し罵詈し得る道德的根據のみである。即ち惱みある人の存する限り、天國を約束する說教者の存在が許し得られると一般である。然し乍ら、一歩を進めて、その說教の內容に至ると、政治的手段の萬能に就て語るのみで、その產業政策に就ては、ロシアの現に行ひつゝある對內政策に見るべきものある以外、何物も有たぬのである。この意味に於て、彼等の間から、この種の產業政策の提示の無き限り、全然之を看却して差支ないのである。試に、この提言の正當なることに疑を有たるる人は、コンミユニストの美德として唱えられる例の自己批判によつて、政黨組織の擴大や勞働組合の指導やに關する彼等の「誤謬」や「弱點」を擧げてゐる處を見れば、彼等の實勢力やその戰術の如何を知ることが出來よう。昨年の十二月コウミンターン擴大執行委員會に於て、產業の合理化に關する勞働組合內に於る共產黨員の立場に就て、ロゾウスキーの試みたレフエラートの中には、十箇の誤謬や弱點が擧げられてゐるが、何一つこの資本の攻勢手段に根本的に對抗し得る案策は數へられて居らぬ。總ては共產主義の政治上のイデオロギーの影響はあるが、組織的勢力の進展が見られぬ、と云ふて、それに對する術策が述べられてゐるに過ぎぬ。何故に、イギリスやドイツやフランスの勞働者階級の大部分が、資本に對抗する爲に共產黨の指導を仰がぬかの根本的理由に就ては毫も自己批判がなされて居らぬ。事實は勞働組合內部の問題では無く、勞働組合の經濟組織全般に對する政策に懸つてゐるのである。即ち勞働組合の產業政策なくして、カルテル、トラストの發展による產業の合理化などに對抗する方法は見出し得ぬのである。

この點に就て、共產黨と結果に於て同じく、その產業政策を持たぬものに、改良主義的勞働組合及び勞働黨がある。その最も極端なものは、先年英國に於る總同盟罷業に際して、完全にその黃色組合主義たることを示したハヴエロック・ウイルソンに率いられてゐる船員組合や炭坑組合聯合より脫したスペンサーに從へる一部の炭坑組合の如き、又ドイツ中央黨に屬する基督教勞働組合の如きがある。これらの勞資協調組合は、全く論外として之を除き、なほ一般勞働組合の支持を受けつゝ無產階級政黨にしても、改良主義的方策以外何等の產業政策を有たぬものが多い。最近に至るまで、英國勞働黨、獨逸社會民主黨、佛蘭西社會黨の如きも、大體に於て、改良主義的彌縫策以外何等の產業政策を有たなかつたのである、勿論是等の政黨が、社會主義を實現せんとする政黨であると言はれて來たからには、生產手段の社會化だとか、產業管理への勞働組合の參加だとか、種々な要求を陳列した綱領を有つてはゐる。社會主義と言へば、、、、、、、、、、、、、を意味する位に考へてゐる位であるから、そうした綱領は、立派な產業政策ではないか、と云ふ人があるならば、その意味に於てなら、承認することが出來る。それにも拘らず、これらの諸政黨を共產黨と結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

界に於て同じく、[illegible]政策が[illegible]なかつた、と云ふ所以は、[illegible]綱領が政策として役立ち得ないものであることに存する。眞に今日まで、彼等の實勢力を以て無産階級の解放と向上とに貢獻し來つたのは、社會政策的方面である。勿論このことは、これら第二インタアナショナル——今日では正確な名稱は社會及び勞働インタアナショナル——に屬する諸政黨が改良主義的イデオロギーに全く支配されてゐると云ふ批判を正しいとするものではない。これらの諸政黨の中には、そうした批評を正當に受容れねばならぬ分子の存することは事實である。然し、そうでない分子もある。而して、それら改良主義的イデオロギーに滿足しない、それによつては無産階級の解放の到底期し得ないことを自覺してゐる分子——英國勞働黨内の獨立勞働黨及び獨逸社會民主黨内の獨立社會黨分子等が、從來の産業國有案やギルド社會主義的産業管理案を以て、今日の事態に相應しない、時代遲れの政策であると認めてゐることは、我々の注意しなければならぬ所である。この意味に於て、その綱領に於ては舊式な社會主義的方策を掲げて置いて、實際行動に於ては社會政策的施設にのみ努力してゐる幹部的勞働黨及び社會黨には、未だ産業政策なしと言つても過言ではないのである。

然らば、我々の研究に値するものは、その實勢力から言つて未だ幹部派となり得ざるものではあるが、その方策の理論的内容が眞に産業政策の名に値するものを有ち、漸次に勞働大衆の支持を得つゝあるものでなければならぬ。即ち、理論的に見て、それが現代の高度資本主義の發展に相應し[illegible]る變革を可能ならしむる條件を具へてゐるものでなければならぬ。古き集産主義的社會主義が實行されたとしても、部分的な變化が生ずるだけで、大衆の生活を向上せしむるやうな經濟機構を可能ならしむるものでないことは、歐洲戰爭の結果として發生した種々の經驗によつて漸次に明白となつた。ロシアに於る産業の國有が經營困難であつて新經濟政策によつてその仕組を變更した事實、ドイツ革命の直後社會民主黨の社會化法案の失敗に歸した經驗、戰後に於るイギリスの工業不振の事實は、産業の生産組織のみに原因してゐるものでないことが理解されるに至つたこと等が、古き諸政策の役立たざることを教ゆると共に、新たなる方策を樹立するの必要を悟らしむるに至つたのである。そうして、これらの事實の因由は、總て、現在の資本制經濟の發展階段が、從來の諸政策の考案された場合に、未だはつきりと意識されなかつた金融資本主義的體系と帝國主義的世界爭覇なる事實の存在に發するのである。

然らば、この事實を最も明瞭に把握し、又理論的に基礎づけたものは、ロシアのマルキシストであるから、その政策に見るべきものがありやしないかとの質問が出よう。成程、レーニンは資本主義の最後の段階としての帝國主義なる概念的構成を試み、資本主義の沒落段階に入れることを說明した。而して、政治的方策として、この帝國主義的世界體系の連鎖を切斷することによつて、帝國主義的資本主義國への

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

打撃が與へられるといふ目安を置いた。そして、先づ、ロシア自身に於て、この連鎖が一部分絶ち切られた。この事實は、ドイツ共產黨の一理論家アレキサンダーによれば、全世界の六分の一の地域に於てプロレタリアートの獨裁が存續して居り、その覇權の下に全勞働大衆が根本的に新たなる法則、新たなる傾向並びに資本主義的諸國に於けるよりも異つた發展の猛闘を以て一社會を建設しつゝあると、云ふ事實である。更に又、支那に於る國民革命の進展が、この帝國主義的連鎖を弱める可能性あるものとして、いろ〳〵理窟がつけられ、實際にも助力が加へられた。所で、モスコウよりペキンを經て、更に今度はジユネーブへの道が開かれた。國際經濟會議や軍備縮小會議への參加はこの政治的方策の延長と見られよう。これらの諸行動が、どれだけ世界經濟の帝國主義網を切斷するに役立つたか、又役立つであらうかは、見る人の自由な判斷に委すとして、それらの諸方策が產業政策でないことは明かであり、帝國主義國における勞働者階級の運動をどれだけ有利なものに導いたかは全く疑問である。この外に、ロシアのマルキシストの有する、帝國主義への解放運動の政策のあることは、筆者は寡聞にして知らない。されば、これをしも充分な政策であり各國の勞働者階級殊に多年帝國主義的分け前に與つて來た熟練勞働者の支持を受けてゐる英、佛、獨の勞働諸政黨が採用するに足るものであると辯ずる者あらば、それは蓼食ふ蟲も好き〳〵であると云ふの外はない。筆者が茲に研究せんとする無產政黨の產業政策は、ロシアのマルキシストとは異つた社會的條件の下に、異れる理論の下に組み立てられてゐるものである。地球の大きさの何分の一の國であらうが、世界全人口の何割に當る國であらうが、それは問題でなく、そこに行はれてゐる政策やイデオロギーのみが研究の對象となるのである。その點からして、我國と客觀的條件の異るロシアのマルキシストや支那のコムミユニストに筆者は學ぶべきものを有たぬのである。

二　過去に於る無產政黨の經濟綱領は何故に現在に役立たぬか

獨逸社會民主黨のエアフルトの綱領の解說を書いた後、カウツキーは一九〇二年に『社會革命論』を公にした。それを更に補足したものとして見られるのが、一九〇九年の『權力への道』である。これらの文書は、當時の彼が修正派と鬪へる記錄であり、正統派マルキシストの經典として、今日の共產主義者がレーニンの文書に對するが如き取扱を受けたものである。當時彼はドイツの帝國主義樣相を如實に認識し、社會民主々義のみが之に對立し得るものであることを力說し、勞働組合に對しては總同盟罷業の武器を使用し得る力の自覺を認め、議會政黨に對しては、ブルヂョアとの聯合內閣を自殺的行爲として絶對に排斥したものであつた。それから十數年が經過した。その間に歐洲戰亂の大きな經驗が與へられた。そして、彼は一九二二年にゲーアリッツ綱領の解說的批判を出した。『プロレタリア革命とその綱領』がそれであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。この三十年を距てて出た二つの綱領に就て、彼は、その根本基調の相違は、時代の變化が齎らしたものであつて、論理的に然りしもので無いとし、ゲーアリッツ綱領の不備を前提として、寧ろエアフルト綱領の古き部分の修正とも見らるべき解說を試みたのである。エアフルト綱領の作者としてはさもあるべき事であるが、その如何なる部分が新しき事情に相應するものとして、新に加へられたか。それは凡そ三つの點が重大な變化と見られる。その第一は、產業の社會化のみを以てしては、勞働者階級の所得は增加せず、引いてその物質生活の向上は期し得ぬとする點である。このことは二つのことを意味する。一つは我々の物質生活を構成する諸要素の充足は、社會化された產業からの所得に據らずして、他の社會政策的施設の提供するものによつて間接に可能とされ得ると云ふことである。交通、衞生及び敎育等に關する公の施設の發達これである。即ち社會主義の立場より見たる社會政策の重要性である。他の一つは、生產手段の社會化が現在の產業組織の態樣に應じて、出來るだけ廣く擴大されねばならぬといふことである。故に、その社會化の形式は複雜なるものとなるが、それによつてのみ社會化された各個の產業が維持せられるのであつて、孤立した形式に於る社會化產業の維持は困難である。第二は農業に於る小經營の存續を容認し、それを社會化する方法に就て考案したることである。その場合最も困難なるは、消費形態としての家族と經營形態としての農場との分離を如何にして可能ならしむるか、である。なぜなら、小經營は多く消費農であるから、その職能を社會化せしむる爲には、その經營をして家族の消費より離して立つて行けるやうにしなければならぬ。これに對して、カウツキーの提唱する所は、國家管理の下にある組合組織であるが、これによつて都市の消費者階級の利益とも調節し得るものと考へてゐる。曾つて小農の一向らなる沒落を描いて、手工業のそれと同一視してゐたエアフルト綱領の場合と格段なる進步と言はねばならぬ。第三は、信用及び金融制度に關する意見を加へたことである。商業資本及び生產資本の統一的形態たる金融又は信用資本の職能に就ては、一九〇九年の頃ヒルファディングは既にその硏究を試み、やがて『金融資本論』なる大著を公にしたのであるが、銀行制度の社會化の方法に就いて論じたものは、獨墺の社會民主黨中の文書としては、一九一九年のオットウ・バウアーの『社會主義への道』を以て嚆矢とする。彼は、銀行の社會化なる現象の他の生產手段の社會化と異なる處は、信用賦與の機關即ち理事者の社會化を企れば足りる點にあるとなし、その理事者の新なる構成方法に就て暗示深い意見を述べてゐる。そうして、カウツキーは、バウアーの意見を受け銀行制度の國有を以て、產業の社會化の前提條件となしゐることは、寔に注意すべき事柄と言はねばならぬ。これ第一の點として述べたる產業社會化の所得政策としての不備に對すると共に、從來の集產主義的政策に對する顯著なる相違と言はねばならぬ。

然し乍ら、カウツキーの議論によつては、この政策上の變化が果し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て奈邊に胚胎し、その全幅の意味が如何なるものかを知るを得ない。獨逸社會民主黨の合同後一昨年ハイデルベルヒ會議に於て新なる綱領が起草された。この綱領の起草者として多くの役割を演じた者はヒルファデイングである。彼は、この新綱領の中に、從來の綱領に曾つて現れなかつた政策を執り入れた。それは金融資本の成立に伴ふ、國內市場に於るカルテル、トラストの獨占的傾向と國外市場に於る帝國主義的傾向との兩面的樣相を有する、最近に於る資本主義發展の認識と之に對する社會主義的案策である。即ちこの二つの傾向は一箇の事實に胚胎するものであつて、決して異れる二つの事實ではない。從つて、先に述べたる如く、ロシアのマルキシストがコムミンターンの政策として、この後者の傾向を政治的に打破することによつて、前者の破滅を齎らさんと企圖せし如く、ヒルファデイグは專ら之を國內問題として前者の傾向、經濟的に阻止せんと試みてゐるのである。即ち產業の社會化に就いては、單に個々の所有權そのものの移轉のみを問題とせず、その相互の企業組織を中心として、その企業の內部經營は勿論販賣市場の組織化に力點を置いたのである。而して、その產業系統の重心が、その資本構成の關係上、國內市場の開拓を目的とせず、一向に帝國主義的發展を遂げんとする重工業より、食糧品工業、化學工業等國內大衆の購買力に依據すべき工業に推移せんとする傾向を歡迎し、ここに勞働組合の賃銀政策の槓杆を求めんとしてゐるのである。筆者は、尙ほその具體的細目に就て知るを得ないけれど、ヒルファデイングの見解が、ともかくも一箇の理論的背景を有する筋道の取れる案策であることを思はざるを得ない。ドイツ共產黨の理論家達が、彼の政策を批評する場合に、その議論は多く、この根本問題に觸れぬ支葉末節に就て、徒に彼の議論が資本家擁護であると罵つてゐるに過ぎぬ。

カウツキーやヒルファデイングの意見を通して見たる獨逸社會民主黨の最近に於る產業政策の一傾向とその揆を一にし、然かもその着眼と內容とに於て一層獨創的であり且つ遙かに精微なるは、英國勞働黨の一分子たる獨立社會黨の『今日に於る社會主義』に現れたる產業政策である。資本主義の發祥の地として、資本主義制度の發展に就ても諸國に先んじてゐる英國に於て、その資本の構成狀態の發展よりして生じる失業者の增加、利潤率の低下を防がんとする賃銀の削減、及び各國產業の發達にある外國市場の喪失等、英國產業の生產力を維持發展せしめる消費力即ち大衆の購買力を減損する事實が、戰後に至つて發生し、漸く永久化せんとしつゝあるは怪むを須ひない所であらう。これが、何故であるかを說明する理論に容易に發見し得られる。しかし、それが對策は容易に樹立し得られない。ここに、獨立勞働黨の『今日に於る社會主義』の使命が存するのである。產業革命より大英帝國の建設に至るまで、英國ブルジョアジーの播きたる種は次第に成長して、今や彼等の手に統御し得ざるに至つた。これを刈り取らねばならぬ運命に立つたものが、英國プロレタリーアなのである。

しかも、英國のプロレタリーアが、今から三十五年前ブラッドフォ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ード市に於て、その第一回の年次大會を開いた時の勞働黨から、その經濟綱領として示されたものは、社會政策的建設の列擧の外『生產分配交易の集產化』といふ一項だけである。それが如何なることを意味するか、又如何にして行はれるものであるか、に就ては皆目詳細は論議されて居らなかつた。一九〇〇年勞働黨に加入し、之が設立分子となり、爾後次第に黨勢を擴張し、勞働黨の指導分子を多く自黨より出した。マクドナルド、スノーデンの如きその代表的人物であるが、何れも此の時代の思想の如何なるものであつたかを語る人々である。彼等は、或る特殊の問題又は方面に就て專門的に堪能であつても、その經濟政策の基調は集產主義を中心として、後年サンヂカリズムやギルドソシアリズムの影響を多少なりとも受けて、工場の經營、生產の統制等への民主的要求を加味したに止まる。斯くの如き思想の下に、歐洲戰爭を迎へ、又之を送つたのである。而して、その爲めに齎りたる激甚なる變化を思ひ合せたる時、勞働者階級の經濟狀態を改善するものとして、種々提案され來つたものが、今や悉皆空疎なものと化し終つた感が痛烈に經驗されたのである。そこで、一九一八年ライスターに開れたる第二十六回年次大會の際、新たなる事態に相應し、それらが、戰後長く持續すべきものなりや否やを考案したる上、いままで意識せられなかつた社會力を統制し得るやうな提案を作成し、新なる綱領と爲すべし、とする決議がなされた。その結果はどうであつたか。戰後に於て經驗したるデフレーションの事實、失業の增大等の現象を綜合的に團結し得る政府に與へられ、曾つては僅か數行の文字によつて言ひ表はされた經濟綱領が今日では數個のパンフレットによつて說明せられ、數冊の書物によつて敷衍せられるに至つたのである。寔に面目一新とはかくの如き場合に使用せらるべき形容詞であらう。

ブレルスフォードは、この新產業政策の建設と普及とに貢獻せる人であるが、その著『今日の爲の社會主義』（一九二五年）『政權への道』、『家族と所得』等の著書及びパンフレットを一瞥する人は、その政策の基調の何處に存するかを知つて、それが甚しく往時のそれと異なるものあるを悟るであらう。彼は生產手段の國有又は公有を以て依然として重要なる社會主義的政策であるとなしてゐるが、物價を支配する機構を統制し得ざる限り、我々が假令工場や農場を社會の手に移したとしても、現在の企業主がその工場や農場以外の外界の力に叩頭せねばならぬと同じやうな運命に逢着するであらう、となしてゐる。この事實を共に經驗した者として、此の點に想到するのは當然のことである。かくて、一連の次の如き政策が生じて來た。一般物價の安定を期する爲め、銀行信用の科學的管理、原料品、食糧品の長期契約に依る大量購買（國家の監督の下に於る產業組合）之れである。然し乍ら、物價の不安定より生ずる生產者及び消費者の困難は、之れによつて救へるとしても、市場の制限又は狹少より生ずる生產力の停頓は、如何ともするを得ない。大英帝國の科學的發展を以てするも、世界全體に於る帝國主義的分割の固定化は漸く英國工業品の市場に制限を與ふるに至つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た事實は否定することができない。これに對する對策は、生活賃銀制度又は家族所得政策の實施による大衆購買力の人爲的增加を以てする國内市場の開拓に在りとするのである。この場合に於ても銀行信用制度の役割は重要であり、通貨膨脹に伴ふ物價騰貴の抑制を如何にして實行し得るかが至難な問題となる。それは、生産の增加を確保することに依つて、インフレーションの事無きを得せしむるにある。ここに生産一般に亘る社會的管理又は統制の必要が生じ、重要なる産業の國有化が問題となるのである。即ち生産手段の社會化は、アプリオリ的な目的ではなくして、生産增加の手段に外ならぬ。從つて、その實行方法は金融市場、交換市場の國家統制の下に於る組織化の行はれたる後に行ふを寧ろ便宜とする場合が多いと云はねばならぬ。かくの如き見解と昔日の集産主義とを比較するならば、その差異の顯著なるに驚かざるを得ない。社會主義と言へば、何か固定したドグマであるかの如くに思ひこんでゐる人にとつては、かやうな變化の意味が理解せられないであらう。進んで、かやうな主張の含蓄する意味とその根據とする理論とに就て、今少しく論述して見よう。

三　新産業政策は如何なる理論的根據を有するか

歐洲戰後相重つて發生した諸事件は、一般の人心をして、自國産業の販路の制限、狹少、行詰を感ぜしめた。曰く、獨逸の賠償不拂問題、曰く各國に於る保護關稅、曰く中立市場の帝國主義的爭奪等の現象之れである。しかも、これらの現象は、詮じ詰めれば、各國に於る産業組織の生産力が充分に發揮せられると、その生産品の購買者の有效なる需要が存在してゐない、といふマルキシスト等に月並な生産力と生産關係との矛盾の一適例と見られるものに外ならぬ。早い話が、戰時中巨大な購買力を以て商品市場に立ち現れてゐた國家が休戰と共に忽然とその姿を市場より消したことなどは第一次に起つた現象である。それから戰時中懷の太つた中立諸國の需要もやがて消失して行つた。それが、外國からの需要が恢復することによつて、昔日のやうに注文が來れば問題でないが、そこには非常な變化が既に業に行はれてゐて、こちらの注文通りに行かなくなつたのである。さてこそ販路がなくなつたと云ふ叫びが何人の口にも上るやうになつて、勞働者階級も、この現象に對しては、如何に勞働組合の團結力を以てしても、如何ともすべからざることが分明となつたのである。これは、多かれ少かれ米國を除く各國産業の經驗した所であつた。そうして、この事態に對抗するものとして、前記の英國獨立勞働黨の産業政策の如きが生れたのである。之を周期的現象としての景氣循環の結果とするも、將又之に戰後特有の諸原因が加つてゐるとするも、それが資本制經濟に內在する機構的現象である限り、この現象の統制又は除去の方策を實現することが、とりも直さず資本主義の止揚であることが、實在そのものの發展によつて敎へられたのである。反對に、この現象の發生し來る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

淵源に觸れざる過去の一切の社會主義方策は、資本主義の根幹を絶ち得ざるものなることが判明したのである。

然らば、この消費の不足(under-consumption)なる現象は如何にして發生するか。之に對し、ホブソンは『失業經濟論』(一九二二年)に於て、二つの事情を原因として擧げてゐる。その一は、人間の消費なる習性的行爲を生産といふ機械的行爲と比照し、その進歩の速度に相違のあることである。その二は、現存秩序に於る所得の分配狀態がこの消費の保守性を一層強めることである。消費の保守性といふことは、現代の資本制機械生産の發生以前に於ては、社會進歩の維持者であり、貯蓄は生産資本の唯一の出處であつて、倫理的にも根據のある事實があつた。然るに今やそれが社會進歩と矛盾する現象となつたのである。から言へは今日のやうに不景氣時代に於て、消費の節約又は貯蓄の奬勵といふことが善いこととして認められてゐることに反對することになりやしないか、との疑問が出るであらう。これに就ては、ホブソンも言つてゐるやうに、現在の不景氣そのものを齎らした原因として、之を數へてゐるのであつて、現在のやうな不景氣に於て、これが有つ作用のことを言つてゐるのではない。このことは、他の一つの事情に就て語れば判明するであらう。即ち、現存秩序に於る分配の、、、の結果、大なる所得は多く、消費物の購買にあてられずに、資本として工場の機械やその他の設備やに固定せしめられる。そうして、資本構成の狀態が變化する。ここに貯蓄の景氣循環に及ぼす著大な影響が存するのである。勿論注意しなければならぬことは、所得の資本化といふこと又は資本の蓄積といふことが絶對的に景氣循環の原因であるといふのではない。それは、いつも消費に投ぜられる部分との相對的平衡が保れる限りに於て、それは生産の進歩への要素となるものであるが、その平衡を破る時に、生産の停頓への原因として作用し出すのである。こゝに貯蓄現象の經濟作用を媒介するのみならず、更に自己の能動的作用を以て、景氣循環の一要素なる銀行信用に言及する必要があらう。この點に就ては、理論的な研究が多いから、ここに多言を要しないが、銀行資本が好景氣時に於て、工業家や投機者流に柔順な從僕であるに反して、不景氣時に入ると、强硬な主人となる、といふ說明がその一斑の事情を物語つてゐるやうに、それは確かにこの循環を激成する一原因である。

ここに於てか、資本制經濟の發展の現階段に相應する產業政策の核心は如何にして大衆の購買力を增大せしむることを得るか、而してその購買力をして生産の動因たらしむる爲め物價に變動を與ふることなく、その效力を發揮せしむるを得るか、此の二點に存することが判明した。從つて、この見地よりする時、賃銀削減による生産費の低下策が如何に愚擧であるか、假令それによつて物價の下落を來さんとするもそれによつて勞働大衆の購買力を奪ふならば、利するものは金利所得者のみであつて、かやうな少數の不勞所得階級の懷中を肥やすことは、生産の逢着せる困難を打開するものではない。然し、これらの誤れる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

政策が、本氣に企業家及びそれを支持する政府によつて遂行せられる眞の動機は、大衆の構成する國内市場を問題とせるものでなく、實は外國市場に於る競爭に堪えんとするに在る。かくて、帝國主義的政策が資本主義にとつて唯一の活路となる。即ち自國に貧乏を生産しながら、外國に富を求めよう、とするのである。しかも、帝國主義國は一國ではない。又、中立市場は漸次に消滅し、今日に於ては、多かれ少かれ、何れかの國に分割されてゐるか、又は勢力範圍とされてゐる。ここに於て、各帝國主義國家の相互的自殺行爲が行はれることになり、資本主義は沒落の課程に入らざるを得ない。然しながら、資本主義の沒落に於て最も困難と災厄に逢ふものは、個人的生活の見地からすれば、それは資本家階級と言はんより寧ろ勞働者階級である。前者にとつては、利潤率の問題であるが、後者にとつては生活程度の問題である。ここに於て、かやうな事態を必然的推移に委せて置くわけには行かず、これが變革を企圖する社會運動の産業政策が發生するのである。

然らば、如何にして、第一に、勞働大衆の購買力を增進せしむべきか。獨立勞働黨の生活賃銀政策はこれが對策である。これは、社會主義的計畫の下に於ける消費者信用である。それは、直接賃銀所得の增加を企圖する積極的方面と社會政策的施設を通して生活費用の支出を削減する消極的方面とがある。最近『國債及び稅制に關する委員會』に於て少數者報告を出した勞働黨委員が、特別所得稅の徵課額の一定以上を減債基金に繰入れることに反對し、寧しろ社會政策的施設に投ずることを主張した根據は、かくして金利所得者の利益を企らんとする保守黨委員の企圖を打破し、勞働大衆の購買力の削減を防止せんとしたものである。即ち、ここに謂ふ消極的方面の政策の一發露である。この積極的方面の實際方法に就ては、モズレー一派の所謂バーミンガム派の研究と宣傳とがあるが、それによればそは二方面に分れる。その一は、産業の國家管理であつて、その中心機關として經濟委員會が強大な權限が與へられる。この機關を通して、その管理下にある産業に信用が與へられる。と同時に、勞働者に一定の生活賃銀が賦與せられることによつて購買力を增加せしめ、かくして發生した購買力に刺戟せられて生産の增加を確保せんとするのが、この委員會の任務の大綱である。その二は、失業者の救濟の爲に、その失へる購買力を恢復せしむる爲に、職業紹介所又は郵便局を通して、給與金の額を增加せんとする方策である。その詳細なる行政上の細目に就ては、ここに述ぶる必要はあるまい。

次に第二の問題として、購買力の增加に伴ふ物價騰貴を如何にして抑止し得るか。これに就ては、前記經濟委員會の任務として需要の調節、即ち生産の伴はざる需要を抑止する職能が與へられてゐる。然し乍ら、それ丈けでは不充分である。その外に考ふべきは、今日何れの國に於ても實行されてゐる財貨の買上又は實物によつて價格を統制せんとするは政策又は機關の社會主義的管理である。即ち、この機關を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

指定間商人や中間仲買の利益の爲めに利用せられないやう消費組合を利用するのである。又逆に需要の存在の見込立たざる場合に、企業者に信用を賦與して生產を確保せしむる方法も改善されねばならぬ。今日の輸出奬勵金制度の如きを內地向生產にも一般的に利用することである。又、この場合に重大な關係のあるのは、外國からの輸入品である。即ち、外國貿易制度に就ての方策であるが、これは爲替制度並びに輸入業者制度の二方面から研究せられねばならぬ。即ち金本位制度の改革と國際貿易產業組合の設置を以て之れにあててゐる。

各個の提案に就ての研究は、他日に讓るとして、今からした一連の提案を一箇の有機的關係に結合して、今日の帝國主義的金融資本主義に於ける社會運動の持つべき產業政策として次第に大衆の支持を得つつあることを我々は認めねばならぬ。この一方途が、普遍的なものとなるや否やは、未だ今日のところ斷言し得ないが、我々に示唆する所が甚だ多い。がしかし、いま、卒然として、かやうな問題を、現今の日本社會に提議するならば、その結果は容易に知られる。日本の產業社會は、極度の不景氣に沈淪してゐる。ここに問題とせる如き政策方針は、或は好景氣の場合には人も耳を藉すであらうが、今日では全くその餘裕がない。又そういふ氣分になつてゐない。しかも、そのことが、今日の不景氣を招來したものであることには氣がつかないでゐるのである。又日本の社會運動も全くセクト的感情に捕はれ、勞働大衆一般の問題を共通に考へる餘地を殘してゐない。又實際制度や政策に就いては、政黨の戰術的立場を離れて共同的に思索し考究する餘地に全く缺けてゐる。

然し乍ら、ここに起り易い反對論の一つ二つに就て豫め一言して置かう。その一は、帝國主義の打破は對內關係の諸政策によつてのみ可能となり得ないであらう、といふ議論である。それは云ふまでもない。ただ、筆者の云はんと欲する所は、帝國主義が對內的原因を有する限りにおいて、それの打破はコウミンターンの政治政策の如きによつてのみ可能とされるものでないと云ふにある。他の反對論は、外國貿易の重要性は勞働者階級にとつても考へられねばならぬ、對內市場の開拓にも限度があらう、と云ふ議論である勿論これも正しい。ただ筆者の展開した趣旨は決して外國貿易を無視したものではない。我國の自然的、技術的、及び社會的條件に叶つた、いはゆる主要產業、例へば生絲、紡織その他の外國貿易奬勵はいかなる時代にも重要性を失はぬであらう。問題となるのは、國內に貧乏を發生せしむることによつてのみ可能とされる帝國主義的海外侵略である。海外發展の美名の下にかゝる產業が助成されて居らぬか。勞働者階級は、活眼を開いて自己の產業政策を樹立せねばならぬ。

かくて、筆者は、本文に論述せるが如き趣旨が日本の社會の何れの方面にも容易に受け入れられぬことを信じつゝも、敢て自らの必要なりと考ふる所を紹介する所以のものは、やがては日本に於ても斯種の立場よりの議論の生じ來ることを希望するが爲めである。（十二月一日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人類發達の過去と未來

駒井卓

一

「改造」の讀者に今更進化論の講釋も古いであらう。人類が他の動物と共同の先祖から起つたものであると云ふ事は中等教育を終つた日本人には誰一人知らぬものはなからう。此點では日本人は米國人たどよりよほど進んでをると云はなければならぬ。米國では此明かな事實を中等學校で教へる事を法律で禁じてをる州が五つ位もあり、紐育の公會堂で此問題に就ての大討論會が開かれたりする現狀である。日本では仕合せな事にかやうな事實を素直に受入れるのに邪魔になるやうな先入主がなかつたのと、先輩の學者たちの努力の御蔭で今のやうになつたのは喜ばしい事である。

何と云つても進化論を以て人間自身の尊嚴に對する許すべからざる侮辱だ等と憤慨して見た處で、其當人が燕尾服の尾の分れてをるあたり皮一重下にチヤンと尻尾を隱してゐるのだから致方がない。體一面にいくら玉の肌でも凝脂でも薄い乍ら毛が生えて居る以上犬や猫を毛物と呼ぶのも遠慮しなければなるまい。耳を見れば外側の緣の折れ返つた處の上の部分に一寸とび出た處がある人があるが、良くしらべて見ると、それが狐などの尖つた耳の先きと同じものであつたりする。又其耳の下の皮をめくれば馬と同じやうに前や後へピクピク動かせるべき筋肉が殘つて居たり、眼の中には其内側に沿うて獸や鳥にある瞬膜の殘りが立派に保存されて居たりする。絹の手袋や靴下で蔽うてをる手足の指の先にある渦卷きは樹の枝を握るときに滑らぬためだ等云はれる。まして未だ母の胎を出ないうち、宿つてから一個月目か二個月目のとき等は、人の子でも犬の子か豚の子かまるで見別けがつかない。

又獸類の中では猿が一番人に近い事はこれも昔から人の云ふ通りである。猿は獸類の中で樹の上の生活に適した者である。それで手足は枝を握るやうに出來てゐるし、爪は扁くて割合に眞直である。それから他の獸に比べると頭が大きく眼が前を向き、顏の中で口の部分がひつ込んで居る。人類の後脚は體の重みを支へる事專門になつてをるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で物を握る事は出來なくなつてをる。此點だけに少し違ふが其他の點では人類は動物分類學上の猿類の特徴を完全に具へて無論猿類の中に入れられねばならぬやうになつてをる。

又猿類の中には多くの種族があるが、其中でスマトラとボルネオに居る猩々即ちオランダ、アフリカに居るゴリラとチムパンジー、東インドからボルネオ、スマトラ、ジヤバに棲む手長猿即ちギボンとこれだけの動物學上で云ふ類人猿類は猿によくある尻のタコがない（手長猿だけには小さなのがあるが）、それから尾がなく、食物の食ひ溜めをする頰袋も無く、歩く時には他の猿のやうに足の爪先だけを地に附けずに足の裏全部を附ける。腦が大に發達し從つて頭が大きく顙が廣くなつてをる。此等の點では人間も彼等と全く共通であつて、人類だけを彼等の中から離して別物にして置くべき理由は更に無い。

ハクスレーは今から六十年餘前に其「自然に於ける人類の地位」の中で

「下等の猿類とゴリラとの違ひはゴリラと人類との違ひより甚しい」

と云つた。これを後の人が「ハクスレーの人猿異同の法則」と云ふやうに名づけた。之は主に解剖の上から云つた事であるが、今ではこれを生理の上からも云ふ事が出來るやうになつた。

其一つは血清反應の法によるのであつて、即ち人の血を兎に注射し、一週間程たつてから其兎の血を取つて其中から血清を分離し、之を試驗管の中で種々の動物の血に混ぜ合せて見るのである。さうすると其動物と人間との血緣（文字通り血緣）の程度が良く分る。例へばかやうな血清を人の血と混ぜると著しい沈澱が起るが、犬や猫の血ではまるで之が起らない。猿だと多少起るが、其中でも人間に一番遠いとなつてをるキツネザルでは或は全く沈澱が起らず或は極僅かに起る。南米等の所謂廣鼻類に屬する猿であると弱い反應が見られ、東半球のアジアやアフリカの猿だと稍強く出る。終に前云つた類人猿の血だと人間の血と殆んど變らぬ位に著しい沈澱が起るのである。これは頗る明瞭な又精密な人類と獸類殊に猿類の種々の類との類緣の程度を知る方法である。

今一つ同じ血の事に就て分つてをる事は所謂凝集反應であつて、即ち人類は人種老幼男女等の別なく血の種類によつて四通りに分けられる。例へば甲の人の血を取つて血清を分離しそれを乙の人の血と混ぜて見ると、時として其血の中の血球を凝集させる事がある。

此反應は類人猿の血でも起り居るものであるが、下等の獸類には全くそれがない。

それから黴毒の病原を猿に移植して見ると、チムパンジーは最も激しく冒され、オラングは之より弱く、たゞの猿は僅かに害を受けるだけである。之等の事は皆人類と高等猿類と如何に近緣であるかと云ふ事を示すものである。

かやうにして人類は哺乳類の中の猿類に屬し、しかも猩々ゴリラ等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の高等猿類と極めて近緣の者であると云ふ事が解剖上又生理上動かす事の出來ぬ事が證明せられた。此頃の新聞電報によると或ロシアの學者が人間の精子を以てチムパンジー(?)に受胎せしめて人とチムパンジーの合ひの子を造らうと計畫してをると云ふ事が出て居たが、適當な方法さへ用ゐれば或程度の成效は決して覺束ないと云ふ事は出來ない。

二

かやうに人類と猿類と似た處があり、又猿類から、地層時代から云へばほんの此頃進化し、なほ猿類時代の名殘を其體に多く殘してゐるに拘らず、今日吾等の眼前に見る人類の狀態は云ふまでもなく猿類と非常な相違である。動物學上から冷かに見ても僅かに一種類の動物でこれほど地球上にのさばつたものは動物と云ふものの此世に現れて以來確かに始めてである。勿論量から云へば或種類の單細胞動物とか昆蟲とか海の中の浮游生物とかには人類と比べものにならぬ程の大量になつたものはあるであらう。然し氣候及天然の障碍を破つて地球上南北極地方を除く至る處に分布し、且天然力及天然物を利用する事とてもビーヴァー等の比でなく、又多くの動植物を自分の都合で減したり利用したりする事は動物界中僅かに蟻等に其匹儔を求める事が出來るばかりである。裸にしてほり込めば英佛海峽が渡れるか渡れない位だのに船と云ふものを造つて、醉ひ乍らでも大洋を渡り、此頃は先祖以來の空想を實現して鳥の眞似をして空を飛ぶ事も覺束ない乍ら出來るやうになつた。其上生存競爭の必要を乘越えて美術とか文學とか哲學とか云ふものを發明し彼等の所謂文化を樂しむやうな事もするやうになつてをる。

かくの如く人類の生活と他の動物の生活とを比べて見た時、其一番近い親類の猿類の生活と比べても所謂雲泥の違ひを生ずるやうになつた原因はどこにあるかと云ふ事を尋ねて見ると、ヘノスレーの人猿異同の法則が眞であるに拘らず、やはり人類と彼等との體にある差異を求めなければならぬ。そして其第一は腦の發達の程度の差である。

一體腦の發達は人類ばかりでなく哺乳類全體が他の動物に優れた點であつて、哺乳類の旺んになつて爬蟲類を生存競爭で破る事の出來たのは此腦の發達と其體溫調節作用の御蔭であると考へられる。其哺乳類の中に色々の者が生じたが、其中水に入つた鯨等は水中の生活に適した魚の如くに體してしまひ、又空中に飛び上つた蝙蝠等は鳥まがひの體になつてしまつた。陸上を走るもので割合に柔い處に適した類は駱駝とか牛とか云ふやうに二本又は四本の指を地につけて歩くやうになつたが、堅い乾た地の上を疾く走るものは中指の先だけを地につける馬となつた。或は生きた大きな者を殺して喰ふためには鋭い爪と鋭い齒を得た獅子や猫が出來た。

又此等種々の獸類の中に樹に登つた者もあつた。其中でも全然樹の上の生活專門になつた者はたゞ枝にブラ下つた切りで誤つて地に落ち

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうものなら動きもとれぬ樹獺になつたが、樹に登つても時々地の上にも下りる願猴式の猿は第一手足が鰭や翼になつたり蹄や鉤爪に包まれたりしなくて、一番舊式の五本指のまゝで、地を歩く事も枝を握る事も果の皮を剝ぐ事も出來る最も原始的の狀態に止まつた。

猿類がかく樹に登つた御蔭で其手は將來精密な技巧に適する人間の手に發達する事が出來たのであるが、更に樹に登つた事が偉大なる將來を彼等の前に展開したのであつた。其理由はかうである。先づ樹の上の生活は大に感覺器官の發達を要求し、從つて人の發達を促し、終に人類を生ずる機會を造つたのである。

先づ樹の上の生活が何故に感覺器官の發達を要求するかと云ふに、即ち地にくつついて居る間は鼻が一番大切な感覺器官である。地上の動物では食物を探すにも敵の近づいたのを知るにも異性の所在を見出すのも先づ第一に嗅覺による。それが樹に登るとなると、鼻よりは眼を多く用ゐねばならぬやうになる。樹の上では眼界が廣くなる。臭を嗅ぎ分ける力よりも遠目の利く利かぬが生存競爭に大切な役目をするやうになつた。だから鼻が退化して眼が發達した。すると自然に顏の形が變つて猿式になるのである。兎に似たムササビやモモンガ等でも前に云つた樹獺（ナマケモノ）でもカウモリザルと云ふものでも又カンガルーの類で樹の上に居るコアラでも皆そうで、顏が短く眼が大きくて猿に似た顏をしてをる。それから樹の上の生活は自ら聽覺にも影響し、又枝を握るため手足の觸覺も發達する。同時に體全體の筋肉が良く調整的に働いて運動が輕快にならなければならない。かくの如き感覺器官の發達及筋肉の調整的に働く事の要求は自ら腦の發達を要求する。かくして猿類は總ての哺乳類の中に於て最も腦の發達した分り易く云へば利巧な動物になつたのである。

かやうにして腦の發達が感覺器官の發達と密接な關係がある事は、例へば今エリオット・スミス教授等の唱へる處である。此說明によれば進化論で動物一代の器官の用不用が子孫に遺傳すると云ふラマルク主義を認めなければならぬやうである。處がラマルク主義には今之を信ずべき充分な根據がないから此點で此說は不完全なやうであるが、とにかくかやうな變化が起つた手續の眞の事は理解がむつかしいとしても、樹上の生活と感覺器官の發達と又腦の發達と密接な交涉のある事は認めてよさそうである。

三

此猿の仲間の中で體が大きく又腦の發達したものが次第に樹上の生活から遠ざかつて再び地上の生活に親しむやうになつた。それが人類及類人猿類の祖先となつた。體の大きくなつた事は地上の生活をなすやうになつた事と關係があるであらう。それで類人猿の中で體の最も大きなゴリラは一番多く地上に棲み小さな猩々は殆んど全く樹の上ばかりに居る。

地上に下るやうになるに從つて前肢と後肢との分業が出來るやうに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なつて來た。そこで後肢は專ら體重を支へ又歩行に專門になり、前肢は餌を取つたり等する事ばかりに用ゐられるやうになつた。分り易く云へば手は體を支持する事から解放せられて空いて來たのである。類人猿では多くの場合は地上を歩く時には後足で體を支へ前足の指の外側を輕く地につけてにじり乍ら歩く。時々後足で立ち上る事はあるが先づ歩きかけの子供位の程度でよちよちした恰好である。處が人類になつて始めて完全に後足で立ち上る事に成功したのである。

人類が後足で完全に立ち上るやうになつて體に種々の變化が起つた。先づ足が手に比べて長くなり且强くなつた。類人猿では盡く腕の方が脚より長い。又足の指が短く且拇指が他の指と向き合はずして並ぶやうになつた。それから骨盤が發達して大きく强くなつたし、又脊骨が弓形であつたのが波形にSの字を二つつないだやうな形になつた。かやうにしてスフキンクスの謎にある通り四本足から發達した二本足の新動物の人類が出來上つたのである。

此人類の誕生はダーウヰンは恐らくアフリカで起つたらうと云つた。アフリカに現にゴリラやチムパンジーが生きて居り、又化石の類人猿の骨が幾種も發見せられたのが此説の根據である。然し他にアジアの中央の邊りではなかつたかと云ふ推定もある。紐育の自然博物館長オスボーン等は北アジヤ説であるので此頃前後三四回も探檢隊をゴビの沙漠に送つたのである。然し今迄の處では未だ確かな人類發祥の地をつき止めるところには至らないが、此探檢の成果には大きな興味と期待を持つて見て居る價値がある。

人類が樹上から下りて地上の生活に入ると共に其腦はずんずん發達していつた。一寸考へると樹の上の生活が腦の發達を促したのなら、樹から下りたら又腦が退化し眼も耳も退化し反對に鼻が發達するやうな事はなからうかと云ふやうな疑問が起り得る。然し一般に生物の進化は可逆的ではないのでつまり同じ道を後戻りする事はないやうである。却つて其反對に或器官が一度或方向に進化し始めると其方向に極端まで往つてしまつて終には其動物に有害だと思はれる程度迄發達すると云ふやうな事もある。例へば已に絶滅した虎の類の非常に大きな牙やマンモスの長い彎いた牙や、鹿の類の馬鹿に大きな角等は此種の例であると云はれる。人類の腦がかやうに著しい發達を遂げたのもやはり此類であるかも知れない。さうでなくても新しい身體の位置のために手を用ゐて細かな仕事をしたりする事等は腦を發達させるのに何程かの動機となつたかと思はれる。

かやうにして人類の腦は地に下りてからでも益々發達していつた。此事は今絶滅して化石となつて見出される所謂「ネアンデルタール人類」や「猿人」と稱へられる猿と人との間の者と推定せられる化石の頭蓋の内腔を計つて、之を今の種々の人種のと比べて見るとよく分るのである。例へば「猿人」のは凡八五〇立方センチ、「ネアンデルタール人類」は一二三〇、濠洲土人は一一八〇乃至一三五〇位、支那人は一四〇〇位ステーデン人は一五〇〇位である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又腦其者の重さは化石の人類では勿論分らないから今生きてをる者に比べる外はないが男に就て云へば濠洲土人一二〇〇グラム位、アフリ、黒人一二〇〇——一三〇〇、ドイツ人一四〇〇、イギリス人及スコツトランド人一四三〇グラム位であると云ふ。そして之を類人猿に比べるにゴリラは四二〇グラム、チンパンジーも猩々もやはり四〇〇グラムであつて、最も體の大きなゴリラさへ最も腦量の小さな濠洲土人の三分の一位に過ぎない。即ち腦の大きさから云へば人類の腦は其最も近縁の類人猿に比べても非常な著しい違ひになつた。

四

腦の大きさの發達と共に云ふ迄もなく其内部の細かな構造が精緻になり且作用が發達した。殊に人類の腦は所謂大腦の皮質部の量が特に多くなつたのであるため猿等と比較にならぬ程の作用上の相違が起るやうになつた。

此相違を分り易く云へば動物では其心の働きが本能によつて行はれる分量が多い。極めて複雜な又自然に叶つたやうな行ひでも皆そうである。例へば昆蟲等には生殖育兒に關係した事で隨分複雜な一見すると明かな意圖があつてする事と思はれる事をするものが多くあるが皆本能によつてする。鳥や獸でも大體昆蟲と同じ事であつて、即ち子を産むと鳥ならば餌を取つて與へ、獸ならば乳を哺ませて育て、又敵から保護するし、子供の方では其乳を飲み空腹になれば鳴き敵が近づけば親の腹の下に隠れる等、皆本能である。本能とはかやうに動物に生れ乍らに具はつてをるもので一度も經驗した事もなく教へられもせぬに可なり複雜な目的に叶つた事をなし得るものである。

人間にも此本能が可なりに發達して居る。殊に生れたばかりの赤ん坊が無事に育つてゆくのは全く此本能の御蔭であり、又母親が子を大切にして育てるのも大體此本能の力による。

本能はかやうに不思議な力のあるもので普通の場合には其教へる通りに従つてゆけば大體間違はないのであるが、本能に足りない處は變通自在の妙を缺いてをる點である。例へば母親が脚氣になつて居る時も、本能によればやはり子供に乳を飲ませ子供も乳を飲みたがるが、元よりよくない結果となる。ノルウエー等に居るレミングと云ふ野鼠に似たやうな動物は大群をなして移住をする習性がある。其途中に池や湖があればどんどん游いで渡るが、同じ流儀で海岸に來ても平氣で其中に跳び込んで游ぐ中に疲れて大群が残らず死ぬ事があると云ふ。

かやうに本能にばかり頼り過ぎて居ると、少し當り前と違つた場合に出會はすと、普通の應用が利かないから甚しい間違を起すのである。

そこで若し其動物が過去に得た經驗を利用しそれを記憶から呼び起して變つた場合にも間に合はせる事が出來れば本能に頼るよりに一層其動物に取つては有効である。かやうな力を智能と云つてをるが、之は下等動物には先づ全くない能力で、高等動物に固有のものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかもそれは明かに腦の發達に伴つて發達する能力で、哺乳類になると稍顯著に見え殊に類人猿には可なりに發達してをる。

類人猿の心理に就ては元は僅に旅行者の談話とか、見せ物に連れて歩かれてをるものの不用意な實驗位しかなかつた者で詳しい事は更に分らなかつたものである。處が世界大戰前頃から米獨露等の專門の動物心理學が特に熱帶地方に實驗所を設けたりして、非常な苦心をして動物を馴らし、又綿密な注意をしてなるべく誤の起らないやうに工夫した方法を用ゐて種々の實驗をやつた。今日では其結果の大分出版されたものが出來て稍確かな事が知れて來た。今是等の事を一々丁寧に紹介する事も出來ぬが、要するに此等の類人猿の精神生活には人類の精神生活によほど似てをると云ふ事である。たゞ發達の程度が著しく違ふだけで先づ手取早く云へば人間の三つ四つの子供のやうな精神生活であると見ればよい。即ち心理學上で謂ゆる觀念を造る事も出來るらしく、又人間にある推理の力の萠芽も彼等に見られるとの事である。又喜び怒り悲み嫉み等の情性も可なり良く發達して居るし物や人に對して同情を示す事もあれば嫌惡の情を現はす事もする。或人は類人猿の精神生活は人間のと其知能の點よりも却つて此等情性の方で良く似てをるのではなからうかと云つてをる位である。

然しいくら類人猿の心が人類と似た處があるからと云つて其發達の程度の相違は無論甚しいものである。彼等に比べると人類には所謂意識が明かになり又抽象推理の能力が著しく發達して居て、之が物事の原因を探り結果を豫想する事を得しめる力となつた。今日の文化の發達の原因である科學は人類のかやうな能力を基として起つたものである事は多く云ふ必要もない。

五

尙腦の著しき發達と共に人類の進化に大きな原因となつたのは屢々云はれる通り其道具を使用するやうになつた事である。類人猿にも或目的のために或道具を使ふ事がある。手の屆かぬ處にある食物を取るのには棒のやうな物を使つたり、踏臺を引寄せてその上に登つたりする。かやうな事は他の種類の獸には無い事である。人類では此事が頗る發達してそれが今日見る文化の重要な原因となつた。

人間に此道具を完全に使ふやうになつた事は其枝を握つて居た手が體の重みを支へる事から解放されたからである。それから又其手が腦の發達と關連してそれが細かな又巧みな仕事が出來るやうになつたからである。之には又一方から云つて眼の働きが精巧になり動眼筋の作用によつてたやすく必要な物に視點を集める事が出來るやうになり、網膜には黃斑と云ふ者が發達した事とも關係してをる。そして物の形大さ色等の區別が明に分るやうになつた。それも勿論腦の發達を待つて始めて出來た事である。

人類は此道具の使用をする事によつて其肉體のあらゆる限界を超える事が出來るやうになり、如何なる動物よりも遠く又細かく觀聽き、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

良く感じ良く食ひ良く消化し、又困難な外界に適應して地球上に最も廣く分布するやうになつたのである。

それから今一つ人類を今日の狀態にしたのは其團體生活が大に與つてをる。團體生活をなすものは動物にも甚だ多い。獸類にも多くなる。團體生活には云ふ迄もなく敵から自分を守り又一匹だけではとても敵はぬやうな動物を協力すれば捕つて食ふ事も出來ると云ふやうな利益がある。此團體生活が人類では非常に發達してをる。

一體類人猿にはあまり團體生活が發達して居ないもので、猩々は一匹づゝ別に棲みチムパンジーは雄雌二匹と子供とよりなる一家族が團體をなしてをる。ゴリラは一夫多妻で一匹の雄に數匹の雌が附き之に子供が一處に居る。それが人類になると數十百萬が一つの團體を造り、而も其中に種々の分業を生じ階級を生じてをる。

此人類の團體生活も亦云ふ迄もなく其腦の發達を俟つて今日のやうになつたものである。殊に言語の發達は此團體生活の發達に最も大きな動機になつたに相違ない。

猿の言語を研究した人は昔から多くある。此頃も前に云つた類人猿に就て言語の發達程度を研究してをる人があるが、要するに猿には言語は先づ無いと云つてよいやうである。唯喜怒等の際に或音を發する事は極めて多いがこれはたゞ感情の發表だけであつて、或物又は或事を代表する言語と云ふものは全く彼等にない。之は其精神生活の程度から考へると寧ろ驚くべき事である。

處が或人の說によると類人猿に言語がないのは彼等に思想がないからではなく發表の法を知らぬためである。即ち彼等に語學の才のないためであると云ふ。彼等が若し鸚鵡等の如く物の音や人の聲をまねる習性があつたら言語も少しは發達したであらう。それだからチムパンジーか猩々に聾啞にするやうに手まねで其心を發表する事を敎へたら事によつたら成効するかも知れぬと云つてをる。

人類は幸にして彼等より語學の才があつたと見え言語が發達した。之も全く腦の偉大な發達の賜で、腦にある言語の中樞が喉や口腔や唇を精巧微妙に動かせて種々の音を發せしめ、それに種々の意味を持たせかくして言語が出來た。人類は此言語を用ゐて自由に又正確に他の同類に意見や感情を傳へる事が出來、更に進んで未だ生れぬ仲間にもそれを傳へるやうになつた。

此個體の意志なり感情なりを大勢の者に正確に傳へる事は、團體生活に極めて大切な條件である。されば人類に於ける社會生活の發達は此言語の發達に負ふ處が甚だ多い。更に言語並に之に密接な關係を持つて起つた文字の發達は個人の經驗を皆の者が利用する事を可能にした。而も此事は個體の生命を超越して代から代へと亘つてゆく事が出來た。か樣にして彼等の仲間の最も大切な共有物として智識の集積が出來引いて學問とか文化とかの發達を見るやうになつたのである。

此團體は共有の經驗智識の集積が出來るやうになつた事は人類の發達上非常に著しい事で、他の動物には全くない事である。種々の獸類

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

殊に猿等には他の者のする事をよくまねる。そして他の者の經驗を利用する事がいくらか出來るわけであるが、其經驗が蓄積されて團體共有のものになる等云ふ程度には中々發達して居ない。

處が人類にこれが出來た。これは結果に於て丁度ラマルク主義の人の云ふ個體に受けた變化が子孫に遺傳すると同じやうな事になつた。即ち智力其者は別に進歩せずとも之に代る智識力があるによつて智力が進んだと同じやうな結果になつたのである。そして此事の多く出來た民族は謂ゆる文明人となつて榮え、僅かしか出來なかつたものは滅亡し又は野蠻人として僅かに殘つた。文明人と野蠻人とを一人づゝ比べて見る時、平均して其體は云ふ迄もなく智力にしてもそれほど違ふものでない。處が其持つてをる智識の量はとても比べものにならぬから、彼等が爭へば勝敗は譯なく定つてしまふのである。故に人類の發達を考へるには此智識の蓄積と云ふ事が非常な意義を持つてをる事を認ねばならぬ。

要するに人類は今より數十萬年の昔始めて其永い間の故郷たる樹を棄てゝ地上に降つた。そして其腦の異常な發達により優秀な智力を得、體を支へる事から解放された手を用ゐて道具を造り之を利用する事を始め、且言語の發達した御蔭で團體生活が大に發達し、又智識を蓄積する事が出來、他の生存競爭に成効して今日のやうになつた者であらう。

かく人類の發達は其言語による處が甚だ多い。それで言語の發達は道具の利用と同じく人類の文化の重大な動機になつたと云ふ事を考へなければならぬ。

六

そこで人類の將來の問題になる、

元より誰にも將來の事は分らぬ。今直ぐにも地球が戸惑ひして來た彗星のやうなものと衝突して粉微塵になるかも知れぬ。或は地軸の變動等で海陸の分布や氣候の寒熱が一變して人類も多くの生物と共に滅びるかも知れぬ。又先年の流行性感冒のもつとづつと惡性のものが流行して世の人類を一掃せぬとも限らない。

然しかやうな事が假に普いとして地球の狀態も今のやうにつゞき非常な惡疫もないとして人類の將來はどうであらうか。

或人は人類の進化發達は先づ此邊で行き止まりではなからうかと云ふ。人類はこれから後過去に地球上に現れて一時は大に榮え今は死に絕えた多くの動物、例へば巨大な爬蟲類やマンモス等のやうに絕滅する道を急ぐばかりだと云ふ。この說を信ずる學者は可なり多くある。

どうせ人類も動物の一種である以上個體に壽命があるやうに種族としての壽命がある筈で、つまりいつかは絕滅するに違ひない。問題はそれだから人類は此上發達進歩する餘地はないだらうかどうかと云ふ點に歸する。

人類は猿に比べると大分特化してをる。殊に其足などもはや枝を摑

る事は出來なくなつてをる。最早到底樹の上で生活する事等は出來なくなつた。然し大體から見て人類の體には未だ多くの他の哺乳類に比べて原始的一般的である。殊に手がそうである足も猿よりは特化してをるが、五本の指が殘つて居てやはり原始的である。齒もそうであり、消化器も肉食でも植物食でも雜食でも出來る。其上種々の外物を用ゐる事により如何なる境遇にも堪へ得る適應の能力を多く持つてをる。これはなほ其前途の多望な事を示してをるものと云はなければならぬ。

腦の發達は餘程著しい程度迄進んでをる。人類の進化の行き止りの恐れは確かに腦に一番多くあるであらう。或人は文明になるに從つて産が重くなるのは子供の頭が大きくなるからだと云ふ。然しこの推定にはどれ程の根據があるか疑はしいと思ふ。且腦全體の大きさは大して變化なくとも其表面の皺が多く深くなれば全體が大きくなつたのと同じ結果になり得るから、腦の發達には此方向にも確かに餘地が大にあるのではなからうかと思ふ。

又腦の重さには野蠻人と文明人とに前云つたやうに大きな違ひがあり同じ人種にも可なり著しい差がある。殊に智力の點となると個人的に隨分優劣の開きがある。同じ人種の中にも二十以下の數を算へる事も出來ず抽象的の事は全く分らぬ者からカントやダーウヰン迄ある。其間の違ひはとても類人猿と此等低能の人との違ひどころでない。かやうな事を見ると能力に於ても人類全體としてなほ進歩の餘地が多くあるでなからうかと思ふ。

又人類は全體として遺傳學的に見れば野生の動物とあまり變りない。良い遺傳質と惡い遺傳質が存在してをる。これで若し人類が其飼食動物に就てやつて來たと同じやうに人類の繁殖に干渉して合理的の淘汰を實行し惡いものを除き良い者を殖す事が行はれる者なら、僅かの間に著しい進歩が見られると思ふ。實際既に精神病や惡疾の者を隔離したり、又國によつては極めて不良の人間は之を去勢したりする事によつて此方向に多少の努力をしてをる。將來は今個人の衞生にも社會とか國家とかが干渉して惡疾を蔓延させぬやうに骨を折つて可なり成功して居るやうに、もつと多くの個人の結婚や生殖に國が干渉し、不良の遺傳質を持つた子を生ませないやうにし、良い遺傳質を持つた者を殖やすやうになるだらうと思はれる。これは人口問題の壓迫等によつて或は案外速く實行されるやうな機運にならぬとも限らぬ。

七

今迄人類の將來に就て論じた人の中には人類は既に進化の頂點に達して居る證據として方々に多くの退化の傾向が見えると云ふのがかなり多くある。

此等の人の人類の退化の徴候として擧げる證據は先づ吾々の體に多くあると云ふ。即ち其眼であるが、文明人には近眼が非常に多い殊に學生等の仲間には眼鏡をかけて居るものの數が實に夥しい。それから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

齒にも若い中から義齒をしたりして居る人が少くない。一本も齲齒がない等云ふ人は百人に一人もない位であらう。皮膚の體溫調節の作用も衣服を着、室に暖爐を焚いたりするためにたしかに衰へて一寸寒い風に吹かれても風邪を引く。又少しの間裸體で夏の日に曝されても火膨れが出來たりするやうに弱くなつて居る。昔の女は非常に産が輕かつたが今では中々重くなつて人工的の方法を用ゐなければならぬ場合が多くなつたと云ふやうな事を擧げる。

いかにも此等は總て退化の徴候である。然し考へなければならぬ事はかう云ふ事が文明人の體に現はれたとしたところでそれを以て直に彼等の種族としての退化の徴と見てはならぬ事である。どうせ吾等の先祖が樹に登つたと同時に嗅覺は退化したのである。人間になつて嗅覺は確に一層甚しく退化したであらう。又耳等にしたところで吾等の耳殼なるものは殆んど形があるばかりで切つてしまつても聽覺には殆んど影響がない程になつてをる。又耳殼を動かす筋肉も前に云つたやうに退化して用をなさない。要するに之等は人類の聽覺の退化した事に伴つてをる事である。體中の毛にしてもそうで最早體溫を保護するに何の用もなして居ない。齒にしても猿のに比べて明かに全體として退化である。殊に犬齒は他の齒に比べて猿のやうに大きくなく、他の齒と同じ位で、これを以て肉を裂く等云ふ事は全く無くなつた。

此等は人類が文明になつてから起つた事でなく野蠻人でも同じ事である。之に反して前の眼の近くなつた事や齲齒の多くなつた事や皮膚の弱くなつた事等は文明人に限つた事ではあるが、其性質に於て前の人類に共通の退化現象と同種のものと見てよい。そして前云つたやうた事が人類の人類たる上に必然起つた現象であれば、後の事も文明人に必然的の現象と云はなければならぬ。

一體退化と云ふ事は或器官に就て云ふ時には差支ないが、其動物なり植物なりの全體について云ふ事は少くも多くの場合に穩當でない。例へば蝦の腹に比べるとヤドカリの腹は退化してをると云つてよいがそれを以て直にヤドカリを蝦の退化したものだと云ふ事は出來ない。動物の體の或部分が退化するのは多くは今迄と違つた新しい境遇に適應する際に起る事である。

殊に人類の場合には其推理力の御蔭でこしらへた種々の道具を以て完全に其肉體の足らぬ處を補ふ事が出來る。近眼には眼鏡をかけ齲齒には金やセメントを塡め體には衣服を著る。それのみならず望遠鏡顯微鏡を用ゐ食物は火を用ゐて調理し且消化劑をも飲むし、冬は暖爐を焚き夏は煽風機を廻すから、物を見る働きから云つても、食物を消化する力から云つても、體溫調節の能力から云つても野生の動物のどの種類とでもとても、比較にもならぬ位に優れてをる。

さればかやうな事は別に人類の將來を悲觀する材料とはならぬ。人類の中に眼や齒の惡い者が多くなつた事は要するに惡くても差支ないからである。人類の野蠻時代には眼や齒の良し惡しが自然淘汰の大切な標準となつたであらうが、今ではそうでなくなつた。それで此等の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

器官に退化の傾向が見えるのである。［其理窟に於て體の表面の毛が退化するのと同じ事である。

又產科の技術が巧みになつたので產が輕くなつたとか治療法が進んだ爲めに病氣に對する抵抗力が減じたとか云ふやうな事も當然の事で已むを得ぬ事でもあり又それ自身大して憂ふべき事ではない。

八

或は又高等の教育を受けた者の繁殖率が減じたと云ふ事を擧げる者がある。例へば米國の大學の卒業生は平均二人餘しか子供がないと云ふやうな事を云ふ。之に反して低能者の繁殖率は非常に高いから、人類の平均の素質は次第に下落してゆく恐れがあると云ふ。

勿論此等の點は相當の考慮を拂ふべき問題ではある。然し又考ふべき事は大學卒業生の子供の少い主な原因の一は結婚の後れる事であるが、之は高等の教育を受ける者の已むを得ない事である。畢竟人類の文化が進み智識の分量が多くなつて來たのに反して智力其者は恐らく數萬年間大した進歩はせぬのである。それで此智識を獲得し或は其上に更に新しい者を加へやうとするものには其生涯の大部分を之が爲めに費さなければならぬ。從つて其生殖力を幾分時として甚く犧牲に供する事になつたからである。

そこで若し彼等大學の卒業生が眞に國民の最も優良な遺傳素質を持つて居る者で他にこれ程良い素質を持つた者がないと云ふ事なれば此現象は民族の爲め甚だ憂ふべき事である。けれども大學教育を受ける受けぬと云ふやうな事は其遺傳素質よりも其境遇等に因つてきまる事が甚だ多い。今のやうな社會狀態では彼等と同等以上の素質を持つた者が幾らでも現はれずに居るであらうと思はれる。

つまり高等の教育を受けると云ふ事と生殖力の減退と云ふ事は或程度まで必要的に伴ふもので、互に原因となり結果となつてをる。高等教育を受けたために生殖力が減じたと同時に、生殖力を犧牲にしたために高等教育が受けられたのである。要するに彼等は蜂や蟻の社會に於ける職蜂や職蟻をまねたもので、複雜な社會生活には當然起るべき階級である。

なほ分業の必要上社會には頭腦勞働者も必要なら筋肉勞働者も要る。少數の指導者と共に多數の被指導者がなければならぬ。それだから遺傳の素質も一律であつてはいけない。此やうな問題を考へるものには此點をも顧る必要がある。

尙人類の退化又は衰亡の徵候として團結心の衰へた事を擧げる人がある。昔は人間社會の中に明つきりした階級があつて、下の者は上の者の命令を絶對に服從せねばならぬやうになつてゐた。此事が嚴密に保たれて居たので人間社會の團結は極めて固く、それによつて生存競爭にも勝つて來て今日迄發展して來た。處が人間の個性と云ふ者の發達と共に此秩序が紊れ規綱が弛んで來た。これは人類退化の一つの徵候であると云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

成程野蠻人や智力の進まない人々の團體の秩序を維持する方法は全然此法である。そして之は團體生活をする野獸と全く同じ事である。山羊等を飼つて見てると良く分るが、或群に新しい一匹を入れると元からのが一匹づゝ來て此新手と力競べをする。そして負けた方はそれからいつも負けて强いのが近づくと避けるやうにしてをる。かやうにして一通り力競べが濟むと强弱の順がすつかり定つてそれで山羊仲間の秩序が維持されてゆく。人間の仲間でも蠻人の部落や山賊の團體とか賭博者の親分子分の關係秩序は大體に於て全く之と同じにして出來上り又維持されるのである。そしてこれ等の社會の大きくなつたのが封建時代の藩とか國とか云ふものである。だから昔の日本の戰國時代や今の支那には山賊上りの大名や將軍が大分ある。

かやうな社會では王や大名や親分の言行そのものが法律である。フランスでは「、、、、國家なり」と放言した專制王もあつた。かう云ふ團體では王や親分がどんな馬鹿な政治をしても、無理を云つても人民や子分はだまつて從つてをらねばならぬ。それで始めて其團體の秩序がともかくも保たれてゆくのである。

然し前にも述べた如く此樣な仕方で秩序を保つてゆく團體は山羊や猿の下等動物の團體と全く同じである。とても智力が進んで物の道理を考へる人間に適しないのはあたり前の事である。それだから人民の頭が相當に進んでをれば如何程權力を用ゐて意志の自由の發展を抑へつけ樣としても必ず彼等の中から不平が起り權力に反抗する者が出て其勢力が大きくなれば革命や內亂となる。それで人類の中でも智力の進んだ人民の多く居る國では憲法や議會を造り、王や特殊階級の權力を制限し、人民の考へも行へるやうにし、たとひ暗愚な王や腐敗した閥族が出ても彼等のために其團體の生存が危くなるやうな危險を豫防するやうになつて居る。つまり立憲政治や議會政治は專制政治より一段進んだ政治で、人間の智力が進めば當然之によらなければならぬ。かやうな政治の行はれる團體は專制政治の行はれる團體よりも獸の階段より一段進んだ人間の團體として相當なものである。

要するに專制政治に對して不平を云ふものが出たり、特權階級の壓迫に反抗したりする者が出來るのは必ずしも人類の團結心の衰へた徵ではなく、個人の智力が進んだためより良い團體生活の形式に改めやうとする要求の爲である。即ち舊殼を脫して新衣を纏はうとする生長の要求であつて、やはり人類進化の一徵と見る方が至當であると考へられる

九

かやうに云ふと人類の前途は極めて多望であるやうである。然したとひ私の云ふところが幸に正しくても、人類進化の前途は多望であると共に多難であらうと思ふ。しかも此多難であらうと思はれる理由がやはり人類を發達させるのに最も有力であつた智識の蓄積に基づいてをる。即ち人類の本來の性質と力量に比して餘りに多くの智識が蓄へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られそのため劣つた國體がどんどん亡びて大きな國體が出來、其内容が非常に複雑になつた。處が此大きな複雑な國體を造つてをる個人には前と大した變りがなく、なほ多くの獸性を保有してをる。一口に云へば彼等の多くはなほ沐猴にして冠して文化生活をやつてをるものである。こゝに今ある人類社會の種々の矛盾も悩みも、又將來人類の進歩の前途に横はるべき危難も其根源があらうと思ふ。

即ち例へば産業組織にしても、人間の智識の蓄積の御蔭で生産が非常に増加した。處が此産業は相も變らず個人の利益の上に行はれてをる。即ち猿の社會に一つの桃の實が落ちて來た時に忽ち爭が起つて其中の一番強いやつが利得をするのと全く同じプリンシプルの上に立つてをる。殊に階級と階級との間、國と國との間には一層此事が著しく現はれてをる。國と國との間では各々の蓄積したあらゆる智識を傾けて同類殺戮をやつてをる。かやうにして兩方共に失ふ處が多くて得る處が全くない事を經驗して居り乍ら、なほ急にやめやうとしない。これは要するに智識の蓄積と個人の本性との間の大きな隔たりのためである。實に此國と國との間の戰爭は人類の前途の最大の危難であらう。

前に云つた立憲政治等にしても之は進歩した人間の國體に發達したものであつて、彼等の間には極めて自然に運用せられ、專制政治よりは確に良いものであるが、之を進歩の後れた國民の間に輸入して來ても中々うまくゆかない。又銀行の制度のやうなものをまねて見ても、各人が信用と責任とを重んずる程度迄進んでをらぬと、それを私慾のために惡用して、大勢の人が迷惑すると云ふやうな結果になる。假に若し、、、等云ふ非常に、、んだ制度を彼等の間に强制したところで、とてもうまく行く筈がない。却つて之を悪用する者が出來て恐るべき結果になるにきまつてをる。

要するに制度や組織も大切ではあるが、個人の發達が猿の時代とあまり變らぬやうな狀態ではどんなに立派な制度や組織も決してうまくゆく譯はないと思はれるのである。

とにかく此人間の本性力量と蓄積した智識の開きそれから國體の大きさとの不均衡、これがあらゆる人間世界の懊惱と危機の原因である。それであらゆる努力を以て此開きを埋める事に勉める事が吾等人間の前途を平坦にする所以である。教育は今ある方法の唯一のものであるが、若し優生學がもつと進歩し、もつと實用されたら更に有効な法となるであらう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

何から始むべきか

——正統左翼主義の運動のために

猪俣津南雄

一　帝國主義の反動的支配

日本無産階級の運動は今や一つの歴史的轉期を孕むに至つた。一切の情勢は、無産階級を驅つて強大な政治的勢力の結成に向はせてゐる。そこに鬱勃として動く社會的諸力を誘導し、轉化し、動員し、編制することによつて我がプロレタリアートは、その歴史的任務遂行のための基本條件たる强力な階級的組織を有ち始めるであらう。また、その歴史的闘爭のために不可缺なる勢力配備の、確乎たる礎石を置き始めるであらう。だが、日本資本主義の發展の歴史的條件によつて我が無産階級に課せられた任務は、全民衆を、帝國主義の反動的支配から解放することにある。此の任務の遂行は、此上もなく重要なるが故にまた多大の困難に伴はれ、最も、、、、、を重ねるとによつてのみ可能であらう。

日本ブルジョアジーは、早くから帝國主義ブルジョアジーとして、「歯をむいた、、、、、」「反動のブルジョアジー」となつた。かゝるものとして彼等は、自己の歴史的對立物なる封建的殘存勢力——、、、、、群に對する闘爭においても、正面衝突を敢行する氣力を缺いた。たゞ、當の、、、、、、群がそれ自身の物質的階級的基礎を喪失してゐたが故にのみ、彼等は、專ら「妥協苟合」を通じて政治的支配の實權を獲得し、確立するを得た。

甚だ普通ならざる我が「普通選擧」は、議會政治の形態におけるブルジョア的支配の道具として、有らゆる制限と變歪と不備とをもつて飾られ、ブルジョア民主主義の欺瞞を模範的に體現する。それは、如何なる意味においても民衆のものでなく、有らゆる意味において支配者のものである。

現代日本ブルジョアジーは、自己の、、を強めんがために努力すべき一切の理由と共に、自由とデモクラシーとを、憎むべき一切の理由を有つてゐる。かくして其の支配の基調は飽く迄も反動でなければなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ。

政治的支配の實權は確實にブルジョアジーに歸したにも拘らず、封建的遺制は尙ほ强度に殘存する。ブルジョアジーは、自己の支配に障得たる限り、その「改廢」を怠らぬでもあらう。だが、それによつて强められるものがブルジョアジーの支配である限り、それによつて民衆の政治的地位は毫も高められない。否な、却つて低下する。だが、帝國主義日本の、、、ブルジョアジーは、自身の强き反動性の故に、封建的遺物を一掃することは出來ない。彼等は、殘存勢力をますます自己の支配に從屬せしめると同時に、、、、、的主義イデオロギーは極力之れを自己の反動的支配の道具に轉化し利用するのみであらう。

現在の我がブルジョアジーの政治的反動は、彼等の存在のアルフアにしてオメガなる資本蓄積の必要の命ずる所である。日本資本主義は、戰時から戰後にかけて、獨占的な金融資本主義の段階に突入すると同時に、沒落期資本主義の世界的連鎖の一環となつた。獨占の資本主義は、强烈なる海外進出によつてのみ、「繁榮」を謳ひ得る程度の蓄積の速度をかち得なければならぬのに、調和ある順調な世界市場の發達は最早や望まれず、「開發」し掠奪し得べき半開未開の領域は急激に狹ばめられた。就中無產階級ロシアの强化と、、、、、、とを併せ意味するであらう支那革命の展開は、日本資本の蓄積慾を脅すこと最も大である。帝國主義政策の强行は、日露戰爭前後からこのかた常に日本資本主義の發展のための條件であつたが、異常に深大なる特殊の諸矛盾を内包するに至つた戰後日本の資本主義にとつては、それは既に存立のための退ッ引きならぬ條件となつた。しかるに此の退ッ引きならぬ條件としての行動が、、、、、、、を齎らすべきチヤンスの大きさは、「軍縮會議」の記錄に上つた一語一句が語つてゐる。戰爭を準備するブルジョアジーは、自己の欲すると否とに拘らず、自由の敵、デモクラシーの敵である外はない。

「特殊國」日本の資本主義的發展の特殊性の一として、重要事業諸部門に發達した高度の獨占——特に國家資本主義的形態における獨占——と並んで、他方には極端な過小農制——それは家內工業的な「副業」と結びついてゐる——が發展し、また驚くべき多數の小資本經營が殘存した。九年恐慌以來、わけても最近の金融恐慌以來の資本の整理——集中を通じての金融資本の制覇の過程が、如何に急速に中小農家及び中小商工業者を沒落せしめつゝあるかは、吾々の眼前の事實として論議の餘地を殘さない。農民と小市民の、、は餘りにも當然である。しかるに、支配的ブルジョアジーの政策は、獨占的資本の爲めの保護關税の引上げと補助金の下附、金融資本の爲めの銀行合同の促進と「補償法」の制定とを行はしめ、小作人の支拂ふ地代を金融資本に與へんとする「自作農地法案」を案出せしめてゐる。それらの「施設」はみな、有らゆる資本群と社會層とを、支配的な獨占的資本に隸屬せしむるに役立つのみである。かくして、、、、の確立を目指す獨占的資本は、一切の民主主義的反抗を抑壓せずにはをられない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だが、農民及び小市民の、、は、それがプロレタリア運動と結びつく時にのみ、ブルジョアジーへの脅威である。、、は無産階級の上に集注されねばならぬ。しかるにまた、、はプロレタリアートそのものにおいて最も強烈である。

廣汎な農民及び小市民の窮乏による國内市場の狹隘化と、沒落期を表徴する世界市場の不安定とに加へて、國際對立の尖鋭化によつて帝國主義的進出をはゞまれてゐる我が支配的ブルジョアジーは、カルテル化と生産制限と保護關税と金輸出禁止とをもつて人爲的に物價を高め、辛うじて緩漫なる蓄積の速度を維持して來た。かくて彼等は、いまだに九年恐慌來の過剰資本を持て餘してゐる。「徹底的整理」の標語には嵜徵が生えた。だが、「整理」を徹底せしめんとする甲斐なき努力は、經營の資本家的「合理化」の企てと共に、失業者の増大と勞働條件の惡化とを必然ならしめ、從つて爭議の頻發、擴大を必然ならしめる。而かもプロレタリアは既に鬪爭の組織を有ち始めてゐる。それは長閑な雰圍氣ではない。そこに、當面の政治的反動の根源がある。

だが、「整理」と「合理化」との一切の資本家的努力も、帝國主義的進出が蹉跌を重ねる限り、經濟危機を克服するに足らないであらう。しかるにまた、帝國主義的進出の强行は、民衆の肩に累加される負擔の增大と、死命的な戰爭の危機とを齎すのみである。

獨占的資本の强化を目指す帝國主義の、、、、、、は、獨占的資本の利益のために全民衆を搾取し、、、し、、、しつゝ、全世界の社會的政治的進歩のための×××鬪爭の主要勢力と抗爭し、それとその同盟諸軍との國際的連鎖を斷ち切らうとしてゐる。かくして帝國主義の反動的支配は、デモクラシーと自由と繁榮と平和との代りに、獨裁と隷屬と窮乏と戰爭とを與へる。此の支配から民衆を解放することを歴史的任務として課せられた我がプロレタリアートは、如何にしてその任務に堪えねばならぬか？

二　プロレタリアの階級的組織

日本プロレタリアートの歴史的任務の遂行は、少くとも二つの基本的條件が充たされる時にのみ可能である。

一、×××鬪爭に堪え得べき强大な階級的組織の確立。

二、廣大な貧農層との鞏固なる同盟。

日本資本主義の發展は、下層人口のプロレタリア化の速度について見れば緩漫であつた。我國の無産階級は、數において尚ほ人口の半ばにも達せず、その歴史的任務を獨力で遂行し得るだけの階級的地位を與へられてをらない。半プロレタリア化した廣大な下層農民との結合は、プロレタリアの、、の爲めの不可缺條件である。

我國の貧農大衆は、收穫の六割を寄生階級に貢入する社會層として、帝國主義的資本の爲めの低廉無比な勞働力の貯水池として、また、、主義的イデオロギーの培養地として、更にまた尨大な帝國主義的負擔の擔ひ手として、長く我が帝國主義的、、、、、、、搾取物で

あつた。此の被抑壓大衆の覺醒と、、とが、プロレタリアートの階級闘爭と結びつけられる時、我が、、、、、、、、、、、、、、する。しかるに、着々として組合運動に進出した農民先進分子は、早くも土地問題の根本を見はじめてゐる。

貧農大衆の爲めに、眞に根本的なる土地問題の解決を敢行し得るものは、獨りプロレタリアートのみであるが故に、プロレタリアートこそは農民大衆をその同盟者として共同の闘爭を遂行し得るであらう。そして、帝國主義の、、、、、、、、、、、を戰ひぬくものは獨りプロレタリアートであるが故に、プロレタリアートこそはまた其の同盟における指導勢力でなければならない

だが、プロレタリアートが自己の指導力を確立し得るためには、プロレタリアートは先づそれ自身の强力な階級的組織を有たねばならぬ。

大正五六年來の、勞働者及び農民の運動の急激なる擡頭に面した帝國主義の反動的支配は、勞働者の罷業權、團結權の拒否、言論集會結社の自由の剝脫と、小作農民の耕作權確立のための運動に對する有らゆる干涉と抑壓とをもつて之れに答へた。そして「資本攻勢」の主力は、就中、勞働者の組織體の分裂と、勞働者農民の結合の阻止とに集注されてゐる。

歷史的、、、、ふプロレタリアは既に闘爭の組織を有ちはじめた。今や支配者の、、、、、に對抗して何を爲すべきであるか？　一切の努力を闘爭力の充實に向けねばならぬ。日常闘爭の不斷の遂行によつて既得の組織を大衆化せねばならぬ。と同時にそれを、階級闘爭の組織にまで引上げねばならぬ。××××××××の組織にまで高めねばならぬ。そしてその努力は、×××闘爭の爲めの一切の準備を含まねばならぬ。

では、當面の具體的情勢に即して正に何から始むべきであるか？

吾々は先づ、わがプロレタリア戰線の現狀を一瞥するであらう。我國の勞働者にして組合に組織され得る者のうち、實際に組織された者は二割に足らない。此の少數の組合勞働者の大多數は、中小經營の勞働者であつて、最も重要な大經營の勞働の大部分は組織されてをらない。此の未組織勞働者のうちには、職工五百人以上を雇傭する巨大工場の勞働者七十萬人の大部分があり、坑夫五百人以上を雇傭する炭坑の勞働者二十八萬人の大部分があり、更に鐵道における下級從業員十五萬人の大部分がある。之等の勞働者を含まない「組織勞働者」の階級的戰闘力の微弱さは多言を俟つまい。しかるに此の微力なる組織勞働者はまた、その大部分が、百個に近き單獨孤立の小組合に屬してゐる。爾餘の部分は聯合體を形成した組合に屬してゐるが、その聯合體がまた十數個の小聯合體に分裂してゐる。最も有力なりとされる「總同盟」、「評議會」、「組合聯合」と雖も、それ〲に組織勞働者總數の十分の一乃至三十分の一以下の少數を包擁するに過ぎない。だが、最惡のことは、之等の單獨組合及び聯合體が、正に排他的競爭的である

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことである。そして組織勞働者中の左翼分子をもつて任ずる者の多數は、此の排他的競爭的な小聯合體の一つの內部に完全に自己を隔離してゐる。

農民の組織率も、勞働者のそれに劣らず低い。昨年二月の調査によれば、地主と對立的なる組合に加盟せる小作農家は、總數の僅か八%餘なる三十萬人であり、更にその四分の一に足らない七萬二千人だけが「日本農民組合」に屬してゐた。然るにその日本農民組合は、周知の如く、昨年末に至つて四分五裂した。プロレタリアートの鬪爭の第一の同盟者たる農民の唯一の組織體としての農民組合を思ふ時、その分裂はプロレタリアートにとつて誠に致命的である。

最後に、プロレタリアの政治的戰線の一形態たる勞働者と農民の政黨は、勞働農民黨、日本勞農黨、及び社會民衆黨の三小黨に分裂し、更にその何れにも屬さざる地方的諸政黨がある。三つの全國的政黨は排他的抗爭的なる三つの勞働組合聯合體を基礎として分裂し、劣らず排他的抗爭的である。しかるに、三黨分裂の基體たる評議會、組合聯合、總同盟の三聯合體の分立は、その構成要素における質的差異——例へば、熟練工と不熟練工、産業上乃至職業上の別——に基づくものではない。それは「指導精神」の相異に基づくものだとされてはゐる。だが、マルクスは夙に、斯くの如き組合及び政黨の分裂を、『勞働者相互間の競爭による、階級的組織の破壞』と呼んでゐる！　そして吾々はその分裂が更に、帝國主義の、、、、、、、、、、、な働きかけの下に生じてゐることを知つてゐる。

プロレタリア戰線の斯くの如き支離滅裂の裏面は端的に何を語るか？　それは端的に、プロレタリアの鬪爭力が單一の鬪爭力として反動的支配に對置集注されてをらないことを語る。吾々が、反動的支配の熾烈なる攻勢を思ふ時、吾々に先づプロレタリア戰線の統一から始めねばならぬことを知るのである。

三　戰線の支離滅裂

我が勞働者及び農民の組織の未發達と幼弱とは、決して階級的生長力の微弱さをあらはすものではない。吾々は、おの〳〵三十餘萬を算するの組織勞働者と組織農民とが僅々十年に足らぬ短日月の間に、而かも多くは組織キャンペーンに最も不利なる條件の下に得られたることを想起すれば足る。

戰線の支離滅裂は、一つには勃興期に當然なる渾沌と無秩序の表現である。二つには、旺盛なる自然生長力が、『勞働者相互の競爭による破壞』への、劣らず自然發生的な傾向に強く伴はれてゐた。然るに、鬪爭の經驗淺く、曾つて、、、、、を有せざる我がプロレタリアートは、未だ強固なる階級的指導力を結晶せしめて之れを分裂破壞への反階級的傾向に對置するに至らなかつた。そして最後に、帝國主義の、、、、、は、プロレタリア戰線の混亂の促進を、勞働對策として强行した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現在の勞働總同盟の若干指導者が、大正十二年頃から、反動的支配者の分裂政策に意識的に投合したことは周知のことである。支配的ブルジョアジーの意圖せる如く、「怪しからぬ共產主義者」として除名處分を與へられるに至つた總同盟內の左翼分子は、彼等分裂主義者の最惡の日和見主義と抗爭甚だ努めたとはいへ、それ自身遂に分裂の道を選ぶを餘儀なくされたのは、如何に餘儀なくされたとはいへ、少くとも分裂破壞への自然發生的傾向を克服し得ずして却つてそれに壓倒されたものである。謂ふ所の分裂破壞への傾向は、指導者の「繩張り」意識、勞働團體のギルド觀、等、ブルジョア自由主義の時代を經ざる我國勞働者階級に尙ほ根強く殘存する封建的イデオロギーと密接に結びついてゐる。ソシアリストの「目的意識」は、かゝる殘存意識に根ざす、、、、、の徹底的克服をこそ命ずる。だが、分裂後の勞働組合評議會の指導分子の若干は、分裂への傾向と抗爭する代りに、却つて過去の行動の正當づけを希求する傾きがないでなかつた。

福本和夫氏の力說せる「結合の前の分離」の理論並びに「對立＝鬪爭＝發展」の理論とその適用とは、組合評議會の分裂行動の正當づけとなつた。更に『勞働團體の分裂の慫慂』となり、『實踐においては統一戰線の拒否』となり、宗派的分裂主義となつた。かくして氏の展開せる「理論鬪爭」は、理論を行動の案內たらしめ得ずして却つてドグマと化した點において、正に「辯證法」的性質を缺いたものである。それにあつて昂揚されたものは抽象原理であり、沒却されたものは特殊具體である。マルキシズムの理論一般の紹介及び宣傳における氏の功績とその多大たる貢獻にも拘らず、指導的理論における氏の誤謬は、氏の亞流の弱つ所となつた。昨夏來の雜誌「マルクス主義」を繙讀する者は、プロレタリア陣營內の共殺的な對立＝鬪爭が、プロレタリアートとブルジョアジーとの基本的な對立＝鬪爭を犧牲にして、極力高揚禮讚されてゐるの奇觀に驚くであらう。

福本氏とその亞流の左翼主義は、「目的意識」と「指導力」と「政治的」と「戰鬪的」と「マルクス主義的」とを、言葉において極度まで强調したとはいへ、實踐においては少くとも日本勞働運動の現段階に特徵的なる分裂破壞の自然發生的傾向への追隨となつた點において、追隨主義的であり、經濟主義的であり、從つてまた非指導的、非戰鬪的、且つ非マルクス主義的たらざるを得なかつた。少くとも今日までの發展においてはさうである。

理論をドグマ化し、對立鬪爭を神性化し、分離の意義を過大評價する傾向は、かの、プロレタリア運動の發展とは獨立に理論鬪爭によつてマルクス主義的意識を戰ひ取つてもつて「主體的條件」を確立し得るとなす信仰と共に、他の客觀的諸條件との結びつきにおいて宗派主義の傾向を生んだ。運動の「主體」は、『マルクス主義的に思考する個人』の結合體と考へられ、かゝる主體の指導に無批判的に追隨する分子を「獲得」して「主體」それ自身とその影響力とを擴大することがマルクス主義者の主要任務であり、左翼主義の精髓であると見做された。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

少くともそうした考へ方の顯著なる發現を見た。一方ではそれは、同一陣營内における見解の相異もしくは異見の所持者を「最惡の敵」視する專斷的偏狹となり、他方では對立的排他的な小規模のプロレタリア諸團體の只一つの内に自己を融合せしめつゝ大衆から自己を隔離することを正當視する態度となつた。

此の追隨主義的、分裂主義的、宗派主義的「指導精神」――それは斷じて正統左翼主義でない――を指導精神とする若干分子は、勞働農民黨をして進んで戰線統一運動の先頭に立たしめる代りに、統一運動の一形態たる政黨合同に反對した。かゝる指導分子の一人は、『我々が日勞黨大衆と共同戰線を張るのは、日勞黨をつぶして大衆を我々の方へとる爲めだ……』と率直に書いてゐる。

社會民衆黨は、その二三の有力指導者の「繩張り」意識に忠實に、且つは反動的支配者の分裂政策に響應し、終始一貫統一戰線を拒んだ。

單一無産政黨の結成過程において、勞働總同盟の若干幹部の明白なる日和見主義と抗爭して遂に總同盟から分裂するに至つた諸組合を主要成分として成立した日本勞農黨は、『階級的大衆統一主義』を『立黨の精神』とした。しかるに、此の精神の體現でなければならない。同黨内の左翼分子は、同黨に對する左右兩翼からの猛烈な排擊の下に尖つた對立意識の故に、且つは自然發生的なる分裂破壞及び自己隔離の傾向への追隨の故に、『立黨の精神』を高揚して流れに抗する力を示すことが出來なかつた。かくして日勞黨もまた、「勞農黨をつぶして大衆を我々の方へとる」ことに歸著するところの「指導精神」の風靡する所となつた。

一言にすればこれは、共殺的な對立＝鬪爭の場面である。それは、一切の利を漁夫に歸せしめるが故に悉く反階級的でなければならない。階級的な正統左翼主義は、戰線統一運動への直進を命ずる。

だが、眞正の戰線統一運動への歷史的一步を踏み出すに當り、我がプロレタリア運動をして再び同一誤謬を繰返さざらしめんがためには、過去の誤謬の公然の淸算が急務である。指導分子が犯せる誤謬の自認は、之れを大衆に徹底せしめる時にのみ階級的意義を有つ。單なる自認と其の有耶無耶化は、、、、、を欲するブルジョアジーのすることであり、盲從を求める宗派主義者のすることである。わけても選ばれたるマルクス主義者をもつて任ずる福本氏及びその一派は、追隨的分裂主義と宗派的傾向の誤謬に關する嚴酷公明なる自己批判の敢行によつて正路の所在を明示することにより、眞に階級の光をかゝぐるマルキスト的指導者としての自己を立證するであらうことを信ずる。かゝる特殊の場合における最惡の階級的罪過は、誤謬そのものではない、誤謬のゴマ化しである。

四　戰線統一運動の特殊の意義

では、既成の勞働者及び農民の諸組織を、××××××××の大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家的組織たらしめる過程の一段階として、散漫微弱なる闘爭力を集中して强大なる單一の力たらしむべく、今ま正統左翼主義が命ずる所の、戰線統一の運動への直進は、特殊具體的には、如何なる意義を有ち、また有たねばならぬか？

吾々は先づ、現在の主觀的及び客觀的諸條件は、戰線統一の運動にとつて極めて有利なのを見る。歐羅巴諸國の多くにおける統一戰線の運動は、戰時から戰後にかけての直接の××的情勢の命ずる所に從ひ極度の尖銳さをもつて日和見主義的右翼と對立したところの左翼が試みたる方向轉換——相對的安定期の新戰術として遂行され來たつた。しかるに吾國のプロレタリアートは、そうした對立狀態の體驗を經てをらない。加ふるに我國における右翼は、歐羅巴諸國におけるそれと異り、未だ結晶し固定した存在ではなくて尙ほ流動性のある過程內な結成體である。而かも盛んなる右翼の發展を來たさしむるに必要な經濟的基礎は我國において缺けてゐる。我が反動的支配は、右翼團體に對して差別的待遇を與へながらも、單なる組合運動そのものにさへ自由な發展を許す餘裕を有たない。（かくしてまた、統一運動に際し、謂はゆる「右翼大衆」に對してはもとより、「右翼指導者」に對する態度においても、歐羅巴諸國の場合とは異る特殊の考慮が拂はれねばならぬ）。

戰線統一への全運動において、組合の統一、特に勞働組合の統一は特殊の重要性を有する。我國における組合運動は統一された巨大な組合聯合體の力によらなければ顯著なる發展はもはや不可能なる段階に達した。これから組織されねばならぬ勞働者の大部分は、資本家階級の牙城たる大經營、巨大經營に在る。鬪爭意思と抵抗力との最强大なブルジョア群——財閥トラスト、××トラストの支配下にある巨大工場鑛山等に向つて進まねばならぬ時、個別的、、、的、偶發的な、、、はもはや用をなさない。僅々一二三萬の組合員の僅々四五錢の組合費によつて立つ群小聯合體では力及ばない。既成諸組合の綜合による强大な戰線の確立と、廣大な規模における積極的、計畫的な組織キャンペーン、——それのみが、かの關鍵産業（キー・インダストリー）の、、を確實ならしめる。、、、、、を含まざるプロレタリア軍の「階級鬪爭」は兒戲に均しい。組合の統一が、著大なる發展の不可缺條件となつてゐる點では、農民戰線にあつても全く同樣である。（例へば、「立入禁止」に對する鬪爭を一顧せよ）。更にまた、現在の我がプロレタリア戰線の支離滅裂の出發點が勞働組合の分立排他競爭に存し、その分立線が政黨分裂の基線をなすと同時に、組合の統一は政黨の統一より更に一層「無條件」的でなければならず又た「無條件」的に必要であることを思はねばならぬ。農民の場合にあつては特に、組合の統一が政黨の統一に先行し得る條件の存在を見るではないか。實に、統一戰線の運動は、工場と農村そのものに即し、そこに展開される日常鬪爭そのものに即して進められねばならないのである。

だが、言ふ迄もなく、戰線統一のための鬪爭それ自體が既に×××

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

×ブルジョアジーの、、、、、、の現形態に對する最重要な闘爭を意味してゐる。それは先づ、反動的支配のプロレタリア戰線分裂政策に對する、、、、、である。此の闘爭は同時に、反動政治によつて相對的安定を强めんとするブルジョア的努力に對する抗爭を意味し、從つてまた××××そのものに對する闘爭を意味する。そしてかゝる闘爭を通じてのみ、プロレタリアートの諸組織は、××××××××の爲めの組織への一歩前進——だが大なる一歩前進——を遂げ得る。

現在の我がプロレタリア運動に於いて强く對立的に作用する二つの自然發生的な傾向として、一方には階級的組織結成への傾向があり、他方には『勞働者自身の闘爭による組織の破壞』への傾向がある。後者の傾向は、他の諸條件との結びつきにおいて、「組合主義」、「日和見主義」への傾向の根本を貫いてゐる。更にまた、極左翼的分裂主義、宗派主義への傾向の根本をも貫いてゐる。戰線統一の運動は、此の反階級的、自然發生的な根本傾向並びに之れに追隨し之れを促進轉化利用せんとする一切の運動に對する執拗なる闘爭であり、またあらねばならない。かゝる闘爭にして初めてそれは反動的支配に對する闘爭であり、從つてまた我がプロレタリアートの××××××××××闘爭の正に現在の過程を代表するであらう。此の「眼目」の確乎たる把握において戰はれる統一運動のみが、正統左翼主義の運動である。

が、それ故に正統左翼主義の運動は、如上の反階級的傾向との抗爭に於て、かの、該傾向の對立物にして而かも劣らず自然發生的なる階級的結成への傾向に、明確なる目的と指針とを賦與し、階級的傾向の尖端をば眞に戰闘的なる階級的指導勢力に結晶せしめなければならぬ。而も此の階級闘爭の前衞たるものゝの結成は、運動の現段階の特殊性の故に、正に戰線統一の運動を通じてのみ實現されるであらう。

五、階級的指導勢

一般的スローガンとしての戰線統一の高揚と、その階級的意義の撓みなき宣傳とは、現に何等かの形、程度において有らゆる組織勞働者に内在するところの、階級的組織への傾向を、最も有効に喚び起し、且つ漠然ながらも、既に共通單一なる行動目標に結びつける。而して個々の特定情勢に適應して與へられる個々のスローガンは、階級的組織への傾向を特に明確に代表する勞働者分子——比較的少數の先進分子の奮起と率先とを促がさねばならぬ。かゝる分子の奮起、かゝる分子の增大と其の有機的結合と組織的闘爭、——それこそが、正統左翼主義の運動の實體である。「左翼」は常に全運動に於ける階級的傾向の意識的尖端を代表する。

これまで我國において試みられた統一運動の多く、特に謂はゆる「戰闘的統一」——（それは分裂主義がかぶつた假面の名である）——の運動は、根本的に間違つてゐた——

一、『大衆を吾々の方へとるため』に他の團體と『共同戰線を張る』のは誤りである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二、相手の立場を見落し、特に相手の弱みである[illegible]、問題、題目を捉へて『共同戦線を持ちかけ』、拒めば日和見主義で裏切りだと『暴露』するのは誤りである。

三、戦線統一の提唱なり支持なりが、「左翼」新聞紙上の活字や一部の團體幹部の決議に終つてゐたのは誤りである。

四、共同戦線の申込みが、排他的抗爭的な團體の幹部から、同様に排他的抗爭的な團體の幹部——正にその排他的傾向を最も強く代表し易い幹部達——に向つてなされるのみで、全く同一條件の下に同一對象に向つて鬪爭しつゝある工場大衆相互の結びつきの促進の方が閑却されたのは誤りである。

統一戦線の戦術は、一の大衆團體が他の大衆團體を犠牲にして膨脹する爲めの手段であつてはならない。かゝる手段たらしめやうとする傾向は、「勞働者相互の競爭による組織の破壞」——即ち反階級的な傾向に屬する。

共同戦線の提議は、共同の鬪爭が可能なる機會、問題、題目に即してのみなされねばならぬ。然らざる提議は、ひとへにプロレタリア團體相互の「對立意識」を尖らせんがため、（如何にそれを反動的支配は熱望してゐることぞ）、そして惡罵を投げる「戦鬪的」氣分に自己滿足を見出さんがため、それと共にまた大衆の素朴なる戦鬪意識に投合しつゝ「戦鬪的」指導者として自己を僞瞞的に立證せんがために過ぎない。かゝる戦線には、共同の代りに排他が、統一の代りに分裂があるのみである。

共同、統一戦線の運動は、先づ、工場大衆それ自體の運動として現はれねばならぬ。工場大衆における共同の、、が既に現實に開始されてゐる時にこそ、團體間の共同戦線の提議も意義があり、實効があらう。工場大衆の行動にまで發展した共同鬪爭の要求を、尚ほも拒否せんとする幹部ある時にこそ、眞實に又た決定的に、彼れの日和見主義と裏切りは暴露されるであらう。頑强にして而かもそれ自身一個の力なる所の「現實」は、水掛論の連續や僞瞞的指導の續行を許さないから。

率先して統一運動の戦列に就くであらう先進分子は、有らゆる工場に見出されねばならぬ。從つて有らゆる組合のうちに見出されねばならぬ、「左翼組合」にも、「右翼組合」にも、「中間的組合」にもまた「協調的組合」のうちにさへも。

だが、此の種の先進分子と雖も尚ほ、分裂排他の團體利己主義によつて故らに强められた對立意識に深く祟られてゐる。比較的に先進分子に富む團體によつてとられるであらう共同鬪爭のイニシアテヴは、深き猜疑をもつて迎へられるであらう。階級的誠意をもつてイニシアテヴをとる先進分子と其の所屬團體は、最も辛棒強き誘引を重ねつゝ、團體利己主義の清算を自らの行動によつて立證せねばならぬ。かくしてのみ今ま階級的組織への傾向の尖端を形づくる所の先進分子の結びつきによる統一運動は、大衆的基礎の上に置かれる。有らゆる組合に見出さるべき先進分子が、お互の鬪爭の應援、お互の運動の協議、連

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

絡のためにとる行動は、おのづから一つの新しき結合への端緒となる。かゝる結合は、プロレタリア運動の全體を貫いて眞の左翼傾向を代表する。全運動を貫いて而かも大衆的基礎を有するが故にそれは、全戰線を統一にまで高め行く所の挺子であり、楔であり得る。そして、此の先進分子を結ぶ端緒的な組織は飽く迄も合法的ならしめねばならぬ。言ひ換へれば、かゝる組織を違法化せんとする、、、、、、に對しては飽く迄も抗爭するを要する。

正統左翼主義の統一運動においてイニシアテヴをとる先進分子は、その運動を、「俺達の組合」、「我々の黨」の運動として遂行せんとする自分自身の傾向――未熟な過去の惰力――に對して自ら鬪ふであらう。先進分子は、組合意識、我黨意識を、階級意識に置代へ得るが故に先進分子なのだ。異る團體に屬しながらも、かゝる分子として端的に、、、、、と對立し、此の基本的な階級對立意識の强さをもつて團體利己主義を克服し得るが故に統一運動は可能なのだ。異る團體に屬しながらも、此の共通の特質の故に、ギルド意識の障壁を突破して互に接近し、字の如く隔意なき協議を遂げ、眞に階級的な協力に就き得るが故に、先進分子は相互に結びつく。

現に比較的多くの先進分子を有する組合は、左翼的な組合であり、政黨は左翼的な政黨である。かゝる組合、政黨は、まさに其の先進分子の優越の故に當然に統一運動において最も重要な役割を演ずる。だが、かゝる團體が對立的排他的に存立するところの現狀こそが、プロレタリア戰線の支離滅裂を意味し、從つてかゝる團體の獨立性を失はしめてもつて全運動を階級的に高める所にこそ統一運動の全意義があることを銘記する時にのみ、かゝる團體は自己に課せられた、、、を演じ得る。此の役割を演ぜしめることは、優秀な先進分子の任務であり、その任務は先進分子それ自身の横斷的結合によつてのみ遂行され得るであらう。

六　横斷的左翼――全運動における

斯くの如き横斷的結合、即ち總ての團體内の先進分子を結ぶ端緒的な組織が、戰線統一の槓杆として作用しつゝ、幾多の困難なる鬪爭を通じてそれ自身の發展と成熟を遂げる過程、――それのみが、階級鬪爭の前衞、眞の階級的指導勢力を結晶せしめる過程であるであらう。

階級鬪爭における前衞部隊の重要性、その至要なる役割の一般は、玆に絮説を要しない。だが、前衞部隊の性質、權威、及び獨自の役割に關して一部の左翼分子がとつた見解に含まれる根本誤謬を明確に指摘する事は、正統左翼主義の統一運動にとつての現下の急務である。

一部の左翼分子によつて代表せられた分裂主義の宗派的傾向は、プロレタリア戰線の支離滅裂を表現するところの排他的競爭的な組合聯合體もしくは之れを基礎として成立した勞働者農民の政黨の只だ一つの内に前衞分子を隔離して之れを大衆から引離さんとする傾向を極度まで强めた。そしてかゝる組合聯合體もしくは勞働農民の政黨は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[illegible]位にまで引上られ、そうした役割を演ぜしめられやうとした。しかるに、日常闘爭の機關たる勞働組合や、プロレタリアートと其の同盟軍農民との結合の一形態たる勞働者農民の政黨は、如何に多くの前衛分子を含むとも、前衛部隊そのものの役割を演ずることは不可能であり、また演じようとしてはならない。加ふるに、排他的競爭的に分立する勞働組合もしくは勞働者農民の政黨の只一つ——縱斷的な一區分——の内に隔離されたる先進分子は、爾餘の大衆から分離してゐることによつて最早や前衛分子たるの役割を演ずることが出來ない。否な、戰線統一の梃子であるとさへ出來ない。先進分子が、前衛部隊を形ちづくり得るのは、、、、を横に貫ぬく一翼として大衆と密接に結びつくことにより、常に、、、の槓杆たる所の、、、、、、、を演じ得る時に限られる。少くともかゝる方向への努力においてのみである。

自然發生的な分裂破壞への傾向に投合しつゝ、分立的な「左翼組合」もしくは「左翼政黨」の膨脹を、爾餘の團體の犧牲において遂行せんとする追隨主義者はまた、かくして前衛部隊が演ずべき、、、、、を過小評價するところの淸算派的傾向を代表する。

現在の我が勞働者農民の諸政黨は、プロレタリアートが、その無二の同盟軍たる貧農層との鞏固なる結合を實現する爲めの組織形態の主要なるものである。かゝるものとしての勞働者農民の政黨がプロレタリアの全運動において演じ得る役割は、限られてゐる。此の限度を超え

[illegible]れたがまた、勞働者農民の政黨にとつて可能な[illegible]に附隨することを餘儀なくされた[illegible]ば、プロレタリアートは農民層乃至小市民層に追隨することを餘儀なくされ、自身の指導力を喪失する。茲においてか、プロレタリアート自身の鬪爭を、、、、、、、、、に遂行し得る、、、、、、、、の活動は、、、、、、、、、、に必要となる。而して無産階級は、斯の如き部隊の、、、、、、によつてのみ、帝國主義の、、、、、、に對する自分自身の鬪爭を遂行し得るのである。

現在における先進分子を結ぶであらう端緒的な組織に出發して眞の階級鬪爭指導勢力の結晶を見る過程の各段階は、必然にまたプロレタリア戰線の統一擴大の過程の各段階でもある。かゝる段階のおのおのにおいて、最も優秀な先進分子は、前衛分子のそれに該當する指導的役割を演ずる。かゝる分子は、彼等の運動を梃子とする戰線統一の進展において、或は聯合により、或は合同によつて增大する所の團體をば、常に彼等が多數派として指導權を握り得る程度の大きさに止どまらしめやうと企圖してはならない。斯くの如き企ては、宗派主義の延長であるであらう。階級的組織への傾向の「意識的」尖端を代表する先進分子は、統一運動の各段階の所產たる大衆的組織體の一つの內部に立て籠もる多數派としてその指導權を「確立」することによつて左翼たる自己を立證するのではない。彼等は、かゝる大衆的組織體をその一形態として有するプロレタリア運動全體の先頭隊として又た梃子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

として、、、、を展開することによつてのみ、、、の左翼——言葉の眞の意味における左翼であり得る。かゝる左翼のみが無産階級のヘゲモニーを確立するであらう。大衆的組織體は能ふ限り廣大な大衆的規模のものたらしめねばならぬ。それにあつての左翼分子は、從つて多くの段階においては尙ほ少數派たるを常則とし、かゝるものとして常に彈力ある左翼傾向を代表するであらう。大衆的組織體內にあつての少數派ではあるが、而かも各段階において階級全體のうちの最も明確なる階級意識の部分、最も誠實にして獻身的、、、、な部分として、、、に演ずる、、、、、の故に、、、、の上に獨自の影響力を及ぼしつゝ着々としてそれを擴大し行くであらう。かゝる左翼こそはまた、有らゆる社會層の先進分子——多くのインテリゲントを含む——を吸引し、全、、、、、の社會的同情と支持とをかち得るであらう。

統一運動は、大衆動員による勢力集合の主要なる一形態である。私は八月號「社會科學」に寄せた一論文において次のやうに問題を提起して置いた——

××の結成、強大化、影響圏の擴大 ｛大衆的、政治的、協同戰線 / 勞働組合、農民組合の統一 / 未組織の勞働者農民の組織｝ 大衆動員による勢力集合

これらの目的を鬪ひとらしむる諸戰術は、言ふ迄もなく、互に密接に關聯し、相互制約的であると同時に相互補足的である。今ま、そのおの〳〵を、それ〳〵に成功的に、遂行し得んが爲めに捉へねばならぬ樞機は何々か、——だが力點は就中どの戰線に置かれねばならぬか、何づれに主力を傾注することによつて吾々は事件の歷史的連鎖の「、、、、」を摑むことが出來、それを摑むことによつて全連鎖を我物となすことが出來るか、例へば今ま、至難なる恐慌克服の爲めに鬪ひつゝある帝國主義ブルジョアジーの、勞働者農民に對する攻勢が熾烈を極むる時、吾々は、まだ決してブルジョアジーに屈服しないところの「組合主義的政治鬪爭主義」を克服することに全力を盡すべきであるか、——それとも先づ、勞働者農民を改良主義と反動主義とに導かんとするところの「意識的指導勢力」に極度の、、を與へ得る如き勢力集合、大衆動員を敢行することを當面の任務とすべきであるか、——その何づれが今ま眞に帝國主義ブルジョアジーに對する鬪爭を意味し何づれの鬪爭が眞に「政治的」であり、また何づれによつて今ま、ヨリ確實に「××××××××」を鬪ひとすることが出來るか、更にまた、——かゝる勢力集合、大衆動員の一手段一形態としての政治的經濟的協同戰線の範圍は、××分子の機械的統制、絕對的指導力の及ぶ程度に局限すべきであるか、乃至はまた、遙かにその程度を超えて擴大し、從つて暫くは、××の直接指導下に立つて大衆をして全協同戰線體內のマイノリテイたらしめつゝ、從つてまた彼等による、爾餘のマジョリテーへの働きかけが、イデオロギッシュな、影響力的な統制、指導であることに滿足し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つゝ、しかも××分子に獨自なる階級的實践性と、その理論の科學的適正との故に必然に大衆を獲得し得べき斯かる働きかけをば、有效に、直接的に、眞に、對大衆的ならしめることにより、闘爭の發展の各段階において常に××それ自身の絶對的且つ相對的なる增大、强化の實現を期すべきであるか、——これらに對するマルキスト的解答は、「現段階」の分析究明によつてのみ決定的に與へられるであらう。(拙著「帝國主義研究」一七九——一八〇頁)

そうした解答を、私は今ま本稿において輪廓的ながら與へ得たと信ずる。

宗派的傾向を代表し來たれる一派は、左翼分子の資格としての「マルクス主義的意識」を極力强調し、理論闘爭によつてそれを戰ひ取つたと揚言した。だが、それは可能であり得たか？ 斷じてない。理論闘爭は常に極めて重要な役割を演ずるとは言へ、プロレタリアの全闘爭の一形態に過ぎないそれは、個々人をして「マルクス主義的意識」を闘ひとらしむる手段となることは出來ない。階級意識の最高形態としてのマルクス主義的意識は、幾多の困難なる階級闘爭——、、、——を通じ且つ、、に現はれつゝ次第に結晶し行くところの生成物である。一定の發展段階における左翼分子の資格としての階級意識は、、、に現はれる。、、に現はれない意識は、形而上學的「意識」に過ぎない。かゝる「意識」に關する特質の故に左翼分子は左翼分子であるのではなく、、、、において演ずる役割の、、、特質の故に左翼分子なのだ。

左翼とは、[illegible]分である。かゝる分子との結びつきにより、その階級に自己を同化してもつて個有の小ブルジョア的個人主義的自我を克服し得る時にのみ、例へば小ブルジョア出身のインテリゲントは、左翼分子であるであらう。

七　今や何から始むべきか

恰も本稿に筆を執り始めた時、我が無産階級の戰線統一のための劃期的な運動は、勞働者農民の諸政黨の合同の提唱といふ形をもつて具體的に開始された。今や、勞働農民黨と日本勞農黨は、イニシアテヴを爭つてゐる。だが、此の競爭のために却つて政黨合同の折衝は一先づ停頓狀態に陷つたかに見られる。戰線の支離滅裂を克服せんとする眞面目なる努力が旣に始められたにも拘らず尙ほ、正に克服さるべき『我黨』意識、共殺的な對立意識の惰力は强く働いてゐる。

正統左翼主義の立場からは、茲に短き第一段階を終つた戰線統一への過程において勞農日勞兩黨のとつた行動は如何に評價さるべきであらうか？

勞農黨が、日勞黨に對してなせる合同協議會組織の提唱は、二つの點に於て、此の交渉を停頓に導くべき素因を有つてゐた。第一に、勞農黨の合同提議は、字の如く唐突であつた。提議は正式に日勞黨中央委員會に對してなされたものだが、その中央委員會をして好意的にそ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れを受取らしむべき一切の準備が缺けてゐた。反對に、提議に對して反撥せしむべき一切の準備がなされたかの觀さへがある。有らゆる機會において、而かも合同提唱の殆ど直前まで、日勞黨の幹部を無差別に排撃し、その救ひ難き『無能』と、全然誤れる『指導精神』との『曝露』を重ね來たつた勞農黨が、同樣に辛辣なる曝露を重ね來たれる『無產者新聞の提唱を支持して』突如合同を提議した時に、藉口として之れを容れ得るほど、それほど日勞黨の幹部諸君が寛容ではないことは、聰明なる勞農黨の指導者諸君の豫見し得ざる所ではなかつた。たゞ、單なる一の可能性としては、幹部の反撥、拒否にも拘らず、日勞黨內の大衆が壓倒的に勞農黨の提議を支持するといふことはあり得た。だが、第二に、勞農黨は、此の唯一の可能性を實現に導くべき準備をも缺いてゐた。工場及び農村に在る兩黨の大衆乃至は先進分子の間の結びつきは殆ど出來てゐなかつた。反對に、双方から煽られた對立意識の下に、兩黨の大衆及び先進分子の大多數は、二つの「友黨」を最惡の敵視するほどの「我黨」意識にまで「高め」られてゐた。日勞黨の大會の結果が、それを證して餘りある。

勞農黨が、かうした條件の下に合同を提議しなければならなかつたのは、同黨內において一種の政黨官僚の役目を演じ來たれる宗派的分裂主義者の一派のマヌーヴァーに基づいてゐる。此の一派は、自己の謂はゆる「戰鬪的統一」への指導方針卽ち宗派的分裂主義の完全なる破綻の到來に脅され、何等の準備もなく、何等の成算もなく、急遽、合同を提唱することによつて、自己の危ふき立場を有利に轉回せんと試みた。かゝる試みそのものが、何よりも雄辯に宗派的分裂主義の救ふべからざる誤謬を物語つてゐる。しかるに此の一派は、階級の爲めに自ら進んで此の誤謬を公然と清算してもつて眞に左翼的指導分子たるに恥ぢざる自己を立證せんとする代りに、「情勢の變化」に藉口して從來の「戰鬪的統一」主義の誤謬を覆はんとしてゐるかに見られる。果して然らば、それがデマゴギー以外の何物であらうか？

勞働黨の合同提唱は、それが「戰鬪的統一」の分裂主義の放棄を意味する限りでは絕對に正しい。勞働黨の大衆及び先進分子は、統一合同への正しき運動を飽く迄も促進すべきである。だが、かゝる努力における諸君の任務は、速かに、直接的に、日勞黨及び社會民衆黨の先進分子及び大衆と結びつくことにある。そして今一つの任務は、自黨內の宗派的主義者の自己淸算を敢行せしめてもつて他黨における諸君の同僚をして再び勞農黨の「誠意」を云々し得ざらしめるにある。此の二つの任務の遂行によつて諸君は、諸君の小なる「我黨」意識を克服し、諸君並びに諸君の黨の階級に對する忠誠を立證し、諸君の黨をして統一運動の先頭に立たしめ得るであらう。

かゝる條件が充たされるであらうことを豫想する時、强大なるプロレタリア政治戰線の結成への劃期的な一歩は既に勞農黨によつて踏み出されたと言へる。しかも、同樣な一歩は既に日本勞農黨によつても踏み出された。日本無產階級運動の發展を敍する後世の史家は、その實

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の歴史的轉期の一つを劃る一章の筆を、一九二七年十二月に起すかも知れない。

だが、合同への意思表示の點では、勞農黨がその正しき機會を捉え得なかつたやうに、日勞黨もまた一つの誤を犯した。日勞黨が、無産黨統一協議會の組織の『單一絕對條件』として、『宗派的分裂主義（所謂福本主義）及同主義者の徹底的排除』を要求したのは、その『排除』が若し『除名放逐』を意味するならば、必然にそれは合同運動を挫折せしめるといふ技術的過誤を含んだばかりでなく、勞働者農民の政黨の合同の場合に條件たり得ざるものを條件たらしめた點において、原則上の誤謬を犯したことになる。謂ふ所の『宗派的分裂主義（所謂福本主義）及同主義者』の過誤は、指導方針における過誤として、階級を裏切る程のものではなく、裏切らんとする意思を含むものでは尙更らない。從つてそれは、公然の自己清算に適するものであり、それこそが絕對的に必要なのだ。而かもその過誤は、實踐では日勞黨の聲明書に謂はゆる『急角度を描いた轉換』をもつてなされた合同の提唱そのものに始まつて今や自己克服の過程にある。プロレタリアがその無二の同盟軍農民大衆と鞏固に結びつくための重要形態にして大衆動員の重要機關であるところから飽くまでも大衆的でなければならない勞働者農民の政黨は、その本質上、當然に種々雜多なる指導方針を信ずる分子を抱擁しなくてはならぬ。如何なる行掛りがあるにもせよ、かゝる分子の特定のものの除名を條件とする合同提議は、多くの場合、事

において合同の拒否となる。異せる時、『農民勞働黨』の條件に藉つて、社會民衆黨飽迄も合同を拒否せんとする、日和見主義的分裂主義の、の若干幹部のマヌーヴァーに機會を供した。

吾々は飽くまでも二つの分裂主義と戰はねばならぬ。それは、單に個々人が偶然的に犯した過誤ではなく、日本無産階級運動の現段階における指導方針上の一傾向として、社會的基礎を有し、執拗に根氣よく戰ふことによつてのみ克服され得る性質のものである。またそれとの闘ひを續けることなしには、强力な統一戰線の獲得は不能である。──だが、しかし、その闘爭は、先づ合同そのものをもつて始まらねばならぬ。排他分立狀態が續く限り、分裂主義は永久に克服せられないであらう。

スタートを切つた合同運動は、黨と黨との交涉においては一と先づ挫折した。だが、勞農、日勞、社民三黨の先進分子の多くは、明確に合同への意思を固め始めてゐる。吾々は、かゝる分子の接近と、隔意なき協議と、端緒的な結びつきが、急務であるのを見る。それのみが、戰線統一の運動を、その質を、力を、飛躍的に高めるであらう。正統左翼主義は、當面の合同運動が、眞の階級的指導勢力の結晶への端緒をつかましむる楔機であることを敎へる。日本プロレタリアートは、かゝる楔機の正しき把握から始めねばならぬ。

（一の特殊具體的な問題としての合同運動に對する批判は、中央公論に寄せた別稿に展開しておいた）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アリストテレースの『流通の正義』＝マルクスの其解釋に關する疑（其二）

附　河上博士等譯資本論中或重要なる不正確又は誤謬について

福田德三

（七）

前段（五）の初めに於いて、資本論フランス譯序文の譯文を掲出して置いたが、其前後の文に誤植があつて、意味が全く反對となつてゐるから、茲にこれを訂正して置かねばならぬ。

前號四五頁上段一至五行は左の如くあるべきであつたのである。

『さて、私が當面の問題とすることに關しては、フランス譯文第一版序文——河上博士等の所謂序でない本當の序文——は、此論文の最初に開題文として掲げた原文第一版の序文中の一節——此文、カウツキー民衆版にも、英譯本にも、河上博士等邦譯本にもなし——を載せざる點に於いて、原本第一版の序文とは、著しく異るものである。其文左の如し。』（以下の註記は誤つて混入せるもの）。

更らに、四六頁上段第一行は左の如くある可きである。

『即ち、私が開題文としてあげた一條は、此フランス譯に掲げられた原文第一版序中にも、第二版跋文中にも見出されず、而して、此言は』

右正誤を特に茲に掲ぐるわけは、『資本論第一版序文』なるものについて、並に、『第二版跋文』なるものについて、マルクス自らを始め、

エンゲルス、カウツキー、及び、カウツキー[illegible]に依りてなされたるが如く見ゆる河上博士たちの手に於いて、若干の混同、不正確が見出さるる其事實を、特に明かにして置きたいが爲めである。

先づ第一からあげて見れば、既に、斷片的には、前段に於いて指摘して置いたことであるが、抑も、『資本論第一版序文』なるものには、不思議にも、マルクス自らの手に於いて、三樣の異文が公けにされてゐることこれである。

三樣の異文とは、左の如きものを云ふ。

（一）一八六七年刊の眞正の第一版の卷頭に掲げられた倫敦一八六七年七月二十六日付の第一版序文‖眞正の第一版序文。

（二）刊年不明 恐らく一八七五年 のロア譯マルクス閱のフランス譯本の卷頭に掲げられた倫敦一八七五年七月二十五日付の第一版序文‖削り取り第一版序文。

（三）一八七二年刊 但し實際は一八七三年刊なるべく思はる の第二訂正版の卷頭に掲げられた倫敦一八六七年七月二十五日付第一版序文‖削り取り並に日付錯簡の第一版序文。

右三者は、正しく[illegible]でなく、夫れ〴〵多少異るものであつて、而して、其差異の點[illegible]が、今問題とするところに、直ちに關聯してゐるのである。從つて、其異同について、事實を明かにして置く必要があるのである。

私が問題の開題文として、此の小さい論文の初めに掲げた『價値形態』を說いた部分に關するマルクスの讀者への注意書は、右の三樣の第一版序文中、獨り（一）のみこれを掲げてゐるのであつて、（二）（三）共に、全くこれを削り取つてあるのである。此點（一）は他の二種の序文なるものと異るのである。

（二）は、國語の相違から來る差異の條々を除いて、大體に於いて、（三）と同じなる削り取り序文であるが、玆に異とすべきことは、其日付が、（一）とも（三）とも異りて、一八七五年となつてゐるのである。其月日は、故意か、偶然か、何れも、七月二十五日とせられてある。其他方に於いて、（三）は斯く、內容から見れば、（二）と殆んど同一物であつて（一）とは異るものであるに拘らず、其日付は、眞正第一版序文の日付其儘に、一八六七年七月二十五日とせられてある。

（三）に於いて異るところは、第一版序文の題に、直ちに註記して、『第二版跋文は後に掲ぐ』としてあることこれである。此文は、フラン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ス譯の(二)には見出されず、またドイツ原文の他の何れの版にも見出されず、獨り此の第二版のみこれを掲出してゐるのである。而して、(三)に於いては、卷末に、其の第二版跋文なるものゝ全文が掲げられてあるが、フランス譯本に於いては、卷末に『第二版跋文拔萃』と題して、初め四項其他若干部分を削り取つたものが、收められてゐる。

右の事實を眼の前にする我々は、世上に、マルクス資本論第一版の序文と稱せられるものは、一體、右三様の異文中、其何れを指して云ふものなるかについて、惑なき能はざるのである。マルクス自ら三様の異文を我々に與へてゐる。而して、第三版以後の編輯者たるエンゲルスは、右三様の異文中(三)を其儘に掲出してゐる。幾多の點に於いて、エンゲルスの誤謬を訂したカウツキーも、此一事については、一言も辨ずるところなく、エンゲルスの先例を其儘踏襲するに止めてゐる。更らに、カウツキー以上に、細密の校訂を重ねられたかの如き河上博士たちも、『第一版への序文』として、眞正の第一版序文でない、削り取り並に日付け錯簡の第一版序文を、何の斷りかきなしに其邦譯に掲出して居られるのである。

換言すれば、高畠氏とは、其の藁本を異にし『同氏の譯本のすでに廣く行はれおるに拘らず、別に新譯を敢て』したものたるに拘らず、此點に於いては、河上本は、全く異るところはないのである。

此の一事は、恐らく、近頃刊行を始めたリヤザノフ氏の『マルクス、エンゲルス全集』中に於いては、詳しく考證せられて、其の眞相を明かに示されることであらうと思ふが、今日までのところ、而して、寡聞なる私の眼の届く限り、未だ何れの學者——マルキシストも非マルキシストも——も、これを指摘したものがないようである。これは、むしろ一奇とすべきではあるまいか。

私は、偶々事が、私の當面の問題に關するものなるが故に、茲にこれを擧ぐるにすぎないので、其事自らには何等の重きを置くものではない。然るに、此事よりも、遙かに、末梢的な事柄について、神經過敏に是正的な學者たちが、此事に、些も言及しないのは可笑しなことだと感ぜざるを得ないのである。

其一例として、エンゲルスの不正確、而して其れを是正したカウツキー、其カウツキーを唯與踏した河上博士たちを揚げて、カウツキーに倣はざりしの故を以つて、高畠氏譯本を貶する、三木清氏の近頃の一文をあげることが出來る。事は、前述第二の點に關する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

マルクスは、フランス譯本の巻尾に、第二版ドイツ刊本跋文抜萃なるものを譯掲せしめてゐる。其れは、前段にあげた通り、河上博士たちが、『全部書き變へた』云々の譯を着けられた箇所の前後四項に亘つて、これを削り取つたものである。削り取りは、其以外にも、多少は見出される。正確、綿密なマルクスは、從つて、其題を、單に『跋文』とせず、『跋文抜萃』としてゐる。ところが、マルクスの此の周到なる用意はエンゲルスによつて、裏切られてゐる。何となれば、エンゲルスは、斯く、文初の四項を削り取つた儘のものを『抜萃』なる文字を附せず、且つまた、『跋文』なる文字をも削り取つて、單に『第二版へ』と題せしめ、更らに、また其地位を巻末から巻頭へ移して、第一版序文——削り取り且日付錯簡の(三)——の次へ収めたまゝ、第三版（一八八三年ハムブルグ刊）以降の各版に刷出せしめてゐる。而して、更らに第三版には、一八八三年の日付で、『第三版へ』と題して、エンゲルス自らの序文を添へ、第四版には、更らにまた、一八九〇年附で『第四版へ』てふ序文をも添へてゐる。（第五版以下は、エンゲルスの序文新加なし。）

單に、『第二版へ』と題して、序文と云ふ文字は加へてはないが、巻頭に第一版序文に續いて、而して、第三、第四版への序文の前へ挾んで置いてある以上、エンゲルスは、右を、序文として取扱つたものと認めるの外はない。更にエンゲルス自ら編纂者として監修した一八八六年刊英國版英譯資本論第一巻には、原著者跋文として、『第一版へ』『第二版へ』と併掲してあるによつて、此事は疑ない。（米國版英譯本も全く此例を踏襲してゐる。）從つて、エンゲルス編纂本を底本とした高畠氏邦譯資本論が『第一版原著者序文』の次へ『第二版原著者序文』と題して、其文を譯掲してゐるのは、素元より當然である。氏は更らに、エンゲルスの第三版、第四版序文をも譯掲してゐる。河上博士等本には、此れを缺いてゐる。

尤もファン、デル、グースの和蘭譯本（一九一〇年刊）には、エンゲルスを其儘に、別に、『序文』なる文字を附せず。Bij de tweede uitgave（第二版へ）とのみしてある。しかし、これは、唯だ、『序文』てふ文字を附けないのみで、第一版序文に續いて巻頭へ掲げてあるから、無論エンゲルス同様、序文と認めたものに相違ない。更らに、モリトル氏のフランス譯『マルクス全集本』の第一册（一九二四年刊）には、明かに、『第二版序文』と題して、初め四項を削り取らざる原跋文が其まゝに譯出されてある。

河上博士たちの譯出されたものは右、モリトル氏のと同じもので、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

而して、其れは、カウツキー通り『第二版への跋文』と題してあり、其文を、マルクスの爲した如く卷末へ載せず、これを卷頭に置くと云ふ些事に至るまで、――其何故なるかは無斷にて――忠實にカウツキーに追從してある。無論文初四項は削り去らずにある。何となれは、カウツキーが削り取つてゐないから――であらう。

かくて、我々は、此點に於いて、忠實にエンゲルスに從つた高畠本、同じく忠實にカウツキーに倣つた河上本の二つの日本譯を有する次第であるが、マルクスの眞本其儘の日本譯は、未だ一つもこれを惠まれてないのであることは、玆に記して置かねばならぬ。

（八）

既に第一版序文の取扱についてすら、必ずしも神經過敏的に、マルクスの眞本其儘でなければならぬなどと考へざる私共は、第二版跋文の取扱の如き、より小なる事に於いて、マルクスの眞本通りでない故を以て、彼是咎め立てするの無益なるを感じつゝあるものであるが、玆に右云ふ三木氏は、其一方を棚へ上げ置いて、他のより小なることでカウツキー模倣の河上本を揚げ、エンゲルス通りの高畠本を貶して居ることを見て、甚だ笑止なことと覺えざるを得ないのである。即ち氏は、東京日々紙（二年十一月七日所揭）の一文に於いて、『第二版への跋文（これは、事實、跋文であるに拘らず、高畠本では、「序文」となつてゐる）』と、恰かも、跋を序としたのは、高畠本に始まるか如きことを記してある。氏は、ハムブルグ版本も、數多き各國語の譯本も、殊に市中にゴロゴロしてゐるモリトル氏の最近のフランス譯本をも、一瞥することなかりしものと見へる。さりとは、遼東の豕たるも甚しい。

氏の遼東豕は、更らに同紙に揭出した其の第二文（同月二十一日號）に於いて、『私が、カウツキー版に從つて、跋文とすべき處を、高畠本には『序文』となつてゐると注意したのに對し』云々の語に至つて殊に滑稽の感を呈する。高畠氏從つてエンゲルスの所爲の當否を討すべき基準なるものありとすれば、其れは、無論カウツキーであるべきではない。著者マルクス其人の外になかるべき筈である。『私がカウツキー版に從つては』は、噴飯に値する。高畠氏に注意する親切と綿密とを有するならば、何故マルクスの眞本に從つて注意せられなかつたのか。エンゲルス第四版が、決定版でない如く、カウツキー民衆版も、また決定版ではない。マルクスの本は、マルクス自らの眞本によつて決するの外はなかるべきではないか。カウツキー本に、幾多の遺漏があることは、知る人ぞ知る。河上博士達の底本たりしてふ事は、決して、カウツキー本に、何等の權威をも、附與する所以ではないのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若し、高畠氏に注意すべきことありとしたら、其は、跋文が、序文となつてゐるてふ些事よりも、其は、マルクスの原文の全文でなく、初め四項が削り取られたものであると云ふ、遙かにより重要な一事であつたるべきである。しかるに、些事について注意する三木氏は、より肝要なことについて、何も言つて居らぬ。否、三木氏が、注意すべかりし、最も肝要な事は、エンゲルスによる此の改竄ではない、マルクス自らによる三種の第一版序文の併立これであらねばならぬ。而して其の注意を受くべき人は、獨り高畠氏のみではない、河上博士たちも、亦注意せらるべかりしである。三木氏は、河上博士たちには注意せずして、獨り高畠氏に對して、而も、遙かに、肝要の少いことについて、注意して、而して『邦譯二著の對立』などと云はれる。私は、氏の哲學者としての用意の周到について、惑なきを得ないものである。

否、高畠、河上兩氏よりも、更らに、より多く、三木氏の注意を被るべかりし人は、第二版跋文をエンゲルスの改竄から救ひ出して置き乍ら、第一版序文に關はるマルクス自らの爲すところについて、何事もせずに捨て置いたカウツキー氏其人でなければならなかつたるべき筈ではないか。

これを要するに、此くの如きことについて、特に注意を要するとすれば、第一に、注意せらるべきは、著者マルクス其人であり、第二に改竄を敢てした第三版以下の編輯者エンゲルスであり、第三に校訂の業を企て、錯簡、誤謬を出來る丈け訂したと公言する民衆版の編者カウツキーであり、第四に、マルクスの眞を得んとの熱心からエンゲルスを捨て、カウツキーを取つた河上博士たちであらねばならぬ。エンゲルス版第六版を底本としたと公言する高畠氏は、此等の詮索立ての些事については、殆んど何も注意を被むるべき點を有つて居らぬのである。殊に、『私の語學は、英獨二語に限られてゐる』又は『舊版は兎に角失敗であつた』と率直に告白してゐる同氏に對しては、此等の些事は、元より何等問題とならないと信ずる。更らに、高畠氏が、資本論の邦譯に着手せられた頃は、カウツキーの民衆版は、未だ同氏の見ざるところであつた。小泉信三教授が三田學會雜誌で、此版本のことを紹介せられたのが、恐らく、同氏が、此版本の存在を知られた端緒であつたらしく思はれる。同氏が、エンゲルス版を底本としたことは、決めて當然なことである。之れに反し、一九二七年の今日、カウツキー版のみに追從して邦譯本を作る河上博士たちの方が、必ずしも當然とは思はれない。カウツキー版に據るは元より妨げない。しかし、其れと共に、各種の他國語譯本や、將たまたマルクスの眞本を、自由自在に見る便宜と特典とを有する河上博士たちが、カウツキー版に於け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る訂正丈けを以つて滿足するに止るは、——若しも、カウツキーが右の訂正をしてゐなかつたら、或は河上博士たちもエンゲルスの暫に從つたかも知れない、——決して、用意の萬全を以て許さるべきとは思はれないのである。

事の序に、三木氏の詮索立ての甚だ不思議なものであることの他の一例をあげて見たい。

三木氏は、高畠譯を難じて『この場合 Das Materielle（物質的なるもの）を「物質世界」と譯し、Das Ideelle（觀念的なるもの）を「觀念世界」と譯するは（中畧）、假りに、通俗的になるとしても、それではヘーゲル的、マルクス的用語の特質は失はれ、そのために、讀者を誤解に導く危險がある。すべての獨自なる思想家、學者はその用語を嚴密にすることをつねとした。飜譯はこのことを、絶えず留意せねばならぬ』と、其第一文に於いて云ひ、更らに、石川氏の解嘲を難じた其第二文に「斯くの如き基準の誤認は、氏の方法上の誤謬と關聯してゐる。氏が高畠本の譯語なる「觀念世界」及び「物質世界」に對する私の批難を辯護されたところの方法は誤である。第一に、これらの言葉の出て來る個所は、マルクスがヘーゲルの觀念的辯證法に對して自己の唯物辯證法を述べたところであり、從つて、マルクスがヘーゲルとの對質のために、相手の用語法をここで用ひたのは、自然である。（中略）これら二人を混同するよりも、われわれは、むしろマルクスの原文を忠實に飜譯すべきであらう』と、高畠、エンゲルスを混同して、跋序論を試みマルクスの原文を、忠實にも粗末にも、一向に顧みなかつた三木氏は斯く石川氏を難じてゐる。而して、此批難に於いて、氏は、再び其の忠實に飜譯すべしと、人に向つて說くマルクス其人が、如何なる飜譯を是認してゐるかを、一向考慮してゐないのは、笑止千萬なことである。

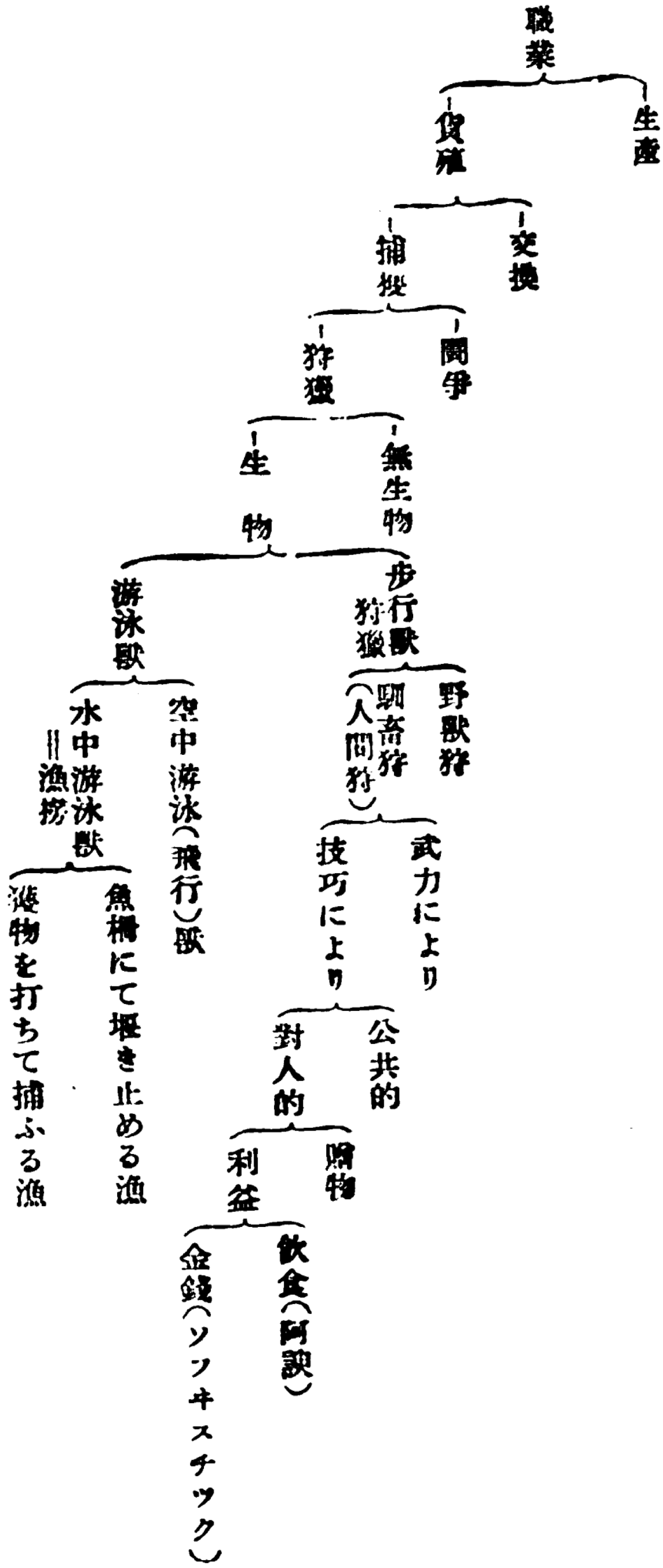
方法上の誤謬。マルクス用語法の特質。獨自なる思想家。その用語の嚴密。觀念的對唯物的辯證法。等。等。三木氏の此れらの陳列言を朝めしに際して、一讀するに止る讀者は、同氏の如何にも博學なることを知り得ると共に、河上氏の譯本は、如何にも比倫を絶する底に、高畠本に對して、優越なものであることを敎へらるゝ他方に、高畠本とは、如何にも、ヘーゲル的、マルクス的に、素人臭いものであり、其れを辯護する石川氏の方法上の誤謬（!?）とかは、如何にも許し難いものであることを悟得せしめられたことを、喜ぶであらう。讀者よ、早まること勿れ。昔しプラトーン、アリストテレースの時代の希臘に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一派の學者たちがあつた。其言は博安、其意氣は軒昂、容易く他を罵じ、容易く他を稱す。名けて、ソフキストと言ひ、其手段はソフキスチツクと呼ばれてゐた。私は、今端なく、其學者たちを想出さずにゐられない。乞ふ。プラトーンの言を聞くまで待たれたい。

(九)

プラトーンは、『ソフキスト』と題する對話一篇を殘してゐる。其中に甚だ興味深く職業の分類を爲して、ソフキストの面目を躍如たらしめてゐる。今讀者の便の爲めに、これを表にして掲げて見よう。



ソコデ、ソフキスチツクについての、プラトーンの第一の定義は、貨殖の術の中、捕獲に屬し、更らに、生物捕獲に屬し、其中で、馴畜狩に屬し、其中人間を狩るものであつて、金錢に換へる交換で、教訓の形式の下に、若くして富める人々を捕獲する術、これが、ソフキスチツクであるといふのである。

ステフアヌス頁二一九bから二二三bまで。マーチン・ハイデガー教授の一九二四—二五冬學期講義に『プラトーンの諸對話篇。ソフキスト』の難篇があるが、殘念乍ら刊本はない。私は講義筆記を有つのみであるが、多分三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

木氏は、親しく、其講義を聽聞するの特恵を享けた一人であつたらうと想像する。

三木氏の博學なる、遠い昔しの希臘のソフキスチック的捕獲術を、其の資本論邦譯二種の對立論に應用して居られるものなるが如き感が惹き起される。これは、極めて博學なマルキシストや此頃のドイツ哲學祖述者らの間に、時には、見出さるゝところではあるが、三木氏の文に於けるほど、巧妙に應用せられた捕獲の例は、寡聞なる私の多く見ざるところである。但しプラトーンの『貨幣』は何か他の適當語によつて置き換らる可きは元よりである。

乍去、此のソフキスチックの捕網から脱出することは、極めて容易なことである。其れはマルクス自らが、右當該の文を如何に外國語に譯出することを欲したかを、顧みさへすれば足りるのである。マルクスは、生前資本論の英語譯を準備しつゝあつたとのことであるが、其文は今ついて、これを知ることが出來ない。幸にして、フランス語譯については、マルクス親閲公認のロア氏の本がある。其本には、右當該の箇所は、實に、左の如く、譯出せられてあるのである。

Ma méthode dialectique, non-seulement diffère par la base de la méthode hégélienne, mais elle en est même l'exact opposé. Pour Hegel le mouvement de la pensée, qu'il Personnifie sous le nom de l'idée, est le démiurge de la réalité, laquelle n'est que la forme phénoménale de l'idée. Pour moi, au contraire, le mouvement de la pensée n'est que la réflexion du mouvement réel, transporté et transposé dans le cerveau de l'homme. Extraits de la postface de la seconde édition allemande. P. 350 b.

『私のヂアレクチック方法は、啻に、其の根柢に於いて、ヘーゲル的方法と異るのみでなく、却つて、其の正反對ですらある。ヘーゲルに取つては、彼が、觀念の名の下に人格化するところの、思想の運動は、現實の創造神であり、現實は、觀念の現象形態たるにすぎない。私に取つては、其の反對に、思想の運動は、人間の腦中に移轉され、置き換へられた現實的運動の反射たるに外ならない。』

何處に、『觀念的なるもの』だの、『物質的なるもの』などの『ヘーゲル的』『マルクス的』嚴密な用語法などがあるか。若し、其んな嚴密な用語法の特質を失つた爲めに、讀者を誤解に導く危險があるとしたなら、其危險を公認したものは、實に、マルクス其人ではないか。『すべての獨自なる思想家』の一人たるマルクスは、却つて、この用語を嚴密にせざる廉を以つて、三木氏から叱らるべき筈である。飜譯者に對して、絶へずこのことに留意せねばならぬといふ氏は、著者自らは、毫も此事に留意せずして、可なりとするものにや。惟かし、怪しきこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とである。方法上とかの誤が石川氏に存するや否やは、今私の問ふところではない。左様な七面倒な議論を、吹きかけられる前、三木氏自ら、フランス譯を一讀せずして、輕々に、他を上下するてふ學問上の顰學について、反省せらるべきでは、なかつたらうか。

三木氏の論ずることとは、マルクス資本論の外國語への翻譯についてである。其以外の何ものでもない。マルクスの資本論なるものは、マルクスの書いたものである。三木氏の書いたものでも、河上博士の書いたものでもない。マルクス、エンゲルスの異同について、彼是云ふ三木氏は、無論、マルクスとヘーゲルとを混同するの非を知つて居られよう。ヘーゲル文の翻譯についてなら、或は、問題は自ら別であらう。今問題は、マルクスの物した其の資本論の外國語への譯出し方についてにかゝはる。マルクス自らが、フランス文への譯出し方について、親しく校訂した上公認した右一條の譯文について、三木氏は異議を提出する資格を、當然に有つものと自負せられるものではあるまい。氏は、此のフランス譯あるを知らぬ筈はない。知つて居乍ら、高畠、石川兩氏に對して、其の博詞宏辯を費やすは、鬼面——但し張子製——他を驚かして、高畠譯の如何にも、見すぼらしいものであるかを、朝めし前に急ぎ日刊新聞を一讀する何十萬の人々に吹き込んで、『讀音狩』に成功しようと欲したものと推する外に、解釋の道はない。

即ちプラトーンの分類定義による顯著精製術の一としてのソフヰスチツクを、昭和の日本に輸入せられたものではないかと、私の疑ふ所以である。

三木氏の文にヒントを得て河上博士等の譯本を、再度手にした私は、其の序文中に、三木氏のとは、趣きを異にしては居るが、其の所謂『綿密』又は『正確』なるものについての面白い一例を見出した。博士等は『マルクスは、或意味において文字の末梢にまで神經の敏感性を有し（中略）試にこれをこの第一分册の範圍についていへば、例へば、abstrakt menschliche Arbeit といふ場合に abstrakt を abstrakte としてゐないのは、たゞ、e 一文字の差であるけれども、そこには、方法論上重大な意義(!?)が——形式論理における抽象との區別が——含められてある。これをただ『抽象的人間的勞働』と譯出するが如きは、原著者の用意を全く看過することになる（序文五頁）云々と云つて、高畠本に『抽象的人間勞働』としてあることを明示はしてないが暗に非難して、高畠譯は、此の方法論上の重大な意義を無視し、マルクスの用意を全く看過したものなるを諷してある。（但し博士たちは、高畠本を眼中には置かぬと辯せられるではあらう。其は、御随意として置く。）三木氏の『方法上の誤謬、』河上博士たちの『方法論上の重大な意義』など、など、『方法論』若し靈あらば、斯くも、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

屢々安價な讃賛祭祀を浴せかけられることを、迷惑千萬に感ずるであらうと考へられる。兎に角、我々『方法論』に無學無知な非哲學的俗學者流は、かくして、何度も、膽を寒からしめられる。

しかし、河上博士たちのあげた此場合は、別に『方法論』の御神詮を閉帳する必要の少しもない、極めて簡單明瞭な事柄に屬するのである。其れは、ドイツ語第一年生すら周知であるべき筈の文法上の事柄たるにすぎないのである。此の場合の abstrakt は menschlich といふ形容詞を形容する副詞である。而して、此くの如き場合、其副詞は、毫も語尾變化を被るものでないことは、第一年生もこれを知つてゐるべき筈の些細事──重大事ではない──である＝＝尤も、ドイツ語のみならず、英佛伊語は勿論、言語系統の著しく異る露語でも、比較の Steigerung の場合には、副詞は、全體變化を被むる。例へば、много (多く), более (より多く), более всех (最も多く) мало, (少く), менее (より少く) менее всех (最も少く)＝＝、マルクスが、abstrakt を變化させないのは、單に、文法上の規則に從つたもので、方法論上重大な意義などを少しも有たぬのである。若しも然らずして abstrakte と書いたなら、其れは、『勞働』を形容する形容詞であつて、『人間的』を形容する副詞ではないことに、當然なる丈けのことである。

然るに、河上博士等は、此の簡明な一句を『抽象性における人間の勞働』と譯出して、『かゝる冗長なる譯語に書き替へることは、たしかに不手際に相違ないが、吾々はウオレースのヘーゲル譯に倣ひ(!?)、已むをえざる場合には、必ずしも原文の字數や語數などに頓着せず、むしろ偏へに原意に、忠實ならんことを努めたのである』と、事々しく説明して居られる。此れ丈けを承ると、河上博士たちの鋭感性、正確性は、實に高畠本などの夢にも思ひ及ばざる驚く可き斗りのものであつて、『自から其の新譯を要する所以を明かに』し、其れと共に、日本語なるものは、斯くも、不手際な譯出方をしか許さぬ、憐れ千萬な語らしく見へる。しかし、私は左樣は思はない。イクラ日本語が貧弱なものであらうとも、副詞を副詞として譯出することの出來ない程甚しいものだとは考へられない。右の一句は、『抽象的に人間的な勞働』又は『抽象的人間の勞働』とでもすれば、原意は、誤なく傳へられる樣に感ずる。殊に、博士たちの樣に、小黑丸を惜氣もなく使用するとすれば『抽象的・人間的勞働』は、『抽象的』が形容詞なる場合と定めて置けば、其れと、混同誤解される虞はなかるべきではないか。否々、斯くの如き詮索立ても、河上博士たちの言があるからのことで、實を云へば、其れ丈けの鋭感性はマルクスは、他國語への飜譯に於いて、必

ずしも要求しては居らぬのである。其證據は、マルクス公認のロア氏フランス譯には、右の一句は、極めてアッサリと、le travail humain abstrait となつてゐる。即ち、抽象的は、必ずしも、humain にかゝると云へず travail にかゝると見ても差支ないのである。若しフランス語で、河上博士流に、綿密に、原文を出さうとなれば、le travail abstrait ement humain とすべきであつたらう。マルクスが、左樣させてないところを見ると、e 一文字の有無の方法論上の重大なる意味云々、は自ら噴飯し出すではあるまいかと思はれる。河上博士たちの敏感性は、玆ではあわれ、マルクス自らによつて、嘲られた如くに見へるも、笑止とこそ申すべきであらうか。兎に角ロア譯と高畠譯との間には、何等方法論上重大な相違の横はつて居らぬこと丈けは、明々白々なことである。

何れにしても、三木氏や河上博士たちのマルクス禮讃中には、以上の樣に最高度にまで引揚げられた詮索立て、綿密さ、正確性、而して其れを宣傳する博學振りが、含まれてゐることは、注目に値する特徴なるかの如く見へる。

(十)

閑話休題。

アリストテレースの經濟説については、經濟學史の書物には、多少なりとも、必ず言及してゐるところであるが、大部分は、極めて簡單な紹介に止り、特に研究の跡を示めして居らぬ。特に古代希臘の經濟學説、經濟思想を取扱つた若干の書物に於いても、アリストテレースを稱揚する言は載せてあるが、何故に、其の經濟學説が重要視せらるべきであるかを適確に示したものは、甚だ少いのである。其反對に今日の經濟學に對するアリストテレース經濟學説の貢獻を、一掃的に否認する者も見出される。其甚だ著しいものとして、玆に、西洋と日本とから、各一例づゝをあげて見たい。

西洋のは、フランスの經濟史家スーションの『古代希臘に於ける經濟諸理論』(巴里一八九八年刊。六―八頁)中の左の言である。

『我々の中、誰人にても、其の經濟學的信念に於いて、プラトーンやアリストテレースに、負ふ可き何ものを有つものは、一人もない。(中略) 古代希臘の遠い過去にまで溯つて、我々の思想とは、餘りに緣遠いことが、慥かに疑ない若干の不明瞭な思想などを尋討することは、我々の現代的研究を、何等助くる見込のない、甚だ無益な業である。』

日本からの一例とは、近刊『社會科學研究』掲載の高橋誠一郎氏の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「アリストオ(?)テレス經濟學」の中の次ぎの言である。

『然るに、其合理的要素を古代哲學に求めたるスコラ哲學の拘束より解放せられんとする近世哲學の努力は徐々に實現せられたり。倫理的及び政治的科學の研究者は、彼れ等の問題の解決を思想界の暴君(!?)たる、アリストオテレスの權威に求めずして、人間性の直接研究に依賴せり。而して傲岸なる新興ブルジュワジーは又た、經濟の眼を以て、商工業を蔑たる古代哲學に學ぶ所なくして、只管自己の力によつて自己の問題を解決せんとせるなり。國民經濟學は「萬學の父」アリストオテレスに發せずして、却つて、アリストオテレス及びスコラ哲學に對する反抗の時代に萌芽を發したるものなり。』

右誌第一卷第三號
八一―八二頁

茲に、右諸例と對立せる最も輝ける正反對の例は、實に我がマルクスに於いて、見出されるのである。マルクスは資本論第一卷丈けに於いて三度も繰返して、最上級の尊稱を、アリストテレースに與へてゐる。即ち、民衆版で云へば、第二四頁に、『偉大なる研究者』、第四五頁に『思想界の巨人』、第三五二頁に『古代の最大思想家』と云つてゐる。而して、(一)價値形態について、(二)奴隸勞働について、(三)財の二様の用途について、(四)貨殖と家計との別について、(五)利子について、(六)人間の社交動物なることについて、(七)貨幣について、など數ヶ所に、アリストテレースの言をあげて、自說の吟味・裏書・對照などに當てゝゐるのである。就中、彼が、最も深い尊敬の態度を以つてアリストテレースの說を引用し、論評してゐるのは、私が今當面の問題とする等價形態論中に於いてである。今其文を河上博士等の譯本から、次に引用して置く。此引用文は、私に於いて、一も手をふれず、原譯文其まゝ同譯本八二頁以下から引く。

「最後に展開した等價形態の二つの特徴は、價値形態をば、多くの思惟諸形態や社會諸形態や自然諸形態やとともに、始めて分析したところの、かの偉大なる研究者にまで吾々が遡るならば、なほ一層理解し易くなるであらう。それはアリストテレスを指す。

アリストテレスは先づ、商品の貨幣形態はたゞ簡單なる價値形態の・すなはち一商品の價値の任意なる他の一商品における表現の・より發展せる姿であることを、明白に述べる。彼はいふ、

『5枚の床=1軒の家』(κλίναι πέντε ἀντὶ οἰκίας)
は『5枚の床=若干の貨幣』(κλίναι πέντε ἀντὶ … ὅσου αἱ πέντε κλίναι)
と『異るところはない』。

彼は更に、かゝる價値表現を含んでゐる價値關係は、そのもの自體において、家は床に對し質的に平等とされることを・またこれらの感性的に異れる物はかゝる本質上の平等なくしては同一單位にて

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

測りうべき大きさとして互に關係しえないだらうことを・條件づけてゐるといふことを、洞察してゐる。彼はいふ、『交換は平等なくして存在しえない、しかし平等は通約性なくしては存在しえない』(οὔτ' ἰσότης μὴ οὔσης συμμετρίας) と。しかし彼はこゝで立ち停つて、價値形態のより以上の分析を拋棄した。『かくも多種多樣なる物が同一單位で測られうるといふことは』、すなはち質的に等しいといふことは、『しかし實際には不可能である』(τῇ μὲν οὖν ἀληθείᾳ ἀδύνατον)。かゝる平等の取扱は物の眞の性質とは何等か無關係のものでしかありえない、從つてたゞ『實際的必要の應急手段』(二一a)たるにすぎない。

(二一a)〔アリストテレス著『ニコマーコス倫理學』十卷本、第五卷、第八節。——カウツキー補註〕

かくてアリストテレスは、彼れのより以上の分析がどこで挫折したかを、すなはち價値概念の缺亡を、彼れ自から吾々に語つてゐる。褥の價値において家が褥に對して表はすところの、ある平等なるもの、すなはち共通なる實體は、何であるか? かゝるものは『實際には在りえない』とアリストテレスは云ふ。何故か? けだし家は、褥と家との双方に存在するところの現實的に平等なる或るものを代表する限りにおいて、褥に對し平等なる或るものを代表する。そしてそれは——人間勞働である。

しかるに、總ての勞働が商品價値の形態においては平等なる人間勞働として、且つそれゆゑに相等しと看做さるゝものとして、表現されるといふことは、價値形態そのものからはアリストテレスの看取しえざるところであつた。なぜなれば、ギリシャの社會は奴隷勞働に立脚してをり、それゆゑに人間および人間の勞働力の不平等をその自然的基礎としてゐたのであるから。價値表現の秘密は、——あらゆる勞働は、それが人間勞働一般であるがゆゑに、またその限りにおいて、平等性と等一な妥當性とを有すといふことは——人間平等の概念がすでに國民的信念の固定性をもつに至つたとき、漸く闡明されうる。しかしかくの如きは、商品形態が勞働生產物の一般的形態であり、かくてまた商品所有者としての人間相互の關係が支配的な社會的關係であるやうな社會において、始めて可能である。アリストテレスの才の英は、彼れが商品の價値表現のうちに一の平等關係を見出したといふ點にこそ、正に光り輝く。たゞ彼れの生活せし社會の歷史的限界は、この平等關係が『實際には』何において成立するかを發見することから、彼れを妨げたのである。』

右當該部分を、高畠氏譯本からも、引いて見よう。(改造社刊本二九、三〇頁。河上博士)文同樣に、手を觸れずに引く。

『これらの最後に述べた等價形態の二特色は、かの思想形態や、社會形態や、自然形態など幾多の形態と相並んで、更らに價値形態をも初めて分析したところの大思想家に溯つて考へるとき、ヨリ理解し易きものとなる。その大思想家といふのは、即ちアリストテレースのことである。

アリストテレースは先づ、商品の貨幣形態なるものが單純なる價値形態、換言すれば（任意に選んだ何等かの商品を以つてする一商品の價値表章）の更らに發達した姿容に過ぎぬことを明かに述べてゐる。即ち彼れは5褥＝1家屋は5褥＝若干の貨幣と『異なるところがない』と言つてゐる。

彼れはまた、この價値表章を含む價値關係が更らに、家屋が褥と質的に等しいものとされること、竝びに斯かる本質上の等一性なくんば、これらの感性的に相異つた物は、通約し得べき大さとして相互に關係せしめられ得るものでないことを認めてゐる。彼れは言ふ。——『交換は等一なくして存在し得るものでなく、等一は通約性なくして存在し得るものでない』と。が、彼れは茲で行き詰つてしまつて、價値形態のそれ以上に進んだ分析を放棄してゐる。『然し斯く種類の異つた者が通約され得るといふこと』換言すれば質的に等しいといふことは、『本當は不可能である。』斯かる等一は、これらの物の眞の性質には關係なきものであつて、『實地の必要に對する應急策たり得るに過ぎぬのである』と。

要するに、アリストテレースは、彼れのそれ以上に進んだ分析が如何なる點で頓挫したかをみづから語つてゐる譯である。即ち、價値概念缺如といふことがその頓挫の原因となつたのである。褥の價値表章に於いて、家屋が褥に比して代表するところの等一物、換言すれば、家屋と褥との雙方に共通するところの實體は何であるか？斯樣な物は『本當に存在し得るものでない』と、アリストテレースは言ふ。何故存在し得ないか。褥と家屋との雙方に於ける現實的の等一物が家屋に依つて代表される限り、家屋は褥に比して等一物を代表することになる。而してその等一物とは、即ち人間勞働のことである。

然るに、商品價値の形態に於いては、一切の勞働が等一なる人間勞働として、即ち同じ値打のものとして言ひ現されるといふ事實を、價値形態それ自身の中から看取することを、アリストテレースにとつて不可能たらしめた原因がある。それは即ち、ギリシヤの社會は奴隷勞働に立脚するものであつて、人類及びその勞働力の不等を自然的の基礎にしてゐたといふ事實である。一切の勞働は人間勞働一般であるが故に、又その限りに於いてのみ、等一であり同じ値

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

打のものであるといふ、價値表章の秘密は、人類平等の概念が既に固定して先入的偏見となつたとき、初めて解明し得るものである。然し斯かる事實は、商品形態が勞働生產物の一般的形態となり、隨つてまた商品所有者としての人類相互の關係が、支配的の社會關係となつてゐる社會の下に、初めて行はれ得ることである。アリストテレースは商品の價値表章の中に等一關係を發見した點に、天才の閃きを示してゐるが、彼れの生存せる社會の歷史的制限に依つて、この等一關係なるものが『本當は』如何なる事實に存してゐるかを見出すことを妨げられたのである。』

高橋誠一郎氏は、前揭文中、マルクスの此の一節について、左の如く記してある。

『後年カール、マルクスは、アリストオテレスの如き大思想家すら、一見交換せられたる物件が有するの觀ある通有的要素及び交易が、是れ等のものをして、等一の價値たらしむるが如き事實に由りて迷はされたるの事實に注意を向けたり。人は言ふ、五個の寢床は一個の家屋と相等しと。マルクス曰く「寢床の價値が家屋によりて表明せらるゝを許す等一なる或る物、共通なる實體は何ぞ。眞に斯くの如きものは存在し得ず（τῇ μὲν οὖν ἀληθείᾳ ἀδύνατον）とアリストオテレスは言ふ。然らば、何が故に存在し得ざるか。家屋が寢床及び家屋の兩者に於て事實等一なるものを代表する限りに於て、寢床と對比して、それは等一なる或る物を代表す。而して之は人間の勞働なり」と。』（資本論第一卷一九二一年二五頁。）

高橋氏の此紹介は、決して、マルクスを正しく傳へたものでないことは、私に於いて、今これを辯ぜずとも、右掲出の兩譯文を、少しく注意して一讀した人々の、直ちに氣付くところであらう。高橋氏の態度は、茲では、全く單に彌次馬的である。何が故に、『アリストテレースは迷はされた』ものと認めざるべからざるかの理由は、寸毫も示されず、單に、マルクス注意の一事を、肯定的口吻を以つてあげてあるに止まる。地下のマルクスは、此の尻馬的ひいきの引倒しに、恐らく迷惑を感ずるものであらう。

マルクスは、先づ偉大なる研究者たるアリストテレースが等價形態の二特徵を、いみじくも看破したる業績を稱揚し、其所說を援き來つて、自說の最有力なる支持者となしたのである。而して後、彼れは自說の更らに、ア氏說に勝りて、價値形態をより徹底的に闡明するものである所以、價値表現に於いて表はさるゝ共通の實體が、人間勞働であることに、アリストテレースの思及ばなかつた所以、而して、其れは希臘社會が奴隸勞働に立脚した社會であり、從つて、人間並に人間勞働力の不平等を、其の自然的基礎としてゐた爲めであることを、論

明してゐるのである。

其は、高橋氏の紹介に表はれたところとは、學問上の意義を著しく異にするものであつて、三木氏等の言はるゝ方法論上の誤謬とは、むしろ、此場合の高橋氏の所言にこそ的中するものではあるまいかと考へられる。而も、其れが、マルクス禮讚文に於いて爲されず、アリストテレース其人の經濟學説を論究した一論文に於いて、爲されてゐるといふことは、私共の輕視し得ざるところである。

スーションや高橋氏やのアリストテレース輕視または無視説に對して、著しい對立を爲すものは、今、露國の經濟學界に於いて、ニコライ・オン氏以後の第一人者と認められてゐるゲレスノフ氏の『社會科學及社會政策季報』第五十卷第一册（一九二二年刊）に寄せた『アリストテレースの經濟學的思界』と題する一文である。其中（同上二九頁）に言ふ。

『アリストテレースの貨幣理論の缺點は、如何に大であらうとも、次ぎのことは、無條件的に認められねばならぬ。貨幣の成立の行程に關する彼の叙述――其れは、序に云ふが、事實的歴史的の過程を叙したものでなく、『理想的』のシエーマを描き出さんとしたものである――が、深くして、巨匠的であるのみでなく、彼の貨幣價値問題の捕へ方は、驚歎に値するものであると共に、之れに比肩すべき説を、近時の經濟諸理論家の間に、輙くは、見出し得ざるものであること、これである。彼の説に、最も多く類似するものは、恐らくマルクスの問題提出方これであらう。而して、玆に、注目に値することは、マルクスは、アリストテレースとは、――福田註。問題の提出方は同じであり乍ら――全く正反對の解答を與へたこと、並びに彼は、アリストテレースの貨幣理論を、可なり詳かに取扱つてゐ乍ら（『經濟學批評』一、二〇、五一、一一二、一一三七の諸頁。及『資本論』第一卷民衆版第二五頁に於いて。）アリストテレースの提案した解答を全く顧みなかつたこと、これである。』

ゲレスノフ氏の論文は、其長さに於いては、高橋氏文の半にも達せぬものであり乍ら、アリストテレース經濟學説の眞相を闡明するに於いては、恐らく其十倍以上にも力あるものである。而も、ヘネーやトリーヴアー等の雜書までも、無數縱横に列記せられてゐる――但し、其列擧方には、疑しき點多々あり――高橋氏の文中、片言隻語も、ゲレスノフ氏の此文に及んで居らぬのは、甚だ惜しい次第と思ふ。兎にも角にも、かくて、『萬學の父』アリストテレースは、脆くも高橋氏によりて克服せられ終つてゐるのである。其れと共に、マルクスのアリストテレース評論の深甚な意味も、亦全く葬り去られてゐるのである――恐れ畏る可き者よ、汝の名は、萬學的經濟學史！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(十一)

さて、マルクスが、前段の引用文に於いて取扱つてゐるアリストテレースの議論は、其の『流通の正義』論の條中に見出さるゝのである。

アリストテレースが、其倫理學第五篇中に、正義を分つて、廣義の正義、**狭義の正義**とし、二者共に正しき中間を守ることによつて得られることを説き、狭義の正義を更らに、配分の正義(τὸ δίκαιον τὸ διανεμητικόν)と、**匡正の正義**(τὸ δίκαιον τὸ διορθωτικόν)の二つとしたことは、人の周く知るところである。前掲高橋氏の論文にも、分配的正義、補正的正義の二つをあげてある。(三一頁) 此事は、今、私の當面の問題とするところでない。而してマルクスの評論も、毫も此事に關係して居らぬのである。マルクスの取扱つて居るところ、而して、私が今問題とするところは、狭義の正義の中、『流通の正義』についてのアリストテレースの所論これである。高橋氏は、『アリストオテレスは周到の注意を以て、正義を區別して分配的の其れと補正的の其れと做せり』と斷言し乍ら、數頁の後に至り(三七頁)突如として、『既述の如く、分配的正義は(中略)然るに、交換的正義は兩者より生ずるものなり』といつてゐる。然らば、氏は、『流通の正義』又は『交換的正義』の別について、何故初めに斷り置かざりしや。數言の央に前後何の關聯もなく、挾むか第三に、正義たる『交換的正義』は兩者より生ずと放言し、而して、毫も其の跡始末を付け居らず。右論文、三六頁最終第二行より三八頁初三行に至る一節は、アリストテレースの(ベッカー)頁にて一一三二b第二十一行以下の一節を、支離滅裂に、恐らく何人かの惡譯について、つなぎ合せて作成された文であらうと想像せられるが、文中、ア氏の原文を引いて示めしたり、アルベルトス・マグヌスを引いたり、又たヘリオドロスのパラフラシスに基いて、教科書類につねに繰返されてゐる對何線圖を掲げたり、極めて博學的なものであることを見ると、ア氏の原文について、考證せられたるかとも思はれる。若し然るならば、其解釋の不透明なることは、驚く可きことと云はねばならぬ。氏は、一體、『交換的正義』なる分類ア氏にありとせらるゝものか否か。若しありとせられるならば、何故に、これを、根本的に否定するグラントを借り來りて、『此の難解なる章句に對してグラントは、下の如き解釋を下せり』と、何等の批評的吟味を加へず、其説に同ぜられたるにや。而も其解釋の半は、パラフラシスの解釋を、グラント氏が取次いだものに過ぎないことを、全く度外に置いてある。其の支離滅裂は、讀む者をして頭痛岑々たらしむるの外、何等教ゆるところないのである。讀者私の此言に疑あらば、乞ふ明窓淨几の下、心を靜かにして、氏の文を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一讀すべく試みられよ。恐らく讀過半に至らずして、長大息を發するに至るであらう。

抑も、アリストテレースの狹義の正義論は、其の倫理學よりも、むしろ、政治學に屬するこそ適當のものであることは、先覺學者の間に定論の存するところである。而して、其の『配分の正義』については、政治學者・經濟學者中、立入つて、これを考察したものも若干は見出される。例へば、シユモラーは、夙に、一八七五年刊の一論文に於いて、これに論及してゐる。『法律及國民經濟の若干の根本問題』六一頁。しかし、彼は、これを以つて、私經濟的流通の過程に關するものとなしてゐる。これは、私を以て見れば、冠履轉倒の論であつて、ア氏の『配分の正義』の本質は、公共的のものであり、其經濟的意義は、流通・交換の上にあるのでなく、公納・貢献・公租等の公經濟的配分にかゝはるものである。之れに反して、シユモラーが、配分の正義の範圍と認めたところは、更らに、第三の正義たる『流通の正義』の領域に屬せしめられてあるのである。此點に於いては、マルクスは、遙かに、シユモラーよりも、遙かに精しく、アリストテレースの說に通じてゐることを示めしてゐるのである。

アリストテレースは、別に『配分の正義』てふ成語を用ゐては居らぬが、其の政治學第三篇に於いて、詳かに、此の問題を取扱つてゐる。其反對に『流通の正義』に就いては、右揭の倫理學第五篇中の一ヶ條のみが我々に殘されてあるのみであつて、此の眞珠を拾ひ上げて、特に研究したマルクスの篤學は、實に敬服に値するのである。『配分の正義』については、人の知ること甚だ周く、從つて、特別の注意を以てせずとも、其處に問題の横はつてゐることだけは、これを知り得られる。『流通の正義』については、左樣ではない。否、配分の正義についてと雖も、シユモラーの學問を以てしてさへ、猶ほ誤あるを免れなかつた。其の經濟學的の眞意義を、始めて發見し、其れに基いて、租稅給付能力の根本原理を打立つべく奮闘したのは、實に、或意味に於いては、其の偉大さの今日と雖も未だ秘れて居ると云ふ可きノイマン教授一人あるのみである。前號所揭文献表を見よ。此文についても、高橋氏論文中、何の所見なし。而して、アリストテレースは評論せらる。吁。教授は、流通の正義については立入つて考察して居ない。これは、實に學問の爲め殘念千萬なことではあるが、氏の問題の捉へ方に於いては、まさに當然の事である。かくて、マルクスは、最後まで其光明を失はざる最も輝ける學星として殘る。私は、此問題について、マルクスの示唆を得てから以來、可なり長い間、關係文献を涉獵して見たが、ついに、右の如く斷言するの外ないものである。偉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なる哉マルクス！　私は記して、此に至り感激無量なるなきを得ざるものである。

（十二）

さて、先づ順序として、アリストテレースに、『流通の正義』などとの第三分類は認められぬと主張する説の一端を紹介せねばならぬ。

此の説を主張するものゝ中最も有名、有力なるは、ツェラー、ヒルデンブランド並に英國のグラントの三氏である。（書名何れも、前號の文獻表に揭げあり。）

先づ、最も簡明なグラント氏の説からあげる。其れは、氏のアリストテレース倫理學（書名前揭）解説（第二卷一一二頁註一）中にかゝげてある。氏は、ア氏の次の一句を釋く。

τὸ δὲ λοιπὸν ἓν τὸ διορθωτικόν ὃ γίνεται ἐν τοῖς συναλλάγμασι καὶ τοῖς ἑκουσίοις καὶ τοῖς ἀκουσίοις τοῦτο δὲ τὸ δίκαιον ἄλλο εἶδος ἔχει τοῦ προτέρου

『殘る一つは、匡正的の其れであつて、其れは、任意並に非任意兩權の諸取引と關係して起るものである。此種の正義は、前述のものとは異る特殊の性質を有つものである』

而して、グラント氏は云ふ。此一節に照して、アリストテレースは、前に『配分的正義』を述べ、而して、殘るところの正義は、唯一つ、即ち、『匡正的』の其れであると、明言してゐることは明かである。從つて、更らに、第三種として、『カタラクチック』とか又は之れに類する名を以つて呼はるべき正義ありとするものでないことは明かである。

τὸ διορθωτικὸν δίκαιον とは、單に『規制的』regulative を意味するのみではない、却つて、嚴密に『補償的』strictly remedial なる正義を意味する。アリストテレース政治學第三篇十三の二十三に於いては、διόρθωμα は remedy（報償）を意味すべく用られてあると。

乃ち氏の意を推して云へば、『流通の正義』若くは『對償的正義』即ち entgeltende Gerechtigkeit なるものは、當然 remedy の中に含まるゝもの、即ち『匡正的正義』に屬するものであると云ふにあると思ふ。氏は、此の『匡正的』を英語では corrective としてゐるが、同時にベーコンの commutative なる用語をも是認してゐるらしく思はれる。（同上頁第四節の總論中）然るに、更らに、右の解説によれば、これを remedial と稱す可きが如くに見へる。此點氏の用語は、稍々統整を缺いて居る

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ように感ぜられる。

remedial とすれば、『對償的』の意に於ける『流通の正義』は、含まれてゐると云へよう。corrective としては、含まれてゐないとする方が、當然である。更らに commutative と解すれば、『匡正』の意味は、全く失はれて、純然たる『流通の正義』の義となつて仕舞ふように考へられる。これ私が統整を缺くと感ずる所以である。

ツエラー及びヒルデンブランドの説も、粗ぼ同樣であるかに見へる。曰く、アリストテレースは、『配分的』、『匡正的』二種の正義を認むるのみである。而して、匡正的正義の中には、私經濟的流通の諸關係は、同時に含まれてゐる。從つて、其は、グロチウスによつて συναλλακτική（スナラクチケー）とも呼ばれ、グロノヴヰウスによつて contractoria と呼ばれ、ライプニッツによつては、commutativa とさへ呼ばれてゐるのであると。

而して、第三種の正義を認めない理由としては、(一)右グラント氏のあげた文を引いて、ア氏は明かに、唯二種の正義を認むるのみ、(二)アリストテレースは、『匡正的正義』を論ずるに方つて、ἑκούσια（エクーシア） συναλλάγματα（シナラグマタ） をあげ、就中、重なる流通行爲として、賣買・賃貸借・使用貸借等を指摘してゐるの二點を提出してゐるのである。

ノイマン教授は、右説に對して、自説をあげて、評論してゐる。私は、最も多くを教授から學んだ。更らに、ブラウン氏の英譯倫理學に於ける註解（書名前に出づ）中の若干言からも、示唆を得た。私は、また、ヘリオドロスの解説について、多くの時間を費して、考慮して見た。而して私は、『配分』『匡正』と互格的に對立するべきものとしてではないけれども、アリストテレースは、慥かに其の約束を一貫的に支持せず、更らに第三種の正義としての『流通の正義』なるものを説いてゐるものと考定するに至つたのである。

マルクスは、此問題に觸れてゐない。其は、何故であるかは、分らないことであるけれども、先づ、此問題に對する立場を明かに定めて置くのでなければ、アリストテレースの價値形態論は、これを正しく解釋し難いものと、私は信ずる。從つて、マルクスの解釋に關する私の疑は、彼が、此問題に對する立場を明示して置いて與れなかつたことに、尠からぬ關係を有つものである。以下其次第を順次に開陳する。（次號完結）

前號所揭文には本文に擧げた外猶若干の誤植あり、此論文の終末に正誤表を一括して揭出する。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大衆講座

アダム・スミスの「國富論」

堀江歸一

一、「國富論」の著作と環境

アダム・スミスの代表的著作と云はれる「國富論」は千七百七十六年米國獨立の宣言されたと同じ年に於て、An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations と云ふ題名を以つて、出版されたのであつて、實にスミスの五十四歲、思慮の最も圓熟し、知能の大に發達した時であつた。此書物は誠に出版當時に於て、早く經濟學に一新紀元を劃したと云ふ聲譽を收めたし、又實に經濟學はスミスの著書に依つて、科學としての存在を主張するを得るに至つたとも云はれる。經濟學の歷史に於てスミスの名と國富論とは萬代不滅の地位を占めるものであると共に、スミスが國富論に於て述べた學說は後の學界に大なる印象を與へたのみならず、其主張した政策は國富論の出版後幾年かを經て、着々實際に施され、爲めに所謂經濟制度の革新を成す機運を作つたもの少なしとしない。現にスミスは後に述べる如く、貿易の自由に就て、熱心に主張しながら、國富論の一節に於て「貿易の自由が英國に於て全然復興されるに至ることを望むのは、ユートピヤの來ることを欲するが如く、間違つて居る」と云つて、自己の所論の實現に就て、將來を悲觀する言を爲した。何ぞ知らん、スミスの「國富論」が出版されてから、數十年の間に、英國民の思想はスミスの教へる所に依つて、次第に啓發され、ピット、ハスキッソン、ピール、グラッドストーンの如き歷代の政治家は揃ひも揃つて、スミスの忠實なる門弟子であり、貿易の自由は勿論、英國の經濟政策をして、自由のものたらしめることに努力して、遂に之を完成したのみならず、十九世紀の初期に於て、歐洲大陸諸國に同様の政策の行はれたのも、ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ミスの學問的勢力に負ふもの大なりと考へられる。斯の如きはスミスがユートピヤの來るが如くに考へて居つた自家の所說は最も早く實際に適用された一例とす可きである。

スミスの學說の發生するに至つた淵源を求めるときには、吾人は何としてもスミスの環境を重要視しなければならない。スミスは蘇格蘭フアイフシヤーの僻邑カーカルデヰーに生れ、グラスゴー大學に於て正式の教育を受け、オツクスフオード大學のバリオル校に進み、成業の後エヂンバラー、グラスゴー兩大學の教職に就き、一貴族に隨從して、千七百六十三年から同六十六年まで諸外國に遊び、其間大に知見を開發し、生地カーカルデヰーに歸つて後畢生の大著作を大成するに至つたのであるが、斯くスミスの修學し、研鑽し思索しつゝある三四十年間英吉利は經濟上に於て、社會上に於て、如何なる狀態に居つたであらうか。又其狀態は如何にスミスに影響を及ぼして、斯人の思想を釀成するに至つたであらうか。スミスの青年期から壯年期に至る三四十年間は英吉利は舊產業時代を終つて、新產業時代に進む過渡期に居つたと云へる。舊產業時代の特徵とする所は何であつたかと云へば、クロムエル以來の「マーカンチリズム」に基き、國家の定める制度又は規則の下に、國民の行動を束縛し、指揮し、左右し、國民は如何なる職業に就く可きか、如何なる物資を消費す可きか、其消費する物資の供給を如何なる國に就て仰ぐ可きかに關して、細大の別を問はず、盡く國家に依つて、束縛され、干渉を加へられ、自己の自由の如き、殆ど之を見るの術すらなかつたのである。而してスミスの思想上に於ける生長時代に於ては、是等の制度は早くも既に種々の方面に缺陷を暴露し、其實行力も亦弛緩しつゝある趣きなきを得なかつたのであるが、其れにしても尙ほ或る方面に向つては、頗る嚴峻なる支配と統制とを及ぼして渝らなかつた。之を製造工業に就て云へば、當時の所謂工業なるものは、家內工業であつて、一家の家長が家族や、徒弟を使役し、自己の住宅に於て、道具を用ひて、手工業を爲すに過ぎなかつた。而して職人は正規の期間徒弟の勞役に服し、同業組合の許可を受けなければ、仕事に就くを得ざる一方に、一の事業主が自家に收容するを得る徒弟の人數、其仕事に就く可き期間等は多くの都市なり、多くの職業なりに於ては明に法律を以つて規定され、然らずんば法律と同一の效力ある習慣を以つて、律されて居り、勞働者亦救貧法に於ける住居規則に依つて、一の教會區から他の教會區に移轉するの自由を持たなかつた。蓋し救貧費の負擔を公平ならしめる爲めに、必要なる規定であつたのである。即ち當時英國に於て、如何に國家の制令が工業の發展を妨害するもの丶大であつたかは、經濟的自由の認められた其後の狀態と對照して、了解されるであらう。

商業に就て、之を見るに、英國に於ては餘程以前から國內の通商は出來るだけ自由にする方針であつて、內地通過稅の如き、國內の諸領域に於ける內地關稅の如き、一般關稅政策の如何に拘はらず、夙に其賦課を禁止された事實に徵しても、其一斑を窺ふに足りる。唯斯く制

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

度の上に於ては、自由であつても、國内に於ける運輸機關の不備であり、幼稚であることが原因と爲つて、通商は廣き領域に亙つて、行はれるを得なかつた一方に、外國貿易に關しては、「マーカンチリズム」に於ける「有利なる貿易の差額」を獲得しやうと云ふ見地から、輸出を奬勵して、輸入を抑制する爲めに、煩瑣なる束縛や、制限の行はれること、言語に絶するばかりであり、苛重なる課税や、時に絶對の禁止は外國物資の輸入に適用される一方に、輸出貿易は税金下戻や、奬勵金の如き便法に依つて、奬勵され、殖民地を海外に開拓することも、輸出貿易を其所に獨占的に行ひ、他國を排除して、自國の輸出を奬勵すると云ふ見地に於て、是認された。

斯る嚴酷なる國家干涉の制度が經濟生活の諸方面に行はれて、能く圓滿なる效果を奏することは、到底期待するを得ざる所であつて、世間に早くも斯る制度を非なりとする思潮の發芽を以つて目す可きものがあつた。アダム・スミスは夙に蘇格蘭に於て、自由を尊重する氣風の下に養成され、生育して居つた其上に、スミスの佛蘭西に客遊するや、當時佛蘭西に擡頭し來つた「フキヂオクラート」派の學說を信奉する諸學者と交遊したが、是等の人々は英國に於けるよりも、寧ろ大なる程度に於て、自國に行はれて居つた干涉束縛に依つて、一方に商業の發達を妨害すると共に、一般民衆から其最も神聖なる財產とも云ふ可き勞働を利用する自由を奪ふの不可なることを信じ、現存する人事上の制度は總て出來得る限り、人が平等であり、自由であつた當時に於ける自然の單純なる狀態に調和しなければならないとした。アダム・スミスは此一派の一主要たる農業を以つて、一國に於ける富又は所得の唯一の源泉とする說に對しては、其根本的誤謬を認めるに躊躇しなかつたのであるが、他の方面に於て、「フキヂオクラート」派の數へた所謂自然自由の教義に就ては、深き理解と同情とを持ち、玆に總ての偏頗制限を排除して、自然自由の明瞭にして、簡單なる制度を構成することを主張し、此主張に學問上の根據を與へる爲めに、廣く自己に先だつ諸學者の學說を參照し、其妄を發くと共に、其正しきを取り、極めて廣汎なる範圍に亙つて、經濟學を建設し、之を一貫するに自由の思想を以つてし、此思想を當時の狀況に適用して、組合の有する特權の打破、徒弟條例の廢止、居住法の撤廢等總て自然自由に對して、障礙を加へることの除却を主張するに躊躇しなかつたのである。スミスが經濟學に對して、如何なる見解を持つて居つたかは、「國富論」第四編の緒言に於て明にされて居る。即ち曰く政治家又は立法者の科學の一分科として考へられる經濟學は二個の目的を有す、第一は人民に向つて豐富なる收入又は衣食を供給する、更に適切に云へば、彼等をして各自の爲めに、斯る收入又は衣食を供へるに適せしめることであり、第二は國家又は公共團體に公共職務を爲すに充分なる收入を供へることであつて、斯くて斯學は人民と主權者との双方を富裕ならしめることを計畫するものであると。

經濟學に對して下される斯る解釋殊に第二の目的として、財政學の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

研究を包含せしめる解釋の當否に就ては、議論の餘地なきを得ないが、假にスミスの所謂第一の目的のみに限るとしても、斯る目的を有する經濟學は後日英國正統學派の學者が斯學を以つて、單に富に關する學問としたものに比較すれば、遙に經濟學の領域を擴張し、研究の資料を豐富ならしめるを得るのであつて、現に「國富論」が其後に刊行された經濟原論や之に類する著作に對して、研究の範圍も材料の種類も頗る廣く、其後に於ける經濟原論と經濟政策とを兼ね、加ふるに演繹歸納の兩方法を以つて、研究を進め、幾多歷史上の事實に徵して、理論上の斷定を考證した所以である。若しも經濟學がスミスの遺した儘の形を以つて、英國に於て發達したならば、斯學を以つて、乾燥無味のものとするが如き非難を蒙らず、却つて興味の津々たるの故を以つて、更に多數の研究者を吸引し、世人に感銘を與へるもの亦大であつたらうと考へられる

二、「國富論」に於ける分業論

「國富論」詳言すれば「國民の富の性質並に原因に關する考察」は其表題の示す如く、國の富の本質を明にし、如何にしたならば、國の富を豐にして、國民を富裕ならしめるかを研究の眼目としたのであつて、斯くて國の富を以つて貨幣地金であるとする「マーカンチリズム」の誤解も、國の富は農業のみに依つて、産出されるとする「フヰヂオクラート」派の謬見も共に打破された。換言すればアダム・スミスは經濟學のシステムを分類して、「マーカンチリズム」を以つて代表される商業制度（Commercial or Mercantile System）とフヰヂオクラート派に依つて代表される農業制度（Agricultural System）との二者であるとし、前者を攻擊するに當つては、金銀以外に幾多の富の存在することを明にし、後者を非難するに當つては、技工、製造業者、商業家等土地の耕作に關係せざる者を不生産的とするの不可なることを述べ、從來の學者よりも、博大なる見地に於て、自家の經濟學に於けるシステムを樹立しやうとした。即ちアダム・スミスは「國富論」の開卷劈頭に於て、國民の富の源泉とする所の勞働に存することを明にしやうとし、「各國民の年々の勞働は其消費する生活の必要品並に有用品の總てを供給する資源であつて、而して此資源は其勞働の直接に生産する所のものなり、其産物を以つて、他諸國に就て、購入する所のものなりから存立すると述べた。而して此産物が之を消費する人に對して、如何なる割合を保つか、其割合の大小は國の繁榮に重大なる關係を有し、産物を増殖して、右の割合を強からしめることを必要とするのであるが、此必要に副はしめるには、第一に勞働者の熟練、敏捷並に判斷を要し、第二に有用なる勞働に使役される人を多くして、斯く使役されざる人を少なくすることを要するとした。第一の點から、アダム・スミスの有名なる分業論が派生し、第二の點から生産勞働不生産勞働に關する議論が醸成されるのである。

右の如き關係から、アダム・スミスは彼の分業論を案出し、續いて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

交換の自由――更に之を國際間の經濟的關係に及ぼして、自由貿易論を唱道しやうとするのであつて、其後段の議論に及ぼす交渉は頗る深い。即ち富の生產に最も必要なる勞働の熟練、敏捷並に判斷は勞働の組織的に運用される結果であつて、而して此組織的運用は分業法の下に收められるとし、分業の種類と其利益とを擧げ、分業の利益を以つて、第一勞働者の敏捷を增進し、第二勞働者をして永く一種の仕事に從はしめる爲め、其仕事から他の仕事に移るに就て費される時間を節約し、第三勞働者をして勞働の省約に資する機械の發明を致さしめるの諸點に在るとした。アダム・スミスは分業の利益を述べるに忙はしく、之に伴ふ弊害に關しては多く之を看過するもの丶如くであつた。唯分業の下に、仕事の單調と爲ることはスミス自身も之を指摘したが、尙ほ之を分業の弊害とするに就ては、多くの辯護論を費して居る。

スミスの分業論を以つて、單に分業の生產增進に資する一の方便である、方便に過ぎないとする見地のみから判斷したならば、スミスの所說を誤まるの憾なきを得ない。スミスは分業の市場の範圍に依つて、制限されると云ふ一章を掲げ、「分業に對して、其行はれる機會を與へるものは、交換の力であるから、分業の範圍は即ち此力換言すれば市場の廣狹に依つて律されなければならない。若しも市場の範圍にして狹かつたならば、何人も自己の勞働に依つて得た產物の剩餘を以つて、他人の產物と交換するを得ないから、一の職業に自己の全力を傾倒するに至らないであらう」と論じ、分業をして盛に行はれしめ、其利益を洽く世間に及ぼさうとするには、勞働の自由、交換の自由がなければならないことを明にした。然らば此勞働の自由、交換の自由を發揮するには何ものを必要とするかと云へば、居住法、徒弟法若しくは徒弟に關する習慣、組合の特權を廢止し、人をして自己の適したとする職業に就かしめると共に、自己の生產した物資を以つて、他人の生產した物資に交換せしめることは、即ち是れであつて、分業論から多くの經濟政策上の主張の行はれるを見るのである。要するにアダム・スミスは經濟學を以つて、國民の富の本質と原因とを明にし、更に進んで國富增進の爲めに行はれる可き政策を考へ、又其是非を究める學問であるとし、一方に國富を以つて、勞働と土地とより生ずる年々の生產物であるとするのであつて、斯くて勞働に於ては、生產勞働に重きを置くと共に、如何にして生產力を增進せしめるを得るかを工夫し、國富の增進に必要なる產業を維持するに就て資本の必要を認め、資本を增殖するには、節約を尊重して、浪費を戒愼しなければならないとし、遂に浪費者は公共の敵であつて、節約者は公共の恩人であると云ふ危言すら敢てするのである。

然らばアダム・スミスは何を以つて生產勞働と不生產勞働とを本質的に區別する標準に充てたかと云ふに、此點に於ては、スミスの議論必ずしも透徹して居るとは認められない。即ちスミスが此區別を爲すに就て、標準とする所は勞働が其加へられた目的物の價値を增進し、勞働の結果が具體的商品として殘存するか、或は勞働が何もの丶價値

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をも加へることなく、其行はれた瞬間に、效果の消滅を來すか、孰れに在るかを以つて之に充て、斯くて一國の産業中、農業、鑛業、漁業等に投下された資本は最も多量の勞働を利用し、隨つて最も多額の價値を産出するを得るが、之に次ぐものは工業、運輸業、物資配給に關する事業の順位に居るものであるとし、此議論の結果として、一國に於ける資本の供給の充分でない場合には、直に上記四種の産業を併せ行ふよりも、先づ一年を通じて最も多量の生産を擧げ、斯くて最大の貯蓄を行ふに至らしめるを得る農業に資本を注入することを以つて、國富增進の捷徑であるとしたのである。此所説たる、之をスミス以前に行はれたフキヂオクラート派の農業に從事するものゝみを限つて、生産的とした偏狹なる學説に比較すれば、一進歩を示した跡のあることは認められるが、尙ほ勞働の結果が、具體的商品として殘る場合を以つて、生産勞働とし、其以外の勞働を以つて、總て不生産勞働としやうとしたことの如き、後者に至つて、富の生産を以つて、效用の增進であるとし、此點に資する勞働を生産的とする所説に對して、大なる遜色ありとせざるを得ないのである。

三、國富論と自由貿易論

アダム・スミスは分業論から物資の交換の必要なることに入り、物資の交換に關聯して、價値價格の研究に及び、更に貨幣流通の理を說き、價格を構成する分子として、賃銀、利潤、地代の三者に就て、其れぐ研究し、資本の性質を述べて居るが、私はスミスが分業論に於て暗示した所に從ひ、第四編經濟學のシステムと題する論章の下に、分業論を國際間の働きに及ぼして、自由貿易論を主張し、一方にフキヂオクラート派傳來の自然自由の學說に據つて、輸出入稅若しくは禁制に依つて、貿易に加へられる制限を非難すると共に、他の一方に分業の領域を國境以外に及ぼして、貿易の自由を必要とした點に大なる興味を覺える。スミスは「國富論」の此部分に於て、特に峻烈なる攻擊を「マーカンチリズム」並に其政策に加へて居るのである。即ち「マーカンチリズム」に於ては富は、金銀より成ること、金銀は國内に金銀鑛の存せざる國には貿易差額のみに依つて、齎されることの二原則を確立し、斯くて内國に金銀鑛を有せざる國が國内に金銀を吸收し、增殖するには、外國貿易に依つて、有利なる差額を得るの外に、道はないのであるから、此差額を得るに就ては、宜しく外國物資の輸入を制限し、内國産の物資の輸出を增加するに勉め、輸入の制限と輸出の獎勵とを併せ行ふ可きものであるとした。此種の信念は從來英國に於て、多くの學者に依つて、主張され、說明されると同時に、政治家の間に多くの信奉者を有し、彼等の手に依つて、實際政治の上に、實行される所と爲つた。假令ひスミスの時代に於ては、聊か爛熟期に入つて居つたとは云へ、尙ほマーカンチリズムは其國内經濟制度に對する干涉と相俟つて、外國貿易に加へられる制限の嚴酷なるものを以つてし、容易に學問上に、實際政策上に威力を失はなかつたのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯る時期に於て、アダム・スミスは如何なる理論に據つて、此兩の主張を排撃しやうとしたかと云へば、消極的方面と積極的方面との二樣に分たれる。消極的方面に於ては、「マーカンチリズム」並に之に胚胎する諸政策を攻撃する議論の中心點を以つて、富の唯一の形態として金銀を充てるの誤まれる一事に置き、續いて國際間を通じて、金銀貨並に地金の流動する理由を明にし、更に積極的方面に於ては、分業の利益は決して一國領土を以つて限界とする狹き範圍に局限される可きものでなく、之を國際間の廣きに及ぼし、領土以外の廣きに亙つて、分業の利益を獲得することを有利であるとしたのである。

即ちアダム・スミスの意見を以つてすれば、一國が外國貿易に依つて得る利益は金銀の輸入されることに伴ふものでなく、寧ろ貿易に依つて、總ての種類の物資の輸入されることに存するものであるとした而して一國が內國に於て生產されると同種類の物資の外國から輸入される場合に、之に租稅を賦課したならば、其租稅は保護關稅と爲る。保護關稅は種々の理由の下に、支持されるのであつて、アダム・スミスの時代に於ても、其行はれるもの頗る盛であつたが、スミスは之に對して、「或る社會に於ける產業の總體は其社會に於ける資本の合計額に比例す可きものであり、隨つて或る特殊の產業を奬勵するが如き商業上の制度(即ち「マーカンチリズム」)が行はれたならば、以前よりも多くの資本並に勞働を其產業に移らしめるに相違ないが、然も此事に伴つて、從來資本勞働の用ひられて居つた事業から、是等を奪ひ去る費用の生ずることを考へなければならない、勞働並に資本の分布に關する移動の行はれざるときを以つて宜しきを得たりとする、個人を放任して自己に有利なる道を選ばしめることは、即ち社會に取つて、有益なる結果を生ずる、政治家は宜しく私人の利害關係をして其赴かんとする所に赴かしめる可きである。何人も低廉なる價格を以つて、購入し得られる物資を高き費用の下に、自ら製造するの愚を爲さゞるが如くに、一國も亦內國に於けるよりも、廉價を以つて供給される外國物資の購入を辭す可きものでない」と云ふ簡單なる道理を掲げて國民をして自由に購入せしめることは、其收入を增加し、斯くて國の資本並に所得を增加せしめる所以である」と結論した。

更に之を積極的方面から云へば、國家は個人と同じく、先天的に、將た又後天的に、其國の地位、風土、氣候、國民の習慣、天性等に依つて、種々の特長を備へ、是等の特長に從つて、特殊の物資を製造するに適するものである。一個の勞働者、職業若しくは地方と他の當事者との間に行はれる分業にして、熟練の增進に於て、時間の節約に於て、共に資するものありとすれば、同樣の結果は正に國と國との間に行はれる分業にも期待し得られる道理であつて、貿易の當事者は其自由に行はれることに依つて、各自生產するに其れぐ適して居る物資の交換に依つて、利益を收めることを誤まらないと云ふのがスミスの主張である。

スミスの外國貿易に關して說明する理論の道程は頗る簡單であり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明瞭であるが、既に富の本質が明にされ又分業の利益の解された以上は貿易上の政策に就て推窮する所の右の如くなるは當然である。而して此貿易に關する理論は他の諸方面に關して、スミスの述べた理論に比較すれば、最も早く英國に於て、實行的價値を有するに至つたのである。即ち前述の如く英國關税制度の改革は千八百二十四年時の商務院長官ウヰリヤム、ハスキツソンに依つて行はれた多少の税率低減、輸出入制限廢止に端を開き、千八百六十年の改革に依つて、完成されたのであるが、此改革を指導した根本原則は何であつたかと云へば、國民をして自己の好む所を選んで、最低廉の價格を以つて物資を購入せしめると共に、最高貴の價格を以つて、物資を販賣せしめ、國民が此判斷を下すに就て、國家は何等の干渉を加へず、何等の束縛を施さないと云ふことであつて、スミスの所説は此方面に於て最も能く具體化されたと稱するを得るのである。即ち英吉利は原料品や衣食資料に對しては全然課税をしない、製造品又は奢侈品に對しても何等の保護税を賦課しない、若しも國庫收入の必要上、彼等に課税することがあれば、斯る輸入税と均衡を保つ程度に於て、同種の內國生産品に物產税を賦課して、以つて輸入税から生ぜんとする、保護的效果を抹消する、關税則は勉めて之を簡單にし、納税者に對する手數の煩雜を免からしめると云ふ諸點は十九世紀の當初から英國に行はれつゝある關税政策上の根本方針であつて、其結果として英國は世界の製造工場として、經濟的繁榮を極めるを得た所以であるが、其本源はアダム、スミスの教へる所に發したものと云はなければならない。

アダム、スミスが「マーカンチリズム」を攻擊する一方に、自家の主張を明にする爲めに、用ひた一二の言を引抄したならば、スミスの外國貿易に關する信念の如何なる邊に存したかを知るを得るであらう。即ち曰く

偏頗又は制限を主とする總ての制度は排斥されて、之に代るものは自ら自然自由の簡單明瞭なる制度でなければならない。何人も公正の法則を蹂躙せざる限り、自己の可なりとする道を踏んで、自己の利益の存する所を追求し他人と競爭して、資本勞力を運用することを許される可きであると共に、國家の君主は私人の產業を管理し、社會の利益に最も適する職業の方に之を就かしめる義務――之を爲すに就て、無數の謬妄に陷り、又適當に之を遂行するに就て、人の知識と智慧とを以つてしては不充分である――から免かれる可きである。

更にスミスが同一の見地に基いて、英國輸出入税制度に論難を加へるや、論鋒は一層の鋭を發揮し、

英國に於て、輸入を抑制する爲めに、諸種の外國物資の輸入に賦課された高率の租税は多くの場合に於て、單に密輸を促すに過ぎなかつた。關税の算術に於ては、二に二を乘じて、四を得る代りに、時として唯一を得ると云ふドクトル・スヰフトの說は斯る重率なる課税に就て、正に其然るを見るのであつて、斯の如き重税は若しも彼の「マーカンチリズム」が吾人に租税を國家收入の方便とせず、獨占の方便と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して用ゆることを改へなかつたならば、決して賦課されなかつたであらう。

と云ひ。續いて將來の關稅則は之を如何なる原則に據らしめる可きかと云ふ問題に進み、之に對しては、

社會に於ける多數の人民をして各自の費用に比例して、公共收入に供與せしめるには、彼等に依つて消費される各個の物資の盡く課稅されることを必要としない。物產稅に依つて徵收される收入は海關稅に依つて徵收される收入と同じく、納稅者の負擔に歸するものであり、而して物產稅は最も廣く使用消費される少數の物資のみに賦課されるとしたならば、適當なる施設に依つて、海關稅も亦少數の物資のみに之を限つて賦課し國庫收入に何等の減損を來さずして、却つて外國貿易に大なる利益を及ぼす可き道理である。

と斷定した。

四、スミスの經世的見地

斯の如くアダム・スミスは自然自由の法則に據つて、貿易上の自由を主張したのであるが、此主張を爲すに就て、スミスの議論は必ずしも其後繼者の爲したるが如き徹底的のものでなく、英國の狀況に徵して、或る除外例を承認しようとしたのは、吾人の看過する能はざる所である。蓋しスミスは國富論の多くの場所に於て、Opulence と云ふ文字を用ひ、國民の Opulence を增進するには、如何なる方策を以つてす可きかと云ふことに、重きを置いて居る。Opulence は富裕又は繁榮に相當し、現代慣用される言葉に於て其匹を求めれば、即ち Welfare と同一義を有すると解されるであらう。然らばスミスは斯る繁榮を國民に與へる經濟政策に對して、一貫した信念を披瀝したかと云ふに、必ずしも然らず、當時世論の焦點であつた航海條例を論ずるや「國防は繁榮よりも多く重要である」と云ふ有名なる信條の下に、國防上の必要を理由として、自由貿易に對する除外例を認めやうとした。即ちアダム・スミスは「英國の國防は船員と船舶との數に頼るものが頗る多い、航海條例は外國海運業の英國の貿易に干與することを或る場合に於ては、絕對に禁止し、他の場合に於ては、相當に重く制限し斯くて自國の船員と船舶とに之を獨占せしめるものである」とした。航海條例が實行されて後、多年英國が貿易上當面の敵手とした和蘭の國運が衰微の緒に就いた一方に、英國の海運業が繁昌し、貿易亦旺盛と爲つた事實に徵すれば、航海條例に對するスミスの意見は價値あるものと爲るかも知れないが、國防上の見地から、船舶や、船員を多數に有することを必要とする事情が如何に緊切であるとしても、航海條例の如き、貿易其もの〻行はれる範圍を狹くして、一方に海運業の隆盛を求めやうとするに至つては、其間に大なる矛盾の存することが認められる。蓋し貿易と海運とは主從の關係を持ち、海運業あつての貿易であり、貿易業あつての海運と云ふ地位に居らなければならない。斯くして外國貿易の繁盛なる國に於ては、海運業の隆昌を見るのが自然

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の關係であつて、而して之を求めるに就ては、必ずしも人爲的干渉を要しない。自由貿易の下に輸出入貿易を出來得る限り伸張せしめれば、之に附隨する海運業も亦貿易の發達に促されて、隆昌と爲らざるを得ざる道理であるからである。

然るにスミスが此點に於て、大なる矛盾に陷つたのは、何故であるか。假に外國貿易其ものを以つて、經濟上に不利益であるとする、少なくとも外國貿易が發達して、一國が經濟生活上、外國に依賴する趨勢の馴致されることに對して、之に制限を設ける必要の認められた場合には、航海條例の如き制限的立法に依つて、外國貿易の行はれる方便の利用を狹隘にし、斯くて貿易の方綱を束縛すると云ふことも、自ら一理ありと認められるが、アダム・スミス本來の意志は貿易を制限するのではなく、却つて其發達を可なりとするのである。而して貿易が發達すれば、自ら海運業も振興する道理である以上は、航海條例の下に海運業と外國貿易とを倂せ制限するが如きは、自由貿易論の正面から云つて許す可からざる矛盾である。現にアダム・スミス自身も或る場合に於て、明に此間の矛盾を認め、「航海條例は外國貿易幷に之より生ずる繁榮の增進に對して有利なるものではない、諸外國に對する通商上の關係から云つて、一國の利益とする所は多數の人々と取引を結ぶ商賣人と同じく、出來得るだけ、廉價を以つて購入した物資を高價を以つて、賣却することに存する。而して最も完至なる自由貿易に依つて、一國が總ての國をして、其購入しようとする物資を齎らさしめることが之を最も廉價で購入する道であり、一方に其市場が最も多數の購買者を以つて、充された場合こそ、最も高價に賣却する所以である」と論じた。唯此矛盾を辯解する一の道は國防が繁榮よりも重要であると云ふ一事に止まるのであるか、然も貿易の自由を束縛しないことが、却つて海運業を盛大にして、國防上の要件を充すを得る所以であることを知つたならば、アダム・スミスは他の方面に就て、辯護の辭を求めなければならない。

斯くて其れに充てられるものは、當時の英國と和蘭との敵對狀態であつたのである。即ち此際英國に於ては、和蘭の經濟的勢力を壓倒せざる限り、自國をして國際經濟上に優勝なる地位に立たしめるを得ないと云ふ說が行はれて居つた。經濟上の思想の進んだと考へられる今日に於てすら尙ほ經濟戰爭と云ふ言葉が用ひられ、時に其趨きを見ることのある次第であるとすれば、アダム・スミスの時代以前に於て、經濟戰爭が行はれ、又其武器として、航海條例の利用されたことも、亦敢て異とするに足らない。即ちアダム・スミスが航海條例の諸規定を揭げた後に於て「航海條例制定の當時、英吉利と和蘭とは實際に戰爭に從つては居らなかつたが、最も劇烈なる敵愾心は兩國民の間に漲つて居り、隨つて此著名なる條例の或る規定が國民的反感に基いて生じ來つたことは、疑を容れない。然も此特殊の時期に於て、國民的反感は最も賢明なる知能の稱讚する目的即ち英國の安全に對して唯一の脅威である和蘭の海軍力を削減することに用ひられた」と述べたのに徵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しても、所謂經濟戰爭の武器として、當該條件の創造された事實を明にするを得るのである。

然も自由貿易の見地から云へば、苟も國際間に經濟上の取引の行はれる以上は、必ず當業者に或る利益を與へる可き道理であり、而して其利益は自由競爭の下に、最も公正に當事者の間に分配されることを原則とする。然らば經濟戰爭と云ふことは、其言葉自身に於て何等の意味を爲さない、經濟上の取引の行はれる場合に、當事者の一方が他方を倒すが如き、事實に於て、不可能であるからである。アダム・スミスが一方に「コスモポリタニズム」に類する主張を敢てしながら、他の一方に國際間の敵愾心を基礎として、之を助長する法制を承認し、之を自由貿易に對する一の除外例に充てようとしたのは、何處までも矛盾であつて、後世の研究者をして惑はしめる所たるを得ないのである。若しもアダム・スミスにして、常に一個の學究を以つて、終始して居つたならば、斯る矛盾に陷らず、自己の議論を徹底せしめるを得たかも知れないが、スミスは一面に於て立法者幷に政治家に向つて、彼等の進む可き道を示すことを以つて、經濟學の一目的として居る爲め、總て議論をして實際の事實に即せしめ、又目前に現はれて居る事實に顧みて、之に調和を保たしめ、餘りに實際と隔絶した空理空論を弄ぶことを愼ましめた結果、遂に斯く妥協を事とする議論に陷したのではあるまいかと思はれる。

五、國富論に於ける財政論

國富論の第五編は即ち財政論であつて、經費、收入、租稅、國債等殆と國家財政の全般に亙る諸問題が序を逐うて、仔細に論述されて居る。スミス以前から國家が信用を濫用して、國債を起すことの徒に政府をして政治を荒廢せしめ、負擔を後世に遺して、次代の國民を苦しめる所以と爲るの故を以つて、之を不可なりとする說の擡頭しつゝあつたのは、著明の事實であるが、スミスの手に依つて、更に國債制度の缺陷が種々の方面から指摘されたのである。即ちスミスは國債の近代財政に起り來つた所以を以つて、第一非常準備金の依賴するを得ざるに至れること、第二國家財政に非常事變の發生して已まざること、第三租稅の收入を以つてしては、斯る事變に伴ふ要求に應ずる能はざることの三點に歸したが、然も國債制度の成立するには、第一規律ある司法行政の行はれること、第二國民が財產所有の安全を得ること、第三契約上の信用が法律に依つて、支持されて居ること、第四國家の權威は債務支拂の能力ある者に對して、其支拂を強要する爲めに、用ひられると考へられることの四個條を必要とするとし、當時の實際問題として、歐洲諸國が國債發行に關る不謹愼であつて、當初或る時期に收入の發生することを豫想して、國債を發行する、此豫想が的中して、收入の發生した際に、其收入を以つて、嚮に發行した國債を償還すれば、宜しいが、此債務の償還されない間に第二、第三の豫想を將來の收入に繋い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、以つて國債の發行を試みる、斯る不謹愼なる豫想が結局國家をして永久的債務を負はしめる壞敗的效果を生ずるに至る所以であるとし、戰時財源として租稅と國債との優劣問題に就ては、租稅に依るの可なることを述べ、戰時國債の發行に愼重なる可きの必要を唱へたのである。而して其理由は多方面に亙つて居るが、要するに（一）國債發行は自國に當時存在して居る資本の破壞を招き、以前生產勞働者の扶持に供されて居つた年々の收益を轉じて、不生產勞働者の扶持に充てしめる、（二）租稅を戰時財源に充てれば、戰爭の終熄と共に、租稅廢止されて、國民の貯蓄心を刺戟するに至る、（三）國民は戰時租稅の負擔の重きを感じて、自然戰爭を嫌忌するに至ることの諸點に外ならないのであつて、後年ジョン・スチューアート・ミルが勞働者に有害なる影響を及ぼすの故を以つて、國債發行を不可なりとした議論の如きはアダム・スミスに依つて、旣に其一端を示して居るのである。

若し其れアダム・スミスが租稅論の劈頭に掲げた租稅四原則に至つては、其今日に至るまで、租稅政策を支配する點に於て、顯著なる地位を占めるものである。其要點は左の如くである。

第一、各國の國民は各自の能力詳言すれば自家保護の下に、各自の享受する收入に比例して、出來得る限り、政府を維持する爲めに、供與す可きものである。

第二、各個人の納付す可き租稅は確實である可く、決して專斷的のものであつてはならない。租稅納付の時期、納付の方法、納付される金額は納稅者に取つては勿論、他の人々に取つても、明瞭でなければならない。

第三、租稅は之を支拂ふ納稅者に取つて、最も便利であるとされる時期に於て、又同樣の方法を以つて、徵收される可きものである。

第四、租稅は其國庫に齎される金額を超過して、國民の財嚢に就て奪ふ金額を出來るだけ、寡小ならしめるやうに、徵收されることを必要とする。

以上四原則中、第一は租稅の負擔を國民に分配する根本標準を明にしたものである。スミス以前に於ても、能力を標準として、租稅の負擔を分配す可しと云ふ說を唱へた者はあつたが、尙ほ租稅利益說とか國家勤勞代價說とか云ふものゝ橫行することを免かれなかつた其際、スミスが敢然納稅力說を主張し、說明したことは、後の租稅に關する學說の研究者に其進む可き針路を明にしたものであり、又第二以下の原則は課稅行政に關するものであり斯くて第一と第二以下との間に性質の異なるものがある。然も第二以下の原則と雖も、其課稅行政に關する故を以つて、之を蔑視するは當らない。第二第三の原則は共に租稅の賦課徵收に依つて、經濟社會に及ぼす影響を寡小ならしめることを主眼したものであり、第四の原則は實に租稅の經濟即ち徵收費の、節約を主張したものであると共に、其適用を廣くすれば、實に保護關稅則を非難する資料にも充てられるのである。今日に於ても一の租稅の稅目としての良否善惡を知るには、其租稅が如何なる程度まで、右

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の眞原則に適合して居るか、又違背して居るかを以つて、一の標準としたならば、大體に於て大過なきを得るであらう。

六、結　論

此短かき論文に於て、スミス「國富論」の全斑を紹介するが如き、不可能事であつて、私は上述する所に據り、單にスミスの所說中の三四を引抄したに過ぎない。唯最後に英吉利の學界に於て特色を發揮したウオーター・バヂオツトのスミスに對する批評を掲げて、スミスが如何に學問上に重んぜられて居るかの一端を示して、結論に充てたいと思ふ。

アダム、スミスは二個の職務を完成した。第一彼は抽象的學問としての經濟學を創設したと云へないまでも、尙ほ其建設される道を開いた一人者である。彼の人間性に對する見解は近代經濟學の假想する人に於けると略ぼ同樣であり、隨つて彼はリカードー、ミルの正當なる先進であり、スミスの著作がなかつたならばリカードー、ミルの如きも、現在世間に現はれて居るが如き形體の著作を成すを得たかどうかは、疑問に屬する。第二にスミスは大なる實際運動の創設者である。彼が著作を爲すや、當時の實際家をして大なる興味を覺えて之を實行するに至らしめるが如き方面に就て記述することを怠らない。スミスの時代に於て、實に多くの實際家が就て學ばんとする眞理があり、スミスは之を彼等に敎へることを望んで居つた。スミス以前には新學說の實際的敎師なく、民衆を感銘せしめる先覺者なく、歴史上の事實と現在の事實とを結合する識者なく、單に書册上の眞理に止まらず、其說く所の盡く眞實であることを明にする學者がなかつたが、スミスに於て始めて之を求めるを得た。

スミスの「國富論」は初版發行以來屢々版を重ね、又多くの書店に於て種々の形態の下に出版されて居るが、是等の內讀者に最も便利であると云はれて居るのは、所謂キヤナン版と稱されるものであつて、英國の經濟學者エドウヰン・キヤナン氏が千九百四年發行した上下二册より成る版本であり、スミスの生前に出版された諸版本の異同や、「國富論」とグラスゴー大學に於けるスミスの講義との關係、スミスの佛國に於て受けた思想上の影響に就て記述した一文を序論とした上に、スミスの本文に就ても、各章各節に亙つてキヤナン氏自ら註解を施して居る。少々高價ではあるが、「國富論」を讀むには、此版本に據るのが一番宜しい。

日本には何れ程「國富論」が親しみを持たれて居るか。私は「國富論」の邦人讀者は千を以つて數へられるであらうと思ふ。日本譯の方を申すと、餘程以前嵯峨正作、石川暎作兩氏の譯筆に依り、田口卯吉氏校閲の下に、全部の綿密なる飜譯が東京經濟雜誌社から發行されて居つた。私の如き三十幾年前國富論の原書（ルートレッヂ版と稱する最廉價のもの）と此飜譯書とを對照して、兎に角國富論を讀了した記憶を持つて居るが、今日では勿論絕版であつて、圖書館へでも行かなければ見出されない

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であらうし、又學問上の用語も當時と今日とでは餘程違つて居ると思はれるが忠實正確なる飜譯であつたと云へる。此外上記のキャナン版「國富論」は近頃竹内謙二氏に依つて飜譯されて居ると云ふことであり、又三上正毅氏や氣賀勘重氏の飜譯もある。三上氏のはアシュレー氏の「國富論抄」本に據つたのであり、氣賀氏のは一小部分だけが出版されたのに止まると聞く。何れも私は右諸譯本を一瞥したこともないのであるから、飜譯の適否に就ては、何とも申し兼ねる。然し英語の相當に解される方ならば、「國富論」位は原著に依つてスミスの意の存する所を正確に酌み取られるのが宜しいと思ふ。

次號は

唯物辯證法

山川　均

堀江歸一著

金貨本位制の興廢（四六版上製）

「貨幣・銀行・外國爲替」特殊問題研究第一

歐洲戰前の金貨本位制は世界大戰によりて一旦破壞されたが、戰後經濟的秩序の確立と共に次第に復興しつゝある狀況を研究し、我國經濟界に喧々たる金輸出解禁問題に論及し、此の間に金貨本位制の本質、眼目に就て博士の見解を論述してある。博士は曩きに本社より「貨幣銀行外國爲替」上下二卷を出したが本書は同書中の論題に對し本社より引續き發表せんとする特殊研究の一つである。

改造社發行　◆定價壹圓　送料十八錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本の經濟を何れに導くべきか

一新を要する我國經濟

阿部賢一

外なめくじの内辨慶——と云ふのが我國の經濟を最もよく形容した言葉のやうに思はれる。外國に向つてはカラッ意氣地がない癖に國内ではさも强さうな事を常々廣言したがつてゐるではないか。小さくは一會社にしても、内では頑固がつてゐても世間の照魔鏡の前にはさつぱり睨みが利かないではないか。國を擧げての惰性經濟、今や一新の機運に際會してゐる、と云つて敢て過言ではないと信じてゐる。

内に崩れずんば、外から崩壞を强ひられんとする。外に對しては突張らんとしても内に崩れんとする。如何にして我が國民經濟を維持せんとするか。否、維持せんとする事が可能であるか。少しく考へてみたい。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

過ぎ去つた年の我が國の經濟を回想して、本年の我が經濟を想望し、かねてそれが進むべき方針を考察するに當つて、吾々は先づ何物を措いても重要であると考へられる一つの點に觸れざるを得ないのである。それは我が國經濟の特質を明白に認識する事である。割增もせずに、さりとて割引もせずに我が國の經濟が現に持つてゐるところの先天、後天の特質をハッキリと見極めて、一體どの邊に我が經濟は進み——若くは迷ひ——つゝあるかを知る事であらねばならぬ。何故とならば去年や今年表面に顯はれるところの現象はその日に成るにあらずして、かなり遠い、そして深い因由あつての事なのだからである。無論のこと、我が國の經濟の本質や、因緣やをそう簡單に見定めて終ふ事は容易な業ではない事は最初から解つてゐるが、此の點を明にしなくては去年の事も本年の事も將來の事も、さつぱり解る筈がないであらう。

何はともあれ、我國の經濟の特質は何と云つても、その安價速成的の資本主義組織たる點にある。言葉を換えて云へば何の點から觀ても

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

封建制度的胎内に育つた月足らずの資本主義體たるの點にある。それが外觀は一かどの資本主義經濟組織で立派に完成せられてゐるやうに見えはしても、根が緣日の盆栽のやうなものであるから、英米で見るやうな、强靱な資本主義體成力を持つてゐないことは已むを得ない。例へば事業にしても經濟の發展の必然性から出たと云ふものよりか、何れかと云へば、外國人の氣紛れ根性に促されたものとか、火事泥式に急造した假仕立とか、たゞしは何かの景氣に釣られて「一儲けしてやらう」ぐらゐの心算でもくろんだものが多いのは統計を俟たずして明かな事であつて、我國資本主義なるもの丶根據きはめて貧弱なのは當り前の事でもある。

この早生兒たる我國資本主義經濟が果して發育不完全で夭折するか、强がつてゐても內的新生兒によつて代位せられるか、若くは養生かなつてなほ長生するか。その診斷に預りとするが、たゞ今日のまゝではその運命も甚だ以て怪しいと云ふ事丈けは明言し得ると思ふ。

早い話が昭和二年の金融恐慌そのものは最も雄辯に現代我國資本主義經濟の力を――若くは無力を――物語つたものである。あの恐慌の原因から、經過と、その結末――まだ結末はついてゐないが、――に至る迄の、時間から云へば十ヶ年にも足らぬ世界大戰後の我國經濟界の步み方を調べて見れば、何千卷の經濟學書よりも、明確に我國經濟そのものを吾々の目の前に突きつけてくれるであらう。それはまるつきり危ない綱渡りであつた。何度內閣が代つても下手に手出しの出來ない爆裂彈でもあつた。一寸つゝけばグラ〳〵と崩れて終はねばならぬだらうところの組立玩具の家屋でもあつた。それがとう〳〵震手問題と云ふものに引かゝつて尠なからざる數の銀行は名實潰れて終ひ、大事業と云はれて曾ては世界に鳴つたものが木葉微塵に散つた。

金融恐慌などゝ云ふものは、もう過去の事實だ、と云つて安心し得るほど事實上、我國の經濟は强くはないのであつて、事をあれ程にまで運ぶに委せねばならなかつた事情は、そして我國經濟の弱點は、まだその儘に今日も殘つてゐると觀察せねばならない。私は今更死兒を墳墓に起そうとしてゐるのではない。が、後世の經濟史上に殘るであらう去年の恐慌の原因が何であつたかは、一應、將來の我國經濟の觀測上の一資料としても見極めてをくことの必要を感ずるのである。それで此の問題の研究に當つて最も必要なる點だけを簡略に論じて論を進めたいと思ふ。

* * * * * * * *

戰爭景氣に浮かされて簇生した大小の成金企業が前後の分別もなしに狂舞した酬いが大正九年の瓦落であつた。若しあの際縮るときには思ひ切つて縮つてゐたならば、よし震災はあつても去年の恐慌は、あれ程馬鹿氣たことにならずに濟んだ筈だつた。が、そこが、我國の經濟の痼疾であつて、引締るべき時にそれが出來ず、一部資本家階級者の擁護のために、經濟體全部を危地に陷らしむること丶なつた。これと云ふのも全く支配階級の罪科である。この罪科を生ずる因素がまた、たま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たま我國經濟全局をして基礎薄弱のものたらしめてゐる譯であるが、今少しく列擧してみやう。第一は政黨者流と實業家の結托である。政權を以て一つの營業手段と心得て、この政權を掌握するを以て致富の道と考へた閥族政治家と、彼等と相結んだ資本家とが如何に我國の政治と經濟とを害したかはこゝに說くまでもない。また彼等と結托して法を曲げ法をくゞり、手段を撰ばずして蓄富を私した謂ゆる大實業家なるものゝ行動も非議すべき點が甚だ多かつた。これが明治大正を通じて觀たる支配階級の裏面であつて、これを打斷たなければ眞に民衆の厚生を基調とする經濟は決して伸張する氣遣ひはない。これは何人ももう認めるところであつて、例を引出すまでもなからう。第二は我國の實業家なるものが、從來の虛業家氣質をすてなければ我國經濟はもう前に進み得ないのである。彼等がその氣質を捨てなければ必ずや、捨てざるを得ざるの破目に、近い將來に於て必ず陷る事を覺悟しておかねばなるまい。彼等は巧慧であつた。併し乍ら聰明の點に於ては英獨米諸國の實業家の足下には寄りつけない。經濟的先進國の優秀なる實業家が天然資源の豐富を以てして尙ほ且つ時代の動きに敵し能はぬ現狀なのに、無力、無能の我が實業界を以てどうして內外重壓の波瀾を打開いて我國經濟を擔當する事が出來よう。我國の實業家はなるほど目先が利くやうだ。併し乍らその多くは目前の小利害に惑はされて長期の事業發達を念とする樣子さへない。遣り繰はうまさうではあるが、それは融通遣繰たるを出でずして根柢ある研究と調査を基礎としたものではないのが多い。事業そのものを樂しむ者もあるが、その多くは事業の成否よりか權利の賣買を念とする投機者流の如何に多き事よ。濡手に粟をつかまうと云ふ連中によつて組織せられてゐる我が經濟の基礎が如何にも弱いのは當然の事でもある。その故に銀行を營むものは民衆の尊き資金管理者であるよりも、右手に掻き集めた資金を左手に自分の關係する危險な事業に注ぎ込む。然も動すれば國庫の損失と預金者の犧牲によつて、自からは免れて恥なき徒たらんとする。恰も白晝強盜の類であると云つて過言であらうか。つまり我國の實業一般の氣質はこのまゝでは自から墓穴を掘るやうなものだ。第三には、我國經濟の機構そのものが甚だ危險に、また無能率に出來上つてゐる。これもその原因は謂ゆる政治家や實業家を含む意味に於ての支配階級の手によつて捏ね上げられ、維持せられるものであるから、その表現たる我國經濟一般の基礎がそれ相當に缺點だらけなのも當り前の事であらう。例を以て見れば金融制度一般は如何であるか。金融の中軸であるべき日銀が單なる大藏省の一出張所の感はないか。また金融の機構が利子を高く釣り上げて資本を掻き集め、之を危險な方へ投資して結局は回收の出來ない無價値な固定資本と無理心中をさせやうに出來上つてゐる。そして諸々の事業は偶々利益ある場合に充價を償却して、また將來の事業の浮沈を想定して用意すべき筈であるのに、目前の利に迷ふ株主の要求に恐れて之に應じ、形勢一變するや蹣跚に痩身をやつして其の日〱を粉飾化すと云ふことゝなる。これで如何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して資本主義經濟とは云へ、其の堅實なるものを立て得るか。かく企業主體が輕薄であり、之を補助するところの金融機關があのやうな調子では彼等の力では何年たつても我國經濟を眞に力強きものたらしめる事は出來なからう。

まづ大體我國經濟を以て他の經濟先進國に比較して弱點と思はれる點を擧げれば以上の如きはその重なるものであらう。なほ天然資源のことや、科學的研究の不備のことや擧ぐべきものはあるが、直接に經濟機構を中心として云つても以上のものは重要なものと思ふ。

之等のものが過去久しきに亙つて我國經濟の堅實なる發達を害して來たものである。これ等の點を十分に認識せずしては本年及び將來の我國經濟の行方を見定める事は出來ない。

* * * * * * *

資本家氣質に、從つて企業主體に、之と同時に補助機關としての諸々の機關に強點よりも弱點が、長所より短所がより多く巣喰うてゐる我國經濟である。云はゞ惰性に引ずられて動いてゐるやうな經濟である。そこには進歩的な創造的な經濟の希望があらう筈はない。そしてこの點は少くとも優れた資本家自身さへが夙に認めてゐるところである。そしてこの痼疾は昨日や今日出來た譯ではなく、明治初年この方徐々に固まつて來たものであつて、病はすでに膏肓に入つてゐる。それであるから昭和二年から三年に暦が代つたからとてこの痼疾が紙をはぐやうに、そうさツぱりと治るものではなからう。だから今年に於てわが經濟界がどう云ふ風に進んで行くであらうか、と云つても、急に今迄とはまるつきり風向が變ることは萬々なからうと想像する。自力では到底濟度の望みがなし、さりとて惰性はやはり一種の力であつて急に沒落と云ふやうに望み通りに行きもしまい。それで恐らく去年のまゝ、一昨年のまゝだらしなく營まれて行くであらう。

わが國の經濟が如何に速成であり、月足らずであるかは數字を上げて證明するまでもなからう、がこれをこのまゝで行つて其の力の限りの可能性はもう見え透いてゐる。どうせ大した創造的躍進を之に希望することはできないやうに思ふ。だが、それはそれとしてだらしのない我國の經濟の動きの中にも資本主義の內在的傾向がかなり顯著に進みつゝあることを看過することは出來ない。例へば金融恐慌を通して幾多の銀行が潰れた結果として大銀行に預金が集中するが如き、また銀行の合併集中が大に促進されたが如き、更には休業銀行救濟の名によつて新たに出來た昭和銀行の如きも結局は投資者たる五大資本系統銀行の有利な別働隊となり終るにすぎないが如き其一面である。なほ他の方面には幾多の破產事業がより大なる企業者の餌食となり終る事である。例へば例の鈴木の倒產はそのまゝに三井に貪食せられたと云ふ話であつて、弱肉強食が露骨に行はれつゝある有樣である。その結果として大企業系統は大金融系統と相結んで其れ等相互の間には經濟界に、また政治界に、虛々實々の術策を用ひて、見ぐるしき競爭をやつてゐるのが手にとる如く明である。そして比較的少數の資本的支配階

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

經營者が我國經濟の中樞に位し、強大の權力を掌握するの傾向が最近益々顯著となつて來た。

善かれ惡かれ——多くの場合は惡いが——我國の經濟が國內に於ては當時獨占的地位を固めつゝある少數支配者の手に歸してゐる結果、世上多くの論者の云ふが如く本當の意味に於ての自由競爭などゝ云ふものは空漠たる抽象論の外には見出されぬことゝなつてゐる。重要物産の價格などはその供給の要所に於て獨占化せられ、從つて物價が比較的に高く支へられ、結局民衆の生活を阻害するのみならず、貿易上に於て久しく自から不利に陷つてゐる。かやうに民間の經濟が獨占化せられてゐて、然も其の傾向が烈しい時に際して、よし多少の官業を民營に移しただけでは畢竟政黨の喰ひ物となるか、たゞしは大資本系統の獨占力を强むるを出でなからうと思ふ。

理論上から云へば獨占は必ずしも常に惡いものばかりではなからう。獨占の取り柄と認むべきものもないではない。併し、實際上に於ては獨占の利益は民衆に屆かない。營利業者の獨占が殆んど例外なしに民衆の不利と犧牲に終ることは各國の事例が具さに明示するところであるが、それが特に目前の利益に最大限目を置くところの我國資本家にかゝつては如何して民衆の利益などを望み得ようぞ。外に伸び得ず、內に友食をせねばならぬやうになつてゐる現狀に於て彼等に將來の我國經濟を擔當せしめんとするは、豺狼を船長としてなほも航海を續けんと希望するやうなものだ。

現今の支配階級者に望むところはない。たゞ併し我國經濟を今後に於て躍進せしめるの道を講じて置くことは何人にとつても必要でなければならない。無論それには世上の識者は種々の意見があらうと思ふし、またなければならない。私を以て觀るも色々の注文があるが、最も重要であると思ふのは、我國經濟をして諸外國に比較して何か一つでもよいから優越的生產力を持たしめたいのである。國際經濟に於て我國の存在を主張し得るだけの特色を發揮するの特殊能力を自己の中に發見したいのである。

何かの優越能力を持たずして國の經濟の發達を望むのは熟練なくして高き報酬を望むに等しい。人道主義的には望めても實際は望み能はぬ事だらう。そしてこの點は恐らく資本主義經濟制度に於ても、また理論上は兎も角實際上に於ては社會主義經濟制度に於ても變りはないであらうし、否、恐らく資本主義の制度より、能力中心の、職能分擔の社會に於て最も高調せらるべき經濟發達の原理であらうかとも考へるのである。

* * * * * * *

經濟の發達は同質財の分量的增加か品質的向上か、または異質財の創造と增加に其の端を發することは云ふを俟たずして明であるが、今日に於ては企業が多く獨占化せられてゐる形であるから、この經濟發達の三因果の何れもが狹い柵の中に閉込められてゐる。國民日常の生活品が不足を告げつゝあるに拘はらず、——否、不足の程度に抑へ乍ら

――少數有閑者階級向の奢侈品の製作に勞働も資本も多く向けられてゐる。また貿易について云つても國の剩餘を以て外國の剩餘に交換すると云ふものゝ、其の獅子の割前は仲介的資本者の壟斷するところとなつて微力なる多數の直接生產者は指定せられた價格の騰落に膽を上下し乍ら僅かに殘肴にありつき得るにすぎない。例へば我國の輸出貿易の大宗とまで稱せられてゐる生絲についてかくは云はれはすまいか、そしてかうやつてゐて眞の輸出貿易の發達を望み得るか、どうかは甚だ怪しいのである。

かやうな狀勢であるから、獨占の利益を吸收するに馴れて氣旣に萎えてゐるところの惰性階級に民衆の利益の爲の同質財の增加を望むことも出來なければ、況んや異質財の創造を希望することも無理である。然もこれなくば我國の經濟能力の限度が袋小路につき當つて終ふ。

國の經濟は或る觀點から云へば、其の最弱點から崩れ出すが、常には其の最强點に依つて立つてゐるものである。最弱點と云ひ、最强點と云ふも畢竟國柄によつて同一ではないが、前者については特に我國經濟の弱點として旣に論じたところであるが、後者卽ち國の經濟が依つて立つところの最强點を何處に求めるかについて少しく考へてみたい。

經濟組織の如何を問はず、英米たると露獨たるを問はず、國の經濟の依立する根據として何等かの特質を有せざるものはない。而してこの特質が外國貿易と相結んで一段の經濟的進境を示すことはまた論を俟たないのである。何となれば貿易は異質財を攝取する一つの方法だからである。而してこの事は低き程度の自給自足しか出來ない我國の如き國柄に於ては特に考慮を要するものたるを失はない。言葉を代へて云へば外國品の吸收の爲に我に如何なる特種財の用意があるかどうかの問題である。

英國は云ふまでもなく資本主義經濟の先達として、特に鐵工業や織物の大量生產によつて依立する。最近獨米の脅威を受けてゐるが、なほ同種事業のカルテル組織に邁進し、英本國內の各種工業の聯盟的調査や行動を盛んにして只管從來の經濟的覇權の一角でもを維持しようと努力してゐる。而して之等の點に關しては極左派は無論反對であるが、勞働黨中心の右派勞働黨は大體に於て贊意を表せるものゝ如くである。是否の評は別として英國經濟は從來の自己過評價の夢から醒めて、他國に學び產業界に一轉機を期待するの有樣である。次に獨逸は夙に其の不斷の研究と化學工業によつて國際經濟上に鳴つてゐるものであり、またこの方面に於ける經濟的優越を有してゐた。天然資源の比較的に薄い獨逸は研究室のフラスコの中から財を創出して經濟覇權の一角を握らうとするの野心を有する。近くは人造護謨の製作に成功して我國を從來の世界的獨占地位から驅逐しやうと云ふ力を示してゐる。其の研究力、其の技術力は、たとへドーズ案によつて多大の負擔を年々背負はされても之を彈ね返すだけの力を備へてゐる。次に佛國に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

就て云へば何としても其の美術工藝は國の經濟的優越を示すものであつて、近世的大企業の方面に於て強味を缺いてはゐても、この點に於て強味を多分に有するものと云はねばならない。

最後に米國に就て一言する。米國の經濟的優越とするところは他國とは異なつて、一に均製品の大量生產である。時計の如きまた自働車の如きその典型的のものであると認められる。この特色と共に吾々が看過してはならぬと考へるのは米國資本主義經濟の自制力である。最近の統計を觀察するに物價は概して下落してゐるに拘はらず、事業界の收益は尙ほ高率を維持し、且つ賃銀は上昇してゐるのである。即ち物價下落するに景氣は上々なのであつて、吾々の日頃の考から云へば反對なのである。この一見逆說の如き現象が呈せられてゐるのは一には米國が現今世界の金の半分略ぼ九十三四億圓の巨額を有するに拘はらず、忽ちにして之を貨幣化してインフレーシオンを引起すやうな事をせず、寧ろ金融制度上から自制して之を保有してゐることゝ大量生產による單價の低下と、且つは賃銀の引上を以て製品市場擴張の一部と看做してゐるにも因るらしく考へられる。吾々は米國の文化一般につき、また經濟組織についても批評の餘地の甚だ多いことを認めない譯ではないが、其の資本家的支配階級が我國の夫れに比較して遙かに自制あり、聰明あり、遠見あつて、米國の經濟を指導し、更には二百億弗餘の對外國債權を通して歐洲經濟の一角を支配しつゝある事を認めるに吝かなものではない。要するに能力ある者によつて擔當せられる限り資本主義經濟の存續の可能性が多分に存することゝなるであらう。それで米國は世界大戰なる天の時と、戰局を離れてゐたと云ふ地の利と而して人的能力の三要件を兼ね備へ此の力を合して均製品生產の經濟的特色を有するものと見る事が出來るのであつて、この力を以て世界を横行してゐる事は好嫌は別として、冷靜に認識せねばならない。

以上の如く各國は國内にまた國外に經濟的特色若くは何等かの經濟的優越力を有する事によつて世界の文化に貢獻し、かねて國の經濟的基礎を築いてゐるのである。この國際經濟の實際的必要から觀察して、果して我國は何處にその國民的經濟力の發揮を求むべきであらうか。

海運界の發展によつて謂ゆる貿易外の收入の增加を計ると云ふ說も尤もである。我國の地理と國民性と將來の發展の可能性から云つて海運は比較的に適當なることは何人も認めるところである。或ひは纖維及び織染工業方面に於て他國に優る技能を發揮することは最も可能性があるが如くである。金額から云つて輸出貿易の大宗は纖維染織工業關係のものである。それに拘はらずこの方面に於て果して經濟的優越と稱するまでに技術的發達をなしてゐるか、どうか。何人もそうは思ふまい。例へば生絲の如きは尙ほ昔ながらに原料として輸出し、然も養蠶提家は仲介商人により、仲介商人は問屋により、問屋は輸出業者により、輸出業者は外國、それも主として米國の輸入業者によつて利益を吸收されてゐる。組織も悪いから、之を改正せねばならぬが、

更にやゝ高級製品を安價に生産する方法でも講ぜねば、從來のまゝでは之を以て我が經濟の特色を發揮することは到底できまい。

何れにせよ經濟的優越品あつてのみ國の經濟は强き基礎の上に据ゑられるのであるから、何を以てかくなるかは一般國民が研究と調査と思索によつて決定せねばならぬ緊急の問題であると考へるのである。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

現代の經濟は何と云つても工業的技術を中心として之を補助する商業、金融、交通々信其他の諸々の機關を合して國の經濟の中軸をなしてゐる。而して天然資源の惠みの薄い我國では謂ゆる比較生産費の理法によつて何等かの點に於て經濟的優越力を發揮することによつてのみ對外貿易の利益を得べく、延いて民衆の生活の向上を計り得るものであるから、この特色を明確に發見することに眼を着ければならぬと思ふ。そして此の點は何人か、またどの階級か政權を掌握するとも、其の道理に於ては何等の變りのあらう譯のものではない。

思ふに資本家氣質の一新は結局は望み少なきことであらうし、又財政經濟の根本的整理とか經濟機構の根柢的革新とか云つて之を支配階級者に希望しても到底實現すべき模樣もない。それで尠なくとも吾々は本年に於て、我國產業と貿易の依つて立つところの經濟的優越力の自覺と確立の爲に思考を凝らしたいものと思ふ。これは恐らく本年に於て我國經濟を如何に指導し、如何に轉廻せしむべきか、と云ふ目先の問題ではないか、本年來年……、つまり將來の我國經濟を民衆の厚生に繫ぐところの發端でなければならぬと考へる。

本年の景氣はどうなるか

武藤山治

近年の不景氣は全國津々浦々に至るまで其影響を蒙らぬところはないようである。私が過日來全國各地へ參りますと、到るところで不景氣は何時恢復するだろうかとの質問を受ける。然しながらそう言ふ質問をして唯ぼんやり不景氣の恢復を待つて居る人は、不景氣を天氣と間違へて居るからである。不景氣なるものは天氣と違つて、吾々人間の造つたものであるから、之を恢復するためには、吾々がそれがため努力をしなければならぬ。然るに天文や氣象のことをさへ熱心に研究されて居るのに、現在吾々を苦しめ惱まして居る此不景氣の問題さへ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

研究せずに、喧嘩いたり、腹立つたりして居る人々の多いのは全く吾國民精神の弱いところに歸する外にない。

本年の景氣はどうなるであらうか、そう言ふ質問に答へることは、そう困難な問題でない。それは昨年内に起りたる財界の出來事や、現在の狀勢より略ぼ想像することが出來る。之を病人に譬へると、吾國財界の現狀は永い間氣分が勝れず、病床に横つて居つたものが、其體内に鬱積して居つた毒を排出して幾分重も苦しい氣分が去つたようなものであつて、容易に病氣全快、床上げの祝いをするには至つて居らない。長年月體内にあつて、周圍に炎症し健全なる部分をも侵しつゝあつた毒素は取去られたが、それがため侵された部分の恢復は容易でない。或は猶部分的に多少の毒が殘つて居るかも知れぬから、決して樂觀すべき時期でない。去りながら、又世間の人々が病人の體内より出でたる毒の多いのを見て、驚き騷いで一層悲觀に傾いて居るのは、病氣の經過を見誤つて居るのである。大體から言へば、病人は一步恢復に向つたと言つて良い。それは明らかに財界に於ける金利の著しき下落が示して居る。財界の恢復は如何なる場合に於ても、常に此徑路を辿るものである。尤も金利の安くなつたのは衰弱せる病人の熱が下がり脈が少なくなつたと同じやうに、我財界が此病毒を排出して其毒素より受けて居つた炎症は止まつたが、それが爲め一時衰弱を來し、金利が下がつたのであつて、我財界に資本が增加して起つた現象ではないから、此金利が安くなつたのを見て、直ぐ我財界が健康を恢復したものと見ることは出來ぬが、尠なくとも今年春迄に清算されたものと見て良財界の損害が暴露されたることは、恰かも病毒が排除されたことゝなるもので、今や恢復期の第一步に入つたものと見て間違ない。然しながらそれなら來年の景氣はどうなる。我重要國產なる生絲と紡績の前途はどうかなど、實際問題に就て問はれると之に答へることは容易でない。

第一生絲業に就て見ると、生絲の價段は米國に依つて左右されて居る。其米國が世界中最も富み榮えて居ることは、我國生絲の一大顧客として、吾々は喜ばねばならぬが、本年になつたら果して米國が生絲を今日以上高く買つて與れるだらうか。このことは一方人造絹糸業が益々發達し、次第に天然生糸に接近し來つて其精巧を競ふこと、又他方に於て米國以外世界諸國何れも戰後の疲弊で惱まされて居る今日米國の品物が海外へ高く賣れる見込がないとすれば、米國に向つて生糸の値段を上げることを望むは米國丈他國の品物を高く買へと言ふのと同じで、之を望むは無理な註文であることゝを思へば如何に米國が好景氣であつても、余り多く期待することは出來ない。殊に買方たる米國よりも賣方たる日本の方が一步先きへ安く賣つて出る餘儀ない境遇に立つて居りはせぬか。それ等の事情を綜合して考へると、生糸の値段が以上大して高くなる見込は付けられぬ。そうすれば生糸業者は原料たる繭の値段が下がるか、製産費を大に低下する外に澤山儲かる見込がない。繭の値段の安くなるのは望ましいことであるが、繭が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下がると繭を作る農村の人々が苦しむこととなるから、此場合は生糸業者も繭を作る農村の人々も共に、其生產方法に改良を加へることに最善の努力を拂ふ外ない故に、今後生糸業者及其關係者は大に苦心して經營を改むべき時であつて、大なる利益を擧げ得る時期でない。又絹糸紡績に就て見るも容易に樂觀することが出來ない。それは次のような種々の困難なる事情が本業を取巻いて居ることを見れば、容易に首肯することが出來る。第一本業は工場法の改正に依り、來年の七月より深夜業の操業を廢止せねばならぬことになつて居る。これが爲め操業時間が拾六時間となり即ち二割減縮されることとなる。勿論能率の增進等に依つて、幾分操業時間の減縮を補ふことは出來るが、これが爲め生產費を高め對外競爭の上に不利を來すことは免かれない。然るに、此來年に來る深夜業の廢止を見越し、盛んに增錘計畫が行はれたるため、中途に於て不景氣に加ふるに一層製產過剩より惱まさるゝこととなつて、今や操業短縮を行ふの餘儀なきに至つて居る。此趨勢は來年深夜業廢止の時までは、寧ろ強くなる傾向があるから、此點より見ても、本年度の紡績業は常に壓迫されたような氣分の下に營業し行くものと考へねばならぬ。第二に我國紡績業は生糸業と同じく國內に供給すると同時に、輸出する仕事であるから外國の景氣が直接影響することは明らかであるが、就中支那の形勢は甚しく我紡績業の盛衰に關係がある。支那は國內が平和で秩序が保たれたら恐らく三十年を出でずして東洋の米國を現出するであらう。それだのに今日のように野心家の天下取りの競爭の爲めに少しも國運が發展しないのは支那國民の利益幸福の爲めに考へれば申すまでもないことであるが、吾國に取つても支那の此淺間しい近情は實に惜まざるを得ない。近來對支問題に就て種々の議論もあるが、私は其何れも當を得たものと思はぬ。我官民の支那に對する態度、議論は全く自心から支那の爲めも思はぬか又は日本の地位をも考へぬ皮相のものであつて、吾々は今一層深く考慮せねばならぬと思ふが、それは本文の目的でないから支那の現狀は我國紡績業の上に惡影響を及ぼして居り、それが世間で見らるゝように當分繼續するものとせば、此方面よりも我國の紡績業は尠なからず不利を蒙ることを述べれば、足りるのである。加ふるに昨年米國棉花の作柄が良くなかつたため米棉の相場が一昨年よりも五割許り上がつた。印度は豐作と傳へらるゝが米棉の相場は世界の棉花相場を支配するから、本年度使用する原料たる棉花は高くなる、原料が高くなれば製品の値段は高くならねば引合はぬ。然るに製品の値段が原料の値段の上がる割合に高くなることは、國の內外共に不景氣に惱まされて居る今日に於ては、容易に望むことが出來ないから、此點も本年度の紡績業に取りては不利なる一つに數へねばならぬ。斯う言ふ風に觀察すると我國の二大產業たる生糸、紡績共容易に樂觀することは出來ないが、我財界を通じて考へれば本年の景氣は幾分宛良い方へ進んで行くと見るが、正當でないかと思ふ。然しながら吾々は我國の景氣を左右する上に普通常識で判斷の出來ない一つの要點のあることを知つて置かね

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばならぬ。それには我國に於ては政[illegible]一つの[illegible]英國[illegible]きものうち大切で景氣が左右されることである。

歐洲戰爭平和克復の直後まだロイド・ジョーヂが英國首相をして居た時に、或人が彼に「來年の景氣はどうなりますか」と訊ねたことがある。その時にロイド・ジョージは「それはとても豫測が出來ない、それは從前と全く違つた政治力が、國の經濟力を左右して居るからで、譬へて言へば荒海を行く船の上で玉突をやつて居るようなものだから」と答へたそうである。當時英國は全くそうであつたに違ひない。英國財界のバロメーターであると言はれて居る紡績業すら、戰時の必要上コットン、コントロール、ボードと言ふ政府の管理局が出來て、殆んど官業同様のものとなり、鐵道、造船、造機所等も政府管理の下に置かれて居たのであつて、かゝる場合には、どうしても政治力が經濟力を支配してしまう。素より政治家に向つて景氣の恢復如何を訊ねなくてはならぬような馬鹿けたことは、英國民の長く堪え得ぬことであつて、戰後間もなく、政府は民意を容れて、一時整理の爲め莫大な資金は要したが、すつかり諸種の政府管理事業や國營事業は、民間の手に還してしまつた。然るに我國に於ては英國の一時の變態的制度が常態となつて居る。從つて絶へず政治力が我國の經濟力を左右して居る。こう言ふ關係に於ては、來年の景氣如何と問はるればロイド・ジョーヂの答へたる如く、荒海を行く船上の玉突同様だと答へた方が正直な返答かも知れない。事實過去及現在、將來の我財界の變遷を見たり、考へたりする[illegible]日本も早く[illegible]して之を改むるにあらざれば、[illegible]政治力に喰ひ倒されてしまうであらうと思はれる。

大凡一國經濟界の景氣と言ふものには、多少其政治的原因が經濟上の諸原因と共に作用するものであつて、單に經濟上の事實のみを根據として、將來の景氣如何を豫測することは出來ないものである。で、我國では先づ政治的原因を考慮の中心とせなければ、經濟界の成行は到底正確なる豫測を下すことは出來ない。從つて經濟問題をば常に政治的に觀察したり、解決して行かねばならぬような變態的な事情がある。それは我國では民間經濟の力が政治を動かす强味を持たず、逆に政治力が民間經濟力を常に左右する珍妙な事情があるからである。言ひ換れば國民の經濟を基調とする政治が行われず、政治力を中心として民間經濟が不自然に操縦され勝ちであるからである。若し經濟力が我國に於て政治力を動かす事實がありとすれば、それは少數の富豪や政商の經濟力が政治力を動かすに過ぎない場合のみと言つてもよい。

英國の紡績業は全國景氣のバローメーターと昔から稱へられて居るほど、斯業は日本の生糸業以上に、英國の景氣を左右する大規模の産業であり、斯業が通商上に現わして來る數字そのものを以て、即座に將來一般の景氣を卜し得るのである。それは綿製品の年産額は約二十六億圓の巨額で、之に要する原料棉花の輸入額は十二億圓前後である。而して其製品の約八割は輸出され、其額實に貳拾億圓に達し輸出總額

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の三割を占むる大宗であり、其輸出力が英國民をして海外諸國から食料品其他原料を輸入し之を決濟する上に重要なる働らきをして居る。斯業輸出の振不振は直前に對外爲替の上に影響を生じ、國民生活費にまで關係を及ぼすと言ふ理由の外に、今一つの重大な理由がある。それは英國の政治力と言ふものが民間の經濟力と比べると極めて微弱で民衆經濟の力が政治を支配するから、民間の大經濟力である紡績業が現出する自然の數字は將來の一般景氣を豫測する上に、殆んど絕對的に信頼するに足る判斷の材料たり、そこに民衆の經濟を不自然に動かす如き政治力が介在しないと言ふことである。これは根本に於て、日本の政治と英國の政治とが異なつて居るからで、英國の政黨政治は民衆經濟の流れに棹し國政を料理するに反し、我國の政黨政治なるものは黨利黨略を先きにし、民衆經濟などは殆んど之を無視するが如き政治を行ふからである。例へば英國に於ては、民衆經濟を無視する如き政治家は、一日も其存在を許されないから、英國の政治は自然の輿論に依つて行はれるもので、政治家の手ではどうすることも出來ない。政治家は民衆經濟の先棒となり機關となり之を行ふに過ぎないのであつて、英國の紡績聯合會の如き議會委員會（パーリメンタリー、コムミチー）と言ふ制度を持つて居り、其他重要の商工業にも亦同様の制度があつて、絕へず民間の經濟と言ふものを議會を通して、國政に反射しつゝあるが如き是れである。然るに我國はどうであるかと言へば、少しも民間經濟の實狀が政治の上に現われて居ないばかりでなく、却つて逆に政治力が民間經濟を常に壓迫して居る。其實例は數へ切れぬほどであるが、其最も著しい一つの例は現在民間の小商工業者を始め、一般産業界は金利の低下、生産費の減少を、旱天に雨を望むが如くにして居るに拘はらずその民意は少しも實際政治の上に現われないのみか、政府は國家の重要なる産業をば國家直接經營の手に移し、而かも不經濟極まることをして民間から莫大なる資本を吸上げ、之れを死藏し又は固定せしめて居るのである。現に中央銀行には八億圓以上に達する政府預金をして資金を睡眠の狀態に置いて居る。之を英國が我國より四倍半多き歲出入の財政を行ひながら、政府預金を僅かに貳億圓に過ぎず、我國の如く官營事業を行ふ佛蘭西政府預金も、壹億五千萬圓を過ぎないを見れば、如何に我國政府が民間の資金を吸上げて、之を死藏し財界の發達を妨害して居るかが分かる。又大藏省預金部勘定中貳億千參百四十萬圓は不良貸付となつて、其全部が元利共回收不能に陷つて居る。尙嚴密に調査したら此上にも不良貸付が尠なくないことは疑ひを通り越して居る。此預金部資金は郵便貯金拾五億が其主なるものであるから、我國の政黨內閣は郵便貯金すら喰ひ荒らすことが明らかに立證されて居る。民衆の汗の結晶たる郵便貯金を自黨に緣故ある會社杯に貸付けて、國民に損失を蒙らしむる政友會民政黨の諸君が、社會政策などと口に唱へる資格はない。斯くの如きは民衆經濟を旨とせず、黨利黨畧をのみ中心として、自己に都合よき政治力の增大を圖る不純なる政黨政治の結果として起る當然なる成行であつて、英國などでは夢想だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も出來ないことである。そして是等政府の財政策は、或は重要なる産業の國家的統一、、、、、、、或は低利資金の貸付などといふ美名の下に行はれて居るから、一見政府が發表する表面のみを見れば、國家經濟の眞相を極める譯には行かない。例へば破綻會社の株主が其受取つた貸借對照表に依つて、其眞相を知り得ず、特殊銀行及一般休業銀行の株主が、其銀行の損益計算書に就て營業の實績を誤り信んじ、投資して置いた正金、預け入れて置いた筈の現金が、事實に於て何時か知らぬ間に、大部分消へ失せたのを發見したようなものである。斯くの如き銀行會社の現在及將來の成績の眞相が、何故に其營業報告たる經濟上の數字から知れなかつたかと言へば、此種の銀行抔に於ては、預金者や株主の實益又は經濟實力を離れた所謂高等政策と言ふ一種の政治力が、惡用されて、表面的に計棲の合ふような、體能く數字を並べて營業狀態を粉飾し、所謂勘定合つて錢足らずの事實が裏面に伏在して居つたからである。

我國の經濟を一つの大きな銀行會社の營業として見るならば、恰かも前記同樣の不始末が、政府萬能主義の政治によつて行れて居る事實は、之を詳細に說明すれば、一册の書物となる位に澤山ある。茲に於て吾々は一時の景氣の起伏は別として、永遠に我國の經濟力を發達せしめんとすれば、此不經濟なる我國政治を根本的に改革することが必要であることを唱へねばならぬ。

一國の盛衰は其國の政治が經濟を重んずるや否やに依つて決することとは、古今の歷史が證明して居る。吾々は德川時代に於て德川幕府が亡びたのは、主として幕政の局に當つたものが、經濟の重んぜざるべからざることを知つて居ても、經濟の如何なるものなるかを眞に理解しない士であつたからである。然るに今日我國政局に立つものは、實業經濟の如何なるものなるかを知らないこと、恰かも德川時代の士と均しくして、而かも士の如く德義すらも重んじない政治家が多い。斯くの如くして我國將來の運命が、どうして幕府同樣たるを免かれることが出來よう。今日は將に國を愛するものの惕起せねばならぬ時である。

然れども今日は立憲政治の世の中であるから、吾々は幕末に於ける志士の如く、徒らに、悲憤慷慨すべきでない。吾々は進んで如何なるところに、吾國の經濟力を磨損する政弊が伏在するやを示して、輿論に訴へねばならぬ。

依つて私は之より進んで景氣はどうなるかと言ふ問題を離れて、本當の好景氣は如何にして來るかと言ふ問題に立入つて、其對策を述べたい。私の對策は一言にして云へば、「政府を貧乏にし國民を富ませよ」に盡されて居る。言ふまでもなく、不景氣の恢復には潤澤なる資本を民間に實在せしむることが、必要である。國家の隆盛も國民の福祉も、民間に於ける潤澤なる資本の經濟的、合理的活用に依つて伴はるるものであることは、明らかである。そして民間の資本は何から引出されるかと言へば、現在の資本が生み出して居る餘剩即ち利益の蓄積たる民間預金から引出されるのである。この民間預金に單に[illegible]つた餘

として、銀行に預け入れてあるばかりでなく、銀行は資金の有り餘まるものから借り集めて、資金の足らざる者へ貸付け、毎日々々資金の活用を勸め、それより生じて來る預金を集め、更に同じ方法に依つて生産事業を促進して居るのである。從つて銀行の業務からしても、又銀行業の目的からしても、資本の回收は可成速かにせなければならぬのであつて、その回收の速否は延いて國富の增進にも影響し、又國民生活の上にも關係を及ぼして來るのである。過般米國マサチユセッツ州の國の役人が來ての話に、ボストンからニユー、イングランド地方の加工業者は、五割の關税を拂つて日本から羽二重類の絹布を輸入し、其上に高い加工費を拂つても充分な利益を以て賣れ行くとのことである。それは彼等の計算に依ると、生產費一〇〇中、輸入税支拂濟の原料絹布代が四〇を占め、三五乃至四〇の勞銀を拂ひ、殘りは諸掛りである。そして其都度資金の回收利益は五分を標準として居る。けれども回收を速かにするから、それで一ケ年一割五分から二割五歩の純益を容易に擧げ得るとのことである。それは米國に於ては、勞銀なり原料代が非常に高くとも民間の資金が極めて潤澤であり、又仕事の能率が高いため資金の回收を促がすことが速かで、從つて廉價に供給が出來多大の利益を擧げることが出來るのである。英國では戰後民間の資金が前述べたように兎角缺乏し、大工左官等の建築勞働者の賃銀は米國よりも遙かに低廉で、米國では一時間一弗三〇仙、英國に較べて約二倍であるが、同じ家を建てゝも、米國の方が安く出來る。それは英國で一週間もかゝる家が米國では二日で出來るからで、聞くところに依ると米國の數階建の紡績工場などは、組立て棟上が僅か二日間で出來るとのことである。又資金が潤澤な上に、其回收貸出の度合が速かな爲め、所謂薄利多賣が行はれ、好景氣になるのは當然である。

何よりも我國の不景氣の大原因となつて居るのは、民間資金が政府の誤つた財政策に累せられ、政府の手に吸上げられた儘民間に還元されず、斯くして資金の偏在と死藏とが驚くべき程度に於て、景氣の恢復を阻害して居ることである。政府は八億圓に達する資金を持ち、十餘種の官業を經營し、不經濟極まる營業成績を示して居る。その上利益を民間に還元せず、かくして民間の資本を涸渇せしめ、己れ獨り資金に飽き之を濫費して得々として居る。實にこれほど間違つたことはないのである。

政府の財力は民力の上に立つものである。從つて政府の財力と民力とは反比例するから、政府が富んで民間が富む譯はない。加ふるに政府が強大なる財力資力を持つと言ふことは、政府をして非立憲なる行動を敢てせしむる誘惑となり、政治家を腐敗墮落せしむる導火線ともなるもので、既往幾多の事實は之を裏書して居る。國民中一部富豪や政商の爲め之に組みし、一般民衆の利益を無視し民間の經濟力を壓迫して居る。故に何よりも火急な一般景氣恢復策は、先づ政府の手より官業を取去り、其資金及政府預金を民間に還元せしめ、政府自ら仕事をすることを止めさせ、政府を一面から貧乏にすることである。而か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も之に事實に於て政府の借金を減少し、政府をして實に於て富ましめ其信用を増さしむる所以である。私は景氣挽回策として、政府が三つの大なる資力を民間に還元せんことを要求する。

第一、國有鐵道の純益金は壹億萬圓前後を國債の償還に振向けるか又は之を財源として地租と營業收益税を全廢すること。

第二、大藏省預金部資金中歲計の剩餘金は勿論郵便貯金も、將來は全部公債の償還に充當すること。

第三、官業を民營に移すこと。

以上三案を實行すれば國有鐵道の純益金丈を以てするも五ヶ年間に五億圓前後、民間に資金を注入すると同樣の結果を生じ、爲めに金利は順調に下がり産業振興上、大なる刺激を與ふること明らかである。之を以て公債を償還するも、又營業收益税五千五百萬圓地租六千五百萬圓合計壹億貳千萬圓を全廢する財源に供し、國民の負擔を輕減するも、其流るゝ川筋は違つても民間に資本を増す結果は同一で、不景氣恢復の上に大なる効果あるは必然である。

私は昨年の議會で、大藏省預金部資産勘定中、政府預金の事で片岡前藏相に質問した。私の質問の要點は、政府は無利息で日本銀行に政府預金をするよりは、其金で公債の償還をすれば利稍が儲かるではないか、何故之を實行しないかと言つたところ、片岡藏相は不得要領な答辯を試みたに過ぎなかつた。當時他の問題で忙がわしく、其儘此問題は他日に延ばしたが、當時政府預金は五億圓であつたものが、今日では八億圓以上に増加して居ることを、日本銀行調査に依り明らかになつた。今や民間は不景氣に惱み、資金は缺乏して居るのに、政府がかゝる莫大なる資金を抱いて之を日本銀行に死藏同樣保留して居るは、不都合千萬な事である。我國財界不振の勘なくとも一部の原因は、政府が不當に民間の資金を吸上げ、中央銀行に死藏同樣にし利稍も損し、民間經濟の血液たる資本を嗜眠狀態に放任して顧みないところにあることは最も見易いことである。而して此八億圓の內容をどんなものかと調査しようとしても、大藏省では之を祕密にして明かさず、議會の開會を待つて政府をして之を明示せしむる外ないが、方々より詮索して見たところを綜合すると、其內譯は略ぼ分かつた。即ち其內、在外預金が大凡貳億圓、此分は三分の利息が付いて居ると聞くが、其餘の六億圓前後は中央銀行及全國金庫取扱代理店に預けて居る。而して此內約壹億圓までが無利息で、それ以上は二分の利息を付けさせて居るやうである。而して、此內五億圓は前年度の剩餘金のやうである。之れは政府當局者が祕密事項として取扱つて居るものであるから、又聞きの又聞き位で、全然正確なるや否やは保證出來ないが、大した間違はないものと思はれる。假りに無利息でなく二分や三分の利息を付けさせて居つても、こんな不經濟な國庫金の取扱はない、第一にかゝる多額の資金を國民の懷から取上げて死藏することは、それ自體が財界の不振を招來し、産業を衰へしむることを政府が求めて行つて居ると同然である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現に政府は澤山の公債を發行して居る。又其上に每年新に發行を續け、利廻りは時として安くなることもあるが、五分を下ることはない。さうすれば政府預金の利息が二分とすれば自ら好んで三分は損をして居る。こんな民間ならば誰れも敢てせぬ不經濟極まることを、吾政府は多年平然とやつて來り、今日不景氣の際に益々政府預金を增加し平氣で居る。試みに此政府預金の中から、五億圓丈公債を償還するとせば、それ丈けの資金は民間へ戻されることとなり、其結果恰かも貧血せる人體に新たなる血液を注射すると同樣であつて、爲めに吾財界は直ちに振興の曙光を認めるであらう。更らに吾々の主張する通り、官業中即時民營に移し得るものを片つ端しより民間に移せば、仕事の能率丈けでも大に高めらるゝことは疑ひない。

以上は經濟上誠に簡單明瞭なることであつて、吾國民經濟發展の上に大なる妨害を爲して居る。我國の不經濟なる政治を改革せざれば、幾度幸運が我國に見舞ひ來つても、又國民が如何に勤勉努力しても、到底我國を富み榮えたる國たらしむることは出來ない。此見易い道理が猶未だ國民の多數に理解されないのは、全く吾國民が多年の因習で政治と經濟の密接なる關係を理解せぬ爲である。近頃或る地方に住んで居る私の友人が眼を患つて、或る眼科醫の治療を受けて居つたところが、誤つて瞳孔を擴げる眼藥を注射して居つたため、段々視力を失ひ若しか今暫く此療法を繼續して居つたならば遂に全然失明するところであつた。幸ひに途中此間違ひが分かつて、治療法を改めたが爲め段々眼病が癒り一旦失はれた視力も回復するやうになつたとのことである。今や吾國民は經濟を知らない政治家から誤つた治療を受けて、次第に病の重くなるのを氣付かずに居る。私は本誌を通じて吾國民に勸告する。不景氣の病が癒したいなら既成政黨のような醫者に罹かつて居たら益々病が重くなるばかりであるから、速かに醫者を取替ゑるることをすゝめる。

財界回復の祭壇飾らる

高橋龜吉

一、昭和三年の財界の位地

大正九年以來、「財界整理」の必要に迫られながら、永く、彌縫を續け來つた我が財界は、昭和二年四月の金融大恐慌に由つて、一頓、そ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の差迫つた整理の荒療治を了へた。尤も、昭和二年の後半に、此の整理の荒療治に伴ふ後患のために、未だ、治療の進行に基く元氣の回復を自覺し得なかつたけれども、しかし荒療治に伴ふ後患も、昭和三年の前半期中には、恐らく、一應片付くべしと考へられるので、此間、治療進行の好影響は、漸次に著しく自覺せられるに至るであらう。

斯樣なわけで、昭和三年の財界は、大正九年以來持ち越された財界の整理が、いよ／＼、一應完了せられて（爲替回復の人爲政策を政府が採らないと云ふことを條件としての話であるが）、「財界回復」の時代に轉入した年と見ることが出來るであらう。無論、こゝに財界回復の時代が來たと云ふ裏には、幾多の非常手段が施されてゐる。また、ここに財界回復の時代が來たと云ふも、そのことそれ自身は、直ちに、「國民大多數の生活がこれからは樂になる時代になつた」と云ふことを意味するものでは決してない。これ等の點は「財界の回復」と云ふ眞相を理解するために是非知つて置かねばならないことだ。がいまは之に觸れず、後ちにそれ／＼詳述するであらう。

次に論點となることは、右述の通り、我が財界は、昭和三年に於て、整理期からいよ／＼回復期に轉入するものとして、さて、問題はその回復の速度、その回復の高さ、はどうであらうか、と云ふことである。しかし、此の點に答へるためには、先づ、財界整理の内容、その程度、その性質、その今後に於ける作用等を詳かにせねばならない。そこで、これ等の點に對する觀測に就ても、これ亦便宜上、以下本稿の進むにつれて、直接間接詳述することにしたい。

二、財界整理及び財界回復の意味

今日の「財界」に於て謂はれる所の「財界の整理」又は「財界の回復」とは、要するに、資本主義の生産的仕組みが、圓滑に運轉し得る狀態にあるか否か、を照準にして云はれてゐることである。だから、資本主義經濟がその社會の民衆を果して、より良く賄ひ得るに至つたか否かと云ふが如き、資本主義の社會的機能を基準にしての問題とは話は全然別である。然るに、實際に於ては、この兩者が屢々ゴッチャにされて論議せられてゐるため、理論に少からぬ混線を起し、眞相を摑むに困難となる傾が多いやうである。

さて、資本主義の生産的仕組みが圓滑に運轉し得る狀態とは、いつたい如何なる場合を指すか、いま之を一の比喩を以て極く砕いて云へばかうである。例へば一の機械が圓滑に運轉するためには第一に蒸汽力、電力等の原動力が要る。第二には此の原動力の刺戟に由つて直ちに回轉し得る歯車が必要だ。その何れかの一つが缺けてゐても、不十分であつても、機械は圓滑に運轉しない。資本主義の生産的仕組みも丁度これと同樣にて、資本家に「利益」と云ふ原動力が無くなつては、如何に立派な生産機關が備はつてゐても、その生産機關は動かない。又如何に「利益」が約束されるとも、その生産機關が錆付いたり、破損したりしてゐたのでは、思ふ樣に財界は運轉することが出來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない。そこで、斯く原動力が涸渇したり、機關に破損を生じたりした場合には、財界は茲にその「整理」を必要とするに至るのである。

斯様なわけで、「財界の整理」と一般に謂はれる場合には、二重の意味を含んでゐる。(一)は「利益」のなくなつた生産條件を、再び「利益」のある生産條件にまで整理することであり、(二)は生産機關が損失その他の故障で破損した場合に、之を修繕することである。無論、時に由つて、或は(一)のみが特に著しき場合あるべく、或は(二)のみが特に重大なる場合もあり。或は(一)及(二)双方共に重大なる場合があつて、その具體的なことは、個々の場合に從つて之を鑑別せねばならぬ。

然らば、右の財界運轉の原動力たる資本家の「利益」が消滅したる場合、再び此の「利益」を再現さして、財界の景氣を起死回生せしむる「整理」とはそも〳〵何か？　その方法は要するに、左の二點に關連する諸條件を、企業資本家の立場に出來るだけ有利になるやうに改變することである。

一、生産費を低下さすこと

二、高物價且つ多販賣の道を講ずること。

では、右の二點に關連する諸條件のドレを、如何に改變せばよいか、その具體的なことは、時と場合とに由つて、無論色々に異るが、いま最近の我國に於ては、それが如何なる生産條件に於て、いかなる「整理」が行はれたかと云ふに、之については、後に詳述するつもりである。が、要するに、こゝに利益再現出のための「財界の整理」と云ふ場合には、當該資本家以外の民衆に如何なる犧牲を強ひても構はない、兎にも角にも、資本家の採算に、「利益」と云ふバランスさへ彈ける状態を現出さすことに成功すれば、それで「財界の整理」——原動力の方面に關する限りに於て——は完了したのであつて、「財界の回復」が直ちに之に續いてゐるのである。この際、その財界回復の踏臺の下に、如何に多くの無産大衆が或は失業に由り或は收入減に由りて窮迫を加重してゐるかと云ふが如きことは、謂ふ所の「財界の回復」と云ふ言葉の關する限りに於ては問題ではないのである。

財界整理の次に意味する點は、生産機關そのものゝ破損の修繕であること已述の通りである。所で、こゝに生産機關の破損とは何かと云ふに、その破損の根本點は、主として、資金の缺乏と云ふ油の不足から、機關に故障を起したことに在る。而して、資金の缺乏は、或は損失に根因し、或はゴマ化し決算に由る「蛸配當」に基因する。ツマリ借金が累積し、損失が加重して、資金の缺乏を起し、如何に利益を約束するものあるに至るとも、原料を仕入れ、製品を販賣するに必要な肝心の元手の融通がつかなくなつて、二進も三進も出來なくなつたのである。そこで、此の點に關する「財界の整理」と云ふ場合には、或は債權者の讓歩に由り、或は增資に由り、或は減資減配に由り、或は借金に由り、兎に角、その事業を運轉するに必要な資金が、完全に且つ有利に供給せられる状態を再現せしむれば、それで「整理」は成つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たのである。

右につき、此際、一言注意を要することに、或る一部の人々が考へる如く、（而してその中には濱口前藏相の如きもある）その事業會社乃至他人の、損失の穴埋めが完了せられなくては、整理は未了だと云ふわけのものでは決してないと云ふことだ。蓋しいま一般に、財界の整理と云はれる場合には、財界の圓滑なる運轉の能否、——それが即ち財界の景氣の如何そのものである——を照準とするものなること前陳の通りであるが、その財界の景氣は、事業會社の內部に如何に多くの借金（損失に屬する）があらうとも、事業が儲かり、且つ必要な資金の融通さへつけば、茲に一大景氣を現出することは決して不可能ではないからだ。

即ち、茲に「財界整理」と云ふ第二の場合には、過去の大損失の穴埋めが問題ではないのであつて、問題は、事業の運轉に必要な資金の供給に在るわけである。それに關連する限りに於て、過去の損失の穴埋めが問題になつて來るに過ぎないのである。

以上の如く、財界の整理と云ふ場合には、「利益」の再現に關する方面と、「資金供給」の再現に關する方面との二方面がある。が、此の二つの部面は、時に、交互作用を有するものであつて、例へば、資金の供給豐かなれば、從來利益なかりし場合にも利益を齎らし得る。蓋し、或は有利に仕入れ、或は高利の負擔から免がれ得るからだ。更にまた、資金關係の整理は、必然に、基礎薄弱な事業を「淘汰」して基礎困難なる事業を整理す。この結果、從來、於ける事業方面の競爭を餘儀なくせられた事情から解放せられて、有利に生産し販賣し得られるに至ると云ふが如きことになるのである。同じて又、「利益」の再現そのことが、直ちにその會社の資金供給の問題を解決する作用をなす。即ち、或は增大したる利益を以て必要な資金を賄ふことも出來れば、又、利益增に基く信用回復に由つて、從來金融困難なりし事業も容易に融通の途が出來ると云ふが如きである。

以上、極めて簡單且つ卑俗ながら、之に由つて、以下述べんとする今昭和三年に於ける「財界回復」の具體的意味を、より良く理解して戴けることが出來るであらうと思ふ。尠くとも、或る種の誤解に基く理解の混雜は避け得られるであらうと思ふ。

三、金融恐慌迄に於ける財界整理

昭和三年の財界の位地を知るために、こゝで一寸振り返つておくを便宜とすることは、金融恐慌までに於ける財界整理の概要である。先きにも云へる通り、財界整理には二面ある。その內、原動力たる「利益」の再現について、金融恐慌前に於ては、如何なる整理をやつたかと云ふに、專ら、賃銀の低下（制帽の廢止、昇給中止、新雇入給料の低下等）、人員の整理等、人的方面に主力が注がれたのであつた。だが、生活必需品は依然として尙ほ高く、賃銀引下げに由る生産費の低下には限度があつた。然るに、利子は尙ほ高く、製品は安くて賣れぬと云ふわ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けで、「利益」再現の効果は尙ほ極めて限られてゐたのであつた。いかにも、此間、或は弱肉强食の淘汰が少からぬ程度にまで强行せられ、或は共同生産制限等に由つて、生きるか死るかの採算無視の競爭と云ふことは、餘程に緩和せられ來つたのであるが、しかし、その効果は、大觀して、僅かに損失を免がれ得たと云ふ消極的の程度に止り、進んで、積極的に利益の再現を齎らすと云ふの域にまでは未だ達しなかつたのであつた。

尤も、右の如く、金融恐慌前までの我が財界が、未だ利益再現の域にまで達せなかつたと云ふ主たる理由の一つには、資金融通の不圓滑、高利の壓迫などと云ふ、資本的原因がその主要部分をなしてゐた。而して、斯く、資本的要素が、我が財界の利益再現を阻みつゝありし根因は、要するに、財界整理の第二の方面たる資本の整理が、殆んど出來てゐなかつたと云つてよかつたからであつた。即ち、大正九年の反動、大正十二年の震災等に由つて、各事業會社其他並に銀行は何れも少からぬ損失を蒙りながら、その負傷を糊塗隱蔽して、有りもせぬ利益を、あるが如くに帳簿をゴマ化して、所謂「蛸配當」を續けたのであつた。云ふまでもなく、その結果は、各事業會社銀行其他の資金の缺乏である。一體ならば、大正九年の反動及十二年の震災に由る大損失に善處するために、利益があつても之をその穴埋めに使はねばならない場合である。だのに、反對に、ありもせぬ利益をあるが如くにゴマ化して「蛸配當」や重役賞與を取つたのだから、經濟機關の油たる資金が益々涸渇するに至るは必然だ。かうなると、資金の融通は段々難かしくなる。その業礎が危なくなるのでオイソレと融通して與れ手がなくなるからだ。そこで、假令有利な仕事があつても資金缺乏の故に之に手の出しやうがなくなる。例へば川崎造船が、いま數百萬圓の設備をすれば儲かると云ふ工場部分を有しながら、その金の工面つかざるがために拱手してその利益を逃がさねばならなかつたが如きその一例である。更に又、かうなると、無理をして高い利子を出さなくては融通が出來ない、從つて金利が高いために、他の方面では儲かつても、金利のために皆喰はれて了ふと云ふわけで、利益は再現しないことになる。また、かうなると仕入れる原料にしても高く買はされる現金で買へるならば最安の所から……と云ふことが出來るが資金難のためそれが出來ないと云ふわけで……。又、賣る製品にしても、資金難を泳ぐためには、損をしても早く金に代へる必要に迫られる。

斯樣な狀態が、我が財界の各方面に於て、多く見受けられたのであつた。從つて又、之を財界全體から云つても、資金難、金利高で、儲かる事業も儲からないし、假令それでも儲かる場合があつても、肝心の資金が缺乏して油が涸れてゐるので、利益の刺戟に由つて直ちに經濟機關が活動するわけには行かなかつた。之れ金融恐慌前に於て、幾度か財界の整理は一先づ完了したと云はれながら、さて、財界は回復すべき筈であり乍ら一向に動いて來なかつたわけである。之を繰返して云へば、外部から見へる部分に於ては、一應財界の整理」は終つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かに見へたが、事業會社、銀行等の内部に於ては、從つて一般の人々には一寸見當のつかなかつた方面に於ける「整理」が一向に出來てゐなかつたからである。

四、金融大恐慌を震源とする財界の整理

去る四月の金融大恐慌は、要するに、以上の如き「蛸配當」的財界の行詰に基く破綻であつた。ありもせぬ利益をあるかの如く粉飾して、借金を實に居喰を續けた結果、會社には資金が涸れた、銀行の手許は帳簿の上だけには貸金があるが、その大部分は何時返金されるか分らない氷結したものだ。斯くて、日々の運轉に必要な資金にも缺乏して、いよ〳〵動きがとれなくなつた。これでは、財界に一大破綻が來る外に途がない、と云ふので、之を未然に「救濟」しやうとしたのが例の震手法案であり、それが却つて動機となつて破綻の曝露を促進した結果が即ち過般の金融大恐慌である。從つて又、あの金融大恐慌を震源とする財界の整理は、（一）主として、資本の方面に一大荒療治が加へられた外觀をとつたのであつたが、しかし、それと同時に（二）「利益再現」の方面にも世人の餘り氣付かざる方法に由つて少からぬ追撃が行はれたのであつた。

あの金融大恐慌が、資本の整理を強行さしたと云ふ方面については、世人の注意が已に少からず拂はれてゐる。筆者自身又、之を已に前月（十二月）號の本誌に於ける拙稿「財界回復政策の正體と其行衛」に於て一應評述してゐるが、從つて、こゝには、其の詳細に關しては、單に、次のことを一言して、以て、全體との關係を鳥瞰するの便に供するに止めるであらう。即ち、金融恐慌は左の如き方法に由つて、資本に關する財界の整理を可なり大規模に強行さしたのであつた。

（一）二億七百萬圓の震手處理法、二億圓の臺灣銀行救濟特別融資法、五億圓の特別融資補償法、合計九億七百萬圓の巨大な金を國民の懐中より取上げて、或は之を資本家に惠與し、或は之を資本家に低利且つ長期に貸與して、以て、我が財界の資金の涸渇を少からず潤ほしたこと。しかし、國民が右の負擔を感ずるに至るのは今後のことであつて、未だその負擔は國民を壓する時期に達してゐない。

（二）金融恐慌に由る不良銀行の淘汰、及び銀行に對する警告等のため、從來の如き亂脈なる資金の融通法を中止するの餘儀なきに至り、こゝに、各事業會社銀行等の資本の整理が勵行せられた。例へば、

（イ）減資減配に由り、及び未拂込資本の徴收に由つて、從來の損失の穴埋めを餘儀なくせられ、斯くして、涸渇せる資金に新たなる供給の道を拓いたこと。

（ロ）債權者の元金及利子の減額乃至は返濟期限延期等の讓歩に由り、資金の涸渇を防ぎ得、併せて利子負擔を輕減したこと。

（ハ）以上の如き整理の進行に伴ひ、從來融資を危險視したる向も、こゝに、新基礎に立ちたること明かとなりて、新たなる資金融通の途を開き得たこと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

尤も、右の如き資本の整理に由つて、我が財界の資本的整理が全部完了したと云ふわけでは無論ない。しかし、以上に由る資本の整理の結果、これ迄、如何に財界運轉の原動力來るも、その回轉（圓滑なる域にまでは未だ達せない程度に於てすらも）することを阻止し來つた、所謂「財界の癌」は、一先づ切開されて了つたわけである。即ち、「利益の再現」と云ふ原動力さへ現はれゝば、財界の歯車は、何とか仕事の出來る程度にまで（未だ圓滑とは云ひ得ない迄も）回轉し得るだけに修繕も出來、油も差されたわけである。いまは最う、財界に利益ある採算さへ現出せば、それは、景氣のホキールは、原動力を得て何とか回轉し得る事情にまで、「整理」の一面は進んだのである。

そこで、問題は、原動力たる「利益」再現のための財界整理の方面が、去る四月の金融大恐慌を震源として、其後、如何に進捗したかである。云ふ迄もなく、生産に、「利益」が現はれるには二つの側面がある。（一）は生産費の低下であり、（二）は生産物價の騰貴である。所で、去る四月の金融恐慌は、（一）の作用は可なりの廣範圍に亙つて果したが、それと共に（二）を反對に下落さして了つた。そのため、折角（一）の作用は行はれながら、（二）のために相殺せられて未だ利益再現の目的を達するの域に達してゐない。例へば、（一）の生産費の低下を齎らした現象としては、次の諸項を擧げることが出來る。

(1) 賃銀の引下げ
(2) 金利の低下
(3) 借金元利負擔の輕減
(4) 農産物價の著落
(5) 弱肉强食の淘汰に由る競爭者の減少

所で、(1)の賃銀引下げは、從來已に極力斧鉞が振はれてゐるので、且つ又勞働者の反對運動が强いので、表面から之を斷行し得る餘地は限られてゐる。そこで、此の(1)に對する整理の最大なる部分は、裏面から行はれてゐる。即ち、爲替の暴落がそれであるが、此の點は此際最も注目すべき「財界回復」の手品の種をなすものであるが故に、別に節を分けて後述するつもりである。だが、表面からの賃銀引下げ、昇給停止、解雇、新規雇入條件の低下等も、無論、極力敢行せられた。このことは、此の不景氣の際、各地に勞働爭議の頻發したことに由つて端的に説明し得るであらう。

(2)以下(5)の整理は、これ迄、餘り手の着けられなかつた部面である。蓋し、(1)が專ら無産大衆に關する整理であるに對し、(2)以下(5)は、主として資本家階級に對する整理を意味し、その故にこの方面に關する整理は、從來、出來るだけ彌縫せられ、回避せられて來たのであつたが、過般の金融恐慌に由つて、遂に此の部面に對しても少からぬ荒療治が敢行せられ、こゝに資本家階級の收入減（と申しても産業經營者の資格に於てゞはなく、投資階級乃至債權者の資格に於てゞある。此の點を區別することが必要である）に由る生産費の低下が行はれるに至つたのである。先づ(2)の金利について云へば、之を日本銀行の商

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

票手形割引日歩について見るに、最近次の如く低下してゐる。

大正十四年四月十五日	二錢二厘より二錢へ
同　十五年十月四日	二錢より一錢八厘へ
昭和二年三月九日	一錢八厘より一錢六厘へ
同　十月十日	一錢六厘より一錢五厘へ

即ち、最近二ヶ年餘りの間に日歩七厘、年利にして二%五五の下落があつたわけで、市場利子に於てはその下落率は更に大であつた。いま之を假りに三%と見ると、一千萬圓の資金を利用せる場合には年三十萬圓の生産費の低下となるわけだ。が、金利低下の作用は單にそれだけではない、斯く金利が下落すると、いま迄は例へば年一割以上の利益がなくては事業を起す刺戟にはならなかつたものが今度は年七分以上の利益があれば、優に財界に景氣を起す原動力を與へ得ることになるわけだ。此の作用の方が更に大きな働きをなすのである。

(3)の借金元利負擔の輕減とは、例へば、川崎造船所の如きが、從來假りに年一割の利子で五千萬圓の借金をしてゐたため、年々その生産品が五百萬圓の利子負擔をせねばならないのでやつて行けなかつたとする。所が、過般の金融恐慌で、破綻を暴露し、或は震災手形法やその他で援護を受け、或は債權者が元金を半分に減じたり、利子を五分にマケたりして、川崎造船が何とかやつて行けるやうにしてやる、と云ふが如きを指すのである。此の種の整理も少からず進捗したこと、讀者の已に新聞紙で御覧の通りである。

次に其の農産物價の下落に由る生産費の低下であるが、その直接の作用としては、原料價格の下落であるが、しかし更に大なる作用は、一般生活費の低下となつて、間接に、賃銀の下落を促進さす點である。

從來、我が農産品の下落は、已に或る點まで實現してゐたのであつたが、しかし、最近に於ける、米、繭其他の下落は就中多大である。此の農産品の著落は、要するに、地主の收入減となり商工資本家の利益増となつて、ケリが着くのが經濟の理であるけれども、實際は、地主が、更にその負擔を小作人に極力轉嫁せしめんとすること勿論である。而して、今日の法律關係其他は、少からぬ程度にまで、此の地主の運動を擁護してゐる結果、此の農産物價の下落につき、當面、最も大なる負擔を荷はされるものは、農村無産大衆である。今年度は、米も豐作であるに拘らず、各地に深刻なる小作爭議が頻發するわけは即ち之れであるが、之を謂ふ所の「財界の整理」又は「財界回復」と云ふ立場から云へば、右の犧牲の負擔を、農村無産大衆が荷はされやうが、將又、地代の下落に由つて地主が負擔しようが、そんなことはドチラになつたつて構はない。兎に角こゝに於ては、資本主義的生産機構以外の階級から犧牲を奉納さして、之を資本家的財界回復の祭壇に供養しさへすれば、それで「景氣」の齒車は回轉し始めるのである。

最後に(5)の弱肉强食に由る「自然淘汰」であるが、過般の金融恐慌に、財的基礎の動揺せる多くの會社銀行個人を倒した。從つて、それ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけ競爭者を減少し、殘存者の位地に有利になつたわけであつて、その結果は或は生産費の低下となり、或は物價の騰貴となる作用を有するものなること說明を要せないであらう。

斯く、過般の金融恐慌後、生産費の整理は少からず進んだ。だが、已述のやうに、生産費の低下を圖るには、必然に、國民大多數の收入を減少せしめねばならぬ。その結果は購買力の減少、賣行不振、物價下落と云ふヂレンマである。現に、物價は『整理』の進行と共に下落した。一方に生産費は低下しても、物價下落、賣行不振で差引利益は增大して來ない。斯くては、いかに生産費の方面の整理が出來ても、財界回復の歯車に運轉し始めない。その歯車が回轉し始めない限り、銀行は安心して資金の融通を圖らない。その結果が、昭和二年下半期に於ける不景氣である。

四、爲替下落のカラクリ

以上の如きわけで、昭和二年の財界は、之を財界の整理回復と云ふ立場から云へば金融恐慌後、マイナスの作用とプラスの作用とが相殺されて、依然、不景氣を續けたのであつた。だが、それは、國內的にのみに見た結果である。然るに、實際の資本主義經濟は、斯かる際には、外國貿易に由つて多大の刺戟を蒙るものである。即ち、以上の結果、或は輸出が增進し、或は輸入が減少して、內地產業の活躍を促がすのである。無論、最近の我が財界にも此の作用が働きかけてゐるわけだ。しかし、實は、此の作用が活潑に働き始めるには、未だ、物價の下落が足らない。外國品よりも安價に供給し得る所にまで、整理が完成してゐない。そこで、之を普通の狀態から云へば、いま一段、勞銀其他生産費の低下が行はれ、物價が下落し、輸出の增進、輸入の減少と云ふ刺戟を待たねばならないわけである。

だが、斯樣な「整理」は、一方には勞働階級の反對があり、一方には資本家階級それ自身の損失を覺悟せねばならぬ。こゝに於て、いま、斯樣な苦痛なしに、一方には資本家に直ちに利益を約束し、一方には勞銀その他無產大衆の收入を減少せしめると云ふ、所謂一擧兩得の方法があれば、資本家階級及び政府が、此の秘策を貪り採用するは當然であらう。爲替下落のからくりは、即ち、資本家に、右の二目的を同時に惠與する一石二鳥の秘策そのものに外ならないのである。

例へば爲替が一割下落する。それだけ、我が國の物價は騰貴しても、對外的には從來の値段と變らない。そこで、爲替が下落すれば、物價は騰貴しながら輸出は增大すると云ふ、ボタ餅で頰をたゝくやうな利益を資本家に約束する。だが、之を無產大衆から云へば、依然同一の賃銀乃至月給で、高い物價で生活せねばならなくなるから、要するに一割物價が騰貴せば、一割の賃銀月給等を減らされたと同一結果になるわけだ。しかし、今日の仕組みでは、斯樣な「物價」の側から來た賃銀や月給の引下げは、正面から賃銀月給の引下げをやる場合の如く反對せられない、することが困難だ。

斯樣なわけで、爲替の下落と云ふことは、目立たぬ裡に、一方で無

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勞大衆の收入を減少せしめ（實質上）、他方、資本家にそれだけの利益を約束する。いま、我が政府及資本家は、此の秘策に由つて、我が財界最後の整理を促進し、景氣回復の注射を施しつゝある。見よ、金融恐慌の眞最中、政友會内閣成るや、彼等は直ちに一方には爲替回復政策の拋棄を聲明し、一方には盛んにインフレーション政策を行つて、次の如く、我が爲替相場を下落せしめたではないか。

金融恐慌前の最高對米相場　**四十九弗四分ノ一**
最近（十一月末）市場相場　**四十五弗四分ノ三**

即ち、差引三弗五十仙、約七%の下落である。換言せば、二圓の貨銀が一圓八十六錢に引下げられたと同じ結果を起したのである。しかも、此の爲替相場の下落は、**已に落げ止つたわけでは未だない**。否、前途、**尚ほ少からず下落すべき事情に在るのである**。しかも、その事情は、**政府の財界救濟策の中に不可分のものとして包藏せられてゐる**。と申す意味は、過般來の財界救濟のために已に放出せられ、乃至は今後に放出せられる通貨膨脹（インフレーション）の作用を指してゐるのである。

例へば、已述の財界救濟法三つ（合計九億七百萬圓）に由り、過般の金融恐慌後、日本銀行は已に約六億圓の巨額を貸出してゐるが、この貸出そのもの〻性質は、純然たるインフレーションである。なる程、未だそのインフレーション流通紙幣の增大と云ふ具體的な姿を現はさない。だが、早晩その姿は何かの形で具現し來らざるを得ぬ。現に、最近に於ける金融の緩慢、金利の著落の根因の一は玆に在る。尙ほ、政府の財界救濟に由るインフレーションの害に出る。然るに特別融通八億圓と云はれる休業銀行が開業するにつれ、その拂戻されたる預金の大部分は、「日銀特別融通及損失補償法」に由つて日本銀行から貸出される。之れまた、その性質は純然たるインフレーションである。いま若し、八億圓の休銀預金の半分が拂戻され、その又半分が右の日本銀行よりの貸出に由るものとせば、その高は二億圓である。その上に、政友會は又、**財界回復政策の一端として、別に所謂積極政策をやる**。その結果、**來年度に於て、徵入すべき歲入以外に、公債乃至剩餘金繰入れに由り支出さるべき金高が三億二千餘萬圓に達する**。その中の少からぬ部分も亦、インフレーションの作用をなすや云ふまでもない。斯くていまわれ等は、**約八九億圓と云ふインフレーション政策を目の前にしてゐるのである**。

扨て、その結果は如何、普通なれば物價騰貴、輸入超過、爲替下落と云ふ順路を通るが常なれども、しかし、現在の我が日本の如き場合には、右の財政經濟事情を材料にして、先づ投機的に爲替が著落し、次いで物價騰貴と云ふ徑路をとる憂が多分に在る。現に、最近（十月乃至十一月）僅かの間に對米爲替が一弗ばかりも著落せし根因の一はこゝにあつたと云つてよい。

若しも、右の如き結果が、昭和三年の進行と共に現はれんか、我が財界は、こゝに、「利益再現」の少からぬ原動力を得て、景氣回復の歯車は回轉するに至るであらう。而して、その歯車回轉の速度、その財

界回復の高さ等は、(少くとも之を昭和三年と云ふ期間に限つて云へば)、主として、右の爲替相場下落の程度如何に由つて左右せられるであらう。だが、今日、(十一月末)已に爲替は已述の如く下落してゐるのだから、これだけでも、その及す影響は可なりに著しく今後に於て現はれるであらう。恐らく、爲替相場は今日以上に著しく回復すると云ふことは萬々あるまいから……。(政府の政策が現在の如くである限り)

加ふるに、いま世界の物價の大勢は騰貴の波に乘つてゐる。だから若し政府にして依然爲替回復政策を抛棄するに於ては、我が物價は、爲替の下落と此の外國物價騰貴の刺戟との二方面から、その騰勢を煽られつゝ、尙ほ輸出增を示す可能性があるわけだ。その曉に於ては、謂ふ所の「財界の回復」は、それだけ、速度に於ても高さに於ても、更にヨリがかけられて來るわけである。

五、財界回復の祭壇に供へられたる犧牲

以上が、昭和三年に於ける「財界回復」の位地であると思ふ。尠くとも、いま手にし得る材料からはさうであると考へられる。此間如何なる突發材料が飛び出して、右のコースを如何に歪めるかも分らぬこと無論であるが、それは神ならぬ身の豫測の限りでない。

だが、最後にモウ一度振り返つて締めておく必要のあることは、右の如き「財界回復」の祭壇に捧げられてある犧牲の數々についてである。しかし、最早與へられた紙數を全部使ひ果してゐるので、こゝには、單に、その犧牲の如何に多くが、專ら無産大衆の生活から取り剝がれて來たものであつたかに注意を促すに止めるであらう。

例へば、勞働條件の積極的低下、農産物價下落に由る農村大衆の壓迫、爲替の下落、物價の騰貴と云ふ間接作用に由る一般大衆に對する生活難、九億七百萬圓の資本家救濟費の負擔、等々が即ちそれである。即ち、大衆の生活を削り下ろすことに由つて、而してその大犧牲を財界の祭壇に捧げることに由つて、財界回復の魔神は漸く笑顏を作り出さんとしてゐるのである。云ふまでもなく、斯くの如き「財界の回復を民衆が謳歌すべき筈がない。だが、われ〳〵が、資本主義的仕組の下に、生産の齒車を運轉させようと云ふには、右の犧牲を強ひられる外にないのである。從つて又、輸出に出る外に、我が財界の景氣回復の途が無くなるのである。

かつては、資本主義の景氣の波は、大衆の生活を向上さした。その限り、大衆は資本主義制度を謳歌した。少くとも之に積極的に反抗しなかつた。たま〳〵反對する者があつても、それは先きの先きを見透した一部先覺者のそれに止まつた。しかし、資本主義の安定、財界の回復は、最早、以上の如くその元氣の素を、專ら、その無産大衆の食卓から奪つて來る外になくなつたのだ。大衆が資本主義に反抗するに至るは必然だ。若しも、資本家にして、その資本主義の永續性、その永續價値を主張しやうと云ふには、右の如く、大衆の生活を犧牲に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

…ることなくして、而も之を向上せしめつゝ、生産の資本を國富に還[illegible]得せしめ得る方策を有しないことに歸着するのである。（十一月廿日）

農村經濟の行詰と其打開策

牧野輝智

（一）

農村經濟が行詰つてゐるといふことは、何人も唱ふる所である。然らば如何なる點が行詰つてゐるかといふと、人々のいふ所はまち〱で、中には何等據る所なく、漠然たる判斷にて何となく行詰つてゐるといつてゐるものもある。私は統計上の根據に立脚して、少しく農村經濟の現狀の將來を考察し、進んで其行詰りの打開策を研究して見たいと思ふ。

最初に攻究す可き問題は農業の前途如何といふことである。農村經濟の基調は農業である。それも我國にありては米穀經濟が農村振否の依つて分れる最大要素である。然るに農業の現狀及將來は商業工業等のそれと比して伸張性が著しく缺けてゐる。尤もこのことは農業其のものゝ産業としての本質にも基因してゐる。農業は商工業の如く、投下資本に對し或は又勤勞に對し、多くの收益を擧げ得べきものではないが、それにしても我國の農業は國が古くて新發展の餘地が乏しいといふ樣な事情も重つて、餘程行詰つてゐることが種々の事實に現はれてゐる。

試みに商工業に比し、農業の發展が如何に遲々たるものであるかを示して見ると、第一に貿易は大正三年から昭和二年まで十四ヶ年間に四倍の發展をなしてゐる。即ち大正三年に輸出六億九千一百萬圓、輸入五億九千五百萬圓、合計十一億八千萬圓であつたものが、大正十五年（昭和元年）には四十四億二千萬圓で、約四倍に發展してゐる。昭和二年の貿易總額は本文起草の時までは不明であるが此の年は非常に不景氣であつたに拘らず、十五年前に比すれば大體四倍に近い金額に達す可きことは、十一月までの成績に徴しても明かである。他の一つの例として銀行預金はどうかといふと、普通銀行の預金は大正三年に十五億三千萬圓であつたものが、昭和元年末には八十八億圓で是は六倍の増加である。昭和二年は金融恐慌で普通銀行の預金は幾分減少し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同年十月末の預金は八十七億四千萬圓となつてゐるが、それでも大正三年と比較し、六倍に近い金額を示してゐる。

又工業はどんな情勢かといふと、我國工業の大宗ともいふ可き紡績業は、大正元年に二百四十萬錘であつたものが、昭和元年末には五百七十一萬錘に增加し、之は二倍の增加である。其輸出高の激增は單に海外輸出の綿製品（綿糸、綿布、メリヤス類）を見ても分ることであるが、大正元年の輸出高は九千萬圓であつたものが、昭和元年には五億圓を輸出し、昭和二年は十一月末まで、四億二千萬圓を輸出してゐるから、此の間に五倍の進步を示してゐる次第である。工業を代表する今一つの重要産業たる電氣事業も大正三年には拂込資本（拂込資本金及社債借入金）が五億六千萬圓であつたものが、昭和元年末には三十六億圓となつてゐる。是は六倍の發展であることを示してゐる。

（二）

斯の如く商工業の發展は十五ヶ年間に四倍乃至六倍の進步であることを示してゐるに對して、農業の狀況はどうかといふことを檢討すると進步の見る可きものが甚だ乏しいことを發見する。

第一に米の產額はどうかといふと、大正三年の米穀收穫五千七百萬石であつたものが、昭和二年の收穫は非常な豐作と稱せられながら六千萬石を少しく超過してゐるのみである。平年作としては、大正五年の收穫も近年のそれも大した相違はない。左に累年の米穀收穫高を掲ぐ。＝農林省調查＝

米穀累年の收穫高

	作付反別	收穫高
大正三年	三、〇三三、三六八町	五七、〇〇六、五一〇石
大正四年	三、〇五六、五六四	五五、九二四、〇七九
大正五年	三、〇七一、一六五	五八、四五二、三八六
大正六年	三、〇八三、四四七	五四、五六八、九二七
大正七年	三、〇九二、七九三	五四、七〇〇、一六一
大正八年	三、一〇四、六三四	六〇、八一八、六八八
大正九年	三、一二六、五三五	六三、二〇八、五四〇
大正十年	三、一三四、八九四	五五、一八〇、四六八
大正十一年	三、一四〇、七六六	六〇、六九三、八五一
大正十二年	三、一四七、五六一	五五、四四四、〇八九
大正十三年	三、一四二、八一四	五七、一七〇、四一三
大正十四年	三、一五二、八二七	五九、七〇三、七八四
大正十五年	三、一五八、二七一	五五、五八二、六三二
昭和二年（第二回豫想）	三、一七二、一〇七	六〇、八一〇、一八〇

米穀の生產は作付反別を見ても收穫高を見ても十四ヶ年間に殆んど見る可き進步がない。然らば麥類の收穫は如何といふに是亦同樣發達の見る可きものはない左の通りである。＝農林省調查＝

麥類（大麥裸麥小麥）累年の收穫高

	作付反別	收穫高
大正三年	一、八二二、三〇五町	二一、二四四、三五一石

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四年	一、八一一、八二九	二三、七八一、三八五
五年	一、七八六、六八三	二三、三三九、〇二五
六年	一、七四六、九二六	二四、一五三、四二一
七年	一、七三四、七八五	二三、五七七、二七一
八年	一、七二九、一四八	二三、八一六、六一七
九年	一、七五二、六〇二	二三、四七七、八〇八
十年	一、七一〇、八一九	二一、六六三、九五六
十一年	一、六二一、八九一	二一、六三〇、三二三
十二年	一、五〇九、三八六	一八、六四二、〇六九
十三年	一、四七二、二四〇	一九、〇七三、六三〇
十四年	一、四七五、三九六	二二、七二九、一八一
十五年	一、四五九、二九二	二一、九〇〇、八二六

麥類の生産にありては作付反別、收穫高ともに十數年前とは進歩の見る可きものないばかりか、作付反別は近年に於て二割内外の減少を示し收穫高には何等増加の事實が擧つてゐない。作付反別の減少に拘らず、收穫高の減少してゐないことは品種や耕作法の改良の結果であらうがそれとて大したことではない。

(三)

米作と麥作は農耕生産品中の主要品である。此の兩類の生産額こそ農耕生産品の殆ど全部といつてもよい程の重要である。然るに米作といひ麥作といひ上記の如く進歩の見る可きものは極めて遲々たる有様で、其の生産額の大小は一に天候の如何により左右されるといふ状態である。たゞ價格に就て見ると收穫の増加なきに拘らず額は増加してゐる。即米の生産價格は大正三年に八億八千萬圓であつたものが、大正十四年には二十一億圓に達してゐる。それは米價昂騰の結果であつて大正三年には米價一石の平均價格十五圓四十六錢であつたものが大正十四年には一石の平均値が卅五圓七十三錢である。米穀の實産には何等増加なく米價の昂騰により今日の農家經濟は漸く維持されてゐる次第である。尤も貿易品や工業生産品に就て見ても金額の増加と數量の増加とは必ずしも増加するものではない　併し貿易品や工業生産品は金額の上に於てのみならず、量の上に於ても相當の増加を示してゐる。それは綿糸の生産額が大正三年には百六十六萬梱であつたものが大正十五年には三百六十萬梱を生産してゐることによりても大體を想察することは出來やうと思ふ。米作麥作が作付反別に於て殆ど増加なく麥作の如きは却つて減少してゐるのとは大に事情が違つてゐる。

(四)

農業經濟の根本的の惱みは此の點に存してゐる。如何に耕地整理を奬勵しても開墾助成法により開墾拓殖を奬勵しても是による耕地の増加は眞に微々たるものである。農耕地の總面積は大正三年に五百八十七萬町歩であつたものが、大正十四年に六百六萬町歩に増加してゐる程度である。僅に二十萬町歩の増加である。此の開墾地や干拓地の製造は年一年に費用が高くなるばかりである。農業生産を不引合のもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

となす理由にはなるが農家經濟を豐にする點に於ては希望を賭す餘地がない。既に農産品の産額は大した增加に望まれないとすれば農業による收入の增加は生産品の價格昂騰に待つの外はないが、今日にあても農産物の價格は他の商品よりも上り過ぎてゐるとの非難さへある。此の非難は物價指數を基礎としての主張である。即ち物價指數に現はれた農産品の昂騰は左の通りである。日本銀行調査

米價の昂騰率と一般物價の昂騰率

	米價	一般物價
明治三十三年(基準)	一〇〇	一〇〇
大正三年	一三七	一二六
大正四年	一一一	一二八
大正五年	一一六	一五五
大正六年	一六七	一九五
大正七年	二七六	二五五
大正八年	三九〇	三一二
大正九年	三一六	二四三
大正十年	二六一	二六五
大正十一年	二九七	二五九
大正十二年	二七八	二六三
大正十三年	三二七	二七三
大正十四年	三五三	二六八
大正十五年	三一九	二三六

右指數によると明治卅三年十月の物價基準一〇〇として、昭和元年の米價の十二ヶ月平均指數は三一九、一般物價の平均指數は二三六である。米價の昂騰率は一般物價のそれよりも著しく高率である。而かも此の程度の開きは例年に見る現象であるから、米價の昂騰率が一般物價より遙に高いといふ事實は何としても否み難いことである。米價が生産費に比し高過ぎるか否かに就ては賛否兩方とも相當の論據があるが、私は今日の米價が大體に於て安過ぎるとは思はない。たゞ米價は騰落が甚しいから適當の相場に安定せしむることは最も必要である。之が私が米價調節の根本趣旨に同意を表する所以である。然しながら農村經濟の根本義として益に於て農作品の增加は容易に望み難く、此の上にも價格を引上げることにのみよりて農村の懷工合を補ふの外に道なしとすれば、農村經濟はいよ〳〵行詰つてゐると斷定するの外はない。

（五）

此の他農業經濟の行詰りを思はしむる事實は澤山ある。農耕地の地價が著しく高いことなども、農業生産を不利ならしむる有力な原因である。我國は豐葦原瑞穗國と稱し、神代から農耕の業が行はれてゐたため、米國や加奈陀、濠洲などのやうな新開國に比し、耕地の價格が話にならぬ程高い。米國では十九世紀の中頃までは土地は殆ど無償にて收得することが出來た。勿論こんな呑氣な時代は何時までも繼續する筈はないが、それでも千九百年に於ける農地一エーカーの平均價

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

格は十五弗半に過ぎなかつた。其の後著しく騰貴したといつても一九二四年の平均地價は六十四弗である。（拙著『農業金融』參照）。

是に反し我國の農耕地の價格はどうかといふと昭和二年の普通田一反の平均値段が五百四十六圓、畑一反の値段が三百三十三圓である。試みに我國の農耕地の價格を田畑別に年別にて示せば左の如くである

＝日本勸業銀行調査＝

田畑賣買價格累年比較

	田地價格	田地指數	畑地價格	畑地指數
大正二年	三〇一圓	一〇〇（基準）	一六三圓	一〇〇（基準）
三年	二七七	九二	一四八	九〇
四年	二五四	八四	一三八	八四
五年	二七一	九〇	一五〇	九二
六年	三二二	一〇六	一八四	一一二
七年	四三三	一四三	二四六	一五〇
八年	七〇六	二三四	四一八	二五六
九年	五九四	一九七	三二九	二〇一
十年	五九一	一九六	三四七	二一二
十一年	六二〇	二〇五	三六三	二二二
十二年	五八三	一九三	三四二	二〇九
十三年	五六八	一八八	三四一	二〇九
十四年	五六〇	一八六	三三八	二〇七
昭和元年	五七一	一八九	三五〇	二一四
同　二年	五四六	一八一	三三三	二〇四

米國の農耕地に我が四反廿四歩に相當する一エーカーが六十四弗即ち百廿八圓であるに對し、我國の同年（一九二四年）の地價は一反當り田地は五百六十八圓、畑地は三百四十一圓であるから、米國のそれに比し十數倍の價格に當る計算である。斯の如くに價格の高い農地に耕作することが農業生產上非常に不利であることは改めていふまでもない。然らば地味はどうかといふに、新開國の農地に比し、我國のやうな小さい土地の地味が豐饒でないことは亦已むを得ざることで、勢い肥料代に多くの出費を要することになる。從つて此の點からも經濟的の不利を受けることは避け難い次第である。

（六）

農村經濟の行詰りの他の一因として看過してならないことは、農業生產品の市價の騰落の烈しいことである。前にも陳べた如く我國の農業生產品は過去十數年間、量の上に於ては見る可き成績がなく、農村經濟は主として市價の昂騰によつて維持されてゐる。ところが農產物の市價なるものは工業的製作品に比し大に事情が異つてゐる。工業的生產品は需要供給の狀況を考慮して生產額を調節することが出來るが米作麥作などは事前に需要供給の狀況を考慮するの餘地殆どなく豐作たると凶作たるとは主として天候によりて支配され、人力の如何ともす可からざるものが甚だ多い。然らば豐作であれば農村經濟は必ず裕福であるかといふに決してさうではなく、豐作のために農村の收益は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

卸つて減少する結果になる。それは米價の騰落は其の生産額に比例せず、增收率或は減收率を遥に離れて暴騰し又は暴落するものであるからである。是を實例にて示すと、大正十年の米穀收穫高は五千五百萬石であつたが、其の價格は二十億二千萬圓であつた。然るに其翌年の收穫は六千七十萬石に達しながら、其價格は十六億二千萬圓に過ぎない。産額は五百五十萬石の增收であるに拘らず、農村の收入は却つて四億圓近くの減少となつてゐる。此の點は農業經濟の弱味であつて、政府としては是に對して適當の調節を加ふるの必要あること勿論だが、政府の人爲的調節に何程の効果を望み得可きかは甚だ疑問である。此ことは最も近い例として昭和二年の豐作に對する政府の米價調節策の失敗に徴するも明かである。

斯の如く擧げ來ると農業經營の不利、農村經濟の行詰りを證明する事實は幾何となく現はれて來る。從つて一方に於ては商工立國論などが頻りに主張される譯であるけれども、農業なるものは國民の食糧を生産する産業であるから、其經營が不利であるからとて是を廢棄し、一切他國の生産品に依賴するといふ譯に行かない。商工立國論者が常に引用するのは英國の實例であるが、英國には加奈陀のやうな、濠洲のやうな豐饒な農産地を植民地として所有してゐる。それでも一旦緩急ある場合のことを考へて、海軍々備の充實には最も意を用ひて來たかくて歐州大戰當時までは一意商工業の繁榮にのみ力を傾注して來たが、昨今は餘りに農業を閑却したことの損失に氣がつき、農業振興問題が政治論としても經濟論としても喧しく論議されてゐる。我國に元來英國とは事情が全く異つてゐる。本國朝鮮臺灣以外に米を産する領土としては一つもない。若し我國の農業が英國のそれの如く荒廢したならばどうであるか。是に國民經濟の問題としてばかりでなく、國民生存の問題として由々敷い重大事である。否我國の經濟的存在は根柢から破壞せられる次第である。

(七)

此の點に於て更に我等に大なる惱みを感ずるのである。農業經營は商工業の如く有利ではないに拘らず、是を助長して行かねばならない絶對的の理由がある。農村經濟が行詰つてゐるのを見て大勢如何ともし難しと看過する譯には行かない。茲に於て如何にして農村經濟の行詰りを打開す可きかの問題が、經濟問題としては勿論、政而問題としても、社會問題としても、頗る重大意義を有する譯である。以下其の打開策に就て愚見の一端を陳べて見たい。

第一に陳ぶ可きことは農村金融の問題である。一般の金融に比し農業金融に期限に於ても、利率に於ても、不利であることを免れない性質のものである。長期低利の資金でなければ農業の經營には充當し難いからである。然るに今日の農村金融の實際はどうかといふと非常に高利な而かも短期の負債に苦しみぬいてゐる。それでも資金を借り得た人にまだ良い方で高利を拂つても資金を得るの道ないものが殆と當ず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある。勸業銀行の調査によると、全國の個人間の貸借で、土地を抵當とせる債務の利子は約一割二分である。而して其の内の六割以上は期限六ヶ月以内である。土地を抵當とするために登記料其他の費用を拂ひながら期限は六ヶ月、利子は一割二分である。其の借換ごとに債務者が不利の條件を加重せしめられるは普通のことである。已むを得ない事情もあらうが此の無思慮の結果として土地の所有權を喪失しつゝあるものがどの位あるか分らない。土地抵當のものにして既に斯の如くに條件が不利であるから無擔保の借金に至りては、よし夫が出來ても如何に不利であるかは改めていふまでもない。而して其原因は何であるかといへば第一の原因は農村金融資金の缺乏であること勿論である。

然らば農村の資金は都市のそれに比し何が故に缺乏するのであるか。これは農村にて生産せられたるものゝ收入が農村資金として農村に止らず都市に向け流出して仕舞ふからである。さらば如何にして流出するかといへば其の一は國税の納付である。我國に於て租税の年額は八億八千萬圓であるが、地租所得税等の直接國税を始とし、此の關係から農村の資金が中央都市へ流出する額は尠少でない。其の二は郵便貯金である。郵便貯金總額十五億圓中、四割近くは農村の貯金であるから大ざっぱの計算で六億圓の金は農村から大藏省預金に吸收されてゐる次第である。其の三は普通銀行の預金である。普通銀行の預金八十七億圓中農村から吸收されて商工資金に充當されてゐる額は可なりな高である。特に近年の銀行合同促進は地方の資金を都市に集中せしめ農村資金をますく缺乏せしむるの結果を生じてゐるが、其の外社債券の交換、商工業株の買入、興業資金の拂込等農村の資金が都市へ流出する事情は幾何となく存してゐる。

一體農村の一ヶ年の收入の概算はどれだけあるかといふと大正十四年の收入は米、麥、繭の三品だけでも左の如き巨額に達してゐる。

＝農林省調査＝

米作收入	二、一三三、七六二、三七七圓
麥作收入	三〇一、五〇六、五〇七
繭收入	八二四、二五五、六九六
合計	三、二五八、五二四、五七〇

即ち米穀、麥類、繭の三種だけで三十二億五千萬圓といふ巨額に達してゐる。農村資金を豐富にする根本問題は農村自身の生産した資金をなる可く都市に流出しないやうにすることである。例へば信用組合の如きものを十分堅實に發達せしめて郵便貯金や銀行預金として都市に集中せられるものを信用組合の貯金となし相互的に資金利用の道を講ずる如き其一例である。是には信用組合其のものゝ内容を十分改善するの必要あることは勿論である。斯くしても納税や生命保險等による資金の流出は已むを得ないが、政府としては預金部資金の運用其他に際して農村から吸收した資金を還元するの道を講ずることが肝要である。現内閣でも此の點には留意し昨春の金融恐慌の結果急增した郵便貯金の一部を地方自治體の高利債借換のために地方に融通する手段を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

採つた。本來からいふと金融恐慌の結果増加した郵便貯金は、主とし一都市の小商工業者其他の住民が銀行から郵便局に預替へたものであるから、是を地方に融通するは如何なるものかとの非難も出る譯であるが、併し是までの郵便貯金の利用法なるものが、餘りに地方の金融といふことを閑却してゐた。であるから斯かる機會にありても地方融資を増加することは推賞す可きことである。一歩を進んで地方住民自身の金融難緩和に及ぶことが更に肝要である。又次に政友會の主張する地租の地方委讓の如きも地方資金の流出を防止する上から見て幾分かは効果あるべきものである。又生命保險の積立金の如きも是を農村金融(主として農地擔當の貸付)に充當することは、單に保險金の一部が農村から出てゐるといふ理由からばかりでなく保險積立金の運用を確實にするためにも有効であると思ふ。米國の農業地金融に就て最も多く投資してゐるのは生命保險會社である。此のことは我國に於ても大に學ぶ可き點があると考へる。

尙ほ農村金融に就て攻究す可きことは動產金融の問題である。我國では農業倉庫の制度にあるが動產金融としては未だ効果を擧げてゐない。米國のインターミヂエート、クレヂツト、バンクが創設後間もないに拘らず農產物擔保の金融機關として着々實効を奏しつゝあるに比してである。

(八)

農村經濟の行詰りを打開する第二の策は副業を盛にすることである我國の農家經濟にて米作に次ぎ收入の大なるものは養蠶である。養蠶は一種の副業であるが、是は農家經濟を裕福にするばかりでなく國民經濟上の重大產業となつてゐることは何人も知る通りである。養蠶のやうな大副業を他に求むることは不可能にしても手工業とか畜產とか此他種々の方面にて農家の副業たらしむるもの尠くないと思ふ。此の場合に市場との連絡を圓滑にし農家生產品の收益を輕減しないやうに努めることは最も肝要である。一例を擧ぐれば蔬菜類の如き即ちそれである。蔬菜類の元値(生產者の賣値)と小賣値との間には驚く可き開きがあるが、之は市場の連絡が甘く行つてゐないことに大なる缺陷がある。養鷄にしても養豚にしても市場との聯絡が巧く行いてゐないために農村の副業を不引合に終らしめてゐる場合が澤山ある。副業の獎勵に就ては種目の選定と共に生產品販賣の方面に十分なる改善を行はねばならない。

第三の問題としては農村の生活費の低減を圖ることが肝要であると思ふ。此の點に就て直に思當ることは公課の重いことである。近年地方財政膨脹の勢は中央財政のそれより更に著しく、是が如何ばかり農村の經濟を壓迫してゐるか分らない。大正三年度の地方財政歳出は三億一千萬圓であつたが、それが大正十五年度には十四億九千萬圓即ち約十五億圓に激増してゐる。五倍に當る急増である。地租の如きも頻りに問題となつてゐる國稅は六千六百萬圓であるが、寧ろ看過されてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る地租附加税（地方税）は一億二千萬圓である。是等の公課がどの位農村經濟の行詰を助長してゐるか分らない。如何なる名儀であるに拘らず、農村の公課となる可きものを輕減することは農村生活の行詰を緩和する所以であると信ずる。農村の生活費の問題に關して考ふ可きことは外にも色々ある。既述の如く農村の生産品は價崩し其他により農家の收益を減少せしむることが常であるに拘らず、農村に購入する加工品類の價格は不當に高價である。是は主として配給制度の不完全な結果であるが、衣類にしても、消耗品にしても都市を經由したる商品の價格は、農村に於て高價たるを免れない。肥料の如きは生活費の問題ではないが、購買方法其他の不完全なため農家では非常に不利な負擔をなしてゐる。農村經濟の行詰りを緩和するには是等の點をも十分に考慮する必要がある。

第四の策として私は農村の勞働力を今少し有効に利用する方法はないかと思ふ。農村の繁忙時は到底商工業と比較にならぬ程繁忙であるが一年を通じて觀察すると、其の勞働状態は甚だふしだらである。特に二毛作の行はれない地方などは冬から春にかけての季節を何とかして生産的に費す方法はないかと思ふ。

農村經濟の行詰りを打開するは容易ではないが、農村人の自助的精神と國家の施設、多年の弊習の打破等により是を緩和する道は少くないと考へられる。私の所謂打開策は試みに其の三、四を擧げて見ただけであるが、世の有識者が倶に共に其の具體的手段を攻究し、農村經濟の改善に貢獻する所あらんことを希望して已まない次第である。

資本主義末期の研究
高橋龜吉著
資本主義が斷末魔に瀕してゐる。之に就いて研究したもので著者の創見と認められる所も少くない。何にしろ躍進的に發達展開した資本主義が早や行詰るやうな事になつたので此末期の研究は、やがて來るべき新展開を豫想さるゝものとして極めた興味ある研究で著者の慧眼を窺はれる（東京時事評）改造社發行
四六判 五二六頁 ◆ 定價二圓五拾錢 送料二十二錢

時評

協定と××

——歳末と小預金者——

山川均

銀座の街頭に、『革命的安賣』や『爆弾的投賣』の赤旗がひるがへり、四つ角に『慈善鍋』がお馴染の姿を現はす時になつた。ことしの歳末に、また一つ新しく加はつた問題は、いふまでもなく休業銀行の小預金者問題である。

さき頃の金融恐慌のどさくさから、つゞいていま尚ほ休業してゐる銀行は二十五行であつて、その預金が七億圓、預金者の數が、ざつと一百萬といふことである。今の世の中に、床の下に小判を埋めたつもりで要らぬ金を銀行に預けてゐる人もなからうから、みな要る金にはちがひない。しかし同じく要る金の中でも、それが無くては忽ち生活に差支へるといふ、現實に差し迫つて要る金を預けてゐる。謂ゆる小預金者の數が、どれほどあるかは明らかでないが、或る銀行では、この種の小預金者が大部分を占めてゐる。全體を通じてみても、この種の小預金者が、數においては大多數を占めてゐるにちがひない。

百圓二百圓の預金をしてゐる境涯の人に取つては、毎月の收入から、幾らかづゝを食ひ延ばすといふことは、決して容易のことではない。この社會層に屬する大多數の人たちに取つては、生活らしい生活をするためには、支出が收入を超過してゐるのが、ほとんど原則となつてゐる。そのうちから若干の貯蓄をするといふことは、算盤の上ではとうてい不可能なことがらであつて、文字通りの無理算段といふ算法で彈じき出したものにちがひない。

かうして蓄へた僅かばかりの端た金——端た金であるからこそ虎の子よりも大切な金——これは銀行に預けておくのが一番安全だ、なほその上に、幾らかの利息がついて太つて歸へる、——おまけにこれが愛國の一端にもなる！ といふ一石三鳥を目指した素朴な考へでゐた小

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

預金者にとつては、銀行の破綻は、晴天のへきれきであつて、これはなか〱、鳶に油揚をさらはれたくらいの事ではない。現に近江銀行の預金者のうちには、預金の拂戻しができないために、自殺した者が十二名、發狂した者が八十五名、行方不明になつた者が六百數人に上ぼつてゐるといふことである。

これはまさしく重大な社會問題の一つであつて、歳末の近づくにつれ、政府でも、その解決にやつきとなつてゐるらしい。しかし幾らやつきになつて見たところで、無い金は無いので致方がない。そこで最もよい解決方法のついた場合が、せい〴〵預金者が、預金の何割かを拂ひ戻される幸運に浴することとなのである。かうして預金者は、預金の何パーセントかを利息として受取る代りに、預金の何十パーセントかを、銀行業者のふしだらの尻拭ひのために奉納せしめられること、そして百圓の預金を、たとへば七十圓にして返へして頂くことを、なるほど妥當なこと御尤もなことゝ認めて整理案に印形を押すことが、謂ゆる支拂協定なのである。

この近代的な切り捨て御免に承諾の調印をした者には、預金者全部の協定がつかなくとも、そしてこれは堅苦しい法律の文面には牴觸するかも知れないが、そこは歳末の切迫と預金者の窮迫とにかんがみ、硬直な法律は少々はへし曲げても、年内拂戻しの便法を講じて下さるといふのが、政府の仁政なのである。

しかしながら考へてみると、協定と、、とは、發音が似寄つてゐるばかりでなく、その内容と本質とにおいても、極めてデリケートな關係がある。

いま私は、差し迫つてその金が必要だ。百圓のうちの七十圓だけでも、返へして貰ふ必要に迫られてゐる。この時、七十圓で結構なら返へしてやる。又何か云ふなら何時返へすか分らない、と云はれたなら、私はこの協定に調印するにちがひない。誰れも私を、、した者も、、した者もない！私は私の自由な選擇で、當て途のない百圓よりも、現實の七十圓を撰んだまでゝある。たしかに、、でも何でもない！

ところがいま、私の枕元に、覆面の大男が、拔身をさげて突つ立つてゐる。彼は私に向つて、命か財布かどちらかを引渡す協定に調印しろといふ。私はもちろん、臆病者である。そこで慎重に考慮をめぐらした結果として、財布を差し出すことにする。私の意志は、ぜんまい仕掛けで働らく仕組みでない。であるからこの強盜は、私の意志を、勝手に働らかせた譯ではない。よし私の意志がぜんまい仕掛けであらうとも、少なくともこの強盜は、このぜんまいには、ちつとも手を觸れなかつた。私は或る一定の條件の下において、自分自身の意志により、自由な選擇をしたのである。實際、私は七十圓の財布の金よりも、百圓の命の方が欲しかつた。そこで私は、この強盜の提出した、問題の解決案に調印した。私は強盜に、、されたのではなくて、協定をしたのである。

しかしこの強盜の解決案は、法律によつて禁止せられてゐる。銀行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

業者がその使ひ込みの尻を預金者に拭はせる權利は、法律によつて保障せられてゐる。こゝに、、と協定との區別がある！

たとへば、左右田銀行の場合を見ると、預金者の數一萬三千、その大部分が二百圓未滿の小額預金者であつて、それは『その日の生活の糧にする資金であるために、たとへ切り捨てられても、血の出る思ひで整理案に調印した』。新聞には、かう書いてある。もちろん、強盜に斬られて血が出たわけではない。かうして預金者のほとんど全部の調印を了へたが、たゞ横濱市内で二十一名、關西方面十五名、東京方面二十三名だけが、あくまで頑強に調印を拒んでゐる。新聞には、またかう書いてある。これらの未調印者は『辯護士や前市會議員やら銀行の内情にも通じてゐるものなので、却々困難と見られてゐる』。これはたゞ生活の餘裕のある者は切り捨てに同意しないで、差迫つた必要に迫られてゐる人々が、『自由の意志』で切り捨てに同意したことを意味してゐる。この事實を見ると、百圓の預金をして七十圓の拂戻しに同意した人々の自由の選擇と、命の代りに財布を差出した人の自由の選擇との間に、果してどれほどの本質的な相異があつたかゞよく分る。少なくとも、彼らが現に選擇したもの以外のものを擇ぶなら、忽ち『血が出る』ことだけは、兩者が一致する。

銀行業は特別の法律に準據し、そして政府の特別の監督の下に行はれてゐる特殊な營業なのである。この銀行に百圓を預けておくと、七十圓になつて返へつてくるといふことは、いふまでもなく、、、、なことなのであつて、これを裏返へしにして見れば、銀行は百圓預かつて、三十圓だけ頭を刎ねて返へす、、を、、、、、、、せられてゐる、といふことにもなる。ところが百圓が七十圓になるのは、預金者に取つてまだしも結構な方で、中には、預金の一割しか拂ひ戻しのできない銀行さへもある。即ち、預金の九割を、、、、、、、、、が、銀行資本のために、公認せられてゐるわけである。

この休業銀行の一つを、見事にめちや〱にして見せてくれた松方公爵は、その『責任』を明らかにするために、私財全部を放り出して裸一貫になつた上、公爵といふ榮爵を辭退したとかされたとかいふことで、天下の賞讃と同情の的になつてゐる。もと〱裸一貫の小預金者には、辭退に及ぶべき榮爵もなければ、この上、裸になるべき餘計なものも持て居らぬ。彼らは天下の賞讃と同情とを博するためには、生皮でも引きむくほかに仕方がない。

先生の盲目？

―ノート制度廢止運動―

さき頃、ある新聞の一投書家が、中學校の課程から、外國語の如き不經濟な學科を減少し、速記を課目に加ふべしと主張してゐるのを見たことがある。その理由は、中學教育で速記を教へておけば、高等教育に進んで講義の筆記する場合に、非常に實用的だといふのであつた。たしかに、その通りにちがひない。いくら日永の暇つぶしのつも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りで、ゆる〳〵朗讀してくれるに從ひ、漢字まじりの普通の文字で筆記するのは、非常な勞力であつて、もしこれが必要條件だとすれば、吾々の如き遲筆の者には、教育を受ける資格がない。そこで中學教育で速記を教へておかうといふ。なるほど、よい思ひつきにはちがひない。しかし一そのこと、講義を筆記するのをやめたなら、面倒な速記な教へる必要もない。どうもこの方が、一そう上わ手のよい思ひつきのように思はれる。

ところが學校では、先生の講義を筆記することが、強制的に命ぜられてゐる。そこで最近、學生によつて、ノート制度廢止の運動が起こされた。新聞の傳へるところによると、『從來、各高等學校および專門學校などに行はれてゐる強制的ノート制度は、全く盲目的の筆記であつて、精神的に無收穫な上、無味乾燥なため、生理的疲勞と倦怠とを覺えしめる』といふ理由のもとに、第六高等學校文科生の主唱により、ノート制度改正同盟會が組織された。この運動は、直ちに學校當局者によつて禁止され、同盟は解散を命ぜられたといふことであるが、その後については、何事も報導せられて居らぬ。この極めて合理な學生の運動が、學校當局者の禁止によつて、わけなく消え去つたとすれば如何にも不思議であつて、全國的に學生間の運動とならぬことを、むしろ怪むべきである。

專門の學校においてさへ、老大教授といふものは、十年一日の如く、同じ講義のノートを繰返へしてゐるものだといふことである。眞理は不變である！ しかしこの千古不變の眞理を、年々歳々、新しい學生が、新しい紙とインキを費やして筆記することに、インキや紙が勿體ないばかりでなく、千古不磨の眞理に對して、むしろ不禮なことでもある。

この先生の口から迸ばしり出る眞理を、學生は夢中になつて、一言半句も書き落すまいと、たゞ『盲目的』に筆記する。先生が咳き拂ひをすると、學生は驚いて筆記する。もとより學生には、その講義を批判し、翫味し、理解する餘裕などはない（或は、そのような必要がないのかも知れないが）。これはたしかに、『生理的疲勞と倦怠』以外に、何らの『收穫』もないものゝ如くに思はれる。先生の講義を盲目的に筆記する學生の方は、この事實に目を閉いてゐる。たゞ先生が、この事實に盲目なのである。こゝにノート制度存續の根據がある。

しかるに人間に――老教授の經濟學の講義が教へてゐるやうに――『經濟的の動物』である。一つの地點から他の地點までへ、最も近い早や道で、最も骨の折れぬ歩るき方で到達しようとする。そこで五十人百人の血氣の青年が、先生の咳き拂ひを筆記することにその精力を浪費する代りに、誰れかに專門に筆記させ、內々そのプリントを買ふことによつて、最少の勞力で同一の目的を達しようとする。これはよく行はれてゐる實踐であつて、老教授の經濟學説に從ふと、これが人間社會の經濟生活を發達せしめる根本原則なのである。

しかし學校側の言分によると、『ノート全廢は、教授上の實際問題と

しては不可能のことで、大學なれば、教授が自分の著書によつて講義するのだから、あらかじめプリントを出すことも出來るが、高等學校では、教授の直前に講義内容が出來上るのだから、これを印刷して配布するといふやうな餘裕はない』といふことであるが、プリントを、『あらかじめ』配布する必要はない。あとから出せば澤山である。そしてこれほど容易なことはない。

ところが學校當局者は、學生の折角の運動に對して、『多數のものの調印をとる必要はない、學校側は一人の申出でも、よいことなら採用するが、多勢をたのむことは不穩當である』といふ理由で、同盟の解散を命じたといふのである。今日たいていの諸外國では、教員もそれ／＼組合を組織して、雇傭條件の維持改善の運動ぐらゐはやつてゐる時代であるが、わが國の先生たちは、依然として封建時代のノートを繰り返へし、苟も多數の人が共通の意志を發表したり、共通の意志にもとづいて行動することは、これ卽ちお上に對する謀反の振る舞であつて許るすべからざる不穩の處爲だと考へてゐる。『一人の云ふことでも、よいことなら採用する』。これは如何にも立派な言ひ分のようではあるが、政治的には、封建時代、專制時代の謂ゆる『善政』の思想にほかならぬ。今日の時代は、全くこれとは正反對の方向を指してゐる。先生は依然として、丹念にこの封建思想のノートの朗讀を繰り返へしてゐる。學生はいつまで、これを『盲目的』に筆記してゐるだらうか？

マルクス思想の再勃興

マルクス主義が世界の思想史上に現はれてから今日にいたるまで、その『流行』には滿潮期と退潮期があつた。けれどもマルクス思想が大に勃興した時期は、いつでも、必ずそれに照應した社會上、政治上の形勢の存した時期であつた。マルクス思想の流行には、いつでも社會的な背景があつたといふことは、この『流行』が、單なる流行でない證據である。

わが國において、初めてマルクス思想の流行を見たのは、歐洲戰役の時期であつた。當時のヨーロッパには、××的機運が漲ぎつてゐた。各國の勞働階級は、前進をつゞけてゐた。この、、、、、、、、、、、は、日本の沿岸をも洗はざるを得なかつた。大戰によつて資本主義經濟が一大飛躍をなし、資本家が例外的な利潤を累積してゐたわが國では、戰爭のために資本主義の經濟が危機に瀕したヨーロッパ諸國とは、それはおのづから異つた形を取つて現はれたのは當然であつて、勞働者は資本家の法外な利潤に對して、當然の配前を要求し、この鬪爭のうちから、急速に組合運動が勃興した。

かやうな社會上の形勢と相俟つて、ロシアとドイツとの、二つの革命の影響を受けたわが國の思想界は、社會問題と社會思想とにその全注意を集注した。新聞雜誌は、競ふて社會問題を取り扱ひ、猫も杓子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も、社會運動を論ずるといふ有様で、出版界はこの種の著書で、空前の賑はひをした。この社會思想の波に乘つかつて、マルクス思想もまた、恐ろしい勢ひで押し寄せてきた。

しかし歐洲戰後に、わが國に打ち寄せた社會思想の波は、ヨーロッパにおける勝利の餘波であつた。また當時の勞働者運動は、大正九年の恐慌後は、漸次に守勢に轉じたとはいふものゝ、なほ攻勢時代の餘勢を保つてゐた。そこで當年の社會思想の勃興は、むしろ明るい威勢のよいものであつた。マルクス思想の流行にも、この特徴がくつ着いてゐた。そこでこの時期に簇出した遽か作りの社會思想家や、急ごしらへの社會運動批評家らは、舊式な武裝を廢棄し、多かれ少なかれ、社會主義的、マルクス主義的思想で艤裝したのであつた。

この時期における、マルクス思想の流行の程度と性質とは、高畠氏の譯本と競爭して、二つのいかゞはしい『資本論』の反譯が刊行せられた一事によつても知ることができる。

かように當年のマルクス思想の流行には、社會的な理由があつたにも拘らず、かなりに流行的な性質を帶びた上辷べりなものであつた。ことにその流行の範圍は、在來の讀者階級といふ狹い範圍に限られて居り、かつこの範圍においてさへも、マルクス思想が、果してどれだけほんとに、咀嚼せられたかは、甚だ疑はしい。けれどもこの時期にいたつて、わが國の思想界は、從來よりも遙かに廣い範圍にわたつて、初めてマルクス思想に親しみ、その輪廓を學び、次いで來るべき勃興期の準備をしたといつてよい。

不景氣の襲來と、勞働者運動の沈靜と、社會思想流行の一過と共に、大急ぎで社會主義マルクス主義で艤裝した多くの學者や思想家は、ぼつ〱その艤裝を解き、おの〱その納まるべき本來の位置に納まつた。社會思想は一般に、もはや前日のような、流行的な性質を帶びたものではなくなつたが、しかしこの間を通じても、全く衰頽したことはない。出版界の最も沈滯した時期においてさへ、社會思想に關する著書のみは、著るしく變動のない讀者を持つといふ點で、最も危險のない出版物と見做されてゐた。

最近におけるマルクス思想の再勃興は、その流行性を帶びてゐる點では、往年のそれと若干の共通點をもつてゐる。しかしその背景となつてゐる社會相は、往年のそれとは全くちがつてゐる。今日は、わが國の資本主義經濟は、明らかに上向的な軌道の上に乘つてゐる。しかしそのためには、言ふべからざる犧牲と受難が拂はれてゐる。資本主義經濟の一大整理の過程のうちに、大資本はいよ〱ます〱强大となつて立ち現はれる一方に、有力な組織を持たぬ勞働者は、到るところで打ちのめされてゐる。農民の窮乏は、ます〱加はつてゐる。中小の商工業者は急速に沒落し、沒落せぬものも、沒落に瀕してゐる。社會の一般下層は、極度の不安にさらされてゐる。生産は增加し、輸出は增加し、資本主義經濟が確乎として上向の道を辿つてゐるにも拘らず、全社會には、言ふべからざる陰慘の氣がたゞよひ、息づまるよう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な重苦しい空氣が滿ちみちてゐる。これが最近におけるマルクス思想流行の背景となつてゐる社會相であつて、それは往年のような、明るい、威勢のよい、はしやいだものではない。

かようにマルクス思想に對する一般世間の關心は、外からの刺戟にではなくて、内から湧き出た要求にもとづいてゐる。それだけに、往年の流行に比して、遙かに深刻なものがあり、かつその範圍が、著るしく擴大せられてゐる。即ち最近のマルクス思想の勃興は、これを往年のそれにくらべると、遙かに廣大な社會層に基礎をおくところに、著るしい相違がある。

いふまでもなく、これは最近における出版界の新傾向が、從來の讀者圏を打ち破り、非常に廣大な新領域を、讀者範圍のうちにもたらしたことゝ、離るべからざる關係がある。いはゆる『圓本』の流行は、一方には、出版界の行詰り打開の企てゞあり、他方には、大資本による大量生産が、出版界にまで浸潤する作用として起こつたものであつて、その功罪はしばらくおき、從來の讀書圏を一擧に打ち破つた效果は、極めて重大な社會的影響をもつてゐる。マルクス思想に對する要求は、遙かに廣大な社會層の間に、遙かに深刻な性質をもつて起こつたものではあるが、さらにこの要求を刺戟し、さらにこの要求を滿足せしめたのは、出版界の大量生産であることは疑ひない。現に私自身の如きも、しば〳〵その必要を感じながらも、たゞ値段が高いといふ障害のために、高畠氏の『資本論』の譯本を持つてゐなかつた。

一時流行を極めた豫約全集ものが行詰り、これに代つて『圓本』がまた漸やく行詰らんとした今日、マルクス思想の出版物は、行詰らんとする『圓本』の前途をさらに打開したかの觀がある。これは出版界におけるマルクス思想の最近の流行が、たゞ單に多量生産によつて刺戟せられた流行ではなくて、現在の世相を背景とするところの、根底ある一社會現象だといふことを物語つてゐる。

往年と今日との、マルクス思想の流行に見られる性質の相違は、その影響においても、大なる相異を豫想せしめるに足るものがある。往年にあつては、主として、マルクス思想の輪廓を知るに便利な解説的な出版物が要求せられてゐた。この點で、往年の流行は、より多くの人々をマルクス思想に案内し、これに親しましめる豫備的性質をもつてゐた。然るに今日は、この種の出版物のみでは滿足されないで、權威ある文獻が要求せられてゐることも、注意に値ひすることである。マルクス思想は、かつてよりも、一そう深刻に要求せられてゐるといつてよい。

もちろん、これは一面には、大きな矛盾をもつてゐる。大量生産によつて急激に讀書圏内に引き込まれた多くの人々にとつては、マルクスのクラシックな文獻よりも、却つてこれを通俗化したものが、一そう適切に、その要求を滿たすにちがひない。今日は、大量的な生産は、なほ特殊な出版物に限られてゐるが、右の點からは、大量生産主義が、もつと一般化することが望ましい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

軍備縮小の『茶番』

＝勞農代表の軍備全廢提議＝

米國では、さきに海軍縮少會議を提唱した熱心な軍縮論者である筈のクーリッヂ大統領が、巡洋艦數隻の新造計畫を至急可決するように、議會に勸告する旨が發表された。ジュネーヴでは、國際聯盟主催の軍縮準備委員會、第四回の會合が開かれてゐる。

この軍縮準備委員會に新たに參加したロシア代表は、委員會の劈頭に、向う四ヶ年間を期し、各國の軍備一切を全廢する新提議を發表した。この軍備全廢のうちには、陸、海、空軍全部の解散はもとより、兵器、要塞、軍艦、飛行機全部の破壞、軍事教育その他の形による、一切の戰爭準備の全廢を含んでゐる。

この提案は、反露內閣の下にある英國において、最も多く反響を呼び起こしたらしい。ロンドン電報によると、翌朝のロンドン諸新聞は、『一齊に嘲笑的批評』を加へ、ロシア代表の主張を『奇怪至極』といひ、『茶番』といひ、『馬鹿でない限り眞面目には取扱はぬ』といひ、『じやう談の平和論も休み休み云つてくれ』とこき卸ろした。米佛の新聞紙も、ほゞ同様の批評をしたらしい。

ロシアの提議に對するかような批評は、一應もつともに思はれる。もしロシアの代表者が、ジュネーヴに集まつてゐる帝國主義列國のお歷々たちが、リトヴイノフの演說に感服し、然らばこれより、早速軍備の全廢に取りかゝるであらうと云つて、この提議に同意するだらうといふ、豫想のもとにこの新提議を提出したものだとしたならば、なるほどそれは、茶番にちがひない。

しかし軍縮準備委員會のお歷々たちが、ロシアの代表から、そのような意味でこの提議をされるに値ひするものだと、自ら買ひかぶつてゐたのなら、その方が遙かに秀逸な茶番である。

さきにクーリッヂ大統領の提唱によつて開かれた海軍々縮會議が、どのようにして決裂に終つたかは、尙ほ吾々の記憶に新らたである。帝國主義列國は、この會議に臨んだ時と、果してどのように異つた用意をもつて、聯盟主催の軍縮會議に臨み、また臨み得るであらうか。

準備委員會の三日目に、英國代表は、新聞記者に對して、『英國の軍備は、もはやこの上縮小の餘地がない』ことを聲明した。英國の軍備は、『必要なぎり〱の點まで縮小してをり、今日、他の諸國に對して實行を求めてゐる事柄は、英國はすでに自發的に完了してゐる』といふのである。そこで英國の關する限りにおいては、軍備縮小とは、列國がお互ひに軍備を縮小する相談をすること（よしそれが小田原評定に終らうとも）でさへもなく、それはたゞ英國が、他の列國をして軍備を縮小せしめるための會議にほかならぬものなのである。

けれども、これはたゞ英國のみの立場ではなく、いづれの國も、みな英國と同じ立場に立つてゐる。いづれの國も、英國と同じように、その軍備を、ぎり〱決算の點まで切り詰めてゐる！　いづれの國も、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

英國と同じように、最大限度の軍備縮小を、誰れからも注意を受けないうちに、自發的にやつてゐる！　そしていづれの國も、英國と同じように、他國の軍備だけが、世界の平和のために（！）縮小の必要があり、縮小の餘地があり、縮小の可能のあるものだ！　かういふ立場にある國々が集まつて、世界の平和のために、そして國民の負擔の輕減のために、まじめくさつた顏をして、軍備を縮小する相談をするのが、即ち軍備縮小準備委員會と名づけるものである。そこで英國ばかりでなく、いづれの國にとつても、軍備縮小の事業とは、すべての國の（但し自國だけを除いての！）軍備を縮小する方法を案出することなのである。

かように、たゞ自國を除いての、すべての國々の軍備を縮小することが、世界の平和の必要條件であるといふ根本的な見解においても、またかような目的を、軍備縮小會議によつて、幾分かでも遂げようとして、わざわざジユネーヴに出掛けてきたといふ點でも、この軍縮準備委員會に集まつた帝國主義列國のお歷々たちは、完全に一致してゐるのである。

この世界が、第二の大戰爭の脅威にたえずさらされてゐるのは、お互ひが危險千萬な、牙を持つてゐるからである。世界の平和を維持する最も手近かな實現可能な方法は、この牙を、少しばかり切り詰めることである。この點において、すべての狼は一致した。だが然し、自分の牙だけは、自衞のために必要缺くべからざる、ぎり〳〵決着のところまで切り詰めてある。この「自分」といふ箇所さへ空欄にしておくならば、すべての狼は一致する。そして平和を熱愛するこれらの狼は、何時でも、この盟文に署名捺印する用意がある。

見解と目的との完全な一致！　これこそは何時でも、またあらゆる性質の商議と會議とが必然に成功する根本的な條件なのである！　だから軍縮會議の成功は、ゆめ疑ひない！　たゞ殘されてゐる問題は、かの空欄に、誰れが自國の國名を書き込む優越權を持つかといふことだけである。これは平和の使徒たちには、もとより大した問題でない。それは自國以外の何國であつてもならないといふことが、きまつてゐるからである。

資本主義の發展する過程は、この過程そのものによつて、國際戰爭に點火する可燃物を積みかさねてゆく。國際戰爭の危險が高まるにつれ、各國の軍備競爭は、狂熱を加へてくる。それと同時に、軍備の縮小、ないしは制限の努力――お互ひに他人の牙を切り詰めようとする努力――が、いろ〳〵の形で繰り返へされる。さすがに自分の牙だけはそのまゝ殘しておいて、他國の牙は根こそぎ引抜けとは言ひかねるので、お互ひに、少しばかり牙を短かくしようといふことになる。そこでどのような形に一同の牙を切り縮めることが、自分の牙だけを完全に保存する所以であるかを考究し、そしてこの方法を、互ひに他國に押しつける暗中の鬪爭が、いつでも軍縮會議の本質なのである。

帝國主義列國間の軍備縮小の相談は、戰爭を無くする相談なのであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。ところがこの相談の出發點に、いつでも戰爭の豫想である。戰爭を豫想し、尙ほその上に、戰爭の場合における戰勝を豫想しつゝ、戰爭を無くしようといふのが、帝國主義列國間の謂ゆる平和の努力である。戰爭を追ひつゝ平和を追ふ。これはどこまで追ふても、平和が捉かまる氣遣ひはない。これこそほんとの『茶番』であつて、よく〳〵の馬鹿者でないかぎりは、『眞面目に取扱はぬ』にちがひない。

世界の平和を保障する方法は、戰爭をしないといふことを出發點としてのみ、初めて解決に近よることができる。戰爭の豫想の上に立つかぎりは、如何にしてこの戰爭に勝つかといふ解答以外には、當然の解答はあり得ない。

戰爭をしないといふことを出發點として考へれば、軍備を全廢することは、少なくとも軍備を縮小すること以上の空想ではあり得ない。たゞ資本家的帝國主義の上に立つ列國が、戰爭をしたいといふ出發點に立ち得るかのごとく眞面目に考へるなら、これが初めて、ほんとの空想である。

これに反して、戰爭の豫想に出發するならば、軍備の縮小は、軍備の全廢に劣らぬ空想である。たゞ實際にあり得るものは、平和を保障するための軍備の縮小ではなくて、國際政治の上に優越な立場を占める强國が、自國に都合のよいように、列國の軍備の割合を變更することである。この意味において、またこの意味においてのみ、軍備縮小會議は或は成功し、或は失敗する。

「劇化」せられた無產政黨合同問題

最近、無產者運動の間に一つの波紋を描いたかの無產政黨合同の運動を、『合同劇』として報道した新聞があつた。政治戰線の統一は、勞農大衆にとつては、當面の最もシリアスな問題である。このシリアスな問題を演劇化した責任は、もし新聞記者のジャーナリズムの負ふべき責任でなかつたなら、他の何人かが負ふべき責任でなければならぬ。

けれども今度の合同運動の場面には、少なくとも無產階級政治戰線の統一に對して、第三者としての關心しか持ち得ない人々に取つては、舞臺の上の演劇として見物するのが尤もだと思はれるような、場面のあつたことは爭はれぬ。しかもこの舞臺が、電氣仕掛けの廻り舞臺のように回轉したのだから、彼らの演劇的興味をそゝつたにちがひない。

合同問題が、この種の傍觀者の劇的興味をそゝつた事情の一つに、それが對立政黨の間で、合同提議の投げつけ合ひをやつてゐるかのような、奇觀を呈したことであつた。昨日まで日本勞農黨との合同にさへも反對し、その指導精神の徹底的な排擊を高唱し、無產政黨合同の主張に對して極度に神經を尖らせてゐた勞働農民黨の指導者たちは、天勝の奇術以上のあざやかさをもつて、この時手のひらを返へすが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

如くに發展した客觀的情勢の現段階なるものに對應して、無産四政黨の合同を提議した。

無産政黨間の對外政策では、いつも受身になつてゐた日本勞農黨でも、このはすでに、四黨の合同を目的とする統一協議會を提唱する具體的な成案を決定して居つた。そこで日勞黨は、勞農黨の提議に對する答へとして、自黨の提唱を投げ返へした。

卒然として勞農黨指導者の主張した合同が、いはゆる無條件の合同であつたか否かは、今日にいたるまで明らかでない。もちろん勞農黨指導者の主張する合同論は、在來のありふれた、出來合ひの無條件合同ではないといふことである。しかし『無條件』でないといふ、その『條件』とは、そもそもどのような條件なのか、これは明らかにせられて居らぬ。過去一年間、別個の組織として生長してきた四つの政黨が合同するためには、何らかの條件の討議が、もとより必要にちがひない。まづ第一に、新たに形成せられる黨は、いかなる綱領と政策とを採用するかといふことは、最も根本的な合同の條件として討議せられる筈である。したがつて、何らの條件の討議もない合同といふ意味で、無條件の合同なるものは、もとより無意味である。

であるから今日、無條件の合同といふ場合には、いはゆる指導精神の相異について、何らの條件をつけないといふことである。たとへば日勞黨との合同についての、勞農黨の大會の決議は、『……日本勞農黨の現在の指導精神にして變更されざる限り、絕對に反對す』と云つてゐる。即ち日勞黨の指導精神の變更が、合同の絕對的な條件となつてゐる。けれどもかゝる條件のもとには、『合同』はもとよりあり得ない。『無條件合同論は何故惡いか、我々の共同戰線との違ひは何處にあるか……我々が日勞黨大衆と共同戰線を張るのは、日勞黨をつぶして大衆を我々の方へとる爲めだ……』。勞働農民黨の最大の指導者、淺野晃氏はかう云つてゐる。これを言ひかへれば（言ひかへるまでもなく）、無條件合同なるものに、日勞黨をつぶして大衆を我々の方へとるのでないから、宜しくないといふのである。これは如何にも大膽な揚言のようではあるが、兩黨の指導精神を絕對に兩立しがたいものとなし、そして指導精神の一致といふことを、合同の條件とする以上は、當然に、また必然に、かゝる結論に到達する。そこで指導精神を條件とするといふ意味では、有條件——即ち無條件ならざる——合同はあり得ないと云つてよい。

勞農黨指導者の合同とは、一方においては、無條件合同ならざる合同と說明され、他方においては、『指導精神にこだわらぬ』合同とも說明せられてゐる。かゝる合同が、具體的には、どのような合同を指すものであるかは、今日はなほ、少數指導者の胸底に秘められて居り、何人もこれを窺知することができぬ。

この提議に對して、日勞黨が投げ返へした合同提唱の對案は、現に昨日まで、勞農黨を支配して居つた分裂主義——日勞黨の指導精神を徹底的に排擊し、日勞黨をつぶしてその大衆を我々の方にとること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、この二つの勞大衆の結合する唯一の方法だとする『指導精神』──を、勞農黨の黨員大衆が自ら淸算せよ、といふのである。これはたしかに、勞農黨の一部の指導者が註文する通りの、無條件合同ならざる合同の提唱なのである。

この兩黨の合同合戰の間に介在して、最も實用向きな態度を選んだのが、社會民衆黨であつた。民衆黨の目指したところは、合同會議の提唱に對する回答によつて、日勞黨の内部における對立を刺戟することにあつた。社會民衆黨の聲明書の全努力は、この一點に集中せられてゐる。たゞこの努力が、いかに報ひられたかは、明らかでない。

合同運動が、演劇的興味を引いた第二の點は、勞働農民黨指導者の、あざやかな──或はあざやか過ぎるほどあざやかな──合同論への旋回そのものであつた。

勞働農民黨は、昨年の第一回大會において、日勞黨の現在の指導精神が變更せられないかぎり、兩黨の合同に絕對に反對する決議をした。また今年の五月には、たまたま問題となつた謂ゆる無條件合同論なるものに關聯して、右の決議を『斷じて忘れるものでない』と聲明した。爾來、日勞黨の指導精神の『徹底的排擊』は、一貫した方針であつた。『わが黨の指導精神は純一であり、それは日勞黨の指導精神に對する對立物である』。『日勞黨の指導理論に對しては、飽くまで之を排擊すると共に、その傘下の大衆を勞農黨に獲得しなければならぬ』。『無條件合同ではなくて、無條件排擊だ！』これが今日まで、勞働農民黨を支配して來た謂ゆる宗派的分裂主義者たちの、威勢のよい掛け聲であつた。いな、これは單なる威勢のよい掛け聲ではなくて、この『指導精神』をマルクス主義的眞理として裏づけるためには、過去一年間における用紙とインキと印刷機械の消耗との莫大な出費によつて、『戰鬪的統一戰術』ないしは『實踐的分裂主義』のすばらしいマルクス主義『的』理論が、展開されたのであつた。

現に最近にいたるまで、勞働農民黨──精密にいへば勞働農民黨の諸機關、なかんづく中央機關──は、この『宗派的分裂主義者』の『實踐的分裂主義』によつて支配せられてゐた。であるからこそ、現に十一月一日に、來るべき第二回大會の準備として開かれた東京府支部聯合の大會には、日勞黨に對する徹底的排擊の決議案が用意されてゐた。またこれに先だつ東京府の各支部大會では、同じ決議がなされてゐた。これは東京府のみではない。第二回大會を前にして全國に開かれる支部大會を指導するために、日勞黨排擊を從適した黨本部書記局の指令（ないしは雛形）が、全國の支部に送られてゐる。そこで少數の例外（何らかの事故で、支部大會の開催がおくれた地方──たとへば秋田の如き──を除く大多數の地方では、一齊に、同樣の決議が採用せられてゐるのである。

この刹那に、疾風迅雷の如くに黨員大衆の横面を張り飛ばしたものが、合同協議會の提唱であつた。それは有りふれた、單なる日勞黨との合同論ではない。それは昨日まで、勞農黨の指導精神の『對立物』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつた、日勞黨との合同のみではない。それは昨日まで『實踐的分裂主義者』によつて、ファシストの黨と數へこまれて居り『協同戰線の持ち掛け』の圏外にさへも放うり出されて顧みられなかつたところの、社會民衆黨と日本農民黨をも含めての、合同の提唱であつた。

私はもとより勞働農民黨が、從來の方針を一變し、宗派主義者の『實踐的分裂主義』の理論を、事實上において放棄して、大膽に合同論に進出したのを見て、無産者運動全體のために慶賀するものである。けれどもかゝる急激な、手のひらを返へすような方向轉換は、いやしくも大衆的な團體においては、絕對に不可能なことを忘れてはならぬ。戰術上の轉換運動が、極めて遲緩にしか行はれぬことは、大衆的な團體に避くべからざる弱點の一つであると同時に、それにまた大衆的な團體に、固有な特質なのである。ことにこの場合の轉換は、單に戰術上の一小變化と見做さるべきものではなくて、絕對に兩立すべからざる指導精神、ないしは指導理論の相違が『有る』といふことから、『無い』若しくは『無くなつた』といふ見解にもとづく戰術への根本的な變化である。現に十月廿四日廿五日の勞農黨第四回中央委員會では、日勞黨との共同戰線に關する活動規準の指令を發することが、議題に上ほつて居り、これにもとづいて、日勞黨の指導精神の徹底的排擊と、『日勞黨をつぶしてその大衆をとる』ための共同戰線の持ち掛けが、大多數の支部大會で決議せられてゐることは、さきにも指摘した通りである。

勞農黨内における『實踐的分裂主義』の指導者が、中央常任委員會をして、かゝる不自然な急角度の旋回を敢行してまでも、合同論に猪突せしめねばならなかつた事情は、よく分つてゐる。しかし事情と動機とが何であらうとも、私は合同論への進出そのことは、無産者運動全體のために慶賀しなければならぬ。

けれどもそれと同時に、この事實は、勞農黨の内部的な問題としては、改めて重大な——然り、致命的に重大な——問題を提起したものである。即ち、わが勞働農民黨を支配してゐるものは、何者であるか？といふ問題である。それは黨員大衆であるか？それとも黨員の鼻づらをつかまへて、自由に引き廻はそうとする、黨官僚であるか？といふ問題である。かゝる急激な、しかも正反對の方向への旋回に、黨大衆が何らのこだはりもなく追隨してゆけたと假定したならば、それはその黨派が、大衆自身によつて支配せられてゐる大衆的な黨ではなくて、黨官僚によつて支配され、大衆はたゞこれに追隨するように訓練せられてゐる黨だといふ、最大の汚辱を曝露することになるからである。

かゝる慣行は、獨裁專制が行はれ、黨が親分たる少數と、物質的利益によつて狩り集められた一種の選擧傭兵たる黨員との關係で出來上がつてゐるブルジョア政黨にあつては、必ずしも珍らしいことではない。いな、これがブルジョア政黨の特徴たる慣行なのである。大衆的黨としての無産者の政黨は、この點においても、ブルジョア政黨とは全

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く異つた性質を實證しなければならぬ。

わが勞働農民黨の黨首、大山郁夫氏は、本誌の十一月號において、合同の問題について次の如く言はれてゐる。

『我々は（無産諸政黨は、その分裂によつて無力にされたものだが、その再合によつて有力にされるであらう』といふ、進歩的ブルジョア新聞の『無條件的合同』の勸告に對して）少なくともわが勞働農民黨の立場からは、斷然否！　と答へる。わが黨は、曾てそれの上に起つた分裂のために、すべての不純分子を淘汰し得たことによつて、純粹の無産階級黨となり、そしてそのために一層強くなることを得た……それだのに、若し我々が……一旦我々と袖を別つて以來まだ少しもその形質を變へてゐない不純な諸分子と再び手を握るやうな擧に出るならば、それから豫想し得られる結果は、果してどういふものであらうか？　少くとも、わが勞働農民黨がそのために一層有力な政黨となるであらうといふやうな突拍子もないロジックには、我々は斷じて耳を借すことは出來ないのである』

吾々は、この大山氏の徹底したロジックを本誌によつて知つてから、三週間の後、この同じ大山氏が『まだ少しもその形質を變へてゐない不純な諸分子』との合同を思ひ立ち、日勞黨の代表者との折衝において、ひたすらに『指導精神にこだはらない』合同、ひたすらに『誠意』によるところの合同これこそ、まさしく『進歩的ブルジョア新聞』の勸告してゐる合同である──の促進のために、驚くべき忍耐をもつて、反對側の説得につとめられた事實を報道されたからであつた。

かゝる急激な態度の變轉は、合同に對する大衆の要求が、斷然にな つたことに基づくものだといふことであつた。これを大山氏の言葉に反譯すれば、大山氏の脚下にある大衆が、かの『突拍子もないロジック』を盛んに唱へだしたゞ、といふことになる。そして大山氏は、斷じてこれに耳を借さない代りに、たゞにその耳ばかりでなく、その全心をも借されたのであつた。

これは多くの人々の目に、合同運動を『劇化』した主要な事實であつた。それは最もシリアスな問題を、たゞに演劇化したばかりでなく、なほその上に、操つり人形芝居化したのである。

私は固より大山氏の、合同論への勇敢な進出を慶賀する。ことに大山氏の場合においては、三週間前に公けにされた意見を、その後の行動によつて徹底的に清算せられた比類の少ない勇氣に對し、滿腔の敬意を表するものである。

けれども公けな政黨が、ことに大衆的な政黨が、過去の見解を清算する方法は、おのづから一私人の場合と異るものがなければならぬ。少なくとも無産政黨の運動に多少の關心をもつ一般大衆、なかんづく勞働農民黨に所屬する勞働者と農民との黨員大衆は、この『劇化』せられた問題を再び自分自身のシリアスな問題たらしめるに足るところの『ロジック』を聞くことを要求するにちがひない。

大衆的黨派としての無産政黨は、わが國においては曾て何者によつ

ても歩ゆまれたことのない、全く新らしい道を歩み初めてゐる。吾々はあまりに久しい間、ブルジョア政黨の、醜惡な慣行を見せつけられてきた。無產政黨は、その綱領と政策とにおいて、ブルジョア政黨との相異を示すばかりでなく、黨官僚と傭兵との結合に過ぎないこれらのブルジョア政黨とは根本的に異つた行動の法則によつて、その大衆的黨派たる特質を發揮しなければならぬ。

無產政黨の合同は必要である。けれどもこの合同が、黨員大衆の意志を反映して行はれることは、或る意味では、合同そのことよりも、さらに一そう必要である。わが勞働農民黨は、今日まで、無產政黨の合同は、決して黨指導者間の取引きであつてはならぬと主張してきたのである。私はこの主張を、全心的に支持するものである。

それ故に、私は、無產政黨の合同の實現が、或る期間のあいだおくれることは、なほ忍ぶべきことであつても、黨員大衆が、黨官僚によつて愚弄的に引き廻はされることは、決して忍ぶべからざることだと思ふ。黨大衆は、ブルジョアジーと戰ふと共に、その陣營內にある、ブルジョア・イデオロギーに基づくブルジョア的慣行と鬪ふことによつて、眞實の大衆的政黨と、その行動法則とを確立しなければならぬ。

遺傳學概論

エム・シー・コールター著
長尾正人譯

本書は最も斬新なる學說を採り、遺傳學に一大貢獻をなした。全然生物學的素養のない人々にも容易に興味深く此の深奧なる原理を理解せしめんことを期した。

改造社發行　◆　定價一圓八十錢　送料十八錢

世界社會運動の現勢

何故にトロツキー、ジノヴィエフは黨から除籍されたか

荒川實藏

勞農ロシアに於いて聯邦共産黨中央委員會並に同中央統制委員會がトロツキー、ジノヴィエフらを共産黨から除籍したとの報道が最近傳はるや、世界のブルジョア新聞（日本も同じだ）は例によつて勞農ロシアの内訌、指導者の個人的勢力爭ひといふ風に書き立てゝゐる。ロシア共産黨では、黨内において意見の相違がある毎に火の出るやうな論爭が幾度も行はれたが、徹底的に論爭した後に、一方が他方に服し、多數派の決議に從ひ、その反對派も直ちに黨の嚴格な統制の下に返つたのである。これはボルシエヴイキの、、た傳統なのだ。この痛烈なる自己批判によつてボルシエヴイキの鐵の如き戰列が堅く築き上げられたのである。

現にトロツキー並にジノヴイエフ等の反對派は一九二六年十月十六日の日附で、黨中央委員會へ聲明書を發し、彼等は、彼等及び彼等の同志が第十四回黨大會以後、多くの場合、黨の規律を紊すが如き途に進んだこと、また彼等が黨によつて規定されたところの、黨の内部に於ける理論鬪爭の限界を超えて分派的な途をとつたことを承認し、且つ、この途を以つて全く誤れるものとなし、すべての分派的グループの即時解體を要求し、黨中央委員會の決議に服從せんことを誓約した。かゝる方法は黨の統一を危ふからしめるとの見地に立つて。

・またトロツキーは黨中央委員會總會に於いて、反對派に關するテーゼが大會によつて採用されたといふことは不可避的に反對派の幹部を黨から除名せねばならぬことになるであらうと述べたに對して、スターリンは次のやうに答へてゐる。同志トロツキーのこの主張は全く根據なきものであり、全然誤つてゐる。反對派に關するテーゼの採用は、たゞ一つの目的、反對派の原則上の誤謬を完全に征服さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れるまで克服するといふ目的を追求し得るのみであると。

我々は、ロシア共産黨内の論爭がいかに白熱化し、いかに深刻にならうとも、それは眞面目な戰闘的プロレタリアートの自己批判であり、自己の過誤について忌憚なき批判を行ひ、その誤謬を克服することによつて、黨の眞の統一が達成されるものであることを信じてゐる。トロツキーもジノヴイエフも幹部派といかに痛烈に戰はうとも、多數派の決議には服從し、よしそれを犯すことがあつても、その過誤を陳謝聲明し、黨そのものゝ統一を破らなかつた。

而るに、極く最近に至つて、トロツキー、ジノヴイエフ兩名の共産黨除籍の報道が傳へられた。ブルジョア新聞は再び「勞農ロシアの内訌―分裂の危機」等々のデマゴーグを書き立てゝゐる。我々は、勿論、彼等のかゝるデマゴーグは意識的に唯一の勞働者の國家たるソヴェット聯邦を誹謗せんとするもの以外の何物でもない。だが、兩名の黨除籍は、單なる誤報でなくして、確かなる事實だ。だが、怪しむに足らない。それには、反對派の指導者らが除名さるゝに至つた重大なる本質的——許すべからざる——過誤、乃至、策動があつたに相違ない。

私は今反對派の最近に於ける進出が除籍に至つたまでの過程を述べることは無意味なことでなからうと思ふ。

だが、それに先だち、反對派(一九二三年末—一九二四年)新反對派(一九二五年十一月—一九二六年十一月)の擡頭の根據を知る必要がある。一九二一年に採用された新經濟政策を理解し得なかつたトロツキー、プレオブラシエンスキー等々は一九二三年十一月に於いて黨内デモクラシーの論爭を捲き起した。然らば、それはいかなる條件の下に於いて捲き起されたか?當時のロシアは内亂と饑饉を征服して、孜々として社會主義建設の大業に全力を注ぎ、産業は著しく勃興しつゝあつた時代であつた。だが、その反面に於いて、同年の秋には、工業生産物の價格と農業生産物の價格との均衡が全く失はれ、(トロツキーの表現を借りて云へば、所謂「鋏」である。)ソヴェット紙幣の暴落は勞働者の得る實質的勞働賃銀を低下せしめ、農民の購買力を減少せしめた。かくて、工業生産物はそのはけ口を見出し得なくなり、遂に二、三の工場に勞働者のストライキさへ惹起された。茲に於いてトロツキーは、黨が大衆から隔離せんとしてゐるのは、黨の組織が悪いからであるが故に、黨の組織を民主化し、黨内に分派の存在を許すべしと主張した。之はレーニン主義的組織の方法に戻り、小ブルジョア的見解に過ぎない。

一方、當時の國際情勢を見るに、一九二三年秋にはドイツの革命が失敗したのであつたが、トロツキー、ラデツクらはその失敗を正確に批判し得ず且つ、其の後資本主義が一時的に安定したのを見て、悲觀的見解に陥入つて了つたのである。

以上がトロツキー主義的反對派擡頭の根據である。云ふまでもなく、國内政策の問題と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國際政策の問題とは離すことの出來ない緊密を以てしつかりと繋がつてゐるものである。されば、國際的に重大なる意義を有してゐる政治的情勢は、その國內政策の上にも反映してゐる。これはひとりトロツキーの反對派の場合のみではなく、極く最近に於ける戰爭の危機に直面しての、トロツキー、ジノヴイエフ等の反對派の新進出に就いても同じである

前述した根據によつて擡頭した反對派は、理論的、實踐的に克服され、世界のブルジョアジーの期待してゐた共產黨の內訌沒落は單なる糠喜びに歸し、其後ソヴエット聯邦は政治的經濟的に異常なる發展を遂げることが出來た。だが、それと共に、都市に於いては、ネツプマン、農村に於いては富農(クラーク)の勢力が增して行くかの如く見えた。一方、ソヴエット聯邦外の資本主義世界では、そのブルジョアジーの必死的努力によつて、世界資本主義は一時的に安定したかの如く見えた。玆に於いて、曾てはスターリン、ブハーリンと共にトロツキーの反對派に對して極めて勇敢に鬪つてきたジノヴイエフ、カーメネフがトロツキーズムに移行し、それと合流し、黨中央委員會と爭ふに至つた。このジノヴイエフ等の反對派(トロツキー主義的反對派に對して新反對派と呼ばれてゐる)は一九二五年十二月の第十四回黨大會に於いて、ジノヴイエフを先頭に立てゝ、猛烈なる論爭を行つた。そこでは最も重要なる原則的問題が討議された。例へば、一國內に於ける社會主義建設の問題、農民政策に關する問題、黨の內部的組織問題等である。だが、かゝる問題は十四回大會に於いて始めて提出された問題でなくして、これらの問題は今までにも討議され原則的には旣に黨によつて解決されたかの如くである。しかし、これらの諸問題が更により銳い形態をとつて現はれたので、猛烈な鬪爭となつたのである。

次に、反對派と新反對派との關係、そのブロツク結成の發展段階を究明しやう。新反對派の進出した第十四回黨大會に於いては、トロツキー主義的反對派とのブロツク結成の段階にさへ到達せずして、その[illegible]あつた。ブロツク結成への第一歩を踏み出したのは、ルイコフの經濟情勢に關するテーゼに關連して開かれた二六年の四月の中央委員會總會の時であつた。新反對派とトロツキー派との間の完全なる一致は當時に於いてなほ存在しなかつたとはいへ、ブロツクの本質がすでに完成してゐたのである。更に七月の中央委員會總會に於いて、ブロツクは形式的に結合され、九月の終と十月の初めにかけて反對派が黨に反對して公然と出現する段階までにいみじくも到達した。

そして今や彼等は班から班へと宣傳に浮身を窶すに至つた。だが、その活動の結果は、反對派にとつて慘めなものであつた。彼等は完全に失敗した。

かくして、遂に、上述した通りの、かの有名な十月十六日の反對派の指導者の「宣言」が發表された。

この「宣言」に於いて、反對派は、彼等が分派やグループをつくる自由といふ理論や自

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

己の行動を反レーニン主義的であるとして拒否すること、及び、彼等が理論鬪爭の限界を超えて分派的な途をとつたことを承認し、更に、同じ宣言に於いて、トロツキー、ジノヴイエフ、カメネフ等は次の如く云つてゐる。

『コンミンテルン若しくはわが黨に加へられたるすべての批判は、憎惡に變はり、國際プロレタリアートの鬪爭組織としてのコミンテルンの地位、コミンテルンの前哨としてのソヴエット聯邦共產黨、若しくはプロレタリア××の最初の國としてソヴエット聯邦を弱める』

これによつて彼等は、

『ドイツのマスロフ、ルート・フイツシヤのグループにせよ、イタリヤのボルデイガのグループにせよ、或は他の如何なるグループにせよ、コミンテルンの見解に反してコミンテルンの各個の支部の中の或るグループの分派主義を直接若しくは間接に支持することを絕對に許されない』

ことを承認してゐる。同志ジノヴイエフはまた書いてゐる。

『我々は、ルート　フイシヤーやマスロフの如く黨及びコミンテルンから除名された人の活動を少しでも支持することは斷じて許されない』と。

だが、反對派は、この「宣言」の最初の第一句に於いて自分らは前に抱いてゐた立場を固守する。而かもたゞ固守するばかりでなく、「完全に」固守してゐる。我々は以上述べたこと總てを想起せずして、反對派の新進出、トロツキー、ジノヴイエフの黨除名を理解することが出來ない。

然るにその後、反對派の幹部は、國際情勢の變動を好機に今迄にない尖銳化せる鬪爭を再び開始した。コミンテルン執行委員會第八回總會に於いて、彼等はコミンテルンに對し、黨に對して未聞の罵詈を浴せかけた。そして、一九二六年十月十六日の宣言は、彼等自身によつて蹂躙されて了つた。同時に反對派の無數の文書が、その信奉者によつて複製され、黨員の間ばかりでなく、黨に屆せざるものゝあひだにも撒布された。而して、その際、それは多く彼等が黨に對して最も危險な方法で利用することの出來たやうな人達の手に這入つた。

だが、かゝる死物狂の進出も、その階級的立場を失ひつゝある以上は、勿論成功すべくもなかつた。けれども、時正に帝國主義列國から刃向けられた第二の戰爭の暗雲ソヴエット國境近くに低徊し、ソヴエット聯邦の情勢は益重大となりつゝあつた。黨の統一はその當時に於いて從來よりも一層切望されてゐた。從つて、彼等の進出に對する徹底的排擊の叫びは愈ゝ痛烈となつてきた。反對派はかゝる狀勢に直面して、一九二七年八月、再び連名を以つて黨中央委員會の決議に服從することを誓約した。けれども、この誓約も再び「反古」になり、彼等は更に從來通りの策動を續けた。彼等は再び出版其他の方法で活動しただけではなく、前述したドイツの極左翼共產主義者と關係を結び、反對派首領の文書がモスコーにて出版されない以前にドイツの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

マスロフ・ルート・ツイツシヤー一派の出版物に現はれた。

それだけに止まらない。十一月七日の革命十週年祭の當日彼等は、無產黨員大衆に向つて十週年祭を前にして爲された全露中央執行委員會の宣言、黨の政策を攻擊さへするに至つた。

これは果して何を意味するか？　これは既に彼等がプロレタリア××に反對し、反ソヴエット陣營に移行したと云ふべきでなからうか？

さればこそ、曾てはレーニンと並稱され、世界に稀なる雄辯家として、また、絕世の精力家として、また赤軍の組織者として、世界のブルジョアジーに怖れられ、萬國のプロレタリアから囑望を寄せられゐた、かの颯爽たる革命家然たる風丰の持主である、トロツキー及び十月革命の翌年即ち、一九一八年に、革命の都モスコーに於いて第三インタナショナルが創立さるるや、執行委員長として、第五回大會に至るまで國際革命運動を指導し全世界の列强をして、赤化の魔の手を操る張本人として、彼の名を聞くだに恐れを抱かしめた、ジノヴイエフさへも假借することなく黨より除名したのだ。これによつてボルシエヴイズムの基礎を些少と雖も搖せなかつた。

我々は反對派の行方は何處であるかは今述べる暇がない。私が曾てモスコーに在りし日、トロツキー排擊の聲、喧々囂々たる最中に蔣介石によつて殺された陳獨秀の子息と、トロツキーズムについて話をしてゐた。その時彼は『若しもドイツの革命が失敗に終つて居なかつたら、彼は中歐の天地に得意然として活躍して居つたであらう。從つて、此度の論爭の如きは起らなかつたのに』と云つてゐたことを想起する。勿論、さうだとすれば、伯林で第三インタナショナル第六回大會が開催され、ジノヴイエフは執行委員長として、鮮やかな議長振を發揮してゐるかも知れない。

だが、、、運動は坦々たる大道を一直線に進むものではない。反動時代に處しても動ぜず、幾年、幾十年の、、、、、、、、、、、、、、、、、とマルクスレーニン主義的理論の辯證法的發展によつて進み得るものこそ眞實のボルシエヴイキなのである。プロレタリアートは以上の教訓をより强く、より新しく、最近に於ける反對派の進出から學ぶことが出來ると思ふ。

英國勞働運動の「廻れ右」

田中九一

大戰後日沒の如き勢で進みつゝある英國資本主義の衰退を救ふ最後の手段として、資本家階級に勞働者階級に對して猛烈な攻擊を始めた。賃銀値下、勞働時間延長、百萬以上の

失業者。之に對する勞働者の態度は只二つしかなかつた。資本家階級の倒れるまでこの攻擊に反抗し切るか、或はこの攻擊を甘受するかの二つだ。而して始めの中は、勞働者はこの第一の手段をとるかに見えた。一八二四年の勞働黨內閣八ヶ月の芳しからぬ業績は、一般勞働者をして議會を通じて彼等の地位を向上せんとする、、、、を感ぜしめ、彼等自身直接資本家と抗爭する方法に主力を向けしむるに至つた。一九二五年四月の英露委員會の組織、同年九月の勞働組合大會に於ける社會主義的綱領の採用（本誌第八卷第六號拙稿參照）等は、彼等がこの鬪爭のための陣容を整へんとしたものである。然しこの陣容は、政府といふ組織立つた權力を中心とする資本家階級の陣容に比すれば、余りに不整頓であつた。第一に勞働黨が勞働組合大會とは反對に右を向いてゐた。第二に、組合大會それ自身に於ても、その總指令たる總評議會に强大なる命令權が與へられなかつた。第三に總評議會員に十分なる鬪志が欠けてゐた。この結果は一九二六年五月の總罷業の失敗となり、更に同年末には孤軍奮鬪せる炭坑夫も八ヶ月の苦鬪に軍費を凋らして、屈服してしまつた事は周知の事實である。

炭坑夫組合は全組合員の二割强を占むる英國最大の組合であるのみならず、又最も鬪爭的な組合である。この强大なる組合に對して勝ち誇れる資本家階級は、その攻擊の勢を益益强め、一九二七年五月にはファシズム的な勞働組合法案を議會に提出し、難なく之を通過せしめた。この法律の骨子は次の三つである。（１）政治的ストライキの嚴禁、（政府は都合の悪いストライキは皆この「政治的」の刻印の下に禁止し得るのだ！）（２）組合の政治基金積立の妨害、（３）官公吏が政黨に直接、間接に加入するの禁止。（組合大會に加入することも、間接の政黨加入であるから許されぬ。）この對內的攻勢と共に、更に同じ五月に政府は、ロンドンに於けるロシア通商機關アルコス會社を襲擊し、以て支那の排英運動や英國內の左翼勞働運動（後述）の支持者とにらむロシア壓迫の口實をつくつた。さうして五月二十六日には遂にロシアとの國交斷絕を宣言した。

この攻擊に對して勞働組合總評議會は何をしたか。曰く、組合壓迫法は次の勞働黨內閣が出來た時に立憲的に廢止しやう、政府の英露斷交に對しては、組合總評議會も亦之と步調を合せて『英露委員會』の決裂をなす、——之が總評議會の採つた態度である。組合壓迫法に對する態度は後に譲り、英露委員會決裂に就て略述する。

英露委員會は曾て（本誌第八卷第六號に）述べたやうに、國際的勞働運動の統一と英露兩國の組合運動の提携とを實現する目的を以て、一九二五年四月につくられたる兩國勞働組合の協議機關である。兩國の組合は之に依つて次第に接近しつゝあつたが、一九二六年五月の總罷業以來急に不和になつた。その原因は、英國の總評議會がこの總罷業を僅か一週間で打切り、坑夫を見すてたのみならず全英に漲りつゝあつた革命熱に水をさした事に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

對して、ロシアの組合が一致、團結せよと非難した事にある。イギリス側はロシア側のかゝる非難を、イギリスの組合運動に對する內政干涉であるとし、ロシア側は、批評は如何なる場合にも自由であるべき筈だ、と云つて讓らなかつた。其後昨年四月英露委員會は總罷業以後三回目の會合をなした結果、互に相手方の內政に干涉しないといふ申合せをなし、その活動をつゞける事となつた。然るにその翌月に至つて再び問題が起つた。それはロシアのトムスキーが、イギリス總評議會の勞働組合壓迫法案に對する生溫い態度を手痛く攻擊した事から起つた。イギリス側はこの攻擊は明かに內政干涉であると言ふてトムスキーに抗議を申込んだのに對して、トムスキーは此時も亦批評の自由を主張した。そこでイギリス側は妥協の余地なきものとなし、其後度々ロシア側より英露委員會開催の申込を受けたが之に應ぜず、遂に昨年九月のエヂンバラ大會で、英露委員會を決裂する旨を決議したのである

次に勞働組合法に對するエヂンバラ大會の態度を一言すれば、この法律が遵守して將來政治的ストライキを止め、官公吏組合をして大會より脫退せしむる、然し勞働黨內閣が成立したらこの法律を廢止しやう、といふのであつた。

この內外政策共に『穩健』振りを見せたエヂンバラ大會は、更に『產業的平和』に關する決議に依つて、その穩健政策の錦上に花をそへた。產業的平和とは首相ボールドウインが屢々勞働組合に申込める政策にして、要するに勞働爭議を止めて、勞資共に英國產業の發達に協力しやう、といふのであつて、資本家の攻擊の一形式である。之に對してエヂンバラ大會は、勞働者は他の如何なる階級よりも產業的平和を希望するが、只ボールドウイン政府の仲介に依つて之に應ずる事は、政府が壓迫的勞働立法を撤回せざる限り、不可能である、と決議したが、產業的平和そのものに對しては強い贊意を有する事は、大會の議長ヒックスの言葉にもよく現れてゐる。彼はこの大會に於て勞資兩者の代表者より成る協議機關に依つて、兩者の意志を疏通し、產業上の平和を招來し、以て『產業の能率を高め、且つ勞働者の生活標準を向上する』事の必要を力說した。勞働者の生活向上の前提條件として、現在のまゝの產業の能率を高める、之がエヂンバラ大會の根本的態度である。この根本的態度が何を意味するかは、この大會の直後ロンドンの株式相場を急に騰貴せしめたイギリスの株屋が最もよく知つてゐる（『エコノミスト』九月十日號參照）

斯くして勞働組合大會は、勞働黨——昨年十月ブラックプール大會で、『次の勞働黨內閣では炭坑國有を實施しない』といふ事を決議し、以て自由黨の支持を誘つた勞働黨——と同一戰線に立つたのである。そうして二三年來の勞働黨の右傾と組合大會の左傾との間に起つた間隔を、組合大會の廻れ右に依つて、無くしたのである。

最後に是非一言しなければならないのは、左翼少數派運動である。之は組合大會に加入せる諸種の組合中の左翼分子が全國的に團結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したものであつて、組合大會内の少數反對派である。この少數派はモスコウの赤色勞働組合同盟に加盟し、大體に於て英國共產黨と步調を同じくしてゐる。創立以來未だ四年にしかならぬが、その成員は一九二五年の七十五萬、一九二六年の九十五萬六千と年々增加し、特に總同盟罷業前後には急速に增大した。總評議會はこの勢に脅威を感じ、之を芽生の中に壓迫せんとして、昨年春全國の地方評議會に對して、左翼少數派に加はる事を禁止し、更に前述のエヂンバラ大會はこの處置を確認した。然し左翼少數派はこの決議にも拘らず、今尙八十萬の會員を有し――最近の勞働者の貧窮のため總罷業當時より減少す――組合大會の幹部の右傾に對抗して、階級鬪爭の立場を固守してゐるのである。

アメリカ無產階級運動の展望

薄　茂人

一

一九二七年八月十九日の「プラウダ」紙（ロシア共產黨機關紙）の「五月小委員會以後に於けるコミンテルン執行委員會の活動の概況」によると、日本の×××運動について、現在の致命的缺陷が徹底的に批判され、曝露されてゐるが、同時に又、アメリカ勞働者（共產黨）に對しても假借するところなき批判と、明確なる職界が規定されてある。

此のプラウダ紙の文獻は、現下のわが無產階級運動に對する、天來の警鐘となつたが、アメリカに對しても、輝しき明鏡であつた。

此の文獻は、アメリカと日本との興味ある類似點を指摘してゐる。それは第一には、上向線を描く資本主義國たる事である。第二には强力なる帝國主義國家たることである。第三には大衆的政黨の組織を絕對的必要と共通せる客觀的情勢である。

しかし、アメリカと日本の資本主義の發達のカーブは、成る程、上向線を描いてはゐるが、だが、文獻は、その相異點をも見逃してはをらぬ。

日本の資本主義は、勞働者層から、勞働貴族をつくり出すことの不可能を斷言するところの、此の文獻は、アメリカに對しては斯く言ふ。

「決定（コミンテルン執行委員會幹部の）は、なほ比較的高度な生活水準の勞働者階級の著しき層を收容し得ると結論した。勿論アメリカには今や勞働者階級の『ブルジョア化』に關するエンゲルスの言葉が適應される。どこにもアメリカの如く貴族的な勞働者の多數なところは無い。どこにもアメリカの如く墮落した勞働組合官僚はない。」「×××の問題はどうである？ ×××は勞働者銀行、勞働者株主制及び其他を經て生活改善の美衣を扮裝するあらゆる曝露

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をなさねばならぬ……」

コミンテルンの如上の決定は、毫も事實を僞らない。

フォード的の勞資協調機關は、いよ〳〵繁榮するのみでなく、新案特許の競爭でもするかのやうに、新らしい定型が發明されつゝある。

曰くコンパニー・ユニオン、曰くバルチモア＝オハイオ・プラン、曰く勞働者株主制、勞働者銀行等々々。

資本家と勞働者の同數の委員、或は資本家代表の上院、勞働者代表の下院によつて、所謂福利增進で、勞働者を誤魔化さうとするコンパニー・ユニオンは八百餘、百二十萬の勞働者を重工業の地域に於て眠り込ませ、勞働組合の監督のもとに、資本家と協定して、生產能率の增進を資本家のために昂めようとするバルチモア＝オハイオ・プラン、いはゆるB・Oプランは、バルチモア鐵道會社の範例に眞似て、狡猾さに於ては、バルチモア鐵道會社に負けないところの、各地の資本家によつて企てられてゐる。

或は又、近着のアメリカのブルジョア雜誌によれば、勞働組合によつて三十七の銀行が經營され、二億ドルの預金が運用される、勞働者株主制による勞働者の所有株券の總額面は、四億五千四百萬ドルに及ぶと、勞資協調の繁榮振りを書き立てゝゐる。

從つて、勞働者の、勞働組合への組織率は低く、組合も亦、勞働階級の多くは上層を組織したもので、從つて又、協調的なるを免れぬが、かゝるものの代表としては、いはゆる勞働聯合（エー・エフ・エル）を擧げねばならぬ。

二

エー・エフ・エルは、全米の組織勞働者總體に對しては、八割の巨大なる組合員を擁するも、全米の勞働者總數二千六百萬人に對しては一割一分、即ち九牛の一毛に過ぎない。

いふまでもなく、エー・エフ・エルは、地球上のいづれの組合よりも保守的、反動的である。

一九二五年のアトランチックシティ大會では一般……產主義に對しては防禦的でなく、攻擊的の戰ひを遂行する」ことを、昂然として聲明し、一九二七年の春には、紐育の裁縫師組合の七割五分の左翼的組合員五萬人をバッサリと切りすて、鬪爭的な坑夫組合の大會では、暴力團と投票買收の手段に訴へて、幹部反對派を抑壓したほどである。

エー・エフ・エルは又、灰色のアムステルダム・インタナショナルをさへ怖れて、脫退したほどだが、——金屬勞働組合だけは、協調的國際金屬勞働聯盟に漸やく加盟した——カナダ、メキシコ、キューバ、ペルー、パナマ、ニカラガ等の勞働組合と、汎アメリカ勞働聯盟を組織してゐる。

聯盟の主命とするところは、「勞働のモンロー主義」に基く、外國移民と赤化思想の輸入防壓と、資本主義アメリカ合衆國の汎アメリカ帝國主義的政策への協力に基く、屬領、半屬領地の勞働者の革命化の防止に在る。

一九二七年七月ワシントンに於ける第五回

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大會は、此の主命を辱めざるべく「革命的勞働運動の排撃」に徹頭徹尾終始したが、でも共産黨から叩きつけた爆撃的ステートメントは、大會の民族代表者によつて喝采されたのであつた。

「プラウダ」の文献は、××××の勞働運動に於ける、働き掛け、第一の目標をエー・エフ・エルへの未組織大衆の組織と、内部に於ける。フラクション運動にそゝいでゐる。

「×××は第一に劣悪な賃銀との闘爭をしなければならぬ。×××××はエー・エフ・エルの中に、理論的實際的にも資本主義的な職業同盟と名づけるやうなものと、闘爭してゐる活動的な勞働者を導かねばならぬ。×は之れと同時に未組織勞働者の組織とエー・エフ・エルの戰列に彼等を獲得する闘爭の爲めに働かねばならぬ。」一職業同盟内に廣大なる左翼の結成——之れが×××の中心問題である。之れと共に『あらゆる資本主義政黨に反對するプロレタリアの政黨——大衆黨の結成の爲めに』と、その煽動を強めねばならぬ」

エー・エフ・エルの量的衰退——一九二六年は一九二〇年に比べて組合員三割一分の減退である——は、勞働貴族と官僚による協調的指導方針の破綻であり、彼等の反動的傾向の強化は、×××による、かゝるフラクション運動の成果のあらはれでなければならぬ。

三

またエー・エフ・エルは、傳統的にしかも頑強に、政黨運動を拒否する。——ただ一九二四年の大統領選擧戰に、共和黨の左翼、進歩的政黨の主唱者ラ・フオレットに投票集中の決議をしたことは、一個の傳統の破棄ではあつた——それ故に、無産階級政治運動の徐々振はざるは、一面已むを得なかつたとは言ひ得る。

進歩的政治勢力としては、ノースダコタ、ミネソタその他に、地方的勞働、農民政黨、自作、小作農のノンパルチザン・リーグがあり、一九二〇年の總選擧にデヴイスを擁立して九十萬票を獲得した頃を絶頂とし、一九二五年シカゴの第三黨組織大會に於て、黨構成要素の單なる組織問題で、參加を拒否し、デヴイス歿後、その存在をすら疑はれる秋風落莫たる社會黨がある、——此の黨の殘存的勢力は紐育、ペンシルヴアニア、イリノイ、オハイオ、コロラドに於て黨員一萬五千人と稱する——しかし無産階級の爲めに眞に闘爭し、勞働者、農民を政治戰線に動員し得るところのもの——サツコ、ヴアンセツチ事件に對する汎アメリカ的デモンストレーションの成功はなほ新しい——それは勞働者(共産)黨であり、ワアーカース(コムミニスト)パーテイこそは、唯一の戰闘的無産政黨である。

勞働者(共産)黨は、合同共産黨(黨員五千七百人)とアメリカ共産黨(黨員六千百人)が一九二〇年合同したる單一のアメリカ共産黨(一九二三年解散)によつて、合法的政黨として一九二一年勞働者黨の名で、產聲をあげたものだが、その後一九二五年のシカゴ大會で「共産」(コムミニスト)の文字を挿入したものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

黨員は結黨當時の一萬人から最近は一萬七千人に增加し、黨員にあらゆる地方、又職場に、果敢なる「前衛」を形成しつゝあるも、紐育、シカゴ、デトロイトには深く根をおろしてゐる。

黨の禍根、即ち、大衆的勞農黨の組織を主張する少數派ルーセンバーク派と、勞働者(共產黨)の擴大を主張するセクト的多數派フオスター派との對立、コミンテルンによるセクト的多數派の淸算と、黨の細胞組織の再編制を完了するに到つたが、機關誌「コムミニスト」には、最近フオスターが名をひそめ、書記長ルーセンバークは一九二七年、多幸多難なるうちに逝いた。

なほ、ネグロの民族的運動の發展を逸することは出來ない。

アメリカのネグロ民族は、一千萬餘人、そのうち四分の三は農業地帶にあるが、農業恐慌後、彼等は不熟練勞働者として工業都市へ逆捲く勢で流入しつゝある。

ユニヴアーサル・ネグロ・インプルーヴメント・アソシエーションは、小ブルジョア的解放團ではあるが、彼等の四十萬人を組織し、又十萬人は勞働組合のもとに結成されてある。

しかし、彼等の唯一の味方として、勞働者(共產)黨は、アメリカン・ネグロ・レーバー・コングレスのもとに、ネグロ・プロレタリア層を組織してゐる。

四

アメリカの强大なる帝國主義的資本主義は、いかにも、上向線を昇騰しつゝある。それは必然に、勞働者の貴族層を養ひ、收容し得る力がある。

アメリカの無產階級運動はいかにも巨大なる協調的勢力のなかに少數の「前衛」の運動が、ちり〳〵と展開されてゐるに過ぎない。

しかし其れにも拘らず、到底收容し切れないであらふところの失業問題が橫はる。外國移民、ネグロ民族の劣惡なる勞働條件は下降する一方である。勞働貴族と、——二萬五千ドルの年俸を貰ふ組合幹部さへある——熟練工と不熟練工との、物質的條件のへだゝりは、ます〳〵擴大されつゝある。

それは、ウオール街か、時ならぬ株式恐慌に襲はれることによつても、明らかなやうに、沒落期の世界資本主義による、避け得られない影響のあらはれである。アメリカ勞働者(共產)黨は、かうした資本主義繁榮の側面の投影、そこに必然に擡頭し來る被壓迫人民層の、貧窮、反抗、不平を、敏速に、大衆的政治戰線への結成へ動員することを第一の指標とする「プラウダ」の文獻は、大ぎにしるすが如く、明らかにかゝる方向を指示してゐる。

「コミンテルン執行委員會の幹部は、支那の如き活動的な政治問題と同列に、大衆的政黨(コンソリダーツェイ・パルテイ)との問題の關係、即ち×××は、再び根本的な尺度に於て、大衆の爲めに其の鬪爭を規定すべき問題であることを審議した。

アメリカの問題は、幹部によつて政黨の根本的問題を規定する見地から、即ち大衆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

政黨の問題の見地から審議されたのである。

幹部の決定は、アメリカ合衆國が今日、最も强力なる帝國主義的國家、そこに現れる資本主義が、更らに上向線を描いてゐるといふ、その事實が決定された。

之等の事實は、第一の結論は×××の前に緩慢なる時期、即ち大衆のための闘爭の問題、第二の結論は、非活動的なるアメリカ帝國主義との闘爭の問題に、置かれるであらふ、……現下のアメリカに於ては、大衆的政策が根本的な問題である、といふ此の幹部の決定によつて、それは急速に進行するであらふに

然り、それは、多辛多難なる情勢のもとに進行しつゝある。

「相對的」安定と合理化との獨逸

嘉治隆一

一

かつては「勞兵會か憲法議會か」といふ所まで漕ぎつけ、又、一度は部分的にソヴイエツトを建設したドイツ。賠償問題に、インフレーシヨンに、ルール占領に不安と動搖とを重ねて來たドイツも、一九二三年末のレンテン・バンクとドウズ案との成立以來、一先づ安定期に入つた、而して此國の安定は大體に於てヨーロツパの安定を意味し、同時にそれは所謂世界資本主義の安定に通ずるのである。されば一九一九年春（第三インタナシヨナル第一回大會）には「ドイツの赤化は數個月乃至數週間を出でないであらう。それに續いては全歐洲が、そしてイギリスさへも一年を出でずして我物にして見せる。」と傲語したジノヴイエフ自身をして、一九二五年春（コミンテルン第五回擴大委員會）に至つて、世界資本主義の「相對的」安定を公認するの止むなきに至らしめ、又昨年（コミンテルン第七回擴大委員會）ブハーリンも世界革命の波が暫く引去つたことを明言した程である。

然りドイツは一先づ安定した。その條件をなすものは、商品生産販賣の增加、通貨及財政秩序の安定、ブルジヨア國家機關の復興、世界的革命氣運の衰退、無産階級の衰微と分裂等であり、その機構を運用してゐるものは激增するカルテル、トラストであり獨占である。乍併、この形勢は果していつまで續くものであらうか。

社會民主黨の一派（カウツキイ、ヒルフアデイング）は之を以て資本主義が新なる發展を遂げ、從來豫想せられなかつた新なる形勢が發生したものと見て、資本主義は容易に沒落せず、安定は當分繼續するものと主張する。之と對照をなすものは極左主義者の一派

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（コルシユ・フイツシヤー・マスロフ）であつて、彼等は安定の事實を否認し、之を認めるものは日和見主義であると叫ぶ。然るに共產黨の人々は「マルクス的黨派は事實から出發すべく希望から出發してはならぬ。プロレタリアートの解放を妨げる障礙は之を直視することによつて征服し得べく、之に對して眼を閉ざす可きではない。一切の安定を否認する極左派は現實より逃避し、前提に災せられて黨の鬪爭條件と使命とを正しく決定し得ない。」（レンツ）といつてゐる。

事實を認めるに怯懦であつてはならぬ。然し同時に之を動的に看ることを忘れてはならぬ。安定は決して資本主義內部に包藏せられる矛盾を弱めるものではなく、隨つてそれは固定的なものでも永續的なものでもない。所謂安定は「相對的」であり、「比較的」であつて「絕對的」ではない。

二

內部的矛盾の第一として資本主義の安定は資本家國家の對立を撤廢せず、それ故に××は常に宿されてゐる。世界的軍備制限の不成、列國相互に他國の領土又は勢力範圍を脅威し合ふこと、露支に對する列國步調の不一致、イギリス罷業を利用してドイツが、又、ルール占領を利用してイギリスが巨利を博したこと等は之を證明する。第二に安定に力を得た支配階級は必ず階級鬪爭を彈壓するが、それが根絕出來ないものである以上、、、、、、、する結果となる。第三は帝國主義的國家と植民地半植民地族との對立の激化。印度、モロツコ、シリア、支那等の問題は之を示す。第四にソヴイエツト共和聯邦の基礎確立であつて、地球の六分の一を占める廣大な地域に於ける同聯邦の存在は一切の非共產世界にとつて永久に苦勞の種である。ドイツいぢめのために出來た國際聯盟がロカルノ條約でドイツの加盟を强要し、ヴエルサイユ會議以來禁止した武裝を聯盟の同意ある場合には（、、、、、、、、、、）之を許すことにした等はいかにも露骨である。

かくてドイツに於ける安定も他國との對立關係と國內の階級鬪爭の狀勢とによつてともすれば動搖させられて來た。例へば一九二三年末から一九二五年夏まで安定を保つて來たものが、同年秋に至つて危機大いに迫り、翌年始に至るまでかなりの慘狀を現出したのである。一九二五年十月から翌年六月までに一萬二千八百餘の企業は財政的に行詰り、やはり同じ十月から翌年一月までに失業勞働者の數は實に二百萬。その頃株式相場は平均六割以下に暴落した。而もその原因が爲替相場の「安定」から來てゐるのであるから、所謂「安定」が決して油斷のならないものであること が分る。卽ち、爲替相場の安定によつてインフレーシオン中に盛に煽られてゐた商品の輸出が止つた結果、生產界は不況に陷つたが、就中、固定資本の多い重工業の衰微は貨幣資本の缺乏を招き、滯貨は動かず利率は高くなり產業界は益々沈滯した。加之、之に伴つてラムシユ・コンツエルンの如き大經營の崩解は關係銀行に非常な痛手を被らせたのであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。

爲替相場の安定が財界、產業界の動搖を惹起したこの事實によつても安定の眞相が如何なるものであるかゞ察せられる。かゝる危機を如何にして脱出すべきであるか。資本家階級はこの問題を解決するために「合理化」を行つた。

三

危機を逃れるために資本家階級は生產組織と生產機關の改良、對外債務の支拂、弱小後進國への資本輸出等を計畫したが、戰敗以來ドイツは種々のハンデイキャップを附けられてゐた。例へば(1)賠償の負擔(2)ドウズ案に基く外國の經濟統制(3)植民地全滅(4)戰前國外投資の消滅(5)經濟的要求貫徹の最後手段たる武力の缺除、等々。之では對外的競爭に勝つことはとても困難といはなければならない。そこで資本家階級は國內產業に於ける利潤率を國際的水準よりも昂めることを考へた。之が卽ち「合理化」なるものであつて、その方法としては生產價値量の增大、價格の引上、生產費の節減等が擧げられるが、既述の如く、對外輸出止り、國內資本流動の少い場合に初めの二方法は到底行はれ難く、當然に第三の方法が撰ばれたのである。

生產費節約といつても資本の固定を許さぬ事情が在る以上、勞働者の犧牲を直接に增大して利潤を高めなければならぬ。勞働時間の延長、勞働の集約化、現實賃銀の引下等がその手段となつた。それ故に生產の合理化は畢竟、勞働者搾取の增進であり、資本攻勢の一表現に外ならないのである。

合理化の促進によつて資本は合同、集中、獨占を遂げ、勞働は失業に苦しめられる。前者の優勢が續く限り搾取は極まり利潤は擧がる。米資輸入、英總罷業、佛白伊の爲替相場安定に基く輸出不振等を利用してドイツ資本の攻勢は着々成功を收めて行つた。それは合理化實施後、今年初までに總計四十億マルクの實收を擧げ、國際鐵鋼カルテル、佛獨加里工業トラストを作り、又、トルコに、イタリーに、ルーマニアに巨額の貸付を爲すに至つた。ドイツの新帝國主義的進出といふのはこれ等の事實を指すものである。

四

然らばこの形勢を各政黨は何と見てゐるであらうか。大地主、重工業者、貴族、官僚、軍人より成る國權黨。專ら產業市民階級と金融資本家とより成る人民黨。重工業者及大地主の一部、並に一般舊教徒より成る中央黨銀行資本家及商業資本家並に精工業者を代表する民主黨。——之等の市民黨各派が之に大贊成であることはいふまでもない。(ファシストより成る國粹黨は既に無力である。)一方、社會民主黨は高級勞働者、小市民、知識階級、官吏、俸給生活者等を基礎とする以上(少數左翼的勞働者は別)大部分合理化を支持し、之を善用し、勞働者自らカルテル、トラストに參加してその運用を共にすべきであると說く。然るに唯、共產黨のみは、、、、に基くブルジョア的ドイツの社會秩序の下に於て現

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

、、、、、のために働くことの有害無益を唱へ、鬪爭を經濟的領域にのみ限らずして進んで、、、、、、の方向に赴くために戰線の統一の必要を說く。そして彼等は現在に於ては反動勢力が確立し、中間層も之に對する信頼を失はず、又、革命的左翼がそれ自身多數となる可き見込なく、從つて直接に革命の起る可き客觀的條件を缺いてゐる。そしてかゝる狀態の下に於てなすべきことは、革命の決行には非ずしてそれがための準備であり、その目的に對する大衆の獲得であり組織である。やがて新なる形勢が展開するであらうが、それまでは準備をすべきであるといふのである。

ドイツの社會は全體として現在は一先づ安定してゐるが、やがて新なる條件の發生すべきことは必ずしも豫想不可能ではない。今年五月に於ける「黑金曜日」の株式市場の混亂、ライヒスバンクの金利引上と紐育對獨外債延期とに因る九月の金融混亂、並にそれに伴ふ失業者の增加等の事實は「安定」が決して泰然自若たるものでないことを敎へてゐる。

新帝國主義への進出か、矛盾の擴大による沒落か、それは一に懸つてドイツの經濟的發達と階級鬪爭との進展如何にある。前者は資本の攻勢となり間接に勞働の反抗を生み、後者は直接に勞働の反抗を激成する。直接か間接か、何れにしても落着く所は一つである。かくて「安定」は不安定であり、「合理化」は不合理化に走る。

佛蘭西に於ける統一戰線問題

平　貞　藏

佛蘭西の無產階級的分子千四百萬の中、工業勞働者は約八百萬、農業勞働者は約三百萬と推定される。總同盟組合は姑く別として、組織勞働者は、CGTの七十萬、CGTUの五十萬、クリスト敎勞働組合同盟十二三萬、アナルコ・サンヂカリスト同盟一萬乃至二萬其の他若干の黃色組合、獨立組合に分たれてゐる。この割合は恐らく今後も數年間保たれるであらう。こゝではCGTとCGTUの二派の間に起りつゝある統一戰線問題に就て瞥見しやうと思ふ。一九二七年に入つて一層喧しくなつた此の問題を述べるには、どうしても一應從來の經緯を顧みねばならぬ。

一九二一年、二者の對立を生じてから、CGTUは機會ある毎に戰線の統一に努力した。一九二二年パリに於けるCGTの組合大會に於て、この問題に對するCGTの態度を決する事になつたが當時ジユウオーの勢力强く、合同は直ちに否決された。彼はCGTUが復歸する以外には合同なしとした。當時、アナルコ・サンヂカリストがCGTUの組合員を煽動して、下よりの統一、を實現せんとしたが、之は第三のCGTを作らんとする意

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

圓によるもので、失敗に歸した。CGTにあつても、下よりの統一を提唱したが、その心はCGTUがCGTよりも優勢なりし爲め、CGTUの地方組合員を自派に復歸せしめ、優越を恢復せんとするにあり、主にパリ・オルレアン鐵道の勞働者に試みられたが失敗した。CGTはかかる事をし乍ら、CGTUよりの統一提唱には常に反對し同じ事を繰り返しつゝ一九二五年に及んだ。

一九二五年四月、二派の全國委員會が開かれた折、CGTUはCGTの提議、下よりの統一、を排つて自派から之を提唱した。しかも此の時はCGTに復歸しても可なりと申し込んだ。合併方法としては、二派の幹部の監督の下に先づ地方の組合が合併し、次に縣聯合が合併し、最後に全國的に合併せん、と言ふのであるがCGTは之を拒絕した。こゝでCGTの下よりの統一は尻尾を出し、CGTの眞意は、その地方的に優越な所でのみの合併である事が明かになつた。

同年八月、二派の大會が開かれた。CGTUはその豫定を變更してCGTと同じ時にしたのである。この時CGTの大會では、CGTUの代表者に演說をせしむべきか否かに就て大激論行はれ、CGTの一般組合員は下よりの統一を熱望する如くに思はれたが、ジユウオー等の幹部の壓迫奏效し、一九二二年の決議を再確認する事となつた。決議に贊成一六二七組合、反對一一八組合、棄權二三組合で通過した決議に曰く、CGTの門は廣く開かれてゐる。それにも拘らず統一の實現せざるはCGTUの責任なり、と。

この大會直後、強き威嚇にも拘らずCGT內の統一贊成組合の代表者二九名は、CGTUの代表者、ある獨立組合の代表者と共同會議を開き、地名に因んでシヤテルロール統一贊成者團を作り、機關紙ユニテを出した。CGTは之を微力なりと笑ひ、CGTUは之を相當有力のものと宣傳する事型の如し。

然るにこゝに官吏組合同盟のCGT統一問題が起つた。該組合は成員二十萬、分裂後中立を宣して二派の統一に努力したが、政府の壓迫は組合を左傾せしめ、殊に間接官吏組合は革命的分子の支配する所となつた。但し敎員全國組合の如くCGTに好意を有するものもあり、從來同盟の組合は何れにも屬せず個人としてのみ何れかに屬する自由を有したが、敎員全國組合はこの約束を破つて一九二五年十月CGTに加入し、他の諸組合にも頻りに勸誘し、その結果一九二六年十二月の大會に於て、官吏組合同盟はCGT加入に決した。時に贊成四三二票、反對二二六票、棄權五五票、缺席五六票。少數にして破れた左翼は共にCGTに入る事となつた。ジユウオーは、革命的分子を排除せんが爲めに、加入せんとする者はCGTの原則──その中には、國際勞働局、全國經濟評議會に協力するといふ原則もある──を承認する旨を明言すべし、としたが、革命的分子はこの屈辱的明言を拒み、脫退もせず、といふ戰法をとつた。

斯く、統一問題は捗々しく行かぬので、CGTU內の步調が亂れ初めた。當時CGTU內には、統一運動を見棄つべし、といふもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、革命的活動を封ぜらるゝ如き條件を附せられても合併すべし、といふものと二つの悲觀的議論があつた。CGTUの幹部はこの二議論の克服に努力したが、かゝる狀態を見て共產黨は、改良主義的組織の中に入つて活動する事の必要を痛感し、CGTの左翼の勢力を增大せしめ、シャテルロール統一賛成者團の運動を發展せしめる事に努力した。

かくして問題は一九二七年に入つた。

一九二七年一月、CGTUの執行委員會はCGTの執行委員會に對し、鐵道勞働者組合の間に統一問題が起りつゝあるを喜び、更に全般的に組合を統一する大同盟を作る事を提議し、統一の爲めに次の五つの條件を擧げた。一、組合は職業と主義に關係なく一切の賃勞働者を包容する。二、凡ての成員は組合の集會で、批評及自由な意見發表の權利を持つ。三、主義の相違を理由として組合より除名せぬ。四、組合員は組合集會の討論に參加するに當り、その屬する黨派又は哲學的團體の名に於て爲すべきでなく、唯勞働運動に關する意見發表の自由を有する一組合員としてなす。五、組合集會の決議を忠實に守る。なほ、統一は二派の同數の代表者よりなる委員會の監督の下に、二派の凡ての組合の合併によつて實現すべき事とした。

勿論CGTは例によつてこの提議を拒絕した。しかもCGTUは例によつて之に屈せず、CGTと同じく四月に全國委員會を開き、又統一の提議をし、五十萬の全成員を擧げてCGTに加入したい、と申し込んだ。その條件として、一、意見發表及批評の自由。二、意見の相違により除名の禁止。三、組合集會の決議遵守。四、CGTUの全成員を例外なく加入せしめ、加入後遲くも二週間内に地方及全國議會議の代表者を選擧する事。五、加入の形式はCGTUの組合員票に對し、無料にてCGTの組合員票を取替へる事、を以て十分なりとした。

この提議に對し、CGTの幹部は直ちに拒絕せんと主張したが、反對する全國委員も多く、爲めに一應CGTU代表者の意見を聽取する事となつた。然し結局この提案も拒絕せられ、CGTUの成員にして、CGTに加入せんと欲する者は個別的に交涉せよ、といふ回答が與へられた。

CGTとCGTUの上からの統一の提議と拒絕がかく繰り返されてる間に、前述の鐵道勞働者の統一運動は次第に有望となつて來た。五月十八日には、二派に屬する「パリ右岸」の鐵道勞働者組合は合同會議を開いて、次の決議をした。決議に曰く、CGTUの勞働者のCGTに復歸したいといふ希望を次の條件を附して、容れる。一、組合規約を是認する凡ての勞働者の加入を許す。加入の形式は組合票を取替へる事を以て十分とす。二、主義の如何に拘らず組合員たるを得。加入後、主義の相違を理由として除名するを得ない。三、加入後、出來得る限り早く、各組合、各組合聯合、全國同盟等の集會を開く

以上の決議は、CGTUの執行委員會、同派の國有鐵道勞働者同盟、のみならず、CGT派の國有鐵道勞働者同盟―「パリ右岸」組合

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の加入せる—も大多數を以て是認する所となつた。

下からの統一問題はこゝ迄進んで來た。然らばその後どうなつたか。

七月二十六日からCGTの第十九回大會は、一九五三組合を代表する九百名の代議員の出席によつてパリで開かれたが、その決議の一は、生産の勞働階級に關するもので、益々改良主義的合理化を認め、二は、教育改革、三は、家内勞働、四は、社會保險、五は、高等勞働會議、六は、組合統一、七は、官吏組合の加盟承認である。組合の統一に就ては、四月の全國委員會の決議を確認し、次の四項を再說した。一、組合統一は各加盟組合に於てのみ達成し得。二、統一を達成せんとする勞働者はその組織するCGT加盟組合並に職業團體を地方的同業組合、及CGT各縣支部に加盟せしむ可き事。三、統一を達成するにはCGT總會の決議、CGT、聯合及各組合の規約を條件とすべき事。四、勞働組合の各種の活動に對し、政黨又は外部の集團の干涉を受けざる事。この大會は、ジュウオーを主事に、ミリオン、及ラビエールを副主事に、ルノアールを常任幹事に、デュボンを會計に選擧した。

一方、CGTUも九月十九日より第四回大會をボルドウに開いた。組合統一問題に關する部分のみを見よう。モンムウソーは鐵道組合の統一問題の經過を報告して曰く、鐵道勞働者の統一はCGTUにとつて大なる讓歩を意味するも、統一を欲する立場から之を是認した。CGTの幹部は革命的分子の加入を避ける爲めに、苟くもCGTの主義と異る意見を持つ者は直ちに除名す、と規約を改正したので統一の實現は延びた。然し吾々は統一運動を放棄するを得ない。吾々は大衆に向つてCGT幹部のサボタージュを暴露せねばならぬ。執行委員會は統一運動に對する決議をし、大會の承認を求める、その實際的提案は、從來のタクテクの固執、CGTU諸組合のイデオロギー的及數的强大を圖る事、未組織勞働大衆に對し加入を勸誘する事、CGT及CGTUに屬する諸組合の共同會議を大規模に發展せしめる事。である、と。

次に討論に入つて、或者は、CGTUの幹部が鐵道組合の統一運動に充分の努力をせざりしを遺憾とし、或者は、統一の前途を悲觀してこの運動をやむべしと論じた。モンムウソーは之に答へて、失敗を當然なりとし、CGT幹部の勞資協調主義の存する限り、下よりの統一に非れば望みはない。下よりの統一とは、プロレタリアの日常問題を中心として大衆を集める事である。CGTの幹部は日常鬪爭を欲せず、從て大衆は之を見棄てるであらう。何となれば大衆には本能的の鬪爭心があるから。吾々はこの鬪爭の效果を依然として疑はぬ。今や日常鬪爭のプログラムを作るべき時だ、と言つた。大會に於てこの統一問題は、帝國主義的戰爭反對、支那革命支持、ロシア支持、組織改造—組合よりサンヂカリスト的傳統を排除せんとする案—の諸案と共に委員附託となつた。

統一問題に關する委員會の報告は、ラムボ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ールによつてなされた。曰く、余は個人としては執行委員會の報告を批評した。然し大會は、執行委員會の原案を贊成可決せん事を望む、と。票決の結果、決議案は、サンヂカリスト同盟の者が二三の保留をなし、十人の棄權あつた外は全部の贊成を得た。

組織改造案の委員會の報告も、大なる反對があつたが十人の棄權を除き可決された。役員選擧にあたつても、一人の反對、九人の棄權を除き他の全部の賛成により、モンムウソー、ラカモン、デュデリウー、ペラル、アリス・ブリセ等を執行委員に選擧した。

大會で常に反對するサンヂカリスト同盟はサンヂカリスト的傾向の強い人々で、中央集會に反對し、CGTUは共産黨に對し獨立を保たざる可からずとする人々である。その中心人物のシャンペランは、前共産黨員で、ヴイ・ウーヴリエール及ユマニテの編輯員たりし事あり、彼は、モンムウソーが過去一年に於てCGTUの勢力は增大せりと言へるは噓だと大會で叫んでゐる。

要するに國内の統一問題は進展するが如くにして進展しない。しかも二派各々その内部に爆彈を抱いてるやうな狀態である。CGTの幹部が、一部組合の加入を見、右眼を以て笑ふとも左眼によつて泣かねばならぬ如くCGTUの幹部も、そのタテマヘば左眼の笑ひによつて諦る一方には右眼によつて泣かねばならぬ弱味なきに非ずである。

ファショ獨裁下のイタリー

秋笹正之輔

一、イタリーの國際的地位

現下のイタリーに於ては、依然として鐵の如きファショの獨裁が行はれてゐる。このファショ政府の政策によつて、イタリー帝國主義は極めて好戰的な態度をもつてヨーロッパの政治舞台に登場し來つた。これがイタリーの國際政局に於ける地位も決定する。刻下の國際政局、就中ヨーロッパの政局は反サヴエート戰爭の危機の急迫によつて特徴付けられてゐる。そこにこそ、ファシズム・イタリーの「偉大」なる役割が生れるのだ。

現今の尖鋭化せる階級對立の段階に於てはブルヂョア政府による戰爭遂行は、勞働大衆の反抗運動に對するファショ的彈壓並びに戰時大衆動員の爲めのファショ的デマゴーグなくしては全く不可能である。さらに、國際ブルヂョアジーは、戰爭の終結的段階に不可避的現象として現れる政治的經濟的、、並びにそれに隨伴するプロレタリア××を克服せんがため、ファシズム運動を、最有力の反革命手段として、意識的計劃的に用意してゐる。斯くの如くにして、ファシズム、從つて、ファショの祖國イタリーは、國際ブルヂョア反

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

動の急先鋒として、世界政治の前面に現れて來たのである。

だが、廣汎なる小ブルヂョア諸層を踏臺にして、沒落に瀕した、金融資本の獨裁を維持し、更に確保せんとするファシズムの反革命は、有產者社會の矛盾をその、、、、、、に於て、、、にまた全體性的に解決し得ない。ムッソリーニ治下のイタリーに於ては、ファショそのもの丶内部に於ける矛盾と階級相互間の矛盾とが急速に激成されつゝある。このイタリーに於けるファショ政治の矛盾は國內的尺度に於ては寸分たりとも緩和されえない。さればこそ、ファショ政府の對外方針は、ガムシヤラなる帝國主義的侵略政策として、はた、極端なる反サヴエート政策として現れるのである。

かくて、國際反動のヘゲモニーを握るイギリス保守黨政府と國際ファシズム運動の樞軸をなすムッソリーニ政府との慇懃なる結合が行はれ、此處に、反サヴエート聯合政策が用意された。イタリーはイギリス帝國主義の後援と協力により、バルカン並びにバルチック地方に、着々、反サヴエート政策の步武を進めてゐる。フインランド、エストニヤ、リトワニヤ、ポーランド、ルーマニヤ、ハンガリーには、すでにファショ獨裁が確立されてゐるか、或はファショ的クーデターの危機が迫つてゐる。サヴエート聯邦に隣接する一帶の諸國は、イタリーの政治的指導とイギリスの總括的指揮の下に、反サヴエート聯盟に結成されてゐる。國粹主義、純イタリー主義の旗の下に生長したファシズムは、帝國主義ブルヂョアジーの國際的反動政策への進出に隨伴して、狹隘なる國粹主義の限界を越えて、反サヴエート、反プロレタリア世界聯盟の方向に進みつゝある。

二、ファショ治下のイタリー

ファショ運動は、政權獲得前期には、或る程度まではブルヂョア及び大地主の庇護の下に生長したとは云へ、廣汎なる中間諸層のヘゲモニーの下に於ける國民的大衆運動の形態を採つてゐた。然るに、ファショが政權を獲得するや、ファショは大衆黨としての役割を喪失し、單なるデマゴーグ並びに暴力の遂行の機關となり下り、ただ嚴格なる最高幹部の獨裁、ムッソリーニ政府の組織のみが絕對的支配者として存在した。然も、この政府は、當來約束し來れるファショの綱領政策を實現することなく、また、中間諸層の利益を代表するものでもなく、大工業家、大銀行家の經濟的寡頭政治に安全なる自由を與へ、全勞働人民の絕大なる犧牲の下に、戰爭及その後の恐慌によつて破壞された資本主義經濟の再建、さらに引きつゞいては、資本安定を確保する徹底的搾取の機械となり勞働者階級の階級組織を全く解體し、全人民大衆の自由をすべて褫奪する絕對的武力獨裁の機構に轉化した。

かくて、全人民大衆のファショ並びにムッソリーニに對する憎惡は全イタリーに焰の如く渦卷いてゐる。だが、全人民は政治批判の自由、團結の自由のすべてを剝奪されてゐる。それ故に、全人民の組織されざる反抗は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

個人的テラーとして到る處に發現する。昨年中にムッソリニーは三回の暗殺に怯かされた。

昨年十二月、ムッソリニーは遂にかのメッテルニヒ以上の思切つた彈壓法令を議會に上程した。而して、之に反對せる反對黨の全代議員百二十七名を强力によつて議會より放逐し、この彈壓法令を決定した。從つて、今やイタリーに於ては議會はファショの單なる委員會に外ならない。この彈壓令の一節に曰く、(1)現政府に反對する一切の出版物發行を無期限に禁止する。(2)ファシスト黨に反對する凡ての政黨、集合、結社等を解散する。(3)首相に危害を加へたるものは死刑に處す。

印度は何處へ行く

——民族解放運動の新段階——

上村正夫

一、英國の對印度政策の轉向

東印度會社支配の時代について、十八世紀末よりとられた英國の印度に對する政策は、市場及び農業植民地としての搾取であつた。マルクスは之を評して『英國は之れ迄、復活の徴候を少しも示すことなしに、印度の社會制度の全段階を破壞してしまつた』と云つた。それは、印度の手工業を組織的に破壞し、從つてまた、彼の封建制度の下層建築たる、小さな自給的、地方的集團内に於ける小農と手工業との結合の上に立つ村落制度を根底からくつがえした。しかも印度に於ける資本家的生産の發展は、英國の强權によつて絶對に禁止された。建設なしの破壞。英本國の近代工業發展のための一要因として遂行された跛行のブルジョア革命。手工業を奪はれた過剰人口の農業への流入——近代的工業の發展を阻止されてゐるがための——英國工業の獨占へ發展のための、意識的な印度工業に對する阻害政策、從つて印度の極端なる窮乏化、之等はすべて、在來の英國の對印度政策が、本國工業資本主義のために、印度を農業植民地として從屬せしめることにあつたことを物語つてゐる。

だが、かゝる工業資本主義的植民地政策は、工業資本主義自體の帝國主義への發展によつて變更されざるを得ない。資本主義の大規模獨占工業への發展、鐵道、機械等々の新たなる地方への輸出、かくして、近代的工業は、本國の支配下にある低廉にして無防禦な勞働者の搾取の上に容赦なくのびて行く。それは莫大な利子、利潤を本國の金融資本家に齎すから。

斯様にして、英國の對印度植民地政策は、世界大戰による本國軍事工業以外の工業の停頓に强く作用されて、世界大戰を一轉期とし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、急速に、工業資本主義的植民地政策より、帝國主義的植民地政策へと轉向した。莫大なる資本輸出、防禦なき低廉なる印度勞働者の極度の搾取、英帝國主義の全體的發展のための世界政策の一要因としての印度の工業化――それは莫大な利潤をイギリス金融資本に約束する――之れが新たなる金融資本の對印度植民地政策である

次の數字はこの事實を雄辯に物語る。

英國の對印度資本輸出の激增

一九一九年	一・四（單位百萬磅）
一九二一年	二九・五
一九二二年	三六・一

綿絲紡績業の發展

	錘數（千單位）	從業員數（千單位）	木綿消費料（百萬ダース單位）
一九〇〇年	四九四五	一六一	五・一
一九二三年	七九二八	三四七	七・五
一九二四年	八三一三	三五六	

印度工業委員會は

一、工業の發達に對する政府の援助

二、農業方法の近代化

三、初等教育の普及（一九一八年）

を主張し、英帝國の政策が此の方向に向つてゐることを物語つてゐる。

二、民族主義運動の發展過程

英帝國の前述の如き、政策の轉向は、だが、印度を解放するものではない。それは、工業資本主義的植民地政策から帝國主義的植民地政策への轉向、從つて新たなる印度搾取の手段が採用された事以外の何物でもないから。然しながら、此の新たなる政策の採用、そこから必然に生みだされて來る、印度の生産關係の著しい變化は、不可避的に、印度の民族解放運動を質的に變更した。

工業資本家的支配の下にあつては、衰滅の外なかつた印度固有のブルジョアジーは、中間層を糾合して民族運動を指導した。從つて當時の民族運動の最も强力なる鬪爭手段は、英國商品のボイコットであり、鬪爭の目標は、印度工業の發展であつた。此の鬪爭は一九一九――一九二〇年に於て大衆的運動にまで生長し、その最高潮に達した。がそれは同時にまた、此のブルジョア的な民族運動の最後の火華でもあつた。かの、ガンデイが率ゆる數百萬人のボイコット、罷業、大示威運動の渦卷きこそは之れであつた。英帝國の强權は搖いだ。ガンデイの「非暴力主義」の宗教的扮飾にもかゝわらず、その運動は暴力的であり、物質的な力であつたから。其れ故にまた、そのスラワヂ（自治）獲得のための非協同策は革命的であつた。歴史的に若い印度の勞働者及び農民は、此の鬪爭の過程に於いて著しく成長した。彼等は、ブルジョアジーの英帝國との卑怯な妥協屈服を見た、自らを解放するためにはいま民族運動の陣中にある此の印度ブルジョアジーをも倒さねばならぬ事を自覺し始めた、勞働條件の部分的改善の要求すら揭げない民族運動に不滿を有つて來た。かゝる形勢を見て恐怖したブルジョアジーは、「非暴力主義」の教説に名を借つて、小作料の不拂は國家の最善の利益にとつて有害である、假令農民が不平を懷いて居ても相互

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の交渉と仲裁とによつて解決すべしと命令するに至つた。ブルジョアジーは、斯くして、自らを勞働者及び農民から防衞するために、甘んじて英帝國主義のパン屑を甜めるに至つたのだ。彼等は、英國金融資本の印度工業化政策に追隨して、プロレタリアの血に汚れた莫大な利潤のおこぼれを頂戴し、英帝國の武力によつて、印度の勞働者農民を抑壓するに至つた。かくて鬪爭を放棄して自ら退却したブルジョア的民族運動は、英國政府の大衆的虐殺の前に苦もなく壞滅した。

此のガンデイ主義の廢墟から、民族運動を代表するものとして、彼のスラワヂ黨が生れた。此の黨派はガンデイの消極主義を排撃して、勞働者及び農民に接近した。指導者モチラル・ネールは、大衆の組織、行動の政策を主張した。その目的とするところは、黨名の示すが如く、スラワジ(自治)の獲得にある。鬪爭手段は議事進行妨害によつて政府を無力ならしめんとする所謂『革命的議會主義』である。だが此の黨派の實法が私有財産の是認と個人的富の增殖の權利を決定してゐる事は、スラワジ派の階級的性質を曝露したものである。タータ補助金問題で彼等が勞働者の利益を裏切り、英帝國との『名譽ある協同』に沒落したのは、蓋し當然の歸結ではあつた。スラワジ黨は、革命的民族鬪爭の政黨としてではなく、ブルジョアジーの特殊な利益を代表する政黨として大衆の前に馬脚を現はし、大衆から分離し、不可避的に英帝國主義の脚下に屈服した。

三、印度を解放するものは誰れか？

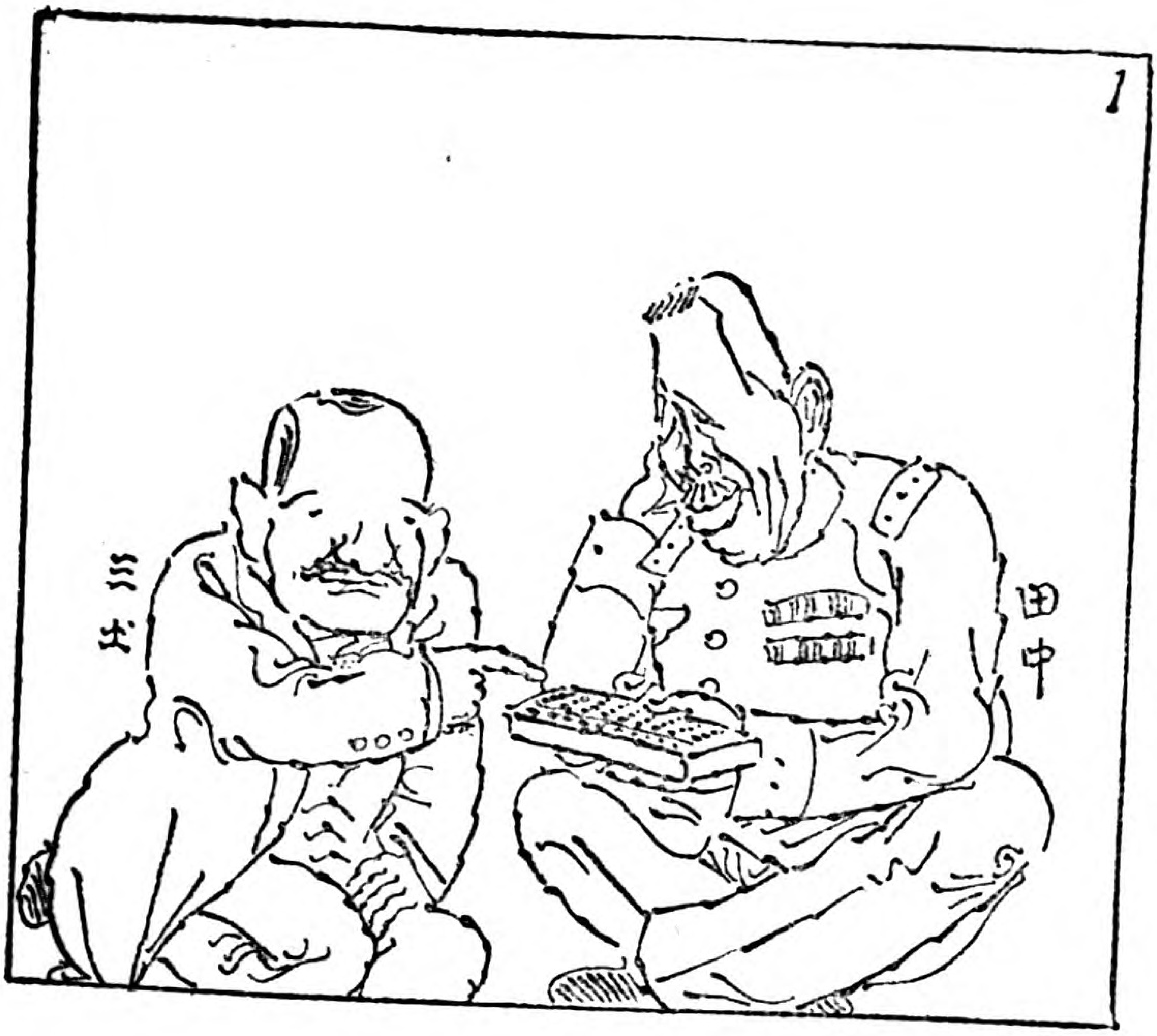
最近二三年間に於けるガンデイの英國への迎合、スラワジストのブルジョア政黨への發展は、だが同時に、急速に勞働者及び農民との階級的對立を尖鋭化し、今や勞働者階級が彼の裏切り的なブルジョアジーと分離して、眞實に英帝國主義の支配から印度を解放するための革命的民族主義運動の指導者として登場した。印度民族革命は新たなる段階に入つた。紡績(四萬五千)道、鐵(十萬九千)、金屬十一萬)、鑛山、郵便電信(三萬九千)、海員(七萬五千)の各勞働組合は全從業員の五十乃至十パーセントを占め、若き印度共産黨(一九二一年創立)は印度解放の尖頭に立つてゐる。彼等こそ、、の印度、、者だ。國民的統一戰線の禍根をなした彼のヒンヅーイスラム等の宗教的對立及び人種的對立も今や此のマルクス的指導精神に從つて進む印度解放の、、、、を擔ふ勞働者階級の登場に依つて解決されんとしてゐる。在來の懷古的な村落再建の代りに、農業革命(アグラールレボルーチオン)が全印度を席捲せんとしてゐる。打倒英帝國主義は勞働者階級が、農業革命の遂行によつて農民と同盟してのみ成就される。それは國内大地主及び資本家と英帝國とに對する勞働者及農民の反帝國主義運動であり、ブルジョア民主主義革命である。全世界のプロレタリア及び被抑壓民族は印度革命を支持する。數萬人勞働者のストライキは各所に起つてゐる決定的鬪爭の日は近づく。東天は白んだ。印度がやがて、輝かしい解放の悦びにひたる日も遠くないであらう。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おらが春

岡本一平

1、三土藏相『これからの總理大臣は財政の頭が無くてはいけませんよ。この新年の休暇には少しそろばんでも稽古なさい』田中首相『いゝおらもそう思うとる。だが國家の主計は仲々面倒いのう』



2、青木『われ／＼は大分評判が悪いから軒の門松も遠慮して小さくしよう』水野『それがいゝでしよう。だが例の通り當分の辛抱ですよ。エツヘツ／＼』



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



3、民政黨員「わしの黨には總裁が三人あるから年始廻りも一しほ骨が折れるテ」



4、日數經たおそなへ餠の如き無產各派のこまかき分裂もこゝで一寸合同に風向きが變りかけたやうでもある。共同の目的の爲めに眞に搗き直す意ありや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

九大法文學部事件の眞相

原田義藏

一

前九大總長博士眞野の計劃で、博士美濃部を唯一の創立委員として、九大法文學部が開學されたのは、大正十四年四月一日であつたが、文科の一部と經濟科の博士高田などを除けば、何れも少壯の敎授揃ひで、學内行政に對しても、可なり自由で合理的なものにしやうとの理想が强かつた。

曾て心理助手に某女性採用の議が起つた時博士美濃部は總長眞野の意を承けて、稍もすれば世評に累せられる不利其他をあげて反省を求め、採否を票決に諮ふた。處が結果は美濃部の忠言を裏切つて、多數で採用に決して終つた。これは某女性の辭退で解決したが創立委員の美濃部と雖ども、此掣肘を受けることは、少壯敎授連の好まない處であつた。部内の長老敎授連に服せなかつたのはいふまでもない。多數少壯敎授連に漲つた此空氣は、實に今回の事件に對する遠因の一であつたと見ねばならぬ。

舊總長眞野が去り、新總長大工原を迎へて後、瀧高事件を經て、大正十五年京大事件の前後、九大でも社會科學研究問題に聯關し、前後二回の學生處分が行はれた。殊にその第二回目には三名の放學々生をすら出した。今回の事件は所謂思想問題とは、何等の交渉もないが、さりとて此等の事件を機緣として進展し來つて居ることを見逃す譯にはいかぬ。

學生處分當時の學生監が敎授松濤泰巖（敎育學）で、法科評議員が敎授東季彦（民法第一）であつたが、九大の慣例によると、學生處分は評議員會の決定で、當該學部の敎授會に諮ることはなかつた。然し此第一回の處分は、博士美濃部の特別な請求で、例外として一應敎授會に諮つて居た。けれども第二回の處分は、左傾敎授側の反對意想もあつたのか、敎授會には諮らないで發表された。所謂少壯敎授連の不滿は、此中にある左傾敎授連と共に甚だしく、評議員（部長代理を含む）學生監の攻擊となつたのは勿論で、今回の事件の中心人物であつた敎授木村龜二（法理學）の如き、その急先鋒であつたことはいふまでもない。

二

學生處分事件が機緣となつて、少壯敎授連の所謂合理的な學部組織運動は漸く熟して來た。敎授大島（倫理學）の學部長代理辭任をうけて、博士四宮兼之（哲學）を推し部長代理としたが、學生監の松濤も評議員の東も共に辭任し、東の後には當の敎授木村が評議員となつた。これが實に昭和元年の十二月で、此時から九大法文學部は、大島（倫理）片山（獨文）春日（國文）長（西洋史）松濤（敎育學）東（民法）等の長老派と、木村（法理）大澤（國際公法）山之内（憲法）等の少壯派とが分野を作り、多くの敎官が此何れにか屬する形勢となつた。さうして敎授木村はトン／＼拍子に評議員豫算委員其他の要職を兼ぬるに至つた。第五十三帝國議會で、敎授東季彦の養父、政友會の闘將東武が、九大敎授の山之内一郎を始め、所

岡左傾教授を俎上につられ、文相岡田に内決した。當時の議會速記錄が、如何に爭つて此等少壯教授連に讀まれたか、文相岡田が此等教授を處分する意があると傳へられた時、多數少壯教授連が所謂學部自治を高調して他の容喙を遮斷しやうと努め、學部合理化の運動と聯關して、博士美濃部の掣肘よりすら離れやうとしたことなども、有意か無意かは別問題として著しく目につくことであつた。唯博士高田の如く此等に超然たる一部の研究家のみが此圏内に入らなかつた計りであつた。

教授東と教授木村とは、外遊中既に不仲となつたといふが、然しこれは兩者の相反する性格で、双方の惡罵する如く、東が女性的の極めて惡辣な陰謀家であるとか、木村が反社會的の糺彈性に富む怪異な人物だとかいふことは第三者よりして殆ど首肯し得られない。東は溫厚な人物に於て木村に勝り、木村は鋭敏な頭腦に於て東の上にある。唯教授木村の人物が上品であり得ないために、其鋭敏な頭腦は自負心と抱合し、氣品ある紳士に留せられざるに至つたと見るべく、事は些細であるが、彼がカツフエードリンクアサヒで文科の矢田部助教授に皿を投げつけた事件の如き、彼の性格の一端と見るべく、さなきだに兩派對峙の狀態で、彼は長老連より憎まるべき位地にある。それが無遠慮に高校時代の恩師片山に楯つき、或は同僚の圖書購入に關する不正を面のあたり摘發するなど、無頓着に當り散らして居る。勿論此間木村を惡罵した投書が舞ひ込んだ事などは事實である。それが或は東の一派であつたかも知れぬ。然し博士美濃部が講師として赴任さした杉之原（民法第二）を直ちに助教授に推擧し、教授候補者とするが如きも、亦木村派の挑戰或は應戰といはねばならぬ。

三

かくして遂に三月九日の教授會に於ける木村教授不信任案となつた。此不信任案提出者は、西山、風早、佐々、東、藤澤、武藤の諸氏で、西山は提出者として、木村が教授會で暴言を弄し、同僚の名譽を毀損する等の事實を指摘したが、出席者は當の木村を合して廿六名、賛成廿三名、反對は山之內一名で大澤は棄權したと傳へられて居る。

不信任案通過の結果、木村は評議員を始め二三委員を退いたが、不信任の範圍は將來に及ばず、教授會常任委員會の地位に觸れないといふのであつた。それで木村は事實證明の意を表して居た。處が九月十四日、法科教授會で教授風早（刑法）の刑訴講師[illegible]違法であつたといふので、大澤、山之內、杉之原と共に之を攻擊して不成立に終らしめ、[illegible]妻の不信任案に對して反噬的態度をとるに至つたといふので、木村排斥は再び擡頭し、越えて十月文科の片山、春日、長、松濤其地十名、法科の東以下五名とは建白書を作つて、各教授に調印を求むるに至つた。然し教授大島が調印を拒んだので、事は一變して木村教授排斥教授會の請求となつた。

同學部の内規では、教授五名以上の請求あるときは、學部長は教授會を開くを要すとなつて居る。當時木村排斥熱は可なり熾烈で、多數を制する見込みは充分であつた。然し部長四宮は惡例を貽すといふのと不穩といふのを理由として頑强に之に應じなかつた。論難の結果、四宮も結局「教授の退職決議案を教授會に附議すべきか否かを議題として教授會開會を承諾せなければならなくなつたが、然し前日重ねて證言したにも係らず、同夜十一時に至り、文書を以て「教授會は開會せぬが穩當とするので御相談する旨」を通知した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此廃說は四宮が自己を推擧してくれた木村を擁護するためとは排斥派のいふ處で、一教授罷免の端を開けば社會科學問題の如き、關係教授が悉く罷免せられるであらうとの恐怖が所謂大學教授地位擁護論となり、學部自治の高調による他の容喙遮斷法となつたと觀察して居る者もあるが、譬へそれが全部ではないにしても、或は一部を含んで居たかも知れない。

四

排斥派は教授會開會が不可能となつたので法科の事は法科自ら解決しやうといふので、十月十二日、東、藤澤、佐々、瀧川、風早の五教授が闘將瀧川の筆になる建白書を作製し木村及び之を支持する山之內、大澤、西山、杉之原等を彈劾し、兩立し難いことを總長大工原に進言し、同時に部長四宮の不法を糺彈するに至つた。

此間懸案の同學部八講座增設其他の官制は公布され博士美濃部は事務取扱を免ぜられ、博士四宮は正式に法文學部長となつたが、形勢かくの如く、教授會は開會することが出來ない。然も學部自治は極端に高調せられる。それで總長大工原はその解決を四宮に迫るけれども四宮は兩派に謀つて融和を試みるでもなく、手を拱いて荏苒日を送るのみで、事件は何等の意味もない行き詰りの狀態となつて終つた。

かゝる間に事は早くも外間に洩れて、各新聞は主として排斥者側の言分を公表するので木村、大澤、西山、山之內、杉之原は連署して聲明書を發表し、所謂內訌は双方より曝露せられるに至つた。博士高田保馬等、所謂經濟科の教官を中心とした、第三者の調停といふのが現はれたのは此頃であつた。然し排斥派の人々は、之を以て木村派の依賴によるものと解して居た。從つて之に耳を借さない許りか、排斥派と關係淺からぬ文科教授連も亦顧みない。

博士高田が、萬策盡きたとは言はないが、事實に於て施すべき道はないと總長大工原に進言したと傳へられたのは、事件發生後一ケ月餘を過ぎた十一月十三四日頃であつた。此時總長大工原は既に意を決して事務官大岡を上京せしめて居た。

大岡の上京と共に五教官休職は東京より洩れ、瀧川の四宮攻擊意見の發表となり、更に總長の上京となつて十一月二十二日午後三時兩成敗と解せられた、排斥派の教授東季彥、瀧川政次郎、風早八十二、被排斥派の教授木村龜二、山之內一郞、助教授杉之原舜一の六教官の休職は發表された。

五

此間總長大工原に解決を迫られて、徒らに教授地位不可侵の原則確立に努め、學部自治に努力したことは人後に落ちなかつたと稱して居る學部長四宮は、すべての責任と怨嗟とを自ら背負はなければならなくなつた。一時傳へられた彼の教授辭職說も、多數が承認せぬといふ名のもとにお流れとなり、然も學部長圓滿辭職も認められず、教授會の正式開會も未だに出來ない羽目に陷つて、全く八方塞りの狀態となつて居る。彼に公平がなく、融和の努力と手腕のなかつたことも、犧牲者を多くしたと認められ、嚢に九大醫院事件に直面した、當時の醫學部長博士高山正雄の足許にもよれぬと評せられて居るが、世論は案外冷淡で寧ろ總長大工原の英斷を多とするが如きは、果して何を語るものか。

吾々は九大學內に於てすら、法文學部に人物なしと嘆ぜられるのを耳にして、頗る之を遺憾とするものである。（二、一一、二八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大津事變

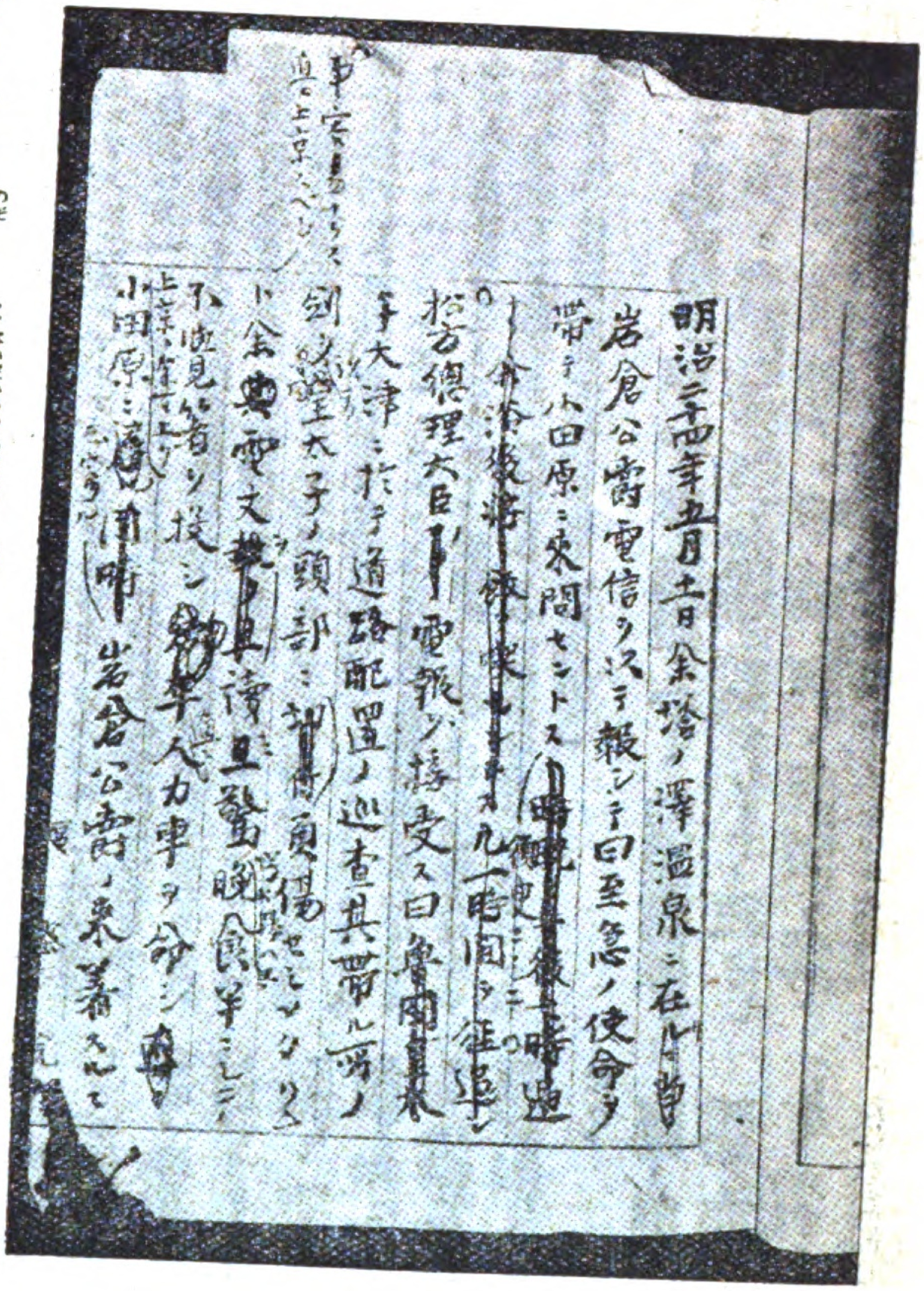
伊藤博文手記

此一篇は明治廿四年五月一日本邦來遊中であつた露國皇太子（後のニコラス第二世ロマノフ王朝最後の君主）が大津に於て沿道警護の任にあつた一巡査の爲に傷けられ、日本朝野は爲に愕然色を失した。その時のことを當時貴族院議長として勢威並ぶものなかりし伊藤博文公が親ら筆を取つて記述された貴重な文獻である。この一篇は伊藤家の秘庫から發見したものである、この一篇を讀むものは當時の朝野がいかに周章せしさまを看取し得。、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。日露の風雲の急なりしは讀者の何人も思ひ浮ぶことであらう。伊藤公の親筆及松方總理大臣發の電報なぞ總て「大津事件」に關するものは伊藤公の手によりて一束とせられ、篋底に大事に纏められていた。（記者）

明治二十四年五月十一日、余、塔の澤溫泉に在り、岩倉公爵電信を以て報じて曰く、至急の使命を帶て小田原に來問せんとす、須臾にして松方總理大臣の電報を接受す。曰、大津に於て、道路警衞の巡査、其帶る所の劍を以て、露國皇太子の頭部に負傷せしめたり、容易ならず、直に上京すべしと、余、電文を讀み、驚愕に勝えず、晚食半にして不覺箸を投じ、直に人力車を命じ、上京の途に上り、小田原に立寄る。岩倉公爵の來着するに會す。相伴て小田原を發す、蓋し即刻上京すべきの內旨を拜す、車を飛して國府津停車場に至り、最終汽車に乘し、翌十二日午前一時、新橋に着す。宮廷より用意の馬車にて、公爵と共に宮中に伺候す、既に御寢の趣を聞き、宮內大臣に面會す。侍從を以て、御寢所に伺候すべきの命あり、御牀の下に拜伏し、聖旨を伺ひ、直に退出。內閣大臣に面會、事情を聞く、時已に三時過なり。

西鄕、青木兩大臣は、十一日夜汽車にて、已に西京に向へり。詔勅の發表は、十一日の事と見え、余は十二日の朝、新聞紙の掲出しを、車中より一見して、之を知れり。

十二日午前六時、御發輦奉送の爲め、新橋停車場に至り、龍車將に


明治二十四年五月十一日余塔ノ澤溫泉ニ在ル時
岩倉公爵電信ヲ以テ報シテ曰至急ノ使命ヲ
帶テ小田原ニ來問セントス
松方總理大臣ヨリ電報ヲ接受ス曰
午大津ニ於テ通路配置ノ巡査其帶ル所ノ
劍ヲ以テ皇太子ノ頭部ニ
岩倉公爵ノ來着スルヲ

發せんとするに臨み、宮內大臣勅命を傳へ、次便の汽車にて、西京に陪從せよとの事なり。

奉送の各大臣及び黑田伯余等は、松方大臣の案內に依り、永田町の官邸に至り、朝餐の饗應を受けたり、相會するもの、山田、後藤、陸奧、及び主人の四大臣、黑田及び余なり。席上、大津犯人處刑の論起る、山田伯曰く、裁判官中處刑の事に付兩說あり、即ち之を罰するに、皇室罪を以て擬すると、尋常謀殺を以てするとなり。余は今般の事變は、實に重大にして、結局豫め逆覩すべからざるものあるを以て、其の重きを取らざる可からず。萬一異說を百出し、處罰に困難なるに際せば、止を得ず戒嚴令を發するも可なり。國家の危險を防禦する爲めには、非常の處置も、亦た施さざるを得ざる旨を述ぶ、各大臣も別に異論あるを聞かず、山田伯急に裁判官等を呼寄せ、其の所見を聞き、且つ其の意を陳述すべしと。

余は黑田伯を促して、西京に同行せんことを勸む、伯も之を諾し、直ちに歸去旅裝を用意せんことを約せり。

余は宮中に伺候し、皇后陛下に謁し、西京への御用を伺ひ、退出して帝國ホテルに立寄り、預け置きたる荷物を携帯し、將に發せんとするに臨み、陸奧來訪して曰く、今朝松方邸にて談合の末、裁判官を呼出したるに、異論多し、暫時發途延引せば奈何と、余應へて曰く、發途を延引するは能はざる所、此際廟堂確乎不拔の定見を斷行すべきの意を以てす。而して余は末松に立寄り、一言を殘して去らんとす、後

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

陸奥外務大臣來訪せり、曰く、裁判の事困難なれば、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、せりと爲すこと容易ならん、露國に於ては、往々是等の處置あるにあらずやと、余曰く是れ決して爲すべきことに非ず、苟も國家主權の存する、豈かくの如き無法の處置を容さんや、人に向て語るも愧づべしと、云つて別れ、直に黒田伯を三田邸に訪ひ、同行品川停車場に至り、十一時の汽車に發す。

十三日午前六時西京に着し、中村樓に投宿し、喫飯後、黒田伯同伴、露太子旅館を訪問し、露國公使に面會し、遭難の不幸に際會せられし事の遺憾に堪ざる旨を陳す、公使余等兩人の來問懇篤を謝し、且痛く日本政府の安全を保證しながら、其の不注意より、異常の事變を出來せし事を批難せり、また青木、山縣、山田に照會又は應答せし事を列陳せり。

暫時對話の後、旅館を辭し、行在所に伺候し拜謁す、龍駕は、前夜、即ち十二日午後九時半に、西京に御着輦、七條停車場より直ちに露太子を其旅館に御尋問の豫定なりしも、聞く所に據れば、露公使聖駕を、七條停車場に奉迎、拜謁を乞ひ、皇太子病床に在療養中、夜半聖駕の親臨を迎送するは、醫師の甚だ懸念する所なるを以て、明日午前に親臨を辱ふせんことを陳奏したるに依り、同夜の御尋問は、延引仰せ出されし趣なり。

余等、參朝間なく、行在所に御發輦、露太子旅館に御尋問在らせらる、太子御對話等は、當時新聞に記載する所と、大同小異なり、余等は行在所に在て、御歸輦を待つ、十一時半頃御歸輦あらせらる、接待員三宮義胤行在所に來り參報して曰く、露太子本日京地を去り、將に神戸碇泊の軍艦に歸らんとす、露公使は急に、青木子に面會を求むと、青木子曰く、其事は余も既に之を聞く、旅館の形勢は、露人等恰も敵の國境中に在るの心地なり、我巡査は勿論、兵隊の警護を見るも、其の銃口より何時皇太子に向て發彈するも測り難し、今朝已に露太子寢衣の儘、日本館の欄干に倚るを見て、侍從の武官、皇太子を擁抱して室內に引入れたり、如斯の形勢なるを以て、皇太子旅館の近邊にて、短銃一發の聲を聞くも、其國旗を卸して、退去せざるを得ずと、露公使の語る所なりと、青木子入つて御事情を奏聞す、須臾にして、青木子出で來て、余に聖諭を告て曰く、之を東京に誘招せずして、此地を去らしむるは、容易ならず、如かず先づ伊藤をして露公使に面し、皇太子を此地に留めしめんことを試むる可しとの聖諭なりと、余應て曰く、聖諭若し皇太子を強て此地に留め、然る後、東京に誘引せんとの叡慮にて、其の安全を保證することの委任を蒙らば、余は必生の力を盡して之を試むべしと雖、此事甚だ重大なり、然れば、余足下と共に先づ旅館を訪問し、公使に面會し、其の事情に依り、臨機の處置に出る

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の外なしと云て靑木子と同伴、魯太子の旅館に馳せ、魯公使に面會を求む。玄關にて倉卒の際、靑木氏他室へ入る、余獨り公使と面會し、太子神戶へ去らんとするは如何の事情なるやを問ふ、公使曰く、本國よりの電音に接す、皇太子をして、其の安全を得せしむる爲めに、速に神戶碇泊の軍艦に避けしむ可しとの命令なりと、實は魯皇后非常に皇太子の身上を憂慮し、已に曩に太子の印度に在るに當り、英人の新聞に、印度人等皇太子に不快の念を懷抱するもの多く、或は禍害を加へんとするものありとの事を掲載したるを以て、皇后は中路より、皇太子に囘轅せしめんと欲せし程のことあり、圖らざりき、日本に於て、如斯の兇變に遭遇し、皇后の宸憂一方ならず、故に此の嚴命を寸時も、等閑に附する能はず、皇太子は、此の電音に接せしにも拘らず、是非東京に到り、日本皇帝に謁すべしと主張せらるれども、本官等本國の命令を重んじて、之を聽く能はずと、談話中靑木子も室內に入り來り、三人談話中、公使曰く、冀くは日本天皇陛下、魯太子を天皇の親子と思召され、其の羽翼の中に入れて、神戶港迄御連れ越しあらば、無上の恩澤なりと、涙を揮て訖れり、余應へて曰く、好し、然らば逐一に閣下の談話を奏聞すべし、我皇上陛下の至仁なる、固より閣下の請を容させらるべしと信ず、と云て靑木子と共に、去て行在所に歸り、其顚末を奏聞す。

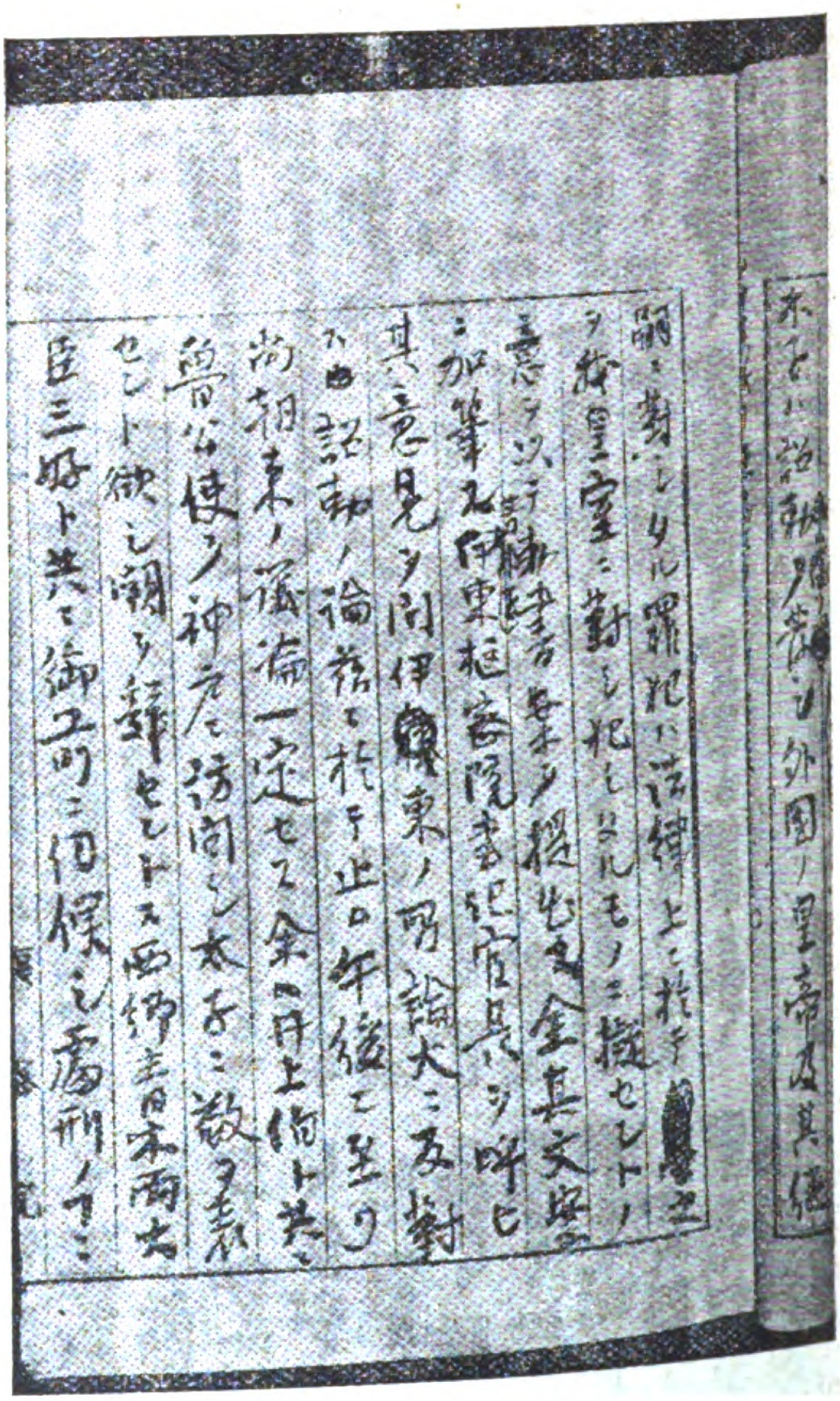
同日午後四時御出門、魯太子の旅館を問はせられ、御同車にて七條停車場に至らせられ、四時三十分の特發汽車にて、神戶港に魯太子及びグリーキ親王を御同伴あらせらる、三宮停車場に着御、同所より御同馬車にて御用邸に入らせられ、同所にて暫時御休憩、御談話あり、余等陛下の側に侍して、初て魯太子に謁す、既にして海軍より、端船の用意整ひたるを報じ、波戶場迄御見送りあらせられ、午後六時の汽車にて行在所に還幸あらせらる。

十四日午前十時參朝、西鄕、靑木、土方三大臣、黑田伯、及び余も亦候所に列す、處刑の論及び滋賀縣知事警部長等進退の評議あり、井上伯東京より內閣の意を受けて來る、三好檢事長も裁判起訴の命を奉じ來る。

魯帝及魯皇后よりの電報達す。

此間東京政府と行在所との事變に就ての往復は、一切余等與り知らず。

十五日午前十時參朝、列座の人員は前日に同じ、但し井上伯、野村子及び三好檢事長も參會す、前日來處刑の論あり、何れも皇室罪に擬するは異議なし、三好檢事は、東京政府は各大臣大に盡力せられ、皇室罪を以て罰せんことを主張せらるれども、大審院判事中異議をさし挾むもの多く、謀殺未遂罪にあらざれば、或は擱り離きを說く、宥



木子は詔勅を發し、外國の皇帝及び其の繼嗣に對したる罪犯は、法律上に於て、之を我皇室に對し犯したるものに擬せんとの意を以て、勅書案を提出す、余其の文案に加筆す、青木子伊東樞密院書記官長を呼び、其の意見を問ふ、伊東の所論大に反對す、詔勅の論茲に於て止む、其後に至り、尙朝來の議論一定せず、余は井上伯と共に、魯公使を神戸に訪問し、太子に敬を表せんと欲し、闕を辭せんとす、西鄕、青木兩大臣、三好と共に御前に伺候し、處刑のことに付、東京及び行在所にての論旨の在る所を襲聞せんと云ふ、同時に余等は時刻切迫せるを以て退出せり。

木屋町吉田屋に立寄り、暫時休憩の後、六時五十分の汽車にて、井上伯同伴七條停車場を發し、九時半頃神戸に着、諏訪山常盤樓に止宿し、接待掛三宮義胤氏に托し、露公使へ面會を乞ふこと依賴せり、翌十六日午前なれば、都合克き趣を回報せり。

十六日午前、青木大臣來港の電音に接し、爲めに魯公使を訪問することを延引せり。青木子は午前十時頃來港、余等の旅宿常盤樓に來り、魯公使より面會を求め來れるに依り、尋問せんと欲す、願くは余等兩人先づ面會したる後に、青木自ら尋問せんとの事なりしも、余等は公務に關係あるにあらざるを以て、之を避け、午後に尋問せんことを陳し、青木子は直に魯公使を訪問の爲、余等の旅館を辭せり、正午頃、青木再び旅館に來り、魯政府より公使に訓示したる電報の英譯を示せり。

余等青木子に問て曰く、魯政府今般の事變には、我に向て要求する

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所なしとの事なれば、我犯人の處分に於ても、喙を容るることなく、彼れ滿足するの意なる乎と、青木子曰く、犯人處罰は、死刑にあらざれば、到底彼の承服する所にあらずと、余等曰く、然らば現に擬律の事に就ては、東京に於て異議紛々、奈何の局を了するや、豫め測るべからざるに、魯政府現に要求するところなくして、暗に處刑上に求む所あるの意なりとせば、政府は萬一法律論の變遷するに際せば、中に彷徨し、國家をして容易ならざる困難の地位に立たしめざるを得ざるべし。若し今手强く魯公使に談判し、其の意嚮を開糾し、彼れ强て、、、、、、、、、、處刑せられんことを要求するとならば、公然書面にて照會せざることを得ざるべし、果して如斯の意氣込なるや、豫め探窮せざることを得ざるべし、然らざれば、再び困難に際會するなきを保し難きに非ずやと、青木子此說を是認し、然らば今一應公使に面會して、之を確むべしとて、再應魯公使を訪問する爲め、辭し去りたり、凡そ一時間も經過したる頃、一書を携帶し來り、余等に示せり、其書の趣意は、罪の性質に依り、罰せらるべきものなり云々なりしと記憶せり、青木は余等に魯公使と談判の顛末は語らず、余等其の曖昧なるに疑惑せり、唯だ此書以外は、彼れ與する能はずと云て、直に汽車の時刻切迫なるを以て立去れり。

余は井上伯同伴、午後二時過ぎ魯公使を其旅館に訪ふ、榎本子先づ座に在り、子暫時にして辭し去る、余等公使と對話、皇太子病所經過の模樣如何を尋ぬ、公使曰く、漸時快愈の趣なれども、未だ繃帶を取換ざるを以て、明日取換ゆる筈なりと、且つ日本政府の皇太子に對する甚だ輕疎なるを痛談し、就中其の安全を保證したることより、太子自己の指揮に屬する軍艦八艘を率ゐ來るに就ては、海路各港に寄港することの豫め許諾を得んことを、外務に直話請求せし所、兩三日を經、書記官を以て、皇太子乘組艦の外、一艘を隨伴するを許すも、他艦は之を隨航することを許さずとのことなりき、然るに八艘の軍艦は、皇太子の指揮するものにして、水師提督も其命に從はざるを得ず、之を如何ぞ二艦に制限すると云は、恰も二人に隨意旅行を許し、他は之を禁ずと云が如し、苟も魯國皇太子として待遇せられば、如斯回答なかるべし、若し日本政府不承知とならば、砲擊せらるるの外なし、萬國決して、箇樣なる不敬のことなかるべしと、書記官に返答せり、然るに數日を經て、皇太子引率せらるる軍艦は、各港に入港するも妨なし、前日の回答は書記官の誤傳なりとの事を報じ來たり、夫れ如斯、政府の魯太子を待遇する、、、、の來遊を待つに異ならず、若し魯國皇太子を、日本に遊歷せしむるに於て、微行の體を用ふることを得ば、或は今般の事變の如きに、遭遇せざりしならん、然れども、魯帝は其の皇太子をして、敬意を日本皇帝陛下に表せ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しめん爲めに、即ち皇太子の許諾を以て、來遊せしめられたり等の説話を聞けり、余等は此度の如き事變の出來せし事の、遺憾に勝へざる趣を述べて別れを告げ、再び諏訪山旅館に立寄る、恰も好し、榎本子來訪するに會す、子午後四時を以て、皇太子を其の軍艦に訪問するの約あり、余等子と試みに所刑の事頗る困難なるを談す、子曰く、本日時機を得て、公使と私に之を談す可しと、子は直ちに去て軍艦を問ひ、再び余等を旅店に訪ふ、子曰く、試みに日本の刑法論を提出して、或は謀殺未遂を以て、裁判官の擬律するなきを保し難し、若すれば其刑は終身懲役に止まるべし、公使忽ち氣色を變じ、終身懲役の刑を以て擬す、余は兩國の間、何等の大事の出來すべきを保せずと、子之を慰諭して、公談にあらず、怒氣を含む勿れと云て立ち去りたりと、如斯の事情なるを以て、子の見る所も亦た死刑にあらざれば、到底此事變の結局を滿足に了すること難かるべしとの意なりしなり。

（公の手記終り）

各大官間の公私電報

（事變突發と共に、朝野は愕然として色を失ひ、京都、大津、東京間は櫛の齒を引く如き電報の鈴のけたたましい幾日かを送つた。其間に於て、多少の史料ともなる可き數通を摘記する）

（一）　滋賀縣知事發、宮內大臣宛、（十一日午後五時四十分）

露國皇太子殿下、縣廳より人力車にて、馬場停車場三時五十分發、京都御着、顔色御變りなく、御歩行ながら、侍從の者に御話にて、馬車に召されたり、

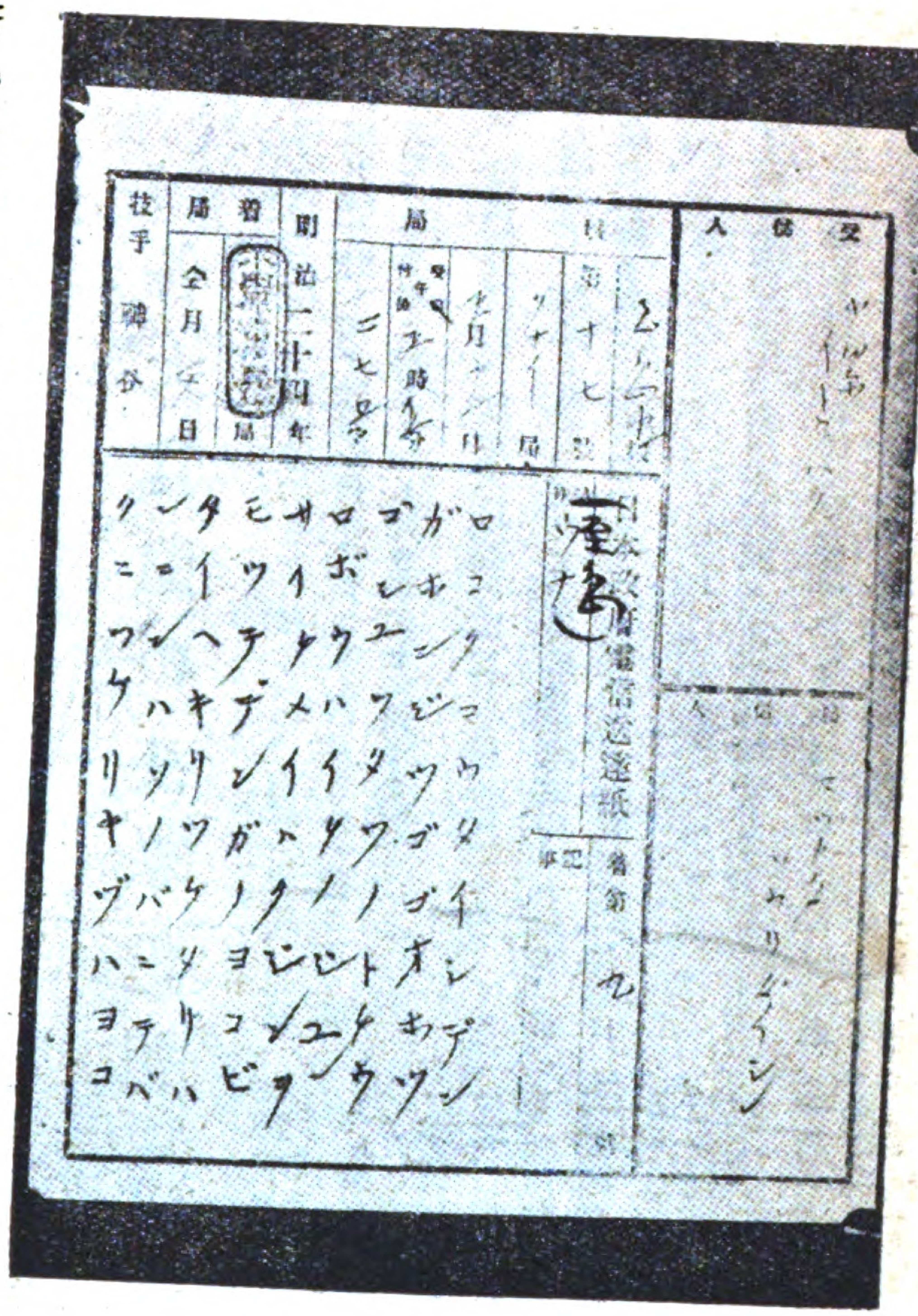
（二）　滋賀縣知事發、宮內大臣宛（午後八時四十分）

兇行者津田三藏を切付たるは、御先導警部なる旨電報致し置しが、右は警部に非ずして、露國皇太子殿下の人力車夫が、兇行者を引倒したる際、取落せし刀にて、他の車夫が切付たるものにつき正誤す、

（三）　京都にて川上中將發、宮內大臣宛（十二日午前一時）

露國皇太子殿下、本日八時京都を人力車にて御發し、大津所々御巡覽の末、滋賀縣廳にて御晝餐、午後二時前、縣廳を發し、纔かに六七町なる、大津京町御通行の際、右側にある途上警衛の巡査、津田三藏なる者、突然抜刀、皇太子へ切掛け、帽子を透し、右の鬢の上部を、後ろより前へかけ、二ケ所の疵なり、察するに一ト太刀にて切れしものなり、暫く路傍の商店にて、出血丈けを留め、繃帶を纏ひたる上、靜かに縣廳へ引き戻り、暫らく御休憩、京都大阪等の醫者へ電報を發したり、夫れより馬場停車場より、汽車にて京都へ着、五時十分頃御旅館へ御歸り相成、直ちに治療に取掛りたるに、御負傷は頭蓋骨までは達せざるよし、疵口一ヶ所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



は長さ九サンチメートル、一ヶ所は七サンチメートルとの診察より、只今療治濟にて、御氣分は至つて慥かなり、狼藉者は、希臘皇族杖にて打倒したる處へ、何者か狼藉者へ重傷を負はせたり、之は只今取調中なり、右上申す、外務大臣へも御通知ありたし、

（四）　松方首相宛、大津市廳に於て、西郷內相、山田法相發

（廿六日午後六時五十五分）

兒島三好に面會せしに、裁判官に直接面會は、然るべからずとのことにつき、兩人より充分意旨を通ぜしめたり、

（五）　松方首相宛、西郷內相、山田法相發、

明日午後公判を開くに決す、此上は裁判官の意思に任すより外なし、

（五）　井上伯より齋藤へ來電

犯罪人處罰は異論多く、決行むつかしきか、若し死刑に行はれぬなれば、國家危難の地位に陷るゆゑ、陸奥の盡力此時なり、內閣更迭論起りたりと見ゆ、如何の樣子か至急報知あれ、右陸奥に通ぜよ、

（六）　井上伯へ陸奥よりの返電

犯罪人處分の件は、裁判官實地に付き取調べたるに、何分前議の通り、貫き難き傾きある趣、三好より報告ありたるに付、山田、西郷は昨日より大津へ出張し、精々盡力中なり、內閣更迭のことは、新聞紙などには散見すれども、總て御承知の兩三名の外は異狀なかるべし、

（七）　榎本宛、西公使發（六月三日午後五時露部發、四日午前十一時東京着電）

露國外務大臣は、露國政府に於て滿足せる旨を公言せり。

（八）　青木宛、西公使發（五月十七日彼得堡發）

ギールスは唯今余を訪問し、余の配慮を謝し且述べて曰く『日本國皇

當日下は、其の政府を大臣と共に、皇太子の遭難を痛惜し、皇太子に對して、深く感情を表明せられたるに因り、皇帝及皇后兩陛下は、今回の事件の成行きを以て、已に充分滿足せられたり、現に皇帝陛下は、日本に於ては、其の當に盡す可き丈けの事は、既に之を盡したるが故に、朕は此事件に關して、何等の要求を爲すに忍びざるなりと曰へり、又陛下は、威仁親王特派の事につき、余に問うて曰く、此の上更に悼惜の情を表するの證明を受く可きの必要なきが如し如何と、因て余も亦同一の思想を[illegible]

以上は其の公務上余に告げし所なり、同氏は更に余に向つて私論せし曰く、貴國は陛下は、使節を以て、不聞ならん、然しながら陛下は露帝を爲すの意あるを以て、若し使節を特派せらるる時は、陛下は當惑に止まらざるを得ざるの不便を生ぜん、況んや使節特派の目的なるや、獨り日本國政府の爲めのみならず、双方の爲めに不愉快なるに於てをや」と是を以て、余は露國政府が、使節の特派を希望せざるものと思考す。

露國に於ける輿論

西公使報告の(一)、(五月十五日發)

本月十一日當國皇太子、大津に於て狙撃の禍に遭はれ候旨電報達せし以來、今日迄、此地に於て、拙官の當國外務大臣と應接の大略、並に之に關して、當國人心感激の狀態等は、追々電信を以て、申越候へども、猶左に日記を以て、其顚末を陳へ候。

十一日晩凡十一時に、閣下より發せられたる第一の報達し、右は早く報するに如かずと存じて、直ちに其用意を爲し、外務大臣ギルス氏方へ出掛けしは、夜十二時過に有之、偖て同氏に向ひ、既に寢室に在するも、思ひ掛けなき事件報知せりとて、電文通りの趣を陳へ候處、同氏大に驚き、何を以て傷けしや、生命に御懸念なきや等、委細の問を發け候に付、是丈けの電文を得たる儘にて、御通知を受けし事なれば、御帝陛下から別には御容態へも致し難しとて、電文の寫しを示し候處、同氏之を一讀の後、手を以て額を押へ、拙者には全く雷に擊れたる心持にて、何とも云ふを得ずと、暫しありて、此事甚だ重大なれば、帝へ奏せし後に非れば、何とも御答へに及び難し、唯最早夜も深けたれば、何れ明朝ガッチナへ出張して、奏上すべし、唯怪むべきは、貴政府に於て、ファナチクに對し、我太子を保護せらるる能はざりし事なり、既に前に此徒の我在東京公使館を亂暴せし時、帝にも太子の旅行を懸念せられしより、念を推してセーウヰチ公使に問ひ遣りしに、同公使は貴政府に於て、斯る懸念には及ばずと云つて、安全を保たるるに付ては、別に不安心の事もある間敷と答へしに依

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

り、御逝去になりし次第の處、事此に及びしか、實に遺憾千萬なり、此より悪しき出來事とて、外に在るべきに非ず、なとと申て、深く感激の體に相見え候に付、拙官より、猶は明日の詔に接すべし、唯一宮中舞踏會事あり、夫は時を以て之を考ふるに、此の電信は、総報の東京に達するや否や、直に發信せしものと見ゆれば、或は舞踏の際、善く事を檢査することも得兼ねて、深手と認めたるも計られざるに依り、之を承知して後報を俟つべし、此事情をも斟酌して、御取計間に相成度と云て御尽力せしか、去るに及んで同氏より、此一件は、事情明白に分る迄は、秘密に致し呉られ度との依頼あり、此夜右の大略を電報す。

十二日、午後五時、ギルス氏を訪うて、其筋へ請聞の様子を尋ね候處、露國皇后にも極めて非常の御驚きなりしが、幸にして此時太子より直に宮廷へ贈られたる電信達し、之に據れば、左程格別のことに非ずして、氣分も随分好しとあれば、假令父母の情を慰する爲めに、輕く云ひ遣られしものと見ても、自ら大體の事を傳へられし儀なれば、先づ生命には懸念も無之と、少しく安心せられたり、唯右に思はるゝは、セーウヰチ公使及びパリヤチニスキーより、未だ何たる報なし、今少しく委細の報を得たく、且つ宮中より御沙汰も之有候故、貴下方の御意見は、何卒晝夜を問はず通じ呉れられ度し、との依頼あり
し故、わが外務大臣も此報を聞くや否や、直ちに出發せしとあれば、今頃は其地に達し居る事と存ずるに依り、今夜中には後報も達すべしと申候、拙者にも稍々安心して歸り候、此夜我、天皇陛下西京へ御出發、並に太子の御容體宜しき報達せしにより、何れも直に寫してギルス氏に送る。

十三日、官報を初め府下の諸新聞紙へ、當國皇太子、大津に於て巡査に狙撃せられ、希臘王子の防禦に由て、難を免れられたる趣見はれ、衆の驚き一方ならずして、感情甚だ悪く、就ては拙官にも甚だ殘念に存じ、ギルス氏へ面會して、拙者には猶事を秘し居たるに、本日忽ち巡査三人を添へて、布告せられたるには驚きし次第なり。

右の次第は、拙者方へは未だ通知も無之に何に據し出されしやと詰問候處、右はセーウヰチ公使及びパリヤチンスキーより申來りしにより、布達と認めしとの答に依り、然る上は余儀なき次第ながら、例令夫は布告にしても、本日の布告は、我に對して無禮甚しく存するなり、其譯は、拙者の第一に受けたる公報に、狙撃者はフアナチクとある以上は、假令巡査たりとも、其實狂人たりしには相違なきこと、全體右は全く不意に出たる不幸の出來事にして、我邦の深く此の不幸を惜み、上下一同其感情を表するの切なるも、亦事實なり。然るに今日の布告に掲載する時は、保護すべきの巡査、太子を狙撃し、之を殺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かしは全く事實の報道一致にて、皆の報道は皆な信認して、甚だ遺憾と
せざるものゝ如くに聞ゆるは、全く新聞紙の記事に依るに依り、新聞の
官報と同樣新聞紙へ、記者の報道を掲載して、當局者の動靜を報道し、和
ぐる樣、致し呉られ度候、誠に致し候、既に第一の報道にかかたる以上
は、致方なしとて、初めは關する色なかりしに依り、若し然らば、明
日は一般の休業停止くなり、人心騷擾して、拙者には本職務を盡す能
はざるの地位に陷るべければ、自然此地に滯留も叶ひがたしと迄に申
し詰たる後、漸く之に同じ、然らば直に宮内大臣へ掛合て、其筋に取
計らふべしとの約束を得候へども、猶之に掛り、出來る丈、御手間
へ、右は其筋の猶ほ一人の職者にて、我邦官民一同、痛惜の感に堪へざ
る狀態なるを陳述し置候、此日我
大皇帝陛下京都へ御着の件、併に太子の容體漸々宜き由の電報達し
て、之をギルス氏に送り、又公文の大略と、其他説明の必要ありとの
趣を申報す。

十四日、官報及傍聽新聞紙へ、昨日請求の布告載り、他の諸新聞紙
も、大抵皆な我邦のため好き方に説き成し、閣下の感情變じて復た巡
査を説かず、或は此事たる、當國無法の所爲ならんと云ひ、或は他
の外國人の教唆に出でし者ならんと云ひ、區々の評判皆な咎を我國に
歸せしむるを欲せざる者の如くなりし。

當國の政府及人民の感情を代表せるもの、…皇帝陛下官民の同情を得られ、感に堪
心痛を表し、甚だ宜しく感ぜられ、…
事を報道せらるゝ等の事甚だしに依り、此頃を幸にして、ギルス
氏へ斯掛候處、本日は同氏も大に承知して、今日の新聞紙には御滿足
なるやと問ひつゝ、堀通へ候に付、陳謝の好きを謝し、此通信を
傳へ、且特派使節の一條は、其筋を以て陛下へ傳奏なるも、何分事情差
急ぎ、猶するに暇あらざるより、此電報を以て、公文と認められ度しと
陳べ候處、右は何れも直に宮へ送るべしとの答に有之候、依りて
兩陛下の有樣を承り候に、我皇后陛下より當國皇后へ懇切たる電
信を贈られ、皇后にも直に之に答へられて甚だ御滿足なり、尤も當帝
に同樣なりし等の話有之、夫より向後太子の御旅行に付ての意向は如
何と尋ぬるに、右は此邦官たる、或は御病弱に出でし者に非ずやとの疑
問も起り居れば、何分事件の顛末及び其の詳細説明かたるに非ざれば、
決せられ難しと申し置きたりし故、拙者に於ては、唯犯罪者一人の所爲に
して、別に連累者あるに非ずと信ずれば、向後の處決して御心配に及
ぶまじくと存する趣を申陳置き候、昨夜本文の大略並に諸新聞紙の
説を電報す。

十五日、本日は御信も達せず、別にギルス氏と相見ゆるの用も無く
して、初めて此事件を草するの暇を得候處、今回の騷擾は僅に外務

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にて、當館員にも一同甚だ心配致候へども、幸にして疵も輕く、太子の身安全たる以上は、別に我邦の爲め憂ふる事も有之まじく、尤も掛官等猶此上に當國官民に對して、其の我邦に於ける禮遇の好意を失はしめざる樣、注意すべきは勿論の事に候處、唯遺憾に存ずるは、本邦より初發の電報稍々重きに失し、其内に生命には懸念なしとの一言無かりしことなり。此の一言無かりし故を以て、掛官等を初めとして、大に生命を危み、殊にギルス（外務大臣）皇帝皇后にも、之に由て初めて大に驚愕せられ、皇后には一時氣絶せられしとの評説も有之候。

目下の論は、向後太子の進退如何に有之候處、右は到底當國帝に於て、此地彼地周遊の意思打止を折衷して、之を決せらるるものとせば、此地皇后に於ては、一旦驚愕の餘、殊に二子ジョルヂ親王にも、病氣の事なれば、頻りに心配せられ、太子の急に日本を出發せらるるを切望の由に候得ば、太子彼地に於て自ら我國内の旅行を續けらるるの希望切にして、且其の隨員及セーウヰチ公使等も、前途の安全なるを確言するに非れば、神戸より直に出帆に決せらるる方近かるべしと察せられ候。

西公使報告の二（五月廿四日發）

本月十六日、外務大臣ギルス氏來訪、當國太子遭難事件に就き、掛官の盡力の勞を謝し、且つ申さるゝに、今回の事件に付、我國皇帝皇后兩陛下、共に愛情同感の情を表せらるるの證明たるには、我皇帝皇后兩陛下共に甚だ御満足にて、感謝せらるる所なり。依て特派使節の儀に付ても、我帝の仰せに、當國に於ては、出來る丈けの事は、皆既に盡されたり、早我より別に何も請求すべきことなし、然るに此上猶特派使節迄も煩はして可なるやと、就ては掛官にも既に其の必要なかるべき趣を申上置きしか、將々御派遣になれは、我帝に於ても御請けに相成る可きは勿論の事ながら、右は都合次第なれば、一先づ其意も伺ひ度と、依て掛官申すに、貴國皇帝陛下の御謝意に屆けたし、特派使節の儀も、本と我か皇帝陛下に於て、深く此の不都合の出來せしを惜まれ、十分に同感の情を表せられ、親睦の交誼を盡さるるの主意に外ならず、然るに既に盡されたる所を以て、十分に御満足なる以上は、掛官に於ても、貴意と同意なるも、今一つ伺ひ度きは、內地の情實なり、當國兩陛下にも、近々御旅行の噂さあれば、或は其邊にも關係ある事に非ずや、如何、ギルス氏曰く、內政は亦た其の關係なきに非ず、尤も日取等未だ確定せし事に非るも、使節を受けらるる時には、自ら其の都合にも關し、又此の使節たる貴國の方に於ても、別に快きことにも非るべければ、双方の便を計るの相談なりと、掛官曰

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く、談判等なり、斡旋に就ては、[illegible]の不快は、固より惜んで可き所なれども、夫れなしに最十分と認めらるる以上は、御満足遊ばすの外なしと存ずるにより、此旨は露國公爵へ申進すべしと、夫より拙官話を轉じて、今般遭遇したる不測の禍難を初め、兩殿一同より太子の我内地旅行を續けらるるを懇望する事に移り候處、ギルス氏其の障なきを謝して、右は何れ帝へ奏聞すべしと申事なりしにより、拙官然らば、右は書面に認め、追て持參更に御相談に及ぶ可しと申置て相分れ、前條の報告に着手す。

同日夕方、別紙寫の通り、我國民の所望に關せし書面を以て、ギルス氏へ出掛け、之を一讀せしめて後、拙官申すに、我國民一同より、太子の我内地旅行を續けらるるを希望するの切なるは、此に盡しあれば、別に拙者より加ふる事も之れ無く、唯だ向後途中安全の事に至ては、我政府に於ても、注意に注意を加へ、各地警衛に取締るべきは勿論なれば、決して御心配に及ばず、尤も若し此の出來事に依て、御旅行の日取に差支へを生ぜば、他所は兎も角も、東京迄は是非御出に相なり、斯く迄熱望の臣民へ無異に旅行を續けらるるの御容體を見せられ度、然る時は我帝室政府は勿論、國民一同も安心し、太子の御氣色も幾分か改るべしとの趣を縷述して、此の所望の遂ぐる樣、盡力致し呉られ度と依賴候處、ギルス氏暫らく案じて答ふるに、甚だ遺感に於けるは、[illegible]前東京公使館を襲撃せし壯士と稱する者も「サムライ」なり、[illegible]の巡査も「サムライ」たりしと云ふ、「サムライ」の數多しと聞けば、向後安全の點に於て、縣念に掛るなり、其評は、前に壯士關係の時も云云とて、前報告に陳べ置きしことを復せしにより、拙官之を辯じて、「サムライ」とは舊士族の稱號にして、此の士族は略々當國の士族に類し、我邦に於て、教育上尤も進步したる中間の族たり。故に政府の官吏も多く此より出づ、即ち拙者等も之に屬するを以て、士族全部の危む可き者に非るを知るべし、又た彼の壯士と稱する者は、唯だ衙門の惡少年無賴の集り、投石發砲等の暴行を爲すに過ぎざる者にして、決して此節遊猾の巡査と關係ある者に非ず、其皆な士族に出しは、偶然たりし趣を申聞かせしに、同氏の疑惑少しは解けし樣子なりしも、全く合點したる風にも見えずして云ふに、若し他の親王たれば格別、然し太子の事なれば、拙者より押して申上る譯にも參らざれば、兎に角貴君の疑解をも添て、帝へ申出すべし、唯だ太子去留の論は、帝と太子との間に、通信往復に因て、決せらるるものと、承知呉られ度しと、夫より當國皇后の頼りに太子の出發を希望せらるる事情を話して、國民の其間に處する困難の情態あるを知らしむるに意あるを認め候に付、然らば拙官直ちに此の懇望を、兩陛下に直接ひ致度存ずるに就

き、謁見の都合を取計らひ呉られては如何と問ひ候に、ギルス氏の答に、明日、明後日の兩日は祭祝日にて、帝にも相見らるるの暇なく、明後々日には、拙者ガッチナへ赴くに由り、其時帝へ伺ふ事と致度とて、賛成の風にも見えず候に付、之を強ひても無益と存じて、其意に任せ、唯本文の趣意は、直ちに帝へ電報し呉れらるる樣依賴致し置き、歸りに皇居へ近き一知人の方へ參り、事の次第を內話して、何とか此の所望を達せしむる工風はあるまじきやと、相談に及び候へども、知人の說に、此議の決して、他人中喙を容るべきは、唯ギルス氏一人なるに、同氏にして意見如此なれば、假令何人より申入れても、其詮なかるべしとの事なりし故、拙官も此上は致し方無しとあきらめたる次第に候、然る處其翌十七日夜十二時に至り、別紙寫の通りギルス氏より返答參り候に付、其趣は即夜電報致置候。

二十日、皇太子昨日ウラジオストックへ向け出帆せられたる趣、横濱よりの電報諸新聞紙に出づ、依てギルス氏を訪ね、太子にも愈々神戶より出發せられたる趣に見ゆれば、貴君にも御安心なるべしと伺ひしに、同氏氣の毒がりし顏付にて、拙者には唯今此報告を得し所なりとて、セーウヰチ公使、神戶より發したる電信を示し（其趣に、日本皇帝御見送り、船內にて午餐を召されし後、御別れにて、太子はウラジオストックへ出發されたり）復た之を語らずして、我帝にも今回の事件に付ては、貴君に於て、嘸ぞ不愉快なりしならん、氣の毒なりと仰せられたり等の事を傳へ、且つ不幸の出來事反て兩方の親睦を厚ふせり抔申して、拙官を慰むる風なりしに由り、拙官に於ては、太子の無事に出發せられ、且つ貴政府に於て、我邦陳情の誠實なるに滿足せらるるを見るを以て幸とする趣申置候、此夜當國太子の出發並に威仁親王特派の件御取止の電報發す、廿二日特派使節の儀に付、別紙寫し通り書簡を以てギルス氏に報す。

廿三日、ギルス氏方に於て、外交官招待の食事あり、拙官にも其の招きに預り、主人ギルス氏と談話の機會を得て、昨日の通牒を領せられしやと尋ね候處、同氏之を謝し、其趣意はお互の望む所なりとの答に有之候。

拙官の當地に於て、太子遭難事件に付、ギルス氏と問答の大略は、前述の通りに有之候、太子我邦內の旅行を續けられざりし一事、甚だ遺憾に存じ候へども、右は畢竟狙擊者の巡査たりしと、前に壯士輩の露公使館へ暴を加へしとに由り、當地の見當にては、禍測られざるの懼れあり、向後安全の一點に於て、遠く子を思はせらるる御兩親の心を落着せしむる者なかりしに之れあるべく、之を落着せしむるは、一方には太子の隨員及びセーウヰチ公使、一方にはギルス氏たりしも、此人々の責任重ければ、誰も之を負ふを欲せざりしは、ギルス

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

氏の言に由て寄る可き價に就ては、是れ[illegible]し太子の乘車へも赴かれずして、御所より直ちに出發せられたるにには、當國諸役人、及び上中等社會は之を憐み、且つ恥とする者多く、其の態に[illegible]へ逃避かれし御儀にて、[illegible]の者は、[illegible]リヤチンスキー氏の所謂たらんなどと申す者も有之候へ共、當國政府、五月十四日、海軍一般よりの祝詞に答へて、太子の無事、新に我皇室の[illegible]を思出等相開續する海軍の職内に歸られたるを知るは、唯だ幸なりと云はれし事等を以て、之を考ふるに、拙は此方より命令ありしものには相違之れあるまじく候。

當國政府に於ては、今回の事件に付、本犯者後の御處分を以て、十分に滿足せしは、拙者の認するを得る所にして、殊に我皇后陛下より、當國皇后への御陣営も、著しき結果を呈したる次第は、當國皇后に於て、伺候の人々へ、日本皇后より、御懇親、かやうくの御信を下され、誠に御親切なり、此方よりも之に應じて、万事に相往復すとの御話屡々之れあり候由にて、我皇后陛下の御名、當地の上等社會に著はれ、日本皇后陛下は、子を愛するの情深き御方なり、國皇后之に由て御親みなされしと、轉々相傳へ、此間、その事客間の流行談と相成居候、又國民一般の感覺に至ても、悪しからざるは、初め犯罪人の日本人たるを信ずるを欲せざりしを以て知るべし、その獨々日本人たりしにあらず[illegible]はニコライ帝、[illegible]を犯して、[illegible]て、遂に罪に處らしめしとも云ひ、或は太子強て其[illegible]に入られしを以て、此[illegible]に罹られし者にて、[illegible]の發す所たりし抔とも云ひ傳へ、事實に疑いざるが如くにして、大津出來事の噂さも、大抵此に留まり候。

今回の事件に付、拙者ギルス氏と數日間應接中、常に遺憾に思ひしは、本件犯罪人の資格、姓名、年齡、出所及び車夫の太子を救ひし次第等、即ち事變後當地に於て最も早く知るを渇望せし事實の御報告皆後れ、拙官の方より、第一番に當政府の所望を充たす能はざりしと、前に在東京露公使館報告の始末、全く御詳細になり居らざりしを以て、新聞の際、不都合を覺えし事少なからず、尤も最後の一條は、拙官も當時我新聞上にて之を讀まざりしにも非りしも、僅かなる事は何も承知致さざる儀に付、最早必要も無かるべしとは存じながら、後日參考の爲め御通知相成度候。

西公使報告の三（六月三日發）

去月三十日、御電報有之候。津田犯罪處分に關し候一條は、其翌三十一日書面を以て外務大臣ギルス氏へ通じ置、一昨六月一日、同

氏方へ參り、我刑法第百十六條の譯文をも示し、我政府に於ては、即ち此の條令適用の請求なりし處、其の通りには參らざりしも、刑法の許す限り、重刑に處したる趣を、縷陳致候處、同氏の說に、セーウヰチ公使より、委細申來り、貴政府に於て、之に處せらるるの難かりしは、承知の事ながら、此の判決に出り、甚だ不快の感起る所以は、本件犯行に應じて、貴地遊歷中なりし當國太子に害を加へんとせし者を、平人に害を加へんとせし者と、同等の處分に歸せしめられたるの待遇に在り、去りとて必ず死刑の處分あるを望むの意には無之候へども、若し一旦死刑の判決になりて、我方より赦免を請ふの都合たりしならば、好結局したりしにとの趣意にて、頻りに遺憾を述べ、且つ當地新聞紙の此の不快を傳播するの恐れある等の話も有之、依て拙官申すに、我政府に於ては、十分に貴政府を滿足せしむる爲め、前に陳し如く、出來る丈けの術は、皆な既に盡したる程の事なれば、新聞紙家等も能く之を知り、且つ我國の法律を解せば、左程不快の感覺を陳べもすまじと存ずるも、貴君に於ては、猶別に我政府の之に處す可き方法あるべしと思はるるや如何と尋ね候處、ギルス氏の答へに、貴國の法律此の如くなる以上は、外に致し方なきは知れり、又固より人を殺し呉れられたしと云はるべきにも非ず、其意亦毛頭なきこととなるに依り、我に於ては、之を以て滿足するの外なきは、我帝にも御同意ならんと存ずるに依り、右の意見を以て、明日帝へ奏し、委細に直ちにセーウヰチ公使へ通ずることに致すべしと申す事に有之、尤も其間に、貴國政府抜けて速かに歐洲中の瑞西となりし結果は、實際、國の爲めに利益なるべきや等の批議の話をも承り候、後ち拙官新に話を續け、何れにしても幸にして太子も無異に御出發なされ、我邦に於て不都合の出來事も、今は殆んど忘却の時に至り、此の暴行犯者處刑の一事を以て、諸君の感覺を惡うするは、甚だ遺憾なるも、我方に於て、既に之を處するの法なきは、貴君にも御同意の事なれば、今少しく處刑の結果に付ても、貴國を煩はし度、凡そ非命の死を遂ぐる者は、其の所爲の善惡を問はず、不思議にも國民中之を偶像視するの風あり、其影響太だ望ましからず、之の點より之を觀れば、死刑より無期徒刑の方、却て勝れるものありと說く際、ギルス氏曰く、夫れは一理あり、セーウヰチ公使よりも、今度同樣なる趣を申越せりとて、起て長電文を取出し、之を讀み聞かせたり、其の大略に曰く、

大津に於て津田を裁判し、平常謀殺未遂の刑法に據て、終身徒刑の申渡しありたり。犯罪の目的は、單なるフアナチク一筋にして、他より使嗾せられしに非ず、又黨類あるに非ず、政府は之を皇室に對する罪に擬したるも、右は虛勢を張りたる、一のデモンストレーションに過ぎず、拙者は是迄死刑の說を持ちたり、然も表向き書面を以て申込みしに非ず、今滿足するや否やの問合せあり、未だ答ふる所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なく、一に貴命を待つ、就て謂たる、貴國プラチタ上より之を云へば、凡氏をして犯罪人の宗旨の爲め、命を捨てたる感概あるを得ざらしむるの利あり、青木外相は辭職し、内務司法兩大臣亦之に殉くならん。

本日ギルス氏に面會を問ひ候處、同氏の答へに、帝にも御承諾なされしに付、我政府に於ては、此の處分を以て滿足致すに依り、左樣承知せられよとの事に有之、依て拙官は、帝の御所存に就ての感覺を尋ねたるに、ギルス氏は、帝も拙者同樣の御感覺にて、固より一旦死刑に決し、此方より赦免を請ふの結局たりしならば、上都合なりしも、是れ其國の成規に基くものとせば、滿足するの外なし、右は日本の利益にも非るべしとの仰せなりし話に有之候。

右の次第にて、大津の不都合到來せし以來、我國上下同感の情を表したるの厚きに由り、一旦善くなり居たる、當國政府の感覺も、此の結局に由て、今日は又幾分か損傷したる氣味も有之、拙官に於ても、實は此判決を以て、快とせざる譯は、其本邦に於て、當國の太子を待遇せらるるの厚さと、寒暖相合はざるは勿論、國に憲法ありとて、新に模擬法に據り、強情を張りし處が、我國固自然の發達、他の憲法國の度に進まざる間は、一の理窟たるに過ぎずして、實際他人の信服すべき筈もなく、殊に當國人より之を觀れば、其の從て相親愛する日本國人にとして、何を恨みて此の不親切を表するや。歐洲開化の形迹に過ぶて、固執を一も掛くること、一に此に稱わるや否やの懸念せざりしに非ず、又當國帝の旨は、處分を指す、日本の利益にも非ざるべしと云はれしも、犯罪者を懼るるの意に外ならざるべしと存じ居る事に候、然し當國政府に於て、前述通り、既に滿足を表したる上は、御同感に及び候事も有之まじく存じ候へども、此の不快の出來事も、此を以て終了とし此段申進候。

西公使がギルス外相に手交したる判決處刑公文の譯文

大津に於て開廷の大審院は、津田を以て、貴國皇太子殿下の生命に關し、危害を加へたる犯罪者と判定し、之を法律に於て定めたる最極の刑罰即ち無期徒刑に宣告せり。

我帝國政府は、皇太子殿下の高貴なる御身分に對し、被告を刑法第百十六條に據り處分せんことを深く希望せしに依り、大審院檢事總長に命じ、躬ら求刑の任に當り、該法廷に向て、該條を適用せんことを、辯論主張せしめたり。

大審院は、本件審判の上、政府の熱望と盡力とに反し、右刑法第百十六條の明文に據れば、今回の被告事件に向て、該條を適用する事を得ずとの意見を述べ、其の不羈の權力を實行して、津田の罪狀は、法に於て前陳の無期徒刑に該當するものと判決したり。

全體地方裁判所は、該被告事件の該當裁判所たるべきこと、大審院に於て明瞭となりたれども、同院にては、既に本件を處理せしを以て、其儘同院に於て之を終結せり。

日本政府の本件に關して施したる處置は、大審院に於て、法律の範圍中、最極の刑罰を以て、犯罪者を處分せる事實とは、此の悲痛すべき

犯罪の起りし瞬時より、絶えず貴國政府に對し、成る可き丈け充分の滿足を與へんと勉めたる誠意の證據となし、露政府の酌量あらんことを、我日本政府の深く希望する所なり。

西公使報告の四（六月十日發）

去る五日電信を以て、今回の事件に付、拙官得務の速かにして、且つ適宜なるを認めらるる趣御敎諭に預り、甚だ快く存じ、辱く御禮申上候、又同日、露國政府滿足の旨、未だセーウヰチ公使へは通知無之との御電報を請け取り候處、右はギルス氏より、當日即ち去る三日、同公使へ電報する趣、慥に承り候事なから、念の爲め其翌六日、外務省へ參り、（ギルス氏は去る四日よりヒンランドの別莊に行かる、頭痛なり）次官シーシキン氏へ承り合ひ候に、右滿足の答旨は、確々去る三日セーウヰチ公使へ電報に相成候に相違無之、また同公使より、ファナチク人氣穩かならざるより、露國太子は横濱へ上陸せずして、船より船に乘り移らるる樣有之度趣、勸め來りし旨をも承り、就ては此地の報告にては、目下我邦斯る形勢なりとは思ひも寄らず、又三日にギルス氏の電報したる者を、五日迄もセーウヰチ公使の請取らざると申すも不審に存ぜられ、尤も其趣は同日及電報候次第に候、然る處七日夜、右へ對する御返電を得、人氣の穩かならざる云々は、全く其跡形なきことにも非る趣を了し、唯電信文の後段、セーウヰチ公使の通知中、我國の威風を汚かす件有之候儀は解し兼ね、右は或は拙官より前報告中に傳へ置候ギルス氏の談話中、若し一旦死刑に決し、此方より赦免を請ふの結局なりしなら、云々の意味にても可有之哉とも察じ候へ共、右は唯當國所望の內情談話に止まりし事なれば、之を照會文に載する筈もなしと存じ、今日はギルス氏出府の筈なりし故、之を問ふ心得にて候へ共、同氏儀本日は、ガッチナより直ちに田舍へ歸りし由にて、相見るを得ざりしより、亞細亞局長カプニスト氏へ面會し、去る三日當國政府より、我犯罪人處分に付て、滿足を表せられたる一條に付、セーウヰチ公使より、何ぞ伺ひ來りし事は無之哉と尋ね候に、同氏の答へに、何事もなかりしと、依て又右の滿足を表せられし電報中、何ぞ我邦人の心に快からざる意味は之れ無かりしやと尋ねたるに、同氏の答へに、拙者の承知し居る限りにては、右樣なる意味は更に無かりし、唯始め右判決の報達せし時は、吾等の感覺快くはあらざりしも、滿足を表する時に、右不快の意味を文通せしむる等の訓令は、決して之れ無かりしは、拙者の保つを得る所なりとの事にて有之、依て拙官には、右はセーウヰチ公使の何ぞ自ら言ひ添へたる事にても有之哉と存じ候條、此段御心得のため申進置候。

御記憶も之れあるべく、當國の先帝、曾て巴里に於て狙擊に遭はれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し事あり、其時使館内に於て、彼の兇人（ポーランド人）を嘲弄侮辱に陥したるに、其報當地に達するや、諸新聞紙公衆とも大に不平を鳴らし、一時騒がしかりし趣は、兼て承り居る事故、帝と太子との差別はあるものの、御承知の通り、當國民の太子を愛する深きに依り、衆説如何ならんと、拙官にも稍々案じ居り候へ共、當府に於ては、佛字新聞紙及びノーヴオーヴレーミヤ紙に、別紙切抜通りの電文を載せある迄にて、何も云はず、他の諸新聞紙は、右の電文をも掲げずして、全く默過し、又た上中社會に於ても、之を知るを欲せざるものの如くにして、別に何の評判も無之、而して一般の感覺は、太子も幸にして無異なりし上は、犯人の罪は問ふに及ばずと云ふ有様にて過去り、今回の事件に付ては、最早何も御心配に及ぶことは可無之と存じ候條、此段申進候也。

西公使報告の五（八月一日）

御申越に相成候御親翰捧呈の儀は、直に其筋へ申入置候て、去る七月廿八日ペートルホーフ離宮に於て、當國帝へ謁見致し、拙官儀大津の到來事を以て、甚だ遺憾に存ずる趣と、右に付、我　天皇陛下の深く御遺憾遊ばされ、御親翰を贈らるるに至りし大略とを申陳べて、御親翰を呈し候處、當國帝には善き御機嫌にて仰せられ候

に、其政府新聞紙等陛下の御言動には實に難を付けなし、唯我皇太子の日本開陳候を、悉く掲げざりしは遺憾なるも、本人の日本に於ける感情は、少しも損せず、殊に露國に於ては稀有なる愉快を致したる由にて、委細陳述したりとて、其の大略をも仰せ聞かせられ、後ち島津公及び諸大名等の事に付て種々の御話も有之、二度も我天皇陛下の御親切を謝せられて暇を賜りしが、謁見の大略に有之候處、當日當國帝の御待遇は、殊に御丁寧なりしを以て、拙官にも甚だ快く存候て、其趣は電報致し置候次第に候、拙官には、津田判決の一條、或は帝の心に満足ならざる記憶をするも計り難く、存居り候へ共、本日の謁見中には、前文通り其の不機嫌を見えず、且つ皇太子の我國に於ける御遭難を何たるかは何程と相見え候へ共、固より不日歸着せられ、親しく當日の状況を聞かれ候はゞ、假令帝の心中、猶は不利の感覺り居り候も、皆な消滅して全く御安心に相成るべしと、信じ居る旨に候。

當國皇太子には來る十五六日頃歸府の筈、其上は帝家御一同揃てコツペンハーゲンへ趣かせられ、彼地へ十一日頃まで滯在せらるる積りの由に候。

パテルノストロ氏の所論

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（氏は當時我が司法省にありたる顧問外人で、此書は當時齊藤浩躬氏が、井上伯の命に依つて其の意見を叩いた問答筆記である。）

（問）吾國皇太子殿下に對する犯罪者に對して、刑法第百十六條を適用することを得るや。

（答）是れ了解し得べからざるの說なり、抑も刑法は内國を目前に置きて設けたるものにして、その章節に内國君主に對する罪を措くは、各國普通の例なり、決して外國君主をも包含するものと解釋すべからず、佛國の如きは、外國君主に對する特別の明條あり、（佛國刑法第百四十七條參照）全く此の特別規定あるが爲めに、普通の謀殺罪を適用せざるなり。今回事件に關する刑の適用に付ては、司法省に於て、各高等官及御雇外國人の會議ありて、予は司法大臣の下問に對し、「普通謀殺罪の未遂犯を適用すべし」と答へ、滿場一人の異議者なかりしなり。

（問）若し犯罪者にして、兩國の間に戰端を引起すの目的を以て、罪を犯したりと自白したる時は、刑法第百三十三條を適用し得るや。

（答）第百三十三條は、戰端を開き、又は其の豫備を爲したる場合を規定したり、今回事件には此事なし。

（問）外國に於て、今回事件の參考たるべき實例あるや。

（答）予は左に一二の例を示すべし、千八百七十八年、伊王ハンベルトがナポリへ行幸のとき、街上に於て、小刀を以て伊王に切り掛けたる者あり、同車したる宰相カイロリーは之を拒がんとして傷きたり、裁判官は、國王に對するの罪を適用して、犯罪者を死刑に處したりしに、國王の恩典に依り終身懲役に處せられたり、また英國に於て、女王を殺せんとしたる英人ありき、裁判所は之を狂人と認め、病院に送れり。

千八百十九年三月二十三日、獨逸の一書生サンドなる者、獨國に於て、露國の參事顧問官コーツブエを殺害したり、犯罪者は獨の普通刑條に從ひ、死刑に處せられたり。

佛國人オルシニーなる者、巴里に於て、ナポレオン三世に向ひ、爆裂丸を投じ、其の從者數人を殺傷したり、犯罪人及び其の從犯者は、佛國の普通刑條に從て處刑せられ、犯罪人は、君主に對するの罪を以て、死刑に處せられたり。

之は要するに、一箇人又は住民の大部分が、外國君主又は王族に對し、敵意を表したる其例少なからず、例令ば、佛國に於て、波蘭復讐黨の爲め、露帝に對し、示威運動を爲したるが如き、又先帝墺國皇太后に對して、同樣の擧動ありたるが如き、又伊國の一都に於て、墺帝に對して、都民群呼して、瓦石を投じたるが如き是なり。然れども此れ等の場合は、一も今回事件に同じきものなし、又先例相互の間にも、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一々差異あり、既に今回事件に付き例の要求は當然なるべし、例となれば、此れ等の場合には、各々特別の緊要的事情ありて、一の例を以て、他の例を解釋すること能はざればなり。(五月十三日)

レンホルム氏の國際法上より見たる意見

(レンホルム氏は當時わが政府の國際法顧問たりし獨逸人なり)

外國皇族に對する犯罪處罰に付ては、獨逸刑法及び其他各國の刑法は、特別に規定するところ無く、一般刑法の規定を適用するものとす、故に今般日本國に起りたる兇行事件の如き犯人を、露國政府に引渡すべきや否やに付き、敢て問題は生ぜざる可し。

但し事の尋常一樣の場合と異り、賓客の身に拘るを以て、日本政府は須らく嚴密に捜査を爲すべきは勿論、犯人の身の上に付ては、監守を嚴にし、其の逃走自殺なき樣、司法者は特に注意すべきものとす。

國際法より論ずれば、凡そ外國の君主若くは君主の代理たる皇族を、賓客として迎へたるの政府は、其の貴賓の守衞に付ては、充分に注意を施すべく、既に此の注意ありたるに拘らず、尚ほ暴行危害を加へたる者ありたる場合には、政府は交際上の禮義より、速に貴賓を慰問し、他の外國政府に其の實況を報じ、その行爲をして全國民の責に歸せざらんことを以てすべく、又た電信を以て帝國皇室より露國皇室に對し、陳謝を表することも必要なるべし。

また政府は國法に從て、充分其の事件を處罰し可く、政府は其の國民の一私人の行爲に對しては、別に責任を有するものに非ず、之に反して若し政府の不注意より、犯罪を惹起したる場合に於ては、少くとも謝罪状を呈すべきものとす。

其の例は千八百八十三年、西班牙國王陛下が、佛國巴里來遊の際、佛國西政府警察の不注意より、佛國暴民が西班牙國王陛下に、危害を加へたる場合に於て、佛國西政府は西班牙政府に對し、謝罪状を送りたり。此の如き場合に於ては、謝罪状は、君主より君主へ送る可きものに非ずして、政府より政府に送るべきを常とす。

日本政府は其他德義上及び國際法上の義務として、犯罪捜査の結果に就ては、充分の報告を爲す可く、其の報告には、其の犯罪者の犯行を爲したる、原因をも明示すべきものとす。故に犯行の原因は主として取調ぶべく、從て犯罪人の身分經歷及び交際の實況等は、取調べの根據となるべし。

かくの如くせば其の犯行は、犯人一箇の決意に依りて生じたるや、將た他人の敎唆に出でたるやを知るを得べし、人或は露國今日の形勢より、其の犯行或は虛無黨なるものゝ敎唆に出たるやを疑ふものあらん乎、然れども其の取調の如きは、極めて之を秘密にするを要すべ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し、夫れ故此の如き點につき取調を爲すとの聲、或は之を發表せば、魯國のみならず、他の諸外國人は、日本政府が、犯人の罪を被害國の國民に歸せんとする意ありとの懸念を抱かしむるに至るべし、故に其犯行の取調べに付ては、先づ犯人より始む可きものとす。

人或は皇太子守衛のものを監督する官吏に責ありや否やを取調べんとするが如きも、そは其の官吏が警察官の選擇に付き、相當の注意を施さざりし場合ならざるべからず、則ち其の警察官が、其の平生の性行惡しきに依り、又は平生交はるところの友惡しき等、苟も警察官たる、重要なる職務を任す可からざるときに限る、然して以上取調べの結果は、之を魯國政府に報告すべきものとす。予の終りに及んで特に望むところは、日本政府が相當の理由なくして、濫りに居留地等を捜索し、他の外國政府をして、今般の行爲は、一私人の狂氣に出たるものに非ずして、他の理由ありやとの念を起さしめざらんこと也。

有島生馬著　—改造社新刊—

（小説集）海村

海は限りなき魅力と神秘な誘惑をもつて、懐疑的に、慈悲の微笑に、或は激怒に於て、相寄り慕ひ話しかける。クウルベの海は荒れモネエの海は光る海に過ぎない。わが有島生馬氏の海は日本の代表的傑作として小説集「海村」の快著となる。その泡沫にも人間の明暗を映し、その波浪にも人生の光輝を宿し、望洋として哀歡盡くるなし。湘南の寓にものせる十九篇の佳編悉く海村を主題とし上下二卷、極美清楚の唐本一帙に緘め世の讀書子に薦め、徐ろに漁家の炊煙を指呼し、魚龍の夢を驚破しようとする—

唐本極美裝　上下二冊帙入　定價貳圓五拾錢（送料十八錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

■現代日本文學全集•既刊書目■

十二月配本

幸田露伴集

（第十三回）

内容

風流佛、運命、一口劍、五重塔、風流微塵藏、對髑髏、風流魔、一刹那、奇男兒、眞美人、辻浄瑠璃、土偶木偶、蘆の一ふし、太郎坊、付燒刃、寢耳鐵砲、名和長年、佐渡ケ島、雁坂越、術競べ、不安（其他）

一月配本

森鷗外集

（第十四回）

内容

即興詩人、舞姫、うたかたの記、雁、阿部一族、埋木、キタ・セクスアリス、高瀬舟、山椒太夫、文づかひ、金毘羅、玉篋兩浦嶼、生田川、日蓮聖人辻說法、百物語、蛇、細木香以、古い手帳から、あそび、心中、妄想、沙羅の木、我百首、長曾我部信親（其他）

■尾崎紅葉集（第一回）
■樋口一葉 北村透谷 集（第二回）
■谷崎潤一郎集（第三回）
■島崎藤村集（第四回）
■國木田獨步集（第五回）
■菊池寛集（第六回）
■夏目漱石集（第七回）
■有島武郎 有島生馬 集（第八回）
■里見弴 佐藤春夫 集（第九回）
■永井荷風集（第十回）
■德富蘆花集（第十一回）
■武者小路實篤集（第十二回）

改造社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最新刊

石油帝國主義

ルイズ・フィッシャー著
荒畑寒村譯

（四六判上製）

定價壹圓五拾錢
送料拾八錢

最近十年間の世界經濟の進展は歐亞兩洲に跨がる夥しき石油資源と此れを圍繞する帝國主義諸列强間の石油爭奪を外にしては理解し得られない。暗澹たる經濟的無政府と血腥き政治的紛亂とを國際政局の上にはらみつつ頭のテッペンより足の尖端まで武裝せる帝國主義諸國家間の石油奪爭戰は世界再分割の國際的伏魔殿たる、かのゼノア、デュネーブ其他無數の外交的紛亂の眞因であつた。世界經濟は今や資本主義凋落の深淵に戰慄した。本書は此等石油帝國主義戰裡に於ける世界經濟進展の活舞臺、國際政治的外交問題の眞因を闡明して餘す處なく譯文の平明は內容の深奥と相俟つて、現下かまびすしき帝國主義諸問題解決の寶典として一讀卷を措く能はざらしむるものなる事を疑はない。

發兌

東京市麴町區內幸町
幸ビルデイング一階
振替東京八四〇二番

改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本家庭大百科事彙

燦然たる時代化の縮圖

萬有知識を滿載する大百科事彙の出現

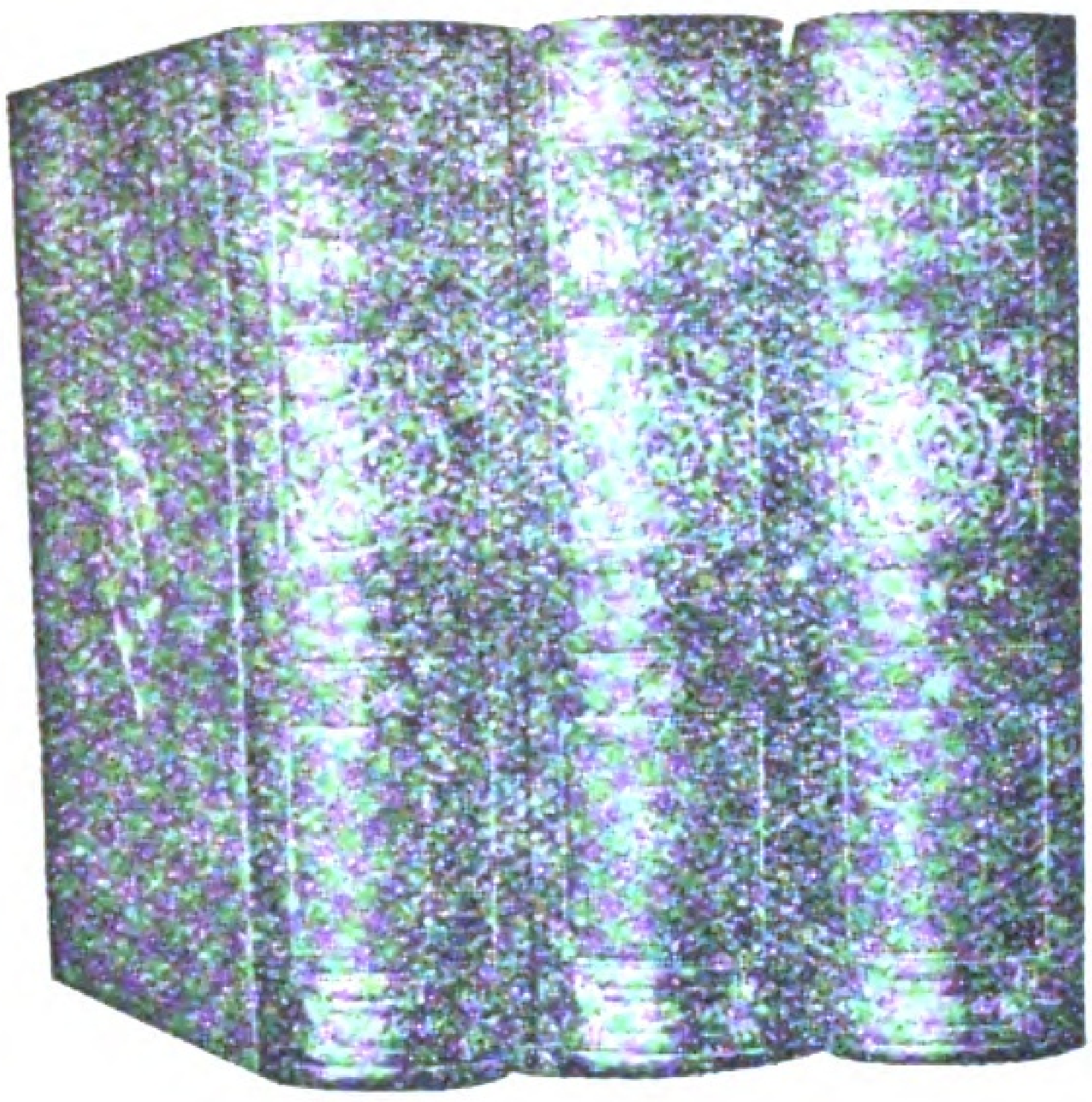
百科辭典は質・量共に群籍の上に卓出する出版界の帝王者、萬有知識の無盡藏の寶庫、最も廣い範圍の社會の爲に、自由簡易に開かれた一大民衆的殿堂であつて、正に學校教育の國民的延長ともいふべく、所謂大學普及事業や成人教育は何人も座右に一部の百科辭典を備へることによつて學校も教壇も、講堂も講師もなしに、いかなる所でも容易に完全にこれを受けることが出來る。實にこれ以上徹底した社會教育はない。

今や二十世紀に入つて二十七年、一切の事純然たる新世紀の眉目を備へ來り、萬有知識の大改造時代に際してゐる、この時に當り、家庭といはず、社會といはず、新しき生活に適應する新しき萬有知識を滿載し、時代の全相を摑んで一切の書中に縮圖した大百科辭典の出現は現代文化を大成せしむる最も意味深き收獲でなくてはならない。幸ひにして我國百科辭典事業の先驅者たる榮譽を荷ふ冨山房が、更により大に、より完全に大百科辭典の完成によつて、昭和出版界の劈頭に、第二の大辭典時代を導くことは、その當然で且光輝ある責任であると信ずる卽ち十箇年の繼續事業として、冨山房百科辭典編纂部を特設し、その第一期事業として、二百五十餘名の各專門學者、技藝家及び精通者と、十餘名の專門編輯者が、協力一致、拮据五年、全力を擧げてここに「日本家庭大百科事彙」の編纂を完成し、第一卷刊行と共に、これが民衆化、普及化を徹底する爲に豫約特價提供を斷行する。詳細は內容見本の御熟覽を乞ふ。

體裁

全三卷、三千三百餘頁
裝幀、背及角革製八寸橫五寸三分（國際的百科辭典版）金文字入、最上製本函入
着色版三百餘面、本文挿畫約五千

二百五十名家執筆



內容見本 無代進呈

體裁、內容ともに最も充實完備せる二十二頁、見本はハガキにて御申込次第進呈。「百頁大見本」は全國各書店にあり、御立寄御覽を乞ふ。

豫約略規

定價金三十圓（各卷十圓）

特價

甲、金廿一圓五十錢（三回拂）
乙、金廿二圓五十錢（六回拂）
丙、金廿四圓（十二回拂）
申込金二圓（甲、乙、丙共）最終御拂込に充當

東京 神田 **冨山房** 振替東京五〇一番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹賀新年

昭和三年一月元旦

宮内省御用

高等果実

銀座千疋屋

東京銀座通り

ジャーナリズムの極致
最有效の廣告機關

東京日日新聞

朝夕刊二十頁（一月四）

電話代表番號　丸の内一三一、一四一
案内廣告專用　丸の内一五一二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹賀新年

資本金六千五百九拾壹萬六千六百五拾圓

OJI PAPER MFG CO LTD

弊社は明治五年の創立（本邦最古）にして總ての洋紙製造に於て最も豐富なる經驗と熟練を有す

本社　東京府北豐島郡王子町

營業所　東京市麴町區永樂町郵船ビルディング內

王子製紙株式會社

工場所在地

- 東京府北豐島郡王子町　王子工場
- 同町大字下十條　十條工場
- 東京府南葛飾郡龜戶町　龜戶工場
- 大阪市北區善源寺町　都島工場
- 同市東淀川區北長柄町　淀川工場
- 靜岡縣庵原郡富士川町　岩淵工場
- 富山縣伏木町　伏木工場
- 福岡縣小倉市篠崎　小倉工場
- 北海道勇拂郡苫小牧　苫小牧工場
- 朝鮮新義州　朝鮮工場
- 樺太大泊町　大泊工場
- 樺太豐原町　豐原工場
- 樺太野田　野田工場

主なる製品

◆上等印刷紙◆普通印刷紙◆新聞及び雜誌用紙◆其他諸紙◆諸包紙及び模造紙◆簿記用紙及び畫學紙◆卷煙草用紙◆製紙原料パルプ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

昭和新時代の印刷は最新の
設備と優秀の技術を有する
綜合印
刷所の

秀英舍へ！

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

電話（代表番號）牛込(34)一五一〇番
牛込(34)二八五一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本一の

時事新報



◇丸の内お濠端◇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹賀新年

小樽新聞

河北新報

Digitized by Google

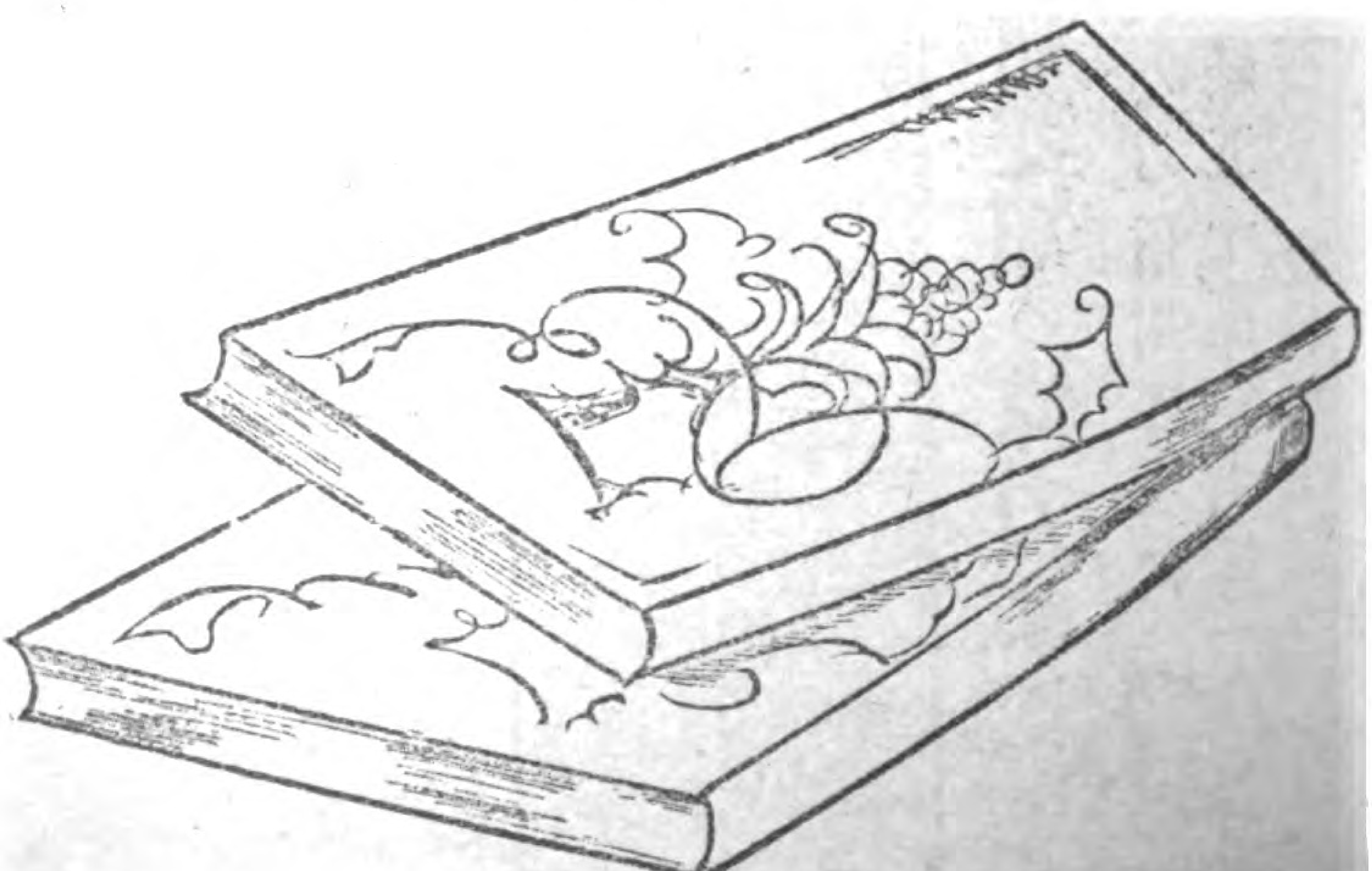
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

恭賀新春

一月元旦

長谷部製本所

東京市芝區三田四國町二ノ四號
電話高輪五七九四番



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高知新聞

岩手日報

神戸又新日報

朝刊夕刊

新愛知

新愛知の偉力は
一、絶大なる信用の上に
一、發行紙五十萬の上に
一、最新最善の設備の上に
堅く築き上げらる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賀正

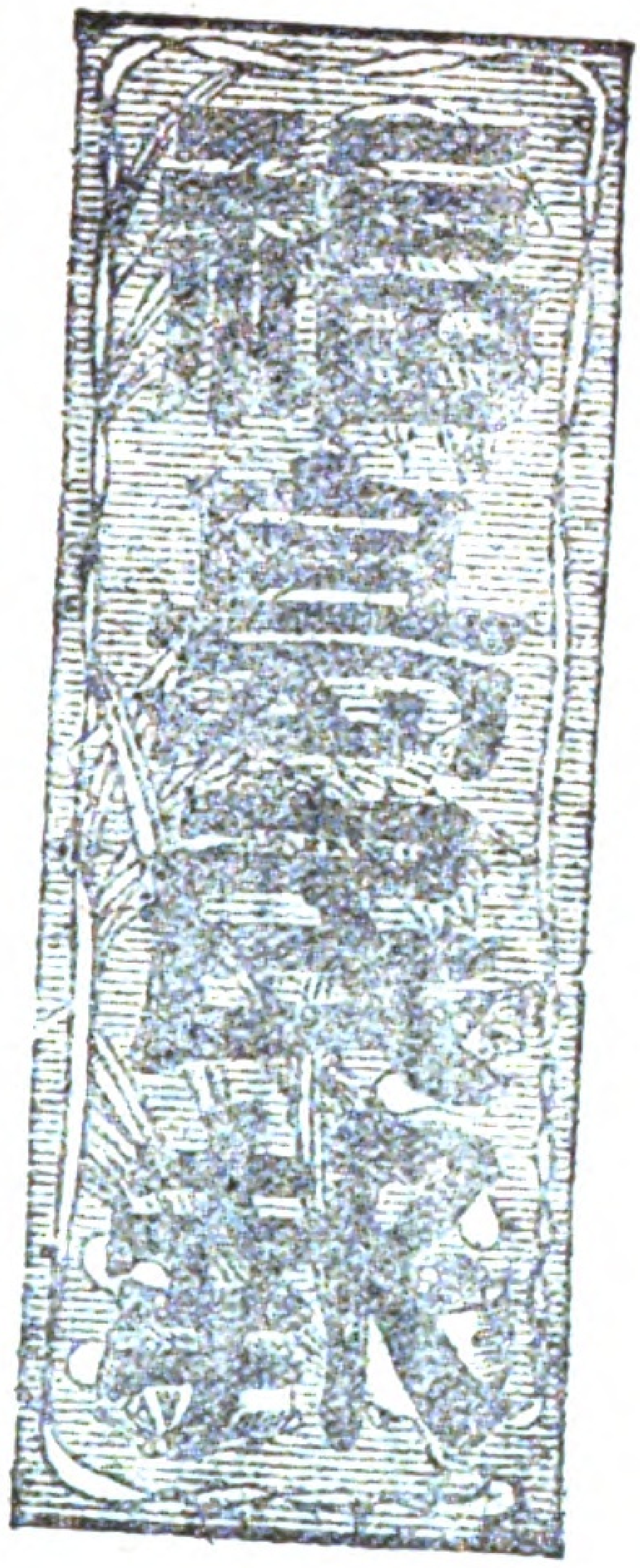
青木兄弟製本所
東京市芝區南佐久間町一ノ一
電話芝一九七四番

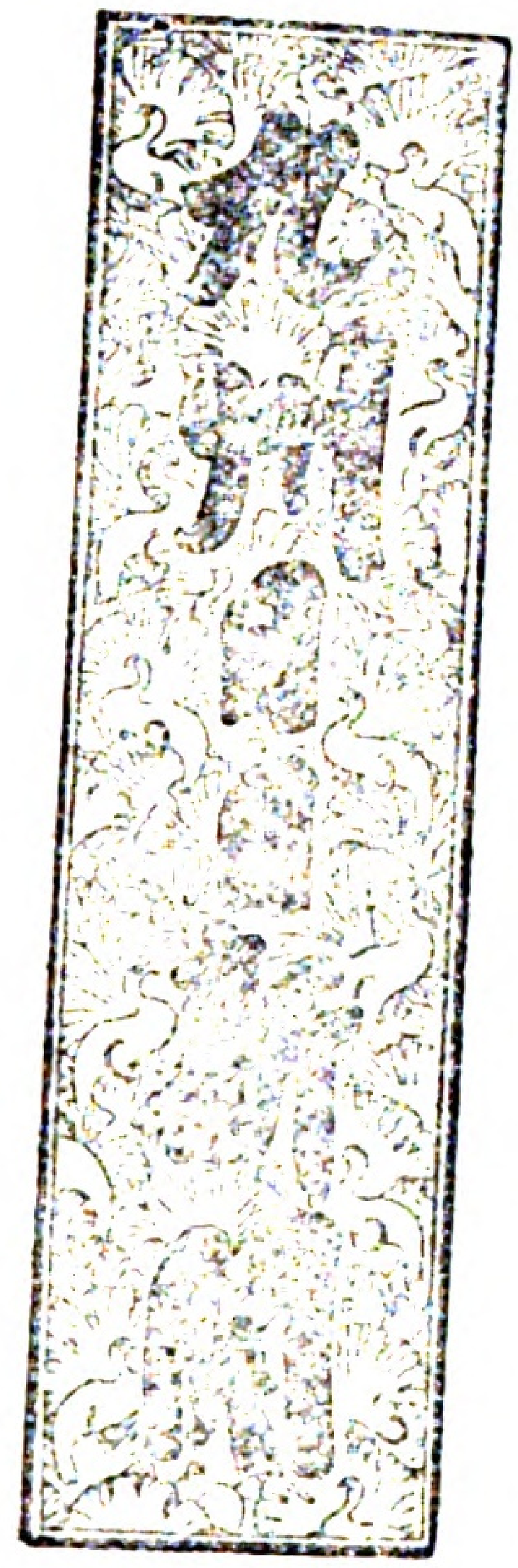
牧野製本所
東京市京橋區木挽町一ノ一一
電話京橋(56)七三三七番
牧野留吉

1928

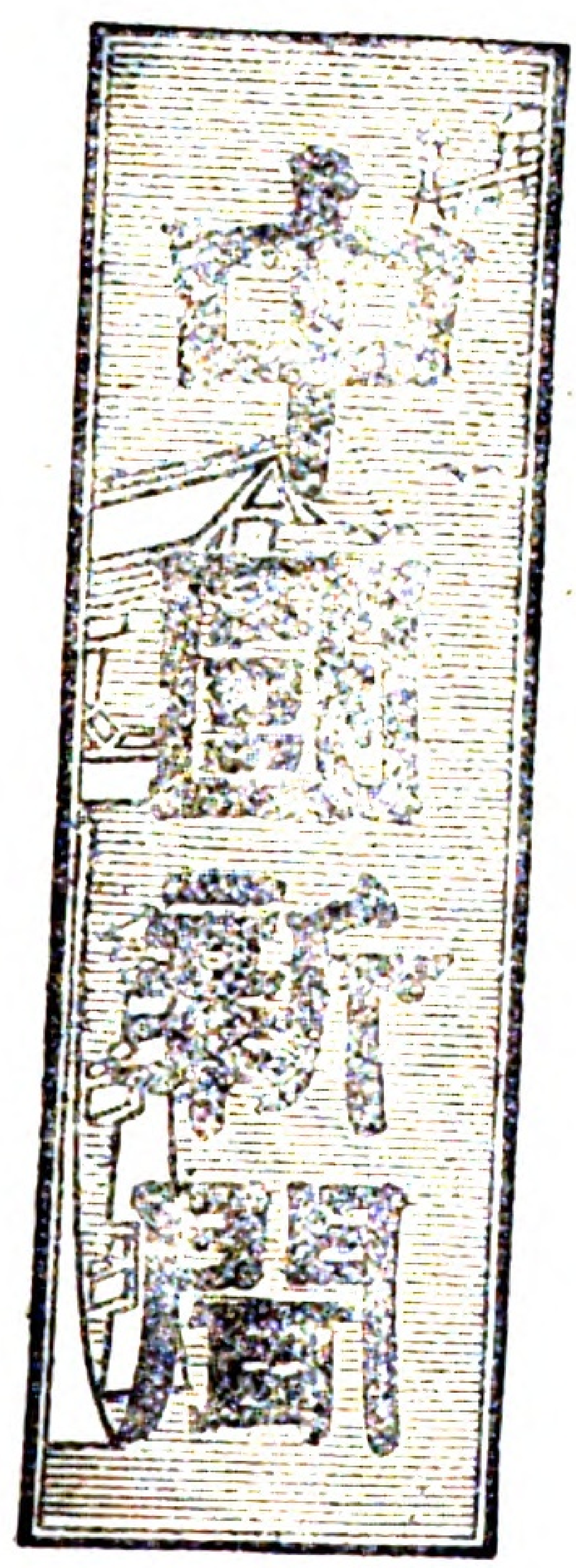
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA











Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

1928

東京市牛込區市ケ谷薬王寺町八三

宮尾製本所

電話牛込(34)一四七一番

宮尾義雄

謹賀新年

東京市牛込區西五軒町三四

電話牛込四三六〇番

福山印刷製本所

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA








朝鮮新聞



博

株式會社 博進社洋紙店

東京支店
東京市神田區駿河臺北甲賀町一二七
電話神田(25)代表番號自一一七一番至一一七七

大阪支店
大阪市東區瓦町二丁目
電話本局長六五五番六五七番 六五六番六五八番

神戸支店
神戸市榮町六丁目
電話元町長一六六番一六七番

名古屋支店
名古屋西區玉屋町二丁目
電話東長一八〇〇番一八〇一番

福岡支店
福岡市博多行町
電話特長一九番

門司出張所
門司市仲町二丁目
電話長三三五番

新年の希望

特種嶄新先驅的使命を帶びたる

新時代の日誌!!!

貴下の記錄を!!!

是非……

新らしい・珍らしい

文運堂の七大日誌

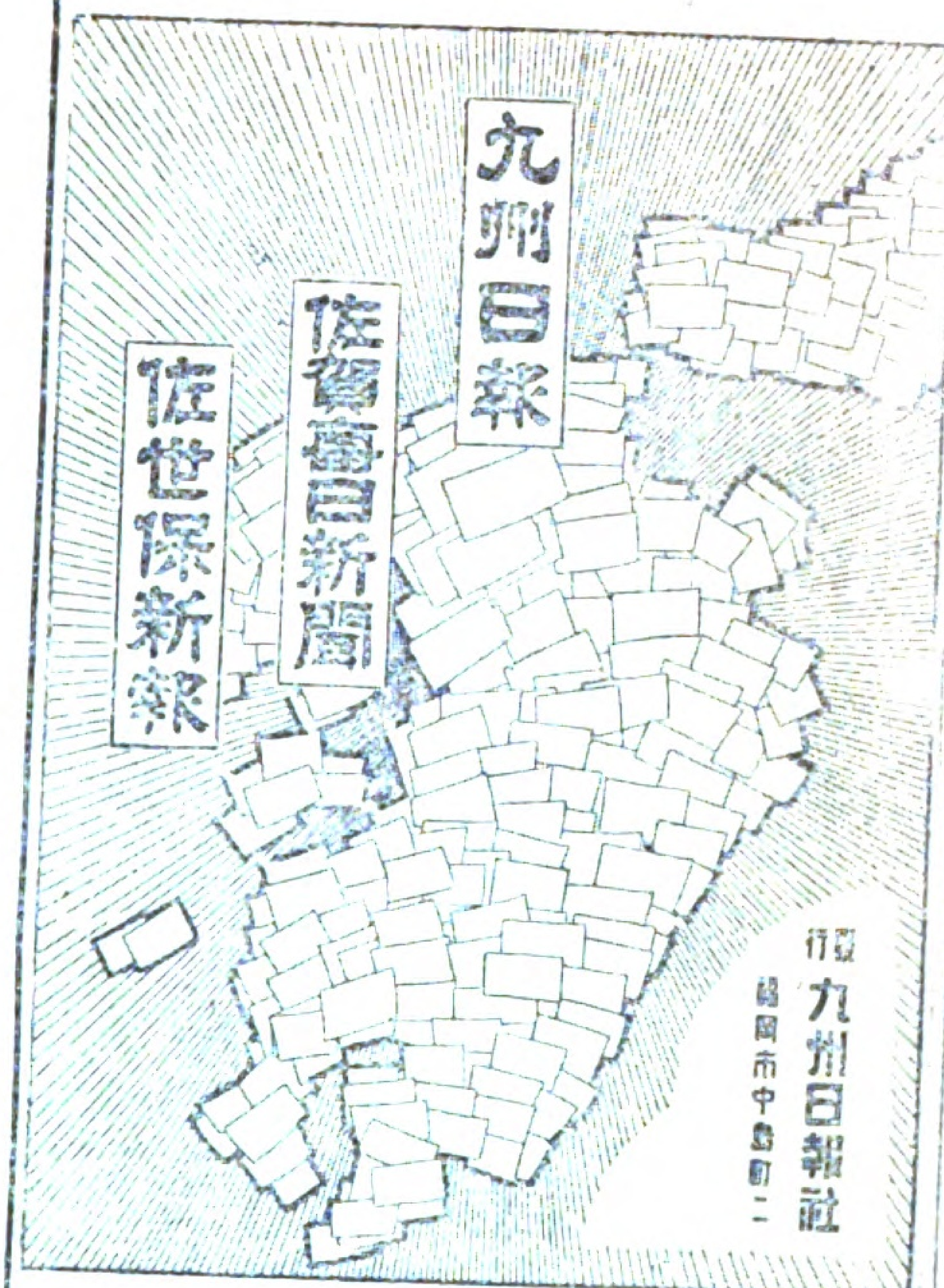
少年必携スカウト日誌 定價四十五錢
青年日誌 定價四十五錢
女子青年日誌 定價四十五錢
豫定日誌 定價七十錢
家庭婦人日誌 定價八十錢
實用家計簿 定價六十錢
農業日誌 定價一圓二十錢

發行元 株式會社 文運堂

本店 東京市神田區駿河臺北甲賀町 振替口座東京一九七〇〇番

支店 大阪市東區瓦町二丁目 振替口座大阪八三六五番
名古屋市西區玉屋町二丁目 振替口座名古屋三〇五〇番
門司市仲町二丁目 振替口座二〇二九五番

營業品目
學用品
萬年筆
紙製品
帳簿類
運動具類



賀正

筆耕の御用は

信文社

東京市芝區神明町二五(小學校右)
電話芝一六九三

社主 大武三郎

大分新聞

謹賀新年

一月元旦

建築ハ一家ノ幸福ノ母タルベキモノデアル事ハ衆知ノ事實デアリマス
弊店ハ此處ニ特ニ留意シテ設計ニ工作ニ最善ヲ盡シツヽ參リマシタガ尙一層經濟的最新ナル建築技術ヲ研鑽シ親切丁寧ヲ主トシテ御期待ニ副フベク努力致シマス
何卒御引立ノ程ヲ願ヒマス

建築一般
設計施行

吉田建築店

神田區三河町四ノ九
電話神田(25)三三三五

法學博士 堀江歸一著

金貨本位制の興廢

四六判總クロース
定價壹圓
送料十八錢

最新刊

歐洲戰前の金貨本位制は世界大戰によりて一旦破壞されたが、戰後經濟的秩序の確立と共に次第に復興しつゝある狀況を研究し、我國經濟界に囂々たる金輸出解禁問題に論及し、この間に金貨本位制の本質、眼目に就て博士の見解を論述す。博士は曩きに本社より「貨幣・銀行・外國爲替」上下二卷を出したが、本書は同書中の論題に對し本社より引續き發表せんとする特殊研究の一つである。

堀江歸一著
貨幣・銀行・外國爲替（上卷）
菊版上製
定價三圓
送料廿六錢

堀江歸一著
貨幣・銀行・外國爲替（下卷）
菊版上製
定價四圓
送料卅錢

發兌

東京市麴町區內幸町
幸ビルデイング一附
振替東京八四〇二番

改造社

エリイザ・オルゼシュコ著
清見陸郎譯

寡婦マルタ

（四六版並製）

定價壹圓貳拾錢
送料十八錢

最新刊

心正しく姿美しき寡婦マルタは、高き教養と豊なる趣味とにも拘らず、最愛の良人に先立たれて何故に一女工に身を落さゞるべからざりしか。さうして終に窃盗の罪を犯し、乗合馬車の轍の下に悲惨なる最後を遂げざるべからざりしか。現代社會組織の下に横はる病弊、ブルジョアジイの冷酷、男性の横暴、此一篇に描き盡されて餘薀なし。原作者オルゼシュコ女史は、彼のシェンキェヰッチと聲望を爭ふポオランド文壇の巨匠。譯筆は流麗暢達、創作を讀むの思ひあり。敢て日本の若き女性、教育家、婦人問題研究者の熟讀を望む。

發兌

東京市麹町區内幸町
幸ビルヂング一階
振替東京八四〇二番

改造社

美人畫雜論

鏑木清方

一

人間は生れながら美しいものを愛し、醜いものを厭ふ本能を有つてゐる、これはいかなる時世にあつても、いかなる境遇にあつても不變の事實である。

何か人生に異常な、突發的な事件が起るとする、その當座だけは美を求むる心も一時影を潜めるかに見えるけれども、それはほんの僅かで、時が過ぎて平靜に復すると、美はいつも昔ながらの親しさをもつて人間に迎へらるゝ、歴史は常にそれを語つてゐる。

人が美を慕ふ心は、時と境遇とを越えての存在である。

美といつてもそれは宇宙のありとあらゆるものに含む、風景でも、植物でも、人間でも、そしてその美は必ずしも同じ標準を有てるものではない、綺麗な美もあれば澁い美もあるし、甘い美も、苦い美もある、女性に感ずる美とても一樣ではないが、先づ甘美に屬する。

美に高い低いといふことはあるが、それも一つの概念であつて、その高低の標準はどうにでも動く、對象によつて高低を極めても、藝術の場合などになると、低い材料を取つても高い藝術と云へるのもあるし、高い筈のものを扱つても、その反對に低級だといふこともいくらもある。

私が今語らうとする、美人畫などは、その邊まことに入りこんだ事柄が多い。

美人畫といふ稱呼はいつ頃から生じたものであるか審かでないが、今日では判然として一つの畫派のやうに扱はれてゐる。その發生はどうしても西洋の方が本場であつて、日本では徳川時代の浮世繪の發生からその存在が確立したものだが、西洋のやうに本格な藝術として遇されたのではなく、日影ものとして育つて來たのである。

西洋では十四五世紀の頃から立派に女性美を藝術の對象として堂々と扱つてゐた、ボッチチエリのやうな素晴らしい美人畫家が出現し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て、享樂の夢を描いてゐたのだつた。

一體西洋の神話傳說に、美の神ヴイナスを有することが藝術に女性描寫の榮えたことを象徵するものであつて、日本には彼のヴイナスに當るやうな艶つぽい女神はない。日本神話の美人と云へば木花開耶姬であるが、姬は櫻花を象徵する神で貞淑の權化とされ、ヴイナスのやうな淫らな神ではない。

上代に佛教と儒教とが渡來して禁欲思想を植ゑつけられた日本は、極端に女人を卑しみ、女は陰のもの、表立つて人交りの出來ないやうに躾けられて、藝術に拘はるゝどころの沙汰ではなく、僅かに藤氏全盛の時代に擡頭した女性描寫も續いて出づるものとてはなく、下級庶民の娛樂として榮えた浮世繪の出るまで、いはゆる美人畫は跡を絕つて居たのであつた。

二

自然の美にも男性的と女性的とかあるが、それは女性のみに就いて見ても、男性的といふのも幾分か中性的な傾向のものはある。だが實際の女性の男性的、また中性的なのにはあまり美を感ずることはない。寧ろそれは醜いものである。

たゞ我々が女性を宗教的な觀方からつて見てゆくと、肉慾を除き去つた女性、乃ち中性的な美を感じ得る時がある。東洋の觀世音はその境地に立つものゝやうである、莊嚴、淸淨、閑寂、然して慈悲、實在の女性から斯かる人を求むることは、それは甚だ稀れなことではあらうけれど、在り得ぬことではない。

次には西洋のマドンナ、これは女性的であつて、處女性の有つ優美、純潔、純愛を表現する。

この二つの女性美は、實在としてもまた藝術としても本格な理想的なもので、最高なものだと答へるに躊躇しないが、宗教家や教育家でない我々は、必ずしも純潔や、莊嚴にのみ美を感じてはゐない、かなり不純なものにでも隨分深い美を認めることがある、然してそれらに藝術的感興を寄せる場合は珍らしいことではない。

女性美といふのは元より肉體上のことであるが、色がよいとか、形がよいとか、眼が、口がといふことの他に、內在的の條件がかなり働きかけてゐることも考へないわけにはゆかない、譬へばその人が貞淑であるとか、聰明であるとかいふことに依つて我々の感じかたに多少の變化のあるのを否み難い。

いかに美人でもそれが狂人だつたり白痴だつたりしたのでは、素直に美を感賞することは出來なくなる、けれども若し醜い顏だちを有つ賢い女性があるとする、それをも美しいと云ふのは倫理の觀念からは

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云へるとしても、美術の心もちからは否定しなくてはならない。これはちよつと何處かに矛盾があるやうだが、倫理から見れば心を先にして容姿を後にする、美術から見てゆくと容姿があつての心である。愚かでも氣違ひでも美人なら美を感じさうなものであらうが、不快を感ずる心もちがあつては到底美を思ふ余地はない、お夏狂亂といふやうな題材はよく畫に扱はれるが、あれは戯曲、舞踊に藝術化されたものの再現で、一つの空想であり、毫も實感を伴なつて居らぬから醜惡を感ずることはない。

前にも云つたやうに倫理、道義觀と我々の美を觀るところとは、時に一致することもあるが、又た甚だ乖離することがあるのは已むを得ない。觀音やマリヤを美の對象とのみ觀てゐると間違ひはないがさうもゆかない。我々が女性に美を感ずるのは、決して最高の狹く限られた範圍のものゝみではない、各々の好き嫌ひはあるけれども、時にはそれをさへ超越して美を認めることすらある。

神のやうな美、それは別にして現在地上の我々の周圍に見る女性を分類すると、

處女型
人妻型
娼婦型

の三つに分けられる、然して更にこれが三つの段階、即ち年齢、生理などに依つて分類すればもつと複雑になつてゆくだらうが、其の大體この三つに分けて見ると甚だ概念ではあるが、處女型にはマドンナに見るやうな純潔、純愛と、それを基調とした艶美がある、然してその美意識はどちらかと云へば單純なものであり、從つてスヰートな感じである。明快、羞恥もこの型の美を助くる。

人妻型といふのは頗る複雑であつて、その型の内に含まるゝものは、成熟、情愛、貞淑などであるが、この型に於ける特長は既に夫あるものゝみの有する成熟の美である、眞の女性の美といふのは二十歳から三十歳くらゐまでの、少しも衰への來ない成熟の盛りをいふのであつて、只だこれは人各々に體力の相違があるから年齢のみで極めることは出來ぬけれども、それ以後の美は、美として感受は出來ても比較的デカダン趣味に屬する。

併しこのデカダン味は女性描寫の藝術にとかく付き纏ふ、古來美人の形容に雨を帶びたる海棠と云ひ、水あげかねし牡丹花と云ひ、なやましげなる風情を讃えてゐるのに觀ても、その間の消息は窺はれる。

娼婦型とは必ずしも文字通り色を賣る階級のものをのみ指すわけではない、人妻にも、處女にでもその型はある。風教から云へば人妻の娼婦型などは以ての外なことであるが、藝術としてはそれも許さるゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことであり、爛熟の美、淫蕩の美、神の美に對する悪魔の美の存在も亦た拒むべきでない。

女性美の中で大切なものであつて割に考へられてゐないのは健康の美である。浮世繪を見ると殆んど清長一人がこの美を把握してゐるかに見ゆる、實際清長のかく人物はたゞ錦繪の紙の色だけなのだが活々とした血色が偲ばれる、ルノアールの女もいつも精氣に滿ちてゐる、あの輝やく太陽の下に咲き誇る花王のやうな健康の血の色、不健康の美にやゝもすれば心を惹かるゝこともあるが、やはり健康の美は愉快である、然してこの美感はやはり本筋の美感だと思ふ、これは處女型に專らにして、人妻型にも及ぶであらうが、母性の美も健康の美から又た聯想される、歌麿はよく若き母をかいてゐるが、これは母性を扱ふ目的が違つてゐる、彼は寧ろ性的興味から來てゐるのだけれど、勿論美的價値は素晴らしいものには違ひない、あれはあれとして健康の方から見てもあぶなげのない頃の母性の美は更に讃ふべきである。

三

健康の美——健全な美、興味の深淺は別としても美人畫の本道はどうしても其處にある。それ以外の美は云はゞ横町であり、新道である、併し市街は本通はかりで成り立つものではない。住む人の心々によつて横町を選ぶ人もあれば、新道の好きな人もある、他の好みを否定するのではないが、否定どころか私としては寧ろ横町の住人であるかも知れないが、本道はやはり見失つてはならないと思つてゐる、現代の美人畫では田邊至氏のものなどは正にこの本道を行つてゐるので、一昨年の帝展出品も、昨年の同じ出品もその立場を明らかにしてゐるではないか、光と力とは健康美の貴重な要素だが、田邊氏の作はよくこれを用ひて然も堂々とした風格を有つて居た、あゝいふ美の現はし方になると日本畫の傅彩は少し割の悪いところがないでもない、けれども清長のものなどには寫實以外の光が見えないとは云へない、力は充分ある。これが現代の人になると興味の方面がとかく本格の材料より傍格の材料に惹かれるので、どうしても本道、本格が敬遠される、これは現代ばかりか浮世繪作家でもさうである、彼等の多くは都會人であつて然も下町に生活してゐた、實生活が露次や新道に在つて親しむところは市井卑近の事物だつたのである。美術家はいかに想像に巧みであつても、やはり自分の育つてゐるものに感興も深く、またそれから生れるものが良いのも當然なことである。深い教養もなく、たゞ天分に依つて自から美を體得してゐた彼等が、その對象を卑近美に求めたのはこれまた當然な話であらう。

このことは移してまた當代にも云へることである、けれどもさう云

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふ心は、それを醜いと云つてゐるのではない、邪悪の愛欲は必しも醜と認めてゐないのである。

大道、大格は尊重すべしとは思ふが、それだから傍道、傍格は卑しむべしとは云はない、要するにどつちでも純粋であり、良いものが出ればそれが好いのである。

これは美人畫の中での大道、傍道について云へるばかりではなく、汎く美術の上で云へることであつて、彼の骨董いぢりの批評家、鑑賞家などが、宋元の古法に則すればその畫は風格高きものと思ひ、眼前市井の事物を描寫すればその畫は卑しとする固陋の謬見こそ卑しむべきである。

四

異性の美が他を牽くと共に、そこに當然起つて來るものは愛欲の情である。美人畫の存在の一面はまた愛欲の藝術化されたものであることを認めなければならない。愛欲の藝術化は繪畫や彫刻よりも、より多くこれを文藝に見る、演劇に見る。近代では更に映畫に見る。繪畫がこれらの姉妹藝術程、突つ込んで行き得る性質を有てるや否やに就いては疑問であるが、繪畫の許されたる範圍に於いて愛欲が藝術的に整理さるゝことは必しも拒むことではないのである。愛欲それ自らは常に美しいものばかりではなく、醜い一面をも示してゐるし、近代の文藝では醜いものを醜きがまゝに憚ることなく描寫してゐる、繪畫ではそこまで行くことも出來ないし、またその必要もないと思ふ。

繪畫をたゞ色と線との交響樂とのみ見做して、文藝よりも寧ろ音樂の方に近づけて考へることも一つの見地ではある。さういふ場合には繪畫が文藝に近づく機會は全くなくなつて、接近することがあるとすれば、それは文藝の方から近づくことになるかも知れない。

けれども今日の繪畫の表現はやはり文藝と同じやうな境地から出發してゐるところも尠くはないが、小説に比するまでもなく、短い形式をもつ詩に比べても、繪畫は著しく瞬間的であり、刹那的である。だから愛欲に根ざした美を現はすといつても、小説に多く見るやうに客觀的に愛欲の批判を試みるといふやうなことはあり得ない、その對象、それは實在の時もあり、架空、空想に依ることもあるだらうが、熾烈な愛をそれに感じて主觀的に表現するのである。

昔から畫家が愛人の姿を寫したといふローマンスはいくらも傳へられてゐるし、愛欲が良き作を爲さしめる例はいくらもある。愛欲をさう纏まつたものに考へずに、女の襟足の美とか、袂の振をこぼれる紅

裏とか、湯上りの薔薇色の踵だといふやうな魅惑的な部分美に捉えらるゝことは常のことである。

美人畫の作家でも全く愛慾を去つて制作の出來ぬことはない、理想に進んで行く境地もあるにはあるけれども、情熱の盛んな若い人にそれを求むることは無理なことである。

たゞ愛慾はその赴くがまゝに任せてよいものだらうか、一口に愛慾と云つてもそれは人性から獸性に亘つてゐる、獸性の愛慾も亦た醜いて構はないものだらうか、こゝに藝術と非藝術、美と醜との危い分水嶺が横たはる。

さういへば一體美人畫といふものは、常にその危い分水嶺に殿堂を築きつゝあるのではあるが、今のやうな破目になつて、これは美なり、これは醜なりと區分することは、實は多少の惑ひがある、たとへば浮世繪に附隨してゐる猥畫と、俗にあぶな繪と稱する際どい挑發的な作品は、その凡べてを非藝術として斥くべきものかどうかと云ふのである、風教から見れば勿論惑ふところはない、藝術の至上主義から云つても、その制作目的が藝術的でないといふことでやはり問題はない。

西洋では古神話を借りて性に關する藝術を多く作つてゐる、ヴイナスだのレダと白鳥だの、ニンフとフォーンなどを材として幾多の名匠の殘した名作は美術館にも收められて居るが、日本の猥畫もあぶな繪も、外國の本には收載されてゐる、けれどもそれは國情が違ひ、習慣が違ふのだから已むを得ないことである。たゞ皮肉なことには日本のこの種の作は誰のでも平常の同じ人の作より必ず良い繪が多い。

若し日本でも信長、秀吉時代に開けた外國との交通がずつと續いて居たら、十五世紀前後の美人畫に接する機會もあつたらうし、性慾の玩弄物でなく愛慾を藝術化し得たであつたらうことも想像される。

猥畫系統のものを藝術として認容し難いものは、やはりその制作目的と、藝術化の意圖のなかつたのに歸する、とはいへ彼等は藝術であるの無いのと云はれることを定めし地下で迷惑に思つてゐることであらう、野暮な奴だと嗤つてゐるだらうと思ふが、良き繪の闇から闇へ葬られてゆくのはやはり惜しい氣がする。

五

浮世繪には美人畫と社會畫との二面がある、いづれも藝術として多大な立場に立つて來たので、立派なものもある代りには甚だしく低級なものも多い。社會畫のことは今言及するところはないが、日本に於ける美人畫の進んだ路はこの派の動きに見るより他はない。この派の初期から師宣、長春あたりまでは貴族の玩賞するところであつて、庶民

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

民の藝術となつたのは版畫が行はるゝやうになつてからであることは今では誰も知つてゐる。

桃期のものには貴族を寫したものもあるし、遊女、風呂屋女、當時のモガを寫したものも多い、今日傳はるところに依れば、後者の方がずつと多い。

彦根屏風の如きは何と云つても本格の正しい美を有つてゐる、けれども遊女を描いたためでもあるか遊蕩的氣分はかなり濃厚に出てゐるが、これがあの儒教のやかましい德川時代に、お大名の名物として傳はつてゐたのは面白い、併し今日までマクリで傳はつてゐたのはそんな遊里で屏風にして飾るのを憚つたのだらうか、それとも餘り氣を廻し過ぎた解釋かも知れない。

下村觀山氏藏の宗達といふ二曲もいかにも豐かなものだ、今は浮世繪の批評をするのではないから多くを云はぬが、一體桃期の美人畫にはルネッサンスの美人畫のやうに陶醉的甘味に誘ふものがない、却つて一味の苦澁をさへ味はされる、然してそれが桃期浮世繪の一面のよさであることゝもなる、戰國の後を受けて、小牧、長久手の昔噺しが浮世繪屏風の影にきこゆるやうなところに時代の興味もある。

我々は傳説や何かで考へて、淀君などを非常に絶美なものに頭の中で作つて了つてゐる。クレオパトラや楊貴妃と三幅對にでもするやうな氣持でゐる上に、その背景を成す桃山時代といふものをいかにも豪華この上もないものに想像してゐて、狩野長信筆の六曲屏風、あれは別に淀君をかいたのだといふ證據はないが、圖様から推してこの推斷はそんなに違つてはゐないと思はれるが、あれなどを見ても藝術として實に立派なものであるけれども、もつと派手に、もつと絢爛な美を欲するやうな欲望が禁じ難い

元祿にしても西鶴の小説の方が師宣の繪より美しい。

一體に日本の美人畫では艶麗といふ味を濃厚に出してゐるものは至つて乏しい、懷月堂一派や鳥居一派を算へて見たところで、桃期浮世繪の尤品、松浦家の和蘭陀屏風などは先づ割合にその味の濃い方ではあるが、チチアンだの近くはルノアールのやうなところに比べるとぐつと地味だ、これは國土と人情の然らしむるところであらう。艶麗な筈の美人畫でさへ日本のものには澁味といつたふうの味がある、小さい甘さはあるけれども、大きな甘美の境には未だ到らぬところがある、澁味は日本の藝術の一つの良い味であるのに異議はないが、もつと徹した甘美の陶醉境が開けてもよいと思ふ、例へば土田麥僊氏にもつと若さを與へたいやうた。

隣邦支那の古美術を見てもさういつた境地は寫されてゐない、顧愷之の女史箴、徽宗皇帝の搗練之圖などから降つて明の仇英のものに至

るまで、どちらかといへば清楚の美を傳へてゐる、中では搗練がやゝ豐麗の美を寫してはゐるが、文藝の美人禮讃に比してはやはり物足りない氣がする、詩を讀んで想像する空想の美に限りはない、否でも應でも形をそこに現はさねばならぬ繪畫の方はどうも難かしい。

六

春信の美人はやゝ病的であり、優しいデカダンス味はあるとしても、淡きあきらめの世界、清淨にして閑雅な畫境、あの畫境を推し進むればシヤヷンヌの聖ジエヌヴヱーヴ巴里を護るの圖に往くかも知れない、更に進んではシモネ、フラアンジエリコにも通ずる一路がある。

春信が形に現はした畫境には限りがあるが、その未だ現はれざりし畫境を想像すれば何處までも、無限に美は求めらるゝ。

遺憾なことには浮世繪作家の多くがさうであるやうに、春信も直接自分の作といふものを殆んど殘してゐない、一つの綜合藝術であるところの版畫を通じて知るのみなのは、たとへ版畫は浮世繪の眞の生命だとする議論を認めるにしても遺憾至極なことである。

彼の色摺もの―錦繪の名の起る始めだといふ言ひ傳へさへある―を見ると、褪色したものに言ひ難い味を感ずるけれど、保存の良いものには私はさほどに感銘を有たない。墨摺もの、素描ともいふべきものから私は無限の美の世界への誘ひを受ける。

春信が誘つてくれる美の世界は、決して美人畫のみの境地ではない、云ふべくんば繪畫のみの境地でもない、そこには多分の詩が含まれて居り、前に云つた健康の美も、愛慾の美も殆んど飾るゝところがないかにも見ゆる。

中性的な觀世音か、處女型なマドンナか、その中に含むあるものを具へてはゐるが、私が春信に導かるゝところは、人體が自然の中に融け合つてゆく、何處までが人の美、何處までが自然の美、その境涯さへも分ち難いある境地、漱石の「草枕」の中の語を借り來れば乃ち非人情の境地とでも云はうか。

私が本郷に居た時分朝夕不忍池畔を散歩するのを例としてゐた、夏の朝、觀月橋を渡ると手の屆くやうな眼の前にいつも蓮の花を見るふくらんだ蕾もあれば、今咲いたばかりのもあり、ガサリと崩れて一片二片、銀露を湛えた蓮の葉の上に散つたのを見ることもある、支那の人がこの花を愛するのを洵に故あることに思つた、清艶―春信の美人、病癒えて浴みから出たら正にこの花のやうであらうと思つたりした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

白い蓮に清く氣高い、これこそシヤヷンヌの聖女に接するやうであるが、紅蓮の露を含み、新たに蕾を披いた時の艶やかさは、これはシヤヷンヌのものではない。

七

日本の美人畫には旺盛な肉體を描いたものがない、前に豐麗の美に缺くるところがあると云つたのを繰り返すやうではあるが……リユウベンスのやうな隆起した肉體感は、勿論裸體畫でなくても見當らない、リユウベンスのは健康美といふよりは性欲的の美で、北齋なら比較が出來る、北齋は九十の高齢を保つ程の旺盛な肉體を自分自身が有つてゐたからでもあらうが、精力そのもの丶あらはれのやうである。淫婦、毒婦タイプで、江戸末期に悦び迎へられた變態美の大ものである。

さういつた美を擧ぐれば、溪齋英泉、五渡亭國貞、明治に入つて月岡芳年がある。

皆それ〴〵背景にある時代が浮き出して見えるやうで、英泉の描く淫賣婦、國貞の描く水茶屋女や蓮葉な町娘、芳年の描いた權妻などいづれも珍重すべきものであつて畫品の高下を説く場合でない。

卑俗は正に卑俗だけれども決して非藝術だとは云へない、あれはつくりものでなく藝術である、凡て卑俗の美であれただ單に美を感ぜしめつつものは偉なりとすべきである。

美人ポスター、安來節、劍舞、時代映畫と混同すべきでない。

旺盛な肉體といふよりは均整のとれた健康な肉體を描いた第一人者としては清長を擧ぐべきである。

清長の畫はその當時でも一世を風靡したものであつたが、百年に餘る今日でも、本格的な美人畫として第一に推すものは彼を措いて他に無からう。

肢體はいかにも伸びやかに、頽廢的なところが少しもなく、山城の淨瑠璃寺の吉祥天女の木像の肩から腰へかけての肉付きの線から受ける卑しからぬ肉體感、清長の線もあれと同じものを有つてゐる、過不及なき成熟の美。

たゞ清長の描く處女はあまりに成熟に過ぎて娘らしくないが、その年増こそ日本美人畫の至寶である。

女中を伴にして御高祖頭巾を冠つた年増が風に吹かれて冬の巷をゆく、縮緬の頭巾と共にすべりのよい絹裏の褄、風に亂れてすんなりとした彈力に富む脛を見せても、その媚めかしさは決して賣色の媚でない。からかふ者があつたら平手で横面をピシヤリとやる意氣がある、生つ粋の江戸前の俠の美、縞のきもの丶直線も仇ならず、これは一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

枚繪の「風流東の錦」に依るのであるが、彼の作るところはいつも構へが手堅く、大々としてゐて、いろけはあるが色つぽくはない。歌麿のものになると娘も女房も娼婦型で、誘ふ水あらばの風情なきものはないが、清長は遊女を描いても、子供に見せたら姐えちやんとは呼ばず、小母ちやんと呼ぶだらうと思ふ眞實さがある。

敢えて本格にこだはるわけではないが、何處から見ても推しも推されぬといふところであらう。

歌麿の美は頭からデカダン趣味である、その美はあまりに人に知られ過ぎてゐて、新たに加ふべき考へもない、久しい前に永井荷風氏の隨筆で讀んだものが、歌麿を傳ふるの名文だつたことを云へば足る。

八

私達現代に生を享けたものは、女性美藝術を展望する上に於いては、後代は知らず、前の時代には夢想だにしなかつた惠まれた時に出會してゐる、以上の如く東西先人の遺した仕事を眺め然して當代の女性美と、それに基調を置いた藝術とを一覽すると、當代の女性美を寫せるものについて未だ〳〵望むところが多い、好惡とり〴〵なりとはいへ彼のいはゆるモダンガールも善かれ惡かれ今は我々の藝術の對象として存在せることは事實である。併し未だこれを渾然として藝術化し、然も時代の粋を餘すところなく表現したものが出ないけれど、これは寧ろ當然なことゝも思はれる。

挿繪のやうな即興を特色とする仕事には、割合に心易くさういふ印象を現はすことが出來るけれども、大作として扱ふには、あまり遠く隔たらぬ程度の將來に於いてその出現を期待すべきである。

明治に於ける女性美、大正に於ける女性美今日はそれの完成につとむべき時であると思ふ、但しこれは女性美を風俗畫に結びつけた時のことで、前に記述したやうに思ひ〳〵の境地に立つて、女性から受くる美の觀念をいかに表現しようとも、それは作家各々の自由であつて、現代に生れたるものは現代を寫せと云ふのも、私から云はせれば淺見だと云ふを憚らない。

久しい前の文展に竹内栖鳳氏の「あれ夕立に」といふ題で、京の四季を舞ふ舞妓の瞬間的の動作を寫したものがあつた。

あゝいふ作例は美人畫としては誠に珍らしいことで、ドガは好んで踊り子の瞬間的の美を描いたが、竹内氏のあの繪はそれよりも更に刹那の美を捉へてあつた、あゝいふやうな瞬間の美を多角的に表現的に示さうと企てたものは滅多にないようである、もう十數年昔のことだのに拘はらず、その時受けた衝動は今に生々しく印象をとゞめてゐる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これも數年前になるか、佛蘭西大使の東京博覽會だかに出した「指」と題する繪は、昨秋帝展に出た長谷川昇氏の「蓮池浴後」に想を得たといふ木彫と相似したところを有つたものだつた。勿論後者の方が作品は良かつたけれど、その愛慾感の強く對者に迫つて來る點に於いて傑出したことは一つであつた。

あの「指」なども愛慾感はそのまゝで然して氣品の加はらぬものだらうか、それは出來得べきことだと思ふが。

美術は云ふまでもなく氣品を尚ふ、併し世俗謂ふところの氣品はとかく人を誤り易い、俗と云ひ、雅と云ふ、その差甚だ微妙なるもので概念をもつてこれに臨むことは誤つてゐる、美人畫を鑑賞する人の留意を望むところである。

以上纏まりのない雜論であるが、作家である私自身の立脚地は上記第六節にあることを一言してこの稿を了る。

岸田劉生著
圖書教育論　◆定價三圓五十錢　送料二拾四錢

富田溪仙著
下店靜市編
溪仙八十一話　◆定價三圓　送料二拾六錢

（改造社發行）

本年と太陽黑點

山本一清

一九二四年から增加し始めた太陽黑點は、豫想の如く、漸次其の平均數が上昇して來た。今の樣子から判斷すると、本年（一九二八年）の春頃に之れは頂點に達するだらう。從つて黑點に關連する多くの宇宙現象も、其の頃、最も花々しい活躍を見せるだらう。

しかし玆に豫め注意しなければならない事が數々ある。太陽は强烈な電離ガスの大集團であるが故に、日々我が地球へ向つて、光や熱と共に、多量の電子（エレクトロン）流を放射してゐるものであるが、此等の放射は黑點の消長と正比例するものと考へられる理由が多分にある。尤も、黑點そのものがガス・イオンの旋回運動による强大な磁性を持つてゐるが、しかし、何ぶんにも彼我の距離が遠いため、此の磁性の直接な感應作用は地球に於いて認められない。しかし、黑點の影響としてはもつと間接であると同時に、太陽からの（廣義の）放射の影響としてはもつと直接な作用がいろんな形に於いて地球に感じる。例へば、地球上に於けるオーロラの異常な顯現、磁氣嵐の突發的な襲來、また、紫外光線の著しい增加など。さては、有線の電信電話系統に不意の機能妨害が起り、又、無線系の全世界通信網に「雜音」が增し加はると共に、時には「火星からの通信か？」と思はせるやうな不思議な感能がラヂオ技師たちを焦（いら）だたせることなど。――此等の諸種の現象は皆明らかに『黑點活動』に伴なふ太陽放射の變態として、來る一兩年間、特に注意深い世界人たちの心を惹くであらう。

此等の事は、決して自分の單なる推量で無い。右の何れの現象も、既に夫々或る程度の異常性を、現に今（一九二七）年に現はしたのであるから、本年此等が今一層顯著となるであらうことは、可なり確實性のある豫測である。

しかし、世人よ、決して怖れ驚くには當らない。電氣通信の多くの方面にたづさはる人々を除けば、右に記した諸現象は、皆頗る深い興味と珍奇とを樂しむべきものであつて、微塵も之れを驚怖すべき筋合ひのものでは無い。殊に、北海道は勿論、新潟や福島邊に於いても見えるかも知れないオーロラの美々しい姿は、總ての人が之れを競ひ眺めて、友人への誇り話の種とすべきものである。

之れに反して、太陽黑點が、一年四季の寒暑風雨など、一般の氣象現象に影響を與へるか否かといふ問題は今尚ほ悉く學的論究の渦中にある未決のものである。此等について世に多少の結論をつかみ得た學究者も無いでは無いが、其等は皆非實用的な學術範圍內の興味に止まる。一般社會の人々のために此等の論結が全く役に立たないものであることは、過去一兩年來、或る種の學者たちの「豫言」なるものが、皮肉にも事實によつて悉く裏切られてゐるのによつてもわかる。――約して言ふ。太陽黑點の影響として、樂しく面白い電磁現象は必然にある。しかし恐るべき天候異變の週期は頗る不確實である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

調練圖繪

櫻井忠溫

一、兵隊屋敷

東京深川越中島が陸軍の練兵場だつたなどゝいつても、知つてゐる人はさう澤山はない筈である。

日比谷公園が練兵場であつたことすら、もう六十に手の屆く人でなければ知らぬわけである。

私はこのころ、何といふことなしに集めかけた、古い東京地圖や錦繪を見てゐると、東京の移りかはりがハッキリと頭に浮んで來るやうな氣がする。殊に練兵場や兵隊屋敷のあつたところを見ると一層この變化が明かになる。何も練兵場などを引出すにも當らぬやうだが、「東京」が打建てられる時西の方から引越して來たのが何かといふと、先づ兵隊屋敷だつたので、今日の東京を見るのに、練兵場なり、兵隊屋敷の跡をたづねることが、調法だと思ふのである。

明治二十三年一月版の東京地圖を見ると、小石川水道橋内、越中島、日比谷、今の帝劇裏界限、青山原に練兵場がある。二十三年以前のものと大した違ひはないやうだ。それが翌年一月の改訂圖には、日比谷はもう公園になり、水道橋内の練兵場は無くなつてゐる。

明治十三年三月版「東京區分明細圖」によると、青山練兵場といふものはない。今あるかないか知らぬが平長町などゝいふ町名が書いてある。

そして一高界限にも廣い陸軍用地があり、調練場に使はれてゐたやうである。

宮城の周圍は兵隊屋敷で固めてゐた。右の地圖によると、櫻田門、馬場先門内、二重橋前の今の廣場には、近衞騎兵、鎭臺砲兵の兵營があつた。

帝劇がもと陸軍裁判所、その裏手、池田備前侯の邸が陸軍省であつた。備前侯の一枚板の欅の門扉が名代のものであつた。今の陸軍省は十年に建築を始めて十二年には引移つたやうな古老の話だが、十三年の地圖にまだ備前侯邸にあるやうになつてゐる。海軍省と兵學寮とは月島にあつて濱離宮と向ひ合せになつてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日比谷練兵場に於ける觀兵式の圖



菊の御紋章ある椅子に召されたるは明治天皇。背景右手三階建洋館は今の參謀本部。

今の東京會館が鎭臺騎兵營。東京驛あたりに歩兵營があつた。日比谷操練所の周りには近衞兵營、陸軍教導團などゝいふものがギッシリ建つてゐた。

教導團は下士の養成所で、明治六年に兵舍が霞が關に出來た。十九年國府臺に移つたので取拂はれたが、今でもそのころの赤煉瓦の家が一棟殘つてゐる。

「こゝは陸軍教導團、堂々五尺の益良雄が、冬は蹴られて雪に泣き……」といつた歌が有名であつた。

十七年一月、二代廣重の「日比谷練兵場陸軍諸隊整列式之眞圖」には、明治天皇が御椅子に腰を下ろされ、諸隊の分列を親閲して居られる。その背景に赤煉瓦の教導團——菊花御紋章のついた建物が並んでゐる。その右に參謀本部が今のまゝの姿で立つてゐる。

明治二十一年五月版「東京全圖」によると、もうこれ等の兵隊屋敷は皆取拂はれてしまつてゐる。たゞ教導團のみはそのまゝになつてゐるが、十九年に全部引越したものが、地圖の上には殘つてゐる。教導團は三十二年十一月に廢止された。

二、越中島調練

越中島では明治三年九月八日、鹿兒島、山口、高知、佐賀の四藩兵の操練を親閲された。

その時の達しの中に「練兵の節大砲は玉込、小銃は空發の事」とい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



天幕の後の後方は教導團生徒舍。

ふ一節がある。大砲玉込とあるのは、實彈を込めて、海の方を向けて打つたものらしい。廣重、國貞の錦繪を見ても大砲方は海岸に並べて打つてゐる。

ところが、この日俄かに大時化となつて、海水玉座を浸さんとするに至つたので、調練を中止して御還幸あらせられた。途中新大橋の危險から、一時小名木川の高知藩下邸へ御立寄になつて、あらしの靜まるのを待たせられた。

十二日になつて、前日のやり直しとあつて、やはり越中島で調練があつた。然るところその日は御風氣のため行幸のことなく、三條右大臣に代閲を仰付られた。

天皇の調練親閲といふことは、明治二年五月、本丸跡で諸藩の調練を親閲されたのが最初のやうである。

三、洋式調練

陸軍といはず海軍でも、その發祥地は大阪である。大村益次郎の意見で大阪に兵部省（陸海軍省）陸海軍兵學寮、營所などを設けた。そして佛式調練をやるやうになつた。

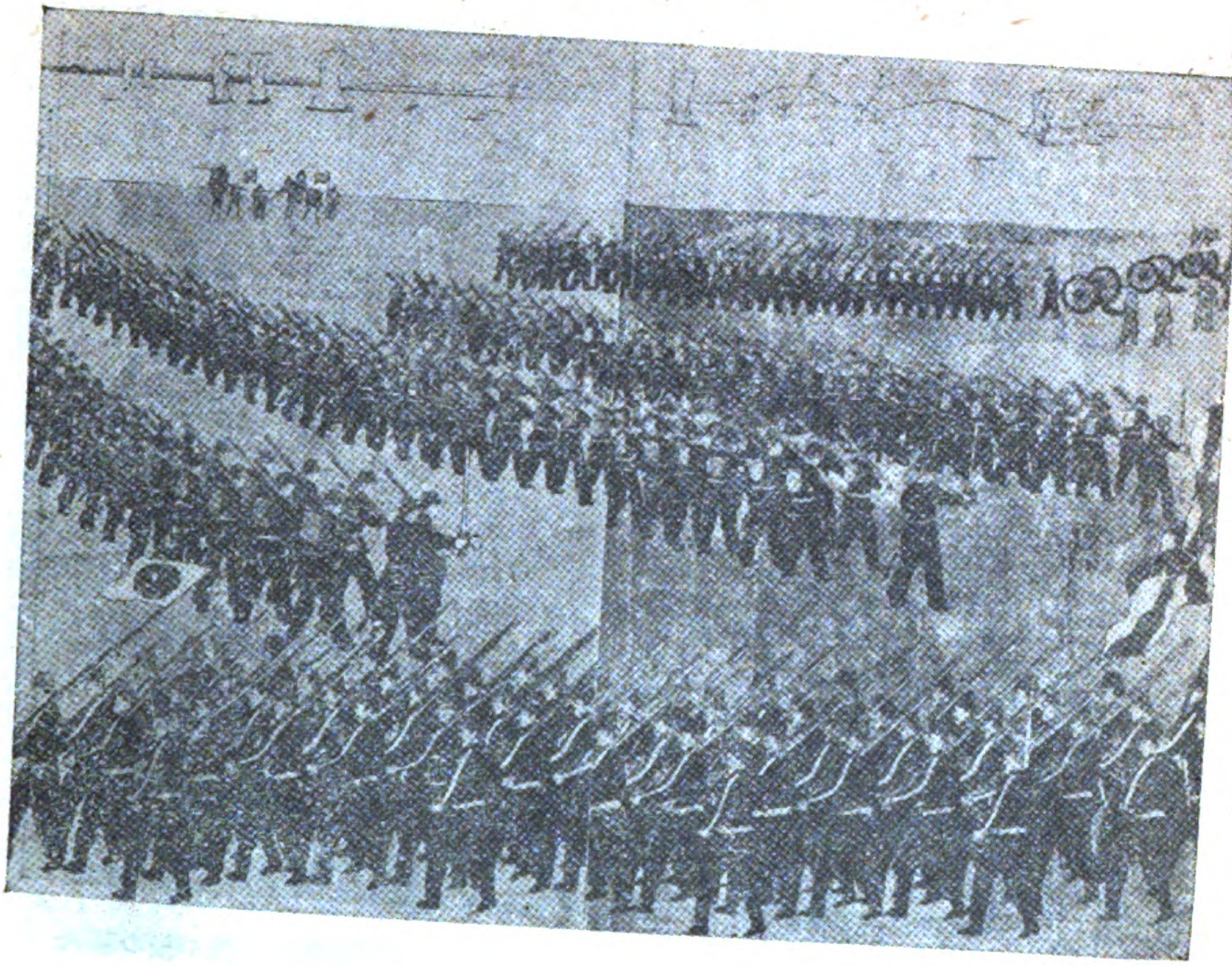
東京御遷都の翌年即ち明治三年の四月、駒場野の原で各藩の調練を親閲された。越中島より三月早い。その時やつた調練といふのが各藩まち〳〵で高知、函館、彦根、米澤が佛式で、鹿兒島、佐賀、岡山、名古屋、熊本、などゝいふ主な藩が英式、水戸、前橋、福岡、などゝいふのが蘭式であつた。ひとり紀州藩だけは獨逸式であつた。

ピーヒヨロオツトツト、々々々々といつたやうな樂隊を聞いた古つはもの、今日幾人生き殘つて當時を回想するであらう？もう古い古い昔になつたものだ。

「諸隊熟練、滿點に候、益々以可竭力候」といふ有難い御沙汰を賜はり、佐賀の池田彌一聯隊長として、天杯を戴き、上々の首尾で、駒場野の調練が終つた。これが兵隊らしいものの調練として見とめられた最初のものである。

其の時の命令書に「自藩の旗章一切差留めの事、禮式並運動の節は士官以上拔刀にて指揮可致事、兵隊一統沓相用可申事、從者一切召具し申間敷、騎馬士官は口取一人に限り候事、諸藩銘々飯器用意の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



明治三年越中島調練天覽の圖

芳虎筆

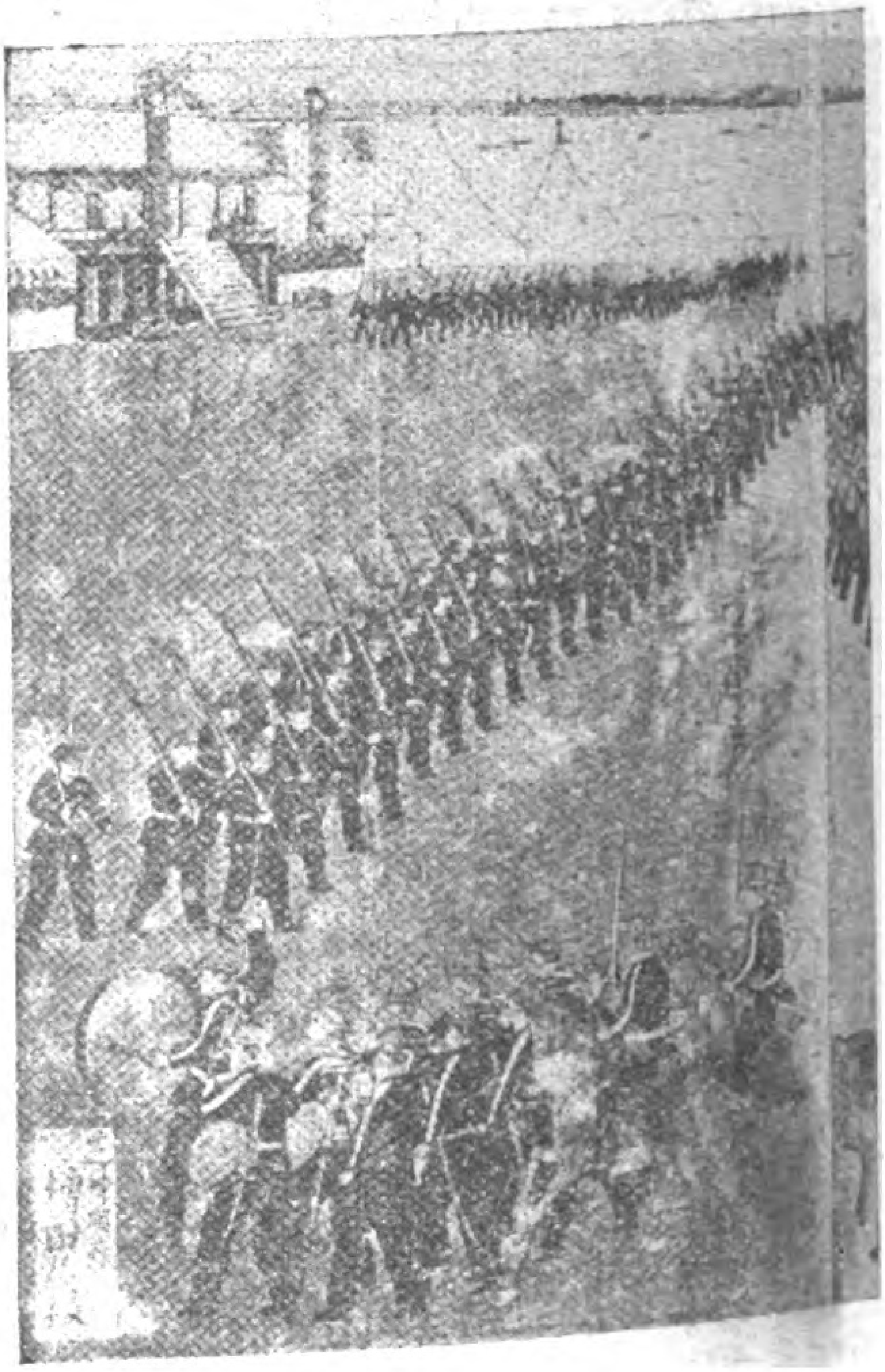
事」などゝいふ箇條がある。

この日、一小隊を六人と定めて、髻に赤紙を結付けさしたなどは珍であつた。「令を不請して發砲禁止の事、兵隊休止の節は可成丈け右側に整列し、道路通行差支無之樣心懸可申事、總而途上田畑等蹂躪すべからざる樣堅く可相戒事、用事有之候共猥に隊伍を離るべからず候事」といふ注意書もある。進止總て號砲で定められ「號砲一發を以て止り、二發を以て相進候事」だのといふ命令さへあつたやうである。

東京ではその洋式調練が、とても珍しいので、調練場にはいつも見物の黒山を築いた。筒袖ダンブクロを着た兵隊が鐵砲を擔いで一人の號令で手の平を返すやうに動くので、見るものたゞ驚異の眼を見張つた、と古老の話である。

當時出來た錦繪にも、兵隊が得意氣に市中を太鼓をたゝき〲歩いたりする繪がある。二代廣重あたりも調練繪を澤山書いてゐる。芝増上寺大門のあたりに、竹垣をめぐらし、見物は土下座して見物してゐる繪もある。「御小休」といふ高札が立つてゐるところは、そこで兵隊が一時休憩したところと見える。廣重の書いた調練圖には赤地に菊花の紋のついた旗を長い桿の先きにつけて練り歩いてゐる。さういふ旗があつたのか知らぬが、「御國旗」といつて日章旗を軍旗として用ひ、駒場野でも、始めてそれを使つた。しかし、そのころの日章旗といふのは、日の丸から劍尖のやうに後光が出てゐたので、一寸金米糖のやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



な形の日章であつた。後にその後光が逆になつて、今の軍旗や軍艦旗のやうな、光線が先き太りの日章になつた。

陸軍の徽章が星であるといふことについて、其の出所がしかとわかつてゐない。佛式帽の天つ邊に三角形を重ねた星形のモールが縫ひつけてある。それが大將が六つ、中將五つ、少將四つ、佐官三つ、尉官一つといつたやうなことになつてゐる。その式を見習つて星形を陸軍のマークとしたのではないかと思ふ。將官、以下の帽子のモールも全く佛式そのまゝになつてゐるやうだ。今でも將校の正帽の天つ邊に星形のマークが、一つ取りつけてゐる。

星章は明治六年に始めて帽子の徽章にした。それまでは日章であつた。

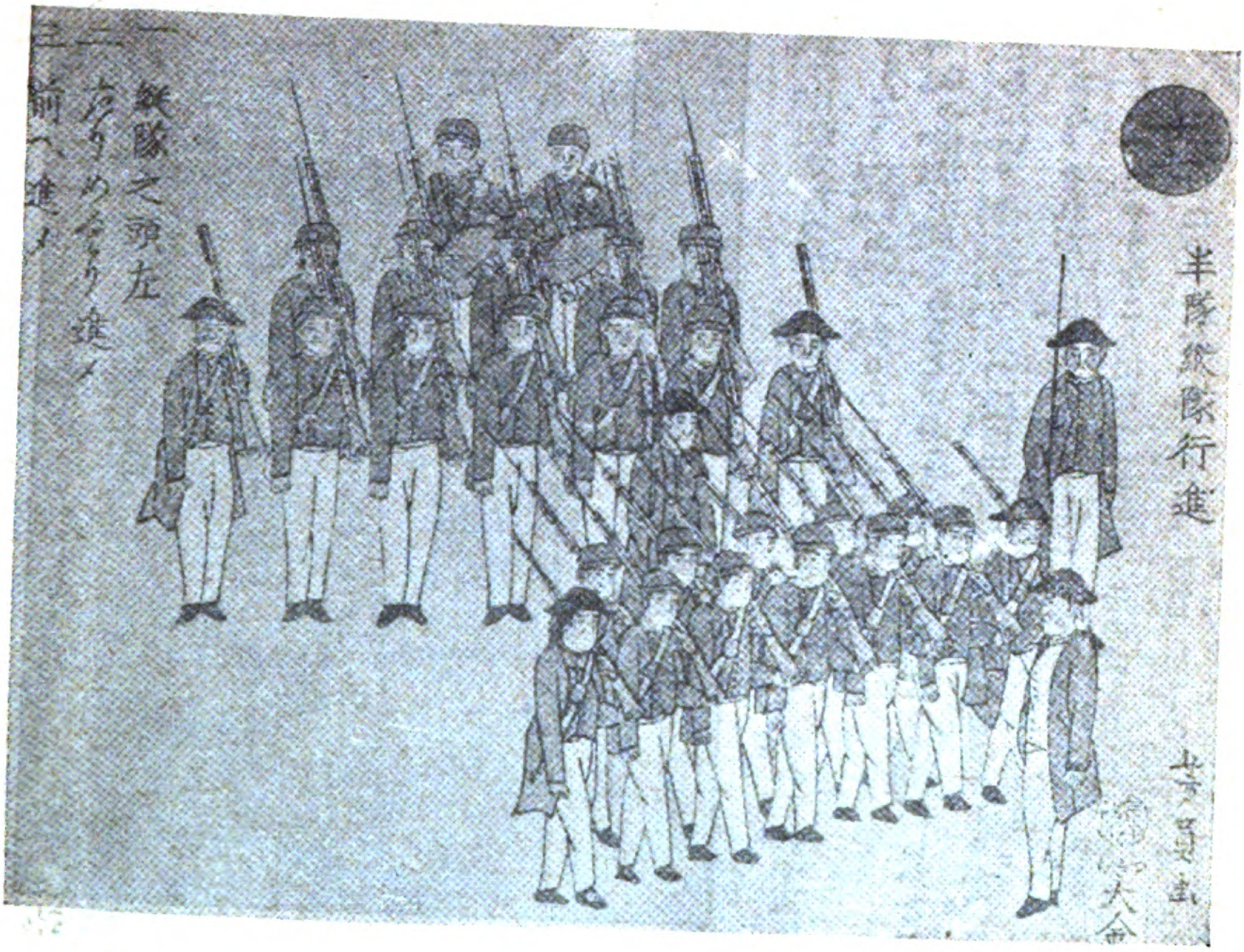
籠目形、星形は魔よけのしるしで、ファウストにも禁呪の印となつてゐるやうだ。安部晴明は魔よけとして籠目形を使つたといふし、赤ん兒の襁褓にこの紋を縫ひつけて、鬼の來ない禁呪にしたといふことである。ペンダラムマ（五角形の意味）が魔よけの印として、ファウストでも惡魔を封じ込んだことになつてゐる。佛式帽に取りつけてある星形も必ず魔よけであつたらう。それを眞似た者が知つてやつたかどうか知らぬが、之れが日本陸軍のマークとなつたのも奇である。

四、珍號令

廣重の錦繪を見ると、兵隊の中に赤や紫のフロック形の服を着てゐるものもあれば、ブッサに、陣笠といつたものが交つて居り、中には赤毛布をマントのやうに、つまり「赤毛布」ソックリの兵隊もゐる。廣重がこの行列を見て描いたのかどうか、浮世畫家のことだから、アテにはならぬが、當時の服裝を調べて見ると、大した違ひはないやうである。

筒袖、タッツケ袴は慶應から明治にかけての軍服であつた。文久頃の繪を見ると、大ぶん様子は筒袖股引風になつてゐる。そして背に「忠肝義膽」だのといふ大文字や、骸骨の繪が書いてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



英式調練　芳貞筆

芳貞の描いた岡山藩の「調練の圖」には白い垂れのある頭巾を冠つてゐる。それは帽子の上に冠せたものらしい。臺灣征伐あたりで着た日よけの頭巾のやうな。

廣重の繪には消防夫の冠るやうな黒頭巾を、國貞の「越中島大調練之圖」には、シヤツポを冠つてゐる。廣重のには兵隊が皆朱鞘の落し差とある。

鐵砲の荷ひ方は文久頃は天秤棒のやうに擔いだり、銃の臺尻を上にしたり、右に擔ぐものもあれば左に擔つぐものもあり、といふ風で、背に日本刀を負ひ、肩に鐵砲を擔いでゐるといふ珍な恰好であつたやうだ。

鐵砲の擔ひ方は、古老に聞いてもよくわからぬが、佛式は今のやうに右に、英式は左に擔いだものでないかと思はれる。芳貞の描いた「小隊運動早見」といふ小さい折本がある。それは、小隊に二人の鼓手がついてゐるから、英式だらうが、それには鐵砲を左に擔いでゐる。芳虎の描いた明治三年越中島の調練を見ると、高知藩は右に、鹿兒島藩は左に擔いでゐる。高知藩は佛式で、鹿兒島藩は英式であつた。

號令もよくわからぬ。しかし芳虎の書いた「調練早合點」によると（これは佛式調練らしい）玉を込めることを「込矢を筒」、狙ふことを「小隊狙へ」休むことを「其場に休め」といつてゐたらしい。

芳貞の英式調練には「小隊向ひ進め」（小隊が正面に歩くこと）「小

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

隊向ひ進め」（小隊が二つの横隊になつて前へ進むこと）だのといふ號令が書きつけてある。

私共でも行進間停止する時「小隊ハルト！」だのといふ號令を聞いたものである。大山さんの彌助砲時代には「大つるべ打たつしやれ」だのといふ號令が殘つてゐたさうだから、この直譯號令がとても新らしい珍らしいものであつたに違ひなかつた。

五、あばれもん砲

持つ鐵砲といふのがまちまちだが、とも角も之れで立派に調練になつてゐた。明治四年にお上で引上げた時には洋式銃十八萬挺といふものがあつたくらゐどこといふことなしに入つた鐵砲を各藩で持つてゐた。

鐵砲にはゲペール、ミニエー、エンピール、シャスポー、アルビニー、マルチニー、スペンセル、ツンナール、といつたやうな名のものがあつた。皆口込め銃であつた。それを元込めにしたのは七年ころのことで、フランス人ルボン大尉の調査によつて鎮臺の銃を統一してからのことである。たとへば、東京鎮臺はスナイドル、大阪鎮臺はエンピール、ツンナールといつた風になつた時であつた。

これ等の銃は今でも中學生が引づつてゐたり、映畫撮影所の隅などに見出される。

大砲には四斤綫砲、といふ先込めが幕府以來唯一の大砲であつた。鳥羽伏見の戰爭にも大山さんが砲兵隊長として四斤砲六門一小隊を率ゐて出陣した。

その後大山さんが新式砲を發明した。長四斤砲といつて四斤砲同樣青銅砲だが、西南戰爭には官軍にも賊軍にも使つて、お互大にこれに惱まされたものであつた。長四斤砲の發明は明治三年であつたが、その後大山さんは十二斤臼砲といふ大きな大砲を作つた。これを一名彌助砲といつてゐる。筆者は分らぬが、鳥羽伏見の戰爭に四斤砲の奮戰を描いた錦繪がある。それを見ると、陣笠や黑い頭巾を冠り、黑い筒袖股引を穿て、コザックの帽子のやうな刷毛をつけた棍棒を振り廻して



慶應年間の服裝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



少年鼓手、銃手、　芳虎筆

ゐる恰好が、どう見ても消防夫としか取れない圖である。

德川幕府の末世は、丁度歐洲ではナポレオン三世の全盛時であつた。

ナポレオンは好意を幕府に寄せ、十數名の將校以下に四斤野、山砲各一大隊分、シヤスポー銃一聯隊分をつけて寄越した。これは當時佛蘭西の最新式のものであつたが、ナポレオンが英國と提携して淸國を伐ち、安南を占領した凄腕に對して、何だかくすぐつたいものであつた。明治三年ナポレオンは獨逸に敗れたがその寄贈の四斤砲は明治十七年頃まで、唯一の大砲として「あばれもん砲」の偉名を取つてゐた。今は九段遊就館にある。

六、手向けの軍樂

ラツパといふものは三百年前、獨逸マグデブルクの要塞で敵味方共ラツパを吹いて突擊し合つたといふのが始まりとなつてゐるやうである。

私の持つてゐる調練繪には喇叭だけで練兵してゐるのがない。國貞の「越中島大調練之圖」には着音機のラツパくらゐな大きなのを吹き〱歩いてゐる。

既に慶應二年、幕府は、お傭教師として佛蘭西から將校以下十四名を聘し、横濱で步騎砲兵調練を始めた時、三十二名の喇叭卒を養成したといふ記錄がある。この喇叭卒には苗字帶刀御免、年俸二十五兩を賜はつたとある。

調練繪には、よく子供が洋式の太鼓を叩いたり、笛を吹いたりしてゐるが、少年鼓手といふものは藩の調練には確かにあつたと見えて、芳員の「調練之圖」にも「小隊運動早見」にも二名の少年鼓手が太鼓を叩いてゐるやうになつてゐる。

樂隊として置かれたのは十九年近衞が始まりであるが、鹿兒島藩では古くから樂隊と名のつくもの五十人を教導團へ入れて養成してゐた。

樂隊で一つの哀話を作つたのは、西南役の九月二十三日いよ〱城

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山縣攻擊の命令が發せられた時のこと。それは二十四日午前四時號砲三發を相圖に各隊一齊に進擊するといふ時であつた。

中秋の明月は淡く白く陣營を照らし、寂として音はなかつた。

この夜のことである。官軍の陣地たる大明神山の頂きより、時ならぬ軍樂が靜かなる空氣を震動さした。

半歲以來大砲小銃の響きと、突喊の聲より聞かなかつた將士、敵も味方も壘壁に凭れて、その妙へなる音樂に聽き惚れたといふことである。

この樂隊は、官軍が陸軍大將近衞都督參議の要職にあつた西鄉隆盛への別れの軍樂で、山縣參軍が鹿兒島灣にあつた海軍々樂隊を招致して、惜別の志を表したものであつた。

重圍の中にあつた隆盛等は皎々たる月光の下に、手向けの音樂を聽きながら、この世の名殘りと心行くばかり耳かたむけたであらう。

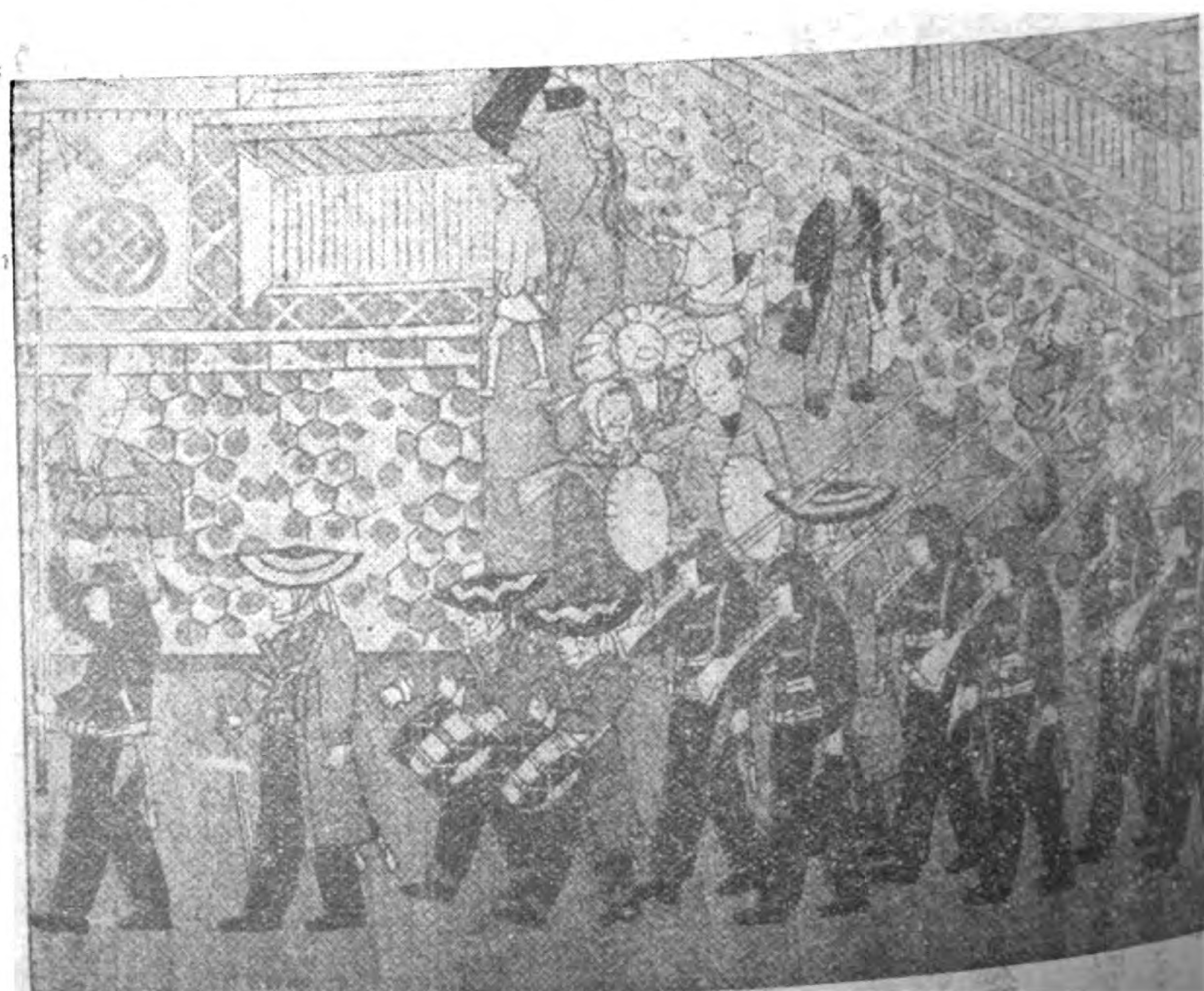
戰場での軍樂吹奏は、日本ではこれが始めてゞあるさうだ。

七、佛式より獨逸式に

聯隊をレジマン、步兵大隊をバタイヨン、騎兵、砲兵大隊をエスカドロンなどゝ日本式洋語を使つてゐた。

そのレジマンの演習が明治六年四月に鎌倉であつた。兵數千三百人、總指揮官曾我少將。

演習銃はシャスポー、空包二萬發。



霞ヶ關今の外務省の門前を通行の兵隊　廣重筆



明治十三年七月大阪、名古屋鎮臺の對抗演習

陸軍大演習の最初ともいふべきものである。大隈參議の馬上姿も見える

防禦軍が鎌倉八幡を占領し、攻撃軍が「主上御開戰の合圖」にて攻撃を始めた。御野立所は鎌倉八幡にあつた。攻撃軍の一部が防禦軍の後ろに回はつたので、防禦軍が敗けといふことになつた。「オードラボー」の號音にて云云などゝいふ記錄もある。

同じ月の二十九日には、明治天皇親ら近衞兵を率ゐ、千葉縣習志野が原（當時小金が原）にて調練を行はせられた。近衞都督西鄕隆盛が大兵肥滿の體で、天皇に扈從した。

天皇には天幕露營まで遊はされ、夜中雨がひどく漏るので、御起立のまゝ夜を明かされたといふやうなことさへあつた。

十三年七月名古屋、大阪鎭臺の對抗演習が伊勢四日市附近で行はれた。周延の繪を見ると、北白川、有栖川宮殿下の御姿も拜せられ、大隈參議の馬上姿も見える。この繪は「對抗運動大調練之圖」と銘が打つてある。大演習の起原ともいふべき演習であつた。

このころはもう調練が獨逸式になつて來た時で、佛式も英式も蘭式も漸やく影を沒するやうになつた。

それは桂太郎の意見であつた。尙武の風盛んに、國柄も人情も似通つたところのある獨逸の調練に見倣ふことにさした異論もなかつた。それは明治三年、丁度千八百七十年後で佛蘭西が獨逸に敗けたので獨逸式採用の熱も高まつたのであつたが、佛式でさへ漸く通譯が間に合ふか合はぬくらゐだつたから、獨逸式などゝいふものを取り上げやうにも、チンプンカンで手もつけられなかつたのである。

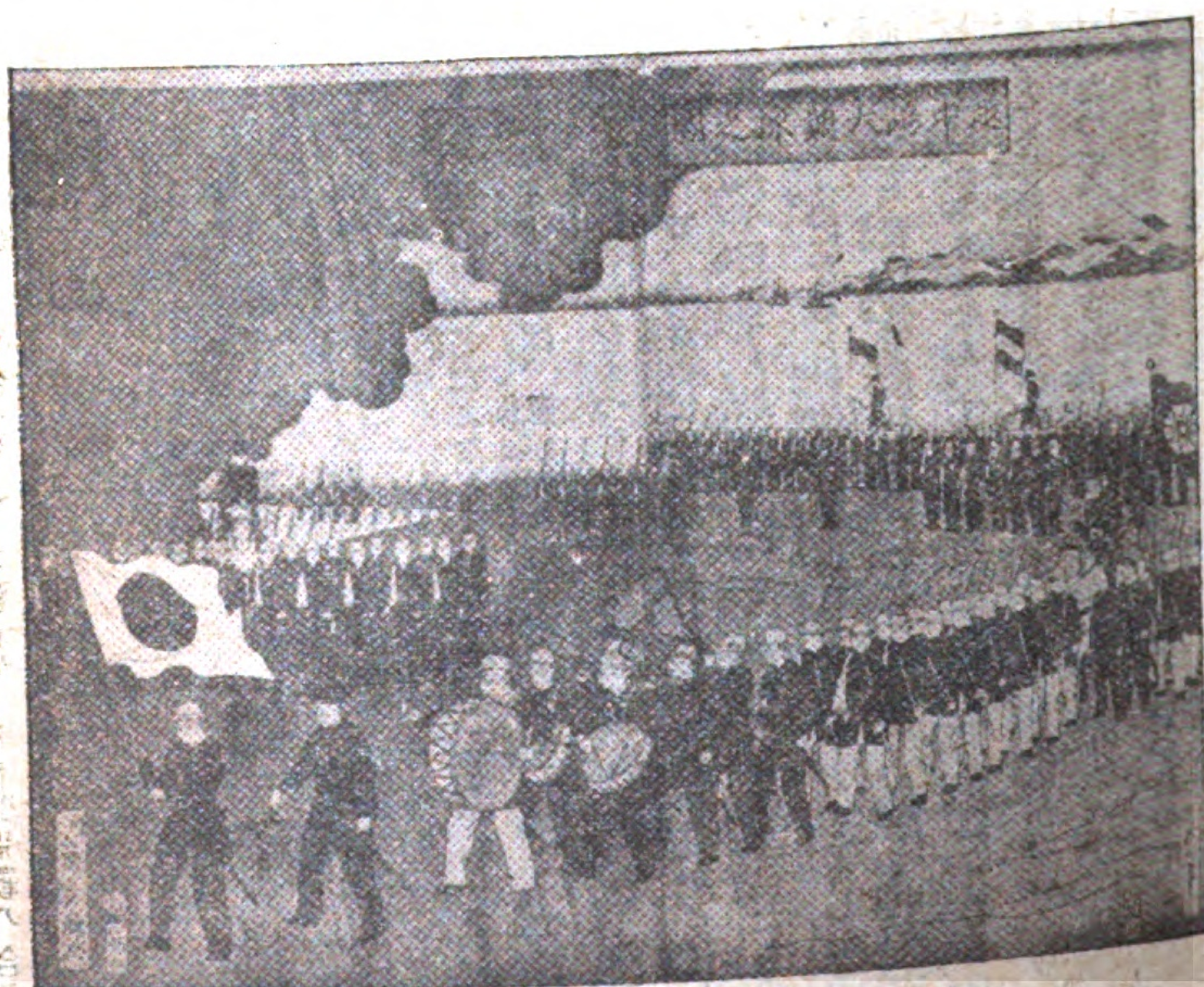
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



周延筆

西郷と山縣とが打連れて歐洲から歸る途中、印度洋で、普佛戰爭の起つたことを知り、勝負如何と互に議論し合つた時、西郷は佛蘭西が勝つといひ、山縣は獨逸が勝つといつたといふ話もある。

山縣も萬更獨逸式に氣がなかつたわけではなかつた上に、桂が十一年の末歸朝してから、熱心に山縣大山を說いて廻つた末が、大山を動かし、三度目の洋行となり、そこで、桂が盛んに、獨逸式ならざるべからざるところを見せたので、十三年にはもう獨逸式萬能の時代が來てゐたのである。「小隊二段打ちかゝれ」などゝいふ密集の戰法はなくなり、間隔を開いた散開の戰法に移り變つた。普佛戰爭で佛蘭西の密集隊が獨逸の散兵にしたゝかやられたので、結局獨逸式が新式戰法として動かぬものになり、現今に立至つた。十五年にはメッケル少佐を招聘して獨逸式戰術の傳授を受けた。



越中島練兵場に於ける調練

お傭教師によつて傳習を受けつゝあるところ　國貞筆

漱石の思ひ出（四）

夏目鏡子述
松岡譲筆錄

十六『筆の日記』

さてプロイセン號の客となつて出かけましたが、それから先きのことは、たまさかに貰ふ手紙などで知る外、人からの噂さへも聞くたよりがありませんでしたので、自然航海中や外國での生活の模樣などは私にはわかりません。其頃、私のすぐの下の妹の時子が、建築家の鈴木禎次さんのところへ嫁いで、大阪に新世帶をもつて居りましたので、船が神戸へつくと出迎へて、それから餞別に萬年筆を贈つたさうです。今でこそ萬年筆などは珍らしくもなく、酒屋の小僧さん迄が持つてるのですが、當時は中々珍らしいものでありました。それをポケットに入れて、どつか印度洋あたりでの話ですか、器械體操をしてゐたら折れて了つた。時さんによろしくとわびをいつてくれなどゝいふ手紙が來たことがありました。途々港々でよく手紙を書いてくれましたが、ロンドンについてからも、此の時さんのことでは、ロンドンの繪葉書を二十圓ばかり買つて送つてくれといつて來たが、時さんはいつも不相變の御大名だよなどゝいつて來たことがありました。

手紙のことをいへば、私が元々の筆不精のところへ、小いながらに切りつめた貧乏世帶をもつて、子供はあり、それも翌る年の正月には身二つになつて、次女の恒子が生まれましたので、何かと忙しいこともふえて、書かう書かうと思ひながらも、朝のうちは子供たちのお守りをしたり、午後になると針仕事でも出したり、そんなことをしてゐるうちに夜になつて、夜は夜で疲れて眠くなると云つた工合に、中々手紙を書くといふ時がありません。すると家郷からの手紙が待たれると見えて、ちよつとも手紙を寄さないぢやないか、どうしたのか、いくら忙しいといつたつて、たまさか手紙の一本位書く時間のない筈はないと言つて參ります。さうなると此方も、そんな事をいつたつて、これでもあれやこれやで中々手紙が書けない、さういふ貴方だつてあんまり此頃では書いて下さらないぢやありませんかなどと言つてやつたものです。すると夏目の返事が振つて居ります。おれは勉強に來て忙しいのだから、さうさうは手紙も書けないと、ちやんと最初から斷はつてあるぢ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やないか。お前に斷はりなしに手紙をよこさない。斷はつて書かないのと、斷はらずに書かないのとは大變な違ひだ。それに一々あれやこれや」とは一體何のことだ。一々あれやこれやを列擧して御覧なさいと、からなんです。そこで私も考へまして、手紙といつてさう〳〵書けるおやなしと、そこで思ひついたのが『筆の日記』です。

筆といふのは私どもの長女のことで、毎日床につく前になると、其日其日の日課の積りで、一日起きてから寢る迄の筆の行動を書きますのです。勿論甚だ面白くもないたわいのない記録で、朝起きてオバサンが何處へ連れて行つてくれたとか、こんなおいたをして遊んでゐたとか、泣いたとか笑つたとか、齒がどうしたとか、風邪を引いたとか、そんな他人が見たら一向つまらないことを根氣よく缺かさず書きました。それが一月もたつと相當にたまるのでロンドンへ送つてやることに致したのです。するとそれを大層喜びまして、『筆の日記』が非常に面白かつたと、それからは送る度に禮をいつてくれました。

この日記は一年の餘も續いたかと思ひます。どうしてやめたか私もおぼえて居りませんが、いつの間にやら中絶のまゝになつて了ひました。歸朝した時はそれが全部纏まつてカバンの中から出て參りましたが、其後どうなつたものか今では行方が知れません。

其後手紙では、彼方へ行つて見ると、此方でそれ程とも思はなかつたことが氣になると見えて、よく私の頭のハゲのこと、齒並みの惡いことなどを氣にして、始めのうちは手紙の度にそれをいつてよこしたものです。ハゲが大きくなるといけないから、頭髪を剃つてはいけないの、オウ・ド・キニーンといふ香油をつけるといゝのなどゝ申して來ましたが、とう〳〵終ひには『吾輩は猫である』の中にまで、私のハゲのことを書いて了ひました。餘程氣になつたものと見えます。

それから齒並みの惡いことも始終文句の種で、西洋へ來て見るとそんな齒並みの惡いものはないから、父から借金をしてでも留守中になほしておくがいゝなどといつて來ました。と申したところで、當時の財政狀態ではなか〳〵齒醫者通ひも出來ず、一寸通つただけでもそれがすぐに借金になるといつた工合でした。其後手紙で毎々小言をくつたものは、前にも一度申上げた私の朝寢坊です。十時頃迄寢てゐる女は、お妾か娼妓位のものだなどゝ大分油をしぼられましたが、どうやつて見ても早く起きるとあたまの工合がよくないので、自然朝寢になつて了ひます。そこで毎々こんな會話が繰りかへされるのです。

「お前の朝寢坊と來たら、誠に不經濟で、第一見ともないこと此上なしだ。」

「しかし一二時間餘計にねかせて下されはそれで一日いゝ氣持で何かやります。だから無理をして早く起きていやな氣持で居るよりよつぽど經濟ぢやありませんか。」

すると夏目が申します。

「又理窟をつけて四の五のいふが、お前のやうな細君はたんた一人だからそれでもつとまるやうなものゝ、若し娘があつたらどうする。つ

とまりつこないぢやないか。」
「その時はその時で、外の方でちやんと埋合せをつけて、私でなければ夜も日もあけないといふ風にして見せます。」
私もまけては居りません。と夏目がこんなことを申します。
「お前はそれでいゝかも知れないが、第一お前の朝寢坊で、おれがどれだけ時間の不經濟をやつてるかわからない。おれは一時間も前から目をさましてゐるんだが、細君より先に床を離れるのは不見識だから、お前が起きる迄床を離れない。これを長い間に見積ると大變な損害だ。」
しかしかうしたお小言も種々のことではありましたが、とうとう死ぬ迄この朝寢坊ばかりはなほりませんでした。

十七　留守中の生活

留守中私が居りました家は、本屋の離れで、獨立した一軒家になつて居りまして、玄關が二疊、次が四疊半、座敷が八疊で、女中部屋ともで三疊が二間ありまして、子供をかゝへて一人が住むには勿論充分だつたのです。當家とは庭一つを隔てゝ居りたから、入口は裏側に門があつて、至極便利に出來て居りました。第一何より有難いことは、父の好意で家賃のいらないことでしたが、ともかく一通りの臺所道具は備はつてゐて、自分だけの世帯を立てゝ居たのです。今の新潮社の裏側に當ります。今でもその家はありまして、少し手が入つて建て増しをして人が住んで居られます。
私達は全くの無一文で、熊本を出て來る時でさへ、旅費や何かで金が足らず、私の父から六十圓か百圓かを借りて上京した位ですから、夏目が洋行するからといつて、文部省から貰つた留學費や旅費の外に、餘分の自分の金といふものは一文も持ちませんし、又後へ殘つた私の手元にも全く小錢の蓄へもございません。
其頃の私の生活費といふのは、休職月給として下りる二十五圓が全部でして、その中から例の建艦費の二圓五十錢を差つ引いて渡されるのだから、いくら物價の安い當時にあつても心細いことといつたらありません。だから一寸した臨時費がかゝりますと、それはもうこの二十二圓五十錢の外へはみ出して了ふのです。これで家賃が出ないからどうやら助かつたやうなものゝ、子供二人を抱へて女中との四人暮らしでどうやらやつて來たのだから、隨分苦しい思ひも致しました。
そんなわけではありましたが貰らつてるのは貰らつてゐるのですから、税務署に馬鹿正直に三百圓の屆出をすると、何故急にこんなに月給がへつたのだと叱られて笑つたことがありましたが、それでも年三圓の所得税をおさめてゐたものです
一體初め洋行のきまつた時に、いかに何でも二十五圓では心細いとあつて、夏目が留守中何とか補助して貰へまいか、歸朝したら何とかするからといふことを賴んで見たのですが、さうしてそれ位のことは父が引きうけてくれるものと私達二人は樂みにして樂觀してゐたので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すが、惡い時には惡いもので、父は書記官長をやめて體がひまになり、そこへどう話が間違つたものか、其頃大方一儲けする積りであつたのでせう、内緒で相場に手を出して、あべこべに懷加減が甚だ善くなかつたらしいのです。そんなことを此方は知らう筈もないので賴んだのですが、返事は芳しくありません。そこで仕方がない、夏目も自分は自分の留學費だけでやるより外に方法はないし、私にも休職給で暫らく辛棒してやつて見てくれないかといふことになつたのでした。

そこで私もその氣になつて日蔭者のやうな暮らしを致しました。第一着物などはこしらへるどころか、普段着なんぞはいつの間にやら着破つて了ひ、あとでは自分の着物ばかりでは追つかなくなつて、夏目の無けなしの大島なんぞを仕立てなほして、いかな普段着でも新らしいものを買つて、金を出すよりはと思ひましてそれを着ました。着たら最後代りがないのですから、惜しいとは知りながらみす〳〵着破つたものです。夜具なんぞもそのとほりで、二年半たつて夏目が歸朝した時などは、それは〳〵みじめなもので、着物なんぞ今迄あつたものは殆んど着破つて滿足なものはないといつていゝ位でした。それでも私一人のことはどうやらすむのですが、子供二人には元々何もないのですから、季節季節には何か買つてやらなければならないので弱りました。

父が官職を辭さなければならなかつたのはどういふ理由からだつたか私にはわかりませんが、何でも前の大隈内閣か何かの時大分盡くしてゐたのを、内閣が代はつても、貴族院の書記官長あたりが政黨に對毎に動かされてはとかいふ批判でそのまゝ在職して居りますと、前の内閣に忠義立てしたのだから、追ひ出して了へとか、田舍の知事にさせて了へとかいふので大分迫害があり、そこで當時の議長近衛さんから、一時どいたらよからうといふことになつて辭職したのださうです。さうしてしばらく遊んで居りました。相場などに手を出したのはその時でありましたでせうが、それからしばらくしてから行政裁判所評定官といふものに任命されました。これはたしか終身官かで、隱居仕事には丁度いゝといふので、自分でも氣が向いてゐたのですが、次に末松謙澄さんが内務大臣になられた時に、是非地方局長をやれといふことになり、末松さんには前々からお世話になつてゐたので、自分では氣に入りの行政裁判所で餘生を終る積りなのが、又義理で斷はり切れず浮草稼業を引きうけて了ゐました。これがどれ位續きましたか、一年か一年半だらうと思ひますが、案の定それから末松さんがおやめになる時、自分もやめて、又もとの無職にかへりました。父なども其頃はつく〴〵官吏の浮草稼業にはこりてゐたやうでした。

それからといふもの運が向いてまゐりません。職はなし、前の相場の穴はあり、それを何とかして埋めなければといふので、手を出せば出す程よくない。さうなれば愈々あせるといつたわけで、其頃の父の懷加減は、最初のうちはわからなかつたのですが、もう私にも大體わかつてゐて、たとへ零細な金でも借りられない程氣の毒な狀態にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて居りました。しかしそこを何とかして都合はして出て居りました。

私がこんな貧乏暮らしをして居りますと、父も父でこんなみじめな工合になつて參ゐります。此時夏目はどんな暮らしをして居ましたかといふに、當時の留學費は一年に千八百圓、月割りにして百五十圓、それも英國なればこそそれだけなので、獨逸あたりはずつと安かつたかと覺えて居ります。何でも貧民窟見たいな安下宿を見つけて、學校へ正式に行くには金もかゝるし、又時間も無駄になるといふので、そこに籠城して本を買つて、時々教師のところへ通つたと申します。よく手紙に日本から行つたものが洋服をかつたりしてゐるのを惜しがつて、その金を自分にくれたらなどゝ申して來て居りましたが、何もかも切りつめて本を買つては勉強したものださうです。自分も本を買はなければ、いま少しは上等の下宿に居ることも出來るのだがなどゝいつてよこしたことがありますが、隨分切りつめた上にも切りつめて、日本にかへつたら何かと用があつてゆつくり勉強も出來まいといふので、極限り勉強したものゝやうです。自分でも生涯のうちで一番勉強したのは此時だと述懷して居りました位です。さうして感心によく書物を買つたものゝやうです。下宿をかへた時かに、あんまり本を澤山持ち込んだので、宿のものが驚いたとかいふことがあつたさうです。

いつだつたか何誰かに伺つたことに、外國生活をしてゐると、語學が出來ないか或は女に近づかないか、そのいづれかで神經衰弱になるものだ。夏目の語學は行く船の中からほめられたといふ位だから大丈夫でせうが、すると品行も甚だ方正だつたのでせうなどゝいつて居られたことがありましたが、ともかく切りつめ過ぎた生活の上にあまり勉強が過ぎたのでせう、ひどく頭を惡くした樣子でありました。しかしこれはもう少し後でお話致しませう。

妹の梅子が大に激勵する積りであつたのでせう。ある時ロンドンの夏目のところに手紙を書いて、兄さん、是非博士になつて、えらくなつておかへり下さい、それをお待ちしてゐますとか書いてやつたものと見えまして、やがて程へてからの手紙に、梅子が博士になつてお歸へりなさい、それを待つてゐますといつて來たが、おれは博士なんかには決してならない。博士だからえらいなんて思ふのは大變な間違だ。博士なんていふものは、やつてるとはいくらか知つてるでもあらうが、其外のことは一切知りませんといふ甚だ不名譽千萬な肩書だ。だから人はどう言はうと、お前はおれの女房なんだから、そんなくだらない博士の夢なんぞ見てはいけないし、そんなものだからえらいんだなどゝ誤解してはいけない。おれは生涯どんなことがあつても、そんな稱號は決して貰らはない積りだ、とこんな風な口調で言つて來たものです。すると折角好意を示したのに此のお小言なので、妹もすつかり怒つて了つて、

「私は博士になつておかへりなさいといつただけで、別に兄さんが博士

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せになつたからえらいといつたんぢやない。」
て、大層ふくれたことがありました。

何しろ手のないところに、私がどつちかといへば横着な方なので、赤ん坊を危くないやうに放たらかしておいては仕事をしてゐます。とそのうちに赤ん坊が泣き出します。すると夜晝にかゝはらず、すぐ窓が向ひ合はせになつてゐる部屋に居る弟が、窓の跨がつて飛び出して來て、あやしたり抱いて行つたりしてお守りをしてくれました。弟の家内も居りまして隨分二人にお守りをして貰らつたものです。

ところがさうして二人にお守りをして貰ふ時には、私も赤ん坊も大幸なのですが、時々例外の情ない時が出て來ます。其時はお猿さんのやうに赤ちやんは簞笥の環に紐の先きで結いつけられてゐるのですが、其のうちに御馳走をたんまりして、おとなしくしてゐると思へば、それをこねまはして遊んでゐたとやらなめたとやらで散々の有様でした。何しろ子供も二人になつて見ると、主人が居らないのでやるともないやうなものゝ、それこそ何やかやで二年半の月日も殆んど夢中で過ごして了ゐました。

十八 白紙の報告書

夏目がロンドンの氣候の惡いせいか、何だか妙にあたまが惡くて、此分だと一生このあたまは使へないやうになるのぢやないかなどゝ、大變悲觀したことをいつて來たのは、たしか歸へる年の春ではなかつたかと思つて居ります。私は格別にそれが別に誇大に考へるでもなく、深くも氣にとめてなかつたのですが、本人がさういつてこぼして來る位だから、側に居た人が變に思つたのは無理のないことでしたでせう。夏目が發狂したといふ噂らの噂が日本にも傳はつて居たのださうですが、私は一向そんなことを知らずに居りました。事のおこりはかういふのだつたと後から聞かされました。

何でも留學生の義務として、文部省へ毎年一回づゝか、研究報告をしなければならないのださうですが、夏目は馬鹿正直に、一生懸命で勉強はしてゐるものゝ研究といふものにまだ目鼻がつかない。だから報告しろつたつて報告するものがない。しかも文部省の方からは報告を追まつて來る。そこで益々意地になつたのか、白紙の報告書を送つたとかいふことです。文部省でも變だと思つてゐるところへ、丁度同じ船で文學の研究で留學を命じられて彼方へ行つてゐた藤代氏が、落ち合つて様子を見てゐるとたゞ事でない。宿の主婦にきけば、毎日毎日幾日でも部屋に閉ぢこもつて、部屋をまつ暗にして、悲觀して泣いてゐるといふ始末。これは大變だ、てつきり發狂したものに違ひない。かういふので、いつ自殺でも仕兼ねまじいものでもないとあつて、三日ばかり其方が側について居て下すつたさうですが、經過は依然たるもので、見れば見る程益々怪しい。そこで文部省とかへ夏目がロンドンで發狂したといふ電報を打たれたといふことです。そんなわけで一高あたりに居を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られたお友達や、それからどうして知つてゐたのか妹の時子や鈴木なども知つてゐたのださうですが、鈴木などはともかく噂であつて見れば、本當かもわからないが、又さうかもわからない。歸へつて來て見ればわかるのだから、其時になつて臨機の所置をとつたらいゝのだから、今から話をして家のものを心配させるにも當るまいとあつて、誰も私に聞かせずに置いたものださうです。

或る時、もうそんな話が充分收まつてからのことでせう、其頃一高の教授をして居られた菅虎雄さんにお會ひしましたので、此間ロンドンから手紙が來て、何だか病氣であたまが惡い、一生この頭はなほらないかも知れないなど、書いてありましたと申しますと、菅さんが妙な質問をなさいます。

「さうですか、それ以外どつこも惡いとも書いて來ませんか。」

しかし私は別に深い存念があらうとは知る筈もないので、

「其外別に何とも書いて參りません。」

とお答へしますと、

「その手紙といふのは自分の手で書いたものですか。」

といふお尋ねです。益々變な質問なのですが、私はなほも平氣で、

「えゝ、自分の筆蹟でございました。」

と、怪しみもせず申したものです。と菅さんは獨語のやうに、

「手紙が自分で書ける位なら大丈夫ですな。」

とうなづいて、外に體が惡くさへなければよいだの、手紙には變なところがなかつたかとかだの、根掘り葉掘りお尋ねになります。後で考へて見れば、菅さんの方ではてつきりキ印になつたのだからといふ頭で、あれこれとだめをおして、遠くに居る友達の身の上を案じてゐられたのですが、私は知らぬが佛で、その珍妙な質問を變だとさへ思はなかつたのです。

夏目も自分のことで、それ程の騒ぎがあつたことは後迄知らずに居たやうですが、それでもみんなが氣狂扱ひにするのが心外だつたと申して居りましたから、全然知らなかつたのでもなかつたでありませう。この電報事件のことは後で聞いたと見えて、歸へつてからこんなことをいつてゐたことがありました。といふのは電報を打つた某氏が夏目と同じ英文學の研究者なところから、夏目が失脚すればその地位が自然自分のところにまはつて來るといふので、大した症状もないのにそんな奸策をめぐらしたのだ、彼奴は怪しからん奴だなど、憤慨の口調を洩してゐたことがありました。しかしこれはどつちがどうなのか、私には全くわかりません。

下宿の主婦姉妹が大變親切にしてくれる。しかし陰へまはるとすぐに惡口をいふ。それから何かといふと直きに涙を流す。が、それも空涙だ。そんなことを申して居たことがあります。それからまるで探偵のやうに、人のことを斷えず監視して附けねらつてゐる。いやな奴つたらない。當時のことを追懐してこんなことも申して居たことがありました。それでも宿の主婦にして見れば、幾日も部屋に閉ぢこもつた切りで、め

そく泣いたりしてゐるのを知つては、自然どうなることかと氣も鬱つたことでありましたでせう。その又氣を腐るのが夏目の神經に障はるといふわけだつたのだらうと思ひます。

其後當人から聞いたのですが、あたまの調子が少しづゝ變になつて來ると、これではいけない、こんなになつちやいけないと、妙にあせり氣味になつて、自分が怖くなるといふのか、警戒し氣味になつて、だん〳〵自信を失つて行く。それでなるべく小さくなつて、人に接しないやうにと心掛けて、自分を守つて行くのださうです。それが病氣の第一歩で、さてそれから自分が小さくなつておとなしくしてゐるのに、一向人がそれを察せず、いぢめやういぢめやうとかゝつて來る。さうなると此方も意地づくになつて、これ程おとなしくしてゐるのにそんなにするんならといふ氣になつて、無性にむかついて癇癪を爆發させる。かういふ段取りになるのださうです。で後で考へて見ると、其時にはつまらないことが氣になつて、其間絶えず誰かゞ監視してゐるやうな追跡してゐるやうな惡口をいつてるやうな氣がするのださうです。此時にも英國人全體が自分を馬鹿にしてゐる。さうして何かと自分一人をいぢめる。これ程自分はおとなしくしてゐるのに、これでもまだ足りないでいぢめるのか。そんなら此方にも考がある。もう此上はおとなしくなんかしてないぞといつた氣持だつたらしいのです。

かうしたことは其後も時々ありました。だから此の病氣がおこると、一番近くに居るものが一番迷惑するのです。が私はそれを最初のうち病氣だとは限らずに始まりました。いづれこれは後でお話しすることにいたしませう。

下宿の主婦姉妹はそんなわけで大變嫌はれて居りましたが、ひとりお醫者さんだけは大層親切にしてくれて、いつも訪ねて來ては馬車にのせて病院迄連れて行つて、さうして何かと心を盡くして世話してくれたと當人はいつて居りました。

こんなことをしてゐては自分でも苦しくて堪らなかつたのでせう！いゝ、あたまを外へ向けたらと思つてる矢先き、醫者や宿の主婦がしきりに戸外の運動をすゝめるので、自分でもその氣になつて、勉強の方は一時そつちのけにして、宿の主婦のすゝめで自轉車乘りを始めたさうです。よくおつこちて手の皮をすりむいたり、坂道で乳母車に衝突して、以後氣をつけろとどなられたりして、それでもどうやら上達して、人通りの少い郊外なんぞを悠々と乘りまはしてゐるうちに、餘程氣分も晴やかになつたと見えて、大分あたまもなほりかけて來たさうです。夏目が自轉車を乘りまはしてる圖は一寸想像出來ませんが日本へ歸へつて來て其話をしますから、此方でもおやりになつたらいゝぢやありませんかと申しますと、どうも東京はロンドンと違つて、道が惡くて、其上せゝこましくていかんと申しまして、とう〳〵乘りませんでした。其頃の事を書いて『ホトトギス』に送つた『自轉車日記』といふ文章がございます。

其頃大塚武夫さんが、小笠原伯爵についてロンドンに行かれて、一

時の夏目と同じ下宿に居られたとかあるさうです。滿二年の留學期も終りに近づいて、いよく日本にかへるといふことになつて旅費を受取ると、無闇矢鱈と書物を買ひ込む。その無鐵砲さ加減、傍で見てゐてははらはらするので、今にあの分では旅費をみんな書物に代へて了ふに違ひないとあつて、犬塚さんが氣をきかして、郵船へ行つてその旅費のうちからともかくも船賃だけは拂つて切符を取つておいて下すつたといふことを伺ひました。其頃もまだあたまがいくらか、變だつたのでせう。犬塚さんは小宮豐隆さんの叔父さんで、後で小宮さんが大學に入られる時かなんか、犬塚さんからのお頼みで保證人になつたやうです。それから小宮さんが始終おいでになるやうになつたのです。

十九　子規の死──歸朝

子規さんが亡くなられたのは、明治三十五年の九月でしたが、その亡くなられる前に一度、お土産物をもつて御見舞に行つたことがありました。座には子規さんのお母さんと妹さんが看護して居られました。

死なれる年の春の末頃かとおぼえて居りますが、お顔や脣はまるで半紙のやうに白く、息使ひが荒くて、見て居ても苦しさうです。全くじつと臥つたきりで、私が來たといふのでほんの一寸頭を擡げて話をなさいましたが、あれでよくまあ生きて居られるものだと思ひました。かへつて參りましてから二三日といふもの、どうもそれが目の前にちらついて、御飯がのどへ通りませんでした。

そのことをロンドンへ書いてやりまして、全くお氣の毒ですけれど、私なぞは一寸一目見ただけですのに、貴夫は子規さんをお訪ねすれば、半日でも坐はり込んで平氣で話しておかへりになる、えらいものだと申しますと、よく見舞に行つてくれた、いゝことをしてくれたと喜んで參りました。お葬式の日には、土屋さんがそんなところには行かぬがいゝ、私が代理で何もかもやつて上げやうといつて、おくやみやら何やら一切土屋さんがやつてくれました。

私がお見舞に上がつた時、子規さんが白いネルの寢卷なんぞをきて、さつぱりしてらしたのが今でも目に浮んで參ります。此間久々で根岸へお訪ねしましたら、入口のところが一寸變はつただけで、あとは其當時の儘のやうだつたので、大變懷しい思ひが致しました。

さうかうしてゐるうちに留學期限が切れて來る。もう歸つて來さうなもんだと噂してゐるのですが、いつ歸へつて來るとも、何といふ船に乘るとも、とんと音沙汰がございません。するうちに何日神戸入港の汽船で歸朝する人々といふ中に夏目の名が出てゐるといふのを誰かが新聞で見まして、そんなら一月の下旬に神戸へつくのだらうといふので、郵船會社へ問ひ合はせたりなどして待つて居りますと、一月の二十八日だつたかと思ひますが、今神戸へ上陸した、何時の汽車にのるといふ電報が始めて屆きました。それで私は父に連れられて、國府津迄迎に參りました。一緒の船で歸へつて來られた方だといつて、青山腦病院の齋藤さん外二三のお醫者さん方がおいでになりました。見

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たところの顏は前と別に變はつた樣子もなく、[illegible]白いダブル・カラーをして、きちんと身についた洋服を着てゐるの、お洒落らしいやうでした。

後で聞いた話ですが、新橋へつくと外に親類のものや何かゞ迎へに出てゐてくれましたが、若しや噂のとほり氣狂になつて歸へつて來たのでもあるまいか、どんな樣子だらうと、半ば怖々出て見た人もあるとかいふ事です。

それからすぐと矢來の、三年間風呂もしなければ何の手入れもしない、たゞ留守中雨露を凌いでゐたといふだけの荒れに荒れた家に入りました。それでも二三日は物珍らしくもありおとなしくして居たのでしたが、たしか三日目か四日目のことです。長女の雅子が火鉢の向ふ側に坐はつて居りますと、どうしたのか火鉢の平べつたいふちの上に五厘銅が一つのせてありました。別にそれを雅子が持つて來たのでもない、又それを弄んでゐたのでもありません。ふとそれを見ますと、こいつやな眞似をするとか何とかいふかと思ふと、いきなりびしやりと擲つたものです。何が何やらさつぱりわかりません。雅子は泣く、私も一向樣子がわからないから、だん〱訊ねて見ますと、ロンドンに居た時の話、或る日街を散步してゐると、乞食が哀れつぽくお金をねだるので、銅貨を一枚出して手渡してやりましたさうです。するとかへつて來て便所に入ると、これ見よがしにそれと同じ銅貨が一枚便所の窓にのつてるといふではありませんか。小癪な眞似をする。常々下宿の主婦さんは自分のあとをつけて探偵のやうなことをしてゐると思つてゐたのか、[illegible]てゐるのだ。しかもこのお作法を見せびらかしでもするやうに、これ見よがしに自分の目につくところにのつけておくとはにくらしいやうな婆さんだ。實に怪しからん奴だと憤慨したことがあつたのださうですが、それと同じやうな銅貨が、同じくこれ見よがしに火鉢のふちにのつけてある。いかにも人を馬鹿にした怪しからん子供だと思つて、一本參つたのだといふのですから驚いた話です。隨分妙なことをいふ人だとは思ひましたが、それなり切りでこの事は終つて了ひましたが、病氣もロンドンで自轉車にのつて一時なほつたのが、歸へりの船中で又いくらかづゝ先へ戻つたとのだといふことは後で解りました。

留學は熊本の高等學校からしたことになつてゐるので、歸朝したら又五高へ舞ひ戻らなければなりません。しかも二年間の留學ですから、義務年限は四ケ年です。自分でももう二度と熊本へ行きたくなし、又昔からの友達も今では大部分東京に集まつてゐられるので、なほ更東京に止まりたい意向で、留學中も、丁度狩野さんが一高の校長になつて居られたのを幸ひ、いろ〱おたのみもしたやうですが、五高の方でも校長の櫻井さんが是非戻つて來てくれろといふわけで手離して下さいません。歸朝してからもいろ〱その邊のことを掛合してゐたやうですが、狩野さんあたりの御骨折りがあつたのでせう、ともかく東京に止まることになり、三月には千駄木の齋藤阿具さんのお宅をお借りすることになつて引き移り、四月の新學期から一高と大學とで教鞭をとることになりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明日の花

新居格

「人民」のクララ・ボウは elopment の場合でも、細卷の金口の灰がこぼれるほどの陰影をさへ落さなかつた。朝の風がさわやかに清麗な河岸のプロムナアドを吹くやうに。あの魅力のある特殊の眼、曇りのない瑠璃色の、鏡、これが浄化器（ピユリフイア）にちがひない。

自由なんだけれど香氣のあるリズムがある。澱みがないからフレッシユなんだ。昨日の薔薇を感傷しない。だから明日の花！明日の匂！

感傷には青い酸性がある。それが物を腐らせるんだよ。心と身體とに錆なんかをつけて堪るもんかい。

サローンの麗人がペルシヤ猫を抱いて、ルビー色のお星樣をその瞳には數へやうと空想したつて、そんなのがモダンにはならない。どちらかと云へば、仕事服を鋏でちよん切つて、それで夜會服、有り合せの花瓶の花を無雜作に胸に挿して、「あゝこれでいゝんだ。」そつ夜のクラブがどんなに華やかでも、社交婦人（ソサイチーウーマン）の服裝が洒落れてゐても何に構ふものか。

隅つこに引込んでゐる必要なんかないわ。眞中へ行きませう。まん眞中の食卓へさ。あんな人達は今にあの服裝のあのまんまヴオルガの船を曳かせてやるんだ」と云つた格好で、貧民街からクラブに遠慮會釋もなく乘込んで行く「イット・ガール」のクララ・ボウが遙かに〳〵モダンなんだ。社會相の澱みを鋭い尖端の銀針で突つついて行くんだ、モダンなんて。

遠近描出法――明暗と幾何配置――をそれらは感覺の細線で聰明が自づからに規範してゐる。社會層の、都會の、人間の亂雜に見える交響樂の中から取り出だす新しい形貌と、新しい香氣と、新しい光線と、それから新しい韻律。新しい形型を含んだ破型。

だから摸倣はどんな精巧な姿態に於いてなされても、それは吸取用紙である。

吸取用紙で拵へた男と女のお人形達、では一足お先きへ。

清快の風を呼べ。速力の快調を行動の血脈のリズムに置き換へよ。轉換期の空氣は蟲から次ぎ〳〵に。……

近代風景は狙いゐるスクリーンを走る映像のテンポよりも急速調であるかも知れないのである。

感傷性をすつかり絞り出した清新な斷面にすんだ明徹、澄んでゐて色もあるし、匂ひもある。無意味のほかに意味もあつて、退屈なんかを蹴り飛ばす。

人！よ！　花園の思想ではない。ペーブメントに動いて行く人造人間のバネ仕掛ではない。ジヤヅの酒場で「一鞘のエス公」の擧げる氣焔ではない。

亂醉の眼に映つた逆立ちせる高層建築ではない。風速三十メートルの深夜の街にだつてまつ毛一本の微細な陰影にだつて、言葉の二つ三つにだつて、近代風景は映つてゐるものを、

道化役者のピエロがいつまでも泣き笑ひの象徴のやうに思つてゐるんでは、モダンも何もあつたものかい。

「では失敬」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幕末維新の英雄勝海舟翁

勝田孫彌

一　緒言

幕末の偉人であり、維新の英雄である、勝海舟翁が逝かれてから、本年一月は、恰もその三十年忌に當つてゐる。往時夢の如く、感慨更に新なるものがある。茲に聊かその一代を記して見たいと思ふ。

海舟翁は、堅忍不抜の精神を以て、文武の業を勵み、また身心の修藝に勉められ、その識見の偉大にして、一世を洞見する活識あり、始終一貫、報國の志厚く、君國の爲に盡瘁された人である。獨り徳川氏のみならず、源頼朝以來の覇業を無事に收めて、王政復古の大業を啓發されたのである。

要するに、海舟翁の如きは、立志傳中の人傑で、晩節を全うした大偉人であつた。

二　出生

海舟翁は、文政六年正月晦日、本所龜澤町の宅に生れられた、勝家の祖先は、少禄ではあるが、三河以來の旗本であつた。

徳川氏の末世に當りては、地方から出府したものが、旗本の養子となる風習が行はれた。海舟翁の曾祖父は、もと越後の小千谷から江戸に出て來た盲人があつたが、非常に偉い人で、後には立派な富豪となりて、檢校の位を得、男谷檢校と、多くの人に尊敬される身分となつた。ところで檢校は、その孫に當る左衛門太郎を、勝家の養子となしたが、翁はその總領として、生れられたのであつた。

翁の伯父なる男谷下總守は、劍術の師範家であつた。父の左衛門太郎は夢酔と號し磊落にして家道を修せず、翁が十六歳の時に家督を讓りて退隱した。而して翁は少壯の身を以て困窮の間に一家を維持しつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つ、文武の修業をさるゝこととなつたのである。

翁は實に天資非凡であつた、嘗て、喜選院といふ人相見が、翁を見て、非常に偉大なる相を備へられ居ることを、豫言したといふ話が言ひ傳へられてゐる。

翁が七歳の時に、十二代將軍德川家慶の子、初之丞公子の相手となつて、幕府の大奥に仕へられた。然るに翁が十二歳の時に、公子が他界されたので、翁は大奥から、退城されたのであつた。

若し初之丞公子が、成長されて、將軍の世嗣となられたらば、翁は幕吏として立身されたことであらうが、不幸にして公子の逝去と共に、其望は空しくなつたのである。然しながら、翁が幕吏として立身することの代りに、幕末の偉人として、又維新の英雄として門出されたのは、實にこの時であつた。

三　文武の修業

斯くて海舟翁は、仕途を斷念して、自立の精神を以て奮起さるゝに至つた。十二三歳の頃より、伯父の男谷下總守に就いて、劍術柔道を學ばれたが、後中津の藩士で、淺草の新堀に道場を開いてゐる、島田見山の門人となられた。この見山は、劍術の師範家ではあるが、一種の見識を具へた人であつた。翁は見山の勸めにより、劍術修業の傍、王子の權現、向島の弘福寺等に於て、禪學を修められた。斯くて翁が二十一歳位の時に、劍道の免許皆傳を得、斯道の師範家として、世に立つだけの身分となられたのである。

四　蘭學の修業

海舟翁は、その師島田見山の勸めに從ひ、更に蘭學をも修業さるゝこととなつた。初め津山藩の蘭學者、箕作元甫に入門を願はれたが、貧乏のために拒絕されたので、筑前藩の永井青崖の門人と爲られたのである。

海舟翁の境遇も困難な時代は、蘭學修業の時であつた。家計が非常に窮境である上に、最も困難な蘭學を修められたので、その苦心のほどは、到底今日の者が想像だも出來ないところである。

當時蘭學の教科書を得ることは、容易でなかつた。嘗て辭書を二部寫しとつて、その一部は依頼者に納め、一部は自分の用とされた。その寫された蘭學の辭書十卷は今尚ほ勝家に保存されてある、之を見ても、翁が如何に蘭學の研究に、困難されたかといふことがわかる。

五　兵學塾の開設

蘭學の修業に苦心された翁は、非常なる進歩を來たし、遂に赤坂田

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時に、兵學塾を開設さるゝこと丶なつた[illegible]
人望であつたので、極めて[illegible]であつた。

然るに、海舟翁の偉大なる人格と、堅忍不拔の氣象とは、旗本の士勝麟太郎の塾として、次第に世に現はるゝやうになつたのである。

その頃、諸藩の間に、大砲や小銃を鑄造することが行はれ、諸藩よりは兵學者に依頼して、それを川口の鐵工場で、鑄造せしめたのであつた。

ところが一般の兵學者は、依頼者と鑄造者との間に立ちて、賄賂を貪ぼり、不正なことが盛に行はれたが、海舟翁は是等の不正なことを、一切避けられたので、その名望益々現はれ、遂に翁が幕府に仕官さるゝ原因と爲つたのである。

六　幕府の仕官

海舟翁が塾を開かれたのは、二十八歳の時であつたが、幕府に奉仕されたのは、三十三歳の時であつた。

嘉永六年六月、米國水師提督ペルリ、浦賀に入港するに及び、對外の關係が益々困難となつた、幕府に於ては、老中阿部正弘等大に苦心し、薩摩藩主島津齊彬等と謀りて、對外の大策を講ぜんとする時であつた。大久保右近將監（一翁）は海舟翁のことを聞知し、翁を幕府に

[illegible]
界にとりて、[illegible]所の[illegible]のである。[illegible]
られた[illegible]、正に翁が三十三歳の時である。

翁は十三歳の時に、一與、幕府の大臣から退いて、獨立獨行、自己の力に依りて世に立たんと決心せられたが、こゝに至りて、旗本たる一介の武弁としてにあらず、堂々たる天下の兵學者、開國者として、幕府に仕へられたのであつた。

七　長崎海軍操練所

海舟翁等の建言により、幕府においては、海軍創設の議が起り、安政二年に至りて、長崎に海軍操練所を設け、旗本其他諸藩から練習生を集めて教授することゝなつた。

海舟翁は、學生監督として赴任さるゝこととなり、練習所の教師には、オランダ人が招聘された。第一回の教師は、ペルスレーケンといふたが、第二回目には代つて、カツテンデイキが教師として來朝した。而して翁が蘭學に通ぜられ、又英傑の士である關係から、蘭國教師の間に、自然に尊敬を受けられたのである。

又練習生等は、交代したのであるが、海舟翁は引續き學生の監督指指導者として、大に努力せられた。操練所の所長は、軍艦奉行木村攝津

守であつたが、海舟翁は實際に海軍の事に精通せられ、又海外の形勢に通曉されてゐたので、長崎海軍操練所に於ける中心人物であつた。翁は文武の修業や、蘭學の研究に心血を灑がれたやうに、長崎海軍操練所に於ける海軍の事に關しては、非常に努力されたのである。

海舟翁の一生を通じて、研究と努力といふことは、實に感激に値すべき人であつた。練習生を率ゐて、蘭教師と共に航海に出掛け、屢々危難に遭遇されたことが、日記に見えて居る。それ故に、幕府や藩に諸藩の練習生から、益々尊敬されたのであつた。

この長崎海軍操練所は、實に我國海軍の創始で、蘭國教師ペルスレーケン、カッテンデイキ等は、我國海軍の恩人である。

海舟翁は一面において、精神堅固にして豪膽の士であると同時に、他面においては、極めて情義に厚い人であつたが、後年蘭國教師の肖像を油繪師に畫かしめ、現に勝家に保存されてあるが、之は我海軍の爲めに、永久に紀念すべきものである。

八　米國行

幕府は、米國と通商條約を訂結したので、その批准交換の爲めに、使節を米國に派遣することゝなり、外國奉行新見豐前守を正使に、村垣淡路守を副使に任命して、米國軍艦、ポーハタン號に搭乘し、渡航せしむることゝなつたのである。

然るに海舟翁等は、日本の使節が海外に派遣するに當り、日本人が日本軍艦を操縦して、航海することの出來ないのは、日本の恥辱であると、幕府に建言さるゝ所があつたので、幕府遂に其議を採用して、木村攝津守を軍艦奉行と爲し、海舟翁を艦長（教師方頭取）として、米國に渡航せしむることゝなつた。その軍艦は、蘭國から購入した咸臨丸と云ひ、僅に百馬力で、二百五十噸位の小汽船であつた。

今日では、東京灣内を往復する汽船でも、三四百噸位のものである。然るに、僅に二百五十噸位の小艦を以て、太平洋を横斷したといふことは、實に大膽無謀の擧動であるが、當時における海舟翁等の意氣の旺盛なりしことを、想知すべきである。

萬延元年正月十三日、一行は品川海を出帆して、二月二十五日に米國に到着した。航海中非常な困難を嘗め、桑港に到着せんとする數日前には、艦員が同盟罷役を起さんとする形勢であつたが、長崎以來訓練されたる海舟翁の努力に對して、漸く無事に治まつたのであつた。

米國に於ては、日本人が小さい軍艦で、航海して行つたので、非常に歡迎して、軍艦の修理等も、喜んで致したといふことである。

歸路には布哇に寄航した、當時、布哇は獨立の王國であつたので、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

非常に好意を表した。斯くて一行の使命を達したのは五郎の手柄であつた。之がそもそも我日本軍艦の、外國航海の嚆矢であつたのである。

九　神戸海軍操練所

文久二年閏八月に至り、海舟翁は軍艦奉行並となり、後軍艦奉行に任ぜられたが、當時の幕吏としては、異數なる榮進であつた。

翁は品川大阪兵庫間を屢々航海し、又大將軍徳川家茂に隨從して航海されたので、その信任を受け文久三年四月終に神戸に於て、海軍操練所を設置さるゝに至つた。

翁は夙に海外の形勢に通じ、殊に親しく米國に航して、其海軍其他國勢の發達せる狀況を觀察され、歸來大に覺悟さるゝ所があつた。故に神戸海軍操練所のみならず、大に我國の海軍を擴張して、朝鮮支那等にも、操練所を設けたいといふ、大志を抱いて居られたのである。即ち今日の海軍鎭守府を設置せらるゝ希望であつた。

神戸海軍操練所には、幕府旗下の士は固より、諸藩士が入塾したが、又諸藩浪士にして、入塾する者も多かつた。即ち浪士坂本龍馬（土佐脱藩士）等を初め、薩藩士伊藤祐亨、浪士陸奥宗光（紀州脱藩士）中島信行（土佐脱藩士）等が入塾した、而して坂本龍馬はその塾頭であつた。

海舟翁は、種々の非難さるゝもあり、二百名位の塾生を收容すべき、準備に着手された。然るに前記の如く、塾生中に、諸藩の浪士等が多數入塾したので、元治元年十月に到り、幕府の嫌疑を蒙り、翁は其職を免ぜられ、江戸氷川の自邸に謹愼さるゝことゝなり、神戸海軍操練所は、爲めに閉鎖せらるゝに至つた。

若し、海舟翁の計畫にして、その目的を達することが出來たならば、我國の東洋における勢力は、非常な發展を遂げたであらう、之を思へば眞に遺憾の極みである。

翁は又當時の記念碑を建設されたが、幕府の嫌疑を憚り、慶應元年に至り、其碑を土中に埋められ、明治の世と爲りて、之を發掘された。今小野濱に殘つてゐるのがそれである。

十　大西郷との會見

元治元年九月、海舟翁がまだ、神戸海軍操練所に居られた時、大西郷は吉井友實等を伴ひ、大阪に至り、初めて、翁と會見した。大西郷は、海舟翁が稀有の人傑であり、達識の偉人であることに敬服したのである。當時大西郷が、會見の模樣を、大久保甲東に報じた手紙があるが、其中に左の如くいうてある。

勝氏へ初めて面會仕り候處、實に驚入候人物にて、最初打

叩賦にて差越候處、頓と頭を下申候、どれ程智略有之やら、知れぬ鹽梅に見受申候、先英雄肌合の人にて、佐久間（象山）より事の出來候儀は、一層も越候半、學問と見識とに於いては、佐久間抜群の事に候得共、現時に臨候ては、勝先生とひどくほれ申候

この書面によりて、大西鄕が海舟翁の人物に如何に敬服したことがよくわかる。

又海舟翁に、大西鄕のことを、薩藩の明君島津齊彬から、兼ねて傳聞してゐられたのであるが、この時初めて、大西鄕と會見して、その人物の偉大なるに服し、爾來肝膽相照して、意氣大に投合さるゝに至つたのである、後年海舟翁は、常に當時のことを話してゐられたのであつた。

二　長藩談判

旣に海舟翁は、神戸海軍操練所長の職を免ぜられ、慶應元年の年は、江戸氷川の邸に閉居されて、門を出られなかつたが、翌慶應二年に至り、幕府は諸藩に令して、愈長州再征の兵を出動せしむることゝなつた。

然るに薩藩に於ては、長州再征の不可なるを唱へ、出兵の名義なしとて、辭退の上書を幕府に呈出したのである、幕府においては、非常に其處置に窮し、同年五月に至りて、閑居中なる海舟翁を起用して、再び軍艦奉行となし、急に上阪を命ずることゝなつた。

海舟翁は、薩藩における大西鄕や、大久保等と懇意の間柄であるから、幕府は翁を起たしめて、薩藩との調停を計るべき、重要なる使命を傳へたのである。そこで海舟翁は、大阪から京都に上られ、大久保甲東等と會見して、薩藩の出兵辭退の上書のことに就いて、談せらる所があつたが、上書を却下するでもなければ採用もしないことゝなつて、その儘に局を結んだのであつた。

當時幕府においては、佛國から金幣軍艦を借り入れ、薩長以下の諸大藩を討じて、國家を統一せんとする計畫があつたが、海舟翁は、外人をして我内政に干渉せしむるの端を開くものとなし、深く其議に反對せられ、又閣老板倉勝靜に面談して、大に痛論さるゝ所があつた。然るに海舟翁の意見は、幕府の省みるところとならずして、佛國から金六百萬兩を借り入れ、更に軍艦の製造方を依賴することゝとなつたのである

海舟翁はその事を聞知して、大に憤慨されたが、この借款問題は、翌慶應三年に至り、薩藩の家老岩下方平等が、佛國に出張せると、又佛孛兩國の形勢切迫したるとに依り、幕府と佛國との國際關係に、大に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なる變化を來たし、遂に不成功に了つたのであつた。

慶應二年七月に至り、大將軍徳川家茂が大阪に於て薨去した。海舟翁は將軍の爲めに非常に信任を受けて居られたので、號哭長大息されたことであつた。その後征長の兵は、將軍の薨去に依りて益々惡運に傾き、九州より出征せる諸藩は、兵を撤して各自に歸國するに及び、幕府は策の施すべきなく、遂に海舟翁に内命を授け、八月十七日大阪に下り、二十一日藝州を經て嚴島に到り、長藩士廣澤兵助、井上聞多等と會見し、休戰のこと及諸藩の衆議を採用するの意を傳達せしめた。

そこで廣澤等は海舟翁の議に服し、又長藩の國情をも述べ、共に大に理解する所があつた。海舟翁は九月十日京師に歸へりてその顛末を復命し、長藩の處置については、公平仁義を要すべき旨を建言さるゝ所があつた、斯くて十月に至り、歸府を命せられ、江戸に歸られたのであつた。

一二　德川氏恭順

慶應四年正月十二日、前將軍徳川慶喜は、伏見鳥羽の戰に敗れ、江戸に歸着した。この時城内においては、恭順論と主戰論との大論爭となつたが、徳川慶喜は恭順の說を支持し、海舟翁等をして、大に盡力せしむることゝなつた。乃ち幕府は海舟翁と大久保一翁とに一任して、斡旋せしめたのである。

海舟翁は、[illegible]のことに就いて、[illegible]論を呈し、又[illegible]て、[illegible]の意を注ぐる所があつた。

然るに、二月の[illegible]より、彰義隊の兵士等の間に[illegible]して、脫走を計る者、内外に續出するに至つた。徳川慶喜は大にこの形勢を憂へ、海舟翁に諮る所があつたが、翁は一身を犠牲として、鎭撫に盡力すべきことを進言されたのである。

爾來東奔西走、國危難を冒して、鎭撫を加へ、大に努力されたが、殊に麹町三番町にある二大隊の兵士等が離散して、脫走を企てたる際の如き、九段坂上において、夜中暗黑の中、[illegible]れ、從卒二名その場に斃れたが、翁は辛うじて無事なるを得られたのである。

是れより以後、從卒を廢し、單騎鎭撫に奔走された。その後翁は自ら請うて、陸軍總裁を罷められたが、又作事取扱を仰せられた。

一三　大西郷との談判

この時朝廷に於ては、徳川征討の議を決し、有栖川宮熾仁親王を以て、征東大總督となし、大西郷等をその參謀に任じ、その他東海、東山

山、北陸三道の先鋒總督兼鎮撫使を命じて、東下せしめられた。

三月に至り、大總督宮は、大西郷等を隨へて、駿河の靜岡に到着されたが、海舟翁は、旗下の士山岡鐵太郎を使者となし、書を大總督府參謀に贈りて、徳川氏恭順の意を貫徹せしめんことを計り、薩州より海舟翁の手許に保護中であつた、薩藩益滿休之助を案内者となし、山岡を駿府に到らしめた、三月九日、山岡は駿府に到着して、參謀大西郷と會見し、海舟翁の左の書を呈示したのである。

無偏無黨、王道蕩々矣、官軍鎮府といへ共、君臣謹て恭順の禮を守るものは、我徳川氏の士民といへ共、皇國の民なるを以而之故也、且皇國當今の形勢、昔時に異なり、兄弟牆にせめげども、外其侮を防ぐの時なるを知れば也、雖然、鄙府四方八達、士民數萬來往して、不教の民、我主の意を解せず、或は此大勢に乘じて、不軌を計るの徒、鎮撫盡力、餘力を不殘と雖ども、終に無其甲斐、今日無事といへども、明日の變誠に難計、小臣鎮撫力殆と盡き、手を下すの道無之、空敷飛丸の下に憤死を決する而已、雖然、後宮の尊、一朝此不測の變に到らば、頑民無賴の徒、何等の大變牆内に可發哉、日夜焦慮す、恭順の道從是破るといへども、如何せん其統御の道無き事を、唯軍門參謀諸君、能々其情實を詳し、其條理を正されむこと、且は百年の公評を以て、泉下に期する在る而已、嗚呼痛哉、上下道隔る、皇國の存亡を以而心とする者少く、小臣悲歎して訴ざるを不得所なり、其御所置の如きに、素より御判斷する所にあらず、正ならば皇國の大幸、一點不正の御舉あらば、皇國の瓦解、亂臣之名目、千載之下消する所なからん歟、小臣推參して、其情實を哀訴せむとすれども、士民沸騰、半日も去る不能、跼蹐して鎮撫す、果して憤するも、其功なきを知る、然れども、其志不達は天也、到于此際、何ぞ疑存せん哉、恐惶敬白

三月五日　　　勝　安　房

軍門參謀閣下

大西郷は、山岡を引見して云ふには、曩に上野宮、靜寛院宮、及び天璋院夫人等より、使を受けたるも、未だ要領を得なかつたが、今やこの書に接し、又足下の陳述により、能く實情を詳にすることが出來たとて、大西郷は、左の處分案を示した。

一　慶喜儀、謹愼恭順の廉を以て、備前藩へ御預被仰付候事
一　城明渡可申事
一　軍艦不殘可相渡事
一　軍器一切可相渡事
一　城内居住の家臣、向島へ移り、愼可罷在事
一　慶喜妄動を助候面々、嚴重に取調、謝罪之道、屹度可相立事
一　玉石共に碎之御趣意更に無之に付、鎮定の道相立、若暴舉致候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者有之、手に餘り候はゞ、官軍を以て可相鎭事
右の條々、實行急速相立候はゞ、德川氏家名之儀は、寛典之御處置可被仰付候事
靜寛院宮御儀、田安中納言へ御含相成候事件も有之に付、御趣意貫徹致し候樣、一向盡力之事

山岡はその箇條を閲見して、他の箇條は遵奉することが出來るが、主人を他藩に預けらるべしとの朝命は、到底忍び難き所であると述べたのである。大西郷も、山岡の意の在る所を諒とし、德川慶喜の一命は、拙者において、保證すべしと答へたので、山岡は大に喜び、直に江戸に歸りて、復命するところがあつた。

この時、東海道の先鋒は、池上本門寺に屯し、進んで高輪の薩摩藩邸に、兵を派遣した。又東山道の先鋒は、一軍を新宿に、一軍を板橋に進め、三月十五日を期して、三方より、江戸城を攻撃することゝなつてゐたのである。

然るに、海舟翁は、官軍が若し恭順を容れずして、妄りに攻撃するならば、斷然決戰すべく、最後の意思を固め、豫じめ備ふる所があつた。そこで十三日に至り、左の書を、官軍の參謀軍門に贈りて、大西郷に面會を求められた。

昨年以來、上下公平、一致の旨あれども、各其中に私あり、終に今日の變に及ぶ者は、皇國人物之缺に依る、就中伏見之一擧、一二の[illegible]を出して、[illegible]あるは、[illegible]所、[illegible]たる天下、然に[illegible]、何ぞ其[illegible]なるや、我[illegible]、一死を以て謝すべきも、既に其失前日にあり、今日何の面目ありて日を暗かむ、然といへども不日にして一戰數萬の生靈を損せんとす、其輕や、名節條理之正敷にあらず、各私憤を挾藏して、丈夫の爲すべき所にあらず、吾人是を知れども、官軍猛勢、白刃銃砲を以て、濫りに威光を假り、無辜之士民を劫せば、我も亦一兵を以て、是に應ぜずんば無辜の死益多く、生靈の塗炭益甚しからんか、軍門實に皇國に忠するの志あらば、宜敷其條理を詳にし、後一戰を試みるも可たり。我輩も亦能く其正不正を撿み、敢て漫に應戰すべからず、嗚呼、我主家滅亡に當て、一之名節大條理を持し、從容死に就く者無きは、千載の遺憾にして、海外の一笑を招くのみ、我輩是を知れども、力支ふるに能はず、共に魚肉せらるゝものは、深怨銘肝、日夜焦思し、殆ど憤死せんとす、願くは其心理を詳察あらば、軍門に臨み、一言を讓ぜむ、幸に熟察せられば、公私の大公、死後猶生るが如くならむ。謹言

辰三月　　　　勝　義邦

大西郷は之を承諾したので、海舟翁は、十三日に、高輪の薩摩藩邸に到り、西郷を訪問して會見する所があつた。翌十四日、更に芝田町の[illegible]

處に再會して、恭順の意を表する要件を呈出された。

この會見に於て、大西郷は、海舟翁の意の在る所を諒したるも、事件頗る重大にして、大總督宮の許可を得なければならぬが、明日決行すべき筈であつた、江戸城攻撃の計畫は、之を見合すべしとて、直に三道の官軍に令して、進撃の期を中止せしめた。而して話頭一轉、談一別以來の情事に及び、未曾有の危局に臨めるの體なく、海舟翁をして、大西郷の大膽果決と、偉大なる度量とに推服せしめたのであつた。

翌十五日、大西郷は直に江戸を出發して、駿府に到り、大總督宮に會見の始末を言上し、更に上京して、徳川氏恭順の事情を奏上し、處分案の裁決を得たのである。斯くて大西郷は、更に勅命を奉じ、駿府を經て江戸に到り、江戸城の授受を了したのであつた。

海舟翁が、嘗て話して居られたことがある、官軍が江戸城攻圍の軍略を定むるや、參謀伊地知正治の議に依り、高輪新宿、板橋の三道から攻撃をなし、市街に火を放ちて、進撃する方策であつた相であるが、その時、幕府に於ても、若し官軍が飽まで、徳川氏の恭順を容れず、濫りに進撃するならば、已を得ず、江戸市中を焼拂つて官軍をして據る所なからしめんとの覺悟であつた。然るに、大西郷が入府し、寛大なる處置をとつたので、江戸城内を兵燹の惨禍より救ひ、江戸百萬の生靈をして、幸に無事なるを得せしめたのである。之を思へば、幕臣たる者は、永く大西郷の高義を、記憶すべきであると云はれたのであつた。

その後朝廷に於ては、海舟翁に江戸城市民鎭撫のことを命ぜられたが、其處置宜しきを得、七百年來の覇業であつた幕府の終りを全うして、王政復古の大業を成就せしめ、尚ほ三百年來の覇主家たる、徳川氏をして無事なるを得せしめたのは、慥かに、海舟翁の達識と努力と、大西郷の達觀と襟度とによるのである。

一四　廢藩置縣前後の海舟翁

徳川慶喜が恭順の意を表したので朝廷に於て寛大の處分を爲す江戸城は官軍との間に、圓滿なる授受を終ることゝなつた。尋いで田安家達徳川の宗家を繼ぎ駿河の地七十萬石を給せられ、靜岡の城主となつた。そこで海舟翁も、明治元年九月、家族を引連れ、靜岡に移住されたのであつた。

爾來朝命に依り、東京に出て、或は外務大丞と爲り、兵部大丞となられたが、みな辭職された。又靜岡と東京との間を、往來されること、屢々であつた。

廢藩置縣の大改革あるに及び、明治五年の春、靜岡より、赤坂氷川

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

覚[illegible]

[illegible]の職官に就任された。尋いで海軍大輔に任ぜられ、從四位に叙せられたが、明治六年、征韓論の破裂以後、參議兼海軍卿に任ぜられたのである。

要するに海舟翁は、政府と舊幕府との連鎖となり、國内人心の統一を計られたが、明治八年に至り、官を辭せられたのであつた。

一五　赤坂氷川町の閑居

海舟翁は、官を辭して氷川町の自邸に隱退し、小室に起臥してゐられたが、内にありては、舊主家たる徳川氏の家政に注意し、外にありては、國家の施政に對する不平の徒を鎭撫して、傍ら著述に努力された、吹塵録、海軍歴史、陸軍歴史、府城沿革、開國起源等の大著述は、その後の事業に成つたのである。

一六　再度の仕官

明治二十年五月、勳功に依つて、伯爵を授けられたが、二十一年四月に至り、再び仕官され、樞密顧問官に任じ、三十二年一月、薨去の時に及んだのである。

一七　薨去

明治三十二年一月十九日、[illegible]同月二十一日遂に薨去された、二十日附、勅使[illegible]誄詞を賜はつた

誄詞

幕府ノ末造ニ當リ、大勢ヲ審ニシ、振武ノ術ヲ講ジ、皇運ノ中興ニ際シ、舊主ヲ輔ケテ、解職ノ實ヲ擧ゲ、爾後顯官ニ歴仕シテ勳績愈彰ハル、今ヤ溘亡ヲ聞ク、曷ゾ軫悼ニ勝ヘシ、玆ニ侍臣ヲ遣シ、賻賵ヲ齎シテ、弔慰セシム

翌二十五日、東京府下荏原郡馬込村洗足池畔に葬つた。

一八　幕末の偉勲者

幕府の末造に當り、滔々たる王政復古の氣運に反對して、幕府の勢威を挽回し、徳川氏の社稷を維持せんとするが如きは、誠に痛快たる議論であつたが、海舟翁は、國内の趨勢と、世界の大勢とに鑑み、一部幕臣中の主戰論を排し、徳川慶喜をして、斷然恭順の道を執行せしむることに盡力されたのである。

或は海舟翁が、舊幕府の遺臣として、明治政府に仕官されたことを云爲し、恰も外國の政府に仕へられたるかの如く論評する者もあつたが、之は誠に、海舟翁の心事を理解せざる皮想の觀察である。海舟翁

の精神思想は、王道蕩々、無偏無黨、徳川氏の士民といへども、等しく士民であつて、又當時における、皇國の形勢と氣運とは、昔時に異なり、兄弟牆内に鬩ぐも、外その侮を防ぐべき時機なることを知られたのである。而してこの大主義と大精神とを達成せんとする爲には、あらゆる困難と鬪ひ、一身を犠牲に供せられたのであつた。

斯の如くして、海舟翁は、幕末に於ける不平の徒や、過激黨の鎭撫に努力された。即ち遠州金谷原に開墾地を卜し、幕末旗下の士をして耕耘に從事せしめられたるが如きは、特筆すべきことであつて、一には彼等に生活の安定を得せしめ、不平黨の爆發を未前に防かんとの、深謀遠慮に出でたるものであり、一には維新の大業と、明治の洪謨とを翼贊せんとする大精神から、出發されたのであつた。

斯くて幕府に於ける、不平過激の連中等をして、後年佐賀、熊本、山口と鹿兒島等に於けるが如き、爆發より免かれしめたのは、海舟翁が、斡旋盡力された結果、與かりて力あつたのである。

一九　徳川慶喜の參内

明治三十年三月、英明至仁なる明治天皇は、徳川慶喜が、戊辰以來消極的の勤勞を嘉賞あらせられ、參内を命じ給うた。實に戊辰以來、慶喜が初めての參内であつたのである。慶喜は天皇皇后兩陛下に拜謁仰付られ、特に優渥を賜はつたので、深く感激する所があつた。

この時慶喜は、海舟翁が戊辰以來の努力に省りみ、宮城退下の歸途、赤坂氷川町の邸に、海舟翁を訪問して、今日兩陛下の恩遇に接することを得たのは、卿が勳勞に俟つものありとの謝辭を陳べ、懷中より扇子を取出して「樂天理」の三字の揮毫を求めた、海舟翁は深く感泣されて、直に其需に應ぜられたのである。

戊辰以來三十年の後、前將軍としての慶喜が、初めて拜謁を賜はり、優渥なる御諚を拜したことは、獨り徳川氏の末を完うしたるのみならず、實に鎌倉以來の幕府の末運を、無事に收むることが出來たのである。

又海舟翁は、戊辰の年、幕府の末を無事に收むるまでは、徳川慶喜に面謁しないと誓て、別れられたのであつたが、今此君臣主從の會見により、如何に海舟翁が心に感激され、又安心されたかといふことがわかるのである。翁は喜びの餘り、左の二首を詠ぜられた。

鎌倉にもとゐ開きしその末を
　まろかに結ぶけふにもあるかな、
むすぶ上にいや張りつめし厚氷
　春のめぐみにとけてあとなき

この二首によつて、海舟翁が、幕府の末と徳川氏の末路とを、無事

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に葬られたることを、常に嘆かれてゐられたが、その翌年二十二年二月、贈位されたのを見るに、翁も安心されて、この世を去られたことであらう。

二〇　海舟翁と大西郷

前にも記したる如く、海舟翁は、大西郷の人物と偉勳とを、深く景慕してゐられたのであるが、明治十年の戰亂勃發し、城山に悲慘なる末路を見るに及び、追悼の情に堪へず、十二年六月、東京府下南葛飾郡大木村、上木下川淨光寺境内に、小地を購ひ、大西郷が、沖之永良部島に於て賦したる左の詩を、彫刻せる留魂碑を建て、永く紀念することゝした、その詩に曰く、

朝蒙恩遇夕焚坑　人生浮沈似晦明
縱無回光葵向日　若不開運意推誠
洛陽知己皆爲鬼　南嶼俘囚獨竊生
生死何疑天付與　願留魂魄護皇城

又その碑文には、左の如く記してある、

慶應戊辰之春、君率大兵而東下、人心洶沸、市民荷擔、我說之、寄一書於屯營、君容之、更下令戒兵士驕傲、不使府下百萬生靈陷塗炭、是何等襟懷、何等信義、今君已逝矣、偶見往時所書之詩、氣韻高爽、筆墨淋漓、如見其平生、欽慕之情不能自止、刻石以爲紀念碑、嗚呼君能知我、而知君亦莫如我、地下若有知、其將掀髯一笑乎

この石碑は、後[illegible]、東京府下荏原郡馬込村洗足池畔に於ける、海舟翁の墓所に移轉することゝなり、今は東京名所の一となつてゐる、即ち海舟翁の墓表と、大西郷の留魂碑と相並んで、萬世の下、長へに兩雄の高風遺徳を、追憶せしむるものがある。

明治十六年、海舟翁は薩摩琵琶の大家西幸吉氏の爲に、城山の歌を詠し、琵琶に依りて、大西郷を追悼する資料とせられた。この追悼歌は、普く人口に膾炙する所である。

明治二十年に至り、伯爵吉井友實は、大西郷と海舟翁とが、元治元年九月、大阪に於て、初めて會見せる當時の有樣を、大西郷より大久保甲東に報じたる書翰(一〇大西郷との會見の條參照)を、海舟翁の一覽に供したことがある。この書翰は、畏くも、明治大帝の乙夜の覽に入れ奉ることゝなり、今は御府の御物となつてゐる。

海舟翁が嘗て云はれるには、大西郷は、眞に大英雄であつたが、余の如き、西郷の眼には、喰へない奴位に、映じたことであらうと考へてゐたのである。然るに今この手紙を一覽して、我輩を斯の如く見て呉れたかと思ひ、二十年後に至りて、感激に堪へない次第であると。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結尾

海舟翁は、非凡なる資質を備へ、壮年時代より、堅忍不抜の精神を以て、刻苦勉勵心身の修養を爲し、文武の業を修められた。

また、國家の大勢に鑑み、世界の形勢に注意し、幕府の維持すべからざるを看取せられ、外は明治維新の大業を翼贊し、内は將家の安全を計り、毀譽褒貶をかへりみず、終始一貫節操されたのである。殊に海舟翁に於て欽仰すべきは、感情の資質と、理性の發達との調和を得た人であつたことである。

古今東西の偉人を觀るに、情熱の人は、理性に缺けたる憾みがあり、また理性の發達したる人は、情義の念に薄き傾向がある。しかるに海舟翁は、實にその調和を得たる人で、立志傳中の英雄とも云ふべき、偉大なる人物であつた。

新刊紹介

◇新しき日への文學論（岡田務著・定價五拾錢・東京市神田區中猿樂町一七・秀名社）

◇地球を掘る者（橋宮岡忠著・定價二圓・東京市芝區巴町七七・動向社）

◇田園の紹伴（野崎信夫著・定價一圓二拾錢・東京市下谷坂本三ノ三五・博進堂）

◇婦人問題の本質（堺利彦著・定價拾錢・東京市麹町區麹町八ノ二〇・無産社）

◇新ロシアの婦人（近藤榮藏著・定價拾錢・東京市麹町區麹町八ノ二〇・無産社）

◇佛恩童話めひらきそむる魂（渡邊隆吉著・定價一圓五十錢・京都市下京區壬生川通五條下・同朋舍出版部）

全日本のテニスマンに與ふ

ヴインセント・リチヤーヅ
福田雅之助 譯

一本のラケット、及びそれをトウナメントプレーに用ふる能力さへあれば、プレヤーは世界の何處へ行つても困る事はない。テニスの如く、學生々活を終へた後まで當時と同じ効益を與へるスポーツは他にはない。

ベースボール、フットボール、その他トラックの競技は、學生時代には非常に有益であるが、一度世の中に出てしまうと、これ等のゲームを行ふ機會は極度に制限されて來る。然しテニスに於てはこれと異り、實社會に入つた後にも益々親しみ得る唯一のスポーツである。

言ふ迄もなく、プレヤーがチヤンピオンシップの位置を保持し樣とするならば、トーナメントテニスに、少くとも一年の中七ケ月を費す必要がある事は事實だし、又、その順位を保つと同時に、繁雜な事務にも携つて行かうとするのは、甚だ困難な問題である事も齊しく事實である。

かゝる理由からして、自立の人でない限りは、假令ゲームに向く天性を持つてテニスの最高處に達せんとしても、それは理想的位置にあるものとは云へない。

自立の人は何等將來の事を心配する事なく、自分の好むスポーツ（テニス）に七八年間も親しむことが出來る。けれども不幸にして、斯かる幸福な地位に居る人は極めて稀である。然し、我々がゲームの歴史のページを繰り擴げて見れば、多くの有名なチヤンピョンは、自立の人か、或は有福な兩親を持つた人々であつたことを知るであらう。此理由は明白である。テニスは元來富めるものゝゲームであるから。いや、過去に於てはさうであつた……と言ひかへて、少し和げた方がいゝやうに思ふ。

學校を去つて自活せねばならぬ人が一年間の内、八ケ月もスポーツに事務を離れるなど、果してそれだけの價値を持つであらうか。否私はそ

の模型を持つのは仕事であるなら、且つ少し常識を持つ人なら誰れでも、この世でそんなことは絶對的に認めないと云ふに違ひないと思ふ。

幸福にもそれが過去のものであつたと云ふ譯のは、過ぐる三年間に於て、テニスゲームに著しい變化があつたからである。即ち此三年の時機中に、プロフエツシヨナルテニスの出現があつて、テニスにまつはつてゐた種々の障害が除かれることになつた。例を示せば、庭球史上に於て最も偉大なる女性の代表者である、スザーン・ランゲラン孃、アメリカのデヴイスカツプテイームの一人であつたハワード・キンビイ、アメリカのランキングに於てフアスト、テンに入つたハーベイ・スノツドグラス、嘗つてナシヨナルチアンピヨンであり、そしてアメリカのゴルフのチヤンピヨンシツプのランナーアツプであつたメリー・ブラウン、フランスのデヴイスカツプテイームの一員であつたポール・フエレー、以前のジユニヤーチヤンピヨンであつたチヤーレス・ウツド、ナシヨナルダブルスチヤンピヨンであり、デヴイスカツププレイヤーであつたフレツド・アレキザンダー等──斯かる多數の有名た人物が、スポーツを更に一般化しようとする主旨と、そして同時に彼等の時間と勞力とを償はんが爲めに、プロフエツシヨナルとなつたのである。

この事は、過去十年間のテニス界に起つた、最も重大た問題であると私は考へる。これに比べたら殆んどあるデヴイスカツプがフランスのプレイヤーに依つて獲得された事さへも、大したものと思へない。此點に就いては、將來のテニスの發展を保證しなる事は歴史が知らずであらうと思はれる。一體、こんな役員などゝ云ふものは概ね淺薄な考へに煩はされ易いものであるから。

猛烈なトーナメントの競技を經驗したい人に、プレイヤーが梯子の最上段に達せん爲めに拂はなければならない努力がどんたものであるかをどうして知る事が出來るであらうか。

プロフエツシヨナルテニスとゲームの一般の問題はこれ位に止めて愈々本題に入らうと思ふ。

私は大阪毎日新聞社の招聘に應じて日本に來た。それは日本のデヴイスカツプ選手の主力である、原田武一君と過去二年間アメリカで親しき交りをして來たからである。私はアメリカに於て熊谷、清水、原田の諸君と幾度かテニスをした經驗がある。そして日本のプレイヤーは彼等の優れたドライヴでネツトに出て、そして決定的ヴオレーを以つてラリーを決める事が出來ないのは、一體何故であるかと云ふ不審を屢々抱いて居た。今度、約一ケ月の間日本の主た都會に於て、全ての一流なプレイヤーとプレーをして見た後に、私は漸く其理由に思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斷つた。

第一に、そして恐らく最も重大なる事はボールである。過去に於て日本のプレイヤーの大多數は軟球を使用して居た。實に此軟球こそネットプレーに災し今後も亦災の種とならう。

このやうなボールを使用したることに據つて大多數のプレイヤーがドライヴを爲す際にトップスピンを用ひる樣になるのだ。過度のトップスピンはライジングバウンスを打つ場合には不必要である。

若しラコスト、コッシエ、ジョンストン又はテイルデン等のプレーを注意して見る時は、必ず彼等はボールをコントロールする上に必要なだけのトップスピンを用ひる事を發見するであらう。然し日本の一流の、多くのプレイヤーのプレーを見れば、彼等はライジングバウンスを打つ事を避け、そして更に、ドライヴを打つに必要以上のトップスピンを用ひて居るのに氣が付くであらう。

日本のプレイヤーの、今日面接してゐる問題は實に此事である、と私は信ずる。

彼等は極端なトップスピンの使用を速かに捨て去り、そしてライジングバウンスのボールを打つ事を學ばねばならない。

此事は、ヴオレーの技術を磨くに與つて力あるものである。何となれば、ライジングバウンスの球を打つたなら、最後の止めを刺す爲めに、其の儘ネット際に出ざるを得なくなるから。

原田君が最初アメリカに來た時は、相手のミスを待つ典型的なバックコートゲームをして居た。彼はテニス界の或る地位を確保し樣とするには、如何にしてもヴオレーを完成しなければならないし、それが彼のドライヴを生かす所以である事を直ちに悟つた。そして彼はその目的を達せん爲めに着手し、僅々一年ならずしてネットゲームを會得し、それが爲にデヴイスカップ試合に於てラコストとコッシエとを破る事が出來た。

フオレストヒルスに於て昨年フランスのプレイヤーに對して戰つた時に、原田君はオールコートゲームを立派に實現して居た。彼のサーヴイスは確實で信頼し得るものであり、更に有力なものであつた。バックコートプレーは安全にネットポジションに進ませるのに充分な鋭さを持つて居たし、彼の新に進歩したヴオレーを以てポイントを決めて居た。

一年以前にはネットプレーに關して少しの觀念も持たなかつた人が、最後の障害に向つて突進し、そしてラコスト、コッシエの樣な經驗を積んだプレイヤーに對してヴオレーを應酬した事は實に稱讚に値する。

然し此事は若し正當な方法を採用さへすれば、日本に於ても出來る

と云ふ事を證明するに過ぎない。

日本の一部のプレイヤーはネットプレーに對して不自信を持つて居る。福井、安部、佐藤、原田、三木及びジュニヤーの仲藤等斯かる人々は皆著名なスターに伸び行く素質を備へて居る。只問題は、正統な道を示す事と、斷えざる練習とに精進する事である。

須磨の仲藤はゲームに對して非常な天性を持つて居る。そして、彼が數年ならずして斯界の大立物となる事を私は期待して居る。彼は年齒未だ十六歳位である。かゝる年少であるに不拘、多くの點に於て餘に著るしい良い處を持つて居り、完全にオールコートゲームを會得して居る。現在彼は世界の一流プレイヤーに對して經驗を積む事が必要である。茲數年の内に歐洲と米國との大試合に參加し得る樣にし度いものである。

安部はレングルス、ダブルス共に彼の冷靜な態度を得たプレーで私に印象を殘したが、然し彼も亦日本人の特性である事に煩はされて居る。彼は兎も角も機會を掴むといふ事、それを敢てしない事は常道を逸して居る。その事は偶然にも多くの日本のプレイヤーが學ばなければならない事の一つである。彼等は練習の時或はトーナメントプレーに於てゲームを餘り頓着にやり過ぎてはならない、若し機會が與へられたならばすかさずそのチャンスをつかむ事を忘れない樣にすべきである。練習試合に於ては、假令相手が弱者でもゲームを負かさうとも、常に愈々と自分のストロークを試みる樣にすべきである。二十年間庭球王國に君臨し、そして全ての世界人が等しくテニス界始まつて以來の最大なプレイヤーであると稱讃を惜しまなかつたビッグビルーテイルデンは、十二年間の全ての大トーナメントに於ける敗北に念頭しなかつた。

然し彼はストロークを練習する傍、常に彼を斯界の最高處に位せしめ、更に時間として老けない技倆の上に立つた彼のゲームは、彼に遠くその位置を保たしめたのである。

其故過去一ヶ月間私と共にプレーした日本のプレイヤーの多くは斯かる經驗を知つて利する處が多いと信ずる。

日本のプレイヤーはスコアーを全然忘れ去つて、そしてストロークとタクテックの開拓に一心を捧げなければならない。

私が煉瓦壁に對してヴォレーを毎日四時間練習したことを聞いたならば恐らく多くのプレヤーは驚くことであらう。私は壁に十呎の高さにラインを引き、七呎から十呎離れて立ちボールを壁に打ちつけてヴォレーを練習したものである。約一時間程此の練習をしてから私は五呎ばかり後に退るやうにしてゐた。此方法に於て私は、何時でもボールが壁から撥ね返つて來るし、そ

してそれが二度と再び同じ樣に返つて來ないと云ふ事を知つた。この事は高い處に達せんとするに致されなければならない時と努力とに就いてのほんの僅かな例である。然し此事は日本のプレイヤーに對して非常に利する處があると信じてゐる。

彼等日本のプレイヤーは眞にテニスに適する能力を持つて居るし、その上喜こんでテニスを研究し樣と心掛けて居る。斯かる理由の下に私はデヴイスカツプが今後六年間の內に日本に來る事を斷言し得ると思ふ。

フランスはラコスト、コツシエ、ボロトラ、ブルニヨンの四大プレイヤーを持つて居るけれど、彼等は既に若人の域を越えて居るし、彼等とてテイルデン、ジヨンストンの支配が終に凋落した樣に、いつまでも強いと云ふ事は出來ない。

その時には日本は理想的位置に置かれる。日本には彼等フランスの人々が衰退に向ふて進む時にそれに取つて代る事が出來る多くのプレイヤーが居る。

此稿を終らんとする前に私は日本のプレイヤーとフアンに對して一言述べ度い事がある。それは私が嘗つて如何なる國に於てプレーしたよりも最も喜ばしい一ケ月が費された後に滿腔の誠意を以つて捧げるものである。

若し日本が若いプレイヤーに據つてデヴイスカツプを日本に齎らさうとするには、彼等若いプレイヤーを外國に於ける競技に參加さす事に全ゆる努力を惜まない事である。

デヴイスカツプのトライアルに對しては少なくとも外國に於て三ケ月間の準備を與へなければならない。

何故かと云へば選手が新しいコンデツシヨンに馴れるには如何しても時が必要である。ハードコートしかなく、二三の異つたボールを使用して居るフランスに於ては殊に此事が重要である。フランスはグラスコートを持つて居ないので來年の夏のデヴイスカツプ試合はオリンピツクゲームが行はれたコートでプレイされるらしく思はれる。

其故日本のプレイヤーは氣候に馴れるため、そして異つたコートに親しむために早くフランスに渡つて充分に餘裕を以つてフオームを完全に出す樣に努力しなければならない。

若し日本のプレイヤーがさうしたなら、一九二八年のデヴイスカツプ戰に於て日本は恐ろいし手段として迎へられる事は疑ふ餘地がない。

（十一・十六、神戶にて）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寒草集

齋藤茂吉

折々の歌

いちはやくうらがれそめし草なかにけふも日もすがら小鳥のこゑす

つゆじもはしとしとしてしげけれど日毎にし見むわれならなくに

うらがれてしろくなりたる草叢にかくらふ鳥は心やすきか

北窓に目張をしつつこの冬を心しづかに我ありぬべし

うつしみの吾が目のまへに黄いろなる公孫樹の落葉かぎり知られず

ももくさにけふのあさけのつゆじもは時雨の雨のふれるがごとし

北びさし音するばかり吹くかぜの寒きゆふべにわれ黙しをり

天龍川

ぬばたまの夜のあけがたの霜ぐもる國の平は川の音ぞする

信濃路や天のなか川に立つ波の寒きひびきを間近くに聞く

峡すぎて見えわたりたる石原に川風さむし日は照れれども

きのふまで時雨の雨のふりしとふ天龍川を漕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぎくだりゆく

冬日てれる天龍川の川舟にしまらく吾の聲ぞたえたる

信濃なる天龍川のたぎちゆく寒きひびきの常ならなくに

あしびきの山峽ひくく流るるときしぶきをあげて川波立てり

きはまりて晴れわたりたる冬の日の天龍川にたてる白なみ

雨はれて寒きかぜ吹く山がはの常なき瀬々の聲ぞきこゆる

天龍川の中つ瀨にして浪だてりしぶきはかかるわが額まで

ひたはれに澄みきはまれる冬空やきのふまでこそ時雨ふりしか

奥やまの嶺には眞白く雪ふりて嶺か根つづきのひまに見えそむ

天龍をこぎくだりゆく舟ありて淀ゆきしかば水の香ぞする

おのづからなりのまにまにとどろきてくしき山みづやりまし山がは

南へながるる川を漕ぎ來つる舟に走れりたぎつ瀨ごとに

永平寺吟。大佛寺途上

ひんがしにむかひいくたびか踏みわたる行往川の香は親しくもあるか

ひるながら人のおとせぬ山間なかに入りて來にけり百鳥ぞ啼く

うつせみの悲しみ[illegible]くこころ[illegible]やらはむはし山のみ寺に

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

谷間はいまだ源に遠からし山みづの音のこもるを聞けば

葛の花ここにも咲きて人里のものの戀しき心おこらず

夏山のみちをうづめてしげりける車前草ぞ踏む心たらひて

永平寺吟。玲瓏巖

いにしへの聖はこひし山中のここに明暮れしことぞこひしき

大き聖この山なかの岩にゐて腹へりしときに下りゆきけむか

谷に生ふる高杉の秀のゆらぎをぞかく目ぢかくに見るは樂しき

谷川の音たえまなきあかつきにいにしへびとぞここに居りける

蟻地獄砂にこもりてゐるを見つかりそめのごとと見てか過ぎなむ

この巖より滲みいづる水かすかにて音の幽となりがてなくに

杉の秀のうごくを見つついにしへの聖のあとに吾ぞ居りける

きぞの夜にねむり足らはず覺めしかばこの岩のはざまにまどろみにけり

志比川の谷の入さへ白雪のふりつむころに道絶えぬべし

冬ふかみ志比谷川の奥谷に夜半はしづかに雪つもるべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近詠

窪田空穂

舊暦八月十五夜

廊下の瓶（かめ）の薄に月させり風立てゆするその光る穂を

家のもの月見てあれば若き友ふたり入り來て言（こと）なく並ぶ

蟬

久しぶりに蟬の鳴くよと腹ばひて本讀（よ）む我の顔もたげたり

あれあとの秋深き空に鳴きいでし一つ蟬あり忽ちやみぬ

或時

かへり見てむだ口つかむ人のほし友は離れ住めり子らはをさなし

相手ありて人はむだ口つくに馴れその値（あたひ）をば認（みと）めぬ如し

高雄山にて

嶺道（みねみち）を行（ゆ）くとわが踏む大き葉の黄に照りたるは朴（ほほ）の落葉か

新しき小家（こいへ）かこめる木疎（こまばら）の薄は白く穂の枯れにけり

小庭

土手の上につづく秋空ま青（さを）なりふとあらはれぬ自轉車と人と

錦木（にしきぎ）のもみぢせる葉のいささかの疎（まば）らに浮かぶ竹垣の上に

傳通院にて

御堂道（みだうみち）はさむ銀杏の黄に照りて歩み入る我にこぼれて落つる

早稻田にて

大隈總長記念講堂の大時計秋ふかき空にさやかに鳴りいづ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

暁霜

中村憲吉

今朝の霜いたく置くらむ宿駅にはひと起きし
おとのいまだ稀なる

あかときの霜ふむ人は羨しかも昨夜のねむり
のよく足りぬらむ

寝寐がたく昨夜もなやみぬ吾がくせの寝酒を
やめし寂しさのみならず

日ならべてこころの憂さやかかりごと彼もこ
れもの捨て置きがたき

あきらめに似たる思ひを吾がもちてあかとき
がたの眠りに入るも

あかときと吾が待ち明けし西山に空ゆくから
すはじめてきこゆ

いね足らぬねむりを継がむあかときの冷えし
炬燵は火にぬくめつつ

早朝の宿駅路になにか言ひのこし行く旅びと
をきけばさみしき

おしなべて霧のとざせる家並には板屋の霜の
いちじるく見ゆ

宿駅路に枝をたれたる枯柳に霜の真白きこの
朝かも

朝霜に荷積みひさしき馬ぐるま馬のたてがみ
霜おきにけり

朝日照り霧ながるれば馬嘶きて宿場ぐるまが
発ちゆくらしも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はつふゆ

若山牧水

松が枝に鴉とまりつおもおもと枝のさき揺れて枯葉散りたり

わが家を圍みてたてる老松よ高く眞黒く眞直ぐなる松よ

ほがらかに鵯啼く聞ゆ老松の梢の高みに鵯啼く聞ゆ

この頃の部室の障子にさす日影親しいかなや冬に入りたる

灰をならし心しみじみなりにけり夜半の圍爐裡に獨り向ひぬ

朝宵に圍爐裡にかざすもろ手なり痩せたるかなや老のごとくに

池尻の落葉だまりに水あびてあらはなるかも一羽の小鳥

池尻の砂を流るゝ水淸し蜆の貝を其處に飼ひなむ

植ゑよとて柿の木の苗を貰ひたり植ゑて四五年たゝばならむとふ

この朝よ木枯吹かむけしきなりひむがしの空に雲低く散り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

述懐

與謝野晶子

これなるは忘れし後と云ふ心初めも無しとなすに至らず
ことごとく昨日となれば百歳(ひやくさい)の人もおのれも異ならぬかな
自らを哀れ哀れと云ふことに満たされつれぞの胸を捨つ
落葉にも冬木立にも慰めど悲しみとなる人の父がら
よそ人をわれ小猿とも自らをはた人ぞともゆめたさぬなり
爐(ろ)とわれと唯だありぬべし要なしや倚らん柱も人の心も
こし方をよその上とも取違へわれのあるまた人のあるかな
人よりも多く恨むと見なしつるその心をばこひはてぬ
日の光明るき方を草木よりのぞましくする人の身のはて
住み馴れし都の家を離れきぬその外のことさもあらばあれ
人の身のはてに及べばうら寂し風動くとも人われを見ず
いにしへの日の涙落つ今日と云ふ時を忘れて淺はかに落つ

雜木

北原白秋

雜木こそうれしけれ、
そのもみぢも、
こもごもに日のひかり
さしかひつつ。

雜木こそうれしけれ、
そのにほひも、
ほのぼのと霧と雨・
なづさひつつ。

雜木こそうれしけれ、
そのこずゑも
さむざむと雀など
かい寄りつつ。

雜木こそうれしけれ、
そのしもとも
ほきほきとゐろり火に
折りくべつつ。

小閑

なかめあかるきをりをりも
ほそりと影は通るなり。
なにかわびしき日向ほこ、
物の憩などもはかなさ。

賀正

高級各種印刷及裝幀

共同印刷株式會社

東京市小石川久堅町

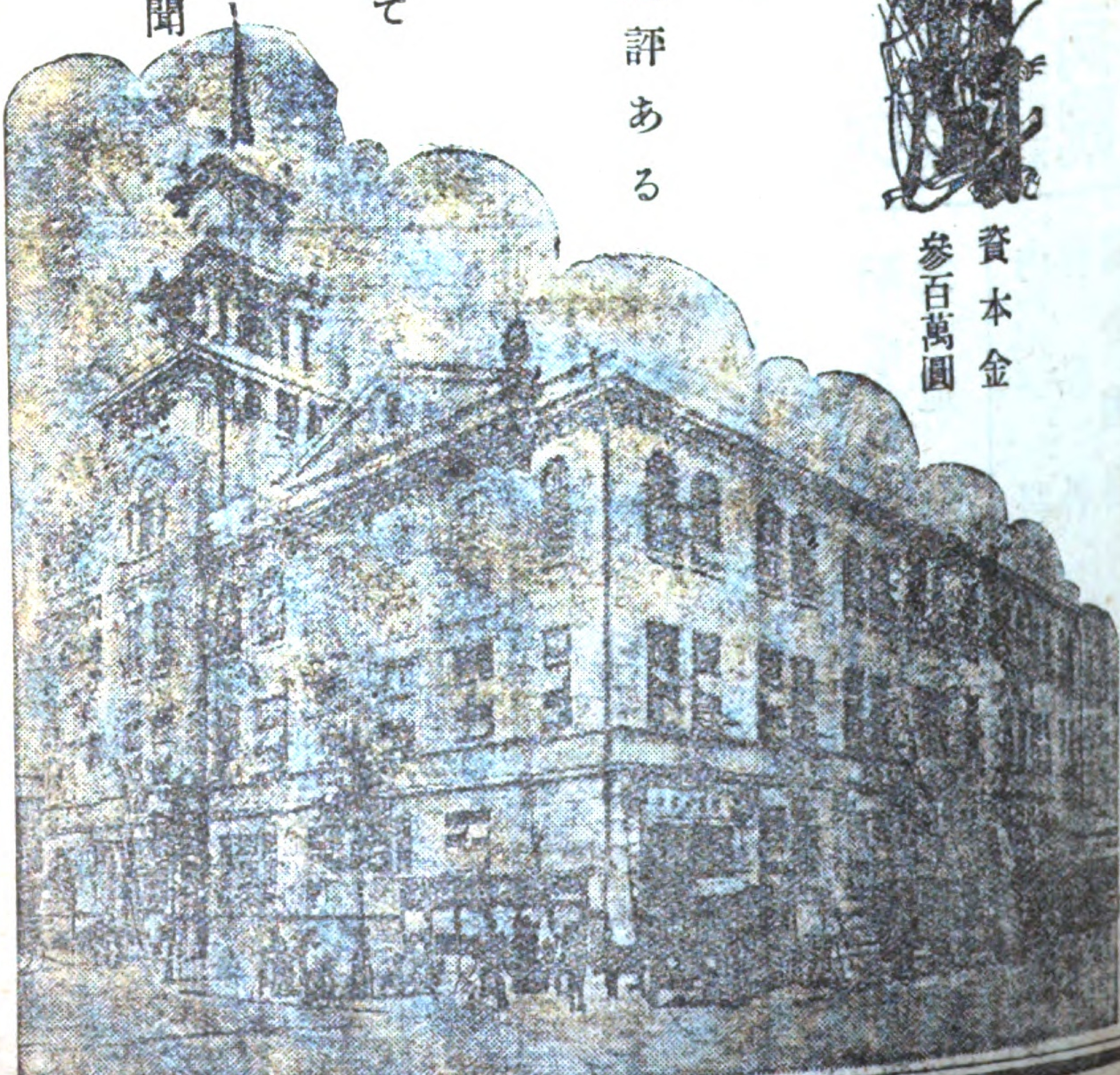
電話小石川八二、八三、八四、八五、八六、五三九
九二二、九二三、九二四、一三九九、二九七一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭必讀

資本金參百萬圓

一刻も手放せぬ
正確速報の定評ある
政治に經濟に！
家庭の讀物として
最も趣味豐富なる
國民新聞



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醫學博士 佐野彪太

腦脊髄神經病

佐野内科病院

東京神田區駿河臺（明治大學筋向）電話神田三四八〇

胃腸病

外來診察毎日午前中

院長 醫學博士 杉本東造

杉本胃腸病院

東京神田錦町三の一（美土代町下車）電話神田三五八一番・三五九〇番

肥胖病 血壓亢進症 糖尿病 心臓腎臓病 X光線科

醫學博士 倉上由一

倉上内科

診察 自午前八時 至午後一時

東京赤坂區青山北町四の六六 電話青山二一七六番

神經衰弱 腦精神病

院長 ドクトル 齋藤紀一 醫學博士 齋藤茂吉

青山腦病院

電話青山六五二番 四谷六七二番

東京赤坂區青山南町五丁目（市電明治神宮前）

東京府下松澤村松原（玉川電山下下車）

小兒科

X光線科特設

隔離室完備

入院應需

院長 醫學博士 瀬川昌世

瀬川小兒病院

東京市神田區駿河臺御茶の水 電話神田25・四四一番・四四二番

外科 内科 皮膚性病科 肺結核科 整形外科 泌尿器科 X光線科

院長 醫學博士 松永琢磨

松永病院

診察 前九―十二 後三―六

東京下谷區省線御徒町驛前 電話下谷一三三〇番

腦溢血 腦梅毒 腦膜炎 不眠症 腦脊髄神經科專門

醫學博士 佐多芳久

虎の門 佐多病院

診察午前 入院隨時

東京芝區明舟町一九 電話芝一九一五・二七二四

淋病専門

特に慢性淋病

院長專門 醫學士 管野憲一郎

東明堂醫院

東京市京橋區南紺屋町二高島屋向通

市電京橋又は中橋廣小路際

耳鼻 咽喉氣管 食道科

診察 前九時より 後七時迄

醫學博士 鍋谷傳次郎

鍋谷耳鼻科醫院

東京京橋區桶町十（市電中橋廣小路下車）電話京橋（五六）六〇七番

内科 神經科 腦脊髄科

醫學博士 小峰茂之 醫學博士 森半兵衛 醫學士 鈴木雄平 醫學士 小峰茂三郎

王子腦病院 院長 小峰茂之

小峰病院

東京府下瀧ノ川 市電飛鳥山線通

電話小石川八〇・二三〇〇・王子一〇四番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新世界の魅惑

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ナイルの旅

田島正雄

埃及の生命

羅馬のヴァチカン美術館にＩＬ ＮＩＬＯと題した群像がある。波を線彫した台座の上に、左の肘をスフインクスの背に凭せ、兩脚を長長と延ばした一人の巨人が悠然と横はつてゐる、その肩から腰の周り足許の邊には、十六人の小兒が或者は巨人の軀に抱き着き、或者は感に堪へぬ面持で巨人の姿を仰ぎ見て居る、そしてその總べてが三々五五相顧みて嘻々として騒ぎ居る。之が即ナイル河の象徴である。

ナイル河が青白兩ナイルの双脚を有し、其左岸にスフインクスを擁して居る姿が、此の巨人に依て表現せられて居る事は謂ふ迄もない。そうすれば此の巨人を繞つて群り喜んで居る可憐な小兒達が、五千年の昔から只一條のナイル河をば生命の源泉として活きて來た埃及人の姿を偲はせる事も亦固よりである。

ダニューブは羅馬の歴史に太い輪劃を描いて居る　ラインは中央諸國の興亡と放つ事の出來ない因縁を持つて居る。然しナイルと埃及との關係に至つては、單なる因縁や交渉を超越した絶對的の宿命である。世界最古の文化の發祥を見て以來五千年後の今日迄、埃及はナイルに依て活きナイルに依て育つて來た、ナイルは實に埃及の生命である。

ナイルの漲落

太陽を廻る地球の運行と、之に依て生ずる四季の交代とは、五千年間渝る事莫く、此間ナイルは年毎に規則正しい氾濫を繰返して埃及を培ひ育てゝ來たのである。

本流白ナイルの水量は、その水源たるヴヰクトリア大湖に依て調節せられ四時著しい變動を見ないが、その途中から流入する青ナイルは其源をアビシニアの山中に發する爲め、夏季の溶雪に依て一時に水量を增し、下流の三角洲地方に氾濫を起すのである。斯くしてナイルは六月に初まつて八九月の交その最高潮に達し、兩岸に氾濫した河水は暫く休頓して十月に及び、其間水中に溶解した豐沃な沖積層の泥土

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を沈澱さす、冬期にかけて減水した後に其濕潤地帶した自然の沃土の上には晩秋初夏に亘つて播種耕耘が行はれ、そこに穀物は實り家畜は肥える。

このナイルの漲落は四季の循環と共に規則正しく行はれるが、年に依て增水に多寡を生じ從て收穫に豐凶を來す。ナイルの高潮二十呎以下ならば饑饉、二十三呎ならば不作、二十五六呎ならば豐年、更に之を超ゆるの增水は文字通りの氾濫となつて人畜に害を及ぼすと謂はれて居る。

埃及は地廣くして面積四十萬平方哩を越えて居る。然しその大部は雨に惠まれぬ不毛の砂漠である、只ナイルの水に潤はさるる地方にのみ生命が榮える。

水と人文

古代の埃及人はナイルを神格化して崇拜した、彼等に取てナイルは一の偉きな神秘であつた、彼等はこの偉きな流れの源が何處に在るかを識らなかつた、然し彼等はナイルの水が總べての繁榮の源である事を識つてそこに神の慈愛を感じて居た、死の沈默に閉された數千哩の沙漠を貫いて、悠々と流れ滾々と盡きず、人畜を養ひ草木を育てる、この偉きな河の姿と力に對して彼等は限無き畏敬の念に打たれて居た。

年々繰返されるナイルの漲落を注視する中に先づ潮時の法が生れその手段として天文學が發達した、氾濫を利用して生命の糧を獲る爲には耕地と土木の術が開けた、穀物の増加に伴つて人口數が進み度量衡が生れた、耕地とその穀物の分配が複雜に進化すると共に其間の爭を裁く爲に權利が生じ[illegible]は遂に法を編み出した。

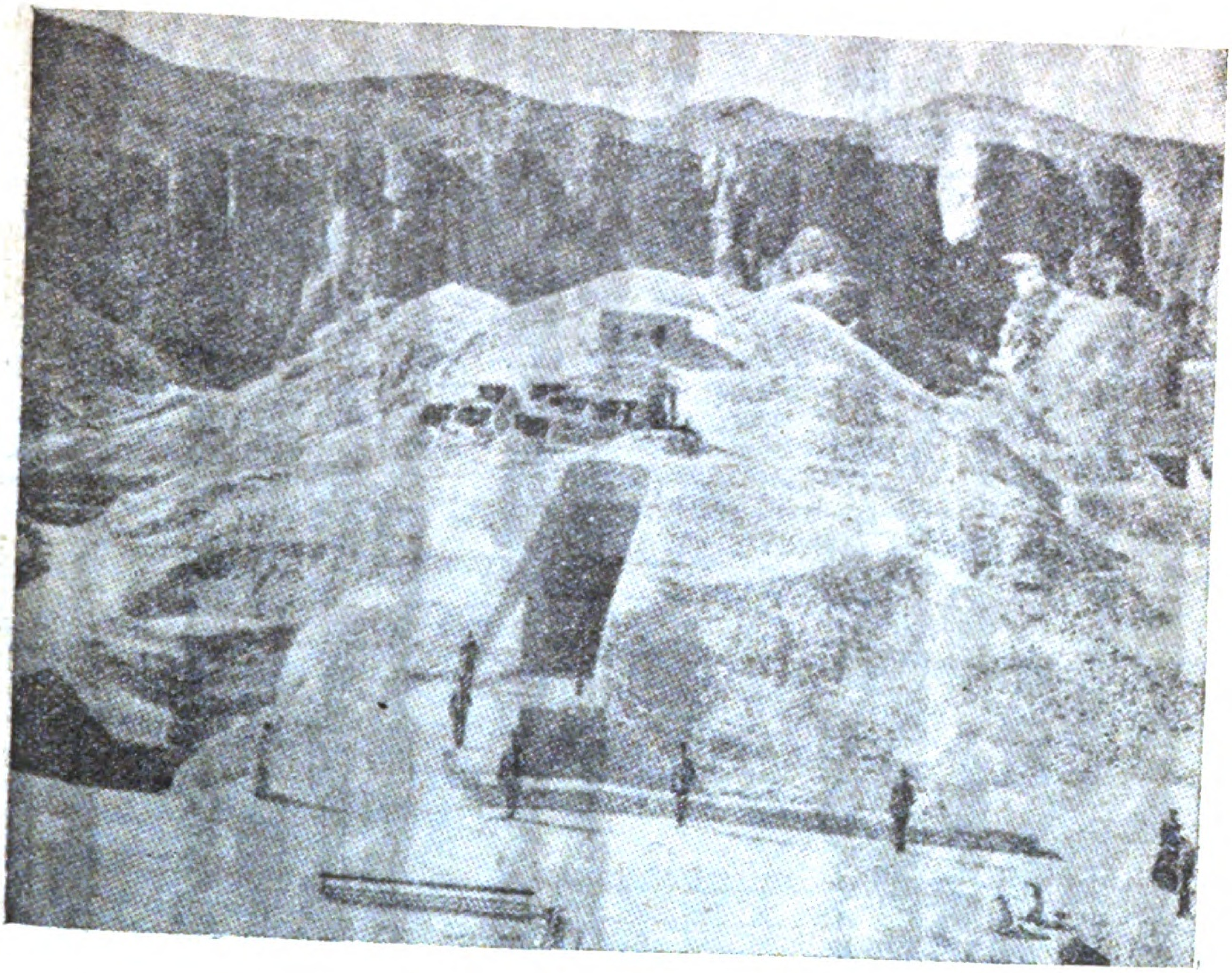
斯くの如くにして埃及の文化はナイルに依て産れナイルに依て育つて來た。地中海が希臘の父と謂ひ得るならば、ナイル河は埃及の母と呼ばれねばならぬであらう。

ナイルを上下する船と車

ナイルを遡る旅はカイロを出發點とし策源地とする。三千五百哩の長流に沿うて、五千年間興亡の跡は、無數の史蹟となつて隨所に點在し、殆ど應接に遑無からしめて居るが、自ら下流に密にして上流に粗となる。之を訪ぬる旅行者は世界の各地から集つて四時其跡を絶たず、之に對する船車旅館の設備は至れり盡せりである。

埃及を發祥の地とするトマス・クック社と、之に對抗する英國ナイル旅客社とは各々善美を盡した遊覽船をナイル河上に浮べて居る、その航路はカイロからラクソアを經てアスワン迄最も名勝に富む六百哩の河上を二週間乃至三週間を費して航游するもので、十一月から三月へ掛けての季節中は毎週定期發船しその賃金一人五十六磅乃至七十磅である、之等の遊覽船は各室食堂展望室、讀書室浴室等悉く備り宛然たる浮旅館である。此外更に經濟な旅行者の爲めには貸切の小型

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ツタンカーメン王墓

汽船と帆船とがある、ダハビアはファラオ時代の船に型取つた古式の帆船で、埃及名物の一として識られ、ナイル優游には誠にふさはしいものである。

アスワンから更に遡航して蘇丹國境のハルファ迄の二百哩は別にクツク社と蘇丹政府の連絡船が航行して往復七日の旅程になつて居る。其賃金一人三十磅乃至二十磅である。

陸路はカイロからラクソア迄四百五十哩を埃及政府の廣軌鐵道が西岸から東岸に跨つて走つて居り、立派な寢臺車を運轉して平均卅五哩の速力で十三時間を要するに過ぎない。ラクソアからアスワン迄の百三十哩は狹軌鐵道で東岸に沿うて走り車行七時間、夫から先は鐵道の便なく前記の連絡船に依る外はない。ハルファから先には又蘇丹政府の鐵道があつて沙漠を横斷しカルツーム迄達して居る。

カイロからラクソアへ

古代埃及の首都として最榮えたのはメムフイスとテーベであるが、前者はカイロに近く後者はラクソアに接して居る、從つて此間の地方がナイル流域の中でも最史蹟に富み、ピラミッドの數丈けでも七十を超えて居る。一番廣く世に識られて居るのは、カイロからナイルを渡つた西岸ギゼーに在る大ピラミッドとスフインクスであつて、其大さに於てはナイル河畔に覇を稱へて居るが、更に其南十哩のサツカラには、特異の形狀を有する階段金字塔が在り、紀元前約三千九百

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第三王朝第三代の王に依て建てられ、年代に於ては最古のものに属して居る。謂ふ迄もなくピラミッドは古代埃及王の墳墓であつて神聖王朝の特長と謂ふべく、従てメムフイスの遺跡に近い下流の地方に聚まつて居る。謂ひ得るならばメムフイスは埃及の奈良である。

更に南に進むとアビドス及びデンデラの古寺の遺跡があり、之を過ぎて間も無く河を越えて東岸のラクソアに着く。

ラクソアは即ナイルの両岸に跨つて栄えた古都テーベの地であつて、河の東岸には有名なカルナックの大寺が残つて居る、古代埃及に於て「神々の王」と称せられたアーメン・ラーを祠り、夙くより諸王の努力を聚め降つてはプトレミー朝の時代に至るまで歴々造営を重ねられたので、其規模の大輪奐の美を以てしたならば、ナイル河畔の古建築中結構第一と称せられて居る。

更に河を渡つた西岸にはクルナーの古寺があり、続いて其西北に連亘する「死の丘」には、古埃及を支配した王や妃や大臣等の古墳が夥しく存して居る。テーベ時代の後期王朝に至つては、金字塔建設の風既に廃れ、王墓は丘に拠て地下に造らるる様になつた。

カイロからラクソアへ／＼謂ひ換へるならばメムフイスからテーベへ、地を隔つる事南北四百五十哩、自ら古代埃及の文化推移の跡を偲ばせるものがある。メムフイスを埃及の奈良と呼んだ私は茲に再びテーベを埃及の京都と称する事を許されるであろう。

「王　墓　の　谷」

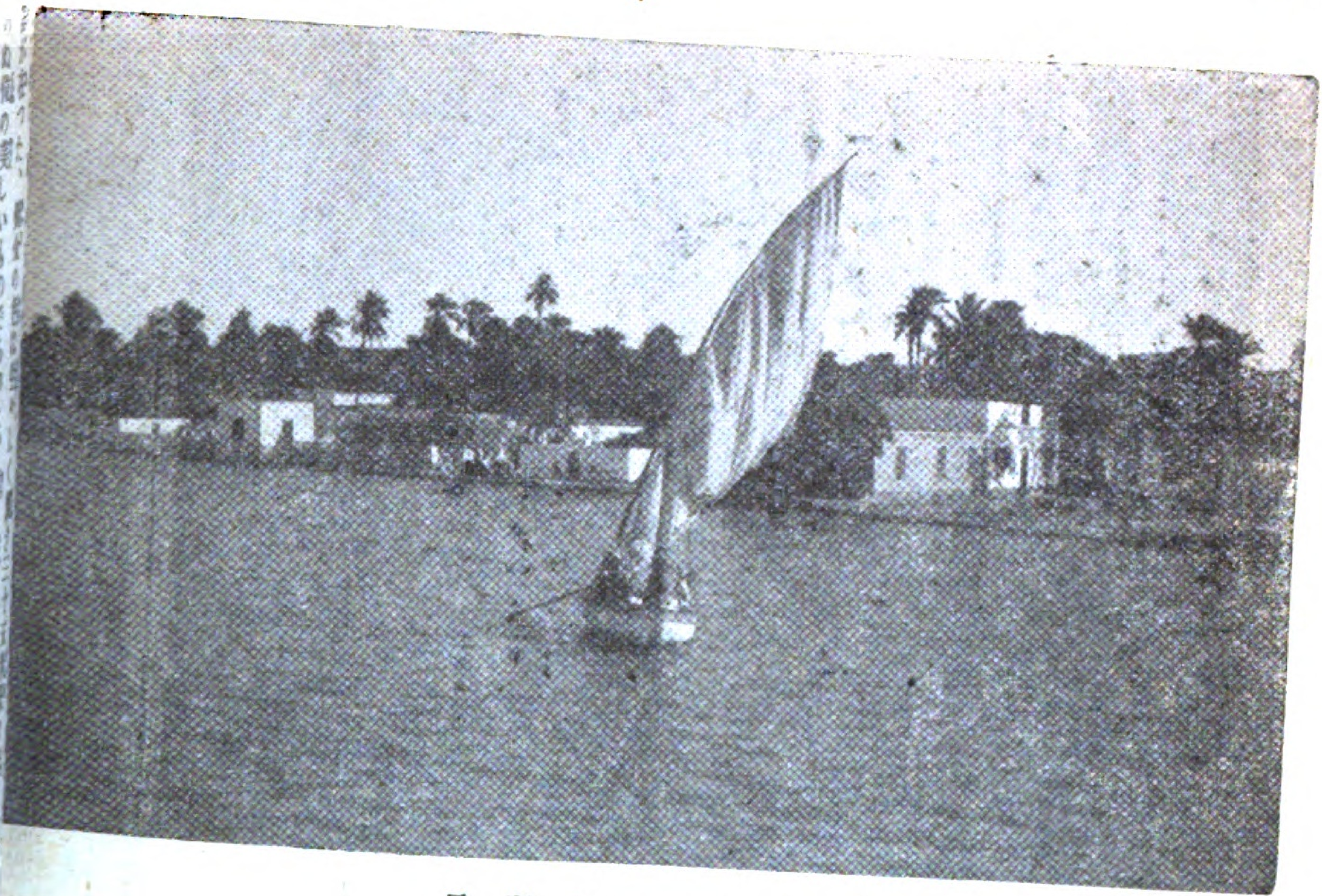
メムフイスの金字塔と謂ひ、テーベの王墓と謂ひ、総べてナイルの西岸に拠て建てられて居る。之は霊魂の再来を信じて木乃伊の術を創り出した古埃及人が、其王の遺骸を葬るに当て最も安全な場所を選んだ為であらう。

由来埃及の地は西にリビア、サハラの大砂漠を擁し、外敵の侵入に対しては海を控ゆる以上に安全を保障せられて居た、然るに東に當てはシリア、メソポタミア、ペルシアの地方に夙くより強大な帝国が現れ常に埃及に脅威を興へて居た、故に古埃及人は東に対してナイルを墻壁として衛り、王墓は総べて之を西岸に営んだものと思はれる。然し中世サラセンの侵入に際しては、地中海に近く巍然と聳えたメムフイスの金字塔は真先に劫掠の目標となり、内室に納められた墳墓や財物は跡方もなく掠め去られてしまつた。

此時遥か上流に退いて地下深く秘められて居たテーベの王墓は侵入者の蹂躙から免れ、爾後尚千年の間ファラオの夢を安らかに守り、十九世紀の中頃から今世紀の初頭にかけて埃及考古学者の発掘と研究に依て千古の神秘を現代に傳へ、古代史料として重要な文化的貢献を成したのである。

ラクソアからナイルを西に渡つてクルナーの村を過ぎると、一木一草も無い沙漠の突當りに、屏風を立て廻した様な砂岩の絶壁が延々連

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ナイル河所見

亙して居る、之が即ナイル河溪の窮る所、リビア大沙漠の初る所、生命の國と死の世界との境界である。この砂岩の山を攀ぢ登つたならば、そこには再び降るべき途は無い、茫々漠々たる大沙漠が千古の沈默を守つて横つて居るのみである、リビアからサハラへ、二千哩の砂の海は一直線に太西洋に迫つて居る。

古代埃及の人々は、この魔の樣な沙漠の彼方にこそ「あの世」が潜むで居るものと信じて居た、そこで死者の冥土へ行く旅を送る爲に、この絶壁の下、「この世」と「あの世」の境の土地に、王や妃の遺骸を葬つた、「王　墓　の　谷」は斯くの如くにして造られたのである。

ツータンカーメン

「王墓の谷」は埃及考古學者の寶庫として前世紀の中葉以來數多の貴重な史料を世に與へたが、最近に於て全世界に亙るセンセイションを起したのは、一九二二年の冬、カーナヴォン卿とハワード・カーターに依て發掘せられたツータンカーメンの墓であつた。

TUT ANKH-MEN は十八王朝紀元前千五百年頃のファラオであつて、その前王にして岳父たるアーメネテップの信仰を承けて、テーベの北タル・エル・アマラの新都にアテンの神を祠り、後再び古來の傳統に復してテーベに還りアーメン・ラーの神に仕へた一種の理想家として埃及史上に名を殘して居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

從つて室の空氣は三千五百年前の埃及の生活を其儘現代に再現して、第一室第二室と覗いて衛兵の扉が開かるると共に、そこには王の寢所して居た車や玉座や寢台や精巧な裝飾や彫刻に飾はれた様々の什器が在つた、鍍金の色は鮮、生々しく輝き三十五世紀の時の流れを感ぜしめぬ位の美しいものであつた。王が自ら手にして飲食を攝つたであらう所の透明硝子の如きアラバスターの鉢も現れた。王衣を納めた櫃の多數も見出されたが織物類は流石の蜘蛛の巣の様に衰へて手を觸るればボロボロに崩れる許りになつて居た。死後の生活を養ふ爲には穀物の幾袋かが置かれてあり、モーゼの生れるまだ以前にナイルの岸邊に咲き匂うて居た草花の一束までも見出されたのである。この總べての品々と現代に活きる我々との間には三十五の世紀が横つて居る、夫が而に我々の視覺の前に持出されたのである。

斯くしてツータンカーメンの名は日常語の一となつて世界の隅々に喧傳され、倫敦に巴里に、紐育の百貨店の飾窓に、あらゆる場所と機會に於て、奇を好む現代人の好尚を煽り立てたのである。

ナイル河畔に果しもなく廣がつて居る砂漠は千古の沈默を守つて居るが、その砂の底に秘められた第二第三のツータンカーメンは何時の世にか再び現れて出るのであらう。

ラクソアからアスワンへ

ラクソアを出て更に南下を續けると、エスナ、エドフユ、コモオン[illegible]の兩岸遙かの限り續く限りは、青々とした[illegible]て居る、その所々には長矢の如しい小樹が繁茂して居る。[illegible]地方の[illegible]圓形に[illegible]を固めた家を巡らした丈で、屋根は僅に木の枝や椰子を敷き並べて日光を遮るのみである。驢馬や山羊が農夫と一緒に寢食を共にして居る、河邊の路を折々駱駝が荷を負ひ人を乘せて悠々と大股に歩いて行く、ファラオの世と餘り違もあるまいと思はれる様な景色である。然しこの緑の野も帶の様に細長く、東は直にアラビア砂漠に遮つて遙に紅海岸の山脈を望み、西はリビア砂漠に接してあの「死の丘」の餘脈が延々と起伏して居るのを間近く眺められる。

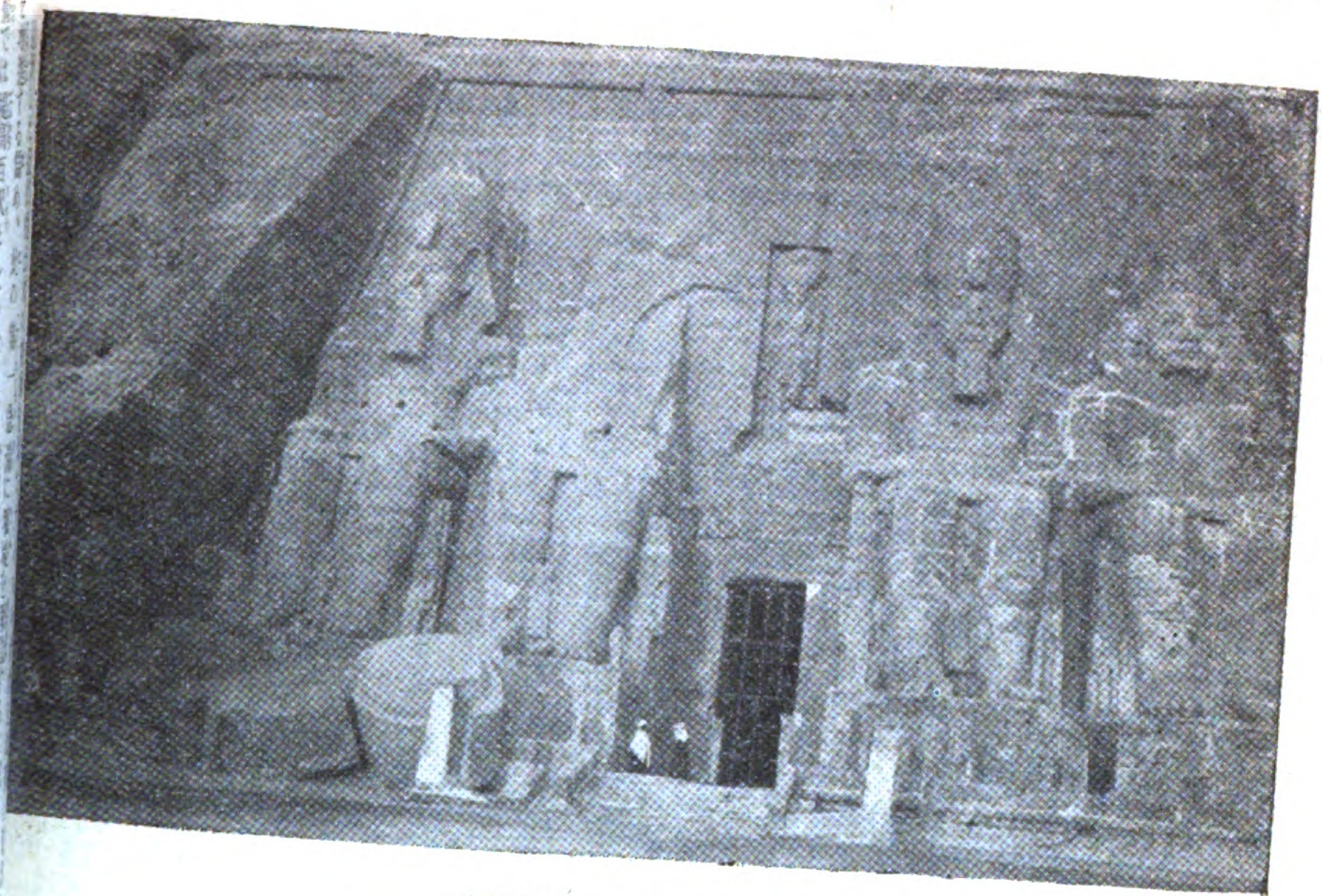
河岸の此所彼所には、建石や自然の岩石に度盛を刻込んだナイロメーターが在つて、數千年前から今日迄絶え事なき河水の漲落を凝視して居る。又到る所に撥釣瓶の様な仕掛になつたシャドウフや木製の大きた歯車を利用して牛に曳かせて運轉するサキヤ等の原始的な汲水裝置が營々としてナイルの河水を汲上げては兩岸の耕地に灌いで居るのが眼に着く、埃及の生活の一面相がそこに窺はれる。

ナイルの第一勝

アスワンはカイロを去る五百八十哩の上流に在り、ナイルの第一急湍の直下に位して居る勝地である。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



アビユ・シンペンルの岩窟寺

アスワンから上流へ約六哩シエラルに至る迄の間は兩岸直に山に迫り、河中には大小多數の島嶼巖塊が點在して、流域上下を通じ他に見る能はざる複雜な勝景を形つて居る。ナイルの大流はこの隘路に來つて急湍を作り、水勢頓に激して船を通ぜず、埃及からヌビヤに達する第一の關門を成して居る。ナイルは之より上流に進むに從ひ、第六急湍に達する迄尚五段の急湍を有して居るが、アスワンの第一急湍が最も著明であつて古代埃及人は此地を以て水源と考へて居たのである。

アスワンの町は河の東岸にあり、之に相對する河中の島は「ナイルの鍵」と呼ばれるエレフアンテイン島であつて、古來埃及に據つて南方ヌビヤを制する者に取つては第一の要衝とせられ、羅馬時代の築城の遺跡が今尚存して居る。ナイルを以てラインに比するならば、このアスワンの勝はかのローランドセックに擬す可きものであらう。

カイロから遡航する遊覽船はアスワンに終航して引返すが、鐵道は更に第一急湍に沿うて山背を迂回しシエラルに達して其所から蘇丹行の遡航船に連絡して居る。

ホテル其他遊山地としての設備は皆アスワンに集て居り、シエラルは只湍上より蘇丹に通ずる淋しい船着場に過ぎないが、その勝景は敢てアスワンに譲らぬものがある、則その直ぐ下流に造られた堰堤に依て塞ぎ湛へられたナイルの流れは漫々と廣がつて湖水の如く、丘陵島嶼に點綴せられた水上には、有名なフイレーの寺の塔門と柱廊が半

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[illegible]

るものがある。

進歩した近代的土木の技術を以てナイルの治水を改善し灌漑の効率を增進する爲め、此の第一急湍に堰堤を築造するに際し、最初の計畫では堤高百呎として八百五十億立方呎の水量を湛える事になつて居たが、夫ではこの美しいフイレーの寺が全く水中に沒する事になるので、色々と議論のあつた末遂に功利は審美に制せられ、堤高廿六呎を減じてフイレーの沈下を救う事になつた、其結果貯水量は三百五十億立方呎に減じたのである。其後再び功利論が勢を得堤高更に五呎を增した爲め、塔門も柱廊も今や其半を水中に沒して居るのである。ナイルの寶玉と呼ばるゝフイレーの島は言葉通りの浮沈の運命に弄ばれて居る。

シエラルからハルフアへ

第一急湍を越えて後、シエラル以南の上流に進むとヌビア一帶の風光は下流地方と趣を異にし、次第に荒涼と寂寞の氣を加へて來る。卽ち河の兩岸には綠の耕地が途切れ勝になり、東岸のヌビア砂漠と西岸のリビア砂漠とは直に水邊に迫つて居る。南下するに從つて溫度は漸く上昇し、烈々たる日光は漫々たる大河の水面に反射して天地は只管明るく平たく寂しく見える。其でも時折は、荷物を一杯に積込み、三角帆を高く揭げて進んで行

[illegible]椰子の茂りを中心にして、幾戸かの土人の泥小屋がささやかな部落を搆へて點在して居るのを見掛ける、そこには例のシャドウフがありサキヤがあり、人と牛と驢馬と駱駝とが黙々として働いて居る、不毛無人の砂漠となり果つ可き土地にも、之丈けの活力を與へて居るナイルの力の偉さを、改めて強く印象される。

カイロを去る七百二十哩のイブリムは、北流するナイルが、一度反折して南行する大きな屈曲點に臨み、河の東岸に屹立する高い岩山を擁して、上流下流を同時に制する景勝の地を占めて居る、ヌビア第一の要害で「ナイルのジブラルタル」と呼ばれ、山頂には羅馬時代の古砦が今尙殘存して居るのを船上から明に眺める事が出來る。以て羅馬帝國の偉大さを窺ふ可きである。

尙此間隨所に點在する古寺の遺趾も亦尠くなく、ダンデュル、ダツカー、サブア、アマダの各地を數へる事が出來るが、最も著しいものとしてはアビュ・シムベルの大岩窟寺を擧げねばならぬ。

アビュ・シムベルはカイロを去る事七百六十哩の上流西岸の地に在り、古は大きな町が榮えて居たが夫は既に滅びて今は僅に河に臨んで小許の耕地を有するヌビア砂漠の一寒村に過ぎない。有名な岩窟寺は河岸から數町、船上からも直に望見し得る岩山の中腹に在る、夫は紀元前約千三百年の昔、十九王朝の英主として埃及史上に最も有名なラメス二世が、シリアに於ける戰捷を記念すると共

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ナイルの水源（リッポン瀧）

に、邊境ヌビアに勢威を示す爲め、非常な大工事を起して建てた所のものである。

總べての結構は天然の大砂岩山を其儘刳り拔いて造られたもので、先づ正面九十呎四方の岩壁を平く削つた上に中央の洞口の左右に二基宛合計四基のラメス二世の巨像を刻り出して居る、その各々は王座に腰掛けた坐像で高さ六十六呎、即ち奈良の大佛を拔く事更に八呎である。洞口から窟内に進入すると、第一室には高さ十七呎のオシリス神像が左右に四基宛相對して並んで居る、以て窟内の大きさを想見するに足るであらう。それから更に第二室第三室と奥深く刳り拔き、その最奥部は洞口から百八十五尺に迄達して居る。窟内は固より暗黒であるが、船のダイナモに連結した電燈を茲迄延長して臨時に點燈して觀光に便して居る。

アビユ・シムベルの岩窟寺はその規模結構の雄大なる事埃及第一と稱せられ、中期王朝最盛時の壯觀を偲ばしむるに餘りあるものがある。

アスワンの堰堤が上流水量の保持に及ぼす影響は遥にこのアビユ・シムベル迄及んで居るが、之から更に上流に進むと河床は著く淺くなり所々砂洲が水面に現れて居るので船は屢々コースを變へ、水深のある所を選んで右曲左折を繰返しつつ進んで行く。

アビユ・シムベルから六時間で、船は蘇丹の北境第二急湍の下流に在るハルファの港に着いてその航程を終る。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

沙漠を横斷する蘇丹鐵道

ハルファはナイル運輸船と蘇丹鐵道との相會する水陸連絡の要地であつてカイロを去る事八百哩の上流に位して居る。船から上つて形許りの旅券手荷物の檢査を濟まして數十歩すれば直に蘇丹鐵道の停車場に達する、そこには純白に塗られた瀟楚なカルツーム行急行列車が上陸客を迎へて待つて居る。

寢台車は數個の小室に仕切られ、各室には二個の窓があつて燻硝子戸と其外側に下つた木製の庇で強烈な砂漠の日光と塵埃とを十分に遮つて居る、室內には廣々した寢台、籐椅子、洗面台等を備へ、ゆつたりとした居心地は車室というよりも寧ろ船室の樣な感じがする、各車は一側に廊下を有して相互に聯通し、食堂車の設備も極めて整頓して居る、軌道は三呎六吋の狹軌單線であるが、列車全體の設備は英米の鐵道に比するも多く遜色を見ず、歐洲大陸の場末の鐵道に比べたたらば寧ろ優つて居るかと思はれた位である。アフリカ內陸の砂漠の中心で、思ひ懸けぬ立派な車室に寛いだ私は「滿足な驚き」を感じたのであつた。

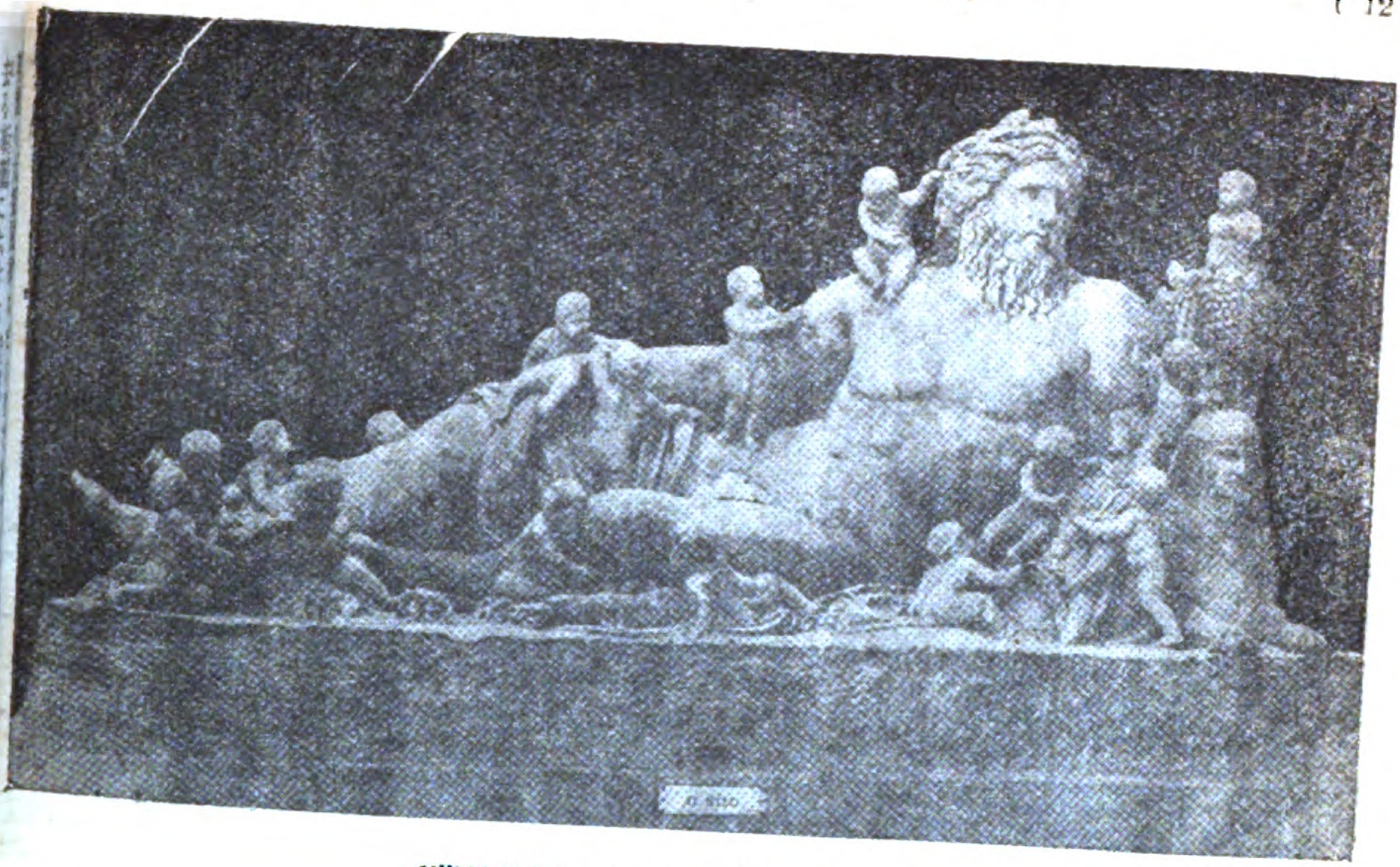
ハルファの停車場を後にした列車は、カイロ以來幾日幾夜を親しみ續けて來たナイルの流に別れを告げ、直にヌビヤ沙漠の眞中へ向つて突進して行く、それは地上を汽車で走ると謂うよりも砂の海を車の船で濟ると謂つた方が適はしい。見渡す限り無人無生の砂の連りで只所々に[illegible]

は不斷の波の動きと響きがある、然し砂漠の「靜寂」は[illegible]の神秘と無限の淋しさに閉ざされて居る、薄黒く燻された硝子窓を通して凝視した眺めは地球以外の死せる天體に來たかと疑はれる許りであつた。

この玄奇な景色を飽かず見守つて居た私の眼前には忽然として不思議た現象が現れて來た、それは遙か向の地平線一帶に現れた一脈の翠色であつた、私は最初それを蒼空の一部であろうと思つて居た、然しよく見ると、その低さ平さ鮮やかしさがどうしても雲とは思はれない、と、間も無く、その綠の「水面」には點々として浮ぶ島影さへハツきり見えてきた、この砂漠の眞中にどうしてあんな大きな湖水があるのだらうかと私は自分で自分の眼を疑はずには居られなかつた。然し更に進んで近くに從つて、何時しか「湖水」も「島」も消えてなくなり、又更に遙か彼方に同じ樣な「湖水」と「島」とが現れてきた。斯くして私は幾度か物語に聞いて居た沙漠の迷怪を眼の當りに見た。

然し幸にして、駱駝の背に身を託する隊商の一人でなく、鐵路を直進する廿世紀の汽車に身を載せて居た私は、この沙漠の妖異に誘惑さるる事もなく極めて安全快適な旅行を享樂する事が出來たのである。

この無人の砂漠にも鐵道沿線のみは一脈の生氣が通つて居り、地底百尺に近い深井から湧出する淸水の在る所々は、一號から十號迄無名の小驛が散在して居て、列車は其驛々に停車して用水を汲み取るのである。



ニロ群像（ヴアチカン博物館藏）

ナイルの大灣流部を離れて一直線に二百三十哩の沙漠を短絡した列車は、アビユ・ハマッドに達して再びナイルの流に會し、夫より南へ東岸に沿うて走る事更に約三百四十哩にして蘇丹の首府カルツームに達するのである。

蘇丹鐵道はカルツームから青ナイルに沿うて更に南走してセンナーに至り夫より西折してエル・オビイドに達し、蘇丹農產の中心たるゲジラ地方一帶の交通を通ずる外、別にアビユ・ハマッドからナイルに沿うて西へカレイマ迄、又アトバラから再びナイルを離れて東へ沙漠を横斷して紅海岸のポートスダン迄、夫々二條の支線を放つて居る。之等の諸線はハルフア、シエラル間の連絡船と共に總べて蘇丹政府鐵道汽船部の經營に屬し、ナイル上流地方の大交通網を形成して居るのである。

ナイルの水源を尋ねて

カルツーム以南のナイル上流は交通甚だ不備であるが、夫でも尚白ナイルの本流を遡る事約八百哩のジヤフ迄は二週一回の郵便船の航行があり日數約十五日で達する事が出來る、更に夫から上流に至つては行路愈々難澁ながら、徒歩、自働車、並に一部の舟運を利用すれば、ニミユールを過ぎてウガンダに入り、ブテイアバ、マシンデイ、ナマサガリを經て遂にジンジヤに到り、「アフリカの心臟」と呼ばれるヴヰクトリア大湖の一角から崩れ落ちる所のリッポン瀧に達する事が出來る、そこにナイルの水源が在る。

ヴヰクトリア湖は赤道直下に位し廣袤二萬六千平方哩、世界第三の大湖であつて、其水面は海拔三千七百尺の高度を有し、大ナイルを產

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みなを齎す所である。

五千年來神秘の流れと謳はれて居たナイルの源との謎を解いたのは英國の大探險家スピークであつて、時は一八六二年七月廿八日、今を去る事正に六十六年前である。

リッポン瀧は、ヴヰクトリア湖北岸の狹江ナポレオン灣の盡る所、兩岸相迫つた巖壁の一端から大湖の水が飛落して生ずるもので、瀑布と謂うよりも寧ろ一個の急湍である。湍下に渦卷いて白沫を揚ぐる激流は卽ち「生れたるナイル」が遙かに地中海の潮の香を慕つて四千哩の旅の首途に勇躍して居る姿である、湍側の巖角にはスピークの記念碑が刻まれ

SPEKE DISCOVERED THIS SOURCE OF NILE ON THE 28 JULY 1862

簡潔な一句が記されて居る。

半世紀前、大探險家の驚喜と感激の對照となつて初めて世に謳はれたこの神秘境には、今尙多數の河馬と鰐魚が群棲して居るが、水邊を去る事僅に數百歩の丘上に戻れば、そこにはフォードのエンジンが焦燥な爆音を轟し、ガソリンの煙が近代の匂を漂はして居る、自然と人文の交錯が強い印象を以て迫つて來る。

獨りリッポン瀧は、五千年來孜々として倦まず、夜となく日となくヴヰクトリア大湖の水を運び出してナイルの流に瀉ぎ込み、ヌビアとリビアの大砂漠に一道の生氣を與へて埃及の地と人を育てて居る。

偉なる探險家の名。

ナイル大觀

ヴヰクトリア湖に發流したナイルは、チョーガ湖を經てアルバート湖の北東端に達する、此間の二百四十哩はヴヰクトリア・ナイル又はソマセット河と呼ばれて居る。アルバート湖から流出した後は北流延延七百六十哩にしてノー湖に達して西方から流入する羚羊河を合せる、此間のナイルはバール・アル・ガバル卽ち「山の河」として知られて居る。

ノー湖から暫く東流する事六十哩でソバト河を合せた後再び北流に轉じ五百哩にしてカルツームに達する、此間が卽ち白ナイルと稱せられる部分である。カルツームの附近では東南の方アビシニアから北流して來る九百六十哩の靑ナイルを合せ、之より以北が卽ち「ナイル」の名に呼ばるる本流となる。

水源リッポン瀧からカルツーム迄の千五百六十哩の間が大ナイルの上流であつて、森林山嶽の間を縫つて流れ、急湍到る處に激奔して舟を行る事最も困難である。

カルツームからアスワン迄の千百六十五哩は卽ちナイルの中流に當り、ヌビアの砂漠を潤しつつ一大S字形を描いて灣流し、其間カルツームの北方二百哩の所で東南から靑ナイルに併行して北流してくる七百九十哩のアトバラ河を合せて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アスワンから河口迄の七百四十八哩は即ちナイルの下流であつて、東にアラビア西にリビアの大沙漠を潤し、人文夙に開け最も繁榮ゆる地方である。カイロの北十四哩の所でナイルは東西に分流して地中海に注ぐ、東なるをダミエッタと呼び、西なるをロゼッタと名け、各約百五十哩の長さである。

斯く如くにして、リッポン瀧から地中海迄、ナイル本流の全長は三千四百七十三哩に亘り、此間の水流に要する時間は氾濫期に於て五十日、減水期に於て九十日を要するものと測定せられて居る。世界を通じて大河長流數多きが中に、ナイルに比肩し得るものとしては、僅に揚子江、ミシシッピー及びアマゾンの三者を揚げ得るに止る。只この三者が何れも豊富の水量を有して上流遠く巨船を通じ、交通運輸の効用に於て非常に重要な價値を有するに比した時、河床淺くして大船の運航を許さゞるナイルは遂に一籌を輸するを免れない、然し乍らナイル微りせば、その流域數千哩の地方は、永久に不毛の沙漠として死の沈默に閉さるゝの外は無かつたであろう、星霜幾千歳役を舍てず、滾々として盡きざるこの「生命の水」の流るゝあつて、埃及は産れ埃及は活きる、その文化史的意義の深刻なる事、世界百千の河流を聚むるも尚一のナイルに及ばぬと謂はねばなるまい。

南北に流るゝ事四千哩、古今を貫く事五千年、この偉きな流れのには、世界の歴史を飾る人類の戯曲が幾度繰返して演ぜられた事であろうか、そこには三十の王朝が興亡した、蓋世の英傑アレキサンダーの後には絶代の妖妃クレオパトラが現れて史的ローマンスの悲曲を演じた、羅馬とビザンチンの勢威も遂に久しからず、コーランと劍を振り翳した砂漠の豫言者が遺した回教の傳統は中世の暗黒を照す一大炬火を點かした、半月旗の影漸く薄れるや、コルシカから蹶起した一代の風雲兒は忽然として金字塔下に現れ「四十の世紀が諸士を見下して居るぞ」と叫んで三軍を叱咤した、それも東の間、北歐の孤島に據る老獅は鋭い爪牙を磨いて迫り進み、今や隱然たるナイルの主人公として四方を睥睨して居る。數奇の運命は幾轉を重ねて來た、そして之から又如何なる大戯曲がこの舞臺の上に演ぜられむとして居るのか?默として語らざるナイルの流れは獨り悠々として「時」と共に進んで已まない。

ヴアチカンのIL NILOは水と人とを象徴して、偉きな愛と恵みの世界を暗示して居る。あの巨人と小兒の平和な世界がこのナイルの河畔に建設せられる事は遂に永久の美しい夢となるのであらうか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ニュージーランドの自然と人

木戸忠太郎

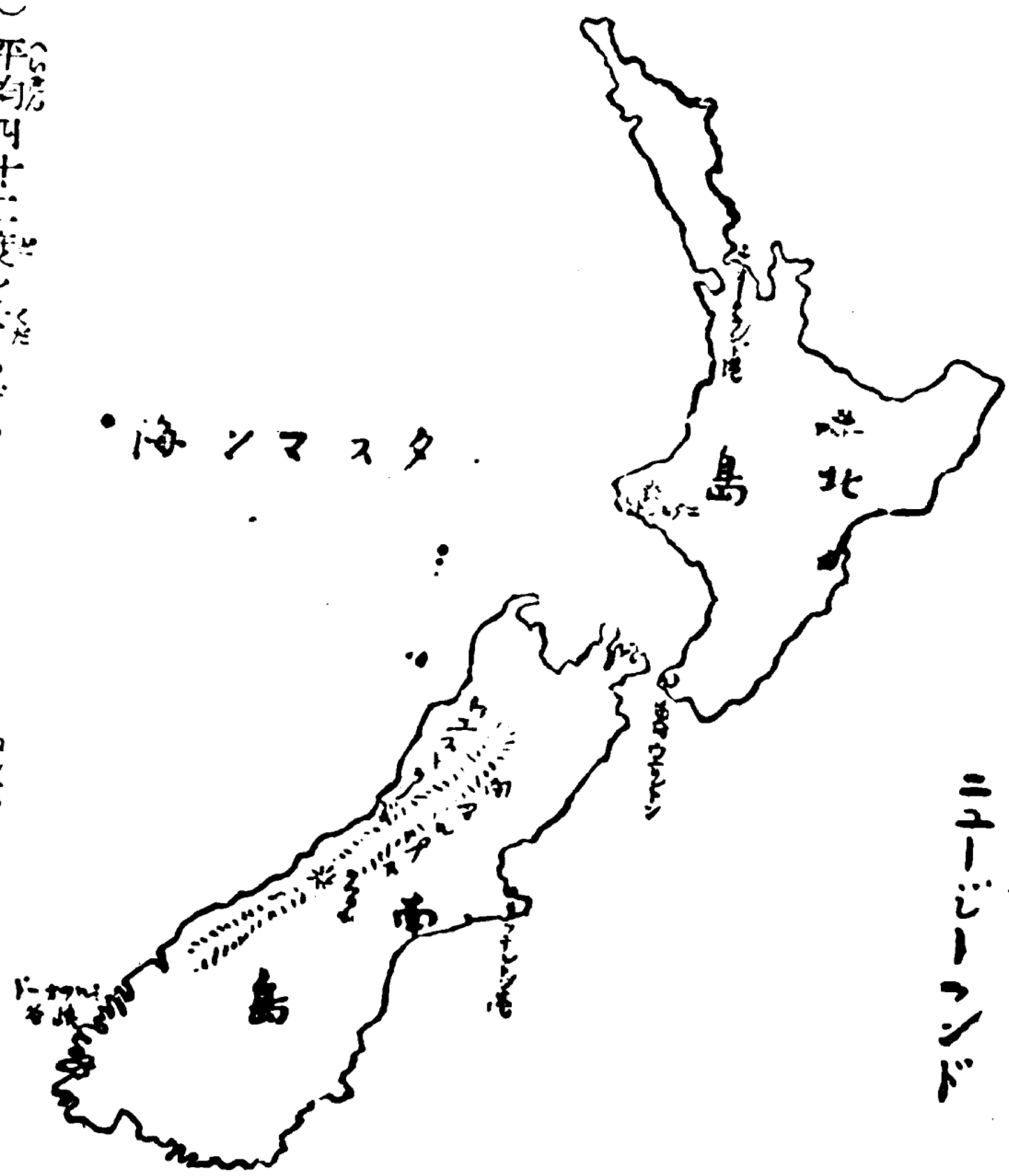
一　日本を半分にした様な國

ニュージーランドは南大平洋上、南緯三十四度と四十八度の間、東經百六十六度と百七十九度の間に位する島國である。英國の領地で英國人が南洋の英國と呼んで居るのには何等の不思議はないが、位置地形及び其他の地理學的事項から云へば寧ろ吾日本島國に類似した點の多いことを見出すであらう。

緯度から云へば日本よりも少しく東方に偏して居るが、緯度の上では南北の差こそあれ殆んど同一の位置を占め、吾等が北極星を見る眼を南に轉ずれば、正しく地平線上略ぼ同高の天空に南極星を見出し得るのである。地形及び面積を比較すれば、ニュージーランドは南北二島より成り、日本を半分にした様な國である。其總面積二十七萬一千方粁は日本の四十四萬九千六百八十九方粁（朝鮮を除く）の二分の一強に當り、北島は十一萬六千五百方粁で、北海道と九州を合せたより稍大きく、南島の十五萬四千五百方粁は本州島の三分の二強である。其北島の形が北海道に似たところがあり、南島が本州島を富士火山脈の線で横斷したその北の半分に類して居るのも、偶然ではあるが面白い一致を示して居る。東北より西南に向つて細長く濠洲の東海岸と平行して居ることも亦日本群島が同方向にアジア大陸の防波堤の如く羅列して居るのと好一對である。唯後者が大陸との間隔僅に半日の航程に過ぎないのに、前者は濠洲を距ること千二百餘浬の遠きに達して居るの相違はあるにしても、之れを日本を半分にした様な國と見ることは餘り懸隔れた比較ではあるまい。大阪朝日新聞記者土屋元作氏は嘗て此島國を形容して、恰も伊太利を逆さにして中部羅馬の邊に運河を開鑿せるが如しと云はれたことがある。之れも面白い見方で、面積も殆んど同じだが、其他の點では日本と對照した方が一層適切であると思ふ。

氣候も亦日本と似て居る。北島の北岸にあるオークランド港の一月（南半球の盛暑）平均華氏六十六度六、北島の南岸なる首府ウエリントンでは六十二度六、南島の南端に近き都會ダニーデンの七月（大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ニュージーランド

寒）平均四十二度を下らず。オークランドの年平均五十九度五は長崎のそれと相同じく、ダニーデンの五十二度は石巻と略ぼ等溫である。大體に於て中部日本の氣候に近く、しかもその極暑酷寒からは全く免れた溫帶國としては日本人をも羨ましがらすに充分である。雨量は三十吋乃至百吋で北島の大部分は五十吋乃至七十吋、南島は二十吋乃至四十吋の間にあり。日本では、澎湖島の二十六吋、敦賀の百三十二吋を其最少最多量とし、東京の六十二吋を中位量とすれば、兩量にも亦兩島國の一致點を見出し得るのである。ニュージーランドが水に於てばかりでなく、火に於ても日本と同じく火山國であることは、項を別にして記載するであらう。

二　原住民族對英人

ニュージーランドの原住民族はマオリと呼び、ポリネシア種族に屬す。その土語では、此國の名をアオ・テア・ロアと云ひ、長白州の義である。此島國が始めて白人に知られたのは西紀千六百四十二年のことで、和蘭の西南部ジーランドより來航したタスマン提督が發見當時スターテン島と命名したのを、後ニュージーランドと改め、英國が占領してからも其儘襲用して居るのである。

マオリが太平洋上から此島に移住したのは多分第十三四紀の頃であらう。彼等は北島をテ・イカ・ア・マウイ（マウイの魚）と呼びて、マウイ神が海中より釣り上げたものと信じ、南島は、其西岸で發見された綠石（マオリ語ではポウナムと云ひ、硬玉の一種）を石斧や裝飾品として愛用するところから、之れをテ・ワイ・ポウナム（綠石の島）と呼ぶ。彼等が熱帶群島の椰子の葉蔭から、獨木船に揺られ〳〵始めて風光明媚な溫帶島に到着した時には、前途の光明を夢みつゝ、左に掲ぐる新郷土の讚を聲高々と合唱し、足取面白く踊り興じたことであらう。

われは來りぬ。その足元には新しき陸横はり、
頭上には、新しき空擴がる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

われは泣かぬ。この懐しき國に、
わが故郷の如く、
地球の寶よ、旅人はその心を汝に捧ぐ。

然しこの新海國も、彼等には長く輝けるアオ・テア・ロアたることを得なかつた。紀元千七百六十九年、英人クック提督が三百七十噸の小帆船を操縱して其沿岸を測量して以來、捕鯨船の來航は漸く頻繁となり、其儘土着となつた者もあつたが、千八百二十五年ハード提督が始めて永久植民を企てゝより、基督教傳道の功亦空しからず、千八百三十九年ニユージーランド會社組織せられ、其翌年一月二十九日ワイタンギ條約が土人との間に締結せらるゝに及んで、完全に英國の領土となり終つたのである。

斯くて先住民族は數百年間を夢の裡に、美なる環境の恩澤にも惠まれず、曾て文化の片影をだに創造することなくして、空しく白人種の治下に屈服するに至つた。彼等の中には遂に先住者としての權利を主張する熱血男兒が一人も居なかつたのであらうか。彼等は遠來の移民をして何の苦もなく我物顏に振舞はせたであらうか。其豐富なる天然資源を彼等に委ねて徒らに指を啣へてのみ居たであらうか。或者は巧妙なる基督教の傳道に歸依して神の經壇に跪いた。或者は一として奇ならざるはなき舶來の文物に眩惑されて不利益な物々交換にも甘んじた。然し斯の如きは素より彼等の凡てゞはなかつた。其事々に感激し易い素質、敵を食ふを以て勇者とする殘忍性、慓悍にして爭鬪を好む頑強な敵愾の精神は屢々白人に反抗して、[illegible]なる戰禍を醸した。加ふるに當時[illegible]白人のことゝて、皮膚の色こそ白けれ、故國を追はれた無賴漢多く、利慾の前には眼のない蠻性は多くマオリに讓らず、衝突の絶えざるは寧ろ當然過ぎる位であつた。殖民政府も亦先住民族を歸服せしむる困難さを是等の同胞に對する虐遇にも均しく感ずるのであつたが、千八百七十二年春最後まで頑強に抵抗したテ・クーテイ一黨の滅亡を以て、新領土平定劇の幕は閉ぢられ、今は唯各地に殘れるマオリ特有の堡壘の跡が旅客に當年の筋書を物語るのみである。

英人が始めて此國に來航した頃には、マオリの人口は概算十萬人を下らなかつたが、多年繼續された戰鬪の結果と、新來文化の影響を受けて、生活上習慣の急變を來し却つて健康を害し、從つて死亡率を增加したことの爲めに、著しく減少して、千八百七十四年には四萬五千人を算するに過ぎなかつた。爾來少しづゝ增加の傾向を生じ、千九百十一年には四萬九千人、千九百二十一年には五萬二千人、千九百二十四年には五萬四千人以上に達し、明かに再興の兆あるを示した。由來低き野蠻の狀態から高い文明の境地に躍進せんとするには、どうしても一度は其傳來の習慣を打破して生活の調和を失ふ結果を生ずる。此急激なる變化の極點にも堪へることの出來る民族ならば、決して絶滅する憂はないのである。之れをマオリ族に徴するに、彼等も亦絶滅する樣な劣等民族ではなかつた。彼等は向上すべき素質を有つて居な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

から、今日までそれを發現せしむるに足る程の刺戟を受けなかつたのである。今では僅なからも年々いくらかの増加を示して居る。それは彼等が歐風の生活に順應し得る樣に進化して來た證據である。今後どれ程まで發達して白人の勢力範圍を蠶食する樣になるかは豫測出來ないが、何時かは其繁殖を阻止する必要を感ぜらるゝ日の來らんことは想像するに難くないのである。

政府が特にマオリの爲めに建てた小學校の數は百を越え、私立にも加特力教徒の開いたものが中々優勢であり、學童の總數一萬に達し、順を追うて大學に進み得る途も開かれ、已に卒業して醫者法律家代議士などになつて居る者もあり、四人までは下院に一人は上院に代表者として列席することを得、彼等の頭腦が高等の智識を收むるに適して居ることは最早爭はれない事實である。マオリの子供等は他の未開人種によく見る樣に頭から自分を卑下して何時も一目を置くと云ふことなく、子供としては殆んど對等の交際振を發揮して居るのである。彼等が成人後も稍能く其氣分を以て白人の間に伍し得るであらうか。唯其英語を善くし社交に慣るゝを以て、吾亦開化せりと自負するに止まらないことを念ずるのである。

三　マオリの民族性と其風俗

マオリの家は木造又は茅屋である。森林に富み材木には少しも不自由なき國ゆゑ、土石の類は殆んど建築に用ひられる場合がない。屋根は蘆の類で葺き、赤黒く塗つた板壁や柱には色々な彫刻が施されてある。渦卷模樣が最も多い。室内は何時も薄暗く、じめ〳〵した土間に蘆席を敷き其上に起臥して居る。衣服の上等品は亞麻で織つたものであるが、平常着はフォルミウムと云ふ蘆の繊維を原料としたものである。裝飾的には美しい鳥の羽毛を織り込む。羽毛ばかりで衣物に仕立てたものもある。短衣は肩を蔽ふに止まり、其上に簑の樣な腰衣を纏ふ。大袍を裾長に着なすときも、袴衣は滅多にはない。頭髮は男は短く刈り、女は二つに分けて胸の上に垂らして居る。足は跣の儘であるが、近來は靴を用ふるものが多くなつた。食物は自然の儘のものに其大部分の供給を仰ぐ。魚類は干物にして食用に供するが、最好物と見え、厨も食卓も魚類を絶つたことがない。朝夕二回同性又は同階級のものが戸外に團欒して食事を取る。賄方は女の任務に屬し、料理した食物は亞麻で編んだ籠に入れて膳に上す。一度用ひた籠は決して二度使はない。潔癖はマオリの特性の一つである。

男は悉く戸外の勞役に從事し、武術で鍛へられた筋骨逞しく、横死するに非ざれば必ず天壽を保つ。彼等が最も不幸と思ふことは病氣になつた時と敵に壓迫せらるゝ時とである。老人と女とは常に屋内にありて生業に從事する。女は家事一切を取扱ひ、老人は籠を編んだり網を綯つたり、石を磨つて刃物や其他種々の器具を作つたり、或は終日根氣よく彫刻に耽つたりして居る。特に木彫の巧妙なることは野蠻人中彼等の右に出づるものはあるまい。祖先を表象したプープーと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



マオリの敬禮法

呼ばるゝ彫刻物は人體の奇形を擬んだもので、到る處に裝飾として用ひらる。此國の名産の一なる翡翠玉（綠石）にも此形を彫刻したのが多い。それをマオリの女達は胸の飾にして居る。

渦巻は最も廣く彫刻に應用せらるゝ圖案の一つであるが、彼等の顔面に施せる刺青にも此形をしたのが多く、額に寄る皺を誇張愛翫するかの如くに思はれる。日本の歌舞伎十八番などに登場する勇者の顔を彩る紅隈の樣なのもある。女の口の緣には樂器の形などを細い線であつさりと入れる。彼等の鼻の概して扁平なことは其顔の美觀を損するのであるが、これは赤子の時に母體に壓しつけられた結果である。彼等の敬禮の表はし方は手を握ると同時に鼻と鼻とを觸れ合はせるのである。この甚面白い習慣には、鼻が平たくては距離が遠くなつて勝手が惡いであらう。

夜になると、一家團欒して昔話や系圖などを語り合ふ。未開人種で彼等ほど古き傳說を固執し、古き歌謠を保存して居るものはあるまい。大抵の白人は家の系圖と云ふとには冷淡で、漸く其五六代前位迄しか溯れないが、マオリは少くも二十四五代前迄の系圖を暗んじて居る。ポリネシアから獨木舟に乘つて此國へ渡來した頃迄の家の歷史は、傳說的にもせよ、容易に彼等の倒叙し得るところである。彼等は其系圖を貴ぶ結果郷土に對する執着心は非常に強烈である。森も小川も野も山も、住み慣るれば其處が直ちに彼等の生命の源泉となるのである。此感情はやがて彼等の詩歌に織り込まれ、常に熱烈なる情火を

燃え立たせて居るのである。彼等が其詩的たるポイ踊、可憐なるハカ踊に、夜の更くるのも忘れる迄に興ずるとき、ポリネシアの珊瑚礁上、椰子の實の累々たる木の間の月影に、彼等の祖先が本能的に浮れ遊んだ太古の情趣が夢の様に彼等の眼前に髣髴するであらう。

マオリの階級制度は自由の民と奴隷とに分れ、戰爭で、捕虜になつたものは皆奴隷として使役される。其制度は規律正しく、截然たる上下の區別は全く優勝劣敗の結果である。財産は私有又は共有であるが、若し其所有主が自衞力に乏しく財産を保有することが出來ないと、彼よりも上級のものが欲求したときに之れを拒む權利がなくなるのである。然しさうした專制的階級制度も、彼等が歐化するに從つて次第に緩和さるゝに至つた。

四　築山の様な火山の群

マオリの民族性に環境の影響があつたとすれば、日本と同様に火山に富んで居ることは確に其一因と見做さるゝであらう。其分布の有様を見るに、南島に甚だ少く北島に多い。マオリの人口も亦北島に其九十六％を算し、南島は僅に其四％を容るゝに過ぎないゆゑ、彼等の性格に影響した環境は主として北島のそれであらねばならぬ。天空を劈かんとする火山の雄姿、其地軸を動かさんとする爆發の偉力は彼等の心臟を戰慄からしめたと共に、數百年間に亘りて、感じ易く激し易き猛烈火の如き性情を彼等の心頭に醱酵たらしめたであらう。其膽力に於てマオリがアイヌより一歩を擢んづる如く、北海道に似た北島は其火山性に於て一段の優勢を示しつゝ、其門戸を太平洋上に開いて居るのである。

旅客のニユージーランドを訪れんとするものゝ大半は北島の要港オークランドに向ふであらう。船は島國の北端を廻つて其東海岸に沿うて南下し、ハウラキ灣に入れば、左舷近く椀の蓋を伏せた様なランギトト火山島が早くも遠來の珍客を港外に歡迎して居るのである。この山の名はマオリ語の血の空と云ふ意で、昔噴火の際天が燒けて血の様になつたところから此名を得たのである。傳說によれば、此火山は灣の西岸近く底なき海と呼ばるゝタカプナ湖から投げ上げられて出來たもので、其跡が湖水になつたと云ふ。琵琶湖が一夜に掘れて富士山が出來たと云はるゝ日本の傳說と其着想を一にして居るのは面白い。さうして前者の方が一層學理的であるのは、タカプナ湖が低い火山の火口湖に外ならぬからで、富士山對琵琶湖に比すれば、距離も緣故も著しく接近して居るのである。

オークランド港を含むワイテマタ灣なる名稱も亦マオリ語の輝ける水、直譯すればマタワフナ即ち黑曜石に類する水と云ふ意に當り、マオリの祖先が其静かな灣上を眺めたとき、黑曜石の劈開面の様に輝いて居たので、斯く名づけたと云ふ傳說である。此形容はマオリが火山岩に關して若干の智識を有することを物語つて居る様にも思はれる。其眺望に最適當なアルバート公園は海岸の小高い丘にありて、其周圍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

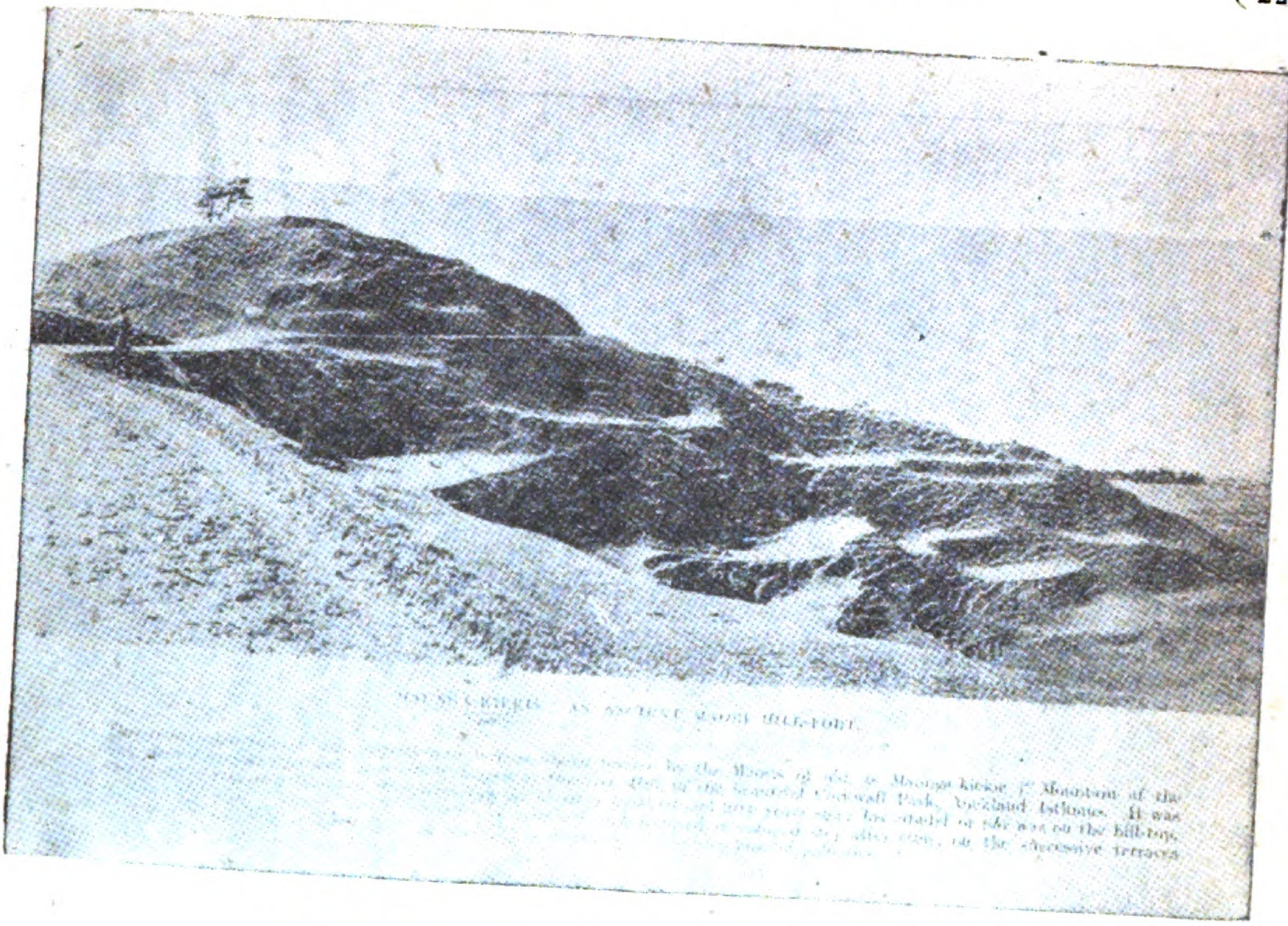
には官衙や銀行會社旅館などの大建物が並んで居るが、此市も嘗ては一帯の獨立した火山である。幸にして其活動力は全く消滅して居るから、忽ち焦熱地獄と化するが如き恐怖の感ぜらるゝ心配は先づないとして、噴火山上の昇降は絶えず行はれて居るさうである。

オークランド市及び其近郊には、この公園火山の外に築山の様な小火山が幾つも散在して居る。市街を南に出外れた處にエデン山が聳えて居る。此地方での最高峯であるが、それすら海抜僅に六百四十七尺に過ぎない。火山灰層を被ふた山腹の熔岩の上には瀟洒な住宅が並んで居る。エデンの様な花園が地獄の上に不和な家庭を幾つも彩つて居るであらう。此火山の直ぐ東隣にセント・ジョン火山（三百九十六尺）、ホブソン火山（四百三十尺）、少しく離れてマウンガレイ火山（三百五十三尺）あり。西方には三哩程離れてアルバート火山（四百尺）、西南にはスリーキング火山（三百九十三尺）南方には一哩内外の處にワンツリー火山（五百八十四尺）、其南側にスマート火山（二百九十七尺）あり。稍南の方五六哩隔れるマヌカウ灣の東岸には、マンゲレ、プケツツ、プケイチ、オツアタウア、タケタケ、マヌレワマタカルア、オタラ等の火山ありて、いづれも高さ三百尺以内の小丘である。面積僅に二十方哩に過ぎない小區域内に斯く多數の火山が密集して居ることは、地球上他のいづれの地方にも見られぬ現象である

右の内、ワンツリー火山は市の南郊にあるコルンウオール公園の築山になつて居る。一名マウンガキーキー山とも云ふ。山腹には昔マオリの築いた城壁の跡が累々段々に殘つて居る。マウンガ・キーキーとは[illegible]砦の山と云ふ意である。其處から三哩ほど西へ行くと北島の西岸オネハンガ港に至る。オークランドの市街から此港まで僅に七哩の地峽をなして居るのである。港の西端に近い處に直徑二町計りの圓形の船溜りがあつて、電車は其周圍の土手の上を走る。此船溜は人工でわざわざ掘つたものゝ様に見えるが、何ぞ料らん、是れ死噴火口の跡で、其一部が海に開いて入江をなして居るのである。此火口港はホプアと呼ばれ、灰のみで盛り上つた極めて低い火山で、電車が走つて居る土手は其外輪山頂である。大抵ならば遠くの昔波に攫はれて居るべきのが、海抜十五尺の火山として兎も角も其形を保ち、其上に文化的施設を載せて居ることはどうしても自然の悪戯としか思はれない。斯くの如き小火口港は此外にマウンガレイ火山の麓に一つ、オークランド港の對岸に二つある。

是等の火口港は地理學の教材として校庭へも移し得る好標本であるが、其規模の大なるものは南島クライストチャーチ市に近きリッテルトン港である。東西北の三面は急傾斜の外輪山を以て圍まれ、南方のみ外海に通じて居る。火口港たることは云ふ迄もなく、隧道はその外輪山の横腹を貫通し、汽車之を過ぐるに四分十秒を要す。幸にして死火山のことゝて危いとも何とも云はず、旅客は安全である。

五　温泉と地獄谷



マオリの堡塁を以て掩はれた死火山

火山作用の現に活動中のものは有名なロートルア温泉地方に於て見ることが出來る。此温泉はプレンティ灣の南方、オークランド港から鐵路百七十一哩の地點にある。此地は海拔一千尺の高地に在りてロートルア湖に臨み、周圍は火山岩より成れる屏風で取巻かれて居る。ロートルアが温泉地として世界的であることに就ては原因は幾つもあらうが、氣候がよいのと、温泉湧出量の豐富であるのと、殆んど同じ場所から性質の全く異つた數種の温泉が出るのとは其主なるものである。殊に最後の事項は他地方に類例の少いことで、ロートルアが温泉地として其聲明を轟かせたのは全く此特徴を具へて居るが爲めである。

浴客が此地に充滿する季節は一二月の候である。それは避寒の爲めではなく、避暑を兼ねての入湯客である。北半球からも其頃來浴するものが少くない。若し世界の交通が緯度上に於けるが如く經度上にも便利になつたら、この南半球の日本とも云ふべき火山國の温泉へ、夏は冬を、冬は夏を求めに、北半球の日本からも出掛けることがあながち贅澤の沙汰とは云へなくなるであらう。林檎、凍肉、バタ、チースなどが歐洲の夏へと輸出せらるゝ如く、マオリの富豪達がニユージーランドに似た北半球の火山國へ避暑避寒を兼ねての見物に來遊することも決して不可能とは云へなくなるであらう。

ロートルア地方より湧出する温泉の量は實に莫大なもので、其豐富なる點に於て日本の誇とする別府温泉も到底其敵ではない。此地方の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

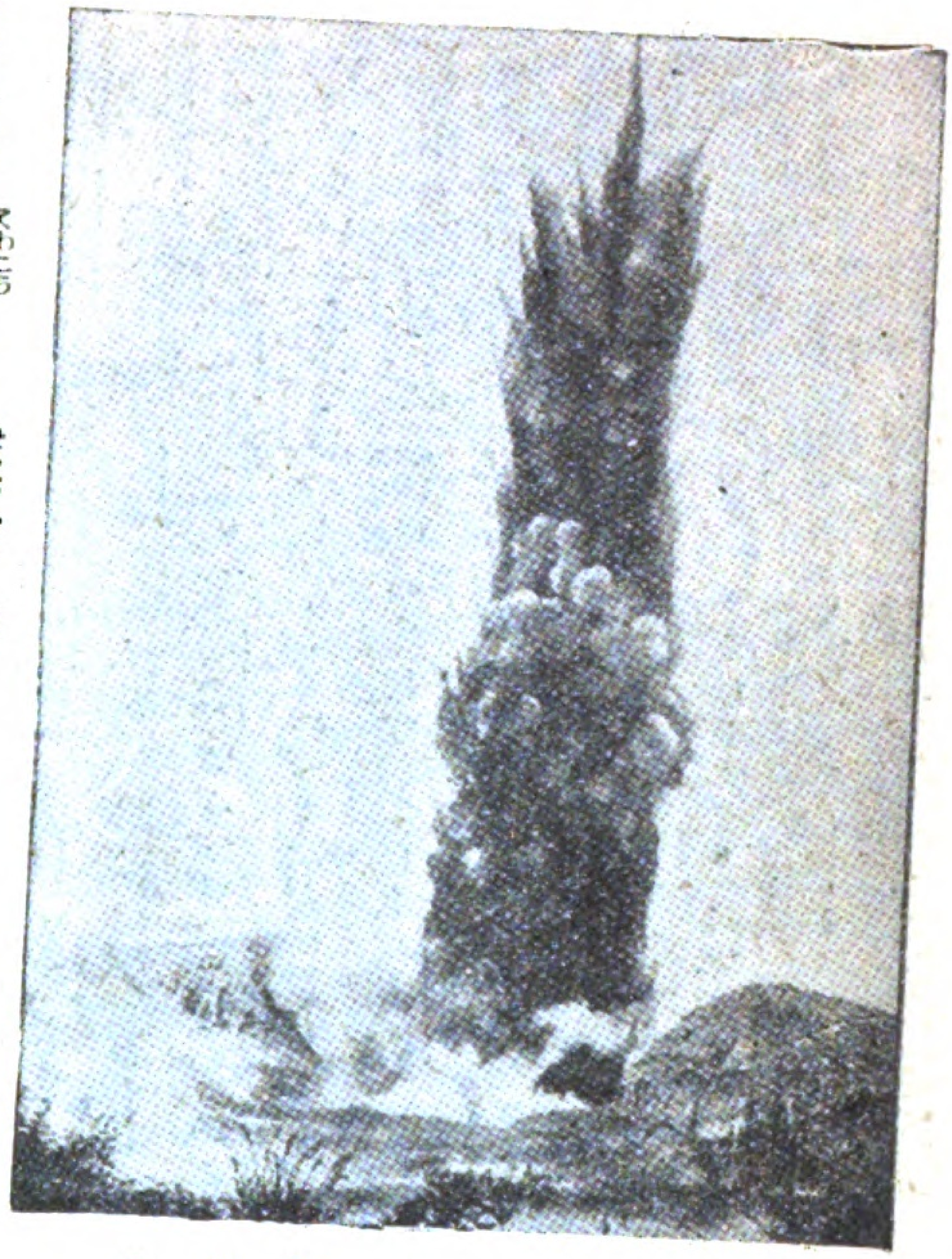
湖は外部の嶽に溺して降ることが無いが、いくら降り續いても湖畔のぬかるむことがない。それは此附近一帶の地質が輕石層から出來て居るためで、地表に落ちた雨滴は直ちに滲透して地下水になつて仕舞ふからであるが、此輕石層の存在が溫泉の性質に大關係を有つて居ると同時に、過去に於て如何に大活劇の演ぜられたかを物語つて居るのである。

溫泉は湧出する許りでなく噴出する處も亦頗る多い。それは間歇泉としてゞある。官立溫泉場の前の小池內に小規模人工的のものが絕えず湯霧を庭の木立に送つて居る。其規模の大なるものはロートルアを距ること二哩なるワカレワレワに群集して居る。東西七八町南北三四町の面積は溫泉の沈澱物で眞白に輝き、其間を幾條ともなく瑠璃色をした暖かい流れが滾々として盡きざる地球內部の消息を齎らしつゝ、プアレンガ河へ注いで居る。其處にはワイロア、ワイキテ、ポフツ、テポロ、プリンス・オブ・ウエールス・フエザーなどの間歇泉が各其沈澱物によりて高められた噴泉塔を擁して相對峙して居る。ワイロアとワイキテとは其盛時に於ては三百尺の高さまでも熱湯を噴き出したものであるが、今では全く休止の狀態に歸し、ポフツのみ獨り其活動を續け、一定の時間を隔てゝ間歇的に高さ百尺以上の湯柱を立てゝ居る。是等の噴泉の外、トルペドー、ポーリツチ、パレコフル、コロチオチオ、テヒナウなどゝ稱へらるゝ溫泉地又は熱洞が散在し、いづれも沸沸たる音をたてゝ熱泥を盛り上げてゐる。テヒナウの洞では、嘗て敗戰の酋長テクタクタなる者が捕へられて、地獄の釜で煮られたと云ひ傳へられて居る。

是等のいづれも若日本にあらば何々地獄と名付けらるべきものであるが、このワカレワレワ大地獄に幾十倍せる火山力大活動の餘燼がタラウエラ火山を盟主とせる大地裂線に沿ふて、今も稀有の大慘劇を物語つて居るのである。此稀有の大爆發は千八百八十六年六月十一日午前一時頃大音響大地震に伴はれて、タラウエラ火山の北端に始まり、南々西の方向に海拔三千六百尺の山塊を眞ツ二つに裂き、黑烟濛濛として天に沖すること實に一萬五千尺の高さに達し、天斧の尖端は猶も南西に進んで大地を地球の中心までも斷ち切らんずる勢ひ、其衝にあたれるロトマハナ湖は、數分前までは紺碧を湛えた昔ながらの湖水を、擧げて奈落の底に委ねたと見る間もなく悉く水蒸氣と化し、嘗て紅の臺なる美名を馳せた硅華の天工をも一瞬の煙埃と共に飛び去り、更に南西方オカロの湖畔までも地獄との通路を開き、漸く其終熄を收めたが、裂罅の延長實に九哩、深さ三百尺乃至九百尺、僅々數時間を出でずして穿ち去り、黑烟白霧相混淆して天地晦冥、雷電相衝激して乾坤爲めに覆るかと計り、眞に凄絕慘絕の極みであつた。

この未曾有の大活動は數日の後漸く衰へ、爾來鎭靜に歸するに從ひて、ロトマハナは以前よりも廣き湖となり、紅の臺のありし跡は熱湯を湛へたる深淵に臨んで白煙濛々たる絕壁となり、地軸との通路は次第に塞がれて、エコー火口、フライングパン、ブローホール、イ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ワイマング間歇泉

ソフエルノ火口などの小地獄を殘すのみとなつたが、見渡す限り火山灰を以て蔽はれた荒寥たる有樣は如何に其有史以來の大慘劇であつたかを物語るのである。併しそれも一時的平穩に過ぎなかつた。千九百年二月に至りて、俄然裂隙の中央部に抱ける一小火口より熱湯を噴出し、黒泥を奔騰せしむること數百尺、一大間歇泉を現出しワイマングと名づけられた。千九百三年には其威力頂點に達し、噴湯天に沖すること一千五百尺に及び、世界第一の大間歇泉と稱せらるゝに至つたが、其後一時平靜に歸し、千九百十五年其活動を再興し、現今は不時の噴湯を見るも到底昔日の面影を留めざる迄に衰微した。然しそれとても見掛けの無事に過ぎないかも知れぬ。あの眞ッ二つに劈かれたタラウエラも千八百八十六年六月十四日夜までは全く死火山として冷たき月光を浴びて居たではないか。

若し當年の大活劇の跡を精叙しやうとすれば、數百頁の筋書も猶足らぬであらう。故に今は一先づ此裂罅に別れを告げ、其終點なるオカロ湖より島國第一の大湖タウポに向はんか、果は其延長線上に於て更に數多の間歇泉噴汽孔など、火山力活動の今猶衰へざるを見出すであらう。啻に其等の小規模のもの計りではない。タウポ湖それ自身すら一大火口湖なりと云はれ、トンガリロ、ナウルホエ、ルアペフなどの活火山いづれも海拔六千尺乃至九千尺の絶巓を連ねて、覇を天國に稱へんとして居る。其西方には白扇倒に懸るが如きエグモント火山、一名タラナキ山と呼ばれ、八千二百六十尺の高距を擁して其崇高なる雄姿を南大平洋に蘸して居る。ヘンリー・ランドル氏は其麗容を激賞して、日本の富士山も及ばず、唯之れに匹敵すべきはフイリッピン群島のメーヨン火山あるのみと、お國自慢を發揮して居る。宛然たるニユージランド富士、本物と肩を並ぶれば低きこと四千尺、それでも甘んじてランドル氏の讃辭を受けるであらうか。

六　氷河と深峡（フイヨルド）

北島を火の島とすれば南島は氷の島と見るも可なり。北半球と反對に、北窓は日光を受けて陽氣に、南窓は寒風に襲はれて陰氣である。北面して火山の煙を望み、南面して水成岩より成れる連嶺の氷雪に點

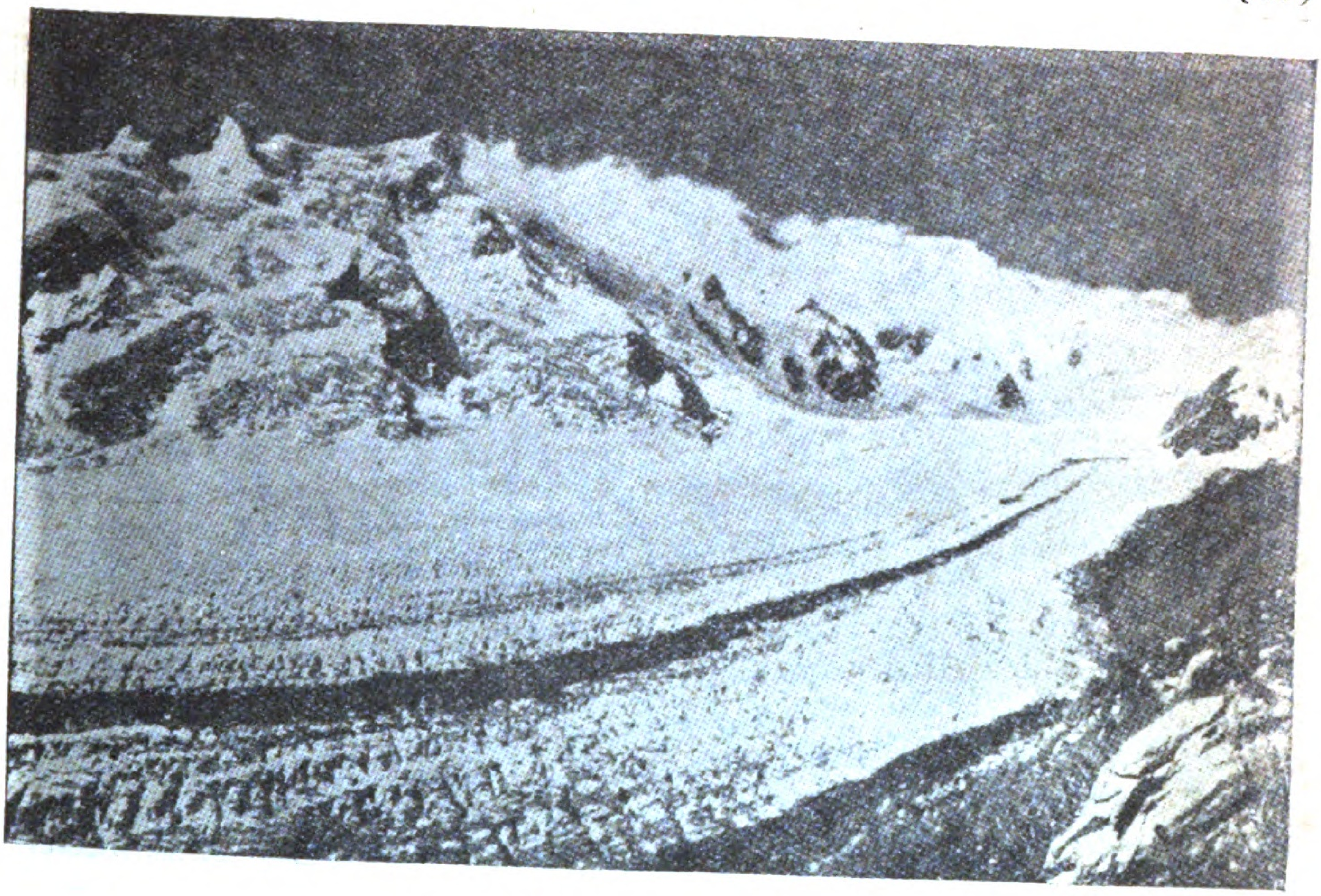
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



エグモント火山

す。北緯と南緯、其度數は略ぼ同じくして然かも地理的現象の全く反する處に、記述の興味の更に加はるを覺ゆるのである。北島の地質構造の複雜なのに對して南島は比較的整然として居る。ニュージーランド・アルプス其西海岸に沿ふて東北より西南に連ること三百哩、本國第一の高山クック、一名アオランギと稱し海拔一萬二千三百四十九尺に達し、之れに亞ぐにタスマン、ダムピア、シルバアホルン等十二の高峯いづれも一萬尺を超え、萬古不滅の氷雪を戴いて居る。其西麓は大洋より送り來る水蒸氣常に白雲を搖曳せしめ、雨量時としては二百吋に上り、嘗て斧鉞を加へざる密林長く連り、東麓は牧場遠く開けて、數百萬頭の牛、幾千萬頭の羊が少數の人類に飼はれつゝ其日〳〵の世界を平和に過ごして居る。峯頭の雪は山側の氷河となり、融けて沃野を灌漑するもの、百哩内外に達するワイアウア、ワイタキ、フルヌイなどの長流あり。絕海の孤島に遊びながら猶大陸なるやの感を抱かしめるのである。

氷河の最大なるはタスマン氷河で、長さ十八哩幅二哩、一萬四千五ーカーの面積を占めて居る。其深さ二十尺乃至一千尺、其傾斜は一哩に平均三百尺の割合にて、流速處によりて異り、遲き處は一日僅に二吋四分を流下するのみ、速き處にても十八吋を超えない。このタスマン氷河は本場のアルプス山中にも其匹儔を見ざるほど規模の大なるものである。之れに亞ぐ氷河はフーカー、ミユーラー、マーチソンなどである。ミユーラー氷河はブロドリック氏の計算によれば、一日に三



タスマン氷河

吋乃至十二吋、二十六年間に一哩流下する割合となり、其長さは八哩であるから、其末端より融けて流るゝ水滴は二百年前峯頭に降下した雪片に外ならないのである。此國の氷河は瑞西のそれよりも低き處まで其形を保ち、フランツ・ジョセフ氷河は海上僅に七百尺、フォックス氷河は六百七十尺の地點まで達し、其岸邊まで自轉車を乘りつゞけることが出來る位である。

ニュージーランド・アルプスは南するに從ひて其高さを減ずるが、西南岸に沿ふてノールウエーに見るが如き深峽が櫛の齒並に陸地へ穿入して特殊の地形を呈して居る。數ある中に規模は最大とは云へないが、ミルフォードと呼ばるゝ峽谷は出口より奥まで十哩、幅狹きところ四分の一哩に過ぎず、其兩岸は花崗岩若くは水成岩の絶壁聳て氷河の爲めに削磨されて鏡の如く直立すること五千尺内外、水深は更に一千尺に達し、仰げば蒼空帶の如く山巓頭上に壓し來り、俯せば深淵底なく水神われを奈落に引入るゝかと計り、嵩高森嚴の氣人に迫り、眞に天工の偉觀を極めたりと謂つべきである。之れを彩るに棕櫚の一種なるチトイ、羊齒類のママク、葉の長く尖つたキーキー樹など亞熱帶植物をも密生して翠微滴るが如く、點ずるにラタの花血よりも紅に、リボンウードの花雪よりも白きを以てするを見れば、何人も其咫尺の間に氷河の擦痕の生々しき巖壁あるを忘れ果てるであらう。

ミルフォード峽谷の奥、アーサー峽谷の上流にスザーランド瀧あり、中間二つの巖角に激突して上中下三條に分れ、上部は八百十五尺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ミルフオード峡谷

中部は七百五十一尺下部は三百三十八尺合せて千九百〇四尺の斷崖に懸り、其高さに於ては世界第一と稱せらる。千八百八十年十月十日ドナルド・スザーランドと云へる老測量家によつて發見せられたので此名を得た。人形が泣く様なウエカ鳥、キー〱聲のキー鳥、大鼓をたたいて居る様なカカポ鳥などが鳴き止むと、スザーランド瀧の音が絶えず遠雷の様に聞えて來る靜寂な一軒家で、其發見者は永遠の眠に就いた。

峡谷を海に出たところはアニタ灣であるが、峯頂錐の如きマイター山のつゞきに綠石の一種が露出し、マオリは之れをタンギワイと呼んで居る。數世紀前ポリネシアから來航した水夫長マヤテランギの妻が一味の者共と謀りて彼れを振り捨てたので、其行衛を探しにクック海峡から西岸に沿ふて南航し、ピオピオタヒ(ミルフオード峡谷のこと)に達した時、漸く彼等を見出したが、已に綠石に化して居たので、冷い妻の上に泣き伏した其涙が石に滲み込んだと云ふ。タンギワイは涙水の義で、其石の一片を取りて日光に透すと水滴の様な斑點が見えるのは涙の結晶だと云ひ傳へられて居る。綠石の產地は此外に北方ウエストランドにもあるが、其處ではポウナム(翡翠玉)と呼ばれ、タマの一行及び其獨木舟が化石したものと信ぜられ、グレイマウス港に近き產地では、獨木舟の塗が化して綠石になつたと云ふ傳說がある。白皚々たる氷河の下流、未だ斧鉞の及ばざる太古の密林をくゞりて蒼茫たる大瀛に加はらんとする處、磨いて玉と光るべき綠石の露頭を發見した時の感情は、二百五十年前にウエストランドの豐富なる砂金層を發見した白人の狂喜と孰れぞ。

七　環境の影響

ニユージーランドの砂金が採取せらるゝ様になつたのは千八百五十一年からのことで、今では產額から云へばオタゴ地方を最とし、ウエストランド、ネルソン地方之れに亞ぎ、又ウワイヒ金山には有望なる鑛脈多く、總產金額は發見當時より今日迄已に九億圓以上の巨額に達した。石炭もウエストランド地方より優良なものを產すること年々一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

千萬圓を超えて居る。此外に當國特有の鑛産物にカウリゴムがある。これは太古のカウリ樹の脂が土中に化石したもので、ワニス及びリノリアム製造原料に供せられ、今日迄に已に二億圓以上のものを産出した。

林産額は鑛産物と伯仲の間にありて年々三千萬圓内外に上るが、何と云つても國産の太宗は牧畜に在り、羊二千四百萬頭、製酪用牛百三十萬頭及び其他の家畜二百五十萬頭を有し、年々八千萬圓の羊毛、七千三百萬圓の凍肉及び罐詰、四千萬圓のバタ・チース、二千萬圓の革を産し、水産、農産は自給自足、餘は海外に出で、年々輸出入總額五億圓に達し、一人宛四百圓を超過し、人口に比して貿易額の多きこと皆に世界第一に位す。牧畜農業山林水産鑛物其他將來開發すべき範圍極めて廣く、加ふるに氣候温暖、生活の脅威を受くること少く、恐くは現在人口の十倍以上を包容し得て猶餘裕綽々たるものがあらうと思ふ。

然し是等の富が僅々七八十年間に斯くまで開發されたことは全く英國人の物質的文化の應用と、異常なる冒險忍耐の努力の賜物で、先住民族マオリの秋毫も與らざるところである。彼等は數百年前ポリネシアから移住して以來何をして居たであらうか。火と水の島國、植物には亞熱帶性を殘し、氷河は海拔僅に數百尺の地點迄も達して居るに拘はらず、氣候の温暖なることは日本も及ばぬほど惠まれた美しい鄕土に移住しながら、民族内の鬪爭にこれ日も足らず、些の文化的進歩をも示さなかつたのは果して何の故であらう。環象の影響は、彼等と雖も確に受けて居るに相違ない。彼等の大部分が北島に住んで居たからには、其火性的自然界は彼等に火山國民に通有なる特性を與へずには措かなかつたであらう。彼等が移住して以來の歳月は、日本の建國に比すれば決して長いとは云へぬが、他の新興文明國の紀元に比すれば、此の進歩をも不可能とするほど短くもあるまい。彼等が大和民族祖先の發祥地と餘り遠からぬ島國より起りて、南北の差こそあれ、殆んど日本と其緯度を同うし其他に類似の點の多い大寳物にも富んだ新郷土に來りながら、其共通的素質は毫も磨かるゝことなく、文化の程度は日本と宵壤の差を生じつゝ、空しく英人の治下に屈服するに至つたのは誠に遺憾の至りである。

彼等は創造的勢力と分析的智能とに缺けて居る。彼等は模倣し得るが創造し得ない。直感はかなり鋭いが、事物を分析し之れを組織立てることが出來ない。故に彼等には未熟ながらも直感的文學はあるが、思索的傾向が少しも見られぬ。模倣することは出來てもそれを消化して自家のものとなす力をも具へて得たかどうかは疑問であるが、彼等には不幸にして模倣しやうにも模倣し得べき文化が第一手近かになかつた。濠洲は支那朝鮮の日本に於けるが如くニュージーランドと相對して居るが、其距離千二百浬以上に達し、航海術の幼稚な時代には彼我の交通亦容易の業でなかつたであらう。加ふるに濠洲が白人に知られたのは殆んど同時代であり、文化的施設が行はれ、歐洲人の移住する

樣になつたのも漸く百五十年前のことで、ニュージーランドへ直接に押掛けて來た英人より以前に於て、マオリが文化の新空氣に接觸することの出來なかつたのは當然である。ポリネシアから移住してより數百年に亘り、彼等は遂に何等の刺激も模倣すべきものをも得なかつた。彼等がそれを得た時は征服された時であつた。

　日本は幸にして其祖先の來住が早かつた。其美なる環境、其島國的風態はニュージーランドに類似し、然かも夙に文化の花を開いた支那朝鮮とは一衣帶水の近距離に在り、其文化を模倣し消化して自家のものとなし、雜婚によりて不知不知の間に人種的改造をも良好に導くことを得、建國の大精神終始一貫して益々國威を顯揚し、遂に世界大國の班に列するに至つた。然し吾等の祖先が萬一其原住地より南方に移動して、日本を半分にした樣なニュージーランドに永住して居たとすればどうであらう。彼等の子孫は其處に現在日本の有つて居る文化の半分でも創造し得たであらうか。若し又マオリの祖先がポリネシアから北航して日本島國に移住して居たものとすれば、彼等の後裔も亦吾等と同樣に光輝ある歷史を有ち得たであらうか。

土肥慶藏著（四六判クロス天金）

鶚軒游戲

土肥博士は刀圭界の權威として、令名世界に比びなき人、倘趣味含蓄の廣きこと夙にかくれなし。德富蘇峰氏は曰く「博士は必ずしも專門にのみ局促せず。其の專門の學に尤も忠實にして、其の精進向上の精神は、齢と共に愈よ旺盛なれども、更らに遊刃餘り有りて、西洋の美術史にも精通し、書畫、彫刻に就ても、鑑識甚だ高きのみならず、其の漢學や詩文の如きも、優に家を成すに足るものがある。」今氏の天才的餘業たる、かくれたる英傑に對する隨筆的考察を始め、友人の眞面目を活叙せる得難き珍資を收め得た喜びを、讀者と共に頒ちたい。特に偉人奧村良筑の研究紹介は、未だ世に現れざりしもの、歷史的にも重大なる價値を持つ。本書は一面日本學界の側面觀であり、他面には世界的醫學界の大立物土肥博士の親しみ深くゆかしき人間性に觸るゝを得ん。大方の必讀を俟つ。

改造社發行　定價三圓　送料二十七錢

印度のパラダイス

丸山晩霞

ヒマラヤを下山して、五天竺の風光を探うて、印度旅行の道程に上りしは、炎熱の絶頂に向ふ乾燥期の四月上旬であつた。印度は古來宗教國で、釋尊が降誕して佛教を流布した以來も、更に種々の宗教が生れた。印度は宗教のために興り、又宗教のために亡びた國である。印度人は今も尚信仰と瞑想と空想とに耽つてゐるのである。幾度か興亡ありし、曠昔の燦然たる文化の遺跡を辿り、更に廢墟殘趾の間に隆起したる新しき文化を眺め、古來制定されたる怪奇な社會制度に甘ずる彼等、其他人種の多きと、風俗習慣の奇異なるを觀察すると、先づ第一に不可思議といふ感に打たるゝ。印度の見聞は皆期待以上に驚かさるゝものが多い。そして又不可思議不可解のものが多い。我等は先づ佛陀の遺跡を探る可く、佛陀伽耶の靈塔及び菩提樹下の金剛座に參し、尼蓮禪河とその河畔の苦行林、更に昔の婆羅奈斯國今のサルナートに行き、釋尊初轉法輪地鹿野苑の靈塔と發掘されし五寺院を辿る。印度には美觀を極めたる大建築多く、感興深き史蹟又到るところにある。これ等の記事は後日にゆづり、こゝには今日のパラダイスと呼ばるゝラヂフチナ獨立國の首府チヤイプール市の觀察を書て見よう。

チヤイプール市に着いたのは午後の八時頃であつた。停車場より自動車にてホテルに着いた。ホテルは、市の入口の巨大なる樹木の間にあつて、頗る閑雅のところである。宿は平屋造りで、各室の前は廻廊になつてゐる。案内された室は廣い庭に面して、涼しい風が吹き込んで來る氣持のよい室である。暑い頃の印度旅行は、早く寢て早く起床して、朝早くから見物に出かけ、午前十一時頃になると非常に暑くなるから宿にかへり、午後は四時頃から夕涼に乘じて出かけるのである。吾等は寢るとき室の鍵を求めると、宿のマネージヤーが、チヤイプールの町々は、各家に錠前もなければ鍵もないから、そのまゝにして安眠してくれとの事である。

旅行といふものは、どんなところへ行つても心から全く安心するといふ事は出來ないものである。が錠前も鍵も不必要の旅館に、自分は生れて始めて宿泊したのである。そして自分の希望として錠前や鍵の不必用といふやうな家に、悠々と安眠して見たいと思つてゐた。今ぞ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

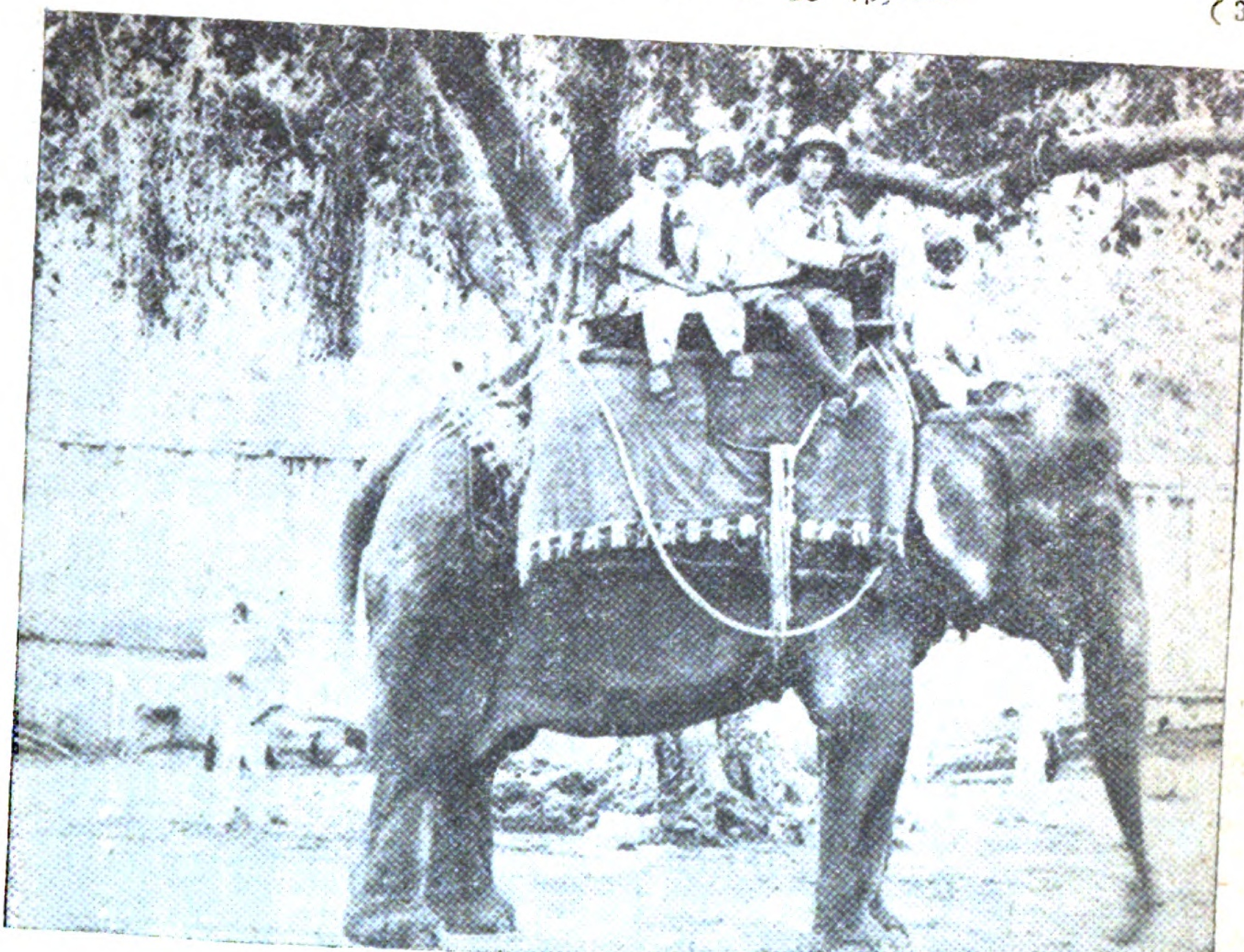
の想ひが達して今夜その平和の衾に安眠して圓かな夢を結ぶことが出來るので、自分としてこれ程うれしい事はなかつた。暑いのであるから戸を開放して寢てゐると、戸外の森ではいろいろの鳥が夜鳴きをしてゐる。其聲はアンミーン〳〵、又は太平々々等と聞える。電燈の光を慕うて飛び込む虫の音も平穩の調に聞える。自分はいつか安き眠りに就いたのである。カルカッタから連れて來たジョンといふボーイは頗る正直な男で忠實に萬事の世話をしてくれる。翌朝四時半頃ジョンに起こされて、圓の夢は覺めた。朝食前廣濶なる庭内を逍遙してゐると、遠くの方から園丁らしい男が、手に罐を持ち、その中より何か粉狀のものを出してそこゝにこぼしてゐる。近づいて見ると、蟻の巣に白い粉狀のものをふりかけてゐる。これは蟻除けの粉なりと即斷して、粉を散布した蟻の巣を見てゐると、無數の蟻が穴から出て來て、白いものを穴の中に運んでゐる、ジョンにこれは蟻退治するのかと聞いて見ると、ジョンは眼をくる〳〵させて否々蟻に砂糖を與へるのだといふ。その頃ニームといふ花の盛時で、この花は芳香を放つのである。何れの町に行くも村落に行くも、この薫りが滿ちてゐた。庭内は朝の涼しい風にニーム花の芳香を送られて、何とも云へぬ快感を覺えた。白い絹糸で拵へた總のやうな花を澤山につけた大きな合歡の木が二三本茂つてゐる。その樹の下に行くと栗鼠が群れて木を上下してゐる。木の上の枝が俄に動き出したから、仰いで上を見ると、黒面の大きな猿が無數樹上に群れて、樹枝を動かしたり、他の枝に飛び移つたりしてゐる。然うかけたゝましい叫ぶやうた聲が庭の隅から聞える。その方を見ると孔雀の群が遊つてゐる。これは飼育してゐるもので無く、野生のものである。人が近づいても人を恐れないのである。

朝食が出來たと呼びに來た。食堂は館の中央にあつて天井が無い、圓狀に種々の花卉の盆栽が飾られて、その中に食卓が設かれてある。食事をして居ると野鳥は盆栽の中に來て鳴きつゝ、栗鼠と共に小鳥も食卓の上にやつて來る、宛然たるパラダイスである。

ラジプチナ獨立國の主府なるチヤイプール市には藩侯の宮殿がある。この國は落てゐるものを拾はぬといふ程よく治まつて、その上宗教の方よりも殺生禁斷で、蚊一疋殺すことも出來ない掟であると。今日は藩侯の宮殿を見物すべく、自動車でホテルから大通りに出づると、兩側には樹木が鬱蒼と繁茂して麗はしい花が咲いて、こゝにもニームの花の芳香が充ちてゐる。樹木の枝に水瓶に水を滿したものを釣し、又平の籠に穀類を入れたものが下げてある。これは野鳥に與へる餌と水であるといふ。市は城壁に圍まれて、第一の城門を這入ると城家が櫛比してゐる。道路には無數の鳩が群れてゐて、自動車を急行す事は出來ない。群鳩の間を除行して進むのである。

藩侯の宮殿の門前にて、宮殿拜觀の許可證を得て城内に入る。接見の間、集會場、禮拜殿、各殿共印度的の金銀珠玉の裝飾が施され、美を盡し麗を極めてゐる。殊に印度ならでは見られないのは室を掩る壁の大理石に細かく印度的模樣を透し彫りにしたもので、この透し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



筆者等が象に乗つてチャイプールアンバー古宮殿見物の光景

刻を風が吹きぬいて如何にも涼しさうである。後庭は見渡す限り磨きあげた大理石の泉池になつて、各所に彫刻を施した噴水器があつて、それから清い水が高く噴上られてゐる。泉池の間は廻廊的になつてゐる。泉池を廻らして花卉果樹園になつて、色彩の麗はしい小鳥が囀つてゐる。美はしき花咲ける園内を導かれて大樹林の間に行くと、そこには鮮緑滴るやうな盆栽が展列されて、極楽鳥の飼育された大きな籠も置かれてあつた。小高い丘の上から水が流下してゐた。暑い國であるから、總てが涼といふものを主として設計されてゐる。宮殿に接して水浴場がある。多くの宮女が大理石段の上から、こゝに飛び込むところを見物するのだといふ玉座もあつた。

後苑の盡るところに石の塀があつて、そこの門を這入ると可なり大きな湖水がある。旱魃期であるから水は大概枯れて一部に少し溜つてゐる。水の枯れたところは草原になつて、こゝばかりは全部緑の色を見ることが出來た。そこには鰐を飼育してゐるので、吾等參觀者のためにその生活狀態を見せようとて、園丁が奇聲を發して呼ぶと、各所に散在してゐたものは、聲に應じて水上を泳ぎながら園丁のゐるところに集まつて來る。集まつた鰐は大きなものは三間もあり、小さなものでも五六尺はある。湖畔に這ひ上つて園丁の側に寄つて來る。園丁は頭を撫でつゝ一塊の肉を大きな開いた口の中に投入すると、ぱくりと嚥下する。鰐には舌が無いといふた。案内者は、そこから宮殿内の廐や象の飼育場に連れて行つた。六七十頭の象は庭に曳き出され、飼

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

[illegible]といふ部分で、[illegible]されてゐた。[illegible]
する一年一回といふ國の大祭の行列に參列するためであると。當代の藩侯は未だ若く、目下アジミヤの大學に學んでゐるとのことである。

宮殿を出で、カーペット織工場の見物に行く。途中汚穢の町を通る。忽ち何物の叫びかグワーンといふ一種異様の聲が聞えた。然して行く手に見えた森も家も恰度霞のかゝつたやうに淡くなつた。この不思議の出來事を調べると、吾等の乘つてゐる自動車に驚いて、兩側の穢ない家に群れてゐる蠅が一時に飛び立つたので、異様の音はその羽音で、行く手の霞んだのは、蠅の群れて飛び立つたためである。印度ならでは見られない奇觀である。こんなに蠅が居てもその蠅一疋も殺すことの出來ない、この國は傳染病等は非常に多いやうに思はるゝが、聞て見ると比較的少いのである。それは旱魃期等に、あらゆる病菌は皆死滅するといふ天與の賜であるからであらう。カーペット工場を見物する。カーペットを織るのは、十二三才位の小供が八九人並んで、各々いろ／＼に染つた糸を持つてゐる。うしろ側に織出す模様の圖案を手に持つた指揮者が居て、一二三四と約百餘りの數があつて、一人が十餘りを受持つてゐて、指揮者は圖案を見ながら、一から四迄青と呼ぶと、それを受持つものは呼ばれた色の糸を結びつけて、小さな鎌のやうなものを持て糸を結び目より五分程のところで切る。それから順々に五から十迄は赤といふやうに呼んで行けば、受け持ちのものは前の如くやつて、模様が漸々織り出さるゝのである。一枚何千

[illegible]閣といふ部分のものであるが、[illegible]といふのは[illegible]ものである。

歸途公園に立寄る。旱魃期であるから、落葉樹は皆葉が落ちて、部國の冬の光景を呈してゐる。されど花の咲てゐる樹木が多く、黄紅白紫、見るもの皆珍らしき奇花である。實際この都は、アーサー王が晩年行つたといふ、アバロンの國にも例へつ可きか。花は散る事を忘れて四季咲き亂れ、花香常に滿ち、人々に爭論も無く、平和の雰圍氣はこの市にあふれてゐる。眞に現世の極樂土である。

正午に近い頃宿に歸へつた。宿は市外で、樹木の中にあるから涼しい、宿の庭の一部に緑の芝生がある。それは井水を日々灌漑するからである。ジョンがやつて來て、明日はこの市の古宮殿、こゝより五哩のアンバーの廢墟を見物するため、その許可を得るとて四時頃出かけた。ジョンの話によると、アンバーに行く途中は、山林原野の荒地で、山猫、豹、虎、等の猛獸に出會ふ事があるといふ。されどこの國の猛獸は決して人に害を與へないといふ事である。又人も猛獸に對しても人に對するやうにしてゐるとの事である。

自分は今日迄多くの旅をやつた。小笠原島に先年旅行したとき、このジャイプールと等しく、各家に鍵前も錠もなかつた。人々は何れも善良で、父島の大村に牢舎が出來てゐた、そこには一人の入牢者もなく、所々破れて庭には雜草が繁茂して、荒れに荒れ果つた。この島は自分にとつて今日迄大國と思うてゐた。そして此の島に逗留してゐ

た安易な平和な感じは今に忘れられないのである。こんどは印度に於て、小笠原以上の極楽土を發見した。第二日目の夜も心安く快眠したのである。

窓に來て鳴く小鳥の聲に眼が覺めて、冷たい水で顏を洗つて庭内に出ると、ニームの花香に混じて白合歡花の甘い香が吹かれて來る。合歡木の葉の緑と、あの軟かい葉と細絲の花は、朝風にゆら〳〵と動いて、東雲の空色と相俟つて特に涼味を覺えた。印度の涼味といふのは、印度のやうた暑いところに來て初めて味ふことが出來るのである。暑いときではあるが朝は涼しい。東の空に明星の光つてゐる頃が、千金の涼味を覺ゆるときである。

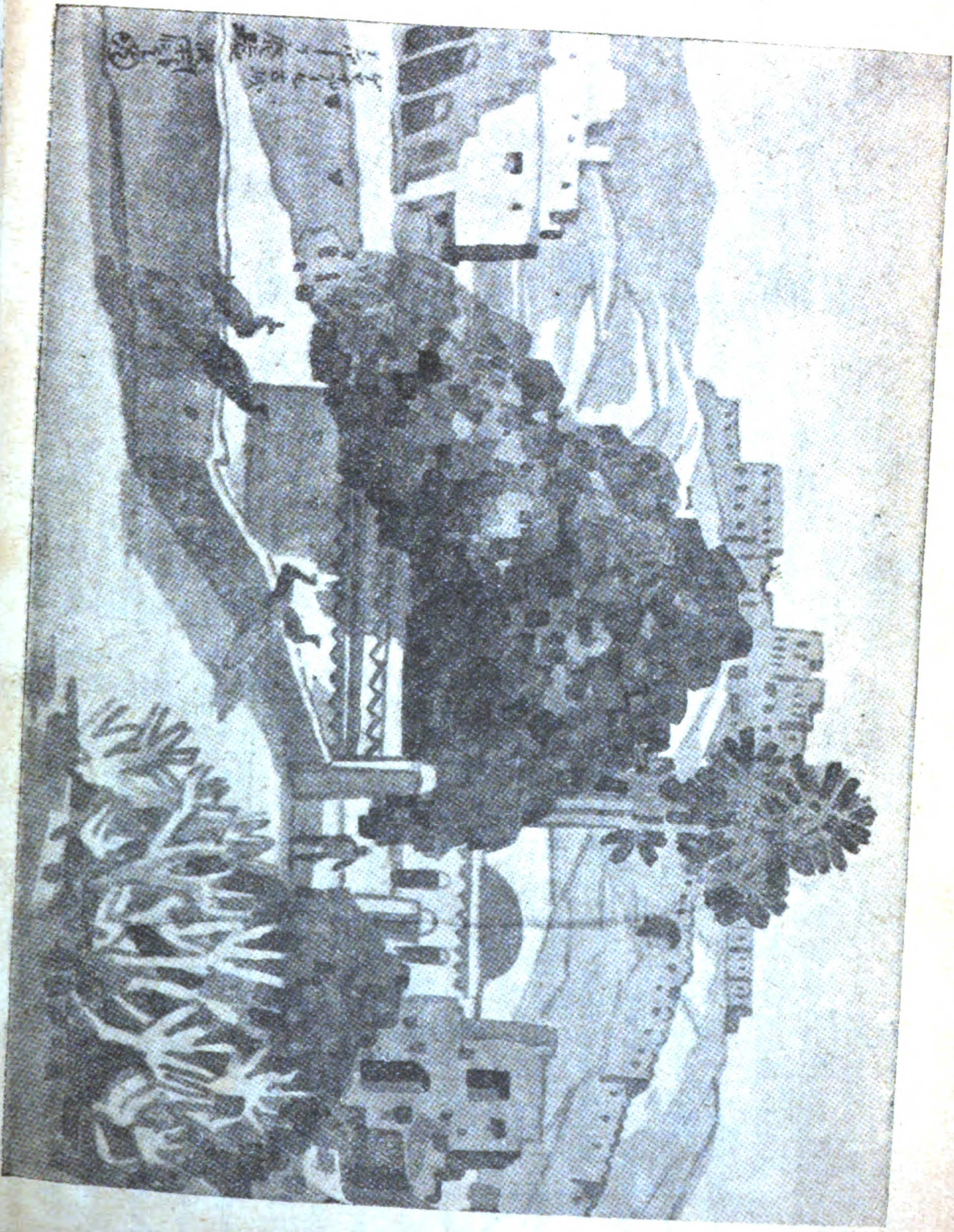
午前四時出發してアンバーの古宮殿に向ふ。アンバーに着けば、そこには象が待つてゐて、今日は象に乘つて廢墟を見物するのである。チャイプールの町を出ると、古い町があつて、そこの城壁の門をぬける。大きな仙人掌が茂つてゐる。その邊より荒地になつて、木の無い山が行く手にそゝり立つてゐる。ジョンはこの邊に猛獸の居るところだといふが猛獸の姿を見ない。暫く進むと何人の棲み荒らしたのか家の殘趾が荊棘の中に昔の俤を語つてゐる。そこに黑い動物が群れてゐた。黑豹かと近づいて見ると、黑面の大猿の一群であつた。杜の中から青金色に輝く鳥が飛び立つた。漸く行くと山路になつて四十五度位の登りである。アンバーに近づいたのである。四面が山岳になつて、その中央の谷がアンバーの廢墟で、谷の底は湖水になつて、それより小高い丘になつてゐる。古宮殿はその丘の上に建設されてある。宮殿をめぐらして、山から山に亘れる三重の城壁がある。城門を這入るとアンバーの谷に下るのである。湖畔丘間には古の市街寺院等の廢墟があつて、昔の壯麗を偲ばする。街路には仙人掌が茂り、湖水の水は豐滿れて、そこには美はしい草花が咲いてゐる。殘趾の間にはバイヤン樹や菩提樹の巨木があちらこちらに立つてゐる。宮殿の入口に一廓がある。中に一軒の家があつて、その前に大きなバイヤン樹が立つてゐる。そこに吾等を今日乘せて廢墟や宮殿を見物する象が待つてゐた。この象はチャイプールの侯爵の宮殿より運はしたものである。こゝのバイヤン樹の下に暫く待つてゐると、吾等に參觀を許可したといふ使者が、昔の武者姿で左腕に盾を着け右手に許可狀を持ち急馬に鞭打ちてやつて來た。そこの事務所に居る役人は使者を迎へて許可證を受取り、役人は諒承したといふ返事を認めて使者に渡す。使者はそれを持つて歸へる。恰も昔の繪を見るやうな光景である、役人は吾等の案内役となつて、吾等より先に古宮殿に徒歩で上つて行く。吾等はこれから象に乘るのである。象は馴れたもので、いよ〳〵乘るときになると象使ひの老人が命令すると、大きな脚を折つて座する。それでも高くて乘れないのであるから梯子をかけて象背の櫓に登る。四方に張つた綱につかまると、象使が又號令を下すと、象はむつくと立上る。それから象使が操縦しつゝ、廢墟殘趾の間を迂曲せる路を辿つて悠々登つて行くのである。象に乘るといふのは、好奇心を滿足させるまでゝ、乘心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

地の惡いものである。殊に象の背に乘つて大きなうねりの峰を上下するやうで、かくり〱〱とゆられて行くのである。第一の城門を過ぐる、途中樹木も草も無い赤土路である。第二の門も過ぎて漸く頂上の廣庭に達した。こゝで一先づ象背より下りて宮殿を見物するのである。城廓は赤色の石で出來てゐるが、古城は全部マーブルで拵へた壯大な美なるもので、他の宮殿と異るところは、この宮殿は地下室が浮山にあつて、それが皆美を極めてゐる。宮殿に這入るとそこは神殿になつてゐて、羊の皮を剝いだ贄が供へてあつた。自分はこれを見て驚いた。蚊一疋も殺すことの出來ない掟のある國で、羊を殺し、然もそれを神前に供へて置くとは何といふ矛盾である。案内者にこれをたゞすと、神に供へるので差支へが無い。そして毎日一疋の羊を贄として供へるのであるといふ。供へたあとはどうすると聞くとお供物として我々が頂戴するのであるというた。宗教上のことは常識で判斷の出來ない事が頗る多いのである。羊といふ動物は餘程神樣が好きと見える。西洋の古い神樣も羊を贄として供へ、又羊の肉を燒て香として賞美するといふ。神樣のかふいふ點は東西一致してゐるやうである。古城とは言へど城内はまだ新しく、燦然として驚かすものが多い。無數の間があつて、皆印度的細かい彫刻が施され、マーブルに金銀珠玉を嵌めたモザイク等もあつた。中庭はよく灌漑されてゐるから、綠は滴るばかりに種々の花も咲て小鳥も囀づつてゐた。この宮殿も涼といふ事に重きを置て建設されたものである。宮殿を出でゝ又象に乘る、こんどは下り坂であるから[illegible]を下つて、人の住んでゐる七八戸の町に出で、その町で砂糖の大きな塊りを求め、元のところへ上つて象を下り、我等の手からその砂糖の塊りを象に與へたのである。役目をすました象は我等より早くチャイプールの町をさして、大きな鼻をふり〱悠々と歸へつて行く。

自分は古宮殿と廢城の光景が如何にもよい畫題であるから、活き殘つたやうなさびしい町へ出で、その附近の日蔭で寫生してゐると、驚いたことにはどこに居たか寫生を始めると、七八疋の黒面猿がやつて來て、寫生をしてゐる僕を取圍んで寫生してゐるところを見物してゐる。別段害はしないが變つたお客さんの見物には氣味が惡かつた。そのうちに貧民町の茶目共に見つかつて、五六人やつて來たら、猿君は他に退いた。ジョンは暑くなるから早く歸れとせき立てる。印度人の方が却つて暑がる。自分は尚二三枚寫生して歸途に就いた。何とかして野獸の遊んでゐる自然状態を見たいと思うたが、終に見ることが出來なかつたのは遺憾であつた。ジョンのいふには雨期の頃は必ず一疋や二疋は現はるゝというた。途中四方八方の部落から人が出て來て、今日の祭を見物するために、皆チャイプールの町をさして行くのである。何れも美なる新しい物を着飾つて、耳にも、鼻にも、首にも、足にも金輪をはめて、妙齡の婦人等の着飾てゐるのは、活ける觀音の姿のやうである。チャイプールの町に着くと、朝の靜さに反して人をもつて埋めてゐた。群衆を縫うて車をすゝめ大通りに出ると、今行列

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



チャイプール古城アンバーの廢墟　吧說生寫

が巡邏するところである。前列はタラシツクな印度古風の音樂隊で笛、ラツパ、鼓、太鼓といふ鳴りもので囃子たてゝゐる。その次は槍と楯を持てる古風の兵士の一隊、その次は騎馬隊、これも槍と楯を持つて、極彩色の金襴の服を着けてゐる。それから化粧をして美装をこらした象は幾十頭、これは五六丁もつゞく。象の上には美装した貴人と、金襴の布にて掩はれたる輿には婦人が乗つてゐるとの事である。印度人の上流の階級になると、婦人は他人に會はないのをもつて美徳としてゐる。宮中等ではスクリンの小さな穴から他人を見る位で、他の人には絶對に見られないやうにしてゐる。そして外出のときは輿に幕を張り、その幕に小さな穴をあけて、そこより外部を見る位である。

象の行列はこれ又印度にあらざれば見られない奇観である。そのあとは又先とは違つて音樂を奏する一隊、それから歩兵といふ順序であつた。この當時米國の觀光團が來てゐて、彼等は十數種の自動車を連ねて行列に加はつてゐた。吾等の自動車もそれに割込んで行列に加はつた。兩側の軒下軒上二階屋根迄參觀人をもつて埋め、殆んど立錐の地も無い程である。老若男女が國歌のやうなものを歌ふと、その調子につれて若い男の一群の一團は、竹で造つた樂器を兩手に持ち、がちやがちやと音をさせつゝ、踊り狂ふのである。かくの如くして大通りを練り歩いて、ヂヤイプールの町は煮えくり上るやうな騒ぎである。斯ういふ騒ぎになると喧嘩口論等が各所に起るのであるが、この町は極る稀な無事である。斯ういふ騒擾がどれだけつゞくか、實に何分のヂヤイプールは、現代のパラダイスといふ事が出來よう。

ヂヤイプールの町は旅人の慰安所として、見物するところはあまりないが、悠々と安心することが出來るといふので、見物もしないで幾日も宿屋に逗留するとの事である。吾等も最早見物は終つたが居心地のよい慰安所といふので五日間程逗留を重ねたのである。その間山にも遊び林の中も通つたが、雨期で無いから蛇にも會はないし、又猛獸にも遂に會はなかつた。仙人掌の下には毒蛇が棲んでゐるから注意せよと言はれたから、仙人掌の繁茂してゐるところには行かぬ事にしてゐた。酒を釀すといふ椰子の樹がある。この樹の實の出てゐるところへ傷をつけると、そこから水が出づる。その水は數日を經れば酒と變ずるとの事である、それ故この椰子は傷だらけになつてゐる。殺生禁斷といふ慈愛心を草木の上にも及ぼして、この椰子を保護したらといふ感が起つた。

パラダイスを去ることになつた。午後十時頃停車場に行くと、耳を聾するやうな鳥の聲が聞える。停車場の場内に無數の鳥が群れて、きやきやと鳴いてゐる。恰度吾國の椋鳥に似てゐる。これも珍らしい奇觀であつた。

終りに印度旅行者のために一言述べて置く事がある。それは印度に於ける氣候である。三四五といふこの三ヶ月は、印度に於ける最も炎暑の烈しい季節である。晝間の汽車内に於て、正午から午後一

時二時頃は百二十度位に爲る。何故に三月四月五月の三ヶ月は暑いかといふと、印度は半島の大陸で、北方はヒマラヤといふ大連峯が天然の大障壁を爲して、恰も屏風を立て廻はしたやうになつてゐる關係上、雨期と旱魃期と二たつに分れてゐる。六月頃から雨期が始まつて九月頃迄毎日の如くに雨が降つたり晴れたりしてゐる。その雨の降る模樣というたら、降るといふより大きな瀧のやうに水が落下するといふ程で到るところの河川湖沼が汎濫する。これが十月頃になると雨期が上つて、それから晴天がつゞく。その頃から一月二月頃迄は寒くも無し暑くも無しといふ好時期である。印度旅行はこの季がよいのである。要するに北風の吹く頃から印度は晴るゝのである。雨はヒマラヤといふ大山脈のために遮られて、降らぬのである。南風に爲ると、大障壁なるヒマラヤのために遮られて雨となつて印度は雨期に爲るのである。十月頃から雨が上つて、それから天氣がつゞくのであるから、印度の農業はそれからである。米も麥も豆も綿花もその他の作物は皆その頃から繁茂して十二月一月頃が收穫時である。この頃迄は雨期に潤うた土はまだ乾ききらぬのであるが、二月の末頃になると最早外部はすつかり乾いて、灌木樹は葉に水分を上げなくなるから、吾國の秋の如く紅葉して、三月の初め頃は落葉するのである。土地に水分が無くなつてくわつくわつと照りつけるのであるから、暑くなる譯である。四月から五月初旬は最も暑い頂上で、小さな河や湖沼は皆水が枯れて、見渡す限りは荒涼たる景色の原野で、緑の草等は藥にしたくも無い。路傍の並木や町の木等は一日に幾回といふ程水を注ぎて僅かに生を保たするのである。蔬菜を作るに井の水を斷えず灌漑して作るのである。旱魃期には最も恐る可き毒蛇も棲む事が出來ない。印度では、旱魃に枯れた湖沼に魚を掘りに行く。土を深く掘ると、その中から魚が出て來る。雨期が過ぎて、水が漸く減水する頃、魚は泥中にもぐり、漸々水が減ずると更に深くもぐり込むので、表面はかち〳〵に乾くなつた土を掘て行くと魚が出る蛙が出る、時には蛇も出るさうである。

アブーといふ四千尺程の山に登つたとき、その山は皆落葉樹で、四月下旬に荒涼たる晩冬山の光景を呈し、谷には水は一滴も無い、中腹邊に行くとジージーと裸樹に蟬が鳴いてゐた。旱魃期は暑いが、この季には傳染病その他の病氣が少いから、この期に旅行をするのもよいと思ふ。暑いといふのも一度は味ふのも趣がある。旱魃期の旅行には汗は出るが直ぐ乾くから、吾國のやうに、下着が汗で濡れるといふやうの事は無い。鼻の穴が乾く眼が乾くといふやうのこともある。(了)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大アマゾン

大石小作

廣袤二百七拾萬方哩を有する大アマゾン流域即ちアマゾニアは、古來癘瘴蕃雨、猛獸毒蛇横行し、到底文明人の生活する處でないと考へられて居つたのである。處が最近歐米人に依つてなされた調査探檢の結果、漸次其の眞相が明かとなり、其氣候風土も曾て想像せられた程の事もなく、其大部分は文明人の生活に適するのみならず、萬古斧鉞を加へられざる大原始林、耕地栽培地として可ならざるなき沃野千里、林産に農産に、實に無限の富を藏する事が分つたのである。近次此の富源に着目せる歐米人は、連りに其開拓に志し、之の現世界に殘されたる唯一の大富源も將に其開拓の緒につかんとしつゝあるのである。彼の一九二四年、米國のハミルトンライスが多數の各專門家と學者と飛行機とを以てリオブランコ上流になしたる大々的探檢の如き、又駐伯米國商務官シュルツ博士がアマゾン內奧地にラバープランテーションのエキスパートとしてなしたる探査の如き（此の地帯ゴム栽培に依り世界全産の約七割を使用する米は英の獨占たる南洋ゴムより獨立せんとする意圖あり）又最近に於ては世界の自動車王フォードかゴム栽培の目的にて同地帯に土地收得を了したる報の如き、今や此の無盡の眠れる富源は世界凝視の焦點となりつゝあるのである。

然も此地帯のアマゾン及パラー兩州政府の當局者は特に我同胞に對して、其投資と植民とを熱望して居るにも拘らず、我同胞はこの無限の富を藏するアマゾニアに關して甚だ識る處少き事は、最も遺憾とする處であつて、人口食糧問題が我國の重大なる社會問題、國家問題として緊々たる今日誠にアマゾニアは重大の意義を有するものと思ふ。

筆者昨大正十五年同地方を踏査視察し、其見聞せる處を抄錄し、本誌を通して普く江湖に之を紹介するは、筆者としての義務であり且つ重要な意義のある事と考へるのである。

話は少し横道へ入るかは知らぬが、從來我國の海外移植民事業が、兎角失敗勝ちであつたと云ふ原因について考察して見たいと思ふ。筆者は其最大原因として次の諸項を擧げるものである。

一）移植住地其ものが、日本人の獨占的ならざりし事……即ち我國の海外移植民が常に、歐米人の後塵を拜し、糟粕をなむる有樣は、丁度我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

工業界が、永らく歐米の模倣時代にありし如く、そこに何等の獨創的工夫なく、從つて絶對的の基礎なきを以て、一朝有事に際しては何の當もなく、其勢力を殺へさるゝ狀態たつたのである。卽ち常に歐米人が店を出した處へ、あとから、割込みをやつて居つたので、從つて絶對的の優先的基礎を缺いて居つたのであつた事。

(B)勞、資、技術、三拍子の中資本技術の二拍子を缺いて居つた事、我國に於ては、從來海外移住民と云へば、比較的智的方面にうとき、純農者のみを移住せしめ、之れに從ふべき資本及び技術の進出を缺きたる結果、農産物の加工等に依り、當然收得し得らるべき收益の大部分を、外人に勞せずして、せしめられたる事。

(C)移住民の質と其訓練に留意せざりし事、

筆者前後四ヶ年のブラヂル滯在中、サントス港或はサンパウロ市等に於て、邦人新移住者婦人が上陸早く、其靴を手に提げ裸足のまゝ市中を逍遙し、又は路傍に蹲り、胸もあらはに、其子供に授乳せる態を見て、赤面させられた事等が度々ある。 かと思へば、社會局の厄介になつて旅費の補助を受けて來た事は棚にあげて、金ブチ目鏡に嬢突式ズボンをはき、外國語のABCさへわきまへぬ者が、「我は日本男子なり、世界の一等國民であり」 三等國のブラヂル夫れ何ぞや」と云ふた樣な鼻にもつかぬカラ威張りの青年をも見た。 サンパウロ州内邦人移住者の狀態を視察し、其成績と本人の人格とを比較考察する時、優良ならざる十の移住者は、善良なる一の移住者にも及ばずと云ふ事を、最も痛切に感じたのである。

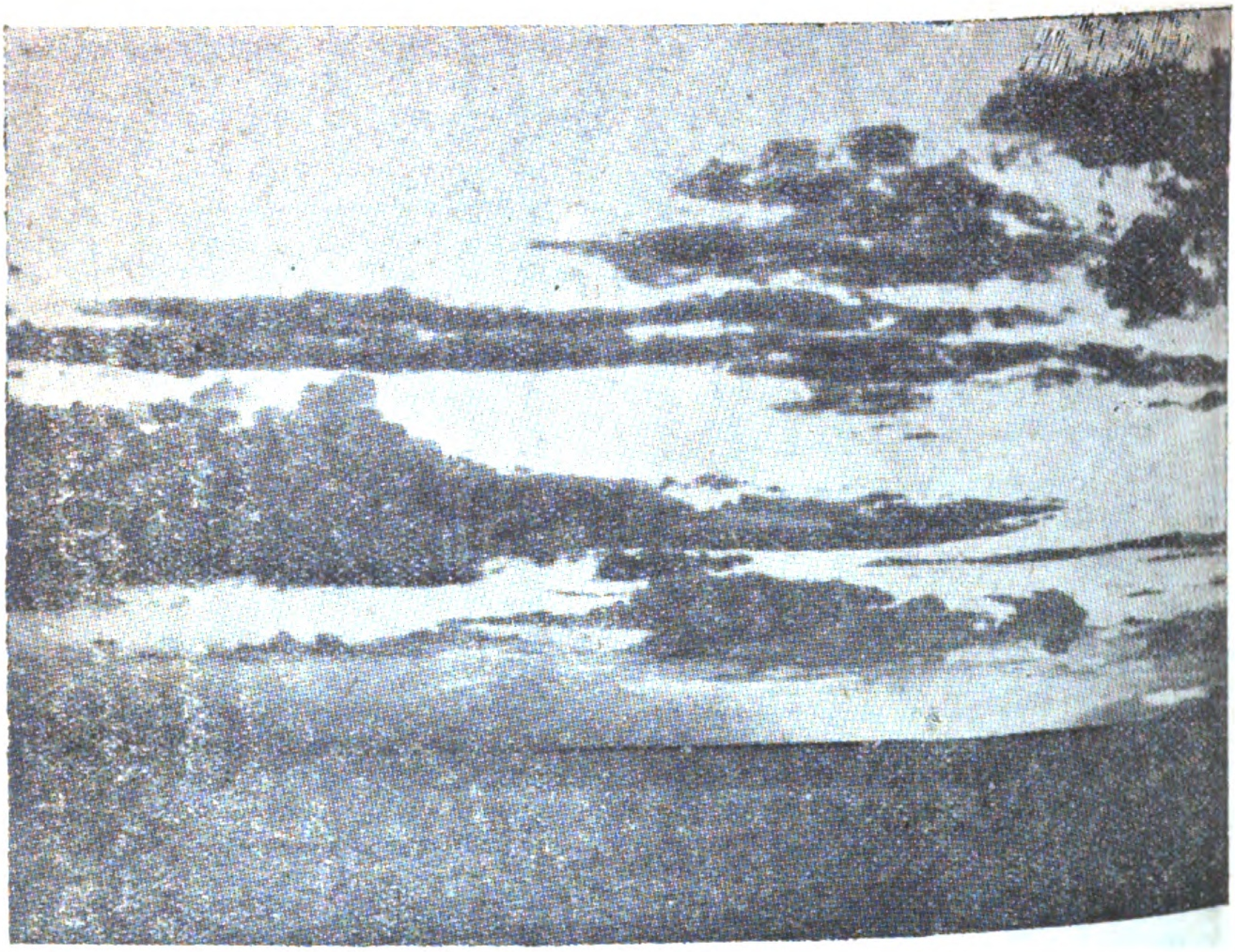
右の結論を得た所以は、アマゾン地帶は未だ何れの國の者も、其開拓に手をつけて居ないので、之からのやり方一つで、どの樣にも根本的に作り上げて行く事が出來ると云ふ事を讀者諸氏に確め、念頭に入れて置いて戴き度いからである。

アマゾン河

筆者はアマゾン河に關しては、中學時代に外國地理で、只南米の大きな河であると云ふ位の程度の極めて貧弱な考へしか持つて居なかつたのであるが、實際行つて見て今更に其大きいのに驚いたのである。

此の河の源はペルー國のアンデス山脈に屬するビルカノータ山に發し北東に向つて流れウカアレ河となり、東に向ひソリモンエス河となり左岸の一大支流リオネグロを合せ始めてアマゾン本流となつて大西洋に注ぐのである。其全長は約三千六百哩と稱せられて居る。河口の最も廣い處は約二百三十哩、卽ち其河巾は東京名古屋間の距離がある。アマゾン本流は濁流であつて、流速は每時約二哩、其水量は一秒間九萬立方米突と稱せられて居る。 大西洋に注がれた此の濁水は海上百哩餘を淡水に、二百哩の間を黃色に變じて居るのである。 一九〇九年、二千百餘噸を有する英國巡洋艦ペロラス號は、此の大アマゾン河を遡航して遂に河口より二千三百哩のペルー國イキトス迄安全に達したのである。 又河口より一千哩あるアマゾン州首府マナオス港迄は、英國の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



大アマゾンの落日

リバープール、北米の紐育から定期航路があつて六七千噸級の外洋船が樂々と航行して居るのである。マナオス港に於ける水深は平水時にあつて四十米突を有するのである。之等の事實から推して如何に此河が大きいかと云ふ事は略想像つく事と信ずるが、實際行つて見ると、今自分が航行しつゝある處は、本流であるか又支流であるか、向ふに見える森は本當の岸であるか島であるか全く見當がつかない、行けども／＼黄色の水と緑の森と云ふ狀態であるので、寧ろ其變化の乏しいのでアキが來る程である。然し時々水面に跳るボート（日本のイルカと稱する魚）、或は鰐、又森から森へ群れ飛ぶ澤山のオーム類、さては時々見える川岸の椰子の葉葺きの土人の家等に詩的情緒をそゝるものがある。之のアマゾン河は支流としても隨分重要なものを澤山もつて居る。先づ本流の右岸河口に近い方から擧げると、シングー（長さ、一、三〇五哩）タパヂョース（一、一九九哩）マデイラ（三、二四〇哩）プルス（二、二六八哩）チュルアー（一、七七〇哩）ヂヤワリー（八八二哩）等、左岸の方ではイサー（一、〇二二哩）リオネグロ（一、〇五六哩）トロンペータス（五四一哩）等は最も著名なもののみである。その中、リオマデイラの如きは其水量ミスシッピーに匹敵し、舟行距離は大形汽船の通ずる部分六百五十八哩、小形汽船の通ずる部分千〇五十六哩と云はれて居る。尚其他の支流も皆夫々非常に長い可航距離を有するのである。

河の汎濫 降雨量の處で申述べる樣に、此の地方では一ケ年を雨期

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

及乾燥期の二つに分つ事が出來るが其時期は處に依つて多少異るのであるが此の兩期に於ては、アマゾン河本支流は異常な增水を來たすのである。からして此の地帶を調査する樣な場合には先づ第一番に此の增水時に於ける狀態を基礎として出發すべきである。乾燥期即ち減水期に於ては立派な森林地帶であつても增水期になると、其土地の全部が數米突の水中に沒してしまふと云ふ樣な地域が可なりあるから此の點は特に注意を要すると思ふ。地方地方に依つて降雨期を異にして居るから、其各支流の增減水の時期及程度も異るのである。今其一班を知る爲めに本支流の主なるものにつき其增減水の時期及其水位差を示して見よう。

アマゾン本支流增減水の時期及水位差、

河名	增水期	減水期	增減水位差
本流（マラニオン ソリモンエス アマゾーナス）	六、七月及十、十二月	十月及二月	イキストスにて三〇呎—四〇呎 ブラヂル領域にて四〇呎—六〇呎
タパヂョース	六月末	十月	上流二〇呎—二五呎 河口同右
マデイラ河	四、五月	十月	上流三〇呎—四〇呎 〃
ヂュルアー	二月	九月	上流三〇呎—三五呎 〃
ネダロ	六月	一月末	上流三〇呎—四五呎 〃
プルス	四月	十月	上流三〇呎—四〇呎 〃
トカンチンス	四、五月	九、十月	バイヨン逆潮流を感ず

備考、右表はサウス、アメリカン、ハンドブツクに依るものとす。

アマゾニア

アマゾニア とは、伯剌西爾パラー州及アマゾン州の兩州がまだ分離しない以前に於て、命名せられたアマゾン河流域地帶一般の名稱である。其總面積は兩州を合して、日本全領土の四倍半（パラー州が日本全領土の二倍、アマゾン州が其の二倍半）に相當するのである。大體に於て赤道附近南北兩半球に亙り、其全部が大アマゾン河の流域區域に屬して、地形は大部分鬱蒼たる原始林を以て覆はれた、平坦なる一大平地である。

人種と人口 一九二〇年の調査に依るとアマゾン州の全人口は四十五萬人、其内一萬五千人のインデアンがあると云はれて居る。そしてアマゾン州住民の大多數は伯國セアラー地方から入り込んだもので、外國人系統としてはポルトガル系、シリア系が多くスペイン、イタリヤ系が之に次ぐのである。首都マナオス市は別として、州内各地方に於ては純粹の白人を見る事は極めて稀であつて、皆白人、黑人、印甸人の種々の組み合せに依つて生じた混血種であつて、其外殆日本人に酷似せるものが甚だ多いのである。上記の總人口を一方哩當りの密度に換算すると僅かに〇、六五人となつて、現在日本内地の一平方哩密度約四〇〇人に比すれば、約六百分の一程の稀薄な狀態にあるのである。

何故に此のアマゾニア大平原が、今日まで原始狀態に殘されて居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べたかといふ點は、吾人の等しく知らんと欲する點であつて、然るが同地方に旅行した根本の目的もこゝにあつたのである、其理由は多々あらうが予は次の數項を擧げる事が出來ると思ふ。即ち、

(A)歐米人が南北緯二十度以內の低緯度圏內の生活に適せざる事。

(B)歐米人は各々、自國民が既に根本的の勢力を扶植せる地方、例へばサンタ、カタリーナ、リオグランデ ド・スル方面に於ける獨逸、サンパウロ州に於ける伊太利及ポルトガル、アルゼンチンに於けるスペイン等の如く、新移住者に取りて、より便宜なる地區を有する事。

(C)日本人の入植を見ざりしは、之れまで同地帶を詳細に調査せる者なく從つて今日迄其實際を日本に紹介せる者なかりし事。

等が其の重なる理由であらう。

氣候風土　先づ此の地帶の中心と見らるべきアマゾン州首府、マナオスに於ける氣候風土に就て述べて見よう。此の地方では、緯度の低い關係上、夏と冬との差は殆んどないのであるが、一ヶ年を雨期と乾燥期の二ツに分ける事が出來る。即ち七月より九月までは乾燥期であつて此の間は比較的溫度上昇し、十月より六月までは雨期であつて、此の期間に於ては降雨多く溫度は稍々低下する。故に假りに夏と冬とに分けるならば前記の乾燥期が夏、雨期が冬と云ふ事になるのである。そして夏と冬との平均溫度の差は僅かに攝氏一、六度（華氏二、六）に過ぎない。之れ同地方に於て密林にしてもバナナ、パイナップル、コーヒー等が年中次から次へと結實する譯である。一九一四年から一九二〇年間に於ける十一ヶ年間の平均溫度は攝氏二七、一度即ち華氏八一、度と云ふ事になつて居る。南緯僅かに三度八分二十七秒と云ふ殆んど太陽直下に位するマナオス市の溫度としては意外に低いのである。殊に夕方から夜分にかけ翌朝までは非常に涼しい。元來地理學的の赤道と、實際最高等溫線とが常に一致しないと云ふ事は周知の事實であるが、ドクトル、フンボルト氏の觀測に依れば、此の實際最高等溫線はアメリカに於ては、北緯十度乃至二十度の間、即ちパナマ地峽地方を通過して居ると云ふ事である。緯度の割合に溫度が低いと云ふ理由については、先づ此の地帶が世界一の大原始林を以つて覆はれて居る、と云ふ事實を考へなければなるまい。それから此の地帶には殆んど無數の大小河川湖沼があると云ふ事も溫度を緩和する、一つの原因になるであらう。之等の點は彼のアラビヤやアフリカ地方とは非常な相違がある（備考、我帝都の盛中に於ける七月中の氣溫平均は八二、六度である）。それから此の地方一帶が大平坦地であるから、晝間大西洋から來る貿易風、夜間アンデス方面から吹き下ろす冷風が、自由に通るので、從つて大いに溫度の調節に力があるのである。

次に雨量と濕度であるが、よく歐米人が、アマゾン地帶は雨量が多く、且つ濕氣がひどくて、とても文明人の住む處でないと云ふ樣な事を云ふて居るが、先づ之を論ずる前に次の表を見て貰ふ事とする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

1914年より1924年に至る11ヶ年間に於ける各年平均
マナオス測候所　南緯3度8分27秒、午前7時、午後2時及9時

年次	平均温度(°C)	降雨量 mm	濕度%	風向	風速
1914	28.0	1.809.0	77.4		
1915	27.6	1.491.2	77.7	E	3.
1916	27.2	1.699.2	77.8	E	4.
1917	26.8	2.6?0	82.8	E	3.
1918	27.0	1.505.4	71.0	E	4.
1919	27.3	1.516.3	77.8	E	4.
1920	27.8	2.138.4	78.8	E	2.
1921	36.7	2.43?.6	77.5	N	1.8
1922	25.5	1.782.2	78.8	N	4.
1923	26.8	2.069.7	78.1	NNE	2.
1924	27.3	2.014.0	79.4	N	1.86
				N	1.91
平均	27.09	1.871.21	77.91		2.88

備考

地名	降雨量 mm
台北	2.179
敦賀	2.539
金澤	2.3?1
高田	2.8?5
高知	2.055
八丈島	2.091
東京	1.574
紐育	1.057
ハリー	678
ロンドン	618
香港	543
新潟	1.909
秋田	1.928
青森	1.914

地名	濕度%
山形	80.
根室	8?.
台北	81.
台南	82.
高田	79.
青森	78.
札幌	79.
鹿兒島	78.
銚子	78.

右の表で見る如くマナオスに於ける十一ヶ年間の平均一ヶ年降雨量は、一、八七一ミリメートルであつて、日本の台北、敦賀、金澤、高田、高知、八丈島に於ける約二、〇〇〇ミリ以上をはじめ新潟、秋田、青森等より降雨量は少いのである。次に濕度の關係であるが、マナオスの平均濕度七七、九一よりも尚ほ濕氣多き都市を本邦に求むれば、銚子、鹿兒島、台南、台北、札幌、青森、高田、根室、山形等は何れもマナオスより濕氣が多いのである。

以上述ぶる處に依つて、此の地帶が溫度、雨量、濕度の點より見て決して人類生活に堪へられないとか、適しないとか云ふ理由は更に認める事が出來ないと云ふ事が、ハツキリ分かりの事と思ふのである。現に自分も旅行して直感的に、案外樂な處であると思うたのである。然し日中一時から先き、三時位迄の間は、炎天に寒暖計を晒せば百十三四度に上昇するのである。地方の勞働者は平氣で此の間でも仕事をして居るが、若し日本人が新たに入植でもすると云ふ樣な場合には、當分馴れるまでは、此の最も暑い二三時間の間は屋外勞働は差控へるがよいと思ふのである。

猛獸毒蛇　元來アメリカ大陸には、アフリカ等に見る如きライオン、象、虎、ゴリラ、河馬、等の極めて獰猛なるものは居ないのである。此の地方に居る比較的大きなものを擧ぐれば、オンサと稱するアメリカ豹、猪（山豚）、獺、鰐、河豚（カピバラと稱す）位のもので之等とても其の數が少いので、猛獸に對する危險は殆んどない。鰐は相當多數居るが、漸々が水面を驚かさるゝ位の事はない。北海道の熊の被害より尚ほ少い程度であらう。又毒蛇は森林中よりも野に多いので、旅行中一日に數匹位射殺した事はあるが、其被害は丁度日本に於けるマムシ程度のものであらう。決して恐れるに足らないので、然も近頃では之に對する有効なる血清注射藥も出來て居るから猶更心配はない。

風土病　としてはマラリヤ熱、フエリーダブラボ、及十二指腸の三ッを主要なものとして擧げ得る事は、サンパウロ州方面と代りはない。此のマラリヤは、日本では無暗みに恐れて居るが之はキニーネを使用する事に依つて、完全に治癒し得べきものであつて、偶々之が爲めに斃れる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者あるは大抵此の病毒に對する智識の缺乏と、不注意とに起因して居る者が多いのである。サンパウロ州等に於て我移民が、開墾に際してマラリヤ患者が無理に、畑に就働して居つて、熱が出て來ると其場で寢ござをかぶつてこらへて居つて、熱が去ると又仕事をやると云ふ例は澤山見聞した處である。一口にアマゾン州と云ふけれども、其面積は日本全州の約七倍余にも達する膨大のものであるから、其の衛生狀態も地方地方に依つて非常に大差があつて一括にして之を云ふならば、よくもあり惡くもありと云ふ外はない。その例として次の樣な事があつた。即ち、旅行中或處でいつもの通り、ハンモックに蚊帳をつつて就寢した處、夜通し非常にからだに痛みを感じたが疲勞の爲めそのまゝ翌朝になつて、目醒めて見ると蚊帳の中に十三匹のマラリヤの蚊（即ちアノフエレス）が、何れも滿腹する迄血を吸うて居つたのである。即ち蚊帳の破れ目から侵入して來たものである。いよ〳〵マラリヤにやられるものと覺悟してそれから數日間は深甚に注意して居つたが、とうとう出なかつたのは幸であつた。つまり此の蚊がマラリヤ菌をもつて居なかつたのであらう。かうした不健康な處があるかと思ふと、アマゾン州アウエス町の如きは一年中一匹の蚊も居らず從つて蚊帳の必要がないと云ふ樣な健康地もあるのである。フエリーダブラボと云ふ病氣は、日本には絶對にない熱帶特有の病氣であつて、四肢、顏等の露出部に出來る腫瘍病である。學名をレーシマニオーゼと云ふて、レーシュマニア、トロピカと稱する原生動物の寄生に因る皮膚病である。本病は局部病で生命には危險はない。但要目フレボトムスと云ふ沼山に多い蚊の一種が媒介するのである。從來不治とされた本病は千九百十二年オスワルドクルース研究所に於て、青年醫師ガスパル、ビアンナ氏に依りタルタロ、エメチコの靜脈注射二十回前後に依つて全治する事が發見せられたのである。ブラジル人の約七十%が十二指腸に侵されて居ると云ふ原因は彼等勞民者が多くは便所の設備を有せざる事、及就働に際して靴を使用せざる事に起因するのであらうが、衛生思想乏しき現狀にあつては是非ない事である。十二指腸が簡單なる治療に依つて全治せしめ得る事は勿論である。次にアマゾン地帶の産物に就て一言しよう。

（A）**林産**

（イ）**護謨**　アマゾン地帶が世界に於けるゴムの原産地であつて、其品質が世界一である事は周知の事實である。現在に於てもまだ之を人工的に栽培すると云ふ域に達せずに、昔の通り只自然野生ゴムの採集のみをやつて居る有樣であるが若しこゝで人工的ゴム栽培をやる事になるならば、原産地だけに、氣候風土が之に適して居るから非常な發展を見る事となるであらう。米國人は既にこゝに目をつけて既に地域を得て着々其實行に取かゝつて居るのである。ゴムの價格の暴落甚だしき事は棉花と同樣諸氏御承知の通りであるが、此地方のゴム採集業者の數は、其價格の高低に依つて非常に增減があるので、此の地帶の農業の不振はゴム採集の爲めであると云ふも過言ではないのである。即

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ちゴムの價格よき時は農作其他一切を打捨てゝ、猫も〳〵とゴム採取に向ひ、一朝ゴム不況の時は山から出て來ると云ふ狀態で、爲めに一定の農耕其他の事業を着實に安定して繼續すると云ふ事を得ないからである。けれども此の缺點はゴムを人工的に栽培する事となれば免かれ得ると思ふ。アマゾン護謨（又はパラーゴム）の品質が南洋ゴムに優つて居ろのは、其の凝結方法（即ち燻烟法）に起因すると云はれて居る。即ち南洋方面ではゴムを凝結するのに、醋酸等の化學藥品を使用するのに反して、當地方では古來、ウルクリー、イナジヤー、ムルムルー、パッシウーバ、等と稱する椰子の實を燻べて生ずる煙に依つて凝結せしめて居るのである。此場合に起こる化學的作用は、之等各種の椰子の實を燻べて出る煙の中に在る、アセチックアシッド、クレオソート、等がラテックスに作用して凝結するのである。此地方のゴム採集の實際は處女林中に野生して居るゴム樹を辿りて還狀をなした約二キロメートル前後の細き道を作るのである、之の道をエストラーダと云うて居るが一エストラーダに約百二三十本のゴム樹があつて、毎朝之のゴム樹に切り傷を入れて小さい茶腕を其下部にゴム汁受けとして付けて行つて二三時間の後、ゴム汁を集めて來るのである。此の邊のゴム樹は、六月始めに落葉し七月新芽を出し八月始めに花をつけ十二月結實するのである。其實は養豚の飼料としてよいと云ふて居る。一ヶ年中でゴム汁を最も多く出す時期は五月六月及び十月である。

(ロ)グッタペルシヤ、（バラタと稱す）之は矢張りゴムの一種とも見るべきもので、此の地方では一九一二年頃からの競爭で、比較的衰頽らしいのである。良絶縁體として海底電線、モートル製造等には殆んどなくてはならないものである。年々四五百噸を輸出して居るが、價格は常にゴムより稍々高位にある。

(ハ)カスタニア（アマゾン栗、又はパラー栗）其木は日本の栗に類し、高さ數十米突の大木となる。果實は直徑七、八寸に及ぶ一個の強靭な果殻の中に多數の栗を藏して居るが、日本の栗の樣にイガはない。此の地方一帶に野生して居るが特にブルス、トロカリー、ソリモンエス、マデイラ等は有名である。其採集方法は十二月より五月に至る間に熟して落ちたのを拾ひ集めるだけのことである。用途としては其儘テーブルに出たし、或は食油又は菓子製造の原料として盛んに歐米へ輸出せられて居る。其成分は脂肪六六、八〇%、プロチン一七%、水分五、三〇%であつて頗る滋養價値の高いものである。サプカイヤと云ふ種類は特に其味が美である。一九二四年度の輸出額は約五百四十萬圓である。

(ニ)木材　我本州に七、八倍する大面積を有するアマゾン州の九一、八五%が原始林のまゝ存在して居る處を以て見ても、如何に木材が豐富であるかといふ事は覗はれる事と思ふ。木材の種類は今迄知られたるものゝみにても二萬二千種の多きに達して居る。筆者は旅行前に於ては、此の熱帶圏内の樹木は、生育早き代りに其材質は概して軟弱であらうと考へて居つた處が、事實は全く之と反對で其大多數は極めて

硬質なものであつて、柴檀黒檀等と同質のもの、或は蛇のスネークウツドと稱するが如き實用材を始め、斧の刃も立たざるが如き堅質のものが多いのである。今其比重が水即ち一より重いものを二三擧げるとアンゼリンラヂヤード、イタウーバ、ムイラピニーマ、マサランヅーバ、パウサント等皆之れであつて、之等の木材を筏として出す場合にはパウバカブンダ（ウドの大木の意）と云ふ輕い木を、浮きの代りに組み合はせて流下せしめるのである。次に極めて一般的のものにして最も重要なものを一部分だけ書いて見よう。建築用材としては、アカプー、ロウロ、アンゼリン、セドロ、ジヤカランダータム、ロウロエスピリツトサント、パウローシヨ、マサランヅーバ、パウムラト、パウサント、ピキヤー、ペローバ等々、又家具用としてはムイラピニーマ（スネークウツド）、セードロ、パウサント、パウビオレツタ、パウローザ、ヂヤカランダータム、パウサン、等、又造船土木等の耐水用としてはピラニエイラ、イタウーバ、クマルー、ペローバ、マサランヅーバ等、最も著名なものである、無限の木材と、水運の便と、歐米市場が遠くないと云ふ點から考へれば、此の地帶が世界の木材供給地になるのも遠くあるまい。

（ホ）**纎維植物**　此の地方にある纎維植物は其種類非常に多く勿論其調査もまだ行屆いて居ないのであるが、最も普通に知られて居るものを擧げれば、クラウアー、ミリチー、エンビーラ、ピアツサーバ、アニンガ、マタマター、スマウーバ、ツクマン、シツポーアツスー、タウアリー、ツクム、等であつて、クラウアーはサツク製造原料に、ミリチーはハンモツク製作に、エンビーラ、アニンガは製糸原料として皆有用な植物ばかりである。殊にスマウーバは南洋に產するカポツカと云ふ木綿と同種類であつて澤山野生して居る處がある。が未だ利用せられて居ない面白い研究材料の一つである。

（ヘ）**藥用及香料植物**　之等のものに對して何等の智識を持つて居ない筆者は、旅行中路傍或は森林中にある植物について地方人から指示說明せられて、全く其種類の豐富なのに驚いたのである。伯國駐在大使館一等書記官野田良治氏は、其著「ブラヂル人國記」中に「ブラヂルの無數の植物中、藥用に供せられるものが果して幾千種あるかまだ充分なる調査は出來て居らぬけれ共、既に專門學者の研究を經て、其効用の知れて居る分のみについて云ふも、ブラヂル人は其の住家の周圍一里以内に、自然の一大藥局を有して居る。その藥局には都會に於ける最も完備せる藥舖にある以上に各種の藥品が備へてあると云ふも過言ではない云云」と云うて居る。然も此のアマゾン地方は其藥用植物の本場である。筆者がパラー州モヂユー河探檢中、僅か二三時間の間にモヂユー郡々長ジヨゼー、マルケース、ダ、シルバ氏に依りて示されたものだけでも隨分ある。即ち、藥用及擦油等にする植物中油ではアンヂローバ及コツパイーバ油（之れは樹幹に上下二ツの穴をあけると下の穴から流れ出るのである）藥用香料用のス、ヤの類ではカツピンマリニヤ、バチシヨリン、アプリピオカ、の三種、ハツカの類でセド

レイラ、アルバッセデイラ、同カルミリタナ、の三種、肉桂の種類でカルネレイラ、クラボの二種、其他トリッペ、蔓とり、咳の藥、頭髪洗料等多數に上るのである。香水原料、菓子調味料として歐米で多量に消費せられるバニラ（バウニーリヤと云ふ）の如きは森林中に野生として頻繁に見受けられる。之等は人工的に栽培すれば非常に有利なものと思はれるが誰もまだ試みた者はないのである。

（ト）**椰子の種類と其利用**　筆者は此の地方の旅行に依つて、實に多種多様の椰子を實驗して其種類の多いのに驚かざるを得なかつたのである。日本で椰子と云へば、多數の者は皆彼のコ、アナッツを意味するものと、早合點するであらうが決してそんなに簡單には行かないのである。今筆者が同地帶に於て見た椰子（パルム）の種類と其用途について、其主なるもの擧げると次の如くである。即ち其實を食料又は飲料に供するものは、ピヤッサーバ、アサイ、アサイデカチンガ、パカーバ、パッターワ、バカーバミリー、ムリチー、カラナイ、マラチヤー、ププーニヤ、ムクデヤー、ツクマン、イウー、イナジヤー、コケイロ、等を數へ得る。又其實を食油燈油石鹸の原料にするものには、バタウアー、カイアウエー、バカーバ、ツクマン、アサイ、マラチヤー、ババッスー、イナジヤーの諸種がある。次に纖維をロープ、ブラッシ等に利用するものにはピアッサーバ、クルワー、ムリチー、ツクム、カルナウーバ、ジヤワリー等がある。又英語のアイボリーナットと稱するヤリーナと云ふ椰子の果實はボタン又はステッキの装飾に賞用せられて居る。上記の中、カルナウベイラ、及ババッスーにしては特に一言する價値があると思ふ。即ちカルナウベイラは北ブラジル一般にあるがセアラー州が特に多い。フンボルト氏は此椰子を Tree of life. と呼んで居る。先づ第一に其葉からは植物性ワクス（比重〇、九九九溶解度八八度ピクリックアシッドを呈す）を取るのである。そして其根は皮膚病藥に、其葉は帽、籠等の製造に、其實は食料として美味、其材は家具其他の用材として耐水力も強く、若芽はパルミットと稱して筍の味を有し、樹汁は多量のタピオカ（澱粉）を含有して酒を造り、少しも利用し得ざる處なきものである。次にババッスー椰子の實から取つた油の分析は、英人ピアース氏の説に依れば、水分四、二一％、油六六、一二〇％、アルブーメン七、一八％、カーボナイド一四、四七％、ミネラルマター二、〇三％、ウッドファイバー五、九九％であつて、其用途は機械油として妙、石鹸原料、人造牛酪、植物性バター、蠟燭製造等として最も應用範圍廣く、然も其の搾り滓は養豚飼料として申分なく、外皮は燃料として火力が強いと云ふ重寶な椰子である。

（チ）**タンニン含有植物**　此地方の處女林中に、タンニン含有植物の多いのは一ツの特色とも見るべきものであつて、其最も著しきものを擧ぐれば、アカシアアンチュの四〇、％、プラニエンの三、〇％、ムリシーグアスーの一五、乃至二〇、％、ケブラッショベルメリヤの四、乃至一六、％、アカシアジュレマの八、乃至一五、％等である。歐洲

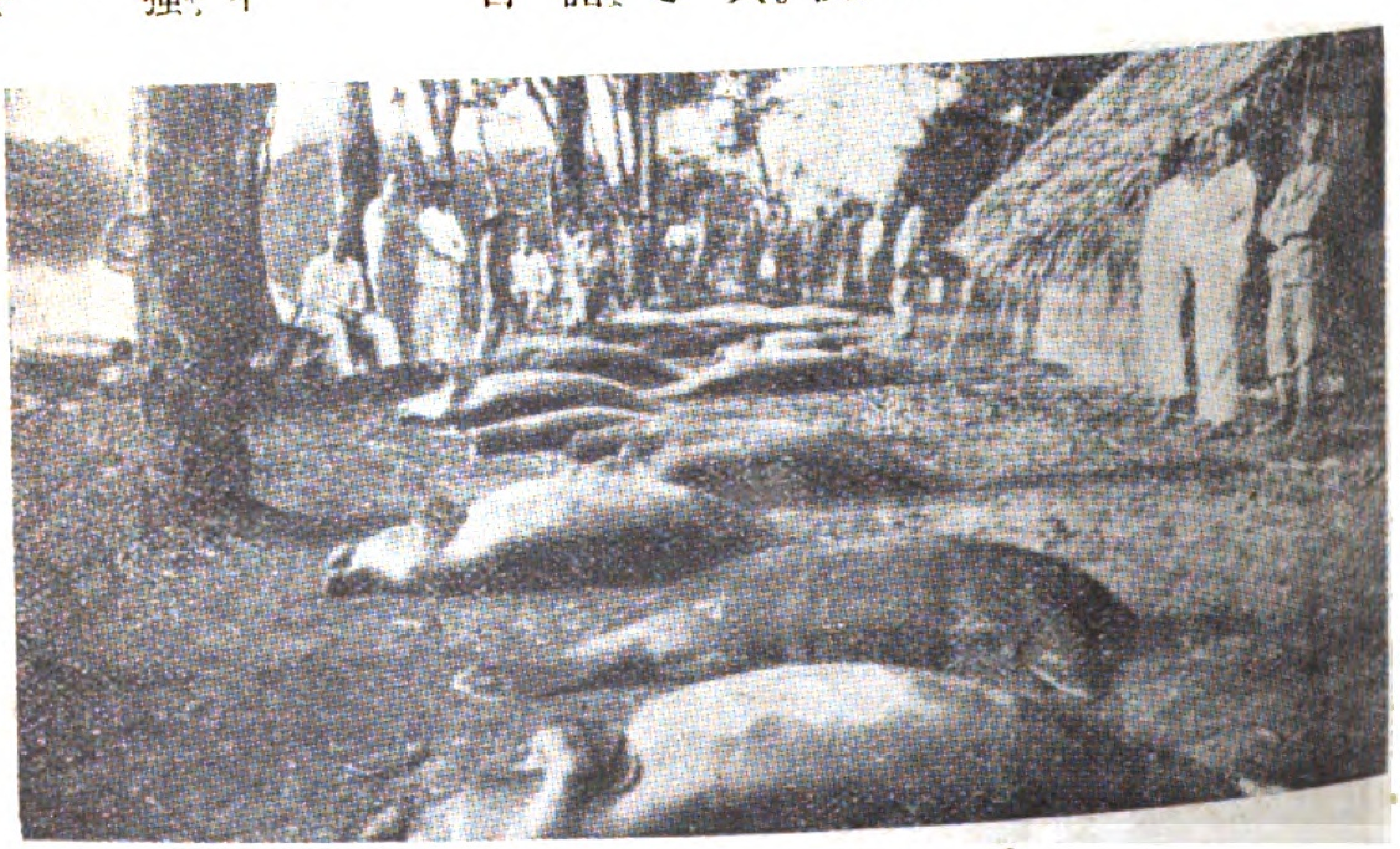
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に於て普通工業的に使用せられて居るタツニン含有植物は、其含有量通常八%を超へないのである。

(B)**農産**　土地到る處豐沃なる原始林であるから、農作としては米、煙草、棉花、砂糖キビ、カフエー、マンヂョーカ等何れもよく生育するけれども、勢力、資本、智力の缺乏の爲めに、未だ見るべき成績を擧げるまでに行かないのである。ゴム採集に依つて勢力を奪はれて農作がお留守になる事は前記の通りである、が最近爲政者も大いに覺醒して農作に意を用ひて居るから、漸を追ふて開發の緒につくものと見られて居る。其重な農産は、

(イ)**カカオ**　アマゾンはカカオ（チヨコレートの實）の原産地であるから之の栽培に適して居る事は言を待たない。然し其の現狀は栽培法加工法に何等の改良をなさず至つて、幼稚の域を脱し得ない。けれ共其品質の勝れて居る點では他の追隨を許さないのである。現在に於てはパリンチン、イタコアチアラ、バレリーニヤ、及ウルカラー等の諸郡を以て主要産地として居るのである。年々の輸出額は八十萬乃至百二十萬キログラムである。

(ロ)**グワラナー**　之はアマゾン州マウエス郡の獨占的特産物である。古くから此地方に野生としてあつたもので、マウエス種族のインディアンの間に、不老長壽の靈藥、萬病の藥として賞用せられた有名の強壯劑で一種の蔓になる果實を、煎つて粉末として固めたものである。近頃ブラジルの有名な都市でビール會社が之を原料として強壯飲料を造る様になつて盛んに文明人間に賞用せられ、年々其の需要を增して來て居る。製藥用としても其用途を廣大しつゝある有様である。グワラナーに關しては筆者は親しく同地に約一ヶ月も滯在して徹底的に調査したが、之の栽培は將來最も有望のものゝ一ツと思はれる。


ペシボーイ（牛魚）

右の外煙草、砂糖キビ、棉花等調査材料として取るべき實際的數字がないから之を略する事にして以下水産について述べよう。

(C)**漁業**　アマゾン地帯殆んど無數の大小河川湖沼に棲息して居る魚の種類は、全地中海に居る魚の種類の二倍餘、全太平洋に産する種類より多いと云はれてゐる程であつて、大小幾多のものがあるけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



チヤボチー龜

れ共、特に食用魚類として有名なものは

(イ)**ピラルクー**（ピラとはグワラニー語の魚、ウルクーとは赤い、と云ふ意）其形は鯉に似て大きいのは二十五六貫にも達するが、普通十五六貫前後である。地方人は乾燥期に於て銛で捕つて、丁度我國の鮭又は鱈の様に鹽漬とし乾かして輸出するのである。此の魚の舌は非常に固くてザラ〳〵して居るので、鑢の代用又は大根卸しの様に使用する。前記不老長壽の靈藥グワラナーを卸すのに此の舌を使つて居るのである。此の地方一ヶ年の總漁獲高は一千萬キログラム前後と云はれて居る。價格は一キログラム邦貨にして五十錢内外である。

(ロ)**ペシボーイ**（ペシは葡語の魚、ボーイは牛）即ち牛魚と云ふ意であつて、大さは百キログラムから三百キログラムに至るのであるが、其肉は生のまゝでも鹽漬としてもよい味であるが、之から多量の食油を抽出する事が出來る。此の油は豚脂の代りに廣く使はれて居る。其皮は乾かすと非常に強靱であるから、乘馬用の鞭等に使用して居るが工業的に纎維のシヤトルの受け皮等に使用したならば申分のないものが出來ると思ふ。

(ハ)**龜類**　タルタルーガと稱する龜は、其大さ甲の長さ二三尺のものであつて、其肉は此の地方でも珍味として重用せられて居る。地方の郡長其他有力者の招待に招かれると大抵此の御馳走を出されるが、其卵は又人造バタの製造に使用せられるのである。龜類では此外日本のスッポンに類するアペレーマと云ふ龜がある。又チヤボチーと稱する種類は山林中にばかり居る大さ七八寸のものであるが、食用としてなかなか美である。之は野生のカヂユウと云ふ果物を好んで食べるので、カヂウの實が熟して落ちる頃になると、澤山その木の下に集まるので土人は一時に多數を捕へて來て屋敷に土俵の樣な垣を作つて入れて置くので誠に面白い。

(D)**牧畜**　一年を通じて殆んど四季の變化がないので、牧草の全然枯死する時がなく、地價が非常に安く（殆んど只と云ふてもよからう）、水に不自由がないと云ふ樣な點から考へて、牧畜業も大いに將來がある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふ事が出来るが現今に於ては、牧草の撰擇、牧畜の改良、管理の不行届、等の爲め不振の状態を脱し得ないのである。一九二〇年の調査に依ると、リオブランコ地方の一七七、五二八頭をはじめ、パリンチン郡の一九三四九頭等總計二八五、八五四頭である、(牛、馬、騾驢、羊、山羊、豚の合計)。

(E) **商業及貿易** アマゾン州よりの輸出品目中ゴムは其最も重要なるものである。一九一〇年前後に於ては一キロの價格五圓を稱へられ、黒色の黄金とさへ云はれた時代もあつたが、現今では一圓四五拾錢と云ふ相場を保つて居るのであるが、最近の輸出年額は一千萬圓乃至一千五百萬圓内外である。ゴムに次ぐ主要輸出物は一千萬圓のカスタニア(アマゾン栗)、其他カカオ、グワラナー、サルサパリリヤ、乾魚、木材、獸皮等である。そして輸入品目中の主なものは、諸種加工品、食糧品等であつて、織物類、鐵類、既製薬品類、米砂糖、諸酒及飲料等であつて、其總量二萬數千噸に達して居るのである。

(F) **交通** 一般にアマゾン地帯は非常に交通不便の地と考へられて居るが、筆者は世界に恐らく此地帯程自然的に交通の便に惠まれて居る處はないと信ずるのである。即ち大小無數のアマゾン本支流によつて全州殆んど到る處に舟行の便がある。殊にアマゾン本流マナオス迄一千噸は、ブースライン、ロイドブラヂレイロ、ランポルトホルトと云ふ様な外洋汽船會社の七千噸級の巨船が或はリバープール又は紐育等から定期航路をなして居るのである、又アマゾン河汽船會社は主なる支流に定期航路をなして居る。

趣味のアマゾン

(A) **ポロロカ** 之はアマゾン河口附近の支流に起こる河ツナミであるが筆者不幸にして實見未だ他に聞いた事がない。滿潮の節廣い河幅が急に狹少となつた河に起こる現象で、從つて二月より四月に至る所謂大潮の期節、新月及滿月に相當する時期に出現するものであつて五呎乃至十呎位の高さの波となつて、速度一時間に四哩乃至十哩にも及ぶ事がある。此の期節に於て、地方土人が獨木舟で航行する場合は、彼等は常に極めて河岸に近く沿ふて行つて非常に之を危險視して居るが餘り他に見ない現象の様に思ふ。

(B) **珍魚類** を二三種紹介して見よう。先づプラケーと稱する電氣魚であらう。この鰻はアマゾン流域一般に棲息するが、テッフヱ郡のクパカーと云ふ湖水に産するものは、特に其形が大きいので有名である。大きさは八呎、重量五貫目に及ぶものがあるが普通は三四呎の大さである。英國のファラデー博士は之について種々研究した結果、之は純然たる電氣で少しく裝備をすれば熱をジヱネレートし、スパークを發し、又スチールをマグネタイズする事を得と云ふて居る。大なるものに至つては馬等を一撃の下に致死せしめるに充分なショックを與へるのである。ベレム市の博物場にも二三匹飼養して居るが、吾々が十人位手を繋び合うて其一端の者が此電氣鰻のからだに觸れるとそのショックは同時

に全部の者に傳はるのである。相當の調査準備をして行つたならば面白い實驗が出來ると思はれる。次に變つたものは、ピラーニヤと稱する日本の鯰に類する魚である。之はアマゾン本支流湖沼等殆んど到る處に澤山居る魚であつて、非常に鋭い、剃刀の様な歯を持つて居る食肉魚である。牛馬等がアマゾン河に陥落した場合には瞬く間に之れが白骨になつてしまふと云ふのは、此の魚が無數に集まつて來て、其肉を食べてしまふからである。又牧畜業者が多數の畜類を追うて渡河せしめる場合、先づ一二頭の病弱なものを河中に投じてピラーニヤの餌として與へ、其附近のピラーニヤが全部此の好餌に集まつたすきを見て一時に他の多數を安全に渡河せしめるのである。然し此の魚の肉は頗る美である、次にペシボーイと云ふ魚？が居る。ペシボーイとは邦語に譯すと牛の魚と云ふので、之の魚は其重量七八十貫に及ぶものがある。之は好んで河邊に叢生して居るス、キの如き草を食ふのが丁度牛が草を食ふ通りである。そして其歯の具合、舌の具合等もよく牛のそれに酷似して居るのである、我國の動物教科書にはまだ出て居ない様に思はれる。それからカンヂルーと稱する細い小さい魚が居るが、之は往々婦人が河中で行水等をする場合に被害を受ける事がある少々風規上の問題にふれるから詳細は御免蒙る事にする。

(C) 鰐　アマゾン本流筋には割合見受ける事が少いが支流に入ると可なり澤山居る（殊に減水期に多い）アリゲーターに關しては中學の英語讀本か何かで、之が猛烈に襲撃する處を讀んだ記憶があり、又色々の人から最も恐るべき獰猛なものである事を聞かされて居つたのでいよ〳〵鰐を見た時は、さすがにこわかつたが次第に分つて見ると至極おとなしいので寧ろアッケなかつた程であつた。獨木舟で數間の近くに行くと鰐は悠々と水の中にもぐつてしまふのである。地方人に聞くと十月十一月頃鰐が子を持つ時期が最も危險である様に云ふて居るが、それにしてもその被害は實際極めて稀で先づ北海道に於ける熊の被害よりは少いであろう。筆者の旅行中一人の土人の女が河で洗濯して居る時、鰐におそはれて一旦水の中へ引入れられた處、幸ひ片腕が切れた爲めに命は助かつたと其片腕の婦人が話して居つたが之れは確かな話である。

(D) 獸類の珍　とすべきものは獏がある、あちらでは之をアンタと呼んで居る。蹄が三つに分れて居るのと、鼻先が非常に長いのが特徴である。之は御承知の通り昔から夢を食べる怪獸と云はれて居つて、悪夢を食ふと云ふ意味から高貴の方々の塗り枕に大きく金文字で此の獏と云ふ字が書かれて居るのを見た事がある。大きいのは小牛位あるが、非常に皮が厚くて丈夫な爲めに鐵砲でも鉛の一ツ丸では丁度二錢銅貨の様に、ペチヤンコになつて一向役に立たない。然しスチールの丸だとさすが中まで通つて仕止める事が出來る、森林中で之を射止めて、其長い鼻へロープを通して三四人の土人に引張り出させる氣分は誠に痛快である、次に南米特有の動物でタツーと稱する珍獸が居る。之は兎位の大さで其背胴全體に丁度撃劍の胸當の様な甲を持つて居つて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頭部胴體四肢は悉く其鬣で蔽はる奇である、起居坐臥は悉をすり鬣と呼んで其肉は食用として可である。時々二本足で立ち上るのが面白い。タマンドーア、バンデイラと云ふのは蟻獏に屬する蟻喰ひと稱する獸で其尾はシュロの毛の如き長い荒い毛を持つて居る。何と云うても此の地方で最も徹底した愛嬌者はナマケモノである。葡語でプレギツサと云うて居るが日本語の懶者と全く同意味であつて、其動作の悠々迫らざる態度と、人を人とも思はぬげなつらがまへとは、他に比すべき何物もない。この地方ではこんなに悠長にかまへて居つても生きて行かれるのかと思ふと、何か或る暗示を與へられて居る樣に思はれるのである。又數十種の猿の中でポケットモンキー等は如何にも珍らしく思はれた。尚又二三種の螢の中で、頭部の光るのを見た時は、昔から螢は尻で光るものなりとしか考へて居なかつた筆者は異常な感激？に打たれた。

(E) **鳥類**　鳥類で一番目につくのはオームの種類である。葡語でパペガイオと云うて居るが專門家の話に依るとアマゾン地方のオームは世界中の他に産するものよりよく物を言ふ點で優れて居ると云はれて居る。最も小さいのはペリキツトと稱して日本の雀位の大さで色は深綠を呈して居る。飼養して置くと非常によく馴れて可愛らしいものである。最も普通のものは頭のテツペンが黄色いオームであつてよく人語をしやべる事は御承知の通りである。同じくオームの種類で、其形大きく尾も長く胸部から腹部は非常な鮮かな深紅で背部は綠青色をして居るアララと云ふ美しいのが居る。當地ではこれ等は一寸も見かけかないが隨分立派なオームである。次に嘴の非常に大きい然も赤黄黒等の嘴をして居るツカノと云ふ種類が居る。日本で何と稱んで居るか筆者は知らない。鳴き聲のよいので有名なサビヤーと云ふ種類が二三種ある。あちらの詩人小說家等によく歌はれて居るものである。又アマゾン河を航行する時其河岸の泥になつた個所に多數の直徑二三寸の穴が澤山あるのを見受けるが之は皆川蟬の種類に屬する小鳥の巢である。ガルサレアールと云ふ白鷺は歐米婦人の帽子の裝飾にする美くしい羽を持つて居るものである。此の外海鳥の類、鷗等は屢々見受ける鳥である。ワシ、タカの樣なものも勿論居る。

(F) **觀賞用の植物**　としては先づ蘭であらう。其種類は何百種か分らぬと云ふ事であるが、下流地方には割合少ないやうであるが、大きな木の上の方に大きな非常にきれいな花をつけて居るのを度々見た。專門家が行つたならば垂涎萬丈と云ふ處であらう。然し地方人は蘭の花は餘り綠起のよい花でないと云うて顧みない。睡蓮の一種で湖上の女王（ライニヤ、ドス、ラーゴス或はビクトリヤ、レヂア）と云ふのがあるが之は其大さ葉の直徑一間にも及び花は白色で大さ一尺位ある見事な睡蓮である。且て英國の女皇ビクトリヤに獻上した事があるので之が學名となつて居る。その種子は土人が食用にして居る。

(G) **三年前に植ゑた稻**　筆者が一寸稻らしいと思うたのは、ベレム市から程遠からぬアマゾン河沿の、或河に際しては少し水が乘るといふ樣

た地形の處に、僅かばかりの稲が植ゑてあつた。出來工合等を見に置く必要があつたので上陸して其耕主（地方土人）に色々と尋ねて見た處此の稲はその時立派な穂をつけて居つたのであるが、之が三年前に植ゑた稲で毎年肥料なしで只收穫するばかりだと說明を聞いて少からず興味を喫つたのである、同道して居つた西澤農學士も大いに感心して居つたが、植付後三年目の稲がまだ立派にみのると云ふ事はまだ見た事がなかつたのである、水の工合等も勿論よいのであらうが此の地帶が如何にも米作等に適して居ると云ふ事を雄辯に物語るものであらう。

(H)彼等が主食とするマンヂヨーカ と云ふ事について一言しませう。此の植物の幹及葉等は丁度日本の麻に類する多年生のもので、高さは普通一米突から二米突位のものである。植付は其幹を五寸内外に切つて土中に埋めて置けばすぐ芽を出して、六ケ月目頃から其下部に出來た薩摩芋に類する球根を掘つて食べられる程度になる、が植付後一ケ年乃至二ケ年位のものが食べ頃であらう。約二十五％の澱粉を含んで居つて之は殆んど如何なる土質でも出來る最も有用な植物である、南米人が怠惰の風があるのは、かうした耕作が簡易で澤山取れるマンヂヨーカに惠まれて居る爲めであるとさへ云はれて居る。之には有毒種（マンヂヨウカ、ブラバ）と無毒種（マンヂヨーカ、ドーセ）の二種に大別する事が出來るが有毒種の方も、三四晝夜水に浸して發酵させて後煎り上げて立派な主食物に用ひられて居る。無毒種の方は其使用法等は全く日本の薩摩芋と同じである。

(I)煙草の巻紙代用品 前記の通り此の地帶は其地質氣溫共に煙草の栽培に適して良質のものが出來る。此地方では出來た煙草を適度に影乾して後、長さ三尺、太さ中央で二吋位の棒狀として、グワシマー、或はシポーチチカ等と稱する蔓を以て卷き固めるのであるが、之を使用する場合はナイフで薄く削り取つて、之を玉蜀黍の皮、或はタワリーと稱する樹の皮を紙の代用として卷いて吹ふのである。此の木の皮には二三種類あるが何れも非常にきれいな木の皮で紙の樣に極めて薄くへぐ事が出來るのである。

(J)インデイアン アマゾン州内に居るインデイアンの種類は今迄知られて居るもの丶みで百四十二種類に上つて各々異る言語を使用し各々分離した部落に居住しては居るもの丶大體に於て其の體格容貌等より見てよく似通つて居るのである。此のインデイアンが吾々大和民族に非常によく似て居る事は人類學者の好研究題目であつて、今迄の學者の說に依ると往古ベーリング海峽が陸地續きであつた頃モンゴリアン人種が米大陸に渡つてパナマ地峽を通過して南進して來たものであらうと云ふ事になつて居るが、日本の學者が語學の上から研究したならば意外に大きな收穫がありはしないかと思はれる點がある樣である。日本人が彼等に似て居るのか、又彼等が日本人に似て居るのか何れにしても何等かの關係はある樣に思はれる。筆者はインデイアンとさへ云へば直ちに彼の臺灣の生蕃の如き獰惡なものと思ふて居つた

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



釣床に添乳せるインディアン婦人

が、實際は彼等は非常に柔順である。特に吾々に對しては白人に對するよりより以上親切なものゝ如く見受けられたのである。百四十餘種族のインディアンの中只一種族のみが食人種である。即ちプルス河の上流七百六十哩にあるシパチニー河の沿岸に居住して居るイプリナンから來て居る族と云ふのがそれであるが彼等が人肉を食べるのは彼等の道徳的迷信の様である。彼等の知人友人が死んだ場合に皆寄り集まつて其死人の新らしい肉を食ふのであるが彼等は斯くする事に依つて故人が生前有して居つた武力智徳等を分けて貰ふ事が出來ると云ふ樣に考へて居るのである。其の子女は二才乃至四才位の間に於て必ず一旦村の醫師？の手に委ねられ此の醫師から苛酷な鞭の打擲を受けて之の苛責に堪へ得たものが始めて一人前のインディアンになつて耳鼻等に裝飾用の穴を開けられ美麗な鳥の羽子等で裝身するのである。之は丁度小供時代に聞かされた獅子が其仔を谷へ落して試練する話と同じ意味であらう。既婚男女に不義ある時は、酋長が直ちに鎗を以て成敗するのである。彼等の生活は極めて簡單であつて、主食としてはマンヂヨーカと稱する芋の粉を用ひ、魚類獸類等に依て生活して行くのである。丸太の柱にイナジヤーと稱する椰子の葉で屋根を葺き、寢具としてはミリチーと稱する椰子の葉で編んだハンモックあるのみで勿論何等の衣服はない。只ダンスを踊る時タンガと稱する小さい前掛樣のものをまとふのみで、晴れの衣裝を着ける代りにウルクー等と稱する木の實で赤黑等の模樣を丁度入れ墨の樣にからだに畫くのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

K 人類は鹽なくして生活し得るや

アマゾンの奥ツと奥地に居る彼等インヂイアンが全く鹽氣なしに生活して居ると云ふ事實は最も興味ある問題の一ツと思ふ。彼等は鹽の代りにジャラー、アッスーと稱する椰子の實を燒いて粉とし之を調味料として居るのである。之に關して一英人は次の如く書いて居るから摘錄して讀者方の參考としよう。

レオポルデイニヤ・マイオール、ジャラー、アスー）高さ二十五呎。インヂイアンは上記の椰子の實を多量に集め、之を燒きて粉末となし、彼等が鹽を得ること能はざる場合に、鹽の代用として之を用ゐるのである。併し、その實際の味は鹹きより寧ろ辛き味を有するを以て、この粉末が果して眞の鹽を含有するや否やは疑問である。しかも、彼等インヂイアンは、この粉末のみを以て、魚類、獸類を調理し、完全なる健康を保持してゐるのである。それ故に、恐らくかの鹽なるものは、吾々文明人が考へて居る如く、人類の生活に絕對必要のものではないのかも知れない。

同地方旅行の狀態は

本流及支流の重要たるものを除いては、獨木舟に依る外はないが、眞のアマゾン情緖は、大きな汽船の通らない支流奥地へ獨木舟を入れて始めて味ふ事が出來る。ハンモック、蚊帳、ピストル、鐵砲、食料としては芋の粉及豚の油脂等を準備し、未だ人跡到らざる千古の原始林に野宿し、鰐、トカゲ、亀等の珍味に舌鼓を打つ時、一種の神秘的な感に打たれ始めて眞の探檢家たる者の云ふに云はれぬ痛快さと愉快さを感ずるのである。

此の旅行は筆者としては決して道樂や遊山氣分で行つた譯ではない。行く方面共全く行詰まりつゝある我同胞の爲めに、微力乍ら盡し度いと云ふ考から行つたのである。特に自分としてはこゝに我々の發展地として充分の可能性ある事を確認し、先づ隗より始めよと云ふ信條の下に自ら第一線に立つべく其準備中で來春早々出發の筈になつて居る。

アマゾン州官民の日本人大歡迎

現アマゾン州統領エフイゼニオ、デ、サーレス博士は州議會の致辭（施政方針）に「我州の開拓は日本人の入植に依つて始めて成し得らるべきものである」旨を公示し、又且て我駐伯大使たりし田付七太氏に對して「若し日本人側の希望を知る事を得ば、之れに適合する樣に特に法律を作製しても、日本人の入植を圖り度い」と言明して居らるるのである。又同州マナオス市駐在日本名譽領事、コロネルレオポルド・デ・マット氏はアマゾン州政界に於ても大なる潜勢力を有する人であるが、此の地方への日本人入植に對し陰に陽に其ベストを盡し其實行の速きにおだんだ踏んで居る有樣である。こんなに眞劍に日本人を迎へて居る所は世界廣しと雖も決して他にはないのである。

筆者は此の機會に於て讀者、實業家、否全國民に向つて、特に此の地帶に着眼せられて直ちに眞面目なる實際的研究と調査と、進んで其實行に着手せられる日の一日も早からん事を希望して止まざる者である。そして百の議論も一の實行にしかずと云ふ事を申上げて此稿を結ぶ事とします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ツンドラの國

吉澤正三

帝國の最北占守島の國端岬と六浬を隔てて相對する所に　世界三大漁場の一たるベーリング海とオーツク海との限り無き波濤に包まれ乍ら新しき人類の使命を待ちつつ靜に横たはつて居るカムチヤツカ半島がある。

○

其面積百十四萬三千四百十平方露里にして、吾が本邦より千島に連なる火山脈の本系たるカムチヤツカ中央山脈と、北緯五十四度附近より更に別れ　ベーリング海に沿ひカムチヤツカ川に至る東部山脈とにより形成されて居る。何れも四時白雪を戴き乍ら常に炎炎たる噴煙を吐く高峯連立してゐる。後者の山脈は前者の山脈より一層高く、吾が富士山より四千尺も高いクリ、チエフスカヤ火山（一六、一三一呎を始とし一萬呎を超ゆるクロノツカカヤ火山、シウエリチ火山、等聳え、海に瀕する所海岸砥の如く、岬崎よく突出して人に知られざる天然の良港を造つてゐる。風浪なくして湖水に似、錨にかかりて瀧の音を聞く。前者のカムチヤツカ中央山脈はオーツク海に沿ひ半島を蜿蜒し、一四の活火山と二四の死火山を藏する。之等の谷間に湧き出づる溫泉も亦其數を數へる事が出來ぬ。然して此の山脈には一萬呎以上もあるハオセン山などあるとは言へ東部山脈に比すべき高峯は少い。兩岸とも北行するに從ひ次第に段々となりて低く、緩斜面の濕地平原を以て海に臨むのである。川は其西岸オーツク海面にそゝぐ物多く、兩岸とも北緯六〇度以北に至つて川らしき川を見ずして一帶のツンドラを以て掩はれてゐる。此の地方に至れば都人士らが九十度を越す炎熱に惱まさるる眞夏でさへ四〇度内外を示すのみである。然して此半島の最南端たるロパツカ岬などは北緯五一度にして其東岸には都合に暖い所もあるのである。今カムチヤツカに於ける氣候を大別するならば概略三つの重なる氣候區域に分割する事が出來る。即ち海洋氣象を有する東部沿岸帶は暖流流るる太平洋より吹き來る風に著しく其氣温を緩和されるが、ベーリング海の寒冷なる空氣に會ふため濕氣非

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

常に多く降雨降雪をよく齎らすのである。

又中部帶は溫暖の差、日を通じ年を通じて甚だしく所謂大陸的氣候を有する。又第三の西部帶、即ちオーツク海方面の氣候は海洋氣候を示すとは言へ、非常に寒冷で空氣乾燥し、北部に於ては冬季攝氏零下五〇度にさへ達する事があると言ふ。夏季と雖も地下三、四尺は凍結し、風向及び氣溫の變化甚だしく冬季以外に於ては過ぎし年軍艦新高がオゼルナヤで遭難したる如き猛烈なる暴風さへ襲ふ事がある。然してカムチヤツカに於ける氣候を四季に分けるならば六月は春、七月八月は夏、九月は秋で十月から翌年五月迄は冬である。ザラ〱した根雪の上や咲き後れた美しい高山植物の花の上にチラ〱初雪の訪れるのは八月の末頃からである。 氣溫は次第に下り南方東岸アワチア灣に面せるカムチヤツカの首都ペテロパウロスクでさへ十一月の平均氣溫は攝氏の零下二度位となり、海も氷れば大地も凍る。寒氣は益々强く十二月には又平均零下七度を示し、夜は愈長く晝はわづかに三四時間となり一月には平均零下一一度に降下し時には零下二〇度位に達する事がある、況や其以北に於てをや。

斯くして野も、山も、海も、川も總てが硬い氷雪原と化し、最好なる交通季を實現するのである。

○

即ち冬季カムチヤツカに於ける唯一の交通機關であり、又北方土人が部落から部落へと通ずる交通の使命を握つて居る犬橇の活躍は十一



オリユートル附近の山（カムチヤツカ東岸北方）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

地方から地方へ僅にには其性格あり、又其飼養者たる土人の生活状態に依つて選ぶ、一つの橇を曳くには普通五六頭から十二、三頭位の犬を使用する。彼は馭者の命する儘に従へ右へ、先頭犬に協力一致し、巧に路を撰び乍ら前進する。そして悧巧な犬になるとわざわざ路を外して攻撃し其上へ後足で雪をかけ、橇の滑走力を少しでも減じない様に懸念すると言ふ。然して最も大切なるは先頭犬にして如何なる吹雪に襲はれようとも、最も怜悧にして決して示されたる方向を誤る事なく、又最も強健にして最も勇敢なる事を必要とする。従つて此先頭犬は價も高く、普通三百圓内外にて賣買されて居る。犬は各家毎に飼育され、其數各箇によりて異るが、一〇匹より三〇匹位づつ有し、夏は海岸に鎖で括つて置き生鮭を與へ、冬は干鮭を之が餌として與へる。犬橇の最も活躍するは一月より三月に至る雪の硬まる時期であつて、此季節には大なる吹雪もなく、大旅行には最も適し、一日よく三〇里も走ると言ふ、そして夏の間は餘り姿を見せない土人の女と言はず子供と言はず鈴音高く部落から部落へと愉快な訪問旅行をするのである。一寸考へると不思議の様ではあるが要するに一年間の生活資料を得るため、雪融の、短い間は山に獵し海に漁を努めなければならぬ上、夏は道無き山や川、沼澤などを通過せねばならぬ困難があり、自然と交通は杜絶えざるを得ないのである。

之に反して斯の如き道の心配を要せない冬は、漁は勿論出來なく、加ふるに運動不足は恐るべき死に導く事さへあるから凡ての人が戸外の上の習慣を必要とするのである。

○

三月から四月に入れば氣は次第に緩く、氣溫漸く上昇し、ペトロパウロフスクに於ては其平均氣溫零下一度位となり、最初の暖かさを齎らするは五月中頃からであつて、降雪も少く、輝ける光に硬い氷雪が日毎海から丘へ、南より北へと融け初めるのである。熊や狐、野鼠など永い冬眠から醒め、雪の下、岩穴からノソリノソリ餌食に出るのも之からである。ベーリング海からは流氷類に北太平洋へ押出し、北の國にもやがて間もなく朗かな春が訪れる。

先づかうした嬉ばしい報知を第一に持つて來てくれるのは南よりの群り來る渡り鳥である。四月下旬から五月にかけて次から次へと翔を緊して飛んで來る漂鳥の魁をなす優雅な白鳥こそ春の天使と言はなければならない。つゞいて大きな圓を畫きつゝ悠々大空を舞つて來る大鷲、次いで竿になり鍵になつて羽音高く一連二連と月夜の空を掠め乍ら鳴いて來る雁、何時も夫婦睦じい鴨や鶫の各種、歌人に其情を詠はれ、或はゆかしい都鳥と名付けられて居乍常に不秩序な街をなす貪慾な鷗など、追ひつ追はれつ雪融の沼澤や入江を目がけて飛んで來る。凍つた長い夜の冬が、永ければ永かつただけに世人の想像する事が出來ない程の朗かな黎明が訪れる。

陽足も漸々長くなり半島の北部では十一時頃漸く陽は沒する。此地方に於ける月は又何んとも言へない。ボーとした海霧の地平線を出づ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



グルボカヤ（カムチヤツカ東岸北方）に於ける馴鹿

る時は上下に長い楕圓となり、又上が萎んで下が大きく、下が萎んで上が大きくなるかと思へば、いつしか長い楕圓の上部のくびれたものの樣にもなり、時としては上と下は平かで中がくびれて鼓の樣にも見える。そして此頃流氷盛んに流るるベーリング海に船を進め、薄い霧の中で月夜を迎へ、月を背にしてデッキに立てば、直ぐ近くにボンヤリ乍らも大きな圓弧の微かな虹をみとめる事が出來る。あれと言ひ之と言ひ、かうした愉快なめづらしい現象は靜乍らも雜多な氣流に惠まれたる北の國、北の海の夜でなければ見られないのである。然し乍ら夏の夜は甚だ短い、午前二時にはもう太陽が昇る。

かくして溢るるばかり暖い光に惠まれつつカムチヤツカ半島は七月を迎へる。

南部にある山々の白楊、赤楊、榛などは目醒むるばかりの綠葉を擴げ、雪融の丘は綠に包まれ花が咲き、黃白紫とりどりの美しい高山植物のお花畑と化す。燕も飛べば雲雀も囀る。

今余が南部西岸に於て採取せし植物の一端を示すと、「クロユリ」「チングルマ」「ヤマガラシ」「ハクサンイチゲ」「ゴゼンタチバナ」「ミヤマハタザヲ」「リンネ草」「キヂムシロ」「ツマトリ草」「マイダル草」「フデリンドウ」「ツガザクラ」「オヤマノエンドウ」「エンコウ草」「白山フウロウ」「千島桔梗」「シナノキンバイ」「トリカマド」「深山シホガマ」「深山ヲトコヨモギ」「タカネツメ草」「エゾホソヰ」「コケモモ」「マンネンスギ」等で、此外「菊科」「十字科」薔薇科毛莨科等の植物數多を見、シヤクナ

ゲ及び蘭の花盛にして、郊外の路に、暖いペテロパウロスクに於ては前記の如き高山植物様のものを見ず、其郊外の路にはアヤメ咲き、丘はクローバ及赤いハマナス（薔薇科）の花盛りにして其間を放牧された牝牛が平和な暖い光を浴び（昭和二年七月十七日吾が寒暖計は正午に六〇度を示す。其前日は小雨にして五〇度なりき）首の鈴もゆかしく雑草を喰ひつゝあるを見た。

○

カムチヤツカ土人の大切な食用果實及草根として次の如きものがある。岩高蘭、大覆盆子（ゴルビツア）越橘子（チヨールニカ）赤覆盆子（ブルースニカ）褐菓胡（チエレームーハ）モロシカ（黄色ないちご）等である。そして兩岸共に北緯六十度以上になれば樹木は勿論無く、地球の骨を想はしめる様な岩山と之を覆ふ雪と其裾に掛かるツンドラとを見出すのである。

ツンドラは丁度絨布團の様に柔かく、其表面には生毛の様な軟かい緑の草が一面に敷き詰められ、多くの小さい花を持ち、其美しさは如何なる名匠の織なせし絨氈なども及ぶべきものではない。

ツンドラも場所によつては種々になつて居て、海岸近くは五寸位であるが、奥地へ入るにつれ其厚さを増し、所によつては長靴さへ没する様になり、時としては五尺から一丈位の深さ（厚さ）のある所も珍らしくないのである。

勿論かかる所は人間の跋渉を許さないのであるが、世の中はうまく出來て居て、此ツンドラの内部には數知れぬ多くの鼠が住み、其中を縦横に走り廻はる彼等のトンネルがついて居るのである。

又此地方に於ける野獸の代表的なるものは馴鹿である。

勿論飼育放牧されて居るものは多いが、又群をなして野生もして居るのである。彼等は二三月の厳寒の候には自分達の仲間の一匹を犠牲にし乍ら、凍た山陰に冬を送る。此動物も、四五月と暖い光が輝き始める頃は北方へと移住を始める。そして盛夏の七月には南方の様に蚊や蛇の居ないツンドラの軟かな褥の上でお産をするのである。彼等は其所では何の迫害も受ける事なくツンドラを喰ひ樂しく成育し、やがて身を切る様な寒風が訪づれる頃大擧して南方へ移動し始める。然し其所には恐るべき運命が待つて居る事を彼等にはわかるまい。何故なら氷雪の中で凍る冬を凌がなければならぬ土人に取つては、哀れ此動物の肉も必要であれば、又骨も皮も必要だからである。土人は此野生の馴鹿を獲るには、豫め其通過すべき川に到つて待伏をなし、彼等が大擧して渡河する時、河中に於て射殺し捕獲をなすのである。普通春に於ては牡のみを選ぶも、秋の南下するものに於ては牝牡手當り次第に殺すを常として居る。

然して土人は自分達が飼育して居る馴鹿を非常に可愛がり、口笛一つで自由に次から次へと廣いツンドラの野をゆるやかに追つて居る。然し自分達の食用にする爲には申すまでも無く次の方法をとるのである。即ち手がゝりとして先づ、首に輪にしてかけてある[illegible]の長い綱

を、目がけた馴鹿の首や角に引かける。其所には生さんが爲の戰が起る。時としてはツンドラの上を土人が曳廻される事もある。此の手綱の端は常に其腕にしつかり括られてあるから決して離れる事はない。そして終ひに大きなメスで心臟部を一刺にされ哀にも一聲も無く往生して了ふ。かくして直ちに腹より裂いて皮を剝ぎ、內臟を取り出し、胴腔に溜る多量の血を皮の袋へ汲み取る（之は土人が製革用に供するもので彼等の着物の內側は毛であるが外側は血染めの赤黑いものである）それより二本の角を付けたまゝ頭骨の一部を切り取つて後、稍離れた小高い所へ運び其皮の上に內容物を揚げ、其上に角を眞すぐに立ててお祈する。斯くして一通りの供養を終れば始めて血の滴る生肉を其儘喰ふのである。そして其、腦、骨髓軟骨は大好物である。

一方では渡鳥の多くは既に立派な巢を造り上げて沼澤に潜伏するが、鷗は益々多く、愈々海に騷ぎ始めるのである。そして明い光りは次第に水を増し、川と言ふ川へは幾千萬の鮭鱒が　今こそとばかり水も通さぬ勢で堰とは言はず瀧とは言はず跳越え飛び越え上流目がけて押寄せて來る、トヤカリ（海豹）の群は子供を連れ乍ら之等の河口へ彼等の餌たる鮭を取りに來る。斯くして海は一帶に鮭、鱒、鱈、蟹の盛漁期となる。

○

沖（公海）には流氷の間を縫つて來た多くの大きな吾が蟹工船は今や其大活動の盛期にあり　一隻三百人の乘組にて、一日に蟹刺網約五百反を揚げ、約一萬五千匹の大鱈場蟹を漁獲し、約二百函價格八千六百圓位の罐詰を製造しつゝあつて、一隻一漁期に約百二十萬圓內外の漁獲をなして居るのである。そして昭和二年度に於ける蟹工船總漁獲高は三十九萬五千函約一千七百萬圓にして、大正十五年英國其他歐米各國へ輸出せし蟹罐詰は一千二百五十一萬七千圓に達して居るのである。

一方丘に建並んだ鮭鱒罐詰製造各工場も今や晝夜兼行の勢で沖の蟹工船と相呼應し、濛々たる黑煙を中天高く吐いて居る。そして沿岸二露里（吾が約半里）おきに建てられた（西部）各漁場に於ては其盛漁期に一日角網一統にて一〇萬尾位捕れる事は珍らしくないのである。そして現今邦人が露國より租借せる漁區總數二百三十四ケ所にして、漁場料年に百二十五萬圓づゝ納めて居て、此處に働く出稼ぎ邦人漁夫約三萬にして一ケ年漁獲鮭鱒總量六十萬石也。其內二十萬石位鑵詰に製造してゐる。

鮭は八千尾を以て百石となし、鱒は一萬六千尾を以て百石となし、兩者の比は八對二なる故、鮭五千萬尾以上鱒二千五百萬尾以上に及び、此金額四千萬圓に上れり。そして英國を筆頭として歐洲各國へ輸出さるゝ鮭鱒罐詰は一千萬圓以上に達して居るのである。

此他鮪鰈相ふくみ南の風に送られて、總帆白く膨し乍らオーツク海へ勇敢に飛來する鮪釣帆船は沿岸遠く南北に流しつゝ、之又巨大なる漁獲を上げつゝある事は言ふまでも無い。然して之が處理によつて捨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐる鱈の内臓等を漁りに來る鷗の多い事は又非常なものであつて、鷗釣の愉快さは此海と此船で無くては味ひ得ないもの丶一つである。鷗釣の方法と言つても甚だ簡單で、唯小さい魚釣針に鱈の肝臓を餌として着け、之を麻の強い絲に括つて海へ投げ出せばそれで良い。鱈の肝臓は勿論海面に浮く、之を見つけた多くの鷗は吾を爭つて集り啄むから何の技術も要らぬ。可愛さうに口に釣を懸られた鷗は唯羽をバタバタさせ乍ら聲も無く釣上げられて了ふ。又此盛漁期に於ては膃肭獸の繁殖時期である。

○

カムチヤツカの東岸ベーリング海のアリユーシヤン列島の先端に當る所に、コンマンドルスキー群島がある。之こそ米國プリブイロフ群島と日本海豹島と共に世界三大膃肭獸繁殖場の一つである、六月から七月の始にかけてガス（霧）に立て込められた海岸の繁殖に適當なる所を求めて、先づ第一に匍ひ上るのは成熟した雄である、其海中に居る時は甚だ活潑な擧動をなし、敵に襲れた場合など約十二三浬の速さを出して游泳するが、陸上に於ては非常に鈍い大きな肥滿した圖體を緩にヨチヨチ匍行するのみである。故に其繁殖場として適する所は海岸に近く、岩盤又は岩塊、圓石等を布ける海濱にして、傾斜を有し、潮沫を浴る事なく、常に乾燥したる所を良とする。一度此好位置を占めたる牡は他の牡と戰を挑まれ一敗地に塗れて追放されざる限りは決して移動する事無く、又他出して食物を漁らず、悠然此所に起伏し



コンマンドルスキー島に於ける青狐

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雌の到來を待つのである。其うちに五六才以下の未熟なる牡や、成熟せる三才以上の牝などが續々集り來つて、繁殖場前面を群游し便宜なる海岸を選んで上陸する。彼等は極端なる一夫多妻にして雄は多數の雌を自己の領地内に誘ひ入れ、多くは二十匹位を有して一團を造る。之をハーレム(牧)と言ふ。成熟した雌は四尺内外にして非常に柔順で、上陸後七、八時間にして一兒を分娩し四、五日後に交接する。

そして姙娠後ハーレムを去り海中に飛込み索餌をなし、日に三、四回上陸し、多くの稚兒の間に居る吾が仔を見付け暖い乳を興へる、此時若し別の仔などが來ても見向きもしなく、母を失つた仔は終に死んでしまふ。斯くして生後一ヶ月頃から始めて海に入り游泳を習ふのである。又此繁殖季を過ぎた雄も美麗の毛に生ひ變り遠洋に其餌を求めつゝ段々南下し、やがて雌もそも其後を追ひ、正月二月頃には其姿を銚子沖邊に迄現はす樣になる。壽命は共に十二、三才を普通とするが時としては二十一、二才に達するものさへある。然して今より百年前頃は年に八十萬頭も獵獲せられたと傳へらるゝが、濫獲の結果終に其後を絶たんとするに至つたので、一九一一年ワシントンに於て日米英露四ヶ國の代表者相集り膃肭獸及臘虎（之は同島に居ない）の保護に關する條約を締結し、其第一條に「北緯三十度以北の北太平洋に於て膃肭獸海上獵獲を禁止する事」と定められのである。此條約有効期は昨年にて終つたが、目下此條約の改正継續等協議中にして、今尚各國とも此種條約を守りつゝあるのである。かくして現在同島に來集する膃肭獸の數は約二萬頭位にして、年々に八百頭程指定獵獲されて居る。

又同島には青狐も非常に多く日中到る所に悠々人に恐れず索餌し遊歩しつゝあるを見る。之も往年は一年に數萬匹を獵獲したが濫獲を恐れ、ロシア政府では之を保護し之も亦年に八百匹づつ指定獵獲をする。そして現在約三萬五千匹位棲息して居ると言ふ。

同群島には土人約四百五六十名居住し、ロシア人の影響を受けて其文化の程度は遊牧の民より少しく進んで居るとは言へ、衛生狀態は非常に惡く年々人口が減じつゝある。然して此島には樹木も無く石炭も無いのであるから、彼等は夏の間は皮の船に乗つて遠くの島まで流木を拾ひに行くのである。往年ロシヤ官憲が、白樺や松及び馬鈴薯野菜等植ゑて見たが育たず。唯植物としては「クロユリ」「櫻草科」「蘭科」ヒカゲノツツジ等あるのみである。

○

やがて夜を日に継ぎ活動して居た蟹工船や鮭鱒船も八月の終りが近づけば各々滿船して歸國の途につき、各工場は引上の準備をなし、次で**九月**の降雪前には全部引上て了ふ。其頃には熊や狐は冬眠すべく岩穴に歸り、渡鳥の多くは暖かき南を指して飛び去る十月が來る。

斯くしてカムチヤツカ半島に冬が北より南へと押寄せて來るのである。

カムチヤツカに於ける人口は四萬一千四百人（一九一五年一月一日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現在、カムチヤツカ州廳調査にして混血兒最も多く約一萬人、ツングース約八千七百名、チユクチ人約七千四百五十名、コリヤーク三千七百三十名、純露人約二千九百名、ヤークツ五百名、然して所謂遊牧の民を代表したる生活をして居るのはチユクチ人とコリヤーク人である。

前者は皮膚銅色顏色黄白色にして、眼圓く大きく、鬚髯少く、頬高く鼻大にして高く、體の發育概して良く、腕力あり、米人との混血と言はれ東岸北部のツンドラ帶に南へ北へ馴鹿を追ひ遷住して居る。

コリヤーク人も前者と同じ様に狩獵や漁業をなしつゝ遷住する原始の民にして、ナパリオン崎北方沿岸の丘陵には點々として建てられた彼等の部落を見出す事が出來る。即ち彼等の家は圓く、毛皮で包まれた小屋である。其骨子として組立てられた細い木は夏季海岸に打上げられた流木にして一方に小さなドーアを設けて入口とする。此小屋は大抵九十疊位であつて、其周りの地に着いて居る所へは土をかけ暖を外にもらさない様にする。

彼等は夏の間に海獸や野獸の皮をどつさり造り其中に備へ寢具及着物とする。

彼等の食物は第一に魚類（生魚及び凍魚）にして之に次で馴鹿、希に野禽も食する。彼等は又冬の爲にユーコラと稱する干魚を造るのである。そして中流の家庭は一年の三分の一は鹿を喰ひ、其他三分の二は魚肉を常食として居る。一般に春と秋は鹿を喰ふ。

冬彼等の副食物となるものは馴鹿の腦及び夏蓄へた草の實と鼠の穴より得ると言ふ或る植物の根「ベリヒー」等と稱するもの等である。彼等は又食器を有せず、肉を載せる物が無いから、脂の付いた長い大きな肉片を口に銜へ一部分づゝ切物で手傳はせて齧る樣は仲々面白い。

彼等は又大切なる財産としては皮の小船に橇（彼等は馴鹿に曳かせる）及銃である、彼等は獵銃を非常に大切にし、いつも非常に良く手入をして置き、彈丸は皮の袋に入れ肌に着けて居る。之米人より獸皮と交換して得たるものである。

「ツングース人」蒙古人系統で丈低く多く毛皮を着假屋に住し、狩獵及び漁業に從事し、オーツク地方に最も多くカムチヤツカには西岸北部ツンドラ帶に居る。

「カムチヤダール人」ツングースに比し、丈稍高く顏色稍赤黑色、鬚髯濃厚にして同じく假屋に住し、山獵漁業に從事して居る。

ヤークツ人の生活も殆ど前者と同じい生活をなし、オーツク地方に最も多い人種であつて韃靼族である。

以上の土人と露人の混血人は主として南部に小屋様な家を建て牧畜（牛・馬等）や漁業並に狩獵をして居る。

今一九一七年現在ペトルカムチヤツカ州廳の調査によれば牛、三、一五九頭、馬一、五九三頭、馴鹿五七九、一七三頭、橇犬三六、一〇二頭、豚一、五四九頭飼育されて居る事を知る。移民、一八五二年東部シベリア總督ムラヴイヨフ伯は極東防禦の根據地をアバチナ灣内のペトロパウロスクに定んとし、一方移民を獎勵し、他方アナン街道を開

き、ヤクートスク市とオーツク沿岸を聯結し、此地方の發展に資し、二五家族をカムチヤツカ、一〇二家族をアヤン地方に移殖した。之を以て當地方への移民の嚆矢とする。

然しながら穀類は成熟せず、家畜は牧草の缺乏のため斃れ、加ふるに病氣等發生し成績は不良だつた。日露戰爭後政府の注意再び喚起し一九〇九年カムチヤツカ州制の施行を見ると共に、州行政の中心をペテロパウロスクに置き、一九一一年六月黑龍州より三十七家族と牛馬七十頭を其附近及カムチヤツカ川附近に移殖した。八月更に十四家族をペテロパウロスクに移し、政府は之に漁業權を與へ且つ漁類の買上をなして保護をなし、農牧養雞等を奬勵した。尚一九一〇年其郊外に農事試驗場を設け、大麥裸麥、燕麥、馬鈴薯等移殖試驗をなし其結果は良好ではないが、赤蕪其他の野菜のよく成育しつゝあるを見た。

○

ペテロパウロスクに於ける大正十四年末現在の人口は一、一五八名(内男六八二、女四七六)にして、其内在留外人(日鮮支人)一四一名に過ぎず、其家屋數約三百海岸に瀕せる山麓に散在して居る。今や當港には勞農政權のもとに立てられたる革命委員會を始めとし、憲兵、兵舍もあれば軍艦も居る。凡ゆる官衙、學校(普通科)、病院、無線電信局、郵便局國營市場將又店頭に事務所に住宅に或ひは劇場の中央にさへ彼等の崇拜せるレーニンの肖像がかゝげられて居るのを見る。然して當港は三方山に圍まれ其入口が曲つて居るため、如何なる時化時に於ても碇泊船は動搖だにせざる如き良港にして、二三千噸の汽船が樂に横付けし得べき棧橋を有して居る。そして國營商船部の配船により浦鹽と五月より十月終までの間に十一航海をなし、又本邦遞信省受命定期船は六月の始めより十月下旬の間に函館(小樽經由)と七航海の航路を有す。尚同地には吾領事館ありて出漁者其他に多大なる便を與へつゝあるのである。

然して此カムチヤツカの首府とも言ふべきペ港の西南に紅鮭跳るアハチア灣を隔てて遙に死火山ビリユーチンスカヤ山(一萬一千三百呎)及びアワンチスカヤ(八千九百呎)の二高嶺四時白衣をまとひつゝ靜に聳え立ち、新しき登山者、地文學者生物學者探險者の訪れん事を待つて居る樣に見ゆるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

キアナダロッキーより イエローストーンへ

上原敬二

米大陸を橫斷して東西に旅行する道筋は米領並にキアナダ領を通じて數條あるけれども、この長途の旅路を經度を追うて行つたとて左程に自然界に變化のあるものではない。然しながら一度南北のコースを取つてキアナダより米領に、殊にメキシコ境に至る間の緯度に沿つて旅路を辿るならば、正しく驚異すべき自然界の變轉に目の當り大陸の大きさに唯々あきれるの外はない。然し文化的に又商業的に營まれた彼地の鐵道は、自然の遊子を慰めてくれる南北路よりは營利に敏き商業の人を運ぶ東西路に全力を注いで、競爭に次ぐに競爭を以て唯々時間の短縮を圖り、設備の完全を誇る外ないのであつて、南北の連絡は僅に數十哩でさへも數回の乘換を要するの不便がある。四千哩の長驅を居ながらにして車窓四日の旅路と云ふ程度には行かない。

殊にロッキー山脈は山高からずと雖もその包有する風景に、その代表する自然に、幾多の怪奇なるものあるに拘らず、これを南北連結するの道筋誠に乏しいと云ふのは遺憾である。

ロッキーの北端はキアナダロッキーの覇を唱へるロブソン山彙である、人跡未踏を誇る處女峰もその中に幾つかはある。山は高からずと云へども氷河の美觀を添へて眞に歐洲アルプスの比にも譬へられる。

この山彙には三大氷河型あり、又米大陸の分水嶺なる——一は太平洋に、二は大西洋に、三は北氷洋に——峻峰あり、長さ六哩に亘る永劫の氷河ロブソングレシアあり、中央にはロブソン峰海拔五千尺、右にチェコ氷河を分ち、ロブソン岩層の地學的時代を決定して居る。山彙の分流としてリアガート山及びプターミガン山が北面して聳えて居る。

ロブソンを東にしてジヤスパーの原始郷がある。これより南下して分水嶺を長驅し、西にコロンビア河の溪流を見、かくしてこの自然郷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



キヤナダロツキー中のヴイクトリア氷河と冷洌のルイス湖

の内に一抹の文化味を加へたる如きバンフ及びレーキルイスの清涼里を經、更に南下して米領に入ればグレシア國立公園、更にロッキーの中樞に向つてイエローストーンの中堅に入る。

キアナダロッキーを東西に見る時に南にキアナデアンパシフイック線ありて、北にキアナデアンナショナル線あり、相共にキアナダ風景觀賞の双璧である。然も同樣この兩線に連絡の少いのは遺憾である。我等は今叙述の筆を進めて太平洋岸よりキアナダ南部ロッキーに進み入らう。漸くロッキー氣分の味はれるのは先づレベルストーク邊りからであらう。この邊より沿線約三百哩キアルガリーに及ぶ中樞區である。

コロンビア河を渡り海拔千五百尺レベルストークを去ると鐵道は漸く清涼の氣を帶びたる山間に進み入り、四千二百尺にしてロヂヤース峠を下る。南ロッキー第二分水嶺にして英領及米領のロッキー山脈連絡の大路を完成した爲に著名になつたセルキアーク山脈である。

この山塊を東に越えると再び海拔二千五百尺の高原コロンビア河の流域に出て、更に東して遂にロッキー山脈の分水嶺五千三百三十二尺に達する、太平洋を去る五百哩、鐵道はその中心驛ステフエンに停る。

この邊り空氣清涼に、高燥の氣磅礴としてロッキー氣分に滿ちた所である。この五千尺の高さにアルバータ州第一の湖ルイスが横る、山間の別莊地であり、キアナダ第一の靜寂なる休養地である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

北には氷陸の如き氷河流に篩られる一萬一千尺のヘクター山あり、南より西にかけては一萬一千尺級のテンペル、デルタフォーム、ハンガビー、ヴイクトリアの四座がレークワプタの流域かけて王座の如くに雲際を摩る。

この附近一帶は東西ロッキー路の連絡中樞である。一八八五年十一月七日に發見されたこの路線の歴史に纒る種々の縁由や口碑を傳へる所である。同時にこの邊は湖水溪谷に惠まれたる山境である。ロッキーとパーセル山脈との間にはコロンビア溪谷とウインダミア湖あり、セルキアーク山脈とその支脈パーセル山との山間にはクーテネー湖あり、セルキアークとゴールド山脈との間にアロー湖あり、ゴールド湖岸とカスケード山脈との間にはオカナガン湖あり、これ等の湖沼を連鎖して一つの河流系が出來る。その中心は北米有數の名河コロンビア河である。水源の一つをウインダミア湖に發し北に南に紆曲して幽邃神秘の境と云はれるアロー湖に注ぎその水を集めて太平洋に朝する。次の河流は餘り知られてないがクーテネーでコロンビア溪谷の南端に發し、合衆國領を經てキアナダに入る。

湖畔五千六百尺を下るとボウ河に入る。これを圍んで近景には七千尺乃至九千尺のセントピラン、ニブロック、フエーアヴイユー、サドル、ホワイト等が第二山彙をなす。

湖畔にはシヤトーホテルあり、二百六十の客室を擁し、湖に面し六月より九月までの營業ではあるが全く別天地の如き感じである。

ルイスより東へ三十哩ボー河を東に[illegible]キーの凡ての意味に於ける中心であるバンフである。二千七百五十方哩の廣袤を擁するバンフ國立公園即ちキアナダロッキー國立公園の中心である。壯麗にして中世紀の古城を見るが如き雄偉なるバンフスプリングスホテルはボー河斷崖にそそり立つ。

キアナヂアンパシフイック線に於けるバンフの稍文化的氣分にあるに反し、これに並んで北ロッキーを走るキアナヂアンナシヨナル線に於てはジヤスパーが原始郷として永遠にキヤナダの往昔を物語つて居る、車窓より見る處女峰、溪流を横る鹿の群れ、永遠の雪を堅めた氷河の景、驛路に遊ぶ狐の群れ、かゝる文化人には夢想だも出來ない景は全くキヤナダならでは目撃することは出來ない。驛路に停る汽車の窓にも、田舍びた村の宿にも植朴なボヘミアン風の乙女連が集まつて來て櫻桃の小籠を面はゆげに賣りつけて居る。

ジヤスパーは曾つて數年前細川護立侯の後援の下に東京日々新聞の手によつて槇有恒氏一行が前人未踏の處女峰を征服して以來その名は我國にも知られて居る。眞に北ロッキーの奧に北界を劃する一大神祕境である。ジヤスパーを語ることは北ロッキーそのものを物語ることとなる、その歴史と口碑とは直ちに北ロッキーの祕境を如實にすることゝなる。

ジヤスパーの小邑——全く言葉通り偏陬の小邑である——はこの山境の中心區である。エドモントンを西に去る二百哩、ミエテ河とアサ

バスカ河の合流點の下に横り、これを圍んで一萬尺内外の星座の如き巨峰に守られて昔しながらの幽寂に自然を探ぐる人を迎へてくれる。

この一帶の地域四千四百哩、眞に我々の想像し難き空漠にして涯りなき廣袤を展げ今日ジャスパー國立公園と呼ばれる、僅かにジャスパーパークロッヂと稱するキャンプ式ホテル一つあるのみで他は悉く人爲の手を絶したる自然そのまゝ、否寧ろ自然たりし前の自然であるかも知れない。鷲は喬木の枝に巣食ひ、熊は夜なく〳〵徘徊して食をあさり、衆人環視の内に悠々と鹿は水を渡る。この一帶の地域を卜してキアナダ政府は一九〇七年一般國民の爲に保留の策を立て、現在の境界は越えて一九一四年設定せられ、次で名稱だけは公園と稱せられるに至つた。

凡てのアメリカの景勝地、――今日の人の目してかゝる名稱を用ひ得る所も昔しは何れも非常な苦心を以て交通路の開拓に從事した歷史を持つて居る。ジャスパーもその例に洩れない。然もこの幽境をして世に知らしむる動機をなしたものは一八一一年に於けるアサバスカ峠の發見である。この發見によつて初めてハドソン灣と太平洋岸との交易は開かれた。サー・ジエームス・ヘクターはその功勞者である。然も當時ハドソン灣よりこの新開拓路を辿つて太平洋岸に出づるには三ケ月半の日子を要したのである。今日僅かに三四日にして達し得るに比べれば雲泥の差である。然も當時この早さは急行と稱せられて居つた、ふさはしき名であつたことが記されて居る。



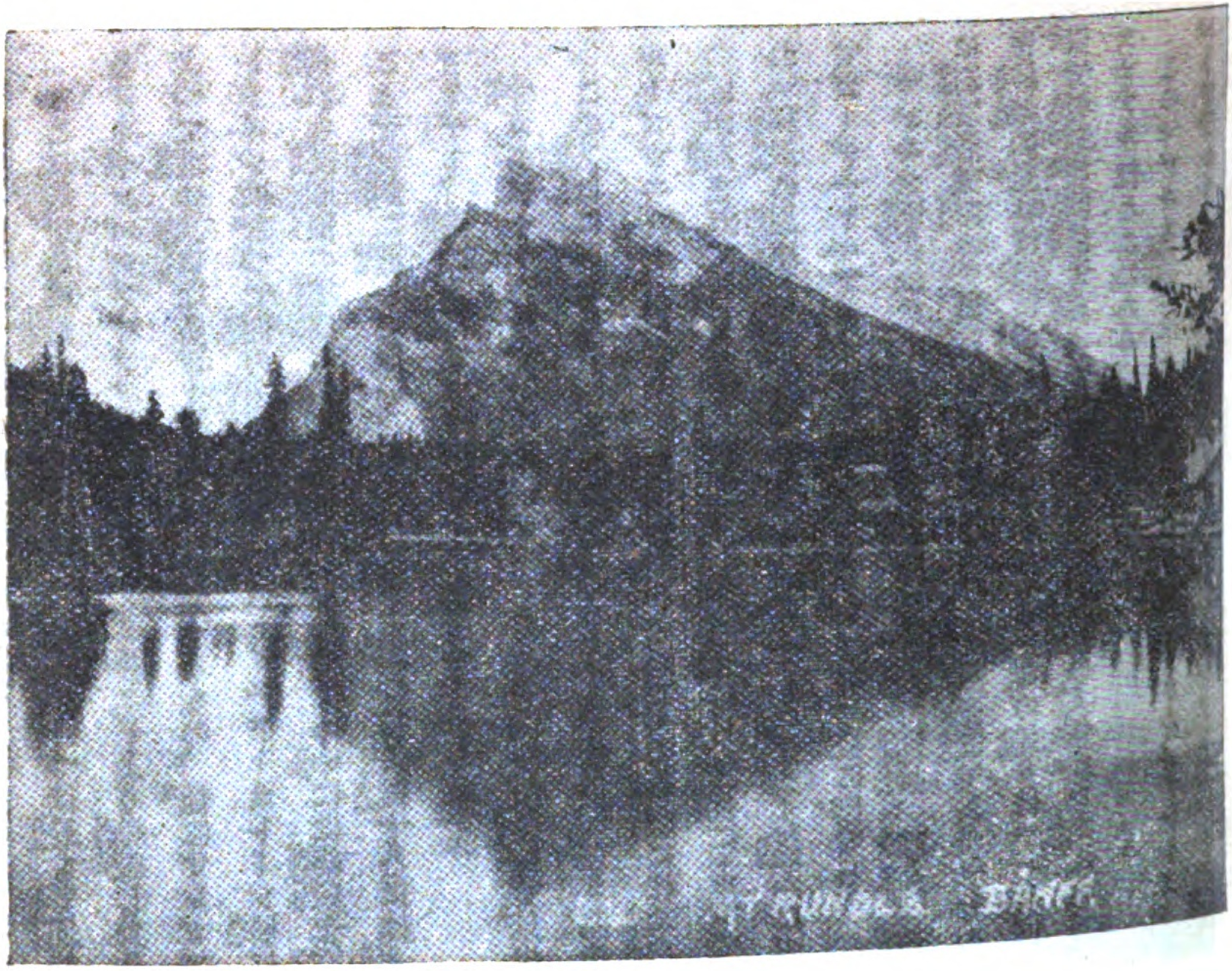
ロブソン山巓

次で一八二六年にはエローヘッドの峠路が發見された。この路によつて獸皮、野獸、原始的産物等は續々として東西に交易されて居たのであつた。

キアナダロツキーはかくの如くして開拓された。然も今日尚登攀の人もなく、太古の姿そのまゝに眠れる山河幾層重疊し、眞に文化人にのみ味はれ得る原始味に滿てる唯一の祕境として殘されてある所が少くない。

キアナダロツキー及びこれに西面するセルキアーク山脈共に南北に連亘し、山高からずとするも然も東西アメリカを兩當分する一大山巓である、我等は今バンフーウインダミアの新道に記述の筆を載せて南下し、米領の境に氷河に飾られたる景觀に誇るグレシヤを一瞥しグレ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



バンフより見たるノール山

ートノーザン線を横切り分水線を縦斷して更に南進すれば再びノーザンパシフイツク線を横斷し「眠れる巨人」に圍まれたるイエローストーンに近づく、キアナダを出でし風景の大觀は稍明くその森林、河流何れも神祕さに於て劣れるかの如く思はれるけれども廣袤幾百里、亦大陸的の景觀に魅惑される所も少くない。

イエローストンはその境界モンタナ、アイダホ、ワイオミングの三州に跨り、殊にワイオミングはロッキーの最も重要なる中樞を占めて居る。この一廓東西五十三哩餘、南北六十一哩餘、廣袤實に三千三百方哩餘、ジヤスパーに次ぐ世界第二の國立公園である。ロッキーを南北に界してその南端にこの兩區域の存することも一奇とすべきである。この域内に存する溪谷にして六千尺以下と云はれるものなく、この外周に近く聳立する高山は殆ど凡て一萬尺より一萬四千尺に及ぶ、海拔七千七百尺の高地にある湖としてはイエローストーン湖に匹敵するものなくその大さ長徑二十哩、短徑十五哩に達する。而してこの湖に育くまれた水は遂に水源となつて北米大河の有數と云はれるミズーリー、イエローストーン、及びコロンビア三河の名になつて長流する。この地の間歇泉は空中に噴出するもの五十幾つ、三十尺より二百五十尺までの高さで、間歇の時間は最小六十分、最大十四日である。グランドキアニオンは長さ十哩、平均深さ千二百尺、化石林あり、テレースあり、自然景觀は種々相をなして六十哩平方の大地域に表はれて居る。

今敍述の筆を載せて我等はこの大觀の詳細を眼前に展開したい。

ここに達するに最もよき順路は二つある。一つは最も普通の路であるノーザンパシフイツク線のリヴイングストンより分岐したる支線によつて北の入口なるガーデナー驛に達するもの、他はオレゴンショートラインになつて西の入口なるウエストイエローストーン驛に達する何れも公園區の境界に於て汽車は停るのでこの中には鐵道を敷設することを絶對に許してない。自用自動車を驅つて入園するには東の入口コーデー、南の入口ジヤクソンホールよりするもよい。

今ガーデナーよりする順路に從つてその景觀を敍述して見やう。

この入口に建てられたる石造の大アーチは一九〇三年時の大統領ルーズヴエルト氏によりて寄附されたもの、その扁額には有名なる左の銘が刻まれて居る、「千八百七十二年三月一日法律によつて創設され「國民の恩惠と行樂の爲めに。」この入口を過ぎると僅かに五哩にしてガーデナーキアニオンの盡くる所、マンモス泉に出でる。

マンモス溫泉はテラースの上に流れる溫泉で湧泉、噴泉、流泉等實に石灰岩五彩の色に輝いた稀有なる一大溫泉系統であつてその悉くを詳細に見れば優に數日の時間を要する。この邊りはまづ公園の中樞區で管理機關棟を並べてこの自然界に一點の人爲味を與へる。マンモスホテルはここにある。

このマンモス泉にはハイメンテレース、ミネルバテレース、クレオパトラテレース、ジユピターテレース、プルピツトテレース等の名で呼ばれるやうに色々な形がある。

總てこれ等は火山噴火の現象に伴ふものでこの溫泉の成層は地質學上極めて重要で又興味あるものとされて居る。

是等は純粹の炭酸石灰で地下の石灰層より溶解して流出し、溫泉の爲に熱せられた岩層によつてより以上熱せられた水は湯氣を立てゝ五彩の霧を半空に散じて居る。かゝる現象は今日ニユージーランドやアイスランドには珍らしいことではない。主なる色は黃、褐を基としこれに暗緑と暗紅を交せた表面色を呈する。

マンモスとゴールデンゲートとの間のドライブを登ると三哩ならずして千尺の絕壁に直面する。ここがフードースと云はれ未だ何人も探り得ざりし原始にして、未開の境域である。石灰岩の特質に絡る自然現象として頗る興味ある成層がここに見られ、各方面よりこの理由を解明しようとして居る。

觀賞の旅は漸く進んでノーリスガイサーに向ふ。その途中ゴールデンゲートは最も美しい地點の一つである。ラステツク瀑布は高さ六十尺、高からずと雖もこのゲートの點景として第一に推稱したいものである。

ゴールデンゲートを去ること少しでスワンレーキ盆地に出る、ロツキーの高山草原として代表的なるもの、四周に永遠の雪を冠くロツキーの峻峰に圍まれ、アメリカインデアンの古代的なる生活振りはこの邊りに既に見られ得る。又秋より冬にかけては數百を數ふるエルクや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

數多の湖沼が出沒する。西に聳える山嶺にはガラチン山、その南にベルビーク、クオードランド山、一萬五百尺のホームス山、何れも夏時美しい雪を飾つて山顚に探險の勇士を俟つが如き姿態である。北に距ること八哩、エレクトリックピークあり域内第一の高山一萬一千百尺の海拔高を有し、眞に北域の覇王とも云へる。

マンモス泉より直ちに南進すると二十哩、ここにノーリスガイサーベージンと呼ばれる大盆地がある。千八百七十五年に當時の公園長ノーリス大佐の手によつて探險されたものである。一八八一年以來この名稱が用ゐられる。六方哩の廣袤を有し、地質學的に見ても非常に興味ある地域である。

ノーリス盆地に於ける最も興味あるものはコングレスプールである。直徑四十尺、噴火の跡ではあるが高碧色の滿々たる清涼の水を湛へて一脈の清新味を添へて居る。これに類したプールが幾つかある。エメラルドプール、ブラックグローラー等の如きである。

ノーリスガイサーと稱する間歇泉は著名なる泉の一つであつて七種の泉よりなり、高さ二十尺より百尺に及び、間歇時間十秒より四十分に及び、昇騰の時間は三十秒を最小とし、長きは三時間に達する。この一廓に於けるかゝる間歇泉の系統は實に奇觀とも稱すべく、ここより東西に道を岐つて東への一つは環狀廻遊路に、西への一つは前述したイエローストーン入口への一路である。

西入口は一九〇七年十一月に完成した最も利用率の多い入園驛である、直に前述のローワーガイサーに至る二十哩であるが、暫くの間進むとやがてクリスマスツリーパークに入る。

この美しき森地は西部の境界に沿うて幅三哩、長さ十哩、この間美しき黄松の疎林あり、その間にはメチスン河と稱する溪流を樹間に見る。その溪谷メチスン谷の美觀は凡ての來遊者にこの國のグランドキャニオンと匹敵するだけの美しさとして知られて居る。

キボン河とファイアホール河との合流點にナショナルパーク山と呼ばれる山がある。これはメチスン河の水源の地であつてこのメチスンこそここよりメキシコ灣まで四千哩の長流の基點となる。

ローワーガイサー盆地は比較的廣い溪谷であつてファイアホール河の本流より初まり、廣さ三十乃至四十方哩、この中には無數の溫泉があり、その總數六百九十餘を數へ、就中その十七は間歇溫泉である。海拔七千二百尺、天を摩する密林である。

ここにファウンテンホテルと稱する優雅なる宿舍がある、溪谷の東岸に建ち、四周を大觀するに好位置である。

西入口より五十哩南してここに間歇泉の中心アッパーガイサーベージンがある。四方哩を擁する三角形の地形ここに群る主要なる間歇泉二十七を數へる。この上部に亘つては四百の多數を數へるのである。アルテメシア、モーニンググローリー泉、モーター泉等一々數へるに暇がない。一抱もある大きな黄松の樹林を前に、噴火の爲に死滅した悽慘な眞に焦熱地獄とも云ふべき熱泥の湖沼に濛々として立ち騰る白

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

煙の物凄さを眺め渡す時寔に地下に於ける地熱活力の威力に驚かざるを得ぬ。吹きこぼれたる熱湯の中に漂ふ石質の沈澱の爲に成層をなして湯垢の塔を堆め上げる。グロト 間歇泉と云ふやうなのは正しくこれである。この近くにハンカチーフプールなど稱する湧泉がある。 地中に生じたる洞穴の間を縫つて熱湯が渦を巻き環流してもとの位置に逆流するのを利用してこの泉の端に集るものは杖を手にしてまづハンカチを泉に投じ、一旦流れに押されて洞を一巡りしてもとの位置に戻つてくるのを待ち杖の先きで拾ひ上げる、一寸一興である。これに次でこの區域の最も著名なる間歇泉にオールドフエースフルと云ふのがある、世界有數の著名なるものである。六十五分毎に日となく夜となく、夏も冬もなく、昇騰する太陽の位置と風の吹き廻はしによつてその色彩の光景を異にする。月夜、星の夜、夕闇に入る前、日の出の前晴れたる日にも、曇れる午後にも、その景觀はいつも變つて見る目を喜ばす、吹き騰る高さ百二十五尺より百五十尺に及び、直徑二尺に達する、かくして三分を過ぎると再びもとの靜寂に歸り、こと〳〵と音して地底深く姿を潜め行く。

この姿を正面より見得る所にオールドフエースフルインと稱する園内第一の木造建築がある。豪壯なる野趣滿々たる様式のホテルである。一抱以上もあらうと云ふ米栂の皮付丸太を梁に達するまでも高く立て並べ凡てが原始のまゝの姿を如實に見せて居る。殊に夜々をこの幽寂の天地に送る爲には唯一つの火床がある。 寒い国の唯一の慰みは



ロツキー山脈中のアメリカインデイアン生活撮リ

蓋しこの火床にある、圖抜けて大きい煙突は底の徑さ十六尺、岩石の塊を以て積み上げてある。食堂も客間も悉く東洋趣味に亦田園趣味に溢れて居る。その總工費二十萬弗一九〇四年に開設されたものである、夜は屋上のサーチライトによつて活動せる間歇泉は反照され愈々偉觀を加へる。

アッパーペーズンより道は東へ轉じこれより十哩にしてロッキー山脈の分水嶺を越えショションヨーン湖の溪谷に降り再び登り詰めた時に迂曲してこゝに再び分水嶺を越すので、更に十哩にして一路坦々たる高原を貫く大道をひた下りに下ると、遙に樹林の間碧藍を流した樣なイエローストーン湖が「眠れる巨人」と稱せられる分水嶺の峻峰を背景にして眼前に展開する。蓋しこの邊りは雄大にして、壯觀、山と水と雪と森とに圍まれたる太古の姿そのまゝと云ふ感じがある、この分水嶺に東西に流出口を有する小な湖がある。一つはミズリー河の水源をなして太西洋に、他はコロンビア河の源泉となつて太平洋に注ぐ、共に彼の澎湃たる二大名河の源がかくの如き小さき湖であるかと思へば一種の不可思議を感ずる。

ウエストサンブはイエローストーン湖畔にあり、南入口ジヤクソンホールよりする道はこゝに於て相會する。

イエローストーン湖は海拔高の高きに於て世界有數である。南米ペルーに於けるチチカセア湖を除いては海拔七千七百尺の高度に於ける世界最大の湖であると云はれる。直徑二十哩、その形頗る不整、湖岸には一萬尺乃至一萬一千尺の高山群アブサロカ山彙に湖面より直ちに東面して聳立する。

湖水には幾つかの島が連鎖をなして居る。ステブンソン島とフランク島とはその重なるもの、これを巡つてペリカン鳥悠々と遊ぶ湖水の北に當つてイエローストーン河を切つて落すが如く北流させる。この分水口に近く東入口コーデーより相會する一路を併せたるジヤンクシオンがある。バーリントン線によつて東入口に達するには何れもコーデー目指して來るのであるがさして利用率多しとは云はれない。その分水口に臨んでレーキホテルあり、ウエストサンブよりここまで十五哩これよりイエローストーン河の大觀を擅にしつゝ十六哩の間を北上して河流に沿ひキアニオンジヤクシオンに至る。

キアニオンジヤンクシオンはイエローストーンに於ける自然美の大觀を擅にするに最も好適なる地域であつて西すれば前述したるノーリスガイサーに至り、北して本流を下れば有名なる化石林に至る。キアニオンに於てはイエローストーンの上の瀧あり、百十二尺の落差を有し、濛々として靜閑の境地に雄大なる素絹を展べる。これに隣つて數町の下流にはイエローストーン大瀧あり、直下三百六十尺高さに於てナイアガラに倍し、水流豐富にして實にイエローストーン第一の壯觀と呼ばれるも過言ではない。これより下流一帶はイエローストーン大峽谷と稱し、モミ、タウヒ、マツ類の茂みを背景として、峽岸、紫泥の砂流に飾られたる絶壁の下三百六十尺、殆と垂直にたち切つたと思は

れる許りの底を悠々としてイエローストーン河銀箭の如くに流れて行く。アリゾナの大峽谷、ヨセミテの溪、ハワイのオロケレ大峽谷と併せて世界の峽谷美に於ける偉觀と稱せられる。これよりノーリスガイサーに至ればイエローストーンを一周してその景觀を盡したことになる。

ここより道を分つて二十五哩にして世界に於ける化石樹林の代表とも稱すべき珍奇にして再び人生に得難き天然記念物ヤンセーの化石林に至る。道極めて良好に、その景觀は平凡なりと雖もその化石樹の成因と當時地質時代のイエローストーンを追想する時に無限の感慨に誘はれるを覺える。マンモス泉よりすれば僅かに十八哩、同時にヤンセーは避暑地として唯一の好適地である。

化石林と稱せられ、化石材と呼ばれるものは世界に類例がない譯ではない、然し天然の樹木の生育して居る場所にそのまゝ樹木が立ちながら化石したやうな例はこの外に絶對にない。

地質時代に於てはロッキー山脈を蔽つて居つた樹種は明ではないが、今日ではその斷片をカーネギー研究所に於て現に研究して居ると聞く。

かくの如き化石林で同じ研究中のものはイエローストーンの北界モンタナ州カラテン山脈である。その分布面積一萬四千町歩稍古い所ではワイオミング州の北東イエローストーン河畔でこの河とラマール河との合流する西側に多かつた。溪谷面より高さ二千尺、この邊一帶をスペシメンリッヂと云ひ化石樹の群生せる所の中樞である。その外タワーフォール、カッシエ、カルフイー、ミラークリーク邊にも散在する。この附近の河床を注意して散策する時は化石質の樹皮、木材の破片を得ることは難くない。

ラマール河の溪を横ぎると殆ど垂直に切り立つた太く短い幹は點々として斜面に生へて居る。

ロッキー山の原生林に思ひのまゝの樹種が枯れては育ち、芽生へては枯れ交々と生ひ茂つて幾代かの蒙昧の斧に洗禮されたのは第三紀ミオシーン紀と稱する地質時代であつた。然もこの大森林は火山の爆破に會ひ灰と熱との爲に悉く埋もれ盡して地上は荒寥たる燒土に歸した。

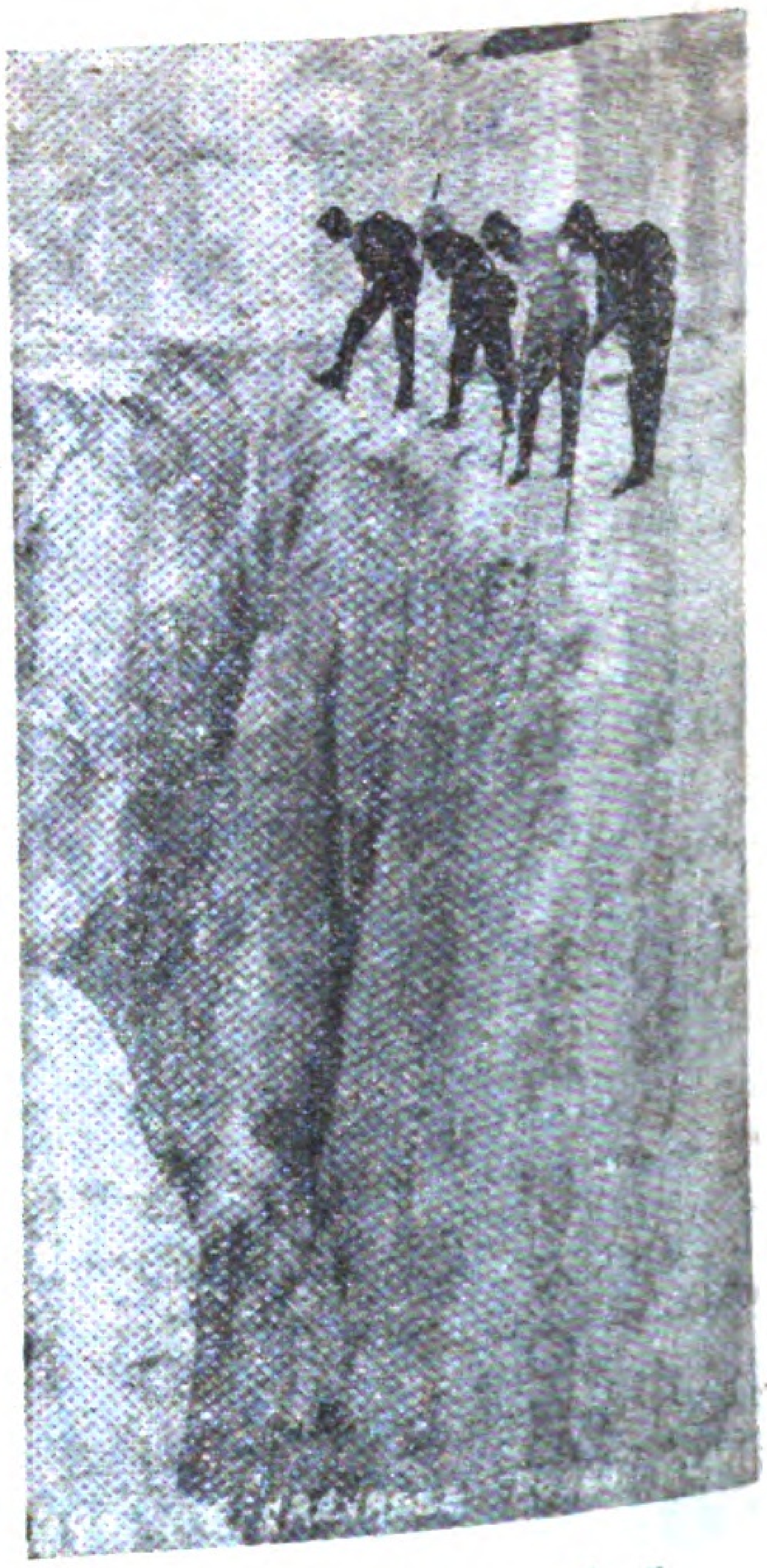
然も植物の生育は一時的の天然災厄のみで中止されるべき筈のものではなく、燒土には再び鮮苔を生じ、下等植物を生じ、かくして幾百年をか經た後には再びもとの大森林を以て蔽はれる時代が來たものと云はれる。然るにこの大森林もまた再び火山爆發の災に會ひ再び燒土と化した。かくの如き地相と連續とを閲すること幾十代、マツ類の生育年限を二三百年とし、レッドウッドの如きを五百年乃至千年と計算し、かくの如き樹木層の重なるまでには少くとも一萬二三千年を經たものと見做す、この繰り返されること十三回、かくして初めの生成の場所より最近世即ち最上層までは二千尺の高さに灰と堆積とによつて隆起せしめられたわけになる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今日のアプサロカ山嶽は全くこの造山力によつて出來たものである。

然るにその後に於て又々幾度か火山爆發もあり、地殼の大變動もあり、曩に埋つた灰分の如き輕鬆なる成層は或は洗ひ流され、或は吹き飛ばされて、初期にこれ等の下に埋められて壓力と地熱との爲に木材が石化したものが初めて露出したやうな場合があつたものと想像してこの化石材を説明して居る。以上は大體ホームス氏の所説であるが必ずしも不當ではないらしい。附近のアメシスト山塊に就てこの發見者ウイリアム博士及び前ホームス氏の研究の結果である。

全區域を通じ最大化石樹幹は皮付にて直徑十尺、高さ四十尺、然し大多數は地上四五寸の處で折れ、伐根のやうな態である。樹體の中心



ロブソン氷河

部分は空穴となつて化石する前に腐朽して居るのでそのあとは色美しいアメシストの結果が出來て居る。アメシスト山嶽の名の因つて來る所以である。

かゝる森林は今日こそは淋しげに廢墟の主人顔して立ち並ぶも昔は幾何の高さがあつたものか、これは興味ある一つの謎である。この謎を解くものは果して誰れであらうか。



中條百合子著

長篇小說

伸子

定價貳圓五拾錢
送料二十錢

四六版上製

最新刊

作品のうへに、かくも鮮かに、年輪のごとく作家の成育の痕跡を現はしたものは、稀である。「伸子もの」の力作を一纏めにし、中條氏の密接な關係にあつた生活の總決算が、卽ちこれである。夫と婦との愛の破綻、幻滅のかなた、人間精神の高き戰ぎに、暢々と大きな時代の轉機を感知したもの、萬人願愛の長篇である。哀愛、切々の息吹、ヒロインの中のヒロイン、生ける伸子の苦患に泪なきを得ない。今、中條氏は勞農ロシヤの光の前に、旅姿の弧影を曳く。「伸子」一卷を手にしてわれら限りなき敬愛を惜しまぬ。

發兌
東京市麹町區内幸町
幸ビルデイング一階
振替東京八四〇二番

改造社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醫學博士 樋口繁次著

婦人の健康の爲に

四六版上製 三百十頁 數十葉圖解入

定價一圓 郵稅十八錢

婦人は必ず一讀して下さい

產科婦人科の我國の泰斗、執刀術の第一人者たる樋口博士は信念と信仰に生きる人である、本書は氏が自分の病院に來る受診者に向つて一々懇切に說明する氣持で（一）婦人病の自覺症（月經、結婚、姙娠、分娩、產褥、帶下、出血、疼痛、腫物、尿利、遺傳）（二）診察（三）婦人生殖器の解剖（四）婦人病（發育異常、位置異常、損傷、炎症、腫物、正規姙娠、不姙症、異常の姙娠及分娩、子宮外姙娠）（五）婦人病の治療方針（幼女、處女、月經及月經時の攝養、精神、衣服、食物、運動、藥物、胎教、分娩準備、產褥、療病、精神療法、物質療法、理學療法、手術療法）、その他一切を圖解で嚙んでふくめるやうに說いた婦人生理書で、通俗で誰にも分り易く、すぐ處置の出來る樣にかかれてをる。處女たると、令夫人たるとを問はず、そして健康者たると婦人病者たるとを問はず、すべての婦人に必要な智識であります。病院に自分の診察を乞ふ前にこれ丈けの智識は持つてゐて下さい。でなくてはとりかへしのつかぬことになる恐れがあります。

發兌

東京市麴町區內幸町
幸ビルディング一階
振替東京八四〇一二番

改造社

藤原義江著

からたちの實

（四六版 上製）

定價壹圓五拾錢 送料拾八錢

最新刊

『吾等のテナー』藤原義江！何と親しみある呼びかけであらう。氏は今や『吾等のテナー』より『世界のテナー』にならんとしつゝ、再び歐米樂旅に出で立つに當り、吾々に一册の隨筆集『からたちの實』を殘した。卷中氏のユーモアは至る所に溢れ、かねて歐米樂壇の事、批評、感想が述べられてある。その文は輕快洒脫、且つ氏一流の筆致躍如として、讀む者をして卷を措くを忘れしめる。如何に批評すべきか、樂壇は如何なる物か、氏が此の度の演奏旅行中何を感じたかを知らんとする人は須べからく讀まれよ。獨り音樂愛好者のみならず、近代的教養を獲んとする一般人の必讀の書。

〔目次〕

發兌 東京市麹町區内幸町 幸ビルデイング一階 振替東京八四〇二番 改造社

三つの正月

神近市子

一

前文御免下され度候
娘浪へお手紙下され候處同人は一昨年病死仕り候に付お手紙は其儘返送致候間左様御承知下され度娘在世中は御懇誼を蒙り居り死去の際御通知も不申上候段御海容なし下され度候

田澤熊江

十一月の始め、ある日私が受取つた一枚の葉書の文面はかうであつた。誰かの――恐らくは故人の兄弟の――代筆と思はれる文面に、差出人の感情を讀むことは不可能なことには相違なかつたがそれでもこの手紙の全部にどこか私は一抹私の感情を反撥するものが強ひても含ませてあるやうに感じない譯には行かなかつた。

が、その葉書をつかんで自分の机の前に坐わり煙草の煙を吐いてゐるうちに、私の心は何時かその瀕つぺらな紙片を突抜けてその紙片が傳へる現實そのものに顏を向け始めてゐた。久し振りに人生の淋しさがシミじと身にしみるやうな氣がして來た。それは決して深くはないが、しかし深くないだけにもつと本質的な人間の悲しみであるがやうに感じられた。

私が吹く紫色の輪の向うで、キラリ白い歯が光つた。黒眼勝ちの美しい眼、スラリとした獄衣の後姿、丸味のある張りをもつた聲――

そして、そんなものがもうないのだ!

私は目頭が熱くなつて來た。

二

私は、二三日前に手紙を出す時、既にかうした豫感とも云へば云へる不思議な氣持の低迷があつたことを思ひ出さずには居られなかつた。長く疎遠に過ぎたことを詫びたり、自分の近況を報告したり、先方の動靜をたづねたりしてゐるうちに、どうしたハズミからであつたか受取人のない手紙を書いてゐるやうな心もとなさが心の底の方から

滲み出して來て、ともすると空虚な心でペンを運んでゐる自分を發見した。そして自分でそれに氣がつくと慌てゝ書きかけの手紙を結んだのであつたが、だがそれ丈けでもどこかに滿足の出來ない何かの氣持が殘つた。それで、

『是非生きて無事でゐるといふ返事を――それも一日も早く――書いて下さい。長く御疎遠に過ぎて來て、かうして思ひ出してお手紙を書いてゐると、マザ〳〵とした懷しさが湧いて來て、一日が尙ほ待遠しく感ずるのです。』と書き添へたものだつた。

その返事が、これであつた。

『あゝ、矢張り！』

手紙を書いて以來、打ち消しても打ち消しても去らなかつた不安が

そこで現實の悲しみと入れ代つた。

先刻の幻影は、まだなか〳〵去らない。

稍々面長がの、全體としてのポーズがよく均整のとれた、美しい人であつた。稍々根上りの銀杏返しに髮を結つて、工場を出る時に慌てゝ穿かずにつかんで來た足袋を、紐のところで振り廻し乍ら、私が終日一人淋しく作業をしてゐる獨房の自分の監房に夕方戻つて來た。そしてかかりの取締りが三十に近い雜房の鍵を下ろしてしまつてやつて來るまで、雄辯な口ほどに多くのことを語ることが出來る二つの黑耀石が、その寂寥と苦痛とを私に訴へた。

『おい、お前は泣いてゐるのか。』

こゝまで書いてゐると、夫が扉を開けて入つて來た。

『悲しければ私だつて泣くさ。』

夫はだまつて、私から葉書をうけとつた。

『なあんだ。ズウ〳〵鼻をならしたりすると氣になるぢやないか。』

夫はかうぶつきらぼうに云つて出て行つた。が、彼も悲しさうだ。

彼女は田澤滋子さんと云つた。

今はどうか知らないが、私共がゐる頃は八王子の監獄には獨房は十房だけであつた。その十房の中の向つて行くとつゝきの左と右に私と田澤さんとが向ひ合つてゐた。あとの八房には未丁年者だとか比較的に若い犯人が置いてあつた。

不思議な因緣で、私は田澤さんのあと、あと、と監獄を追つて歩いた。横濱、東京、八王子といふ順序だつた。

横濱の監獄には、もう七十からになる女の部長さんがゐて、この人が田澤さんの話を始終してくれた。シッカリとした人ではあつたが、決して骨つぽい人でもなければ杓子定規の人でもなく、深切によく皆の面倒を見てくれた。閑を見ては毎日話に來てくれたが、その時よく『中根、中根、』と云つて田澤さんの噂をした。中根といふのは田澤さんの夫の姓で、田澤さんはその夫との間を引分けやうとした姑を怨んで傷を負はしたので、ほんの擦過傷位ゐの傷に、、年もの不當の刑を當てられて來てゐた。

監獄の名が出た序に三つの監獄を比較して見ると、何と云つても横

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

濱の監獄は一番よかつた。あれも地震で潰れたのだらうが、女監の私共が入つてゐた新築の方は廣くて暖かで明るくて、それに役人達の氣風が一體によかつた。

　東京には私は何故か一晩しか止めて置かれなかつた。多分若い典獄補が何か事面倒に感じて慌てゝ八王子に送つてしまつたのであつたと思うが、そんな譯でこゝ許りは印象も何もなかつた。(つまりそれが典獄補の思ふ壺であつたのだらう。)收監者が多いと見え、只だザワ〳〵と騒がしく又匆々としてゐたやうであつた。大逆事件の時から勤めてゐたといふ部長さんはこれも極く老人であつたが、顏とは反對にやさしい深切な人だつた。

　ところで八王子と來たら、何と云つてよいか全く『下の下』(いやな言葉であるが、分監長から囚人全體が貰つた形容詞であるから、それを返上しようと思ふので)であつた。、、、、、、、、、、、、、、、、

　田澤さんは、毎日工場に出るので、雜房にゐる刑期の長い人達から聞くと見えて、前の分監長の時迄は、囚人の夜業もなかつたし、食物なども遥かによかつたと話してくれた。さう聞いて見れば私達が入つてからも食物は質も量もドン〳〵落ちて行つたから、何か、、があるに相違ないと、んでゐたら、その分監長が止させられたと聞いたのは、出てからいくらも經たない頃だつた。

　何でも監獄の増築問題にからんで、、をしたことが曝れさうになつて、傷がつかないうちに前より好い地位に取されて東京によび返されたと聞いた。、、と云へばもう一人累犯の人などゝそれは聞くに堪へない野卑な罵り合をすることのある取締りがゐたが、この人は監獄の、、、、、免職になつたといふことだつた。この人はそれ迄も工場の、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、囚人に見られてゐたらしい。

『ヘン、、、、、、、、だい!』と、、、の强の者にやられてゐたことがあつた。

　こゝの部長は又いやな人だつた。矢張りお婆さんであつたが、蘭間屋とかの、、、、が內職だといふ惡い噂が監獄內で專らだつた。たゞ意地が惡くてこす狡くて、私や田澤さんのところに來た時の猫撫で聲とは反對に、廊下に立つてゐる年老の取締になど當つてゐる樣子は憎らしかつた。

　その年老の取締は、鳥居素川氏の姉に當ると云つて居られた。元、京都で典獄を勤めた人の夫人であつたさうで、分監長など、昔はその部下に働いた人であつたといふことだつた。昔は何れ多くの叩頭と追從とで惱ましたことであらうに、この立志傳氏は少しも舊上官の未亡人を劬はるやうなことはなかつた。寧ろ煩さがつて止させやうとばかりするので、所長の情を知る部長その他の出樣が、自然鳥居さんに冷たくなるものゝやうに側で見てゐると感じられた

　こんな譯であつたから、鳥居さんの親しみは、何時も囚人の方によ

り多く向けられてゐた。いゝ人で、上役の眼さへなければ、囚人がどんなことをしてゐやうと自分は居眠りでもして居ればいゝのであつたが、部長や意地の惡い同僚の眼の光るところに來合はせると、今迄囚人を劬はつて來たといふ自分の意識に照れて、急に突飛な大聲をあげて囚人を怒鳴り散らすことなどゝあつた。が、鳥居さんの好人物を知つてゐる囚人達は、何と云はれてもクスクス笑つて從順にその後をついて廻つてゐた。

監獄を出て少しして書いた『夜の謎』といふ戯曲は、大正六年の冬の情景を書いたものであつた。あの中に出てくる頓狂でユウモラスな老人取締は、鳥居さんをモデルにしたものだつた。この人が夜勤をする時は、監獄は一番樂しかつた。忍び足をして來たり、立聞きをしたりして囚人を陷れ、分監長に精勤を褒められやうといふやうな殊勝な心掛けが少しもない人だけに、監獄全體が明るく賑々しかつた。私などもこの人がどうして居られるかを詳かにしない今、こゝに一々書くことは出來ないが、鳥居さんには忘られぬ好意をうけた、長い夜業に退屈すると、見廻りに來た鳥居さんを呼び止めて、一時間位世間話をしたものだつた。

この人は又田澤さんがペットの一人で、何かで氣のはずむ時には、『どうや、八ちやん！』などゝ云つて、窓口から覗き込んでからかつた。田澤さんの獄名が、八號であつたからだつた。

『今ね、自宅のことを考へてゐましたの。あゝ、早く歸りたい。そして牛の味噌漬けがたべたい！』

田澤さんの故鄕は、牛の産地の兵庫だつた。

『詰らないことを考へたもんだて……』

かういふ鳥居さんの聲は、しかし暖かだつた。

『そうら、神戸の牛の味噌漬け！』

かう云ふと一緒に、鳥居さんの右の拳が田澤さんの覗き窓の中に突込んであつた。それは單に戯談であつたか、それともその拳の中には何かゞ入つてゐたか、それは私は知らない。

もう一人、夜勤の時にはよく私のところに來てくれる金川さんといふ取締りがあつた。この人も鳥居さんと同じ位の年老であつたが、氣前も腰もシヤンとした、强か者だといふことは一見して知れた。この人だけは新聞をよく見てゐた樣子で、何かで大杉氏が檢束されたりなんかすると、手を切つてゐてよかつたと云つた風で、的違ひの好意を込めてすぐ知らせに來てくれた。どこかで大杉氏が丸燒けに逢つたと云つて、イソイソと教へに來たこともあつた。

この人も、分監長や部長には煙たく思はれてゐる派の方の人で、私がゐる頃から恩給がつくとすぐに止すと云つてゐたが、震災の前年止したからと云つて訪ねて來てくれた。そして八王子の監獄で老人が斃されなかつたことには理由があると云つて、

『つまりさ、老人には勤務以外の、、、が出來なからうといふものですよ』と云つて、暗に分監長が若い取締り達の、、、、、して働らな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かつたことを話してゐた。が、それよりも私が淡い興味で聞いたのは、あの悪評の高い部長が不取締りに落されたといふ話だつた。

つまり、前に書いたやうな譯から、分監長が交代すると後に來た人は積弊を矯めると云つた意氣込みからか、高いものを落し低いものを上げたりしたものらしい。そして部長は不取締りに落され、工場係りか何かであつた中年の利好な取締りが部長に擧げられたといふことだつた。

『あの、威張りくさつた部長が、夜勤なんかさせられてゐますよ。』

『止したらいゝでせうにね。新しい人はやり惜いでせうに。』

『慾から、噛りついても居られる間はゐようといふのでせう。それに連れて他の取締り迄が二つに分れて、すつたもんだやつてゐますよ。』

私は、人生のことは偶には二一天作の五と割切れることもあるものだと思つて、スーッと胸がすくやうな感じがした。

多分鳥居さんも、さうなれば比較的氣樂に年限だけ勤め上げて、恩給を貰つて無事にどこかに引退してゐらるゝだらう。

三

私は大正六年十月の始めから服役した。無論同年の二月横濱で第一審で四年の刑期を云ひ渡されると同時に保釋になつて出てゐたので、それが第二審では二年になるし、少しの間の獄中生活で自分が進む道もどうやら見極めがついたし、それ以前と較べることにならない位心に入つてゐたことは事實であつた。しかしまた何と云つても古い生活の記憶がこびりついてゐて無愛の小兒病から脫却することは出來なくて、心で人を怨み傷けることを止めてはゐなかつた。

私がこの小兒病を完全に脫離して、野枝さんの生涯などについても、どこか私からは遠いところに存在した生涯のことででもあるやうに、冷靜に客觀的に見ることが出來るやうになつたのは、まだこゝ一年か二年のことである。

『時は解決者だ』といふ言葉があるが、私をこの心境に連れて來た者は、單なる時ばかりでもなかつたやうにも思ふ。こゝ二三年の間に、古い驕れる者を置去りにするやうな勢で進出して行つた無産大衆の行方を見て、何時かそれらの情熱の中に自分の全身を溶け込ませたいといふ希望を持ち始めた時に、過去の生活の記憶が古い鱗が落ちるやうに私の心から放れ落ちて行つた。

監獄で送つた三つの正月の中では、矢張り服役してから最初の大正七年の正月が一番辛かつたかと思ふ。

八王子は、武藏野の眞中にあつて冬は秩父颪が猛烈に吹きつける。監獄は町の南の端れにある小高い丘の中腹にあつて、この山颪を受けるには誂へ向きに出來てゐた。私は、この監獄の、冬は少しも陽の當らない北側の監房に監禁されて二年を過した。

『横濱ならよかつたなア。』

私は、何度もさう考へ／＼した。横濱の部長の見込みでは、私の犯罪では四年は輕い方で東京に行つても輕くなる見込みはないし、同じなら自分のところで服役させ、勤はつてもやり、成績も擧げさせて一日でも早く假出獄にさせたいハラであることは充分見えてゐた。

『中根も私の云ふことを聞かずに行つたが、重くはなつても輕くはなりさうもなくて下りたのだけれど、下りる時はそれを悔んで手紙をよこしたつけ。』

部長は私の不信を詰るやうにから云つたけれど、結局私は四年のものが半分に負かつて二年になつた。

田澤さんの部屋は南側で、冬はよく陽が當つた。私がそれを羨しがると、

『横濱もよかつた』と、田澤さんがいふのだつた。

『横濱にゐるとよかつた！』

『私も。二年にはなつたけれど、横濱にゐれば假出獄で屹度こゝでより早く歸れたと思ふ。』

一坪ほどの監房を背負つた蝸牛のやうに、私共は出ることの出來ない監房の中から顏だけ見合はせて悔み合つた。

その夜は、私は極つて横濱の夢を見た。明るい、よく陽の當る監房。海に近い空氣。おとなしいクリスチヤンの監獄醫つ（八王子では、醫者まで、、、、、のやうな男だつた。）私は今でも週期的に横濱に住んで見たいなあ、と考へることがある。

正月が近くなると、寒さは段々と強くなつた。大正六年の冬は珍しい寒い年で、正月迄には三度も相當の量の雪が降つた。私は自分の監房の中にゐたから、冷たければ懷手はするし足は着物の裾の中にくるんで坐りはするし凌ぎよかつたが、工場に出る田澤さんは汲み置きの水で氷を割つて顏を洗つて、工場で素裸かになつて着物を着替へるのが辛いと云ひ／＼した。

『さあ、皆お正月には御馳走があるぞ。シツカリ夜業をやれ。』

鳥居さんがから觸れ歩いたのは年の暮の二十七日か八日の夜で、その日は炊場の方で終日餠搗きの音が絶えなかつた。

翌日の日曜は、午後は風呂と爪切りと頭剃りとで、監房の扉は開けつぱなしであつた。そんな時は取締り達は忙しくて居殘りの少ない人數では充分監視は出來ないので、四人はお祭りの氣分であつた。獨房では向ひ合ひ同志が入口の際までにじり出して來て、話がはづんだ。私も田澤さんと腹一杯の話ができた。

『正月には、三ケ日こんな大きなのし餠を一つづゝくれる。』

『御馳走はある？』

『お菜が三度々々つく。』

『お正月がすむと二月。三月が早く來ればいゝ。』

『私は毎晩自宅に歸つてゐる夢を見る。』

『私は毎日一度づゝ、出る日が何曜日に當るか計算して見る。火曜日になることもあるし、金曜日になることもある。』

「貴女は、あと何度監獄の御飯をたべるか勘定して見たことがあるの。」話は他愛なかつた。

その頃となると、夜は寒い北風が手にとるやうに街の雜音を運んで來た。

晝は第一に工場の騷ぎがあり、役人達の往來も多く何くれとなく紛れてゐるが、夜監獄内がシーンと靜まり返つて來ると、反對に街がそのおどけた生々とした音響で監獄内に侵入して來た。賣り出しの樂隊がセカ〳〵とおどけた調子で譜を刻んで行くと、ワーッ、ワーッといふ鬨の聲が起り、犬が鳴き子供が走る。

ごく稀れには人の不確かな話し聲も痰を切る音も聞へた。

社會にゐる人凡てが凡て、決して樂しい正月ばかりを迎へるのではないことはよく知つてゐても、私共はそれが高い塀一重向うにあるといふ丈けで、社會にゐて最も不幸な人でさへ、私共よりはどんなにか幸福である者のやうに考へ勝ちであつた。

大晦日には半日で仕事を休んで、午後は髮を洗はせて貰つて監房で本をよんで暮した。が、心を感傷的にしまいとしても、ともすると母の許で送つた頃の大晦日の忙しさ賑やかさが思ひ出されて、兄や姉が母をとり卷いてゐる郷里の爐邊がなつかしまれ氣持が滅入つてしかたがなかつた。

この日は、夕飯に油煎りのうどんのお汁がついて來た。夜は教誨師は夜半まで居殘つてゐて、監房を一つ々々訪問して廻つた。典獄はこの人のしつこさにホト〳〵愛想をつかしたものであつたが、この女だけはその耐忍の厚さ、その女らしい感激の強さに一寸頭が下つた。

四

翌日は、愈々元日だつた。朝起きて考へることは、一年の計でも一生の發展でもなく、いかにも懲役人らしく今日は餅が喰へるなあ、といふ位のことだつた。

が、それにしても今日は珍しく皆が朝から監房に揃つて食事が出來るので、それが又非常に嬉しくて私は心が浮々と樂しかつた。監房の扉が開いて掃除がすむと、何と思つたか無蹟病の無期囚が監房を全部年始に廻つた。無論役人に見付かつたら正月の朝から、、、、を喰ふ位な私共の經驗によると、、、、罰ではないので、皆ハラ〳〵として見てゐたが、幸運にも朝食の分配に血眼になつてゐる取締りの眼を免かれた。その無期囚はこんな半ば狂つた頭から夫の行爲を誤解して、夫を殺して來てゐる不幸な女であつた。私に三ヶ月ばかり後れて八王子には來たが、私が歸つた年の冬に死んだといふことだつた。

愈々、「炊場」が特有の騷がしさを先に立てゝ監房の廊下にやつて來た。

「お食事ですよ。」

聲をかけられて、私は慌てゝ立上つた。窓口を見てゐると、一合六勺の御飯と一緒に押し出されたのは、厚いボール紙よりは稍厚い位の

巾一寸五分長さ三寸五分位ののし餅一切れと、竹輪蒲鉾一片であつた。その他には味噌汁の實がさう思つて見れば平生より芋とか大根とか身につきさうなものが入つてゐる位のことで、描いてゐた喜びが大きかつた丈けに、どこにも『正月』を見出せなくて、私はひどくガツカリしてしまつた。

が、どんなに、、、、、、され、、、、、、れても、偶然より外にはこの問題に干渉を持つことは出來なかつた。囚人の聲は風が消してしまうし、長官がゐる東京は遠かつた。

諦めた私は、陽氣を持たぬ餅は味噌汁の中に摘み入れ、、、、、、、、や情なさと一緒に呑み下した。

晝は囚人が一番よろこぶ精進揚げであつた。何時もの四分六乍ら、小豆も少し入つて居れば赤飯といふのだつた。赤飯に精進揚げとあつては一年に數へる程のデインナアであつた。

この夕方、ゴマメの煮附けが來てその煮汁がウンと餘つたのを、朝の食事の鹽分不足に懲りてゐた私は、返へすのが惜しくて湯呑みの中にとつて置いた。

無論監房内に食物を蓄へるなどゝいふことは、嚴禁されてゐるので、それが發見されたが最後、どんな懲罰を食ふか知れたことではないのであつた。私は醬油の匂が洩れるのを恐れて、湯呑みの上に小型の本をのせ、その上に土瓶をのせて棚の隅に役人から見えないやうに置いた。

二日の朝が來た時、私は今日こそは甘味しい餅が喰べられると、イソ〳〵と喜んで差入口の窓の前に立つたものであつた。が、何と期待は見事にはづれたことか！『炊場』は何時もの朝の獻立通りを投り込むと、サツサとすばやく通り過ぎてしまつた。

二日の午後は、初教誨があるといふので、囚人がゾロ〳〵と全部私共の監房の前を通つて教誨堂に入つた。最初のうちはどんな人が來てゐるかと思つて囚人の行列が通ると退屈まぎれに顏を擧げて見てゐたものであつたが、私だと知ると若い男犯の人などが緘口して通るので、（それが一種の好意からであることは、その時の私にはまだ理解できなかつた）その頃ではそれも止してしまつてゐたが、その代りにその日は教誨酣はと思はれる頃、退屈凌ぎにフトンを足臺にして窓の鐵柵につかまつて、心ゆくまで戸外を眺めた。久し振りに、拘束されることなしに眺める空だの太陽の光線だの木だの土だの、不思議な魅力をもつて私に迫つて來た。何時か自由になる日、これらのものが皆自分の所有になるといふ事實が、何だか嘘のやうで仕方がなかつた。

五

どうしたハズミであつたか、この時私は偶然この高い窓の鐵柵の間から小さな硝子の破片を拾ひ出した。餘り思ひがけない拾得であつたから誰かゞそこに隱してゞも置いたのかと思つて尚ほそこを探してゐたら、機械に使ふ梭の管をさすに用ゐる、よく磨いた細い竹の棒が出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て來た。この二つは、半年程して運動に出されてゐる間に、私の失策きでも見付けやうとして入つたらしい生意氣な中年増の取締りに探し出されたが、それ迄は私の大切な玩具であつた。硝子の方はよく磨いて黑い本の表紙を裏にあてゝ鏡に使うし、管さしの方は本の栞につかつた。半年後探し出された時は部長や教誨師からひどく迂論臭から れ、出處を嚴重に糺されたけれど、前云つたやうな譯で偶然探し出したのであつたし、又拾つた物を部屋に置いてはならない規則も一向聞いてはゐなかつたといふ譯で許された。

これもその時分であつた。隣りの監房にゐた四年の放火犯から、織機糸の屑で造へた小さな草鞋を貰つたことがあつた。どうした譯からか、監獄から持ち出した草鞋は安産のお守りになるといふ迷信が行はれて高い値段で買ふ人があるとかで、男犯の人など指の間に入れたり髮の毛の中に突込んだりして持ち出すと前に聞いたことがあつた。從つて囚人の間でも草鞋の製作が仲々盛んである樣子で、私が貰つたものなども實に精巧に小さくよく出來てゐた。

この草鞋の方は、仕事袋の中に入れて可なり長い間持つて樂しんだが、どうも見つかりさうで、又見つかると與れた人に傷をつけることになりさうなので怖くて、何時か紙にくるんで便所の中に落してしまつた。

かうして餅も御馳走も不足はしたが、三ケ日と五日の新年宴會當日とは、晝と晩とはそれでも腹一杯食物は貰うし、私は平均して七分か八分目迄以上の成績を擧げてゐるといふので監房には本を入れて貰うし、あとはノビノビ本でも讀んで居ればよいので、正月がすむ頃は滿更でもない位に思つて存外に耐へる氣分になつてゐたやうであつた。その代り、それがすむとそろそろ寒に入るといふので、一方では又ひどく悄氣てゐたことも覺へてゐる。

けれど、いざ寒に入つてしまうと、お天氣は毎日續くし、日は少しづゝでも長くなるし、氣持の上では晩秋から初冬にかけての頃より、陰慘な氣持でゐることがズッと減つて、愉快に晴れ晴れとして來た。そして寒が半ばにもなると、もうあとは寒さも退く一方だと自分を慰めてゐたものであつた。

話は甚だ飛ぶが、次の大正八年の正月はこの七年の正月より萬事に陰慘な度が遙かに少なかつた。もう監獄の生活には慣れ切つてしまうし、これが最後の冬だといふ氣の張りもあり、前年ほどには深い感動も起さなかつたと見え、記憶してゐることは却つて前年のことが多い。

鳥居さんとも話の種もつきたし、田澤さんは晩秋頃から翌年の春迄ズーッと病監であつたし、隣りの放火犯も假出獄になる準備に炊場に出された。それで私は正月もほんとの獨りぼつちであつた。

が、この冬は流石に丈夫な身體もいくらか弱つて來たと見え、胃腸の障害のあと猛烈な神經痛が起つて來て、春が來る迄起居が自由でなかつた。そしてそれが私の痼疾となつて今でも油斷をするとそれにや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

られることがある。

今考へて見ると、肺病だとばかり考へてゐた田澤さんの病氣も神經痛も出てゐたやうな氣がする。大分痛んで病監に移る時などは、立てなくて衛生係りの囚人に負はれて行かれたことを覺へてゐるが、この夏古いものを整理してゐたら、出獄するとすぐ田澤さんが自分では書けなくて看護婦にでも代筆をさせて書かせてくれたらしい手紙が出て來た。これで見ると田澤さんは私が出獄してから二ケ月と一寸で出て來てゐる。日附は十二月二十五日としてある。

いよ〱おしつまりました。お變りは御座いませんか、お伺ひいたします。在監中はあなた樣に御同情申上げてお慰め致したいと存じましたが、何分御承知の通りで思ふ儘にならず殘念で御座いました。それで早く自由の身になつて、思ふまゝに悲しい思ひ出を語りたいと存じました。

あなた樣が放免なさる晩は、私は眠られずにのぞいて許り居りました。後は非常に淋しくて監房に歸つて來ると、毎日泣いてばかり居りました。………お陰で假出獄になりました。早速お目にかゝりたいと存じましたが、官の命令された日に歸住地に到着いたさねばなりませんのでどこへもお寄りせず兄の迎へをうけて急行で歸りました。一家の喜びは筆にも口にもつくされません。萬事お察し下さい。母から伺ひましたら深切なお手紙を下さいました由非常に喜んで居りました……歸宅後は早速お手紙差上げる筈でしたが、御承知の通りの病人ですから見舞客の應接などにつかれ失禮して居りました。又昨年の病再發いたし只今にては仰臥のまゝ看護婦さんのお世話になつて居ります。今日あたりは熱も下り食事も少々頂けました。醫者はまだ一寸起して貰ふことも止めて居ります………あなた樣も獄中でお身體をお痛めですから充分御養生下さい。何卒いつまでもお見捨てなく御交際を願ひます

………

尙ほその次に來た年始狀には、再生の喜びを細々と書き、私が書いたものを讀んだと云つてその感想を書いてよこしてあつた。

病氣は自分が肺病であつた上に營養不良と腸の障害とでよほど重患であつたらしい。どうしても四五ケ月はかゝると醫者は云ふとのことであつたが、大正九年の夏一旦は起き上つたのが、冬が來ると又矢張りいけなかつたやうであつた。

『結婚の話も何囘か持出されたが、前科者といふことが障害となつて、矢張り旨く話がまとまらない』と云つて來たのは、十年か十一年頃であつたらうか。それから又間もなく來た手紙は冬であつたが ひどく絶望的で、恐らく永久に一年の半ば以上床の中で生活しなくてはならないだらうと書いてあつた。

『もう半ば廢人になつてしまつた。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私はかう書かれたのを讀むと、無性に悲しくなつて、夜通しに歔欷の手紙を書いたことを覺えてゐる。その後田澤さんを大變に愛して田澤さんも愛着してゐた兄さんが亡くなつて、急に寂寞を極めた田澤さん母子の生活を、私は遠くから思ひやつたものであつた。そのうちに私の方では一家が順々に病み、私はそれにかまけて二三年田澤さんを見失つてゐた。

『屹度社會で逢ひませうね。』

『屹度。待つてゐます！』

放免の朝、私共は長い友愛の決算をつけるもの〻やうに、別れを惜しんでから言葉を番へた。だのに、何故あんなにも不信を敢へてしたらう。何故自分から進んで、飛んで逢ひには行かなかつたゞらう。悔んで返らない過去である。生命を惜んで、何時か何時かと思つてゐる間に、かぼそい方の生命の火が、生存の嵐に揉まれて消へてしまつたのである。

私の心は暗い。

六

この原稿を書かうと思ひ立つた時、私は大正六年から八年迄の三つの正月を順に書いて行かうと考へた。ところが田澤さんの死を知つて見ると、監獄のことを考へてゐると自然田澤さんへの思慕が私の心の大半を占めてしまつた。そしてこんな大正六年の正月を中心とした思ひ出のやうなものが出來上つてしまつたが、監獄の書齋が「三つの正月」にあつたのであつて見れば、私はこゝで横濱の監獄ではどんな正月を送つたかを一寸書き添へて置きたいと思ふ。

暗い八王子から明るい横濱へ！　刑期前に、私は今でも横濱に住んで見たいと考へることがあるといふことは、もう前に書いたと思ふ。それほどに、横濱での追憶は何もかも明るい。

これもこの間古いものを整理してゐた時に出たのであるが、大正五年の年末近くに、友人に宛て〻書いた手紙の一節に、私はこんなことを書いてゐる。

…………監獄の凄じいほどに靜かな夜が來て、川端を走るらしい電車の音か街の犬の遠吠より外には物の音も聞えぬ頃になると、水を打つたやうな監房のどれからか、チ、ヽと鼻をかむ音がよく聞えます。晝間はそれでも何かに紛れてゐても、夜が來れば親のこと子のことを思ひ出して、涙にくれてゐるのであらうなど〻想像して、書物に讀み耽つてゐる時などでも、私は矢張りその悲哀に引込まれて涙を流してゐます。けれどもさうした發作が今日は私自身の上に來て、自分で自分を押へることが出來なくなりました。恐らく今夜は私の悲哀が、凡ての監房の人々の悲しみを誘つたでせう…………

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多分この手紙を書いた頃は、横濱の未決監の十ばかりある監房は滿員だつた。それが年末近くなると、(役人も年末は氣か急くと見へて)服役するもの、保釋になつて出るもの釋放されるもの、それ〴〵の自分達の道に出て行つてしまつて、私の外に殘つたものは二人の放火嫌疑犯だけであつた。一人は十六になる娘で、他の一人は七十餘りの老人であつた。私はこの二人と一緒に大正六年の正月を迎へた。

娘の方は、十七になると間もなく一年の刑に執行猶豫がついて嫁つて行つた。田舍から蕎麥屋をやつてゐる横濱の親戚のところに來て手傳つてゐるうち、その家から火が出てどうしたことからか嫌疑をかけられたのだつた。前に書いた年老の部長はこの娘の無罪を心から信じてゐて、火は客が捨てたマッチから起つたものらしいと云つてゐたが、無論證據などあらう筈はなく、許されては檢事からの再審理申立てゝ、一年近くも繋がれてゐた樣子だつた。悲しさうな顏が人を見る時懐しさうに輝いて、若い經驗を持たない心が、どんなにか痛ましく傷つけられ、それを深い忍從の心がヂーッと堪へてゐるのがよく分つた。

老人の方は農婦だつた。若い時から苦勞をして造つた身上を、息子が粗末に扱ふのが不滿であつたところに嫁との折合ひが惡く、そこに火が出たので嫌疑が彼女の上にかゝつたものだつた。

『お前さんがつけた』と、嫁が近所の者に洩らしたのが嫌疑のかゝる原因になつたと云つてゐた。

老先きの少ないことを知る無智な心が、絶望的になつて世と人とを呪ひ自分を悲しむ姿は、仲々見てゐられなかつた。が、これも嫁が姑の拘束に驚いて、公判の時に檢事の前に自分の失言を泣いて詫び、決して嫁からさう思つてゐたのではなく、火は多分老人が自分に頼まれて納屋の物搜しに入つた時ともして行つた提灯の火が落ちて發火したものだらうと姑の爲めに辯護し、自分の失言で姑が罪に落ちるなら自分の方を罪に落してくれと土下座をして判事を拜んだといふ悲劇が、さすがの役人の心をうごかして、これも間もなく過失罪として輕い罰金で刑はすんだ。

けれど、そんな事はまだ後の事であつた。正月にはまだ誰れも一ケ月か二ケ月後にはそこを出られやうなどとは夢にも思はず、出て行つた人々が殘して行つた空虚を見詰め自分達の不幸を悲しみ合つて、不幸な正月を迎へることに自分達の心をむけてゐた。

正月には、娘の方は風邪を引いて寢込んでしまつた。そして可なり長く監房にばかり入つてゐた。それで午後一時か二時にする運動は、私と老人と二人切りであつた。

運動場は、沸湯場の前の日當りのよい暖いところにあつた。そこに老人と二人出て命じられた通りにグル〳〵歩いてゐると、老人の方が息を切らしてしまつて、枯れた芝生の上に居坐わつてしまうことがあつた。と、私も一人で歩き廻るのが馬鹿々々しくなつて、老人と並んで二人日光浴をして時間を潰してしまうのだつた。取締り達も、後に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は何とも干渉しなくなつてしまつた。

そこの運動場の隅には、何といふのか見慣れない種類の木が二三本隅の方にあつた。それは餘り高くはならない種類の木で、かなめの葉とは又チョッと小振りな葉が長く——十二月の頃までもついてゐた。

ある日、私はこの木の葉の落ちたものゝ後に、もう眞赤な芽が春をも待たずにチャンと出來て、今にも伸びようとして形を整へてゐるのを發見した。

古い生命が終らないうちに、もう新しい生命が芽ぐんでゐた。新しい生命は、舊い生命の存續を惱んでゐた。

私は、急に自分自身を振り返つた。そして自分の中にも、その木と全く同じ作用が行はれてゐたことも發見した。私は、古い生活を踏み潰したあとに、始めて新しく生きる道が内にも外にも開けかゝつて來てゐることに眼を開いた。

二月の後、私は保釋になつてそこを出た。

無限の鐘

細井和喜藏著

細井君の死は惜しみてもあまりある。半世を勞働生活に虐げられた末、刻苦精勵の結果漸くにして勝ち得た文名が餘りにも早く訪れた死によつて、完成を見ずして中斷されたではないか。勞働出の作家とし一此れ程良心を持ち礫りと大地を踏んでゐたものがあらうか。本書に氏の筐底に秘められたる未發表の短編數種をまとめたもの。細井氏が得がたき天才作家であることを知る好個の作品のみである。

四六判上製　柳瀬正夢裝幀　定價貳圓　送料十八錢　改造社發行

法被を着て

新村出

昭和二年の八月、私ははじめて高野山に登つた。それは改造社の主催にかゝる文藝講演會の科外の小話をするためであつた。長男Hが遍照光院の大雅堂の襖繪をみたいから連れていつてくれといふのを同伴して、八月十四日の朝、大阪經由で高野電車で登山の途についた。山駕籠にゆられながら、涼しい山蔭を、古杉老檜のそびえたつ谷あひを見あげ見おろして登つてゆく氣持は、夏を忘れ世を離れさせて、なるほど時々はかういふ山岳趣味もすてたものでないなと思つた。紅葉谷あたりで、下山してくる阿部次郎君と山本社長とに出あつた。あちらは徒歩だ。二言三言ことばをかはして別れたのは物足りなかつた。古建築精華の著者として知られ又高野通なる岩井雅南君の先容を以て、私たち父子は親王院に投宿した。院主水原堯榮師は、高野版本の研究家として著名な學者でもあり、その説に從へば、當院は私の讃仰し奉る所の眞如法親王の御由緒のある名刹でもあつたからである。

夕かた風呂からあがつてくるや否や、院主はもう野山版のかずかずをもつてこられ、法親王の尊影と傳ふる一幅の掛物を壁間に懸けて、應接のひまなさばかりに、懇切に説明してくれられた。翌日の午後に私がするはずの講演は、「高野山上よりヰリアム・モーリスを想ふ」といふちと仰々しい演題であつたのだから、中世の高野版をかれこれと提示されて、それをゆつくり目睹攻究することの出來たのは何より珍重であつた。私はその夜三寶鳥をきゝにゆく風流氣を起さず、ひたすら野山版に親しみぬいた後、月さえてひえびえする初更のころ、兒と共に寢についた。二十五年來親子だけの旅行はこれが最初であつたから、老いゆく私にはこの行はうれしくてたまらなかつた。而もそれが高野の山中である。芭蕉の名句もおもへば、苅萱の故事も沛想される。こんな由なきことを考へながら、私は安らかな眠りに入つた。

翌朝私は水原師に導かれて篤脳炎上した金堂の跡をとぶらひ、靈寶館に入つて出陳の名畫や彫刻を見た。惠心僧都の彌陀來迎圖のあざやかさ、佛涅槃圖のうつくしさ。大師の名筆と西行の文書、それらにも飽かずながめ入つた後、私は院に歸り、午報のサイレンのひゞきやラヂオのおとなひやらに、いさゝか中古中世の夢を破られ、午食をした

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ためて隈なく莊嚴場たる千體佛ともいふべき大伽藍に入つた。私はまづこの自然と藝術との融けあつた靈地を禮讚したあとで、中世的ともいひ得べきこの聖境に於て、中世主義の權化ともいふべきヰリアム・モーリスに對する私の憧憬の情をおべる機會の與へられたのを喜び、大師樣の智慧のうるはしき高野版の逸品を稱美し、歐洲中世期の書風乃至近世初代の活字本の流れを汲まうとしたモーリスのケルムスコット版を鎌倉時代の野山の大德の業績に結びつけつゝ、モーリスが社會主義に奔りながらも、當代の商業主義をのろつて中世を渇仰し、殊に古活字本の復興を十九世紀末に試みた高邁な意氣を敬慕し、一切の書物藝術のほか更紗ゴブラン織壁紙等あらゆる工藝美術に手を染めた偉大さを讚揚した。辭及ばず時足らず十分に意をつくすことは出來なかつたものの、モーリスに對するあこがれの念はほぼ滿たすやうな氣がした。私は幸にまだ高野の俗臭をかゞずに、昨日は物すごくそゝりたつ古杉老檜を俯仰し、今日は金堂の燒跡と名寶の靈氣とに接したばかりであつたから、單に野山の寺々を遂に見ずにゐるカンターベリーの伽藍と連想しなどして、まつしぐらにモーリスの精神に觸んと欲して、夢を作つてたのしんだのであつた。講演の最後のことばとして、私は改造社が更に進んで印刷藝術をおこしモーリス流に中世式書物の製作に力を竭くすの日の來たらんことを奇蹟をのぞむがごとく夢想するといふことを述べてひきさがつた。私の夢物語は二時間近くつゞいた。聽衆は百にも滿たなかつた。山上の空氣はすゞしかつたが、さすがに午睡に適する一時から三時までの間であつた。私は自分の夢をかたるひまに諸君は隨意に夢を見られるがよいと、あらかじめ冒頭にことわつておいたのであつた。

私は講演の後水原師の案内で正智院を訪うた。彫版の野山古版の三教指歸などを見せてもらふはずであつたが、住持不在のために果さなかつた。然し名高い古塔に入つて美しい佛像を見るの福を得たので失望せずに院を出ることが出來た。みちみち高野の町の半分をも見た。私の夢はいくらかさめねばならなかつた。正智院にゆくまへ金剛峯寺をもたづね執事から野山境內の土地問題住宅問題などに關する現代的爭議の一端をもきいた。きかない方が幸であつたが、きいてしまつた。見ない方が仕合せであつた町を見てしまつたのは止むを得ずとして、こゝも亦浮世なりけりの歎聲をもらさずにはゐられなくなつた。然しその浮世のおかげで、甲子園の野球戰の今日の勝敗が、郵便局か銀行かの前の掲示板に速報されてゐるのを見ると、私の郷里の靜岡中學がもろく負けてゐるのが出てゐる。私は長男を顧みて苦笑したのであつた。私は私のモーリスの講演が、けふの町の散步と翌朝奧の院參詣とよりも以前に行はれたことを感謝しなければならなかつた。銀行や郵便局を見たり警報や午報のサイレン塔を見たり建築中なる鐵筋の大學圖書館を見たりした後だと、私の夢物語はあれほどにもやりおほせなかつたかも知れない。

翌朝私は水原氏の嚮導によつて奧の院に參詣した。大雅堂一間張り

の長男はどうしても奥の院參詣を肯じない。彼は大師よりも大雅堂を崇拜するために高野山に登つたのであるから、あすの豫定の遍照光院にさへゆけばいゝんだと頑張つてゐる。私はあとで成程とおもつた。水原さんの指導で、左右に新古さまざまの墓碑を見つゝ、次第に奥ふかく歩み入り、或は嵯峨本考や訪書餘錄で一ころ鳴らした和田雲村翁の墓にまゐつたり、或は今秋全集が完成しかゝつてゐる契沖阿闍梨の碑を拜したり、或は父母を戀うた芭蕉の句碑をたづねたり、最後に御廟のまへにぬかづいたりして、さまざまの追懷や敬慕の情をつくし讚仰や興味の念をみたし得たけれども、興趣あくる日の赤不動や大雅堂の藝術には若かなかつたといへばいはれるかも知れない。

野山はまた私に新知の友三人をさづけてくれた。その一人は野口米次郎氏であつた。野口さんも令息をつれて來られたのであつたが、一度はわか宿坊親王院に於て、一度は明王院に於て、それぞれかなりの時間に同席會談するの機會を得た。その朗らなる音調で在米中の生活を快活にはなされたのは私たちに忘れえぬ印象を與へた。明王院に野口さんと私とが招かれていつた八月十四日の夜、そこの本堂の軒端に盆燈籠がたゞ一つ吊るされてぼんやり闇夜をてらしてゐた情趣も亦きえがたき印象の一つとなつてゐる。一ケ月まへ長崎で見た盆祭とは全くちがつた情致だと思ひつゝ私は暫くたゞずんでながめいつた。その夜大門あたりで三寶鳥がよく鳴いたといふ話をきいて、野口さんも私も人に促がされつゝもたうとう聞きにゆかずに明王院から直に各自に宿坊にかへつて寢てしまつたことを、翌日お互に殘念におもひあつたのであつた。野山を下りかけのあわたゞしい十六日の午後、明王院の廊下で佐藤春夫氏と片上伸氏とに出あつた。赤不動を拜するまぎはの刹那に簡短なる挨拶のことばをかはしたにすぎなかつた。私は京都に歸つてから、佐藤さんは改造社の濱本君を介して、私の近著たる船舶史考に拙筆の自署をせよと要められた。まゝよこれも記念だと思つて私は少々痛み入りつゝも歌の形にした文句を例の惡筆でなぐりつけて一笑を博したのであつた。今はつきり記憶せぬがこんな文句であつたかと思ふ。

不動見むと明王院のまへにたゝずみはじめて君と相知りしかな

大雅堂の名畫のまへにまた逢ひてまた別れにし君をしぞおもふ

とかいふやうな所謂たゞごとうたであつた。佐藤さんは見てさぞ笑はれたこととおもふ。もう一つ拙著に即いては、

熊野びと君が乘るべき船にあらず綱手あやしき船舶史考

とか何とか書いたかとおぼえてゐる。いづれも後日のおもひ出草だけである。

赤不動の靈感、大雅堂の洒脫、げにも人の高野の見るものにしてゐるのも尤だと感服して、やがて院主に謝し親王院を辭し去つた。遍照光院では高野大學に來講在宿中の木村泰賢博士とはからず相語るの機を得たが、同じく出講假寓中の老傑松本文學士にはまみゆるをりを失ひ、午後三時、再び山駕籠でかつぎおろされる身となり、京は東山

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に大文字の火とぼる宵の山ごもりに歸つて來た。

何日かたつてから一新聞紙の茶話欄に、なにがしが高野山に既本の宣傳をしに出かけたとやら、宣傳ならいッそ法被を着てやつたらよいのにと言つた人があるとやら、寸鐵を打つてあつたのを見て、善いかな言やと私は微苦笑を禁じえなかつた。私は去年の春、これはちやんと私の名を掲げて、私がわかき人々が書くなる一文藝雜誌にさへ筆を執つたといふのをとらへて、ニキビざかりの青年に伍してとか何とかいふやうな冷笑を或紙上の六號欄にかいてあつたのを見て大に笑つたことを此際想起したのであつた。そのをり私はニキビ考といふ語源考證をこゝろみて、その同じ紙上に寄せようかと思つた。考證の材料はいさゝか集つたけれどもまとまらないうちに一年半ほど經過した。今度もハッピ考といふものを草して改造からの原稿の求めに應じようと企てたこともあつたが、材料はまだほんの少ししかよらない。初秋になつて芥川龍之介集をよんだところ、そのうちの澄江堂雜記のはじめ方に、ニキビと題してほんの三四行の偶筆があるのを面白くよんだ。故人は中古にニキビを二禁また二君と漢字をあてゝあるのを發見し、「尤もかういふ發見は、僕自身に興味がある程、傍人には面白くも何ともあるまい」とことわつてゐる。私がニキビ考を發表しないうちに、芥川君が先鞭をつけてあつたのを、私はおくればせに知つたのである。そこで私は私のハッピ考をなるたけ早く發表しておいてプライオリチーをとつておきたいと思ふ次第である。耶蘇教の方では、もし人あり、汝の右の頰を打たば其人に對して左の頰を向けよとかいふ格言があるさうである。私は、何か苦々しいことばを受けたら先づ語原をしらべることにしてあるので、法被を着て宣傳せばよかりしにといふ語をいはれた後には、その言の理否を究めたり解嘲の要の有無を考へたりする前に、直に先づ辭書に向つてハッピといふ語の出典と沿革とをしらべはじめて一の智識を増したのを喜んだ。これ嘲笑者に對して善いかな言やと受けた所以である。一語以て我師とするに足るのである。

私が法被に注視したのは決して今度の先賢の冷評にはじまるものではない。尤も東京に於て幼少のをり舊江戸傳統の火事裝束を見たり、長じて古く音羽屋などの藝を歌舞伎座や市村座で見物したりして以來といふほどではない。二十年前オックスフォード大學の或學寮、たしか、ベリオル・カレッヂかと思つたが、或教授の書齋にとほつたとき、壁間に麗々しく印半纒がかゝつてゐるのを見せられて驚かされたのが、私がハッピに對する感興の動きそめた抑々の初めである。その少壯な教授は、何でも當時東洋漫遊をしたとかで日本からそのシルシバンテン一名ハッピなる物を一着買求めて牛津にかへつて來て賞美しつゝあつたのであるらしい。それは明治四十一年すなはち西洋紀元の一九〇八年の冬のことであつたと思ふ。その頃から既に西洋人がハッピを珍重してゐたのであらう。然し、今日米國人などがハッピーコートなどといふ名前をつけてそれを呼んでゐるといふか、さういふ名

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

語が當時存在したかどうかを私は知らなかつた。さすがのNED大辭典にも出てゐないから、それがキモノといふ語のやうな日本語の移植語と承認とを見ないかぎりは、NEDの編纂者も、また私のするやうな語源考究を企てはしまいと思ふ。從つて私の語史研究がNEDに拾はれるか否かは固より保證されるかぎりではない。今日米國の婦人などが、ハッピーコートなどとしやれて、これから樣々な模樣をした衣裳を得々と着てゐるのは、厭はしく感ぜられるが、語調のいゝのはさすがに音數の諧は國語のことだけある。但し乃語源がいゝ。

古くからハッピといふ語に法被といふ漢字をあてゝあるが、法はハンピ即ち半被の文字が語源をなしてをるといふことである。半被にハンピともハッピとも同樣に振假名をほどこしてゐるのは、少くとも元禄時代にさかのぼり得る。語言學者がさうである、下つて倭訓栞にも半被をハッピにあてゝあり、俚言集覽にも同樣である。されば語源には、半被が正說でハッピとなつたので、法被は當字であると見えてゐる。徳川中期の風俗たる妙心寺の無著道忠が著はした禪林象器箋の第二十六類なる器物門の僧服の項をみると、法被は椅子を覆ふ蔽ひのきれであるとのことで、大法被といふのは、法堂座上に掛下するの被なりとある。室町時代末葉にてさう使つた樣に見える。由來は古い。然しその法被を俗服とした用語例は、少くとも禪林象器箋ではわからない。足利時代では唐物飾用語みた儀式の備物すなはち用具として法被の語があつた。庭訓往來や下學集、それ以下同樣である。法被が坊さんの用語になつたか否かを私は知らないが、[illegible]にはハッピといふものが用ゐられ、[illegible]などの俗化を見て出て來る。そのハッピは、中古の[illegible]の系統であるのか、それとも俗服の[illegible]であるのか、これも布帛や裁縫の研究者に質して見なければ判らない。但し半被のことを[illegible]に用したが、半被は元來[illegible]のない短衣で、具足をするをりに、札と下着との間に着用するものだといふ。袖のある中世以前に於ける法被のハッピとは全くちがふ作りであるが、私の考へるやうに推して日本でいふ所の洋服のチョッキが葡萄語のヂヤッキ（チヤケット又ヂヤケツ）から出たとすれば、丁度袖のないチョッキと袖のあるヂヤケツとの關係の通で、袖のあるハッピと袖のないハンピ又ハッピとの關係についても、亦その名稱の轉用はあり得べきことと思ふ。ハンピと發音れるのがハッピと促まるのは、日本語の音韻上普通で有るし得べきところである。寛永頃の版本の節用集の衣服部には半被をハムヒと假名してある。この公家の故實書は[illegible]とそれぞれ時の貴族や學者が傳寫した本によつて用意されたのである。何時から半被をハッピともいつたかは未だ明かにせぬが、古い本のたしかなのを見ないと、その變化は明かにしがたい。ともかくも半被の音訓ともに種々の轉用が許されるとせば、近世のハッピの由來は、僧侶の服裝からでなくて、武家の束裝から出來したものとなるわけである。然し如何にして袖のないものから袖のあるものの方へとかはつて來たものかといふ疑問はつかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。

また一々の脚本にもあたる暇なく、なほ委しく文献の穿鑿をしらべる時間もないが、櫻島國武の俳諧雜考に引いてゐる所によると、半臂は隋の大業年中から始まるさうである。隋書に出てゐるはずだが、詳細ながら私は日本中古の半臂の服裝の起源について考證を開始しない。また倭訓栞に、胴肩衣ともいはれる所の禪家に用ゐる半被なるもののことを擧げてあるが、この禪家所用のものは公家所用のものより起り、更に能樂家におよんだものであらうか、これ亦私の究めざる所である。近世の印半纏のハッピの起原は僧服だと小杉博士は述べたが、私のその變遷の經過を知らない。職人服のハッピの來歷の考證も亦甚いかなである。

最後に例の長崎吉利支丹版の日葡辭典を參考すると、ハッピはアウト(演劇)に用ゐる衣服だと釋してある。アウトautoはこの辭書の別條に能といふ日本語を譯したポルトガル語にも見えてゐる。アウトとは英語のアクトではたらき、しぐさであり、いはゆる所作でもある。即ち慶長時代ハッピは主として能樂に用ゐる一の服裝として知られてゐた。この辭書には半臂の名はさすがに出てゐない。故實にすぎるからであらう。半臂といふ文字は、倭名抄に見えるのを初見とし、それには背襠といふ唐代の俗語が用ゐられてゐる。枕草紙あたりにみえるはんぴはそれであるから、ハンピが支那系統であることは間違ひはないが、それから近世の所謂ハッピにうつるまでの徑路は將來の研究に待

つの外はない。とにかく、[illegible]なかつたのである。又あの職人服が[illegible]から出たとするならば、私が高野山でそれを着用しつゝ高野聖やケルムスコット版を說いたのも、萬更因緣がないでもなからう。句に曰く、

　法被着し禪衣や高野版

とにかく私が野川氏の講說は、あのとき和服でやつたのは事實である。但しこの句は人口に膾炙せる芭蕉の名句とおなじく無然である。さりとて決してムキになつたわけではない。たゞ私としては、芥川君が書いておいてくれた如く、「僕自身に興味がある程、他人には面白くも何ともあるまい」とおことわりしておかなければならない。

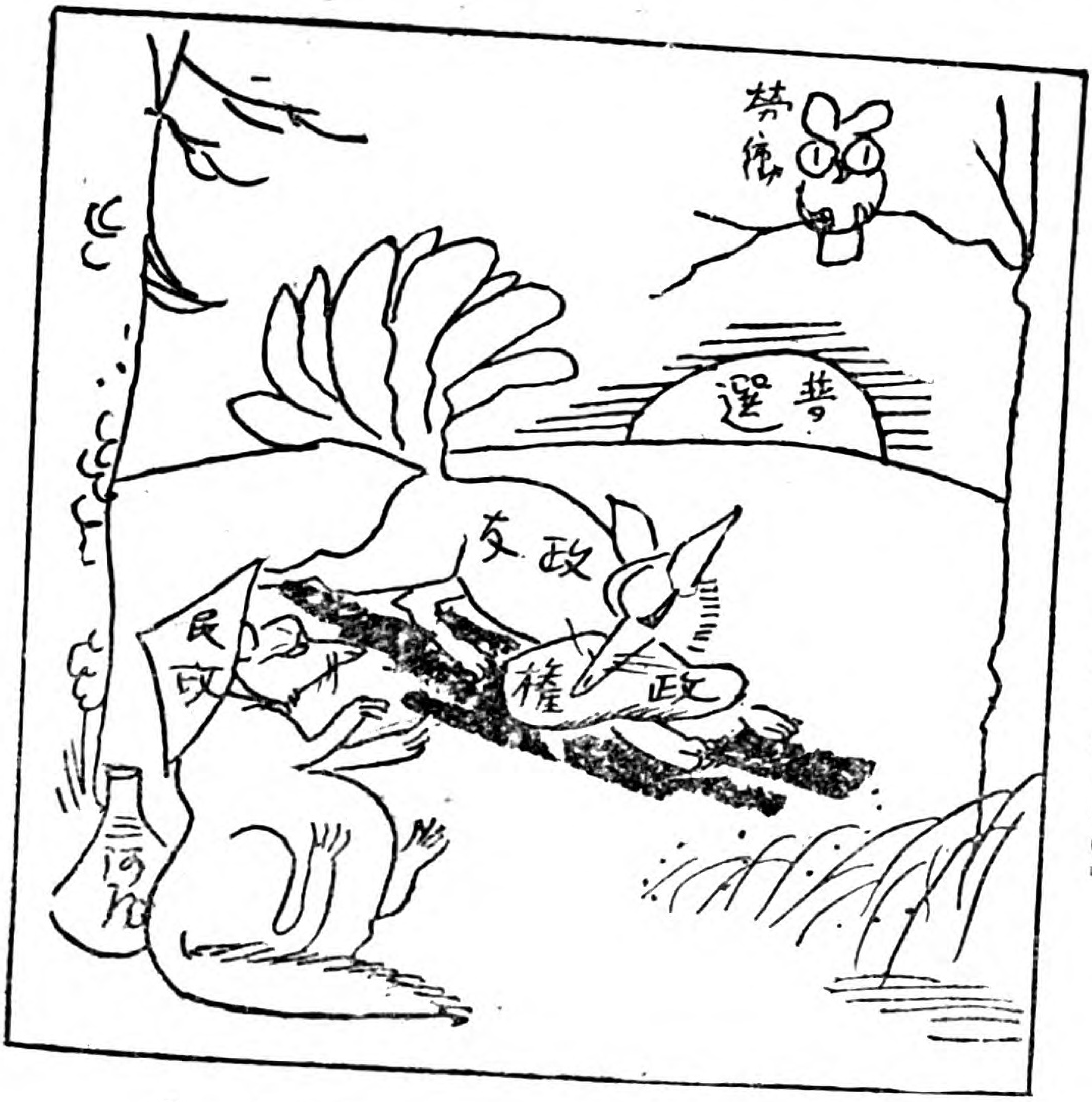
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

漫畫世相動物見立て

服部亮英

1

五十四議會の幕が開く、一塊の肉をくはへた古狐現はれ側に居る狸公にだまされまいと普選の月の前で爭奪戰を初める、夜は次第にふけて行く、フクロ「段々俺れの世の中になつて來たわい」



2

近代の雌鷄は如何にして雄鷄の目にふれんか、如何にして自分を知らしめんかと苦心の結果雌鷄の間に露出症と云ふ病が表はれた、此の病高じて雌鷄同志の鷄合ひとなり雄はたゞ傍觀。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



3 文藝の庭には、花や小鳥を外に圓本や印税で作つた犬舍の中に納まつてるブル犬と、どこまでも主義に生きんと勇敢に戰ふプロ諸犬が相對してワン／＼騒ぐ。



4 自己の志すまゝに、スポーツ、實力、學問等と青年の意氣を象徴化せる如き駿馬は互にいなゝいて決勝の蹄を爭ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勝てば官軍

江口渙

近來無産派文壇の強力な一勢力となつた雜誌「文藝戰線」を中心にして集結してゐた人々が、最初に中西伊之助、村松正俊の二人をアナキストであると云ふ理由でその集團から追放して以來僅か一年の間に遂に三度も分裂した。そしてその間に一方では「日本無産派文藝聯盟」「日本プロレタリア藝術聯盟」「勞農藝術家聯盟」「前衞藝術家同盟」「文藝解放社」の五個の集團の對立を見るに到つた。

世間の一部ではこの分裂と對立とを見て、無産派文壇に身を置いてゐる人々の態度の無さ加減と、勢力爭ひの醜さ加減とを嘲笑し、「そんなに小さく分派して終つてはどうして有力なブルジョア文壇に對抗して行けるか」と他人の頭痛を頻りに頭痛に病み始めた程だ。

無論、表面的に觀ただけでは、かうまで多數に分派しては、全勢力が夥しく減殺されるとも考へられやう。然し、事實は無産派文壇の勢力が絶對的に最近非常な增大を見たからこそ、そしてそれぞれ幾つかに分派しても十分存在して行けるだけの力を闘ひ取り得たからこそ、かく分派したのだと解釋するのが、むしろ正當ではないだらうか。殊に見逃す事の出來ないのは不景氣に依る印刷費の低下から、集團を基礎にする小雜誌、中雜誌の經營が比較的容易になつたばかりでなく、經營法の如何に依つては十分採算的にやつて行けるやうにさへもなつたと云ふ一事が自然にかう云ふ現象を導き出した一面の理由ではあるまいかと云ふ點である。そしてこの事實に從來所謂ブルジョア文藝雜誌にのみ獨占されてゐた文藝市場に對して、無産派文藝雜誌の進出が實力的に可能になつたためであり、從つて無産派文壇の勢力の著しい伸長の結果に外ならないと私は解釋してゐる。

だが、同時に他の重大な半面をも見逃してはならないのは云ふまでもない。だが、それは要するに無産階級運動の將來に對する見解の相違から誘導された對立。山川イズムと福本イズム。中間左翼と極左的宗派との對立。乃至は歴史的關係から結果された對立。舊「種蒔き」派と新「文戰」派。體驗派と智識派。勞働派と學生派。作品尊重派と理論尊重派。と云ふ風な對立關係から、殊にその背後に控えてゐる勞農黨內の左右兩翼の對立關係から誘導された勢力爭ひと、その勢力の將來に對する打算の差違から結果された出來事であつて、然かもあまりにも知れ互つた事實であるから、ここでは殊更省略しやう。

だが、殘留組と脫走組とのどちらが將來勝つだらうかと云ふ豫想は、私に多大の興味を與へる。無論、理論家同志の對立。殊に同志を缺如してゐる靑野季吉と、稀代の惡文家田口憲一との對立などは、まるでユルフンと齒なしの角力みたいで私には格別の期待を抱かせない。唯、興味は一つに懸つて作家の上にある。

片や前田河廣一郎。葉山嘉樹。小堀甚二。黑島傳治。里村欣三。片や藤森成吉、林房雄、村山知義の對立が將來どんな文藝陣を張るか。同時にどんな好き新進作家を養成し得るか。それに依つて勝敗は決する。

然し、元來が右翼左翼などと云ふ實際運動的區別の存在し得ない文學。唯、宣傳的か非宣傳的か、功利至上主義か、非功利主義か、そして優秀か、劣等かと云ふ區別のみが存在するだけの文學と云ふものの範圍內では勝利は要するに優秀な作品をより多く書いた者の手に落ちる。そして理屈はどうつかうとも有ゆる場合、必ず「勝てば官軍」である事を忘れてはいけない。(完)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會民主黨所屬「アカデミカー」會總會覗き

（滯獨日記の一節）

高野岩三郎

今年三月二日より七日に亙りエツセンで開かれた獨逸共產黨大會を傍聽して、其の豫想外に面白かつたのに味を占めて、私は四月十六日より十八日に掛けニユルンベルヒで催される社會民主黨所屬「アカデミカー」會の總會へ見物に出掛けることにした。殊に又五月下旬キールで社會民主黨の會催あり、私はこれへも出張して見る氣であるから、其の前一應同黨關係の知識階級連中のお顏や氣焰をも拜聽しておくのは無益ではなからうと考へた。

總じて此種の會合を傍聽するのには、單にいくらかの入場料を拂ふ外には、別段これと云ふ手續や面倒の要らないことは共產黨大會の經驗で分つた所である。入口で警官のお目玉の前を通らなければならぬと云ふやうなことは無い、（但、獨墺合併論者の姿が、大會々場の內でも外でも、少しも見えなかつた、私服警官の有無は知らないが恐らくこれも無かつたのであらう）併し「アカデミカー」會總會では、知り合ひのレーデラー教授の講演あることを知つたので、豫め出席の希望を傳へておいた方が宜しからうと思つたので、三月下旬同教授へ右の旨を申送つた。

レーデラー教授と云へば、數年前我東京帝國大學經濟學部のお雇教師であつた仁である。我國へ來朝前から既に社會黨に屬してをつたと記憶するが、歸獨後はハイデルベルヒ大學正教授として教鞭を執ると共に、好んで支那問題などを口にもし筆にもして國際問題を盛に論じてをる、兎に角社會民主黨內に於ける有數有力の學者である。獨りレーデラーさんに止まらず、曾て同じく我東大法科に數年間經濟學の教授をしてをり又同大學の經濟研究室の創設に功勞のあつたエンチツヒさんの如きも亦近年は獨逸社會民主黨內で學者として中々活動してをり、更に最近には同黨より推されてサキソン聯邦に於ける重要の行政官に就職した模樣である、我國政府と獨逸聯邦政府との間[illegible]とでも云ふべきであらう。と言つたからとて私は此等御雇教師の[illegible]いた[illegible]が近來になつて[illegible]して[illegible]內に不穩分子が[illegible]つたとは[illegible]く

考へない。獨逸でも有爲少壯な學者の中には社會主義者が多いのであるから、有爲少壯の學者と目を着けた結果が偶々不穩教師を招聘することゝなつたに過ぎないのである、人物の選擇は中々思ひ通りに行かぬのが世の中の習ひであらう。

餘談は思はず飛んだ所へ外れた。さてレーデラーさんへ書き送つた所が早速返事を與れた。出席を歡迎する。招待狀が來るであらうとの趣であつた。果して其れは屆いた。同會幹事を務めてをる檢事マルクスさんの發したものである。これで總會出席の準備は出來上つた。即ち社會民主黨所屬國立大學教授の紹介で、檢事さんの手で拵らへて與れた案内狀を持參して出掛けることになつた譯である。

四月十六日朝の急行列車でミユンヘンを出發した。春とは言へど南獨高原地方の空はまだ中々に凉ら寒く、殊に此の日は曇り勝の天氣に時時少雨さへ交へるので一層不愉快の感を覺へしめたが車中は宛ら春日和、疾走四時間、正午過ニユルンベルヒへ着、直ちに驛附近のホテル・ヴイクトリアに投宿する、小奇麗な氣の利いた宿、蒸氣暖房や冷溫水流出手洗器の設備等々一切新式、それで一日部屋代五マルク半は至て低廉と云へやう、小憩の後宿を出て市中見物に出掛ける。

ニユルンベルヒとは何時來ても氣持の良い町だ、都會の空氣は人を自由にすると云ふ言葉は此の町のために作られたもののやうに感ぜられる。獨逸は勿論、歐羅巴全體の中でも、ニユルンベルヒほど中世時代の城壁や櫓などが其の儘保存してゐる所は稀有だと言はれて居るが、其の堅固な城や櫓などが當時に於て自由市民の自由を確かと保護したものである。之と同樣に現今のニユルンベルヒも亦、新興勞働階級が其の權利に對して勇敢なる抗爭を試みてをる土地である。市の人口は約四十萬を數へ、工業の隆盛を以てしては、戰前に於けると同樣に亦戰後に於ても、南獨地方で屈指の都、從つて勞働階級の勢力著しく、國粹主義の本場と目せらるゝバイエルン聯邦の中に在つて、組合運動の社會主義の根城として萬丈の氣焔を擧げてをる處である。

ニユルンベルヒよ健在なれ。

市の北方の舊城内公園に登り市街を眺めてこんな事を考へながら、やがて宿に歸り、夕食を認めたる後、八時會場へと急ぐ。會場は宿の筋向ふなる藝術家會館内の小集會場である。會費二マルクを拂うて入場する。見渡せば約百名の席が備へられてあり、正面一段高き演壇の左右にはカール・マルクスとフアーデナンド・ラッサールの肖像が飾つてある。社會民主黨ニユルンベルヒ支部の旗が其の傍に立てゝある。簡素で瀟洒、此の會合に似合はしい設備であると頷かれる。會場では私は先づ幹事のマルクス檢事に挨拶する。三十代のてきぱきした仁のやうに見受けた。同氏の紹介により本部派遣の有名なヒルフアディング氏と二三語を交へる。ヒ氏は學者と言ふよりも寧ろ中々食へない老爺のやうな氣がした。

追々と人が集まる。各地の會員並に其の夫人連など合せて八十名許りと思はれる。大分遲れてレーデラーさんも見えた。早速挨拶して久

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

潮を紀し所會を喜ぶ。氏は夫人ー議會秘書に[illegible]の誤い「ドクトル」夫人ーを伴はれず、余も亦妻ー家庭衛に修練を積める?ーを同道せず、相身互身、何故夫人を連れて來なかつたかと云ふ詰問的質問にも會はで濟んだのは仕合せと云ふべし。

八時半開會、先づニユルンベルヒ地方會員を代表して「ドクトル」ズユスハイム氏の歡迎の辭あり、次で會を代表して他の幹事である辯護士プアイフエンベルゲル氏の挨拶あり。引續き音樂や舞踏や詩歌朗讀など行はれ十時閉會、要するに第一日は會員の顔寄せに過ぎなかつた。

第二日は朝九時過會場に行く、九時半開會、先づ幹事マルクス氏の開會の辭を兼ねての報告を以て始まる。之によれば昨年ワイマールで開いた第一回の會合には五十餘名の會員の來會を見たのであるが、今回の第二回總會では獨逸二十二の都會より約九十名の參會者を見るに至つたとのことである。氏は又述て云ふやう、吾々「アカデミカー」は決して現實の實際問題に就て社會民主黨の採るべき態度を左右せんと企つるものではない。此の如きは宜しく責任ある黨の指導者達に任しておくべきことである。吾々は社會黨と云ふ大組織の中に於ける一分子として吾々相當の仕事、卽ち大學的教育を受けたるものとして爲し得べき各種問題の理論的研究に共働し、以て全黨の運動に稗益すべきやう心掛ける積りであると云ふ意味を強調した。

議長より旣に紹介されたヒルフアディング氏は其の[illegible]を起して壇上に立ち、[illegible]の[illegible]で、其の[illegible]に語つた、吾々は黨所屬の「アカデミカー」の會合を歡迎するものであるが、たとひ「アカデミカー」が黨內に於て智識的指導者を[illegible]と欲しても、それは決して、多年の經驗ある吾黨の勞働階級を支配することは出來ない、「アカデミカー」は宜しくそれ〴〵の專門學科の範圍內に於て深奧な研究をなし、黨のために又勞働階級のために役立つやう努力すべきであらうと述べて、前述マルクス氏の所說に賛助した。

斯樣にマ氏やヒ氏が會の性質に關して殊更言を費やしたのは、蓋し此の會の創立以來黨內に異論少なからず、甚しきは學士連が黨內黨を立て、物議を醸するは百害あつて一利なしとさへ論ずるものもあり、爲めに會の幹事は黨內より賛否の意見を集め之を編纂して今回の總會の紀念「パンフレツト」として頒布したほどである。併し今度黨の本部より、幹部の一員であつて併も亦黨內切つての學者連の一人であるヒルフアディングを態々派遣し、上述の言をなさしめた所を以て見れば、此の會も先づ黨の公認を經たものと認めてよいことになつたやうである。

さてヒ氏の話が終つて、いよ〳〵總會の本仕事たる會員の研究報告に移つた、第一席を務めたものはエミール・レーデラー氏である、其の[illegible]を壇上に運んで、午前十時半から二時間に亘り、近代帝國主義に關し、其の起源發展並に特徵を、ローザ・ルクサンブルグとステルンベルヒの議論を比較對照したから、諄々說き去り說き來つて論

當を顧慮せしめた。但し講演たる學術的、理論的研究の發表であり、且概括的綜合的の議論に過ぎなかつたので、午後の討議に於ても、ヒルファデイング其他諸氏の質問はあつたが、大した論議も起らずに濟んだ。

當日會員の午餐會あり、私もこれに出席したが、抽籤抜きの席の定まらない集まりであつた。晩には演藝會の催があつて、ニユルンベルヒ地方特有の踊などを見せるとのことであつたが、誰もよく分る俗謠なしと見切りを付けて御免蒙むる。又晩方午後五時から會員のみの會合を開き、事務や會計の報告、役員の改選などの外に、ニユルンベルヒ地方會員よりの提出に係る二の動議を審議した。其の一は會名を改めて「アカデミカー」學術的社會主義者會とすべしとの案であつて、其の主旨は會員の範圍を廣めて學士達のみならず其れ以外の智識階級をも包含すべしと云ふにある。此の案は討論の結果次回まで繼續さるゝこととなつた。恐らく否決になるのではあるまいか。其の二は本會は宜しく社會主義大學の設立に努力すべしとの案である。これは可決せられ、其の實行方法に就ては黨本部と協議すべく會の役員に一任せられた。

最終の四月十八日の「プログラム」は伯林勞働者敎育會第二席として伯林の政治學校々長「ドクトル」メンニツケ氏の「倫理的思惟としての社會主義」と云ふ題での講演であつた。私も朝九時過入場して約一時間拜聽したけれども、講演も內容も乃至聽者の態度も一向感服しなかつたので、もはや會の景況も分つたし、旅途中で失禮して退場した。後で承知した所では、氏の講演の議論に於ては可成り強い反對論が盛んであつたと云ふことであるが、左もあるべきことと考へられる。

かくて私は此の日の午後には既にユルンベルヒに別れを告げて（恐らくこれが最後の別れであらう）、懷舊の情あり時も大會に相應はしいやうな物足らなさの感を抱いて、再びミユンヘン行の急行列車に客となつた。會の性質を熟知したかつたがために遠大の期待を有つて行つただけそれだけ又失望も多かつた譯である。それにしても餘りに餘りに活氣のない會合であつたことは爭はれない事實である。但し又退いて考へれば、此等の氣運は此の數十年間の會の上にも現はれて居る。戰前には大學教授で社會民主黨に籍を置いてゐるものは殆ど皆無であつたと記憶してゐるが、今日では學者で戰前より堂々入黨したるものは其數二三に止まらない。況して學生連中に至つては頗る多い有樣となつた。從つて又黨內に此の種の會の必要を見るに至つた次第である。但し伯林大學教授ドクトル某が可成り強い反對論のあるにも拘らず、敢てかゝる會を作つたのであらうかと云ふ理由に至つては、私は寧ろ下のやうに解釋してゐる。即ちカウツキー去りベルンスタイン老いたる今日、（是等二氏の議論の當否は暫く措き）社會主義內理論家に乏しきの觀あるを免れぬ。黨の勢力の世間的に大を加ふるに至つただけそれだけ、却て黨は、全體としては、動もすれば目前の問題や戰術に囚はれ過ぎ、其の結果妥協や迎合に傾き易く、黨の大目的たる新社會の建設に精進すると云ふ大切な事柄に遠かる嫌がないでもない。そこで私

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

際の智識階級が集まり、それ／＼專攻の智識が異にして種々なる理論を聞き、建設事業實行の方法を練り、以て內には黨員を刺戟し黨員を鼓舞し、外には益々智的勞働者及勞働者を黨に引き付けやうとするに至つたものではあるまいか。黨の幹部も亦此の必要を認めて會の成立發展を翼讃するに至つたものであらう。私の此の觀察が果して當つてをるか否か將た又此の會が、右に偏し過ぎてをると批難される現時の社會民主黨を、左に傾かしめるに働くであらうか否か、何れにしてもそは獨逸に於ける社會黨の現狀に關するものであつて、分裂に分裂を重ねておる我國の初期の無産政黨の狀態に直接關係することでは無い。併し我國の現狀でも官民大學の新思想家を中心として智識階級の團體を作り、理論の討究意見の交換を行ふのは全く無用の業ではなからう、などと、それからそれと入れ交つた取り止めのない感想に耽つて居る中に、列車はミユンヘン中央停車場に着いた。直に車を傭つてギゼラ街二番の假寓に戻つたのは十八日の晩六時過であつた。

白熱せる現下農村問題解決の鍵！

九州帝國大學教授　澤村康著

小作法と自作農創定法

最近資本主義經濟の行詰りと共に農民の急激なる無産階級化は、平和なる農村に各種の悲劇を起しつゝある。かくて我が農民は自覺を待つのみだ。彼らは政府に於て立案された自作農創定法の如きで果して眞に農村を救濟し得るか。吾等は先づ其の實狀を究明すると共に法の實質と[illegible]されねばならぬ。著者はこの點に就き[illegible]的見解を有する研究の學究、小作農自作農の今日に至る歷史的變遷を說き、英獨伊太利露國等の進步せる法律と對照し、我國の土地政策一自作農創定の諸問題、「農村青年の自作農創定維持補助規則に就て」「小作法案の要項批判」等の諸論文を收め、以つて物議紛々たる農村に關する各種法案の解決に[illegible]を提供す。現下必讀の要書として薦む。

改造社新刊（四六判 布裝）　定價壹圓八拾錢　送料書留廿七錢

言論の自由と大和魂

山川菊榮

待合の四疊半での取引と議場の暴行沙汰とけ、たしかにわが國の議會政治の異彩であり、それが單なる歐米のデモクラシーの直譯的な模倣でなく、大和魂の要求を十分に取入れた特殊的なものであることを證據立てゝゐる。四疊半の取引が、首尾よく纒まれば、議場は遊藝の席となり、さもなければ演武場となる。議場の空氣は四疊半の風向に支配され、それを反映する。議場は待合の延長であり、その影法師であるとしか見えぬ。

だから議場での言論の自由などは最初から問題でない。闘はすべき意見は持たずにたゞ腕力だけを持ち合せてゐる議員たちは、四疊半から吹いて來る風のまに／＼、右を向き、左を向き、鐵拳をふりかざして大和魂を發揮すればよいのである。

○

暴行代議士の公判に際して鵜澤聰明博士はかういふ意見を發表された。

『清瀬氏の言論が、言論自由の範圍を超え、議會における討論として許さるべきものでなかつたゝめ、各被告が議會の神聖を保つため之を留めたのは寧ろ公務であつて、之が公務執行妨害となるが如き議論は首肯し難い。各被告の行爲は寧ろ自治權の行使とも見られる。』（十二月三日、時事新報）

『清瀬氏の言論が議會における討論として許さるべきものでなかつた」かどうかは、議長の權限内に屬する問題である。然るに吾々は議長が清瀬氏の發言を禁じたことも聞かず、また清瀬氏がその言論のために告發されたことも、その演説筆記の公表が禁止されたことも聞かない。して見れば清瀬氏の言論は、『議會の討論として許さるべき』性質のものたるは勿論、わが國現時の峻嚴きはまる取締法のもとにおいてさへ、なほ「言論自由の範圍」をこえなかつたものだと認定するの外はない。然るに鵜澤博士によれば、國法が認めてゐる範圍内の言論の自由と、議長が許可してゐる發言の權利とを、個人的暴力によつて蹂躙することが、代議士の『公務執行』の一部分であり、その『自治權の行使』であるといふ。

法律家としての良心——もしさういふものを持ち合せてゐるならば——まで質物にして代議士の『公務』や『自治權』についての、かういふ解釋まで發見することに苦心しなければならぬとしたならば、辯護士稼業の浅間しさは、娼妓のそれに幾倍してゐることを、人間なら感ぜずにはゐられまい。

○

しかし個人的武勇をもつて言論の力と競爭しようとする大和魂の要求は、決してブルジョア代議士ブルジョア市會議員の獨占ではない。久しい間、封建治下に言論の自由を奪はれ、大衆的討議の傳統と訓練とを缺いてきたわが國では、國民一般を通じて言論の自由が十分に評價せられず、意見の對立を民主的、合理的に解決すべき手段としての討議の代りに、しば／＼個人的武勇が發揮せられ、現在支配階級によつて認められてゐる範圍の、極度に制限せられた言論の自由をさへ犧牲にすることが稀でない。國民一般のこの言論自由の水準の低いことが、やがて國法に反映して、峻嚴な取締ともなり壓迫ともなつて現はれるのである。論爭の中心たる問題の性質が重大なれば重大なるほど、互に十二分に意見を闘はせ、その論點を明確にしておく必要がある。然るに反對派にその機會を與へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ずにその主張を暴力をもつて脅迫しようとするのは、正當な言論の力では之を論破する自信のないことを證明するに等しい。暴行代議士の勇敢な『公務執行』や『自治權行使』——鶴澤博士の謂ゆる——が清瀬氏の論點を駁擊するどんな力となつたであらう? 國民は彼等の暴行によつて、田中大將のシベリア出兵がいかに當を得たものであり、その尨大な軍事費がいかに有意義に使用されたかを理解したゞらうか。

無產階級がその代表者を議會に送らうとしてゐる矢先、鶴澤博士の『公務』や『自治權』の解釋は特に注意を要する。大和魂か、大衆的討議の訓練か。わが國民の言論はどちらによつてその力をより多く發揮すべきだらう?(十二月五日)

路頭の賣卜

三石勝五郎

私は現在小石川區傳通院前大黑天境内に住んで居る。落葉した樹立の間から見上げる冬空は日々に寂寥を加へて行くが、お寺の屋根から舞ひ下りて來る澤山の鳩を相手に遊んでゐると、チリ〳〵と自宅福門堂の玄關に立つて格子を開けるお客さんがある。

『身の上を見ていたゞけますか』

と御婦人ならば遠慮勝ちで控へる。

『はい』と答へて『どうぞ、お二階へお上り下さい』と招じると、

『先生はいらつしやいますか』

と、先生は時々見違へられる事もあつた。

早稲田大學の英文科を大正二年に卒業して私は放浪の生活に入り、一燈園にも顏を出して、その記念詩集『散華樂』が新潮社から出版されるまでは十年以上の歳月を夢にした。

歸京後かりそめに提灯を點じて路上の易者となつて現はれるや、讀賣新聞の三面紙上で寫眞まで掲載して紹介せられ、爲めに天下の紳士淑女を初め、小僧さん達の手相まで見せてもらつてゐる。

同じ早大出でも、西久道君は日限会で賣り込み、自宅專門だから上品の客許り扱つてゐるに反し、私は健康で大道商人の仲間入りも出來て夜露を浴びてゐる。

紅塵万丈の都門も晝は往來忙しいけれど、夜に入りてやがて更け行く場末の露店の明り程、たまらなく懷かしいものはあるまい。燒とりやと並び、バナナやと共に時間を切る。やさしい娘さんの手を取りて、よい緣談のありやなしやを判斷して、輕く見上げる空の彼方よ。森羅万象は眠りに就いて、見よ、近くに未だ眠らぬ森がある。月がある。星がある。何處かで醉どれがどなつてゐる。運命の神が笑つてゐる。

見逃してならぬ世界は實にこれだ。私は神樂坂や本郷の赤門前通りが近いので、チョイ〳〵出るが、水天宮や深川の不動樣の緣日にも出掛ける。未だ學者氣取りで、何處までも眞面目に、判斷を致すと、

『三石さんは商賣が下手だね』。

隣りの易者仲間から惜まれる。聞けばお世辭がないからお客を逃すことが出來ない。從つて見料が十分いたゞけないんださうな。

それはよし、世上ではやはり信用が大切で、眞面目にお客さんの相手をしなくてはならぬ。來客中七分は婦人。そしてお客さんの迷へる胸中を察しながら、親切に導いてあげるが、よく的ると泣き出されて困る。

私の近くに『玉ころばし』と言ふうらないがある。安くて、はやる營業であつて見れば、薄利多賣主義がよいのかも知れぬ。彼方側で見て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來た方が私の所にも來る。迷ふと人間は幾度でも迷ふものらしい。私の家が大黑天の境内にあるので緣起よいからとて來る客もある。實際の所では、易者は別に學問もいらぬらしい。私は人好き、話好きだ。又斯道研究が面白くてならぬ。只今は一週一度宛依賴に應じて易經の講義をやつてゐるが、靜座や禪學は志す人達が集つてくれて隨分賑やかだ。

手相や人相、家相、方位又は姓名判斷等のお客さんがよく見える。暇の時は境内をぶらついて詩作に沒頭する。詩を作らうとあせるよりも、却つて自然に詩が生れさうだ。時々文學好きの青年達の訪問を受けても、餘談で長びき、肝心の來客を待たしたりする。

大道易者から、大黑天の境内に籠城するまで三年。過去を顧ると幾千のお客に接したが、判斷の適否は問はず、易者はたゞ迷へる小羊の爲めに杖ともなれ、柱ともなれ。

迷ひ

水天宮のおみくじを引くは紳士か
皆引いて
おまゐりする日の混雜さ。

みくじ引く
人の顏に
吉と凶とが影見せて
弱ぐれ〳〵の風ばかり。
十人の中
十一人は引いてゐた。

カール・カウツキー著
高畠素之譯
（忽六十二版）
改譯 資本論解說
■四六版 三三六頁 特製壹圓廿錢 ● 並製壹圓 送料各十八錢■

世界改造の大法廷は開かる。資本主義文明は今や最後の審判を前にして戰慄す。見よマルクスが印したる科學的文字は新興階級の經典として地球の全面に舞躍せり。時代の批判はマルクス學の批判より始めざるべからず。本書はマルクス『資本論』に平易明快の解說を與へたるもの、久しく專門學者の机上に置かれし深邃の典籍も本書いづると共に高級常識の一寄財と化せり。原著者は現代世界の最大マルクス學者、譯者は日本マルクス學界の巨星茲に著者譯者共にその人を得たり。

改造社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

昨今の兜町

安田與四郎

東京株式取引所の新築が落成して、新年發會から新立會場が使用される。兜河畔に聳え立つ希臘式九百十二坪の新建造物は、大正十二年に起工されて、四ヶ年有餘の歳月と、約四百萬圓の工費とを要したものである。新會場は大理石張り六百坪といふ宏壯なもので、新樣正に東洋第一の大市場たるに愧ぢない。斯樣に堂々たる建物を見るにつけても、昨今の兜町の寂れ方が、一層惨めに感ぜられる。世間では一口に兜町を黄金の巷と唱へる、何ぞ夫れ名實相伴はざるの甚しき。概算して一般取引員八十名、短期取引員百名と稱せられるが、その中には既に落伍したもの、將に落伍せんとしつゝあるものが、どの位あるか。詳しい事情は憚るが、兜町で高利貸の厄介にならぬ者は、數へるほどしかないと云はれてゐる。それは外間からは窺知し難き内輪の話、表面に現はれてゐる丈けでも、取引所からの貸與に由る復興資金、整理資金、第三及び野村銀行からの借入れ、身元保證金の約八割與、その證據金流用等、數へ來れば夥しい金額に上る。是れ等は皆共同の借金であつて、個々の借金はその數倍か數十倍か。

顧つて大正九年の株式價格に亂されたる所を見よ、斯くの如く市場の人氣は脅威を受け一としたるも、一方非株發行社の[illegible]の爲めに、何等の打撃を受けず、紡績、水電、電鐵、製糖、石油、取引所は勿論の事、保險條約の成立と共に、甚大の打撃を被りたる海運、化學、製鐵、造船、金屬等の諸事業も三四月頃より漸次形勢を見直すに至り、金融緩慢、金利低落の諸條件と相俟つて、諸株式は早くも二三月頃に底入れを爲し、相場の地盤は、恰かもコンクリートを以つて固めたる觀ありたるを以つて、堅實なる投資家、思惑家の注意を起して、新規買付漸く增加し、日本銀行は十月と十一月とに兩度の利上げを發表したるも、強烈なる買氣は一向に怯む隙なく却つて反動的に益々買ひ進まるゝに至り、「高株は更に一段の高値に買上せんとす」と此文句は八年十一月末日に想察されたもので、當代評判、鐘紡株にも突き破らん勢を示してゐる。金融の中には黄金が唸つてゐる、日銀の利下げも何のそのといふ鼻息の荒さ、懐ろが温かくさへあれば、師走の風も身に浸みないのである。

室町時代の爲めは、應仁の戰亂を分岐點として、やがて數十年間に亘る暗黒時代を齎らした、イカ樣な夢の何は覺めざるとき、早くも暗黒の胚種は宿されてゐた。大正八年末は兜町にとつては、東山時代の末期であつた。

大正九年春以來譯風颯雨相踵いで到り、今に及ぶまで既に七年九ヶ月、一陽來復の曙光は未だ認められず、村の長老連をして、徒らに市場抹殺に狂奔せしめてゐる。一誌の望みは好轉周邊の保護に繫がれてゐるが、その成功も覺束ない。又假りにそれが成功したとしても、唯一時の彌縫策たるに止まるであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ヨッフェさんのことども

田口運藏

大正十二年の夏、有島武郎さんが輕井澤の別莊でアキ子さんとかと心中された記事が都下の諸新聞をにぎはしたときのことである。築地精養軒の卅五號室の病床によこたはつてゐたヨッフェさんは、

「日本ではよく自殺行爲が流行るやうだ」とつぶやきながら不思議らしいおももちで、なぜ戀の勝利者が自殺するのかを考へ込んでゐた。

ヨッフェさんにとつては自殺者の心情などは解されなかつたに相違ない。マルキシズムの理性で築き上げられた彼の强烈なる目的意識は、とても自殺者のもつ弱い人情味を解する餘地はない如くに思はれてあつた。

そのヨッフェさんがピストル自殺した。去る十一月十八日、某紙の記者が、「ヨッフェが自殺したのです」と私に告げたそのせつなに、ある異様な感じがピンと私の胸にせまつてきた。

「さうですか、おしいことです。ヨッフェさんが自殺されたことが事實なら私にはうなづかれる點がないでもない」

これが私の記者に對する最初の返事であつた。

最近のモスコウ電報はロシア共產黨内の幹部派と反幹部派の對立鬪爭を誇大的に告げてゐる。反幹部派の主將トロツキー氏の失脚は事實らしい。トロツキー氏と主張系統を同じくしてゐるヨッフェさんが政治的逆境にあつたことも想像にかたくない。彼の政治的苦境は持病の神經痛をいやが上にも惡化せしめたに相違ない。かくして革命的英雄として、はたまたプロレタリア外交家の元祖として、世界の舞臺にほしいまゝに飛躍した彼は自殺したのである。

「ヨッフェはマルクス及びレーニンの旗幟の下に立つた、吾々はこの旗幟を終局の目標にまで進めることを誓ふものである。」

これはトロツキー氏がヨッフェさんの葬儀に於ける追悼の一句である。そして會衆は口々に「吾々は誓ふ」と絶叫しながら帽子を振りインターナショナルを合唱したとモスコウ電報は告げてゐる。

一九一七年の三月革命が成功してケレンスキー政府が樹立された後で彼はサイベリアの流刑からペテログラードに歸つたのである。

そして四月から十一月までの七ケ月の間に、彼は革命的風雲兒の如くボルシエウヰキ黨の軍事革命執行委員長と云ふ最も重要なる職についた。それからブレストリトブスクの平和會議の全權としてプロレタリア外交のために活躍した。今日までにわづか十ケ年の年月である。この十ケ年の超人間的の彼の努力は革命的ヒローの如くに私には思はれてならない。そして、彼の最後の悲壯なるシーンはその感を尙ほ深くせしめるやうである。

大正十二年の六月、私が精養軒のパラーで反動的暴漢に毆打されたことがある。ヨッフェさんはその出來事のてんまつを秘書から聞いた後で、私に對して、

「田口、おまいは、非常によくがまんした。少なくとも共產黨員たるものは、革命の一兵卒を以て自から任じ、決して賣名的反動の無賴漢のトリックに乘ぜられないやうにしなければならない。」

私は頭を二ツ三ツ無賴漢からなぐられながらも、ヨッフェさんからほめられたのが嬉しくてその當時のことが、いまだにはつきりと記憶してゐる。

吾等が先輩、吾が恩師の不慮に對して追悼しながら拙ないペンを動かした。

革命家ヨッフェさんよ安らかに眠られよ。

(昭和二年十一月二十一日)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現代藝術家の階級的性質

青野季吉

一

私はレーニンのトルストイを評した極く短い一文を日頃愛誦してゐる。何もレーニンの書いたものだからと言つて、斷簡零墨でもこれを隨喜渇仰すると言ふわけではない。その一文の中でこの世界的な大藝術家が、冷たい解剖臺の上に横へられ、その骨組や心臟を一々調べ上げられた上で、更に當時のロシアの社會現實の鏡の前におかれ、その間の聯關が求められ、最後にロシア社會の變革の過程におけるその意義が追跡し、曝露されてゐるからである。もとより短かい一文のことであり、從つてそれは太い線で示唆的にしか描かれゐないが、しかしトルストイをマルクス主義の方法によつて取扱つたものとして、我々にとつて此上なく興味のあるものである。

何かの參考のためにその要旨を簡單に述べるとかうである。トルストイは天才的な藝術家であり、ロシア生活の無比な形像を提供した大作家ではあるが、その全體には『莫大な矛盾』が見出される。一方では社會の虚僞にたいする誠實な抗議者であるが他方では氣力の廢頽したインテリゲンチヤのヒステリー的な泣蟲であり、一方では資本主義的搾取を批判し勞農大衆の貧困・野獸化・苦痛の增大をさらけ出した曝露者であるが他方では惡に抗する勿れと說く愚劣な說教者であり、一方には醒め切つた現實主義者の眼をもつてゐるが他方には宗教的迷信の信者である。この莫大な矛盾はどこから來たか？ この偉大なる藝術家の魂に『内在』した矛盾は、ロシアの社會現實の何を反映したものであるか？ それはロシアの生活が十九世紀の最後の三分の一に經驗した矛盾に充ちた諸條件を反映したものである。當時ロシアの農民は一八六一年の農奴解放令によつてともかく一個の獨立農民となるにはなつたが、それと同時にその家長的村落へ資本主義が襲ひかゝつて來て、農民の貧困はつのるばかりであつた。そこで農民はその『惡』に抗する憎惡者、反抗者となつて隨所に一揆を起した。激しい抗議者、曝露者としてのトルストイはその農民の魂である。だが農民がその反抗の裏に夢見てゐたものは自由同權の小農共同團體であつた。そ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

してそれを實現する手段として、彼等は闘爭を求めず紛擾を避けず、たゞ祈り、神へ、泣き事を言つた。而して無氣力な絶望的な抵抗者、表現した消極、受動な闘爭者としてのトルストイの心はまた、その國民の魂を反映したものであつた。然らばトルストイはロシア革命の時代の過程にいかなる意義をもつたか？　それを説明してレーニンは言つてゐる「トルストイは有りに拠つた模倣、ロシア的なものへの反應した努力、過去から自己を解放しようとする努力を表現したが、また非現實な夢想主義や、政治的教育の不足や、革命的意識の弱さやを、再び提供してゐる。歴史的經濟的條件は、大衆の×××××の階級の必然性や、その闘爭の準備の缺除や、政府に抗する無力を説くトルストイ主義が、第一の×××××の失敗の、不可避的な第一原因であつたことを明瞭にしてゐる。」

これは言ふまでもなくトルストイの藝術にたいする純粹な藝術批評ではない。トルストイの人間と藝術と實踐の全體にたいする社會的批評である。そしてまた私たちがいまの時期にこの批評に強く促されるのもこの點である。

私はこの一文でレーニンがトルストイに向つたと同じ方法で、現在の日本の所謂るブルジョアジーの作家を切拔つて見たいと思ふ。これが純粹の藝術批評であるか、それとも藝術批評の「邪道」であるか——そんなことの詮議に目を光してゐる人もあるが——それは私にとつて微塵も問題であり得ない。それは大衆の前におかれた藝術である以上、それは大衆にたいして何等かの積極的な支配力をもつてゐる。その支配力はあらゆる方面からの取扱ひに向つて開放されてゐる。私たちのやうに藝術としての藝術の鑑賞——そんなことがあり得るとすれば——よりも、社會としての人間生活の表現、從つて先づ藝術を大衆の觀方を第一の目的とするものにとつては、それがあり得る唯一の觀點にたいする取扱ひであるのか。私はその唯一の[illegible]批評である。

先づ斷つておきたいのは、特にここに取りあげる作家として十人の所謂るブルジョアジーの作家を選擇して來たが、私もこれらの作家が日本の藝術に非常な大きな支配力をもつてゐるとか、比較的優れた作家であるとかといふ理由から選んだのではない。これまでその人の作品を比較的多く讀んで居り、その人の言動を比較的注意して見て來た關係、即ち私の心にそれぞれの時期や場合に、比較的濃厚な作品を結んだ關係からに外ならないのである。而して何故それらの人々が「比較的多く」さう云ふ關係をもつたかは、それ自體一個の問題である。

二

階級社會にあつて藝術は必然的に一個の階級性として我々の前にその大きな姿を現はした。次いで彼は大きな轉換を經、人間生活の現實にたいする鋭かな觀察者としての作品を生んだ。今日まで民は大體においてその作品をしつかりと、素朴に、而かも自分を他につけて、備らうとつゞけてゐるといつて差支へないであらう。彼の階級を[illegible]た藝術の意識する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鬪爭家に爲に、この鬪爭家である。[illegible]になつても、この位置に沈んと離れてゐない。彼に[illegible]のたかで家の一團に端坐して、若い時代の物役く推移して行くのをじつと眺めてゐる情景を描いてゐるが、それは卽ち彼の藝術以後の姿である。

然しかうした彼に、初期の浪漫的な要素が全然死滅したと斷定したら、それは恐らく誤りであらう。一個の靜かな人間生活のシーナーとしての姿を保ちつゞけてゐる彼にも、其浪漫的な要素は形を變へて潜んでゐる。極く些細な實例で言つて見るならば、この靜かな人生の觀察者は、嘗て私が指摘したやうにその愛兒を小ぢんまりした一個の白作愚に仕立てて、それでホッと胸を撫で下してゐるほど、社會の現實にとつて非觀察者的であり、お人よしである。そして嘗て彼が法衣に身をつゝんで旅した心も、次いで異郷に草鞋をといた心も、而していま愛兒を皿一枚と森一瞬ひに抵した心も、みな同じ心である。その靜かな觀察者としての彼と、この浪漫的な生活者としての彼とが一緒となつて、そこに靜かではあり淋しくはあり窮屈ではあるが、一種の光澤を放ち深い味をたゞへてゐるのが彼の藝術であり生活である。

彼は嘗て人間の生活にたいして、虛無的な眼を向けたこともなければ、反抗の叫びを投じたこともない。彼にとつては人間生活は、一個の小さた人間がそう云ふ態度をとつて一囘ふにしては、餘りに鈴とすぎ、餘り淺かすぎるのである。こゝに宇宙主義に似た一種の彼の思想がある。彼の人間生活にたいする觀察や描寫が自然的に暗路の態隙をとらない[illegible]かく[illegible]であると共に、[illegible]への[illegible]者であると共に、人間生活の[illegible]であり、且つその行動において甚だ[illegible]であり、[illegible]者である點に、我らは何を觀てとるか？

私は氏において、日本における過去時代のインテリゲンチャの典型を殺ないではをられない。過去時代のインテリゲンチャは、まだ唯心的な情感から完全に解放されてゐない。したがつて彼は、その行動の指導において保守的態度から脱化することが出來ない。だが、更に彼の認識的目醒めと獨立自由な人間としての彼の自覺とは、彼を驅つて人間生活に浪漫的な眼を向けさせないではゐないのである。しかも彼の前に展開された複雜な近代生活の壓力は、更に彼を驅りたてて、一種の懷疑へと追ひやらないではゐない。しかし勿論彼は、それに追隨することも、それを否定することも爲し得ないのである。

この過去時代のインテリゲンチャの眼前に展開された近代生活は、新しく言へば近代ブルジョアーの經濟機構は、彼等とは無關係な法則によつて運轉し擴大して行く。そこでこのインテリゲンチャの浪漫的な夢は背後へ押しやられてしまつて、彼等は傍觀者として一それに對する位置につかないではをられない。そしてその個人生活の基礎に依然保守的態度を脱出しない。彼は新生活の否定的傍觀者として立たず、同時に逃避する近代生活の追隨者として終始する。

我々は嘗て發生期のインテリゲンチヤであつて、而して今日、日本の社會の善良な聰明な市民となつて『敦厚な』美風を維持してゐる多くの人々を、我々の老いたる隣人のうちに見出すであらう。而して我々はまた島崎藤村氏がそうした隣人のうちにあつて最も生きた姿をとつてゐる藝術家であることを見出すであらう。

彼等は内にも外にも吹き荒む『嵐』をかすかに感ずる。感ずるだけの知覺をもつてゐる。だが、『嵐』が吹き荒めば、扉を閉すだけである。次の時代のインテリゲンチヤの發展期の場合のやうに、積極的に嵐と抗することもしたければ、嵐を嵐と感ぜぬほど麻痺もしない。したがつて彼等は日本の社會の進行の過程においては、直接には殆んど作用するところがないと言つてよい。だが彼等の持つてゐる傍觀主義と、徹底的現狀維持主義と、更に無抵抗主義とは、社會の反動力の足場を築く石垣の一の動かぬ石であらう。

三

德田秋聲氏と島崎藤村氏とを對立させて考へて見ると、そこにおよそ藝術家の個人性の限界と、その社會的作用の範疇とについて、興味ある現象を觀てとらないではおれない。

秋聲氏も藤村氏と同樣に、人間生活にたいしてだいたい觀察者としての態度を持ちつゞけて來てゐる。だが、藤村氏がいかにも意識的に自分を靜かにして、自然や人間生活にたいして謙虚愛撫の態度を失はないのに反して、秋聲氏は意識的なそう云ふ態度さへ、これを不自然として斥けてゐるやうに見える。藤村氏の人間生活の描寫が、飽まで端正であつて、美醜を問はず深く喰込んで行くと云ふ點の深いのに對照して、秋聲氏のそれがやゝ粗野で、底の底まで潛入して行く力をもつてゐるのは、そこから來るものであらう。かの『嵐』にまで潛入して行く徹底的な行き方は、これを藤村氏に求めることが出來ない。

思ふにこの差違は、この二人の老作家の個人性の差違以外の何ものでもないであらう。たとへばその藝術に表現されてゐる二人の中老年期の戀愛である。『新生』前後に觀る藤村氏の戀愛は、彼の端正な本性と、その窮屈な道德律との故に、つねに內輪であり、つねに批判的である。それに反してこの二三年來の秋聲氏の戀愛は、人をして老醜を叫ばしめたほど徹底してゐる。老醜的な美とか醜とか云つたことは藤村氏の場合であれば問題となるが、秋聲氏の場合では問題ではない。どんな姿をくずしても身をもつて人生を探求すると言つた行き方である。これはまことに二人の藝術の上における差違と照應するものであつて、その依つて來たところは既にも言つた通り、二人の個人性以外の何物でもないであらう。

だが然らばこの個人性における差違は、彼等の社會的作用の範疇において、どれだけの差違を生み出してゐるか？　秋聲氏も藤村氏と同じやうに、發生期のインテリゲンチヤに屬する一人である。たゞ秋聲氏は藤村氏ほどにその典型的なものでなく、その個人性のゆゑに多分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に積極的な色彩をもつてゐるとは言へ、その根底にも發生期のインテリゲンチャの通有性が、色濃く見られるのである。

彼もまた藤村氏と同じやうに、一方において人間生活の冷酷な、嚴しくとも冷靜であらうとする觀察者である。と同時に他方において浪漫的な人生の探求者である。そして現存人間社會にたいする一種の愛撫者である。そして後來のインテリゲンチャの發展型に見えるやうな、人間生活にたいする虛無觀の把持者でもなければ、憎惡者でもない。プロレタリア文學の主張や作品が提供された時、彼の最初からとつた態度は、さう言ふこともあり得ようと云ふ消極的ではあるが、肯定的な態度であつたのを私は覺えてゐる。つまり彼は人間社會の探求者として、その生起するものを靜かに見護ると言ふ發生期インテリゲンチャの特性を、藤村氏と共に、多分に持つてゐるのである。そのほか彼がその徹底的な現實諦人主義にも拘らず、社會的現實の暴露者としても現はれて來ず、社會的惡への抗議者としても現はれ來ないこともまた、藤村氏の場合と同じである。

かくて彼等の個人生活及び藝術における濃厚な個人性色彩は、發生期インテリゲンチャの社會的特性の前にあつて、極く狹い限界にとぢ籠められて仕舞ふのを見ないわけには行かない。したがつてまたその社會的作用の範疇において、秋聲氏の場合にも藤村氏の場合に言つたとほゞ同じことが言へるのである。

たゞもし社會的作用の範疇において、[illegible]とすれば、それはヨリ多く消極的な秋聲氏は、藤村氏ほどに保守的なイデオロギーへの積極的な貢獻をなさないことである。再び嵐のたとへを用ふるならば、藤村氏はどんな可能な場合を豫想しても、その嵐の正體を衝きとめるために、嵐の中へもぐり込んで行く場合があらうとは思はれない。が、秋聲氏の場合は必らずしもさうは斷定出來ない。彼の思ひ切つた逞ましい觀察者としての性質は、或る場合、彼を驅つてその嵐の中に驅け出させないとも限らないのである。

かつて秋聲氏の戀愛問題が世評の的となつてゐる時、或る新聞紙の一隅に、人の子の父としての藤村氏を賞讃し、他方秋聲氏の操行を非難した讀者の投書の掲載されてゐたのを私は記憶してゐる。この一些事は、藤村氏がいかに「敦厚な」美風の支持者であり、秋聲氏がさゝやかながら無意識的にその破壞者として役立つてゐるかを示すものと言つてよいであらう。秋聲氏が立派に發生期のインテリゲンチャの特質や矛盾を反映しながら、藤村氏と違つてその典型的なものとして取扱はれない所以はこゝにある。

四

私は藤村氏を發生期のインテリゲンチャの典型、秋聲氏を其の多少變化した型と見て來たが、こゝで一寸、日本の當時のインテリゲンチャと、ロシアの發生期のインテリゲンチャとの相違を見ておくのも無

駄ではないであらう。』

ロシアのマルクス主義的批評家ヴォロフスキーはかう言つてゐる。『大衆的現象として先づ最初にインテリゲンチヤが社会的政治的舞台へ進出した。インテリゲンチヤは、自己的社会的勢力としての役割を確立するまでは、不可避的に附随する所の性格的に心理的な特質を身につけて来た。階級と生み環境からの離反といふ方法によつて自分を教育しながら、インテリゲンチヤは反階級的、超階級的存在の幻影を持つて来た。何一つ伝統を持ち出し得ない環境から出て、依るものといつては自分一個の力であり、自分の精神が財産であるために、摑むものはたゞ自分の才能と腕とに過ぎないインテリゲンチヤは、必らず自分の心理に明らかな個人主義的色彩を附け加へる。思想、たゞそのお蔭で平民的インテリゲンチヤは、社会生活の表面に自分の道を切り開き、この表面に残ることの出来た思想は、本質的に何かから絶対的で、全能的な力あるもののやうに思はれ始める。平民インテリゲントは明白なる個人主義者となり、絶対主義者となつた。』

これは六十年代のロシアのインテリゲンチヤの性格を説明したもので、この階級的精神の大部分は、発生期の日本のインテリゲンにも見出される。両者共に、伝統と環境からの離反で自分を教育しながら、反階級的の幻影を持つて現はれて来た。両者共に、彼等が持つものとてはたゞ自分の才能と腕とに過ぎないので、自個の心理に明らかな個人主義的色彩を附け加へた。両者共に、社会生活の表面に道を切り開いて来て、その表面にとゞまつたが為めに、自個を本質的な何かから、絶対的で、全能的な力のあるもののやうに思ひ始めた。もちろん両者の間に度合ひや濃淡に差違のあることは説明するまでもない。ところでそう言ふ類似性の傍らに、両者の間に著しい相違がある。ロシアのそれが、思想を武器として、明白な個人主義者となり、純理主義者となつて現はれて来たのに反して、日本のそれは何等さういふ思想的武器をとつて現はれ来ず、単に不徹底な個人主義者、消極的な情感主義者として現はれて来たのである。

これには両者の発生の社会的基礎が強く反映してゐると見なければならない。ロシア当時の平民的インテリゲンチヤは、バザロフにそれを鮮やかに見るやうに、貴族から一個の反抗階級として生れて来て、その生育の過程と社会的闘争とを切離して考へることが出来なかつた。したがつて彼等はいかなる他の階級もが持つことの出来ないリアリズムと、それに基く思想を武器として立ち現はれて来たのであつた。ところが日本のインテリゲンチヤは、一個の反抗階級としてよりも、ブルジョアジーの附属階級として発生して来た。したがつてその発生期から決して社会的闘争の中におかれず、自個を社会的に強烈に主張する必要もなかつたのである。彼等が明白な思想的武器をもつて現はれず、不徹底な個人主義者であり、消極的な情感主義者であつた、乃至はあり得たのはその為めである。

この特徴はその後における日本のインテリゲンチヤの発展史を観る

上に、かなり大切な點であると思ふ。日本のインテリゲンチヤの或るものは、或る階級のそれのやうに、決してブルジョアジーにたいする闘爭者ではない。常にそれにたいする批判者である。ブルヂョア・フリスチンにたいする嫌惡や嫉惡は、日本の近代文學になつて可成り大きな部面を占めてゐる。或者はその嫌惡と嫉惡の故に、遠く封建時代の『義理』と『人情』を憧憬し、或者はまた漠然たる社會主義を唱導さへした。だが、それは決してブルジョアーとの闘爭の性質を具へたものではなかつた。日本のインテリゲンチヤは嘗て闘爭的階級として歷史の舞臺に登場したことはないのである。この傳統は、日本のインテリゲンチヤが社會的に資本の壓迫に押しやられたその後の過程においても明白に作用してゐる。彼等は、階級的にその社會的壓迫に抗したことはない。たゞ服從し、たゞ泣言をならべ、たゞ空想し、たゞ逃避してゐる。而して多少とも闘爭的な部分は自己の階級を脫してプロレタリアートの闘爭と結ついてその階級的勢力の中に混入してゐる。これが日本のインテリゲンチヤの見すぼらしい歷史である。

五

正宗白鳥氏を階級の對象として考へて來る時、私はそこに、藤村氏や秋聲氏とは別個の、そして日本のインテリゲンチヤ發達の第二期の特殊相に面接しないではおれない。藤村氏を典型とするインテリゲンチヤは、發生期の、まだ獨立の階級としての生存闘爭を開始しないそれであつたが、[illegible]インテリゲンチヤは、[illegible]として抗爭して來たブルジョアジーの[illegible]にたいして[illegible]ではあるが階級としての[illegible]闘爭——[illegible]に遭へたやうな歷史をもつて——を開始したそれであつた。

正宗氏を考へる時、私たちは正宗氏がその中から歩み出た自然主義運動とその社會的意義を無視することが出來ない。自然主義運動は日本の知識階級が、ブルジョアジーへの附隨者たる位置を離れて、いさゝかでもその眼をもつて周圍を眺め、その身をもつて世界を聽かうとした運動であつた。されば此の第一期のインテリゲンチヤが、ほとんど何等の應援なしにこの運動に參加して來たのであつた。ありのまゝに自然を視やうに、ありのまゝに現實に對さうといふ要求は、これを社會的な言葉に翻譯すると、それ自身の階級的限界をもつて自然に接し、現實に向はふとする要求に外ならないのである。

この期の白鳥氏の特徴には、いかにも倦み切つた知識階級の形像が描かれてゐた。そこにはまた、現實にたいする、インテリゲンチヤでなければ加へられない、暴露があつた。それは明らかに、最も明快な形で具體化された當時のインテリゲンチヤの要求であつた。白鳥氏はまさにその旗手として登場したのである。

この當時の白鳥氏には、今日に觀るやうな藝術至上主義への傾向は、全然見られなかつたと言つてよい。『人生の姿を知るために』『生活の糧のために』とは、白鳥氏の好んで用ふる藝術[illegible]上の術語である

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、この要求は初期の白鳥氏に最も強かつたのではないかと思ふ。今日の白鳥氏と當時の白鳥氏との違ふところは、當時の白鳥氏にあつては人生の姿とは要するにかうしたものである、人間生活はかゝる醜悪なものである。と云ふ暴露はあつたが、人間生活に向つて機械的にそれを押し付けやうとはしなかつた。まだ探求者の動性を失つてゐなかつたのである。がその生活の幾段階を經て、その藝術創作の幾道程の後に、彼は漸くその流動性を失つて、機械的な人生觀結論にまで凝固して來てゐる。彼の最近作『藝術時代』や諸種の戯曲における人間關係の取扱ひはそれを明白に證據立ててゐる、と共に、彼の藝術觀が漸くにして、一種の藝術至上觀を混入して來た事實を見逃してはならない。最初に彼は藝術によつて人間世相を知らうと努めた。今や彼は藝術それ自らの中に、自分を托さうとする心境の發芽を自分の中に眺めてゐる。まことに最近の彼の藝術觀は、年來の功利的な藝術觀と、藝術至上的藝術觀との不可思議な混合物である。

藝術觀における白鳥氏のこの轉移は、曾て彼の代表し、今や新らたな展開を見せ局面のインテリゲンチヤの世界に對する彼の關係を明白に語つてゐる。最初の白鳥氏はたしかにこの局面の世界と、一種の相互的な關係にあり、同感的な關係にあつた。だが、近年の彼は、動きつゝあるその局面の世界に對して、全く絶望的の關係にある。そこで彼の藝術觀は漸次に、藝術至上觀を混入して來ないわけにはいかないのである。

プレハーノフはその『藝術と社會生活』のなかに、この關係を正確にも、次のやうに言つてゐる。

『藝術にたいする謂ゆる功利的見解、即ちその作品に生活現象に關する判決の意義を附せんとする傾向、並びに常にそれに伴ふところの、喜んで社會闘爭に參加せんとする覺悟は、社會の大部分と、多少とも藝術的創造に實際の興味を有する人々――との間に、相互的同情の存在する所に發生する。

『藝術家及び藝術的創造に直接の興味を有する人々の、藝術の爲めの藝術への傾向は、彼等と彼等を圍繞する社會的環境との間に、絶望不調和の地盤の上に發生する。』

正宗氏と彼を圍繞する社會的環境との間に絶望的不調和は、藝術觀の上ではいまも言つた通り、藝術至上觀の混入となつて現はれ來てゐるが、彼の人生觀及び社會觀の上では、一種の宿命觀、固定觀となつて現はれてゐる。彼はその藝術的活動において、今や人生を醜悪奇怪なものとして技巧的に塗りつぶさないでは滿足しない境地に入つてゐる。その社會的觀察においては、新興要素にたいして直接に反動的な呪咀を浴せかけないではおれない心境をたどつて居る。

かうして最初はブルジョア・フリスチンにたいする批判者として現はれた彼は、いまでは直接に爛熟したブルジョアジーへの奉仕者たらんとしてゐる。日本の社會の進行過程にたいする、彼及び彼の藝術の被支配者の演ずる役割は、この關係から自ら明白であらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

六

いまの日本の文壇で、唯美主義に徹底してゐる作家を求めたら、谷崎潤一郎氏と佐藤春夫氏の右に出る者はないであらう。この二人はその藝術及び見解において、ほとんどその全部はその性格に基くところの相違が認められるけれども、その基準とするところ全然一致してゐると言つてよいのである。谷崎氏は悪魔的な美の探求者として現はれて來て、いろんな段階を經て、いまでは一切の技巧的なもののなかに美を見出さうとしてゐる。それが人間の理知または情意で巧んだものであればあるほどよろしい。自然なもの、生なもの、露骨なものは彼の最も嫌ふところである。それほど彼の要求する美は醜惡的の美である。佐藤春夫氏の要求する美はそれとは異つてゐる。少くともそれほど頽廢してゐない。彼は或は異國の夢幻的な物語りの中に美をあさり求めやうとし、或は現實の複雜した人間關係の交錯の諧調のなかに美を求めやうとする。たゞ異ふところは谷崎氏がますます意識的に、現實との接觸を遠ざからうとしてゐるのに反して、佐藤氏は寧ろ現實に接觸しやうとする。だが、その持つ基準のゆゑに、いかに現實に接觸しやうとしてもそれは空想的であり、彼の美の要求への異つた形の滿足でしかあり得ない。彼は曾て、プロレタリヤのために永遠に美しかる可き物語りを書き度いと云ふ意味のことを言つてゐたと、私は記憶する。プロレタリヤも永遠を求めてゐる。その認識はたしかに多かれ少かれ現實に觸れたものであらうが、[illegible]物語りを書かうと云ふのは、プロレタリヤのためではなくて[illegible]の要求の滿足のためであらう。

この二人の作家は現代の日本で最も洗練されてゐる作家であらう。と言ふのは彼等のつくる物語りは、ひとりインテリゲンチヤの嗜好にかりでなく、社會のいろんな階級人の娯樂物として役立つ要素が多いからである。藝術は彼等において完全に娯樂化されたが、それは何も彼等の藝術の低級を證明するものではない。それは彼等の唯美主義の徹底の作用である。彼等の技巧の爛熟の作用である。

谷崎氏及びやがて佐藤氏が文壇に登場した時代は、自然主義の時代にともかくにもその階級的獨立性を獲得しかけたインテリゲンチヤが、一方にはブルジョアジーの支配の確立と、他方には近代プロレタリアートの結成擡頭によつて、一旦獲得しかけた階級的獨立性を失つて、動搖と分散とを示した時代であつた。だからこの期のインテリゲンチヤは、發生期のそれのやうに、静かな觀察者の態度をもつて、近代生活に臨むことも出來なければ、自然及び人間の全體に向つて、一種の封建的な心理をまじへた愛撫をもつて對することも出來なかつた。その動搖と分裂とによつて生じた一部のインテリゲンチヤは、謂ゆるそれを『圍繞する社會的環境との間の、經濟的不調和』の關係に立ち、次第に現實生活から遠ざかつて行つた。他の一部はこの狀態にたいして、理知的な一種の攻勢をとつた。そして新らしい解釋と、それに對

く主張とによつて、この狀態を批判し改良しやうとの積極的な態度をとるにいたつた。更にまた別個のインテリゲンチヤは、頽廢せる自己を抑制して、發生期のそれに見るやうな樂觀者的な、消極的な、現實探求的な、態度をとつた。而して更に別のインテリゲンチヤは、生活の現實の關係に直面して、大きな懸隔と、決死的な飛躍とを内に感じゐて、プロレタリアートの中へ混入して行つたことは云ふまでもない。自然主義運動後のこの時期は、實に、インテリゲンチヤの分散時代と言つてよいのである。

谷崎氏及び佐藤氏が、この分散したインテリゲンチヤの、いま述べた順序で言へば、最初の範疇に屬することは言ふまでもないであらう。茲に一寸引用したウオロフスキーはバザロフとサーニンとを比較して、バザロフは現實型の人間ではあるが、サーニンは非現實の構成型の人間であると言つてゐる。そしてサーニンをもつて、頽廢したインテリゲンチヤの藝術的所産としてゐる。谷崎氏の作品、殊に最近の傾向で言へば「高坂氏の話」にしても、その高坂氏は決して現實型の人間ではない。實に非現實的の人間である。また佐藤氏の作品にしても、そこに現實型の人間がその多面性において描かれてゐるやうなことは殆んど無いと言つてよいであらう。常にその一面が器用に捉へられて、多くの人間の一面と一面との接觸から來る美的な現實感の語りが彼の藝術であつて、その全體において非現實的であり、構成型的であると言つてよいであらう。

佐藤氏はその個人的性格のゆゑに、いかにも輕快に、いろんな現實の問題に觸れることを懼れないが、しかしその觸れ方の如まで謂はゆる詩人的、非現實的であることは、かの問題となつた「藝術家の生活を論ず」の一文の内容でも分る。谷崎氏及び佐藤氏のこの非現實的傾向、それに反映されたインテリゲンチヤの一部は、然らば日本の社會の進化過程にたいして、どう言ふ役目を果すであらうか？　谷崎氏の場合も佐藤氏の場合も、一部のインテリゲンチヤの場合のやうに、積極的にその生活理想を主張することはない。要するに彼の場合は、インテリゲンチヤの怜悧なる逃避性の典型である。而して彼等の藝術的努力は、客觀的にはその逃避性の主張となつて作用する。藝術の持つ情緒的支配力の客觀的意義はそこに潛んでゐる。日本のインテリゲンチヤが今後の發展において示すであらうところの、頽廢の中の逃避的一面、而してその一面の增長にはたしかに谷崎氏佐藤氏等一派の唯美主義が、あづかつて力があるであらう。

話が藝術の持つ情緒的支配力の客觀的意義に觸れて來たから、簡單に附加へておかう。藝術家その人、作者彼自身は多くの場合苦て、自己の情緒的支配力の客觀的意義を創作衝動の前景には入れないであらう。否寧ろ、忘れることをもつて創作態度の非難と考へるであらう。だが、藝術作品が一度び社會の中におかれゝば、その作品は優れた作品であればあるほど、讀者大衆の上により多くの情緒的支配力を持たないではをれない。作品の全體としての客觀的價値は、作者の主觀的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

規範が標準のうちにあられ、その支配階級の性質によつて決定されるのである。今日ブルジョアジーの作家として取扱はれてゐる人々の多くは、その取扱ひを非常に保證としてゐる。何故我々がブルジョアジーの作家であるのかゝから積極的に分離された場合は、私個人にも疑ひあるか知れない。さう云ふ場合、彼等は自己の作品の非階級的評價に終始してゐるのであつて、その作品の持つ階級的支配の階級的性質――それによる評價を微塵たりとも考慮に入れないのである。彼等がブルジョアジーの作家と言はれる時、それは彼等が既成の大家であるとか、或はブルジョアジーの世界しか描かぬとか、或はまたブルジョア的環境に生活してゐるとか、等々の理由からではないのである。彼等の藝術の階級的支配力が、或は彼等の意志に反して、或は直接にか或は間接にかブルジョア・イデオロギーの維持及び支配に役立ち、兼ねてブルジョア社會の維持及び支配に役立つからに外ならないからである。一切の事物はそれ自身の生命をもつてゐると言はれてゐるが、藝術はまことに、藝術こそは最も豐かに、それ自身の生命をもつてゐる。そしてその生命は作者その人を裏切る場合が、寧ろ多いのである。

（附言する。今日の藝術家はほとんど凡ての場合自己の非階級的評價しか持たないが、その心理それ自身も歴史的のものである。凡ての場合、凡ての藝術家がそうであつたわけではない。何等かの意味で自己の藝術の持つエラルを問題にした作家は、常に其の作品の客觀的評價を忘れない。トルストイもその一人であつた。現代ではバルビユースなども階級的に、作家はその作品の社會的な價値に責任を持つべきだと言つてゐる。而して果してどこまで責任を持ち得るものであるかは、自ら別問題である。）

七

私はまへの一節で分散したインテリゲンチャのとる方向を二三簡單に跡づけて見たが、その場合にも言つた通り、一方にブルジョアジーの支配が確立し、他方にプロレタリヤの擡頭があつて、その階級鬪爭の中に動搖したインテリゲンチャの一部は、この紛糾し、摩擦し、不安に滿ちた世相にたいして、積極的に解釋を下し、主張をかかげて、意識的に自己を支へないではおかなかつた。

その最も代表的なものは武者小路實篤氏である。彼は貴族出のインテリゲンチャである。その意味において、これまで取扱つて來た平民インテリゲンチャの諸文學者とは、傳統的に別個の心理を擔はされてゐる。彼の藝術及び言動における、この要素の作用は決してこれを見のがしてはならない。しかもそれはたゞに、彼の藝術や言葉の色彩や調子に現はれてゐるのみではない。彼の思想を決定してさへゐるのである。

彼はブルジョアジーにたいして、特にブルジョア・フリスチンに對して、激しい憎惡と輕蔑とをもつてゐる。しかもこの憎惡と輕蔑とは、決して自然主義運動前後の平民インテリゲンチャの抱いたそれと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は同質のものでない。後者のそれは、或は淡然たる美的趣味の上から、或は人生にたいする輕浮淺薄な態度にたいする嫌惡から來たものであつたが、武者小路の憎惡と輕蔑とは、人間的價値の先天的な劣等者に對するそれを聯想させるものがある。彼は常に自己を一段優れた存在として自認し、眞理の把持者として時に敎化者の態度さへ執つて現はれて來る。こゝに彼の貴族性の作用を見てとらないわけにはいかない。したがつて彼は新興プロレタリアートにたいしても同樣な憎惡と輕蔑を示さないではをれない。問題はブルジョアジーが、それに値するものであるか、プロレタリアートが何故にそうであるかに關つてゐるのではない。彼の自意識が彼を驅つて眞理の把持者、乃至は眞理の闡明者たらしめてゐるからである。同じプロレタリヤにたいする侮蔑でも、平民インテリゲンチヤであつた芥川龍之介氏のそれは、せいぜいのところ『憐憫に近い輕蔑』から先へ出ることが出來なかつたが、武者小路の場合はそうではない。かくて彼は、ブルジョアジーにも手頼らず——尠くとも表面的には——プロレタリヤの階級力をも無視して、彼の理想に基く地上の天國を建設しやうとする一種の近代的宗教家となつてしまつたのである。

この過程の間にそのやうに彼の貴族的インテリゲンチヤたる特殊的色彩が見られるとは言へ、やはり彼は、彼の文壇へ登場した時代の一部のインテリゲンチヤの要求を具體化して現はれたものであつた。彼の人間社會及び自然にたいする解釋は、それが或は平凡なものであり、或はあたりまへのものであつても、彼によつて語られる時に、一種の權威の響きをもつて語られた。その權威の響はまことに、動搖したインテリゲンチヤの一部の心の上に、一種の安定と力強さとを感ぜしめた。これこそこの一部の求めるものであり、發生期のインテリゲンチヤの無抵抗性や、それに次いで現はれたインテリゲンチヤの懷疑性からは、求めて得られないものであつた。

武者小路の藝術はだから、そこに人間の現實生活の深さがないからと言つて、またそこに細かい生活味の描寫がないからと言つて、或はまた藝術的技巧の美がないからと言つて、何等その價値を損ずるものではない。その讀者大衆にとつては、彼等の心に一種の安定と、力強さを與へるものがありさへすればいいのである。そこに眞理の響きを聞くやうな感銘があればいいのである。であるから、武者小路氏の藝術とその讀者との關係は、宗教とその信者との關係に似たものがあると言つてよいであらう。新らしき村の會員と武者小路との關係は實に、その純粹な形におかれたものであり、それだけよくその特質を證明してゐるものである。

武者小路氏とは全く異つた環境から出たインテリゲンチヤではあるが、やはり氏と同じ一部のインテリゲンチヤの心理を反映したものに菊池寛氏がある。菊池氏は言ふまでもなく平民インテリゲンチヤであり、その意味において、武者小路の貴族的傳統と對立して平民的傳統を色濃く持つてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だが、彼は又、[illegible]にたいして、或は諦觀的な、或は傍觀的な、或は逃避的な態度をとることが出來なかつた。彼は、一種の理知の武器をみがいて、この歪曲した人生世相に對して、積極的にそれに解釋を下すことによつて、それと戰はうとした。而してそれが或る評家の言ふやうに、俗物的な解釋であつたとしても、とにかく彼はその理知主義によつて一部のインテリゲンチヤの心にその出路を與へたのであつた。彼のテーマ小說なるものに含まれてゐるそのテーマは、實に人間生活の執拗強い解剖や觀察によつて把握されたものであると言ふよりも、より多く彼が自己を、而して一部のインテリゲンチヤの心を、安定させ、落付かせるためのものであり、それに一種の機智を與へるためのものである。例へば先驅藝術座の上におかれた『乳』といふ戲曲である。この戲曲に取扱はれてゐるものは決してプロレタリアの子供と環境の現實の姿ではない。プロレタリアの子供と環境の悲劇的現實感にたいする、作者の自慰的解釋以外の何ものでもない。一應この解釋を下した後、作者と彼の背後にあるインテリゲンチヤとは、暫くともその現實感からの壓迫をのがれることが出來る。そして自己を安らかたらしめることが出來る。求めるものはそれである。

また彼の傑作の一つと云はれる『仇討以上』をとつて考へてもよい。彼はこの戲曲において人間の精神力の強さ——それは人間の強い動物的衝動力をも克服するほどの強さである——を描いて來て、種々の[illegible]のテーマ小說の理知の武器によつて[illegible]一種の[illegible]ることは、何よりもその作品の持つ感銘が物語つてゐる。彼等はこれによつて面白い物語を聞かされると同時に、その現實生活の混亂のうちに、一路の活路を見出すのである。狙ふところ、且つ、求めるところはそこである。

これまでの說明ではほゞ分る通り、武者小路氏及び菊池氏は、最早それ以前のインテリゲンチヤのやうに近代生活を靜かに眺めたり、その意味を探求したり、或はそれを逃避してゐるのではない。『我等はいかに生くべきか？』と言ふ一部のインテリゲンチヤの問ひに積極的に答へて來てゐるのである。彼等のその積極的な答へが、果して本統に積極的なものかどうか、それは此處で問題ではない。とにかく彼等はその要求を反映した作家であり、また或る程度まで、それに成功した作家である。

それならば彼等の藝術の持つ支配力の客觀的性質、したがつて日本の社會の進行過程にたいする意義はどうであらうか？ 武者小路氏の場合も、菊池氏の場合も、その反動的の一面として、今日のプロレタリヤ化したインテリゲンチヤに、そのプロレタリヤ化の現實と、その現實の命令する闘爭とに向つて、眼を開かせないと言ふ特色を持つてゐる。だが、彼等の意識しない一面として、一部のインテリゲンチヤをして長い間の階級的無氣力性を脫却せしめると言ふ意義をもつて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐる。ことにロシアのマルクス主義批評家リウオフ・ロガチエフスキーが言ふやうに『藝術家又は學者の階級的思想は、決してその作品の内容の全部を蔽ふものではない。彼等が言はんと欲したことゝ、無意識に述べたこととは屢々相違するものである。』武者小路氏及び有島氏の讀者大衆たるインテリゲンチヤは、『理想』と『幻影』を與へられたこととの損失を、移動性に導かれたことの神經によつて取返へすであらう。

八

私は、廣津和郎氏、佐々木茂索氏及び岸田國士氏の藝術に親しむときに、それぞれに感情の相違がありながら、いづれも同じクラスのインテリゲンチヤの心理を分け持つてゐると感じないではをれない。そしてそのインテリゲンチヤは、やはり前に述べた分散期のその一つのクラスである。

廣津氏の藝術には、そのデリケートな感受性において特色がある。しかもその感受性は偶然的な病的な印象を與へるものでなく、また偏中庸的なものでもない。いかにも全身的な統一性をもつてゐる。そして彼は、この感受性の指揮のまゝに、現實生活にたいして或は心臓をドキつかせたり、或はその中に沒入して自己を忘れたり、或はそれに嫌惡を感じたり、或はそれを享樂したりしてゐる。彼の藝術は常に、この時々の心象の變化の即興的記録であり、スケッチである。讀者はその一つ一つの作品に手際よく投寫された彼の心象を見せられる。そしてそれだけである。

藝術における廣津氏のこの態度は、一般的に言へば、人生にたいする觀照者的態度であり、そこに常に作用してゐる自然主義的傾向を認められるが、しかし彼は決して冷たい客觀主義者ではない。彼は客觀者の立場にあると共に、共に生きる者の立場になる。彼は同情すると共に悲しみ惱ると共に苦惱になる。その浮動した、消極的な、無氣力な傾向に、現在の一部のインテリゲンチヤの心理をそのまゝに反映して、理想のないものと言つてよい。彼及び彼等は、現實生活にたいして徹底した傍觀者の態度もとらず、それかと言つて現實生活にたいして強い懷疑をなげかけるほどの要求も持たず、また積極的な世界への進路を企てるほど現實生活を嫌惡しもしない。或はまたそれにたいして何等かの解決を下し、主張を押しつけることもしない。たゞその描くがまゝである。廣津氏はこの態度をもつて、藝術家の藝術家らしい態度とし、廣津氏の藝術を愛好するインテリゲンチヤは、それによつて彼の消極的感受性と、消極的無主張性の肯定感に滿足させられて、人間の人間らしい生き方に共感する。

佐々木茂索氏の場合は、廣津氏に較べると多少意力的である。彼も一般的に言へば廣津氏同様觀照者の態度をとつてゐるが、彼は現實生活に一種の小さいが相當に鋭い批判を加へることや、徹底はしてゐないがこれも相當に突込んだ暗示を與へることがある。その意味におい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ては政治的經濟的な保障に、といふ事を確認してゐるやうであつてよいであらう。だが、何れも、小市民の生活と感じあうた生活基盤にたいして、極めて闘爭的な、行き詰りにつきたりな、絶望的な傾向とることによつて、動搖したインテリゲンチャの心理をそのまゝ見せてゐる。たゞ彼の感覺や神經にあつて特色のあるのは、それが多少とも技術的な色彩をとつて來てゐることである。

この二人よりはヨリ洗練された感覺をもち、その感覺が多少とも明るくて、現代生活の矛盾を暴露するといふ方面にあつても、多少とも意識的、意力的なものを見せてゐるのは岸田國士氏である。が、氏の藝術の持つてゐる一種の魅力は、恐らくはそこにあるのではなくて、そのいかにも明るく、輕快な、皮肉や諧謔が、それとして露骨に作用しないところにあるのであらう。これが今日の一部のインテリゲンチャの心の動きをそのまゝ代表してゐるものであることは、容易に想像し得られる。例へば先頃讀んだもので、戰地に赴く將校の門出を取扱つたものを私は記憶してゐる。そこには戰爭と軍人生活の機構にたいする想像に織込んだ將校があり、町とその藝術と將校の夫人との間の相互關係に、見逃すことの出來ない現實的の暗黒を見せてゐるが、しかもそれらの全體が、一種の輕快な間接的な自然を與へるやうな遣り方で、構成されてゐた。そして一種の明るい印象となつてゐたと思ふ。

こゝに氏の藝術の魅力が潜んでゐる。

この三人の作家の藝術と態度に自らの心理的反映を見出したインテリゲンチャは、そこに、その時々の階級的立場に、いてゐるやうな小市民の、その關係をその存在の階級的意識のために多少とも階級のなかに、またかつて彼等の階級的意識には、ブルジョア・フリスチンにたいし一種の反撥を抱かせることによつて、明日の彼等の地位を見出さうとした。更にまた彼等の階級的自覺は、自己の階級に新らしい支持を與へやうとして、それがいかに生く可きか？に答へやうとした。しかし今、このインテリゲンチャはそれらの努力を忘ひ、その時々の持つ輕い感覺と、淡い情感と、淡い憂愁と、はかない享樂とに身を委せてしまつてゐるのである。そして彼等自身が、新らしい意味のブルジョア・フリスチンにまで轉落しやうとしてゐるのである。

彼等の藝術の持つ支配力の心理的意義は、特に、その浮動性、情感性、感傷性、享樂性の傾向にある。日本のインテリゲンチャの今後の生活過程において、かうした藝術的支配の及した作用は、相當に大きな指標として現はれて來るであらう。

私はこれまで日本のインテリゲンチャのその時期、その場合の心理的代表者として、多くの文學的藝術家を選び出して來て、その間の關係をたどり、併せて日本の社會の進行過程に於けるその作用を論證しやうとした。が、私の企圖は殆んど果されず、輪郭だけとしても不徹底なものにたつたやうである。それは今の場合仕方がないとして、もしこの論證が何等かの意味で、現在の作家を批判し、その傾向を示唆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

したものと解する人があれば、それは誤りである。

それにたいしては私はプレハーノフの次の言葉を引用しておく。

『私は、有名な言葉の通りに、泣かず、笑はず、唯理解する、ことに努めるのみである。私は現代の藝術家は、プロレタリアートの解放的努力によつて靈感づけられ「ねばならない」とは言はない。否、若しも林檎の樹が林檎を生み、梨の木が梨を結ばねばならないとしたならば、プルジョア的見地に立つてゐる藝術家は、上記の努力に反對して立たねばならないのである。頽廢期の藝術は頽廢的でなければならない。これは必然である。そして我々がこれに「氣を腐らす」のは無益のことである。しかし××××が見事に言つてゐるが如く、「階級鬪爭が終局に近づいて行くと、支配階級の圏内に於ける解體の過程は、舊社會の内部に於いて、非常に強烈な程度に達し、支配身分の或部分がそれから分離して、未來の旗を支持しつゝある××的階級に加擔するに至るのである。かつて貴族の一部がブルジョアジーと合體した如く、いまやブルジョアジーの一部、即ち歷史的運動の全行程の理論的理解にまで到達した所のブルジョア・イデオローグ達が、プロレタリアートの側に移りゆきつゝあるのである。」』（一二・四）

佐佐木信綱著　—最新刊—

萬葉漫筆

本書は萬葉學研究の權威佐佐木博士が多年研究の集積たる隨筆的考證にして、この好題目を捉へて博士の腕筆は如何に光彩を發するか。

内容一班　萬葉集と天平時代、萬葉集は二十巻なりや、萬葉の影法師、萬葉集と畫題、萬葉研究と婦人、萬葉こゝかしこ、桧嵇齋に關する一發見、萬葉集の外國語譯本、萬葉と大和、權律師仙覺、源實朝、小泉八雲氏、新選萬葉百首、萬葉珍本談、萬葉遊蕩物語、萬葉集笑話、外二百餘項。（挿入畫葉十六葉）

（四六版 極美裝）　定價貳圓 送料廿錢　改造社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

源實朝

齋藤茂吉

○

賀茂眞淵は、初心者のために書いた新學の中で、『奈良の朝までの人の心の高きを思へ。鎌倉の大まうち君の歌をもむかへ見よ。……鎌倉の大まうち君の歌は、今の京この方の一人なり』云々とかう書いてゐる。すなはち、歌を學ぶ者の手本となるべきものは、萬葉集の歌である。それから實朝の歌をもよく讀むといゝ。實朝は平安朝以後の第一人者だといふのである。然るに、香川景樹に新學異見のなかで、『鎌倉の右府の歌は志氣ある人決して見るべきものにあらず。……右府の如く、悉く古調を踏襲ひ、古言を剽裂たらんには』云々と云つて居る。

ひとりの歌人、實朝の歌の如きものに關する評價がすでに斯のやうに違つてゐる。眞淵よりも後に生れた景樹は、眞淵の系統をひいた江戸派歌人にむかつて一爲事をしようとして、先づ眞淵の新學に對つて異を樹てた。それであるから景樹は實朝の歌を一々吟味したと云はうよりも眞淵の言葉に對する反感が先に立つてゐたと看るべきであらう。それでも景樹は年老いるにつれて、萬葉の註釋を書いたり、萬葉調を取入れたり、さういふことは、こそこそとやつてゐた。

明治になつて、正岡子規が景樹の言葉を評してかういつた。『自己の歌が悉く古今以下を踏襲剽竊した事を棚へあげて、却て創意多き實朝の歌を傷けんとは憎さも憎き振舞かな。泥棒が人に對して泥棒よばはりするさへ片腹痛きに、況して高潔淸淨なる實朝の如きを泥棒に落

さんとす。盗人たけだけしとは景樹の事なり。其の後、子規の言葉に對して、こそこそと云ふものがあつても、いまだ力強い雄渾の文章に逢著したことがない。

近ごろ實朝のことを、新らしく論じたものがありませんか。

一向知らずにゐます。新らしくとはどういふ意味ですか。

つまり新らしい頭、新しい看方ぐらゐの意味でせうか。

成程。そいつはむづかしいでせう。つまり征夷大將軍としての實朝を論ずるといふのでせう。さういふことは、達者な社會科學者なんかなら何とか說は立てませう。

歌からは說が出ませんか。

出ないとおもひます。歌の評價は、そんなにぐらぐらするものではないのです。

併し、新しい文學觀がありますから、新しい和歌觀もありませう。

私も一二聽かされたが、皆つまらなかつた。何だか眞似でしたね。

成程、さうして見ると實朝などは我儘で獨創のところがありましたね。

そこの點を一二聽かせませんか。

いやもう私に實朝のことは前に書いたこともあるし、今いふと二番煎じ、三番煎じになりはしませんか。

さうならないやうになさるのか、新しい感激でせう。鑑賞家に對する評價は、不斷のさういふ新感激に本づいたものでなければなりますまい。

さうですか。まあ、前人では、賀茂の眞淵にこんなことを云つてゐます。それに對して云つたのが景樹の新學異見の言葉です。今なら、實朝は『將軍』だから、旦那藝、殿樣藝くらゐより下等だなどといひ勝でせう。それも實朝のものを讀みもしない癖にです。さういふ西洋眞似の說は駄目だ。

そのうち一人になつて私は部屋の中にゐたが、友のいつたことが私に、暗示でもかけたやうに頭のなかにこびりついてゐるやうでもある。

○

實朝は、建久三年八月九日に生れた。賴朝四十六歲。政子三十六歲の時である。吾妻鏡に、『九日。己酉。天晴風靜。早旦以後。御臺所御產氣。御加持宮法眼。驗者義慶坊。大學坊等。鶴岳。相模國神社佛寺奉二神馬一。被レ修二誦經一……巳剋。男子御產也。……次河野上總妻室(阿波局)爲二御乳付一參上。女房大貳局。上﨟局。下總局等。可レ爲二御介借一也。次有二御名定一千萬君云々。』吾妻鏡の文章を見ると、當時の有樣が隨分細かく記載してあり、將

軍家御臺所の御産だといふのでなかなか大袈裟なことをしてゐる。諸社佛閣に安産の祈願をしてゐるばかりでなく、産所の儀式もなかなか凝つたものであつた。

十日には若君二夜事があり、十一日に三夜事があり、十二日には四夜事があり、十三日には五夜事があり、十四日には六夜事があり、十五日には七夜事があり、それぞれの人物をして沙汰せしめてゐる。七夜事の時は、吾妻鏡に、『今夜若公七夜事、小山左衛門尉沙汰之。將軍家幷若公御方皆献御馬御劒等。御臺所御方進綾廿段衣三領、女房中長絹、百疋云々』とある。

十月十五日には、政子は孩兒の實朝（千幡）を連れて産所から幕府に歸つてゐる。十一月五日は御行始を行つてゐる。吾妻鏡に『五日。甲戌。卯尅。新誕若公御行始也。入二御藤九郎盛長甘縄家一。被レ用二御輿一女房大貳局。阿波局等。奉レ扶二持之一』とある。廿九日には五十日百日の儀式があつた。『新誕若君五十日百日儀也。北條殿沙二汰之一女房不レ候二陪膳一江間殿令レ從レ之給。被レ進二御贈物一。御劒沙金鷲羽也云々』といふ記事がある。

十二月五日の吾妻鏡には、『將軍家自率レ懷二新誕若公一出御。此嬰兒鍾愛殊甚。各一レ意而可レ令レ守二護將來一之由。被レ盡二懇懃御詞一。剰給二盃酒一。女房大貳局（近衞局）。取レ杓持レ盃云々。仍面奉レ懷二若公一献二御引出物一。各[illegible]云々』[illegible]むと頼朝の面目も躍如として居り、頼朝がすでに[illegible]を過ぎ、漸くの人生上の難關を切ぬけて來た今、計らず男の子をもうけて嬉しいといふところが誠によく出て居る。頼朝が多勢の家來を前に置き、一面には儀容を損じないやうに努めながら、嬉しくて溜まらんといふ面持をしたところであつて、かういふ戯曲的な場面であるから、文章の『此嬰兒鍾愛殊甚』といふ一句は實に千鈞の力を持つて居り、及び難い技巧であるとおもふ。吾妻鏡の文章は妙な漢文で私には能く讀めないところが澤山にある。併しひろひ讀するに際してもたまたま如是の句に出逢ふのであつて、平安朝和文の流麗で柔かいものから、かういふ文體に移つて讀み味へると、そこに鎌倉期の文學の何かを暗指してゐることを思はねばならぬ。特に實朝の和歌を觀賞するに當つて、何かの目安となるに相違ない。

實朝の誕生はかくの如くであつた。併し頼家誕生の時も相當の儀容があつたので、これも吾妻鏡にはなかなか細かく書かれてゐる。壽永元年八月十一日の條に、『己酉。及レ晩御臺所有二御産氣一。武衞渡御。諸人群集。又依二此御事一。在國御家人等。近日多以參上。爲二御[illegible]一被レ立二奉幣御使於伊豆筥根兩所權現幷近國[illegible]社一』といふのであるから、やはり實朝の時と略同樣である。ところが同じ年の七月十二日の條に、

『庚辰。御產所依二御産氣一渡二御比企谷殿一。被レ用二御輿一。是兼日。被レ點二其所一云々。千葉小太郎胤正。同六郎胤頼。梶原源太景季等候二御共一。梶原平三景時。可レ奉二行御産間一之旨。被二仰付一云々。』とあるのは、産の約一月ばかり前に陣痛に似た證があつて一時は産があるのではなからうかと云つて諸人が氣色立つたところである。

八月十二日に頼家が生れた。『庚氏。霽。酉剋。御產所男子(頼家)御平產。御驗者専光房阿闍梨良暹。大法師觀修。鳴弦役。師岳兵衛尉重經。大庭平太景義。多多良權守貞義也。上總權介廣常引目役。戌剋。河越太郎重頼妻(比企尼女)依レ召參入。候二御乳付一』といふやうなことも書いてある。

私は實朝のことを書かうと思つて、こゝに計らず頼家のことを挿入した。頼家は實朝の兄であるから、そこに何かの共通點があるとおもふのである。頼家は富士の卷狩に頼朝に連れられて行つたり、稍長じては頼朝が京都にのぼつた時にも一しよに行つてゐる。それが廿三歳の若さであんな工合になつて來た。そこには北條家の云ふことを聽いてばかりは居なかつた性質があつたのであらう。

頼朝が一種の恐怖のために政略の一大方針として、身内の者でも何でも殺した。靜が生んだ男の兒を由比ヶ濱に沈めたのなどもその恐怖心に本づいてゐる。頼朝歿後、北條氏が頼家などに對した態度は頼朝の方針を學んだに過ぎない。さう觀察してくると、頼家等の人物をば幾迴にも割引して考へねばならぬ必要がおこつてくるのである。

○

實朝は、承久元年正月廿七日、八幡宮別當阿闍梨公曉のために弑せられた。その時の模樣をば、愚管抄の文に據つて記すと次の如くである。

『夜ニ入テ奉幣終テ、寶前ノ石橋ヲ下リテ、扈從ノ公卿列シタル前ヲ揖シテ、下襲尻引テ笏モチテユキケルヲ、法師ノケウサウトキント云物シタル馳カカリテ、トガサネノ尻ノ上ニノボリテ、カシラヲ一ノ刀ニハ切テタフレケレバ、頸ヲウチヲトシテ取テケリ。ヲイザマニ三四人ヲナジヤウナル者ノ出キテ、供ノ者ヲイチラシ、コノ仲章が前駈シテ火ヲフリテ有ケルヲ、義時ゾト思テ同ジク切フセテ殺シテウセヌ。義時ハ大刀ヲモチカタハラニアリケルヲサヘ、中門ニトドマレトテトドメテケリ。大方用心セズサ云バカリナシ。皆クモノ子ヲチラスガ如クニ公卿モ何モニゲケリ。カシコク光盛ハコレヘハコデ、鳥居ニモウケテアリケレバ、ワガ毛車ニ乘テ歸リニケリ。皆散々ニチリテ鳥居ノ外ナル數萬ノ武士是ヲシラズ』(下略)

文はなかなか旨いので、當時の有樣を眼前に髣髴たらしめることが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雕刻な、文中の「ケウサウトキン」は「[illegible]」か、いまだ分明で
ないから、大方君子の教示をあふぎたい。

然しはじめ、どういふ經過で實朝が殺害せられたか疑問にしてゐたのであつたが、これで見ると、數名の助手が居つた。それから一大刀頭上にあびせて倒れたのを、扈從の者どもが皆逃げたので、邪魔なしに公曉は實朝の首を斬取つたのである。『皆クモノ子ヲチラスガ如クニ公卿モ何モ逃ゲケリ』と云ひ、『皆散々ニチリテ鳥居ノ外ナル數萬ノ武士モ是ヲ知ラズ』といふあたりの文章はなかなか旨いとおもふ。

吾妻鏡にも、『軍兵空退散。諸人惘然之外無レ他』と書いてある。それから公曉は實朝の首を持つて、雪下北谷の家に行つた。そして食事する間もその首を側から離さなかつた。吾妻鏡に、『羞二膳間一。猶不レ放二手於御首一云々』と書いてある。

『廿八日。戌尅。將軍家葬二于勝長壽院之傍一。去夜不レ知二御首在所一。五體不具。依レ可レ有二其憚一。以二昨日所レ給二公氏一之御鬢一用二御頭一。奉レ入棺云々』

實朝は斯くの如くにして殺せられた。吾妻鏡の文章を讀んだだけでも、豫定の行動であつたやうにも思へるし、公氏に鬢一筋を記念として與れたり、『出でていなば主なき宿となりぬとも軒端の梅よ春を忘るな』といふ一首を詠んだりしてゐるあたりは、種々不審な點はあつても、實朝自身すでに何かの豫感が有つて人麿等に倣つたと解釋しても好いだらう。

建久三年にあの如くに平和に生れた實朝は、承久元年に廿八歲にして、かくの如き悲慘な最後を遂げた。そして五體不具のまゝで入棺せられたのである。

○

賴朝はあのやうな、機敏であつてまた根強い政治家であつた。併し政子が實朝を懷妊してゐた頃は、奧州の征伐もすんで全く天下を平定してしまつた時である。數ふるに賴朝は、實朝の生まれる一月ばかり前に征夷大將軍になつてゐる。廿日。庚寅。大理飛脚參着。去十二日。任二征夷大將軍一給。云々とあるのは即ちそれである。賴朝には、心細かく根強いところがあつて、いゝ加減に濟ましておかれない性質があつたやうである。私は歷史家でないから、一々立證することは困難であるが、彼の一生の遣口から觀て、そんな氣がしてならない。賴朝が和歌を作つたのなども單になぐさみ、餘興ばかりではなかつたのであらう。京都と接觸しようとしてゐるうちに、その細かい性質がそこまで至らしめたのであらうか。

それから政子といふ女はどういふ女であつたらうか。一生の輪廓

からいへば、成程女丈夫であつたと謂つて好いであらう。けれども何處か鋭く、多感で、思ひつめる性質があつたのではあるまいか。それゆゑ、吾妻鏡に、御臺所御嫉妬甚之間などといふ文章がある毎に私は甚だしく興味をおぼえるのである。元久元年七月十八日、頼家は修禪寺で殺された。その時の吾妻鏡の記事は極く短く、「十九日。己卯。酉尅。伊豆國飛脚參著。昨日（十八日）左金吾禪閤（年廿三）於當國修禪寺薨給之由。申之云々」とあるに過ぎないが、その時、政子は實はひどく歎いたに相違ない。承久元年に實朝の殺された時でも、やはり政子はひどく歎いてゐる。たゞその心情を外に露出し難い狀態にあつたので、頼經、供養などによつて、辛うじて心を靜めたたらう。併しまたそれで濟まされるといふ強い吾儘で執拗なところもあつたに相違ない。尼將軍、女丈夫などといふ名はそのへんから來てゐると思ふ。

頼朝が政子に生ませた子には、頼家、實朝のほかに、大姫、乙姫といふ二人の女がゐる。

大姫は木曾義仲の嫡子義高と許嫁の仲であつたのに、義仲の歿後義高は頼家のために殺されてしまつた。大姫はそれからといふものはしばしば病氣の發作を起してゐる。後、建久五年になつて政子は大姫をば一條高能に嫁せしめようとすると、大姫はそれを跳ねつけて居る。症は吾妻鏡に、「大姫君御違例。大御悩之由。人群參。」とか、「姫君有御不例之氣」とかいふのであるが、恐らくは官能性神經の症であつたのではなからうか。さういふ、いぢらしい、思ひつめる性質を私は大姫の場合にも想像することが出來る。當世にあつては、珍らしいとも思はぬが、鎌倉の昔にあつてはやはり一種の特色を有つてゐる女といふべきではあるまいか。建久五年八月十八日の條に、「姫君御不例夜本給之間。有御沐浴。然而非可有御恃始終事之由。人皆含愁緒。是偏御歎息之所積也。可令嫁右武衛（高能）給之由。御臺所内内雖有御計。敢無承諾。及如然之儀者。可沈身於深淵之由被申云々。是猶御懷舊之故歟云々。」とある。御懷舊とは義高の事をおもふ心情をいふのである。御歎息之所積也の句は平凡のやうであつて實は平凡ではない。なほ建久五年七月廿九日の條にも、「將軍家姫君自夜御不例。是雖爲恒事。今日殊危急。志水殿有事之後。御悲歎之故。追日御憔悴。不堪斷金之志。殆沈爲有之思給歟。且貞女之操行。衆人所美談也」とある。志水殿は義高をいふので、吾妻鏡の作者もなかなか氣乘がして書いてゐる。近世フロイドの稱へた Libido は、やはりこの邊にも淵源を求めて居るのである。私はそれをば必ずしもリビドのみには限局せしめないが。

それから頼家である。頼家は稚くして、兩親に愛せられ、聰明であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つたことがいろいろと傳へられてゐる。然るに中ごろから晩年にかけて、非常識の行動に出で、つひに悲慘な最後を遂げたのであるか、やはり多感で、思ひつめ、執拗なところの男ではなかつたらうか。少年の頃には素直に延びて行つた頼家の性質も、中ごろから北條氏のために壓迫せられるに及んで、そこに何か順直でない强靱な性質を出して來たものと看做していゝであらうか。私は秘かに頼家も暗愚な男ではなかつたと考へてゐる。頼家歿後、頼家に心服し同情してゐたいはゆる左金吾禪閤御家人のあつたことを思へば、それを單に北條氏に對する反感のみとは受取がたい。やはり頼家の死去に對して强い感動を持つた家人等と看做なければならぬ。

頼朝も政子も動亂の世に處して、飽くまでその力量をあらはした。頼家の弟には、義經、範頼の如きがある。義經の如きは尋常一樣の人物ではない。いつたい亂世に處して功成り名遂げたものを人は英雄といふ。之に反して、その後繼者であつた、頼家、實朝の如きになると、人はこれを稱して無能の士に過ぎないといふ、能く云つて、聰明ではあらうが亂世に處する器では無いといふ。けれどもさういふ說は、單に事蹟の迹を追うて論斷するに過ぎないので、さういふことは陳腐歷史家に任せておいていゝ筈のものである。それゆゑ私の如き素人あまのじやく出でて、頼家實朝を論斷するのである。一幡君等は頼家、實朝などは、頼家と同じやうな運命に陷いて殺害せられたのか。

○

實朝の人物、性質はどういふものであつたか、これも古來二通りの見解があり、それは次のやうなものが本になつてゐるとおもふ。

一つは愚管抄卷六の文章で、『又ヲロカニ用心ナクテ、文ノ方アリケル實朝ハ又大臣ノ大將ケガシテケリ。又跡モナクウセヌルナリケリ』といふのである。

一つは增鏡新島守中の文章で、『このおとどは大方心ばへうるはしく、たけくもやさしくもよろづめやすければ、ことわりにも過ぎて、もののふのなびきしたがふさまも、ちゝ(代々)にもこえたり』といふのである。

この二つの看方は昔からあつた。その間にいろいろの人の折衷說も挿入せられるのである。古來から、かういふ二通りの見方があつたのであるから、よく參考して考察する方がいゝとおもふ。愚管抄の『大臣ノ大將ケガシテケリ』といふことは將軍としての成迹から觀察した言葉であつて、さういふことにもなるのである。實朝は十二歲で將軍になつたが、時の政子、叔父の義時が當時政務をとつたやうなものである。しかし實朝は長ずるに及んで、幾分の傾向やは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時々示した。それが義時等にとつて一種の恐怖ともなつたのに相違ない。この事は頼家の場合と同様である。

實朝は京都の風習をばどしどし鎌倉に移したのに對して、頼朝在世中のことを回想しては、實朝のやり方を批難するものもあつたらしいが、かういふ事は世の中にありがちの事であつて、先代の事が偉く見え、當代がつまらなく見えるといふ下世話の現象と少しも變りはないのである。それから、京都との接觸の如きも頼朝時代からの方針で、何も實朝がはじめたのではない。

實朝は、政治上の事に全力をそそぐことが不可能の狀態に置かれたために、別な方面にその本領があらはれて行つた。それは短い年月であるが、和歌の方面その他にあらはれたのである。近時、森鷗外先生は伊達綱宗のことに言及されたことがある。その中でかういふことを云はれた。『綱宗は凡庸人ではない。和歌を善くし、筆札を善くし、繪畫を善くした。十九歳で家督をして、六十二萬石の大名たること僅かに二年。二十一歳の時、叔父伊達兵部少輔宗勝を中心としたイントリイグに陷いつて蟄居の身となつた。それから四十四歳で落飾するまで、一子綱村にだに面會することが出來なかつた。……綱宗はこれより前も、これから後老年に至るまでも、幽閉の身の上でゐて、その銷遣のすさびに殘した書畫には、往往知過必改と云ふ印を用ゐた。綱宗の藝能は書畫や和歌ばかりではない、蒔繪を造り、陶器を作り、又刀劍をも鍛へた。私は此人が政治の上に發揮することの出來なかつた精力を、藝術の方面に傾注したのを面白くおもふ。面白いのはここに止まらない。綱宗は蟄居のために意氣を挫かれずにゐた。品川の屋敷の障子に、當時まだ珍しかつた硝子板百餘枚を嵌めさせた。その大きいのは一枚七十兩で買つたといふことである。その豪邁の氣象が想ひ遣られるではないか。かう云ふ人物の綱宗に仕へて、其晩年に至るまで愛せられてゐた品といふ女も、恐らく尋常の女ではなかつただらう』かういふのである。文は、全集第七卷、椙原品の傳中にある。綱宗の幽閉せられた本は、綱宗が吉原に通ひはじめたのにある。さういふ綱宗の一生は、大名としての成迹から觀て、實に凡庸人でなければならぬ。そして、いかにも今までその通りに評價されて來たのである。然るに鷗外先生は別な方面から綱宗を品評されたのを私はたいへん興ふかくおもふ。そこで私はこの文を愛し、折にふれて實朝を聯想することもあつたので、此に引用した。

實朝には、一面、我儘で、早熟で、豪華で、なかなか聴かない、思ひつめるところがあつたとおもふ。實朝が一躍して萬葉集の歌を手本とするやうになつたのなども、さういふ氣象に本づいてゐるとおもふ。實朝が渡宋の計畫を立て、陳和卿に命じて唐船を造らせたことに就

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いても、史家がいろいろと說を立ててゐる。中には北條氏の陰謀から遁れようとしたのであるといひ、或は北條氏を謀らうしたのであるとまで云つて居る。然し、この計畫も、暴擧で、世間知らず、思ひつめる氣象に本づくと解釋すべきである。即ち、實朝は、まのあたり宋の文明を見たくなつたのである。これは恰も幕末あたりの新進氣鋭の士が、歐羅巴を見たし、亞米利加を見たしと思つたのと同樣である。實朝は以前から宋の文明についていろいろ聞いて居り、僧侶から法談もしじゆう聽いて居る。そこに陳和卿が來て、實朝のまへで啼泣したりなどして、『貴客者昔爲二宋朝育王山長老一于レ時吾列二門弟一』などと云つたので、一つ宋に行つて見ようといふ氣になつたのである。

然し、さういふ實朝の企は、賴朝の舊臣、政子・義時などの眼から觀たなら、隨分非常識な、困つた企に觀えたことと思ふ。企は船が由比浦に浮ばないために遂に沙汰やみになつたが、和卿は相當の力量ある技術家であつて、東大寺の再建立にその力量をあらはしてゐるくらゐであるから、唐船建造に手落があつたとは思はれない。『彼船徒朽二損砂頭一』については、何かの隱れたる原因があるらしいといふので、明治大正の脚本家なども、そのへんを題材としてゐるのである。陳和卿の事蹟は、玉海、吾妻鏡、東大寺要錄、隨心院文書等によつて略之を知ることが出來、三浦周行、大森金五郎の諸教授が嘗てくはしく論じたことがある。

いづれにしても、渡宋の計畫に、めそめそした懦弱に基づいてたまれたといふことは、考へられない。

○

金槐集雜の部になると、人世觀にわたつたやうた抒情歌が載つて居る。例へば、『世中は鏡にうつるかげにあれや有るにもあらず無きにもあらず』或は、『塔をくみ堂をつくるも人なげき懺悔にまさる功德やはある』或は、『ほのほのみ虚空にみてる阿鼻地獄行方も無しといふもはかなし』などである。

かういふ數首の歌から、實朝は非常に厭世的になつてゐたと結論するのは少し早すぎはしないだらうか。なぜかといふに、この種類の歌は集中でも數が少く、それから、當時の敕撰集の釋敎の部などには、如是の歌が題詠歌として幾つもあるからである。これゆゑかういふ種類の歌の單に意味合からばかりでは直ちにその作者の人物などを推斷してはならないのである。

實朝は、歌を詠むくらゐであるから、人生の悲哀に感じ得たことは言ふことを須ゐない。吾妻鏡に、子刻將軍家出二御南面一。于レ時消人定悄然無レ音。只月色蛩思傷レ心計也。御獨數首有二御獨吟一などとある

が、これなど歌人とせば常のことであつて、京都の一流の歌人などはもつと苦吟惨憺したことが書物に見えてゐるのである。

それから、坪内博士は、名殘の星月夜といふ脚本を書かれたとき、實朝の口から、「あゝ併しながら、醉ふことの出來た彼は幸福であつたわい！　予は何ぞまだ醉ふといふことの味を知らぬ』と云はせてゐる。この脚本では實朝は一種の醒めたる人になつてゐるが、恐らくは、實朝は、もつと情熱を内に籠らせた人ではなかつただらうか。

實朝は十三歳の時に結婚した。十二歳の時に征夷大將軍となり、その翌年のことである。はじめ足利義兼の女が選ばれてゐたのを、權大納言信清の女を迎へた。これは政子の口添もあつたらしいが、實朝自身の意志に本づいたといふことである。

この結婚なども實朝の氣象を伺ふに足る一つの資料となり得るのではなからうか。御臺所は、どういふ女であつたか。京都公卿の女でありながら、政子のやうに感情のはげしい女ではなく、優しくしとやかな女のやうな氣がしてならない。吾妻鏡には尼御臺所政子の記事は所々に散見するが、將軍實朝の御臺所の記事は殆ど無いといつてい〻。これは表立つた働きをせず、奧向につ〻ましく暮らした證據であらう。それでも京都文化に育てられた女であるから、和歌の上などでも實朝の相手となり得たと想像してい〻。

實朝が死んだ時、御臺所は髪をきつた。正月廿八日。辰刻。御臺所令落飾給。といふのは即ちそれで、後の八條禪尼である。この御臺所はいつか文士の制作の對象になり得ても差支にないとおもふ。

實朝と朝廷との關係、特に後鳥羽上皇との關係も對象になり得るし、實朝の性格もそこから覗はれるとおもふ。太上天皇御書下預時歌、三首。それから官打の説。大江廣元の諫言その他である。

けれどもこの方面の事は、概ね專門の歷史家によつて説かれて居るから、もはや贅言はやめなければならぬ。ただ三首の歌の解釋について少しくいふ必要があるぐらゐに過ぎない。

○

實朝はどういふ容貌をしてゐたか、それはよく分からないが、坪内博士の『名殘の星月夜』や、林氏の『鷹羽物語』などを芝居にやるとき出て來るやうな、顏の蒼白な、瘦せてひよろひよろした人物では無かつたと私は想像する。私は一度『鷹羽物語』の芝居を見たときに實朝に扮した役者は確か勘彌であつたらしい。併し多くの日本人は、あゝいふ顏を以て實朝を想像してゐると見える。そこが私の不服におもふところなのである。

第一、賴朝の容貌は、史に「賴朝人となり面大に身短く』とあるや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うに、これは、痩せてひよろひよろしてゐる人物ではない。よく何の本にも載つてゐる頼朝の畫像は、壯年の時のものであるが、口が大きく、顔が肥つて鋭い目付をして居る。この頼朝の畫像はやはり實朝の容貌を想像するうへの參考となるに相違ない。それから、このごろは頼朝に關する著書は大分出來てゐるやうである。さういふ書物には、頼朝の容貌に關する文章が載つてゐるであらうから、實朝の容貌を想像する補助方法として讀むといゝ。

實朝は十七歳の時に疱瘡に罹つてゐる。吾妻鏡承元二年二月三日の條に、『將軍家依二御疱瘡一無二御出一。』の文字があり、二月十日の條に、『將軍家御疱瘡頗令レ惱二心神一給。』といふ文字がある

ついで建暦元年（實朝二十歳）二月二十二日の條に、『將軍家御二參鶴岡宮一。去承元二年已來。依下令レ煩二御疱瘡之跡一給上無二御出一。今日始有二此儀一』かういふことがある。つまり十七歳の時に罹つた疱瘡の跡が氣にかかり、鶴岡社に參詣するやうなことがなかつた。それが二十歳の二月廿二日にはじめて參賀の儀があつたといふのである

想像するに、實朝の背はさう高くなく、ひよろひよろとしてはゐなかつたであらう。體は餘り痩せてはゐなかつたであらう。そして十七歳以後は痘痕を有つた顔をして居ただらう。京都の大通寺に、長さ三尺一寸の實朝の木像がある。大通寺は實朝の後室八條禪尼が、實朝の冥福を弔らんがために建立して願空律師（愛心上人）を請じて開山としたところである。その像を見るに決してひよろひよろした顔ではない。ことに沈痛の面持をしてゐる所が凡人は見のがさぬがいゝ。

實朝は病身であつた。將軍家御違例。將軍家御不例などの文字が吾妻鏡に散見するのは即ちそれである。併し實は誰でもそれくらゐの病氣はしてゐるのである。ただ頑健の身でなかつたことだけは私も承服する。鎌倉の僧が實朝に宋渡來の茶を獻じて、その功德を云々してゐるのなども、實朝の身體が餘り頑健でなかつたことの一つの證據と看做してもいゝだらう。

頼家は二十三歳で死んでゐるが、三人の子があつた。之に反して實朝には一人の子も無かつた。歷史家はそれをば過淫の結果だらうと云つてゐる。また荻生徂徠などは、『政子の淫亂の遺傳はらぬは元の評みしなるべし。頼家・實朝・時政・義時・和田・秩父までも絲をよくせざるは、しるせる外に仔細あるべし。淫欲にあらざりしかば、かゝるいはれなき事はあらじ』（南留別志）などと說さへ立ててゐる。

實朝には妾のあつたことは史家も云つてゐる。金槐集の中に、女房のことを詠んだ歌があり、情緒のこまやかな點から看て、關係のあつたと考へてもいゝが、その當時にあつてそれくらゐの事は當りまへであつただらうとも思ふ。また相當の數の妾があらば庶子の一人二人あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてもいゝ筈である。それのないところを見ると、實朝は世の人々の考へてゐるほど淫欲をほしいまゝにしたとは私は考へない。又夫婦の間の交情に取り立てていふべきことも無かつた。實朝が殺されたとき、御臺所は髮をおろして居り、これは單なる形式はかりとは考へられない。

○

實朝の歌人としての略歴を記すと次のやうたものになる。漢文は吾妻鏡の文章を抄した。

十四歳（元久二年）『將軍家令レ詠二十二首和歌一。内藤兵衞尉朝親。自二京都一下著。持二參新古今和歌集一』

十七歳（承元二年）『兵衞尉淸綱（御家所侍）昨日自二京都一下著。今日參二御所一。是隨分有職也。仍將軍家有二御對面一。淸綱以二相傳物一令レ獻二古今和歌集一部一』

十八歳（承元三年）『將軍家依二御夢想一被レ奉二二十首御詠歌於住吉社一。内藤右馬允知親爲二御使一。以二此次一去建永元年御初學後御歌撰二三十首一。爲二合點一被レ遣二定家朝臣一也。□加二合點一返進。又獻二詠歌口傳一卷一』

廿二歳（建保元年）『京極侍從三位獻二相傳私本萬葉集一部於將軍家一。……御賞翫無レ他。重寶何物過レ之乎由有レ仰。』

ざつとからである。も一度繰返していふと、實朝は十四歳の時にはじめて和歌を味じたことになつてゐる。これは實朝は早熟で、はやくから京都の文明にあこがれ、妻にも自ら京都公卿の娘を選んだほどであるから、和歌といふものを作つて見ようといふ一種の好奇心、名譽心から出發したものである。それに、その當時すでに家臣のうちにぼつぼつ和歌を稽古してゐるものも居り、さういふ侍臣から手ほどきをして貰つたのであらう。

それから、其年に侍臣が京都に行つたついでに、新古今集を持参した。新古今集には父頼朝の歌も入選して居り、出來て間もない勅撰集であるから、實朝はそれに據つて稽古をし、ずゐぶん思切り模倣もし、句や言葉もどしどし取つて使つた。

それから十七歳の時に古今集を見てゐる。これは御臺所の侍臣である淸綱といふ者が京都から持参した。この淸綱はいろいろの事を知つてゐたので、實朝は淸綱から學ぶ處も多かつたに相違ない。實朝は古今集を見てからどしどし古今集の影響を受けた。金槐集を讀むと、實朝は、隨分細かいところまで古今集の模倣をし、言葉を採り用ゐてゐることが分かる。その模倣は啻に古今集の初の方はかりでなくしまひの方の東歌の影響までも隨分受けてゐる。

ついで十八歳の時に藤原定家に教を受けてゐる。これは、實朝が詠

想によつて、自詠の和歌を偶古今風に私撰することになり、その使は内藏權頭知親であつた。この知親は拾遺愚草にも、「好士也。定家卿門弟」と註してある如く、前から定家に和歌の道を習つてゐた者である。そこで、それを好い機會とし、實朝が十四歳の折から今まで作つた歌のうちから三十首を選んで、定家に添削をこうたのである。この知親といふ者は朝親と同じ人間で、實朝十四歳の時、新古今和歌集を京都から持つて來て呉れた者である。

すると約一ヶ月餘を經て、その詠草に合點を加へて返進すると同時に、詠歌口傳一卷を獻じた。この詠歌口傳といふのは近代秀歌とも、定家卿和歌式とも、承元和歌式とも云つてゐる。「詞は古きを慕ひ心は新らしきを求め及ばぬまでも高き姿を願ひて寛平以往の歌にならはば、おのづからよろしきこともなどか侍らざらむ」といふやうなことを敎へたものである。或は、「しかれども大納言經信卿、俊頼朝臣、左京大夫顯輔卿、清輔朝臣、近くは亡父卿、即ち此みちを習侍ける基俊と申ける人、此ともがら、末の世のいやしき姿を離れて、つねに古きをこひねがへり。此人々の思ひ入て、すかた勝れたる歌は、高き世にも及びてや侍らむ」からも敎へてゐる。一言にしていへば、時流に染まずに、古歌のいゝところを學べといふことになる。實朝はそれを實行した。これは實に偉い點であつて、古歌を模倣し得たといふ點がすでに實朝の偉い歌人である證據である。當時の定家の如きは、口にはさう言ふなどといつてゐながら、その實行は出來なかつた。[illegible]は、定家も實朝のやうに萬葉流に行くべきことに氣がついても、もう老境に入つて駄目であつたといふ。「これにおもむきたまひなむを、いと老たまひて日なきなるべし」といつてゐるが、やはり、定家には實行する氣はなかつたのである。

實朝廿二歳の時に、定家が相傳私本の萬葉集を獻じた。これは實朝がかねて近侍のものから萬葉集といふ古歌集のあることを聞き又近侍の和歌を稽古してゐるものが、たまたま萬葉集のことを云々したためと見える。それで實朝はその萬葉集といふものが見たくなつて、二條中將（雅經）の手を經て定家に尋ねたのである。定家が相傳私本萬葉集を實朝に贈つたといふことは、隨分思切つた贈物で、いかに定家が實朝を重んじたか、又當時の將軍といふものは縦ひ若年であつても威勢のあつたものだといふことが、かういふ方面からも觀察することが出來る。この時實朝二十二歳、定家五十二歳である。

實朝はそれ以來萬葉集の眞似をしてゐる。けれども此時から廿八歳の正月に公曉のために殺される時まで、漸く滿五ヶ年ぐらゐな年月に過ぎない。當時の歌人が萬葉集を云々しながら全く萬葉集を模倣し得なかつたに反し、實朝は直ちに萬葉集に肉迫して行つてゐる。そして

金槐集中の十數首の如き立派な萬葉調の歌を殘してゐるのは、實に不可思議な歌人と謂ふべきである。あの當時に萬葉集の歌の妙味が分かつたといふだけでも、いかに實朝の心境が超越であつたかの證據になるとおもふ。

それに定家は實朝の歌を褒めてゐる。そして、『鎌倉右府はたけたる歌人と覺え侍る。古人の詠作に並べたりともすべて劣るべからず。實にたぐひ無きとぞ思ひ侍る』とまで云つてゐる。或は、『鎌倉の右府はたけたる歌よみとぞおぼゆる。此歌を見るときは、歌はものうくなりぬ』（愚見抄）ともいつてゐる。この如き定家の態度はどのくらゐ實朝を勵ましたことであつたらうか。後代の私はいつも此等の言葉を思出して感謝をしてゐるのである。

定家のさういふ態度は新勅撰集にもあらはれた。そこで新勅撰集はその當時の人々からもいろいろ批難されたらしく、自分の兄弟の越部禪尼（俊成女）が新勅撰集を評した消息に、『新勅撰はかくれごと候はず候。中納言入道殿（定家）ならぬ人のして候はば、取りて見たくだに候はざりしものに候。さばかりめでたく候御所たち（後鳥羽・土御門・順德）の一人もいらせおはしまさず云々』とあるのを見ても分かる。即ち自分の兄弟が撰んだ敕撰集であるから手に取り見るやうなものの、若し他人が撰んだ集であつたら見向もしたくないといふ意味である。また増鏡にさへ、『心よからぬ事などさゝめく人もはべりけるとかや』などと書いてある程である。

かういふことは後代の人々の間にも殆ど定評の如くになつてゐる。あれほど實朝びいきの賀茂眞淵でさへ、新勅撰集の撰者の態度を非難して、『おもねりしなり』と斷言してゐるのみでなく、『此撰はそのへつらひのみかは、歌にも甚だあやまり多きものなり。すがたも屈し極まりたるは、王威鎌倉に移りて京家困窮の時ゆゑに、おのづから京人の心窮し邪意のみに成て、いよいよ古き此御國の學をもせねば、さる時の心にて味めらん歌、さる心にて撰みなん事いかでよき様の有べき』云云とまで評してゐる。私は定家の阿諛の分子について何時か考へて見たことがあつた。そして私は定家に同情し、他人が考へる程定家に邪心があつたとは考へない。定家は人も許し自らも任ずる一代の巨匠である。縦しんば明月記で官位の事などをくよくよ云つて居るにせよ、歌のことにかけては讓せない自負心がなければならぬ。時に敕撰集は千載に殘るべきものであり、定家は古今集以來の敕撰集を見てそれを知つてゐる。また敕撰集の撰者の名譽大きく責任の重いことをも知つてゐる。茲に於て、新勅撰集に於ける定家の遁口をば幾分割引して私共は批評しなければならぬのではあるまいか。

今から十數年前、私はかう書いたことがあつた。『實朝は自分勝手に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

萬葉調の歌を詠むやうになつたのであるが、それも以下述べた様に定家の功の存することを見のがしてはならぬ。實朝が萬葉集を讀み、萬葉歌人に私淑するに至つたのは先天の偉い處であるが、自分の師で先輩である定家が實朝を褒めたのは實朝が秀歌を詠むに至つた一つの好刺戟と謂はねばならぬ」云々とかう書いたことがあつた。この文章は十數年後のけふ顧みても矢張り好い文章であるとおもふ。

以上が歌人實朝の略歴である。實朝は十四歳ころから歌を習ひ廿八歳の正月にはもう死んでゐる。そして本稽古に入つたのは漸く五年ぐらゐと看做してい丶。師の定家は八十歳まで長命し、死ぬまで作歌を勉強した。西行法師の如きも七十三歳まで長命してこれも吟味を棄てなかつた。九十の齢を越えた俊成の如きさへある。さういふ專門歌人に較べると、歌人實朝の一生の如きは誠に果敢ないものである。實朝は偉大な歌人としての初途で死んだといふことが分かるであらう。

○

『たまくしげ箱根の海はけけれあれや二やまにかけて何かたゆたふ』

といふ實朝の歌があるが、この歌なども實に驚くべきものであつて、かういふ重厚素朴な歌がどうしてその當時出來たかと思ふくらゐである。

「けけれ」は「心」といふ意味であり、この歌に古今集の「甲斐がねをさやにも見しかけけれなく横ほり伏せるさやの中山」といふ歌の影響を蒙つてゐるのであらう。併し實朝の歌の方は、古今集の歌よりも深い、何處となく象徴的なところがあつて、常識的ならしめない何かがある。然かも、『何かたゆたふ』（どうしてためらひ漂へてゐるのか）といふあたりは、一種戀愛的情調をこめた、古代民謠の特色をあらはしてゐる。

古今集のこの歌は、集の終の方に載つてゐる東歌の一つである。普通古今集を讀み、古今集を手本として歌を稽古しようといふ者は、一體東歌の一首などを手本とする氣になり得るであらうか。それは斷じて出來ない。またその當時の有名な歌人の誰もがさういふことを爲遂げてゐない。口では古風を慕ふなどと云つても、かういふ歌の前をば皆素通りして行つてしまつてゐる。然るに實朝は、この東歌の一首に眼をつけて、それを模倣してゐるのは、その見識に驚くべきである。實朝は獨創の歌人で凡俗の批評家は、實朝の歌に本歌があるから、ないなどといふが、そもそも實朝はどういふ歌を見付けてそれを本歌としてゐるかを少しく調べたなら、實朝は第一流の獨創歌人たるべき資格者だといふことが分かる。若し分からぬ者があるなら、それは低級淺薄の徒だからである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實朝の人物は、この一首の歌に就て見ても明瞭に出てゐる。實朝は決して凡庸の人物ではない。ないのみでない。實に非凡のところがある。私は、上に實朝の性質に就いて云々したから、こゝに實朝の作歌の上からそれを立證したのである。

この歌は貞享本金槐集所載のものに從つたが、群書類從本の金槐集には、「玉くしげ箱根のみうみけけれあれや二國かけて中にたゆたふ」になつてゐる。箱根の湖は、何か心があるからか、このやうに二箇國にまたがつて、いづれに附くともつかず、その中ほどに、ためらつてゐるといふ意味になる。貞享本の歌は、箱根の湖は、何か心があるからであらう、二つの山にまたがつて、なぜか、ためらつてゐる。といふ工合になる。二つの歌の意味は幾分ちがふのは寫傳の相違であるか、或は二ざまに作つたものか瞭然とはしないが、私は二つとも鑑賞して讀味へてゐる。短歌の如き短い形式の詩は、一語一句を重じて讀味へなければその妙味の分からぬ事が多い。その細かいところから人物をも覗くことが出來る。單に歌の意味合のみからはそれの分からぬ事が多い。

○

『大海の磯もとどろに寄する波われて碎けてさけて散るかも』といふ歌は金槐集雜部にあり、「荒磯に波のよるを見てよめる」といふ詞書がある。この緊張した強い歌も、金槐集中の佳作であるとおもふ。

然るにこの歌にも吟味すれば本歌があるのであつて、實朝は、「伊勢の海の磯もとどろに寄する波かしこき人に戀ひわたるかも」「聞きしより物を思へばわが胸はわれてくだけて鋭心もなし」「大海のいそもとゆすり立つ波の寄らむと思へる濱のさやけく」かういふ萬葉集の歌から影響を受けてゐるのである。

この影響の受けかたも、仔細に考へると實朝の特色が隈なく出てゐるのであつて、本歌をさがして實朝の歌を非難しようとする者に、ただ本歌だけを並べるから、實朝は、先づ本歌をさがして置いて、言葉を都合の好いやうに補綴して一首にまとめるやうに思ふかも知れぬが、實朝の作歌の態度は實はさうではない。萬葉集の歌を幾度か讀んでゐるうちに、その言葉がもはや自分のものと成つてゐる。それを驅使するのである。

それであるから、縱ひ本歌があつても實朝の歌は無論獨立の權利があるばかりではなく、飽くまでも作者の性命を吹きこんでゐるその爭はれない味ひを一首一首に就いて受取り難ければ、實朝の歌の研究はむづかしいとおもふ。

本歌を見つけて直ぐ反感を持つ人、例へば香川景樹のやうなものは、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

當時の歌の叫びを感徹しようといふよりも、その外形だけを本歌と比較して云々しようとするのであるから、差向けられる評價は、歌として如何に優れたものであつても、それを素直に受納れることが出來ない。さういふ人々は無縁者であるから實朝などをずつと離れて、銘々の好きな歌人でも見つけてそれと遊ぶ方がいゝ。

○

『もののふの矢並つくろふ小手のうへに霰たばしる那須のしの原』この歌は實朝の歌としてはなかなか有名になつた。賀茂眞淵なども、『軍に立ちて負ふ征矢の亂れを直すとて肩の上にやりたる其小手を霰の打たばしらむさま人躰のよめらむ勢也』と評してゐるほどである。

この歌はどこか題詠のやうなところがあり、緊張の氣に乏しい點がある。或人は、屏風の繪か何かに題したものではなからうかと云つたが、或はさうかも知れぬ。また頼朝は嘗て那須野で狩をしたこともあるから、さういふ光景の繪などから思浮んで作つたものと解しても差支はない。

金槐集中の歌は、不思議にも題詠でないのがある。併しこれは數へるほどで、これを萬葉集の歌などに較べると、やはり新古今時代の歌人の態度に屬すると謂つていゝのである。この『もののふの』の歌の如きも先づ題詠だらうとおもふ。

この歌などにこれまで餘り本歌をさがした人はないが、それでも、定家の、『大空にたがぬく玉の緒だえして亂みだるる野べのさゝ原』といふ歌や、萬葉集の『わが袖に霰たばしる卷かくし消たずもあらむ妹が見むため』といふ歌などを參考歌として數へてもいゝとおもふ。そこで實朝は、題詠くさき歌であつても、時流を拔いて萬葉の古調に迫らうと欲したことが分かる。さう欲したらうへは餘りためらふ樣なことは無かつたやうに見える。晩年の歌でも萬葉調でない歌のあるのは、誰でもさう容易に萬葉調にはなれないといふ證據になるに過ぎない。

○

『世の中は常にもがもな渚こぐ海士の小舟の綱手かなしも』この歌は、私は小倉百人一首以來いくたびか讀んだ。それから此歌を定家は新敕撰集にも採つてゐるところを見ると、大體に於て萬葉調である此歌を、定家は認容したといふことになる。定家が實朝に向つて古風を學べと教へた。實朝が一躍このやうな歌を作ると、定家はそれを認容したといふことになるのである。

『綱手かなしも』に就いて契沖の改觀抄の追考のところに、『渚こぐ海士の小舟の綱手ひくさま、中々外にもとめて心なく哀すべく面白きに

よりて、曉のこりじて妾にかよふ所なり。さてこそ世の中は不變にであれかし。されど不變にては無きと受けたり』と書いてあるのはなかなかいゝ文章である。

この歌は、『河の上のゆつ岩群に草むさず常にもがもな常少女にて』『世の中は常なきものと今ぞ知る奈良の都のうつろふ見れば』といふ萬葉集の歌や、『みちのくのいづくはあれど鹽釜の浦こぐ船の綱手かなしも』といふ古今集の歌にその類似を有つてゐる。恐らく實朝は、さういふ歌を讀んで、それのいゝところを理解し、それを心に記銘して居たに相違ない。併し斯の如き本歌とも看做すべき數首の歌を知つてゐても、この一首の如きは堂々たる風格のものではあるまいか。特に小倉百人一首の中にあつて讀み味へると、特別の光を放つやうに思へる。

○

私は上に實朝の歌數首を抜き、その本歌となつたものを說明した。それと同時に、縱しんば實朝の歌には本歌があつても、獨自の風格の沒せられないこと、それがやがて實朝本來の面目であることを云つた。それ以上いふとうるさくなるから、一寸此處で休止しようと思ふ。

さて、なぜ實朝は古歌に本歌をもつ歌を澤山に作つてゐるだらうか。實際金槐集を讀み、國歌大觀によつて類例の何を有つ歌をさがすときに、思なかばに過ぎるものがある。實際實朝はさういふ事ばかりしてゐるのであつたならば、賀茂眞淵が評した如く『ことごとく古調をかすめたる剽竊歌人に過ぎないといふ事になるとおもふ。そんなら當時の歌人は本歌取はしなかつたか。若し本歌取をしてゐるなら、實朝とどう違ふか。この事について前年考へて見たことがあつた。このことが分かると、實朝をば第一流の獨創歌人だとする私の說にあへて矛盾をば來さないのである。

本歌取といふことは當時歌壇の一つの風習でもあつた。定家は實朝に教へて、『古きを慕ふによりて、昔の歌の詞を、あらため詠みかへたるを卽ち本歌取と申す也』と云つて居り、清輔の『君來ずは獨や寢なむ笹の葉のみ山もそよに騒ぐ霜夜を』『難波人すくも焚く火の下こがれ上はつれなき我身なりけり』や、基俊の、『あたら夜を伊勢の濱荻折敷きていも戀しらに見つる月かな』の歌を書き、『かやうの歌を本歌にとりて、新しき歌に詠めるが殊によろしく聞ゆる姿に侍る也。是より多く取れば我が詠みたる歌とは見えず、もとのまゝに見ゆるなり』(近代秀歌)と云うて居る。これは創作者として實朝を遇したものであるが、それでも、本歌を取るといふことを瞭然と認容してゐるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『本歌とり侍やうは、（中略）本歌の詞を餘り多く取る事は有るまじきにて候。其中に詮と覺ゆる詞二つばかり取りて、その歌の上下の句に分ち置くべきにや』（毎月抄）からも云つてゐる。餘り澤山詞を取るのは惡い。詞二つばかり取つて、上の句と下の句とに旨い工合に離れといふのである。

「於古人歌多以其同詞詠之已爲流例。但取古歌詠新歌事、五句中及三句者頗過分無珍氣。二句之上三四字取之。猶案之以同事詠古歌頗無念歟」（詠歌大概）かういふことをも云つてゐる。要するに大同小異である。

さて、さういふ工合に本歌取を認容した歌壇にあつて、當時の歌人はどういふ歌を詠み、どういふ本歌取をしてゐるか。試みに一二首を此處に書くならば、

みよしのの山の秋風さ夜ふけて故里寒く衣うつなり（本歌取）（新古今。雅經）

みよしのの山の白雪つもるらし故里寒くなりまさるなり（本歌）（古今。是則）

さむしろや待つ夜の秋の風ふけて月をかたしく宇治の橋姫（本歌取）（新古今。定家）

さむしろに衣かたしき今宵もか我を待つらむ宇治の橋姫（本歌）（古今。讀人不知）

ざつとこんな工合である。かういふ一二例を以てしても略その全貌を推測することが出來るとおもふ。

實朝が本歌取をしたのは當時の教育によつたのである。さういふ作歌の態度は無論作歌の大道ではないが、實朝はさういふ時代に生れたのである。さういふ事情が分かつたうへは、實朝はどういふ歌に飛ついてそれを本歌としたかを吟味すれば、實朝が非凡であるか凡庸であるかがおのづから解決がつくのである。それを略私が解決したとおもふ。

も一度ここで約めて云へば、實朝は優れた歌の句を見抜く眼力があつた。それから、それを本歌として自己本來の歌を作り得る力量を有つてゐた。かくの如き歌人を褒めずに後代の吾等は誰を褒めるか。

○

『ものいはぬ四方のけだものすらだにも哀なるかなや親の子をおもふ』これには『慈悲の心を』といふ題がついてゐる。この歌になるともはや背景に粉本を豫想しなくともいい、甚大無礙の風格を見ることが出來る。

線が太く豊かであつて、さうしてゐて、滾りつ響が徹くまで緊張を

保ち、字餘りの技巧でゆとりを取り、一首の字面から、何か知ら悲哀のやうなものが感ぜられる。第四の句で、「哀なるかなや」と強く詠歎したのなぞも、實に自然で旨い。それから、結句では、『思ふ』と現在格にいつてゐるあたりも、安定の据わりのうちに、奥々の方に響をこもらせて居る。

一首の意味も自然順直で分かりよく、定家の歌に見るやうな、幽玄ばりでむづかしいものではない。また、かういふ人情味をうたふ抒情詩は、一歩滑れば通俗になり、さもないと鈍燥したものになるので、その道の達者でも決して容易な道ではないのである。然るに、實朝はかういふ種類の抒情詩をば、いかにもあぶなげ無く、ずばりずばりと爲し遂げてゐる。後にいふ、「旅をゆきし」の歌などもさうであつて、これも萬葉集からの悟道であり、それがつまりは實朝の氣稟に本づくといふことになるのである。

實朝は佛教の信者で、夙く聖德太子をも欽崇してゐるし、蘂上房架西、その弟子の行勇からも親しく法談を聽いて居る。それであるから實朝の心の中には人生無常のことわりが強く根ざして居たと見るべく、また幼年の頃から、周圍の事情をまのあたり實驗して、心中に常に何ものかが結ばれつゝあつたのである。そこでたまたま、『慈悲』といふ如き題にて題詠の歌を成すに當つても、おのづから深い生が一首として出來あがることとなるのである。實朝の晩年には人生の悲痛を歷ひにたゝへて、それをあるがまゝにあらはすことを成就して居る。

○

『箱根路をわが越えくれば伊豆の海や沖の小島に波の寄る見ゆ』には、『箱根の山を打いで見れば浪のよる小島あり供のものに此海の名は知るやと尋ねしかば伊豆の海となん申すと答へ侍りしを聞て』といふ詞書がある。

この歌も有名になり、實朝の歌をいふものはこの歌をいふやうになつた。そして實際この歌は金槐集中でも佳作であり、神經の鋭などのない、自然風光に對した時の素直さが、豐かな調べで出てゐるところ、前出の『ものいはぬ四方のけだもの』などの調べとは別途に出てゐるところ、さういふ點が歌人としての實朝の複雜性を指示して居る。

この歌と、萬葉集の『逢坂をわがこえくれば近江の海白ゆふ花に浪たちわたる』とを比較して論ずるのを常として居る。先師伊藤左千夫先生は、實朝の箱根路の歌は到底萬葉集の近江海の歌には及ばないといふ論を立てられたことがあつた。今味つてみると、やはり萬葉集の歌には及ばないやうである。併し

實朝の秀歌は萬葉の秀歌には及ばないのであるから、あへてこの歌ばかりについていふことが出來ない。

『伊豆の海や』の『や』は詠歎の『や』であるが、第四句の方の『や』字などとは大分ちがふ。先師はこの種の『や』をやはり第三句で活かしたことがあつた。私は、この『や』で餘り長く休止させず、上の句と下の句との間に隔りを大きくさせまいとして、『伊豆の海や、沖の』と極く一寸の息を切つて直ぐ續けて讀むやうに注意したことがある。

この歌は、箱根の驛から鞍掛山を經て伊豆山の方に通りかかつた時の吟で、沖の小島といふのは初島であることは確かである。今でも熱海溫泉から十國峠の方に行くと、初島は目の向うに手に取るやうに見える。

○

『旅を行きし後の宿守おれおれに私あれや今朝いまだ來ぬ』といふ歌には、『二所詣下向後朝にさぶらひども見えざりしかば』といふ詞書がある。『後朝』は『ごてう』と訓ませるのであらう。貞享本一本の詞書には、『同詣下向後の朝にさぶらひども見えざりしかばよめる』となつてゐるのもある。

箱根、伊豆山の二所權現を參拜をはつて、夕方に鎌倉に歸館し、一夜あけて、侍どもがいまだ出仕しないといふ時の歌である。『おれおれ』といふのは、愚かしくといふ程の意味で、さう強く意味を取らなくともいい。『おろそかに』ぐらゐな意味にとれば充分であらうか。

かういふ複雜した人事の歌をば、實朝はかくも無造作に、しかも蒼古重厚な調べに一首を爲あげてしまつて居る。そして一見いかにも素朴で無造作なやうに思へるが、讀味へて居るうちに滋味の複雜さが追々に出て來て、驚くべき力量を感じさせられるのである。此の歌の如き實際の吟は、容易に出來るものではない。それを實朝が爲遂げてゐるといふことは、實際實際と行つた萬葉集の歌に共鳴し、その感化を受けたのに本づいてゐること無論であるが、これが出來るといふことは天稟の非凡をあらはして居ること、前言で屢々言つた如くである。

正直にいへば、この程度の歌が十首もあれば大歌人なのである。それが容易にあるやうで、實はなかなか無いものである。實朝も晩年になつてこの種の歌が出來かかつたところで、歌人としての爲事が終になつたのである。

○

實朝の歌は萬葉調のがあるから偉いといふことを前言し、その萬葉調を理解し得たのは偉い性格があるからだといふことも繰返して云つ

た。

併し、こゝで實朝が萬葉調の歌を詠むに從つた論據に就いて、定家の『詞は古きを慕ひ』云々といふ事以外に、當時の京都歌壇には萬葉集のことを云々する傾向があつた。これは歌合などの時に、故事來歴を誇るために云々したに過ぎず、直ちに萬葉調の歌を模倣しようとしたのではなかつた。

『和歌を學問して、種々の儀どもを沙汰して、才學をわかつことは人によるべし。世の常には、ただ萬葉集ばかり讀みたるやうを心得ておくべし。さほどの事も用なしとて沙汰せねば、人の萬葉集の言葉をとりて詠じたるを得讀まぬなり。それは無下の事にて有。時に文字のうへばかりをよみすゑんため。一友人にも聞きくべきなり』（後鳥羽院御口傳）といふのを見てもその間の消息をうかがふことが容易である。『凡そ歌の子細を深く知らんには萬葉集に過ぎたるものあるべからず』（八雲御抄）などの文章もそれを證據立ててゐる。

そこで實朝は、定家から贈られた萬葉集をば、非常に熱心に讀んだだらう。そして讀んでゐるうちに萬葉集の歌の妙味が分かつたのであつた。それからあとの事はしばしば前言した。

鎌倉に京都から離れてゐるために、實朝は中央歌壇の渦中に投ぜられることなく、心靜かに萬葉調の歌に沒頭し得たといふ。これも一說である。けれども交通が不便だと謂つても、決して不便ではなかつた御臺所も公卿の女であり、京都の文明はどしどし入つて來てゐる。特に、中央歌壇から遠いものほど、中央歌壇の皮膚の模倣をする場合が多い。それゆゑ、ここの決論は、私の說の方がやはりいゝとおもふ。

○

實朝は和歌が好きで十四歲から習ひはじめ、稍長じて中央歌壇の巨匠定家を師匠としたが、定家贈るところの萬葉集によつて直接稽古したので、不思議にも偉大な萬葉風の復興を見ようとした。併しさういふ方嚮の歌幾つかを殘して、實朝は死んでしまつた。決論していへば、實朝は歌人としてまだまだ初途で死んだと看るべきである。

併て正岡子規が和歌革新の聲をあげたときに實朝に言及した。そして、『實朝といふ人は三十にも足らで、いざ是からといふ處にてあへなき最期を遂げられ誠に殘念致候。あの人をして今十年も活かして置いたなら、どんな名歌を澤山殘したかも知れ不申候』と云つたことがある。私なども同樣の感慨をもつてゐる。

然るに、或る專門歷史家がゐて、『彼に齡を假したならばといふ說の如きは、論理的に何等の根據を有せざる愚論であつて、文學史上の功績より論ずれば、彼は如何にしても定家等の下風に立たなければなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないものであると惡ざまに論じたことがある。

なるほど實朝は非道で死んだのであるからそのあとを云々するのは歷史家には異論かも知れぬが、藝術の大道が、時の流に從つて縱に考察しようとする場合には、人間も實朝も生の連續と見て毫も間違つてはゐない。間違つてゐないのみではない。さう考察すべき性質のものである。寒山が文殊であり、拾得が普賢であるのはこれがためである。和歌の大道が末世の今日に於ても、活々として蘇つてくるのは、實朝の如きもの、生の連續を許容するがためにほかならぬ。

○

實朝は、京都文明にあこがれ、結婚も京都公卿の女となし、萬事さういふ傾向を示した。和歌も京都の第一流の定家を師とし、溯つて新古今集・古今集・萬葉集といふやうに手本を求めて行つた。そして、盛に本歌取の歌を作つてゐる。

そして、その結果は、計らずも鎌倉將軍の歌風を建立した。あとにも先にもない、實朝一流の歌風をば、ぽつりとそこに殘したのである。

一體、和歌は思想を盛りがたいものである。古歌集をひもといて、例へば羈旅の部になると、そこにいろいろの歌が列んでゐるけれども、あゝいふ撰歌集からは作者の脈絡・系累を顧慮することが出來ない。作者の脈絡・系累といふものは、一首の姿、一首の調べから暗指せられるのである。

實朝は京都風にならうとしたが、不知不識のうちに、武士の和歌を建立した。かういふことは興味あることでもあり、大切なことでもある。

嘗てカアル・リイプクネヒトの遺稿を求めたことがある。ルツカウの牢獄で執筆し、補筆したものであつた。リイプクネヒトも、多くの社會主義者のやうに、藝術を論じたところに、"Parvenü-Bürger"などの字を使つて、さういふ藝術を輕蔑してゐた。さういふ眞似が計らず、日本現今の和歌壇の一部分にも及んで來たのを見たことがある。

けれども和歌では、さういふ主義などいふことは疾ひに諦めて、おのづから歌ひあぐべきものである。無態度の態度に歸著すべきこと、これを鎌倉の實朝の例に見るべきである。

『さういふことは、例へば、新葉集などがよい例でせう。新葉集に南北朝の動亂を背景とし、天子樣も、親王樣方も、侍どもも皆さういふ世相に觸れての作であるから、歌に特色があるといふのです。

『しかし實際讀んで見ると、どうも題詠はかりでたまらなくて、到底實朝のものなどとは比較にはなりません。これはなぜですか。つまり當世生活はさういふ動亂の世に處してゐても、歌人としての生活が其處

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に行つてゐないからなのです。歌詠の領域に、生活者の歌だの、無産者の歌だのと、男たけび叫んでも、出來た品物は、極く甘い、少年少女のしろ物に過ぎないのと同じです。

「それから、幕末志士の漢詩なども、考への種になりませう。勢があるとか、動いてゐるとかいふが、所詮は書生流の、衣は骭に到り、袖腕に到るの程度なんです。さうなれば、公卿のたまくら和歌とちつとも違はないではありませんか。

『そこに行くと、實朝は和歌の大道を歩んでゐます。眞淵が金槐集を附言でいつてゐる。いかにも一ふしいふべきところを、わざとふしを捨て、ただにいひなされたるなど、似るものなく高し。又一つの巧みも飾もなくて、つゞけなされたる詞どもの調の、世にたぐひなきなどもおほし。といつてゐるのなどがつまりそれです。眞淵の文はなかなか好い文ですが、實朝は、さういふ大道を歩きかけて、途中で死んだのです。大道を歩いてゐますから、ひとりでに實朝が沁み出、鎌倉があらはれるのです。和歌の革新とか何とかいつても、この根本を措いて途は無いのです。

○

遠國にまかれりし人八月ばかりに歸り參るべき由を申して九月まで見えざりしかば人のもとに遣はし侍りし。

こむとしもたのめぬうはの空にだに秋風ふけば雁は來にけり

今來むとたのめし人は見えなくに秋風寒み雁は來にけり

この二首は、吾妻鏡の建永元年十一月十八日の條に、「東平太重胤自二下總國一參。是無雙近仕也。而給二白地之暇一下向之處。在國及二數月一。仍遣二御詠歌一雖レ被レ召レ之猶以遲參之間蒙二御氣色一籠居。」とあるのと一致するとせば、實朝の十五歳の時の作である。から思つてこの二首を味ふとたいへん興味がある。言葉が單純素樸で、稚いところがある。やはり初期のものとおもふ。

建保六年十一月素暹法師胤行下總國に侍りし頃のぼるべきよし申し遣はすとて、

戀しともおもはでいはば久方のあまてる神も空に知るらむ

これは金槐集には第三句『いかが』となつてゐるが、吾妻鏡によつて訂した。建保六年十一月廿七日の吾妻鏡の文は、「東平太重胤無雙近仕也。其男胤行又相並父（又イ）夙夜在レ君與（而）。去比下二向下總郡海上庄一。久不二歸參一間。將軍家被レ遣二御書一。最早可レ令二歸參上一之由也。以二此次一給二御詠一」である。

建保六年は實朝二十七歳の十一月であつて、弑せられる二ヶ月ばかり前の歌である。十五歳の時に父重胤に歌をつかはし、廿七歳の時に、

戰艦の子艦行に歌を遺してゐる

私が此處に是等の歌を抽出して來たのは、實朝の歌風の變遷を一寸示さうとしたのであり、金槐集には作歌の年代が明瞭に書いてないのが多いから、縱ひ一首でも年代の明瞭なのが必要なのである。

是等の歌を讀むと、晩年の廿七歳の時の作は、『久方のあまてる神』あたりは、おほどかで、高い調であるが、十五歳の時の作でも、『見えなくに秋風寒み』といつて、萬葉調に近い。十五歳の時の作は近侍の手が入つたと假定しても、大體は實朝のものであるだらう。

かういふ初期のものと晩年のものとの間に、新古今流の綺麗な歌をはじめとして、段々萬葉調になつたものが插入せられる譯である。しかし晩年のものは盡く萬葉調であつたとは云はれない。やはりしまひまで混合體である。これは、實朝の如き、獨自の境に恣に進みうるものでも、歌風の急變のむづかしいことを證するものである。現代では手早く手際よく模倣しうる者もゐるが、さういふものは本物ではない。自分のものになり本物になるには容易ではないといふことを、證明しようと欲したのである。

坪内博士は、實朝みづからに、『所詮、和歌は女子か、隱遁者か、大宮人かの假初の玩びぢや。大丈夫の心を慰むる料にはならん』と云はせてゐるが、これは實朝は陳和卿に對して揶揄してゐるのであるから、實朝の本心でないつもりなのかも知れぬが、實朝は萬葉集に心醉してある如く、歌論を好んだために周圍からひどく批評されたくらゐに作歌を好んだのである。

實朝はかくの如く和歌を好んだが、初途でたふれた。歌人としては初途であつたと謂つていゝ。それであるから、金槐集の歌は到底いまだ萬葉集の歌には及ばないのである。然し實朝の歌は時代の新しいところがあるから、やはり千載新古今等を念中に置いてこれを味はねばならぬ。

大通寺の木像は時として私の眉間に髣髴としてあらはれて來ることがある。さうして實朝が三十歳四十歳五十歳六十歳乃至七十歳八十歳、俊成のやうに九十歳までも生きたなら、その歌風はどういふ風標であつたらうかとおもはしめることがある。（昭和二年冬稿）

改造社新刊

著者	書名	判型	定價	送料
澤村康著	小作農と自作農創定法	菊判布製	四・八〇	・二七
大山郁夫著	大衆に呼びかける	四六判並製	・二〇	・〇四
ルキズ・フキッシヤア著 茂畑麥村譯	石油帝國主義	四六判上製	一・五〇	・一八
有ノ川治助著	ヘンリー・フォード	四六判並製	一・〇〇	・一八
堀江歸一著	金貨本位制の興廢	四六判クロース上製	一・〇〇	・一八
廣津和郎著	生きて行く	四六判上製	一・五〇	・一八
眞山青果著	鼠小僧次郎吉 桃中軒雲右衛門	四六判上製	一・五〇	・一八
武者小路實篤著	母と子	四六判上製	二・〇〇	・二二
池谷信三郎著	橋・おらんだ人形	四六判上製	一・八〇	・一八
瀧井孝作著	無限抱擁	四六判上製	二・〇〇	・二二
有島生馬著	海村	唐本綴美装上下二冊	二・五〇	・一八
山本有三著	西鄕と大久保	四六判上製	一・五〇	・一八
眞山青果著	盲魚	四六判上製	一・五〇	・二〇
エリザ・オルゼシュコ著 清見陸郎譯	寡婦マルタ	四六判並製	一・二〇	・一八
フィルソン・ヤンゲ著 村上常太郎譯	クリッペン事件	四六判並製	二・〇〇	・二〇

東京市麴町區内幸町一ノ三

改造社

振替東京八四〇二番
電話銀座 五五八・一七三三 四五五八・五〇四六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

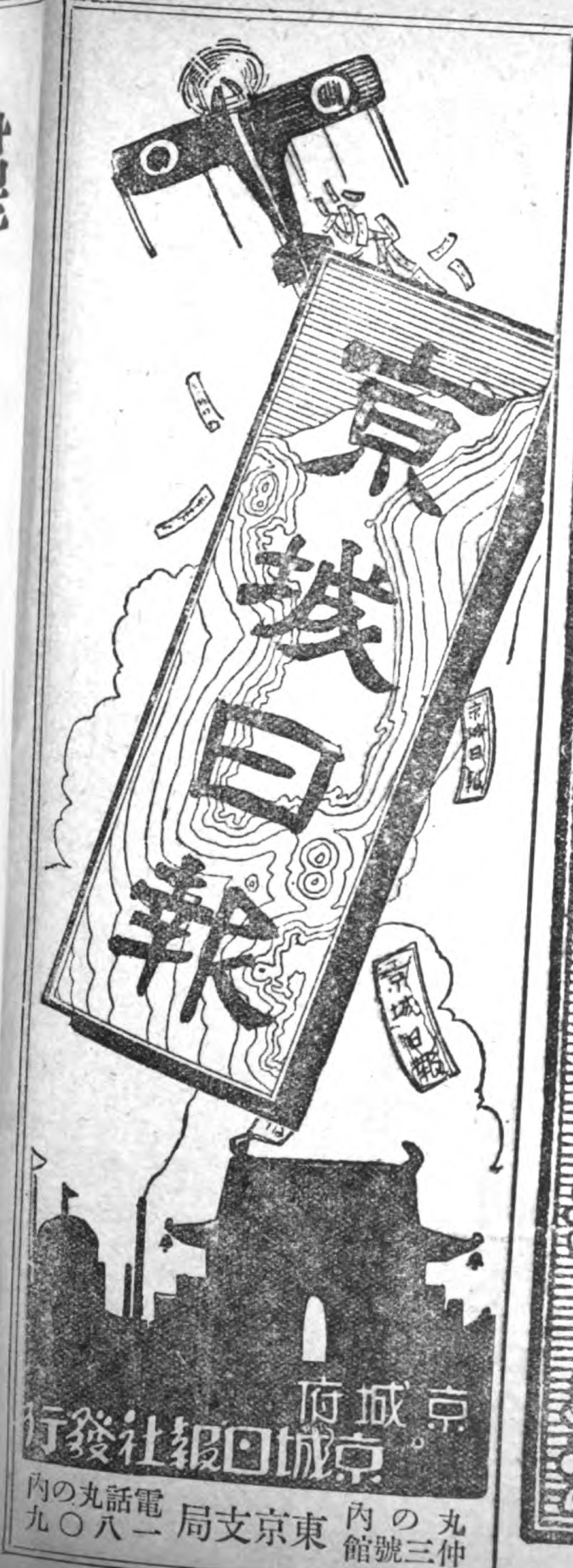
謹賀新年

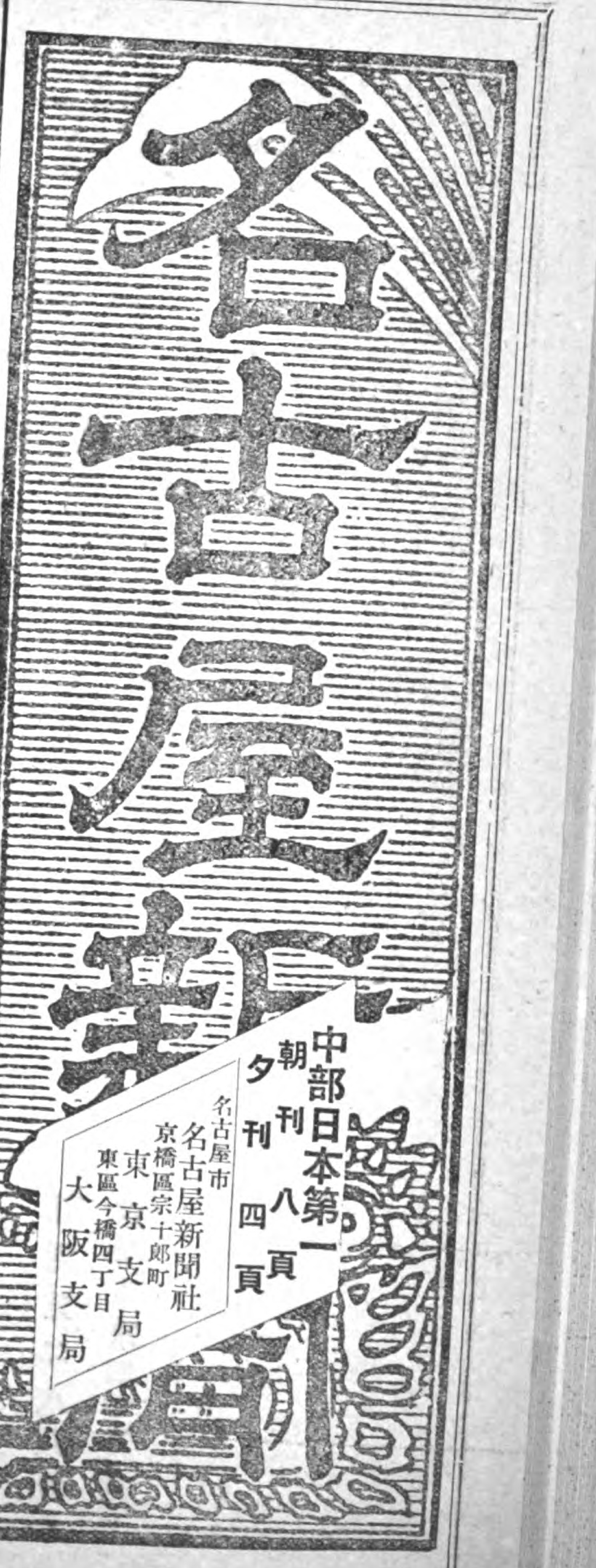
營業課目

活版、寫眞版、三色版、
凸版、木版、凹版、石版、
オフセット印刷、銅版、
電氣版、コロタイプ、
製本、其他包裝紙函類

東京市芝區愛宕町二丁目十四番地
常磐印刷株式會社
電話芝二八八六番
振替東京四七九九二番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA


京城日報
京城府
京城日報社發行
東京支局
電話丸の內一八〇九
丸の內
仲三號館


名古屋新聞
中部日本第一
朝刊八頁
夕刊四頁
名古屋市
名古屋新聞社
京橋區宗十郎町
東京支局
東區今橋四丁目
大阪支局

謹賀新年

兩角製本所

東京市芝區愛宕下町三ノ四
電話芝一九六八番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

北海タイムス

東京支局

東京市京橋區宗十郎町二一

電話銀座三五八番

臺灣日日新報

臺灣日日新報社

本社 臺北市榮町四丁目

支局 東京市京橋區銀座一ノ九
電話京橋一四九番

局 大阪市西區京町堀通四ノ六
電話長土佐堀七四三番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賀正

新堂赤製本所

東京芝区赤羽町四番地
電話高輪四二八八番

五千圓懸賞

滿蒙鮮背景の小說募集

文藝は時代思潮の反映であるが、又偉大なる文藝は新時代の創始者たり得る。錯雜せる我思想界と、溷濁せる我近代生活の中から、低調なる頽廢文學の產み出さるゝことは必然の趨勢であるかも知れぬが、國民は既に現今の猥雜なる享樂小說や、低調なるプロ文學に對し甚だしき不滿を感じ、清新にして力強き文藝の出現を渴望してゐる筈である。

我國民生活の舞臺は今や一島國に局限されずして廣く大陸に展開して居る。文藝の基調も自ら擴大されねばならぬ。滿蒙朝鮮等を背景とする雄大なる構想の中に、此曠野の自然を讃美し、開拓者の壯圖を歌ひ、我民族の高邁なる精神を高調して、我文藝界に一大警鐘を鳴らすべき作品が出現しても宜い時期であると思ふ。以上の見地と期待の下に我社は改題更生を機として此に賞を懸け優秀なる創作を募集する。冀つて應募されんことを希望する。

應募規定

滿蒙朝鮮を中心に、內地西比利亞、支那等を舞臺とする清新、雄渾なる創作

△十五字詰百二三十行を一回とし、百五十回以上、二百回前後までの連續物たること。△飜譯、飜案は採らず。

一、締切　昭和三年五月卅一日

一、大連東公園町滿洲日報社編輯局內懸賞係宛送附のこと

一、審査員は文壇の大家數名に囑託す

一、當選せるものゝ版權は株式會社滿洲日報社に屬す、選外の原稿は郵送料添付申越しの分に限り返送す

懸賞金額

一等　三千圓

二等　二千圓

△但し場合に依り等外佳作を採ることあるべし。

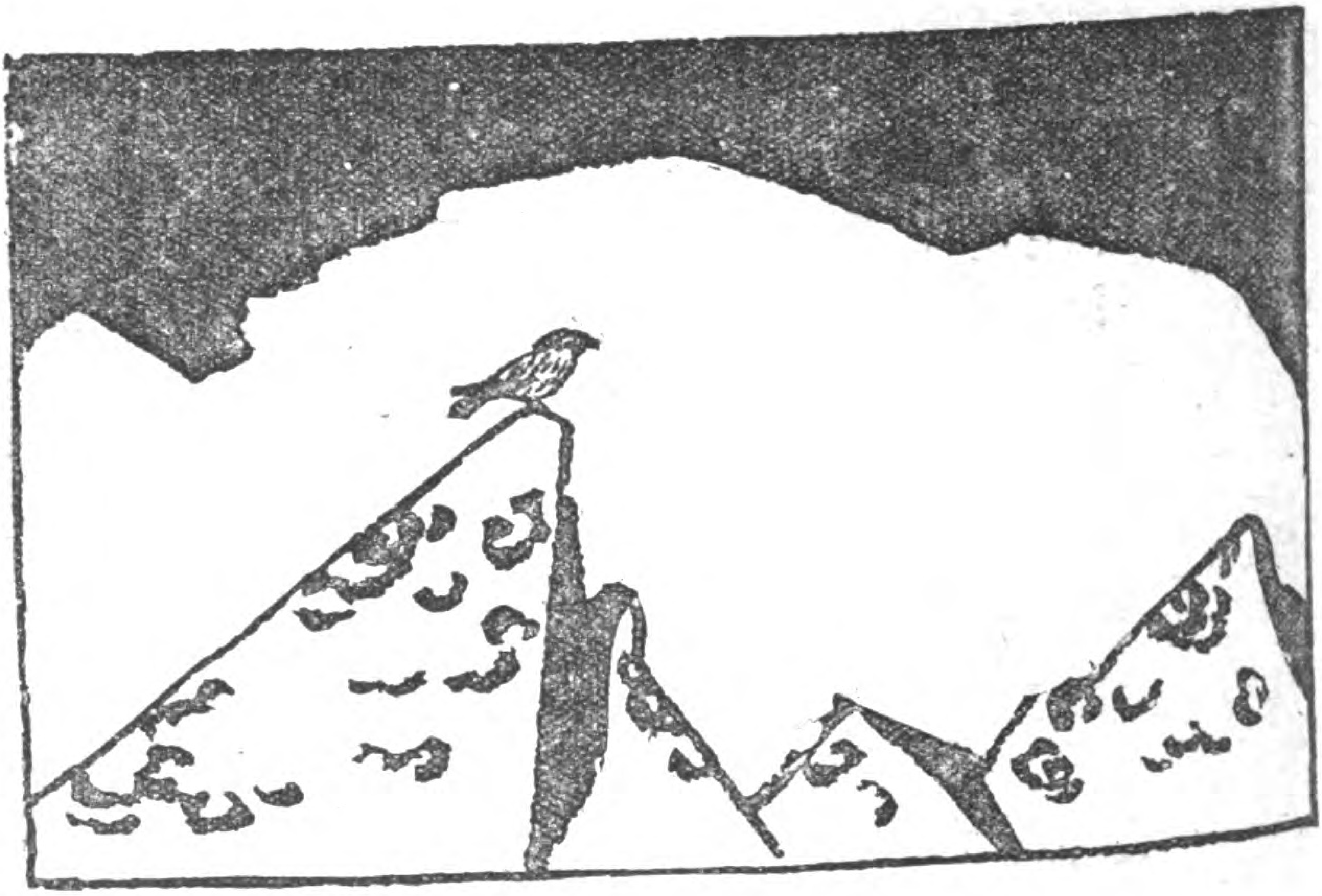
本社・大連市

滿洲日報社

新年號創作特別附録

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



ムッソリーニ（十場）

前田河廣一郎

はしがき　本篇に於ける登場人物にして、ダヌンツイオ、ムッソリーニ等の著名なる主要人物は、原名のままを採用して居るが、その他本篇の構成上比較的小さな役割をはたす Minor characters は假名を用ゐることにした。事件と雖も、劇的に配分する必要から、一部分の集中や歪曲や散大——文學的修正を試みたことを告げなければならない。本篇を經緯する諸事件に關する資料は、主としてルイジ・スツルツオ、ウイリアム・ボリソオ、スペンサア・ジヨンス、ルイジ・ヴイラリ、ギユリオ・アキラ等の著作、ベデイカーの一九〇九年版、ジイノヴイエフの報告、太宰施門、大類伸、下位春吉氏等の著作、ユスタス・ペルテス地圖、其他、内外の諸雜誌、殊に『自由評論』の『フアツシズム號』や『ネーション』誌に負ふ處が多大である。

（登場人物）

議長サラリノ
書記ギヨラノ
代議士モドグリ
同　トラチノ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同 ノフリ
社會黨員ナバロ
同 ゴーリ
同 ギイド
同 カーセラ
ベニト・ムツソリーニ
ロツソニ
ジヨワニ
印刷業者ステフアニ
ビアンチ
共産黨員ボンパルキ
フアリナ
ザンボニ
ガブリエル・ダヌンツイオ
衞兵一、二
兵卒一、二、三、四及び外に七八名
バスコ中佐
ネボロ中尉
ロカテリ少尉

トニノオ中佐
勞働者一より十二まで
デ・ニコラ
フアッシスト團員二十名
兵士大勢
市民及び婦人二十名ほど
學生一、二
婆さん
フアクタ
從者一、二
士官
群集
城門内の武官
フアッシスト團員大勢
一皇族及び侍從武官等
幻影的な人物十二三人
文部大臣ゼンチロ
海軍中將フエデリヲ
大藏大臣アントニオ博士

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

逓信大臣チザーレ
属官及び下役人数名
労働者三人
ファッシスト憲兵数名
造船工多数
市民、労働者、廃兵、浮浪人、女等多数
暗殺者
ムッソリーニ夫人
活動写真技師及び監督、新聞記者、写真班
農夫六人及び驢馬

(時　代)

現代

(本篇は、構成派或ひは表現派的誇張の悪るい部分を避け、努めてリアリズムの演出法に準拠すべきことが希望される)

第一場

一九一四年、イタリーが戦争に参加する前の冬。

首都ローマ市に於ける社会党大会の会場。灰色、無装飾な壁によつて舞台右と正面とが包まれてある。舞台は、斜めに左端まで走り、そこにはまた議席があつて、多数の党員の列席せる心。壁には三つの大きい窓があり、どす黒い乱雲に圧迫された黄昏の低い空が見られる。さほど高からぬ丘陵の断続と、シイルエットになつた圓柱やゴシック風の建築の間に、遠くのサン・ピエトロの伽藍が、甲の鉢金のやうに金色に燦めいてゐる。都市線と雲との間には、赤銅色に燃える餘映が、一と巾乱れ墜ちる暗黒を交へながら光つてゐる。

右の壁は、正面のそれと直角に、従つて看客の方へは稍横向きに突出てゐて、その上に掛けられたマルクスの肖像を見せながら、舞台前方で、鋭どく曲かると、一つのドアを見せる。その壁の前は五角形な演壇、それに二つのテーブル、椅子等。演壇正面の階段を三きだほど降りると後方に書記席がある。ゆるい馬蹄形に列べられた粗末な椅子が、舞台左端まで不規則に続いて、演壇を取巻いてゐる。演壇の右横手にも小さな階段があつて上へ昇れるやうになつてゐる。天井に電燈三つほど、壁の随所に支部旗、戦争反対のビラ、ポスターなど。あかりのまだともされぬ室内には、煙草の烟がもうもうと立罩めてゐる。妙にくすむだ夕陽の反映の下に、すべての物がどす赤く入り乱れて、奇怪な影を曳いて動く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寺院の鐘の音響、遥かに湧き上がる群集の動揺めき。室内も騒然としてゐる。

議長サラリノしきりに槌を鳴らして議場整理の任に當つて居る。牛の如く肥つた老人、稍饒舌癖あり、眠むさうに垂下した瞼の下に、小さな鋭どい眼を働かす。四五の空席を殘した黨員達、亂雜に手や肢を動かして勝手にしやべり立てゝゐる。社會黨代議士で領袖株のトラチノ、モドグリ、ノフリ等の顔も見える。書記ギヨラノ何かを議長に囁き居る。

黨員一　戰爭になるのか？

黨員四　この頃の天氣は變だぞ。赤い空が急に黑くなつちまふ。早く電燈をつけろ。

黨員二　戰爭になつて堪るかい。俺達は政府と共同戰線を張つてるんだ。

黨員一　叱ッ、そんなこと大聲で云ふ奴があるものか！

黨員五　ムッソリーニを呼んで來い！　いつまで待たせるのか！　フロレンスから此方は氣が短かいぞ！

黨員八　あの男はミラノから來るのだからね。

黨員十　もう來てる筈だ。同志ナバロとゴーリとがテルミニへ迎ひに行つてる。

サラリノ　諸君、靜肅に！（書記降壇）

黨員三（窓を覗いて）やつてる、やつてる！　コルソの通りは大變だぞ。國旗を見ろ！（黨員四五人窓より外部を覗き見る）

黨員四五人　赤シヤツだ。――インテルヱンチスタの野郎ども！　戰爭狂め！

黨員三　花火をあげてやがるぞ。（爆竹の音）今日は聖徒何様の御祭かの？（笑聲）おい、何とかして此奴等を食ひ留めんと大變だぜ！

サラリノ　諸君、只今、同志トラチノから黨の積極的方針についての質問がありました。……どうぞ、靜肅に。……尤も、今日の臨時大會は、ベニト・ムッソリーニ君の査問會といふことになつて居りまするが、まだ當人が見えませんので……

黨員五（窓から振りかへり）來た、來た！

黨員三　ナバロは右の腕を、ゴーリの奴左についてゐる。逃げたら敲きのめす覺悟だな。そら、ドアを這入つた。

（黨員の大半は『ムッソリーニ！　ムッソリーニ！』と連呼しながら、異常な昂奮を示す）

サラリノ（立つ）では、議事の進行上、同志トラチノの質問は一時保留いたしまして……直ちにベニト・ムッソリーニの査問會を開きま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す。（前席）諸君、御前席を願ひます。どうぞ、前席に！

（ベニト・ムッソリーニ及び社會黨員ナパロ、ゴーリの三人、右端のドアから入り來る。ムッソリーニは、黒ずむだ服装に、色褪せた帽子、外套を腕にす。憔悴した顔色、眼だけが警戒的に燗る。筋骨の逞ましい大男のゴーリは、その腕を取つて、議長席の下の空席へ、觀客へは斜めに向かせて掛けさす）

間

（電燈ぱつと點る。）

サラリノ（起立）では、これから、ベニト・ムッソリーニ君の査問會に移ります。私・私から一言御注意申上げたいことは、現在私達は優柔不斷なサランドラ内閣の對外政策下にありまして、イタリー全國を擧げて、トリプリテ・アルレアンツアとトリプリテ・インテーザとの間に迷ひ拔き、今日は戰爭か、明日は國境に兵を送るかと、實に國家の運命が危機一髪に懸つて居る際、我が社會黨は敢然と戰爭反對、イタリー中立のスローガンを掲げ、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、既にヨーロッパ全國の平和を招來する所以であると主張して居るものでありまする。で、かういふモメンタスな時機に於ての、我々社會黨の一擧手一決議事項と雖も、直ちにそれがヨーロッパ大陸の勞働者及び社會黨のソリダリテーに影響する所が大きいので御座いまするから、假令どういふ問題を決しまするについても、同志諸君に於かれましては、世界の運動を眼の前に置かれるやうな決心をもつて、冷靜に——この冷靜といふことは遺憾ながら我々イタリア人の間にはカモラ黨員の計畫的暗殺の場合にしか通用してゐないやうですが——そして、十分に調査して、しかも黨としての紀律に背いた行爲は斷乎として糺彈する勇氣を持たれんことを希望致します。今度ピアッツア・コロンナに聚まつて、軍國主義の血の臭ひに醉つてゐる群集にとつて、我々がこの場で議決したことが直ちにそれ自らのデモンストレーションになり、それによつて盲目的なショービニズムを統制し、そしてイタリー社會黨のあら一段の戰鬪的飛躍となること、これが實に、この臨時大會の重大な意義であらうと存じます。

（拍手——燈が消される。）

黨員十（擧手）議長。

サラリノ　はい、同志ギイド。

ギイド　本員は議事の進行について一言申上げたい。本査問會は、既に三日前に黨の機關紙『アヴァンテ』に於て、被告者ムッソリーニの罪科を列記してありますところから、ほかに特別に重大な詰問

事項のない限りは、該記事をもつて直ちに質問の形式に移し、トリポリ戰爭反對以後のムツソリーニ氏の行動より先月『イル・ポポロ・デイタリア』といふ名目は社會主義新聞といふことになつてはゐるが、その實非社會主義な反動新聞を創刊するに至つたまでの顛末について、當ムツソリーニ氏自身の一應の辯明を聽取したいと存じます。

サラリノ　只今同志ギイドの『アヴアンテ』紙の詰問記事に附加するものなしとして、直ちに、それに對するムツソリーニ氏の答辯を要求すべし、といふ説が出て居りまするが、この動機に對して御異議がありますか？

黨員の多數　異議なし！

サラリノ　別に附加すべき詰問事項とか、外かに詰問の方法に關しての御意見は？

黨員の十三　議長！

サラリノ　はい、同志カセーラ。

カセーラ　私は同志ギイドの動機に賛成するものであります。が、一昨日『アヴアンテ』紙に於てわづかにその暗示に止まつて居りました『イル・ポポロ・デイタリア』紙と今回約千五百萬リラの株式資本をもつて設立されようとしてゐるブローネ兄弟の重工業會社及びその金融機關との間の秘密提携に關する具體的調査事項を本員は探ぐり得たものでありまして、主義思想上の問題よりもこの方が一層と重大であると認めますから、ムツソリーニ氏に本員の質問に對する回答を先づ要求致したい。（着席）

黨員一　そんな面倒なことがあるのか、殺しちまへ、あの野郎！

サラリノ　私語を禁じます。同志カセーラの動機によりまして、然らば、目下問題の〝バンカ・デスコント〟系の興業者と『イル・ポポロ・デイタリア』社とに關係ありとの摘發に對して、ムツソリーニ氏に對決的回答を要求することになりまするが、それに御異議はありませんか？

黨員の大多數　異議なし！

（小間）

サラリノ　然らば異議なしと認めます。議長は、ベニト・ムツソリーニ氏の登壇を促がします。

黨員四　愚圖々々せんでそんなものは早くつまみ出してしまへ！

（ムツソリーニ登壇。遠くに群集歡呼の聲。）

黨員二十（陰から）犬、氣をつけろ！　河は近いぞ！

サラリノ　靜粛に願ひます。では、同志カセーラ！

カセーラ（起立）然らばムツソリーニ氏に質問いたします。當市の有

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力なる某新聞の編輯長某氏（後に述ぶべき限りに於ては本名を明かします）の巧妙なる檢査と的確なる觀察とによると、『イル・ポポロ・デイタリア』紙創刊の二ヶ月前、即ち、ムッソリーニ氏がまだ黨の機關紙『アヷアンテ』の編輯に從事してゐる間に、グランド・オテルに於てブローネ兄弟財閥の代表者ウムブリノ氏と會見した形跡があります。それは戰爭の宣傳費として――

ムッソリーニ（起立のまま、初めて發言す）やかましいッ！　わかつてる！　俺は、今日、君達の前にわざわざ案内人のやうに辯解に來たんぢやないんだ！（彼はあらゆる名譽心の強い人間のやうに、話してゐて自己の雄辯に陶醉する癖がある）俺は、ミラノからローマへ、宣言をもたらして來たのだ！　俺の宣言には、イタリー五千萬の民衆の支持がある！　聽け、先づ、俺の宣言は、君達のやうに意氣地のない社會主義者に挑戰することだ。――

カセーラ　議長！

黨員四、五、六、七　議長、議長！（連呼）

ゴーリ　この野郎、犬にはエマヌエレ三世の支持があるとぬかすんだらう！

モドクリ　議長、緊急動議！

ナバロ（演壇を指さし）緊急動議なら此奴の顏へ見舞へ！

ゴーリ　やつつけろ！

（黨員七八人演壇へ驅け上がる。後席の者一度に身を乘して押寄せる。代議士トラチノ、モドグリ、ノフリ等しきりに手をあげて制せんとす。議長槌を亂打す。）

ゴーリ（ムッソリーニの喉を締める）畜生！　さあ、ぬかせ！　吐け、泥を吐け！

ナバロ（背後からしたゝかに毆ぐる）貴様の主戰論を今役立てゝ見ろ！

ギイド　云はせろ、云はせろ！

黨員一（矢庭に面部を毆ぐる）このブルドッグめ！（ムッソリーニの顏から血が流れる。）

サラリノ　諸君、諸君！

（亂闘は續く。ゴーリのために、ムッソリーニ演壇から突き除され、一時昏倒する。ナバロ抱へ起こす。カラーも服もめちやめちやになつてゐる。黨員四五人、唾を吐きかける。何か云はうとしてムッソリーニ空しく口を開閉する。と、突然、室外に群集の歡聲が揚がる。爆竹の音。黨員二三人窓から覗く。日全く沒す。）

黨員二　何でもない、愛國狂の行列だ！

ムッソリーニ（ドアの前によろめきながら辛ふじて身を支へて、隧道

して來る黨員達を眺め）あれだ、あの聲を聽いたか——あれがイタリー國民の聲だ！　諸君の如き、徒らに、、、、、、、、、、、、、、、、勞働組合からさへ侮蔑されてゐる日和見主義者に、イタリーの、、が出來ると思ふか！

黨員多數　何だと、この野郎！

ムッソリーニ　俺は闘ふ！　俺は、今日この場限り、軟弱なる諸君と絶世末代までの決鬪を宣明する。いいか、窓を開いて、あの眞劍な市民をここへ呼べ！　彼等眞にイタリーを思ふインテルヱンチスタの前でこそ諸君と俺とは始めて對決しよう！　それまで、諸君のうちの一人でも、俺に指一本觸れることは斷じて出來んぞ！　その理由は、俺はイタリーを率ゐようとしてるからだ。俺はイタリーそのものだからだ！（胸を叩く）さあ、ゴーリ、それから、ほかの蛆虫ども、やつて來い！　本當の、、に抵抗して見たければ、來い！

（黨員達すこしたぢろぐ。表には群集歡呼の聲。跫音。）

群集　戰爭だ、戰爭だ！（稍近く）

ムッソリーニ　然り、戰爭だ！——トレントとトリエステ！　祖國のためにこの際進まぬ奴は、皆臆病者だ！　すべては敵を鏖してからだ！

代議士トラチノ（壇の上から）もう、澤山だ！　似而非、、の線香花火と、ガリバルヂーの猿眞似と、工藝隊の御手先か！　そんなことは街へ出てやつて貰はう。——諸君、本日は、これだけで、この惡辣なる變節漢ベニト・ムッソリーニの立派な除名處分に該當すると信じます！（ドアを指差す）去れ！

——幕——

第二場

一九一九年の早春。

北伊ミラノ市に於ける『イル・ポポロ・デイタリア』紙の編輯室。

近代建築術によつてさらに建工される種類の、安手な、洞穴のやうな二た間續きの假事務所。

中央に壁と仕切のドアがあつて、二室を右と左とに區分してゐる。但し、二室ともに、色褪せた諸雜模樣の壁紙や黄ばむだカーテンや古雜誌新聞の山、永い間の貧乏に對する耐久力によつて辛ふじて救はれた、手擦れのした僅少の家具類を共通してゐる。電燈には青い笠が掛けてある。八時を指した八角時計。壁に四五點の額。右室の壁に、二口の長劍が交叉してあるが、裝飾用として用ゐられた以外には意味をなさない。階下からの入口は、左室の端のガラス戸。裏口は右室から。夜。前場との時間の懸隔を暗示する爲めに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

壁のどこかへ『一九一九年』三月何日かのカレンダーを掛くるも嫌げず。

ムッソリーニ、右の部屋で社說を書いてゐる。もとサンヂカリストの印刷工であつたロッソニ、左室で糊と鋏を使ひながら、記事を製作してゐる。ジョワニ、ロッソニと同じ室で、牛のやうに頭で壁を小突きながら、無聊のあまり矢鱈に煙草ばかり喫つてゐる。どこかにギターの響がする。中央の戸は開け放してある。ムッソリーニ、時折左室の方を苛立たしげに眼を上げて見る。

ジョワニ（ロッソニへ）から、、、、、ばかり起つては、これからどうなるこつたらうな?

ロッソニ　、、、、、になるのさ。

ジョワニ　貴樣の『、、、、』は聞飽きたよ。

ロッソニ　馬鹿に倦きつぽい奴だ、もう少し辛棒しろ。だんだん世の中が面白くなつて來てるぢやないか。

ジョワニ　ふん、根つから面白くもねえな。親方もさうだが、俺たつて同じことさ。戰爭へ出て彈丸の二つも喰つて、生命を半分グラッパの砲臺へ捨てて歸つて來ると、どうだい、國の中あまるで茹で過ぎたスパギエイテ同樣。、、、、、、、も茲もあるもんか、政治屋は政治屋でてんでの都合に夢中になつてやがるし、役人は袖の下を使はねえと何も取上げてくれん、戰爭に出るまでは歸へつたらきつと場所をとつてやると云つた工場は片つ端からへしやんこに潰れてやがる、おまけに、その邊の人足どもまでが、、、、、をやつてけつかる。一體全體、組合ぢや俺達から何のために組合費を取つてゐたんだ、と云ひたくなるね。一體全體、俺達は何のために戰爭へ行つたんだ、と訊きたくなるね。俺達から見ると、その邊の女どもを揶揄つて步るきあがるイギリス人だとか、ヤンキーだとかの兵隊は殿樣みたいなもんさ。いけ面白くもねえ。

ロッソニ　それが、お前、國に金がないからさ。

ジョワニ　ああ嫌だ、嫌だ。俺アあのお山の兵士守護の聖母へ御願ひして、アメリカへ移民にでも遣つて貰ふよりほかはないぜ。──何だかさせてくれ! 何でもいいや、かうなつたら罷業破りだつて何だつてするぞ!

ムッソリーニ　やかましい奴だ、おい、靜かにしろ!（ペンを措いて書きかけの原稿を口の中で讀む）

（ドアをノックする音。ムッソリーニ誰かを期待してゐるらしく、耳を峙たつ）

ジョワニ　誰だ?

（印刷職工ステフアニおづおづ長い顏を差入れる。ムッソリーニと顏を合はせる）

ステフアニ　今晩は、今晩こそ旦那は御留守だなんて云はせませんぞ。

ジヨロニ　又來たか？　うるさい男だな。

ステフアニ　わしだつて、御目にあがりたくて參るわけでもないでな。へ、へ、へ――。どうせこんな物騒な區域ですもの。

ムッソリーニ（わざと聲高に朗讀す）……ええと、かくして内治に外交に政機を逸したる現内閣は、徒らに、我が神聖なる半島祖國をして、地中海とアドリアチックとの間に、焦燥的な長靴の如き足掻きを演ぜしめるだけである。五十萬人の死靈を掃ひ、五十餘萬の廢兵を出せし世界大戰に、祖國イタリーの得る處、絶大なる負債と……

……。

（ジヨリニ拇指をもつて、ムッソリーニの部屋をステフアニへ差し示す。ステフアニ恐る恐るムッソリーニへ近づく）

ステフアニ　今晩は、ムッソリーニの旦那。

ムッソリーニ（讀み續けつゝ）……急激なる社會主義者の跳梁のみ――誰だ？（向きなほる）

ステフアニ　どうもお邪魔さま。毎度――のことですが、旦那、どうでせう、例の方は？

ムッソリーニ　あ印刷屋さんか？　まあ這入り給へ。お掛け。――と云つて、俺んとこには椅子が二脚しきあない、その一脚へロッソが掛けてるから、俺が立たう。――で、何かね、用件といふのは？　どうも、火がなくて。外は寒からう――。

ステフアニ　へえ、結構で。いや、實はな旦那、職工が云ふことを聽かんのでしてな。何しろ三週間も前から給金を拂つてないんで。いやはや、どうも職工といふものは、誠にうるさいものでしてな。第一、その組合といふ厄介が後に控へてますので、始末に終へませんよ。で、今日びは何です、その、機械の方は一台しか廻つてないんですよ、缺勤でな。これで今晩中にいくらかでも金の顏を見せないと、旦那、貴方んとこの新聞も當分出しかねまするでな。

ムッソリーニ　はは、ストライキでも起こしそうな形勢かね？

ステフアニ　ええ、もう、奴等はとつくから話合つてるのですが、外ならぬ貴方の新聞ですからね。それに以前はそんなこともなかつたんだとわしが云ひなだめて、漸くまあ今日までからやつて持つて來てるやうなわけでしてな、――

ムッソリーニ　よし、よし、わかつた。

ステフアニ　あ、さうですか。さうでせうとも。――では、これが先

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月分の前附、それから先々月の殘りがこれで。

ムツソリーニ　いや、金はないぞ！

ステフアニ　でも、おわかりになつたと仰曰つて、――

ムツソリーニ　わかつた、確かに承知した、だから歸へれ！（椅子へ掛ける）

ステフアニ　旦那、ねえ、どうぞ助けると思つてひとつ今夜のところ幾何でもよろしいんですから――それが二十フランでも三十フランでも結構なんで、へえ。金の顏さへ見せてやりあ、あんた、職工なんて正直なもんで御座いましてね。――

ムツソリーニ（無言でペンを取り上げて原稿を訂正しにかかる。ステフアニ、袖を曳く）

ステフアニ　ねえ、旦那、世の中あから不景氣になつちまひますし、職工達にあ泣きつかれますし、紙屋の方も御立替してゐるし、旦那、そりあ、貴方わしの身になつて考へてみて戴きますよ、ほんとに。ねえ、旦那！

ムツソリーニ　えツ、うるさいな！　おい、（立ちあがる）こらツ、君は、このムツソリーニは伊達に愛國主義を奉じ、道樂に日刊新聞を出してると思ふのか！　君だつて、ロンバルヂヤの赤い血を享け繼いだイタリー人だらう、國家多事の際に國を愛する忠節がないのか？（腕木を取る）おい、愛國心を持て！　印刷屋、たしか君の住んでる町はビヤ・デ・ミルレだつたの？　ビヤ・デ・ミルレに住んでゐて、その町の名の意味がわからんでどうする？　いいか、今を去る六十年前、ガリバルヂー將軍が國を思ひ自由を愛する赤シヤツ組一千人の遠征隊を率ゐて、イタリーを獨立させた、その千人といふ意味だぞ！　更らに、その千人のうちには君のやうな印刷屋も這入つてゐたんだ。――その名を取つた町に住む市民が、何だ、その態體は？　まるで猶太人の古着屋みたやうに、六百や七百の端た金を、國家の一大事でもあるかに我鳴り立ててゐるとは！（いきなり次室へステフアニを突飛ばす）金は出來次第拂ふ。ムツソリーニは内に烈々の火を燃やしてゐるからこそこの赤貧にも甘んじてゐるのだ。俺のやつてることは、イタリー國民全體の仕事なんだぞ！　ジヨワニ、お前、先刻から仕事がなくて退屈しとるやうだから、セニヨレ・ステフアニを戸口まで御送りして上げい。決して手荒なことをしちやいかんぞ。（大きく笑ふ）

ジヨワニ（ステフアニの襟首を掴んで押し出す）さあ、どうぞあちらへ。御歸へりはこのドアで。

ステフアニ（爭ひながら）でも、愛國心なんて今のイタリーぢや、ふ、、、、もない――そりあ話がちがひます。

ムッソリーニ　君の工場でストライキが始まつたら、その首謀者を一應こゝへ連れて來い。俺がよつく話して聴かしてやる。

ステフアニ　ちがふ、ちがふ、先月の約束は——そりや話がちがひますよ。(叫びながら去る。ジョワニ戸を締め切る)

ジョワニ　親方、親方の愛國主義、、、、、、、、、がありやすね。(笑ふ)

ロッソニ　(壁の時計と自分の腕時計をくらべて見る)先生、そろ／＼ビアンチが歸へつて來る時分ですぜ。

ムッソリーニ　(ペンを捨て)お、そんなになるか？　ぢや、わかつたな、お前とジョワニと別々に行くんだ。集まつたらあまり騒いで來ちやいかんぞ。すべて洩れるやうな計畫ぢやあ計畫でなくなる。這入るのも裏口から。結構だよ、きつと、旨く行くと思ふ。さうしたら、明日から機關車のやうに活動するんだ。ともかく、今夜で最後の決定だ。

ロッソニ　はい、わかりました。(ジョワニと連れ立つて右室のドアから退場)

(ムッソリーニ右室へ錠をおろして、テーブルから何かの文書を取り出しちよつとあらためて、ポッケットへ入れる。書きさしの原稿やペンなどを取片づけ、椅子を二つ据ゑる。落ちつかぬ風。不圖、歩きながら、壁のナポレオンの像を見る)

ムッソリーニ　ボナパールト、この男のために、パリの市民は二吋も脊が低くなつたのだな。(ナポレオンを眞似て、胸を張り、右手を胸着へ挾んで濶歩す)ふむ、人間、わからんもんだな！——俺は近代的ボナパールトだ。——あの、トラチノや鈍感なモドグリの奴等あ、今に徹底的に、この掌の中で粉みぢんにしてやるぞ。——さうだ、ボナパールトの手もこんな手だつた。昔から英雄の手は小さい、固い、脹れてゐる………

(ノック)

ムッソリーニ　誰？

聲　ビアンチです。

(ドア開かる。ムッソリーニの編輯助手ビアンチ、伊國共産黨員ボンバルキを誘ひ來る。ボンバルキは一見ロシア人のやうに濃い髭を蓄へてゐる。黒い鳥打、質素な身裝。ビアンチは、容貌がよくムッソリーニに似てゐる)

ビアンチ　どうぞ、此方へ。これがベニト・ムッソリーニ氏です。(ドア閉さる)

ムッソリーニ　ロシアからの同志、ボンバルキ氏ですか？(手を差し出す)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ボンバルキ（冷かに目禮）御手紙は拜見しました。それから、今日はわざわざ御使ひを有難う。ボルデイガ氏からも御話はありました。

ムッソリーニ（右室へ入りドアを閉ぢ、椅子を差出し）どうぞ。（二人着席。ピアンチ左室に留まりソーフアに掛く）實は、前後二回、委細の事情を申上げましたやうに、同志の結束は成つて居るのですから、事を擧げるとなると、直ちに決行出來るわけです。どうです、早速ですが、私を入黨させてくれますか？

ボンバルキ　御待ち下さい。――先づ、その前に、私は黨の一員として、直接貴下にお訊ねしたい二三の點があります。第一に、貴下の提出された諸條件は別として、どうしてこのイタリーがさういふ狀勢に轉じて居るか、それについての御意見が承りたいのです。

ムッソリーニ　オリーヴの果のやうに機は熟してゐます。ボロニア、フエララの諸工場の狀勢は手に取るやうに私の處へ來てゐます。ボロニアは私が曾て鐵道罷業をやつて成功した土地です。エミリアの農村爭議の徵候は、大地主との對立によつてたしかに、、、、、、、、、、、、です。このミラノに於ては、私の指紋よりもはつきりと、コントロールすべき重要地點がわかつてゐます。ともかく、イタリーは、、に飢ゑてゐる。それだけは事實です。

ボンバルキ　どうして貴方は「機が熟してゐる」と觀察されますか？昨年十二月ボロニアの社會黨大會の結果で、トラチノとモドグリ、ノフリ等の右翼とセラッチ、カセーラ、ゴーリのやうなマキシマリストとは對立しました。そのカセーラ一派の掲げる處の、、、、、、、、は、成る程、或る點まで、、、、、、、、、、の面影を傳へてはゐます。しかし、彼等には、、、、、、、、、から要求された一つの事さへ斷行出來ないやうな弱味があるぢやありませんか？――それは、現在のマキシマリストのうちの有力なフラクションを排除することです。セラッチ一派を、ロシアでは『ブルジョアの代理人』と呼んでるんですよ。この一派を除くことなしに、その内部的矛盾を克服することなしに、假令、ボロニアがどんな攪亂狀態にあらうと、ロンバルヂヤに、、、、、、、、が出現しようと、我々はマキシマリストと提携してコムミニスト運動の第一歩を踏み出すわけには行かんのです。失禮ですが、ムッソリーニ氏、そのマキシマリストと無條件で提携し、その經濟的爭議主義と、社會黨の議會主義との中間に、、、、、、なさらうとする、貴下は一介の、、、オポチュニストに過ぎない。いや、それよりも明白にすべきことは、現在の貴下の立場ですよ。どうして、ついこの頃まで政府や重工業系の宣傳部を受持つて居られて、今日が日まで愛國主義を説かれる貴下が、さうも急激に思想的轉換をなさるのですか？――實際、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は、今日といふ今日は驚きましたよ。御伺ひする筈ではなかつたのですが、あれほどまでに貴下が仰言るので、本部とは關係なしに單獨で御意見の在る處だけ聽きに上がつたわけです。——いや、失禮いたしました。では——(立ち上がる)

ムッソリーニ　まあ、一寸待ち給へ。ぢや、どうしても僕と提携して運動は出來んと仰言るのですね？(稍激昂して)

ボンバルキ　ジョールジ・ソレルのプロテイチの貴下とは、ね。

ムッソリーニ　僕は云ふことが下手です。僕にマルクキシアンのデイアレクテックスで物を云へと云ふなら、僕は駄目です。しかし、これだけははつきり證明します。——諸君が僕と提携されなくとも、僕は立派にやつて見せる。その時後悔しないやうにして欲しい。腕でやる！　この腕でやりますよ。君のレニンやトロッキーやジイノヴイエフへよろしく云つてくれ給へ。餘談にして、僕には二つのプログラムがあつた。今、その一つをボンバルキさん、君の前で引裂いて御目に掛けますよ。(ポッケットから文書を取り出して引裂く)これが、君達との決裂です。ビアンチ、御客様の御歸へりだ！(ビアンチ室へ入る)

ボンバルキ　ムッソリーニ氏よ、貴下の有名な橫暴打なことは聽と知つてゐます。今貴下の手の中にどんなカードが隱されてゐるか、それは私の知る範圍ではありませんが、私達の革命は決して冒險ではないのですよ。これだけは、私からの忠告です。さよなら！

ムッソリーニ　君はイタリーを知らぬ馬鹿者だよ。(ボンバルキ去る)ビアンチ、ロッソニ等を呼んで來い！

ビアンチ　先生、大丈夫ですか？

ムッソリーニ　俺には伏せ札が二枚あるんだ！(ビアンチ、裏口より去る。ムッソリーニ懷より拳銃を外づして、拳銃の機構を試みる。ロッソニ、ジョワニ、ファリナ、ザンボニ、ビアンチ等二十數名の青年、右端のドアから靜かに入り來る。ムッソリーニ高く拳銃を振り翳す)

ムッソリーニ　諸君、同志の者よ、集まれ！　愈々時は來た！——俺はここに、、、、、を準備して持つてゐる。諸君のうち俺と共に第一戰線に立つことを忌避するものがあつたら、もう一本の拳銃を外づして、先づ俺を殺せ！

(沈默)

ムッソリーニ　ないか？——なければ云はう、時代は力を求めてゐる！　正當な目的のための、、が必要だ！　俺達はこれから黑衣遠征隊を組織する。綱領はからだ。讀まう。寄れ！(ムッソリーニもう一葉の文書を取り出して披ろげる。青年達密集する)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

—幕—

第三場

一九一九年の晩秋。

フイウメ。詩人ダヌンツイオの率ゐる義勇軍によつて占領されたるフイウメ市のピヤザ・ダンテの一角。

左稍中央にルネツサン式な鼠色の石で築かれた大邸宅の玄關口が斜めに開いてゐる。玄關の柱に貼り出してある通り占領軍の參謀本部である。そのほか壁の處々に貼札がしてある。玄關の頂上に胸壁然としたバルコニイ。そこから大きい、色褪せてしほたれかかつたイタリー國旗が、前の廣場へ垂れてゐる。國旗の傍に、赤黄ろくなつた立木が二三本、時折、その葉がほろほろと散り落ちる。舞臺正面中央に一基の大理石の圓柱。正面から右端まで、がらんとした廣場、空にはむやみにイタリー國旗が釣るしてある。正面奥に市街の遠景。

小春日和。天空一碧、斜めな日光が、强く照らしてゐるが、どことなくすべての音響に空洞な虚無的な反響がともなふ。上空に飛行機の音しきりにす。附近にマンドリンの響、酒場に於ける兵士等の騒音など。

武裝した衛兵二人、玄關の兩傍に立つてゐる。形規はさほど嚴格でない。

衛兵の一　かうやつて立つてばかりゐると腹が減るな。

衛兵の二　立つてゐなくたつて腹が減るんだ。何しろ大將が御手元不如意と來てるからな。

衛兵の一　全くあの炊事ぢややりきれない。

衛兵の二　ピアベの塹壕にゐたときの方が食べ物はよかつたぜ。

衛兵の一　考へりや今から二週間前に、ここへ進軍して來たときの威勢つたらなかつたね。

衛兵の二　さうさう、町の奴等ア有りつたけの牛でも豚でも出してくれたからな。今となつちや、些か振られ氣味だね。見ろ、この國旗だつて、安物だから色が禿げつちまつた。

衛兵の一　ここは海からまともに雨や風が吹きつけるから、内地で拵へた國旗なんざあすぐ色が落ちてしまふんだ。

衛兵の二　そりやさうと、俺はここ二三日考へ込んでるんだがな、——どうも、この分ぢや、フイウメ占領も何の意味もないな。いいか、俺達はこれでざつと九千人からゐるだらう。それが、お前、俺

日一人頭について五リラづつはどうしてもかかるんだ。それで、四萬五千リラさ。今の世の中では、戦爭は金だからな。指揮官が持つて來た金といふのは百萬リラしかないんだ。それも集められるだけは押借りしても漁つて來たんだからね。十日駐屯してると四十五萬リラさ。二十日であらかたそれがなくなると云ふもんだ。

衛兵の一　お前も仲々數字のやかましい男だ。して見ると、今日で十五日、籠城もあと五六日しきや持たぬといふわけだな。

衛兵の二　當り前さ、俺は市の税務局の書記をしたことがあるんだ。

衛兵の一　どうも、俺等の大將もすこし無謀過ぎるね。

衛兵の二　いや、あの人は大膽あんなもんさ。あんまり大きい聲ぢや云はれないが、指揮官は、例の薔薇色小説を書いてゐる頃からの借金が大變なもんださうだ。パリでもウインでも、あの人の借金は、買ひ取つたお城よりも大きいもんださうだ。それで、あの通り、戦爭となると、やけ糞でカルツの爆彈隊へ加はつたらう、それから次にはウインの飛行さ、最後にフイウメの占領と來てゐる。俺は何も俺達の大將の揚足を取るわけぢやないが、その一つ一つの華かな冒險はつまり借金を踏倒す算段だね。

衛兵の一　叱ッ、誰か來たぞ！

（兵卒の一、右から登場。衛兵の前で敬禮）

兵卒の一　只今飛行場へ着陸された指揮官よりパスコ中佐への傳令。

衛兵の一　認可證は？

兵卒の一（ポッケットから紙片を出す）はい。

衛兵の二　通れ。（兵卒の一玄關へ入る）

（醉つた兵卒の二と三がやく云ひ合ひながら登場。衛兵の前へ來て、仰山に敬禮）

衛兵の一　おい、そろく勤務交代ぢやないか、しつかりしろ！

兵卒の二　何もすることがないから、そこへ立つて彫刻の獅子みたいに威張つてるんだらう？　よせやい、それより、俺達みたいにちつとは甘い酒の一杯も飲む算段をしろ！

衛兵の二　どこで飲んだ？　どうして？

兵卒の三　天機洩らすべからずだ。大將からはじめモルラッコの血ていい奴は我々遠征軍にはつき物だからな。

衛兵の一　貴樣人民を掠奪したな！

（パスコ中佐、及び士官二人、兵卒五人、本部から急いで出て來る。衛兵及び兵卒等敬禮。醉つた兵卒等去る）

パスコ中佐（士官の一人に向ひ）では、ネポロ中尉は、直ちに海岸から陸揚に從事されたい。（ネポロ中尉、兵卒五人と共に左へ去る）それからロカテリ少尉は、輜重兵監部へこの旨を通達されたい。（ロカ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

テリ少尉右奥へ去る)(傳令に向ひ) 自動車は?

兵卒の一 はい、その儘に置いてあります。

パスコ中佐 何故本部へ直接につけんのか? そのために、この間その營造物を取毀はしたのではないか!(横頬を毆ぐる)

兵卒の一 はい。(二人右端へ退場)

(ムツソリーニの使者ロツソニ、兵卒一人に護られて左から登場)

兵卒の四 ミラノのベニト・ムツソリーニ氏の使者ロツソニ、指揮官に至急面會のため來られました。

衛兵の一、ムツソリーニ? 何だ、それは?

兵卒の四 海岸警備のニコロ大佐よりの認可證を持つて居ります。

衛兵の二 どれ見せろ。(兵卒の四示す)

衛兵の一 一般會議室へ案内して置け。(ロツソニと兵卒玄關へ入る)

(左奥からうわーッといふ掛聲。右端に自動車留まる。自動車の中からダヌンツイオ、韋皮の飛行將校服を着け、短かい劍を佩びて出て來る。禿頭、隻眼、よぼよぼの小柄な爺さんである。パスコ中佐、飛行士官、その他數人の兵卒彼に從ふ。右中央から輜重兵隊登場。ぱつたりダヌンツイオと出遇はす。(敬禮)

ダヌンツイオ (手を擧げ) アララ! トニノオ中佐、愉快、愉快!(細い女性的な聲) 海賊をやつたよ! 僕が空中から探がしたんだ。どうも今艇へ乘るといふから、今日の古風な處女のやうな顔だつたよ。——誰か、酒を持て!(兵卒の一人敬禮して去る)久しく踊はんからな。僕も踊はうとはするが、對手がないのには閉口してゐた。敵の御物船だ! 殆ど何の抵抗もなく、掌の甲虫のやうに押へてしまつたよ。(兵卒酒盃を運び來る)注げ!(士官達へコップが廻はる)我等の籠城のために祝はう! イタリー萬歳!

一同 イタリー萬歳!

ダヌンツイオ 我々の戰線内に流れついた、ネプチューンからの水色の贈物、酒と石油と罐詰と牛肉と金庫とのために!

一同 萬歳!

(ネポロ中尉、左奥から大勢の兵卒に車を曳かせて來る。種々な荷物が、それからそれへと臨場の隅へ置かれる。最後の車は大きい金庫を運んで來る)

ダヌンツイオ これ、これだ、この美人を見ろ!メデュウサの瞳のやうな光り!(金庫を指差す)

衛兵の一 只今ミラノのベニト・ムツソリーニなる者からの使者として、ロツソニといふ男が會議室で御待ちして居ります。

ダヌンツイオ 何、ムツソリーニ? ふむ、あの散文的なフオルリ人か? ここへ呼べ!

衛兵の一　はい！（去る）

ネポロ中尉（監督兵に）この金庫はどうしませう？

トニノ中佐　太綱でふんじばつて本部の二階へ釣り上げるんだ！

（ネポロ中尉、部下に命ず）

（ロツソニ衛兵の一と共に登場）

ロツソニ（敬禮）フアツシストの盟主ベニト・ムツソリーニから、フイウメの指揮官閣下への使者で御座います。

ダヌンツイオ　さう、さう、フアツシヨを作つたのは、君達の指導者であつたな。歡迎！（握手）

ロツソニ　これが書面で御座います。（封書を差し出す）

（ダヌンツイオ無言で受取り、封を切つて讀む。その間、兵卒達金庫へ綱を卷く。二階のバルコニーにも六人ほどの兵卒あらはれて、下から投げた綱を受取る）

ダヌンツイオ　よし、返事は今書く。アララ、勇敢なる市民軍よ！今日は何といふいい日だらう！吉報！　吉報！　諸君金はいくらでも來るぞ！

（兵卒達大勢で金庫を釣り上げる。一同はしばらくそのために忙しく立働く。金庫が中空まで昇つたと思ふと、突然、綱が切斷されて、兵卒の一人とネポロ中尉が、その下敷になる。一同驚きあわてて金庫の周圍を取卷く）

ダヌンツイオ（目を双手で掩ふてよろめく）おお！（俄かに兵卒達を掻き分けて、金庫の前へ行き、その胴腹を長靴で蹴りながら）怪物！怪物！怪物！怪物！　こいつの存在は、いつも俺のローマンスを破壞する！　天下の貨幣をアドリアチツクの底へ、最後の一ブロンゾまで、沈めてしまへ！（ロツソニを顧みて）——、君、新しき市民軍を組織しつつあるドラマテイスト、ムツソリーニ君へ傳へて呉れ給へ。僕のフイウメ占領に對して、ヴエルサイユの、、と、葉卷のレツテルのやうなローマの、、、、、、、したなら、次に、僕は世界の貨幣制度に對する一大殺勇軍を起こす、と！（兵卒等に）二人の負傷者を劬はれ。注意深くその醜くい怪物の臓腑を剔ぐり取つたあとで、海の上に咲く大理石の花、ヴエネーチアの都へ向けて、その屍骸を捨て置け。明日、呪ひを籠めたわが飛行機からの爆彈は、美事、怪物の鱗の最後の一片までも粉碎するだらう！

——暗轉——

第四場

一九二〇年の夏。

ミラノ市に於けるロマノ製鐵會社の一部分。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

右端に煉瓦造りの工場の入口がある。戸は破壊されたままになつて、外部の壁へ横に立てかけられてある。舞臺正面奧から左端へかけて、低い漆喰の灰色な壁。左端、壁の曲がつた處に門。この壁の圍んだ場所は廣場になつてゐて、種々の鐵材が積んである。

日光の加減で、工場の大煙筒が舞臺へ斜めに、ピザの斜塔みたやうに陰影を投げてゐる。煙筒のそれと共に、その傍らに揭げられた、、の影もひらめく。

斷續的に機械が轉廻して、急に油切れのしたやうに礑と音響が終熄する。これが、時折この場の演出中に繰返へされる。

油壓の聲。

勞働者五人、、、、を壁の曲がり角へ据ゑつけてゐる。續いて、鐵柵の門をぴしんと閉める。

勞働者一　やはり壁へ孔をあけた方がいいと思ふがな。

勞働者二　大丈夫だ。おい、誰か臺を持つて來て與れ。

勞働者三、四　よし來た。石油罐でいいな？

（工場の裏手へ廻はり去る）

勞働者五　今に、、も据ゑつけんといかんやうになるだらう。

勞働者一　馬鹿云ふな！ファシストにそんな旗があるもんか？　そのうちにはカマンベーのフォルマジョみたよに一と潰れよ。

（勞働者三、四、各自に『スタンダード石油會社』の石油罐を二個づつ持つて來る。續いて勞働者六、シャベルを持ち汗を拭きながら登場）

勞働者六　おい、石炭がない！　作業中止だ！

勞働者五　スタンダード石油會社が、地中海を越して工場へ這入つてるんだからな。、、、、、、といふものは恐ろしいもんだね。

勞働者三　それが俺達の工場委員會の戰鬪準備に役立つんだから皮肉なものさ。

勞働者六　石炭を送らねえのはイギリスの奴等だ。おい、こりや、呑氣に構へてゐちや迚も駄目だぞ。もし俺達がこの工場を運轉して行かなかつたら、折角、、して監視してゐる意義がないぢやないか！

勞働者四　ロシアが、、、、、、され、ベラ・クーンのハンガリアが兵糧攻めにされたのは、他人事ぢやないな！

勞働者一　ここへ旗を立てよう。

勞働者三　旗はデ・ニコラが本部へ取りに行つてる。

（勞働者七、八、九、十工場内から、巨きい鐵材を擔いで來る）

勞働者六　おい、それをどうするんだ、まだほとぼりもさめないほど

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の鐵を？

勞働者七、八　貰りに行くんだ。軍資金が必要なんだ。

勞働者九　管理は俺達に任しておけ。君達は防備の方をやつてくれ。

勞働者一　したが途中でファシストの奴等に行當つたら大變だぞ！

勞働者十　何、來るもんか？　あいつら、どうせ團結なんかしてはしないんだ。あんな嚇しを云つて來ただけのものさ。おい、行かう。

勞働者七　門を開けろ！

（四人鐵材を擔き去る。勞働者一、二、三、四土を掘り足場を拵へる。勞働者十一と十二、巨大な、、をころがして來る。一疋の犬それに戯れながら趁り出づ）

勞働者十一　畜生ッ、ふざけるなよ！

勞働者六　又來たぜ！　おい、それも食つちまふのか？

勞働者十二　いやこいつは誰も引取りてがあるまい。門の傍へ威嚇のために立ててやるんだ。（門の傍へ行く。犬を叱る。犬、廣場の旗の影の動くのに飛びついて吼える。と、それをやめて、急に尻尾の尖端に痒みを覺えたかして、自分の尾に咬みつかうとする。幾度も尻尾を追ひかけても容易に目的を達することが出來ない。しまひに、犬は躍起となつて一つ處をくるくると獨樂のやうに廻はる）

勞働者五　やい、畜生ッ、自分の尻尾を追ひかけてやがる。

勞働者六　何だか、俺達のやつてることによく似てるぜ。

勞働者一、二、三、四、五、十一、十二　何故？（つめ寄る）

勞働者六　まゝ待て！　それはかうだ。この間も、、、、、、、、、、からの指令があつたらう。我々には、、、、は早いッて。しかし、マルテスタ一派が、、、にとつつかつて、三月の會合以來かういふ戰術に出たんだが――そこだよ、イタリーは昔から天然の物資に乏しい國だ。それを俺達だけが無理矢理に、、げをして見ても、折角の原動力たる石炭や石油を封ぜられるし、、、、、、の規程で今に食物さへ缺乏して來るにちがひないんだ。見ろ、俺達イタリー勞働者は、、、、、、、の壁（壁を指差す）に取圍まれて、自分で自分の尻尾（犬を指差す）であるところの貧弱な產業を追ひ廻はしてゐるんぢやないか！

勞働者一　君はいやに、、、、、、物の云ひやうをするね。ははア、わかつた。、、、、、、の感化だな。

勞働者二　俺達の統制を紊すやうな言葉はやめて貰れ。

勞働者三　そんな御說教はサン・ロレンツォの廣庭ででもやつて貰れ。

勞働者五　ともかくこの犬を追拂はう。（無理に首輪を摑んで門外に追ひ遣る）

（デ・ニコラ先頭に立つて、二十人ほどの勞働者が、大きい、、の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

下に隠れながら門外から聲を掛ける。、、の下の勞働者達の顔は見えない）

デ・ニコラ　旗だ！　門を開けろ！

勞働者十二　よし、來た！

デ・ニコラ　旗をかぶつて、町中を示威運動をしながらやつて來たよ、

（旗の下の勞働者達急速に場内へ入る）

デ・ニコラ　旗を捨てろ！

（勞働者達旗をかなぐり捨てる。勞働者と思つたのは、實は黒いシヤツを着、無帽で、太い棍棒を下げたファシスト團であつた、工場委員達愕然として退がる）

デ・ニコラ　イタリーの、、は誰か？（團員に向つて）

團員一同　我々！

デ・ニコラ　ローマを、、、、者は誰か？

團員一同（もつと大きい聲で）我々！

デ・ニコラ　國家のために何時でも死を辭せない者は誰か？

團員一同（棍棒を振り翳し）我々！

デ・ニコラ　然らば、諸君、突撃せよ！　最後の一人のボルシエヴイキまで毆ぐり飛ばせ！

（これまでに、工場の入口に忍び込んでゐた勞働者の方から、、する者がある。ファシスト團員達、身を低く地に伏はせながら一步二步と進む。内部から器物や石片や煉瓦が飛んで來る。それを拾つて、ガラス戸を毀はす）

勞働者の一人（内から）デ・ニコラ、貴様、よくも俺達を裏切つたな！（一發の銃聲と共にデ・ニコラ斃る）

ファシストの一人　貴様等、この工場をそつくりそのまま引渡さばよし、さうでないとこの、、、、、、向けるぞ！　降れ！　、、を捨てて出て來い！（砲聲）

ファシストの他の一人　裏口へ廻れ！（團員の半分、右奥へ壁傳ひに去る。あとの半分は矢庭に戸口から闖入する。、、、、。、、、。、、、、、、、。、、、。、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。ファシストの一團、裏手から數人の勞働者を縛つて來る。それと呼應して、戸口からも數名の勞働者が、廣場をめがけて、、ばされる。ファシストの一人、斃れてゐるデ・ニコラの死體から、一枚の大きい紙を取り出して、工場の入口に貼る）

ファシスト一（讀む）我々ファシストは比例代表選擧權の實施を要求

する。

ファシスト二　婦人の投票權並に選擧權。

ファシスト三　選擧人被選擧人に對する制限年齢の低下。

ファシスト四　、、、、、、。

ファシスト五　政治議會と並んで經濟議會の設立。

ファシスト六　、、、、、、。

ファシスト一同　萬歳！

（勞働者數人人隊を見て門外に脫走する。ファシストの一隊喚聲を擧げて逐ひ出づ。他の一隊は、殘つた勞働者を、、、、、、）

勞働者六　俺達はあまりにムツソリーニを見縊つてゐたー

（方々に銃聲、突貫の聲。）

—幕—

第五場

一九二二年十月三十日。

衛戍令下のローマ市。クリイナル宮殿附近の都門の城壁。

正面に白灰色の大きい壁。中央にアーチ型の大きい入口が切りぬいてある。入口からむかうには建物。大理石の石疊みに、壯麗な彫刻が施してある。木立稍黄ばんで、梢を城壁から露はす。

壁上は宏ろく、歩けるやうになつてゐて、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。

都門外は大廣場。午後。

イタリー王室の衛戍軍の本據が、壁内に置かれてある。通行人は、すべて入口の向ふへは道入れない。衛兵二人、門の左右に立つてゐる。門内には、、、を擬した一隊の兵士達が見える。壁の上方の歩道には、、、、、、、兵二人ほど左右から歩み出で、中央にて出遇はすと、再び取つて返へす。電話の音しきりなり。號外賣の聲諸邊にかまびすしい。市民（若干の婦人をも加へて）二十名ほど珍らしさうに門を遠卷きにしてがやがや云ひ合つて居る。

市民一（大きく『ムツソリーニ、ローマへ、、、！』と書いた號外を擴げて、市民二へ示してゐる）どうです、たうとうやつて來ましたなー

市民二　こりや、この分では世の中はどうなることでせう！

市民三　カムパニアの野は黑シャツで葡萄畑のやうにまつ黑ですよ。

女一　、、が起るんですか？（市民四へ向つて）

市民四　何だかわたしも面喰つてるところですよ。今朝、いつもの通

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りにトムボラの福引を買はうと思つて、起き拔けに出て見るとこの騷ぎなのですからね。

市民五　これは、貴下、一昨日から始まつてる騷ぎですよ。

市民四　いや、その、實は私は一昨日からずつと呑み通しだつたのでね。

市民五　ははア、飛んだところで兇惡露骨といふ奴ですね。

女一（ほかの一團の男達に向ひ）、、でも始まるんですか？

市民七　、、の前からこの通りぢやあ、、、、、、ですよ。

市民八　いつたいこの黒シャツつてのはなんですか？

市民九　茲二三年の間、方々の工場や新聞社が叩き潰はされて途方もない損害を蒙つたでせう、——あの連中ですよ。、、、だね。それが、貴下、、、、、でやらかすといふんだから凄いもんですよ。

女二　ムツソリーニていふ男はオルヴイエットのお寺にある、、のやうな恐ろしい男ですつてね？

市民十一　そりあお前、、、の親玉だもの。今に見な、、、、、、、、しなさるぜ。

市民十二　いつたい總理大臣のファクタは何をしてるんだらう？

市民十三　何しろディアズ將軍なら、どんな黒シャツでもひとたまりもなくやられますよ。

市民十四（市民十五に向ひ）この連中は、騷の方が先で理窟はあとからこぢつけるんだそうだね。

市民十五　あの新聞へ出てゐる綱領なんぞを見ると、なかなか、、、、、なところもありますな。

學生一（學生二に向ひ）青年よ、青年よ、美の泉よ！　なんていやに文學的なマーチでやつてるんだが、やることはかなり惡辣だつてね。

學生二　黒シャツだけでなく、青シャツつて奴もいつしよになるんだつてね。

學生一　さつきの號外では、ガルダでダヌンツイオと會見したさうだよ。もう來るだらう、テルミニからコルソの通りまで、ヴイア・ナツチョラレは出迎ひの人間で一杯だよ。

婆さん（駈け出しながら）こりあかうして居られぬわい。嘆きの聖母樣にお願ひして家財を疊んで、又實家へでも歸へりませうわい。

市民達（異口同音に）來たぜ！來たぜ！（市民達一樣に視線を右に轉ず。左より入り來たる群集と一團になつて、右端を凝視す。彼等の叫び聲、歡喚の聲、唸り聲など太い複線になつて舞臺一團に渦を卷く。その音圈の上に、遠くの方で多數の人員が聲高に合唱する群聲が聞える。城壁の上下及び内部に當つて、俄かに緊張せる號令の聲、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

軍人の跫音など。、、、の内部には、、、、、、、を譲りながら、一隊の兵士がぴたりと地上に俯伏す。一人の將校、双眼鏡を持ちてその後を徘徊す。彼れの背後にも一隊の兵士達隊伍を整へ居る。電話のベル、時折、群集からの雜音の途絶えた合間に、緊張せる音線を破く、うわーッと物凄い喊聲——それは市民の歡呼の聲である。自動車の警笛左端に聞え、正裝せる總理大臣ファクタ、慌てて群集を從者二人に押退けさせながら登場す。ファクタは、酒肥りのした、蚤取眼の、カイゼル髭を生やした、態度の落ちつかぬ男である。

從者一（、、、の前へづかづかと進み）開けろ、開けろ。

從者二　總理大臣の御入でだ。

士官（づかづかと進み出で）總理大臣が何であらうと上官の命令には誰一人この門を通すことが出來ないことになつてゐます！

ファクタ　こら、御前は予の顏を見覺えぬか。

士官　一と月に二人も變る總理大臣のお顏はちよつと覺えにくう御座います。

ファクタ　新聞や雜誌の寫眞版に發表され過ぎるほど發表さして置く予の顏を知らぬとは不埒な奴だ！　予は、直ちにこれから、、、、「、、、、、、、、、、、、。強つて、、、を聞かんとならば、予の自動車で押通つて見するぞ！

士官　總理大臣閣下、、、、といふものは、カルソの敗壞以來、、、、、、、を通はす習慣になつて居るので御座います。いか樣に閣下が仰せられるとも、上官の命令のなき以上はお通し申すことは出來ませぬ。強いて御這入りなりたければ、陸軍大臣閣下へ御交渉になつて然るべき命令のあり次第取計ひませう。但しは、商人達の通用門になつて居りまする、街角の小門からお這入りになるか？

ファクタ　うむ、うむ——怪しからん、不屆きな、予の浮沈にも拘る一刹那を、遮ぎり止めるとは！（脱いでゐた白き手袋を取つて烈しく、、、を打ちながら、足踏みする）よし、ダンテ、無念だが商人用の門へ廻はれ！　こんな陸軍大臣なら、今日から早速免職だ！

（從者彼と共に去る）

士官　色男め、陸軍大臣を免職する前に自分の、、、、、、、、、さ！（冷笑す）、、も、この頃は、、、、、で騙されてゐるんだ。ムッソリーニが來て、、、、、、、、、、、はりでもしたら、どうなると思ふか！

群集（右端より雪崩れを打つて左端へ退き來たる。女子供の金切聲。男達の『ファッショ萬歲！　萬歲！』の聲。次第次第に、潮水の如く左へ引き退くと、城門を鮮かに見せる空間が出現する。間。——

突然、多數の鬨聲と共に　ベニト・ムッソリーニ、無帽黑シャツの姿で先頭に現はれ、胸を張りて城門へ向つて進む。あとから四列縱隊にて、夥しい黑シャツ黨員が舞臺へ流れ込む。舞臺は忽ち幾重にも疊まれ四列縱隊のファッシスト黨員によつて充たされる。所ところに槍のついた國旗。ムッソリーニ左手を高くさし擧げて大呼す。

ムッソリーニ　我等は、茲にファッシスト黨員一百萬人の總動員を行つて、ローマへ進撃して來た。我等の主張は簡單である。——我等は、、、、、、、、、、、、！（その時博士アントニオ何かをムッソリーニの耳へ囁く。ムッソリーニ頷く）諸君、諸君は茲數時間のうちに腐敗せる、、、、に代つて、眞の、、、、を持たんとしつつあるのだ！　門を開け！　門を開いて、この黑シャツのままで、、、、、、、、を乞ふこのベニト・ムッソリーニを入れよ！　我等はイタリーを滅亡の淵から救ふ爲、津々浦々から徹宵ローマへ進軍し來たつたイタリー國民である。我等の目的の爲めには、今や身命を抛つても、、、、、の下に働かうとしてゐるのだ！　再び云ふ、門を開け！　開いてイタリーの運命を泰山の安きに置け！（博士アントニオ再びムッソリーニに囁く）見よ！　諸君は、、、、、、、を護りつつある。我等は、國を思ふ赤忠のほかこの胸を掩ふ楯はない。我等の魂は武裝である、我等の精神は武器である——、、、、、、、、諸君は我等の肉體は滅ぼし得るとも、見えざる我等の楯、見えざる我等の魂、見えざる我等の彈丸を防ぐことは出來ない！　三度、我等は叫ぶ、門を開け！——（城門内に威かめしい軍服を着た將軍の姿が見える。二三語の命令ののち、、、、、、、が速かに撤去される。城壁の上に一人の將校の軍服を纒ふた、、の姿が、多數の、、、を從へて現はれる）

ムッソリーニ（叫ぶ）、、、、、、、、、、、！　イタリー萬歳！　ファッショ萬歳！

ファッショ團一同　萬歳！

（ファクタきよときよととして現はる。シルクハットを取りて恭しく城壁に向つて敬禮す）

城門内の武官　ベニト・ムッソリーニ、、、には直ちに、、、、はられる！　そのままで苦しからぬ、歩み入れ！（ムッソリーニ高く左手を擧げ、低く片膝を折る。ファクタ愕然たり）

ファッシスト一同　萬歳！

（左端から驟雨の如き花と花環が一同の上へ降りかかる。ムッソリーニ大きく第一歩を踏み出した途端に軍人達捧げ銃にて）

——幕——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第六場

或る架空的な、長い廊下。

六つほどのドアのある廊下である。壁には無數の太い大きい棍棒が立て掛けてある。うす暗らい怪魔的な廊下の長さに、整列された棍棒だけが、ぎらぎらと光る。

一人の男、ドアの一から靜かに、首を傾んであらはれ、前後左右を見廻はしたのち、左端へ通けて行かうとする。ドアの六からあらはれた一人の男、無言で第一の男の前へ立塞がる。二人は頰に接吻して、互に笑ひ合ふ。しかし隙を見て、第二の男、いきなり棍棒を取つて、第一の男を毆り仆ほす。第一の男斃る。ドアの二から、第三の男あらはる。第二の男、再び第一の男に對すると同樣に、叮嚀に接吻して、毆ぐる。二人の體は行儀よく左端にならぶ。第三のドアから、第四の男出で、同じやうに撲殺される。第四のドアの第五の男、第五のドアの第六の男も同じ。五人の死體を眺め居る間に、第一のドアから第七の男あらはれ出て、接吻したる上に、第二の男を毆ぐる。第八の男、第二のドアより出で、やはり第二の男に毆ぐられる。かうして、第九、十、十一の三人も同じやうに撲殺される。廊下にならべられた十人程の死體の列を見て、第八の男、微笑む。すると、第三のドアから第十二の男出て來て、接吻の後、第八の男を撲殺す。同じことの無數の反覆のうちに、舞臺全く暗らくなつて、幻影は忽焉として消え失す。……これらの行動の合間々々に狂的な大騷の哄笑が聞える。

第七場

一九二四年の春。

パラッツオ・キヂに於けるムッソリーニの官邸の一室。

正面に嚴々しい絨毯を垂れた入口がある。室の壁は淡い灰色に塗られてある。中央に大きい楕圓形のテーブル。高價なる椅子十五脚ほどテーブルを圍み居る。その他、室內のシャンデリア、窓などよろしく。『勝利』の女神の像が隅に在る。

肅然とした空氣の中に、ムッソリーニ、テーブルの首席に立ち上がりながら、並び居る人達十三人ほどを熱心に指さし罵り居る。舞臺面一樣にもうろうとしてゐる。唯テーブルの周圍だけ死色のやうな神秘な光が漂つてゐる。

(注意。これより會議の場に至る迄は、大臣達太い腕を振り廻はしたり、亂暴に卓を叩いたりする必要がある)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ムツソリーニ（稍喜劇的な動作で）おい、マリアノ、お前マリアノ、お前、何の恨みがあつて俺に逆つたのか？——ムリツツオ、いくらそんな顔をしたつて、俺は怖はくはないんだ！（並び居る人達を一々指摘する。指先に烈しい顫ひあり）代議士のコリント、お前は見出されたときは首がなかつたつけな、犯人はあがつてゐる、——俺ぢやないんだ、俺ではない！　ドミノといふ奴は、お前のために丸一年の刑期を言ひ渡されてゐるんだ。ゴーリ、貴様はそんな恐はい顔をしたつて、俺には、地獄へ墜ちたダンテよりもおそろしくはないぞ！

十三人の人間（蒼白い顔を擡げて、一齊にムツソリーニの方へ詰め寄る）、、の政治を止めろ！　、、——、、——、、を止めろ！（その聲は不思議な餘韻を曳いて地の底までも沁み徹るやう）

ムツソリーニ（大聲にて）、、は、、のやうなものだ！　或る期間は、絶對に必要な、、だ！　、、を否定する奴は、皆、、のために仆れるぞ！　、、がなくてイタリーが救へると思ふか！　、、！——、、だツ！（ムツソリーニ憤然として十三人の人間の彷徨するうちに、拳を振るひ足を上げて亂鬪する。人達次第にムツソリーニを襲うて、彼れの體を隅の大椅子の上へ運び込む

（突然、頭上に燦然としてシヤンデリアの光が點もる。いいい、まんどうに暗くなつた會議室の中に、十三人の閣僚達が銘々椅子などに身を縮こまされながら、ムツソリーニ暫く眼の前の何物かを拂ひ退けるやうな手付きで、漠然とした恐れを表情す）

ジヨワニ（現在はイタリーフアツシスト總本部の幹事である）親方！親方！——どうなすつた？　眩暈ひでも起されたのか？

ムツソリーニ（はつと氣がつき）おい、ジヨワニ、『親方』だけは止めてくれよ！　どうも貧乏くさくていけない！　統率とか、閣下とか何とかほかに威風堂々とした呼び方がありさうなものぢやないか？

（苦笑）

秘書官長ロツソニ　どうもこの田舍者には全く困るな。お前、そんな立派な身裝をしてゐる癖に國訛りをむき出しだなんて、ムツソリーニ內閣の恥だぜ。まるで昔の鐵道驛夫をやつてゐた氣持がまだ拔け切らないんだな！

陸軍大將パスコ　ジヨワニもさうだが、首相閣下もあまりむき出しぢやありませんか？

ムツソリーニ　——と云ふと？

文部大臣ゼンチロ（胡麻鬚の老人）こなひだ、アメリカの特命全權大使チヤイルド氏に御會見の折などは、些か脫線のやうでしたな。

勞働大臣ピアンチ　僕は考へるがね、先生はもつと民衆に恐はがられ

るやうに、――つまり睨みを利かせるために、微妙な群衆心理を、、、、、があると思ふね。

海軍中將フエデリオ　わしも同感ぢや。つまりもちつと、、、がして戴きたいな。譬へば朝の散歩の折には、ちよい〳〵動物園へでも馬を乘り入れられて、幸ひ彼處には、今年生れたばかりの獅子の仔がゐるから、あれをでもひとつ手馴づけられて、イタリーの首相ムツソリーニ氏は、、、、、、、に當られて居るから、常々、、、、、、、、、として、ローマの古武士のやうに、アレナに猛り狂ふ猛獸をも恐れぬちうな、、を、早い話が、あんたの弟さんにでも、、、、、、書いて貰ふんですな。

文部大臣ゼンチロ　わしの方でも新しい小學校の讀本を拵へさせますについては、種々とナポレオンとの比較や、ガリバルヂー將軍との類似點などを、手際よく書かして見るつもりですよ。

陸軍大將バスコ　幸ひビアンチ君が首相によく似て居られるから、一つ決死的な勇氣をもつて、譬へばナポリからローマへの飛行とか、新しい軍艦の進水式とかいふ場合には、ムツソリーニさんそつくりな身裝をして民衆の前で輕業師のやうな冒險をやられたら、どうでごわせう？

勞働大臣ビアンチ　それは引受けますが、いつそ首相の株までわしに譲つて下すつたらどうでせう？

ムツソリーニ（笑ふ）おい、君達、馬鹿もいい加減に休み休み云ふがいい。――それよりも、俺は擊劍の方をちと勉強しようと思つてゐる。鐵のやうなこの腕も、戰爭で負傷して歸へつてからといふものは、何故となく冴えがなくなつたやうだよ。それに十二指腸もわづらつてゐる。誰か、この場で一つ俺の相手をして見るか？

文部大臣ゼンチロ　ははあ、それだけは御免蒙ります。――何故と云へば、私達一同は首相にはきつと負けることに相談し合つて居りますからな。

大藏大臣アントニオ博士　冗談はさて措き、今日の閣議の方からきめて行かうぢやないか？

遞信大臣チザーレ　今日は、特別にわしと警視總監のザンボニ君との問題ですがな。――

ムツソリーニ　諸君着席して下さい。ザンボニ、何か又あのスツルツヲの奴が煽動でもし居つたか？　それとも外國へ逃げた筈のサルバニ博士でも歸つて來たのか？

警視總監ザンボニ　いや、そんなのなら何でもないんですが、實は秘密出版の増えたことですよ！

ムツソリーニ　あれほど猿轡を嵌まして置いても、まだ亡者共がぐづ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くづ掛かしてるのか？　それから憶ふと、昔のローマの何とかいふ司法官、おいファリナ、あれは何と云つたつけな、――殘忍な、すべての違警罪者は死刑に處すと云つた奴よ？

司法大臣ファリナ　――ドラコマでせう？

ムッソリーニ　さうさう、その男だ。どうだい、ザンボニ、もう少し手嚴しくそのドラコマ式をやらうぢやないか。――凡ゆる出版物はファッシスト宣傳部の直轄下に在るべし、なんていふのはどうだ？

司法大臣ファリナ　秘密出版は發覺と同時に、裁判なしに無期徒刑、なぞは如何です？

警視總監ザンボニ　首相、實はその秘密出版書類を押收して、先刻次ぎの部屋へ持たして參つてあるんですが、驚いちやいけませんよ、二噸積みのトラックに十臺もあつたんです。それが、貴下、この一昨日の檢擧だけの分ですよ。ローマだけでね。ちよつと取寄せて御目に懸けませう、――そのサンプルをね。（ベルを鳴らす）

次室から屬官一人現はる。警視總監彼に命ず。屬官退場）

文部大臣ゼンチロ　ボルシエヴイキですか？

遞信大臣チザーレ　赤、黒、ピンク、薄桃色、灰色――實に各種類の思想が交つてゐるのですよ。

文部大臣ゼンチロ　まるでダヌンツイオ氏の初期の小說のやうですね。

（屬官下役五人に命じて、山のやうな秘密出版書類を運ばせる。書類うづ高くテーブルの上に山をなす）

ムッソリーニ（その一冊を手に取り）や、マキシマリストのカセーラの奴めが、今度は愈々ボル臭い眞似をし始めたな！

司法大臣ファリナ　最も困るのは、閣下のファッシスト黨組織以前の內情をあばくための秘密通信ですよ。これがさうです。（一束の書類を手渡す）

ムッソリーニ　誰だ誰だ、こんな馬鹿な事をしやがる奴は？

秘書官長ロッソニ（覗きこみながら）これは非道い！よほど先生の內情を知つとる者がやり居るんですな？

ムッソリーニ　ザンボニ、目星はついてないか？チエカは何の爲めに月給をむさぼつて居るのか、手が足りなけりや、憲兵を派遣してもいいぢやないか！

ザンボニ　どうも、もと活版屋をやつてゐたステファニといふ老爺らしくも思はれるのですが、家宅搜索をしても、活字一ケース出て來はしないんです。尾行は附けて居りますが、奴、近頃自動車の仲買をやつとるもので、軍用自動車のやうに素ばしつこくて、往々にして何處かへもぐり込んでしまふんです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

司法大臣ファリナ　そんなのは議會の有無に拘らず、わしの方から逮捕令を出してやるよ。

大藏大臣アントニオ博士　どうもそれは少し非道過ぎはしないか？――民間の評判も、近頃は君達があまり苛辣な政策をせるもんで芳んばしくないよ。わしはいつも諸君の行動の註譯者となつて居るので、仲々苦しい立場にあるんだ。諸君、もし諸君が政治的に罪を逃ばれようとするなら、もうちつと頭の方を働かして貰ひたいね。それに、モルガンの方の國債だつて、惡るく民衆の意見が反映すると、重大な破綻を來たさぬとも限らないからね。あのサルワニ教授なんぞの海外同志との文通などは、よく取締らんといけませんぞ。

ムツソリーニ　博士、露鐵の方はだいぶ上がりますかな？

大藏大臣アントニオ博士　あれは、まあ、さら問題ぢやありませんよ。それよりも、一つ人氣を煽るために、ムツソリーニ閣下が御自分で出馬されて、鳴り物入りの活動寫眞でも撮られたら如何ですか？それを、ファッシスト系の組織を持ちたがつてゐる、アメリカとか、イギリス、それから、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、相當に外國運動なども發達しかかつて居るやうです、――ですから全然國情は異つてゐましても、滿更無いことでもない類似、つまり人間の野獸性ですな、それも、、によつて刑をきめられた、、、、、――それを煽れば自然とロンドンの銀相場だつて有利になりますし、モルガンとは犬猿の間にあるロックフエラア系の金融機關でさへも動かせますよ。

司法大臣ファリナ　何でも、、、、をやつつけるに越したことはないよ。それはナポリの向ふにヴエスヴイアスがいつも噴火してるよりもたしかなことだ。第一、奴等をやつつけて俺達に損のある試しはないよ。

ジヨワニ　、、、、、、たら、コルチヤック、デニキン、ユーデニツチ、ウランゲル、セメヨノフ、ペトルガ、ホルセー、ピルツスキー、マナアヘイム――ああ、息が塞る――そいつ等の貧乏軍隊よりも、俺等のフアッシヨ青年團の方が遙かにでつかい、、振りを見せてやるよ！――なあ、親方？

秘書官長ロツソニ　おい、いつお前はそんな學者になつたんだい？、、、、、に失敗した最も奇妙奇天烈な標本を、お前、田舍の婆か念珠の玉を數へるより良く呑み込んでゐるぢやないか？　偉らい、偉らい。

ジヨワニ　いや、自慢するが、僕はこのパンフレットを讀み上げただけの話さ。（一同失笑）

ムツソリーニ　これから僕は、會見を申込んで來た外國人四五名を引見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

することになつてゐるので、この問題はまあこれぐらゐにして、議事は司法大臣と、通信大臣と、それから總監と、なるべくならアントニオ博士にも意見を貸して頂いて、緊急に取締法案をでつちあげては呉れまいか。そして見つけ次第、びしびし、、、でやつつけることだ。(起ち上がる)では――今日はこれで散會としよう。ついでに、その先刻の、俺の昔の事を暴露してる奴な、ザンボニ、そいつを至急捕へてくれ。(一同敬禮して起ち上がる。彼等靜かに二三人づつ連れだつて正面奥へ退場。シャンデリアの光突然薄くなり、秘密出版文書の前に、腕組みをしながら坐つてゐるムッソリーニの姿を夢のやうに浮き立たせる光が何處かから發散するだけである。ムッソリーニ急に起ち上がつて、秘密出版文書の束を攫み取ると、いきなりその一つびとつを天井目がけて、驚くべき速さをもつて投げ上ぐ。動物的な呻吟。暫くして部屋中に散らばつた秘密出版文書のため、ムッソリーニの體の全部が掩はれ、首だけその間から出てゐる……その首は、大きく鰐のやうな口を開いたと思ふと、粗雜な聲で欠伸をする)

ムッソリーニ(跳ね起きる。と、同時に、シャンデリア再びまぶしく點る。ジョワニ奥より登場)あ――ア!

ジョワニ 親方、何を其下はしてますか? アオスタ公爵が、社會政策的慈善事業を廢止して、ファシスト軍隊の赤十字社を建設する件でお目に懸られようつて、只今これへお見えになりますが――あの方はいつも美人だね、親方!

ムッソリーニ(烈しく肩をゆすり)あ、いまのは夢か!ジョワニ、貴樣、その『親方、親方』だけは止めねえか? 夢にまで、貴樣の親方がついて來やがる! 止めなかつたら、最近覺えたメリケンで、一つピザの塔の蜃氣樓の映つてゐる方を拜ましてやるぞ!

(ムッソリーニ拳鬪の眞似をしながら、逃げまはるジョワニを追ひかけ、稍威嚴を缺きたるポーズにて)

――幕――

第八場

一九二四年の冬。

北伊ゼノヷに近いセストリ・ポネンテの造船ドック。

右端に太い木材を組み合はせた櫓が聳えてゐる。その木材の格子を透して、先下がりに海へ半ば突つてゐる巨船の龍骨の一部が見える。櫓の或る部分に『禁煙』の札。その邊一帶に、木屑やロープ、鐵線などが散らばつてゐる。重油の斑點。正面奥は廣いゼノヷ灣、雪もよひの空の下に、波動する鉛のやうな冬の海。アルプス下ろし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の朔風が烈しい。正面中央は海岸になつてゐて、太い杭が亂雜に打ち込んであり、それらにケーブルが絡らましてある。町から吹き飛ばされるあらゆる塵芥新聞鉋屑など吹き寄せられて居る。左端は木造の見張小屋、そこにも『禁煙』の札が貼られてあり、機械の破損じたパーツや、古るい道具類などがその横手の壁へ立てかけてある。舞臺の前方は廣場。いろいろな機械の運轉する音、汽笛、鋲を打ちこむハンマアの音、勞働者の掛聲などで幕が開く。波の音。

舞臺しばらく空虚。

浮浪人一、マドロスパイプを燻らしながら左から登場。暫く海を見廻はしたりドックの方へ歩いて行つたりする。浮浪人二、寒さうに肩をすぼめながら右より出で來たり、途中にて浮浪人一と出遇はす。

浮浪人二　やり切れねえな、かう寒くちやあ、お前、すまねえが、一寸一服喫はして與れねえか？　他人の喫つてるのを見ると、生命を三年縮めても喫ひたくなるでな。

浮浪人一（パイプを渡さうとして）おお、お前はドミノぢあねえか？

浮浪人二（驚き）さういふお前はフオルニだつたか？

浮浪人一　どうしてそんな乞食のやうな身裝をして、處もあらうにこんな造船所へ流れ込んだんだい？

浮浪人二（旨さうに煙草を喫ひながら、四邊を見廻はして）俺も飛んだ事にかかりあつてな――二た月前にやつと牢屋を出たばかりさ。お前知つてるだらう、あのマキシマリストのゴーリを殺つつけた事件でさ。――それがお前、大聲ぢあ云はれないが、親方の命令でたんだぜ。當り前ならば、骨折としてたんまり金でも貰つて、地方の役員にでもされるといふ寸法なんだが、俺がそれ、お前も知つてる通り少し口喧ましい方だらう、だもんで、牢屋を出るといきなり、誰の差し金かは知らねえが、五六人のフアッショの奴等が尾けねらつて來て、すんでのことに頭を鉢割られるところさ。――仕方がねえから、俺あいろいろに姿を變へて、こいつは何でもフアッショに恨みを持つてる土地へ逃げこむに限ると思つて、貨物列車へ乘つてからに、ゼノアまでは落ちのびたが、彼處はボルシエヴイキが旺んなもんだで、運惡くムツソリーニが、わざわざローマから乘り込んでお祭り騷ぎをおつぱじめるところへ出遇はしたわけさ。

浮浪人一　それでお前がここへ來たわけか？

浮浪人二　それが一週間前さ。仕事もなし、かうなつたら掻つ浚ひでも盜人でも、何でもするつもりではゐるんだが、ムツソリーニの野郎の遣り口で、イタリー中は牢屋同然になつてやがるし、ちつと目星しい事といひやどれもこれも憲兵や巡査が見てやがるし……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

浮浪人一　それに、このドックぢあ、今にもストライキが始まらうとしてやがるんだしな。

浮浪人二　でも、ここに働いてゐる奴等はみんなファッショの勞働組合の連中ぢあないのか？

浮浪人一　ファッショの勞働組合だつて、賃銀は下げられるし、八時間勞働は止めてしまひ、ほんとのところは十時間も十二時間も働かされて、、、、、、だとか、、、の高度の利益だとか、妙なことを云つちあ、その造船會社の親玉の懷ろを肥やしてるんだからな。——いくら造船工だつて、生れるとからファッシストになつて、臍へ勳章をぶら下げたり、黑シャツを着たりして來るものであるめえ。

浮浪人二　さうか、道理でこの町は變挺にさびれてゐると思つたよ。路傍に小便の臭ひこそすれ、マカロニ一と片れ落つこちては居やがらねえ。酒場もはしやぐちやなし、料理屋に乾酪の匂ひもしねえ。

浮浪人一　今に見ろ、どえれえ事がこの邊でおつぱじまるにちげねえから。

（武裝したファッシスト軍人團十人ばかり急いで左から右端へ通り過ぎる。浮浪人二慌てて海の方を向く）

浮浪人一　大丈夫だよ。この邊の軍人團は、皆ムッソリーニに反對なんだ。さうだ。——お前、一つ何か持ちあがつたら先刻の身上話を皆へしてやれよ！

浮浪人二　してもいいが、ほんとに大丈夫かい？　俺の人相書はとつくに廻はつてゐるんだがな。

浮浪人一　大丈夫とも。このボルデイガの乾分のフォルュでさへも、かうやつて隙があつたら造船工へ近づかうとして、大手を振つてドックをぶらぶらしてるんだもの。

（突如右端の新造中の船腹中に何やら大きい聲をする者があつて、一群の勞働者が櫓の蔭から現はれて來る。口々に聲高く罵り騷ぐ）

勞働者一　ギアコモに話させろ！

勞働者二　それぢあ云はう。

勞働者三　あの櫓へ昇れ。

勞働者四　さうだ、ローマの方を眺めてやれ！（勞働者二櫓へ昇る）

勞働者二　諸君、俺は千九百十九年三月以來、ファッショ・ファリノ・デ・コンバッテメントに席を置いた者だ。その時俺達の同志ベニト・ムッソリーニは『、、、、、の、、、、の爲めの鬪爭』といふモットオを旗へ書いたものだつた。そしてその綱領には、八時間勞働の確立、勞働者の、、、、、最低賃銀の設定、子供や老人の保護、——それから資本家稅、坊主の財産を差押へる、常備軍は撤廢する、武器や砲兵工廠は國營にする——つまり、、、、、、、、、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

、を建設する、その爲めの、、だと云つた。ところが、ムッソリーニが、ローマへ這入つて、あのシルクハットを被りやがつてから、たつた七ヶ月、諸君、いゝか、たつた七ヶ月で奴は今云つた綱領の一つびとつを、パラッツオ・キヂの紙屑籠の中へ投り込んでしまつたんだ。見ろ、今日、俺達は『理想的な八時間』だなんて變な名目の下に、物を食ふ時間も、晝の休みも拔きにした、ほんとうのことを云へば、ざつと十時間以上の勞働を要求されてゐるのだ。それから、資本家税どころか、それは止めてしまつて、勞働者に税金を出させて、あの變梃な勳章やら制服やら、妙な帽子などを被らせるお祭り騒ぎの費用にしてやがるぢやないか！ 俺はファッシストだ。しかも最初からのコムバワテメントなのだ。しかし、諸君、ナポリのファシスト鐵道從業員は、ストライキを起さなかつたか？ ナポリで首を切られた四百人の憲兵隊は、ムッソリーニの目の前で示威運動をしようと思つて、ローマへ進軍した時、憲兵の爲めに捕縛されなかつたか？ ムッソリーニの野郎が勝手にきめやがつた『階級協和』に、、するために、モンファルコーネの勞働者はストライキを起さなかつたか？ ノパラの百姓達は、、、、、、、して地主に[illegible]さなかつたのだが、諸君、あれはやはりファッシストだつたのだぞ！ 又ナポリのボスコリーレの百姓は、ムッソリーニへの面當てに、、、、、、し、、、、、かけたかつたか？ 俺はかういふファッショ内部の内証を數へあげると、百も二百も述べることが出來る。俺達はファッシストであるからと云つて、約束を蹂躙つた、、俺達を裏切つてまで己れが獨り樂た事をしてやがる變節漢、プロレタリアの、、の名によつて、小ブルジョアの支持を得ると、いきなりブルジョアの、、に旗色を變へた卑劣漢を排斥することに」躊躇しちやいかん！

勞働者多數　ブラボー！

勞働者二　話が少し大まかになつたが、もつとムッソリーニのことをあばき出すとなると、俺はムッソリーニの片腕とたのまれた、創業以來の親友ロッソニを知つてゐる。この男は、諸君は知るまいが、今『追憶記』を書いたために、危く殺されるところを、やつとロシアまで逃げのびたんだ。かういふ風に、ファッショの名を藉りて、俺達の、、、、、、、、、とプロパガンダだけで、イタリー國民が無事平穏に治まつて居るやうな體裁をつくつてゐるんだ！ 見ろ、今日ファッシストの機關紙でない新聞が、イタリーの何處にあるか？ あつたとしても、暴徒の襲撃に遇つて、虫の息でゐるだけの話だ。毎年ファッシスト黨の結成記念日に、どの都會で催される觀兵式でも、威勢のいい附景氣の掛け聲以外に、そこには何がある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か！ あんな、、、、、、、の貪婪な資本家の裏に橫はる俺達勞働者の搾取、、、、、、、、、、、、、、地方農民の零落、——それらを諸君は見まいとしても見ぬわけにはいかない。今、俺達は、戰爭以來のストライキ又ストライキ、ターデーターにクーデーターを重ねられ、幾十度かサンヂカリストの唆かしに遇つて、サボータージユやメリー・ゴオ・ラウンドのやうな、、、、をやり過ぎるほどやつて來た。慘敗に慘敗を重ね、幾度か死にかかつて土壇場の戰線まで追ひ詰められた俺達は、苦か苦がしい多年の經驗から何を得たか？ それは、カセーラや、ギイド一派のマキシマリストの說く經濟鬪爭の戰術ではない！ 何となれば、あの經濟鬪爭こそ俺達を今日の悲慘な境遇に導いたのだから。——諸君よ、ここだ、俺達は政治的に鬪はねばならないんだ！

勞働者多數　政治的だ！

（ファッシスト軍人團右から現はれ、勞働者と一團になる）

勞働者二　今俺達の仲間へ、軍人も加はつた。軍人諸君よ、俺の話を聽く前に、諸君は諸君の兄弟である俺達勞働者と、一旦非常な場合になつたら、いつしよに手を繋いで鬪ふ勇氣があるか、それを聽かせろ？

軍人團　ある、ある、ある！

勞働者二　よし。それならもつと話さう——

浮浪人二　待て、俺にも話さしてくれ。

勞働者三　お前は誰だ？

浮浪人二　俺はマキシマリストのゴーリを、ムツソリーニに頼まれて殺ろした、そして今ムツソリーニに殺ろされようとしてゐるドミノと云ふ者だ。

勞働者四　やれ、やれ！

勞働者二　よからう、俺達がこれからストライキをやる前に、もう少し唐辛子を撒りかけるのもいいかも知れない。上がれ、代らう！

（浮浪人二と入れ代る）

浮浪人二（手を振りて正に演說せんとする刹那、何處からかピストルの音がして櫓から轉ろげ落ちる）

（ファッシスト憲兵士官右の見張小屋から現はれる。續いて憲兵數名。その一人手にした旗を高く振ると、左端からファッシスト軍人團及び多數の憲兵、、、して一團へ襲ひかかる。勞働者達と反逆組の軍人團は、どやどやと右奧へ逃げ込む。憲兵士官は烈しく下知したから、、、、、、、、、、、、、。、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。　勞働者二銃を握つて、鋼のケーブルを截る。士官の持てるピストルによつて射殺さる。勞働者の三役に代る。勞働者の

三同じく仆る。勞働者の四再び斧を取る。偉大なる音響と共に巨船ずるずると滑べり行き、烈しい水音と共に、檣の一部を蹴仆しながら海へ墜ちる。船内より勞働者達の歡呼の聲。陸上の兵士憲兵達の狼狽するがまゝに)

――幕――

第九場

一九二六年の春。

ナポリの街上。

左に廣場へ向ふ數段の石段。舞臺正面奥にはホテルの壁。二階一階の窓八つほど、皆鎖されて、カーテンが下りてゐる。右端から正面の前方へかけて凸字形の大理石の欄干。その上にギリシヤ式の花鉢があつて、適宜な彫刻が施されてゐる。ホテルの壁と欄干との間は廣い通路。ホテルの入口は、町角を曲る心にて、前方からは見えない。イタリー國旗及びファッシスト團旗がけばけばしく舞臺の上方に交叉されてある。電車の音、自動車の警笛、都會の漠然とした雜音など。

市民六七人賑かに話しながら右より左へ通過し行く。勞働者四五人欄干に凭れながら、ひそひそ囁き居る。浮浪人に變裝した憲兵一人市民の後を追ひ、半ばにして、勞働者の方へ耳を傾け立ち停まる。

市民一　あなたは運がいいんぢや。わしなんざあ幾度買つても政府を儲けさすだけのものさ。

市民二　なんの、それが行き當りばつたり主義でね。政府の政策ぢやないが、がむしやらに當つて見るだけですよ。

市民三　いや、がむしやらは、イタリー人の特質でせうつて。高い聲ぢあ云はれないが、富籤の番號とムッソリーニの政治は、どつちもイタリー人らしい、、、、、、、、、ですよ。

市民四　『統率』は、愈よ陸海軍の大臣も、外務大臣も、獨りで兼任することにしたんだつてね。

市民五　(階段を昇りながら)しかし、わしは、あの精力には感心しますね。朝は六時から起きて馬に乗るし、動物園へ行つちあ獅子の仔を撫でるし、八時からは外務省で國事を見るし、それがあんた夜の十二時頃までも續くんださうだからね。

市民一　そりあさうですよ。何せ元は新聞記者だつたんだから、毎朝山のやうな新聞に眼を通さぬと氣持が惡いんださうだからね。

勞働者一　叱ッ！(背後の浮浪人を指さす)

勞働者二　行かう。まだ(わざと大聲にて)統率閣下にはお見えにな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らんようだから。

勞働者三　おつつけ兵隊が出始めると混み合つてとても歩けぬやうになるかも知れない。

勞働者一　さうさう。歸へつて今日はゆつくり骨休めをしよう。(勞働者達右へ去る)

市民三　あれ、やつて來ましたぜ。急いで通らないと、今にふさがれてしまひますよ。

(左へ去る。浮浪人に變裝した憲兵、勞働者の後を追うて右へ去る)

(黒きヴエールを垂れた黒裝束の暗殺者、急ぎ左より登場、右奥へ素早く歩み去る。遠くに合唱の聲。憲兵二人右より左へ横切り去る。ファッシスト團員二十人ほど團旗を持ちて左より右へ四列縦隊にて通り行く。爆竹の音。萬歳の聲四方より響く。團員達片手を差し上げて『萬歳』を叫ぶ。ホテルの八つの窓が急に開かれて、カーテンを分けながら市民や女達の顔が現はれる。その中に、二階の一つの窓から、先刻の黒裝束の女顔を現はして、頻りに左方に狙ひ居る。その窓には、外に人影はない)

(ムッソリーニ、ファリナやザンボニやバスコ大將及びアントニオ博士その他の幕僚に圍まれながら、左端より階段を下り來たる。シルクハットに、美々しきモーニング、胸に白薔薇をつけ、手に白手袋を握り、頻りに服の皺を氣にしながら歩む。一としきり萬歳の聲。ムッソリーニ片手を擧げてこれに答へる。窓の人達熱狂して手を振る。先刻の勞働者達再び右端より現はれ、何やら新聞紙に包みたる物を手から手へ渡し頷き合ふ。浮浪人に變裝した憲兵、他の憲兵五人と共に彼等を追跡し來たり、勞働者一が片手を擧げて『ファッシヨ萬歳!』と叫んだのを合圖に、勞働者二が突進せんとした刹那、背後から捕へる。この時、突然とピストルの音が、ホテルの窓から響き、黒裝束の女姿を消す。勞働者達と憲兵との格闘とに氣を取られてゐたムッソリーニは、顔をそ向けたために、危く狙撃を免がる。この瞬間、舞臺のあらゆる方面から、軍人、憲兵、警官、ファッシスト團員、市民達など無數に集まり來たり、中央のムッソリニー等を取り圍む)

ファリナ　統率、やられましたか?

ザンボニ　おい、愚図々々してゐちやあいけん、早く犯人を捕縛せい!(憲兵達右へ急ぎ去る)

ムッソリーニ　(手を面部へ當て輕く苦悶してゐる。ビアンチ彼れのポケットから手巾を取出して渡す。手巾みるみる赤くなる)

市民一　顔をやられた!

市民二　撃つたのは誰ですか？

市民三　彼處の窓からですよ。私は確かに見ました――女です、黒い帽子を被つた女です。

市民四　ありあホテルぢやありませんか？

市民五　逃げたかな？　女とは――隨分大膽な奴もあるものですな。

ザンボニ（憲兵達と爭ひ居る勞働者達を見て）何だそれは？――そい奴か撃つたのは？

憲兵一（勞働者二の持てる紙包みを取り上げ）これは違ふんです、この野郎は、、で統領を暗殺しようとしたんです。

憲兵二　共謀者にちがひありません。

浮浪人に變裝した憲兵　僕は朝からこい奴らを社會主義新聞社から尾けて來たんですが、確かにやらうとしてゐたにちがひありません。

ムツソリーニ（鼻に手を當てたまゝ）何人と雖も俺を殺ろしてはならない！

（ムツソリーニの聲に應じて、私服達を先立て團員憲兵等猛然と勞働者達に肉迫し、或る者は欄干に押仆して首を絞め、或る者は短刀を閃めかして刺さうとする。その時、ザンボニ大聲にて叫ぶ）

ザンボニ（新聞包みの中の林檎を取り出し、高く振りながら）待て、待て！　こりや違つた！　待ていつ！

（一人の團員が勞働者の一を刺す。勞働者一欄干の上に仰けぞつて、絶叫しながら前へ落ちる。ムツソリーニ人々の差し出す手巾を受取つて、續けざまに取り換へる）

市民八　その血の附いた手巾を下さい！

市民五　尊い統領の血だ！

ファッシスト團員一　キリスト様の聖血よりも有り難い記念だ！

バスコ大將　ですから今日はビアンチが旨くやつてくれゝばいゝと思つたのに！

ムツソリーニ　鼻だ！　鼻だ！　鼻を撃たれただけだ！

ジョワニ　取り敢へず醫者の家までお入で下さい。

（一同右へ流れ込む途端に、右奥から數名の警官、暗殺者を拉して來たる。一同「殺ろせ！　私刑に處せ！」と叫ぶ。暗殺者ずたずたに裂かれたヴエールの間から、緊張した蒼白い顏を向けて、始めてムツソリーニと對面する）

ムツソリーニ　何だこれは？

警官一　英國の婦人です。――貴族だそうです。ギブソンと云ふ者で、閣下にひどく敵意を持つとるらしいのです！

ムツソリーニ　こら、お前は外國人の身を以つて、このイタリーの復興者に何の恨みがあるのか？　云へ！　予はお前の國語は解るん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。さては共産黨一味に示唆されたにちがひあるまい!

暗殺者（極度の昂奮にヒステリツクになつて唯口を開閉して荒い呼吸を吐くだけである）

ザンボニ　閣下、どうもこの女は、多少精神に異狀があるやうに見受けられます。

（新聞記者數人人を分けて近づく。ムッソリーニに敬意を表しながら、警保の誰彼に事件の顛末を訊ねる）

ムッソリーニ　俺は醫者へ行くほどのことはない。神聖なローマのためには、いつも生命は捨てゝゐるつもりだ! 鼻が何だ! これからナポリの市民に對して、この由を告げよう。——その婦人は直ちに拘引しろ!

新聞記者達（欄干より落された勞働者を發見しまた憲兵等によつて捕はれ居る他の勞働者達をも見て）これらは同犯者でせうな?（記者の一人キヤメラを向けて勞働者一の死骸を寫す）

ザンボニ（慌てて新聞記者のキヤメラを奪ひ取り）こらッ、、、、、、、、、、、、、、! 、、、、、、、、、、、、、! 醉つぱらひだ、仲間同志で喧嘩してそこへ落つこちたのだ。今日のパレードに治安を紊す奴なので、な、一寸押へたまでさ。——解つたか? それよりも、その女のことを、、、、! （新聞記者一同負傷を見舍はせながら去る）

ムッソリーニ　然らば予は直ちにナポリ市民へ身自ら立つて告げよう!（右端へ歩み寄る。警保達續いてピアンチの山高帽子とムッソリーニのシルクハットとを取り換へる。ムッソリーニ退場。右端に鯨波のやうな萬歳の聲。憲兵達勞働者達を押しこくりながら附じく退場。ファッシスト團、警保達、市民の群、兵士等どやどやと退場）

暗殺者（手錠を下ろされ警官達に押しやられたから、振りかへつて大聲にて）私はジュピターの像で鼻の缺けたのを見た!『勝利』の女神の石像には首がない!

警官達　えいッ、歩め!

—幕—

第十場

程遠からぬ過去。

曠野に立てる古ローマの廢墟。秋。右奥から正面奥へかけて峨々とした古壁。不規則な角度に缺け落ちた壁に、紅葉した蔦かづらが絡んでゐる。壁の中央は、ぎざぎざになつた、古の凱旋門の跡。奥に曝れた圓柱、それに遮られながらも、茫々とした秋の野が遙か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に地平線まで擴がつてゐる。所々に焼けこげたやうな土の斷層が見え、ひよろ長い絲杉と笠松とが濃緑の點綴を見せてゐる。

舞臺の左右に、同じ絲杉の木立が聳えてゐる。ほどよき場所に取崩された壁の根が殘つてゐる。

烈しい秋の日ざしが晶々と照らしてゐる。蟲の聲。風の音。

映畫監督と撮影技師二人二脚の活動寫眞機をかつぎながら正面から出て來る。

監督（中央にて立ち停まり、メガフォンを望遠鏡代りにしてそちこちと檢分する）統領閣下の嚴命だから、一寸でも變な事があつたらハンドルを止めて貰ひたい。い丶か、こりあ與太な探偵物なんぞとちがつて、外國へ宣傳のために送る寫眞なんだから、お互ひにしつかりしなきあいかん。

（技師達頷きながら連れ立つて右端へ退場。農夫五人左より歩み來たる。）

農夫一　どうも觀兵式だの、分列式だのと云つて、あの妙な身裝をしやあかつた若造どもにかう畑を荒らされちやあやり切れねえな。

農夫二　さうよ、おらあとこの麥畑や麥よりも兵隊の靴跡の方が多かつただよ。

農夫三　外國から小麥やよこさねえちう話ぢやあねえか？

農夫四　アメリカぢや、えらくムツソリーニに腹立てゝ、小麥を送らんちうもんだそうだね。

農夫五　このぶんぢあ、戰さがなくとも、毎日戰さしてゐるやうなものだ。

（がやがや云ひ合ひながら農夫等去る。中空に飛行機の音しきりにす、勞働者三人蒼白き顏にて右端より入り來たり、何かを待ち居るもの丶如く、その邊を見廻す）

勞働者一　まだ來ないな？

勞働者二　川を越したのを見たから、もう追つつけ來るこつたらうよ。

勞働者三　何だかお前、、、、、、してやがるぢあねえか？

勞働者二　ほんとの事を云ひあ、、、もするよ。

勞働者一（勞働者三に向ひて）さういふお前だつて、、、、てるぜ。

勞働者三　俺等恐ろしい、恐ろしいが、この恐ろしさは、、、、、、、一般に對する恐れだよ。

勞働者一　その、、と、、、、とへな――。

勞働者二　しかし、どうしても、、、、、、、、、、、、、、、。、

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、、！

労働者三　、、、、、、、。、、、、、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、！

労働者一　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、。

労働者二　兎も角この邊の木蔭へ隠れてゐることにしよう。（労働者達左端へ退場）

（ムッソリーニ、ムッソリーニ夫人と何か云ひあひながら正面凱旋門の中から現はる。隷僕達數歩さがつて續いて登場）

ムッソリーニ　解らない人だね。——今日のは外國へやる映畫なんだから、そんなに無理な事を云はないでくれ。

ムッソリーニ夫人　だつて、貴下、今まで一度も私は貴下と御一緒で寫して戴いたことはないぢやありませんの？　ねえ、後生だから一度撮らせて頂戴な。

ムッソリーニ　君は、あのアメリカの大統領ウイルソンのことでも考へてゐるんだらう？　あのにやけた人道主義者なら二度目の妻君を何處までも引つ張つて出たんだが。

ムッソリーニ夫人　あの方は特別なんですよ。奥さんがおつきにならなければならないやうな理由がおありになつたんでせう。この場合はちがひます。

ムッソリーニ（少しいらいらしながら不機嫌に）おい、昔からローマの婦人は男性のための美しい奴隷に過ぎなかつたんだぞ！——そして、今でも！　女は、美しくて、男を内助さへすりあいいんだ。俺の人口政策を見るがいい。生めよ殖えよ、永遠の都ローマをして世界の冠都たらしめんがために、女性は先づ良き子を生み、偉大なる男兒を育て、偉大なるファッシストたらしめるだけの任務を持つてゐるのだ！

ムッソリーニ夫人（足踏みしながら）よござんす、又貴下の御演説ですのね！

ムッソリーニ　それよりは、ね、アオスタ妃殿下の赤十字の方でももつとお援けして上げてくれないか？

ムッソリーニ夫人　よござんすわ。歸へります。——ああつまらない、せつかくここまでお供して來たのに。ぢあ、あの自動車は後ほど又差し上げますから、私あれへ乘つて歸へります。

ムッソリーニ　べつにそんなに腹を立てて歸らんでもいいのだよ。唯フイルムの中へさへ這入らなけりあ立つて見てゐたつて構ひやしないよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ムツソリーニ夫人（歸へりかかつて）どうせ私なんぞにはものの數ぢやないんですもの。ね、「婦人の居場所はホーム（家）」でせうよ！　おゝ、お大事に――群衆をよく用心してお聞きにならないと、又ボロニアで狙はれたように大變なことになりますよ！（正面より去る）

ムツソリーニ　し樣がない奴だ。（群衆の方へ向つて手を招く。四方より萬歳の聲起る。

勞働者三人　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、）
、、、、、、、、、、、、、、、）、、、、、、、、！（、、、、

ムツソリーニ　、、？――、、、、、、、、、、、、、？

勞働者一　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。

勞働者二　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、！

勞働者三　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、？――、、、、、、、、、。

勞働者一　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。

勞働者二　、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。

勞働者三　陛下も以前は勞働者でいらつしやいました、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、！

勞働者一　あの當時、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。

ムツソリーニ（輕く三人の者達が小膝を蹈めて、、、、、、、、りながら）お前達は、お前達のその貧弱た滿足のために、今この、、、の時間を差し止め、そのために莫大な費用を浪費してゐるのを知らんのか？　しかも、今日の、、は、いつものようにファッショの訓練といふだけではない――外國へ向けてのイタリー復興の實寫としての大映畫を製作するために、かくいふ予が自ら先頭に立つて、、、、、、、、、、、敢行する勇氣のない、一大宣傳フイルムを映出する場合なのだ。國家にとつての一大事、此上もないイタリー國民の光榮の場合に、見れば、ファッショの服裝もせず、わざわざ勞働に從事すべき神聖なる時間を浪費して、遙るばるとこんな場所へやつて來るとは何事だ？　予が勞働者であつた、サンヂカリストであつた、それに一々拘泥して國務を處理して行つたなら、この光榮あるイタリーの國家は、一日にして爆彈の製造所に變化して居るだらう。――それに、、、、、、、、、、、、、、、、、、、親しく『アバンテ』社に出入してゐた、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。、

、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、——、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。——

ザンボニ、この、、共を引き離れ！

（ザンボニ數名の憲兵及び警官に三人を捕縛せしむ）

勞働者一　、、ムッソリーニ！

勞働者二　ネロよりも非道い奴だ！

勞働者三　ボルヂアの惡黨だつて、貴樣の前では善人だ！

勞働者一　ベニトあんまり大きな顏をするな。かうなつたから云つて聽かせるが、俺達は一人ぢやあないんだぞ！

勞働者二　仲間あ川向ふに待つてゐるんだ。俺達の歸へりが遲けりあ手筈がちあんときめてあつて、電報一つでイタリー中の、、、、、、、、、、、、、、、、、をやることになつてゐるんだ！

勞働者三　俺達は、、、だ！たつた三人の貧弱な勞働者だが、この三人の後ろには、、、、、、、、、、、、、、、、機會を待つてゐるんだ！

勞働者一　それでも貴樣は、、するつもりか？

勞働者二　やるか？

勞働者三　、、、、、、、、、、、、、、、、、、？

勞働者三人（異口同音に）やるならやつて見ろ！

ザンボニ（憤然として）この、、め、憎んでもあまりある奴等だ！ファッショの一大組織に、、、、しようつたな！引けい！統率は生ぬるい、俺の獨斷で、、、、、、、、、！それも、、、、、、！

（憲兵警官達三人を引き行かんとす。この時撮影監督と二人の技師右端から現はる、監督は嗄びた聲をメガフォンで强調しながら一同へ訊れる）

監督　これも映畫の中へ這入るんですか？

ムッソリーニ（振りかへり）冗談ぢあない、こんな事を映されてたまるものか！

アントニオ博士（監督へ向ひ）お前、すると先刻からの、ムッソリーニ令夫人とのお話の方も映して居るのか？

監督　ええ。門をお出になると、もうあれでいいのだと心得たものですから、ずうつと盗み撮影に取りかかつて居りますでな。

ゼンチロ　そりあ大變だ、皆カットせにあならんぞ！　いいかお前が映していいのは、飛行機だとか、軍艦だとか、閲兵式だとか、ファッショが何十萬となく集まつて、統率閣下の熱烈な愛國的演説に氣も狂はんばかりに燃え上がつた瞬間とか、なるたけさういふ場面

的大事件――平たく云へば、景氣のいい場面、それを映すのぢや。その方も懇々と係りの者から云はれて居る筈ぢやないか？

監督　實はさう仰臼られると私の方も困る事があるんです。――他でもありませんが、その方（ピアンチを指さし）と統率閣下と、どちらがほんとの統率閣下であるやら、大映しにでもしなければ一寸失禮なお話でございますが、見分けがつかないのでございます。これは昨日も係りのお役人へよく申上げまして、なるたけ統率閣下だけはお獨りで、ほかの方々から多少お離れになつてお映しなさるようにお願ひ申したのでございます。ところが今のやうな場合でございますと、皆樣がごたごたお集まりになるもので、キヤメラ・ウアークが殊の外困難なのでございます。

ジヨワニ　いけすかない野郎だな。親方がピアンチに似てゐる、ピアンチが親方のやうな風をしてゐる――、、、、、、、、、、、、、。手前らの知つたこつちあない、下らぬことを云ふとファッショ、、、へ引渡すぞ！

監督（蒼くなつて縮み上がり）そ、そ、それは、それだけはどうぞご勘辨！　生きながらヴエスヴイアスの噴火口へ飛び込むも同然でございます！

撮影技師一　だから、貴下は口が多いといふんですよ。いくら監督だつて、まるでメガフォンのやうな口をしてゐなさるんだもの。

ムツソリーニ　ああ、かうごたごたしてはやり切れん！　皆退け！　寫眞屋、新しくやり直せ！　それから、ザンボニ、その三人は、お前の判斷に委せるとしよう――憎むべき奴等だ！

（一同それぞれの場所へ引き返へす。――活動寫眞技師と監督は右へ、ムツソリーニと幕僚達は正面奥へ）

ザンボニ（憲兵伍長へ向ひ、三人の捕虜を引渡しながら）ではしかとこの火喰鳥を渡したぞ！　醜いものがキヤメラへ這入るといけないから、そこの森の中で、、、、、、、、！　、、、、、、、、、、、俺は、南京虫が三匹潰されたものと思つて、安心するよ。（憲兵伍長、警官を殘し、手下の憲兵三人を引き連れて、勞働者三人に繩を打つたまま引つ張り行く。左へ退場。ザンボニ、見返りながらせせら笑つて警官達と退場）

間。

（ムツソリーニ正面の凱旋門より氣取つた態度で歩み出て、左手を高く差しのべ）

ムツソリーニ　アララ！　ファッショ萬歲！　イタリー王國萬歲！（右端遠方へ向つて）おーい、始め！（牡鷄の如く歩み出す）

（幕僚達四列縱隊になつて、勇ましくあとから歩み出づ。無數の罨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

音。續いて出征軍人團、ファッショ靑年團など團旗銃劍を閃めかして、武裝狀態にて進み出づ。ムッソリーニ幕僚達と共に、舞臺中央に後向きになつて片手を高く擧げながら閱兵する。百雷のやうな萬歲の聲）

ザンボニ（左端へ歩み寄り、耳へ手を當てて何かに傾聽してゐる）はて、變だな――もうそろそろ、つてもいい頃だがな。（警官の一人に向ひ）おい、お前一寸そこの森へ行つて、あの火喰鳥共を、、、、、、、、、、、、！　もし愚圖々々してゐたなら、お前が、、、、、、、苦るしくないぞ。

警官の一人　はい、かしこまりました。（去る）

（分列式尙續く。農夫六、一臺の貧弱な馬車を、よぼよぼな驢馬に曳かせながら右端より登場。驢馬群集の物音に愕いて、しきりに耳を振りながら後方へ退り、後足にて馬車の車臺を蹴る）

農夫六　何だつてお前そんなに氣が弱くなつたんだ。――ありあ、やつぱり俺達と同じやうな人間だよ。文句を云はずに進め、進め。

ジョワニ　これ、どん百姓、貴樣ここは何處だと心得てゐる？

農夫六　こゝかえ？　茲はおい等の麥畑の近くの原つぱだよ。

ジョワニ　貴樣ムッソリーニ統率閣下のそこに居らるゝのを氣がつかんか？　ファッシストの親玉樣だぞ！

農夫六　あれか、ムッソリーニどんかの？　わしは始めて拜むだが、えらい金持らしい面付きしてなさるだな。

ジョワニ　下らん事をぬかさんで、行列の濟むまで其處に待つて居れ！

警官（慌てゝ左より登場ザンボニへ向ひ）閣下、逃亡いたしました。憲兵隊と共謀の上このどさくさに紛れて逃げたのでございます！

（一同愕然とする）

ビアンチ　そりあ大變だ！　追跡しろ！　自動車は、電話は、飛行機は、電報は……？

ザンボニ　合憎と皆手許にない。今日のは徒步調練だからな！（ビアンチ農夫の馬車を見付けて乘る。烈しく驢馬を亂打すれば、驢馬反對の方へ退き行く）

農夫六　あれ、あの男もムッソリーニどんかの？　よくまあ似てゐるもんぢや！

ザンボニ　えゝ面倒だ、俺が跣足で行つて見る。

ムッソリーニ　ビアンチ、それは全く反對の方へ行くんぢやないか！

ビアンチ（腹立ち紛れに）ええツ、先生、すべての道はローマに通じますわい！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おさだの仇討（二幕四場）

岡本綺堂



登場人物

同心　貝塚藤五郎
和泉屋　伊兵衛
和泉屋の忰伊之助
京屋の番頭　文吉
石原の寅藏
寅藏の女房　おさだ
花賣　與右衛門
和泉屋の抱へ女　お駒
和泉屋の若い者　庄八
お駒の弟　徳松
手先　長次郎
ほかに寺男。湯灌場買ひ。町役人。番太郎の男。自身番の男。和泉屋の若い者。和

泉屋の抱へ女。手先。乞食。會式まゐりの男、女。町の男、女、子供など。

第一幕

(一)

江戸の末期。十月十二日の暁。

品川宿の往來。正面は旅籠屋――その時代の遊女屋――にて、出入り口には和泉屋と染めたる柿色の暖簾を垂れ、左右は千本格子、格子の外には用水桶を積んであり。ほかに床几一脚あり。家は二階作りにて、二階の欄干は往來に向ひ、內には障子が閉めてあり。遠く浪の音、題目太鼓の音きこゆ。

(店の前には和泉屋の若い者二人、ひとりは水を打ち、ひとりは箒を持つてゐる。)

若者甲。けふのお會式はどうか降らしたくねえものだな。

若者乙。夜の明けねえうちから太鼓の音が威勢よくきこえるやうだ。こゝらぢやあお會式は一年中の書き入れだから、降られちやあ形無しだ。

若者甲。まつたく降られちやあ形無しだ。(空をみる。)好い鹽梅に天氣は持直しさうだよ。

(池上の會式詣の男四五人、前に法華の萬燈をかけ、團扇太鼓を持ちて、向うより連れ出づ。)

男一。お捕物だ、お捕物だ。

男二。そば杖を食はねえうちに通りぬけてしまへ。

(一同はあとを見かへりて、わや〳〵云ひながら上の方へ急ぎ去る。)

若者甲。(向うをみる。)なるほどお捕物がこつちへ逃げ込んで來るらしいぞ。

若者乙。かゝり合にならねえやうに引込んでゐようぜ。

若者甲。さうだ、さうだ。

(若い者二人は暖簾の內に入る。向ふより石原の寅藏、三十二三歲、やじり切りのお尋ね者、旅すがたにて逃げて來るを、手先二人が追つて出づ。)

寅藏。人ちがひでござります。人違ひでござります。

手先甲。えゝ、そんな事はあとで云へ。

二人。御用だ、御用だ。

(手先は寅藏を捕へようとする。向うより八町堀同心、貝塚隆五郎、三十五六歲、十手を持ちて追つて出づ。)

隆五郎。逃すな。逃すな。(寅藏に。)神妙にしろ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（藤五郎は聲をかけながら見張つてゐる。寅藏は隙をみて逃げようとするを、手先は追ひまはす。和泉屋の若い者は暖簾のあひだより首を出して窺ふ。二階の障子をあけて、抱へ女郎お駒、ほか三四人の女が欄干に縋りながら見おろしてゐる。そのうちに、寅藏は懐中より匕首をぬき出して手先乙の胸を突けば、乙は倒れる。手先甲もつゞいて小鬢を斬られる。）

藤五郎。えゝ。手向ひするか。

（藤五郎は十手を把り直して立向へば、寅藏は必死になつて斬つてかゝる。このとき二階に見物してゐたるお駒は自分の穿いてゐる草履の片足をぬいで、上より寅藏の顔に打ちつける。それが恰も寅藏の眼に中りて、思はず立ち竦むところへ藤五郎は踏み込んでその眉間を打てば寅藏は倒れる。）

藤五郎。さあ、じたばたするな。馬鹿野郎め。

（藤五郎は寅藏をおさへ付ければ、手先甲も手傳ひて縄をかける。）

藤五郎。（甲に。）どうだ。ひどく遣られやしねえか。

手先甲。（ふところ紙で小鬢を押へながら。）なに、大したことでもありません。（とよみがへる。）こいつが胸を遣られたやうです。

藤五郎。早く手當をしてやれ。

手先甲。（店の内に聲をかける。）おい、誰かゐねえか。

（若い者甲乙出づ。）

手先甲。この怪我人を連れ込んでくれ。

（奥より若い者丙出で、甲乙と共に手先乙を介抱しながら奥へ連れ込む。二階の女等も障子をしめて内に入る。）

藤五郎。（店さきの床几に腰をかける。）どすなんぞ振り廻しやあがつて飛んでもねえ奴だ。貴様もまんざらの素人でもねえくせに、野暮な眞似をするな。一體どこの何者だ。

（寅藏は俯向いて默つてゐる。）

手先甲。さあ、素直に申上げてしまへ。

（寅藏はやはり默つてゐる。）

藤五郎。（笑ふ。）はゝ、こりやあうつかり云へねえかも知れねえ。それぢやあおれの方から教へてやる。貴様は石原の寅藏だな。

（寅藏はぎつくりする。）

藤五郎。けふは池上のお會式だから、お詣りながらぶら〳〵出て來ると、高輪の茶店に休んで草履を草鞋に穿きかへてゐる奴が、どうもお尋ね者の寅藏らしいと思つたから、聲をかければすぐに逃げる。追つて來れば刃物をふりまはす。それで人違ひもねえものだ。さあ、痛い目をしねえうちに早く云つてしまへ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寅藏。(覺悟して。)恐れ入りました。

藤五郎。むゝ。たしかに家尻切りの寅藏だな。草鞋を穿いてどこへ羽を伸さうとしたのだ。

寅藏。江戸は御詮議がきびしいので、當分は草鞋をはいて、東海道から大阪の方を廻つて來る積りでございました。

藤五郎。それを品川の出口で擧げられちやあ些と氣の毒だつたな。貴樣は今までどこに巣を食つてゐた。

寅藏。友だちの家なぞをごろ付いて居りまして、別にきまつた宿といふのもございません。

藤五郎。むゝ。それはまあ追つての詮議として……。(左右をみかへる。)内の奴等は誰もゐねえか。

手先甲。(奥に向つて呼ぶ。)おい、おい。みんな隱れてゐねえで出て來い。

(暖簾の内より若い者甲乙出づ。)

藤五郎。これ。(落ちてゐる草履を指さす。)あの草履の主はなんていふ女だ。

若者甲。はい、はい。(草履を拾つてながめる。)間ちがひの無いやうに、よく調べてまゐりませう。しばらくお待ち下さいまし。

(若い者甲は草履を持ちて奥に入る。)

手先甲。なるほど二階からあの草履を擲り付けた女がありましたね。

藤五郎。いづれこゝの家の女だらうが、氣のきいた奴だ。

寅藏。旦那方の前でこんなことを云つちやあ濟みませんが、あんな加勢が出て來なけりやあ何とか斬り拔けることも出來たんですが……。(殘念さうに二階をみあげる。)なにしろ二階からだしぬけに眼つぶしを食つたので、流石のわつしもまご付いてしまひました。

藤五郎。それがいはゆる運の盡きだ。未練らしく人を恨むな。

寅藏。まつたく運の盡きで誰を恨むこともございません。お捕物の加勢をした女に、たんと御褒美を遣つてお與んなさいまし。

手先甲。(若い者をみかへる。)なにをしてゐるのだ。まだ判らねえのか。

若者乙。はい、はい。

(若い者乙は奥へ行かうとする時、暖簾の内より若い者甲はお駒を連れて出づ。)

若者甲。どうもお待たせ申しました。

藤五郎。むゝ。その女か。前へ出ろ。

お駒。はい。(躊躇してゐる。)

手先甲。旦那があゝ仰しやるのだ。遠慮なしに出ろ、出ろ。

(お駒は進み出づ。)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

藤五郎。おまへの名は……。

お駒。駒と申します。

藤五郎。むゝ、お駒か。年は幾つだ。

お駒。十八でございます。

藤五郎。なんと黙つて、二階から草履を投げた。

お駒。(口籠りながら。)なんと云ふこともございませんが……。朋輩衆と一緒に二階からお捕物をみて居りますうちに……。(寅蔵をみかへる。)その人が刃物をぬいて、お捕方をみんな斬つたやうでございましたから、思はず知らず草履を把りまして……。飛んだ出過ぎたことを致しまして、なんとも恐れ入りましてございます。

藤五郎。いや、恐れ入ることはねえ。氣の利いた女だと褒めてゐたのだ。捕方に加勢して首尾よく罪人を取押へたものにはお褒めがある。その働き方に因ては御褒美を下さることにもなつてゐる。ましてお前は男でない、勤め奉公の女の身で、御用の加勢をしたといふのは奇特のことだ。

若者乙。では、お駒さんにお叱りはございませんか。

藤五郎。叱るどころか、この事を上へ申立てたら、奉行所へお呼び出しの上で御褒美を下さるかも知れねえ。なにしろ奇特の女だ。よく働いてやれと主人にも云ひ聞かせろ。

若者。はい、はい。(二人は頭を下げる。)

寅蔵。(お駒に。)おい、姐さん。お駒さん。おれは決しておめえを恨んぢやあゐねえ。おめえは全く感心な女だ。お上に對して忠義者だ。たんと御褒美を貰つて下さいよ。今も旦那にお願ひ申して置いたぜ。(お駒を睨む。)

藤五郎。なぜ忌な眼をして睨むのだ。それがやつぱり未練といふものだぞ。貴様も江戸ッ子ぢやあねえか。さあ、男らしく立て、立て。

寅蔵。わつしも石原の寅蔵でございます。決して未練は申しません。

手先甲。未練がなければ早く行け。

寅蔵。えゝ、まゐります、まゐります。(起ちあがる。)

藤五郎。(若い者に。)朝つぱらから店さきの邪魔をしたな。如才もあるめえが、浄めてくれ。

手先甲。すぐに又出直して來るから、怪我人をもう少し頼むよ。

(藤五郎は先に立ち、手先甲は寅蔵の繩を取つて向うへ引立てゝゆく。暖簾の内より和泉屋の亭主伊兵衛出づ。あとより若い者兩人は盆に茶をのせて出づ。)

伊兵衛。まだ御挨拶に出ないうちに、旦那方はもうお引揚げになつたのか。

若者甲。たつた今お引揚げになりました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

伊兵衛。怪我人をあゝして置いてはいけない。早くお醫者を呼んで來い。

若者乙。はい、はい。(上の方へかけてゆく。)

お駒。(すゝみ寄る。)旦那。

伊兵衛。なんだ。

お駒。わたしは惡いことをしたのぢやありませんかねえ。

伊兵衛。なに、惡いことがあるものか。お上に對して立派に御奉公を勤めたのだ。あんな奴等はお召捕りにさせるのが天下の爲だ。

お駒。わたしが草履をぶつけなければ、あの人は無事に逃げられたのかも知れませんねえ。

伊兵衛。それだからお前の手柄だといふのだ。おまへのお蔭で、おれも世間に鼻が高い。又それが評判になつて、おまへも屹と賣れつ子になるだらう。まあ、なんにしても目出度いことだ。

若者甲。まつたくお駒さんは大手柄でございました。

伊兵衛。しかし、縄附きの出たあとだ。よく淨めて置け。

若者丙。はい、はい。

(若い者は店さきに鹽花をまく。向ふより會式詣の一群は大萬燈を先に押立て、男女打ちまじりて團扇太鼓を賑やかに叩き立てながら、上のかたへ行き過ぎる。)

伊兵衛。はゝ、威勢よく飛出して來る。けふのお會式に大當りだな。

(伊兵衛は笑ひながら内に入る。お駒はまだ氣の濟まないやうな顔をして續いて入る。舞臺暗轉。)

(二)

本所、仲の郷。法恩寺門前の花屋。上のかたに黒塗りの寺の門あり。それにつゞいて竹緣附の小さき家。正面の上のかたに古びたる佛壇、その下は押入れにて、佛壇には新しき白木の位牌をかざり、燈明や線香などを供へてあり。奥へ出入りの古障子、破れたる屛風。よきところに爐を切つてあり。緣さきには樒を入れし桶や線香をならべてあり。下のかたは古き卒塔婆をゆひ込みし丸太の生垣にて、垣のうちは墓場と知るべく、生垣を隔てゝ石塔や卒塔婆などみゆ。垣の前には井戸、こゝにも樒を入れたる手桶をならべ、井戸のそばには芽出し柳の立木あり。寺の内にて木魚の音さびしくきこゆ。

(第一場の翌年、三月はじめの夕暮、湯灌場買ひ市助は秤と鐵砲笊を持ち、緣に腰をかけて烟草をのんでゐる。やがて寺の門内より花屋與右衛門が先に立ち、あとよりおさたは廿五六歳のむすび髪、ほかに乞食のやうな男二人出づ。男のひとり

は差荷ひの棒を持つ。）

與右衞。やれ、やれ、これで安心した。

おさだ。（男どもに。）どうも色々ありがたうございました。（紙につゝみし銀を出す。）ほんの少しですけれど、これでまあ一杯飲んでください。

男一。これは有難うございます。（男二に。）おめえもお禮をいへよ。

男二。姐さん、どうも有難うございました。

與右衞。皆さんも御苦勞でした。（聲をひくめる。）云ふまでもないが、この事はどうぞ内分にな。

男一。そりや如才なく呑み込んでゐますよ。

（男二人は挨拶して下のかたへ去る。）

市助。お弔ひはもう濟みましたかえ。

與右衞。おゝ、市助さん。さつきから來てゐなすつたのか。

市助。なんだか差荷ひの投げ込み……。（云ひかけておさだに會釋する。）いや、日が暮れかゝつてお弔ひがあるらしいのを遠目に見たから、何か商賣はないかと思つて、すぐにあとを追つかけて來ましたのさ。

おさだ。おまへさんは……。

與右衞。これは湯灌場買ひの市助さんと云つて、わたしとは久しいおなじみだ。（市助に。）あの早桶には新しい浴衣がかけてあるから、早く行つて和尚さんに相談するがいゝよ。

市助。ところが、あの穴ほりめ。欲張つてばかりゐるので、なか〳〵相談がむづかしい。まあ、なにしろ行つてみませう。

（市助は門内に入る。）

おさだ。あの人も拔け目がないね。

與右衞。人間は好い人だが、商賣にかけちやあ拔け目がない。（云ひかけて。）時におまへさんは寒くないかえ。

おさだ。今までは暑いか寒いか知らなかつたが、落付いてみると急に薄ら寒くなつて來たやうですよ。もう三月で、土手の櫻もそろ〳〵吹き出すといふのに、今年はどうも陽氣が惡いやうですね。

與右衞。取分け今日は陰つてゐるので、日が暮れかゝると猶さら薄ら寒い。ちつと圍爐裏の火でも焚くとしませうか。いや、それよりも燈火をつけなければならない。

（與右衞門は障子をあけて奥に入る。おさだも縁にあがり、佛壇に線香をそなへて拜んでゐる。やがて奥より與右衞門は煤けたる行燈をとぼして出で、おさだが一心に拜んでゐるのを見て、ほろりとしながら無言で爐の前にゆき、粗朶を折り焚べてゐる。蛙の聲きこゆ。おさだは拜み終りて、爐のそば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に來る。)
おさだ。あゝ、もう日が暮れてしまつたねえ。をぢさん。(摺寄る。)
與右衞。なんだね。
おさだ。今夜はさびしうございますねえ。
與右衞。どうでこゝらの寺門前だから、夜はいつも寂しいにきまつてゐるが、わたしも今夜は一倍さびしいやうだ。併しおさださん。おまへさんのおかげで寅藏めのお仕置骸を引き取つて來て、このお寺の隅に埋めて貰ふことが出來たので、わたしはどんなに嬉しいか知れませんよ。
おさだ。去年の十月品川でお召捕りになつてから、どうで寅さんの命はないものと、疾うから諦めてゐたものゝ、先月いよ〳〵お仕置がきまつて、引きまはしの上獄門と聞いたときには、あたしも今更のやうに戀しくなりましたよ。(眼をふく)
與右衞。(聲をうるませる)あんな厄難者はさうなるのが當り前だと、あきらめて見てもやつぱり涙の出るのが叔父甥の人情だ。ましてお前さんの身になつたら悲しいのも無理はない。それにしてもお前さんがしつかりしてゐるので、仕置場の番人に渡りをつけて、小塚ッ原からこつそりと死骸を引き取つて來てくれたので、あいつの死骸は野良犬の餌食にもならず、たとひ投げ込み同樣でも人間並の弔ひが出來たといふものだ。
おさだ。なにが仕合せになるか判らないもので、おまへさんがこゝの花屋をしてゐるので、お寺の和尙さんにおねがひ申して、墓場のあき地へ内證で埋めて貰つたのですが、叔父さんが傍に附いてゐてお呉んなされば、お線香やお花の絶える心配も無し、寅さんもどんなに喜んでゐるか知れません。これもやつぱり叔父甥の緣が深いんでせうね。生きてゐるうちに散々御苦勞をかけて、死んだあとで御面倒をかけちやあ、あんまり義理が惡いやうですけれど……。ねえ、叔父さん。寅さんに代つてあたしが幾重にもお願ひ申しますから、お墓のまはりに草が生えないやうにどうぞ氣をつけて下さいよ。(しみじみ云ふ)
與右衞。生きてゐるうちは世間に迷惑をかけ、親身の叔父にも苦勞をかける、憎い奴だと思つてゐたが、お仕置をうけて死んでしまへば、あいつの罪は消えたも同然だ。おまへさんに頼まれないでも、わたしに取つても唯つた一人の甥だから、朝に晩に香花をそなへて、乾と後生を願つてやります。それは心配しなさらないがいい。
おさだ。何分おねがひ申します。
(おさだは眼をふいてゐる。門内より市助が鐵砲笊に浴衣を入れて出づ。あとより穴ほりの寺男瓜太が鍬を持つて追つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出づ。）

重太。やい、やい。この泥坊め、生け太てえ奴だ。

市助。なにが泥棒だ。人聞きの悪いことをいふな。

（重太は旅のなかより新しい浴衣をひき出して、市助に突きつける。）

重太。これ、見ろ、この新しい浴衣を唯つた六十四文とは何のことだ。いくら湯灌場買ひでも、賣りもの買物には相場があるものだ。唯同樣に人の物をかつ攫つて行く奴は泥棒に違げえねえぞ。

市助。世間の相場で物を買ふくらゐなら、誰が湯灌場なんぞへ商賣に來るものか。貴樣こそ死人の上前を取りやあがつて、泥棒よりも悪いぞ。

重太。え丶、貴樣こそ泥棒だ。それが口惜しけりやあ、もう三百出せ。

市助。べらぼうめ、だれが三百出す奴があるものか。さあ、おれの買ひ物をこつちへよこせ。（浴衣をひつたくる。）

重太。まだ賣りやあしねえぞ。

（市助は浴衣を持つて行かうとするを、重太は渡すまいと爭ひ、たがひに引き合ふうちに浴衣の袖は千切れて、ふたりはそれを摑みしま丶にて倒れる。）

おさだ。仕樣がないねえ。（縁を降りる。）もし、お前さん達も隨分欲張つてゐるぢやあないか。もう好い加減におしなさいよ。

重太。姐さんはまだこ丶にゐたすつたのか。お施主の見てゐる前でこんな喧嘩をしちやあ、ちつと極まりが悪いが、この野郎があんまり人を踏み付けにしやあがるから、つい腹も立つたのさ。

市助。今までは斯うでもなかつたが、こいつ此頃は死に欲がはいて來やあがつた。

重太。そりやこつちで云ふことだ。

（ふたりは又詰めよるを、おさだは隔てる。）

おさだ。まあ、い丶と云ふのに……。こんなところを見られると、あたしはこの着物を人に渡すのが何だか忌になつて來た。

二人。え。

おさだ。と云つて、おまへさん達に損をさせちやあお氣の毒だから、これはあたしが買ひ戻しますよ。

（おさだは一朱銀を二つ出して、重太と市助に分けて遣る。）

重太。お前さんにはさつきも貰つて又貰つちやあ、あんまり氣の毒だな。

市助。わたしも一朱といふ金を、唯貰つちやあ何だか氣が濟まないやうだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おさだ。なんでもいゝから、それで確かに預れて下さい。その代りに、これはあたしが受取りますよ。（浴衣をかゝへる。）

重太。それぢやあ遠慮なしに貰つて置くかな。どうもたび〳〵有難うございました。

（重太は極まり悪さうに、門内へ早々に立去る。）

市助。（銀をながめながら。）それぢやあわたしも貰ひませうか。おかげさまで一日の立ち前になりました。與右衛門さん、おまへさんからもよくお禮を云つてください。

與右衛門。はい、はい。なんだかお天道樣がをかしくなつたやうだ。降らないうちに早く歸りなさい。

市助。皆さん、御免なさい。

（市助は下のかたへ立去る。時の鐘きこゆ。蛙の聲。おさだは袖のちぎれたる浴衣をかゝへて縁に腰をかける。與右衛門も墓の前を離れて出る。）

與右衛門。あの人たちに一朱づつは多過ぎる。ふたりのあたまへ一朱で澤山だつた。

おさだ。それもみんな佛への御供養だと思へばいゝんですよ。

與右衛門。小塚ッ原の番人へ渡りを付け、それから弔ひや何や彼やで、隨分の金を使つたらうが、お前さんはどうしてそれを工面したのだ。

おさだ。爺さんの一周忌が濟むまでは、どうすることも出來ません、から、今日までは賣り喰ひ、ちつとばかり殘つてゐた店の物や着るものを一纏めにして拂つてしまつて、どうにか斯うにか無事にお弔ひも出來ましたのさ。

與右衛門。（ため息をつく。）それぢやあもう何んにもないのか。

おさだ。お恥かしいが着たきり雀で……。（さびしく笑ふ。）からたると、女はいくぢがありませんねえ。

與右衛門。（眼をしばたゝいて。）それほどまでに寅の奴めを思つてくれたのか。

おさだ。叔父さんの前ですけれど、これが因縁とでも云ふのでせうよ。

與右衛門。押借り騙りから家尻切りと、悪事をかさねた人間に、不憫を加へるのはこの叔父ひとりかと思つてゐたら、おまへさんのやうな立派な娘さんがそれほどまでに……。あいつもよく〳〵の仕合せ者だ。

おさだ。なにが仕合せなもんですか。おたがひに因果同士が寄合つたのでせうよ。

與右衛門。さうして、お前さんはこれからどうする積りだね。身の振方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の付くまでは、こんな穢い家でよければ、いつまでも泊つてゐなさいよ。

おさだ。御親切はありがたうございますが、寅さんの形が付いてしまつたら、これから又、次の仕事に取りかゝらなければなりませんから、もうすぐにお暇にしませう。(云ひながら浴衣をみる。)早桶の上へ着せて來たものは穴掘りの儲け物で、どうで湯灌場買ひの手に渡るとは知つてゐながら、眼のまへで賣り買ひをされると、あんまり心持がよくないから、一朱づつ遣つて引取つたが、こんなものを抱へてゐても仕様がない。いつそ思ひの殘らないやうに、こゝで燒いてしまひませうかねえ。

與右衛。燒いてしまふのも無駄なやうだが。お前さんがさう思ふなら、それも好からう。(爐をみかへる。)こゝで燒くかね。

おさだ。家のなかぢやあ何だから、表で燒くことにしようぢやありませんか。

(おさだは緣にあがり、與右衛門に手傳ひて、粗朶の火を店さきに持ち出して積む。蛙の聲。)

與右衛。陽氣が悪いの、寒いのと云つても、やつぱり時節は爭はれない。どこかで蛙が鳴いてゐるやうだ。

おさだ。去年向島へお花見に行つた歸りに、寅さんと一緒にこゝの家へ寄つたことがありましたが、その時にも蛙がさう〲しく鳴いてゐましたねえ。

與右衛。むゝ。あんまり騒々しくつて話が出來ねえと云つて、寅の奴め、むやみに怒りやあがつたつけ。あいつも我儘な奴だつたな。お前さんにもさぞ我儘を云ひましたらうね。

おさだ。あたしの方でも隨分我儘を云ひましたよ。(ほろりとして。)さあ、叔父さん。(ちぎれたる片袖を出す。)

與右衛。わたしがこれを燒くのか。あい、あい。

(與右衛門は浴衣の片袖を焚火に入れる。その燃える煙を二人はぢつと眺めてゐる。薄く雨の音、蛙の聲。)

おさだ。この浴衣は去年の夏あの人にこしらへて遣つて、どうしてか一度も手を通さなかつたんですよ。やつぱりこんな事になる知らせだつたのかも知れませんね。

與右衛。さうかも知れないな。

(おさだは抱へてゐる浴衣を火に入れる。浴衣は燃えあがる)

おさだ。なんだかお迎ひ火でも焚いてゐるやうですねえ。

與右衛。まつたくお盆でも來たやうだ。(口のうちで)なむ阿彌陀佛。

(ふたりは思はず手をあはせて、その煙を拜む)

おさだ。あゝ。どう考へてもさびしいねえ。(再び緣に腰をかける)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（與右衞門に井戸端より手桶を持ち來りて、柄杓の水を焚火にかける）

與右衞。これぢやあいよ〱お迎ひ火だ。

おさだ。（たち上る）叔父さん。あたしはもう歸りますよ。

與右衞。もう歸るかえ。（空をみる）たうとうぽつ〱降つて來たやうだ。番傘でも貸してあげよう。（椽にあがる）

おさだ。なに、ようござんすよ。こんな着物を着てゐるんだから、うつとぐらゐ濡れたつて構ふもんですか。

（おさだは身仕度し、頬かむりをする心にて手拭を出す。）

與右衞。わたしはさつきから考へてゐるのだが……。お前さんはこれから次の仕事に取りかゝると云つたが、一體これから何をする積りだね。

おさだ。亭主を見送つてしまつたら、これから尼にでもなる筈でせうが、あたしのやうな者にはそんな悟りも開けませんからねえ。（笑ふ）

與右衞。さうだ、さうだ。今の若さに尼なんぞになるのは止めた方がいゝよ。

おさだ。（思案して）なんにも云ふまいと思つてゐたんですけれど……。叔父さんがそんなに心配して下さるなら……。いつそお前さんだけには……。

與右衞。云つて差支へのないことなら、どうぞ聞かせて貰ひたいな。

おさだ。かならず他言は御無用ですよ。

（おさだは摺寄つて與右衞門の耳にさゝやけば、與右衞門はびつくりする。それを突き退けるやうに、おさだは衝と起ちあがる）

おさだ。さよなら。

（云ひ捨てゝ下のかたへ足早に立去らうとするを、與右衞門はあわてゝ追ひかけて引き戻す。）

與右衞。まあ、待つてくれ、待つてくれ。

おさだ。話はもうそれぎりですよ。

與右衞。いや、その話がいけないのだ。まあ、ちよいと戻つてくれ。（無理におさだを引き戻して來る。）お前、そんな心得違ひをしてはならない。亭主があゝなつたのは自業自得だ。決して人を恨んではならない。第一おまへの爲にもならない。そればかりはわたしが頼むから、どうぞ止めてくれ、やめて呉れ。

おさだ。大方そんなことだらうと思ひながら、ついおしやべりをしてしまつて、悪いことをしたねえ。叔父さん、まあなんにも聞かない積りで歸してくださいよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

與右衛。ほかの事とは譯が違つて、一旦聞いた以上はどうして聞き流しになるものか。これ、今もいふ通り、寅があゝなつたのは自分の心柄で、人を恨むのは間違つてゐる。まして其の仕返しをしようなぞと云ふのは、世のことわざにもいふ外道の逆恨みだ。

おさだ。逆恨みでも何でもかまはない。あたしはから鬼になつたんですよ。

（おさだは突き退けて行かうとするを、與右衛門は又ひき戻す。おさだはじれて與右衛門を突き倒し、手拭をかぶりて向うへ走り去る。與右衛門は倒れながらにあとを見送る。遠く雨の音、蛙の聲。）

—幕—

第二幕

（一）

第一幕第二幕とおなじ年、十月の夜。

品川、和泉屋の二階、お駒の部屋。平舞臺にて、正面の上のかたに床の間。それにつゞいて夜具戸棚、その下にはきめ込みの簞笥、茶簞笥などあるべし。よきところに長火鉢を据ゑ、衣桁にはぬぎ捨ての部屋着がかけてあり。屛風の外に行燈あり。屛風をたて廻して、そのなかには鏡臺あり。上のかたは襖にて仕切り、隣には他の部屋のあるこゝろにて、前づらの障子には灯の影が映つてゐる。下のかたはお駒の部屋の入口にて破骨の障子を閉め、障子の外は廊下にて、火の用心と記せる掛行燈あり。下の方に階子のあがり口あり、かすめて騒ぎ唄きこゆ。

（お駒の客文吉、芝の糸屋の番頭、四十歳ぐらゐ。髮まき羽織にて長火鉢の前に坐り、長煙管で煙草をのんでゐる。廊下傳ひに若い者庄八は油さしを持ちて出づ。）

庄八。御免ください。（障子をあける。）お油をさしに參りました。（行燈に油をさしてゐる。）

文吉。庄どん。今夜はあんまり賑かでないやうだね。

庄八。どういふものか、今夜はさびしうございます。なにしろ賣れつ子のお駒さんに名代がないくらゐですからね。

文吉。わたしも隨分足を近く通つて來るが、お駒に延しの無いといふのはめづらしいことだ。

庄八。かういふ晩はまつたく珍らしうございますよ。（屛風の方をみて、）そこで、お駒さんは……。

文吉。よく寢てゐるやうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

庄八。おまへさんがあんまり飲ませたからぢやありませんか。

文吉。お駒は酒が弱いね。

庄八。おとなしい人をつかまへて、無理に醉はせちやあいけませんよ。(笑ひながら。)まあ、おやすみなさい。

文吉。いや、もうそろ〳〵歸り仕度だつ(笑ふ。)お店者は辛いよ。

庄八。お察し申します。

文吉。酒がさめたら何だか薄ら寒くなつて來た。やがてもう九つだらうな。(起つて廊下へ出る。)

庄八。お手水でございますか。

文吉。むゝ。

(文吉は便所へゆく心にて階子を降りてゆく。庄八も廊下づたひに去る。時の鐘。ほかの座敷の端唄の聲きこゆ。)

唄へよるの雨、もしや來るかと蛇の目傘、紙でかへるの呪ひも、虫が知らせて、ともしびの、丁子も飛んだ今時分、氣まぐれさんすか、ぬしの聲。

(この唄のあひだに、廊下づたひにおさだが忍び出づ。おさだはこゝの店の内證者の風俗。お駒の部屋をうかゞひて忍び入り、行燈をかた寄せて屏風のうちを覗き、衣桁にかけたるお駒のしごきを取りて屏風のうちに入る。やがて文吉は階子をあかりで部屋の入口に來る。おさだは障子より出て、文吉と顔を見合せてはつとする。)

文吉。おゝ、おさだか。

(おさだは顔をそむけて默つてゐる。)

文吉。わたしはもう歸るから、下へ行つて駕籠を呼ぶやうに頼んで呉れないか。

おさだ。はい、はい。

文吉。もうすぐに仕度をするから、お駒も起してくれ。

(おさだは度胸を据ゑて進みよる。)

おさだ。歸るにしても、まあ上り花の一杯も飲んでおいでなさいよ。お駒さんは今起しますからさ。

(おさだは文吉を長火鉢の前に坐らせ、茶をいれる仕度をする。)

おさだ。今夜は大層急ぐんですね。

文吉。今夜はいつもより少し遲くなつたのだ。もう九つだらう。

おさだ。九つでも八つでもいゝぢやありませんか。お前さんに少し話したいことがあるんですよ。(茶をついで出す。)ちつと温いかも知れませんよ。

(文吉は茶をのむ。おさだは起つて部屋の外をうかゞひ、又

引返して來る。

おさだ。ねえ、お前さんはあたしのやうな者をつかまへて、ふだんから何の彼のと冗談をお云ひなさるが、ありやあ本氣ですかえ。

文吉。(笑ひながら。)本氣だよ。

おさだ。からかふのぢやありませんか。

文吉。なんでお前にからかふものか。

おさだ。だつて、お前さんはそこにお駒さんといふ可愛い人があるぢやありませんか。

文吉。お駒はこんな稼業をしてゐる女のやうでもない、野暮堅いので面白くないよ。

おさだ。うまくお云ひなさるなよ。(そこにある長烟管をふりあげる。)それだからお前さんは憎らしい。

文吉。いや、本當だ。おまへも知つてゐる通り、あのお駒は去年の十月、石原の寅藏といふ家尻切りがこゝの店の前でお捕物になつたときに、二階から草履を叩きつけて、その寅藏に眼つぶしを食はせたといふので、お奉行所へお呼び出しになつて、青緡二貫文とかの御褒美を頂戴したことがある。

おさだ。(うなづく。)お奉行所から御褒美を頂いたのが大層な評判になつて、宿場の女にはめづらしいといふので、よるも晝もお客の絶え間がなく、年は若くつてもこゝの店では、二枚目より下にはさがらない賣れつ子になつてしまつたんですよ。お前さんもそれで斯うして通つて來るんでせう。

文吉。わたしもお駒の評判を聞いて、話の種にと一度遊びに來たのが病みつきで、この春頃から隨分通つて來たのだが、なんだか野暮堅いところがあつて、長く附き合つてゐるとだん〱に面白味が薄くなる。そこへお前のやうな粋な年増が……。まつたくお前のやうな女をこんな宿場の内證者なんぞにして置くのは、掃き溜めに鶴といふものだ。

おさだ。およしなさいよ。又からかふのは……。

文吉。おまへも疑ひ深い。からかふのでは無いといふのに……。

おさだ。乾度ですか。

文吉。あゝ、乾度だよ。

おさだ。ぢやあ、おまへさん。

(おさだは文吉の手を把つて、屏風の外へ連れて來る。)

おさだ。あたしのやうな者にどんなお見どころがあるのか知りませんが、お前さんは乾とこのお駒さんを振捨てゝ、あたしを可愛がつてくれるんですね。

文吉。かうなればお駒なんぞはどうでもいゝ。きつとお前を可愛がる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よ。併しそんなにわたしの方ばかりに念押して、おまへの方は大丈夫かえ。

おさだ。大丈夫か大丈夫でないか。さあ、確な證據をみせますよ。

（おさだは文吉の手を引いて、屏風のなかを覗かせると、文吉はあつとおどろいて逃げかゝるを、おさだは押へる。）

おさだ。おまへさん。逃げちやあいけませんよ。

文吉。（ふるへながら。）こ、これはどうしたのだ。

おさだ。見れば判るぢやありませんか。

文吉。おまへが殺したのか。

おさだ。（落ちついて。）はい。あたしがお駒さんを殺しましたよ。

文吉。（いよ〳〵顫へる。）な、なんでそんな怖ろしいことをしたのだ。

おさだ。お前さんのせゐですよ。

文吉。え。

おさだ。お駒さんはこの店でも評判の賣れつ子、あたしはしがない内藝者の身分で、どう張合つたところで勝てる筈は無し、そんなことが御内所に知れゝば、あたしは逐ひ出されるに決まつてゐますから、いつそ一と思ひにお駒さんを殺して、おまへさんをあたしの物にしようと思ひつめたんです。（泣く。）定めて怖ろしい奴だとびつくりしたでせうが、もう斯うなつたら仕方がない。飛んだ者にみこまれたと諦めて、おまへさんもあたしの味方になつて下さい。

（文吉は顫へながら黙つてゐる。）

おさだ。いやですか。（屹と睨む。）それならあたしを引摺つて行つて、和泉屋のおさだは人殺しをしましたと、代官所へでも何でも訴へてください。さあ、どこへでも連れて行つて下さいよ。

（おさだは身を摺りつける。文吉はやはり黙つてゐる。）

おさだ。その代り、覺悟しておいでなさい。お前さんが何と云はうとも、あたしの口一つで屹とおまへさんを道連れにして行きますよ。

文吉。途方もない。な、なんでわたしが……。

おさだ。いゝえ、いゝえ、あたしの云ひ取り次第で、屹とおまへさんを同類にしてみせます。それを覺悟なら、さあ、お訴へなさい。どこへでも連れておいでなさい。

（おさだは文吉の手を取りて引立てようとすれば、文吉は途方に暮れる。）

文吉。まあ、待つてくれ、待つてくれ。

おさだ。それぢやああたしの味方になつて、今夜のことを隠してくれますか。

文吉。（ため息をついて。）隠し負せるだらうか。

おさだ。別にむづかしい事はない。おまへさんが手水場へ行つてゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

留守に、だれかゞ忍んで來て絞め殺したと云へばいゝぢやありませんか。あたしが前から趣向して、二階の櫺子窓を毀して置きましたから、そこから誰かゞ忍び込んで來たと思ふに違ありませんよ。

文吉。(不安らしく。)それで濟むだらうか。

おさだ。濟むも濟まないもお前さんの口次第でさあね。あたしが出て行つたあとで、おまへさんが大きな聲で人を呼ぶんですよ。さうして、自分の留守のあひだに、お駒さんが絞め殺されてゐたと本當らしく云ふんですよ。誰だつて眞逆にお前さんが殺したと思ふ者はありますまい。ましてあたしが殺したと氣のつく者はありませんよ。

文吉。さうだらうか。

おさだ。あたしは不斷から人一倍にお駒さんと仲好くしてゐたんですから、猶さら疑ふ者はない筈です。細工は流々、まあ度胸を据ゑて遣つて御覽なさいよ。ようござんすか。

文吉。(絶對絶命で)むゝ。

おさだ。しつかり頼みますよ。そこで少し待つてください。

(おさだは部屋の簞笥のひきだしを明けて、服紗につゝみし草履を出す)

おさだ。御免なさい。これは去年の十月、お駒さんが二階から抛り付けた草履で、それがためにお奉行所から御褒美を頂戴したといふので、かうして大切に服紗につゝんで、お寶物のやうに仕舞つてあるのを、あたしも一度見せて貰つたことがあります。女のくせに、よせばいゝのに、これを泥坊の顏へ叩きつけて……。(行燈の火で草履をぢつと見る)その泥坊も定めてお駒さんを恨んでゐたでせうねえ。

文吉。(氣のないやうに)さうかも知れないな。

(おさだは草履を持ちて屛風のうちに入る。文吉は唯ぼんやりとしてゐたるが、やがて少しく驚いたやうに屛風のうちに耳をかたむけて、そつと覗かうとする時、おさだ出づ。)

文吉。おまへは屛風のなかで何をしてゐたのだ。

おさだ。なんにもしてゐやあしませんよ。

文吉。その草履でお駒をぶつてゐたやうだぜ。

おさだ。これであたしがお駒さんをぶつて……。(笑ふ)とんだ鏡山のお茶番ですね。なんであたしがそんな馬鹿な事をするもんですか。お駒さんにまだ息があるか何うだか、もう一度たしかに見とゞけて來ただけですよ。

文吉。もうどうしても生きないかね。

おさだ。おまへさんは生かしたいのかえ。それだから不人情だと云ふんですよ。(拗ねる。)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文吉。いや、さういふわけでも無いが……。

おさだ。さうでなければ默つておいでなさいよ。

（おさだは草履を服紗につゝみて、もとの通りに簞笥に入れる。）

おさだ。おやあ、あたしはもう行きますからね。後生だから早く追つてくださいよ。

文吉。（よんどころなく。）むゝ。

おさだ。下手なことをすると、暗いところへ一緒に連れて行きますよ。

（おさだは瞞すやうに念を押して、部屋の外へ出ようとする時、廊下の方にて時まはりの拍子木の音きこゆ。）

男の聲。時ですよう。

（おさだはそれに驚いて内へ引返し、入口の障子をぴつしやりと閉める。これにて幕を下ろし、すぐに再び幕をあける。）

（二）

高輪の自身番。上のかたには杉戸の出入り口あり。下のかたは壁にて、その前に爐を切り、太いなる茶釜がかけてあり。家臺の前は一段低き板の間になつてゐる。下のかたは臺所のこゝろにて、表通りの障子二枚しめてあり。上のかたには半鐘をかけたる火の見梯子あり。

（前の場の翌朝。八丁堀同心見習藤五郎は黒の羽織、着流し、下のかたに町役人が羽織袴にて坐り、爐のそばには自身番の定番と下番の男が控へてゐる。板の間の上のかたには和泉屋の番頭文吉、下のかたには和泉屋の亭主伊兵衛が控へてゐる。そのそばには番太郎の男が控へてゐる。浪の音遠くきこゆ。）

藤五郎。おい、番太。店先にほこりが立つてならねえ。少し水でも撒け。

番太郎。はい、はい。

（番太郎は手桶にて水をまく。）

藤五郎。和泉屋の亭主伊兵衛は其方だな。

伊兵衛。左樣でございます。

藤五郎。あらためて云ひ聞かせるまでもないが、品川は郡代の支配で、町方の係りぢやあねえ。しかし事件が事件だから、町方も立會つて詮議をする。殊に和泉屋のお駒にはおれも縁があるから、取りあへず詮議に出て來たのだ。

伊兵衛。お役目御苦勞に存じます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

藤五郎。芝源助町の糸屋の番頭文吉は其方か。

文吉。(恐る〱答へる。)左様でございます。

藤五郎。年は幾つだ。

文吉。四十一歳でございます。

藤五郎。こゝでこれから吟味をする。上役人の前で些とでも嘘いつはりを申立てちやあならねえぞ。(懐中より十手を取出す。)これ、文吉。和泉屋のお駒がゆうべ何者にか絞め殺された。その晩の客はお前だな。

文吉。はい。

藤五郎。(伊兵衛に。)ゆうべの客は文吉ひとりで、ほかに名代は無かつたのだな。

伊兵衛。お駒は手前の店の賣れつ子で、毎晩大抵二三人のお客があるのでございますが、ゆうべは珍らしく、このお方おひとりでございました。

藤五郎。文吉の申立てでは、用足しに下へ降りて歸つてみると、その留守のあひだにお駒は死んでゐたといふことだが、それに相違ないな。

文吉。(一生懸命に。)それに相違ございません。

藤五郎。屹とさうか。

文吉。はい。

藤五郎。(十手を膝に突き立てゝ嚇すやうに。)屹とさうかよ。

文吉。(どもりながら。)は、はい。

藤五郎。よく考へ直してみろ。嘘をつくと承知しねえぞ。分別盛りの年をしながら、女郎買ひをするやうな奴だから、なにを仕出來すか判つたものぢやねえ。貴様はお駒にふられたか、それとも何かのやきもち喧嘩で、腹立ちまぎれに女を絞め殺したのだらう。さあ、隱さずに申立てろ。

文吉。恐れながらそれはお見込み違ひで、わたくしは決してそんな覺えはございません。

藤五郎。亭主、どうだ。お駒はこいつが殺したとは思はねえか。

伊兵衛。(迷惑さうに。)さあ、それはどうでございませうか。わたくしにも一向わかり兼ねます。

藤五郎。長次郎はどうした。まだ何か調べてゐるのか。和泉屋へ行つて呼んで來てくれ。

町役人。はい、はい。(番太郎をみかへる。)それ、早く行つて來い。

番太郎。はい、はい。

(番太郎は下のかたへ行かうとする時、下のかたより手先長次郎はおさだと庄八を引立てゝ出づ。あとより男、女、子供

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(たゞこの八人附いて來る。)

長次郎。ええ、見るものぢゃねえ。行け、行け。(男女等を追ひ拂ひて。)どうも遅くなりました。(二人をみかへる。)さあ、下にゐろ。

(おさだと庄八は板の間に坐る。)

藤五郎。今おまへを呼びに遣らうと思つてゐたところだ。何か手がかりは付いたか。

長次郎。この女は和泉屋の内藝者で、おさだといふ者でございます。男は油さしの庄八といふ者で……。

藤五郎。その二人に迂闊なことでもあるのか。

長次郎。おさだはふだんからお駒と仲よくしてゐたさうですから、ちつと取調べてみたいと思ひます。庄八はお駒の殺される少し前に、その部屋へ油さしに行つたさうですから、これも調べて置かなければなりません。

藤五郎。さうか、これ、おさだ。顔をあげろ。

おさだ。はい。

藤五郎。おまへはいつ頃から和泉屋に奉公してゐる。

おさだ。この六月大王様のお祭の時からでございます。

藤五郎。それまではどこにゐた。

おさだ。神奈川の方に居りました。

藤五郎。何歳だ。

おさだ。廿六でございます。

藤五郎。亭主はあるか。

おさだ。ひとり身でございます。

長次郎。年増ざかりで女は好し、まして商賣が商賣だらうで無事に暮してゐる筈はあるめえ。表向きの亭主はなくつても、何か係り合の男はあるだらうな。

おさだ。いえ、こんな稼業は致して居りますが、わたくしに限つてそんな浮いたことの無いのは、御主人もよく御存じでございます。

藤五郎。(笑ひながら)まあ、いゝや。おれたちの前で、わたくしには可愛いゝ色男がございますとも云はれめえから、それはまあそれとして、おさだ。お前はお駒と仲好しだつたといふが、今度の一件について何か思ひ當ることはねえか。

おさだ。それがなんにもないのでございます。わたくしはまるで夢のやうで……。(泣く)あんなおとなしいお駒さんが人の恨みを受ける筈は無し、なにが何やらさつぱり判りません。

藤五郎。庄八。お前がお駒の部屋へ油さしに行つたときには、お駒は無事でゐたのか。

庄八。さあ、それはわかりません。わたくしは唯そこにゐる文吉さん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と一言二言お話をして出ましたばかりでございます。

藤五郎。文吉は起きてゐたのか。

庄八。火鉢のまへで煙草を呑んでゐまして、お駒さんは酔つて寝てゐるといふやうなお話でございました。

長次郎。文吉だけが起きてゐて、お駒は屏風のなかに寝てゐたといふのだな。

庄八。左様でございます。

(藤五郎と長次郎は顔をみあはせる。)

藤五郎。(文吉を頤にて指す。)よく調べてみろ。

長次郎。おい、文吉。庄八の云ふ通りか。

文吉。お駒は少し酒をのみ過ぎまして、正體もなく寝入つて居りました。わたくしはもうそろ／＼帰り仕度をしなければなりませんので、火鉢の前で煙草をのんで居りますところへ、庄八さんが油をさしに參つたのでございます。

(藤五郎は眼で知らせれば、長次郎はうなづく。)

長次郎。この野郎。うそをつくな。お駒は酔つて寝てゐるなんて云やあがつて、貴様はもう其時にお駒を締めてしまつたのだらう。どんなに酔つてゐたか知らねえが、馴染の客が起きて帰るといふのに、相方の女が平氣で寝そべつてゐる筈がねえ。なあ、庄八。さうぢやあねえか。

庄八。(返事に困つて。)さあ。併し二階のれんじ窓が毀れてゐましたのを見ますと、下手人は外から忍び込んだやうにも思はれますが……。

長次郎。櫺子窓をこはして置いて、外から這入つたやうに見せ掛けるなどは、よくある手で珍らしくねえ。それも文吉が遣つた仕事だらう。横着者め。

文吉。(あわてゝ。)先刻も申上げました通り、それは皆さま方のお見込みちがひで、わたくしは決してそんな覚えはございません。

藤五郎。いつまで同じことを云つてゐやあがるのだ。(長次郎に。)そいつに繩をかけろ。

長次郎。さあ、神妙にしろ。

(長次郎は文吉に繩をかける。)

文吉。(いよ／＼慌てる。)たとひ何と仰しやいましても、わたくしは全く覚えのないことで……。お繩は幾重にも御勘弁をねがひます。

長次郎。えゝ、やかましい。ぐづ／＼云やあがると、引つぱたくぞ。

藤五郎。さあ、痛い目を見ないうちに、素直に云つてしまへ。

長次郎。さあ、野郎。引つぱたくぞ。(十手をふりあげる。)

文吉。それでも覚えのないことは申上げ様がございません。これ、お

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さだ。お前、なんとか申譯をして呉れないか。

おさだ。(冷かに。)あたしは何んにも知らないんですもの、どうにも申譯をして上げやうが無いぢやありませんか。

文吉。でも、わたしは無實のぬれ衣をきて、かうしてお繩にかゝつてしまつたのだ。

おさだ。あたしもお氣の毒には思つてゐるんですけれど、お役人様の前で自分の知らないことを何とも云ひやうがありませんからね。

文吉。(恨めしさうに。)おまへは知らないといふのか。

おさだ。(平氣で。)知りません、全くなんにも知りませんよ。

(藤五郎はおさだと文吉の様子に眼をつけてゐる。)

文吉。わたしが縛られて牢屋へ送られて、どんな拷問を受けるやうになつても、お前はどうしても知らないといふのか。

おさだ。いくら何と云つても、知らないものは仕方がないぢやありませんか。

藤五郎。えゝ、埒が明かねえな。長次郎、かまはずに引つぱたけ。

長次郎。ほんとうに往生際の悪い奴で、餘計な手數をかけやあがる。さあ、云へ。云はねえか。

(長次郎は十手にて文吉を二つ三つ打つ。)

文吉。(叫ぶ。)申上げます、申上げます。

長次郎。早くいへ。(又打つ。)

文吉。云ひます、云ひます。申上げます。(息をついて。)お駒を殺しましたのはわたしではございません。そこにゐるおさだでございます。

伊兵衛。(おどろいて進み出づ。)え、おさだが……。(おさだに。)これ、おさだ。お前はほんたうにそんな怖ろしいことをしたのか。

おさだ。飛んでもない。なんであたしがそんなことをするもんですか。あの人が切端つまつて、自分の罪を人になすり付けようとするんですよ。もし、お役人様へ申上げます。わたくしは女の身で怖ろしい人殺しなぞを致す筈がございません。まして不斷から仲よしのお駒さんを殺すなぞとは、思ひも付かないことでございます。この儀は幾重にもお察しをねがひます。

文吉。いえ、その女が殺したに相違ございません。わたくしが手水にまゐりまして、それからお駒の部屋へ戻つて來ると、おさだが屏風のなかから出てまゐりましてお駒はわたしが殺したのだと、自分の口から申しました。

おさだ。(屹となつて。)まあ、呆れた。おまへさんは途方もない云ひがゝりをする人だねえ。あたしに何の恨みがあつて、そんな濡れ衣を着せようとするんですえ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

文吉。えゝ、おれこそ飛んだ濡れ衣をきて、こんな情ない目に逢つてゐるのだ。これ、頼むから正直に白状してくれ。

おさだ。いくら頼まれたつて、覺えもないことを白状が出來るもんですかね。今まではよもやと思つてゐたが、そんな言ひがゝりをする以上は、やつぱりお前さんがお駒さんを殺したに相違ない。(泣聲をふるはせる。)お前さんはまあ見掛けによらない怖ろしい人だ。あんなおとなしいお駒さんをむごたらしく絞め殺して、まあ何といふ鬼のやうな人だらう。もう一度、お役人樣に申上げます。唯今までは默つて居りましたが、この文吉さんはお駒さんとは年も違ひますし、お店者のくせに酒の上は惡し、おまけにお金遣ひも惡いので、ふだんからお駒さんに嫌はれ抜いてゐたのです。それはわたくしがよく知つて居ります。ゆうべも屹とお駒さんに手ひどく振りつけられて、その口惜しまぎれに手暴いことを致したものと思ひます。お駒さんのかたきはわたしの仇も同樣でございます。どうぞお上のお力を持ちまして、わたくし共のかたきが討てますやうに、何分おねがひ申します。

(藤五郎はおさだにちつと眼をつけて、なか〳〵しつかり者だといふ思入。)

文吉。いえ、その女の申すことは皆いつはりでございます。お駒はたしかにおさだが殺したに相違ございません。

おさだ。いゝえ、おまへさんが殺したに相違ない。お役人樣の前でよくもそんな白々しいことが云はれたものだ。

文吉。おまへこそ白々しい。そんな女とは今まで些とも知らなかつた。

おさだ。あたしもお前さんがそんな怖ろしい人とは、今まで夢にも知らなかつた。

文吉。えゝ、なんであらうともお前が殺したのだ。

おさだ。いゝえ、おまへさんが殺したのだ。

藤五郎。さう〳〵しい。控へろ、控へろ。

長次郎。おたがひになすり合つてゐちやあ仕樣がねえ。とんだ對決だ。どつちが仁木彈正だか、おれたちが今捌いてやるから、靜にしろ、靜にしろ。

(おさだと文吉は控へる。藤五郎と長次郎は顔をみあはせて、おさだも怪しい奴だといふ思入。)

藤五郎。これ、庄八。おまへが油さしに行つたあとで、おさだがお駒の部屋へ出這入りしたのを見たかつたか。

庄八。先刻も申上げました通り、お駒さんの部屋で文吉さんとお話をして、それからだん〳〵にほかの部屋をまはつて居りましたので、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それからあとの事はなんにも存じません。

長次郎。おめえは文吉かおさだから何か與薬でも貰つてゐやあしねえか。

庄八。どう致しまして……。決してそんなことはございません。

長次郎。隠してゐると、貴様も飛んだことになるぞ。

庄八。まことに困りましたな。(伊兵衛に。)もし、旦那。何とか云つて下さいませんか。

伊兵衛。いや、わたしにも何とも云ひやうがないのだ。

(下のかたより和泉屋のせがれ伊之助、廿二三歳。お駒の弟徳松を連れて出づ。徳松は前髪にて、農家の子。)

伊之助。申上げます。

藤五郎。お前はなんだ。

伊兵衛。これはわたくし方のせがれでございます。

長次郎。(藤五郎に。)和泉屋のせがれの伊之助といふのでございますよ。

藤五郎。その伜がなんの用だ。

伊之助。お駒の宿許は目黒でございますので、取りあへず知らせて遣りますと、母はあひにく病中で、弟の徳松といふのが駈け付けてまゐりましたので、兎もかくも一緒に連れて出ましてございます。

長次郎。そこで、その弟に何か心當りでもあるといふのかえ。

伊之助。いえ、さういふわけでもございませんが、わたくしに少し心當りがございますので……。

長次郎。それはどういふことだ。

(伊之助は云はうとして躊躇し、長次郎にこつちへ來てくれといふ。長次郎進みよれば、伊之助は紙につゝみたる銀のかんざしを出して、長次郎にそつと見せ、それはおさだの物だと囁く。)

長次郎。むゝ、さうか。

(長次郎はかんざしを取つて眺めたから藤五郎の前に置く。)

藤五郎。このかんざしがどうしたのだ。

(おさだはそれを横目に見て、ぎつくりしながら黙つてゐる。)

長次郎。それがお駒の寝床のなかに落ちてゐたさうでございます。

藤五郎。伊之助が見つけたのか。

長次郎。旦那の前ではつきりと云はなけりやあいけねえぜ。

伊之助。(思ひ切つて。)實はお駒が死んでゐると聞きまして、わたくしが真先に駈け付けてみますと、死骸の倒れてゐる夜具のなかに、其のかんざしが落ちてゐたのでございます。

伊兵衛。そんなものが落ちてゐたのか。それならなぜ早くに云はなかつたのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

伊之助。自分の店から縄つきを出したくないと、一旦は隠して置きましたが、どうもそれでは済まない事だと存じまして、改めてお届けに出ましたのでございます。

藤五郎。では、この主は判つてゐるのだな。

伊之助。わたくしには見おぼえがございます。

藤五郎。女の物だから外の奴が落したのぢやあるめえ。内の者か。

伊之助。はい。(躊躇してゐる。)

藤五郎。見覚えがあると云つたぢやあねえか。

伊之助。はい。

藤五郎。小じれつてえ奴だな。(十手で畳を叩く。)早く云へ。

長次郎。(引つ取つて。)それはおさだの品だそうでございます。

藤五郎。さうか。(おさだを屹と見る。)

おさだ。いゝえ、違ひます。それはわたくしの物ぢやあございません。

藤五郎。伊之助。これは確におさだの品だな。

伊之助。今から半月ほど前のことでございます。わたくしが下の廊下でそのかんざしを拾ひまして、これは誰のだと申しますと、おさだが駈けて参りまして、それはわたしのだと申して受取つて行きました。

藤五郎。おゝ、さうだ。庄八もそのときに見てゐたな。

庄八。(かんざしを覗いて、)さうでございます。これはおさださんの品に相違ございません。

おさだ。(向き直る。)おまへさん達は寄つて集つて、あたしを罪に落さうとするんですかえ。そのかんざしはあたしの物ぢやありませんよ。

庄八。若旦那のいふ通り、そのかんざしはお前の物だよ。

おさだ。おまへさんは何んにも知らないくせに、若旦那と口を合せて餘計ないことをお云ひでないよ。そんなかんざしは世間に幾らもあらあね。

庄八。それぢやあお前のかんざしを見せて貰はう。お前のはどこにある。

おさだ。あたしは初めからそんな簪をさしてゐたことはありませんよ。若旦那がそんな物を何處からか持ち出して來て、好い加減な嘘をこしらへて、お役人達をだまさうとしても、皆さんにはちやんと眼があるから、嘘か本當かはすぐに判りますよ。

伊之助。これおさだ。わたしが好い加減な拵へ事をして、お役人達をだまさうとするとは何の事だ。現在自分のものを眼の前に見せられながら、まだづうづうしくシラを切つてゐるとは、呆れ返つた大膽者、なるほどこれでは人殺しも仕兼ねまい。ふだんは正直さうな顔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をしてゐながら……。もし、お父さん。この娘ばかりは親外でした。

伊兵衛。おれも實におどろいた。これ、おさだ。もう斯うなつたら仕方がないから、身に覺えのあることならば、素直に白狀してお慈悲を願つたらどうだ。

おさだ。旦那までがそんな事を……。どの人も、どの人も、みんなあたしを惡者にして……。口惜しい、口惜しい、どうしたらよからうねえ。(泣き伏す。)

藤五郎。(笑ふ。)そんな芝居をしても始まらねえ。この頃は御見物が悧口になつてゐるぞ。(長次郎に。)それ、繩をかけろ。

長次郎。手前はなか〳〵しつかり者だな。

(長次郎は立寄つて繩をかけようとすれば、おさだは慌てゝ叫ぶ。)

おさだ。まあ、待つて下さい、待つてください。まだ申上げることがございます。

長次郎。なんだ。なんだ。

おさだ。たとひ三日でも奉公すれば、自分の主人でございますから、その人の恥になるやうな事は云ふまいと思つてゐましたが、もうかうなつては云はずにはゐられません。若旦那にはお春さんといふ嫁さんがありながら、大勢の人の眼を忍んで、わたくしに無理なことをいふのでございます。

伊之助。(おどろく。)わたしがお前にいつそんな事を云つた。

おさだ。いつと云つて、それはもうたび〳〵のことでございます。おれの云ふことを肯けば、一軒の家を持たせて圍ひ者にしてやるの、一生面倒をみて遣るのと、色々親切らしく云つてくれましたけれど、わたくしはこんな性分でございますから、いつも好い加減に受け流して居りますと、このあひだの晩なぞは無理にわたくしを土藏のなかへ連れ込んで、手籠めにしようと致すのでございます。

伊之助。(いよ〳〵驚いて怒る。)こいつ實に途方もない奴だ。お役人樣、こんな氣ちがひの申すことは、決してお取上げにならぬやうに願ひます。

おさだ。お取上げにならうが、なるまいが、云ふだけのことは皆んな云ひます。なんぼ主人の威光でも、弱い女を手籠めにしようとは、あんまりな致し方でございますから、わたくしも一生懸命になつて大きい聲をあげますと、その庄八どんが駈けてまゐりました。

庄八。嘘をつけ。おれがそんなことを知るものか。

おさだ。いゝえ、おまへさんは確に知つてゐる筈です。それでも人が來たもんですから、若旦那も流石に極まりが惡いとみえて、そのま

〻こそ〳〵と行つてしまひました。わたくしも其時にいつそ暇を取つてしまへば好かつたのですが、こんな醜態をして方々を渡りあるくのも忌だと思ひまして、まあ辛抱してゐたのでございます。すると、今度のお駒さんの一件が降つて湧いたので、若旦那はふだんの意趣晴らしに、ありもしない事をこしらへて、わたくしを科人に落さうと巧んだものに相違ございません。もし、若旦那。(泣く。)なんぼあたしがお前さんの云ふことを肯かないからと云つて、人ごろしの罪を塗り付けるとはあんまりぢやありませんか。こんな事であたしが萬一お仕置にでもなつたら、屹とおまへさんを執り殺すから、さう思つておいでなさいよ。

伊之助。馬鹿をいへ。貴様は空涙をこぼして、口から出任せによくよくもてんな事が云へたものだ。お役人の前だと思つて、さつきから胸をさすつて我慢してゐたが、もう料簡がならないぞ。うぬ、どうするか。見てゐろ。

（伊之助は羽織をぬいで、おさだに掴みかゝらうとすると、伊兵衛と庄八は支へる。）

伊兵衛。これ、これ、ほかの場所とは違ふぞ。こゝで無暗なことをしたら、理を以て非に落ちるやうなことになるではないか。

伊之助。でも、あんまり憎い奴で……。

庄八。お腹も立ちませうが、まあ、まあ、御料簡なさいまし。あんな病犬には構はないが宜しうございます。

おさだ。なにが病犬だよ。お役人様、御覧ください。自分にうしろ暗いことがあるので、とても口ではかなはないと思つて、あの通り手出しをいたします。それが論より證據ぢやありませんか。

伊之助。えゝ、なにを云やあがるのだ。

（伊之助は急いで又立ちかゝらうとするを、庄八は抱きとめる。）

おさだ。こしらへ事をして人を訴へたものは、重いお咎めを受けると聞いて居ります。（長次郎に。）どうぞあの人にお縄をおかけ下さい。

長次郎。よし、よし。縄をかけてやるから覺悟しろ。

（長次郎はおさだの腕を捉へて、うしろへ捻ぢ廻さうとする。）

おさだ。（ふり拂つて。）あれ、あたしぢやありませんよ。あの人ですよ。

長次郎。まあ、だれでもいゝからおとなしくしろ。

おさだ。いけません、いけません。あたしはお縄をうける覺えはないんですよ。

（おさだは突きのけて逃げかゝるを、長次郎は追ひかけて無

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

理に繩をかける。)

長次郎。どうもしぶとい女だな。

藤五郎。そんな奴は行儀の悪いことをして眠らせるかも知れねえ。前をはだけねえやうに縛つてしまへ。

長次郎。(番太郎に。)繩はねえか。

番太郎。はい、はい。

(番太郎は番所より繩を持ち來れば、長次郎はおさだの前の開かぬやうに、着物の上から兩膝をくゝる)。

おさだ。おまへさん、一體あたしをどうするんですよ。

藤五郎。どうするものか。これから貴樣を吟味するのだ。(長次郎に。)もう判つたから、そつちの繩を解いてやれ。

(長次郎は文吉の繩を解く。)

文吉。はい、はい。ありがたうございます。これ、おさだ。女の猿智惠でどう云ひぬけようとしても、お役人さまの眼は曇らぬ鏡だ。恐れ入つて何も彼も白狀してしまへ。

おさだ。幾度云つても同じことで、覺えのないことが白狀出來るもんですか。(泣く。)あたしは何の因果でこんな目に逢ふのか。大勢の男が女ひとりを云ひ銘めて、無理無體に繩をかけて……。弱い者いぢめにも程があります。

長次郎。たにが無理無體だ。どつちが無理か、今にわかることだから待つてゐろ。もし、旦那。

(長次郎は藤五郎の顏をみて、引つぱたかうかと問へば、藤五郎はうなづく)

藤五郎。女だと思つて甘くしてゐると方圖がねえ。小ッぴどく擲れ、なぐれ。

長次郎。さあ、おれたちは冗談にこんな事をしてゐるんぢやねえから、さう思へ。

(長次郎は十手にておさだの脊を打つ。おさだはあつと叫んで倒れる)。

長次郎。大方そんなことだらうと思つた。(番太郎に)。こいつを引摺り起せ。

(番太郎はおさだを引き起せば、長次郎はつゞけて打つ。)

長次郎。さあ、白狀しろ。

藤五郎。和泉屋のお駒は貴樣が殺したに相違あるめえ。痛い思ひをするだけ損だぞ。早く云へ。

長次郎。云つてしまへ。

(長次郎は又打つ。おさだは轉げながら叫ぶ。)

おさだ。お慈悲でございます。お慈悲でございます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長次郎。お慈悲をねがひたければ、素直に云へ。

おさだ。なんにも存じません。知りません。

長次郎。知らねえことがあるものか。早く申上げろ。(又打つ。)

おさだ。申しません、申しません。まつたく無實の罪でございます。

長次郎。強情な奴だな。こん畜生、水を喰らはせるぞ。(番太郎に。)手桶を持つて來い。

(番太郎は臺所より手桶に柄杓を添へて持つて來る。)

藤五　。まあ、待て、待て。往來の店先でそんな騒ぎをするのも見つともねえ。いくら強情を張つても、そいつの仕業にきまつてゐるのだ。大番屋へ引摺つて行つて、改めて調べることにしよう。伊之助、庄八。

二人。はい。

藤五郎。文吉。

文吉。はい。

藤五郎。みんな引合ひだから、八町堀まで一緒に來い。

三人。はあ。

長次郎。さあ、立て。(おさだを引起す。)

(徳松は先刻より默つて窺ひゐたるが、このとき少しく進み出づ。)

徳松。(伊之助に。)では、いよ〳〵こいつが姉さんを殺したのでございますか。

伊之助。むゝ。かたきの顔を一度見せてやらうと思つて、お前をこゝへ連れて來たのだ。よく見ておけ。

徳松。こいつ、よくもおれの姉さんを殺しやあがつたな。

(徳松は穿いてゐる草履をぬいで、おさだに打つてかゝらうとするを、長次郎は片手にて支へる。)

長次郎。とんだ大坊丸だ。いくら仇でも、むやみに手出しをしちやあならねえ。

おさだ。(見かへる。)まつたく飛んだ大坊丸だね。おまへはその草履であたしをぶつ氣かえ。眼に一杯のなみだを溜めて、お前はそんなに口惜しいのかえ。

徳松。口惜しいのは當りまへだ。お前はなんで姉さんを殺したのだ。譯をいへ、譯を云へ。(詰めよる。)

おさだ。勿論殺すだけの譯があつて殺したのだが……。おまへとしては恨むのも無理はない。あたしも實に恨んだからねえ。(徳松の顔を見る。)今までは根かぎりに強情を張り通してみたが、さすがにお役人の眼は高い、どうしてもあたしの仕業と見きはめられてしまつたらしいから、所詮あきらめるより外はあるまい。いつそお前の見て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐる節で、さつぱりと白状しませうな。

伊兵衛。白状する……。では、やつぱりお前の仕業に相違ないのだな。

おさだ。はい、相違ありませんよ。(長次郎に。)この通り白状いたしましたから、どうぞ膝だけをお弛めください。

(長次郎はおさだの両膝の縄を解く。)

藤五郎。(笑ふ。)たうとうお前もあきらめたか。随分世話を焼かせたな。

おさだ。恐れ入りましてございます。

藤五郎。そこで、お駒をなぜ殺した。

おさだ。昨年の十月、和泉屋の店さきで石原の宙蔵といふ者がお召捕りに相成りましたを御存じでございますか。

藤五郎。石原の宙蔵……。むゝ、知つてゐる。それはおれが召捕つたのだ。

おさだ。え、あなたが……。(今更のやうにみる。)これも何かの因縁とでもいふものでせうねえ。

藤五郎。ではおまへは其の宙蔵の身よりの者か。

おさだ。わたくしは宙蔵の女房でございます。

藤五郎。むゝ。(うなづく。)それでお駒を殺したのか。

おさだ。おわかりになりましたか。

藤五郎。判つた、わかつた。

おさだ。筋違ひかは存じませんが、わたくしと致しましては亭主のかたき討でございます。鬼の女房に鬼神とやらで、女だてらに人殺しをするとは、定めて怖ろしい奴だとの思召しもございませうが、いよ〳〵本意を遂げるまでには、なみ〳〵の苦労ではございませんでした。(涙をうかべて。)どなたもお察しくださいまし。かたきを討つて、すぐに名乗つて出れば宜しいのでございましたが、やつぱり女の未練から色々のお手数をかけまして、重々恐れ入りました。

藤五郎。よく白状した。亭主のかたき討と申しても、おまへは罪人の女房で、人を恨むは逆恨みだぞ。殊に上に對して御奉公を相勤めた和泉屋のお駒を殺害した以上は、おまへにも覚悟はあるだらうな。

おさだ。それは覚悟いたして居ります。なにとぞ御法通りのお仕置をお願ひ申します。

伊之助。今まで些つとも知らなかつたが、お前は亭主のかたき討であつたのか。

伊兵衛。さう聞くと、又なんだか可哀さうにもなつた。

(伊兵衛親子は顔をみあはせて、ため息をつく。)

惣松。(伊之助に。)では、わたしの姉さんの方が悪かつたのでございます

か。

伊之助。いや、姉さんが悪いといふわけでもなし……。わたしにも何と云つていゝか判らなくなつて來た。

おさだ。やつぱりあたしが悪いんです。（徳松に。）たとひ姉さんを殺されても、お前のかたきはお上で立派に討つて下さるから仕合せといふもの。あたしのかたきは誰も討つてくれる人がないので、悪いと知りつゝこんなことに……。（ほろりとして。）いや、そんな愚痴はよしませう。さあ、お連れ下さいまし。

藤五郎。重罪人とはいひながら、夫婦の情愛はおれにもまんざら判らねえことはねえ。せいぐ〵働いてやるからさう思へ。

おさだ。ありがたうございます。

伊兵衛。いよ〳〵傳馬町へ送りとなつたら、わたしも出來るだけの世話をしてやりますよ。

おさだ。何分おねがひ申します。

藤五郎。（長次郎に。）さあ。

（長次郎は繩を取つておさだを引立てる。伊兵衛等はみな頭を下げる。時の鐘。浪の音うすくきこゆ。）

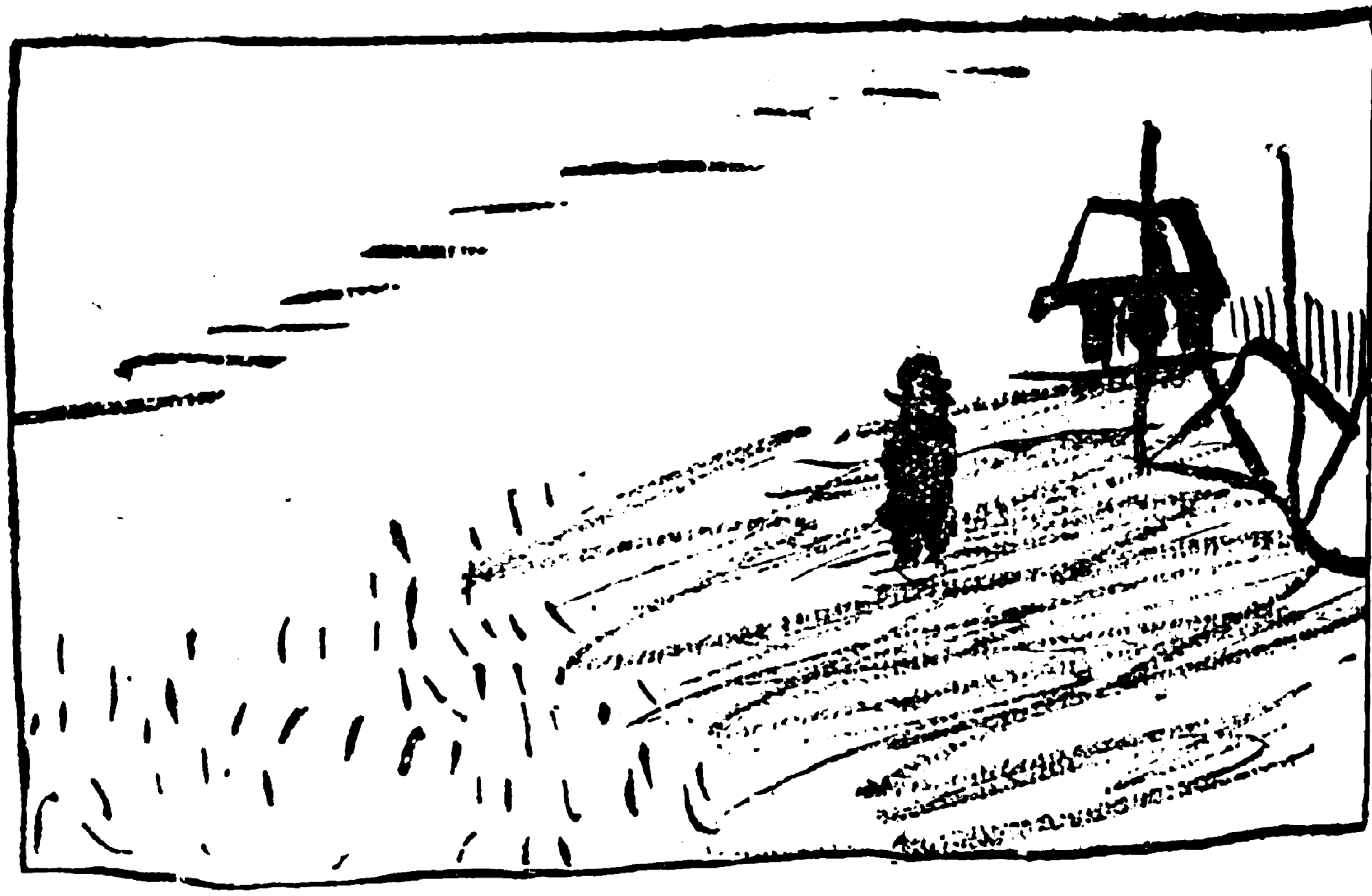
——幕——

江戸子の死

岡本綺堂著

綺堂氏は江戸情緒を近代の纎美感で彩る點に於て正に陶然たる芳香を放つ藝術の所有者である。本書は氏自身が數年間の作品中より嚴選せる傑作を收めた近來の得がたき寶玉。「江戸子の死」外五篇は何れも劇壇にて好評嘖々たりしもの、綺堂獨自す世界である。この人情味豐かな情緒物語は、我國民性の傳統的な懐しさを傳へ、高き藝術的筆致と、深き人間性への探求は、讀者をして卷を繙いてより閉づるまで、感嘆措く能はざるものあらしむ。

四六判上製 三三〇頁　定價一圓八十錢 送料二十錢



暗夜行路

志賀直哉

丹塗りが剝げ落ちた大鳥居の側に宿屋がある。二人は其所で漸く冷水にありついた。

車夫は寺まで尚五六町あると云ひ、

「此宿は氣に入らないかね？」と小聲で訊いた、謙作は默つて首を振つた。

車夫は少し荷に參つて來たらしい、約束より賃金を増してやらうと謙作は思つた。

繪葉書と卷煙草を買つて出た。

大山神社への道から右へ降り、石のころごろした廣い河原へ出た。河原はかなりの傾斜で森と森の間を裾野の方へ下つてゐる。

「地獄の切分け」といふので、河の流れ出る所が恰も切りさいたやうに斷崖が二つ分かれてゐる。

二人は河原を越し、急な坂路を薄暗い森の中へ登つて行つた。右が金剛院、左が蓮淨院、そのもう一つ先の寺が不二門院だつた。

庫裡の土間へ入り車夫が聲をかけると、四十前後の顏の角張つた女が出て來て、謙作と何とを見較べながら、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「暫く御滯在ですか」と云つた。
庫裡の爐傍で白い單衣を着た若い和尚が、僧業風の男を對手に酒を飲みながら高聲に話合つてゐるのが見えた。
「暫く御厄介になりたいんです」
女は心元ない風で後を向き、

「ちよいと、どうです？」と和尚へ呼びかけた。
「ようこそ」酒で赤い顏をした和尚が出て來て、立つたまゝ叩つてつけたやうなお辭儀をした
「泊めて頂けますか？」
「お泊めせん事も厶いませんが、此寺の先住が少し惡いといふので實は明日江州の坂本まで出掛ける事にして居るのですが、人手が足らんので……………、が、兎に角お上り下さいませ。若しお世話出來んやうでしたら、他の寺を御紹介しますで」
謙作は隱れに通された。それは書院作りの座敷、次の間、折れて玄關といふ、何れも四疊半ばかりの家だつた。先々住の隱居所に建てたもので、長押から長押へ竹竿を渡し、それに樣のない障子が何枚も積み重ねてある。それは夏中、その高さに障子で座敷を劃る、一種の變房裝置だつた。
小さな座敷の書院作りは少し重苦しい感じもしたが、結局三間共に貸して呉れるとの事で謙作は滿足した。
車夫は此寺に一泊し、翌朝歸つて行つた。

十四

長年人と人との關係に疲れ切つて了つた謙作には此所の生活はよかつた。彼はよく阿彌陀堂といふ三四丁登つた森の中にある堂へ行つた。特別保護建造物だが、緣など朽ち腐れ甚く荒れはてゝゐた。然しそれが却つて彼には親しい感じをさせた。緣へ登る石段に腰かけてゐると、よく前を大きな蜻蛉が十間程の所を往つたり來たりした。兩方に强く翅を張つて地上三尺ばかりの高さを眞直ぐに飛ぶ。そして或る所で向きを變へると又眞直ぐに歸つて來る。翡翠の大きな眼、黑と黄の段だら染め、細くひきしまつた尾の强い線、──みんな美しい。殊にその如何にもしつかりした動作が謙作にはよく思はれた。彼は人間の小人、──例へば水谷のやうな人間の動作とこれと較べ、どれだけか此小さな蜻蛉の方が上等か知れない氣がした。二三年前京都の博物館で見た鷹と金雞鳥の双幅に惹きつけられたのも要するに同じ氣持だつたらうとそれを憶ひ出した。
彼は石の上で二疋の蜥蜴が後足で立上つたり、跳ねたり、からまり合つたり、輕快な動作で遊び戯れてゐるのを見、自らも快活な氣分に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なつた。

彼は又此所に來て鶺鴒が駈け歩く小鳥で、決して跳んで歩かないのに氣がついた。さう云へば烏は歩いたり、跳んだりすると思つた。

よく見てゐると色々なものが總て面白かつた。彼は阿彌陀堂の森で栗の毬の中に黑い小豆粒のやうな實を一つづゝ載せてゐる小さな灌木を見た。掌に大切らしくそれを一つ載せてゐる樣子が、彼には如何にも信心深く思はれた。

人と人と人との下らぬ交渉で日々を浪費して來たやうな自身の過去を顧み、彼は更に廣い世界が展らけたやうに感じた。

彼は青空の下、高い所を悠々舞つてゐる鳶の姿を仰ぎ、人間の考へた飛行機の醜さを思つた。彼は三四年前自身の仕事に對する執着から海上を、海中を、空中を征服して行く人間の意志を讚美してゐたが、不知全で反對な氣持になつてゐた。人間が鳥のやうに飛び、魚のやうに水中を行くといふ事は果して自然の意志であらうか。かういふ無制限な人間の慾望がやがて何かの意味で人間を不幸に導くのではなからうか。人智におもひあがつてゐる人間は何時かその爲め酷い罰を被る事があるのではなからうかと思つた。

嘗つてさういふ人間の無制限な慾望を讚美した彼の氣持は何時かは滅亡すべき運命を持つた此地球から殉死させずに人類を救出さうといふ無意識的な意志であると考へてゐた。當時の彼の眼には見るもの聞くもの總てさう云ふ無意識的な人間の意志の現はれとしか感じられなかつた。男といふ男、總てその爲め焦つてゐるとしか思へなかつた。そして第一に彼自身、その仕事に對する執着から苛立ち焦る自分の氣持をさう解するより他はなかつたのである。

然るに今、彼はそれが全く變つて居た。仕事に對する執着も、その爲め苛立つ氣持もありながら、一方遂に人類が地球と共に滅びて了ふものならば、喜んでそれも甘受出來る氣持になつてゐた。彼は佛教の事は何も知らなかつたが、涅槃とか寂滅爲樂とかいふ境地には不思議な魅力が感じられた。

彼は信行に貰つた臨濟録など少しづゝ讀んで見たが、よく分らぬなりに、氣分はよくなつた。鳥取で求めて來た高僧傳は通俗な讀物ではあつたが、惠心僧都が空也上人を訪ねての問答を讀みながら彼は涙を流した。

「穢土を厭ひ淨土を欣ぶの心切なれば。などか往生を遂さらん」

簡單な言葉だが、彼は惠心僧都と共に手を合はせたいやうな氣持がした。

彼は天氣がよければ大概二三時間は阿彌陀堂の森で暮らした。夕方はよく河原へ出て、夏蜜柑位の石を大きい石に力一杯投げつける遊び

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をした。かあんと氣持よく當つて、それが更に他の花から花と態度にも彈んで行く。それからうまく行つた時は彼はわけもない滿足を感じたがら歸つて來るが、どうしてもうまく行かない時は意地になつて根氣よく投げた。

彼は大山の生活には大體滿足してゐたが、たゞ寺の食事には閉口した。彼は出掛けに食料品を送る事を斷つた位で、粗食は覺悟してゐたが、其所まで豫期出來なかつたのは米の質が極端に悪い事だつた。彼はそれまで米の質など餘り氣にする方ではなかつたが、食ふに堪へない米で我慢してゐると不知減食する結果になり身體が弱つて來るやう思はれた。

寺の上さんは好人物で彼の世話をよくした。山獨活の奈良漬を作る事が得意で、それだけはうまかつた。

鳥取へ嫁入つた寺の娘が赤兒を連れて來てゐた。十七八の美しい娘だつた。座敷へは餘り入つて來なかつたが、彼のゐる窓の下へ來てよく話した。

「やゝ兒のやうな者にやゝ兒が出來てどうもなりません」娘はこんな事を云つて笑つた。人から云はれたのをその儘眞似して云つてゐるとしか思はれなかつた。母親一人で忙しく働いてゐるのに娘はいつも赤兒を抱いてぶらぶらしてゐた。謙作は此娘に對し別に何の感情をも持たなかつたが、娘がよく窓の外へ來て立話をして行く氣持には、娘ながらに既に人妻となつたといふ事で男を恐れなくなつたのだと思つた。そして彼は直子の過失も直子がまだ若し處女であつたら、或はああいふ事は起らなかつたのではなからうかと考へたりした。

或る日、寺の上さんが手紙を持つて謙作の所へ相談に來た。四十五十人の團體の申込みだつた。

「どうしませう」

然し謙作には分らなかつた

「炊事は出來るんですか」

「出來ん事はありません」

「そんなら引受けたらどうですか。――尤も私はなんにも手傳へないが」

上さんは尙迷ふらしく少時考へてゐたが、遂に引受ける事に決心した。そして獨言のやうに「お由がもう少し役に立つといゝんだけど」と云つた。

「赤ちやんが居るからそりやあ駄目だ。それより慶さんをお頼みなさい」

慶さんといふのは麓の町の屋根屋で、今度徵兵にとられ、暫くは山の仕事が出來ないと、大山神社の水屋の屋根の葺きかへに來てゐる若

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

常だつた。松茸の厚い屋根で、山の木を伐り、その松から作つてかゝるのを一人僧職では容易な業でなかつた。薪油食事は寺の方に仕て貰つて、その勞力を奉納するのだといふ話だつた。

謙作は引受ける返事の端書を書かされた。

二三日して謙作は机に倚り、ぼんやりしてゐると、下の路から上さんが「來ました、來ました」とせか〱石段を駈登つて來た。

如何にも大事件らしいその樣子が可笑しかつた。珍らしくもなさゝうな事を何故こんなに騷ぐのかと思つた。然しいつもは和尚も働くらしく、上さん一人ではそれは大分重荷だつたに違ひない。上さんは午後になつて何度か坂の上まで見に行つたが、今、四五十人の人がぞろ〱河原を渡つて來るのを見、そんなに興奮してゐるのであつた。

間もなく團體の連中が着くと、寺の方は急に騷がしくなつた。謙作は手傳へるものならば手傳つてやりたく思つたが、出來ないので、其間散歩に出た。

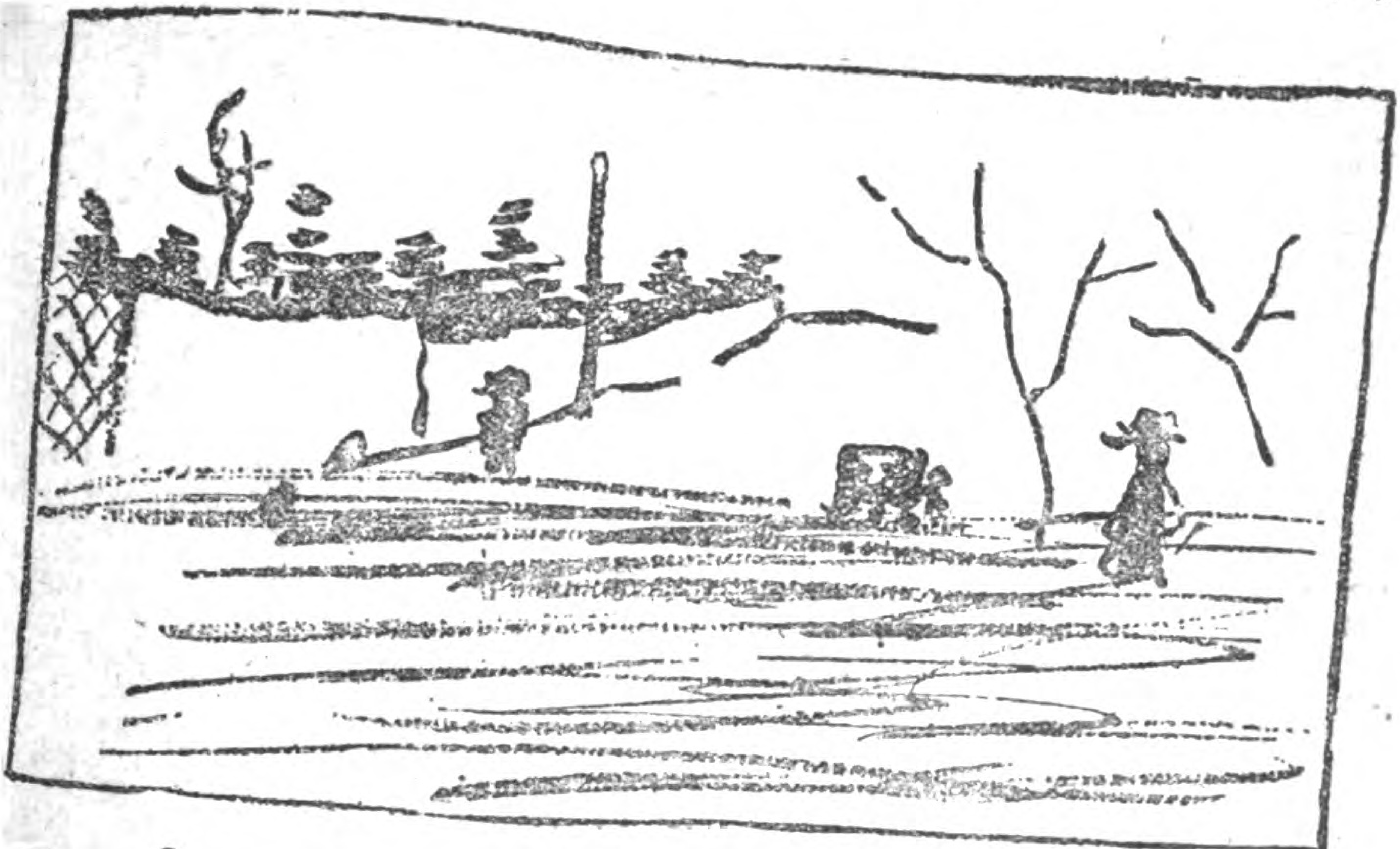
日が暮れ、彼が還つて暫くして漸く晩飯が赤兒を抱いた娘の手で運ばれた。

「自分でつけるから構ひませんよ」

「どうせ何もしないんですから」そして娘は笑ひながら「今夜は旦那さんの傍に寝させて貰ひます」と云つた。

謙作は一寸狼狽に陥つた。如何に僧と云ふのは世間離れの蛮闘の間の事だらうとは思つたが、態度皮肉など足りたくなつてゐるに違ひないので、多少まぎらはしい氣もするのであつた。

其夜、謙作はいつものやうにして寝た。娘はそれきり顔を出さなかつた。それで當り前なのだが、彼は娘が何故不意にそんな事を云ひ出したか不思議な氣がした。



相戀記（五幕八場）

藤森成吉

第一幕

人物

通行人　ＡＢＣ。

喬生。若く貧乏な讀書子。

淑芳。若く魅力に富む美人。

金蓮。侍女。

時

盂蘭盆祭の夕。

所

（古代）支那。

舞臺

中央、喬生の小部屋。（豫め、その壁一重上手に、第二幕隣家の張老人の小部屋を

置くがいい。その旅客に向ふ戸口は任意に開閉、又開閉を助けて出験するがいい）下手に入口。その面する往来は花道へ。（全舞台を構成的にすれば、舞台的自由と適合は更に増大する。）

書生、無飾の質素な部屋で、小さな盆燈籠の下に讀書してゐる。そとはやゝ霧を帯びた月光。奥から通行人A、B、各々灯の點いた燈籠をさげながら出る。

A。賑かな燈籠祭りだッたな。

B。久しぶりで、ほんとにいのちの洗濯をしたよ。方將軍の政治のなかで、此の御祭りが一番の善政かも知れない。

A。誰でも一人殘らず燈籠をさげる事、ッて思ひつきがいい。こんな（手で形して）ちッちやな子まで提げてたぢやないか。そこへ又、どの街路にも軒並みでかい奴が點いてるんだから素晴しい。

B。おまけにいい月夜でさ。

A。こんな晩にやあ月なんかないほうがいい

B。いや、あつたほうが餘計浮き立つ。

A。ないほうが引き立つ。

B。月だつて燈籠の一つだ。

A。人間の燈籠の群にゃあ、ほかの燈籠なんか邪魔でいけねえ

B。餘計ぢやない。

A。だ！

B。ぢやない！

二人舞台から去る

書生、「月」の呼びで注意を惹かれる。机から立つて戸口へ出、月を仰ぐ。

書生。（呻くやうに）いい月だ。（間、半ば吟じるやうに）明月自ら來り還自ら去る……か。（亡妻の追憶に堪へずに）あれは月の馬鹿に好きな女だッたが――（眼に映る月光）

C、同じく（但しABとは型の變つた）燈籠を持つて通りかゝる。

C。（戸口の書生へ）今晩は！

書生。今晩は！

C。（氣がついたやうに）おお、點け忘れてゐた。（灯を吹き消して去る。）

遠く鐘の聲。月、いよいよ霧を帯びて來る。書生ゆつくり數へる。鐘止む。

書生。隨分更けたな。

金蓮、月の光に生れたやうに奥へ現れる。片手に、頭へ美麗な牡丹の花二つ飾つた（默つた）燈籠をさげてゐる。背後に淑芳。——どつちも割合質素な清楚な服裝。

靜かな足どりで、默つて喬生の前を通り過ぎる。彼、視線を廻轉させる。淑芳、四五歩行き過ぎてから、振り返つてにツこり笑ひかける。そのまゝ歩いてゆく。喬生無意識に（見えない綱に引ツ張られるやうに）あとを追ふ。金蓮、花道（又は構成的舞臺）を行き盡そうとする時、淑芳呼ぶ。

淑芳。金蓮さん。

金蓮。はい。（立ちどまる。）

淑芳、向き返る。喬生、物におどろいた悍馬のやうに凝然と立ちどまる。淑芳默つて頭をさげる。喬生、やつぱり無言の挨拶を返す。

淑芳。此の邊に御住ひでいらつしやいます？

喬生。え——

淑芳。どこら？

喬生。（落ちつかない樣子で自分の家を指して）そこです。

淑芳。（うれしさうな叫び聲を擧げて）あら！ あたし大へん疲れましたけれど、あの、一寸休ませて頂けません？

喬生。え？

淑芳。（おつかぶせるやうに）御いや？

喬生。（面喰つて）御休みになる？ 僕の家へ？

淑芳。え、——でも失禮でしたら……。

喬生。（まごついて）いや、構ひません。あなたさへ御構ひなければ……

……（少し云ひ澁つて）が、とてもきたない處なんです。

淑芳。あら、ちつとも構ひませんわ。あたし、あなたの御家でさへあれば結構ですもの。（金蓮へ向つて）ぢや、ちよつと休ませて頂きませう。

金蓮。はい。

淑芳、半分呆然としてゐる喬生へ進み寄つて、片手を取つて接吻する。喬生おどろく。

淑芳。（彼の手を握つたまゝ）ぢや、どうぞ……。

喬生先きへ立つて戸口を入る。金蓮つゞく。

喬生。（椅子を勸めて）どうぞ。

淑芳。（うれしさうに）かけてもよう御座います？

喬生。きたなくてもよろしければ。

淑芳。あら又あんな事。

喬生。でも、御覽のとほりです。（突然氣づいて）こんなにさせておい

て……。（起きッ放しの亂れた寢臺を、いそいで片づけやうとする。）
金蓮。（寄つて）御かたづけしませう。
喬生。（びつくりして）いや、いゝんです。いゝんです。（振り拂ふ。）
淑芳。（微笑しながら）そんなつまらない事、もし御よしあそばせ。
喬生。（催眠術でもかけられたやうにやめて、金蓮へ椅子を勸めて）
ぢや、どうぞ。（突然氣づいて襟をつかんで）一つきり椅子がない！
淑芳。ぢや、（金蓮へ）これへ御掛けなさい。あたし、こちらへ掛けさせて頂きますわ。（寢臺の一部へ腰を移す。）
　喬生、面喰ひながらその横へ腰をかける。
金蓮。（淑芳へ）此の牡丹燈籠は、もう消しておきませう？
淑芳。そうね。
　金蓮吹き消す。
喬生。あなたも町へいらしつたんですか？
淑芳。え。あなたは？
喬生。僕は一日家にゐました。
淑芳。まアどうして？　ああ云ふ賑かな處御嫌ひ？
喬生。嫌ひツてわけぢやありませんが──。
淑芳。もつと御本のほうが御好き？
喬生。べつに、本と燈籠と較べたわけぢやありません。行く氣がしなかつたけです。
淑芳。氣がむすぼれて？
喬生。（不思議さうな顔をして）どうしてそんな事を？
淑芳。（嫣然微笑しながら彼の手を取つて）知つてますわ。
喬生。（びつくりして）知つてらつしやる？
淑芳。え。
喬生。（身體を進めて）誰から御聞きになつたんです？
淑芳。（はづすやうに、彼の近づいた顔へ輕く指を當てながら）ちやんとここに書いてありますわ。
喬生。（咎めるやうに）お孃さん！
淑芳。（わざと眞面目くさつて）はい？
喬生。（氣先きを折られて）だが、僕、ほんとにそんなに淋しさうですか？
淑芳。隨分。
喬生。が、今は僕、ちつとも淋しかありません。
淑芳。（聞かないふりで獨り言のやうに）そんなにいつまでも思はれてらしつて、なくなつた奥さんはおしあはせね。
喬生。でも、今年なくなつたばかりですから──（初めて氣づいたやうに、釣りさげた初盆の燈籠へ眼をやつて大聲で）ア、あなたはこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れを見てそんな事を仰つたんですね？

淑芳。（おどろいたふりで耳を抑えて）まあ大きな御声！

喬生。御免なさい。でもそうでせう？

淑芳。（口へ手をやつて笑ひ出す）ほほほほ………。

喬生。（眺めて）あなたは見かけによらない人の悪いかたですね。

淑芳。ぢや、そうしておきますわ。——でも、あたしまだいろんな事を存じてますわ。

喬生。（好奇心に駆られて）どんな？

淑芳。（ふざけたやうに）第一、あなたが有名な秀才でゐらッしやる事。

喬生。（苦笑して）それは、進士の試験に及第した事ですか？

淑芳。そんな事位、あなたには朝飯前でいらつしやいませう。それより、知事の政治を攻撃なさつた御文章。

喬生。（再び苦笑して）それは頭のいい悪いより、考へかたの正しいか正しくないかの、いや、むしろ社会階級的の問題です。

淑芳。でも、あの理論の立てかたの御美事さには、やッつけられた知事さへ感心してゐたッて云ひますわ。

喬生。然しあの御蔭で、ひどい罰金は取られる。あぶなくフン縛られそうにはなる。おまけに、もうどこの役所でも学校でも僕を使つてくれなくなりましたよ。そのくせ、政治も取り扱ひもテンデ改まりやしない。（忌々しそうに舌打ちをして）ちエッ！　感心て、そんなもんですよ。（再び不思議に堪えなくなつたやうに）そんなに、いろんな僕の事を知つてらッしやるあなたは、どなたです？

淑芳。（にッこりして）前から存じてゐる女。

喬生。前から？——でも、僕はちッとも知つてません。

淑芳。あなたが知つてゐらッしやらなければ、あたし知つちやいけません？（不意に真面目に）そうかも知れませんわ。

金蓮。（そのあいだ燈籠の牡丹をいぢくつてゐて、顔をあげて）お嬢さま、お疲れがなほッたらまゐりませう。

淑芳。（気づいたやうに）ア、ほんとに長いことお邪魔いたしました。（立ちあがりかける。）

喬生。（彼女の手をつかんで引きとめて）も少し。——折角寄つて頂いたのに、御茶もあげずにゐました。………今、一杯差しあげます。

淑芳。休ませて頂いたゞけで沢山ですわ。お茶なんぞ頂いてると、あんまり晩くなりますから………。

喬生。（遮つて）晩くなり序でにもう少しゐらしッて下さい。今すぐです。（奥の、小さな帷を懸けた台所へ走り込む。）

金蓮。では、わたし致します。（追つて入る。）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。(微かの聲で)おゝ、どうか此の柴を焚いておかして下さい。

金蓮。はい。

喬生。濟みません。(再び出て來て)さぞ御濕きでせう。——おなかも御空きでせう?(髮をつかんで)生憎何もない。

淑芳。いゝえ、ちッとも空いておりませんわ。

喬生。御免なさい。どこの店ももう戸を閉めてるだらうし。——(淑芳の横へ來て再び腰をかけて)然し不思議ですね。

淑芳。何が?

喬生。だつて、あなたのやうなかたが此の邊にゐらしッて、今日まで僕がマルキリ知らずにゐるなんて。

淑芳。(微笑して)あたし、前お目にかかつた事もありますわ。

喬生。えー——いつ?

淑芳。去年の暮。

喬生。どこで?

淑芳。輿の簾の中から……。

喬生。ぢやアわかりッこない。

淑芳。その時から、一度しみじみ御話を伺ひたい、伺ひたい、と思つてましたわ。

喬生。ほんとですか?

淑芳。さうだつたら、あたし然ら叱れたつて、今夜休ませてなんか頂きませんわ。

喬生。(思はず彼女の手を取つて)お孃さん!

淑芳。はい!

喬生彼女の眼を見入る。つゞいて、、、、、、、、、、、、、。——金蓮の焚く柴の微かにはじける音。その煙、うす青く帷からなびき出る。

喬生。(しばらくしてから)何て思ひがけない晩だ。こんな事と知つたら、今まで家にゐるんぢやなかつた。……が、今夜からしてゐなかつたら、やつぱりあなたに御目にかかる事は出來なかつたんですね。

淑芳。(彼の顏を見あげて)あたしも、やッと永い望みがかなひましたわ。

喬生。信じられないばかりだ!

淑芳。これから、いつまでも愛して下さつて?

喬生。いつまでも。

淑芳。こんな御轉婆でも?

喬生。いゝ、とても好きです。

淑芳。ほんと?

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。ほんと以上だ。

淑芳。うれしい。(力をこめて彼の手を握る。)

喬生。でも、まだあなたのお名前を伺つてゐません。どうか教へて下さい。

淑芳。名前なんか構ひませんわ。

喬生。でも――戀人の名前も知らずにゐるなんておかしい。教へて下さい。

淑芳。お前つて仰つて下さりや澤山。

喬生。それぢやあ頼りない。

淑芳。いやなかた。

喬生。云つちやいけない事でもあるんですか?

淑芳。そんな事ありません。ぢや、あたし申しますわ。

喬生うなづく。

淑芳。(俯いて指を弄びながら)淑芳。

喬生。淑芳?

淑芳。字は麗卿。

喬生。麗卿――いい名ですね。

淑芳。お氣に入つて?

喬生。とても。

淑芳。さう?(男の胸へ顔を寄せつける。)

喬生。(彼女の髪を撫ぜてやりながら)淑芳さん、で、あなたは今どこにゐらッしやるんです?

淑芳。ここ。

喬生。住んでらッしやる所です。

淑芳。又。

喬生。又?

淑芳。(半分顔をあげて)どうしてそんなにいろんな事、御聞きになりたがッて?

喬生。聞きたがるが當り前でせう。あなたの事はどんな事でも知りたいんです。外の人にはどんなにつまらない事でも、知つて知り抜きたいんです。云つて下さい。

淑芳。(彼の熱情に壓倒されたやうに)ぢや申しますわ。今ゐる所は月湖の西。

喬生。ほう、湖西ですか。

淑芳。ええ、父は此の先きの鄞州の裁判所の判事を勤めてゐたんですけれど、此の春急に轉任になつて北の方へまゐりました。でも今年の初めにあたし一度遊びに來て、すつかりここいらの景色が氣に入つたもんですから、父や母に頼んで、あの金蓮と二人で當分此の近

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所に住むやうに話して頂ひました。(チラと男の顔を見て)それと、あなたの御傍を離れたくなかつたんですの。その遊びに來た時、初めてお目にかかりましたのよ。丁度輿の前になり後になり、どこか御爺さんの御友達のかたと、夢中になつて話していらッしやいましたわね。その御議や議論を餘所の隣で聞いて、あたし、すつかり惹きつけられましたの。

喬生。(赤面しながら)ああ、それで僕を御覽になつたわけがわかつた。そのお爺さんは、(隣の壁を指して)隣りにゐる道教の學者です。

淑芳。あら、そうでございましたの？

喬生。(突然當惑したやうに額を押へて)然し弱つた。あなたは、そんな身分のある御孃さんなんですか。

淑芳。(彼の肩へ手をかけて)そんな處の娘御きらひ？

喬生。(溜息して)きらひぢやないが……。

淑芳。が？

喬生。お父さんが結婚を許しちやあ下さらないでせう。

淑芳。くれなかつたら、ひとりで飛び出して來ますわ。

喬生。(キツと彼女の眼を見て)それが出來ますか？

淑芳。いくらでもね。

喬生。(よろこんで)出來れば、他人からいろんな噂をされる心配がなくて、僕もどんなにいいか知れない。――(不安さうに)が、來たッて御覽のとほりの貧乏世帯ですよ。今までのあなたの生活とは何から何までちがつてます。此の寢臺からしてドッサリ南京蟲がゐて、今だッてきッと食はれてゐらッしやるんです。それを覺悟してゐらッしやる？

淑芳。(笑ひ出して)ほほほ……そんな事、とッくに覺悟してますわ。あたし、今までのお孃さん生活には倦き々々しましたの。いゝえ、そんな物第一、生活なんて云へませんわ。いつ迄もあんな世界にゐるんだッたら、あたし死んだほうが増しですわ。だッてうそばッかしで、眞劍な事なんて(小指を立てて)これッぱかしだッてたいんですもの。あなたの御力で、あたしほんとに生き甲斐のある新しい生活へ入れるかと思ふと、うれしくて仕方ありませんわ。

喬生。(懷疑的に)でも、それはあなたの御孃さん風なロマンチシムでは……？

淑芳。(遮つて強く)信じて頂けません？

喬生。(感動して)いや、淑芳さん。

淑芳。信じてね……。

喬生、彼女の手を取つて引き寄せる。柴の青い煙。急速に[illegible]

（又は暗く。）

第二幕

第一場

人物

喬生。

淑芳。

金蓮。

張老人。

時

前幕から一週間ばかり後の細雨の夜。

所

前幕に同じい。が、奇麗に室が片づき、山水の円い額などが懸り、寝台には青い（又は紅い）寝帷が掛つてゐる。

喬生、戸口を出たり入つたりして、そはそはと落ちつきのない様子でゐる。

喬生。（室へ入つて）まだ來ない！　どうしたんだらう？　もういつもの時間なのに。（戸口へ行つて暗い往來を見廻して）雨が降つてゐるから遅れたのか？　——もしかしたら、今夜は來ないのぢやないか？（打ち消して）いや、そんな事はない。あの人に限つて約束をちがへるなんて事は考へられない。此の一週間でもの、一日だつてちがへた事はない。それに、あんなに固く今朝約束して行つたんだ。（すぐ又不安になつて）然しおそい！　實におそい！　どうかしたら、急に身體の工合でも悪くなつたんぢやないかしら？　そんなら、金蓮が何とか云つて來るだらうに。……いや、あいつも來られない位悪いんぢやないか？　——湖西の方へ行つて見やうか？……だが湖西ツてばかりで、どこら邊だかまるきりわからない。それに、出かけたあとへでも訪ねて來たら行きちがひだ。（突然新たな不安に襲はれて眼を見張つて）もしかしたら、途中で悪者にでもつかまツたんぢやないか？　ああして、若い女が毎晩おそく二人で歩いて來るんぢやあ、全く危険だ。ああ、どうしたらいいだらう、もしそんな事があつたら？（強く胸を叩いて）馬鹿！　何を餘計な取り越し苦勞ばツかりやつてゐるんだ！　喬生の馬鹿め！　馬鹿め！　落ちつけ、落ちつけ、もツと落ちつけ！（室へ入つて來て、下腹へ力を入れて腰かける。が、又たまらなくなつて髪を掻く。）まるで地獄だ。來さへしてくれれば、こんな苦しみにこんな事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んでッちまふんだ。來ないうちは、てんで解決がつかない。
鐘が遠く鳴る。喬生氣づかない。二つ目へ來て初めて氣がつく。

喬生。あッ、鳴つてゐる。鳴つてゐる。どうしたんだ！ さつきもう鳴つたぢやないか？ あれは聞き違ひだつたか？ それとも幻聽か？ おれは氣がちがひ出したのか？……………（又耳を澄ます。途端、三つ目の鐘ひゞく。）あッ、やつぱり鳴つてゐる。鳴つてる。（いきなり戸口へ飛び出して行く。）

奧から金蓮、前幕どほりの牡丹燈籠を持つて現れる。つゞいて淑芳。——今夜は各々彩りの傘をさしてゐる。喬生、雨の中へ出て彼女の手を握る。

淑芳。あら、お濡れになつてよ。（傘を差し出して彼を入れる）。
喬生。なに濡れたつて。
淑芳。風邪でもお引きになつては……。
喬生。あなたこそ、雨で大へんだつたでせう？
淑芳。いゝえ。——お待ちになつて？
喬生。とても。
淑芳。そう？

金蓮燈籠を消し、三人室へ入る。喬生、淑芳を寢臺へ腰かけさせる。

金蓮。（喬生へ）御酒は御あがりなさいます？
喬生。少しどうかつけて下さい。こんな濕つた晩には酒が欲しい。
金蓮。はい。（台所へ去る。）
淑芳。あなたは、前から御酒を御あがりになつて？
喬生。もとはちつとも飲まなかつたんです。でも、いろんな不平の味と一緒に酒の味を覺えたんです。此の頃は又、戀に醉ふと一緒に醉ふのを知つて來ました。
淑芳。（彼の肩を輕く打つて）口上手なかた！
喬生。いや、ほんとです。僕は生れて初めて生活に醉ふ事を知りましたよ。實際僕は幸福だ。變に幸福すぎて、何だかこれでいゝのかつて氣もちがする。
淑芳。ほんと？
喬生。何だか墮落したやうな氣もする。
淑芳。墮落？
喬生。えゝ、——あなたが來て下さるやうになつてから、御蔭で室ぢうが奇麗になつて、こんなに額や帷まで懸るやうになつて、少し僕の社會に對する不平の氣もちが鈍つて來たやうですよ。
淑芳。（笑ひながら）まアなさけないかた。——でも、そんな時も必要ですわ。長く闘つていらつしやる爲めには。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。僕は、こんな時期が自分の身の上に起らうとは、今まで夢にも考へませんでしたよ。此の頃、矢鱈、思ひも寄らなかつたいろんな事が思ひついたり、感じられたりして困ります。まるで、どこからか大きな白い蛾でも飛んで來て、僕の頭へ矢鱈卵を生みつけて行くやうに。

淑芳。どんな思ひも寄らない事？

喬生。たとへば——いや、そんな事を口にするのは馬鹿々々しい。

淑芳。仰つて？

喬生。云ひません。

淑芳。どうぞ仰つて！………あたし、あなたの考へてらつしやる事を伺ふのが、何よりのたのしみなんですもの。

喬生。でも、男には口にしていい事と、よくない事とあります。

淑芳。そんなによくない事？

喬生。そう悪い事でもないでせうが……。

淑芳。ぢや話して、——ね。ね。（見あげながら彼の胸をたたく。）

喬生。（思ひ切つて）そんなら云ひませう。僕ね、子供が欲しくなつちやツた。

淑芳、おどろいたやうにうなだれる。

喬生。（彼女の手を握りしめて）あなたの生む子供なら、どんなに可愛い顔をしてゐるでせう。きつとあなたに、そして少し僕に似てゐますよ。そんなあなたを小さくしたやうな奴が出て來たら、僕はもう可愛くて々々、きつと食べるやうに大事にするな。

淑芳默つてゐる。

喬生。（情熱的につづけて）どうしてこんな考へが頭の中へ這入り込んで來たんだか、わからないんです。早くお父さんになりたいなんて、まだ若い男の癖に、全くなんておかしな空想だらう。………ね、變でせう？（彼女の顔を覗き込む。）そしてにかく淋しい顔つきにびつくりして）アツ淑芳さん！………。

淑芳いそいで顔を蔽ふ。

喬生。（彼女の肩へ手をかけて）どうしてそんな顔をするんです？

淑芳、再び泣き始める。

喬生。（再びびツくりして）どうしたんです？　僕の言葉が氣に障つたんですか？

淑芳。（首を振つて）いゝえ。

喬生。ぢやあ何故？

淑芳。………。

喬生。何故？

淑芳。どうぞ何にも聞かないで。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。(アッケに取られながら) 子供なんぞ欲しくないんですか?

淑芳。いゝえ。

喬生。おや、そんな事を云ふ僕がいや?

淑芳。(首を振つて涙聲で) いゝえ、いゝえ。……あたし、どんなにうれしいか——。

喬生。(途方にくれて) ちッともわからない!

淑芳。でもあたしは子供なんか——。

喬生。出來ないッて云ふんですか

淑芳。えゝ、その前にあたし死んで……。

喬生。(抱きしめて) 何を馬鹿な……何故あなたが死ぬんです? どうしてそんないやな事を云ふんです?

淑芳。(涙に濡れた顔を手帛で拭きながら) 生みますわ、生みますわ。きつとあなたに似た赤ちゃんを——。(突然笑ひ出して) あたし、姉が前に赤ちゃんを生みそこなつて死んだのが頭に殘つてゐるもんですから、ついあんな口をすべらせてしまつて、どうぞ勘忍してね。

喬生。何だ! その爲めですか。

淑芳うなづく。

喬生。なに勘忍も糞もあるもんか。でも、隨分あなたは子供らしいんですね。お蔭ですつかりびつくりしちやつた。

淑芳。濟みません。……(喬生の顔を見ながら) 子供はお好き?

喬生。好きです。

淑芳。おや、前の奧さんの時もそう御思ひになつたんでしよ?

喬生。子供を欲しいつて?

淑芳。えゝ。

喬生。まるでない。

淑芳。うそばつかり。

喬生。うそぢやない。

淑芳。だつて、隨分奧さんを愛していらしつたんでせう?

喬生。そりやあ可成り可愛がつてはゐました。でも、不思議と子供を欲しいなんて考へた事は一度もない。

淑芳。きつと御弱かつたから——。

喬生。それはかりぢやない。

淑芳。おやあ、まだ御若かつたから?

喬生。あなたほど若くはない。

淑芳。おや何故? ——うそ、うそ!

喬生。淑芳さん!

途端、少し開いた天井窓から微に風が吹き込んで來て、燭台の燈が消える。室暗くなる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。ア、消えちまッた。

淑芳。風が出ましてね。

喬生。どうしてあんな處が開いてゐたんだらう？　一寸待つて下さい。（火打ち石を探り取つて、打ち始める。）

× × × ×

暫くあいて間もなく、壁一重隣りの張老人が奥から室へ出て、古い本を讀み始める。淑芳達が訪れて來ると、微かに聞える聲に耳をそばだてる。

張老人。又來た。これで一週間、毎晩誰かやつて來ては、おそくまで話聲や笑ひ聲がしてゐる。細君がなくなつてから、いや、なくなる前からも、こんな事はついぞなかつた事だ。一體誰だらう？（土壁のヒビ入つた所へ蝙蝠のやうに吸ひつき、ピッタリ耳を當てる。間。）えゝ、わからん。思ひ切つて、穴をあけて覗いてやれ！（奥へ行つて、長い錐を持ち出して來る。それを壁のキズの一部へ直角に揉む。喬生達に氣づかれないやうにゆッくり、用心深く。――やがて穴を穿つて覗いて見る。）駄目だ。もっと大きくしなくちやあ………。（更に熱心に揉みひろげる。再び覗く。）

丁度喬生の室の燈が消えてゐる

張老人。眞ッ暗だ！

やがて燈がつく。と、喬生の傍に、淑芳の着物を着た骸骨が立つ。

喬生。もう秋らしい風ですね。（窓を閉める。）

女の骸骨、繭燈を身體で蔽ひながら見あげる。

張老人。あッ！（叫んで尻餅をつく）

暗黒。

第二場

人物

張老人。

喬生。

時

前場の翌朝早く。

所

前場に同じい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雨後の朝のほがらかな外光。が、喬生の家の戸口は閉り、彼は暗い寢臺の中にグツスリ眠つてゐる。

張老人、自分の家から出て彼の家の戸口に立つ。手をかけて開かないので、力任せに叩く。

張老人。(同時に呼ぶ) 喬生さん! 喬生さん!

喬生起きない。老人繰り返し呼び又叩く。

喬生。(やがて首をあげて) どなた?

張老人。わしぢや。早くここをあけて下さい。

喬生。(獨語) 張ぢいさんの聲だ。――おお、ねむい。……(戸口へ向つて) 何か御用ですか?

張老人。用とも。大至急の用ぢや。

喬生。大至急?――朝ツぱらから何だらう。……えゝ、面倒くさいな。(戸口へ) 今あけます。(不精々々寢衣のまま起きて行つて戸をあける) 御早う!

張老人。御早う。あんたにはね。……が、わしには一向早くない。わしは、昨夜ツから碌々寢てないんぢや。

喬生。やつぱり?――(氣づいて、急に笑ひ出して) それぢやあ早過ぎますよ。

張老人。早過ぎるどころか、(指で數して) 恐悶々々してゐやうもんなら、あんたは破滅ぢや。

喬生。え?

張老人。(大聲で) 破滅ぢや。

喬生。(アツケに取られて) 何の事です、そりやあ一體?

張老人。今話す。その前ここを閉めておくから、あんた、そこの窓を開けなさい。おお、その昨夜の窓ぢや。

喬生ギクリとして、默つて天井窓をあける。老人戸口を閉める。

張老人。喬生さん、まあ腰をかけなさい。

喬生。おぢいさんこそ。(椅子を勸める。)

張老人。わしも掛ける。

老人は椅子へ、喬生は寢臺へ掛ける。

張老人。わしはな、喬生さん! 今日は忠告に來たんぢや。

喬生。(俯れて) わかつてます。

張老人。わかつてる?

喬生。(跪いて) おぢいさん、いつも御懇意にしてゐるあなたに隱してゐた事を勘辨して下さい。僕にもあまり不意で、それに、散々御世話になつた女房がなくなつて長くもない事で、どうも云へなかつたんです。

張老人。何だ、そんな事か。わしはそんな小言を云ひに來たんぢやな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。いや、これも云ひたいが、もつと恐ろしい事は他にある。

喬生。恐ろしい？

張老人。とても恐ろしい問題じや。

喬生。あの婦人についての外、僕は今恐ろしい事は知りません。

張老人。(怒鳴る)馬鹿！　その女が恐ろしいのぢや。

喬生。え？

張老人。あれはただの女ぢやないぞ。

喬生。(落ちついて)無論有りふれた女ぢやありません。

張老人。(業を煮やして)そんな事を云つてるんぢやない。あんたとも あらう若者が、何てたぶらかされかたぢや！

喬生。(愈々落ちついて)おや、どう云ふ女です？　ヴアンパイアだとでも仰るんですか？

張老人。ヴアンパイア以上ぢや。骸骨ぢや。肉も血も吸ふ女骸骨ぢや。

喬生。えつ？

張老人。さうとも知らず、毎晩あんたは、、、、、、、、、、、、ゐるんぢや。

喬生。(キッとして)いくら氣もちを悪くしたつて、あまり變な言葉はよして下さい。そんな譬喩や皮肉は古くてまづ過ぎます。

張老人。(喬生の腕をつかんで)喬生さん！　何の皮肉や譬喩なもんか。正眞正銘の事實ぢやぞ。

喬生。事實？

張老人。此の二つの眼が證據ぢや。

喬生。ゆふべ窓から見たつて仰るんですか？

張老人。窓ぢやアなく、壁へ穴をあけて覗いたんぢや。さう云ふれしの不禮はあやまる。が、わしは一つもうそを云ふわけには行かん。

(壁のところへ行つて穴を示して)これぢや。

喬生。(つゞいて行つて見る。)なるほど——。

張老人。ここから覗くと、あんたは燭臺へ火を點けて、骸骨に着物を着た骸骨が立つてるんぢや。それからあんたが、「もう秋らしい風ですねっ」とか何とか云つて窓を閉めると、骸骨も一緒に見あげるぢやないか。わしはそれを見て、思はずあッと云つて尻餅をついちまつた。

喬生。さう云へば、あの時あなたの室で何か音がしたと思ひました。

張老人。それで疑ふ餘地はあるまい。

喬生。(疑惑に堪えないやうに)ただ、信じられない事實だ。あまりに信じられない事實だ。(言葉を變へて)僕は決してあなたの言葉を疑ひはしません。あなたはいつでも正直だ。あなたがさうまで仰る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のにうそだとは思へない。が、僕はあなたの眼を信じていいか知ら。

張老人。年寄りの眼は信用出來ない、ッて云ふのかな？

喬生。いや、然し幻覺では……？

張老人。馬鹿な！ 七十年間、一遍も不名譽は犯した事のない此の眼ぢや。

喬生。が、なぜ僕には骸骨に見えないだらう？

張老人。（笑つて）はははは……幽靈や妖怪と會つてゐる時は、他人の眼のほうがずッと確かぢや。戀人と會つてゐる時も大抵そうぢや。戀人と幽靈と重なれば、いよいよ他人の眼の方が確かぢや。

喬生。でも、あの人は死人にしては生き々々し過ぎてゐます。生きてゐる女にだッて、あんなに生き々々した自由な人は滅多――いや、一人もゐない。もしあの人が死人なら外の女は死人以下だ。

張老人。それが惚れた慾目と云ふ奴ぢや。いや、此のわしにも昔隨分覺えがある。惚れて了ふと、誰でも相手にばかり生きてゐるやうな氣もちになる。從つて、相手の女が矢鱈生き々々して見えるんぢや。

喬生。そればかりぢやありません。あれは確かにあの人の特色だ。

張老人。もし特色や個性なら、死んでからだッて通用せんかな？

喬生。あなたは心理描寫の上手だ。いや、そんな事を云ふのは、みんなよくあの女を御存じないからだ。

張老人。喬生さん！ もしほんとにそんな素ばらしく生き々々してゐる女だつたら、その點も曲者ぢや。此の不自由な今の世の中に、然も女で、一體そんな自由な生き々々した者がゐると思ふかな？

喬生。それは全くです。僕もその點はびつくりしてたんです。（不意に思ひついたやうに頭を兩手で抑へて）あッ！

張老人。どうしたんぢや、喬生さん！ （彼の肩へ手をかける。）

喬生。（しばらくして蒼い顔をあげて正面觀客席――を見つめて）そう云へば、まだわからない事がある。あの、子供の話をした時の樣子が實におかしい。赤ん坊を欲しいッて聞いて、なぜあの人はあんなに泣き出したらう？ いや、その前に、あのおそろしい淋しい顔つきは一體どうしたんだ？ あんな顔つきを、今までまだ一度も人間の表情に見た事がない。そいつは、死人の爲め赤ん坊を生む可能性がないからぢやなかつたか？ おお、また その前にあたし死んで……ッて云つたぞ。いよいよ變だ そう云へば、あの盆の晩初めて牡丹燈籠をさげて來て、それから毎晩同じやうにさげて來るのも、鐘の音を合圖に來るのも、自分の家をどうしてもハッキリ教へないのも變だ！

張老人。それ御覽。そいつは無論みんなあの女の死人の證據ぢや。そんな死人と一緒にふざけてゐれば、あんたの生命は忽ち燃え盡きて了ふぞ。今のうちわしが見つけてよかッた。もう少ししたら、もう取り返しのつかない事になるところぢやつた。

喬生。（つづけて正面を見つめて）と、あれは一體何者だ？　やつぱり鄂州の判事の、今は死んでゐる娘の湘芳か？　それともどこか外の家の女か？

張老人。ほう、そんな事を云つてゐたか？　そして、今はどこにゐるとなつてゐたな？

喬生。湖西。

張老人。湖西か。それより詳しくは云はんかな？

喬生。云ひません。

張老人。ふむ、………いや、そう云ふ言葉にまづうそはあるまい。が、もしなほハッキリ知りたければ、鄂州までは、とても遠くて駄目ぢやが、何なら今日湖西まで行つて調べて來ればいい。

喬生。（老人の方へ向いて）おぢいさん、行つて來ます。きッと行つて來ます。そうしなければ、僕の氣もちはとても靜まらない。

張老人。ぢやあ行つて來なさい。ぢやが喬生さん、誰の幽靈にしても幽靈に變りはない。かうハッキリわかつた上は、もう今夜から決して、そんな者に會つちや駄目ぢやぞ、いゝかい！

喬生。え、——（口ごもつて）が………。

張老人。が——何ぢや？

喬生。が、も一度會つてきいてみたい

張老人。何をきくんぢや？

喬生。どう云ふわけで、死人のくせに僕のところへなぞわざわざやつて來たか？——あれは自分では、おぢいさんと一緒に僕が歩いてゐるところを見て、話をきいて、思ふやうになつたッて言つてるんです。が、ほんとにそうなのか？　それともそいつは作り事で、まるで僕をだましてゐるのか？　だましてゐるとすれば一體何の爲めか？………

張老人。馬鹿ッ！——そんな事が何の足しになる？　そんな事を云つて今夜會ひでもしたら、あんたはどんな目に會はされるかも知れんぞ。多分もう今夜限り生命を取られちまふかも知れんぞ。それでも眞實がわかるッて云ふならまだしも、今迄でさへ何にも知らずに欺されて來たあんたぢや、幾ら會つたッて、向ふが云ひくるめやうとさへ思へばどうして實を吐かせる事なぞが出來る？　問題は簡單ぢや。あんたは、あの女について一番大事な點を欺され、又は匿されてゐたんぢや、そして蛾が蝶の身體でも引つ張るやうに、ぐんぐん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

死の穴のはうへ引きずられてゐたんぢや。

喬生。(俯れて)うむ、そうかも知れない。

張老人。會ふ限り、あの女はあんたの破滅ぢや。あんたのまだ若い生命と仕事と才能を大事に思つたら、今後一切あんな者に會つてはいかん。思想はちがふが、わしはもとから深くあんたの人となりを愛してゐるんぢや。あんたが不遇で不幸であればあるだけ、年上の友人の一人としてしんみに増して愛してゐるんぢや。こんな事でわしはあんたを亡ぼしたくない。絶對したくない。な、わしの眞ごゝろを汲みなさい。

喬生。おぢいさん……ほんとに御禮を云ひます。

(固く老人の手を握る。)

幕

第三幕

第一場

人物

喬生。

時

前幕の午後

所

湖心寺。(月湖の中に建つ。)

正面に「湖心寺」と大書の、蒼古とした金地の扁額が懸る。

喬生、下手から疲れ切つて歩いて來て、寺の階段にグッタリ腰をおろす。

喬生。(獨語)疲れた。(額へ手を當てて)隨分歩いた。——だが、どうしてもわからない。長い堤の上、高い橋の下、白花莊の軒並み……朝から今まで、人に訊いたり探したりして散々歩き廻つたが、てんで知れない。みんな、そんな女の名前さへ聞いた事がないつて云ふ。お寺も隨分訪ねた。だが、此の最後の湖心寺にもそれらしい墓がないとすると、もう探す場所はどこもない。——と、淑芳だの湖西だのッて云ふのは、あれはみんな出鱈目か？　そいつが出鱈目なら、ほかの事も一切出鱈目の出まかせか？　一生に一つッきり出來ないつて云ふほんとの戀、……そう自分が考へてゐたのは、一切欺瞞だつたのか？　自分の幻想と自惚れに過ぎなかつたのか？　空へ浮んだ蜃氣樓だつたのか？　おお、どうかそうでなくてくれ。かう

なれば、たとへ幽靈でも骸骨でも何でもいゝ。彼女が自分を思ひ自分が彼女を思つてゐた事だけは、どうかほんとであつてくれ。おれの考へまで幽靈だつたなんて笑はないでくれ。此の戀愛の眞實だけは否定しないでくれ。でなかつたら、おれはあんまりみじめだ。（頭を垂れて兩手を揉る。）――だが、どこにも事實が見つからない。その限り、おれはどこまであの人の眞實を、あの戀愛の眞實を信じていいかわからない。おお何て地獄だ！　もしかしたら、これはおれの信じる力が足りない爲めか？　もしあのおぢいさんの言葉が間違ひだつたら？……いや、そんな事はあり得ない。湖西にそんな名前の女が存在しない事が、いよ〳〵事實を證明してゐる。――が、一體何の爲めにあの女はおれの前へ現れて來たんだ？　おれの精神と肉體の薄弱の證據の爲めにか？　その嘲笑の爲めにか？　そんなら、それは一體何の爲めに？　（間。頭を抑へて）氣がちがひさうだ！　生れて今まで、おれはこんなに滅茶苦茶に混亂させられた事は一遍もない。おれは一度に、物を考へる力をすつかり失して了つたやうだ。認識の根柢からグラツキ出したんだ！　（立ちあがつて）が、これ以上どうする事も出來ない。おれの力では駄目だ。仕方ない、歸つておぢいさんに報告して意見を聞かう。（二三歩歩き出して、急に立ちどまつて）待て、まだここの位牌堂を見てゐない。どうせそんな事に何にもありつこはないが、おぢいさんに聞かれた時の用意に、ともかく見ておかう。（戻つて、階段をあがる。それから前面の扉をあけて入る。）

しばらくして出て來る。

喬生。ない。――どこに此の寺の位牌は置いてあるんだ？

上手のモ一つの戸（正面へひらくやうになつてゐる）をあけやうとする。あかない。喬生、力一杯把手をひねる。と、急に獨り手のやうに大きな戸が左右へひらく。それは薄暗い小室で、その中に一個の旅櫬（埋葬せずに假りに寺で預つておく棺）が据ゑてある。その正面へ白紙が貼られ、「故奉州判事女淑芳字麗卿之柩」と大きく書きつけてある。紙の横手に大きな美麗な雙ひ人形を一つ立てかけ、上へ前幕の牡丹燈籠が懸る。

喬生。（思はず叫び聲をあげる）あッ――。（自分の眼を疑ふやうに、又確かめるやうに讀む）故奉州判事女淑芳字麗卿之柩……。

喬生。（つゞいて）おお、燈籠！（一時凝然。やがて氣づいたやうに、いきなり人形を取りあげて見る。その背中を返して、書いてある字をよむ）――金蓮！（突然そこへ抛り出して、殆んど夢中に階段を駈けおりる。そこで再び無意識に立ち留つて、靜かに光つてゐる紙や燈籠を見あげる）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。やつぱり死人か！　死人と夢中に戀をしてゐたのか？　こんな所にゐたのか？………何ておそろしい燈籠だ！（頭を抑へて走り去る）

燈籠かすかに動く。　　ゆつくり幕（又は暗轉）

第二場

人物

張老人。

喬生。

淑芳。

金蓮。

時

前場の夜。

所

第二幕に同じい。

張老人。（家で喬生を待ちあぐんで歩き廻つてゐる。獨語）また戻つて來ん！　幾ら四明山まで距離があるにしても、もう戻つて來ていい時間ぢや。あんなにいそいで飛んで行つたんぢやから。——生憎道人が留守だつたのぢやないか？　そんならそれで、明日又出なほすとして、早く戻つて來ればいいのに、いつまでも待つてゐるんぢやないか？　それとも、昔から頑固の評判の高いあの道人の事ぢや、もしかしたらきいてくれなかつたのぢやないか。さうだッたらコトぢや。戻つて來る途中で、きッとあの髑髏達に取ッつかまるにちがひない。取ッつかまつて、抱きつかれたり泣かれたりしたら、幾ら逃げやうと思つても、若い男は又へタへタになるに定つてゐる。さうなつたら、もう今夜があれの最後ぢや。自分の苦心も水の泡ぢや。可哀そうに、あの將來を持つた男をどうか助けてやりたい。おお神仙や三千の諸佛！　此の年寄りの身體に換へて、どうかあの若者を救つてやつて下さい（跪いて祈る）

張老人。（しばらくして立ちあがつて戸口へ行き、そとを見る。）また見えん。まつたくどうかしてゐる。もうそろそろ幽靈達の訪れて來る時間ぢや。來たら、いよいよ取り返しがつかん。（肝癪を起して）ええ、若い奴つて何て年寄りに氣を揉ませる畜生ぢやらう！（腕を振つて）若いものなんか、いつそ一人殘らず此の世の中から消えてな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くなッちまへ！（次の瞬間、堪へ切れず暗がりへ向つて呼ぶ）喬生さん！　喬生さん！……（耳を澄ます。）

やゝ遠く五位鷺の聲。

張老人。（愕然として）あの聲は何だ？

再び五位鷺が答へる。

張老人。五位が鳴いてるのか？　不吉な鳥ぢや。ああ、もう駄目か！（絶望して戻つて來て椅子へ倒れかゝる。）

喬生、その時下手から、自分の閉ぢた家の前を駆け抜けて來る。

喬生。（戸口へ立つて、渇いたかすれた聲で）おぢいさん！

張老人。（聞えずに、頭をかゝへて呻く）駄目か！

喬生。（飛び込んで老人の肩へ手をかけて）おぢいさん、歸りましたよ。

張老人。（頭をあげて）おゝ、喬生さんか！（うれしさの餘り抱きつく。）

喬生、もたれながら荒い息を吐く。

張老人。おゝ、息を切らして。

喬生。一所懸命飛んで來たもんで……。

張老人。そうか！　わしも心配し切つてゐたところぢや。——道人はゐたか？

喬生。ゐました。

張老人。祈禱はして貰へたかな？

喬生。貰へました。

張老人。おお、それはよかつた！

喬生。護符もくれました。そら。（二枚の朱の護符を懐から出して見せる。）

張老人。（表の字をよんで）四明山、鐵冠道人。……まちがひなく道人の護符ぢや。よかつた、よかつた。（喬生の身體を兩手でさすりながら）で、これをどうしろと云つたな？

喬生。一枚を戸口、一枚を寢臺の上へ貼つておけッて云ひました。

張老人。ぢやアすぐ貼つて來なさい。もう來る時間ぢや。一分間でも愚図々々してゐて貼り遅れたら大變ぢや。サ、ここに糊壺がある！

喬生、壺を持つて飛び出して、自分の家の戸口へ一枚貼り、あけて室へ入つて、寢臺の上へ一枚貼る。又戸をしめて、いそいで老人の家へ戻る。

張老人。（緊張して待つて）やッたか？

喬生。えゝ。

張老人。（腕を擧げて）もう安心ぢや、もう安心ぢや。——さあ百疋の餓鬼でも千疋の鬼でもやつて來い。もう喬生は大丈夫ぢやぞ！

喬生。おぢいさん、みんなあなたの御蔭です。あなたがゐなかつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら、僕はもうとても此の破滅から逃れる事は出來なかつたんです。
張老人。何がわしの力なもんか。みんなあんたに生きられる運があつたからぢや。ぢやが、その運の手傳ひが出來たかと思ふと、わしはほんとにうれしい。
喬生。道人は、僕を見るなり、何もきかずに、おお、お前は何て死の影の濃い奴ぢや、ツて云つて、臭い物でも臉へ來たやうに、僕の香を一掴みつまんで香爐へ投げ込みました。
張老人。さすがは道人ぢや。………ぢやが、あんたの此の頃の痩せて來た顏つきを見れば、誰だつて少しは感づけるよ。道人は、で、氣もちよく引き受けてくれたか？
喬生。少うし不機嫌のやうでした。そして、もうこれからは決して死人達に會はないつて誓へるか、誓へないなら祈禱はしてやれない、ツて云ひました。
張老人。ふむ、さすが行き屆いてる。で、あんたは誓つたんぢやな？
喬生。え丶。
張老人。まだ外に何か云つたか？
喬生。護符をくれてから、此の後忘れても湖心寺へは行つちやいけない、ツて云ひました。
張老人。それも誓はせられたか。
喬生。え丶——(感激的に)僕はほツたツて、どうして二度とあんな所へゆくもんですか。
張老人。そうとも。
喬生。(決心的に)これからは、僕はほんとに生れかはつたつもりで又生活を踏み出します。仕事もします。此の一週間、あの女の事ばかりで僕は夢中になつてゐました。外の事はみんな忘れちまつて何てザマだ！こんな事は生れて初めてだ。
その時、鐘の音が遠く響きはじめる。
張老人。(喬生を遮つて)鳴つてるぞ。
喬生身ぶるひする。老人と一緒に耳を澄ます。鐘つゞいて鳴る。
二人、別々に緊張し切る。瞬間的沈默。
と、下手いつもの所から金蓮と淑芳が現れる。
金蓮。(燈籠をさげて戸口へ近づきながら、振り返つて)いつも出迎へて下さいますのに、今日はどうしてでせう？(やがて戸口へ行つて)御免下さいまし。(云ひつつ、初めて頭上の朱符に氣づく)。あツ！(あぶなく燈籠を取り落しそうにしながら、うしろへよろめく。)
淑芳。(おどろいて)どうして？
金蓮、無言で片手に朱符を指さし、片手で燈籠を掲げてそこへ叫き

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

りを送る。

淑芳。(叫ぶ)あッ!

二人しばらく顔を見合はす。

淑芳。(やがて呼ぶ。)喬生さま!

老人の家の喬生、さつきからの緊張へ刺戟を加へられて、思はずそとへ驅け出そうとする。

老人あわてて引きもどす。

淑芳。(再び呼ぶ。)あなた!

喬生戦慄する。

淑芳と金蓮、ぢつと耳を澄ます。が、何の應答もないのを見て、再び顔を見合はせ、急に一緒に笑ひ出す。

ほほほほ……。

喬生と老人戦慄する。

金蓮。(淑芳へ)あのかたは、わたし達の事を御存じになつて、怖くおなりなさいましたのねえ。

淑芳。そうよ。(再び笑はうとして、突然顔も身體も痙攣する。そのまま倒れかかる。)

金蓮。お嬢様!(いそいで彼女の身體を片腕に抱きかかへる。)

淑芳、金蓮の肩へ顔を當てて咽び泣き始める。

金蓮。お嬢さま、お泣きなさいますな。決して——

淑芳。でも、——でも長いあひだの思ひがやつとかなつたと思つたのに……。(あとはむせんで了ふ。)

金蓮。ほんとに、死ぬほど御思ひになつた戀ですのにね。(間。)でも、もうこんな物が隔つてあつては仕方ありません。

淑芳。あのかたも中にゐらつしやらないやうね。

金蓮。ゐらつしやれば、こんなに御呼びになるのに出ていらつしやらない筈はありません。

淑芳。(又咽びながら)たつた一瞬間ばかりで……。

金蓮。ほんとに、……でも、又きつと御會へになりますわ。とにかく今晩は戻りませう。

淑芳うなづき、金蓮に扶けられながら去る。

喬生と老人、一言も洩らさず始終を聞く。喬生は自分を忘れて時時苦しそうに手を額へ當く。

張老人。(淑芳達が去つたのを知つて)おお、あんたは救はれたぞ!

(呆然とした喬生を抱く。)

急速に幕

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第四幕

第一場

人物

喬生。
金蓮。
淑芳。

時

前幕から一月足らず後の夜。

所

湖心寺。（第三幕第一場に同じい。）

蒼涼たる半月の夜。淑芳の棺を置いてある部屋から、戸を透して牡丹燈籠の明りが薄く射してゐる。陰氣なふくろふの鳴き聲。
喬生、醉つた足取りで下手から現れる。

喬生。（獨語）とても我慢出來ない。それをやツとかうして酒で我慢してゐる。いや、我慢ちやアなくて胡魔化しだ。飮めば飮むだけ、心

の底ではいよいよ淋しく、いよいよあの人が戀しくなつて來る。そいつを、ただ上ツつらだけ胡魔化してゐるんだ。自分でちやんとそれを知つてるんだから餘計みじめだ！（石ころへ躓いて倒れ、そのままペッタリ坐る）

喬生。おお痛い！——何てダラシのなさ加減だ！ ——だが此の頃の酒の苦さはどうだ！ああ、甘露のやうにうまく、心の底までも胡魔化してくれる酒はないか？ いや、それより、何でもいい、おれを又もとへ引き戻してくれる物はないか。魔術、神藥、文藝、娯樂……何一つおれを救つてくれるものはない。幾ら自分を叩きつけても叱りつけても、てんで駄目だ。死の恐怖？ 破滅？——そんな單語を、幾ら經文のやうに繰り返しても何の役にも立たない。いや、繰り返せば返すほど、餘計戀しい氣もちが増して來る。まるで、脂肉へつけた辛子だ。死だの破滅だのツて觀念がくツつけばくツつくだけ、一層戀愛が魅惑的になつて來る。死よりも強し、ぢやアなくて死によつて強しだ。……（嘆息して）あの晩から、おれはすツかり自分の生活を洗ふ決心をした。女房が死んでから少し取りとめがなくなつて來たおれの生活を、これを機會に新しく建てなほそうと思つた。此際、又あの女から離れて了ひさへすれば立派に出來ると思つたんだ。それかどうだ！反つてあらゆる力をおれはなくして了つた。何の元氣も

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なければ張りもなく、毎日ただ漫々と、白いクラゲのやうにぼんやり暮すだけだ。仕事どころか、食べる事や寝る事さへも時々忘れて了ふ。まるで魂の脱けた殻だ。生きた屍だ。もうあの一週間のあひだに、おれはすッかり自分の生命を奪はれちまッたのか？（不意に追憶して）あの一週間！――ああ、だが、あの間だけはとても忘れられない。まるで噴出のやうな生き〳〵しさと樂しさだ。あの一週間をもう一度持つ事さへ出來れば、おれは一切の物を泥の中へ叩ッ込んでもいい。（急に自分に返つて誰をなぐりつけて）馬鹿め！　誰が一體あの一週間をブチ切つたんだ？　あの朱の護符を貰つて來たのは、そして貼つたのは、一體誰だ？　此のおれの外の何者でもないおやないか？　それにあのおぢいさんのしんみた親切！　おお、それを考へたら、こんな馬鹿々々しい事が考へられた義理か！――ヘッ、何が眞實の戀愛だ？　あの女は、おれを愛してゐるの戀つてゐるのッて云ひながら、實は死の穴へズンズン引ッ張り込んでゐたぢやアないか？　おれにヨリ多く生命を與へる爲めぢやアなく、破滅させる爲めに戀をしてゐたぢやないか？　もしほんとうにおれを愛してゐたなら、どんなに會ひたくたッて、見す見すおれを破滅のはうへなんか引き摺つて行く筈はない。行ける筈はない。然もその大事な點を、あの女はまるきり隠してゐたぢやないか。これが立派な奸計でなくて何だ？　奸計でないにしたところで、妙くも眞實の戀愛である筈がない。幽靈の悪ふざけか、生きてゐる時滿足出來なかつた女の肉欲的執念か？　そんな戀愛に夢中になるたんて然もその眞相が暴露された今になつて、まだかうして思ひ切れずにゐるたんて、おお、何ておれは馬鹿者だ！　今までおれはそんな意氣地無しだつたのか？　おれの今までの自信や思想は、そんな安ッぽい脆いものだつたのか？　それとも、おれはもうすつかり變つた人間になつてゐるのか？（頭をかかへる。いきなり猛烈な思慕に襲はれる。）――會ひたい！――會ひたい！　抱きつくやうに會ひたい！　もう一度麗卿の顔が見たい、あの聲を聞きたい。金蓮の燈籠の、あのほのぼのと暖かな光を眺めたい。その爲めには死んでもいい。もう一度會へさへすれば！――一度だけでもいい！　うむ……。（呻きながら閉へ倒れる）

（しばらくして起きあがつて）一體ここはどこだ！（四邊を見廻す。間。）お寺へ來てゐるのか？　いつの間にこんな處へやつて來たんだ？（階段から上を見上げて）おお、ここは見覺えがある處だ。はて、何寺だつたかしら？（首を傾けて突然愕然とする。）湖心寺だ！――あッ、あそこは棺のある室だ。（思はず上手へ駆け出し、植ゑ込みへぶッつかつて、下手へ向ふ。）

その時、小室の戸が音もなくひらいて、牡丹燈籠を片手に持った銀蠍が現れる。淑芳背後に立つ。

金蓮。喬生さま！

　喬生、ブレーキをかけられた車のやうに立ちどまる。

金蓮。（頭をさげて）まあよくいらッしやいました事。……今御聲がしましたから、もしかあなたではないかしら、それとも又うつつかしら、ッて、お嬢さまと御話してゐましたんですよ。（背後を向いて淑芳に）やつぱりそうでしたわ。

　淑芳うれしそうにうなづく。

金蓮。（燈籠を持つたまま階段を走りくだッて、喬生の手を取つて）散々お嬢さまがこがれてゐらッしやるのに。どうしてあんな薄情な真似をなさいます？　男のかたつて、ほんとにひどう御座いますのねえ。

喬生。（力のない聲で叫ぶ）放して下さい。よして下さい。僕は道をまちがつてやつて来たんです。

金蓮。道を？――でもお嬢さまへの道は、ちッともまちがッてをりませんわ。（笑ひ出して）まア面白い喬生さま。……なぜ又そんな云ひわけを仰いますの？　そんな駄々をこねずに、さア早くいらッしやいましッてば。

（喬生の手を取つて引く。）

　喬生、踏みとどまらうとあせりながら、夢遊病者のやうに引かれて階段をあがる。

淑芳。（いそいそと迎へて、銀蠍に代つて彼の手を取りながら、軽く頭をさげる。）しばらくで御座いましたのね。

　喬生思はず挨拶を返す。

淑芳。あたし、きッと来て下さると思つておりましたわ。切なく思ひながら、でも一所懸命今まで御待ちしておりましたわ。とうとう……。ほんとによく来て下さいましてね。（彼を室へ導き入れやうとする。）

喬生。（聲をふりしぼつて）放して下さい。

淑芳。（静かに振り返つて嫣然と）なぜ？

喬生。なぜでも。――（責め問はうとして真ッ直に彼女を見つめる。が、すぐ敗北して横――看客席のはう――へ顔を向けながら）僕を、あなたはだましてゐたぢやありませんか。

淑芳。（頭をさげて）堪忍してね。……あたし、ほんとに少しづゝうそをついてをりましたわ。でも、それもあんまりあなたに會ひたいばかりでしたの。――御わかりになつてね？　どうぞ堪忍してね。

喬生。だが、なぜあなたはこんなになつてる事を……死んでゐる事を

困したんだ？
淑芳。どうしてそんな事を御きゝなさいます？
喬生。どうして？
淑芳。それより、あなたをこがれたばかりに死んだあたしの事を、なぜ聞いては下さいません？　あなたは奥さんが御ありになり、あたしは無理矢理政略結婚を勧められて……いゝえ、それより何より、世の中の馬鹿げた窮屈な階級の差別なんかに縄のやうに縛られて、どんなに思つたところでとても御一緒になれる道はないと知つて、此の世を怨んで泣き死に死んだあたしの事を、なぜ聞いて下さいません？　でも、死んでも思ひ切れずに、かうして又此の世へあがつて来て御目にかゝるあたしを、なぜ可愛さうとは思つて下さいません？
喬生。（見つめて）ほんとですか、そいつは？
淑芳。今になつて、あたしうそなんぞ云ふと御思ひになつて？
喬生。（唸つて）うむ、……でも――。
淑芳。わかつてますわ。それはそうとして、ほんとにあたしが愛してゐるんだつたら、なぜおれを一緒に死ぬはうへなんか引つ張つて行つたんだ、つて仰るんでせう？
喬生。（強ひてつよく）そうだ。そのとほりです。
淑芳。それはあたしの罪ですわ。如何にも、あたしの若さの誤りと無謀ですわ。その事で御責めになるなら、あたし泣くばつかりですわ。（片手の袖で顔を蔽つて）……どうぞ堪忍してね。あなたを一緒に死なせたいなんて、あたしどうして矢鱈に思ふもんでせう。此の世の中の何よりも愛してゐるあなたを――それどこかあなたの為めになら、あたし二度でも三度でも死にますわ。いゝえ、何十度でも何百度でも。……でも、あたしを死の世界からさへ引つ張りあげた情熱が、その非道の矛盾をあたしに考へさせる事を許さなかつたんです。いゝえ、考へる事はどんなに考へても、あたしの願ひを貫く為めには、どうしてもかうしなくてはゐられなかつたんです。その切ない立場の矛盾を、悪く御思ひにならないでね。（こみあげて来る涙を拭いて。間。）でも、どうしてもあなたが此の世に生きてゐたいつて仰るんでしたら、あたし立派に心を定めますわ。今夜かぎりもう思ひ切ります。……これから後、決してあなたを誘惑したりはしませんわ。あなたのはうから、たとへ又今夜のやうに訪ねていらしつても、もうきツと御目にかゝりません。今まで御目にかゝれただけでせめて満足して、あたしのキリのない慾ばつた心を殺しますわ。キット殺しますわ。でも――でも――今夜一晩だけは許してね。かうしてしばらくぶりで御目にかゝつたり、御声をきいたりして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、あたしとても此のまゝ御返しする事なんか出來ませんわ。あたしを可愛さうに思つて、今夜だけ御話をして明かさせてね。

喬生。(感動させられて)そんなに迄、あなたは僕の事を思つて下さつてゐた……ゐるんですか?

淑芳。(うなだれて)え〻。(又顏をあげて)それが今まで御わかりにならなくッて……?

喬生。(追憶に輝かさせられながら)わかつてゐました。あなたの氣もちがうそだなんては今までも思へなかつた。でなかつたら、どうして僕だつてこんなに苦しんだりするもんですか? でも——でも——今までわからないところがあつたんだ……。

淑芳。今はおわかりになつて?

喬生。わかりました。何もかもわかつた、あなたがすッかり正直に打ち明けて下さつたお蔭で。……(歡喜につつまれて)ああ、やつぱりほんとうの戀だつたんだ。二度と獲がたい珠だつたんだ!(熱情に燃えあがつて淑芳を抱きしめる。)

淑芳。(よろこんで)苦しいわ! ——(喬生を見あげて)おや、今晩だけは話し明して下さつて?

喬生。今晩?——なぜ?

淑芳。(悲しさうに)やつぱり駄目?

喬生。今晩どころか、明日の晩だッて、明後日の晩だッて……。

淑芳。でも——。

喬生。此の後いつの晩迄だッて。

淑芳。でも——。

喬生。死ぬのが怖かつたのはもう前の事です。一遍あなたから離れて見て、僕に取つてあなたがどんな價値のある人かッて事が、それまで考へてゐたよりまだ何百倍價値のある人かッて事が、わかりました。あなた無しにこんな世の中に生きてゐたッて、どうするもんか? 死んで初めて生きるんだ。一緒に死んでこそ、僕達の戀愛は成就するんだ。

淑芳。(見上げて)それほんと?

喬生。ほんと以上だ!

淑芳。あなた!

二人しッかり抱き合ふ。

金蓮。(燈籠を持つて机のはうへ行く。)ではお孃さま。

淑芳。おや、あなた。

喬生。淑芳さん!

淑芳と喬生一緒にそッちへ行く。と、机の蓋自然にひらく。喬生脚を中へ入れる。つゞいて淑芳。——二人中へ這入り込む。と、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

益文静かに自然に降り、喬生の着物の裾僅かばかりを残して閉ぢる。

あと、金蓮ひとり棺側に立つ。瞬く燈籠の光。

金蓮。（正面を向いて嘆息する）ああ、ほんとによかつた。……（間）あたしにも戀があつたら……。

見る見る燈籠の光消える。室の中しんとした暗黒。

全舞臺静かに暗くなる。

第二場

人物

張老人。

湖心寺の和尚

時

前場の數日後の晝。

所

前場に同じい。

明るくなると、張老人下手から現れる。

張老人。（大字の扁額を見あげて）ここが湖心寺か？——棺の置いてある所はどこぢや？（上手へ行かうとする。）

薔薇色の豚見たやうに肥つた和尚出て來る。

張老人。（頭をさげて）あなたはここの御住持かな？

和尚。（怪訝そうに）そうです。

張老人。それはよかつた。そんなら遠慮なく伺ふが、淑芳つて云ふ娘さんの棺を置いてある室はどこですかな？

和尚。（一寸首をかしげて）淑芳？

張老人。左樣。何でももとの慶州の判事の娘ぢやそうぢやが。

和尚。（理解して）ああ、あの、北のはうへ御轉任の時棺を輸んでおいでになつたかたの？　それなら、そこの室にあります。（指さす。）

張老人。おお、そうか？（いきなり階段をあがつて行かうとする。）

和尚。（老人の袖を引きとめて）もしもし、どこの御老人か知りませんが、一體何の御用ですか？

張老人。（片足は階段へ掛けたまま）用？　わしはな、一寸その部屋を拜見したいんぢや。

和尚。（よろこばしそうに）ぢやア判事さんの御親類ですか？

張老人。いやいや。

和尚。（失望して）御親類ではない？——ぢやア御覧になりたいわけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は？

張老人。それを話せば長くなる。見てから、それは御話しやう。（又あがつて行かうとする。）

和尚。（引き留めて）それは困ります。愚僧は此の寺を預つてゐる責任者です。その承諾なしに勝手に部屋の中へなんぞ入つて頂いては、迷惑千萬です。それに、その部屋には鍵がかかつてゐて、愚僧の鍵がなければ開きません。

張老人。ぢやあ鍵を貸して下さい。

和尚。その前にわけを話して下さい。

張老人。それはあとから………。

和尚。（頑として）いけません。

張老人。（憤慨して）何て面倒な和尚さんぢやらう。實に官僚式ぢや。

和尚。（冷かに）愚僧は、預けられたかたに對して重大な責任を負つてゐますからな。

張老人。（我を折つて）ぢやあ仕方がない。話しませう。わしの隣りに、極懇意な書生と云ふ者がゐてな、それがその棺の主に惚れられたんぢや。そして毎晩會ひに來るのを、わしが忠告して思ひ切らせたんぢやが、どうもやつぱり心底から思ひ切れんと見えて、それからは毎日酒ばかり飲んで暮してゐる。はて困つたもんぢや、ぢやが、なに會はずにさへゐれば、そのうちに思ひ切る時も來るぢやらう、と思つてゐると、三四日前の晩から、不意にどこかへ行方がわからなくなつて了つたんぢや。わしも心配してな、あつちこつち心當りを探して見たが、どこにもおらん。で、こりやもしかしたら、あの娘にたぶらかされてここへ來たんぢやないかと思つて………。

和尚。（遮つて）一寸待つて下さい。一體その御話はいつの事です？

張老人。いつ？

和尚。その三四日前とかッて仰るのは？

張老人。無論今日から三四日前ぢや。

和尚。（吹き出して）戯談ぢやありません。それぢやあ、此の棺の主は夙に死んでるぢやアありませんか。

張老人。無論ぢや。

和尚。何が無論です？失禮ですが、あなたは少し頭がどうかしてゐらつしやる。でなければ、愚僧をからかはうとしてゐらッしやるんだ。どッち道、その御相手は御免蒙りませう。（去らうとする。）

張老人。（慌てて和尚の衣の袖を引きとめて）戯談でもボケてゐるんでもない。正眞正銘の事實ぢや。

和尚。さう仰るのが證據だ。

張老人。（癇癪を起して）えい、ぢやから、わしはあんなにあんたに話

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さんと云つたんぢや。あんたは、死人の取り扱ひが專門家で、おまけに人へは始終地獄だの極樂だのと御說教をして聞かせてゐるくせに、何て想像力の足りない、凡俗的な常識家ぢや。もッとも、ぢやから今時坊さんなんぞが勤まるんぢやらう。

和尙。(怫つて)ぼけてゐるくせに、人を侮辱するのはよして下さい。

張老人。自分を侮辱なさんな

和尙。(稍々怒つて)いよいよひどい侮辱だ。──(思ひ返して)では、あなたはたしかに、その傾城とか云ふ御知り合ひがそこの棺の中に納つてゐたと仰るな。

張老人。たしかとも。これがたしかでなかッたら、世の中にたしかな事は一つもなくなる。

和尙。そうして、もしかしたら今あそこへ來てゐるのではないかと仰る?

張老人。そのとほり。

和尙。(突然腹をかかへて、怪鳥のやうな聲で笑ひ出して)はッはッはッはッ、これはすばらしいロマンチシズムだ。なるほど、此の支那には昔からそう云ふ傳說や物語が澤山ありますよ。愚僧も今まで幾つかよんだもんだ。だが、眼のあたりそれを信じ切り、然かも白晝その信仰を主張して憚らないなんてかたには、愚僧此の年になつて初めて御目にかかりました。いや、これは仲々面白い。立派に話の種になる。どうせ愚僧も用のない體だから、ぢやアそのあなたの古風な白晝夢がほんとかどうか、一つ試みに試驗して見ませうかな。(先きへ立つて階段をあがり、腰へつけた鍵の一つで鍵をあける。)

扉ひらく。

牡丹燈籠、泥人形等、第三幕第一場に同じい。ただ棺の蓋の一部から、傾城の裾が少し現れてゐる。

和尙。(中を一見して老人へ向つて)さア篤と御しらべなさい。

張老人。(室の中を見廻す。)なるほど、傾城の話したとほりの部屋だ。(不意に、傾城のハミ出した着物に目がとまる。)(おや、これは何ぢや?(手に取つて見る。)あッ、あれの着物ぢや。(ぶるぶる慄へながら棺の蓋を持ちあげて覗く。そして)おお!(叫んで尻餠をつく。)

和尙。御老人、どうしたんですな?(つづいて蓋を跳ね開ける。同じく叫ぶ。)あッ。(もう一度見て)これは一體どうしたんだ?若い男が××××つてゐる。(眩暈を感じたやうに、横へよろめいて壁へ倚りかかる。)

張老人。やつぱりさうぢやつた。おお可愛さうに、やつぱり負けて破滅したんぢや。(呻きながら立ちあがつて又棺を覗く。)どつちも、ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

や。

だ生きてゐるやうな艶々とした顔つきぢや。まるで眠つてるやうぢ

和尚。(急に憤慨して) 怪しからん。實に怪しからん。まぎれもない×××。(俄かに老人へ取り縋つて、悲劇的な口調で) 御老人。御老人。後生ですから、どうか此の事は誰へも話さずにおいて下さい。仕方ないから、愚僧は自前で此の二個分の死骸を埋めてやります。その代り、此の事件は一切二人だけの胸へ收つて置きませう。もしこんな事が世間へ知れ渡つたら、それこそ此の寺の、延いて愚僧の評判——(胸を指して) 名譽に係はります。

張老人、彼の辭も耳に入らずに、涙をこぼして死體を見る

和尚。(重ねて) いや、全く盗人に追錢てのは此の事です。此の春、娘の遺言にまかせていづれここへ葬りに來るから、ッて云ふ約束で預けられたまんま、未だに判事さんからは一言の音沙汰もないんです。こりやあテッキリ置き逃げです。葬式料は取れず、こッちから持ち出して埋めるなんて、いや、人間生きてゐるといろんな思ひも寄らない災難に出ッくはすもんです。さすが法律家だけ、こいつ新手の詐欺だ。それだけでもかなはないのに、もし此の上世間の噂にでものぼつた日にやあ、全く泣きッ面に蜂です。愚僧だッて、極樂へ行かないあひだは食べなくてはいけません。その唯一の財源がこんな事になるなんて……。(胸を打つて) 御老人、きッと結束して下さるでせうな。(老人の手を握る。)

張老人。(涙にくれて) おお畜生!

和尚。御老人、御老人!

急速に幕

第五幕

人物

張老人。

和尚。

鐵冠道人。

その附添ひの童子。

畜生。

淑芳。

金蓮の人形。

神將二人。仰々しい鎧を着け、長い戈を握り、眞ッ黒な髯を生やした厳めしい恰好の大男達。

大勢の見物人。

時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

前幕よりも一ヶ月ばかり後。

所

樹を持つた湖心寺墓地風景の前。

幕あくと、正面に數段の嚴めしい壇。その一方の横に、牡丹燈籠
と金蓮の人形。前に頻りに燃えてゐる木組み。
その左右には澤山の見物人。前方の椅子に貴人や豪族や富んだ商
人達、背後に勞働者や農民達立つ。その中に張老人が混る。

豪族A。何しろ今日は珍しい觀物です。

老富商B。こんな事は、私も生れて初めてですよ。

貴人C。（憤懣に堪えないやうに）ああ云ふ、階級の尊嚴を無視する奴
は、實際極刑に處する必要があるです。

貴婦人D。ほんとに、わたし達を侮辱しておりますのね。おまけに死
んでまで貧乏書生とイチヤつくなんて、まア何ていやらしい……。

好色らしい貴人E。（彼女へ向つて）だが、淑芳つてのはすばらしい美
人だそうぢやありませんか。

貴婦人D。（口惜しそうに）何が美人なもんですか。――もつとも、わ
たくしまだ見た事は御座いませんけれど。

勞働者F。淑芳ツて娘、一寸型を破つてるなア。

勞働者G。全くさ、判事の娘なんかにしちやア大出來よ。だが、そい
つを又何だつてこんな大袈裟な裁判にかけるんだ？

勞働者F。（椅子の連中を指して）此の御連中が癪にさはつて堪らねえ
んだとよ。

農民H。ほんとに魏生と淑芳は出て來るだらうかな？

農民I。（迷信的な口調で）鐵冠道人さまの法力だもの。出て來ねえも
んか！

急に群集ざわめき立つ。

そら、道人さまのおいでだ！

道人さまだ、道人さまだ！

上手の、自然にひらいた群集のあいだの道を、和尚の案内で道人
現れる。頭巾をかぶツた嚴しい顔つきの中老人。朱の衣の童子あ
とに從ふ。

群集頭をさげる。

和尚。（壇の横手に留まつて）どうぞ――。

道人、椅子の人々に輕く會釋し、壇にのぼつて椅子にガツシリ腰
をおろす。童子傍に立つ。

和尚。（改めてその下へ立つて腕を拱いて）名譽あるかたがた、並びに

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

悲痛の願ひを御きき下すつて、わざわざ今日四明山から御來臨下さいまして、一同に代り厚く御禮申しあげます。

道人鷹揚にうなづく。和尚横へ退く。

道人、童子に目くばせする。童子かしこまツて、壇上に用意された紙と筆を取つて渡す。道人、紙へ呪文を書いて卷き、默禱して下の火の中へ投げ込む。紙、白煙を立てて燃えあがる。と、忽然として神將二人、煙の中から現れる。

神將。（直立不動の姿勢で、道人へ一齊に擧手の禮をし、粗野なドラ聲で）道人殿、何の御用でありますか？

道人。此の墓地に埋まつてゐる、喬生と淑芳と云ふ二人の若い奴を連れて來い！

神將等。はツ、（聲を揃へて復誦の調子で）此の墓地に埋まツてゐる喬生と云ふ二人の若い奴――きツと連れて來るであります。（機械のやうに直線的に背後の墓地へ去る。）

道人瞑目する。群集、緊張したザワメキと沈默。間もなく、神將等喬生と淑芳を嚴重に鎖で縛つて引き立てて來る。立つてゐる群集、感嘆の聲をあげる。貴族貴婦人達のあいだには、憤怒と痛快の表情。

老張人。（手を擧げて）おお、可哀そうな喬生！

喬生。（老人を認め）おぢいさん！

張老人。喬生！

神將等。（喬生達を壇下に引き据ゑて）道人殿、御命令とほり連れて來たであります。

道人。よし。

神將等、鎖の端を持つたまま横へ退き、並んで胡坐を搔く。

道人。（喬生達へ向つて）顏をあげろ！

喬生。ちやんとあげてゐる。

道人。女はあげておらん。

うなだれてゐた淑芳、喬生と顏を合はせ、道人を見あげる。

忌々しそうな舌打ちが椅子席から響く、「チエツ！　チエツ！」

勞働者の聲。なるほど美人だなあ。

トテシヤンだ。

（羨ましそうな聲）馬鹿に仲がよさそうだな。

道人。こら喬生、お前は何故おれにうそを吐いた？

喬生答へない。

道人。此の前護符を頼みにやつて來た時、もう此の後決して淑芳達には會はんと、固く誓つたぢやアないか？

喬生、相變らず沈默。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道人。湖心寺へも二度と來んと誓つたな。その言葉をどうした？
　喬生やつぱり無言。
道人。（荒く）なぜ返事をせん！
喬生。返事が出來ないから。
道人。なに出來ない？　なぜ出來ん！
喬生。誓ひを破つたから。
道人。ふむ、まだお前にも多少の廉恥心が殘つてゐると見えるな。
喬生。廉恥心なんか、今も昔もあり過ぎるほどある。
道人。（大聲で）いゝうそを吐け！　そんなに有り過ぎるなら、なぜ二つとも誓ひを破つた？
喬生。べつに二つ破つたわけぢやアない。一つ破つたら二つになつただけだ。
道人。減らず口をきくな。そんならなぜ一つ破つた？
喬生。破るつもりぢやアなく、無意識に破つちまつたんだ。その點、濟まない事は濟まないにしても、やむを得なかつたんだ。
道人。自己辯解をするな。
喬生。自己辯解ぢやアない。眞實を云つてるんだ。もつと大膽に云はせて貰へば、無意識でした約束は、無意識の行動まで制限する力はないと思ふ。

道人。馬鹿な云へ！
喬生。馬鹿ぢやアない。今から考へれば、あんな約束をしたのが間違ひだつたんだ。その誤りから、必然ああ云ふ結果が生れたんだ。
道人。（怒つて）ああ云ふ結果？必然？……何と云ふ云ひ草だ！
喬生。僕は、あなたの處へなんか行くんぢやなかつたんです。
張老人。（突然叫ぶ）おお喬生！
喬生。（一寸そッちを見て）張おぢいさん。あなたの親切は今も感謝してゐます。僕はあの時たしかにびつくりして、見苦しく度を失ひさへしたんです。それは、然しあんまり思ひがけない事實を發見した爲めと、此の麗人の心がよくわかつてゐたかつた爲めです。
道人。（一喝する）餘計な人間へ向つて餘計な事をしやべッちやアいかん。
喬生。餘計な事ではなく、答辯のつづきのつもりだ。
道人。變にお前は理窟張つた奴だ。そしてゾンザイな言葉を使ふ奴だ。——すると、結局お前は誓ひを破つた事を惡いと思はんと云ふのか？
喬生。それ自身惡かつたとは思はない。むしろ、自分のほんとうの道へ進んだ事をよかつたと思つてゐる。
道人。馬鹿！　恥を知れ！　恥を！

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

喬生。知つてゐる。だから、あなたへ對しては濟まなかつたと諦めから云つてるんだ。

道人。濟まないだけでは濟まされないぞ。おれは一體、最初からこんな亂痴氣事件に關係するのを好きおやアなかつたのだ。同時に、お前が邪魔なんぞ來てそうな氣がして、書くのが實に氣が進まなかッたんだ。

喬生。お氣の毒さま——だが、そんならそう仰つて下さればよかつた。

道人。誰がお前になんか遠慮するもんか？おれはただ、見す見す前途ある若者の破滅を見るに忍びなくて、誓ひを立てさせて聞き届けてやつたんだ。それをお前は見事破つた。誓ひには必ず酬ひと云ふものが附いてゐる事を、お前は知つてゐるか。

喬生。知つてゐる。身を以て知つてゐる。その酬ひに僕は死んぢまッたんだから。

道人。よく先き走つた物の云ひかたをする奴だ。お前はたとへそれで濟んだにしても、おれへ掛けた手數と面倒はどうする？

喬生。どうとでもしやう。もしそれが大へんあなたに面倒をかけたんなら。

道人。よしよし、おれは充分その酬ひを請求してやるぞ。……が、その外にモウ一つ重大問題がある。今日おれがからして大勢に取圍まれて來た理由は、それだ。お前達——お前と淫婦とは、此の和尚の手で赤殿に墓へ葬られながら、なぜまだ時々此の世の中へ出かけて來るんだ？なぜ雨の降りそうな夕暮や、月の暗い晩なぞ、男女二人連れ立つてそこらをブラつき廻るのだ？そのお蔭で、此の邊一帶の人達か大迷惑をしてゐるのを知らないのか？

喬生。（不思議そうに）迷惑？——どんな迷惑？

道人。お前達を見かけた者は、みんな氣ちがひになるのだ。

喬生。（おどろいて）えッ……ほんとか？

道人。ほんとうとも。——みんなお前達見たいな氣ちがひになるのだ。今までおとなしくて、何でも親や目上の者の云ふ事をきいてゐた娘が、急に猪のやうに云ひつけを聞かなくなつて、どうしても親達の定めた結婚を承知しなくなつたり、自分の好きな男と勝手に驅け落ちしたり、それどころか、女房のある男とくッついて見たり、甚しきに至つては貞淑な細君が夫を振り棄てたり……。

椅子席から證明の叫び聲。そうだ。そのとほりだ。

道人。更に甚しい奴は、お前達見たやうに身分や財産や素性のまるで違ふ男と女と、平氣で一緒に同棲したり……。

椅子席の叫び聲。そうだ。そのとほり

背後の群衆の中から（對抗するやうに）ヒヤヒヤ……（[illegible]拍手。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道人。或はお前達を眞似て一緒に死んだりさへする……。

椅子席から興奮した聲々。全く怪しからん。

秩序紊亂だ。

風俗壞亂だ。

そんな手本を示した奴は、眞に極刑に處する必要がある！

貴婦人達の聲。ほんとにわたし達の面よごしですわ。

わたし達共同の敵ですわ。

勞働者農民達。(あとへつゞいて) 惚れるに上下の區別があるもんか。

おんなじ人間でえ。

今までが窮屈過ぎたんだ。

無理があるから死ぬんだ！(等。)

椅子席の人々。(その呼び聲に憤慨して) 以ての外の雜言だ。

聞き棄てにならん。

あんた連中があんた事を云ひ出すやうになつたのも、やつぱり喬生と淑芳の手本のせゐだ。

かう騷がれては道人の禪間の邪魔になる。

道人。(人々へ向つて) 靜かに。

なほざはめく。

道人。(神將等へ向つて) 神將達！

神將等。はッ！(飛び立つて、兩側の勞働者農民達へ、戈を指し向ける) 騷ぐとこれだぞ！

勞働者農民達。おれ達ばかりぢやアねえ。その椅子の人達もだ。

椅子の人達のはうが先きだ。

不公平だ、不公平だ！

椅子の人達。おれ達は道人に敬意を表してゐるんだ。

お前達は禪間の妨害者だ。

勞働者農民達。おれ達ア、べつに道人を御頼み申したわけぢやアねえ。だが、ここへ來てゐこいいなら、批評だッて一緒にしていい譯だ。

道人。(荒い聲で) 此のうへ騷げば、神將の武器がものを云ふぞ！

群集急に靜まる。

椅子の人達の滿足そうな呟き聲。それ見ろ！

いい氣味だ！

道人。(つゞけて喬生達へ向つて) そう云ふ淫蕩な亂倫な行爲が、お前達が死んでから、又そうやつてぶらぶら歩き廻るやうになつてから、滅茶苦茶に多くなつたんだ。そこで恐慌を起して、お前達を罰するやうに、又二度とお前達が出て來ないやうに、此の土地の主立つた人達が和尚を使ひにしておれへ頼みによこしたのだ。

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

和尚。(立ちあがつて、馬鹿丁寧にし)愚僧は、此の坐つてゐる寺の名譽の爲めに――その恢復の爲めに、進んで使者の光榮を獲させて頂きました。

喬生。(淑芳と顏を見合はせて)ほう、で、今日からして縛られて、引ツ張られて來たわけか?

道人。そうだ。お前達はその自分達の起した流行病を――熱病を知らずにゐたのか? 迂濶者め! ここの人達は、一口に喬生病だの淑芳熱だのとまで呼んで、赤痢やコレラよりもこはがつてゐるのだぞ。

喬生。知らなかつた。

淑芳。まア、そんなにあたし達の散歩が影響してゐたんでせうか?

道人。(淑芳へ)散歩とは何だ? 支那には、昔から男と女と一緒に街を散歩するなんて習慣は絶對ない事を知らんか? 一體お前が惡いんだぞ。お前が不埒な非常識な事をした御蔭で、此の一切の事件が起つて來たのだ。お前のやうなアバズレ女を生んだのは、此の大支那帝國の最も大きな誤りだ。

椅子席の人達。ヒヤヒヤ。
全くだ!

淑芳。(獨り言ふうに)あたし知つてますわ、裁判官てどんな人か。……あたしの父もやつぱりそうでしたもの。みんな頭の固いわからずやね。

道人。こらッ!

椅子席の人達一齊に喝采する。

道人。(喬生へ)だが、知らなかつたとあれば仕方がない。これからは恐縮して、二度と再び二人で此の世へ現れて來たりしてはならんぞ。いいか?――素直に今までの行ひを後悔するなら、今日は神將に願つて二三十打たせるだけで勘辨してやる。もしきかなかつたりすれば、極刑でなくては濟まされん。

椅子席の人達。二三十位の鞭ぢやあ輕すぎる!

老富商。こりやア全く安すぎる。

道人。(喬生達へ)特別の計らひだぞ。無論異議はあるまい。(童子へ向つて)紙と筆を喬生へ渡してやれ。

童子。はい。(二つを取つて喬生の前へ置く。)

道人。ついでに、二人の鎖を解いてやれ。

童子。はい。(寄つて、喬生の腕を縛つた鎖を、次に淑芳のを解く。)

喬生。(道人へ向つて)どうしろと云ふんです?

道人。證書を書くのだ。これからはもう決して此の世の中へ出て來ないと云ふ證文だ。……そして各々名前を書いて、下へ印を捺すの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。印を持つてゐなければ爪印で勘辨してやる。
喬生。(決然と)肯かない。
道人。(おどろいてきびしく)なに！
喬生。たとへどんな目に會はうとも肯かない。
道人。馬鹿め！——お前は、それほど二人で散歩したいか？
喬生。散歩もしたい。冥土ッて云ふ所は、靜かは靜かだがそれッきりの所で、僕のやうに若くて、然も有り餘る情熱を持つて死んで行つた者には、とても單調で我慢出來ない。いくら不合理や矛盾だらけの世の中でも、僕達にはやつぱり此の世の中こそ世界だ。
道人。幾ら此の世が戀しくても、もうこれからは、どッち道お前達は出て來る事はならん。おとなしく證文さへ書けば、ただお前は餘計な罰を受けずに濟むだけだ。これはおれの慈悲の計らひだ。
喬生。(冷笑して)書かなければどんな罰を受ける？
道人。書かなければ、二人とも地獄の獄屋へ遂つて、永久の水火の苦痛を嘗めさせてやる。
喬生。(急に笑ひ出して)よろこんでその苦痛を嘗める！
道人。(あきれて)馬鹿！……お前はあんまり恐ろしくて氣がちがつたか。
喬生。(首を振つて)決して——。
道人。ぢやあ、お前は、おれのきびしい判決をすると思つて反抗するのか。
喬生。そうでもない。——いや、それもある。が、それより何より僕は自分のした行爲、又蘇らせた影響の一切を惡いとは考へられないんだ。むしろ、大いにいい事だと信じてゐるからだ
道人。馬鹿を云へ！
喬生。そう云ふあなたこそ馬鹿を仰るな。一體僕達の運命を此の世で悲劇に終らせた原因は何だ？、、、、、、でなくて何だ？　馬鹿げた階級の區別や因習でなくて何だ？　その御蔭で、僕達はあたら此の未練の多い地上に生きる事が出來なかつたんだ。その、、、や差別や因習を、僕達の果敢ない散歩が幾分でも破る役に立つとしたら、いや、立つたとしたら、僕達に取てこんな愉快な事はない。これこそほんとの復讐で、又生きてゐるあいだ何の價値のある仕事も出來なかつた僕のせめてもの埋め合はせだ。その愉快と功績を、どうして此の世界の人達の前で讓歩したり否定したりする必要があるもんか？
勞働者農民等。(大聲で)そうだ。そのとほりだ。
喬生、決して讓歩するな。
證文なんか承知するな。
喬生。(彼等へ向つて)勞働者農民諸君！　諸君の手で、どうか此の世よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をほんとの世界にしてくれ給へ！
勞働者農民達。よし、引き受けた！　きッとする！
椅子の人達。何て男だ！
實に不遜極まる奴だ！
おそるべき危險人物だ！
貴婦人。（おどろきの餘り感心したやうに）隨分勇敢な人ね。
人々の聲。極刑だ！　地獄の牢屋だ！——放免だ！　無罪だ！——地獄の牢屋だ！　無罪だ！
道人。靜かに！
神將等、叉戈で背後の群集を脅す。
聲々。神將不公平！　不公平！
道人。（改めて喬生へ向つて）喬生、では、どうしても證文を書かないか？
喬生。書く代り地獄の牢屋の底へ行く。
道人。きッとか？　あとで後悔しても追ッつかんぞ。
喬生。決して。
道人。よし。（淑芳へ向つて）淑芳、お前はどうだ？　お前は女の事でもあり、そんな目に會ふ位なら無論書くだらう。な。　勿論一人だけ書いてもいいぞ。

淑芳一寸考へる。
道人。（童子へ向つて）紙と筆を淑芳へ渡してやれ！
童子。はい。（それらを彼女の前へ移す。）
道人。早速書け。
淑芳。（顏をあげて）もしあたしだけでも書いたら、此の人（喬生のほうを一寸向いて）の水火の罰を許して下さいます？
喬生。（彼女へ向つて咎めるやうに）淑芳！
道人。それは出來ん。
淑芳。おや、あたし達二人はべつべつになりますの？
道人。さうだ。
淑芳。二人とも書かなければ？
道人。どつちも永久の火責め水責めだ。
淑芳。いゝえ、それより二人一緒にゐられます？
道人。牢屋で苦しむなら、一緒だらうが何だらうが勝手だ。
淑芳。まアうれしい！（いきなり喬生へ抱きつく。）
喬生。（抱き返しながら）一緒に行つてくれる？
淑芳。行きますとも。一緒にさへゐられるならどんな處へだッて。
堅密な抱擁。
椅子席と背後の群集を通しての唸り聲。「おう——。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

椅子席の聲。(暫時して) 氣ちがひだ！

勞働者等。えらいぞ！

道人。(神將等へ向つて) あきれ返つた奴どもだ。二人を打ちこらせ！

神將等。はツ、二人を打ちこらすであります。(いきなり腰に挾んでゐた節竹の鞭を拔いて、二人を一つの塊りの如くに打ちまくる。)

張老人。おお……。(見るに堪えられず卒倒しやうとする。)

群集、老人の身體を支へる。

喬生と淑芳、見る見る、、、く染められて行く。一緒に微かに唸る聲。

道人。(やがて) よし、やめろ！

神將等。はツ、やめるであります。(、、、を收める。)

道人。(倒れ呻いてゐる二人へ向つて) どうだ、苦しいか？ 地獄の責苦は、だが、これどころの騷ぎではないぞ。少しは懲りたか？ 懲りたら書け！ 今書いてもおそくはないぞ。

淑芳。喬生、どこ迄も——。

喬生。おお、いつ迄も——。

貴婦人の、困惑と憤懣を混交した叫び聲。

まア——！

道人。やむを得ん。(神將へ向つて) 地獄の獄屋へ二人とも曳け！

神將等。はツ、地獄の獄屋へ二人とも曳いてゆくであります。(再び大股に二人へ近づいて、音を立てながら鎖を掛ける。)

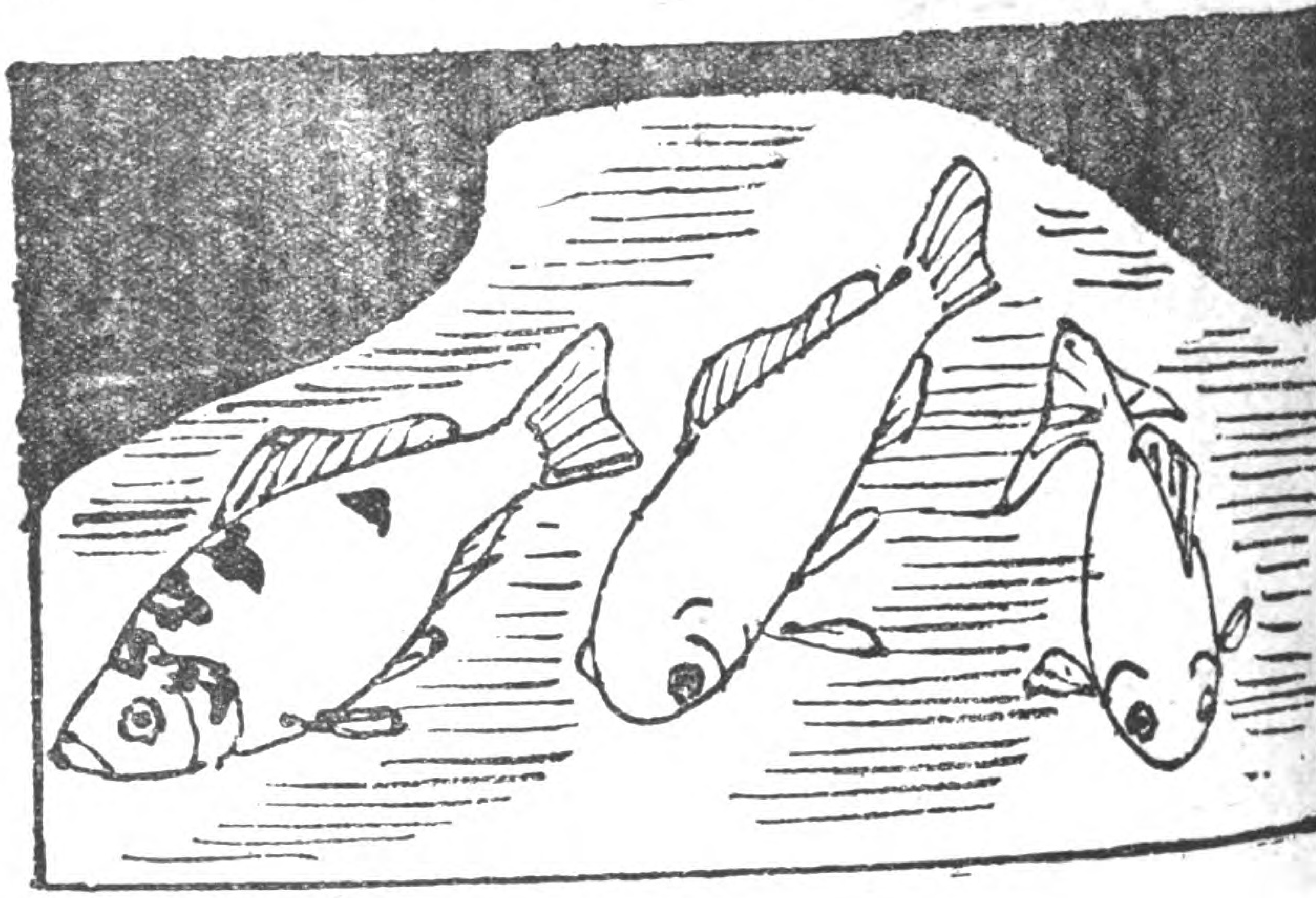
道人。(童子に) 此の不都合な人形や燈籠を燒き棄てろ！

童子。はい。(牡丹燈籠と金蓮の人形を火の中へ投げ込む。)

燃えあがる火と煙。群集の叫ぶ聲の中に——幕。

1927・12

作者附記。或る讀者は、剪燈新話中の『牡丹燈記』と比較されん事を。了意、圓朝の如きは敢て云はず。



明日は天氣

岸田國士

夫
妻
宿の女中

一

眞夏――雨の日

ある海岸の旅館――海を見晴せる部屋。

夫（腹這ひになり、泳ぎの眞似をしてゐる）
妻（繪端書を出す先を考へてゐる）
女中（はひつて來る）
夫（泳ぎの眞似をやめて、新聞を讀んでゐる風をする）

女中。ほんとうに毎日お天氣がわるくつて、御退屈で御座いませう。
妻。え〻。でも、海へは何時でもはひれるんだから、かうして、靜かな處で、雨の音を聽いてゐるのもい〻わ。どうせ避暑に來たんだから、涼しいのが何よりよ。
女中。それやもう、お涼しいことは、なんて申しましても、お天氣の日よりはね。これで、海岸と申しましても、日が照りますと、なかなか、ぢつとしてはゐられないんで御座いますよ。
妻。さうでせうね。でも、かういふ風だと、お客さまも少いでせう。
女中。はあ、もう、これで、ぼつぼつお引上げになる方もありますんですよ。東京の方も、お涼しいさうで御座いますね。昨今は………。
妻。そんなことはないでせう。あたしたちの來た日なんかは、少し曇つてたけれど、隨分蒸し暑かつたわ。早くどつかへ行きたいつて、忙しいところを逃げ出して來たんですもの。
女中。さうで御座いませうかね。昨晩、こちらの番頭さんが東京へ參りましたんですよ。一寸、用が御座いましたもんですからね。その番頭さんから、今朝、電話で、東京も昨晩から大雨で、浴衣一枚では寒いくらゐだつて申して參りましたんですよ。
夫。おい、君、東京の話はよしてくれ。折角、仕事の事を忘れて、二三日ゆつくり頭を休めに來たんだから……。
女中。おや、とんだ失禮を……。何か御用は御座いませんか。
夫。あつたら呼ぶから、まあ、君は引下つてくれ。
妻。なんですよ、あなたは……そんな無愛想なことをおつしやつて……。
女中。どうも、失禮いたしました。（出て去る）
妻。およしなさいよ、そんなに八ツ當りをなさるのは……。い〻ぢやないの、雨が降つてたつて……泳いでらつしやいよ、そんなに泳ぎたければ……。
夫。雨が降つて〻も泳げ……？　人が見たら氣違ひだつて云ふぜ。
妻。疊の上で泳いでる方がよつぽど氣違ひだわ。
夫。いつそ、東京へ歸らうか。
妻。もう一日ゐて見ませうよ。なんだか、向うの空が明るくなつて來たやうだわ。若しかしたら、明日はお天氣よ。
夫。東京は隨分涼しいさうね。こちらは毎日暑くつて、海へ一度もはひりませんつて、さう、書け、端書に。
妻。あたし、百合子さんに、かう書いたの。──東京はさぞお暑いことでせう。こちらは、朝夕の散歩に袷がいるくらゐにて……。
夫。朝夕の散歩……？

妻。まあの、聞いてゐらつしやい。――漁師がゐるくらゐにて、日中は、海にはいり通しですから暑さ知らず……。

夫。やれやれ……。

妻。二三日の間に、恥かしいほど黒くなりました。

夫。おい。

妻。默つてらつしやい。――今日あたり、船で沖へ出て見ようかと相談をしてゐるところです。

夫。凄いな。そこにある端書、みんな、おんなじ文句か。

妻。大同小異よ。

夫。だれだれへ出すの。

妻。これは百合子さんでせう。それから、これが、母さん。これが、お孝ちやん。これが、お隣の奥さん。これが、叔父のお神さん……。

夫。おれは幸にしてお前と一緒にゐるから、さういふ端書は受け取らずに濟むわけだね。全く、避暑に行く女を友に持つ勿れだね。おや、ほんとに明るくなつて來たぜ。

妻。小止みになつて來たわ。うれしい。

夫。これ、なんていふ泳ぎか知つてるか。

妻。蛙泳ぎでせう。

夫。よし、さうだ。これは……。

妻。それで、やつぱり、泳ぎますの。

夫。泳ぎさ。水府流だ。これが、抜手……。

妻。あたしには、どれを教へて下さるの。

夫。まあ、蛙だね。これが一番樂で、易しい。一寸、此處でやつて御覽。

妻。いやよ、こんなとこぢや……。

夫。稽古をするのにや、此處の方がいゝんだぜ。

妻。いや。

夫。可笑しな奴だな。お前は一度も海へはひつたことはないつて云つたね。

妻。えゝ。

夫。怖がつちや駄目だよ。水に親しむことが一番大事だ。泳ぐ泳がないは別として、波にからだを浮かす時の氣持ちは、これや、一寸、類がないぜ。強いて類を求めれば……。さうさな、おれたちがはじめて戀を語つた日の、あの夢心地……。

妻。キザなことは云はないで下さい。

夫。どうしてキザなことだ。お前は、なんでも、それだからいけないんだ。物事を散文的にしか考へない。なるほど、われわれは、平生、無味乾燥な生活をしてゐた。おれは朝から晩まで、紙とインキ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と算盤の中に頭を突つ込み、お前は、朝から晩まで、縫ひと七輪の間を往復してゐるのだ。おれたちの間に、もう、夢といふものはなくなつてゐた。いや、夢どころぢやない。おれたちは、もう、自分自身の姿さへ見失つてゐたのだ。

妻。………。

夫。たまたま得た僅かの金と、僅かの暇とが、おれたちを、今、あれを見ろ、あの海のやうに、限りなく廣い希望の前に立たせてゐるのだ。おい、聽いてるか

妻。………。

夫。おれたちは、今迄、これほど太陽に憧れたことがあるか、近頃、おれが、これほど物に新鮮をもつたことがあるか。お前も女だ。おれの心の中に、恐らく永遠に消えようとしてゐた情熱が、今、再び、燃え上りつゝあるのを感じないのか。え、感じないのか。

妻。……(ちらと夫の方を見る)

夫。どうして、そんなに不思議さうな顔をしておれを見るのだ。おれは、三日この方降り續く雨の爲めに、氣が狂つたのではない。

卓上電話の呼鈴が鳴る。

夫(平氣で)おれは、電話などに用はない。お前の、あの若々しい……

………。

呼鈴が、更に、けたゝましく鳴り續ける。

夫。えゝい、やかましい。(受話機を取り上げ)もし、もし、なんの用ですか。えゝ、さうです。え、東京から……。東京の誰から……？ 早くつないでくれ給へ。あ、もし、もし、さうです。あゝ、君か、……。なんだ、どうした。え、うん、なあに……そんなでもないさ。

妻。どなた？

夫。小林さ。

妻。小林さん。

夫。いや、いや、そんなこたないがね。馬鹿云ふな。は……。うん、なかなかいゝとこだ。あゝ、海は奇麗だよ。え、あゝ、ゐるよ、ゐるとも……。嬶を連れてちや、臺なしさ。

妻。なんですつて……。

夫。こゝにゐるんだよ。こつちを睨んでやがるよ。

妻。なんのお話……。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫。なんの話だつて聞いてるよ。は……。東京は暑いかい。さうか、昨夕からね……。こつちは、もつと凉しいよ。なに、海は平氣だがね。あゝ、今も出掛けようとしてゐるとこだ。

妻。あたしから奥さんによろしくつて、さう云つて頂戴ね。

夫。へえ、わからないもんだね。そいつあ、大變だらう。今ね、家内から、君の細君によろしくだとさ。うん、適當にやつてるよ。大將は出てるかい。ちえッ、うるせえな。歸る時にや歸るつて、さう云つてくれ。ゐない時だけ追ひ廻すつていふ寸法だね。や、さよなら。え、あ、あ、わかつた。さよなら……。

妻。なんの御用……。

夫。用事なんかあるもんか。なんだ、雨が止んでるぢやないか。さ、今のうち、早く行かう。(慌てゝ浴衣を脱ぎすてる。下にはちやんと、もう、海水着を着込んでゐる)

妻(これもいそいそと座を起ち)そんな風をしていらつしやるの

夫。あたり前さ。海は、お前、すぐそこだよ。脇續きだよ。自動車へ乘つてでも行くつもりか。

妻。ぢや、あたしは……。

夫。お前だつて、それでいゝさ。

妻。だつて、あたし、まだ海水着を着てなくつてよ。

夫。ぢや、早く着ちまへよ。

妻。あなた、外へ出てらつしやい。

夫。それより、海岸に着物を着替へる小屋がある筈だ。そのまゝ持つて行けばいゝ。

妻。人が見てやしない。

夫。愚図々々してると、また降り出すかも知れない。さ、早く……
……。

二人は、あたふたと外に出る。

それが、やがて、梯段を降りてしまつたと思はれる頃、また、急に雨が降り出す。

何處かの部屋で蓄音機をかけてゐる。

その曲に足並を合せる如く、悄然として、夫婦が歸つて來る。二人は、默つて、部屋の中にはひり、思ひ思ひに自分の座につく。何をするでもなく、ぼんやり、空を眺めてゐる。かすかに溜息。

長い沈默。

やがて、夫は、鞄から旅行案内を出して、頁を繰りはじめる。

妻は、枕を持ち出して、寝床の用意をする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫。おい、寢るのはよせ、此の上、お前に寢ちまはれちや、おれはどうしていゝかわからん。

妻。あなたもおやすみになつたら……。

夫。昨夕七時から、今朝九時まで、十四時間ぶつ通しに寢たものが、また寢ようたつて、それや少し無理ぢやないか。いくら、寢るより外にすることがないと云つたつて、おれたちは、遙々汽車に乘つて、大枚五圓の宿料を拂つて、名にし負ふ湘南の海水浴場に來てゐるのだ。少しは、氣の晴れることもして見ようぢやないか。

妻。だつて、海水浴が駄目なら、仕方がないぢやないの。

夫。海水浴が駄目なら仕方がないと云つてしまはずに、そこを、なんとか誤魔化せないもんかなあ。

妻。あたたは傘をさして散歩でもしてらつしやい。あたしは、かうして、横になつてますわ。(寢轉がる)

夫。傘をさしてか。傘は持つて來ないぜ。

妻。借りてらつしやいよ。

夫。お前は横になつてるのか。

妻。えゝ。

夫。夫は傘を借りて散歩をたし、妻は横になつて退屈を味はふか。洒落にもならないや。

妻。だから、あたしが、こんな處へ來るよりは、着物の一枚もこしらへた方がいゝつて、あれほど云つたのに……。

夫。もうわかつた。おれはこれから、旅行をして來る。

妻。何處へいらつしやるの。

夫。氣の向いた處、日本國中だ。

妻。………。

夫。一つ、別府あたりへ行つて見るかな。

妻。旅行案内だけもつてね。

夫。勿論……。これほど金のかゝらない旅行はない。旅行案内といふものは妙なものだね。汽車の時間を順々に見て行くと、からだも一緒に動いて行くやうな氣がする。一種の錯覺かも知れんが、こいつを應用して、何か一つ、どえらい發見でもしでかすかな。

妻。………。

夫。辨當と書いてあると、あの上等辨當の折の香までして來るから面白いぢやないか。

妻。何が面白いもんですか。

夫。面白くないか。お前にはそれが面白くない。だから、足の裏なんか、蚊に嚙まれるんだ。まだ痒いかい。

妻。知りませんよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫。大沼公園といふのに、なかなか景色がよさゝうだね。北海道へも、一度ぐらゐ行つたつて惡くないな。えゝと、時間はどうなつてるかな。

妻。旅行をなさるなら、默つてなすつて頂戴ね。

夫。默つて旅行をしろ……？ 所謂、啞の旅行といふ奴だね。

蓄音機の音止む。

夫。いろんなことを云ふやうだが、お前は近頃、何が食ひたい？

妻。……。

夫。もう眠つたのか。

妻。……。

夫。そんな筈はない。たつた今、欠伸を噛み殺してゐたぢやないか。

妻。……。

夫。あくまで狸を粧ふつもりだか。

妻。……。

夫。お前がびつくりするやうなことを云つてやろか、それでもいゝか。

妻。……。

夫。よろし……。云ふぞ。大きな聲を出すな。

妻。……。

夫。おれは、さつき、十年前の戀人に遇つたよ。おれにそんな戀人のあつたことはお前も知るまい。今迄その話はせずにゐた。お前の心を不必要に亂したくなかつたからだ。しかし、たうとう、お前にそれを打ち明けなければならない日が來た。そんなに息を殺さなくつてもいゝ。

妻。……。

夫。向うはまだ獨りでゐるらしい。純潔そのもののやうな眼をもつた女だ。その眼が、昔と少しも變つてゐないやうに、おれに對する氣持も、そのまゝ昔と變りはないといふのだ。おれの方はどうだと云ふから、おれは云つてやつた。なんと云つてやつたか知つてるか。

妻。……。

夫。おい、安心してる場合ぢやないぞ。

妻（脇の下をゴシゴシ掻く）

夫。そんなところを掻いてる場合ぢやない。おれはなんと言つたと思ふ。おれはかう云つた。――あなたが、それほどまでに僕のことを想つてゐて下さるのは有りがたいが、僕はもう自由ではありません。すると、そんなことは存じてをりますわ、と云つた。昨日もお

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二人が睦じさうに、廊下を歩いておいでになるところをお見かけしたんですもの。優しい上に、聰明な方らしいわれ、奥さまは……と云ふんだ。おれは返事に困つて、あんな女はざらにありますと云つてやつた。

妻（大きな息をする）

夫。ざらにあると云つただけでは、まだ云ひ足りないと思つたので、あれくらゐ鈍感な女は、一寸類がありませんよと云ひ直した。お前の前だが、それやほんとだからね。

妻（枕を直す）

夫。すると、向うはなかなか如才がない。――でも、あなたのやうなお方と一緒にゐるには、その方が結句幸福ですわと云ふぢやないか。なぜですつて白ばくれた聞き方をすると、笑つて、返事をしないんだ。

妻（かすかに鼾をかく）

夫。怪しげな鼾は手應へのあつた證據だ。さ、なんとか云へ。

妻。………。

夫。なんにも云ふことはないね。それぢや、先を續ける。――二人は、それで急に、昔しの親しみを取り返した。その間に、いろいろ細かい話もあつたが、それは略して、要に會、東京へ歸つたら遊びに來てくれと云ひ出した。淋しく獨りで暮してゐるとまで附け足した。そこで、おれは、東京へ歸つたらなんて云はずに、今、これから、あなたの部屋へ行つて、ゆつくりお話をしたいと切り出して見た。どうせなんにもすることはなく、退屈しきつてゐるところだと云つて見た。毎日見あきてゐる女房の側を、さうして一つ時でも離れてみたいとまで云つて見た。すると、その女の云ふことが振つてゐるぢやないか。――いゝえ、それはいけません。あなたの奥さまといふ方を、あんまり近くに感じてゐるところでは、寛ろいだおもてなしもできません。その氣持にもなれません。東京の住居は、それや靜かな、奥まつたところにありますのよ。知らない人は、尋ねあてるだけに三時間もかゝりますわ、といふことで、話は一寸途切れた。湯上りの、透き通るやうな手を、椽側の手摺りに置いて、それとなく、何ものかを待つてゐる形だ。結ぶでもなく、開くでもなく、紅つ氣なしに赤い唇が、心もちふるへてゐたよ。眼は無論、渺茫たる水平線の彼方、思ひ出の花咲く國に注がれてゐるのさ。

妻（寢返りをうつて、夫の方に向き直る。が、これこそ、口は自然に開くに委せ、鼻の孔は、耳鼻咽喉科の診察室に於ける如く、やゝ、あふ向き加減に奥の方まで見通せる姿勢である）

夫（これを見て、思はず顏をそむける）重々しく寢返りをうつたな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廊下で、突然「おきんさん」と呼ぶ女中の聲。

妻（はたと眼を覺し、或は眼が覺めた風を裝ひ、むつくり起き上り、寢ぼけ聲で、或は何食はぬ顏で）もう、お風呂湧いてるでせうか。

夫（たちたちとなり、それでも、疑ひ深く）眠つてたのか。

妻（これには答へず、起ち上つて、手拭、石鹸、化粧道具など取り上げ、ふらふらと出て行く）

夫（さも氣拔けしたやうに、その後を見送る）

——幕——

二

翌日の夕刻。

夫（ワイシャツ姿で鞄の支度をしてゐる）

妻（火鉢で手拭をかわかしてゐる）

女中（勘定書をもつて來る）また上りまでは大分時間が御座いますから、御ゆつくり……。

夫（勘定書を引き寄せ）また近いうちやつて來るから、よろしく……。

女中。どうぞ、是非……。でも、生憎明日は御天氣らしう御座いますのに、もう一日御延ばしになることはできませんのですか。

夫。あゝ、どうも、忙しいもんだから。なに、充分保養にはなつたよ。東京を離れるといふことが第一の目的なんだから……。天氣の惡いのは何處にゐたつて同じだ。おや、これで……（勘定を渡す）

女中（會釋して去る）

妻。いくらになつてますの。

夫。案外かゝらなかつたよ。

妻。豫定通り……？

夫。まあ、そんなところだ。茶代でも奮發しとかうか。

妻。およしなさいよ、そんな無駄なこと……。それくらゐたら、もう一日ゐた方が氣が利いてるわ。

夫。それができれば文句はないさ。あれ見ろ、あの空を……。今迄雨が降つてたなんて嘘見たいだ。

妻。會社の方は、もう一日、どうにかならないか知ら……。

夫。さつきの電話さへなけれやね。——丸で膝に繩をつけられてるやうなもんだ。しかし、今度で、このおれが、如何に會社に取つて、重要な人物であるかといふことがわかつたわけだ。おれは明日の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

朝、少し遲れて行つてやるよ。さうして、少し不機嫌な顔附をしてゐてやる。係長の奴、きつと、そばへやつて來て、なんとか御世辭を云ふからね。おれは、無愛想に、鼻で返事をしてゐてやるよ。

妻。あなたはそれでお氣が濟むでせうけれど、あたしは、歸つて、みんなに何んて云ふんですの。どうかしたはずみに、一度も濡らしたことのない海水着でも見つけられて御覧なさい。いゝ恥さらしよ。

夫。恥さらしなんていふ言葉を使つてくれるなよ。お前がさう思ふなら、その海水着を、一寸鐵瓶の湯で濡らして置けばいゝぢやないか。――第一、海にはひつたことが、さう自慢になると思ふかい。

妻。でも、いまいましいぢやないの、

夫。同感だ。しかし、物は考へやうでね。折角工面をして海岸へ出掛けたけれど、雨に降られ通しで、たうとう五日間一度も海へはひれなかつたなんていふ話は、人が聞いたつて、そんなに不愉快な話ぢやない。それどころか、聞く人間によつては、涙を流してよろこぶかも知れない。

妻。誰が涙なんか……。

夫。ましてこつちが、少し悄げてゞもゐれば、なほさら滑稽でいゝぢやないか。

妻。だつて、出掛ける時の景氣つたらなかつたんですもの。

夫。いゝぢやないか。實際景氣のいゝ話なんだから……。さういふことはよくあるもんだ。豫め、かういふことを慮つて、始めから悄然として家を出て見たところで、誰も感心しやしない。一體、お前に限らないが、お前の家の人達は、お母さんにしろ、姉さんにしろ、お菜ちやんにしろ、みんな、さういふところがあつていかんよ。

（足音がするので話をやめる）

女中（現はれる。つりをもつて來る）どうも有りがたう御座います。

夫（そのうちから、幾らかを取つて）あゝ、これ、少しだが茶代……。

女中。いゝえ、こちらは、御茶代は頂かないことになつてをりますから……。

夫。さう。そいつはどうも、なんだた。それぢや、これは、色々御世話になつたから、君に……。

女中。恐れ入ります。

夫。えゝと、もう一人の女中さん、ちよいちよい、こゝへ來た、あのひとはなんて云つたつけな、どしどし音を立てゝ歩くひと……。

妻。まあ、あんなことを……。

夫。いゝぢやないか、ねえ、靜かな方ぢやないよ。あのひとを呼んでくれ給へ。それから風呂番の若い衆もね。嘘かい、あれや、君……。

………。

女中。いゝえ、あゝいふ風なんで御座いますよ、餘つぽどのことでもなければ、誰とも口を利かないんで御座います。

夫。あゝいふ風ぢや、餘つぽどのことなんかありつこないや。

女中。では、御荷物がおできになりましたら、どうぞ………。（出で去る）

妻。女中にいくらかおやりになつたの。

夫。一々心配することはない。お前は、東京へ歸るまで、重役の夫人になつたつもりでゐろ。

妻。東京へ歸つてからも、そのつもりでゐたいわ。

夫。ゐるがいゝさ。お前は、根性まで安月給のお神さんだからいけない。

妻。だから丁度いゝのよ。

夫。丁度いゝとは………？　おれを侮辱したつもりかい。そんなことを云ふなら、また御説教をはじめるよ。

妻。御説教はもう澤山………。

夫。さうだらう。だが、なんだぜ、此の機會に、お前に相談するんだが、もうそろそろおれの氣持がわかつてくれなくつちや困るよ。お前は、世にも稀なる善良な女だ。どうして口をそんなに曲げるんだ。

妻。………。

夫。お世辭でなく、お前は、おれの爲めに此の世に生れて來たやうな女だ。

妻。ありがたう。

夫。だから、さう云つてるぢやないか。その實、おれは果報者だと思つてゐる。

此の時、どしどし足音を立てる女中と、猫背の風呂番とが前後して姿を現はす。

夫。あ、君たち、いろいろ御世話さん……これは、ほんの少しだけれど………。

女中。どうも………。

風呂番（黙つて頭を下げる）

女中。何か御用は御座いませんか。

夫。有りがたう、もう別に………

女中（會釋して去る）

風呂番（これも起ちかける）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫。あ、君は一寸待つてくれ給へ。君は、此の土地の人かい。

風呂番。(ぼんやり相手の顔を見てゐる)

夫。此の土地で生れたの。

風呂番(輕く頭を下げる)

夫。どうだい、何か變つたことはないかい。

風呂番(にや／＼笑つてゐる)

夫。君はなか／＼評判がいゝぜ。

風呂番(訝しげに相手を見上げる)

夫。おい、何んとか云ひ給へ。

風呂番。………。

夫。君は、何か、決心をしてゐるんぢやないかい。

風呂番。………。

妻。あなた、もう時間でせう。

夫(風呂番の顔を見つめてゐる)

妻。ほんとに、もういゝのよ。

風呂番(會釋して立ち去る)

夫。(いき／＼しげに)恐るべき沈默派だ。

長い間。

妻。あなたは、まあ、なんていふ方でせう。

夫。(突然白痴的に笑ふ)

妻。(夫の顔を見る)

夫。あれで、あの男、おれをどう思つたらうね。

妻。普通の人だとは思つてませんわ。

夫。何んでもないことが思ふやうにはいかんね。

妻。うつかり人を馬鹿扱にすると、あべこべに輕蔑されますわ。

夫。はじめはそのつもりぢやなかつたんだ。あゝいふ風に默つてる男は、何か云ひ出せばきつと素晴らしいことを云ふだらうと、實は樂しみにしてゐたんだ。しかし、あの男は、きつと、素晴らしいことを考へてゐるよ。おれなんか勿論眼中にあるまいが、例へば、おれたち夫婦の生活について、何か、誰にも氣のつかないやうな秘密な嗅ぎつけてゐるかもわからない。――おれたち自身にさへ氣のつかないやうなね。どうも、そんな氣がする。

妻。またそんな勝手な想像をしてらつしやるのね。

夫。さ、ぼつぼつ片づけろよ。忘れものはないね。

此の時、獸醫が現はれる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

番頭。もうおたちで御ざいますか。生憎とどうも御天氣都合が……。

夫。いや、立つ時に晴れたから、まあいゝさ。

番頭。もう、これで大丈夫だと思ひますが……。

夫。さうありたいもんだ。おや、この鞄と、そのバスケット、それから、その細々したものを持つて降りて貰はうか。

番頭。切符は……。

夫。(紙幣を出し)これで買つといてくれ給へ。

番頭。畏こまりました。東京驛二等……。

夫。三等だ。

番頭。へえ。(會釋して去る)

妻。歸りは惨めね。

夫。馬鹿云へ。今夜の豫定を聞かしたら、そんなことは云へない筈だ。東京には何があると思ふ。オーヴァーランドがあるぜ、千疋屋があるぜ。お前の夏のショウルがある。

妻。どのショオル……？

夫。それから、まだ、いろんなものがある。

妻。いろんなものがあるわ、手の屆かないところにね。

夫。また始まつた。手が屆かなくつたつていゝぢやないか。今度の海水浴だつてさうだ。此の間までは所謂手の屆かない贅澤だつたんだ、それが、かうして實現できたぢやないか。

妻。實現できたと思つていらつしやるの。

夫。雨さへ降らなければね。

妻。それより、もう少し長くゐられゝばですわ。

夫。さう取るのか。成る程、不平は絶えない筈だ。しかし、お前、かうして、あの海を眼の前に眺めてゐれば、海へはひつたのも同じぢやないか。此の五日間、毎日、海へはひり通したつたと、思へば思へないこともあるまい。

妻。…………。

夫。海の水は、たゞ鹹からいだけで、冷たい風呂へはひつたと思へば大した違ひはない。

妻。でも、廣さが違ひますわ。

夫。廣さは、手足を縮めてゐれば、おんなじだ。眼をつぶつて、頭の上に蒼空を頂いてゐるつもりになればいゝ。

妻。あゝして、あとからあとから打ち寄せて來る波の感じがしなければ……。

夫。波の感じは、からだを前後にゆすぶればわけなく出る。兎に角、海へはひるといふことは一つの冒險だからね。何年、何處の海水浴場でも、二人や三人の溺死者がないことはないぢやないか。それ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、川上見たいに、下手なモグリ込みなんかやると、金縁の眼鏡を失くしたりするし、金田の奥さんだらう、眞珠の指環を波に浚はれたつて云ふのは……。

妻。安物だつたんですつて……。

夫。何れにしてもさ。それから、貝殼で足の指を切つたり、鼻水がはひつて、中耳炎になる奴なんかいくらもゐる。

妻。さういふことをおつしやるのは、負け惜みつていふのよ。あんなに海岸行きの効能を並べ立てゝ置きながら、今更、そんなこと、よく恥かしくなくおつしやれるわね。

夫。お前を慰めようと思つてさ。

妻。そんなら、あべこべに、もつとがつかりして〻頂戴。さういふ見えすいた氣安めは、云ふ方でも、云はれる方でも、くすぐつたいばかりよ。殘念なことは殘念なことにして置かうぢやありませんか。二人だけでね。

夫。おや、おや、お前がその氣ならわけはないさ。それぢや、今度は、殘念なことにして置いて、何時かまた埋合せをしよう。それでいゝだらう。よし、だが、おれは、飽くまでも、今度、お前と一緒に泳ぎの眞似なんかしなくつて仕合せだつたと思つてゐる。

妻。……？

夫。どうしてつて、お前はそのわけを聞きたがる必要はない。

妻。わかつてますわ。

夫。わかつてるなら云つて見ろ。

妻。云はなくつても、わかつてますわ。

夫。お前は勘違ひをしてゐる。それぢや、かういふことがお前にわかるか。——何時か、そら、隣から蓄音機を預かつたことがあつたらう、旅行中、使はないと錆びるからつて……。

妻。えゝ。

夫。毎晩のやうに、有りつたけのレコードを、よく飽きずにかけたもんだ。「ヴォルガの船歌」を空で覺えたのもあの頃だ。

妻。それから「スーヴニール」……。

夫。それさ。おれは、豫々、朝起きがつらいたちだ。

妻。起こしやうが惡いつて、毎朝お怒りになつたものですわ。

夫。毎朝、人間か、こんな風にして、折角の夢を破られるなんて殺風景の骨頂だ。せめて、枕もとで、例へば女學生の歌ふやうな歌でもいゝ、さういふ歌の聲で、何時とはなしに、自然に、眼を覺まして見たら、さぞ幸福だらうと、おれは、かねがね思つてゐた。お前にそれをやれと云つても、どうせ、はいと云つてやる氣遣ひはない。丁度、蓄音機が手許にあるのを幸ひ、一度、その空想を實現させて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やらうと想ひ立つた。

妻。さうさう、そんなことがありましたね。

夫。先を云ふな。おれに終ひまで云はせろ。それで、ある晩、おれは、お前に頼んで置いた。――あすの朝、おれを起す時に、「もう時間ですよ」なんてガミガミ呶鳴らずに、默つて、枕もとで蓄音機をかけてくれ。蓄音機で、「スーヴニール」かなんか掛けてくれ。おれは、その一曲が終るか終らないうちに、むつくり起き上つて見せる。さう云つて、おれは、床の中にもぐり込んだ。自分で自分の氣むづかしい神經を持てあましてゐる矢先だ。なんでもいゝ、早く夜が明けてくれ、空はなるだけ明るく、夢はなるだけ深く、から心に祈りながら眼をつぶつた。一本のビールがやうやく廻りかけてゐた。

妻。翌朝、ちやんと、おつしやる通りにしましたわ。

夫。あの時ばかりは、感心に、おれの云ふことを一度で聞いたね。忘れずに、お前は、おれの枕もとで、「スーヴニール」をかけた。

妻。一度終つたら、もう一度かけろつておつしやいましたわ。

夫。うむ。だが、あれは、もつと寢てゐたい口實でもなんでもない。夢現に聞えて來るあのヴアイオリンのメロデイーが、おれを、果して、幸福の絶頂に押し上げた。と思つたのは瞬間で、だんだん耳がはつきりして來るにつれて、つまり、お前がおれの枕もとで、蓄音機をかけてゐるのだといふことがわかつて來ると、おれの心は、俄か、から、痺れるやうな痛みを感じた、しまつた、と思つた。おれは蒲團をかぶつてしまつた。

妻。泣いてらしつたんでせう。

夫。泣いてたと思はれてもしかたがない。それほど、おれは、激しいショックを受けた。蓄音機がもう一度「スーヴニール」を繰り返してゐる間、おれは、おれたちの幸福について考へた。おれたちの夢について考へた。おれたちの生活について考へた。

妻。あの日は、ほんとに晴々した顔をして御飯を上りましたわね。

夫。さうか。こんなことなら、毎朝でもかけて上げますつて、お前も云つたね。おれは、しかし、それを斷はつた。

妻。でも、あの明くる朝から、一度叫べばきつとお起きになるやうになりましたわ。尤も、近頃は、また駄目になつたけれど……。

夫。かういふことは、お前に云つてもわかるまいが、おれは蒲團をかぶりながら、つらつら考へた。――こんなことをしてゐては大變だと……。おれは、もう少しで、蓄音機を蹴飛ばし、お前を連れて、何處か人のゐない、山奥かなんかへ隠れてしまはうと思つた。それは、大きな罪を犯した後の、自責にも似た心の動搖だ。恐ろしい悔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慨だ。惨めな自己嫌悪だ。しかし、この氣持は、お前に知らせたくなかつた。おれはぢつと心を鎮めた。

妻。あなたのおつしやることは、本當なのか、冗談なのかわからないのね。

夫。おれにもわからない。

長い沈默。

妻。もうなれつこになつたから、近頃はあんまり氣にかけませんけれど、それでも、なんだか頼りないことがありますわ。

夫。氣にかけることはいらんさ。今にわかるよ、おれが何をしようとしてゐるか。おれはたゞ、お前を幸福にすることしか考へてゐないんだ。

妻。またそんな……。

夫。信じないと云ふのか。冗談だらう。そんなら、おれの新しい計畫を話して聞かさうか。お前は何時か、荻窪へ行つた時に、芝生で圍まれた家を見て、かういふ家に住んで見たいつて云つたことがあつたね。

妻。どんな家でしたつけね。

夫。忘れたのか。そら、若い細君が、犬にじやれつかれて困つてゐたぢやないか。此の春だよ。

妻。あゝ家を捜しに行つた時……。

夫。さうさ。あの家は、たしか四間くらゐだつたね。いくらで建つと思ふ。

妻。……。

夫。あれで二千圓だよ。

此の時、最初の女中が現はれる。

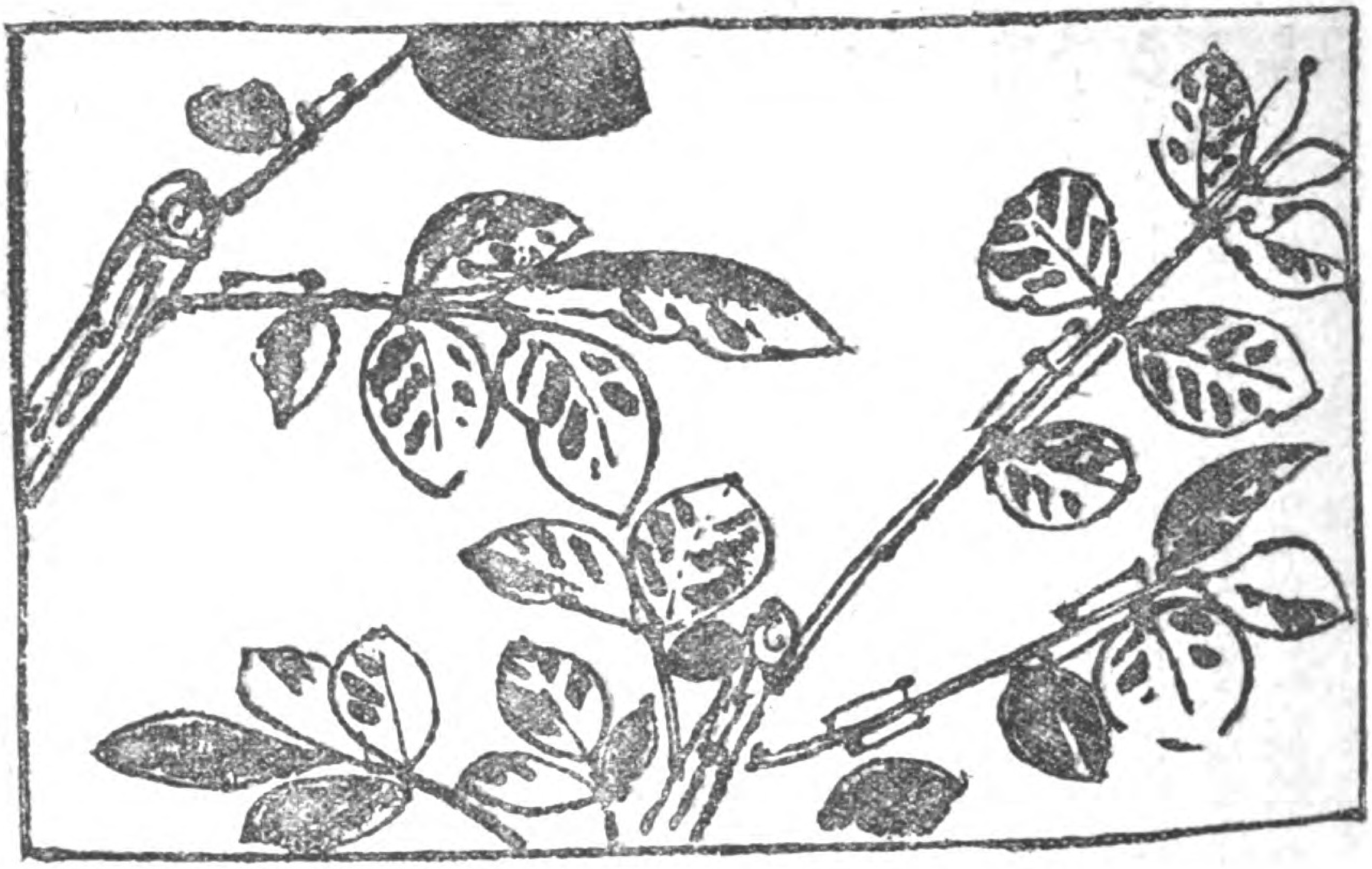
女中。あの、もうお時間で御座いますが……。

夫。あ、さう（かう云つて、機械的に立ち上る）

妻（ぼんやり、暮れて行く庭の方を見て居る）

―幕―

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



別れ

徳田秋聲

一

今年の夏は別けても長い暑さが續いた。Ｇ―は長女以下三人の子女を海岸にやつた留守を、度々した思ひでＩ子と一緒に暮らしてゐた。次男は諏訪湖の畔の親類の家へ行つてゐた。長男も諏訪へ行つたり、輕井澤の友人を訪ねたり、時には弟妹達のゐる海岸を見舞つたりしたが、東京にゐても家にゐるかと思ふと、ふらりと外出したきり幾日も姿を見せなかたりした。彼のゐるときは、融達は彼を誘つて一緒に散歩に出たりした。

「二三日どこかへ行きたいな。」

融はよくそんな事を口にしたが、Ｉ子は格別暑さを苦にもしなかつた。勿論旅行慾もなかつた。それほど彼女の氣分が大きい子供達のゐない家には親しめるのであつた。彼女は此の頃擧げることになつてゐる結婚披露式の準備などについて、時々融を急き立てたりしてゐた。勿論先きへ寄つての生活の不安が、Ｉ子は勿論Ｇ―自身にも全く無い譯には行かなかつた。それは重もに、Ｇ―に多勢の子供があるところから來てゐた。

長男の姿がまた暫らく見えなくなつてゐた。Ｇ―はあのそよ〳〵した冷やかな風の流

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れる湖畔のさまを想像して見た。

「遂次の問題を此の際一つ取極めようと思ふ。二三日のつもりだから、諏訪へ行つて見ない？」Ｇ―はＩ子に謀つた。

「行つても可いわ。でも、お澤さんの親類だから……。」

「けど去年は二人で來てほしいと、Ｉ子の行くのを待つてゐたくらゐだからね。」

「さう！ ぢや行くわ。でも他人の家にゐるのは私厭よ。二人きりの宿屋なら……。」

Ｉ子は普通世間人と、ぐちや／＼と世間話などしたり、女達にお愛相を言つたりすることが餘り好きではなかつたし、氣詰りな思ひをして、餘所の家にゐることも嫌ひであつた。

「そんな氣兼なやうな家ぢやないのさ。それに商賣柄に似合はず、お品の好い方なんだからね。」

その細君は先年東京へ出て來て、一緒に芝居を見たこともあつたので、Ｉ子に取つては既にお馴染であつたけれど、勿論氣分の合ふ氣遣はなかつた。しかしそんな事よりも、Ｇ―には次男の養子問題があつた。この夏の初め以來彼れ次男の遂次の取つた行動は、その理由がたとひ何んであるにしても、一家の主人として、多勢の子供を扶養すべき責任を持つてゐる父として、殆んど堪へがたいほどの横暴であつた。それも忍んでも可かつた。彼れ遂次の感情が父の行爲によつて挑發されたものとすれば、物質上の損害などは多く言ふに足りないものかも知れなかつたけれど、酒や女や悪友によつて、そこまで荒んで行つた彼の素質と、其の前途については、密かに恐れを懷かない譯に行かなかつた。少年期から、平氣で多量の酒の飮める彼の素質に何んなものが潜んでゐるかを、彼は今面たり見せつけられたやうな氣がすると同時に、長いあひだ恐れてゐた無思慮な結婚の不幸が、今明かに彼に酬つて來たことを感じないではゐられなかつたからであつた。

彼の結婚や妻の性格や氣質が何うのかうのと言ふのではなかつた。Ｇ―にはその當時目に見えなかつた不幸が胚胎してゐたからであつた。性質が善良であるに拘はらず、飮酒と懶惰と、末梢的な頭の小器用に働くことなどが、遂次達の母の血統から來た遺傳であることが、その重もなるものであつた。

「酒だけは飮んでくれちや困るよ。」Ｇ―は機會ある毎に子供達の前に、幾度それを言つたか知れなかつた。

勿論妻の兄弟には、學問處世に優れた頭腦をもつてゐるものもあつた。他人の手によつて薫陶されたからでも人としての素質の好いことも確かであつた。遂次達の母がＧ―を良人としての二十五年の生活が又た、彼女の好い素質を十分に發揮せしめたと言つても可いのであつ、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。長いあひだに知らず知らずＧ—の雰圍氣に染みて行つたところも無論多かつた。それは又多分お互ひに年を取り、子供が成長するにつれて、征服し征服されると共に、釣り合ふやうになつたことにもなるのであつた。

「兄弟のなかでは、まあ自家の御母さんが一等人が好かつたですね。」

彼女が死んでから、長男は屢々父のＧ—にそれを言つた。勿論Ｇ—にもそれは頷けた。

その妻も病氣の出ないうちは、酒が嫌ひではなかつた。そして又酒を飲む人をも好きであつた。後年年中醉拂つて、親類中迷惑をかけてまはる弟の一人——良人の——と彼女とがその中でも何彼の場合に尤も多く祟られたのは言ふまでもなかつた——を世にも憎むべき呪ふべき存在のやうに思ふやうになつてから、酒呑みはふる〳〵だといつては、滅多にそんな事に手數のかゝるやうなことのないＧ—に感謝してゐたけれど、子供の小さいうちは、春にはきつと一斗樽を臺所にすゑて、年始の賀客に酒の肴を拵へるのが家庭婦としての彼女の趣味の一つであつたが、それも寧ろ酒好きな彼女の弟を待つための用意であつたことは爭はれなかつた。次男と三男とは、屠蘇のあとで、お銚子の酒をぐい〳〵飲んだ。そして醉ひがまはると、燥ぎまはつて父や兄を笑はせたりした。

「蓬大も莊三も飲めるんだよお父さん、いくら飲んでも醉はないんだ。」

「笑談ぢやない。もう止せ。」Ｇ—は言つたが、妻はむしろ興味をもつてゐるやうにさへ見えた。酒の吞めないＧ—が、彼女に取つて聊か寂しい感じのした時期のあつたことから言へば、子供の飲酒を見て見ない振をしてゐるのに不思議はなかつた。

新年の二日に腦溢血で死んだＧ—の妻は、其の前夜Ｇ—の留守の間に、裏の家にゐるＴ氏の遊びに來たとき、到來物のキユラソーを三杯ばかり如何にもお旨しさうに飲んだのであつた。彼女はウヰスキイのやうな強い酒をも、心から旨さうに吞むのを、Ｇ—も見て知つてゐた。勿論元日の晩に飲んだキユラソーが彼女の不幸の原因だとは思へなかつた。けれど、若しも其の前夜キユラソーを飲まなかつたとしたら、そんなに遽かに死なゝくとも可かつたかも知れないのであつた。酒が彼女の持病に大敵藥であることも兼々承知してゐる筈であつた。それに其の時は尤も健康狀態の惡いときであつた。Ｇ—が若し側にゐたら、うんと慫しめたかも知れなかつたが、彼女も恐らく盃を口にするやうなことはなかつたに違ひなかつた。

Ｇ—自身はといへば、彼も其の獨酒の味と趣味とをよく解してゐた。美酒の二三杯は彼に取つては、恐らく世の中の尤も旨いものゝ一

つであつた。五合も一升もの分量を貪飲するには、酒は旨過ぎる飲料だと思はされた。

夏の初めから最近へかけての達次の行動は、彼が若し酒を飲まない學生だつたら、そんなにも無謀に盲目にならなくとも濟んだらうと思はれる種類のものであつた。飲酒の動機又は口實が何であるにしても、若い彼の體に何か悪いものが潜んでゐるのでなかつたら、學生として青年としての彼自身の生活が、もつと何うにか支へられて行けさうなものであつた。年取つたＧ－が、妻を亡くしてから間もなく、若い愛人をもつたことが、子としての彼等の年頃の青年に衝動を與へずには濟まなかつたであらうか、しかも彼は作家としての父の生活――ペンの勞働によつて育ち盛りの多勢の子供を見て行かなければならぬ立場や、愛人關係が、双方の特殊な事情や性格や仕事のうへから見て、普通一般の放蕩的な享樂と違つたものであることも、子供への愛と愛人への愛とを一つものにして、家庭と戀愛とを相互的なものとして、妻の死によつて餘りにも煩雜であつた家庭に新しい風を入れると同時に餘りに無自覺すぎた子供を子供としての個人的の立場や生活に徐々に目覺めしめようとして焦慮してゐる父の悩みやを相當理解してゐる筈であつた。たとひＧ－の爲てゐる事が、許すべからざる道義はづれの不檢束であつたとしたところで、若いものには若いもの自身の生活の悩みが、なければならない筈であつた。Ｇ－は達次の飲酒と放蕩が、そんな悩みから來てゐるものとしては、餘りにも單純で無神經すぎるのに、絶望的不安を懐かずにはゐられなかつた。

二

達次が夜々友人達と、學生達の入るには相應はしくない下等な家で、頭腦にわるい濁酒を飲むやうになつたのは、さう近いことではないらしかつた。

Ｇ－は身のまはりの用事を達してくれてゐる青年Ｋ－から、暗示を與へられた時、どきりと胸にこたへた。彼は薄々皆んなで心配してゐた彼の遺傳的飲酒性が、そんなにも早く、そんなにも悪い傾向で萌さうとは思ひ設けなかつた。

「達次が外で酒を飲むんだつて?」Ｇ－は長男の初夫にきいた。

「え、さうらしいんです。それも好い酒なら可いんだけれど、下等なところで悪い酒を飲むんで、頭腦を悪くするから止せと言つてるんですけれど……」初夫は心配さうに額を曇らせて、

「周圍が何うも悪いもんで……。達次といふ男は頭腦は悪いんぢやないけれど、物の見方が單純で……。」

「己に不滿があるのか。」

「いや、それもあるでせうけれど……、まあ色んなことを言ふ奴があるらしいんです。」
「困るな。默つて勉強してゐたら可いぢやないかな。」
「さう言つてるんですけれど。」
「金をやらないことにでもするんだな。」
G―の想像し得る限りでは、彼はまたさう云ふことに、年に似合はず、都會人らしい、しかも其處いらの町つ子らしい才覺をもつてゐて、おでんや鮨屋なぞに馴染を拵へたり、三圓五圓といふ借りを拵へたりするらしかつた。それは彼の母方の祖父や叔父が、さう云ふことによく働く頭腦をもつてゐるのと能く似てゐた。彼のすらりとした體つきや、先づ普通に美しいと言つていゝ色白の顏や、一體は内氣で温順しやかな性質なども祖父に似てゐたが、同時に酒癖の惡いことも、意氣地のないことも似てゐるやうに思へた。
「藝術に趣味はもたんだらうね。」
「解るんです。ちやんと解るんだけれど、その解り方が……何ういふんだか知らんが……。」
大分前にG―は長男に又藝術的傾向のあるのに失望した揚句、爲方なし其れを容認した形になつてゐたけれど、次男には全然別の道を歩んでもらひたいと望んでゐた。勿論彼にはさうした傾ひがありさうに思へなかつたので、
「逹次はまさか小說なんか讀みはしないだらうね。」
「いや、讀むんですよ。己は文壇の天才だつて威張つたことがあるんです。」
それはさうした戲けたことを言つて、屡々人を笑はせるやうな少年でもあつたけれど、G―は呆れるより外なかつた。
「冗談ぢやない！」G―は空虚に笑つた。
病氣で高等學校の入學が三年もおくれたり、漸と入つて一ト安心したかと思ふと、眞面目に通學したのは一年くらゐで、それからは再び中折を冠つたりして、制服を着たことのない長男に、前後六年ばかりG―は思ひを惱まされた。彼は活動通になつたり、音樂好きになつたりした。銀座喫茶店にも親しんだ。彼は何時の間にかブルヂョアの坊ちやん氣に、自身の生活形式を作りあげてしまつた。文學の智識や批評眼も相當進んでゐた。G―の解り得る範圍でも、東洋畫や書に對する批評も一瞥して直觀的に來るものがあつた。歌舞伎の鑑賞にしたところで無下に幼稚だとする譯には行かなかつた。それはそれで可いとしても、藝術家として、彼は實際生活のうへに、彼は何んな世路を辿るであらうか。藝術家の衒ひに生きることと、藝術家として生きることとは、其れ自體が實際のうへに遠い間隔のあることをも思は

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ない譯に行かなかつた。その彼に取つて、父に若い愛人の出來たといふことは、藝術を解する故の理解や興味が父やＩ子に持てても、生活の上では脅威でなくてはならなかつた。Ｇ―が愛してゐるやうに、彼は父Ｇ―を愛してゐた。彼は父を心から好いてゐたが、Ｉ子にも個人としては好意をもつてゐた。しかし愛人と子供との關係では、父は彼に取つて屢々頑强なイゴイストのやうにしか思はれなかつた。しかしＧ―に取つては又、長男としての彬夫の家庭に於ける地位や態度―否其れよりも彼自身の氣質が、子として愛すべきものばかりとは言へなかつた

しかし其は其で可かつた。彼は藝術的傾向の近代青年として、自からなる新らしい感觸と氣格とをもつてゐた。が、達次は何うだらう。今まで單純な一筋道を辿つて、少しもＧ―の目にもふれず、心をも煩はさなかつた彼が、父や兄と同じやうな空氣に觸れたとしたら、それはＧ―に取つて、第二の叛逆者が現はれたやうなものであつた。

達次には本質的に先づさうした危險がなささうに思へたのであつたが、しかし學問が厭になつたり、飲酒の癖が募つて來たりして、今年は去年に比べて、づつと學生氣分の薄らいで來たことは、寧ろそれ以上の恐怖であつた。彼の飲酒には、青年の喫茶店入りなどとは又違つた、趣味性の低さと、氣分の暗さがあるからであつた。今のＧ―の家庭氣分から見れば、寧ろ反對のものであつた。

それ以來Ｇ―には達次の外出がひどく氣遣はしいものになつてゐた。出てゐればゐたで心配だつたが、歸つてくれば來たで、醉つてゐるか何うかゞ氣になつてならなかつた。機會があつたら諭して見ようと、彼の出入りに氣を配つてゐたが、彼の性質として、幼い頃から親や兄弟達に餘り親しまなかつた。人見知りをしない彬夫とちがつて、Ｇ―やＧ―のところへ來る人達の前に現はれるやうなことは、殆んどないと言つていゝくらゐ臆病であつた。それは亡妻の父がＧ―前では猫のやうにおとなしかつたと同じだと言つても可かつた。

Ｇ―は或時彼を側へ呼びつけて、諭して見た。

「親爺のことなんか何うでも可いぢやないか。お前にはお前の生活があるんだから、その本分を忘れないやうにしてくれなくちや困るぢやないか。己は教育家や普通世間の頭腦や生活に餘裕のあるお父さんとちがつて、一々子供の行動を見張つてゐることは出來ないんだから、中學も出たら、自身に氣をつけてくれなくちや駄目ぢやないか。己に不滿なら不滿でもいゝ。青年らしい氣概がなくちや困るた。」

酒氣を帶びた彼は、しかし柔順であつた。彬夫が動もすると父を凌ぐやうな態度に出るのとちがつて、彼の目はＧ―が恐いものに見えた。彼はきちんと兩手を膝に支いて萎れてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「お父さんに不滿なんて、別にそんなことはありませんが、僕は駄目です。駄目な人間なんです。迚も學問なんかに適しないんです。」

「入學試驗が今年駄目だつたら、來年もう一度やつて見れば可いぢやないか。折角お前達の勉強し易いやうに、家も取擴げたり何かしたんだし、己も兎に角勉強してゐるんだ。兄さんとちがつた意味でお前は早く現實にふれて、學校なんかに幻滅を感じたとでもいふんなら爲方がないが、誰よりもお前達を愛するものは矢張り己なんだから、異常な才分がない限り、己の希望通りにやつて行つた方が可いんだよ。己の家にゐる以上、己の節度に從つて、餘り勉強の邪魔をしないやうにしてくれよ。己も台所の隅々までも氣にしてゐたんでは、讀むことも書くこともできないんだから、各々自分のことは出來るだけ箇人でやることにして、己のことなんかには餘計な氣をつかふ必要はないんだから、學問や不斷の生活について、はつきり自己を掴んでゐなけあ駄目ぢやないか。兎に角酒が一等惡い。叔父さんたちのことを見ても解るぢやないか。」

　達次は頼りないほど氣弱であつた。G——は痛々しくたつてそれ以上を言へなかつた。感傷的な氣分の父の前を、達次はやがて引退つた。

「試驗が駄目だつたんで、しよげて居るんですよ。何だか可哀さうのやうだわ。お酒を飲む人は、本當に可哀相たものよ。」I子もひどく感傷的になつてゐた。

「でも貴方も心配しない方がいゝわ。あの年頃には誰れでも惱みがあるんだから。私の弟なんか酷かつたわ。」

三

或時劇場で、G——と初夫と逢つた。Gは自分の輕擧から、I子を社會的にひどく惨めな位地に陥いれたところから、暫らく海岸の彼女の家へ同棲することになつてゐた。そして其の晩二人はI子の子供を托してあるS・F——女史の舞踊を見に出て來たのであつた。そして廊下でひよつこり初夫に出逢つた。

「やあ!!」といつた、にこやかな顔をして、暫らくぶりで見るI子の前に、顔と顔とを突合せて、若々しい初夫の背廣姿が立つてゐた。

「どこにゐらつしやるの?」I子も愛相よく話を交へてゐた。

　G——も暫らくすると初夫と話を交へる機會があつたがK青年につれられて末の娘の蝶子も來てゐたので、I子に暫らくぶりで逢つて嬉しさうに手を引かれてゐた。彼は海岸にゐても家が心配になつてゐた。

「變つたことはないの?」

「え、別に……。」初夫は親爺がゐなくて却つてのう〱してゐると云

つた風であつた。

「己は暫らくI子と一緒にゐなければならないんだから、家はお前に頼んだよ。ちやんと遣つてくれなくちや困るんだ。可いかい。」

「可うござんす。遣ります。安心して行つてらつしやい。」初夫は易々と引受けた。

それから其の次ぎの幕間にも出逢つた。

「街子ちやんが矢張一等しつかりしてゐる。」初夫はH子の子供の評判振りを讃めてゐたが、やがて少しG―の顔に顔を寄せて、

「こんな事はお話しない方が可いやうだから、默つてゐようと思つたんですけれど、何ですね……」彼は言ひ辛さうに、

「外のことと違ひますから、叔父さんにだけお話しておきますけれど、逢次が少しお金を使つたんで……。それも小遣錢ぐらゐの程度のものなら何でもないけれど、少し纏つた額だもんで。」

少し家をあけてゐると、直ぐそんな事が初まる！　G―は思つた。

「どのくらゐ使つたんだ。」

「三百圓ばかりですけれど。僕も預金帳を渡さなければ可かつたんだけれど、色々入ることがあつて、五百圓だけ出さしたもんですから。」

「それをもつて行つたの。何に使つたんだらう。」

「まあ女でせうと思ふけれど、こんな事は餘り人に話さない方が可いと思ひます。」

「困つた奴だね。金を家において來たんだがね。ふみ子が自分で預かつて、しつかりやると言つたから二三日前に百圓おいて來たんだけれど。」

ふみ子と云ふのは、―の―であつた。

「さあ、それは能く解りませんけれど……。」

G―は何だか苛々して來た。何か厭だと言つて彼は自身で金錢を取扱ふことくらゐ厭なことはなかつた。性來臆病に生れついてゐるからだと思はれたが、いくら持つてゐていくら使つて、いくら殘つてゐるかといふやうなことを考へるのが寂しいのであつた。色々やつて見ても、性格自身の散漫なことに、淡い悔ひを殘すだけであつた。

「それから××××から初夫等が來てゐる筈だね。」

「それは有ります。」

それから二人はI子から隱れるやうにして、二階へ上つて、そこで暫らく逢次のことについて話したが、G―には明確なことは解らなかつた。初夫の話もさう一々事實のデテールズに渉ることを避けてゐるやうに見えたが、この場合G―は初夫を信用するより外はなかつた。

初夫の話によると、田舍にゐる彼等の母方の叔父が上京してゐて、急に金の入用が生じたので、それにも百圓ばかり用達てたといふので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつた。その叔父が日本橋の或親類の未亡人が氣が狂ひ出したところで、其の財産の始末について、彼を中心に爭ひが起つてゐることは、Gーも仄かに耳にしてゐた。

「だつて陽吉は死んだ阿母さんにも借りがあるといふぢやないか。女中かお前達の話を傍聽きしたんだらう、この間そんな事を言つてゐたぜ。それは何のくらゐなんだ、お前知つてるだらう。」

「さあ。」初夫は父がその問題に觸れるのは何うかと思つた。

「三百圓だつて？」

「もつと多いかも知れませんけれど……。」

「可けないね。」Gーは心臓が小さいので、忘れてゐる時は忘れてゐても、何かの機會にそんな事に觸れると、一時に腹が立つて來て爲方がないのであつた。そして言出すと兎角それに拘泥りがちであつた。

Gーは陽吉から彼としては可なり大きな額の金の借用を、妻にまで申出でたことを、妻から聞かされて其を拒んだことがあつた。いつも困つてゐる妻の外の兄弟達には、長いあひだに隨分盡くしたこともあつたけれど、それはGーの勞作から辛々齎れる金を溝へ棄てるに等しいものであつた。彼等は世にも珍らしい怠けもので又た酒呑みであつた。一人は殆んど無頼漢にも等しい荒み方であつた。しかし陽吉だけは身分が好かつた。そしてその金も商賣人筋の女を家へ入れたについての負債の埋合せだとか聞いてゐた。Gーは無頼漢の弟には長いあひだ悩まされて來た。彼はよく酔拂つて寢所へ暴れこんで來た。その兄よりも母や姉に愛されないところから來てゐる僻みや嫉妬もあつたが、管を捲きだすと、山國の育ちらしい捻ねくれと、市井の無頼漢らしい屁理窟とが、屢々ヒステリカルな感傷癖と一つになつて、不思議な芝居を演ずるのであつた。曾ては彼も純良で現在の不器用に働く商人のやうに見えたこともあつた。そして事ある毎に驅けつけて働いてくれたりしたが、酒癖が彼を次第に荒ませて行つた。最近では落ちて行つた田舎をも喰ひつめて、殆んど救ひがたいものになつてゐた。そしてGーの不在中近所で呑んだ酒の酔ひを借つて、茶の間へ入りこんで兎角姉の亡くなつたあとのGーの家庭について、何彼と拘泥をつけたがるのであつた。一ト晩中彼は女中や子供達を傭ませた。初夫が居合して彼を撃退しない限り、彼はいつ迄も其を續けるだらうと思はれた。それは彼に取つて、生きることの總ての興味だかも知れないのであつた。

其の弟の陽吉だけは、全然教養と性格を異にしてゐた。長くは生きないであらうGーの死後、彼だけが妻や子供達の力になつてくれさうに思へた。そしてそんな金を用立てようとした妻の氣持も理解されないこともなかつたが、Gーに取つては何んと言つても面倒であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それに妻はG―の男達にも屡々泣きつかれて面倒を見てゐた。彼女はG―の苦しみを、眞實には感じてゐないやうにさへ思へた。勿論彼女は自身不檢束ではなかつた。そして物質の扱ひ方に溫かい人情味をもつてゐたけれど、相當物質的に惠まれてゐる陽吉に、やつぱり秘密で金を融通してゐたのだと思ふと、それに類似したやうな色々の場合が、G―には不愉快に思出せて來るのであつた。

「もつと質の惡い秘密はなかつたか。」G―にはそんな疑問すら起つて來るのであつた。

「貸してある上に又貸して還してくれるか知ら。己は今苦いのだからね。」

「解つてゐます。返すには返します。」

I子のところへ戻つて來ると、敏感なI子は直ぐG―が初夫と話してゐたかを氣にした。

「何を話していらして。」

「いや、別に何でもないんだよ。」

「さう!」

その晩家のことを初夫に賴んで、見物中舞台をしまつた街子とも一緒になつて、始終幸福さうにI子の傍に坐つてゐた蝶子にも別れを告げて、暗い心を抱いてG―はI子と二人きりで海岸へ歸つた。しかし今夜の初夫の話には、現實的にはつきりしない多くの部分の殘されてあることには、さう氣がつかないで、不安を感じながらも、初夫の賴もしさを感じた。そして其をI子にも話つた。でも、彼の表情は時々曇つた。

「何を話していらして。何か心配なことがあつたの。」

「いや、疲れたんだよ。」

「さうでせうね。聞き度いと思ふわ。」

「それは好いんだがね。達次が金を少し大きい金を使つたらしいんだよ。」

「さう! 澤山?」

「まあ、ちよつと……。」

「何につかつたの?」

「遊ぶらしいね。」

「さう! 先生も心配が多いのね。」I子も悲痛な表情になつた。

「でも氣持を暗くなさらない方がいゝわ。どこの家にもさういふ事は有りがちなのよ。でも預金の通ひなんかは、先生がもつていらした方がいゝのよ。」

自動車のなかで、そんな話をしながら二人は侘しい海岸の彼女の家へついた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四

そして其から、達次によつて醸された色々の被害の、まだ中學を出たばかりの青年にしては、少し大膽すぎるほど大きいものであると同時に、ちよつと始末の悪い性質のものであることに氣がついた頃には、彼も賤しい女と同棲してゐた。

G―は舞踊の夜初夫に別れてから、二三日たつて東京へ還つて來た。そして其のちよつと前に、初夫が妹に注意しておいた用簞笥の金を、達次が素早く持出してしまつたことに氣づいた。G―は×××から來てゐた小切手や、達次が持つて行つた金の殘りについて、その時初夫を詰つてゐた。金を引出さうとして通ひを弟に渡した初夫の氣持にも無論不明な點があつた。大體に於て何うにか辻褄が合はないこともなかつたけれど、父に斷りもなしに、そんな無理をしてまで陽吉に用立てたことは、一應責めておかなければならなかつた。

「そんな事はお前の權限ぢやないぢやないか。海岸へ行くとき、經濟のことはお前にあれほど頼んだぢやないか。ぢや、今度は僕がしつかり遣りますと立派に引受けたんだからね。陽さんだつて還してくれやしないよ。」

一刻なG―はかん〳〵言つた。初夫の相が其の刹那遽かに險態になつた。

「そんな事を言ふから……」彼は眉根に皺を寄せて、暗い目をして父を難じた。

初夫に取つては、或場合には、若し手當てさへしてくれるならば、父がゐない方が、却つて勝手の好いこともあつた。彼は自分や兄弟達の家を、よく守つてゐるとは言へなかつた。夜家をあけてゐることは珍らしくなかつた。總ての日常生活に於て、幾十年勞苦して來た父と、其の結果何うにかかうにか人並の體裁を具へてゐる現在の家庭生活の雰圍氣のなかに、生れながら呼吸してゐる自分との隔別を、まるで感じないやうに思へた。父の結果が直ぐ自分の出發點のやうに思へる―いや、それよりももつと冷らしい態度をさへ彼は取つてゐた。G―は彼が父を愛し、好いてゐるやうに、何の子供よりも初夫を愛し、好いてゐたけれど、その性格には時代や年齢や思想の問題でなしに、本質的に自分とはまるで勝手のちがつたもの〻潜んでゐることを屢々見せられた。後天的のものはG―には其の相違はむしろ悦ばしかつたが、本質的に何か知ら自分よりも底力の強いものや暗いもの〻潜んでゐることを感ずるとき、彼の存在に何うにもならない壓迫を感じた。勿論それは妻が存生中から彼を苦しめたところの、立場とか利害とかいふものとは、全く別種の氣質的のものであつた。そして氣質のやうなも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のすらが、何かある場合に相互の憐みについて深い理解あるべき藝術家としての父と子の觸れ合ひを、不愉快なものにした。

しかし不斷は彼もGーには好い話相手であり、散歩の好い伴侶であつた。Gーも彼によつて慰められ力づけられる場合が多かつた。母の死後、五人の弟妹の兄として彼の味はつて來た苦惱が、どの位深いものであるかは、Gーにもわかつてゐた。彼と離れてゐるとき、Gーは彼の寂しげな姿を憐れまずにはゐられなかつた。

しかし初夫は初夫だけの見解と、言ひ分を有つてゐた。差當つての不滿は、今まで少しも父の心の煩ひとならなかつた達夫の行動であつた。それはGーの疑つた彼の事が、最初考へてゐたものより、遥かに範圍の廣いものであることが、日を經るにつれて、機會あることに直接彼に知れたり、初夫や女中によつて告げられたりしたからであつた。そして其の最後に、一ト月ほどたつてから、或る出版書肆から、千圓ばかり引出して行つたことが、ふとしたことから其の店員の口から洩れるまでには、原稿料の先取りや、印税の先潛りの、そつちこつちにあることが、眼前に一々知れてからであつた。そして其よりも一層ひどいのは、書肆の方が總てGーによつて封じられてから、諸雜誌や衣類や書籍を持出したり、知つてゐる化粧品店からダイヤの指環や帶留のやうな種類を十數點、Z海岸にゐる父の名によつて買つたことであつた。Gーの[illegible]た時期によつて、妻が心がけておいた、少許りの妹達の郵便貯金や、妻の指環や帶留や、夫から夫へと、彼等が逆づけられた。

初夫やK青年や女中の話によると、更に彼をさうさしたものは、多分は或る遊蕩の女であつた。彼はそのうちの幾分かで、彼女を泥水から救ひ出したらしいのであつた。

夏が來た頃には、しかし彼も漸く行詰つて來た。そして疲れ切つて、Gーと往來してゐる若い作家の家へ泊つたり、妻が嫁を世話したことのある或る大きな雜誌取次店の店員にたよつて行つたりした。そして其等の取做が一々Gーによつて拒まれたところで、彼は初夫の口添によつて、山國の母方の親類へと落ちて行つたのであつた。

Gーは徹底的に彼の行詰ることを望んでゐた。彼は子供のために要へらしたが、何よりも生活の脅威を感じた。

最近Gーは別府の温泉から來た、遊次の手紙を受取つてゐた。それは今迄の亂暴を詫びると同時に、海外へ渡るための多額の旅費を要求したものであつた。勿論Gーはそれを信ずることが出來なかつた。Gーに取つては、彼の爲してゐることは總て叔父から蒙つた災害の延長としか思へなかつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五

G―は久しぶりで、湖畔の古蹟を見た。朝早く旅館についてから、彼はＩ子と風呂に入つて、涼しい二階の座敷に朝の食事を取つた。

「綺麗な山ね。山も私好きよ。こゝなら仕事が出來さうね。」Ｉ子は手摺にもたれて、町のはづれに見える山の姿を懐かしんでゐた。

二人はトンネルの多い夜汽車で疲れてゐた。そして食事が濟むと、倦怠を感じた。電話をかけておいた親類の主人が、扇子をぱち〳〵やりながら遣つて來たとき、彼等は日の差込むのも知らずに、ぐつすり寢込んでゐた。彼はG―達を迎ひに來たのであつた。

「田舍のことでお構ひもできませんが、何うぞお出でなすつて。」

G―はＩ子をつれて、二三度泊つたことのある其の家へ行つて見たが、氣詰りさうなＩ子とでは矢張り落着けなかつた。二人は奥座敷の大きな卓の二方に坐つたが、主人夫婦の態度にも、今までのやうな心から親しみは感じられなかつた。

「初夫は來てゐませんかね。」

「そのお尋ねでしたけれど、もうへえ一週間も前にお歸りになりましたが、お宅へは歸らずかね。そのお返事を一昨日差上げておきましたが……。」

G―は稍々失望した。何かの話をするのに、初夫がゐた方が、双方に都合が好いと思つた。

「達夫は御厄介になつてゐますか知ら。」

「は、いゝえ。」主人は細君を振顧つて、

「達夫さんはゐねえかい。こゝへお呼びして。」

G―は逢ひたくなかつた。自分の力で何うすることも出來ない達夫のやうに思へてならなかつた。

「こゝで達夫に逢ひたくないんです。」

「私も言つてゐるんだ。お父さんにはお父さんの責任と仕事があるんだから、それも考へてあげて、默つて勉強さへしてゐれば可い譯だもんで。」

「遣ることが少し亂暴すぎますから。あゝ云ふ子供が一人でも内にゐると、何んにも出來やしません。私のやつてる事も諦めたことぢやないかも知れないけれど、さうでなくとも私なぞ子供を監督してゐる餘裕がないんですから。子供自身に自分の生活を考へない以上、早晩こんな事件は起きるんです。初夫にしろ達夫にしろ、今迄大事にされすぎたのです。何しろ餘りに子供本位で、家内の世話が行屆きすぎたのです。から云ふことは、長い生活から見れば、却つて好い試練だと思

ふんです。達次も方々行きつまつて、初めていくらか自分といふもの
に打つかつたでせうから。」
「大分弱つてはゐますがね。いづれ後程謝罪らせますが……。やいや
い、誰か達次さんを探してこいや。上の家へでも行つてゐるづら。」
彼を見に行つた細君が勝手の方から戻つて來た。
「お湯にいらしたんですて。」
二人きりになつたとき、I子が甘へるやうに、
「私湖水が見たい。行きません？」
「行つても可い。」
I子は着替へをした。そこへ細君がやつて來て、離れたところでI子の身仕度するのに見惚れてゐた。
「帯でも羽織でもほんとに好い柄ばかり。」
「いゝえ、何にもないんですのよ。」
自動車を驅つて、湖水のほとりを上の町まで行つた時分には、もう日が落ちかゝつてゐた。GーはI子と棧橋へ出て見た。ボートが幾つも浮いてゐた。
「月夜が好いんだ。」
「さうでせうね。でも思つたより水が汚ないわ。」
そこから引返した。I子にはこの湖畔から出た作家のF氏や、女流評論家のY女史のことなどが興味があつた。自動車のなかで彼等の噂をしながら、公園へ行つて見た。もう日が暮れてゐた。赤いお濠の橋が、夕闇に浮上つて見えた。二人は荒れた公園の中へ入つて見た。
「野趣があつていゝわ。こんな處好きよ。」
繩手を通つて、停車場前へ出て、そこから引返した。
晩飯がすんでから、抱への音曲なんかを聞いた。そして夜更けてから、細君と三人で町を散歩した。
翌朝店の方の夫婦の居間で、Gーは達次に逢つた。彼はすつかり變つてゐた。憔悴もしてゐたが、姿や態度がまるで變つてゐた。髪など分けて、學生らしい意氣も坊つちやんらしい氣分も失せて、柔弱な田舍の町の若い衆か、新派の下廻りかと言つた風であつた。Gーは其の服裝からが氣になつた。
Gーは罪人のやうに小さくなつてゐる彼に、十五分ばかり說教したが、達次の本來が、さう云ふところにあるのかと思ふと、可哀さうになつた。この家にぴつたり板についてゐるやうにしか見えなかつた。
「己達についてこれない男だとすると、引上げようとしたところで無駄かも知れない。それで幸福に暮せばそれでも可いのではないか。」
Gーは服裝まで小言を言つたことに、寧ろ空虚を感じた。
午後主人と三人で、山手の方へ行つた歸りに、Gーの好きな古祠の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歡樂を見に行つたりした。そして其の歸りに、料理屋へ立寄つて、細君に電話をかけた。

やがて細君がお化粧をして、いそ〳〵やつて來た。養女と達次とをつれて。

G―は達次の來たことが、それが初夫のやうな批判的な別の自己を兎に角持つてゐる男とちがつて、彼の場合では氣にくはなかつた。

そこを出たのは晩方であつた。

G―はこゝへ來てから、自分の方から養子問題に二度ばかり觸れて見た。それは主人夫婦が、いつまでも彼の前に、それを言ひ出しかねたことを知つてゐたからであつた。

「私の勝手から言へば、長男を上げた方がいゝんです。それはあの男が、物を書かうとしてゐる人間なので、私の迹を繼いだのでは隨分苦しむだらうと思ふからですが。」

細君は初夫を好いてゐた。

「え、初夫さんなら……。」

しかし主人は達次を心から愛してゐた。

「初夫君はなか〳〵社交家で。」主人はけそりとしてゐた。

「さうね、あれは少し難しく出來てゐる人間ですから、ちよつと扱ひにくいかも知れませんね。」

しかし直接では話は極まらなかつた。G―は席を避けてゐたI子の傍へ寄つて行つた。

「今夜どこかへ外へ行かない？」I子はそつと言つた。

「こゝは厭？」

「厭ぢやないんですけれど、一日でも好いから旅の氣分で暢びりしたいわ。」

「さうね。第一僕ぢや肝腎の話がきまらないんだから。」

G―も少し苛ついてゐた。そして遽かに支度に取りかゝつた。達次の小使として、少しばかり細君にあづけたりして、彼のことを頼んで其處を立つた。彼は久しぶりでM町の温泉へ行つて見ようと目論んでゐた。

ステイションへは達次も見送りに來てゐた。そして汽車が出るとき、彼はI子にもいつにない叮嚀なお辭儀をした。

二人はクッションに落着いた。I子は初めて目が晴々して來た。

「達次さん何だか可哀さうだつたわ。私に大變叮嚀にお辭儀したわ。」

「さう。大分參つてゐるやうだね。」

「寂しさうよ。」

「さうでもないだらう。」G―は言つたが、I子の感じに僞りはなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「私なら逵次さん、あすこに置くのは可哀さうだと思ひますね。」

「そのうち又出て來るだらうさ。しかし勉強もしてゐないやうだな。」

「さう。それよりか、あの人をあの家へやるのも考へものだと思ふわ。私の目を出すところぢやないんですけれど。」

「さうね。それも長いあひだ考へたことなんだけれど、どうせ學校は東京でやるんだし、あの人達は皆んな相當上品な人だから。」

「それあさうだけれど、逵次さんは初夫さんと違つて、割合ひ自己がないから、あの空氣に同化されてしまひさうだわ。逵夫さんなら、可哀くやるでせうけれど。」

「さうね、それに細君の話をきいても、菊作りの手傳ひに、親爺について出なければならなかつたり、何と言つたつて家にゐるやうな譯には行かないのさ。可哀さうも可哀さうさ。けれど先きへ寄つてから、幸福だとおもふ。己も苦しいからね。」

「それもさうね。けど、外の子供さんが、夫々高い教育を受けて、えらくなつた後に、若し逵次さんだけが、一人はづれたとしたら、寂しく思はないでせうか。」

「さう。しかし、あの男を引揚げようとするのは、反つて可哀さうぢやないか知ら。己は今まで逵次を知らなかつたやうだ。」

「それもさうね。」

今急いで決めることでもなかつた。

二人はM町の停車場へおりた。停車場に可也込んでゐた。驛前にゐた若い人達の多くの目を避けるやうにGーは急ぎ足で自動車まで歩いた。Iずがおくれて乘つた。Gーは數十の視線がその自動車に集つてくるのを感じた。

明るい町の灯が、二人の心を晴やかにした。

「ほう、これM市？　づゐぶん綺麗ね。」

「夜はね。」

町を離れて野に出て來た。涼しい溫泉町の灯が見え出して來た。Gーは二度ばかり泊つたことのある旅館へ自動車を着けさせた。

「逵次をつれて來ても可かつたんだけれど……。」Gーは風呂へ入らうとして、汗ばんだ着ものをぬぎながらIずにさゝやいた。

「さう。私もさう思つたけれど。」

「やつぱりそんな事をしない方がいゝんだよ。」

二人は浴衣がけで、廊下を傳つて行つた。湯の匂ひが鼻にしみて來た。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



腦の洗濯（狂言）

武者小路實篤

◇

作者。今日はよく來て下さいました。又何かお目にかけたいと思つて座員一同苦心いたしました結果、何か面白くつてためになるものをお目にかけるのがいゝといふことになり、私めに何かかけとのことで御座います。面白くつてためになるものをかけと云ふのはやさしいことですが、かくまになつては中々やさしくはありません。例によつて日が近づくまで何にもいゝ考が浮ばず、いよいよ期日も近づきましたので、大急ぎにかきました。皆さんがよろこんで下さればいゝがと思つて居ります。例によつ出鱈目のもので御座いますが、なるべく面白いものをかいて見やうと思ひました。つまらなかつたら例によつて役者がうますぎたとお思ひ下さい。決して下手だとはお思ひ下さるな。おい、道化！

道化。なんです。（出てくる）

作者。皆様にお目通りしろ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

道化。もう引こんでもよろしいか。

作者。何かしやべれ。

道化。今日はいゝお天氣で。もうよろしいか。

作者。何かもつとしやべれ。

道化。何をしやべつたらいゝのですか。

作者。舞臺の用意が出來るまでしやべれ。しやべれなければ逆立ちでもしろ。

道化。皆さん。私はこんな風して歩いてゐますが、之でも生た人間で、腹が立てば怒りもします。しかし怒つては飯が食へませんから、この世の中を面白、おかしくくらさうと思つてゐるのですが、さて面白、をかしくくらすのは中々大へんです。皆さんは私を見てお笑ひになるが、私は心では泣いて……はおりま……す。一つ泣いてお目にかけませう。皆さんも一緒にないて下さい。(泣く眞似する) 私は人間に生れなかつたらよかつた。この世の中がこんな世の中だとは思はなかつた。私は生れる前に人間と云ふものはそれは可愛いゝ優しい親切な動物だとおそはつた。そして人間に生れたら毎日毎日のらくらして遊んでゐて、うまいものが食へると思つてゐた。それで私はよろこんで生れて來ました。そして私はどんな目にあつたか、皆さんは御存知ですか。

作者。もう引つこんでもいゝ。

道化。もう一ことしやべらして下さい。皆さん。皆さんは人間に生れてうれしく思ひますか。私は自分の子供を見ても、子供達がよろこぶのを見ても、之からさき大へんだと思ふのです。しかし、子供達は私達よりは利口でせうから、どうにかやつてゆくと思ひます。さて皆さん。人間に生れて後悔してゐる皆さん、後悔したらさてどうしたらいゝのですか。生れない前にどうしたら歸れるのですか。それはでんぐりかへしを三遍やつてから云ふ風に後ろ向きに歩いて行くといゝのださうです。嘘だと思ふ人はやつて御らんなさい。

作者。馬鹿だな、君は。後ろへ進んだつて生れぬ前には歸れないぞ。それより前へ前へ進んでゆくのだ。地球はまるいから、前へ前へ進めばいつのまにか、生れない前の世界に歸れるのだ。だが、たゞでは歸れない。又たゞ歸るのではつまらない。前へ前へ進んでゆくがいゝ。

道化。さうですか。へい〳〵。(前へ進む)

(虎が出て來る)

虎。食ふぞ。

道化。之は困つた。逃げろ。逃げろ。

(獅子、出てくる)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獅子。こつちにくると食ふぞ。

道化。困つた、困つた。一たい私はどうすればいゝのです。

作者。食はれろ、食はれろ。生れぬ前に歸れるぞ。

道化。之が芝居だからいゝが、本當の獅子が出て來たら大へんだ。

作者。そんなことを云はずに食はれろ。食はれろ。

道化。いやなこつた。逃げられるだけ逃げるぞ。(腰がぬける)之は大へん腰がぬけたぞ、もうどうでも勝手にしろ。(腰がたつ)もうやぶれかぶれだ。戰ふだけ戰ふぞ。

(獅子と虎が同時にとびかゝる、道化身をさける。獅子と虎とかみあふ)

道化。しめたぞ、しめたぞ。(逃げやうとして)まてどつちが勝つか見てゐてやらう。(煙草を出してのみ始める)。虎公しつかり、獅子公まけるな。

獅子。まちな虎公。先づ人間をさきに食つちやおう。

虎。それがいゝ。

道化。大へん、大へん、逃げろ。逃げろ。

獅子と虎。逃がすものか。逃がすものか。

獅子。だがまて、あんたまづさうな人間を食ふためにあんまり走けるとそんだ。

虎。それもさうだな。

獅子。もつといゝ餌さをあさるとしよう。

虎。さうしやう。(退場)

作者。さて時間が來ましたから、始めることにいたします。

月夜

見知らぬ男。お前は何を考へてゐる。

A。別に考へてはゐないのです。この頃至つて泰平で呑氣になつてゐるのです。

見知らぬ男。あんまり呑氣でもないやうぢやないか。

A。明日迄に脚本をかゝなければならないので困つてゐるのです。

見知らぬ男。斷れないのか。

A。斷れないのです。

見知らぬ男。かけなければどうするのだ。

A。かけなければ仕方がないでせう。しかしかゝないと約束を守らないことになるので、それに僕の芝居をやると豫告迄出てゐるのですから。

見知らぬ男。亂暴だね。

A。少し亂暴です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見知らぬ男。それで呑氣なのか。

A。えゝ、あらやむを得なければ踊るだけだときめてゐますから呑氣です。

見知らぬ男。何かかければなほいゝのだらう。

A。それはさうです。しかし明日迄では一寸困ります。

見知らぬ男。いゝものをかく必要はないのだらう。

A。下手なものをかくと見物が承知しませんから。

見知らぬ男。見物なんて云ふものは、美しい女でも出しておけばそれでいゝのだらう。

A。さうもゆきません。

見知らぬ男。そしてしまいにおどりでもおどらせばいゝのだらう。君の脚本のやうに。まづいものを見せるお詫におどりを一つ見せると云ふのが君の芝居の常習らしいが、見物はそれで滿足するのだらう。

A。またおどりでもありませんからね。

見知らぬ男。いや、大いにおどらすがいゝよ。どうせ君のかくものは出たら目で通つてゐるのだから。始めつから しまいまで、おどらせば一番いゝのだ。いゝおどりを見るのは實にいゝものだからな。

A。それならいよ／＼困つたらおどらしますかね。

見知らぬ男。それがいゝだらう。勝手な理窟を云はしておいて、そして退屈しさうになつたらおどらすのだね。

A。あなたは中々ずるいことを考へてゐますね。

見知らぬ男。君はとつくにそれを實行してゐるよ。

A。さうでもありませんよ。しかし人間の心の調子が高くなるとついおどりたくなるものですからね。

見知らぬ男。そしてかくことがなくなるとおどらしたくなるのだらう。

A。さうぢやありません。僕はいつでも一生懸命になつてかいてゐるのです。

見知らぬ男。處で今度はどんなものをかかうと云ふのだ。

A。まだきめてゐません。脚本をかくより畫をかく方がこの頃は好きなのですが、畫ぢや金がとれませんからね。

見知らぬ男。處で俺はなにしに來たのかね。

A。おどりに來たのぢやないのですか。

見知らぬ男。馬鹿！　さうだ、俺はこゝである女に逢ふ約束になつてゐたのだ。

A。それを忘れるのは呑氣ですね。

見知らぬ男。俺は忘れることの名人だよ。一々覺えてゐては大變だ。

A。それでよくこゝに來ましたね。

見知らぬ男。君に同情したからさ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よ。それなら僕は脚本の内にあなたのことをかきこむよ。
見知らぬ男。いくらでもかくがいゝ。
（見知らぬ女登場）
見知らぬ女。隨分待ちましたか。
見知らぬ男。隨分待つた。
見知らぬ女。御免なさいね。
見知らぬ男。何か用か。
見知らぬ女。私、あした宮殿でおどらなければならないのよ。それで
あなたにおどりを教へていたゞきたいと思ふの。それで來ていたゞ
いたの
見知らぬ男。横着な奴だな。先生をこんな所によび出すなんて、
見知らぬ女。そんなことはどうでもいゝわ。おどりを教へてくれな
い。
見知らぬ男。それは教へてやつてもいゝさ。
見知らぬ女。私、明日は王様をすつかりおどかさうと思つてゐるの。
見知らぬ男。それはいゝだらう。
見知らぬ女。私、美少年に化けておどつて見たいの。
見知らぬ男。それもいゝだらう。
見知らぬ女。いゝおどりおしへて頂戴ね。

見知らぬ男。今すぐは一寸駄目だね。
見知らぬ女。あなたならおどれるでしよ。
見知らぬ男。美少年のおどりか。一寸困るな。
見知らぬ女。どんなおどりだつてよくつてよ。時々いゝ形をして、見
せさへすれば。
見知らぬ男。王様の寵愛でもとり戻したいと云ふのかい。
見知らぬ女。いやなこと、王様にすかれちや大へん。だけど、他にす
かれたい人があるの。
見知らぬ男。厄介な奴だな。
見知らぬ女。一寸可愛いゝでしよ。
見知らぬ男。何が可愛いゝものか。
見知らぬ女。私、王様にすてられてよかつたと思つてゐるの。
見知らぬ男。それはあたりまいさ。
見知らぬ女。早くおどりを教へて頂戴。
見知らぬ男。さうやすつぽくは教へられない。王様にすてられて昨日
まで泣いてゐた奴は誰だ。
見知らぬ女。私よ。
見知らぬ男。それで今日はもうすつかりよろこんでゐるのは誰だ。
見知らぬ女。私よ。それがどうしたの、すてられた人に未練なんか起

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さすのは馬鹿よ。この世の中は賢いのですからね。そして面白いことはいくらでもあるわ。

見知らぬ男。王様はやきもちをやくぞ。

見知らぬ女。大丈夫、そんな王様ぢやないわ。

見知らぬ男。それ程のお前ぢやないと云ふ方が本當かも知れないね。

見知らぬ女。あとになつて見ると、なぜあんな男に夢中になつたのかと、不思議な氣がするわ。

見知らぬ男。それでお前は幸福なのか。

見知らぬ女。幸福よ。

見知らぬ男。あの男にすてられたらどうする。

見知らぬ女。そんなことはないわ。

見知らぬ男。あつたらどうする。

見知らぬ女。あつたつてかまはない。そしたら又いゝ男をつくるから。

見知らぬ男。そんな男がゐるのかい。

見知らぬ女。さがせば、貸家と同じでいくらでもあるわ。

見知らぬ男。困つたやつだな。

見知らぬ女。悟つたのよ。もう天下泰平よ。何にも怖いものはないわ。今王樣に愛されてゐる人も、今その内にはすてられるわ。

見知らぬ男。まだ未練があるな。

見知らぬ女。ないわ。だけど宮殿をわかもの獨占してゐるのでおかしいわ。

見知らぬ男。それぢやおどりを教へてやるかね。

見知らぬ女。えゝ、教へて頂戴。

見知らね男。だがそれ迄に、お前のおどりを一つ見せてほしいものだね。

見知らぬ女。もう時間がないわ。

見知らぬ男。時間なんか消えてゆけ。

見知らぬ女。それなら一つ教へて頂戴。

見知らぬ男。それなら面倒だが教へてやるか。しかし教はればすぐ逃げてしまふのだらう。

見知らぬ女。それはさうよ。

見知らぬ男。一寸待て、俺は今日用があつたかも知れない。

見知らぬ女。用があつても教へてくれない間は逃がさない。

見知らぬ男。さうそう、今日は他に一人約束があつた。

見知らぬ女。あつたつていゝわ。

見知らぬ男。それなら早く俺がおどつて見せてあげやう。(おどる。

見知らぬ女。それでおしまい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見知らぬ男。おしまいだ。さよなら。
見知らぬ女。さよなら。
（見知らぬ男、退場。見知らぬ女おどりの稽古する。忘れた所を思ひださうとする。どうしても思ひ出せないので、泣き出す）
A。何をないてゐるのです。
見知らぬ女。おどりを忘れたの。あしたおどれないので泣いてゐるの。
A。こうぢやないのですか。（おどつて見せる）
見知らぬ女。さうでした。さうでした。ありがたう。あなたはどなたです。
A。僕ですか。僕はこの家の主人です。あなたはどなたです。
見知らぬ女。私は月の世界から來たのです。
A。さうですか。どうりで見たことがないと思ひました。あしたおどるのですか。
見知らぬ女。えゝ。あなた月の世界に來たくない。
A。ゆくのは大へんでせう。
見知らぬ女。いやなんでもないのよ。もしゆきたければ私がつれていつてあげるわ。
A。踊りはどうなるのです。
見知らぬ女。踊らなければいゝぢやありませんか。
A。僕は踊れないと困るのです。
見知らぬ女。こんな世界に未練があるのですか。
A。未練がありますとも、僕はこの世界でないとぴつたり生きられないのです。
見知らぬ女。へんな方ね。あつちへ行つてごらんなさい。面白いことだらけですよ。あなたのすきなものになんでもありますわ。
A。嘘でせう。うつかりゆくと奴隷にされるのでせう。
見知らぬ女。そんなものはないわ。それなら踊りは私が送つてあげるから、二日か三日來て御らんなさい。
A。それなら一寸うちの奴に二三日旅行をしてくるからと云つて來ますから、待つてゐて下さい。
見知らぬ女。えゝ、待つてゐますとも。
（Aかけてゆく）
見知らぬ女。あの人は馬鹿だな。しかしいゝお土産が出來た。

二

A。人を動物園の猿のやうに思つてやがる。どうかしてこのおりからぬけられないものかな。それにしても地球に歸ることは出來ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今時分、家の奴はさぞ心配してゐるだらう。子供の奴はどうしてゐるか知らん。

（先生、學生三四人をつれて來る）

先生。之が地球の人間さ。實に不景氣な顏をしてゐるだらう。俺達にそつくりだが、不景氣な野蠻な顏をしてゐる。この人間と云ふ奴は俺達の墮落したもので、眞心を生かして生ることが出來なくなつたものだ。彼等は自然の深い意志を知らず。人間がどう生ればいゝかを知らず、自分のあさはかな智慧をもつてずるいこと許りして生きやうとしてゐる動物だ。そして動物よりも不自然で、醜い。著物と云ふものを考へだしたが、そのために肉體が退化することを忘れてゐる。君達も心がけをわるくし、天の意志を重ぜず、あさはかな自己の智慧許りをたよると、こんな顏になる。恐ろしいことぢやないか。

A。俺をだましてこゝにつれて來たのは誰だ。俺達の仲間ぢやないぞ、君達の仲間だ。君達の仲間は美しい顏をしてゐるかも知れないが、噓つきだぞ。

先生。人間の聲はあんなにまで醜く呪ひに滿ちてゐる、彼等の心には平和がない。

A。ないのはあたりまへだ。こんな中に入れられておちついてゐられる馬鹿があるか。

先生。それ御らん。あゝ云ふ風に天命を安じることを知らないものが人間なのだ。君達は顏や身體が似てゐるからと云つてこんな人間に同情をもつたり、厚意をもつたりしてはいかん。そしたらたちまち君達の心は邪氣に滿されるにちがいない。あの濁つた目をごらん。あの悲しさうな、怒つた顏をごらん。根性許りが出て、おちついた所が少しもないあの表情をごらん。そして人間と云ふものは實に死を怖がるものだ。どんなに死をこわがるものか。ためして見やうか。

A。そんな殘酷なことはよしてくれ。

先生。學問のためだ、眞理のためだ。殘酷だなぞと云ふ言葉を平氣でつかうのが、地球の人間だ。其處にゐる獅子をつれて來い。

A。そんなことはよしてくれ。お願ひだよしてくれ。

先生。そら顏色がかはつたらう。

學生一。えゝ、本當にかはりました。

先生。あれが死の恐怖と云ふものだ。獅子をつれて來てこのおりのなかに入れて見てくれ。

學生一。こんな大事な標本を喰はしてしまつてもいゝのですか。

先生。喰ひさうにしたらとめればいゝ。

A。それだけは許して下さい。許して下さい、許して下さい。王をつ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いておぢぎする)
先生。それあんな見ともない眞似をして平氣でゐるのが人間だ。
A。なんだつて、俺達人間を輕蔑するのか。
先生。あのから元氣を見ろ。あれが地球の人間と云ふものだ。
A。そんならお前達は平氣で獅子に喰はれるか。
先生。平氣で死ねないことを自慢にしてゐる。
學生一。本當に不思議ですね。そんなに死ぬのが怖いのですかね。
A。君達は死ぬのが怖くないか。
學生二。怖がらなければ死なずにすめますかね。
A。死なずにけすまない、しかし死が恐ろしいのが事實なら仕方がない。
先生。死が恐ろしいといふのは幻想にすぎない。
A。肉體の苦痛はどうだ。
先生。肉體の苦痛は神經のいたづらにすぎない。
A。いたづらでも痛ければ仕方がない。
先生。いたくないやうにしやうと思へば出來るものだ。
A。それならお前が獅子に喰はれたらいゝだらう。
先生。私達が生てゐるのは肉體の苦痛と死が怖いから許りだと思つてゐる。實に不思議な考へだ。
A。それなら君達は何のために生てゐる。
先生。生かされてゐるから生てゐる。生てゐるのは君達の都合で生てゐるのぢやない。
A。それなら君達はいつ死んでもいゝのか。
先生。死ぬ時がくればよろこんで死ぬ。死はやすらかなものだ。
A。空虚なものとは思はないか。
先生。思はないね。君は本當に怖いのか。
A。それは怖い。
先生。どう怖いのだ。
A。話したつてわからない。
先生。早く獅子をつれて來い。
A。それは罪だ。
先生。罪? 地球上ではまだ罪と云ふ言葉がはやつてゐるか。
A。人をころすことはこゝでは罪とたつてゐないのか。
先生。人を殺すものはない。殺す理由がないから。しかし殺されるのをいやがるものはない。死はたのしいものだから。
A。死がたのしいと云ふことはどうしてわかる。
先生。死んでゆくものが皆よろこんで死んでゆくのでわかる。そのたのしみは何とも云へないものらしい。男女が抱擁するよりは死を抱擁

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Aする方がよりたのしいことは誰でもが明言してゐる處だ。生てゐるのは死のよろこびをより深かく味はうためだと云つてゐるものもある。そして早く死ぬものは、そのよろこびを早く味はつたずるい奴だとも云はれてゐる。

A。それなら自殺するものが多くはないのですか。

先生。生てゐることはわるいことぢやない。生てゐることも限りなくたのしいことだ。生は實によし死は更によし、生れないのも亦悪くない。之が私達の考へだ。

A。呑氣だね。君達は。

先生。無意味に苦しむことを得意にしてゐるのが君達だ。

そんなことを云ふならおりに入つて見るがいゝ。

先生。おりの内もわるいものぢやない。いろ／＼たのしいことを考へることが出來る。

A。俺は地球に歸りたい。

先生。何處でも居る處がいゝはづだ。君達は地球へ歸ると、地球の生活の悪口を云つてゐるのだらう。生ることは苦しい。だが死ぬのはなほいやだと。

A。その通りだ。

先生。恐ろしい。そしてくらい考へぢやないか。この醜を見てもわかる。

A。こゝでは食へない人間はゐないのか。

先生。地球では食へない人間がゐるのか。食へないで生てゐるのか。

A。地球では食ふことが大へんなのだ。そしてどうかするとすぐ食なくなるのだ。

先生。それなら地球では餓ゑ死にしてゐる人が多いのだね。

A。餓ゑ死にするのがいやなので、どんな勞働でもやるのだ。

先生。勞働はたのしいことだ。

A。地球ぢや勞働はたのしいことぢやない。

先生。地球ではすべてが苦しいのだね。結婚はどうだ。

A。結婚したものは結婚したことを後悔し、結婚しないものは結婚出來ないことを淋しがる。

先生。なんでもこゝと反對だ。それでは地球では子供を愛しないのか。

A。愛しはするが、子供を育てるのが大へんなので、多くの人は生れないことをのぞんでゐる。

先生。地球の人はそれでは愛することを本當には知らないのだな。

A。憎むことは本當に知つてゐる。だが愛することは本當には知つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐない。
先生。病的な世界だな。君達はどう思ふ。之はたしかに地球の人間は腦味噌のつくり方がわるいにちがいない。一つ君の腦味噌を見せてくれないか。
A。どうかそれは許して下さい。
先生。一寸だ。三十分もかゝりはしない。
A。どうして見るのです。
先生。頭蓋骨をはがして見るのだ。又あとでくつけておくから心配なことはない。一寸眠てゐる間に、よくしてあげる。
A。いやそれは御免です。
先生。一寸調べて、そしてわるい所があつたらなほしてあげる。そしたら死ぬことなんか怖くなくなるし、生きてゐることがたのしくなる。見るもの聞くものが美しくなる。小鳥の聲をきいても生きてゐるのがうれしくなるし、草の葉一つ見ても愉快になる、まして人間と話をしたり、青空を見たりすると愉快でたまらなくなる。
A。それでも頭蓋骨をはがされては困ります。
先生。すぐはがれる。
A。よして下さい。このまゝで結構です。
先生。地球の人間と云ふものはどうしてさう臆病なのだらう。だからいつまでも進歩しないのだ。そしていつも苦い顔つきをしたりやけな顔をしてゐるのだ。
學生一。獅子はどうします。
先生。獅子のことは忘れた。早速つれて來い。
學生一。はい。
A。どうしても獅子に喰はれなければならないのですか。
先生。食ひはしまい。しかし死の恐怖と云ふものが、人間の表情にどうあらはれるか。一寸研究して見たい。
A。そんなことは御免です。
先生。いくぢなし、そんな心がけでゐるからいけない。死がこはくて生きてゐられるか。
A。それでも獅子に食はれるのは閉口です。
(學生一、獅子をつれてくる。)
學生一。それでは之を入れるからさう思へ。
A。許して下さい、許して下さい。
先生。だめだ。よく表情を見てゐろ。
(獅子を入れる。Aこはがる)
先生。獅子! もつと食ふ眞似をしろ。おどかせ、おいかけろ。よろしい。もう獅子を出してやれ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（獅子を出す）

A。あゝ、助かつた。こんな怖い思ひをしたことはない。もう二度とこんな目にあつたら死んでしまふ。

先生。そんなに怖いか。

A。怖い。

先生。君達は恐怖と云ふものがどんなものか知つたらう。そして我々がその恐怖に打ちかてたことをよろこぶだらう。野蠻時代においては我々の先祖もまたこのやうに死の恐怖を味はつたのだ。私達にはもうその氣持はわからなくなつてしまつた。腦の出來がちがつてしまつた。死はたのしいものであるとしか我々には思はれなくなつてゐる。しかしこの男はまだ死の恐怖にかてない。憐れむべき狀態にゐる。あの恐ろしさうな顏は君達がまだ當つて見たことのないものだ。寫眞にとつておいたらいゝだらう。

（畫家が出てくる）

畫家。之は面白い。（寫生にかゝらうとする）

先生。いゝ處へ來ましたね。

畫家。僕はまだ人間の恐怖した時のありさまを見たことがありません。深刻なものですね。獅子もつと吠えろ、かみつく眞似をしろ。さうだ。もう少しうまくおどかせ。

先生。之で君達は死の恐怖と云ふものがいかに恐ろしいものかと云ふことをまのあたり知つたらう。

學生一。知りました。

先生。どうせ死なければならない人間が、か程にまで死を恐れるのは馬鹿氣たことに思へるだらう。しかし野蠻時代の人間は死の恐怖がないと生きるよろこびを味はふことが出來ないのだ。之等の人間は、死の恐怖がなくつては生きてゆけない憐れな人間なのだ。畫が出來ましたか。

畫家。出來ました。

先生。見せて下さい。中々よく出來ましたね。

（皆畫に見とれてゐる）

A。助けて！　助けて！

（見知らぬ女登場）

見知らぬ女。まあ可哀さうに早く獅子を出しておやりなさい。

先生。承知しました。獅子を出せ。

學生一。はい。

（獅子を出し、つれてゆく）

見知らぬ女。どうでした。

A。びつくりしました。生きてゐる心地はありませんでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見知らぬ女。もう私が來たから大丈夫です。
A。僕はあなたを恨んでゐます。
見知らぬ女。恨まれたつて私ちつとも困りませんよ。
A。あなたの仲間は實に冷酷ですね。
見知らぬ女。あなた達は實に親切ですがね。
A。それにしたつて、獅子をほりこんだり、人間をおりに入れて見せものにしたりはしません。
見知らぬ女。あなた達は他の動物にたいしてどんなことでも平氣でするぢやありませんか。
A。人間と他の動物とはちがひます。
見知らぬ女。私達にとつては、あなたはあなたたちにとつての猿のやうなものです。
A。失禮なことを云ふものぢやない。
見知らぬ女。猿と五十歩百歩ぢやないのですか。あなた達は猿よりもおとつてゐると云ふものがあります。猿は迷はずに生きてゐるが、あなたたちはどう生きたらいゝか一人も知らないつて、本當ですか。どう生るのが本當か、あなた達は知らないのですか。
A。あなたは知つてゐるのですか。
見知らぬ女。勿論、知つてゐます。
A。それならなんのために生れたのです。
見知らぬ女。太陽におきゝなさい。
A。太陽はだまつてゐます。
見知らぬ女。そんな馬鹿なことは考へないだけなのです。あるがまゝでいゝ。生れることは意味があるからいゝのではない、生れたから生れたことがいゝので、生れたかつたら生れないのがいゝ。之は理窟以上です。ね、先生。
先生。さうです。理窟で計りものを考へるものは、事實のよさを知らないものです。
A。それなら君達にとつてはすべてがいゝのか。
先生。すべてがいゝ。
A。生るのも死ぬのも。
先生。勿論。
A。働くのも働かないのも。
先生。働きたくないものは私達の仲間にはゐない。皆よろこんで働く、義務を果してあと自由をたのしむ。義務もいゝ、自由もいゝ。
A。一寸その體を見せてくれませんか。
畫家。御らんなさい。
A。こんな顏してゐましたか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

先生。その通りです。

A。この畫をくれませんか。

畫家。だめです。それは王樣の殿へ持つていつてお目にかけるのです。

A。困つた記念をつくつたものですね。僕にも紙と筆をかしてくれませんか。

畫家。あなたもかけるのですか。

A。一寸はかけるのです。畫がかければ退屈しませんから。

畫家。それなら之を上げますから、何かかいて見て下さい。あなたの見る通り、この花を一つかいて下さい。

A。かいて見ませう。

畫家。かけましたか。

A。えゝ。

畫家。見せて下さい。

A。恥かしいものです。

畫家。之が見た通りなのですか。

A。さうです。

畫家。（女に）之を御らんなさい。この美しい花がこんなに切り見へないのださうだ。之ぢやこの花の存在がわかるわけはありませんね。

A。それならあなた一つかいて見て下さい。

畫家。かいて見せませう。どうです。

A。こんなに美しく本當に見えるのですか。

畫家。それが見た通りです。

A。こんなにすべてが美しく見えたら、さぞ愉快でせう。

畫家。あたりまへです。生てあることはよろこびです。之はいたる所にありますから、我々はいつでもよろこんで生てゆけます。

A。羨やましいことです。

畫家。あなた達でもあと一萬年もたつたらこんな風に自然が見えるやうになるでせう。

A。一萬年？

畫家。さうです。一萬年前の我々の先祖は丁度今あなたがかいたやうな畫をかいてゐます。恐らく、目の出來も腦の出來も、一萬年たつと今の我々と同じやうになるでせう。その時、あなたは生も死も、ひとしく愛するでせう。

A。自分の愛するものが死ぬのを何とも思ひませんか。

畫家。別に何とも思ひませんよ。なすべきことをして、死んでゆくものは、幸福ですから、我々はその人とよろこびをわかつだけです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

A。そんな氣持はわかりませんね。
書家。一週間もたつたらわかるでしよう。
A。わからない方がいゝとも思ひますね。
見知らぬ女。王様がいらつした。
（王様、大勢と登場）
王。之か。話の男は。
見知らぬ女。左様で御座います。
王。面白い顔をしてゐるな。
見知らぬ女。本當に面白い顔しております。
王。こいつは馬鹿かね。
見知らぬ女。あまり利口な方ではないでせう。しかし似たりよつたりです。
王。我々より猿の方に近い。
先生。おつしやる通りです。
王。この人間について面白い實驗をして見たか。
先生。さつき死の恐怖について試驗して見ました
王。死の恐怖？
先生。さうです、我々の先祖が味はつたと云ふ死の恐怖がどんなものかしらべて見ました。
王。それは面白かつたらう。
先生。想像以上で御座いました。
王。見たいものだな。
先生。早速御覧に入れませう。
見知らぬ女。可哀さうだからおよしなさい。
王。可哀さうと云ふ感じを俺はもう忘れてゐた。久しぶりに味はつて見たいものだ。
見知らぬ女。いゝものぢやありません
王。昔はあはれむと云ふことは美德になつてゐた。
先生。今は憐れまれるものが一人もないことが我等の誇りです。
王。憐れまれることは不幸にちがいない。俺達の世界には不幸といふものがなくなつてしまつた。
先生。我々はすべてをよしと見ることが出來るやうになつてしまつたので、不幸は住む處がなくなつてしまいました。下界ではまだ々々不幸が根づよくすくつてゐるやうです。肉體の苦痛と、死の恐怖飯の食へない心配や、生るくるしみが支配してゐるやうです。
王。面白いものが支配してゐるな。どうしてそんなに馬鹿なのかね。何か薬でものましてやつたらよささうなものだ。
先生。腦の出來がちがつてゐるのだと思ひます。まだ本當の美とか、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よろこびとかを感じる力がないやうです。一つ明日にでも頭蓋骨をはがして、腦を調べて見たいと思ひます。そして惡い處があつたらなほして見たく思ひます。

王。それは面白いだらう。それでは腦をなほす前とあとがどんなにちがふか、一つ調べて見るといゝね。

先生。調べることにいたしませう。そして外から見た所、頭の形もよくないやうですから、頭の形もなほさうかと思つてゐます。

王。それはいゝだらう。そしたら死の愛すべきものだと云ふことも、人間は苦痛なしにたえずよろこべるものだと云ふこともわかるだらう。

先生。どうも神經中樞の出來がわるいのだと思ひます。それから色慾や食慾が少し病的に發展してゐるやうです。それからつまらぬことを心配したり、役に立たないことを考へすぎたりする處が面白くないと思ひます。それ等をすつかりなほして見るつもりです。

王。さうしたら俺達の仲間になれるかも知れない。

先生。私達の仲間になれるやうに出來るだけ骨折つて見ます。

王。それはいゝだらう。

先生。それでは明日この男の腦味噌を一度出してしらべて見ます。

A。そんなことはよして下さい。

王。なぜよしてほしいのだ。

A。頭蓋骨を生きながらはがされることは考へてもたまりません。

王。おかしなことを云ふな。腦味噌をよくしてもらうのが、なぜいやなのだ。

A。私は之れ以上利口になりたくありません。之で結構なのです。だから頭蓋骨をはがさないで下さい。

先生。王樣。之が恐怖心と云ふものです。頭蓋骨をはがされることを、大へん恐ろしいことのやうに思つてゐるのです。

王。どうも不思議な馬鹿だな。

A。それなら君達は頭蓋骨をはがされるのを何とも思つてゐないのか。

王。あたりまいさ。口をあいたりふさいだりするのと同じことだ。別に大したことぢやない。時々頭蓋骨をはがしてもらうと涼しくつて氣持のいゝものだ。

A。それなら君達は自分の頭蓋骨をはがしてもらつたことがあるのか。

王。あたりまいさ。少くも年に一回は腦味噌は洗つてもらうのはこの國の習慣だ。僕なんか、月に一回はあらつてもらう。

A。それきいて少し安心しました。しかし頭の形をかへたり、腦のり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くり方をかへたりしたら、賢は賢でなくなつてしまいはしませんか。

王。それは餘計な心配だ。安心するがいゝ。本當にこいつの腦は少し病的だ。つまらぬことを心配するにも程がある。明日本當によくなほしてやるがいゝ。

先生。さう云ふ風にしませう。

王。それぢやあつちへ行かう。

見知らぬ女。參りませう。

三

先生。どうだ。この腦のよごれてゐることは。

學生一。本當に隨分よごれておりますね。

先生。かうよごれてゐると洗ふのはたのしみなものだ。之を見ろ。之がよくない。こゝをなほすと、つまらぬことを心配しなくなる。こゝが發達しすぎてゐる。之は一種の恐怖病だ。又この皮が厚くなりすぎてゐるのは、この男を怠惰にさせ、生々させない元因だ。こゝが發達しないから、美が十分にわからない。こゝが發育がとまつてゐるのはこの男が快活になれない證據だ。

學生二。こゝが中々發達してゐますね。

先生。それは色情だ。年が年中色情のことを考へてゐるらしい。其處はうんと少なくしておくがいゝ。それからこゝが發達してゐるのは何のためかわからない。どうも偶然に見當のつかないことを考へてゐるらしい。之で一通りなほつたわけだ。それからその頭蓋骨を一寸なほしてやらう。こゝが入こんでゐるのは面白くない。一寸カナヅチをとつてくれ。(一寸たゝき)之でいゝ。それならもと通りつぎあはせてやらう。之でこの男も、少しは足りないが、俺達の仲間入りが出來るわけだ。

(看護婦登場)

看護婦。王樣がお見えになりました。

先生。こゝへお通しゝてくれ。

看護婦。はい。

(王樣登場)

王樣。どうだつた。

先生。うまくゆきました。

王樣。あの男の腦味噌はどうだつた。

先生。隨分よごれておりました。しかし見かけよりは質はわるくありませんでした。あの位いの質をもつてゐるとすると、人間の内にも少しはすぐれた人も出ていゝはづです。たゞ修養の仕方を知らない

らしいのです。

王様。よくなほしたか。

先生。なほしました。

王様。さぞせいせいするだらう。

先生。せいせいすることゝ思ひます。すつかりぬいつけたか。

學生一。ぬいつけました。もう目をさまさしてよう御座いますか。

先生。もう少しそのまゝにしておいたらいゝだらう。

王様。何處が一番發達してゐた。

先生。矢張り恐怖性でせう。それから苦痛を感じる神經がいやに發達しております。それから色情も發達してゐます。一たいにさつぱりしない性質に出來てゐます。今度なほしておきましたから、快活になり、つまらぬ心配はせず、肉體の苦痛も恐れず、死の恐怖も感じなくなるでせう。

王様。それはよかつた。

學生一。もう起しませうか。

先生。起してもいゝが、それよりそのまゝまた、おりのなかに返しておく方がいゝ。

學生一。それではさう云ふ風にします。

王様。ついでに御苦勞だが俺の腦も洗つてもらはうかね。

先生。おあらいしませう

學生一。それではつれてゆきます

先生。それではあとでゆく

學生一。はい。

（Aを擔架にのせて學生二人でかついでゆく）

王様。それでは一つあらつてもらうかな。

先生。承知しました。

四

學生一。どうです目がさめましたか。

A。さめました。

學生一。氣持はどうです。

A。大へんよろしい。こんなにすがすがした氣持を味はつたことはありません。實にいゝ氣持です。

學生二。さうですか。

A。悟りを開いたと云ふことはどんなものかと云ふことを今知りました。涅槃の氣持と云ふものもきつとこんな氣持でせう。こんないゝ氣持は生れて始めて味はいました。

學生一。さうですか。それは何よりです。この花を美しく思ひます

か。

A。思ふ處ですか。實際こんな美しさがこの世にあるのには氣がつきませんでした。そして君達も皆に美しい、生々してゐる。そして君達の眞心がぢかに感じられる。人間の本心と云ふものを本當に知ることが出來ます。

學生二。もう死ぬことは怖くないでせう。

A。怖いものですか。怖いと云ふ感じが变なものだと云ふことを本當に知りました。

學生一。もう獅子をつれて來ても何ともないでせう。

A。何ともありませんね。本當に生ることはいゝ。そして死ぬことはなほいゝと思ひますね。なすべきことをなして歸るよろこび之が人生に與へられた最上のよろこびだと云ふことを今知りました。

(先生と王樣登場)

先生。どうです。

A。おかげですつかりいゝ氣持になりました。

先生。あなたの腦味噌は、隨分よごれてゐましたよ。

A。さうでせう。

先生。私はあなた達の腦味噌の質のわるくないのに感心しました。それたのに地上にいろ／＼ばかなことが行はれるのは、腦味噌を淸めることを知らないからだと云ふことを知りました。あなた達は每日腦をわるくして生活してゐるのではないかと思ひました。

A。さう云はれると一言もありません。

先生。心を淸くしては地上では生活出來ないのですかね。

A。さう一がいにも云へませんが、しかし心を淸くする必要はないのです。そしてずるく働かないとすぐやつつけられるのです。

先生。どうも地上のことはよくわかりませんが、いろ／＼つまらぬことに心をつかうやうですね。つまらぬことに神經をつかうやうですね。腦味噌の使ひ方をまるで知らないやうですね。

A。さうかも知れません。今になつて見ると私達は考へないでいゝこと許り考へてゐたやうです。そして心配しなくつていゝことに心配しすぎてゐたやうです。

先生。さうです。たしかにさうです。もつと新鮮な、せい／＼した、ほがらかな氣持で生てゆける處を、あなた達はくよ／＼して、つまらぬことを氣にし、又いやしい考へをこつそり起してゐる傾があります。

A。恥かしいことです

先生。しかしもうすんだことです。

A。之から私は愉快に生てゆきます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

先生。王様、蘭も生々して來ましたね。

王。さうだ生々して來た。

先生。もう獅子なんか怖かないでせう。

A。怖かありません。死も恐ろしくありません。肉體の苦痛も神經のいたづらだと云ふことがわかりました。あなたたちの氣持がよくわかります。この世にわるいことはないと思ひます。皆が云ふ氣持で生きられたら歡にいゝと思ひます。

先生。本來の人間はさうつくられてゐるのです。私達は本來の人間の通りに生きてゐるだけです。あなた方は自分をいびつにし、考へまちがいをし、尊敬しなければならないものを尊敬せず。そして尊敬してはならないものを尊敬し、そして頭を始終下等にしてゐるのです。不思議に思ひます。あなたの腦味噌に一つ不思議に發達した部分がありました。それは物慾によく似たものです。

A。わかりました。それは金が欲しい。金をつくりたいと云ふ根性がかたまつたのでせう。

先生。恐ろしい根性です。そんな根性はなげすてないと生々出來ません。

A。ありがたう。さう心がけます。

先生。何かあなたがたの生活には根本にまちがつた處があると思ふのです。さもないとよごれ方や、傷つき方がひどすぎます。そして大事な處があつぱくされがちです。

A。よくわかります。今になると自分の根性がまちがつてゐたことがよくわかります。御かげでさつぱりしました。之からくよくよせずに、心がけをよくして、怠けものにならず、不淨なことはなるべく考へずに、たへず、生々した、ほがらかな心で生きてゆきたく思ひます。

先生。さうおしなさい。もうおりにゐるのがいやでなくなつたでせう。

A。えゝ、もう檻からやがて出られることもわかります。出られる迄、之も面白いと思ひます。

王。檻をもうとつたらいゝだらう。

先生。はい。

(見知らぬ女、他の女達と登場)

見知らぬ女。今日は。

A。今日は。

見知らぬ女。氣持はどうです。

A。すつかりよくなりました。

見知らぬ女。私をまだ恨んでゐますか。

A。もうらんではゐません。すべてがよかつたと思ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見知らぬ女。忘れたこともですか。

A。えゝ。

見知らぬ女。そして死ぬこともですか。

A。えゝ。

見知らぬ女。そしてもう地球には歸りたくありませんか。

A。こゝも實によろしい。いつまでもいたく思ひます。しかし地上もわるくはありません、思ひ出すとなつかしく思ひます。

王。君は地上に歸りたい時は歸り、こゝに來たい時は來られるやうにしてあげやうか。

A。さう願へれば何よりです。

王。この男に魔法の本を與へるといゝ。

先生。承知しました。

見知らぬ女。私がとつて來ます。

王。ついでに皆をよんでくるといゝ、どうだ君はうれしいか。

A。ありがたう御座います。

（音樂者や、他の人大ぜいくる）

王。皆さん。私達の仲間が一人ふへました。そのよろこびを皆さんとわかちたく思ひます。それで之から歡迎の舞踏をしたく思ひます。それでは之から始めます。歡喜の曲をなりひびかせろ。

（曲かなりひゞく、皆がおどり出す。いゝ時に幕）

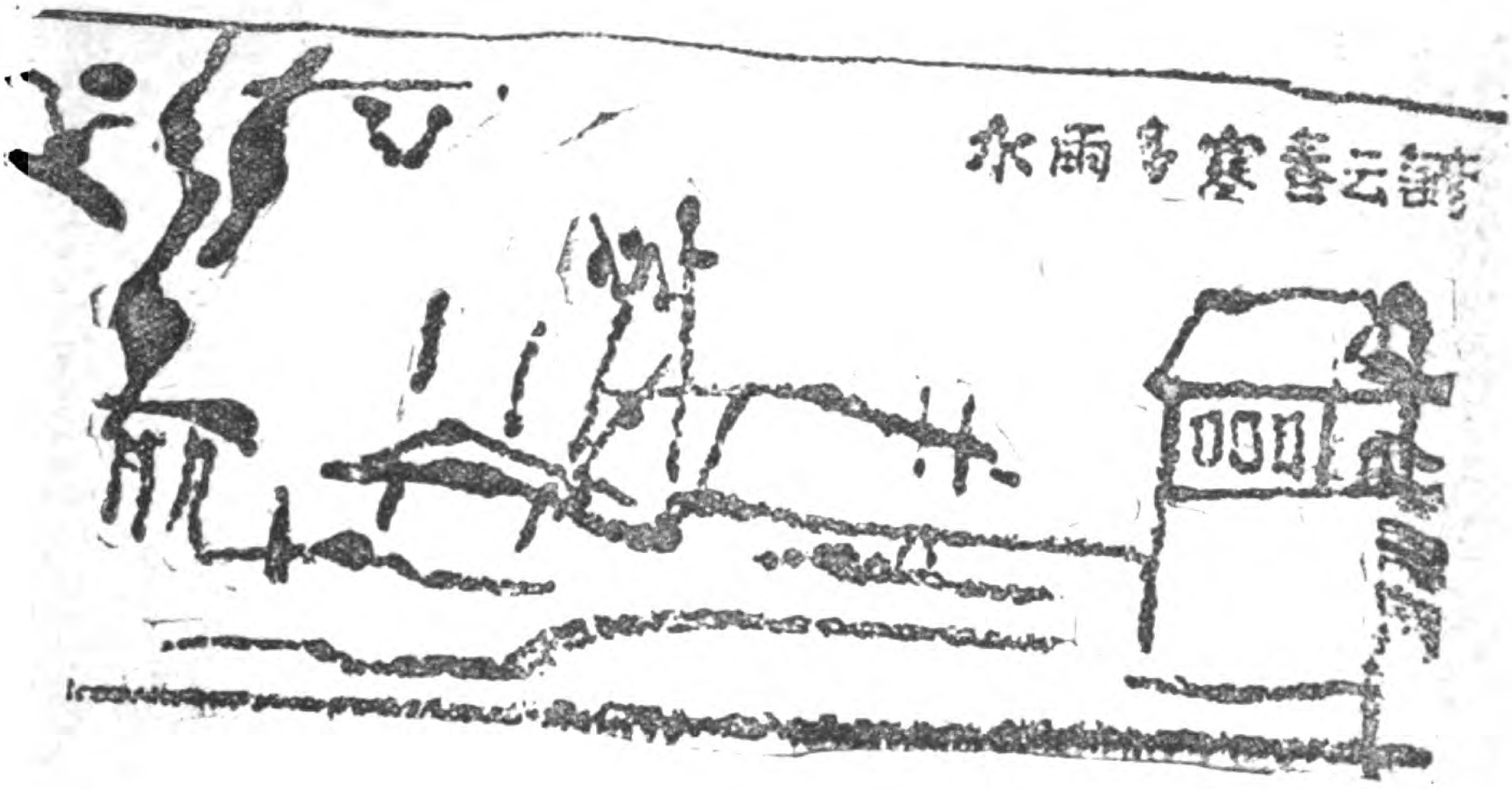
（二七、一二、二）

武者小路實篤著

母と子（定價貳圓 送料廿二錢）

久かたぶりの氏の長篇小說、人類の意志に從ひ正義と愛と倫理の世界に裸のまゝ飛び込んで、自己の使命を果さんとする理想の熱愛者進を圍むに、母性愛の廣大さを示現する母爲子、捨身になつて愛戀する緣子、友情を完うする中尾、更に和尙、彫刻家を點じ、作者は如何に躍動せしか。プロ根性もブル根性も洗滌されし同水平線上に立ち、彼我一緒に苦み生長し人生を肯定したいのだ。この眞人の世界に人類總がかりで開扉せらるゝ心の窓に先驅として輝きわたる東方の光を見よ

最新刊（四六版上製）　改造社



老青年

一

佐藤春夫

御手紙ありがたう拜見致しました。漢口の方は如何で御座りましたか。私達五人は元氣で居ります。美子、三馬二、麗子は毎日學校に行つてゐます。御安心下され。お父さまからのお金はまだつきません。そのお金を一日も早くまつて居ります。今まではお小使が一つもありませんでしたから、よその毛絲を編んでお小使にして居りました。又前の山本さんのをばさんに色々お世話になつて居ります。一日も早く上海に歸れることをお願ひ致します。

お父さんが上海へお歸りになつてからは、中野のをばさんも、田島のをぢさんも、少しもお賴みを聞いて下さりませんし、買物はみな現金でなければ賣つてくれません。まことにこまります。お米を言ひに行きましたら中野の方から止めてあるので、持つて來ませんでした。その日、夜の御飯をみなたべませんでした。私は泣いて居りました。前のをばさんが親切にして下さりますのでお米を一升いただきました。小さな子供が可愛さうでなりません。今はたゞお金を待つばかりで御座ります。毎日苦しい日を暮して居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ります。

それに中野の人達や田島のをぢさんも私にはかたきであります。手紙に背くことの出來ないほど色々の事を言はれて居ります。

三馬二の靴は小さくてはいりません。大島の靴も御座りません。

私もこの頃少し醉かはれて寢ねむることが出來ません。

お父さんどうぞ私をおゆるし下さりませ。母が來て居ります。お父さんのお心の內はぢゆうぶんおさつし致しますが、私としてはどうすることも出來ません。私の心も御さつし下されて私を御ゆるし下さりませ。

早く上海へ歸れますやうお願ひ致します。

お正月が近づきます、お身お大切に祈り上げます。

來年は十七になる娘子からのこの手紙をポケットに入れて、山野は勿論、心當りは一軒のこらず步いた。直情徑行で議論などでは一步も後へ引かぬ山野は、しかし、金を借りる段になると僞に內氣だつた。師走の風に吹きつあらされ水ばなをすゝり上げながら山野は、娘の手紙を悲しいと思つた。けれどもその手紙が僞によく書けてゐるのには滿足であつた。しかしまた、小娘にそんな哀切な手紙を書かせるといふのも身に餘る苦勞の果ての生活がさせるのだと思ふと、滿足は再び苦惱に逆戾りした。よその夫婦が揃んでゐるといふ樣子のかじかんだ手が、あじきなく暮れやすい夕暗のなかで彼の目に浮んだ。

「畜生！」

山野は舌鼓をうつて心のなかで罵つた。それは彼が歸つてからはなに一つ面倒を見てはくれぬといふ身內に對する憤りであるやうに思へた。「中野の人達や田島のをぢさんも私にはかたきであります」彼は娘子の文句を思ひ出してゐたのであつた。けれどもこの憤りもだんだん掘り下げて行くと結局自分のところへ歸つて來るやうに思へた。

どうしてもどうしても金の要ることだ金が出來ずば子供ら飢ゆる

子等置きて歸れば子供米なくて食はで居たりと手紙來りぬ

金借りる望は駄目とあきらめて突きさした煙草に火をつけて立つ

ただそれと打ち明け難き事のごと金を借りるに惱むものかな

九分までのあきらめに居て悲しくも一分の望み抱きベル押す

惡人であれば金の出來ること過去に幾らもありたるものを

惡人になれぬことが誇りにや悲しみにやと高く唱はん

クリスマスの花屋の花は美ししもの貧しくも眺めて行かん

一家に住かりける我がものがありやなしやと嫌ふ此ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

消えにける炭團の如く姿のみ殘して去せしわが心かも
「ざま見ろ」と鏡の中の我を見て罵りたくもなりし我かな

金はなかなか出來なかつたが、その數日かのうちに歌はいくつか出來た。巧いかまづいかを問題にして詠む歌ではないのだ。やれ文法が違ふの、言葉が粗雜のと、氣取つたネクタイをつけた若い奴等が、「たらちねの」だとか「けるかも」だとかいひさへすれば言葉が洗練されたいい歌でもありさうな顏をしてゐるのを山野はいつも腹立たしく思つてゐた。山上憶良が今生きてゐれば俺と同じ歌を作るのだ、さう言ひ返しては、ただ出まかせに吐き出して人の意嚮は知らず、山野自らは年久しく慰められて來た。

山野は最後に石田を訪れた。年來の友人で、それに年齡も稍々外の連中より近い上に、相手が妻も子もないボヘミアンだけに山野も石田には話しやすかつた。それだけに今までにも度々さういふ相談を持ちかけたこともあつたし、またさういふ相手だから石田とても餘裕がたつぷりある身分でもない。けれども、山野はもう石田にでも話さずにはゐられなくなつたのである。山野がどもりながらの手短な說明と一緒に取り出してさしつけた滿子の手紙を、石田は讀み終ると、十弗貸さうといつた。

「この手紙には、なけなしの金を十弗出す値うちはあるからね。あんまり子供にも苦勞させん方がいいぜ」

「そ、そ、そんなくだらん事をこの場合きかさなくとも、分つてゐるぢやないか」

「細君、やつぱり、大阪まで子供の後を慕うて行つたと見えるね」

「畜生奴、いつまでも餘計な眞似をするんだ」

氣の弱い山野はそれを隱さうとしていつも荒々しい言葉をいふが、さういふ時にこそ彼は一番やさしい心を動かしてゐた。殊に山野の子供達に對する愛情は最も深いものであつた。その山野が、しかし、細君にはかりどうしてあんなに氣が强いのだか石田には分らなかつた。いつか一度聞いて見ようとも思つてゐたが、人の言出しもしない事をわざわざ改まつて訊く程の石田でもなかつた。それに自尊心の高い山野ではあるが、しかし直情の人である彼のことだから、深い事情でもあるのなら自然と分らずにはゐないのだから、彼が細君を嫌ふのは要するにやつぱり彼の生活を理解しない妻に對する憤りなのであらうが、もう五十にもなつて、子供の五人まである古女房に理解をもへいちいまをも要求する山野が、石田には面白かつた。さうして誰が何んといつても妥協しようとしないところに山野の面目はあるが氣の弱なのは子供達である。この機會にそれを言ひ出さうと思つたのだが、金を借せる序に意見をするなどといふことは石田の氣質にはなかつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「君、西鶴は偉い。俺は感心した」
突然山野はさう言ひ出した。山野が時折ひどく誰かに感心するのは今に始まらないが、それが西鶴であつたのは石田には思ひがけなかつた。
「何んだつてそんな古くさいものに感心したんだね、今更」
「濱江へ行く船のなかで讀んだのだ。——ポケットに這入るやうな手ごろなのがあつたので、大陸に頼んで借りたのだ。面白いので讀んでゐるうちに汚くして了つた。もう返したつて贈り物にはなるまい。さうだ。あれも金を拂はなけや……」山野はちよつとさう獨り言の一句を挿んで、それから再び石田に呼びかけた。「君は、一體、讀んだことがあるか」
「少しは讀んだよ。何んだい君のいふのは」
「萬の文反古といふ奴のなかの京にも思ふやうなる事なしといふのだがね」
「萬の文反古は西鶴ぢやないといふ説があるよ」
「そんな詮索はどうでもよろしい。面白ければいいではないか」
そこで山野は訥々と、手紙の形を取つたこの短篇の筋を話し出すのであつた。十八年前故郷の伯父の家から、悋氣深い妻を置き去りに逃け出した男が、昔の友達に寄せたその手紙には、十七年の間は二十三人の女房を持替へて、少しは持合せてゐた金銀も一切、色事に遣ひ込み今では手と身とになりはたつて了つて、もはや女房を持つ力もなく、落ぶれて都ながら櫻も見ず夕涼みにも行かず、松茸も食はず、雪のうちの鰒汁も知らず、ただ鳥羽に歸る車の音を聞いて、ここも都の片ほとりであつたかと氣つくばかりの身の上であつた。その男が、どこか知らに不滿足無しには存在しない女といふものを、今迄の女達で充分承知をしたから、それでも十八年の年月を故郷で待つてゐる筈の女房のもとへも、歸つて見ようといふ氣にもならぬから、彼女には一生歸らぬものと諦めてくれるやうにと、友達を通じて申しやつてゐるのである。
「つまりは」石田は山野のまだ續きさうな話を引き取つて言つた。「女ずきの女嫌ひとでもいふ所が、君の同感をそそつた譯けだね。何時から何時まで氣に入る女がありさうだなんて、そんな夢を見るのがそもそもの間違ひさ。取り柄が一つあればいいんだよ」
「ところが取り柄は何處に一つも無いのだ。みんな鍍金だからすぐに地金が剝げて了ふんだ。」
「その鍍金は、君のやうな男が勝手に鍍金してやるんだからね。自分が着せた着物を自分で引き剝すんだよ。女こそいゝ迷惑さ。女の悪口をいふのは女好きに限るよ。俺は女の悪口は一ことも云つた覺えはな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。その代り女房なんてものは持つてことはないんだからね。女を欲しければ買ひに行くに限る。賣り物だからいつも粧ひ凝してあるといふ譯けさ」

「その代りそんなことをしてゐて、とても女の貞節の姿を見るたんてことは出來ないぢやないか」

「貞節が好きなら味の苦い所を辛抱するさ。そんなくだらん話はもう止めてそれぢや十弗持つて行くかね」

花田は立つて行つて押入れに放り込んであつた背廣の上着のポケットから中南銀行の札を一枚取り出して渡すと、山野は受け取りながら唯一こと「や」と云つた。言葉とも聲ともつかんこの曖昧な音のなかに山野は充分の感謝を籠めてゐたのである。感謝の辭を述べることなどには山野の舌は不手際に出來てゐた。山野は十弗の紙幣をポケットへ藏めようとしながらいつた。

「花、これは君が勝手に貸してくれた筈だつたが、此のうちで花旗半斤分だけ僕に廻はしてくれよ。酒くらゐは飲まずにや居られんからね」

「君の手に持てば君の命だもの好きなやうにするがいいが、老酒半斤位なら僕だつておごるぜ。さうだ、着替へる間ちよつと待ち給へ僕も出かけるから」

花田の家の中は晝でも電燈をともす程暗かつたし、それに山野の心持はいつも夜のやうに悲しかつたが、外へ出て見るとまだ日が暮れたばかりであつた。彼等はパブリックガーデンを過ぎた。プラタナスの葉はすつかり落ちて了つてゐた。暮色の迫つた中空に對岸の浦東のドックから煙が立つて遠い鐵槌の音が寒さうに微かに響いてゐたのが止んだ。ジャンクの帆が黒い影を水の上に落して行く。大馬路の方の門から這入つて來た三人連の女達が彼等の前を斜に通り過ぎたが、この女達の濃いあくどい化粧の臭ひが彼等の鼻に殘つた。默つてこの妖しい風俗の女達を見送つてゐた花田がこの時突然口を開いた。

「花、子供といふものは可愛いかね」

山野はこの突然な分りきつた質問を發した相手の顏を暗の中で瞼すやうに一目見て、力を込めて云つた。

「可愛いさ、それや可愛いさ。なぜ、そんなことをきくんだ」

「僕にも子供があるからさ」

「ホホー」山野は口を尖がらして一種特有の感歎詞を發した。「これは初耳だな。どうしてまた……」

「ハハハ、まだあんまり誰にも話したことはないがね。ここへ來てから五六年もたたんうちだつたからもうかれこれ十五年にはなる。僕は誰も相手にしないやうな支那の女と妙なことで關係をして了つてね。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そいつが君、子供を生んで了つたんだよ。さうなると僕はもう一そう我慢がならんので、たうとうその女に寄りつかなくなつたのだが、僕の女は金には困るし、子供は持ち扱ふといふので、女の子だつたが何んでも十五弗かそこらで賣つて了つたさうだよ。不思議なもので、女からは子供はもう賣つて了つて心配することは無くなつたからまた元通りになつてくれ、なんて云つてよこしたりしたものだ。……時々僕はへんな空想をしてね、そいつが今ではもう十五六にもなつて、ああいふ連中の中へでも這入つてゐやしないか、などと馬鹿馬鹿しい。」

石田は木立の路のなかへ消えて行く例の三人連の女の黒い後影を顎でしやくつて見せた。

「ホホー――」山野は再び特有の感嘆詞を投げたが別にそれ以上何んとも問ひはしなかつた。

四馬路の酒店は、クリスマスデコレーションで輝いてゐた。玄茂源といふ酒家の樓上には酒客が一杯であつた。さうして彼等を坐らせる餘地もなかつた。やつと立ち上つた客の後の、食ひ荒した皿の數を積み上げたテーブルに彼等は對坐した。爆魚、蝦子、菜茶蛋の小皿ものの外に蟹の卵ばかり二つ煮させた。酒を汲み交しながら石田は山野に云つた。

「もう二週間も前のことだが、猪股の所へ寄つた序でにちよつと覗いて見たら隣の例の女は、いまだに單衣と浴衣とを重ね着してゐたつけが、石田あれも何んとかしてやつたらいいぢやないか」

「實にだらしのない奴だ。あんなぐうたら女の話はよせ。折角の生一本の紹興酒がまづくなるよ」

「だらしがないつて、君がちやんとしてやらないからぢやないか」

「ちやんとも何もない。あんな女には何もしてやらないでもよろしいまた俺には出來もしない」

それがまるで石田のせゐでもあるかのやうな口振りなので、石田は思はず笑つた。

半斤入りの酒器を四本並べてその大部分は山野が平げたのであつた。八時を過ぎるとお祭のやうに賑であつたここの客たちもいつの間にか少くなつた。陶然とした山野と別に醉つた風はないが顔だけは眞赤になつた石田とはそこの階段を下りると今度は青蓮閣に登つた。この茶館も玄茂源に劣らぬ馬鹿馬鹿しい賑ひであつた。

「全く、亡國の賑ひだ」山野は云つた。その雜閙のなかをケバケバしい娼婦たちが重い香を發散させながらゆるやかな目つかひで右往左往しては遊子を漁つてゐるのである。ここはかういふ娼婦たちの市場として有名な場所なのである。

「一つよく氣をつけて君の好らしいのを探がすのだね」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山野がそんな冗談をいふと、石田はただハハハと空虚な然し愉快げな聲を上げた。彼等は茶を飲んでぢきにこの家から出た。

「猪股の所へ一つ行つて見ようか」

街を出ると山野がさう云ひ出した。醉拂つた山野が女の所へ行き度くなつたのだなと石田は思ひながら兎も角も賛成した。彼等は醉つた頬を風に吹かせながらよろめいて歩いた。

「助平で、剛情で、偏窟で、……」

山野は不意に大きな聲で調子をつけて云ひ出した。行人がこの頓狂な人の叫び聲に振り返つた程であつた。山野はそれに氣がついたのか急に聲をひそめて云ひ足した。

「理窟には敗けぬ、頭を下げぬ。ねえ、石田君、これではどうも出世をせん筈ぢや」

石田は答へた。

「そこへ持つて來て詩人と來てゐる」

「京にも思ふやうなることなしぢや。」

「上海にも思ふやうなることなしか」

「日の下には思ふやうなることなしぢや」

石田は生れながらの小聲であり、そこへ山野は聲をひそめたものだから、彼等はまるで何か重大な相談事のひそひそ話でもあるかの如くそんなことを云ひ合ひながら歩いてゐた。

二

山野も亦、人生を闘ひに來たと思つて生きてゐる人人の一人であつた。彼は孤立とも戰はなければならんし、また惡惰とも戰はなければならなかつた。この絶え間のない戰の最中で、彼は歌を作り句を詠みまた文章を書いた。それで名を成さうなどと云ふ子供らしい野心はいつの間にか消滅して了つた今日でも、彼は依然として歌ふこと——といふよりも怒鳴ることを止めない。さうして彼の歌も彼の句も五十を越した今日でも、青年のやうに荒荒しい。歌ふことは彼に取つて必要であり本能であつた。さうしてそれに依つて彼は慰められた。かういふ悲みを與へられてゐる彼は同時に普通の人人からは理解されない異人種としての烙印を捺されてゐた。さうしてこの烙印は女達に取つては最も分りにくい印であつた。彼は決して幸福ではなかつた。然しその幸福でもない人生を彼は何人よりも愛してゐた。彼の誰も認める人のない作品集はその理由に依つて、特別な魅力を持つてゐた。それがどうして人人に知られないかといふのは、人人は幸福といふものを花屋がこしらへた細工のいい花束でなければならんと考へてゐたからである。けれども山野の作品は子供がむしり取つてくつつけ合した雜草

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の花のでこぼこな繁だつた。さういふものは藝術の領域へは入れられないといふのが、教養のある物の分つた人の考へといふものであるらしい。山野は自分で教養のないことや細工の手際の鈍いことは充分に承知し切つて偉い人人は尊敬し、名も無い自分を卑下して、それでも自分の感じたことは感じた通りに言はなければいけないし、また誰しも自分の出來ることより外には出來ないのだと決めてゐるから、彼は心配することなしに歌つたり書いたりした。長い年月の間かういふことをして、人の認めもしないことを續けてゐるのを人人は嗤つてゐる。また自分一人で樂しむことならば別にそれを人に見せる爲めに、全くのなけなしの金を掻き集めてそんなものを本なぞにする必要はないと人人は思つてゐる。けれども言葉といふものはその本質の中に人にきいて貰ひたいといふ性質を持つてゐるやうに、文學もまたその通りなのである。彼は理窟は分らなかつたけれども兎も角も機會ある毎に彼の作品を人にも見せ度かつた。見えや外聞をいふやうな彼ならそんなものを書いてそれを求めるよりも、樂賣りを止めた方がよかつたのだ。

運河から運河へ船を雇うて、上海近郷の所所の田舍町へ、寶丹だの千金丹だの賣藥の行商を考へついたのも、もとより口すぎの必要にかられたのではあるが、それが若し彼の詩情に適したものでなかつたとしたら、決して幾年も續く筈のものではなかつた。

それは嘉興に近い新塍鎭、王店鎭、賤城鎭、海鹽縣、嚴家橋、硤石鎭、屠甸寺店、桐鄉縣、豐林鎭、新倉鎭、沈蕩鎭、新篁里、平湖縣などといふ地方であつた。六月七月頃といふ不健康な季節を當てこんで、鄕下——片田舍の人人を相手に商ひをするのであつた。炎天に照りつけられて歩き廻つて、時にはやつと四十錢や七十錢位にしかならないやうな日もあつたが、成功すれば十圓位にもなることがある。さうして彼は一錢の大蒜、三錢の茄子、四錢の干海老、五錢の燒酎、それから三錢で三つの卵などといふ質素な生活をして普段は寧ろずぼらな彼がかういふ旅の間には自分でも不思議に思ふ程けち臭くなつて了つて、子供の爲に買はうと思つた椅子と竹剤座との値段がほんの僅かばかり折合はぬのを、思ひ切つて土産に買つてやることさへ諦める。瞼がもう開かなくなつた程ひどく眼を病んでそれでも十錢の眼藥代を出し惜しむ樣な男に、それを與れてやらうといふ氣にさへならない程なのである。さうして八厘で十個の楊梅や一つ八厘の水蜜桃を食つたことを贅澤な間食と考へなければならぬ。さうして暑い季節で懐加減のいい百姓たちが皆質受けの爲めにその店先で、中には二十元三十元と支拂ふものさへあるのをぼんやりとみとれてゐて、ふと物欲しげだつた自分に苦笑されたりする。四間ほどの筏を百十八もつないで流して來て、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その彼の門には船が二三艘も繋り五六人の女に鷄や犬までゐる。この呑氣なものの爲めに、水上の交通は一時絶たれて、午前の商賣の汐時を外すのを怨めしがつて、氣がいら立つたりする。情けないのはかういふ旅路の雨である。濡れしをれたシミツタレた姿で、東西に南北に客を漁りに行く風態を、これが一等國民の誇るべき風態かとしみじみ自から憫んでゐる折りから、同じ日本の商賣を持つた支那人の同業者にあちらでもこちらでも出會すと、彼等は旅慣れてゐる上に暮し方も上手だし、かけ引きが上手なだけに相手を見ては安くも高くも、商賣をする。かういふ強敵に出會しては經驗のある商賣ではあるが、先の見込も危いやうな氣がする。さういへば以前には譯けなく十里ばかりも離れたやうな土地で一日中駈けずり廻つてやつとそれの半分にも及ばないことなぞ思ひ合されるのであつた。然し眠がる船頭を無理に促して銀河の光の中に帆を上げたり、船がかりした岸の楊のかげにふと新月を見つけたり、鬱々と繁つた森を浸すばかりに湛へた水や、そこに山鳩の鳴くのを聽きながら彩色を施した塔の五輪に殘月の懸るのを眺めたり、或ひはまた陸に上つて忍草の生ひ繁つた石橋を渡つて荒れ果てた空地や崩壞した土塀の上に自から徑をなした所をまるで中世の支那がその儘にあると思ひながら時雨を聞いたりする時には、彼は、彼の生活が何か幸福なものであるやうな氣持がした。それに毎年同じ場所を數年も歩いてゐるうちには、いつもそこで休みたれた田舍茶屋の子供、東洋人を珍らしがつてぼんやり自分の顏を見つめてゐたその女の子が、いつの間にか少女になつて今は物蔭からそつと覗いて見ては輕い會釋をするまでに大人になつたのや、或ひはまた少し賑かな田舍町の娼家とも思へる樓上に目につく女がゐて、それが頭痛膏を買つてくれたと覺えてゐるのが、もう色香に衰へを見せて年増になりながらやつぱりそこに居殘つてゐるのや、さういふものを見るにつけても自然の――分けても夏の自然のいつも新しく生生と盛んなのに對して人間の「時」の過ぎ易いのを感じては、禿げて行く自分の頭の毛を考へるのであつた。彼はそれらの折折の日記を樂しんで書き誌してゐるが。

支那の田舍にはまた、そこでなければ決して見られないやうなものが澤山あつた。夜廻りが餘所から來た船をたゝき起して一厘の油錢を請求する習慣。大きな眼を心地よげにつぶつて水に浸つてゐる水牛のそこだけ水から出てゐる顏に、虻のやうな大きな蠅がたかるのをうるさがつて、水牛は顏をすつぽり水の中につけると蠅はその間だけは水面から出た水牛の角に止つて待つてゐて水牛が再び顏を上げると蠅はすぐさまたちまち顏に止る。水牛はそれを何度も繰り返すが蠅もいつでも同じことをする。かういふ人事や自然の些細な事柄。さては又人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だかりがしてゐるので見に行くと、廣場に生えた木に大男が五六人も太い鎖で縛りつけられて、巡査の駐在所になつてゐる廟の二階では喇叭を無暗と吹いてゐるといふ強盗を仕置にする有様。情夫の爲めに本夫に毒を飲ました女。しかしその夫は佛の助で毒を吐いたのを、女は今度は刃物を持つて首を突いた。夫は治療を受けに醫者に連れられて來たし、女は縛られてあつた。から云ふ場合夫は女を殺して了はうと賣つて了はうと勝手だと云ふので、群集の半分は殺して了へといふし、半分は賣つて了へといふ。「わたし思ひます、殺して了ふ仕方ない。賣つて金にする、相方も宜しい」といふのが才林の判斷であつた。果して賣つてしまつたか。殺したか……。

才林といふのは山野に取つては、此の上もない得難い從僕であつた。從僕といふよりも共同に働いてくれる友達と云はなければなるまい。才林の方でも彼を主人といふよりも一個の老朋友と思つてゐる。彼が最初に才林を知つたのは十年ばかり前嘉興で偶然雇入れたのであるが、この文字を知らぬボーイは支那人には珍しい正直な人物なのを見込んで、彼はそれを上海に連れて歸り、日本人仲間にボーイ働きの周旋口をさがしてやつた。その勤め口が駄目になると才林は山野の所へまた歸つて來る。山野はまたそのうちに新しい仕事の口を探してやるといふ風であつたが、才林は稀之人でなければ決して示せないやうな、美しい人情を山野に見せたことがあつた。それは六七年前であつたが、山野が困窮の極にゐるのを見兼ねて、この支那人は活動寫眞——一錢銅貨を投げると自働する覗きカラクリを持つて一ヶ月餘りも田舍廻りをして、その結果九弗の金を儲け殘し、彼自身は決して一文も懐にせず、山野の前にその金を積んで渡したことがあつた。活動寫眞こそ持つては行かぬが、賣藥で、田舍廻りがどれ程困難かといふことを知つてゐる山野に取つては、この九弗は金額以外にどれだけ嬉しかつたか分らない。才林は姑蘇の娘々と深仲になつて子供まである家庭を作つてゐるが、季節毎にきつと山野を思ひ出して、今でも送り物を絶やさない。この間の月見にも月見の饅頭をくれたが、正月になつたらまた支那餅をくれるだらう。あれこそ恵まれた男である。

賣藥行商の商賣も年毎に以前程賣れなくなつた所へ、國内の動亂がたうとう彼の馴染の地方にまで及んで來て、彼は夏になつても、もう商ひにも出かけることが出來なくなつた。あれはいゝ商賣だつたんだが——と、山野は今でもさう回想する。賣藥に較べると正月に賑かな蘇州へ、上海ではあり振れた日本の玩具を持つて行つたのは、全くの失敗で、巧く行けば年中行事にしようと考へてゐた當てもはづれて了つた。持つて行つた玩具の飛行機がまるで飛ばなかつたのは、おかしくもあつたし悲慘でもあつた。しかしその悲慘は笑ひながら支那に向く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことも出來た。悲慘といへばもつと悲慘なことはいくらもあつた。初めて內地から支那へ飛び出して來て、漢口の屠牛所で血のしたたつてゐる牛の生皮を擔いだ頃のことを山野ははつきりと思ひ出す。しかしその當時の彼が持ち運んでゐるその荷物が、なまなかの代物でなかつた所に却つて何か面白味をさへ——詩的なやうな氣持ちをさへ感じたものであつた。それはその後雇はれた雞卵の會社の卵計算係りよりは、ずつと面白味のある職業であつたやうにさへ思へないではない。その卵會社では仲間とも上役とも激しい口喧嘩をして、三月とは經たぬうちに飛び出して了つた。

若しあの時大阪で巡査の試驗に合格してゐたならば、彼の生涯はどうであつたらう。一人の紳士風な年配の男が、受驗者の溜りで彼の顏を見るといきなり近づいておじぎをしながら、試驗場で何卒自分に教へてくれと懇願したものだ。少しも自信がないと山野が云つても、その男はきき入れなかつた。さうして山野の側に坐つて山野の答案を盜み見しながらその男は、試驗にはパスしたのだ。山野を訪ねて年配の男が祝酒をおごらうと云ひ出した時には、山野は呆然としたものだ。なぜかといふに、彼自身は落第してゐたからである。教へた男が不合格で教はつた男が合格だといふところを見ると、合格と不合格との差はほんの一線であつたと見える。さうすれば山野だつて、必ずしも巡査になれないのではなかつたかも知れない。先の見込のない文學雜誌の校正係りになつたのが、彼の一生の踏み出しであつたが。十七の時に飛び出した故鄕の島では、二人しかない兄弟の兄はもう死んで了つて、生き殘つた嫂はささやかな荒物屋を營んで、自分自身の家に家賃を支拂つてゐるといふ風な奇妙な有樣だ。その嫂のこと。大阪に預けて來た子供達のこと。

山野はほろ醉ひの頭の中で雜然と自分の過去の生活を遡上つて考へたのであつたが、子供達のことに思ひ及ぶと酒がさめるやうな氣がした。いつも新しい世界を開拓して、そこで生生とした道を見出し、どんな苦しい中でも生きることは樂しくないことはないと、結局考へる山野であつたが、さういふ放浪者魂はいつの間にか山野のなかで亡びて了つたやうな氣がする。ちぢむさい生活を。口喧しい古女房をたたき出して了つて、子供等は身內に預けて、一人になればまた生活の道も拓けるものと考へたのに、遠くにやつた子供のことが近くにゐるよりもひしひしと身に迫る。金を儲けることだけを人生と心得て、夫の人生の侶伴となるどころか、家の中にゐて內部の敵であつた女房が、こちらにゐる間もうるさく自分の留守をつけねらつては子供等の側に寄りつくのを嫉つたり毆つたり、最後には貴樣が出て行かなければ俺が出るとまで言ひ、言ふばかりかそれを實行してたうとう追つ拂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つたと思つたものが、いつの間にか海を越えて大阪くんだりまで、子供等に影のやうに隨いて行つてゐる。それを考へると、變に胸が滯しいやうな氣持がする。かういふ感情をこれ程、強く味ふのも年を取つたからであるかも知れぬ。凡ての健全なと稱する人人のなかに、放浪者魂が眠つてゐるやうに放浪者であることを喜んで認めてゐるこの自分のなかにも家畜のやうな普通人の魂が眠つてゐて、年取つて衰へたのにつけ込んでそいつがぬつくり浮き上らうとしてゐるらしい。人生の人並みの幸福なんていふものは古女房と一緒にとつくに喰出して了つた自分ではなかつたか。

　山野はこんなことを自問自答しながら彼と一緒に歩いてゐる石田に氣がついた。石田もまた放浪者だつた。高等學校時代に失戀をしたといふので、長崎から家郷には手紙一本、ただ海外へ行く積りだとのみ言ひやつたまま、この土地へ來て了つた石田。聽けばそれにも産つて了つた子供があるといふ。そんなことをひよつくり口に出して話す時には、石田も人並の魂に脅かされるものと見える。猪股はどうだらう。相當の商家の養子を飛び出して、廣東で石炭の荷上げ人足をした男だ。おとなしい彼は、人足でかせぎ貯めたその金でこゝへ漂つて來たと思つたら、支那の女を妻にして南京の桃の林の中で羨ましい事をやらかしてゐると思つたが、やつぱり放浪者だつた——一年とは續かなかつた。それにしてもその彼等にも、こんな感慨とも後悔ともつかない感情がこみ上げるだらうか。

「ねえ、石田君。われわれのやうな人種はいつでも何處でも、生活の道を見出すものなのだ。さうして愚痴を言ひながらも、數奇な生涯を自慢するものなんだ。ねえ、さうだらう。」

　石田には山野がつけ景氣でそんなことを言出したとは氣づかなかつた。今に何か山野らしい奇矯な意見が出るものと思つてゐたのが、不意に自分の名を呼びかけられてちよつと立止まつて相手の顏を見上げた石田は、つまらなさうな生返事をし、彼等は再び默りつゝ路次に出つた。きたならしい支那人長屋の一つの前に二人は同時に立止ると窓を見上げた。窓は暗かつた。石田は書生のやうに聲を上げて叫んだ。

「猪股君！　居るか」

　顏が一つ窓から現れた。それは彼等が立ち止つてゐた家の隣の窓だつた。

　石田と山野とは默つて二三間歩くと隣の家に這入つた。石田は上手な支那語で影も見えないそこの家主に聲をかけながら、彼等はものなれた調子で暗の中の急に突つ立つた階段を手さぐりに二階へ上つて行つた。彼等の足音をきゝつけて階上の男は豆ランプを持つて彼等の足下を照らす爲めに出て來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この純然たる支那家屋の二階は、無論天井などはなく、土足で歩く床のある八疊程の部屋に、たつた三疊だけ日本風の疊が敷いてあつた。その上にちよこんとひとり坐つてゐた女は、石田や山野の來たのを見ても別に歡迎するらしい表情も言葉も出さなかつた。部屋の唯一の家具である支那風の卓子は新に適當なものであつたが、それには蒲團がたたんだとも丸めたともつかぬ形で積み上げられ、卓子の側にはこれも名ばかりの腰掛がたつた一つだけ備はつてゐた。猪股は手に持つてゐた豆ランプを窓の緣に置いた序に、その腰掛を占領して了つたものだから石田と山野とは女のゐる疊の端へ、靴は脱がぬ足を床へ投げ出して腰を下した。

「何んだ。豚小舍みたやうな」と女が云つたといふのは、甚だ無禮だと石田はいつもそれを思ひ出して可笑しくなるのであつた。――この家は實に山野の妾宅である。

三

泣かすなと言へば守でも願ふてと最ともつともな妻の言葉かな
我の病む枕邊に來て反物の金呉れと言ふよき妻持てり
我が幸はよき妻持てる事である　幸 極まりて男の淚
病み居ても頭の髮をひつ掴み心ゆくまで擲ぐりつけたし
たくましき輪木の如きもの持つて擲り伏せたき妻にあるかな
良妻の展覽會がありとせば一等賞は我れが戴く
落破れし行平の粥を食ふ明妻の指輪の錆れる前に

かういふ歌を作りたから山野は、彼の女房を賞讃してゐたが、もともと異性崇拜者である彼には、よく知らない女は天使である代りに、接近した女はいつのまにかただの雌に見えて了ふのであつた。彼に女達も誰も知らない中にたうとう妻を追出して了つた。細君は知人の間を訴へて歩き、知人達は山野を非難したけれども山野は頭から取り合はなかつた。細君は近所に間借をして一人でどうやら口すぎをしたがら、山野の留守を見計つては子供達に逢ひに行くのであつた。それを山野が見つけて罵り追ひ返すのを、知人達は見兼ねてそれぞれに山野を再び說いて見ても山野は一向頑として受け付けなかつた。さうして山野は外へ出ては、年の若いカフェーの女などをつかまへては醉つて手を握つたり、俺の女房になれ大事にしてやるぞ、などと相手構はず云ふのを、冗談と思つて笑つてゐると案外本氣なのに氣の弱い女などは寧ろ恐をなし、すれつからしたのは、その禿げ頭を御覽なさいよなどときめつけるので山野もやつと我に返つては苦笑せざるを得ないのであつた。しかし、山野の禿げ頭をいひ出す女たちにしたところが山野がもう五十を越した人とは氣付かなかつた。この若々しい感

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

髭を持つた、中老人は實際、頭の毛こそ薄かつたが四十位にしか見えず、若その顔貌からいふと青年に相違なかつた。かういふ山野の所へ青島の友達から、手紙で一人の女を紹介して來たのであつた。年は三十で殖民地を巡業する劇團に女優をしてゐたのだが、上海で何か口すぎの道はあるまいかといふ話をきくと、山野には三十位だの女優をしてゐただのといふ言葉だけでもう見ぬ戀をするに充分だつた。山野は考へがあると云つてなけなしの財布を傾けて、早速その女に旅費まで送つて呼び寄せたのであつた。山野はその女の爲めに部屋を一つ索した。猪股の住んでゐる長屋續きの隣が山野には適當なものと思はれた。さすがに山野も、子供たちの手前その女を自分の家へ置くことは憚られたのであつた。食ひ詰めてゐる女には何の贅澤をいふ資格もなかつた。それに山野は實際、彼に珍しい間は心から親切を盡すのであつた。しかし女の極端なふしだらは間もなく詩人山野を顰蹙せしめずにはゐなかつた。寢床はいつも敷つ放しだし寢間着も浴衣も區別はなかつたし持つてゐた筈の帶などはどうしたのか無くなつて了つて、何時も細帶一本で暮してゐた。學校なぞも女學校の三年位は通ひ、近代戯曲のテーマ位は了解するやうな顔をしてゐたのを、眞に受けたのが山野の山野らしい所だと、石田や猪股は最初から笑つてゐた。ぽつぽつ彼自身の夢が醒めかかると、山野には女の荒れすさんだ顔も生活も我慢の出來ぬものになつて來た。その山野の感情を倍加させるものは地金を現し始めた女だつた。山野は一こと

「何んといふざまだ、その身だしなみは」

といふと、女の答はかうであつた――

「へん、身だしなみが聞いてあきれるよ、人を馬小舍のやうな所へぶち込んで置きやがつて、ここで厚化粧でもしてゐれやさぞよく似合ふことでせうよ。考へて見るがいゝや、人を自由にして置き乍ら小使の五圓と投げ出したことがあるか。一人前の口をきいてゐるよ、この助平親爺がさ」

その悧悧しげな口振りが、然し實感的なといふよりも、寧ろ場末の下手クソな新派の芝居を思はせるのであつた。それが山野には一層我慢がならなかつた。が、その位の言ひ草ならまだしも何んでもなかつたけれども、山野が續いて言はうものなら、日本語の中にもかうも品の惡い言葉がそんなにどつさりあり、それをまたよくもかうまで蒐集したものだと思はれる言葉が、この全く馬小舍のやうな部屋中に充滿した。その一語一語の中にその女の魂や生活があるのかと思ふと山野は恐しくなつて部屋から逃げ出すのであつた。彼は猪股の所へ逃避をしてから猪股が山野の抽象的な言ひ方には滿足せずに、もつと具體的にその言葉を言はせようとしても山野は言ふことが出來なかつた程で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつた。

「女といふものは恐しいもんだ。深酷なものだ。男はどんなに我を忘れても、あんなことを、平氣な顔をして、やすやすとはいへん。」

山野はどもり乍ら嘆息した。

初めは
女は「只もう感謝します」と言つた
「惠まれて居ます」とも言つた
私は善人であつた。

花の色も吹きながらうつらふ如く
女の感謝も日に日に失せて去つた
今は淡い色さへない白紙となつた
而して本質が鋭く醜く露はれて來た
無智　虚榮　欲求　反抗　罵詈　涙

アア厭た厭た
私は兩腕で頭を抱へて家を逃げだした
外に流があつて水が清い

私の心は躍つた
すぐ様衣を脱いで流の眞中へ飛び込んだ
冷やかい水晶の溶ろけた如な水が
醜穢に包まれて居た私の體を
爪から頭髮まで淨めてくれた
私は苦惱憤怒愁悲嘆から逃れた世界を見た
そして我ながらも餘さを覺ゆる爽快さを感した
岸に上つた時
脱ぎ捨てて置いた衣が
見るも汚らはしく土の上にべつたりとしてゐるのが眼に入つた
今この爽快な心持に輝いて居る私が
再び此醜衣にさへ觸るることを厭ふた
私は裸で燦爛な新しい衣を求めに歩いた

山野は淋ましくなつて、子供たちは內地の親類にあづけ、身一つになつて生活をやりなほさうと決心をしたのであつたが、それでもそんなことを言ひ乍ら然し山野は酒に醉つた揚句などは、やつぱりその女の所へ訪ねて行つて見たりもする。

女もなかなか酒を飲んだ。さうして足も遠くなり金廻りも惡い山野

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よりも、これも山野に劣らぬ酒豪の猪股をせびつては、この隣人たちは「駒小舍」の中で酒盛をよくやるのであつた。

或日猪股が石田を訪問した。さうして山野の女がこの頃病氣になつて呻つてゐるのでそれを山野に通知して何んとかしてやらなければなるまいと言つたが、山野はそれは君が無暗と酒なぞを喰はせるから病氣になつたんだ。俺の知つたことではないとばかり取り合ふ樣子もない。女が頼むから救民病院へ往診を頼んだが病院ではそんな場所柄をきいてか往診は出來ないから患者を連れて來いと云ふが一體どうしたものだらうといふ。女はかうしてゐては死んで了ふから醫者を呼んでくれとあばれ狂ふ。どうしたもんだらう。猪股は石田に諮るのであつた。病院まで行くことも出來ない程の重態かと石田がいふと、決してさうではないが、寢間着と蒲團とより外には一物もないんだから、外へ出ることはならない。さればと云つてその儘捨てて置く譯にも行かぬが、餘り立ち入つた世話をしては山野の感情を害しはしないかなあ、といふのが猪股のいふ所である。仕方があるまいといふので彼等は相談の上で、女には古着屋で寄せ集めて來た着物を卷きつけさして病院へ連れ込んだ。もとより女が云ふ程の大した病氣ではなかつたのだ。

女の病氣が癒つたのを見計つて、石田は山野を促して女と別れさした。山野が女の爲めに内地へ歸る旅費を與へることになつた。山野はくだらない女の爲に馬鹿な金を使はされたと云つて愚痴たらたらであつたし、女はまた助平爺の爲めにさんざん好きなことをされたと最後の捨臺を殘して立ち去つた。山野はその女が立ち去ると間もなく、滿子や美子や三馬二や鯛子や大島を自分の膝下へ呼び戻したのである。山野の憎んでゐる細君、さうして子供等は父には憚かつて愛してゐる母が、また影のやうに子供等に隨いて來たことは考へるまでもなかつた。山野の氣質を呑み込んでゐると自から信じてゐる石田は、以前山野の細君が彼に頼んだ時には到底無益と知つて試みなかつたものを、今度は誰にも頼まれないのに、山野に細君を家へ入れることを奬めた。これが絶好の機會で、若しかすると山野自身もそれを望んでゐるかのやうに石田は考へたのであつた。石田が言ひ出した時には、しかし、山野はたが默つて強く首を振つた。

* * * * *

日本から上海へ遊ぶ美術家や文學者などがあると、彼地にも若い藝術愛好家の一群があつてきつと親切に、この種の旅客を歡待し案内してくれる。それ等の青年たちの間にたゞ一人外の人人程ハイカラではなく、年も先づ四十から五十までの間に見える位のしかし頭の禿げた丈の高い人物が雜つてゐて、世界の港であるこの都市を謳ひ切れぬ

種よき術だと云つて讃美するのを見るであらう。その人に向つて試に「貴方は何年此の土地にゐますか」と聞くと、「三十年程になります」と答へるであらう。朴訥で親切で然し何處かに調子はづれの所がある。彼を評する爲めには好漢といふ言葉が一番適してゐる。さうしてもう三年もしたら六十になると聞いても、彼を決して好々爺とは思はぬであらう。それは彼一癖ありげな言説と、それから不思議に輝いてゐる若さとに因る。さうしてこの好漢に對してその外の青年たちは、別に氣を兼ぬることもなく相手をやはり一個の青年として遇してゐるのを見ても不自然を感じない。この人物が即ち山野である。

石田は青年たちとは別にその土地に在住する同業者といふので、内地からの藝術家を歡待するであらう。さうした石田は山野とも連れ立つてゐる。旅客が山野といふ人物に好意ある奇異を感じて、若し石田に山野のことを尋ねると石田は答へる。

「あれは不思議な人物です。生れ乍らの詩人です。放浪者の中の放浪者です。彼の書いた土くれといふ本はなかなか立派ですよ」

「あの人は獨身ですか」

「いやいや、もう二十にもなる娘を頭に五人の子供のお父さんですがね。……その細君が嫌で七年の間も別れてゐたものです。さうして誰が何んと云つてもきかなかつたのだが、近頃またその細君、うちへ歸つてゐます。山野も自分の年にでも感ずる所があつたのですかね、何しろいい性には相違ない。何んにしても隨分變つた人物で。」

「それで、貴方は奧さんは？」

「僕ですか、いや、妻もなく子もなしですよ」

なかなか俗ばなれのした石田ではあるが、流石に面識の淺い人にまでは、むかし失戀少女の情婦が赤ん坊の時に貰つて了つた自分の子供がある話まではしないのである。

作者申す。この作品には所謂モデルがあります。しかしこの作品は無論、事實そのものではないのだから、作者の空想的創造がモデルに累を及ぼすやうな事のないのを希望すると同時に、作中に引用した個性鮮やかな詩歌は、私の作ではなく、別に儼として作者があることをも一言して置きます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



漣

近松秋江

「お正月の御馳走といつたところで、定りきつたもので、格別のものもないが、まあ、かうして、熱海に家内中で來て、元日を迎へることが出來れば、吾々の身分では、難有い仕合せだと思つて滿足してゐなければならぬ。」

主人の鎌田は、貸別莊の庭内にある共同の浴室から朝湯に入つて戻つて來ると、さういつてほく〱しながら、茶の室の、いつもの自分の座席に坐つて、そんなことをいつてゐた。

そこへ、妻のお悦や女中達の手で、餉臺の上に種々な物が運ばれた。土地で間に合ふものは、餅から何から大概こちらで買ひ調へたのであつたが、それでも昨日鎌田が後から一人の方の女中を連れて來る時に東京から買つて持つて來たものなどもあつた。二人の子供等は狹い座敷中を室ごと驅けまはつて、ゴムマリを投げたり、羽子をつく眞似をしたり、うるさく附纏つてゐた。

「さあ、そんなに臺處にいつて、うるさくしてゐると危い。こつちに來てお父さんの傍におとなしくして坐つて待つてゐるもんです。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鎌田は父親といふよりも祖父といつた方が當つてゐるほど、小さい者のことなどが始終苦勞の種になつて、母親や女中の行き屆かぬところへ氣を配つたり、小言をいつたりするのであつた。とりわけ鎌田には、お悦の不行屆きなのが、眼に餘つて爲樣がなかつた。

一夜明けて、今日から、やつと、數へ歳五つと三つになつたばかりの二人の女兒は、さういはれて、父親の膝のまはりに一寸の間纏はり寄つたが、ものゝ三分間とも、そこに靜としてはゐなかつた。

鎌田は溫泉の湯氣に、ぽうつと上氣した暖かさうな顏をして、彼も靜としてはゐられないやうに、火鉢の傍を起ち上つて、

「おつ忘れてゐた。」と、獨り言をいつて、昨日東京から持つて來たトランクを開けて、中から一幅のお正月掛けを取り出して八疊の床に持つていつて掛けた。それは、ある、まだ無名の青年畫家の描いた、淡彩色の波に初日の出であつたが、南畫であるので、そんなに俗惡なものではなかつた。近邊には、支那風の古い塔のやうな置物があつた。

彼はさも滿足したやうな顏をして、床の前を三四尺後に退りながら、それを眺めてゐた。

東の方に向いて開いてゐる九尺の硝子障子には、海の方から明るい元日の朝日が麗かに照り映えてゐる。

「さあ、もう、そろ／＼好いんですよ。」

妻のお悦が六疊の方から呼びかけた。

「おい／＼。」彼は、そちらに背を向けたまゝ返事をしながら、「どうだ。この掛物は好いだらう。」

お悦も、それと氣がついて、傍に寄つて來ながら、

「わたしには、何だかよく分りませんけれど、好い繪ですねえ。」

「恰ど、こゝで掛けるのに好いと思つて、持つて來たんだ。……しかし、よく氣を附けないと、子供が徒戲をする。……どれ、もうお雜煮の支度は出來たか。」

さういつて、鎌田は氣を換へたやうに、又六疊の方に戾つて來た。

そこで、いかにも心から今日の麗はしい元旦を悅ぶもののやうに、今度は背後の、北に向いた六疊の窓を開いて外を眺めた。そちらには、熱海のすぐ北方に聳えてゐる十國峠の尾根が、宛然眉端に迫るごとく高く見上げられた。くつきりと青磁色に晴れ渡つた大空には一點の雲翳もなく、清澄な碧空にはそちらにも、麗かな朝日の光が漲つてゐた。

「今日は何て暖いんだらう。好い元日だなあ。そして、さすがに熱海らしいお正月だ。」

彼はもう朝から幾度くり返したか知れないことを又いひながら、窓を閉めて、いよ／＼お雜煮の膳に向つた。

「まあ、屠蘇からいたゞから。」といつて、熱海の町で、昨夜女中を逗

つて買つて來させた瀬戸の屠蘇器から、お悦の注ぎ出す屠蘇を、酒盃に受けて、心よく飲んだ。

「東京の重組みを一式持つて來てもいゝと思つたが、厄介だし、そんな物は入りもせぬ。これで澤山だ。」

「えゝ、これで澤山です。」

そんなことを話しながら、鎌田は好い心地になつて幾杯かの屠蘇をひとりで重ねてゐた。

子供等はまだ小さいので、お正月らしい馳走は何にも與へられないで、いつものとほり、朝起きぬけに一合づゝの牛乳を飲んだあとは、餉臺の向側に並んで、柔い御飯に黄卵の半熟と鰹魚節の削つたのと、それにお雜煮の汁とを小さい椀にとつてもらつて、女中の一人に食べさせてもらつてゐた。

鎌田は、それを、眼の中に入れても痛くないといふやうな顔をして、じつと見ながら、

「今日は、お雜煮が濟んだら、これから、みんなと一所に梅林にいつて來ようねえ。」

それを聽くと、子供はもう、一寸も靜として居られないやうに、いきなり箸を投げ出して、

「べゝを着せてえ。」と甘えた。

「まあ〳〵、今からまだゆくんぢやありません。皆ながお雜煮が濟んでから行くの。」父親は手をとつて、子供を膝の上に抱き寄せた。

お悦は小さい方の子供と家に留守をして、鎌田と女中達二人と大きい方の子供とで梅林に出掛けた。

そこから、緩い傾斜になつた道を段々上つてゆくと、東南に扇の地紙形に開けた熱海灣の海は暖かさうに、白く煙つてゐるのが、すぐ眼の下に見えるのであつた。今日は格別海も穩かで魚見崎の汀に打ち寄する白い浪頭が、ちやうど光琳の浪の繪の如くに見えてゐる。子供も鎌田も、坂道を歩いて行くと、あんまり暖かなので、オバーを脱いだくらゐであつた。梅林までは、ものゝ五六町くらゐしかなかつた。さすがにまだ冬の最中のことゝて、ところ〳〵に一本か二本蕾を開きかけてゐるところがあつたが、見頃は半月ほど後であらうと思はれた。小高い山と山とに狹められて、深い谷底のやうになつてゐるので、そこまで入つて來ると、熱海の町よりは、ずつと氣候も寒かつた。さすがに人影も稀れであつた。たゞ、梅の樹の下に三脚を据ゑて、遊覽者を促して記念の撮影をすゝめる寫眞屋が二人ばかり暇さうに突立つてゐるばかりであつた。

「みんな寒いから、こんなところに出て來ないんでせう。」女中の一人がいふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「さうだよ。居候機嫌で火鉢の傍にかじり附いてゐる方がいゝからな。……どうだ、今日の好いお元日の記念に寫眞でも撮らうぢやないか。」鎌田はさういつて、寫眞屋の勸めるまゝに、みんなで寫眞を寫したりした。そして廣い庭園の中を一廻はりして、溪流に沿うた金網の中に住んでゐる白鶴に餌をくれたりして少時戯れてから、歸途に就いた。

女中の一人は東京の留守宅の方が無人なので、その日の午後歸すことになつてゐた。羽織を脱いでゐてもいゝくらゐ暖かかつた長閑な元日も午ざかりになると、妙に、清新なお正月氣分が、いさゝか崩れたやうになつた。それでもその晩夕飯には、そこからあんまり遠くないところに住んでゐる鎌田の恩師である博士の宅へ五六人の相客とゝもに招かれてゐるので、そんなことが何となくまだ樂しい正月氣分を殘してゐるのであつた。

その晩博士の宅では、食後に、そんなことの好きな博士が、いろんな雅帖などを持ち出して、何でもいゝから、記念の爲に書いてくれといつて、老博士自から先づ筆を揮つて漢詩だの和歌などを誌した。客の中にも興に乘じてまづい繪を描いたり俳句を書きなぐつたりした。

二日は單調な無事な一日が過ぎた。檜葉の植込みの垣根の下の道を、植園の方へ上つてゆく避寒の客が、それでも三人五人通つていつていつたりした。海の方には、今日はいくらか風が立つてゐると思はれて、魚見崎の汀に白い浪頭が大きく打ち寄せてゐた。その晩鎌田は夕飯の席について、いつものとほり餉臺に寄つてゐたが、性分で、いろんな細かいところに氣の着く彼は、お悦のすることが、何につけ、眼障るくつて、堪らなかつた。そしてひとりで焦れくしてゐた。實際彼女の頭は鈍かつた。三四年前に急性腦脊髓膜炎を患つて、やつと瀕死の狀態から一命だけは取留めたが、その痕跡は隨分長い年數を經過せねば全快せぬものだと聞いてゐるが、どうもその病氣のせゐばかりではなく、彼女の天稟が既にさうなのである上に、育つ時から碌な家庭の仕附けといふやうなことも勿論注意されて大きくなつたわけでもないので、起居振舞ひから不斷の言葉づかひなどが不作法で、いけ粗雜であつた。鎌田には、それが何よりも不快で耐らなかつたが、それも子供の親であることをおもへば、ぢつと眼を瞑つてゐるよりほか今更どうにも爲様がなかつた。

その晩も、鎌田は餉臺に凭つて夕飯の支度の出來るのを待つてゐたが、二人の子供はもう與へられたものに箸を附けてゐたが、いつものことでそこら中食べ物を溢したり、汁を弄つくり返へしたりしてゐる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。頭の鈍いお悦は、二人もの女中の手助けがあるのに、子供の世話さへ碌すつぽ出來なかつた。

子供は二人とも、何をしたのか、一度にわあッと泣き出してしまつた。鎌田はもう頭が焦れ〳〵して來た。

「お前ぢや子供の世話も出來ない。お前あつちへいつて、つねのしてゐることをして、つねに子供に御飯を食べさしなさい。……おい、つね、お前こつちへ來て子供を見てやれ。」

臺所の七輪の傍で働いてゐる女中のつねを呼んだ。つねは、そこへ來て子供の食事を見てゐた。その代りにお悦が立つていつて鎌田の夕飯の支度にかゝつた。が、お悦は、今まで女中のつねのしかけてゐた膳立ての手順がすぐには呑み込めなかつた。

鎌田は、何といふ情けないことであらうかと思つた。こんなことで、今に自分が死んでしまつた後は、こんな愚かな母親の一人手で小さい二人の子供がどうなつてゆくであらうと思ふと、苦勞性の鎌田には、眼の前が眞暗になつて來るのであつた。彼は時々、そんなことをあんまり思ひ詰めて取越し苦勞をするのは愚かの至りだと思ひ返してみることもあつたが、種種々繰返されるお悦の不行屆きを見せつけられてゐると、やつぱり默つてはゐられなかつた。

最近に一度かういふことがあつた。まだ年暮にこちらに來ない時分であつた。小さい方の子供が風邪で消化器を悪くして一週間ばかり醫藥をしてゐた。ちやうど、そこへ又鎌田が神經衰弱に罹つて、これも一週間ばかり鎭靜劑をもらつて服んでゐた。ある夕方のことであつた。鎌田は外出から歸つて來て、着物を更めて、茶の室に入つて來て食前の散服をのまうとして、茶簞笥の戸棚をあけ、そこに仕舞つてある自分の藥を取出さうとして、藥袋を手にして見ると、まだ昨日の夕方醫者からもらつて來たばかりの袋の中は空になつてゐた。

「おい、私の藥はどうしたんだらうな。一服もない。まだ澤山ある筈なんだ。」鎌田が不思議さうにいつてゐるところへ、お悦がきよとんとした顔をして傍に寄つて來て、

「あゝッ！」といつて、帶の間から、四五服の五角形に小さく包んだ散藥の包みを取り出した。

「間違へてゐた。」

それを見て鎌田の顔相は、急に神經が尖つて來た。

「道子の藥とまちがへたのか。」

「まちがへたのです。」

「まちがへたのに、どうしてこれを帶の間に入れてゐたんだ。藥を帶の間に藏つて置くといふのが分らない。どうしたんだ？」

鎌田は問ひ詰めた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お悦は返答することが出來なかつた。

「おい、どうして帶の間に藥を入れてゐたといつて訊くんだよ。」

お悦は石のやうに默り込んで返事をしようとせぬ。

「默つてゐては分らないぢやないか。道子の藥と私の藥とを間違へたにして、この私の藥をお前の帶の間に、どういふ理由で入れてゐたんだ。」鎌田は同じことをいつて、何度も訊ひつめた。

二人の女中と、折柄丁度、鎌田の外出中に訪ねて來て、今夕飯を濟ましたばかりの鎌田の親類の學生とは、子供の對手になつてゐたが、それを聽いて聲を潜めてしまつた。

お悦はや丶あつていつた。

「道子に藥を服ませようと思つて、見るとあんまり澤山あるので、わたしも一寸不思議に思つたんです。こんなにまだあつたかなあと思つた。たしか服ませてゐた筈だのに。又、藥を服ますのを忘れてゐたといつて、叱られると思つて、それで、取つておいたんです。」お悦はおそる〳〵いふのであつた。

鎌田はそれを聽いて叱つたり憤つたりするよりも、心の中で實に情けなくなつてしまつた。かういふ事では、自分一人で年中明けても暮れてもやきもき思つてゐるのも無理もない事だ。これでは、とてもやりきれたものではないと思ふと、うんざりして了ふのであつた。

「そんな馬鹿なことが考へたつて出來るものぢやない。藥は毎時二日分づ丶もらつて來て、道子の藥はもう一昨日の晩から今度の分を服んでゐるんぢやないか。私の藥は、また昨日の夕方もらつて來たばかりだ。…………しかし、そんな時日のことなどは、お前には覺えてゐられないだらうが、道子の藥は、お前が自分で與るか、ほかの者に與らすか、大抵食前食後に與つてゐることは、お前が自分で思つてみたつて知れてゐるだらう。それを、こんなに殘つてゐると思つたら、何より先に不審を打つて、藥袋に書いてある名前を見たらい丶ぢやないか。名前くらゐは讀めるだらう。お前は餘計なところに惡い智惠がまはるぢやないか。こんなに、服ますのを忘れてまだ澤山殘つてゐるなと思つたら、何で藥袋を先づ手にとつてよく見ないんだ。」

鎌田は、同じことを、これでもまだ解らぬか、まだわからぬかといふやうに繰返して詰責した。お悦は、それに對して何とも言ふことが出來なかつた。

鎌田は、叱るといふよりも憂慮に耐へざるもの丶ごとく顏面の神經を層一層と曇らして、

「お前がさういふことでは、私は、半日は愚か、た丶の半時だつて、安心して家を空けて外に出ることも出來ないぢやないか。それは、藥を間違へて服むといふことは、全くないことではない。困つたことだ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、どうかすると、有ることだ。薬をまちがへて服んだといふより も、服み残したと思つた薬を隠して置く心持ちが間違つてゐる。……そして、薬は間違へて服ましたのか。私の鎮静剤を道子に服ましたのか。鎌田は、念を押して訊いた。が、お悦が、何をいつても、はきはきした返答をせぬので一層焦れるばかりであつた。

鎌田の家では、時々そんな間違へをしてゐた。三四年前にも一度そんなことがあつた。お悦が二度目の出産の――道子を産む前後の騒ぎの最中であつた。その時居つた女中の一人が自分の熱冷ましの薬を、その時分まだ、やう〳〵一と誕生を過ぎて二三ヶ月にしかならぬ上の子供に間違へて服ましたまゝ、黙つて去つてしまつた。そして、その翌日の晩方になつて、ふいと、も一人の女中が、そのことをいつて聞かしたので、鎌田は始めてそれと知つて、大騒ぎをした。丁度、その日の朝お悦が産気ついて縁板の上に子供を産み落したりして、さうなくつてさへ、朝からいゝ加減取込んでゐたところであつた。そして夕方になつて、やつと、一ととほり形付いたと思つて、鎌田は、ほつとしてゐたところへ、子供に夕飯前の薬を服まさうとして、女中がそのことを思ひ出して、いつた。

鎌田は、何といふ災難の絶えないことであらうかと、まるで、自分が、意地の悪い何者かに故意に虐められてゐるやうな気がしてならなかつた。それで早速医者に女中を走らせて、手当てをしてもらはうとしたが、もう、それは、二三十時間も過ぎたことで、今更ら、手当てをすることも出来ない次第であつた。幸にして、異状が生じなかつたから、好かつたやうなものゝ、医者は、「折角この頃大分好くなつて来たところを、飛んでもないことをした。」といつて、ともかくも頓服剤を与へてくれた。何しろ、大人が三十八度からの下熱剤を一包み嚥下したので、心臓に故障を生じはせぬかといふ気づかひがあつたが、遂に何の事もなくて済んだのは仕合せであつた。

鎌田は、そのことをいひ出した。

「この前にも百合子に間違つた薬を服ましたことがあつた。私の鎮静剤を道子に服ましたんだらう!?……飲ましたのか、まだ飲まさないのか、はつきりしたことをいひなさい。」

お悦はそれでもまだ、へどもどしてゐて、言葉を曖昧にしてゐた。

鎌田は、彼女の口を信ずるよりも、彼女の顔色から真実を洞察しようとした。けれども不安は止まなかつた。

「本当のことをいひなさい。嚥ましたのなら、すぐお医者に手当てをしてもらはなければならぬから。私の鎮静剤など嚥ましたら、そのまま寝入つてしまふ。」

「嚥ましやあしませんよ。」お悦は始めてはつきり言つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかし鎌田は、どうも嚥まさないといふのが本當とは思へなかつた。その夕刻子供に藥を與へようとして戸棚から取り出したくらゐだから、その一包を與へて、あとを帶の間に仕舞つておいたものとしか考へられない。鎌田は半月ばかり前に腦貧血と强烈な神經衰弱との爲に二三日倒れてから後つゞけて服藥をしてゐるのであつたが、それが、どのくらゐの程度に、又、どんな種類の藥品を用ゐてあるものか知らなかつたが、此の頃頻りに自殺する者が服用するカルモチンその他の藥品が適度に調劑してあるのではないかと思つた。それを、わづかに三歳にも滿たぬ小兒に與へたとすれば非常な危險である。

「本當に嚥まさないのなら可いけれど……」

鎌田はやゝ安心したやうにいつたが、まだ全く安心は出來なかつた。それでまた同じことを反覆して小言をいつた。「……こんなにまだ藥が殘つてゐると思ふことが、私には、どうしても考へられないことだ。誰れよりもお前自身が一番多く手に掛けて藥を與つてゐたぢやないか。その藥を與つた度數を、ざつと考へてみたつて、二日前に醫者からもらつて來たものが、そんなに殘つてゐる筈は、どうしてもないと、から考へてみなけりやあならない。そして、それでも不審であつたら、藥袋の名前を見るのが、誰れだつて、先づ爲ることだ。それを、藥袋の名前をも更めて見ようとしないで、私の藥を道子のと思つて、私に小言をいはれるからと思つて、帶の間に隱して置くといふのは、甚だ性質の良くないことだ。今後の事のために、いつて聽かすのだ。よく注意しなさい。一體お前は今更ら始まつたことぢやないが、何かにつけて、がさつなのだ。」

鎌田は小言をいひ〱、それから女中が加減をした風呂に入つて夕飯にした。その日は午前中一寸した筆の仕事をして、午後市中に出てゆき、疲れて戻つて來たので、食後に夕刊を二三枚讀んでから、離れの六疊に入つて寢床に横はつた。すると暫くして誰れか、そうつと架燈口の襖を開けたと思つて、すこし眠りかけてゐた眼をさましてそちらを振向くと、お悦が、暗い廊下に蹲みながら「わたし、一寸細田さんにいつて來ます。」といふ。

「どうしたんだ？」

「やつぱり、今考へて見たら、道ッちやんに藥を嚥ましてゐましたから、これから細田さんにいつて訊いて來ます。」

鎌田は、とろつとしてゐた眼が、それで醒めてしまつた。そして、その瞬間、度忘れしてゐた藥のことを、さういはれて、又やつと思ひうかべた。

「そうら見なさい。やつぱり間違へて服ましたんだらう。そんなら、それで、先つき何故服ましたといはなかつたんだ。あれからもう二時

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

間以上時間が過ぎてゐる。お醫者に手當てをしてもらふにしても、もうそれだけ手遲れになつてゐるぢやないか。」

さういひながら、鎌田は寢床から、がばと腰まで跳ね起きた。

「そして、道子は、今、どうしてゐる。寢てゐるか。」

「えゝ寢てゐます。」

「寢てゐるのは、何時も今時分のことだから、寢るには定まつてゐるが、その寢てゐるのが、平常のとほり眠つてゐるのか、それとも藥が効いて眠つてゐるのか分りやしない。」

鎌田はもう、今更お悦に向つて小言を繰返したところで爲方がないと思つた。

「ぢや早く行つて、細田さんによく譯を話して訊いて見なさい。……

……あれほど、先刻念を押して訊いた時には嚥まさないといつて、今になつて又嚥ましたといふ。そりや服ましたのが本當だ。何故あの時さういはなかたのだ。………どうもお前の馬鹿にも呆れ返つて物がいへない。」鎌田は又、心から慨嘆していつた。

「あの時は嚥まさなかつたと思つたんです。」

「何をいつてゐるんだい。あの時は、子供等が夕飯を濟ましてまだ一時とも經たない時分だつたぢやないか。あの時服ましたと服まさないとを忘れてしまふ筈がないぢやないか。とにかく早く行つて來い。」彼は、お悦を追つ拂ふやうにいつた。

そして彼女が醫者に出て行つたあとで彼は又寢床にごろりと仰向けに横はつて、判斷を際まで辿りながら、凝乎と瞑目してお悦のこと、子供の將來の運命のことなどを考へて見た。そして考へれば考へるほど、心が絲のごとくに亂れて來た。

……………藥をまた澤山服まし殘して置いたので、小言をいはれると思つて、その實子供のでもない、父親の藥をさうだと思ひ込んで、それを帶の間に隱して置くやうな、淺墓な女智慧のまはるところを見ると、先刻あれほど念を押して訊いた時に、嚥まさないといつたのは、その實嚥ましたのを、此の上にまだ叱られると思つて、嚥ましたといはなかつたのかも知れぬ。さうだとすると、餘程暗愚な女だ。その爲に子供に異變を來すことがあるとすれば、空しく手當ての時間を遲らしたゞけでも取返へしのつかないことだ。そんなことを思はないで、唯自分の落度を飾らんがために、嚥まさないと白を切つたのであらうか。さうだとすれば、箸にも棒にもかゝらない。もし又、今彼女が自分でいつたとほりに、二時間前には度忘れしてゐたとしても、嚥ましたことを忘れて思ひ出さないといふのが、並はづれて常識を缺いでゐる。それが本當ならば、やつぱり三年前の嗜眠性腦膜炎の痕跡が殘つてゐるためかも知れぬ。善意に解釋して、服ましたことを、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本當に忘れてゐたとしても困つたものだ。眼ました時間と、鐵田が歸宅して、それを發見した時間との間は何時ばかりも經過してゐない。……こんなことでは、是れから後も又どんな間違ひを出來すか知れたものではない。鐵田は、こんなことが何か知ら、絶えず自分の家には續いて生じてゐるのだから、それで思ふやうに自分の本業の方も落着いて手が出せないのであらうとも思つてみた。

消燈した室の中で、そんなことを、あれこれと思ひめぐらしてゐたが、忽ち隣室の方に眠つてゐる子供のことが氣になつて、いきなり跳ね起きてそつちへ行つてみた。子供はもう毎夜のどほり、前後も知らずに、すやすや小さい息の音を立てゝ無心に眠つてゐる。

その顔を、ぢつと覗き込んでみると、格別どこに平素と變つたこともなさゝうである。寢息の通ひも尋常であるし、そつと小さい掌を捉つて、脉を掴つてみたが、脉搏も落着いてゐて、強い。顔の血色も惡くない。これが、一昨年の二月の廿五日に、母親が俄に產氣づいて、家の中の手洗鉢に氷が張つて居るほどの嚴寒の朝まだき、便處へ行つたかへりに縁側の上に、ことりと產み落した子供で、とても生きないであらうと思つたのが存外肥立ちが好くつて、どうやら、かうやら今日が日まで育つて來たのであつた。尤も生後八九月頃の間は順調に育つたが、その年の秋の半ばから段々母乳が不足して來たのを、迂濶してゐたりして、發育不良になり、大きくなるよりも反對に凋んで來て、這ひ出すのが普通よりも半歳ばかり遲れたが、去年の初から熱海へ轉地してゐたので、又すつかり順調に囘復した。それに、この方は、大きい方よりも、子供ながらに、性質がさつぱりしてゐて、泣いてもすぐ機嫌を直した。娘のやうに、いつまでも何時までも泣き止めないで、手古摺らすやうなことはなかつた。女中達にもこの方が可愛がられた。目鼻の容もこの方が少しは整つてゐた。手鞠のやうな睫毛が、黒瞳がちの二重瞼のうへに長く鬖してゐた。頰べたの形や、吹膨らしたやうな眼を見張つた恰好から、睫毛が、上に向つて跳ね返つてゐるあたりが、そつくりなので、誰れがいひ出したともなく、家の中で皆ながキユピイさんにしてしまつた。

鐵田は枕頭に坐つて、お悦が醫者から歸つて來るのを待つてゐた。そこへ歸つて來た。

「細田さんは何といつた？」鐵田は飛びつくやうに訊ねた。

「何か吐いたかッつて、訊きましたから、いえ、何にも吐きませんといつたら、さうですかといつて、此の藥をすぐ服ませといつてくれました。これを服ますと、反對藥で前のを消すからといつてゐました。」

お悦は、赤い紙に包んだ一服を見せた。

「ぢや、すぐ與んなさい。……それで別に故障はなさゝうにいつてゐる

たか。」

「別にそんなことは何にもいひませんでしたけれど、大抵大丈夫だらうといつてゐました。」

「よく、これから先きも氣を着けないと可けない。その爲に異狀がないことばかりはないから。」

鎌田はさういつて置いて、又自分の寢室に戻つて來て寢た。

子供はそれつきり別條なかつた。

鎌田は、折角元日から好い機嫌になつてゐたお正月の氣分が、お悦の鈍い頭や、見るから粗野な擧止を眼の前にしてゐると、耐力もなく崩れて來た。そして、堪へられない不快が湧いて起つた。

「お前は今年で一體幾つになつたのだと思つてゐるんだ。四十になつたんだぞ。四十といへば普通の女ならば奧さん盛りぢやないか。……尤もお前は奧さんなどゝいはれる柄ではないが。」鎌田は、一杯晩酌の酒盃を手にしながら、ぶつ〳〵いつてゐた。

「だから置いてもらはなくつてもいゝんだ。」

お悦は臺處の方から食べる物を運んで來て、又そつちへ引返したがら、棄て鉢の口返答をした。

鎌田はその爲に不快な氣分が一層燃き付けられた。

「何だ?……置くの置かぬといつてゐるんぢやないぢやないか。お前もう四十になつたら、もつと一人前にならなけりや駄目だといつてゐるんぢやないか。」

「どうしたつて、これより一人前にやなれないんです。」

「なれないことはない。ならうと心掛けないからだ。私は今更らお前に學問をしろの、容姿を作れのとはいはない。たつたこのくらゐの家で二人の子供の世話をしたり、家の內のことにもつとよく氣を配るくらゐのことは出來ないことはない筈だ。」

「これより出來ないんです。」

「ほう、呆れたものだ。これより出來なければ、一人前はおろか、半人前だ。」

「だから氣に入らなければ出せといつてゐるぢやないか。」

鎌田は、ぢつと眼を据ゑてお悦の方を見た。…………そして默つて胸の中で考へてみた。いろんなことを數へ立てれば際限もないが、いつだつたかも、鎌田がこれから急いで汽車の時間に間に合ふやうに、東京に行かなければならぬといふので、ワイシャツを取換へようとして、カフスボタンなどを取り付けさせようとすると、彼女は長いこと、それをいぢくつてゐて、つひに出來なかつた。

「馬鹿め、かうするんだ。」といつて、鎌田はお悦の手からワイシャツ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を引つたくつて、自分で颯々と附け換へた。

「カフスボタンが附けられないで、どうするんだ。」

「だつて知らないものは爲方がない。」とお悅は不貞々々していつた。

「何をいふ？　私が洋服を着始めたのは、何時からだと思つてゐる。お前が知つてからの事だ。私も初はネクタイを結ぶことも知らなかつた。それを五六年の間に覺えた。その私が洋服を着てゐるのに、お前がカフスボタン一つどうすることも出來ないといふのは、お前の心掛けが良くないからだ。知らなければ知らうとすればいゝぢやないか。」

そんなことに何につけ始終有りがちであつた。

少時して鎌田は又口を切つた。

「うむ、歸つてくれッ。」

「歸るとも。」

鎌田は續けて尙ほ何かいはうとしたが、兩親が荒い口をきゝ合つてゐるのを、子供が怖しさうに顏を曇らして、箸を動かしながら、ぢつと仰ぎ見てゐるのを見ると、彼はそのまゝ口を緘ぢて了つた。そして、二三杯酒盃を重ねたばかりで、後はすぐ飯を不味さうに食べて了つた。

子供等は女中に御飯を食べさしてもらふと、口と手とを拭いてもらつて、八疊の座敷に寢床をとつてもらひ、炬燵に暖めてあつた寢卷きに着更へさせられて、そのまゝ寢床に横はつたが、小さい方は、やがて滿三歳になるのであつても、後のないところから、まだ母親の乳をしやぶらなければ眠らなかつた。それを女中に何とかいつて賺かされてゐたが、お悅が膨れつ面をして、やつと一人でぼそ〳〵夕飯を濟ましてしまふと、起つて女中に入れ代つた。

鎌田は、子供が二人とも眠つた時分を見て、こちらから又お悅に聲をかけた。

「歸つてくれ！」

「あゝ歸るとも。」といひなり、お悅は添乳の枕から、むくりと跳ね起きて來た。そして後は物をもいはずに、そこだけ電燈を附けてない三疊の暗い納戶にいつて、押入れの中に頭を突込みながら、暗い闇にこそこそ何か掻ッ探いてゐた。と思ふと又八疊の簞笥にいつて、がたこと抽斗を引き出してゐた。やがて大きな不恰好な風呂敷包を二た包みこしらへて、それから鼻をすゝりながら、一寸着の着物に着換へた。

その物音に一旦寢入つた五つになる方の子供が、ぱちりと眼を開いて不思議さうに見てゐた。そこへ女中が湯たんぽを持つて入つて來て、子供の夜具の裾の方に入れた。

「ばあちやん、お母ちやんは、東京に歸るの？」と訊いた。

「歸らないんですよ。おねんねなさい。」といつて、出ていつた。

併し子供は、あつちい向き、こつちい向き寢返りばかりしてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お悦は、濡れた手拭などを入れるゴム引きの袋を手にして風呂敷包みの傍に突立つて、しく／＼いつてゐた。

「歸るといふから、あゝ歸んなさいといつたのだが、その代りに道子を見たいといつても見に來てはもらふまい。」鍛田は長い沈默の後でさういつた。

「道子なんぞもう見なくつてもいゝ。」

お悦も負けずにいつた。

「さうか。……私も、いよ／＼と決心をすれば、二人の小さい子供を男の一人手に育てるのは何でもない。………しかしお前はこれから今日でまだお正月の二日に東京驛に歸つて——いや東京に歸るか何處に行くか知らないが——兄弟の處に行くつもりか、どうするのか？もう九時の汽車より他にない。横濱までの汽車だ。尤も省線はまだ動いてゐるだらうが。」

「出て歸る者にそんなことを訊くのは餘計なこつた。」

「あゝ、さうか。おや訊かない。」

お悦は、さういひながらも、そこの柱に凭れて鼻をすゝつてゐた。

「行くならもう時間が無くなるよ。そして、そんな大きな風呂敷包を俥も呼ばないで、どうして持つて行く。」

「…………………」

「兄弟のところへ行つて相談するより他にはまあ、ないだらう。」

「兄弟のところへなんか行きません。」

「ぢや何處へ行く。」

「奉公をします。」

「なるほど奉公するのもよからう。しかし、今更他人の處の厄介になつて、この寒中お正月早々からそれは好いお道樂だ。奉公をして、主人の氣兼ねをしてゐるよりも、こゝに居つて、そのつもりで辛抱する方が、まだしも氣樂だと思ふがな。それでもお前が行くといふなら是非にと留めはせぬ。」

突立つてゐたお悦はそこに坐つた。

そこへまた女中が、も一つの湯たんぽをこしらへて、臺所の方から持つて來た。

「奥さん、子供のある者が歸るなんて出來るものですか。」口數の少い彼女は、たつた一と口さういつて、夜具の裾に湯たんぽを入れた。

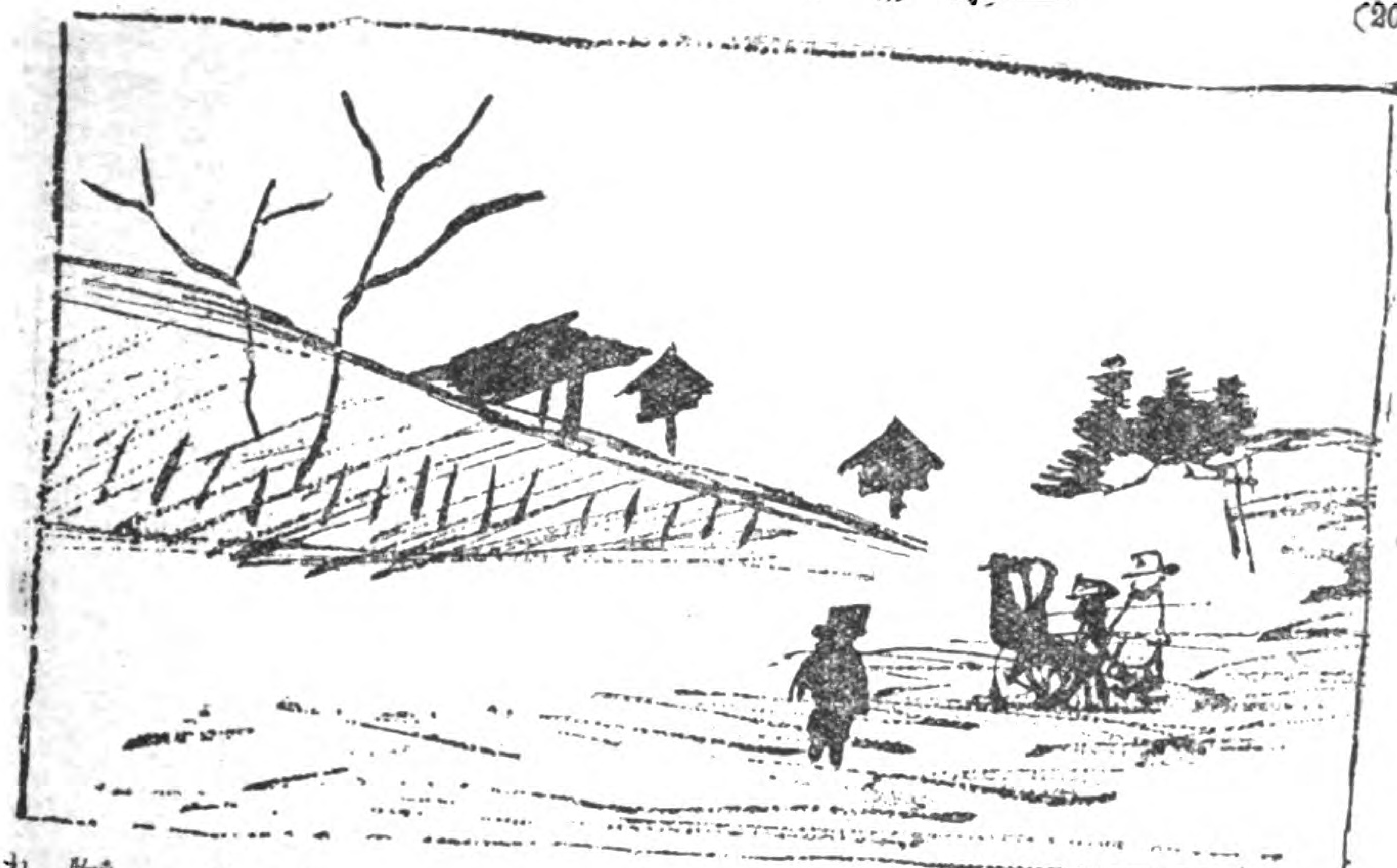
「何かといへば、すぐ出て行けの、歸れのといふから…………」後は涙に聲も濁れてしまつた。

鍛田はそれから間もなく女中に寢床を取らして入つてしまつた。

折角荷づくりした二つの大きな風呂敷包みは、二三日そのまゝであつたやうだがいつの間にか解かれてしまつた。

（十二月八日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



時雨をたづねて

高濱虛子

時雨をたづねて京都に來た私と他の二人の同行者は一夜を東山の宿に明かした。

「京都の時雨に逢ひたい。」と假に思ひ立つた私は萬事を放擲して京都に來ることになつた。私にそゝのかされて他の二人も何時の間にか同じ心もちになつて居た。そこで三人は連立つて昨日の朝東京を發つて晩に京都に着いたのである。

其朝は靜かな朝であつた。障子を明けると東山が朝靄に包まれて軟かい線を空際に見せて居た。庭の紅葉の梢にとまつてゐた雀は暫くの間一ところにぢつとしてゐた。やがておとなしく松の梢に移つた。三人はその朝の景色を眺めた。

隣りの家の物干では娘さんか女中かゞ竿を持つて何かを干してゐるやうすであつた。がその動作は明らかには見えなかつた。一面の竹垣が屋根の上に結ひ回はしてあるのではつきりと見ることは出來なかつた。

「物干しでもあらはでないところが流石京都だな。」と一人は云つた。が、やがて竿に着物の干されたのが高く竹の柵の上に現はれた。大空の日の光は喜んでその干物を受け入れる如く見えた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「吾等は時雨に逢ひに來たのだのに。」とめい〱の心の中に同じやうな考へが浮んだ。

昨夜私達の宿を訪ふて同行を約して歸つた此土地の人が二人あつた。其うちの一人は今日は差支があるから明日から一行に加はるといふことであつた。

私達三人に此土地の人一人を加へた同行四人は、時雨に逢ふべく先づ嵯峨野へと志した。

嵯峨の停留場に降りた頃は全くの小春日和であつた。うち晴れた嵐山は我等を壓するやうに前の家の軒の上に蔽ひ被さりかゝつてゐた。

「嵐山がすぐ屋根の上にのつかつてゐるやうだ。」と一人が言つた。

「くづれかゝつて來てゐるやうに見えるね。」と他の一人も言つた。けれども渡月橋畔に出て大堰川を距てゝ望むと稍遠退いておだやかな普通の嵐山に戻つてゐた。もう紅葉は大方散つて枯木になつてゐた。只遅い紅葉が點々と松の間に紅く殘つてゐるのが見えた。角の櫻餅屋に入つて赤い毛氈のしいてある腰掛に休むだ。

「永いことどすなあ。もう何年になりますやろか。」

其店の女中は同行者の一人を知つてゐた。

「さあ、もう六七年になるね。」

「ほんまに。さうどすなあ。うちの若旦那の七年の御囘忌が去年すんだのどつせ。」

「もうさうなるかなア。早いものだなア。」と其若旦那といふのも同行者は知つて居るらしかつた。

この店へ一行の荷物を預けておいて暫くその邊を歩いて來ることにした。

嵐山の影が大堰川の上に落ちて居て、そこに繋いである遊船も寒さうに見えた。私たちは其寒さうな日陰で時雨に逢ひ度いやうな心持ちがした。そこでその遊船に乗り込んでしばらく川に浮んで見ることになつた。棹が水底の岩に突き當つて船がぐつと進む度に水のさや〱と鳴る音が心もちよく耳にひゞいた。吾等のほかに一艘の船も浮んでゐない冬枯の大堰川は物靜かであつた。山の日陰になつてゐる川の面は寒かつたが、兩岸に峙つてゐる山の間の青い空には日が輝いてゐて、なか〱時雨の模樣もなかつた。私たちは間もなく船を見すてゝ散紅葉してゐる岸の岩の上に突立つてゐた。

それから『ほとゝぎす』といふ料理家の前の石段を上つて龜山公園の松の間を歩いた。ほどなく龜山を過ぎて常寂光寺の石段を上つた。その常寂光寺といふのは定家卿が百人一首を選んだところであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

定家卿の時雨の亭といふ古びた亭が後ろの山の上にあつた。私達は其所に上つて其の竹椽に腰をかけて休んだ。古びた竹椽は吾らの重みでみし〳〵と鳴つた。

「この邊も時雨の名所なのだが、今日は駄目かな。それでも斯んな天氣でゐて俄にハラ〳〵と來るかも知れぬ。それが京都の時雨の特色だからな。」と私は言つた。

一行の人々は散紅葉を足の先で弄んだり、其亭の壁にしてある樂書を讀んだりしてゐた。

庫裡の中から四五人の婆さん連が手を引き合つて出て來た。その中には大黑天其まゝのやうな顔をした婆さんもあつた。早口の京言葉でべちや〳〵しやべりながら私たちの前の坂を下りて行つた。私たちもそのあとに從つて坂の中途の竹藪のところから道を曲つた。

一行の一人が道ばたの虎落にからまつてをつた「さねかづら」の一ト蔓を引きちぎつた。その紅い實が美しく一行の眼に映つた。赤蜻蛉のつるんだのが幾匹となく私たちの行手を飛んで、往來の落葉の上に翅を休めてゐるのもあつた。私たちが歩いて行くに從つて飛び上つては又た行手の落葉の上に止つた。そんなことを際限もなく繰り返してゐた。

藪のはづれに廣い茶の花の畑があつた。後ろの山の日影がその茶畑の半分ほどを蔽ふてゐた。ところ〴〵に交つ白い新らしい茶の花が葉の間から覗いてゐた。大方は古びて黄色くなつた花が葉陰に隱れ貌であつた

小倉山が眼の前にあつた。その中腹にある二尊院の白い壁が眼に入つた。私たちはまもなく二尊院の前の廣い道を上つた

美しい大きな紅葉が二三分方は散り殘つてゐた。掃き溜めてある二尊院の本堂の前に暫く佇んでゐた。

吾らは又山傳ひに祇王寺へと下つた。カラ〳〵に枯れて轉がつてゐる櫟の落葉の上を飽かずに下つて行つた。

まもなく祇王寺がなだらかの坂の下に現はれた。

「今日は尼が留守ではないな。」と同行者の一人が云つた。白い襦袢と袷が木の間の物干竿に干してあるのが見えた。

四人は祇王祇女の墓の前に突立つた。一人は手に携へて居たさねかづらをその墓の一つの花活けに挿した。今迄は枯れかゝつてゐる花ばかりであつた中に、新たにさねかづらの紅い實が艶々しく垂れ下がつた。

祇王寺の軒下には大きな漬菜の桶があつた。その桶を眺めながら案内を乞ふた。

「本像を拜觀をしたいのですが。」と一人は云つた。背の低い尼が膝を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ついて、

「どうぞお參り下さいませ。」と云ふて引つ込んだ。そこの衝立には袈裟が無雑作にかけてあつた。尼は佛間にある木像の前に蠟燭を點もした。その蠟燭は大きな蠟燭の燃え殘りもあれば、また小さい直ぐ燃えたつてしまひさうな蠟燭もあつた。しかし祇王、祇女、祇王の母、清盛、佛などの木像がこと〴〵く照し出さるゝ位澤山の蠟燭が灯し連ねられた。やさしい祇王の顏の眼がその灯の光りに輝いて見えた。前に供へてある佛飯や林檎なども照し出された。

「あゝ清盛の像か。」と一人はその清盛の木像に向つて突立つた。清盛の木像の眼は前の祇王の眼よりは數倍大きかつた。灯の光りにぎらぎらと光るやうすも祇王の眼の比ではなかつた。

「清盛とか尊氏とかいふのは僕は好きなんだ。」とその男は尙暫らく其木像の前を立ち去らなかつた。

尼は向ふの間に行つた。暫くして蕪汁の匂がした。やがて釜の御飯を御櫃に取つてゐるらしい物音もした。

「あゝあれは笹鳴きだ。」と縁側に突立つてゐた一人が云つた。皆耳をそばだてるとチチチ……と笹鳴の音がすぐ間近くきこえた。

「あの生垣傳ひにこちらへ遣つてくるかも知れぬ。」と一人が云つた。けれども笹鳴は一と所に留まつてをるらしかつた。

梢の散紅葉は、一枚二枚の葉を極めて物靜かにゆつくりと土地の上に落してゐた。土地はまたゆつたりと物靜かにその落葉をうけ取つてゐた。啼鳥の聲のほかに空山に響く何の物音もなかつた。

最前の蕪汁の匂ひで稍空腹を覺えて時計を見ると一時が近かつた。

四人はそこを出て歸路についた。竹藪の中に在る去來の墓のそばを通つたがそこには立ち寄らなかつた。落柿舍の門内に入つて柿の木を見上げて見たが其梢には一枚の柿の葉つぱも柿の實も殘つてゐなかつた。

大きな竹藪の中路を通つて野々宮の前に出た。ふと見ると一人の神主と二三人の男とが殿前に陣取つて何事をか仕てゐた。

「お祭りらしいな。」と一人はつぶやいた。四人は槻の木にもたれて其のすることを見て居つた。神主は紙を折つて三寶の上にのせてゐた。羽織を着た着流しの世話方らしい男は井戸の水を汲み上げてバケツの中へ入れてゐた。その井戸は平常蓋がしてある井戸であるのを今日半分蓋だけとつて水を汲み上げてゐるものらしかつた。車井戸の鐵の鎖のなる音が靜かな境内に響きわたつて物々しくきこえた。錫のお神酒德利が其のバケツの中に入れられて洗はれるやうすであつた。大きなお重ねの餅が大小とりまぜて五重ね並べられてあつた。

「今日は何かお祭ですか。」と一人が神主にきいた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「今日は神嘗祭とお火焚とがあるのです。」とその神主は落着いた調子で答へた。

「神嘗祭といふと？」と一人が不審してきいた。

「伊勢の大神宮に始めて今年のお初穂を供へるのは十月十七日、即ち神嘗祭の大祭日の日ですが、この野々宮には今日お初穂を供へるのです。それに出雲に旅をしておいでになつた神さまがけふお歸りやすのを火を焚いてお迎へする、それをお火焚きいふのです。」

「お火焚きには、あの柴を燃やすのですな。」と一人は鳥居のそばに打築つたやうに置いてある一つの柴をさして云つた。その柴は最前から彼らの眼についてゐる柴であつた。何にするのかと思つてゐたがはじめてその疑問が解けたのであつた。

神主は猶續けて云つた。

「お火焚といふことは稻荷さんでする事でして、ほかの神さまにはあまりせなんだのが、のちにはほかの神さまも皆するやうになつたのです。」

「そのお火焚をするのは夜になつてからですか。」

「いゝえ、晝間です。もう間もなくします。」

二三人の世話人が働いてゐるばかりであつたのが、かしこの藪陰から二三人、こゝの森の中から二三人といふふうにだん／＼と殖えて來た。今は七八人の人が入り亂れて働いてゐた。

「御苦勞さんでございます。」と互に腰を屈めて丁寧に挨拶をしてゐた。

かどの茶屋に居つて食事をしたゝめた。それから自働車に乘つて高雄へと志した。

時雨のもやうは更になかつた。見る限り小春日のおだやかな空であつた。西面に聳え立つてゐる銀杏の大樹は、まだ黄金色の葉を七八分方つけて大空にすき透るやうに見えてゐた。やがて自働車は廣澤の池のそばを通つた。或時は路に干してある籾莚の上をも通つた。双ケ岡の麓を通つて仁和寺の門前に出て、それから折れ曲つて高雄へと驅けるのであつた。

高雄の紅葉屋の前で自働車を下りて、荷持の女を一人雇ふて、高雄橋のところまで下り、それから清瀧川に沿ふて槇の尾へと志した。こゝの紅葉も七八分方もう散つて僅かに黄紅葉が枯木の間に殘つてゐた。掛茶屋はこと／＼くしまつてゐた。中にはビールや正宗の旗がそのまゝに殘つてゐて番人はもう居ないのもあつた。二三人の高雄女は頭に重い荷物を載せて悠つくりと坂を上つてゐた。それらの景色が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ち晴れた蔦紅葉の中にハッキリと描き出されてゐた。荷持の女も二つの鞄を輕々と頭の上に載せて私たちの先に立つて歩いた。

「姉さん。お前の穿いてゐるたつつけはずつてゐるぢやないか。もつと上へひき上げてはどうか。」と一人はからかふやうに云つた。

「ハハハ……。上げると窮屈なわいな。このまゝでえゝのぢやわいな。」と笑ひながら女は答へた。

そこへ一人の炭燒が炭を背負つて橋を渡つてやつて來た。女はその橋の方角を見やりながら、

「ようお客さんがな、この橋を間違へて向うへ御座るわいな。立札が立てゝあるのになあ。」

同行のうちの京都の一人は、

「さうだ〳〵。この橋を渡るともう丹波だ。」と笑ひながら云つた。

淸瀧の淸流は石に激して其の橋の下を流れてゐた。大八車の轍の跡が吾らの踏んで行く路の上に凹く殘つてゐた。

槇の尾の橋も過ぎた。

女はやがて、

「こちらへお出でやす。」と人家の間の細路の坂を登つて行つた。其は近路であつた。間もなく栂ノ尾橋のほとりに出た。

栂尾橋を渡つて少し坂を上ると其所はもう高山寺の境内であつた。

「御鳥羽上皇寢殿、石水院」とある立札が私たちの眼に映つた。其處の山門を入ると正面の玄關が鎖されてゐた。が一人が庫裡の方で案内を乞ふと年とつた寺男の返事がきこえた。

やがて其の寺男は玄關の戸襖を開けて私たちを招じ入るゝのであつた。掃除の行き屆いてゐる座敷には紅い毛氈が敷きつめてあつてその上には大きな鐵の火鉢が置いてあつた。寺男は炭火の大きなのを持つて來てその火鉢に入れた。緣に立つと前の山々が明らかに見えた。紅葉は大方枯木になつてゐて杉の木の間に點綴してゐた。下には淸瀧川が流れてゐてその流れに沿ふて最前の道のつゞきが尙山奥へと續いてゐた。

一人の尼が晩飯の膳部を運んで來た。その尼は背の低い顏の色艷の好い四十四五の尼であつた。

「一寸使ひにいてをりましてえらう失禮致しました。道で東京のお客さんがお見えといふ事で急いて歸りました。まあお珍らしい。誰方や知らん思ふて歸つて來ましたんです。ようこゝまでおいでやしておくれやした。」と云つた。

「あなたがこのお寺の住職さんですか。」

「住職はほかにあるのですが、始終京都の方のお寺に居られるのです。私が留守番を致してをります。……何んにも御馳走はありませ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ん。」と云ひながらめい〳〵の前に膳を置いて、
「お鉢はこゝに置いときます。」と云つてさつさと引き下つて行つた。
食事を終へてから縁側に立つて見ると、淋しい上弦の月が前山の頂きに懸つてをつて、うす雲の流れてゐるのが見えてをつた。たか〳〵時雨は降りさうになかつた。

昨晩寝る時分には扉のあたりから寒さが襲ふて来るやうに覚えて、厚い木綿蒲団を頭から引被つて寝たのであつたが、今朝眼が覚めて見ると案外に暖かであつた。歯磨楊子を啣へて表に出ると、筧の水が滴つてをる岩の凹みに一つの杓が置いてあつた。散紅葉がその水底に沈んでをつた。尼さんがバケツに湯を汲むでそこへ持つて来て呉れた。さうして金盥も持つて来て呉れた。そこで顔を洗つて歯磨楊子と手拭を懐ろにねぢ込んで門前の坂を登つて行つて見た。坂の両側には石垣がつゞいてをつて、其上は杉や檜の木立になつてをるところが多かつた。以前は十六坊とか十八坊とかゞこの山内にあつたとのことであるから、何れも坊の跡らしく思はれた。右側の石垣の上には明恵上人の修業をなすつたといふ御堂があつた。『尼連禅河堂』と書いた札が柱に打附けてあつた。此下の清滝川を天竺の尼連禅河に見立てゝ此堂をさうなづけられたものであらうと思はれた。その札もあり腐蝕して定かには読めぬ位になつてゐた。又其の上に明恵上人の御廟が拝まれた。立ちとまると只谷の聲がしてゐるのみで何の物音もなかつた。泉石の響きも松籟の音もきこえなかつた。

帰つて見ると室は掃除がしてあつて朝飯の膳が運ばれてをつた。それから昨晩の尼が来て、直ぐ縁側傳ひに行けるやうになつてをる『石水院』の扉を開けて置いて呉れた。朝飯が済んでからその石水院に行つて見た。御鳥羽上皇の御学問所であつて神代杉で出来てをる特別保護建造物であつた。風雨に晒された周囲の木柱は殆んどぼろ〳〵に朽ち果てゝゐるやうに見えたが、中に入つて見ると床などは新しく、木柱も割合に破損して居なかつた。明恵上人の僧徒の誡めを書かれた何十箇條の『何々すべからず』と列記してある直筆が残つてゐた。帰つて暫く尼さんと話した。此尼さんは男勝りの尼さんのやうに見受けた。

「朝暗いうちに金堂や尼連禅河院などに參拝して香を焚いて来るのです。」と尼さんは話した。

「今朝私たちが金堂に行つた時分に香の匂ひがしてゐたのはそのためですな。」と一人は云つた。

「あなたのお出でやした時分まだ香の匂ひがしてをりましたか。私の焚

いた杉がまだ靜かにゐましたんですやろ。」と尼さんは云つた。

一夜の厄介になつた禮を陳べて尼さんに別れを告げた。表に出ると昨日の寺男は散紅葉を掃き集めてそれを燃やしてゐた。めら〱とその紅葉の燃える音が靜かな境内に響いてゐた。私たちが一寸挨拶をするとその老人は叮嚀に腰を折つて箒を持つた手を下にさげて辭儀をしてゐた。

一丁ばかり下におりた時分に吾らを呼びとめる尼の聲がきこえた。何事であらうかと振返つて見ると尼は坂を走り下りて此方へ來るらしかつた。一人が尼の方へ走り寄つて見るとそれは昨日鞄を二個縛つて頭の上へ乘せた女の忘れものゝ細びきであつた。一人は細引をうけとつて私たちに追ひついた。

高山寺をふり返つて見ると白い土塀が紅葉の間に長く連なつてゐた。

牛や馬の重さうな材木を引いて來るそばを通つて昨日の紅葉屋のほとりに出た。そこへ丁度客を乘せて一臺の自働車が着いたので私たちはその自働車に乘つて北野まで行くことになつた。昨日の荷を持つて呉れた女はその邊に立ち働いて居た。彼の細びきは無事に女の手に返された。

天氣は少し曇つてをつた。しかしなかなか時雨さうな模樣はなかつた。尼の話に

「二三日前は夜分になるといつでも時雨れて居りました。」と言つた。

が、しかし昨夜は時雨れた模樣を見ることが出來なかつた。夜中にハラハラと音がしたのは時雨の音ではなかつた。風が出て木の葉を降らした音であつた。今朝起きた時分に庭の苔や落葉は一面に濡れてゐた。がそれも時雨が降つたためではあるまい、恐らく夜露のおりたが爲めであらう、と思はれた。私たちは更に「北山時雨」のするといふ北山方面に出掛けることにした。大原の三千院のほとりにある寂光院といふ無住寺をこゝろざして行くことにした。

北野まで自働車に乘つてそれから又他の自働車に乘り換へて京都市中を横ぎり出町柳の停留場に來た。此所で同行すべき筈の一人に電話をかけた。その電話口に出た一人の報告するところによると、意外にもその人の妻君のお母さんが危篤でその方に行つてゐて殘念ながら同行は出來さうもないとのことであつた。それで四人は八瀬行の電車に乘つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

八瀬に着くと、そこには叡山に登るケーブルカアがあつて、其下の遊園地では小學の兒童が教師に連れられて嬉々として遊んでゐた。池に浮んでをる鵞鳥形のボートに一人の教員が乘つてオールを漕いでゐた。その前と後ろに三人四人の子供が乘つて舟が動くたびに喜びの聲を上げてゐた。これから大原の三千院に行く自働車が出るにはまだ三十分ばかり待たなければならんので、四人とも離れ〴〵になつて動く其邊をうろついた。

やがて時間が來たので自働車に乘り込むだ。其時既に自働車に乘り込んでゐる一人の女の人があつた。その女は最前から待合所で休むでをつた三十ばかりの猫背の女であつた。病人らしい顏色をしてをつて手には一つの魚の苞と藥瓶とを持つてゐた。それが慎しやかに片隅に腰かけてゐるところに四人はドヤ〳〵と乘り込むだ。その魚の苞は自働車のドアのハンドルのところにぶら下げてあつた。

同行者の一人は沿道に見る景色を他の同行者に説明してをつた。それは丁度猫背の女の前側の腰掛に腰を掛けてゐた。

「八瀬の大橋〳〵！」とその男は云つて、自分は窓外を眺めながら他の同行者の手を探した。それは其人の窓外の景に對する注意を呼び起こさんが爲めであつた。が、その手は猫背の女の手に觸れてゐた。

「馬鹿〳〵。何をするのだ。ハハハハ……。」

その男は其を見て噴き出して笑つた。他のものも皆笑つた。猫背の女は青ざめた顏に血の色を上らせて、淋し氣な微笑を口もとに湛へてゐた。

自働車は終點の茶店の前に止まつた。

「これは貴女のですか。」と云つて同行者の一人は魚の苞を指した。女は無言でうなづいた。同行者の一人はその魚の苞をとつてその女の手に渡してやつた。女は叮嚀にお辭儀をしてそれを受けとつた。吾ら四人が下りた後から女は寂しさうに下りた。

そこの茶店のお上さんは吾ら四人を迎へて聲高に云つた。

「貴君方あの寶泉院にお出でやすのどすか。村長さんがおいなはつて、いつお出でるか判らんさかい、お出でやしたら開けやういふてお歸りやした。どうですやらう。村長さんを呼んで來ませうか。」

私たちは村長が來るまでこゝに休息してその間に晝飯を食べることにした。御飯を食べてゐるところへ村長さんが來た。他に一人の村人も一しよに來た。其等の人が寶泉院に案内して呉れることになつた。

私達は晝間だけ寶泉院に行つてゐて、夜分はこの茶店に歸つて寢ることに相談が纏まつた。火鉢や炭や茶や座蒲團などはこの茶店から運んで呉れることになつたのである。

村長さんたちは前の坂をそろ〳〵と上つて行つた。その後について

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私たち四人は坂を上つて行つた。

坂を上ると其所に呂川と呼ばるゝ川が流れて居つた。其川の石橋を渡ると、其處には散り殘つた紅葉の大樹が數十本あつた。そこが三千院のあるところであつた。

「あの右手にある新しい茶店が徳女の茶店ですよ。」と同行者の一人が云つた。私は徳女といふ女は十分に知らなかつた。只三千院の門前に茶店を營んでゐる若い女があることだけは聞いて居つた。私たちは歩を進めてその徳女の茶店の前に通りかゝつた。その茶店の前には小學校の生徒の一團體が集つて騷いでゐた。その中にけば〳〵しい着物を着た白粉を白く塗つた三十前後の女がゐた。同行者の一人を見附けてその女は笑み傾けて、挨拶をしてゐた。他の三人はその前を素通りした。

三千院の石段を通り過ぎて暫く紅葉の下をさまよふた。やがて律川といふ川にかゝつてゐる石橋を渡つた。呂川律川といふ二つの川が三千院を挾んで流れてゐるのであつた。その律川の石橋を渡つて下りたところに勝林院といふ大きな御堂があつた。その御堂の前をだら〳〵と下つたところに寶泉院といふ無住寺はあるのであつた。

村長さんはその無住寺の玄關の障子を開けて默つて入つた。庭はこの頃取替へたとかで、新らしかつたが大へんな埃が積つてゐた。皆爪立てをして歩いた。村長さんと一しよに居つた一人の村の人は箒を持つて來て其處の上を掃きはじめた。私たちは緣側に出て其庭を眺めた。庭はたくさんの躑躅が或は圓く或は楕圓に或は長方形に或は三角形に美しく刈込まれてあつた。その躑躅の間にはさま〴〵の形をした石が面白く配置されてあつた。

「この儘では惜しいな。」と一人が言つた。

「さうですなあ。襖を閉めんとお寒からう。」と村長さんと村の人とは相談し合つてゐた。それから取外してある襖を取り出して來て閉め初めた。その襖は朱や緑の布で縁取がとつてある立派なものであつた。がそれはなか〳〵たやすく嵌まらなかつた。かうでもない、あゝでもないと閉めたり外づしたりしてゐた。

私は草履を突つ掛けて出て見た。門前から表にゐた同行者の一人は一人の婆さんと話しをしてゐた。その婆さんはやはり大原女の格好をしてゐて門前の萩を刈束ねてゐた。

「あの婆さんは好い話をしてゐます。さうしていろ〳〵な話を教へて呉れます。」とその同行者の一人は笑ひ乍ら云つた。

「どんなことを教へて呉れました？」

「あのお寺の庭にある松は五葉の松かねと聞いたところが、さうですあれも五葉の松です、それからこちらの方のもやはり五葉の松です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一寸違ふやうに見えるのはあの庭にある松の方は植木屋が手入をしたので、こちの木の方は手入れをしないのです。など丶教へて與れました。ハ、、、、、。あのお婆さんは八十六とか云ふことです。好い顏をしてゐませう。」

「ほんたうに好い顏をしてゐますね。農村が好んで畫く顏ですね。」

暫く勝林院の前をうろついてゐると其處へ村長さんと一人の男はお寺から出て來て私にかう云つた。

「又後程お眼にかゝりますが、一寸歸つて來ます。それから火鉢や座蒲團を早う持つてくるやうに云ひつけます。」

私はその後を呼びかけるやうにして云つた。

「電燈の球も忘れんやうに持つて來て貰ひたいものです。」

「ハイハイ。それも申し付けて置きます。」と二人は律川の石橋を渡り三千院の方へ歸つて行つた。

御寺に歸つて見ると中の間の二方だけ襖が嵌つて居たが、他の二方は何にも嵌めてなくてガランとしたまゝであつた。それに火鉢がまだ來ないので火の氣がなかつた。仕方が無いのでまた表に出た。

勝林院の前をトボ／＼と歩いて、大原陵と呼ばれて居る順德院と後鳥羽院の御陵の前に行つた時分に、向ふから座蒲團を頭に載せた大原女の此方に來るのを認めた。近寄つて見るとそれは最前の茶店のお上さんであつた。頭に座蒲團や茶器などを載せて手には藥罐を下げてゐた。早くも向ふから聲をかけて

「えらう、遲なはりました。皆持つてまゐりましたさかい、もうお寺にお歸りやすか。」と云つた。その外に一人の小女を連れてその小女の手にもさま／＼のものを下げてゐた。その中には二つの火鉢と炭斗に炭を入れたのなどもあつた。

「電燈の球は？」と私がきいた。

「それも持つて來ました。大きい球と思ひましたが、あんまり大きいのが無うて、これを持つて來ました。之ならたいがい明こおすやろ。」と答へながらさつさつと行き過ぎて行つた。

散り／＼ばら／＼になつてゐた四人は皆寺に集つた。さうして火を起すやら藥罐をかけるやらして俄かに一個の世帶を作りはじめた。

最前からこの無住寺の向ふの一室に力のない咳拂ひの音が聞こえた。これは私たちより以前にこの無住寺の一室を借りて病を養つてゐる人があるとの事であつた。そのことは村長さんも云つてゐた。又茶店の上さんも云つてゐた。それはどんな人かわからなかつたが只咳拂ひの聲のみがきこえた。弱さうな咳拂ひであつた。

「どんな病人であらう。」と一人が疑問を起した。

「何でも手が藍色に染まつてゐるから、それは紺屋の若主人とか職人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とか云ふやうなものであらうと、お上さんが話してゐた。」と一人は答へた。

「どうしてこんな淋しいところに一人來てゐるのであらう。」といふ疑問は誰の心にも同時に起つた。力の無い咳がまたその一室からきこえた。

「吾ら闖入者がどや〳〵と來て定めて驚いてゐることであらう。」と一人は云つた。誰もそれに答へるものはなかつた。

漸く湯が沸いたので茶を入れた。それから最前茶店の隣の饅頭屋で買つて來た饅頭を喰つた。その饅頭は砂糖氣の少い水氣の多い饅頭であつた。それでも皆二つか三つづゝ立て續けに平らげた。

みな又庭に下り立つて見た。最前は躑躅と石ばかりであると思つてゐた庭に一個の老梅があるのを見出した。その枝は嵯峨として針の如く突つ立つてゐた。幹には白く苔がついてゐた。その白い苔の間に輪のやうになつて青い苔がついてゐた。ぶん〳〵と音を立てゝその老梅の幹の廻りを飛びめぐつてゐるのは一匹の大きな熊蜂であつた。その熊蜂は庭の隅に隱れたやうに咲いてをる八ッ手の花の方に飛んで行つた。さうして暫らくその八ッ手の花の葉の間に頭を突込んでゐるやうに見えた。最前から少し空の模樣が曇つて來たやうに思へた。

やがて私と外の一人が室内に這入つた。室内は薄暗くなつてゐた。其の天井からぶら下つてゐる電燈の笠の下に最前附けて呉れた電球を嵌めた。俄かにパッと明るくなつたのが氣持がよかつた。障子を閉めきつて二人はその電燈の下に坐つた。火鉢の火に炭をつぎ足してその上に寄り添ふやうにした。時計を見るとまだ五時過ぎであつた。時候の割合に早く暗くなつたやうに覺えた。

其時庭傳ひに歸つて來た一人の同行者はそとから障子を開けて、

「いまし方ちよつと時雨れましたよ。」と云つた。

「時雨れました？」

私は立ち上つてそのあいてゐる障子の隙から外面を見た。すこしも時雨れてゐる模樣はなかつた。

「音無の瀧に行つた戻り路に坂を下つてゐるとハラ〳〵と顏に落ちたものがあつた。あゝ時雨れたなと思ふうちにもう止んでしまひました。」とその一人は云つた。私はまた更めて空を見上げた。空は曇つてはゐるが時雨らしいものは更に見えなかつた。

やがて表に殘て居つた二人も室内に歸つて、火鉢を抱へて電燈の明りのもとに集つた。さうして今日來べき筈であつた他の一人の噂などをして居た。一匹の大きな黒い蛾が高い天井の下を飛んでゐた。四人の眼は一やうにその蛾に集まつた。暫らく天井を飛び廻つてゐた蛾は遂に白壁の一隅に止つた。蛾はいつまでもそこを動かぬやうに見え

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。四人はその蛾から眼を離して雑談に移つた。

日はとつぷりと暮れかゝつて來た。四人の話もはたと途絶えた。この無作寺の一室は森閑として何の物音もない。隣室の咳も今は聞えない。

一人が便所に立つた。その男の聲が便所に行く廊下のあたりから聞えた。

「時雨れてゐますよ。時雨れてゐますよ。」

三人は聲に應じて立ち上つて障子を開けた。電燈の灯影が庭にさして、そこに白い雨の脚が一筋二筋眼に入つた。

「なるほど、時雨れてゐる。」と私は云つた。

「時雨れてゐる〳〵。」と他の一人も云つた。早や下駄を突掛けて縁側から表に出て見るものもあつた。

「あゝ時雨れてゐる〳〵。」と云ふ聲が表から聞えた。

四人ともいつか靴や下駄を突つかけて表に出てゐた。ハラ〳〵と降る時雨は心もちよく顔に當つた。ぞろ〳〵と連立ちながら四人は暗の中を歩いた。大空は眞つ暗で、杉の木も松も又建物も只黒い暗の中に在つた。

ふと氣がついて見ると私は帽を被らずにゐた。インバネスを和服ることは忘れなかつたが帽を被ることは忘れてゐた。帽を被らぬ頭を快よい時雨の中に濡るゝがまゝにしてゐた。

振り返つて見ると無作寺の我等が室にはたゞ灯火ばかりがともつてゐた。其室の中には明るく灯がともつてゐるばかりで一人も人は居ないのであつた。彼の咳をする人のゐる座敷は此所からは見えなかつた。

向ふより一つの提灯の火が見えた。その提灯の火が木の間を縫ひつつだん〳〵こちらに近寄つて來た。間近くなつたとき

「お迎へに參りました。」といふ男の聲がした。彼の茶店の主人が四本の雨傘を抱へて私たちを迎へに來て呉れたのであつた。

「女たちは恐いといふてよう來まへんので。」とその男は云つた。

「さうだらうな。とても女はよう來まい。」と同行者の一人は云つた。

「さうでも無いのですけれども、女達は恐がるのです。」と男は投げ出すやうにいつた。

「おぢさんこの火鉢の火はどうする。消して置くか。」と一人は云つた。

「さうやなあ。」と云つたばかりで男はどうするとも云はなかつた。一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人は二つの火鉢を抱へて玄關先に持つて出た。その二箇の火鉢の中には炭が赫々とおこつてゐた。男は不承々々にその赤い火を玄關の敷石の上に出した。

「かうやつとけば、自然に消えます。それに時雨も降つてゐるさかいに。」といつた。炭火は紅蓮の如く玄關先の敷石の上で燃えたつてゐた。

「こゝに好いものがある。これを上にぶつかけなさい。」とさう云つて一人は藥罐を下げて來た。男はそれをとつて炭の上にぶつかけた。

電燈を消して玄關の戸を閉めて一行はこの無住寺を見捨てた。男は先きに立つて提灯に道を照らしながらトボ〳〵歩いた。吾等四人はその提灯の光りを便りについて行つた。草履で歩るくのには道はかなり濡れてゐた。

德女の茶屋の前に通りかゝつた時分にさつと障子が明いた。さうして灯を背にしてゐる德女の姿が障子の外に現はれた。

「まあお草履ですか。下駄をお貸し申しませうか。」

「いえ、ようございます。」

「だつてこれから先は道が惡るうございますから。」

さう云つて奧に入つて出して來たのは紅い爪皮のついてをる足駄であつた。

「これは高すぎてあぶない。もつと低いのはありませんか。」と同行者の一人は云つた。

「低いの？」と一寸首をかしげて考へたが、直ぐ奧に消えて持つて出たのは赤い鼻緒のついてゐる日和下駄であつた。

「それぢやこれを拜借して行くかな。」と私はその下駄に履き替へた。

「そのお草履はお預りして置きませう。後からお屆け申しますから。」と德女は雨に濡れながら地上にぬぎ捨てた私の草履を受取つた。

私たちはその幟坂を下りて茶店の方に歸つた。

私たちは茶店の二階に上つた。其二階も座敷の間の襖は外づしたまゝになつてゐて、がらんとしてゐた。其中に坐つた時の感じは空屋に坐つた時のやうな感じであつた。やがて四人は夕食の膳に向つた。殆んど食事が濟んだ頃に下から娘が現はれてかういつた。

「德女さんが下に來て一寸お眼にかゝりたいといふてはりますが、どないしまひよう。」

「一寸ならお上り下さいとさう云ひたまへ。」と一人は盃を下において云つた。私と一人は早く飯を食つて仕舞つて居つたが他の二人はまだ盃を手にしてゐた。

其處へ德女は段梯子を上つて來て愼ましやかに坐つた。京都に住ま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つてゐる一人は改めて徳女を私たちに紹介した。

「どうして貴女はこの大原にゐらつしたのです。」と私は聞いた。

「大原女の繪を描きたい爲めにです。」と徳女ははつきり答へた。

「あの茶店には貴女一人居るのですか。」

「え、一人きりです。一時は小女を置いてゐましたが今は一人きりです。筆を持つたり水仕事をしたりするのでこんなに手が荒れてゐます。」といつて手を隱す素振りをした。

「淋しくはないですか。」

「い〻え、ちつとも。始めの間少しは淋しくも思ひましたがこの頃はちつとも。」

「この大原においでになる前には？」

「京都に。」

「あなたは東京ですか。」と私は尋ねた。

「え、東京です。生れは茨城です。霞ヶ浦の近所です。」

白粉の面テを灯火の前に晒して歯切れの好い言葉でハキ〳〵と返事をした。

それから話がこの邊の地理のことになると徳女は詳しく知つてゐた。三千院の後ろの山を魚山と云ふがこれは昔小野山と云つたところである。それから反對の側にある一帯の山を小野山と云ふのである。彼の寂光院の前の翠黛山も小野山の一部分になつてゐるのだといふことなどを話した。

酒を飲んでゐた二人はこれから寂光院に行つて見やうと云つてゐた。さうすると徳女は、

「寂光院にゐらつしやるのなら、私が御案内しませう。」といつた。

「寂光院はだめ〳〵。もう尼さんは寢てゐる。」とその一人は思ひなほしたやうに云つた。

「あなたがゐらつしやる時分雨はどうでした。」と暫くしてから一人が徳女にたづねた。

「もう止みかけてゐました。あんな時雨はよくこの邊では降ります。」と徳女は言つた。さうして思ひ出したやうに、

「先刻の草履は下に持つて來て置きました。」と言つた。

暫く雜談をして後徳女は歸つた。

下に降りて行つた一人の聲は突然表から聞こえた。

「一寸來て御覧なさい。」

私達は呼ばる〻儘に階下へおりて表に出て見た。その一人が指さす空を見ると月が出て居た。その月の出てゐる邊の空は全く青空で雲は少しもなかつた。さうしてハラ〳〵と時雨が降つてゐた。

先刻徳女が説明した小野山は徑を隔てた前面に横たはつてゐた。其

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山の頂には雲が懸つてをつた。寂光院があると云ふ谷間の樹はもう寂靜まつてゐるやうに見えた。振り返つて小野山の頂を見るとそこには又うち晴れた空があつた。さうして星の光りがきら〱と瞬いてゐた。

「あゝ彼處も晴れてゐる。」と一人は云つた。白い雲はその晴れた空の一部分を低く往き來してをつた。

うち仰ぐ顔には時雨が心もちよく當つた。門前の櫻の枯木が黒く大空に聳え立つてゐた。その梢のあたりにも飛んでゐるかと思はるゝ雲があつた。

「月がもう隠れて見えぬ。」と一人が云つた。なる程最前見えてをつた明るい月はもう雲の中にあつた。と思ふまに又雲が切れて明らかな影を認めることが出來た。

「面白い時雨月夜だ。」と一人は叫ぶやうに云つた。

店の縁には村人らしい二三人が腰をかけてゐた。お上さんも娘も庭に下りたまゝで立ち働いて居た。一人の頭を布でくるんだ老僧らしいのが又よぼ〱とその店先に入つて來た。村人らしい者が立つて席を譲つた。

「おつさん、時雨れますなあ。」と村人の一人は老僧に云つた。老僧は何か口のうちで返事をしたやうであつたがそれはきゝ取れなかつた。

四人は時雨を賞でゝ、表に突立つてゐた。

「寒むおすやらう。ちと此所へ寄つておあたりやしたらどうどすえ。」とお上さんは表をのぞいて云つた。四人はも一度時雨の空を仰いでから土間の中へ入つて行つた。

その土間には爐が切つてあつた。その爐の一隅には彼の老僧が陣取つてゐてその側には村の人二三人が手をかざしてゐた。吾ら四人はその傍らの椅子に腰をかけた。

話はいつか大原女のことになつてゐた。

「この頃は車力が通ふし、近頃は又自轉車が通ふやうになつたものやさかい。前のやうに出まへん。」とその村の男の一人が云つた。

「さうすると大原女といふものもだん〱減つて來るわけですね。」

「まあさうどすな。」

「惜しいもんだ。京都の名物になつてゐるものがだん〱亡びて行くわけですね。」

「え、さうどす。けれども十貫目からのものを頭に乘せて京へいて來ても、知れたものやさかいなあ。もう自然と減りますやろ。」

「このおばさんなども以前は通つたもんでせうな。」

「ハアハア。以前はよう通ははりました。なあおばはん。」

呼ばれた上さんは此方を見て笑つた。その鐵漿をつけてゐる齒が黒

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く電燈の光に映つて見えた。

「さうやなあ。よう通ひましたなあ。十三四の時分から、長柴を頭にチンと載せて、お母あに連れられていたもんどすえ。その時分の路はこの頃のやうに廣うはなつて居ず、ちよつと踏みはづさうものなら、どしんと崖から落ちさうなところがたんとあつたわいな。それに此頃のやうに平らつたい道ではなうて、ところ／＼坂になつてゐて、歩るくだけでもずいぶん難儀やつた。」

「へえ、十三四から黒木を載せて行つたんですか。」

「ハア／＼。始めは首筋が痛うて／＼ほろ／＼泣いてゐると、お母あがもうぢきやよつて辛棒せえ、といふて力を着けてくれても、もうどうもしようがなうてめそ／＼泣いて……」と兩手を眼のところにやつて泣く素振りをして見せて、

「かうやつて立ち止まつて泣いてると、中で力の強い婦がわしの柴を頭からとつて、脇に抱へてずん／＼と行きます。それがもう一月もしたら馴れてしまうて苦にならんやうになりました。しまひにはかうつんと頭の上に載せて……」と首を眞直ぐにして正面を切つて見せたときにはすつかり大原女の格好になつて見えた。

「さうして兩手でその荷を支へるやうにして歩きますのんや。それでも疲うて叫んやうにたるときは、頭の高さにある崖の上に其荷を下ろして休みます。その崖はちやんところ／＼にきまつてあります。しまひにはお母あなんか後の方にほつたらかしておいて、づん／＼と一町も前の方を血氣にまかせて歩いて行きますのん。お母あは、お前は一人で大きいなつたんかとぼやきながら後からついて來ますのや。」と愉快に笑ひながら話すのであつた。血氣盛りの娘の頃を思ひ出してその顔は晴々しかつた。おとなしい娘は母の後に立つて仕事の手を止めて熱心に話す母の素振りを見詰めてゐた。

尚しばらく雜談が續いてゐるうちに彼の老僧はいつの間にか立去つて居なかつた。さうして爐邊の夜は更けて行つた。再び表に出て見るともう空には一點の雲も止めずに晴れ渡つてゐた。月は山の端に傾いてゐた。

翌朝朝飯の膳に坐はつた時分に汁の鍋を提げたお上さんは二階にあらはれて私たちに菜つぱの汁をよそつて與れた。菜つぱの汁は甘味しかつた。私たちはそれを啜りながらお上さんと話を續けるのであつた。その話は膳の上に出てゐる柴漬についてゞあつた。

「この柴漬といふのは蕪ですか菜つぱですか。」

「これは茄子を輪切りにしてそれに紫蘇を交ぜて漬けるのどす。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「なぜ柴漬といふのです。」

「それは寂光院にお出でになつた建禮門院さまがさういふ名まへをお附けになつたんやといふことどすけれど、此の邊に出來る紫蘇は大きうて、柴のやうに見えるさかいに、さういふたもんやろと思ひます。」

「大原にばかり出來るものですか。」

「この頃は京でもつくりますが紫蘇の大きいのはこの大原でなければ出來ません。そこで柴漬といふのは大原のもンときまつてゐますのや。うちでも四斗樽五十本ばかり漬けますのが皆出てしまひます。漬ける時分には表に四斗樽を並べてそれに一々漬けます。そのときのやうすは盛んやもんやよつてに、今年も季節にでもとつてをいたら如何えやらうといひました。」

そんな話をしてをるうちに朝飯は濟んだ。やがて一行は寂光院を訪ねて見やうといふことになつた。

表に出ると今日は昨日よりも寒かつた、日が當つてゐたが時々梢を揺がすやうな風が吹いた。其度に其梢は鳴つた。

「風も東京とは違ふな。風が吹いても音樂的だ。」と一人はその梢を見上げて云つた。風の梢を揺さぶるのも瞬く間であつた。直ぐその風は吹き靜まつてもとの如く靜かになつた。一枚二枚の散紅葉は悠々と梢を離れてその邊に遊んでゐた。

四人は田圃路に下りた。それは近路をして寂光院の方に横切らうといふのであつた。四人は狹く小高い畦路に沿ふて歩いた。そこを出ると日の當つてゐる刈田の中の路を通つてゐた。その時突然一人は言つた。

「あゝ時雨れてゐる。」

他の三人はまだ氣がつかなかつた。うち仰いだ空には洽い日の輝きがあつた。

暫くしてから他の一人は又

「あゝ本當に時雨れてゐる。」と云つた。そのとき私の前に立つてゐる男の外套の袖の邊に二タ筋三筋の光つてゐるものを認めた。

日が照りながら時雨れてゐる。この明るい光景の時雨こそ私は東京にゐる頃から逢ひたいと心に念じてゐたところのものであつた。空には雲があるにはあつた。白い雲がところどころにあつた。時々太陽はそれ等の雲に隱れもしたがしかし直ぐに現はれた。明るい光は空中に滿ちてゐた。時雨はその太陽の光の中に輝きながら落ちて來た。そしてうち仰いでゐる私たちの顔に快く當るのであつた。僕の百姓家の庭では百姓の上さん——これも大原女の一人であらう——が手拭で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頬冠りをしてたつつけを穿いて藁仕事をしてゐた。その庭にはゴム靴を穿いた女の子がポカッと立つて私たちを見てゐた。

時雨はいつの間にか止んでゐた。四人は又とぼ／＼と田圃路を歩いたり或は人家の間を抜けて行つた。

百姓家の庭にはたいがい菊の花があつた。それは稍霜枯れて哀れに花の色をとゞめてゐた。それはたいがい紅い菊であつた。籬のそばに束ねられたまゝ立つてゐるのもあつた。又石の上に枝垂れかゝつてゐるのもあつた。菊の花のほかには南天が多かつた。或る百姓家の庭には非常に澤山の南天があつた。その紅い實で百姓家全體が赤く染つてゐる位に見えた。家鴨がよち／＼坂を下りて來た。私たち四人が行くのを見て又よち／＼と坂を登つて引き返して行つた。その坂の上の道の傍らには山水の迸り落ちるのが見えた。

『寂光院道』といふ石標は稍登るところに見えた。その字體は古い時代を物語つてゐた。

又時雨が降つて來た。こんどは前よりも稍激く落ちて來た。四人は快よくその時雨に濡れながら歩くのであつた。

或る百姓家の軒下では女が洗濯をしてゐた。たつつけを穿いて、背中に赤ン坊を蒲團でおぶつてゐるその女は、赤い手を肱の邊までまくり出して熱心に着物を洗つてゐた。既に一枚洗つてある着物はその時雨の空の下に物干竿に干されてあつた。時雨の雨の脚はその干物の邊にも見ることが出來た。太陽はかげつたり照つたりしてその干物を照らしてゐた。女は洗濯物の手を休めずに洗つてゐた。

一方の百姓家の庭には女が鋸を持つて材木を挽いてゐた。たつつけを穿いてゐる片方の足をその材木の上に高くのせて兩手を鋸の上に置いて力を込めて挽いてゐた。

時雨の雲は近い山々を隱したり現はしたりしてゐた。しかし太陽は依然として大空に輝いてゐた。

四人は時雨の降る下に佇みながら、今や寂光院の石段を通してその山門を見上げてゐた。さうして一歩をその石段の上にかけた。石の間に挾まつてゐる落葉――主として散紅葉――は時雨に濡れてゐた。その落葉の外に塵や芥は認められなかつた。四人はこの清淨な石段を上るにつけて又時雨の空を仰いだ。

山門を入るとそこに『汀の櫻』『岸の山吹』などの立札が池の邊りに立つてゐた。その櫻といふのは非常な古木の、殆んど朽ち果てゝ倒れるやうになつてゐるのが、僅かに柱に支へられてゐた。『岸の山吹』とあるあたりにも枯れ朽ちた山吹らしいものが見えた。紅葉はいちめんに散り敷いて僅かに梢に紅いものを止めてゐるのもあつた。また一二本の遲紅葉の松の木の間にあるのも認められた。暫くその境内に佇ん

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ後案内を乞ふた。

一人の尼は姿を現はした。時雨をよけて廂の下に佇んでゐる者もあつた。尼は一行の四人を見て、

「拝観ですか。」と云つた。

「さうでございます。拝観したいものです。」と一人は答へた。

尼は枝折門の上にかかつてゐる圓い竹で編むだやうなものを外して

「此方へ」と導いた。四人は靴や下駄を脱き捨てゝ草履に履きかへた。そして瓦廊下の上を通つて本堂の方へ行つた。

尼が先に立つて本堂に上つた。四人はその後に從つた。尼は本尊の前に跪まづいて、

「この御本尊の藥師如來は聖徳太子の御作」と説明をした。本尊は慈眼を垂れてその前につくばうてゐる四人を見下ろして居られた。尼は立つて本尊のうしろに行つた。さうして一箇の蠟燭を灯して或る御厨の内を照した。其處にはお顔を白絹で包ませ給ふた建禮門院の御姿が照し出された。壇の浦の荒波に一度沈ませ給ふたのが源氏の兵に救はれてこの山里の寺に味氣ない月日を送らせ給ふた御姿と哀れに伏し拝むだ。それはお能の舞臺で見る大原御幸のシテの面影と變りたい御姿に拝まれた。

尼は轉じて阿波の内侍の彫子の像の前に立つた。これは建禮門院が戯れに自ら作らせられた彫子の像であるとのことであつた。その紙は高倉の院の御宸翰で張られ給ふたとのことである。その顔は普通の像で見る顔とは違つてあまり器量のよくない赤ら顔の像であつた。かういふ女は世間にもよく見かけるやうな顔の一つであつた。殊に上半身が大きく骨太に出來て居るやうすが何所かで見たことのある顔のやうであつた。或時は建禮門院が

「こゝの頬骨が少しまだ似て居ないやうだ。」

などゝ更に二三枚の紙を張り改められもしたらうといふやうな事が想像されて、哀れたうちにもゆとりのある其時の輕い御心もちが思ひやられて微笑まれるのであつた。この阿波の内侍の像といふものはさういふ意味で建禮門院と吾等の心を結び付ける極めて親しみのあるものであつた。

尼は先に立つて本堂を出て私たちを庫裡に案内した。その庫裡には安徳天皇の御座船の船底の板、並びに後白河法皇の大原御幸の時の庭履きの御草履などゝ云ふ寶物もあつた。吾等は欄干の手すりに凭つて暫らく前面の景色を眺めた。

時雨はやはり降つてゐた。大原御幸に「緑樹の山」と歌はれたところの前面の翠黛山には日が當りながら時雨の雨が降つてゐた。

尼は茶を汲むで來て吾等にすゝめた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「このお寺には老尼がゐられた筈ですが。」と私が尋ねた。

「ハイその老尼は十年ばかり前に亡くなりました。貴下はその老尼を御存じですか。」

「いえ、別に存じてをるといふ譯ではありませんが三十年ばかり前に來た時分にお見受したことがあるのです。其時分六十あまりの老尼であつたやうに御見受しました。」

「ハイ。丁度そんなもので御座いませう。この寺に四十年も住職をしてをられました。」

「今は貴女が住職でゐらつしやいますか。」

「左様で御座います。」

「以前はこの庫裡は建つてゐたかつたやうに思ひますが」

「左様で御座います。これは十年ばかり前に建つたので御座います。近頃は高貴の方などがお見えになりますのでこの普請をいたしました。以前御座りました建物は豐臣秀頼公が本堂の御普請をなさる時分に普請小屋として建てられたものであつたのですが大阪の陣がはじまつたので途中で御普請を止められてその儘になつてゐたのを取り繕らうて庫裡にしたものだと聞いてをります。が御承知の通りボロ〳〵になりましたのでこの庫裡を新築した譯でございます。」

私はその時分の老尼が古びた建物の一隅に哀れに淋しく坐はつてゐたやうすが物なつかしく回想された。其他一たいに境内が整頓されてゐるやうに思はれた。

翠黛山の時雨は夕日に照らされながら美しく降つてゐた。

「さつき池のほとりのお庭を拜見してゐる時分に阿波の内侍や大納言の局などの石塔の梵が石に彫つてあるのを見ましたが何處にあるのですか。」

「それはあそこの小さい裏門を出まして、だら〳〵と坂を下りまして、谷に下つてから向うの急な坂を少し上つたところにあるのでございます。」

「さうでございますか。一つ行つて見ませう。」

其處で四人は立上つた。外套を着、帽子を被り靴や下駄を穿いた。尼も庭に下り立つた。

時雨の降つてをる表に四人は出た。尼も時雨に濡れながら先に立つた。裏門を出てしばらく行くと『建禮門院御庵室之跡』といふ石の柱が建つてゐた。その廻りは低く柵でとり圍まれてゐた。尼はその前に立つて、

「これが建禮門院の御庵室の跡でございます。こゝを秀頼公が御再建にならうとしたのに大阪陣が起つたゝめに御止めになつたのださうでございます。この前に生えてゐるのは大原菊と申しまして嫁菜の花の

やうな花が咲くのでございます。」と云つた。その大原鄕といふ名もなつかしい名であつた。花は今無かつたが葉もやさしい葉であつた。

尼はそれからまた先に立つて行かうとした。私たちは、

「もう此處までゞ宜う御座います。」と辭退した。さうすると尼は行手を指して

「その坂を降りて直ぐ向ふの坂をのぼると四つお墓が並んでをります。その一番高いのが阿波の內侍、それから次に大きいのが大納言の局、あとの二つは何誰のですかお名前はわかつて居りません。」と云つた。

私たちは尼にわかれて敎へられる通りの道をとつた。尼は尙其處に佇んで私たちの行く手を見て居つたが漸く踵を返してもとの路を戾つた。兩袖をかき合せて時雨の中を歸つて行く姿がしよんぼりと見えた。

私たちは敎へられた通りに急な坂を上つた。十間ばかり登ると松の木の下に四つの苔蒸した小さい墓が並んでゐた。一番高いと云はれる阿波の內侍の墓ですらもが非常に小さいものであつた。懷しい四つの墓を四人は飽かず眺めた。

四人は坂を下りた。それから最前の途をしばらく後に戾つた。「大原西陵」とある建禮門院の御墓を高い段々の上に遙拜した。途中より三千院に行くべく前とは違ふ路をとつた。

道ばたにある朧の清水といふのを見た。これは大原御幸にも出てゐる名所の一つである。石がたくさん積み重ねてある底に一掬の清水が湧いてゐた。これも三十年前に見た時分にはこんな清水ではなかつたやうに覺えてゐる。路ばたにある朧清水の面影が髣髴として殘つてゐた。

時雨は小止ながら尙降りつゞけてゐた。村人も皆濡れながら步いてゐた。一臺の荷車が坂のところに牽きわづらうてゐた。一人はその車の後を押してひき上げてやつて居た。

四人は時雨の道をトボ〱と步いた。さうして一つの學校の構內を横切つた。男の子は時雨に濡れた庭でゴム毬を打つてベースボールの眞似をして居た。女の子は敎室の中で手毬をついてゐた。何れも引きつめた髮に結つてゐて筒つぽの着物を着てゐた。都の子供のやうに洋服を着たり、おかつぱさんでゐるものはなかつた。何れも大原女の卵かと思はれたが又昨夜の話で大原女の上にも一大變革が來てゐることを思はしめた。

昨晩泊つたあの宿の温柔しい娘さんなどは大原女の服裝はしてゐなかつた。

「温柔しい宜い娘さんですね。」と一行の一人が褒めて云つた時に宿の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お上さんはから答へた。

「お膳を持つて行けと云ふても愧かしがつてよう持つて行きません。ハハハツハ。」

「あの娘さん一人切りですか。」

「姉が二人ありましたけれど、二人とも京へ嫁入りしてしまひました。大原女のやうな事をいやがつて。」と其時お上さんは言つた。

昨夜そんな話をしたことが思ひ出された。吾等他國の者が懐しく思つてゐる大原女といふものもその土地の人の身になつて見ると樂な仕事ではなかつた。さうして此頃になるとひき合はない仕事でもあつた。自分は大原女の格好をして一日立ち働いてゐてもその娘には大原女の扮裝をさせやうとは思はなかつた。それはたゞの娘のやうに色のある着物を着せてゐた。さうして顔には白い白粉のあとさへ見られた。今この學校の教室でがやがやと騷いでゐる娘たちもやがては宿の二人の姉娘のやうに都の空を憧憬て出て行くかも知れない。またはその末の娘のやうに色のある着物を着て、母の大原女姿を卑しみ見るやうになるのかも知れない。

一人は道ばたの店に入つて蜜柑を買つた。四人はその蜜柑を食べながら時雨の道を歩いた。

晝は一筋の谷川沿ひの坂にかゝつた。其坂の上にも百姓家があつた。庭には相變らず菊の花が霜枯れてゐた。その一軒の百姓家の軒には皮を剝いだ澤山の柿が並べ吊るしてあつた。一人の大原女はその家の前の坂をだらだらと此方へ下りて來た。その頭の上には重さうな一つの荷物を載せてゐた。一軒の家の軒下には四五人の女が集つて籾を摺つてゐた。皆大原女の服裝をしてゐた。そして髮に紅い布をかけてゐる年頃の娘ばかりであつた。かゝる女も稀にはあることが肯かれた。

私たちはその谷川沿ひに坂を登つて行つた。やがて坂を上りつめて見ると三千院のほとりに出た。今迄沿ふて來た谷川は三千院の片方を流れてゐる呂川の下流であつたことがわかつた。一人の男はそこの石橋のほとりにある散紅葉を大きな籠の中につめて居た。散紅葉は熊手で掻けば掻くほど集まつて來た。石の間に熊手を入れると稍濡れた散紅葉が眼さむるばかりに澤山に現はれて來た。男はその紅葉を掻いて籠の中につめてゐた。

德女の茶店はすぐそこにあつた。私たちは紅葉を掻き集める男の動作が面白いので暫くそれを見つめてゐるうちに德女はもうそこに現はれて居つた。德女に挨拶をして私たちは又寶泉院の方へ歩いて行つた。

お寺に這入つて見ると、宿の上さんはもうとつくに火を運んでおいて與れたと見えて火鉢の火は燼になりかけてゐた。吾等四人はその火

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鉢に炭をつぎ茶を入れた。

私と他の一人が室に殘つて居る間に他の二人は表に出て居た。隣りの間の咳が折々きこえた。

やがて他の二人の聲に交る一人の別の人の聲がきこえて皆室内に戻つて來た。それは昨日電話をかけたところの人であつた。病人といふのは昨日の三時頃に息を引き取つたので、今日は一寸ひまが出來たから來たとの事であつた。

「今日京都は時雨れてゐなかつたですか。」

「エ、時雨れてをりません。八瀬の邊に來るとこちらの山々が曇つてをつたので、大原邊は時雨れてゐるかなと思つて來たのですが果して時雨れて居りました。」と云つた。

やがて話は寂光院の尼さんのことに移つた。その男は云つた。

「あの寂光院の尼さんに一人の養女があるのです。その養女は大阪に出て、尼さんでありながら女學校に通つてゐるのです。どういふものだかあの尼さんとは氣が合はないらしく建仁寺に來て修業をしてゐるとかいふことです。尼さんのやうな境遇になるといふと吾等の想像のつかないえげつないことがあると見えるのです。これは例の慧成尼の話です。慧成尼は建仁寺でよくその娘さんの尼さんを知つてゐてその内情をきいたさうです。」といつた。

その慧成尼といふのはもと〇〇家の侍女であつたのであるがその主人が死んだ時分に建仁寺で尼さんになつてその主人の菩提を弔つてゐる人であつた。年も若いし非常に美しい尼さんであるといふことをきいた。私はまだ一度も逢つたことはないが、その男はしば〳〵逢つてゐるのであつた。一時建仁寺へ放火した尼があるといふことで新聞の紙面を賑はしたことがあつた。その尼さんも慧成尼の仲間の一人であつた。慧成尼は行が堅固でしかも心だてのやさしい尼さんである所から大變にうけが宜い。放火したのは色情の關係であるやうな噂もあつたが、一つにはまたこの慧成尼に對する嫉妬心からであつたらうといふ噂もきいた。

五人の間にはそれ等尼さんの生活などがしば〳〵話題になつた。

外面には日が當りながら時雨の降つてゐる景色が相變らず美しく眺められた。

お上さんが運んでくれた遲い晝飯もくつて五人の間には尙賑く話しがはづんだ。無住寺の寺の一室で時雨の降つてをる日に靜かに語るといふ事も懷しいことであつた。

時雨が晴れるとまた表に出て見た。散紅葉の下を歩るきながら三千院の前をうろついた。德女の茶店に立ち寄るものもあつた

村長さんは懷手をしたまゝで一人とぼ〳〵と歩いて居た。私た

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ちは今夜京都に歸ることを話して置いたので村長さんは後片附けに來て呉れたのであつた。私たちは厚く禮を述べてその家を引拂ふことにした。

歸りがけに德女の茶屋の前を通ると德女はまた現はれてゐた。私は昨日借用して歸つた下駄がまだ宿にぬぎ捨てたまゝになつてゐることを話すと德女はかう答へた。

「あれはあの茶店のお上さんがもう返しに來て呉れました。慥かに受取りました。」

私たちは德女に別れの挨拶を交はして其處を過ぎた。坂を下つてゐる時分にゴーンと鐘の音が響いた。その鐘の音の方向は寂光院のある向ひの谷からであつた。

「寂光院の入相だな。」と私は云つた。暫くして又ゴーンと鳴つた。寂光院の石段をのぼりつめた左の方に鐘樓があつた。そこに黑い大きな鐘がぶら下つてゐた。

「あの尼があの鐘を撞いてゐるのだな。」と思はれた。暮靄はいま寂光院のある谷の人家を包むでゐた。

宿の前には一臺の自働車が止まつてゐた。昨夜の土間の爐を取り圍んで乘客がその自働車の出發の時間を待つてゐた。その乘客には二人の僧があつた。一人の尼があつた。それに料理屋のお上さんでもあらうか肥つた一人の女があつた。そのほかにインバネスに中折帽を被つた二人の人がをつた。又一人の長髪で口髯を顎にも生やした壯士風の男が居つた。けれどもその男の話す口振りは極めて物やさしくて其の風采にはそぐはなかつた。主として彼の肥つた女と口をきいてをつた。

私は京都の宿の主婦から頼まれて居つた柴漬の樽を買つた。發車の時間が來たので皆どや〳〵と乘り込んだ。私たちは鞄やその柴漬の樽を持つて乘り込むだ。人はぎつしりと自働車の中につまつた。

自働車の窓からは時々月が見えた。八瀬の終點に下りて自働車から見た時分には一めんに晴れ渡つた大空が頭の上にかぶさりかかつてゐた。その大空の一方には比叡の裏山が黑く突き出てゐた。

荷物を忘れて途中から引返して行つた同行者の一人があつた。その一人は次の自働車で着く筈であつた。四人はその一人を待つために待合所に入つた。その待合所の眞ん中には大きな火鉢が一つあつて其中には火がなかつた。只新聞紙が灰の上にねぢつたやうにして打捨つてあつた。四人は火の無い火鉢を取り圍んで腰を掛けた。寒さがひしひしと攻め寄せて來るやうに覺えた。このお上さんは氣をきかして柴を持つて來て呉れた。その柴を足でヘシ折つては爐の中に置いた。さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うしてマッチで火をつけて新聞紙にうつした。新聞紙の火は漸くに柴に燃えうつつた。一塊の火が私たちの眼の前に燃え上がつて温かになつた。一人の人聲が表の方できこえた。

「自動車はもう八瀬の方に出ませんか。」

「え、もう五時がおしまひです。」

「困つたな。八瀬まで行きたいのですが。特別に出しては貰へまへんか。」

「出さんこともありませんが、高うなりますよつて八瀬までなら歩いておいでなさい。あまり遠うもありませんやないか。」

「なんぼなら出します。」

「五圓どす。」

その男の聲は忽ち消えた。

暫くしてから又一人の人の聲がきこえた。

「もう自動車は出ませんか。」

「もう出ません。」とうちから答へた。

「困つたなあ。」とその男の聲は消え去つた。一度燃やした柴は灰になつた。二度目に燃やした柴も灰になつた。土間に置かれた柴はみんな灰になつてしまつて、最後にくべた柴は今盛んに燃えつゝあつた。

「八瀬や大原に行く人はいつまでもあるものだなあ。」と一人はいつ

た。

「かうやつてこゝに待つてゐると驛路の趣があるな。」と他の一人が言つた。其處へ自動車の音がきこえて其の灯が障子へさした。やがて其の中から忘れ物を抱いた一人が現はれた。

「時雨はもう來ないかな。」と其の男は大空を仰いだ。大空には星が明るくかかつてゐる許りであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

維新回天史の一面

久邇宮朝彦親王を中心としての考察

蘇峰　德富猪一郎

（緒論第一）本論の目的

維新史は、今尚一半は謎として殘つてゐる。各方面から觀察し、種々の著作が出で來つてゐるが、未だ定論と云ふ程のものは、見出されない。古人も『棺を蓋ふて百年論初めて定る』と云つてゐるが、維新以來、漸く半世紀を過ぎた今日に於て、定論を見出さんとするは、餘りに性急であるかも知れない。されば、予が今回敍述する處も、敢へて自ら天下に向つて、所謂定論を、供給するものではない。然し少くとも、その資料を提供せんとする覺悟である。

×　×　×

從來、維新の歴史は、官軍、賊軍の紋切型にて書かれたものだ。即ち、薩長は官軍の主なるもの、會津、桑名は賊軍の主たるもの、所謂、官賊兩立せずと云ふ筋を立て、而して、大概ね薩長の立場から、維新史は觀察せられ、編纂せられたものだ。云はゞ從來の維新史は、薩長本位の維新史と云ふも過言ではあるまい。

如何なる場合でも、戰勝者は自ら、都合のよき位置を占むるものだ。薩長が、維新の勝利者である以上は、薩長が、自ら都合のよき位置を

占むるのは、當然ではあるまいが、必然ではあらう。

×

但だ物は過ぐれば必ず反るものだ。餘りに、勤王を我物顔に專有したる結果は、又、非薩長、反薩長の反動的傾向を、生じ來るは、寔に止むを得ない次第だ。

即ち近頃維新史を説く者、往々、薩長が、名を勤王に藉りて、其の私利私欲をたくましくせんとしたる陰謀を摘發し、維新史そのものが、恰も薩長彈劾史と云ふ如き、傾向を生じ來たらんとするのも、敢て不思議のことではあるまい。

×

しかも、過ぎたるは猶及ばざるが如しで、餘りに薩長の野心的を爬羅摘抉せんとすれば、かへつて維新改革本來の眞相を、沒却するの虞れが無いこともない。予は維新回天の偉業が、薩長本位者の考察よりも、若くは、反薩長論者の考察よりも、更により多く複雑してゐるものと思ふ。

即ち、維新回天の偉業を解釋せんとするには、精神的の原因もあれば、物質的の原因もある。内から生じたる力もあれば、外から加へられたる刺戟もある。これを充分に研究するには、大處、高處より觀察せなければならない。

×

客觀から云へば、薩長とか、會桑とか云ふばかりではない。又東北とか、九州とか云ふばかりではない。京都とか、江戸とか云ふばかりではない。世界そのものを經緯として、考察せねばならぬ。

×

時間から云へば、決して嘉永安政が、維新史の始でもなければ、何ぞ況はんや、文久、元治をやだ。又何ぞ況んや、慶應、明治をやだ。少くとも、徳川幕府の創立以前、織田、豐臣に遡らなければならない。否それでは充分でない。更に建武中興の時代に、遡らねばなるまい。若し、充分の注文をするならば、鎌倉時代、後鳥羽上皇承久の役を起點として、考察せねばなるまい。

×

歴史は川の如きものだ。只我が眼前に展開せられたる、流域のみを見て、此の川は斯くの如しなどと、口廣く語るは、寧ろ識者の笑を、招かねばなるまい。

支那の揚子江の如きは、七八月の頃、其の下流には一滴の雨さへ降らぬに、幾尺と云ふよりも、寧ろ丈餘と云ふ程の洪水が、出で來ることがある。これは、其の上流なる、西藏方面の雪が、溶け來つたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯の如く、歴史は継續するものだ。歴史に時代を區分するは、歴史家が勝手に、研究の都合を計つて定むるもので、歴史そのものは、限際は無い。世界に擴り、古今を貫くものである。

×

言はば眇たる五十戸乃至百戸の村の歴史さへも、その繋るところは世界であり、及ぶところは、人類生世以來である。況んや一國の一大變革の歴史に於ては、猶更のことと云はねばならぬ。

即ち、維新の歴史の如きも、あらゆる原因、あらゆる事情、あらゆる曲折を經て、出で來りたるもので、先づ第一に、如上の意義を考へ置かねば、維新の歴史を研究するわけには參らない。

×

然し乍ら、約めて云へば、事を爲すは人であり、人を作るは勢であり、而して、その勢を制するが、又人である。詮じ來れば、人と勢とが、互に作り、作られ、制し、制せられ、此處に歴史は出來るものである。

×

或人は專ら勢に重を置き、歴史は恰も、東京驛を發したる電車が、横濱驛に着したるが如きものと、考へてゐる者もある。又或人は、花火にて打上げたる風船玉が、風のまに〳〵何處ともなく、落下する如く、全く偶然から偶然に赴くものとする者もある。

或は又、人間が勝手次第に、歴史を製造し得るものと考へ、丸き玉子も、切り樣では四角となると云ふ如く、英雄豪傑は、己が思ふ通りに、世の中を切り盛りし、從つて、隨意に歴史を製造し得るものと考ふる學者もある。

×

然し、カーライルの如く、歴史の中樞を人物におくのも、バックルの如く、歴史は環境の力にて成立するものと云ふものも、いづれも、餘りに偏し過ぎて居る。

云はゞ、或時には、勢が人をより多く支配し、或時には、人が勢をより多く支配するが、人と勢とは、到底相離るべきものではない。人ありての勢であり、又勢ありての人である。

×

例へば西郷や、大久保や、木戸が、若し元祿時代に生れたなら、彼等は、全く田舍武士として、世を終つたかも知れない。三條、岩倉なども、只一通りの、貴公卿ですんだかも知れない。

×

併し、維新の時代に、西郷、大久保、木戸等の人物が出たから、時世が人物を作ると云ふけれども、若し時世が作るとすれば、松茸山に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

傑が出來る如く、竹林に筍子が生ずる如く、何處にも彼處にも、多くの西郷、多くの大久保、多くの木戸等が出來ねばならぬか。今日でも、維新三傑など申す通り、僅に寥々たる數人に止るのをみれば、時世が人物を作ると云つても、作られる人々は、自ら定數があつて、誰も彼も悉く皆、人物となると云ふわけではあるまい。

×　　×

時世が人物を作るから、人物などゝ云ふ者には、左程、感謝する必要はないと思ふ人あらば、それは大いなる間違であらう。成程、時世が信長を作り、秀吉を作つたと云ふことは、云はれないことはない。然し、安土時代、桃山時代は誰が作つたのであるか？　我々はその時代に、大いなる信長や、秀吉の足跡を認めずして、止むあたはぬのではないか。

×　　×

維新史も又其の通りである。

予は維新史に就いて、從來世人が認識したる、水戸に於ける烈公若しくは藤田東湖、長州に於ける村田清風、吉田松陰、久阪、高杉、木戸、廣澤、伊藤、山縣、若くは薩摩に於て、島津齊彬、久光、西郷、大久保、小松、或は當時の大名として、松平春嶽、山内容堂、若くは識者として、佐久間象山、横井小楠、橋本左内、幕府の人物として、岩瀬忠震、勝海舟、小栗上野介等、それぞれ人々の確認してゐる處に就いて、別にそれを否定せんとするものでない。唯だ予は或は此等の人々に就いて、世間の認識するより以上に、認識してゐるかも知れない。

×　　×

然し乍ら、維新史の研究者が、意外にも其の中心の人體を見逃してゐる。例へば、或る御堂に行つて、仁王とか、十二神將とか、種々の脇立ての像には禮拜をしつゝ、かへつて其の正面の本尊には、脫帽するのを忘れてゐる趣きがある。

×　　×

今少し露骨に云へば、維新歷史の研究者が、その御本尊としての孝明天皇を、殆ど忘れてゐるかの如き狀あるを、頗る遺憾とする。

予は維新史の中樞には、正しく孝明天皇が立たせ給ふことを、確信して居る。それは單に、天皇といふ御位に在らせられてゐたからと云ふわけのみではない。畏れながら、天皇御自身が、天皇の位と共に、又た天皇としての大いなる個性の持主で在らせられたといふことを、確認せねばならぬ。而して當時、一切の運動が天皇から出でて、天皇に還るといふほどではなかつたとしても、少くともその傾向があつたことは、間違ひがない

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一大事實である。予はこの際、日本歴史に就いての、一つの顯著なる特例を語りてみたい。

× × ×

我國史の上に就いて、苟も大運動の場合、大變遷の場合、大事件の場合には、悉くとは云はぬが、概して、天皇若しくは皇族が、その中心に立たせられてゐる。

開國の歴史に於ける、神武天皇の東征は申すまでもなく、景行天皇の、帝國統一の業に於ける、日本武尊の、西征東伐に於ける、若くは、中大兄の皇子が、入鹿を誅し、蘇我氏の亂を平げ給うたる如く、若くは、失敗ではあつたが、承久の亂に、後鳥羽上皇が、自ら院宣を發して、北條追討の軍を徴し給うたるが如き、若しそれ建武の中興に至りては、世人は徒らに楠正成、名和長年、新田義貞等を說くも、その實、運動の中心點は、畏れながら、後醍醐天皇で、總支配役とでも申すべきものは、皇子護良親王であらせられた。

× ×

世間では、英國の法諺『帝王は統治をして、政治を爲さず』といふ言葉通り、天子樣は九重の裡に在し、唯、帝國に君臨し給ふのみにて、實際の政治には、何等御關係なきものと、信じたる者多きやうである。それは藤原氏專制時代、若しくは、鎌倉、室町、江戸三幕府時代に渉つて、斯くあるべく仕向けてゐたのだ。然し、前申す通り、苟も我が國史の上に於ける、大なる運動の出で來る場合は、天皇に歸着せざれば、天皇より發出したるものが、悉皆とは申さぬが、大抵の傾向だ。而して、維新の歴史の如きは、最もその著しき適例と申さなければならない。

× × ×

尚、孝明天皇が、維新の大改革に、如何なる關係を遊ばされたるかと、云ふことに就いては、別に語るところがあるであらうが、此處には唯た、維新の歴史は、孝明天皇を差し置いては、解くことも出來ず、了解することも出來ぬと云ふことを述べておく。

× ×

孝明天皇は、實に維新大改革運動の、中心點で在した。而して、久邇宮朝彥親王は、孝明天皇に於ける、唯一と云ふことが出來ぬならば、第一の補佐者で在した。

× ×

朝彥親王の政治的生涯は、孝明天皇の御宇を始終した。親王の政治的生涯は、孝明天皇の御踐祚後、やがてそろ／＼始りかけた。而して、天皇崩御の後は、一時意外にも、勅勘を蒙り給うて、廣島に蟄居を命ぜられ給うた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

幸に、明治天皇の聖明の儲に、久しからずして、その禍を免かれ、晩節は平和にて、其の天年を終り給うたが、然も親王の政治的生涯は、孝明天皇の崩御と共に終つた。

× ×

予は今少しく根本資料に據りて、親王の事蹟を中心として、維新史の一面を觀察して見度いと思ふ。

其れは必ずしも、親王の事蹟を物語らん爲ばかりではない。親王の立場からして、維新史を觀察して見度いと思ふのだ。

× ×

予は西郷南洲や、大久保甲東の立場からして、しばしば維新史を觀察した。而して、その觀察の結果は、世間に發表したことも、一再ではなかつた。

今度はその立場を代へて、朝彦親王の側から、觀察して見度いと思ふ。

朝彦親王の側と云へば、先づ公武一體論の側からである。即ち武力手段ではなく、平和手段もて、維新改革の業を、完成せんとする人々の立場からである。

× ×

されば、事の親王個人に關することは、極めて省略する。事蹟と云つても、政治に關係なき事蹟は、語る必要はない。然し、親王は、その主なる力を、孝明天皇の唯一たらざれば、第一の相談相手として、政治に貢獻せられた。政治を除却して、親王の事蹟と云ふものは、有るは有るが、寧ろ、甚だ多くない。

× × ×

いづれより觀ても、親王は公武合體派の大立者であつた。又親王を考ふる時には、畏れながら、孝明天皇を考へ、孝明天皇を考ふる時には、親王を考へざるを得ざる程、孝明天皇と、親密の關係を持つてゐた御方であつた

× × ×

微を闡はし、幽を顯かにするは、歷史家の任である。予は敢へてその人でないかも知れぬが、敢て自ら揣らず、これを試みて見度いものと思ふ。但だ歷史家は裁判官であつて、辯護士ではない。然し、裁判官の最も條理を盡したるものは、一本調子の辯護士よりも、かへつて原被兩者にとつては、仕合せである。

× × ×

富士の山は、何處から見ても富士の山であるが、駿河路から見るのと、甲州路から見るのとは、自ら山の趣が異つてゐる。予が維新史の觀察も、今回は主として、討幕論者側でなく、公武合體論者側から

見る積りである。

予が討幕運動者に同情を表したが爲に、公武合體論者に對して、反感を抱くと云ふ者あらば、それは間違である。又公武合體運動者に同情したるが爲に、討幕者に對して、反感を抱くとする者あらば、それも又間違である。

富士の山は、遠近高低、至る處から眺めて趣がある如く、維新の歴史も、いづれの角度から眺めても、それ〴〵眺むべき價値がある。

（緒論第二）皇室と幕府の關係

公武合體の大立者として、朝彦親王の事を語るに際しては、一通り、皇室と幕府との關係を、心得おく必要がある。

德川幕府は、必ずしも、鎌倉、室町時代に比して より多く朝廷を虐待したと云ふことはない。或點から云へば、朝廷の安全は、鎌倉開府以來、德川二百六十年の幕政が、最も完全に近く保障したと云つても、差支へあるまい。然乍ら、それは朝廷の安全を保障したと云ふに止まつて、朝廷の立場からは、二百六十年、未だ曾つて、一日たりとも、御滿足遊ばされた日はなかつた。

德川幕府の開祖家康は、殆ど總ての事に就いて、賴朝を手本とした。然し彼は、其の師よりも優れたる弟子であつた。家康は賴朝を學んで、賴朝の未だ至らざる處までにも達した。

家康の特色の主なる一は、徹底力であつた。而して彼は、徹底的に、朝廷と幕府の關係を、規定した。然も家康は決して、朝廷をないがしろにすることは、爲さなかつた。

彼も又、大いなる政治家だ。政治家は、如何なる場合でも、人情を察し、民心を收めて、而して後、己が欲する處を逞ましくするものだ。

我が民心が、皇室に歸向する事の、遠く、且つ久しく、厚く、且つ深きを知りたる家康は、決して其の一指だも、皇室に觸れる事を敢て爲なかつた。

然し彼は、皇室と國民との關係を知るが爲に、皇室が幕府政治に對して、常に一大脅威である事を、自覺し、それを豫防するに就いては、一重にも二重にも、十重にも、二十重にも、其の設備を爲した。

世に『公武法制應勅十八ヶ條』と云ふものがある。是は元和元年八月、家康が定めたるものとして、今日まで殘つてゐるが、果して然るや否や、それは保證の限りではない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然し作ら、その中には、既に彼の意見を、代表したるものと思はるる節がある。例へば其の第一條に、

淳和奬學兩院別當職。關東將軍エ被任候上ハ、三種之。攝家ヲ始、公家並諸侯ト雖モ。悉致支配候。國役一切可ㇾ爲承知。政道奏聞ニ及ハス候。四海鎭致シカタキ時ハ、其罪將軍ニ有ヘシ。

即ち一切の政治は、天子より將軍に、委任せられたれば、將軍の獨斷、專決にて是を執行する。されど、國家治安を保す能はざる場合には、其の責任は、元より將軍に歸すべしとの事である。

× ×

蓋ふに、幕府の根本制度は、全く此の委任政治に在り。委任政治であるが爲に、政權は、一切擧げて江戶幕府に在り。京都朝廷は、それには一切關係無きものと、定められたものだ。

されば、朝廷と幕府との、兩本位では無く、何處までも、幕府單本位であつた。委任政治と云へば、所謂、源賴朝が、平家の殘黨を追治すると云ふ事を、口實として、自ら總追捕使となりたる例を、踏襲して、更に此れを擴大ならしめたのである。

委任政治とは、頗に體のよき名義であるが、其の實は、朝廷を、政權の外に、驅逐したものである。朝廷は有れども無き如く、畏れながら、虛器を擁し給ふに過ぎなかつた。

× ×

家康は形式的には、朝廷に對して、十分とも云はないが、相當に——即ち、信長、秀吉、等々は、室町時代に比して、寧ろ過ぐるあるも、及ばざる無きの待遇を爲た。されど、畏れながら、捨扶持を朝廷に差出したるまでゝあつて、朝廷では其れが御滿足でなかつたことは、云ふまでもない。

家康は唯に、實際政治の上のみならず、慶長二十年七月、即ち元和元年七月、禁中御條目十七ヶ條なるものを、二條關白昭實と相計つて制定した。此れは今此處に一々掲ぐる必要はないが、要するに、天皇が、實際の政治から、いよ〱ますゝ、縁遠くならしめたるのみならず、公家の範圍に於てさへも、朝廷は此れを、十分に支配すること叶はず、何事も關東の命令、指圖、同意、承認を得なければ、ならぬことゝしたのである。

× ×

家康と後陽成天皇とは、其の關係が、圓滑を缺いた。而して、後水尾天皇と、御父、後陽成天皇との間も、又圓滑を缺いた。此の間に於て、周旋盡力したのが、即ち天海僧正であつた。

天海僧正は、朝廷と幕府の間の意志を疏通すべく、斡旋し、それによつて彼は又、幕府に於ける、一種特別の、有力なる地歩を占むるに

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

強つた。

×

後水尾天皇には、秀忠の女和子の入内を見るに到つた。去れながら、天皇と、二代將軍とは、姻戚の關係で在した。然し其の間は頗る圓滑を缺いた。殊に、朝廷から賜つた、京都五山の僧侶の紫衣を諸宗法度の規定に背いたとて、幕府が此れを褫奪し、又其れに抗議を提出したる澤庵玉室などは、それぐ流謫せしめられた。

僧侶が紫衣を着るなどとは、實際の政治に、何等の關係なき事である。然も、朝廷が此れを賜りたるものを、みすく褫奪つて、天下環視の中に於て、朝廷の威嚴を、冒瀆する等とは、隨分思ひ切つた仕方であつた。

當時江戸に在る細川忠興が、豐前に在る、其の子忠利に與へたる書中に、

『主上の御事は申すに及ばず、公家衆も、此外ものの切れたる躰と申候』とある。

ものゝ切れたると云ふは、貧乏と云ふ事である。又た、『主上御不足之一には、公家中官位御儘に不成との事』とある。即ち、陛下は、其の左右に奉仕する公家の官位さへも、思ふやうには、運ばせ給ふ事が出來なかつたものと覺へる。又た、

『大德寺、妙心寺の長老なり不相構きと、武家より仰せられ、或は衣を剝がれ、又御流しなされ候へば、口宣一度に、七八十枚も破れ申候、主上此之上之恥之有るべくや』とある。又た、『御局衆の腹に宮樣達、如何程も出來申し候を、押し、、、又は、、申候事、殊の外むごく、御無念に思召され候由候。又幾人出來申し候とも、武家の御孫―即ち中宮和子の生むところ―の外は、御位には即け申され間敷に、餘りあらげなき儀と、深く思召さる由候』

とある。

細川忠興は、外樣大名の中にて、最も德川家康に、恩顧を受けたる大名である。然も、彼が云ふ處、斯の如くであれば、如何に手荒く、幕府が、朝廷を取扱つたかは、此れにて、推察出來る。

×　　×

されば、後水尾天皇が、三十五歳の御壯齡にして、八歳の皇女に、御位を讓り給ふに至つたのも、決して、尋常一樣の事ではなかつた。此れは、一口に申せば、幕府の干涉、壓迫に對する、一種の抗議であつた。幕府と朝廷との關係は、爾後に於て、若干緩和せられないことも、なかつた。然し乍ら、最後まで、後水尾天皇は、決して釋然としては、御在さなかつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あし原よ茂らば茂れ己がまゝ
とても道ある世にあらばこそ

思ふことなきだにそむく世の中に
あはれ捨てゝも惜しからぬ身は

等の御製を拜讀すれば、幾百載の下、又た以つて、其の御胸中を察する事が出來る。

×　×

其の後のことは、別に語るまでもない。要するに、如何なる場合でも、朝廷を、全く政權以外におき、單に一の小大名にも及ばざる程の、畏れながら捨扶持を差上げ、然も其の使用の方法までも、幕府にて定め、京都には、所司代、町奉行の外、禁裡附武士をおき、宮城以外は勿論、宮城の中さへも武家の勢力をもて、張り廻し、鵜の目、鷹の目もて、朝廷の御動作を看視し、窮屈と云へば、此れ以上の窮屈はないほどに、仕向けてゐた。

×　×

然し、幕府の立場から見れば、彼等は朝廷に恨みがあるでも無く、朝廷を虐待せんとする心でもなく、云はゞ、幕府自衞の爲に、止むを得ず此處に至つたもので、幕府の內情を察すれば、又實に憫れむべきものと、云はねばならぬ。

幕府の此の窮屈なる制度に、最も反抗せられたのは、後櫻町天皇であつた。然も、天皇は二十二歲にて、崩御在した。又、天皇の天職について、最も自覺せされたのは、桃園天皇であつた。然るに、天皇も又、二十二歲にて崩御在した。

然るに、光格天皇に至つて、天皇御自身が不世出の英主で在したると同時に、又、恰も勤王の精神が、天下に勃興する時運に際し、自ら維新中興の起原を、此の時代に遡らねばならぬことゝならしめた。

光格天皇は、後陽成天皇から、孝明天皇に至る、歷代の天皇中に於て、唯一と申上げざるも、英明なる天皇の御一人で在した。天皇は、閑院宮典仁親王の御子にして、典仁親王は、東山天皇の御子直仁親王を、御父とし給へば、實に東山天皇の曾孫に當らせ給ふ。

光格天皇は明和八年八月御降誕、安永八年十一月御踐祚、文化十四年三月御讓位、天保十一年十一月崩御あらせられた。

×　×

光格天皇は、身長六尺五寸に在した（飯田忠彥著野史）と云へば、其の體貌の魁偉に在したことも想はるゝ。御製の一に、

はへば立て立てば歩めと急ぐなり
我身の積る老を忘れて

とあるが、如何にも能く、人情の機微を穿つてゐる。天皇の漢學の素

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

叡の博厚にて在したことは、御製の詩等を拜誦すれば、察するに足る。其の御使用の印章なども、『愼孔孟』或は論語の『一以貫之』とか、書經の『惟精惟一』とか『一人元良、萬邦以貞』などの文字を、御使用になつたことによつても明である。

予は東山文庫を拜觀し、其の歴代の御宸翰の數ある中に、光格天皇が、寛政十一年、御年二十九歳の時、後櫻町上皇に贈へ給へる、御宸翰を拜して、如何にも感慨に堪へぬものがあつた。

後櫻町上皇は、女帝に在し、光格天皇に御訓戒を賜らせられ、人君は仁を本とすべき旨を、諭し給へるに際して、光格天皇が之に御答へ遊ばされた御宸翰である。予は今これを此處に拜寫することゝする。

返す／＼まだ／＼暑付候へども、あまり／＼長文にも成存候まゝ、先々かくの如く候。何分／＼御すい覽之事願上まいらせ候。私いよ／＼氣丈／＼けふは當座にて候。用心まし／＼御安心候。

かしこ

日々きびしき殘暑之處、ますます御機げんよく／＼、まで／＼／＼めでたく／＼忝き／＼御事、猶また段々御用心／＼の御事、第一に願上まいらせ候。さては詠草伺置候まゝ、いつにても／＼／＼御機嫌しだい、御すきさまに宜しくねがひ入まいらせ候。誠に昨夕は法樂詠草早そく返し給り、畏入存まいらせ候。其ふし御對中拔て／＼／＼有がたき御心せつ之御事ども、節々／＼／＼心中有がたく／＼存まいらせ候。尤御內々之道、人君は仁を本といたし候事、古今和漢之書物にも數々有之事、仁は則孝忠、仁孝は百行の本元にて、誠に上へなき事、當に私も心に忘れぬ様、仁德の事を第一と存じまいらせ事に候。ことに仰ども殘り候へば猶更に存候事。とかく自身許にては、つい心もたるみ候事、か様に有之候へば、其度ことに心もすゝみ、誠／＼／＼有がたき／＼事。とかく人は身勝手に成安き物、ここは彼恕と申字の所にて、恕之字は俗に申事、我みつめつて人のいたさをしれと申字にて、則此恕が仁の字にも通じ、又誠と申事誠に益相成候事。何分仁と誠とに相極り候事、仰之通、身の欲なく、天下萬民をのみ慈悲仁恵に存じ候事、人君なる物の第一のおしへ、論語はじめ、あらゆる書物に、皆々此道理を書のべ候事、則仰と少しもちがひなき事、扨々忝く／＼／＼存まいらせ候。猶更心中に、右之事ども、しばしも忘れおこたらず、仁恵を重じ候はゞ、神明冥加にもかなひ、いよ／＼天下泰平と畏く入まいらせ候。右之御詞色々と申述候様にても、中々心中に存候ほどは、筆紙に不申盡事にて候。何分御推さつ之事願入存候。右申候とをり、とかく折折は仰せいただき候事、はげみに成り誠に／＼忝うれしく／＼／＼存まいらせ候。猶又此後之賜聞／＼入候

候。實〳〵昨夕之御書中、御心せつの御答意ども、心中にてつし候事にて候。猶々御機嫌よく御長久、度度有がたき仰も承り候事にて、めで度く存上まいらせ候。誠に中宮事いよ〳〵めで度様子扨々年來の宿願成就。大悦の事にて候。此に付候ても、何事も滿ればかくるのならひに候へば、只々大悦ばかりにては相すまず、可程に大めで度事有之候も、ひとへに神々の御加護と存候。猶又萬事をつゝしみ候事十分なれば、必かくこと有之と申事を心中に不忘、敬神、正直、仁惠を第一にいたし候へば、何事も安穏の道理に候へば、右之心之第一とのみ存り候事にて候。前文申通帝位之道、何分自身を後にし、天下萬民を先とし、仁惠、誠信の心朝夕晝夜に不忘却時は、神も佛も御加護を垂給事、誠に鏡に掛て影をみるがごとくに候。神も佛も大慈悲の御事は、色々のわざわひ有之候は、皆々此方の心中によこしま有之、此方より何事も出來候事に候。くれ〴〵も正直、仁惠、誠信、第一之事にて候。前文之通、御厚意御念比之御書付候。實に〳〵有がたく〳〵存り事候。なさ〳〵長々しき書様ながら、心中に存じ上候あらましを、心にうかみ候に隨ひ、亂筆ながら書付まいらせ候めで度かしく。

又申候。扨々日々雨をねがひ候事、今朝も雨の時、又内侍所にても、御心御祈り申事にて候。何分〳〵萬民の爲、偏に〳〵〳〵一雨の御惠をのみ祈り〳〵入り事候。かしく。必〳〵御返事に不及、昨夜の畏りの御返事にて候。

兼仁

御内々

言上

この御宸翰には、後櫻町上皇も御滿足遊ばされたと見え、御自身に御上包遊ばされ、御保存あらせられたのか、そのまゝ今日まで殘つてゐる。

×　　×

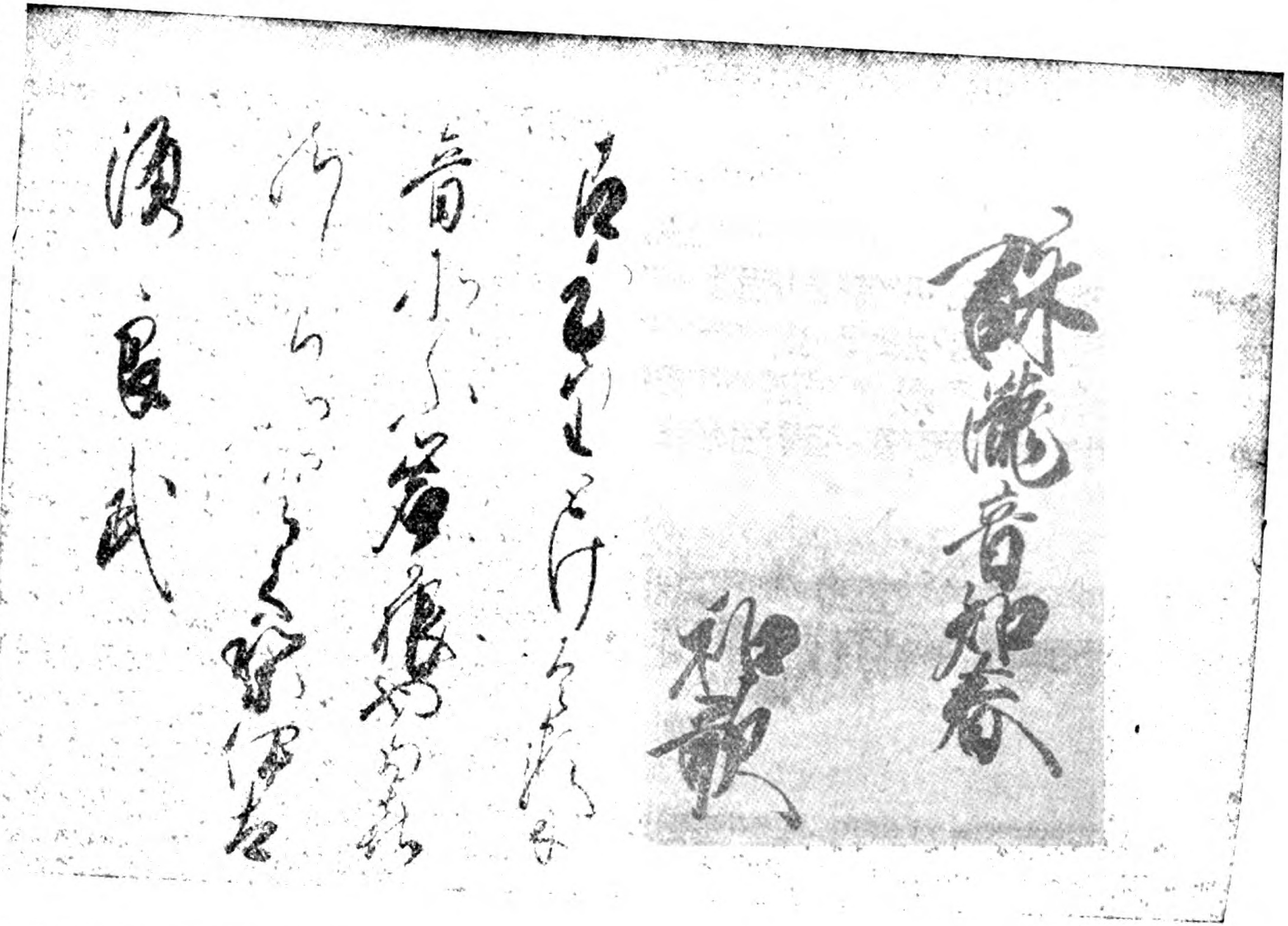
光格天皇の時代が、即ち露國が北方より來り迫りて、我が鎖國の夢を覺したる時代である。陛下は、林子平の「三國通覽」なども御覽あらせらせられた。又、蒲生君平の作りたる「山陵志」なども御覽あらせられた。高山彦九郎の如きは、草莽の一匹夫にして、陛下の御認知を忝くしたることは、

我を我と知し召すかやすべらぎの
玉の御聲のかゝる嬉しさ

の彼の歌を以て、之れを證するに足る。

而して陛下の時代に、國學、[illegible]たるものが出で來り、朝廷と

光格天皇御宸翰



詠二瀧音知一レ春　和歌

氷解け春に音そふ岩が根の瀧の白絲くり出すらん

幕府の間に一大闘争を惹起し、遂に朝廷の敗北に了し、覇権大政も返をのませられ給うたが、されど其の敗北や、敗北にあらずして、更にも何くにも、朝廷が其の問題の要旨、不要旨は第二におき、幕府に向つて、挑戦的態度をとらせ給うたことは、此れを以つて嚆矢とせねばなるまい。此の點に於て、此れは最も意味ある事件である。

×　×

當時、蒲生君平の著と稱する、『幕罪略』たるものがある。此れは第一、君平の著であるや否や、保證の限りではない。第二に、その中に舉げたる罪状たるものは、幾何事實を含有するか、又、其の事實が、果して幕府の罪であるか、其れ等は保證の限でない。兎に角光格天皇の御代に於て、斯の如く堂々と、その罪を問はんとするものが、出たと云ふ事を考へ來れば、實に感慨に堪へないものがある。予は今左に『幕罪略』を掲げる。

幕罪略

一、慶長年中、家康將軍より、大阪追討の勅官を、後陽成天皇へ奏し願しに、御免許なく、其子細は、秀頼卿、奉レ對二天朝一、聊かの罪なし。又秀頼と家康とは主從の儀、且縁邊の中なれば、右樣の筋なき企は、不レ宜旨被レ仰けるに、家康將軍殊の外怒りて、仙洞には秀頼に御心を寄せ玉ふなれば、大望の妨とならむ。先大阪の前へに、仙洞を隠岐國に、奉レ移らんと、評議既に一決に及ばんとせし所、南光坊天海諫めて、此事止みぬ。此は北條足利の例を行ふては、王孫の斷滅せむことを恐て也。

一、此後家康將軍參内して、禁中諸法度と云條目を定めたり。朝廷には素より、式令格律の御定めあるを、武臣の身として、朝憲を亂し、頽威を輕しめ、皇權を衰ふせん為めに、三公は親王を下にする條を立て、己は世々大臣の位に居ることに定めたり。

且つ豐公は天下を一統にせられたる功あり。其實は卑賤の人たるに依て、關白職に任ぜられたり。夫は此時朝廷以來押領せし天下を、悉く朝廷へ返納し奉り、叡慮を伺ひ、大阪を執られたる也。

然るに家康將軍の言に、秀吉卑賤より出で、關白に任じたるに、武威にほこりてたり抔と云事を口實としたると。自ら卑賤より出で、親王關白の上に居り、天下に何の功もなく、天朝より御任有しにも非ざるに、天下を押領し、私に諸侯陪臣等に領地を與へしは何事ぞや。豐公の卑賤にして、其任に在て、其任を行へると、家康將軍の其任にあらずして、天下を私し、諸人を欺くと、何れを以て是たりとし、何れを以て非なりとせん。有志の人辨知せずんば有るべからず。

此將軍の駿河に於て、古器を集めしも、朝廷再興の爲にはあら

ず、自ら朝廷の事をせんとの企なる事、前後を考へて知る可し。

一、家康將軍死して後は、天下古今無双の廟を立て、剰へ、勅使を申下し、御代々の御陵をば簡略にし奉る事。

一、皇胤を滅せんとして、親王諸王方を、法體となし奉る事。

一、官家をば、領地を任せず。且皇側を守護し奉るは、兵器あらずして叶はざるを、官家の兵器を廢し、朝廷を弱らしめ奉る事。

一、官位は、重き事なるに、武家の五位は、堂上の大納言に准じ抔と、其外も其擬合に定めたる不埒の事。

一、狭少なる禁中に、天皇を禁錮し奉り、二百年行幸も無之事。

一、關白職を、關東にて定むるも同様之事。

一、傳奏御役被仰之日、朝廷の機密は、關東へ洩し、關東の事件は、朝廷へ洩すまじき誓文を請取事。

一、秀忠將軍の女、東福門院を強て後水尾天皇の御后にし奉りし事。

一、後水尾天皇は、皇子數多おはしませしに、強て東福門院の生み奉りし皇女、明正天皇を、御位に即け奉りし事。

一、親王一柱を、人質にして、東叡山に置き奉る事。

一、東照宮權現の祠を仙洞御所へ建てたる事。

一、後光明天皇逆鱗ましまし、陸梁し玉へるを、不快に思ひ、承應三年、、して、、し事。

一、寛永年中秀忠、家光將軍上京の節、堂上方を我臣下の如く扱ひ、天顔を拝するに依りて自ら親王關白大臣の上席に在て、天盃を賜し時、天酌を願ひ、不埒の事。

一、正徳年中、皇女八十宮を、家繼將軍へ配せむ事を奏願せり。勢止事を得ず、勅許ありしが、皇神許し玉はず、東下し玉はざる内に、將軍卒せり。

一、代々上京もせず、居ながら官位を賜る事。

一、天下の政事は御委任に因循して、叡慮を伺ひ、取計ふべき事なるに、私に取計ふ事。

一、頼朝、尊氏が如き賊も、皇女を申上して、妻とせんとの望はなかりしを、徳川に於て、現に如斯事。

一、寛永年中天草一揆の節、阿蘭陀人を頼み海手より攻させたる事、不埒の事。

一、神國の神民を、胡僧の宗門に陥し入れ、佛國同様に成さしめたる事。

右二十ケ條者、罪悪中の千が一を擧げたる而已。其委しき事は因二罪悪録及、夢物語等一可二以見一矣

文化五年於二京師東山寓居一謹記下野國草莽無名氏

最早や、幕府は箍がゆるんで來た。幕府の制度は、到底完全にこれを維持する事が、困難となつて來た。而して、幕府の委任政治は、到底其のまゝに執行する事が、困難となつて來た。

かゝる場合に於て、英國は印度洋支那海を經て押寄せ、米國は太平洋を渡つて、來り迫り、露國は前申す通り、北方より來り迫り、日本は、内には勤王の精神が燃え、外には開國の機運が熟し、幕府將軍本位、鎖國一點張りの政治は、到底これを維持するに、困難な場合となつた。

此の場合に、孝明天皇は御位に即せられた。孝明天皇は、申すまでもなく仁孝天皇の御子にて、光格天皇の御孫である。孝明天皇は御年十六、弘化三年二月御踐祚遊ばされた。

（第三）　孝明天皇御踐祚前後の形勢

孝明天皇の御踐祚は、弘化三年二月にして即ち西暦一千八百四十六年である。當時我が日本國は、内憂外患の危機に瀕したと云はんよりも、寧ろ、内潰外裂の極所に近づきつゝありと云ふべき時代であつた。

徳川家康によりて建立せられたる、幕府制度の金城鐵壁も、徒に外觀のみ壯大にして、其の内容は殆んど土崩、瓦解せんとするの有樣であつた。概して云へば、幕府の危機は、決して一朝一夕の話ではない。田沼時代に於て、既に内部から崩壊せんとするの傾向が生じてゐた。又田沼に代りて、一代の賢相松平定信出で來り、此處に幕政の改革を打出して、更始一新、綱紀を既に頽れんとするに廻らした。

松平定信は、如何に批判しても、幕府二百六十年間に於ける唯一の政治家と云はざる迄も、政治家中の最も完全に近き一人であつた。彼は八代將軍吉宗の孫だ。吉宗の愛子にして、最も父の性格を受け繼ぎたりと稱せらるゝ、田安宗武の子だ。吉宗が或る意味に於て、家康の縮刷版であつた如く、定信も亦、或る意味に於て、吉宗の縮刷版であつた。然も用心深き點に於ては、定信は吉宗以上であつた。

×　　×

多くの政治家は運命に支配せらる。然も、松平定信は、寧ろ、運命を支配したと云はねばならぬ。彼は七、八歲の物心つき初めてから、既に天下の大政に參與するの志を起してゐた。彼の進むは、決して偶然ではなかつた。彼は自ら進まんと欲するの意志を有し、又進むべきだけの準備を爲し、而して其の準備が出來上つた時に於て、あちゆる手段、方法をめぐらして、其の位置に達した。

もとより、彼程の賢明なる者であれば、仕宦に無理もなく、其の後に、自ら奔競の痕跡などを遺すが如き、拙き事はなかつた。然も彼は自然の運命に餘儀なくされ、止むを得ずして、相位に登つたのではな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い。止むを得て登つたのだ。斯の如にして、彼は三十歳でこくで、老中首座となつた。

およそ政治家として、彼の如く天下に期待せられたる者もなく、又、彼が如く、其の期待を裏切らずして、其れに副うた者はなかつた。彼の政の改革は、實に潮快であつた。彼の手は物質上より精神的に及び、思想の上にまで、其の政治的支配を及した。徳川時代に於て、幕府の治安を保つ爲に、異端を排斥した例はある。然も積極的に、正學と自ら信ずる所のものを以つて、天下を率んとしたる、未だ曾て彼が如き者はなかつた。

されば彼の政治があまりに緊縮に過ぎ、餘りに周密に過ぎ、而して又、餘りに統一に過ぎたる爲に、白河の清き流れに魚住まず、かへつて、田沼の濁流を追慕し、其れに向つて謳歌せんとする者さへも生ずるに至つた。

併し、此れは必ずしも、彼の爲に瑕となすべきではあるまい。

× ×

松平定信の所謂正學とは朱子學であつた。朱子學は王を尊び、覇を卑しむにあり、朱子學は、大義名分を明にするにあり、朱子學は、夏を崇び、夷を斥くるにあり。されば彼は、其の學問上よりしても、皇室を尊崇するは當然である。此の意味に於て、彼は彼の民間から拔推したる、柴野栗山、尾藤二洲等と同様に、又、彼等同様の程度に於て、彼自身も亦た尊王家であつた。

然も彼が尊號問題に於て、光格天皇の思召を奉ぜず、遮二無二、是れを押し潰したのは、必ずしも、光格天皇の御生父、閑院宮典仁親王に、太上天皇の尊號を奉る時に於ては、將軍家齊の生父、一橋治濟に、又前將軍の稱號を與へねばならず、斯くすれば、天に二つの天皇あり、地に二人の將軍ありと云ふその懸念からばかりでなく、彼は大義名分の上にて、未だ天皇の御位を踐み給はざる御方に、天皇の尊號を奉るのは、天壤無窮の皇位を冒瀆し奉る所以であると考へたからであらう。

而して、彼が極力これに反對したのは、既に以上述べ來つたる、大義名分論の立場からのみならず、斯くするは此の機會に乘じて、幕府の所謂、委任政治の實を全し、朝廷から彼れ此れ、干渉がましき事の出で來る漸を防ぐ所以であると考へたのであらう。即ち所謂、關東御威光恢復の爲めとは、彼の胸中に潜んだ心機であつたらう。要するに彼は飽迄朝廷を尊ぶが、幕府の實權は、其儘保存するつもりであつた。されば公武合體論の元祖は、先づ松平定信と云はねばならぬ。同じ合體論でも、幕七公三もあれば、公七幕三もある。定信は即ち前者に屬する合體論者であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

×　×

彼は進むにも自ら進んだが、退くにも自ら退いた。彼は相位にあること足掛け七年、寛政四年三十六歳にして、其の職を辭した。彼は實に、其の機を見ること敏かつた。彼はあらかじめ、相位についた時に、其の辭職の機會を考へてゐた。何事も用意周到にして、拔け目なきは、家康以來、德川家の家法であつた。而して、彼は其の家法を、最も完全に實行した。

彼の後には、彼の同僚松平信明その他がよく彼の遺法を守つたが、然も將軍家齊が成長すると共に、その增長我慢が加はり、定信の時代には兎も角も、定信の指導に從ひたる將軍も、年と共に泰平に陶醉し、遂に天保八年には、大阪に於ける大鹽の騷を、惹き起すに至らしめた。

×　×

大鹽の騷は、事件から云へば、大鹽が大阪の金持共を、燒打ちしたと云ふだけの事にして、一切の事が殆ど一日の中に結了したので、必ずしも、此れは大事件と云ふ程の事でない。併し乍ら、慶安四年由比正雪が、久能山に據りて、亂を起さんと企てゝより以來、百姓一揆とか、若くは浪人とかいふ種類を除けば、兎も角も、幕府を對手として、直接行動を起したものは、此の事件より外はない。されば、此の事件は、幕府亡滅の、最初の烽火を擧げたものとも、云ひ得らるゝのである。將軍家齊は、其の前年天保七年に職を辭したが、尚ほ大御所として政權を執り、天保十二年正月に至つて、彼は逝き、其の子家慶は、漸く名實共に將軍となつたのである。

×　×

家齊は實に德川歷代の將軍中、最も長く將軍の位に在つた。即ち足掛け五十一年に亘り、其れに大御所としての五年を加ふれば、五十六年となる。然も彼は江戸に居ながら、生存中に太政大臣に陞り、其の子家慶は、將軍の世子として內大臣となり、德川氏あつて以來の、榮耀を恣にし、其の子女五十餘人を、或は養嗣子とし、或は御守殿として、親藩以下、外樣、譜代の諸大名に分配し、實に無類の豪勢を極めたが。然も德川の衰運は、此の時に萌したといはんよりも、寧ろ成つたと云ふべきであらう。

是の滔々たる衰運を眺めてゐた老中水野忠邦は、決して只者ではなかつた。彼も亦、政治的大野心の持主であつた。家齊の全盛時代には、猫を被つて或は京都の所司代となり、或は大阪城代となり、遂に西ノ丸老中より老中に進み、御勝手掛となり、只管御機嫌を取つてゐたが、大御所家齊の薨去と同時に、彼は其の本色を暴露し、將軍家慶を說いて、改革の業に着手せしめた。

忠邦は當時の大名として、學問もあり、腕力もあり、手腕もあり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又經綸もある。云はゞ、彼も亦、德川幕府時代を通じての、一個の政治家たるを失はない。

×

彼は近き松平定信を、其の標本となし、天保の末期に於て、寛政改革の政治を繰り返さんとした。然るに、彼が失敗したる所以は、何故であらう。そは寛政の初と天保の末とは、時世が異り、從つて幕府そのもの、天下に於ける勢力が異つてゐた。加之、定信は、久松松平家の養子とはなつたが、其の血統は八代將軍吉宗の孫である。而して彼の後援者には尾、紀、水三家があつた。殊に尾張、水戸二家は、殆ど熱心なる推挽者であつた。又、將軍の生父一橋治濟の如きも、内實は兎も角、表面は其の推挽者、後援者の一人であつた。

而して彼の同僚は、いづれも單に同僚といふばかりでなく、概して、彼の盟友、若くは親友であつた。其の屬僚など、云ふ者も、單に屬僚といふのみでなく、意氣投合、氣息自から相通じてゐた。

然るに水野は、將軍家慶の信寵を得てゐたが、他に彼の後援者と云ふべきものはなかつた。加之、其の同僚の堀大和守などは、畢竟て彼の子分とも云ふべき者であつたが、其れもあまり當にはならなかつた。而して彼が懷刀として、最も信頼したる鳥居忠耀の如き、其の才氣、膽力愛すべき者はあつたが、鷙悍の酷吏、姦曲の風ありて、猾してこれを君子人と云ふべき者ではなかつた。

其の他彼が使用したる、澁川六藏とか、後藤三右衛門とか云ふ輩は、無論諸輩一樣の者ではなかつたが、いづれも曲者、猾者にて、決して彼等を用ひたるが爲に、天下の信用を博する所以ではなかつた。而して彼等は何れも何時水野を反噬するかを期し難き危險人物であつた。

斉しく改革ではあつたが、松平定信は大概ね自然の趨勢を利導し、水野忠邦は、寧ろ、大勢に逆行したる傾向があつた。云はゞ前者は太陽の如く、後者は風の神の如く、只力づくにて其の目的を達せんと試みた。加之定信は專ら前政の弊を除くにあつたが、忠邦は積極的に利を起さんとした。其の重なる一は、印旛沼の堀割であり、他の一は、江戸、大阪都城の十里四方の土地を回收して、幕府の直轄とすることであつた。

×

印旛沼の堀割は、一旦外警ある時には、東羽の運送米が、總房の海岸から、江戸灣内を通過せずして、直に利根川尻から、江戸に輸送するの便宜を開くにあり。又、江戸、大阪十里以内を幕府の直轄となすことも、國防の上から考へても、又、幕府の中央集權制度を確實にする上から考へても、必要であつたが。然も異論百出し、極端なる儉約政治や、高價物品の禁制は、市井の庶民から大奧の中まで、怨嗟の聲を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

発せられ、幕府直轄地代官の悪行は、其の管轄内に領地を有する諸侯や、若くは親藩からまで反對せられ、彼は政敵に敵手して足掛三年、正味二年にして、遂に失敗し去るに至つた。其の後再び暫らく起用せられたれども、彼は已に角を失つたる牛であり、牙を失つたる猪であり、寧ろ彼の殘骸に過ぎなかつた。

× ×

水野に次いで幕政を執つたのは、即ち阿部正弘である。阿部は實に、徳川末期に於ける政治家にして、彼については、今日に至るまで未だ充分なる定評なく、政治家として、彼が坐する歴史上の座位は、今尚ほ未定であるかの如くなれども、予の見るところ、彼は實に幕府の末期に於て、極めて比類少き政治家であつたと云はねばならぬ。

阿部も又、水野同樣、自ら政治家たらんと欲して、政治家になりたる者にして、決して偶然に出で來りたるものではない。彼の父阿部正精は、將軍家齊時代の老中であり、多少の學問もあり、又、西洋の事にも若干興味を持つてをり、或は水彩畫に似たる西洋畫や、若くは和蘭文字など、自ら書いたものがある。

正弘は其の庶子にして、其の兄正寧の病によりて、其の後を継ぎ、天保七年十八歳にして備後福山の城主となつた。斯くて天保十一年、二十二歳にして寺社奉行となり、中山法華經寺の塔頭智泉院の僧侶に關する諸種の事件を處置し、或る名僧を處罰した。其れは、其の寺院に、大御所家齊の大奥に在る老女其の他の干係があつて、事大奥に關し、何人も手をつけ得なかつたのであるが、其れを公明に裁いて、其の徳に大いに評判を博した。

× ×

斯くて天保十四年、二十五歳にして老中加判の列に加つた。

彼が如何に公事につとめたかは、弘化元年五月十日、江戸城本丸の火事に際し、自ら消防指揮を勤め、當時大雨の際、滿身濡れて、衣を代へること二回、草鞋を改むる二三回に及んだと云ふ事だ。斯くて彼は本丸普請總奉行を命ぜられた。これが六月十三日の事である。而して七月二十三日には、勝手用掛を命ぜられた。勝手用掛は、大藏大臣にして、老中の中で最も權力あるものだ。

當時將軍家慶は、水野忠邦を再び用ひんとしたが、阿部は斯くては大臣の進退があまりに恒なく、忽ち斥け、忽ち進めるなどゝいふことでは、綱紀が立たぬと云つて、反對し、その説が用ひられなかつた為め、一時引籠りゐたが、將軍の懇命もだしがたく又再び出で來つた。

斯くて此の年七月、いよ〳〵世にも名高き和蘭國王の忠告書が出で來つた。此の忠告書の趣意は、寔に記憶すべき一事件だ。其書は世界形勢の大勢を述べ、日本も最早、鎖國の舊習より脱却せざるべからざ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ることを許さぬ、この際自ら進んで開國をすることが、日本の平和を完し、國家を利する所以であることを述べ、若し日本が此の忠告を容るるに於ては、和蘭は誠心誠意これを斷行するについての援助を、惜しまないと云ふ事を申して來た。

若し幕府が、此の忠告書を眞面目に受取り、此の忠告の意味を正しく了解し、此れによつて其の施政の方針を定めたらば、嘉永六年六月ペルリの浦賀灣の來航の時に於て、彼程の狼狽をしなかつたであらう。然るにこれを其のまゝ受取り放しとなし、其の翌弘化二年六月、即ち祖法改め難しと云ひ、以後は斯る書翰を差出すことは無用なりと云ひて、極めてすげなき挨拶をしたのであつた。此に就ては、阿部正弘なども、實に大なる責任ありと云はねばならぬ。

× ×

水野は前に述べたる如く、弘化元年六月、再び老中に列し、首席となつたが、弘化二年二月には、更に免職せられ、實際上、阿部が首相の位置を占むるに至つた。當時彼は二十七歳。もとより彼に向つて多きを望むことは出來ないが、しかも彼ほどの人物として、斯る月並的の返書を和蘭に與へ、しかも此の警告に對して、何等緊切なる設備をなすべく努力しなかつたのは、實に遺憾千萬である。

併しながら、彼は實に當時に於て、殆んど缺くべからざる一人であつた。彼ありしが爲に、當時の幕府は、辛くも、其の行くべき道を踏み違へなかつた。

（第四）久邇宮朝彦親王の御生立

いよ〳〵本題として、こゝに久邇宮朝彦親王のことを叙する。親王は伏見宮家の御分派にして、今日に於ける各宮家の大部分は、實に伏見宮家、及び其の分派の流れである。即ち皇族方として、伏見宮、山階宮、賀陽宮、久邇宮、梨本宮、朝香宮、東久邇宮、北白川宮、竹田宮、閑院宮、東伏見宮、いづれも伏見宮家の流であり、而して梨本宮、朝香宮、東久邇宮等は、いづれも久邇宮家の流れである。

伏見宮家は勿論、久邇宮家の御繁昌、殊に現代の皇后陛下も、久邇宮家より御出でましになりたる事を思へば、朝彦親王の勤王、愛國の御餘慶と申すも、差支へあるまい。そも〳〵伏見宮家は南北朝の時、北朝の崇光天皇より出で、その十九代を邦家親王と申した。享和二年十月二十四日の御誕生にて、文化十四年、光格天皇の御猶子となられ、明治五年八月五日、七十一歳にて薨去あらせられた。

× ×

朝彦親王はその第四子にて在し、文政七年正月二十八日、京都堺町通錦小路上ル、拔川禰内介の家に誕生あらせられた。其の御生母は、

烏丸小路經親の女信子と申した。

親王御年八歳の頃、京都本能寺の日慈上人伏見宮家に參殿のみぎり、當時熊千代君と稱したる親王の、御非凡なるを拜察し、己れの弟子となさしめ度く、御懇請申上げた。御父君には上人の熱望に感じ、御教育の名義にて、これを許し給ひ、これより上人の許に御移りあつて、佛教の二諦を學び給うたが、聰明にして理解よく、且つ其の英氣活潑なるに、師匠たる日慈上人も、他日は必ず大成せらるゝであらうと、御期待申上げてゐた。

×　×

當時の挿話が今猶ほ殘つてゐる。或日上人親王を伴うて、上京寺町御池上ル本能寺前町綿商河内木屋兵衛方を訪れたるに、親王は先づ座敷に通り、自ら床の間の上段に坐し給ひ、上人はかへつて下座に在つたとて、上人は之を見ていよ〳〵親王の豪邁なる御氣象を愛したといふことである。

×　×

斯くて天保七年御年十三歳のみぎり、親王の御叔父一乘院尊常法親王御病氣あり、爲に内示もて、親王をして、其の弟子たらしめ給うた。

これは一乘院の後住に擬せらるゝ爲であつた。

抑も一乘院といふは、大乘院と共に、南都興福寺の別當職を掌る寺院にて由緒最も古く、所謂門跡寺院の一である。尊常法親王は貞敬親王の御子にして、貞敬親王は、伏見宮家第十九代邦家親王の父君である。

然るに尊常法親王は、天保七年六月二十六日、御年十九歳にして、遷化あらせられた。然も此の事が暫時秘せられ、其の以前に於て朝彦親王は、其の相續者として、附弟とならせられた。其の時の口達書は左の通りだ。

口達

此御所御弟子有故是迄御内々於其院御養育中ニ御成長被爲在候段、御滿悦之御事候。依今度思召ヲ以被召還候間、可被得其意候事。

五月三日　築田大和介

田中信濃守

本能寺御坊

×　×

斯くて八月二十八日、仁孝天皇の御養子とならせられ、一乘院主に補せられ、天保八年十二月五日御年十四歳にして、御髪を備へて一乘院に入らせられ、十日親王の宣下あり、御名を成憲と改められた。斯くて天保九年閏四月二十三日御得度あらせられ、法諱を尊應と稱し給

ふ、時に御歳十五歳。

前にも申す通り、一乗院は最も由緒深き寺院の一たる、定昭大僧都によつて開基せられたるものにして、僧都は關白太政大臣藤原忠平の次男左大臣師尹公の子である。爾來或時には攝家より、或時には親王家より御入りあり、最近の御代にはいづれも親王家で住しました。其の知行は千四百九十二石で、御殿を橘御殿と申した。

されば、日慈上人の門弟から、一乗院の門主に補せられ給うたことは、親王にとつては、非常なる御變化と申さねばならぬ。斯くて天保十一年八月十三日、登壇受戒あらせられ、十三年三月二十五日講師に進み、興福寺別當に補せられ給うた。

興福寺は昔から、比叡山と共に僧兵があつて、武を講じてゐた。されば親王にも師範の餘暇、南都寶藏院流の槍術を學び給ひ、又は經書や兵法等を、講ぜさせ給うたといふことである。此れも時勢の然らしめたる所であらう。

惟ふに、親王には長く南都の寺院を守つて、一生を御暮しになる積りであつたか、若くは他に大いなる御志があつたか、それは今こゝに明白に語る事は出來ないが。いづれにしても、天下の正に動かんとする氣運は、知らず識らずの間に聰明俊傲なる親王をして、之に關心せしめたのであらう。

弘化元年七月には、和蘭の使者が來り、和蘭王の國書を齎らして、いよ〳〵諸外國が日本に開國をせまり來る模様であるから、豫め其の準備をなし、日本が自ら進んで國を開くが得策である。それに就いては、從來の關係もあるから、和蘭方で、何たりとも助力を致すであらうといふ、極めて懇意の籠りたる書翰を齎し來つた。此れは前記の通りである

×　　×

斯る場合の際であれば、親王は常に心を國事に傾け給ひ、外國の事情を探索し、内外關接に關する文書、若くは論説、意見など、悉く儒者に命じて、これを寫さしめ給うたと云ふことである。

されば親王は、南都の大なる僧院の主であらせられ給ふ間に、他日孝明天皇の御相談相手として、國事に鞅掌し給ふ用意をされつゝあつたのであらう。親王とても、もとより將來を明白に、前知し給ふ程の事は、無かつたであらうが、しかし、あらかじめ其の緩急に應ずるだけの、御覺悟はあつたものと察せられる。

斯くて弘化三年正月二十六日、仁孝天皇は崩御あらせられ、孝明天皇は二月十三日、御年十六歳にて、踐祚あらせられた。此の弘化三年なる年は、單に皇室御代變りのみでなく、また記憶すべき事がある。其れは、朝廷から幕府に向つて、外交について御沙汰があつたこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だ。即ち弘化三年八月二十九日左の如き御沙汰書を發せられた。

一、近年異國船所々に相見候趣、風說内々被聞召候。併、文道能備り、武備全整候時節、殊に海岸防禦堅固の旨被聞召候間、御安慮候得共、近頃其風聞屢々彼是被爲掛叡慮候。猶此上武門の面々、洋蠻之事、不侮小寇、不畏大敵、籌策を立、神州之瑕瑾無之樣、御指揮候て深可奉安宸襟候。

此段宜有御沙汰事

× ×

これは前にも述べたる、内外一切の事を、江戸の將軍へ御委任あらせられたといふ譯から云へば、餘計なる御干涉のやうにも聞える。併しながら、如何に北條氏が政權を專にした場合なればとて、蒙古事件については、龜山天皇などは、身を以つて國難に代らんと御祈願遊されたほどで、所謂上下相ひ協力し、擧國一致の精神を發揮した事を考へれば、外敵が漸く日本に迫らんとする時に於て、朝廷から、かゝる御沙汰のあつたことは、當然の事であり、必然の事であり、且又自然の事である。

たゞ此れが朝廷から積極的に幕府に向つて、外交上に關する御沙汰書を發せられたる始であるといふ事は、最も記憶せねばならない。當時孝明天皇は、畏れながら、御踐祚後間近で、且つ御歲十六にてあらせられたれば、もとより内外の事に就いて、當路の苦辛を察し給ふほどの御經驗も、未だ積せられなかつたであらうと思ふが。兎に角、朝廷の臣僚中に於ては、斯る御沙汰書を下し給ふべき事を申上げたものであらうと思はれる。これについては、十月三日京都所司代より、それぞれ江戸老中共よりの御受書を出してゐる。

さて嘉永元年二月十八日、親王御年二十五歲の時、二品に叙せられ、一乘院はもとの如く。越えて嘉永五年正月十九日、傳奏三條大納言實萬は、左の如き内勅を傳へた。それは、當時天台座主の尊寶法親王御病氣につき、豫め親王をもつて、その相續者たらしめんとの思召であつた。内勅の文は左の通りである。

座主之宮初老、不勝之處、座主當職人體之無候間、青蓮院、必竟御移轉可被御沙汰候

× ×

斯くて法親王は遂に起たず、三月十二日青蓮院相續の勅あり、二十三日入室の禮を行つた。勅使勸修寺前大納言顯彰參入、名を賜ひて尊融と改めた。四月初めて參內、十一月二十四日護持僧に補せられ、十二月十四日天台座主に補せらる。

爾來、屢々參內せられた。表面のことは、もとより御祈禱の件であつたが、併し、單にそれのみならず、常に陛下の顧問として内外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の御諮詢に應し、近衞内大臣忠煕、三條大納言實萬等と同じく、宮中の内議に參せられた。

（第五）維新史に於ける水戸

維新史に於て、如何なる場合にも、看過し難きは、水戸である。水戸は思想上から、大義名分の論を鼓し、幕末攘夷の大運動を喚起す、根本動機を作り、實行の上からは、或は烈公の天保度の改革となり、或はその後、櫻田の變となり、筑波の役となり、遂に德川幕府を顚覆して、王政維新を見るに至らしめた。

其の中にも、一橋慶喜、繼嗣問題の如きは、更に内治外交の、最も困難なる場合に於ける一大葛藤であつた。されば或る意味から云へば、德川氏を滅したものは、水戸であるが、他の意味から云へば、又德川氏を生かしたのも水戸である。何故なれば、幕府は倒れても、德川氏をして、臣民の最上位たる公爵に列し、百世子孫血食せしめたる所以、畢竟水戸の勤王が、其の素地を作つたものと云つても、差支へない。具體的に云へば、慶喜其人の恭順の態度宜しきを得た爲めだ。

以上の理由によつて、我等は此處に、水戸の事に就き、少しく語る必要を感ずる。

×　×

水戸の始祖頼房は、德川家康の第十一子にして、家康六十二歳の子である。彼は末子にして、最も家康に愛せられたが、同時に又彼が豪邁であつた爲に、家康は常に彼を抑壓せしめた。頼房の兄が頼宣で、その兄が義直である。彼等の幼き時、家康は三人にその望を糺ねたれば、義直は大國を賜らんことを希ひ、頼宣は賢臣を得んことを願ひ、而して頼房に至つては天下を得んと云つた。此處に於て家康は、この子は油斷が出來ぬと、常にその野心を押ふることをしたといふ傳說がある。

又家康が、『阿鶴は切れ者であるから暫くはしらざる樣氣を付けねばならぬ』と云つたとの傳說もある。阿鶴とは頼房の小字である。いづれにしても、彼は尋常一樣の公子ではなかつた。而して彼は三代將軍家光と最も相ひ得た。

家光は『親類中にて頼もしき者は、御身一人である。希くは御身と兄弟の交りをしたい』と云ふ意味の手紙を、頼房に與へた。それは今尚水戸の德川家に殘つてゐる。

頼房は豪邁ばかりでなく、又世間からみれば、いさゝか旋出りのところがないでもなかつた。それは天草の役に、肥前の國主鍋島勝茂先登して手柄を顯したが、軍令に叛きたりとの故をもつて、閉門申付けられた。然るに御三家の一人たる彼は自ら節を枉げて、これを慰めた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

×　×

賴房の子が即ち光圀で、所謂義公である。光圀は賴房の第三子で、若き時には隨分亂暴の漢であつた。今日から云へば、不良少年とも云ふべきものであらう。彼は色白く、丈高く、肩廣く、顏長く、額廣くして兩方に角あり、目尻長く、少し細形にみえるが、よくみれば、普通の眼より大きく、耳は長くしてしかも大に、鼻筋は通りて高く、口はそりかへつて、世の常ならず、若き時は、美男の聞え高かつたと云ふことだ。

彼は少年の時には、武藝や學問の嗜を第二にして、遊藝に耽つたらしい。彼は三味線が好きで、自ら彈いたといふことである。而して彼の風采、服裝等も、市井の遊蕩兒そのまゝであつたらしく、彼の語るところも、所謂猥談等にて、甚だ宜しくなかつたと云ふことが、彼の傅役たる、小野角右衞門の諫言書の中に特筆せられてゐる。而してその動作も、輕躁であつて、如何にも傍若無人の擧動を逞しくしてゐたといふことである。

彼は少年の時に、人を人とも思はず、全く我儘勝手の行動をなしてゐた。然るに十八歲に至り、史記の伯夷傳を讀み、始めて父の世嗣には、その兄賴重が立つべきが順當であるに關らず、自ら相續者となつたことの不合理なるに氣付き、大いに志を起し、漸く自覺、獨行すると同時に、彼は自らその擧動を一變して、碩學の士となり、その家を兄賴重の子に讓るの意を生じ、且つ修史に志すに至つたのだ。

併し、彼が人を人とも思はず、獨立獨行したことは、不良少年であつた時も、その老成人となつて西山に閑居した時も、別段相違はなかつたやうだ。彼が如何に學問に勉强したかは、十三經全部に句讀を附し、六臣註文選全部に和訓を附し、人見卜幽が附けはじめたる千金方の和訓を、過半以後は、彼代つて附けたといふ程にて、世の所謂大名學問とは、全く異つてゐた。

×　×

彼は畢生の力を歷史に盡した。その二十萬石に足らざる收入の三分の一即ち八萬石を修史の費用となしたと云ふ程にて、一方に於ては、人を四方に派出して史料を集め、他方に於ては、天下の凡ゆる學者を集めて、その編纂に當らしめた。然も彼自らその一人として、その事に與つてゐた。彼の歷史をみれば、彼が大義名分の觀念は、最も明かである。彼は天智天皇の御子大友皇子を、弘文天皇として、天皇本紀にのぼせ、神功皇后を后妃傳にをさめた。彼は南朝を正統とし、北朝を閏位においた。

此等の事に就いては、世間に種々の意見があるであらうが、兎に角彼としては、一大見識といはねばならぬ。如何に彼が皇室の尊崇者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつたかは、彼の事毎に京都を主とする家法が、その子孫まで、継承せられたことをもつても知られる。

要するに、彼は日本に於ける、尊王論及び國體論の唱首でなかつたとしても、最も有力なる鼓吹者であり、最も有効なる宣傳者であつた。彼は決して朝廷を尊崇するが爲に、幕府を倒すべしとする者ではなかつた。彼は只朝廷と幕府を對立せしめ、天皇と將軍とを兩本位とするものでなく、云はゞ、將軍を始めとして總て日本國民は、皆天皇の臣民であると云ふ意味に於ての尊王家だつた。即ち彼は彼の祖父たる家康の設立したる、幕府の敵でもなく、又その制度の破壞者でもなかつたが、然も朝廷に對する點に於ては、根本的に家康とは相違があつた。家康は朝廷を全く雲の上に封じ込め、人事には一切關係なからしめ、斯て將軍を第一位として、下庶民に及さしめた。然るに光圀は朝廷を第一位として、將軍を第二位とし、而して後、全國の民皆朝廷の統治の下にあるべきものとした。固より實際の政治は、御委任によりて、將軍が管掌したるも。

× ×

彼は將軍家をもつて我が親類と看做し、朝廷をもつて、我が君主と看做した。彼は君臣合體を以て、當然の事と致し、幕府を經由せずして、常に自ら朝廷と親近するを計つた。光圀以後水戸家は、幾多の變遷があつた。然れ共、概して云へば、朝廷第一位、幕府第二位といふことに就いては、いづれも間違なかつたやうだ。即ち第七世治紀——武公——の如きも、左の如く云つてゐる。

「公は御平生朝廷を殊の外御尊崇被遊けり。或時烈山公子（烈公）へ御意遊されけるは、たとひ何方の養子と成候とも、御譜代大名へは参り不レ申候樣に心得可レ申候。譜代は何程か天下に大變出來候へば、將軍家に從ひをる故に、天子に向ひ奉り弓をも引かねばならぬ事也。此れは常に君として事ふまつる故に、斯くある可きことなれども、我等は將軍家いかほど御尤の事にても、天子に御向ひ弓を引かせられなば、少しも將軍家には從ひ奉ることはせぬ心得なり。何程將軍家理のある事なりとも、天子を敵と遊され候ては、不義の事なれば、我は將軍に從ふことはあるまじと、仰られける。

斯の如く、文化、文政、德川氏極盛の時代に於て、斯る思想を懷きたる程であれば、光圀の天皇第一主義、皇室中心主義が、決して一時の空論、空想でなかつたことが解る。

又最後の將軍德川慶喜が、自ら將軍職を辭し、伏見、鳥羽の役後、江戸に還り、寛永寺の一室に閉居し、やがて又水戸に蟄居するに至りたる動機につき、公爵伊藤博文の問に答へたる談話の一節に、

拙者幼少にて、一橋家に養子に行かんとせし時、父なる齊昭（烈公）拙者を膝下に招き、扨ても追々六かしき時勢となれり。今後開鎖の議論などに依り、公武の間に、如何なる事端を生ずるやも知れず、然れども我が水戸家は祖先以來、一意勤王を以て本旨とし、假令朝廷に御無理の儀ありとも、其命令とあれば、何にても違背すべからず。若し宗家が朝廷に對して、弓を向けんとすれば、我は朝廷の爲めに、宗家を亡すの決心なかるべからず。是れ我が水戸家の家法なれば、決して此本意を忘るべからずと、呉々申渡されたる事、肝に銘じて、常に忘るゝ事なかりければ、當時に於ても、唯だ父の訓戒を服膺して、只管恭順せしまでにて、別に夫れ是れと思慮を勞せし次第に非らず。

とある。然れば光圀の主義主張は、最後までも水戸家に徹底したものと云はねばならぬ。

× ×

併し、世の中の事は、決して理想のみにて行はるゝものでない。水戸家は三親藩の一に位し、一切のことは、ほゞ尾張、紀伊と同等同格にて、唯だその位階の進級等が、やゝくだると云ふに過ぎなかつたが、しかもその財政上に於ては、最も困難なる位置にあつた。尾州、紀州兩藩は、水戸に比すれば、財政上の取得は恐らくは、水戸に倍し、若しくはより以上であつたであらう。然るに水戸は、其の收入は半ば以下にして、その交際は同一であるといふことであれば、結局財政上の逼迫は當然の結果といはねばならぬ。

然れば水戸は常に財政に苦しんだ。加之、彰考館などの設けあつて、他に類例なき修史の事業に費用を投じつゝあれば、その困難は更に一層と云はねばならぬ。これが爲に、幕府からしば〳〵合力を要することがあつた。

且つ三家中尾州、紀州は、普通の大名同樣參勤交代したが、水戸はたま〳〵その封地に赴くことあつても、概して定府であつた。而して何れの時から云ひ出したるか知られねども、世間では水戸家をもつて、副將軍と看做してゐた。即ち如何なる場合も、江戸に在りて、將軍家の介添役を勤めるものと、認められてゐた。即ち光圀の如きも、その隱居するや、その養子綱條は、今後は光圀のやうに旗本等を、直接に招く如きことは、相やめらるゝであらうといふ者があつたが、彼は「吾儕とよ、水戸家は天下の副將軍で、いざと云へば、旗本を率ゐて行かねばならぬから、平生から、よくその氣情に達しておかねばならぬ故、もとよりこれまで通りに旗本を招くべし」と答へたとある。

かゝる次第であつて、水戸家は一方に於ては、朝廷とも幕府を經由せず、直接に交通し、旗本とも遠慮なく交際した。これは水戸家にと

つごは一種の特徴と云つても然るべきかと思はるゝ。

×　　×

話は飛んで烈公の時代となる。烈公は即ち武公の子で、哀公の弟である。彼はその兄哀公即ち第八世齊脩の時には、敬三郎と稱し部屋住みであつた。然るにその兄齊脩は、文政十二年十月四日三十三にして逝いた。當時水戸家の重臣共は、紀州家より養子を貰ひ、それによつて水戸家の財政の窮乏を救ひ、且自ら利せんとしたが、江戸及水戸に於ける諸有志は、これを不可とし、威公即ち賴房の血統を絶やすに忍びず、且つ俊朗の稱ある敬三郎が現存するのに、かゝることを行ふべきかはと、いづれも相憤し、四十餘名の志士は、許しをも待たず、水戸より出て大運動を起した。これが爲に遂に敬三郎は、水戸家第九世として、封を嗣ぐこととなつた。これが即ち文政十二年十月十七日で、彼は年三十であつた。

斯の如く齊昭の承嗣は、いはゞ志士運動の結果であり、彼の一代は波瀾をもつて始つたと云はねばなるまい。齊昭は三十歳まで部屋住みであり、よく重臣等の不埒、不都合なる樣を親しく見聞したれば、その封を嗣ぐや否や、直にそれ／＼彼等を處分し、而して他方には又、有志者を擢上げ、これが爲に天下の耳目を聳動せしめた。

×　　×

世間漸く泰平に陶醉しつゝある際に、彼は一方に於ては儉約の令を布き、他方に於ては武備を整頓し、率先してその士民を督勵した。彼は斯くて、しば／＼幕府に向つて建白をなし、或は神武天皇の山陵荒廢したるをいたみ、其の二千五百年忌に及び、これを修理して、寶祚の無窮、武門の繁昌を祈らんことを建白した。天保十一年は、神武紀元二千五百年である。

彼は又蝦夷が日本の國防上、最も重要の地であることをしたゝめ、自ら蝦夷を賜り、その開拓の任に當らんことを乞うた。彼の改革は、あらゆる方面に及んだ。一方に於ては、土地の境界を正しくすべく、土地の調査を行ひ、又は嚴重なる規律を設け、文武の業を勵まし、又追鳥狩りを催し、武事の實地演習を試みた。

而してしば／＼大船を製造せんことを幕府に建白し、又巨砲を鑄り、これが爲には、寺の鐘やら、佛像までも、その資料に供するに至つた。彼の天保改革は、恰も水野忠邦の、幕府に於ける天保改革の先を開いた。而して水野は或意味に於ては、彼を煩しく思ひ、他の意味に於ては、彼を敬遠せんが爲に、將軍の命を以つて、彼に當分水戸に滯在して、江戸に來るなからしめんとした。

彼は天保十四年四月、將軍家慶に從つて、日光廟に詣り、五月には將軍親しく彼を召して、彼の治績の大いに擧れるを賞し、鞍、鐙、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

厚賞金等を賜ひ、いよ／＼烈公の遺志を繼ぎ、誠忠を勵げますべしとの旨を傳へたが。その翌、弘化元年五月には、彼を江戸邸に召還し、驕慢なりとの故をもつて、隱居を命じ、駒込の邸に蟄居せしめた。

然るに彼の謹慎の事情は、やうやく將軍家慶の諒とするところとなり、弘化二年七月頃より彼と老中阿部正弘との往復は漸く行はれ、爾來彼は又阿部を通じて、種々の建白をした。

斯くて嘉永二年齊昭五十歳の時には、將軍自ら小石川の邸に臨み、此處に於て事實上彼と將軍家の間は、漸く元に復した。而して弘化四年九月には、彼の子七郎丸は、老中阿部正弘等の周旋にて、一橋家の養子となり、三卿の一人として、從來水戸家諸公子が、松平氏を稱してゐたが、德川七郎丸と稱するに至つた。

而して嘉永六年六月、ペルリーの浦賀に來るや、彼は老中阿部正弘の問に答へて、種々の建白をなし、又將軍家慶の正に逝かんとするや、外交のことは、宜しく水戸隱居の努力に俟つべしとの遺言によつて、いよ／＼彼は公然、幕議に參するに至つた。

雜誌『改造』十周年記念

懸賞創作募集

〆切昭和二年十二月卅一日

來る昭和三年四月一日は改造社の創立十周年に當ります。雜誌『改造』は十周年記念號を發行し、創作論文に於て我國の代表作を網羅する以外、左記の懸賞方法により小說、戲曲を募集します。

1 懸賞金は一等一名一千五百圓、二等一名七百五十圓とす。
2 應募小說戲曲は四百字詰百五十枚以內とす。
3 當選原稿の一等は昭和三年四月號の『改造』に、二等は同五月號の『改造』に登載す。
4 應募小說戲曲は社中選のこと。
5 宛名は『懸賞創作』と封表に記載し『改造』編輯局宛てのこと。
6 紙上の匿名は許さず。賞金は發表と共に交付す。
7 應募原稿は一切還付せず。且つ應募者は略歷一葉添付ありたし。

改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯だより

◇いやでもおうでもいよ〳〵普選による總選擧がここ數ケ月の間に決行される。ただ、悔いなき一票を行使してもらひたい。無產政黨もすべての情實を排し、なるべくなら大合同をなし、それが出來ねば總選擧に對しては共同戰線を張るのが必要である。

◇朝鮮總督は山梨君にきまつてしまつたから當分沈默して御手際を拜見しよう。東京市長には西久保君の如き無能者を擧げぬことだ。財政のわかるテキハキした人物が必要である。倫敦市長がデクの棒だからとて我東京市長がデクの棒でよいと云ふ理由はない。五十歲以下の古手役人でないものが必要ではなからうか。

◇本誌新年號は意外の名篇大作が揃つた。德富蘇峰氏の「維新回天史」は本年一パイ連載される。維新史が現下のやうな轉換期にいかなる役割を遂げ得るか。蓋し論壇呼びものの隨一たる大雄篇である。

◇それから茲に大衆の讀書慾をそそるのは「新世界の魅惑」である。太戶、川島、吉澤、大石、上原の各權威が一世の名文もてナイル、ニユージランド、カナダロツキイ、アマゾン、奧印度、カムチヤツカ等外界に緘閉されたる祕土深境の狀態を開扉展開したのであるから、誰しも一讀すべきである。我誌が昭和三年の劈頭に於て我民衆の前に此一篇を捧げたのはその意の深いものがある。

◇また、伊藤博文公の「大津事變」を手記した珍文献が同家の筐底から發見された。當時我國の第一の勢威者の記錄だけに彼我兩國の形勢紙上に躍動して、一氣に讀破せしむる感銘深い一篇。

◇實朝熱の高潮せんとするとき斯界の一人者齋藤茂吉君の「源實朝」の一篇は雄偉の氣魄を青年にそそぎ込む。伊豆の海やや波たばしる等剛健な詞調が昭和に蘇りて春陽に潑剌の新彩を擴映す。

◇その他庭球界の一人者リーチヤーツが含蓄深い一文も好球子の胸を躍らすべく、鏑木清方氏の「美人畫論」の清艷なる「築地明石町」以上との好評がある。

◇論壇には福田、長谷川、蠟山、猪俣、向井氏等各快篇を寄せ、遙に文豪バルビユツスより「苦難十年のロシアを觀る」の得がたき寄稿があつた。

◇創作壇には高濱虛子氏十數年ぶりの快心の作を下さつたことは感謝にたへない。前田河、藤森氏は百數十枚の力作、岡本、志賀、岸田、佐藤、武者小路、德田氏又筆陣を新にして名作を下さつたことを感謝します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◇本誌を通じて尤もなじみ深かつた堀江歸一博士京都公會堂で講演中俄かに腦溢血の爲めに斃る。いつでも我社の無理なら何でも引き受けてくれられた。そして何事にでも思ひやりの深い財政學の權威であつたが、惜しいことをした。本誌所載の「アダム・スミスの國富論」も土方氏が執筆不能のため倉皇てお願ひしたものであつた。それが絕筆にならうとは夢思はなかつた。どうか我々の長い間の我儘であつたことを許していただきたい。

◇本誌懸賞小說は十二月卅一日〆切後の到着は斷じて受付けませんから、そのおつもりで。

◇「現代日本文學全集」の一月配本は「森鷗外集」と決定。新春早々讀者の御手許に達しますが本集の如きは氏の代表作は殘らず這入りました。九年かかつて譯せられたと云ふ「即興詩人」はじめ、「埋木」、「高瀨舟」、「キタ・セクスアリス」、「雁」、「山椒大夫」、「舞姬」、「うたかたの記」、「文づかひ」、「玉篋兩浦嶼」、「生田川」、「心中」、「阿部一族」、「日蓮聖人辻說法」、それから鷗外全集にもない「靑い手帳より」等皆一粒選りです。

◇それから新春早々「改造文庫」を發行します。廉價本の完成を期する爲め第一期に於ては「現代日本文學全集」「マルクス資本論」を選びましたが、今回は一冊十錢を單位として政治、經濟、文學、哲學、思想、美術、百般に通ずる最廉價本を發行。委曲は二月號の本誌に。

◇社會科學一月號は「日本社會主義運動史」號とする。黎明期、勃興期、展開期に分ちて堂々たる內容三百頁以上の大冊となります。

◇改造社のマークを募集致します。圖案は改造社の事業を表象する限り自由です。當選者には賞金貳百圓贈呈。締切は一月卅日。發表は四月の文學月報紙上。宛名は改造社出版部マーク募集掛。原稿は一切返戾致しません。

改造定價

冊數	定價	郵稅
壹冊	五拾錢	参錢
半ケ年	参圓	郵稅不要
壹ケ年	六圓	郵稅不要

註文の注意

▲御註文は凡て前金に申受く前金切の時は發送を停止す
▲增大號其他定價變更に依る前金拂込不足の時は御拂込を待つて雜誌を發送す
▲外國よりの御註文は郵稅實費を申受く
▲見本御請求の向は振替又は郵券にて定價通り御拂込ありたし但し郵券代用は一割增の事
▲御拂込は振替によるゝを最も便利とす

昭和二年十二月十八日 印刷納本
昭和三年一月一日 發行
（價壹圓）（郵稅五錢）
編輯兼發行人 東京市麴町區內幸町一ノ三 幸ビルヂング 山本三生
印刷人 東京市牛込區市谷加賀町一ノ一二
印刷所 秀英舍
發行所 東京麴町區內幸町一ノ三 幸ビルヂング一階 改造社
振替東京 八四〇二
電話銀座 營業部（四五五八）（五〇四六） 編輯部（一七三三）（五五五八）

眞山青果著

盲魚

（四六版上製）
定價壹圓五拾錢
送料二拾錢

最新刊

自然主義の山河に育成し、漂蕩し、亦沈潜し、「盲魚」よく未梢に動ぜず、風雪を中樞に感得して實在の底をかき捜る。集纂二十篇の小説と二篇の戯曲とは、青果氏五十年の全面容を窺ふ可く、その獨自の藝術境より、その人生の深底より、紅鱗を曳かしむる絲となり、餌となる。この渦紋の擴大するところ全文壇の驚異となり、贊歎となり、現下文壇の原流に巣食ふ深刻な哀歡・苦悶を一層愛惜し、尋ねることであらう。

内容

小説——南小泉村。あの家この家。お灸屋の兄弟。茗荷畠。卓上。不産女の一生。盲魚。家鴨飼。久本氏。鬪。乳母。紫。馬（童話）。敗北者。弟の碑。男柱。男五人。壁の花。小春日。癇腫。

戯曲——第一人者。生れざりしならば。

發兌

東京市麴町區内幸町
幸ビルデイング一階
振替東京八四〇二番

改造社

肺結核、胃腸病の劃時代的新藥

「パンゲスチン」に就いて

肺病は早く手當をすれば必ず癒る。いや、第二期第三期に進んだ者でも決して絶望するには及びません。容易く之を擊退して、旺盛なる社會生活を營む工夫が肝要であります。

肺病の療法には、第一に自然療法があります。次ぎは藥物療法、之には未だ確然たる効果をもつたものが見當りません。最後に榮養療法があります。充分に榮養を攝り、うまく食ひ、體力を盛にして病氣に打ち勝つこと、これが肺病根治の關鍵です。

「パンゲスチン」は、實に此の目的に合致し、劃時代的新藥として、斯界に燦然として輝いてゐます。人體に最高榮養價値を有する蛋白質消化劑として完全無缺なる「パパイシン」を主劑とし、之に脂肪澱粉等を消化する藥物、現在の醫學上治肺の最良特効藥たる數種の藥物を配合し、學理と實驗とを綜合した理想的のものであります。

主劑「パパイシン」は、熱帶の珍果「パパイヤ」の未熟果實の乳汁より採取した消化酵素で、絶大なる蛋白消化力を有し、牛肉の如き三十分にして形を止めざるまでに消化し終るのであります。之を主劑とせる「パンゲスチン」の消化力大なることは申すまでもありません。

かくの如く「パンゲスチン」は治肺の藥物療法及榮養療法を兼ねたもので、更に結核、肋膜炎、腹膜炎等の消耗性發熱に因する消化不良、特に神經性消化不良、貧血、腸胃加答兒、乳兒消化不良等に用ひて卓効があります。大阪醫科大學教授長崎博士及岡川博士は主劑「パパイシン」の効驗の正確迅速なるを推奬せられ、其他の諸大家も、實驗に、臨床に試驗の結果、顯著なる効驗を證明推奬されました。其の他、本藥を使用してその効顯に驚嘆され、謝狀を賜はつた方が無數であります。安心して各位にお勸め致す次第であります。

定價　壹ケ月分　拾貳圓也
　　　半ケ月分　七圓也

製藥所　マニラ　パパイン、デベロツプメントコンパニー

輸入調製元　東京　パパイシン社

一手販賣店　東京市麴町區內幸町　改造社　振替東京八四〇二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹賀新年

昭和三年一月元旦

東京市日本橋區本材木町二丁目五番地

洋紙直輸入販賣

合名會社

矢島商店

電話日本橋(21)
一八六〇番
一八六一番
一八六二番
一八六三番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

重なる販賣品目

- 製本裝幀用織物
- 洋服地織物類
- 洋服裏地一式
- 洋服附屬織物
- 廣巾絹綿織物類
- 室内裝飾用織物

東京市京橋區銀座二丁目九番地

織物商

合資會社 曾和商店

電話京橋(56)六四九番 六六五〇番

振替東京一六一四〇番

電信略號(ソワ)又ハ(ソ)

ブッククロス
トレーシングクロス
其他各種クロス
製造

日本クロス工業株式會社

京都西陣

電話西陣 四五九番 長四六〇番

一手販賣元

株式會社 博進社洋紙店

東京、大阪、神戸
名古屋、福岡、門司

謹賀新年

不替相御厚誼奉願候

東京印刷株式會社
麹町出張所

東京市麹町區紀尾井町三番地
電話九段(33)一〇二三九番 一〇九八六番

賀正

川島紙店

東京市日本橋區小傳馬町一丁目六番地
電話浪花(67)五一八四番
振替口座東京二五八〇番

川島洋紙店

東京市日本橋區小傳馬町一丁目九番地
電話浪花(67)五一八〇番 五一八一番 五一八二番 五一八三番
振替口座東京二六〇六一番

謹賀新年

書籍運搬並ニ一般貨物

丸中自動車運輸部

芝區日蔭町二ノ一佐久間組
電話銀座四三二八番

賀正

木版彫刻

精美堂堀野

東京市京橋區瀧山町十一
電話銀座(57)五一五七番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹賀新年

安藤木版印刷所

東京市京橋區南傳馬町一ノ一四
電話京橋一〇四七番

安藤富之助

二葉印刷合資會社

東京市芝區田村町十五番地

活版各種印刷

森島兩友堂

芝區三田四國町二番地一號
電話高輪六九〇八番

森島金治郎

松井印刷所

東京市芝區愛宕町二ノ一
電話芝二五八九番

所主 松井元博

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賀正

改造社專屬荷扱店

汐留駅前

近藤運輸部

電話銀座三五六九番

店主　近藤經二

謹賀新年

營業課目

書籍用紙函
各種紙器一般
安全荷造函
プレスパン製品
美術活版印刷

東京市神田區三河町四丁目九及び十番地

三榮社

加藤製函所

電話神田 三六九六番
四〇三五番

振替東京 七四九九七番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ビユス著 武林無想庵譯

新年特輯

社會科學

日本社會主義運動史

第一編 黎明期

堺利彦
白柳秀湖
木村毅
安部磯雄
石川三四郎

第二編 勃興期

荒畑寒村
吉野作造
田所輝明
赤松克麿
近藤憲二
山本懸藏

第三編 展開期

水沼辰夫

一節 諸戰線

稻村隆一
平林初之輔
青野季吉
鈴木茂三郎
山川菊榮
山田直一郎
古川時雄

二節 政黨運動

山川均
三輪壽壯

三節 現段階批判

片山哲
平野力三
細迫兼光
村山藤四郎
河野密
赤松克麿
高橋龜吉
佐野學
大森義太郎

四節 統一的考察

猪俣津南雄
大山郁夫

發兌
東京市麹町區内幸町
幸ビルデイング一階
振替東京八四〇二番
改造社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アンリ・バルビユス著

武林無想庵譯

耶蘇

四六版上製

定價壹圓廿錢

送料拾八錢

最新刊

宗教は一種痲醉藥である。然り！經典的聖書と官立教育によつて適用された基督教的諸傳說は痲醉藥たるべく、幾多の誤謬、幾多の揑造を含んでゐる。併し、眞の耶蘇は『他の一切の人より以上に、人間を理解し、人間を位置づけ、さうして人間に方針を與へた、完全なる人間らしい人間』であつた。アンリ・バルビユスは嚴密なる歷史的考證と犀銳なる科學的批判によりて眞の耶蘇を見、其の靈筆に復活せしめた。一字一句苟くもせざる無想庵の譯筆又よく原著の趣を傳へてゐる。

〔內容〕事實は豐富だ——埋木の兩親——讀方の先生と文字——××——云ふに云はれぬ同胞——冠——世の中の入口——その日〳〵と仕事——わたしの父は死んだ——プリスキラ。或は、個と全——ニコデモ。或は、生と死——眞理と實相——步め！——人間と風——判冠——きのふ、けふ、あした——マルタとマリヤ——力のやさしさ——人間の塔——山上の說敎——惡と仁との結婚——わが正義の神——天國の門——共產——[illegible]根を卸してゐる——わたしは知らなかつた——イスラエルだけ——まざりもの——未來の默示——神殿の說敎——實行[illegible]この人だ——法官ども——十字架。

發兌

東京市麹町區內幸町
幸ビルデイング一階
振替東京八四〇二番

改造社

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

THE KAIZO, A MONTHLY REVIEW OF
POLITICS, LITERATURE, SOCIAL AFFAIRS, ETC.
PRICE: FIFTY SEN A COPY, SIX YEN A YEAR
OFFICE: KAIZOSHA, UCHISAIWAI-CHO COGIMACHI-KU, TOKIO.

有川治助著

ヘンリ・フォード

（現下我國にて最賣行盛ん也）

定價壹圓
送料十八錢

配當と利子とは現代事業の呪咀である、

レニンがプロレタリの英雄であるが如く彼は實に資本主義に於ける最大の英雄だ。此兩雄は現代世界を支配する二大代表だ。彼は一機械工から二十年間に世界一の資本家となつた。彼はどんな不具者にでも一日六弗の日給を支拂ふ。彼の經營せる事業には未だ一回の罷工さへない。勞農ロシアでも彼の研究は盛んだ。英、獨、佛、米では彼を知らずして經濟問題に發言する資格なしと稱されてをる。彼は「配當と利子とは現代事業の呪咀である」と絶叫して銀行よりは鐚一文も借りない。そして一週五日と勞働日を短縮して資本主義を逆に戰つてをる。彼の恐ろしき魔手は來年を期して我國に襲來しやうとしてゐる。我國の資本家は嵐の前にビクくものである。彼の企圖する「理想社會」が果して我國にも出來るであらうか、そして我勞働者に對する福音となるであらうか。刮目すべき巨象資本の到來！その以前に彼と彼の事業を本書によりて知るべきである。人を使用する人も、使用さるる人も本書を一讀して重要なる思慮を拂ふべきものである。

發兌 改造社
東京市麹町區内幸町
幸ビルデイング一階
振替東京八四〇二番

株式會社秀英舍印刷

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA